

# 日本医科大学研究業績年報

## 第 55 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 55

平成 20 (2008) 年度

April 2008—March 2009

# ま え が き

学長 田 尻 孝

研究業績年報が出来上がるのをいつも待ち遠しく思っております。本学の研究者がどのような研究成果をあげ、さらにそれがどのような評価を受けているのかこの年報によって明らかになるからであります。2008年度は欧文論文数781編と前年度よりも約50編多く、ここ数年間で最多となりましたが、和文論文に関しては前年度より約200編減少しております。質の高い欧文誌のacceptが増えたのは喜ばしいことですが、和文誌による国内への情報発信も重要であり、今後の充実を期待したいところであります。一方、学会発表は前年度と比較して約400件以上増えており、これは評価すべきことであると思えます。

昨今注目を浴びている事業仕分けによって、科学技術への研究費が国家レベルで削減されるのではないかという話題がマスコミを賑わしております。これに対して研究者が反発するのは当然ですが、研究に関係のない一般の人々からも我が国の国力の低下につながるのを危惧する声が上がっているようです。これは社会が我が国の科学技術が常に世界のトップであることを期待していること、また多くの国民は現在の財政状況が悪くても、国の将来を思えば教育や研究に必要な予算を削減してはいけないという、所謂「米百俵」の考えに共感していることの表れであると思えます。その期待に応えるためにわれわれは何を為すべきなのでしょう…。真摯な態度で質の高いオリジナリティーのある研究を行いその成果を国内外に発信する、さらにそれを進めることにより社会に貢献することが求められているのではないかと思います。医学部における研究環境は厳しくなっておりますが、その中で本学の研究者はこの命題に対して着実に結果を出しており、その努力には頭の下がる思いであります。

最後にこの業績年報の編集にご尽力下さいました鈴木秀典研究委員会委員長ならびに関係各位に謝意を表します。

# 目 次

## 〔1〕基礎科学

1. 人文学・社会科学	1
[心理学]	1
[文化人類学]	2
2. 自然科学	2
[数 学]	2
[物理学]	2
[化 学]	6
[生物学]	6
3. 外国語	10
[英語・ドイツ語]	10
4. スポーツ科学	11
[スポーツ科学]	11

## 〔2〕基礎医学

1. 解剖学講座（分子解剖学）	17
2. 解剖学講座（生体構造学）	21
3. 生理学講座（システム生理学）	24
4. 生理学講座（生体統御学）	27
5. 生化学・分子生物学講座（構造生物学・代謝学）	30
6. 生化学・分子生物学講座（分子遺伝学・栄養学）	32
7. 薬理学講座	36
8. 病理学講座（解析人体病理学）	40
9. 病理学講座（統御機構・腫瘍学）	47
10. 微生物学・免疫学講座	54
11. 衛生学・公衆衛生学講座	58
12. 法医学講座	62
13. 医療管理学講座	67
14. 基礎医学共同研究利用施設	71
[実験動物管理室]	71
[中央電子顕微鏡研究施設]	71
[情報科学センター]	74

## 〔3〕臨床医学

1. 内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）	77
[付属病院一般内科，循環器内科，肝臓内科，再生医療科]	77
[付属病院老人科]	98
[武蔵小杉病院内科（内科，循環器科，神経内科）]	102
[多摩永山病院内科，循環器内科]	104
[千葉北総病院循環器内科]	110

2.	内科学講座（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）	117
	[付属病院神経内科，腎臓内科]	117
	[付属病院リウマチ科]	134
	[千葉北総病院腎臓内科]	137
	[千葉北総病院神経内科]	137
3.	内科学講座（血液・消化器・内分泌代謝部門）	142
	[付属病院血液内科，消化器内科，内分泌代謝内科]	142
	[千葉北総病院血液内科]	160
	[千葉北総病院消化器内科]	162
	[千葉北総病院内分泌内科]	163
4.	内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）	165
	[付属病院呼吸器内科]	165
	[千葉北総病院呼吸器内科]	173
5.	精神医学講座	175
	[付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科]	175
6.	小児科学講座	184
	[付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]	184
7.	放射線医学講座	195
	[付属病院放射線科，放射線治療科]	195
	[武蔵小杉病院放射線科]	203
	[多摩永山病院放射線科]	204
	[千葉北総病院放射線科]	207
8.	皮膚科学講座	209
	[付属病院皮膚科]	209
	[武蔵小杉病院皮膚科]	217
	[多摩永山病院皮膚科]	219
	[千葉北総病院皮膚科]	220
9.	外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門）	221
	[付属病院消化器外科，乳腺科，一般外科，移植外科]	221
	[多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科]	254
	[千葉北総病院外科]	260
10.	外科学講座（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）	275
	[付属病院内分泌外科，心臓血管外科，呼吸器外科・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科]	275
	[武蔵小杉病院心臓血管・呼吸器・乳腺内分泌外科]	289
	[多摩永山病院呼吸器外科]	291
11.	脳神経外科学講座	292
	[付属病院脳神経外科]	292
	[武蔵小杉病院脳神経外科]	305
	[多摩永山病院脳神経外科]	310
	[千葉北総病院脳神経外科]	311

12.	整形外科学講座	320
	[付属病院整形外科・武蔵小杉病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科]	320
13.	産婦人科学講座	328
	[付属病院女性診療科・産科]	328
	[武蔵小杉病院女性診療科・産科]	337
	[多摩永山病院女性診療科・産科]	340
	[千葉北総病院女性診療科・産科]	345
14.	耳鼻咽喉科学講座	347
	[付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科]	347
15.	泌尿器科学講座	360
	[付属病院泌尿器科]	360
	[武蔵小杉病院泌尿器科]	363
	[多摩永山病院泌尿器科]	364
	[千葉北総病院泌尿器科]	365
16.	眼科学講座	367
	[付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科]	367
	[千葉北総病院眼科]	371
17.	麻酔科学講座	373
	[付属病院麻酔科]	373
	[武蔵小杉病院麻酔科]	387
	[多摩永山病院麻酔科]	387
	[千葉北総病院麻酔科]	389
18.	救急医学講座	392
	[付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック]	392
	[武蔵小杉病院救命救急センター]	408
	[多摩永山病院救命救急センター]	409
	[千葉北総病院救命救急センター]	411
19.	形成外科学講座	422
	[付属病院形成外科・美容外科]	422
	[武蔵小杉病院形成外科]	436
	[千葉北総病院形成外科]	438
20.	付属病院付置施設等	441
	[付属病院遺伝診療科]	441
	[付属病院集中治療室]	443
	[付属病院病理部]	450
	[付属病院中央検査部]	454
	[付属病院薬剤部]	455
	[付属病院生理機能センター]	460

	[付属病院看護部] .....	463
	[付属病院放射線科技師室] .....	466
	[付属病院ME部] .....	468
	[ワクチン療法研究施設] .....	471
	[呼吸ケアクリニック] .....	471
	[付属病院東洋医学科] .....	474
	[ゲノム先端医療部] .....	479
21.	武蔵小杉病院付置施設等 .....	480
	[武蔵小杉病院消化器病センター] .....	480
	[武蔵小杉病院病理部] .....	489
	[武蔵小杉病院中央検査室] .....	490
	[武蔵小杉病院薬剤科] .....	491
	[武蔵小杉病院看護部] .....	492
	[武蔵小杉病院放射線科技師室] .....	494
22.	多摩永山病院付置施設等 .....	495
	[多摩永山病院病理部] .....	495
	[多摩永山病院中央検査室] .....	499
	[多摩永山病院薬剤科] .....	500
	[多摩永山病院看護部] .....	500
	[多摩永山病院放射線科技師室] .....	501
	[多摩永山病院消化器科] .....	502
23.	千葉北総病院付置施設等 .....	510
	[千葉北総病院集中治療室] .....	510
	[千葉北総病院リハビリテーション科] .....	513
	[千葉北総病院病理部] .....	515
	[千葉北総病院中央検査室] .....	519
	[千葉北総病院薬剤科] .....	521
	[千葉北総病院放射線センター] .....	523
	[千葉北総病院歯科] .....	525
	[千葉北総病院看護部] .....	526
[4]	付置研究施設	
1.	老人病研究所 .....	531
	[病理部門] .....	531
	[生化学部門] .....	534
	[免疫部門] .....	538
	[疫学部門] .....	540
	[水素分子医学研究開発拠点] .....	541
[5]	その他	
1.	教育推進室 .....	547
2.	健診医療センター .....	551
	付表：各種研究費補助金・研究助成金交付状況 .....	555

1. 平成20年度科学研究費補助金交付決定一覧	555
2. 平成20年度科学研究費補助金研究分担の採択・交付状況	562
3. 平成20年度各種補助金の交付状況一覧〔内訳〕	563
4. 平成20年度補助・委託一覧	564
5. 平成20年度学術賞受賞一覧	585
6. 平成20年度知的財産一覧（特許権）	589

# 〔1〕 基 礎 科 学



# 1. 人文科学・社会科学

## [心理学]

### 研究概要

1. 社会精神医学および臨床心理学が主たる研究領域である。
2. 法と精神医学の近接領域に関心を持ち鑑定や判定の業務を行っている。
3. 大学赴任以前に従事していた矯正精神医療に関する調査研究や考察を行っている。
4. 認知症と病的肥満などの治療に関して心理学的なアプローチの方法と効果を検討する予定である。
5. 医療における臨床心理士の在り方と養成に関して東京大学大学院臨床心理コースと連続的な公開研究会を行っている。この成果はいずれ単行本として公刊される予定である。
6. 大学生のメンタルヘルスに関して精神医学教室と協力して調査研究を進行中である。

### 研究業績

#### 論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 野村俊明：受刑者に対する精神科治療。心理臨床の広場 2009；1 (2)：18-19.

(1) 原著：

- 1) 松本聡子<sup>1)</sup>，秋山 剛<sup>2)</sup>，田島秀樹<sup>3)</sup>，浅野千晶<sup>4)</sup>，吉永千恵子<sup>5)</sup>，野村俊明，酒井佳永<sup>6)</sup>，三宅由子<sup>6)</sup>，アキスカルハゴツプ<sup>6)</sup>，アキスカルカリー<sup>6)</sup> (1) 東京大学，2) NTT東病院，3) 法務省矯正研修所，5) 東京少年鑑別所，6) 国立精神神経センター)：虐待を受けた少年たちの「生」。死生学研究 2008；10：97-111.

(2) 研究報告書：

- 1) 野村俊明，奥村雄介<sup>1)</sup>，原田杏子<sup>2)</sup>，松本聡子<sup>3)</sup> (1) 府中刑務所，2) 千葉少年鑑別所，3) 東京大学)：26条通報の適正な運用に関する研究。厚生労働省補助金研究「薬物重要削減における関係機関の連携」2008.
- 2) 奥村雄介<sup>1)</sup>，野村俊明，吉永千恵子<sup>2)</sup> (1) 府中刑務所，2) 東京少年鑑別所)：思春期ひきこもりと反社会的問題行動。厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業 2008；83-94.

#### 著書

- 1) 野村俊明：〔分担〕新入社員。メンタルヘルスケア実践ガイド第2版 (産業医学新振興財団)，2008；pp310-313.
- 2) 野村俊明：〔分担〕定年期の問題。メンタルヘルスケア実践ガイド第2版，2008；pp318-320.

#### 学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 野村俊明：矯正施設の被収容者を対象とする精神医学的治療と処遇について。日本医科大学医学会総会 (第76回)，2008. 9.

(2) シンポジウム：

- 1) 西口芳伯<sup>1)</sup>，野村俊明，林 直樹<sup>2)</sup> (1) 京都医療少年院，2) 都立松沢病院)：処遇困難者：その収容目的と治療。日本矯正医学会総会 (第55回)，2008. 10.

(3) 一般講演：

- 1) 石井知佳<sup>1)</sup>, 根本留美<sup>1)</sup>, 若松直樹<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>(1)</sup> 日本医科大学老人病研究所認知症相談センター)：街ぐるみ認知症センター開設. 日本心理臨床学会 (筑波大学), 2008. 9.

## [文化人類学]

### 研究概要

日本の精神の原点, 日本の精神の歴史の変容, 現代社会における宗教的精神性の存在と意義, 近代化以降の日本の精神・日本文明の混迷等について究明している.

### 研究業績

#### 論文

(1) 研究ノート：

- 1) 伊藤末博：日本文明の危機からの脱出. 日医大基礎科学紀要 2008 ; (38) : 67-77.

## 2. 自然科学

### [数学]

### 研究概要

平坦トーラスの平行移動不変な格子近似に考察を限定し, その一般化の可能性を視野に入れつつ, カイラルアノマリーの評価に道筋をつけた. (渡辺)

作用素単調関数の強さと, それを1次関数の積の形に表したときの表現の関係を考察した. 更に, 作用素の2乗についても似た結果が出ないか調べている. (儀我)

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Cho M<sup>1)</sup>, Giga M, Kim AH<sup>2)</sup> (1) Kanagawa University, 2) Changwon National University) : Spectrum and Principal Function of Operators. Operator Theory Advances and Applications 2008 ; 187 : 117-123.

(2) 総説：

- 1) 渡辺 浩：フォン・ノイマン：量子力学の数学的基礎. 数学セミナー 2008 ; 47 (564) : 28-31.

### [物理学]

### 研究概要

物理学教室は, 現在教授・准教授・講師の3名で構成されていて, それぞれが独立して自分の分野の研究を行っている. 以下, それぞれの研究概要を列記する.

1. 1) ミオシンのATP加水分解に伴う構造変化について分子軌道法などにより研究を行っている. 2) リン脂質リポソームの相転移について分子軌道法により研究を行っている. [香川]

2. 哺乳類とバクテリア由来のキサンチン脱水素酵素は, 3次元構造は非常に似ているが, 阻害剤であるFebuxo-

statに対する応答には大きな差異がある。昨年度に引き続き、タンパク質の動的構造に着目しながら、この機能的な差異の原因を探っている。本年度は、新たにモリブドプテリンドメインの周囲の水を考慮した分子動力学計算を行い、Febuxostatに対する応答の違いを解析した。[菊地]

3. 1) 2007年9月14日に打ち上げられた日本初の大型月探査機「かぐや」に搭載されたガンマ線検出器の観測データのデータ解析を行っている。月の起源・進化、さらには地球や太陽系の起源の解明につながるような観測・実験を進めている。2) 水星探査機搭載用および次期月探査機用の宇宙塵検出器の開発・提案を行っている。[小林]

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Hasebe N<sup>1</sup>, Shibamura E<sup>2</sup>, Takashima T<sup>3</sup>, Kobayashi M, Okudaira O<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>1</sup>, Kobayashi S<sup>1</sup>, Ishizaki T<sup>1</sup>, Sakurai K<sup>1</sup>, Miyajima M<sup>1</sup>, Fujii M<sup>1</sup>, Narasaki K<sup>4</sup>, Takai S<sup>4</sup>, Tsurumi K<sup>4</sup>, Kaneko H<sup>5</sup>, et al. <sup>(1)</sup> Waseda University, <sup>(2)</sup> Saitama Prefectural University, <sup>(3)</sup> ISAS/JAXA, <sup>(4)</sup> Niihama Works, Sumitomo Heavy Industry, <sup>(5)</sup> Meisei Electric Company) : Gamma-ray spectrometer (GRS) for lunar polar orbiter SELENE. *Earth, Planets and Space* 2008 ; 60 (4) : 299-312.
- 2) Yamashita N<sup>1</sup>, Hasebe N<sup>1</sup>, Miyachi T<sup>1</sup>, Kobayashi M, Okudaira O<sup>1</sup>, Kobayashi S<sup>1</sup>, Ishizaki T<sup>1</sup>, Sakurai K<sup>1</sup>, Miyajima M<sup>1</sup> (<sup>(1)</sup> Waseda University) : Complexities of gamma-ray line intensities from the lunar surface. *Earth, Planets and Space* 2008 ; 60 (4) : 313-319.
- 3) Hasebe N<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>1</sup>, Okudaira O<sup>1</sup>, Kobayashi S<sup>1</sup>, Yamamoto H<sup>1</sup>, Ishizaki T<sup>1</sup>, Hirano T<sup>1</sup>, Sakurai K<sup>1</sup>, Miyachi T<sup>1</sup>, Miyajima M<sup>1</sup>, Fujii M<sup>1</sup>, Kobayashi M, Takashima T<sup>2</sup>, Shibamura E<sup>3</sup>, Gagnault O<sup>4</sup>, et al. (<sup>(1)</sup> Res. Inst. for Sci. and Tech., Waseda University, <sup>(2)</sup> ISAS/JAXA, <sup>(3)</sup> Saitama Prefectural University, <sup>(4)</sup> Centre d' Etude Spatiale des Rayonnements) : The high precision gamma-ray spectrometer for lunar polar orbiter SELENE. *Adv. Space Res.* 2008 ; 42 (2) : 323-330.
- 4) Aprile E<sup>1</sup>, Curioni A<sup>1</sup>, Giboni LK<sup>1</sup>, Kobayashi M<sup>1</sup>, Oberlack GU<sup>1</sup>, Zhang S<sup>1</sup> (<sup>(1)</sup> Columbia Astrophysics Laboratory, Columbia University) : Compton imaging of MeV gamma-rays with the Liquid Xenon Gamma-Ray Imaging Telescope (LXeGRIT). *Nuclear Instruments and Methods in Physics Research Section A* 2008 ; 593 (3) : 414-425.
- 5) 唐牛 譲<sup>1</sup>, 柴村英道<sup>2</sup>, 小林正規, 奥平 修<sup>1</sup>, 山下直之<sup>1</sup>, 小林進悟<sup>1</sup>, 晴山 慎<sup>1</sup>, 長谷部信行<sup>1</sup> (<sup>(1)</sup> 早稲田大学理工総研, <sup>(2)</sup> 埼玉県立大学) : 月探査衛星「かぐや」搭載ガンマ線分光計で探る月表層の元素分布. *遊星人 (日本惑星科学会誌)* 2008 ; 17 (3) : 161-166.

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) Hasebe N<sup>1</sup>, Shibamura E<sup>1</sup>, Miyachi T<sup>1</sup>, Takashima T<sup>1</sup>, Kobayashi M, Okudaira O<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>1</sup>, Kobayashi S<sup>1</sup>, Karouji Y<sup>1</sup>, Hareyama M<sup>1</sup>, Kodaira S<sup>1</sup>, Komatsu S<sup>1</sup>, Hayatsu K<sup>1</sup>, Iwabuchi N<sup>1</sup>, Sakurai K<sup>1</sup>, et al. : High Performance Germanium Gamma-Ray Spectrometer On Lunar Polar Orbiter SELENE (KAGUYA) . *International Symposium on Space Technology and Science (Hamamatsu, Shizuoka, Japan)*, 2008. 6.
- 2) Hasebe N<sup>1</sup>, Shibamura E<sup>2</sup>, Miyachi T<sup>1</sup>, Takashima T<sup>3</sup>, Kobayashi M, Okudaira O<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>1</sup>, Kobayashi S<sup>1</sup>, Hareyama M<sup>1</sup>, Karouji Y<sup>1</sup>, Kodaira S<sup>1</sup>, Sakurai K<sup>1</sup>, Ebihara M<sup>1</sup>, Arai T<sup>4</sup>, Sugihara T<sup>5</sup>, et al. (<sup>(1)</sup> Adv. Res. Inst. Sci. & Eng. , Waseda University, <sup>(2)</sup> Saitama Prefectural University, <sup>(3)</sup> ISAS/JAXA, <sup>(4)</sup> NIPR, <sup>(5)</sup> JAMSTEC) : Current Topics Available from the SELENE GRS Observation.

- Asia Oceania Geosciences Society Conference (5th) (Busan Korea), 2008. 6.
- 3) Karouji Y<sup>1)</sup>, Hasebe N<sup>1)</sup>, Shibamura E<sup>1)</sup>, Kobayashi M, Okudaira O<sup>1)</sup>, Yamashita N<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Harayama M<sup>1)</sup>, Miyachi T<sup>1)</sup>, Kodaira S<sup>1)</sup>, Iwabuchi K<sup>1)</sup>, Hayatsu K<sup>1)</sup>, Nemoto S<sup>1)</sup>, Gasnault O<sup>2)</sup>, Claude D<sup>3)</sup>, et al. <sup>1)</sup> Adv. Res. Inst. Sci. &Eng. , Waseda University, <sup>2)</sup> Centre d' Etude Spatiale des Rayonnements, Univ. Paul Sabatier, CNRS, France, <sup>3)</sup> Institute of Meteorites, Univ. of New Mexico, Albuquerque, NM, USA) : Distribution of K, Th and U Concentration on the Moon : The Initial Observation by SELENE GRS. Asia Oceania Geosciences Society Conference (5th) (Busan Korea), 2008. 6.
  - 4) Hasebe N<sup>1)</sup>, Shibamura E<sup>2)</sup>, Miyachi T<sup>1)</sup>, Takashima T<sup>3)</sup>, Kobayashi M, Okudaira O<sup>1)</sup>, Yamashita N<sup>1)</sup>, Karouji Y<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Hareyama M<sup>1)</sup>, Kodaira S<sup>1)</sup>, Ebihara M<sup>1)</sup>, Arai T<sup>4)</sup>, Sugihara T<sup>5)</sup>, Takeda H<sup>6)</sup>, et al. <sup>1)</sup> Adv. Res. Inst. Sci. &Eng. , Waseda University, <sup>2)</sup> Saitama Prefectural University, <sup>3)</sup> ISAS/JAXA, <sup>4)</sup> NIPR, <sup>5)</sup> JAMSTEC, <sup>6)</sup> Chiba Institute of Technology) : Three Month Observations of the Moon by Gamma Ray Spectrometer on SELENE (KAGUYA). COSPAR Scientific Assembly (37th) (Montreal, Canada), 2008. 7.
  - 5) Karouji Y<sup>1)</sup>, Hasebe N<sup>1)</sup>, Shibamura E<sup>2)</sup>, Miyachi T<sup>1)</sup>, Takashima T<sup>3)</sup>, Kobayashi M, Okudaira O<sup>1)</sup>, Yamashita N<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Hareyama M<sup>1)</sup>, Kodaira S<sup>1)</sup>, Ebihara M<sup>4)</sup>, Arai T<sup>5)</sup>, Sugihara T<sup>6)</sup>, Takeda H<sup>7)</sup> <sup>1)</sup> Adv. Res. Inst. Sci. &Eng. , Waseda University, <sup>2)</sup> Saitama Prefectural University, <sup>3)</sup> ISAS/JAXA, <sup>4)</sup> Tokyo Metropolitan University, <sup>5)</sup> NIPR, <sup>6)</sup> JAMSTEC, <sup>7)</sup> Chiba Institute of Technology) : The elemental distribution on the lunar surface observed by SELENE-GRS. COSPAR Scientific Assembly (37th) (Montreal, Canada), 2008. 7.
  - 6) Karouji Y<sup>1)</sup>, Hasebe N<sup>1)</sup>, Shibamura E<sup>2)</sup>, Kobayashi M, Okudaira O<sup>1)</sup>, Yamashita N<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Hareyama M<sup>1)</sup>, Miyachi T<sup>1)</sup>, Kodaira S<sup>1)</sup>, Hayatsu K<sup>1)</sup>, Iwabuchi K<sup>1)</sup>, Nemoto S<sup>1)</sup>, Ebihara M<sup>3)</sup>, Hihara T<sup>3)</sup>, et al. <sup>1)</sup> Adv. Res. Inst. Sci. &Eng. , Waseda University, <sup>2)</sup> Saitama Prefectural University, <sup>3)</sup> Tokyo Metropolitan University) : Elemental Mapping of the Moon by The Selene Grs Observation. Annual Meeting of the Meteoritical Society (71st) (Matsue, Japan), 2008. 8.
  - 7) Hareyama M<sup>1)</sup>, Hasebe N<sup>1)</sup>, Shibamura E<sup>2)</sup>, Kobayashi M, Yamashita N<sup>1)</sup>, Karouji Y<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Okudaira O<sup>1)</sup>, Takashima T<sup>3)</sup>, D' uston C<sup>4)</sup>, Maurice S<sup>4)</sup>, Gasnault O<sup>4)</sup>, Forni O<sup>4)</sup>, Diez B<sup>4)</sup>, Reedy CR<sup>5)</sup>, et al. <sup>1)</sup> Adv. Res. Inst. Sci. &Eng. , Waseda University, <sup>2)</sup> Saitama Prefectural University, <sup>3)</sup> ISAS/JAXA, <sup>4)</sup> Centre d' Etude Spatiale des Rayonnements, Universite de Toulouse, France, <sup>5)</sup> Planetary Science Institute, USA) : High Energy Gamma Rays From the Lunar Surface Observed by GRS onboard SELENE. Lunar and Planetary Science Conference (40th) (The Woodlands, Texas, USA), 2009. 3.
  - 8) Kobayashi M<sup>1)</sup>, Hasebe N<sup>1)</sup>, Shibamura E<sup>2)</sup>, Miyachi T<sup>1)</sup>, Takashima T<sup>3)</sup>, Okudaira O<sup>1)</sup>, Yamashita N<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Hareyama M<sup>1)</sup>, Karouji Y<sup>1)</sup>, Ebihara M<sup>4)</sup>, Arai T<sup>5)</sup>, Sugihara T<sup>6)</sup>, Takeda H<sup>7)</sup>, Iwabuchi K<sup>1)</sup>, et al. <sup>1)</sup> Adv. Res. Inst. Sci. &Eng. , Waseda University, <sup>2)</sup> Saitama Prefectural University, <sup>3)</sup> ISAS/JAXA, <sup>4)</sup> Tokyo Metropolitan University, <sup>5)</sup> NIPR, <sup>6)</sup> JAMSTEC, <sup>7)</sup> Chiba Institute of Technology) : Status and Performance of the Gamma-Ray Spectrometer on the KAGUYA (SELENE). Lunar and Planetary Science Conference (40th ) (The Woodlands, Texas, USA), 2009. 3.
  - 9) Yamashita N<sup>1)</sup>, Hasebe N<sup>1)</sup>, Shibamura E<sup>2)</sup>, Kobayashi M<sup>1)</sup>, Karouji Y<sup>1)</sup>, Hareyama M<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Takashima T<sup>3)</sup>, D' uston C<sup>4)</sup>, Maurice S<sup>4)</sup>, Gasnault O<sup>4)</sup>, Forni O<sup>4)</sup>, Diez B<sup>4)</sup>, Reedy CR<sup>5)</sup>, Arai T<sup>6)</sup>, et al. <sup>1)</sup> Adv. Res. Inst. Sci. &Eng. , Waseda University, <sup>2)</sup> Saitama Prefectural University, <sup>3)</sup> ISAS/JAXA, <sup>4)</sup> Centre d' Etude Spatiale des Rayonnements, Universite de Toulouse, France, <sup>5)</sup> Planetary Science Institute, USA, <sup>6)</sup> NIPR) : Precise Observation of Uranium, Thorium, and Potassium on the Moon by Theselene Grs. Lunar and Planetary Science Conference (40th) (The Woodlands, Texas, USA), 2009. 3.

- 10) Gasnault O<sup>1)</sup>, Forni O<sup>1)</sup>, Diez B<sup>1)</sup>, D'uston C<sup>1)</sup>, Maurice S<sup>1)</sup>, Hasebe N<sup>2)</sup>, Okudaira O<sup>2)</sup>, Yamashita N<sup>2)</sup>, Kobayashi S<sup>2)</sup>, Karouji Y<sup>2)</sup>, Hareyama M<sup>2)</sup>, Shibamura E<sup>3)</sup>, Kobayashi M, Reedy CR<sup>4)</sup>, The Selene GRS Team ( <sup>1)</sup> Universite de Toulouse, France, <sup>2)</sup> Research Institute for Science and Engineering, Waseda University, <sup>3)</sup> College of Health Science, Saitama Prefectural University, <sup>4)</sup> Planetary Science Institute) : ANALYSIS OF SELENE GRS DATA : THE IRON CASE. Lunar and Planetary Science Conference (40th) (The Woodlands, Texas, USA), 2009. 3.
- 11) Kagawa H, Nagai Y<sup>1)</sup>, Wako H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Center for Information Science, Kokushikan University, <sup>2)</sup> School of Social Sciences, Waseda University) : Correlations among change of local structures in myosin motor domain during ATP hydrolysis. Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan (46th), 2008. 12.
- 12) Kikuchi H, Fujisaki H<sup>1)</sup>, Okamoto K<sup>2)</sup>, Leimkuhler S<sup>3)</sup>, Nishino T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> RIKEN Computational Science Research Program Integrated Simulation of Living Matter Group, <sup>2)</sup> Dept. of Biochem. and Mol. Biol., Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Inst. of Biochem. and Biol., Univ. of Potsdam, Germany) : Molecular dynamics study of xanthine oxidoreductases (XOR) : Interaction between XOR and its inhibitors. Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan (46th), 2008. 12.
- 13) Kobayashi M, Hasebe N<sup>1)</sup>, Hareyama M<sup>1)</sup>, Karouji Y<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Kodaira S<sup>1)</sup>, Miyachi T<sup>1)</sup>, Okudaira O<sup>1)</sup>, Sakurai K<sup>1)</sup>, Yamashita N<sup>1)</sup>, Shibamura E<sup>2)</sup>, Takashima T<sup>3)</sup>, Ebihara M<sup>4)</sup>, Arai T<sup>5)</sup>, Sugihara T<sup>6)</sup>, その他5名 ( <sup>1)</sup> Adv. Res. Inst. Sci. &Eng., Waseda University, <sup>2)</sup> Saitama Prefectural University, <sup>3)</sup> ISAS/JAXA, <sup>4)</sup> Tokyo Metropolitan University, <sup>5)</sup> NIPR, <sup>6)</sup> JAMSTEC) : Current observation of lunar gamma rays by KAGUYA GRS. 日本地球惑星科学連合2008年大会, 2008. 5.
- 14) Karouji Y<sup>1)</sup>, Hasebe N<sup>1)</sup>, Shibamura E<sup>1)</sup>, Kobayashi M, Okudaira O<sup>1)</sup>, Yamashita N<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Hareyama M<sup>1)</sup>, Miyachi T<sup>1)</sup>, Kodaira S<sup>1)</sup>, Iwabuchi K<sup>1)</sup>, Hayatsu K<sup>1)</sup>, Nemoto S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Adv. Res. Inst. Sci. &Eng., Waseda University) : The Regional Distribution of Lunar Surface Composition by Gamma-Ray Spectrometer onboard SELENE (KAGUYA). 日本地球惑星科学連合2008年大会, 2008. 5.
- 15) 長谷部信行<sup>1)</sup>, 柴村英道<sup>2)</sup>, 宮地 孝<sup>1)</sup>, 高島 健<sup>3)</sup>, 小林正規, 奥平 修<sup>1)</sup>, 山下直之<sup>1)</sup>, 晴山 慎<sup>1)</sup>, 唐牛 譲<sup>1)</sup>, 小平 聡<sup>1)</sup>, 海老原充<sup>4)</sup>, 荒井朋子<sup>5)</sup>, 杉原孝充<sup>6)</sup>, 武田 弘<sup>7)</sup>, 岩渕和也<sup>1)</sup>, その他10名 ( <sup>1)</sup> 早稲田大学理工総研, <sup>2)</sup> 埼玉県立大学, <sup>3)</sup> ISAS/JAXA, <sup>4)</sup> 首都大学東京, <sup>5)</sup> 国立極地研究所, <sup>6)</sup> 海洋研究開発機構, <sup>7)</sup> 千葉工業大学) : 月探査衛星「かぐや」搭載ガンマ線分光計による月面のK, Th, U分布. 月惑星シンポジウム(第41回), 2008. 8.
- 16) 唐牛 譲<sup>1)</sup>, 柴村英道<sup>2)</sup>, 小林正規, 奥平 修<sup>1)</sup>, 山下直之<sup>1)</sup>, 小林進悟<sup>1)</sup>, 晴山 慎<sup>1)</sup>, 岩渕和也<sup>1)</sup>, 根本慎平<sup>1)</sup>, 早津佳那子<sup>1)</sup>, 武田侑子<sup>1)</sup>, 塚田耕一<sup>1)</sup>, 長岡 央<sup>1)</sup>, 長谷部信行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 早稲田大学理工総研, <sup>2)</sup> 埼玉県立大学) : 月探査衛星「かぐや」搭載ガンマ線分光計で探る月表層元素組成. 日本地球化学会年会(第55回), 2008. 9.
- 17) 長谷部信行<sup>1)</sup>, 小林進悟<sup>1)</sup>, 小林正規<sup>2)</sup>, 山下直之<sup>1)</sup>, 唐牛 譲<sup>1)</sup>, 晴山 慎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 早稲田大学理工総研) : 元素観測成果と着陸探査への期待. 日本航空宇宙学会宇宙科学技術連合講演会(第52回), 2008. 11.
- 18) 小林進悟<sup>1)</sup>, 長谷部信行<sup>1)</sup>, 柴村英道<sup>2)</sup>, 高島 健<sup>3)</sup>, 小林正規, 奥平 修<sup>1)</sup>, 山下直之<sup>1)</sup>, 晴山 慎<sup>1)</sup>, 唐牛 譲<sup>1)</sup>, 岩渕和也<sup>1)</sup>, 早津佳那子<sup>1)</sup>, 根本慎平<sup>1)</sup>, 日原 健<sup>1)</sup>, 武田侑子<sup>1)</sup>, 塚田耕一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 早稲田大学理工総研, <sup>2)</sup> 埼玉県立大学, <sup>3)</sup> ISAS/JAXA) : 月周回衛星「かぐや」搭載ガンマ線分光計の運用状況 : 1年間の定常運用を終えて. 研究会「放射線検出器とその応用」(第23回), 2009. 3.
- 19) 岩渕和也<sup>1)</sup>, 長谷部信行<sup>1)</sup>, 小林進悟<sup>1)</sup>, 山下直之<sup>1)</sup>, 唐牛 譲<sup>1)</sup>, 晴山 慎<sup>1)</sup>, 奥平 修<sup>1)</sup>, 根本慎平<sup>1)</sup>, 早津佳那子<sup>1)</sup>, 武田侑子<sup>1)</sup>, 塚田耕一<sup>1)</sup>, 長岡 央<sup>1)</sup>, 町田二郎<sup>1)</sup>, 柴村英道<sup>2)</sup>, 小林正規 ( <sup>1)</sup> 早稲田大学理工総研, <sup>2)</sup> 埼玉県立大学) : 月探査衛星「かぐや」搭載ガンマ線分光計による月極域の水探査. 応用物理学関係連合講演会(2009年春季第56回), 2009. 3.

- 20) 長谷部信行<sup>1)</sup>, 柴村英道<sup>2)</sup>, 宮地 孝<sup>1)</sup>, 高島 健<sup>3)</sup>, 小林正規, 奥平 修<sup>1)</sup>, 山下直之<sup>1)</sup>, 小林進悟<sup>1)</sup>, 晴山慎<sup>1)</sup>, 唐牛 譲<sup>1)</sup>, 小平 聡<sup>1)</sup>, 海老原充<sup>4)</sup>, 荒井朋子<sup>5)</sup>, 杉原孝充<sup>6)</sup>, 武田 弘<sup>7)</sup>, その他13名 (<sup>1)</sup> 早稲田大学理工総研, <sup>2)</sup> 埼玉県立大学, <sup>3)</sup> ISAS/JAXA, <sup>4)</sup> 首都大学東京, <sup>5)</sup> 国立極地研究所, <sup>6)</sup> 海洋研究開発機構, <sup>7)</sup> 千葉工業大学): 月探査衛星「かくや」搭載ガンマ線分光計の観測結果. 応用物理学関係連合講演会 (2009年春季第56回), 2009. 3.

## [化学]

### 研究概要

菅原: アルカリ金属-ナフタレン錯体を用いたテルペン系化合物の合成及び, 不飽和酸とジクロロカルベンの反応によるジクロロシクロプロパンカルボン酸の合成

- (1) 生理活性を有するラクトン類の合成
- (2) カンファーなどの天然物ケトンを用いた不斉合成配位子の合成

田中: 質量分析計を用いた金属錯体の溶液内反応の研究

- (1) 金属錯体で観測された選択的溶媒和に伴うプロトン, 電子移動反応

中性子放射化分析等による生体内微量元素等の研究 (I) 生体内微量元素等と疾患, 環境等との関連

永井: 2, 2'-ビピリジンまたは1, 10-フェナントロリンを持つルテニウム (II) 混合配位子錯体の溶液化学

- (1) 錯体の合成
- (2) 高速液体クロマトグラフィーによる錯体異性体の分離およびその機構
- (3) 錯体イオンの溶媒和に関する研究
- (4) 錯体イオンの溶液内反応および平衡に関する研究

武田: 弱酸性陽イオン交換体を用いる無機イオンのクロマトグラフィーに関する研究

- (1) 塩類水溶液系におけるアルカリ土類金属元素および希土類元素の吸着挙動と分離
- (2) イットリウムの特異的分離とその機構の解明
- (3) ジルコニウム (IV), ハフニウム (IV), および他の金属の三成分分離

貴金属元素の分離および定量に関する研究

- (1) 種々の陰イオン交換樹脂に対する貴金属元素の吸着および脱着挙動とその機構
- (2) 陰イオン交換樹脂を用いる貴金属元素の分離および定量

## [生物学]

### 研究概要

本教室では, アフリカツメガエルの消化管を実験モデルとして, 脊椎動物共通の器官形成・再生機構の分子レベルでの解明を目指している. この他に, 微生物生理学, 植物生態学の各分野でも継続した研究を行っている. 今年度の研究内容は以下の通りである.

1) 甲状腺ホルモンにより誘導される小腸再構築の機構解析を, 免疫組織化学, *in situ* hybridization, 器官培養, 遺伝子組換え技術等を用いて進めている. 今年度は上皮幹細胞で発現する Sonic hedgehog (Shh) のインヒビターの1つ, Hip に注目し, Hip が甲状腺ホルモンに応答して結合組織特異的に発現し, Shh と *in vivo* で結合することを明らかにした. また, ヒストンに作用するメチル基転移酵素が, 甲状腺ホルモン受容体を介した転写調節に関与することも見出した. この他, ツメガエル受精卵への遺伝子導入により, 器官形成に関わる遺伝子の機能解析を進めている. この導入系を使って, ダウン症候群関連遺伝子 RCAN1 の血管分岐への作用等を明らかにした (老人病研究所・藤原助教, 川並教授との共同研究). (長谷部, 岡)



2) ゲノム塩基配列が決められたシアノバクテリアのカロテノイド生合成遺伝子・酵素の性質を研究している。解釈に間違いがある論文をそのグループを含めて訂正した。多数の新規紅色光合成細菌を記載しているグループと、その色素分析とカロテノイドの生理学的性質などを共同研究している。NEDO (宇都宮大学) の分担者としてカロテノイドを用いた重金属検出微生物センサーの開発を進めている。他にも国内外の数グループと共同研究を進めている。(高市)

3) 冬緑性草本であるヒガンバナを用いて生理生態学的な研究を行っている (学外共同研究)。葉の存在しない季節の植物は、単なる休眠状態とみなされがちである。しかし、ヒガンバナの根は夏季にも活性を維持し、栄養塩の吸収を行っていることが栽培実験から明らかになった。(西谷)

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) Takaichi S, Maoka T<sup>1)</sup>, Akimoto N<sup>2)</sup>, Carmona ML<sup>3)</sup>, Yamaoka Y<sup>4)</sup> (1) Research Institute for Production Development, (2) Kyoto University, (3) Hiroshima University, (4) National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST) : Carotenoids in a Corynebacterineae, *Gordonia terrae* AIST-1 : carotenoid glucosyl mycoloyl esters. *Biochem Biosci Biotechnol* 2008 ; 72 (10) : 2615-2622.
- 2) Akimoto S<sup>1)</sup>, Yokono M<sup>2)</sup>, Higuchi M<sup>3)</sup>, Tomo T<sup>3)</sup>, Takaichi S, Murakami A<sup>4)</sup>, Mimuro M<sup>3)</sup> (1) Kobe University, (2) Hokkaido University, (3) Kyoto University, (4) Kobe University Research Center for Island Seas) : Solvent effects on excitation relaxation dynamics of a keto-carotenoid, siphonaxanthin. *Photochem Photobiol Sci* 2008 ; 7 (10) : 1206-1209.
- 3) Mochimaru M<sup>1)</sup>, Masukawa H<sup>2)</sup>, Maoka T<sup>3)</sup>, Mohamed HE<sup>4)</sup>, Vermaas WFJ<sup>4)</sup>, Takaichi S (1) Komazawa University, (2) Kanagawa University, (3) Research Institute for Production Development, (4) Arizona State University) : Substrate specificities and availability of fucosyltransferase and  $\beta$ -carotene hydroxylase for myxol 2' -fucoside synthesis in *Anabaena* sp. strain PCC 7120 compared with *Synechocystis* sp. strain PCC 6803. *J Bacteriol* 2008 ; 190 (20) : 6726-6733.
- 4) Hasebe T, Kajita M<sup>1)</sup>, Shi Y-B<sup>2)</sup>, Ishizuya-Oka A (1) Institute of Development and Aging Sciences, Nippon Medical School, (2) SMM/LGRD/PCRM/NICHD/NIH) : Thyroid hormone-upregulated hedgehog interacting protein is involved in larval-to-adult intestinal remodeling by regulating sonic hedgehog signaling pathway in *Xenopus laevis*. *Dev Dyn* 2008 ; 237 (10) : 3006-3015.
- 5) Iwai M<sup>1)</sup>, Maoka T<sup>2)</sup>, Ikeuchi M<sup>3)</sup>, Takaichi S (1) Tokyo University of Science, (2) Research Institute for Production Development, (3) University of Tokyo) : 2, 2' - $\beta$ -Hydroxylase (CrtG) is involved in carotenogenesis of both nostoxanthin and 2-hydroxymyxol 2' -fucoside in *Thermosynechococcus elongatus* strain BP-1. *Plant Cell Physiol* 2008 ; 49 (11) : 1678-1687.
- 6) Sandmann G<sup>1)</sup>, Takaichi S, Fraser PD<sup>2)</sup> (1) J. W. Goethe University, (2) University of London) : C<sub>35</sub>-apocarotenoids in the yellow mutant *Neurospora crassa* YLO. *Phytochemistry* 2008 ; 69 (17) : 2886-2890.
- 7) Makino T<sup>1)</sup>, Harada H<sup>2)</sup>, Ikenaga H<sup>2)</sup>, Matsuda S<sup>2)</sup>, Takaichi S, Shindo K<sup>3)</sup>, Sandmann G<sup>4)</sup>, Ogata T<sup>1)</sup>, Misawa N<sup>2)</sup> (1) Kitasato University, (2) Marine Biotechnology Institute, (3) Japan Women's University, (4) J. W. Goethe University) : Characterization of cyanobacterial carotenoid ketolase CrtW and hydroxylase CrtR by complementation analysis in *Escherichia coli*. *Plant Cell Physiol* 2008 ; 49 (12) : 1867-1878.
- 8) Matsuda H<sup>1)</sup>, Paul DB<sup>2)</sup>, Choi YC<sup>3)</sup>, Hasebe T, Shi Y-B<sup>1)</sup> (1) SMM/LGRD/PCRM/NICHD/NIH, (2) Johns Hopkins University School of Medicine, (3) Korea Maritime University) : Novel functions of protein arginine methyltransferase 1 in thyroid hormone receptor-mediated transcription and in the regulation of metamorphic

rate in *Xenopus laevis*. Mol Cell Biol 2009 ; 29 (3) : 745-757.

(2) 総説 :

- 1) Ishizuya-Oka A, Shi Y-B<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> SMM/LGRD/PCRM/NICHD/NIH ) : Thyroid-hormone regulation of stem cell development during intestinal remodeling. Mol Cell Endocrinol 2008 ; 288 (1-2) : 71-78.

(3) グラビア :

- 1) 長谷部孝, 藤原正和<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>, 岡 敦子 ( <sup>1)</sup> 日本医大・老研 ) : アフリカツメガエル初期胚を用いた遺伝子の機能解析. 日医大医学会誌 2009 ; 5 (1) : 4-5.

## 著 書

- 1) Mochimaru M<sup>1)</sup>, Masukawa H<sup>2)</sup>, Maoka T<sup>3)</sup>, Takaichi S ( <sup>1)</sup> Komazawa University, <sup>2)</sup> Kanagawa University, <sup>3)</sup> Research Institute for Production Development ) : [分担] Functional identification of GDP-fucose synthase gene in *Anabaena* sp. PCC 7120. Photosynthesis : Energy from the Sun (Ed. by Allen JF, Gantt E, Golbeck JH, Osmond B), 2008 ; pp331-334, Springer.
- 2) Akimoto S<sup>1)</sup>, Yokono M<sup>2)</sup>, Higuchi M<sup>3)</sup>, Murakami A<sup>4)</sup>, Takaichi S, Mimuro M<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Kobe University, <sup>2)</sup> Hokkaido University, <sup>3)</sup> Kyoto University, <sup>4)</sup> Kobe University Research Center for Inland Seas ) : [分担] Ultrafast relaxation dynamics of a keto-carotenoid, siphonaxanthin, probed by time-resolved fluorescence. Photosynthesis : Energy from the Sun (Ed. by Allen JF, Gantt E, Golbeck JH, Osmond B), 2008 ; pp319-322, Springer.
- 3) Yoshida K<sup>1)</sup>, Yoshioka D<sup>1)</sup>, Inoue K<sup>1)</sup>, Takaichi S, Maeda I<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Utsunomiya University ) : [分担] Applications of green mutants isolated from purple bacteria as a host for colorimetric whole-cell biosensors. Photosynthesis : Energy from the Sun (Ed. by Allen JF, Gantt E, Golbeck JH, Osmond B), 2008 ; pp1359-1363, Springer.
- 4) Itoh S<sup>1)</sup>, Uzumaki T<sup>1)</sup>, Takaichi S, Iwaki M<sup>2)</sup>, Kumazaki S<sup>3)</sup>, Itoh K<sup>1)</sup>, Mino H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nagoya University, <sup>2)</sup> London University, <sup>3)</sup> Kyoto University ) : [分担] Unidirectional electron transfer in chlorophyll *d*-containing photosystem I reaction center complex of *Acaryochloris marina*. Photosynthesis : Energy from the Sun (Ed. by Allen JF, Gantt E, Golbeck JH, Osmond B), 2008 ; pp93-96, Springer.
- 5) Takaichi S : [分担] Distribution and biosynthesis of carotenoids. The Purple Phototrophic Bacteria (Ed. by Hunter CN, Daldal F, Thurnauer MC, Beatty JT), 2009 ; pp97-117, Springer.
- 6) 高市真一 : [分担] カロテノイドの分析. 光合成研究法 (北海道大学低温科学研究所・日本光合成研究会共編), 2009 ; pp347-353, 北海道大学低温科学研究所.

## 学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Takaichi S : Carotenogenesis in cyanobacteria : Overview. International Symposium on Carotenoids (15th) (Okinawa), 2008. 6.
- 2) Mochimaru M<sup>1)</sup>, Masukawa H<sup>2)</sup>, Maoka T<sup>3)</sup>, Takaichi S ( <sup>1)</sup> Komazawa University, <sup>2)</sup> Kanagawa University, <sup>3)</sup> Research Institute for Production Development ) : Fucosyltransferase and  $\beta$ -carotene hydroxylase for myxol 2' -fucoside synthesis in *Anabaena* sp. PCC 7120, compared with *Synechocystis* sp. PCC 6803. International Symposium on Carotenoids (15th) (Okinawa), 2008. 6.
- 3) Iwai M<sup>1)</sup>, Maoka T<sup>2)</sup>, Ikeuchi M<sup>3)</sup>, Takaichi S ( <sup>1)</sup> Tokyo University of Science, <sup>2)</sup> Research Institute for Production Development, <sup>3)</sup> University of Tokyo ) : 2-OH-Myxol 2' -fucoside and nostoxanthin in the thermophilic cyanobacterium, *Thermosynechococcus elongatus* : Biosynthesis and genes. International Symposium



- on Carotenoids (15th) (Okinawa), 2008. 6.
- 4) Yoshida K<sup>1</sup>, Inoue K<sup>1</sup>, Takaichi S, Maeda I<sup>1</sup> (<sup>1</sup> Utsunomiya University) : A colorimetric whole-cell biosensor to detect arsenite based on the carotenogenic reaction by CrtI in *Rhodospseudomonas palustris*. International Symposium on Carotenoids (15th) (Okinawa), 2008. 6.
  - 5) Takaichi S, Maoka T<sup>1</sup>, Takasaki K<sup>2</sup>, Hanada S<sup>2</sup> (<sup>1</sup> Research Institute for Production Development, <sup>2</sup> National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST)) : Carotenoids in the new phylum bacterium, *Gemmatimonas aurantiaca* : oscillol 2, 2' -dirhamnoside, biosynthesis and genes. International Symposium on Carotenoids (15th) (Okinawa), 2008. 6.
  - 6) Shindo K<sup>1</sup>, Asagi E<sup>1</sup>, Sano A<sup>1</sup>, Hotta E<sup>1</sup>, Minemura N<sup>1</sup>, Mikami K<sup>1</sup>, Tamesada E<sup>1</sup>, Takaichi S, Misawa N<sup>2</sup>, Maoka T<sup>3</sup> (<sup>1</sup> Japan Women' s University, <sup>2</sup> Marine Biotechnology Institute, <sup>3</sup> Research Institute for Production Development) : Diapolycopenedioic acid xylosyl esters A, B, and C, novel antioxidative glyco-C<sub>30</sub>-carotenoid acids produced by a new marine bacterium *Rubritalea squalenifaciens*. International Symposium on Carotenoids (15th) (Okinawa), 2008. 6.
  - 7) Fujiwara M<sup>1</sup>, Hasebe T, Ghazizadeh M<sup>1</sup>, Ishizuya-Oka A, Kawanami O<sup>1</sup> (<sup>1</sup> Institute of Development and Aging Sciences, Nippon Medical School) : Overexpression of down syndrome critical region 1 represses vascular branching in *Xenopus laevis* larvae. International Vascular Biology Meeting (15th) (Sydney), 2008. 6.
  - 8) Hasebe T, Kajita M<sup>1</sup>, Ishizuya-Oka A (<sup>1</sup> Institute of Development and Aging Sciences, Nippon Medical School) : Expression profile of hedgehog interacting protein suggests its involvement in the intestinal remodeling during *Xenopus laevis* metamorphosis. 日本発生生物学会大会 (第41回), 2008. 5.
  - 9) Fujiwara M<sup>1</sup>, Hasebe T, Ghazizadeh M<sup>1</sup>, Ishizuya-Oka A, Kawanami O<sup>1</sup> (<sup>1</sup> Institute of Development and Aging Sciences, Nippon Medical School) : Overexpression of regulator of calcineurin 1 represses vascular branching in *Xenopus laevis* larvae. 日本血管生物医学会合同学術集会 (第16回), 2008. 12.
  - 10) 高市真一, Sasikala C<sup>1</sup>, Ramana CV<sup>1</sup> (<sup>1</sup> University of Hyderabad) : 新規紅色細菌とカロテノイド組成. 日本光合成研究会公開シンポジウム (第8回), 2008. 5.
  - 11) 高市真一 : シアノバクテリアのミクソール配糖体はどこから来たか. 光合成の色素系と反応中心に関するセミナー (第16回), 2008. 6.
  - 12) 高市真一 : シアノバクテリアのカロテノイド : 酵素の基質特異性とカロテノイドの多様性. カロテノイド研究談話会 (第22回), 2008. 6.
  - 13) 高市真一, Sasikala C<sup>1</sup>, Ramana CV<sup>1</sup> (<sup>1</sup> University of Hyderabad) : 最近記載された数種の新しい紅色光合成細菌のカロテノイド組成. 日本植物学会大会 (第72回), 2008. 9.
  - 14) 吉川伸哉<sup>1</sup>, 加藤 繭<sup>1</sup>, 重松孝太郎<sup>1</sup>, 近藤竜二<sup>1</sup>, 神谷充伸<sup>1</sup>, 高市真一, 大城 香<sup>1</sup> (<sup>1</sup> 福井県立大・生物資源) : 硫化水素を含む湖水から分離した真核ピコ植物プランクトンの性状解析. 日本植物学会大会 (第72回), 2008. 9.
  - 15) 岡 敦子, 梶田満子<sup>1</sup>, 長谷部孝 (<sup>1</sup> 日本医大・老研) : アフリカツメガエルの成体型小腸上皮を形成する幹細胞の起源. 日本動物学会大会 (第79回), 2008. 9.
  - 16) 岡 敦子 : アフリカツメガエルの消化管再構築のしくみ : 甲状腺ホルモン応答遺伝子を用いた組織間相互作用機構の解析. XCIJ 首都圏支部会研究集会 (第1回), 2008. 10.
  - 17) 長谷部孝, 梶田満子<sup>1</sup>, 岡 敦子 (<sup>1</sup> 日本医大・老研) : 小腸再構築における Sonic hedgehog シグナル伝達経路に関わる遺伝子の発現解析. 日本消化管学会学術集会 (第5回), 2009. 2.
  - 18) 高市真一, 持丸真里<sup>1</sup> (<sup>1</sup> 駒澤大・自然) : シアノバクテリアにおけるカロテノイド, 合成経路, 遺伝子. 日本植物生理学会年会 (第50回), 2009. 3.

- 19) 持丸真里<sup>1)</sup>, 眞岡孝至<sup>2)</sup>, 高市真一 (1) 駒澤大・自然, <sup>2)</sup> 生産開発科研): シアノバクテリア *Nostoc commune* NIES-24 のカロテノイド分析. 日本植物生理学会年会 (第50回), 2009. 3.
- 20) 西谷里美, 中村敏枝<sup>1)</sup>, 可知直毅<sup>1)</sup> (1) 首都大・生命科学): 冬緑性草本ヒガンバナにおける, 非展葉期の窒素吸収. 日本生態学会 (第56回), 2009. 3.

### 3. 外国語

#### [英語・ドイツ語]

##### 研究概要

外国語教室 (英語・ドイツ語) では, 4名の専任教員が言語・言語教育, ならびに文化・文学に関わる研究活動を展開している. 平成20年度の研究状況は次のとおりである.

<言語・言語教育> 英文法に関する研究を前年度から継続し, その教育面においては小学校英語教育にも視野を広げ, その成果を公にした. 医学生英語教育を意識した English for Specific Purposes の研究も展開し, 研究論文を教材とした英語教育のあり方を探った. また, 海外留学・研修などに際して必要となるパーソナル・ステイトメント執筆につながる自己表現学習の方策について, リーディングとライティング活動を融合させた教育方法について実践的に研究し, その成果を論文として発表した. なお, 20年度は本学での TOEFL-ITP 導入2年目にあたり, 本学学生のスコアと英語学習への意識について多角的に分析・考察した結果を, 基礎科学紀要論文として発表している. 文学作品を教材とした英語教育のあり方についての研究も続行しており, 今後成果を取りまとめる方向にある.

第二外国語を教える中で, 文法教育と講読をとおして, いかに関「聞く」「話す」「読む」「書く」学習活動を総合的に扱うかを中心に, 初級ドイツ語教育における諸問題を検討・考察した.

<文化・文学> アイルランド文学に関する研究を中心に展開した. 科学研究費基盤研究の初年度にあたり, 当該研究の18世紀から19世紀半ばまでの時期に焦点を合わせ, 現地での取材や資料収集, 学会出席などの機会も得て, 基盤となる研究を進めた. その成果は研究発表や論文などで公にした. 日独文化交流関連の研究も継続している.

なお, 高円宮杯全日本中学校英語弁論大会での審査, 『日本医学英語教育学会誌』(日本医学英語教育学会発行) のレビュー, 慶應英文学会の運営などにも関わった.

##### 研究業績

###### 論文

(1) 原著:

- 1) Minton T, Nishikawa S: The Second Year of Mandatory TOEFL ITP Testing at NMS. 日本医科大学基礎科学紀要 2008; 38: 39-65.
- 2) 中村哲子: ビッグ・ハウスの現状とビッグ・ハウス小説研究の現在. 日本医科大学基礎科学紀要 2008; 38: 1-17.
- 3) 中村哲子: 「自分のことを語る」ための理論と実践: リーディングとライティング活動の融合に向けて. 英文学研究 (支部統合号・関東英文学研究) 2009; 1: 47-70.

###### 著書

- 1) ミントン・ティモシー, 山口俊治<sup>1)</sup> (1) 元日本医科大学英語教室): [共著] こども英語学習トランプ (名詞編), 2009; 語学春秋社.
- 2) ミントン・ティモシー, 山口俊治<sup>1)</sup> (1) 元日本医科大学英語教室): [共著] こども英語学習トランプ (動詞編),

2009；語学春秋社。

- 3) 中村哲子：〔自著〕アイルランド併合とゲールの伝統：スウィフトからエッジワースへ，中世主義を超えて：イギリス中世の発明と受容（松田隆美，原田範行，高橋勇編著），2009；pp185-212，慶應義塾大学出版会。

#### 学会発表

(1) セミナー：

- 1) 中村哲子：ビッグ・ハウス小説とその空間世界，日本アイルランド協会，2008. 6.

(2) ワークショップ：

- 1) Minton T, Okazaki M <sup>(1)</sup> 東京慈恵会医科大学)：Medical Presentation and Writing：A Training Course for Clinical Researchers. 慶應義塾クリニカルリサーチセンター，2008. 11.

(3) 一般講演：

- 1) 中村哲子：コネマラのBallynahinch Castle：歴史とフィクションのはざままで，日本アイルランド協会（年次大会），2008. 11.  
2) 中村哲子：西アイルランドへのまなざし：エッジワースのコネマラ紀行を中心に，オースティン研究会（第2回），2008. 12.

## 4. スポーツ科学

### [スポーツ科学]

#### 研究概要

三上：以下の項目についての研究を行った。1) 水素水がストレス由来の記憶学習能力の低下に対して抑制効果を持つことを明らかにし，その成果を論文として発表した（日本医科大学大学院医学研究科加齢科学系細胞生物学の太田教授との共同研究）。2) メロンより注出したSuperoxide dismutaseを大量に含むオキシカインが，ストレス由来の記憶学習能力の低下に対して抑制効果を持つことを明らかにし，その成果を論文として発表した（コンビ社及び日本体育大学との共同研究）。3) 熱帯植物のノニの持つストレス耐性効果を調べるために，ノニエキスが精神的ストレスによる記憶学習能力の低下抑制をもたらすか否かについて検討した（タヒチアン・ノニ社との共同研究）。4) ストレス由来のうつ様行動に対する身体運動の抑制効果には，脳での海馬での神経新生の増加と血管新生が関係することを明らかにした。

武藤：1) 発展途上の国にこそ次世代を担う青少年に対する健全な体育・健康教育が必要と考え，カンボジア・シェムリアップにおいて体格・体力，生活習慣，生活環境等の調査研究を継続的に行っている。今年度は市内，郊外，農村部の環境の異なる3地域を比較調査し，体格・体力ともに郊外が優れ農村部は低いことが明らかとなった。2) 「健康運動教室」に参加する高齢者を対象に，体格・生活活動力等を縦断的に調査している。運動習慣のある高齢者は，70歳以降の加齢による体力の低下が緩やかなのに対し，運動習慣のない高齢者は急激に低下することが明らかになった。3) 日本における健康づくりに貢献しているラジオ体操を定期的実施することが高齢者へどのような影響を及ぼすかを継続的に検討している。

#### 研究業績

##### 論文

(1) 原著：

- 1) Higaki Y<sup>1)</sup>, Mikami T, Fuji N<sup>2)</sup>, Hirshman M<sup>2)</sup>, Koyama K<sup>3)</sup>, Seino T<sup>4)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Goodyear L<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup>

Department of Preventive Medicine, Faculty of Medicine, Saga University, <sup>2)</sup> Research Division, Joslin Diabetes Center, Department of Medicine, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School, <sup>3)</sup> Faculty of Education and Human Sciences, University of Yamanashi, <sup>4)</sup> Liberal Arts Division, Kisarazu National College of Technology) : Oxidative stress stimulates skeletal muscle glucose uptake through a phosphatidylinositol 3-kinase-dependent pathway. *Am. J Physiol. Endocrinol. Metab* 2008 ; 294 : E889-E897.

2) Nagata K<sup>1)</sup>, Nakashima-Kamimura N<sup>1)</sup>, Mikami T, Ohsawa T<sup>1)</sup>, Ohta S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Consumption of molecular hydrogen prevents the stress-induced impairments in hippocampus-dependent learning tasks during chronic physical restraint in mice. *Neuropsychopharmacology* 2009 ; 34 : 501-508.

(2) 総説 :

1) 三上俊夫 : 激しい運動と肝臓. *体育の科学* 2008 ; 58 : 676-680.

(3) 研究報告 :

1) 川守田千秋<sup>1)</sup>, 渡部鎌二<sup>1)</sup>, 増田敬子<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 座間吉成<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup> 日本ライフセービング協会神奈川支部) : 健康体操教室参加者の2年間の生活活動の変化. *運動とスポーツの科学* 2008 ; 14 (1) : 129-134.

2) 渡部月子<sup>1)</sup>, 渡部鎌二<sup>1)</sup>, 川守田千秋<sup>1)</sup>, 武藤三千代 (<sup>1)</sup> 神奈川県立保健福祉大学) : 中・高齢者における生活活動力テストと健康関連QOL尺度との関係. *運動とスポーツの科学* 2008 ; 14 (1) : 155-161.

(4) 報告 :

1) 渡部鎌二<sup>1)</sup>, 清水弘司<sup>1)</sup>, 金 龍哲<sup>1)</sup>, 渡部月子<sup>1)</sup>, 山口由子<sup>1)</sup>, 川守田千秋<sup>1)</sup>, 結城志穂<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 塩崎万里<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup> 名城大学) : カンボジアシェムリアップ州における児童・生徒の健康教育実態調査. *神奈川県立保健福祉大学誌* 2008 ; 5 (1) : 95-102.

## 学会発表

(1) シンポジウム :

1) 三上俊夫 : 身体運動が神経新生と学習記憶能力に与える影響をIGF-1との関係から考察する. 第23回日本体力医学会近畿地方会, 2009. 1.

(2) 一般講演 :

1) Watanabe T<sup>1)</sup>, Watanabe R<sup>1)</sup>, Kawamorita C<sup>1)</sup>, Muto M, Tsurumaki N<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Kanagawa University of Human Services, <sup>2)</sup> Nishimachi International School) : Using the Functional Daily Activity Test and the Health Survey (SF-36 v. 2) to Evaluate the Benefit of Exercise for the Eldely. 7th World Congress on Aging and Physical Activity (Tsukuba), 2008. 7.

2) Ohsawa I<sup>1)</sup>, Nagata K<sup>1)</sup>, Takahashi K<sup>2)</sup>, Ishikawa M<sup>2)</sup>, Mikami T, Ohta S<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> The Center of Molecular Hydrogen Medicine, <sup>2)</sup> Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Hydrogen acts as a therapeutic antioxidant in the brain ischemia and restores learning- and memory-deficits declined by physical restraint stress. *Alzheimer's Association International Conference on Alzheimer's Disease 2008 (Chicago)*, 2008. 7.

3) Mikami T, Nakajima S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Protective effect of exercise on stress-induced impairment of spatial memory is dependent on IGF-1. 13th Annual Congress European College of Sport Science (Estoril), 2008. 7.

4) 武藤三千代, 渡部鎌二<sup>1)</sup>, 渡部月子<sup>1)</sup>, 中島克典<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup> 日本工業大学) : カンボジア・シェムリアップにおける青少年の体格と体力の現状について. 日本運動・スポーツ科学学会第15回大会, 2008. 6.

- 5) 川守田千秋<sup>1)</sup>, 渡部鎌二<sup>1)</sup>, 増田敬子<sup>1)</sup>, 武藤三千代<sup>1)</sup> (神奈川県立保健福祉大学): 健康体操教室に参加している高齢者の生活活動の1年間の変化. 日本運動・スポーツ科学学会第15回大会, 2008. 6.
- 6) 渡部月子<sup>1)</sup>, 渡部鎌二<sup>1)</sup>, 川守田千秋<sup>1)</sup>, 武藤三千代<sup>1)</sup> (神奈川県立保健福祉大学): カンボジア・シェムリアップ州教員の健康教育に対する意識調査. 第56回日本教育医学会大会, 2008. 8.
- 7) 武藤三千代, 渡部鎌二<sup>1)</sup>, 中島克典<sup>2)</sup> (神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup> 日本工業大学): カンボディアにおける青少年の体格・体力と生活習慣について (2). 日本体育学会第59回大会, 2008. 9.
- 8) 木内 拓<sup>1)</sup>, 秋山 輝<sup>1)</sup>, 三上俊夫<sup>1)</sup> (日本医科大学第2学年): ストレス由来のうつ様行動に対する身体運動の抑制効果には脳での血管新生が関係する. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 9) 中島早苗<sup>1)</sup>, 李ヒョンジン<sup>2)</sup>, 大野 誠<sup>2)</sup>, 三上俊夫<sup>1)</sup> (日本医科大学大学院医学研究科加齢科学系細胞生物学分野, <sup>2)</sup> 日本体育大学): 一過性の間欠的な高強度運動は海馬の神経新生を増加させる. 第75回日本体力医学会総会, 2008. 9.
- 10) 武藤順子<sup>1)</sup>, 李 鎬成<sup>1)</sup>, 三上俊夫, 大野 誠<sup>1)</sup> (日本体育大学): Morinda citrifolia 果汁はストレス負荷による記憶学習能力の低下を抑制する. 第75回日本体力医学会総会, 2008. 9.
- 11) 檜垣靖樹<sup>1)</sup>, 三上俊夫, 小山勝弘<sup>2)</sup>, 清野哲也<sup>3)</sup>, 藤井宣晴<sup>4)</sup> (福岡大学スポーツ科学部, <sup>2)</sup> 山梨大学教育人間科学部, <sup>3)</sup> 木更津工業高等専門学校, <sup>4)</sup> 首都大学東京大学院健康科学研究科): 酸化ストレスはPI3キナーゼ経路を介して骨格筋の糖取り込みを亢進させる. 第75回日本体力医学会総会, 2008. 9.
- 12) 大澤郁朗<sup>1)</sup>, 永田和史<sup>2)</sup>, 三上俊夫, 太田成男<sup>2)</sup> (水素分子医学研究開発拠点, <sup>2)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科加齢科学系細胞生物学分野): 酸化ストレスを伴う認知・記憶障害の水素分子による抑制. 第27回日本認知症学会, 2008. 10.
- 13) 武藤三千代, 渡部鎌二<sup>1)</sup>, 渡部月子<sup>1)</sup>, 若山葉子<sup>2)</sup> (神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup> 日本医科大学衛生学・公衆衛生学): カンボジア・シェムリアップにおける青少年の体格と体力について. 第67回日本公衆衛生学会総会, 2008. 11.
- 14) 若山葉子<sup>1)</sup>, 伊藤博子<sup>1)</sup>, 勝又聖夫<sup>1)</sup>, 川田智之<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 渡部鎌二<sup>2)</sup>, 渡部月子<sup>2)</sup> (日本医科大学衛生学・公衆衛生学, <sup>2)</sup> 神奈川県立保健福祉大学): 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査: 肥満指標による比較検討 (2). 第67回日本公衆衛生学会総会, 2008. 11.
- 15) 渡部月子<sup>1)</sup>, 太田貞司<sup>1)</sup>, 渡部鎌二<sup>1)</sup>, 峰尾武巳<sup>1)</sup>, 武藤三千代<sup>1)</sup> (神奈川県立保健福祉大学): 高齢者福祉施設におけるラジオ体操の普及状況. 第67回日本公衆衛生学会総会, 2008. 11.
- 16) 永田和史<sup>1)</sup>, 上村尚美<sup>1)</sup>, 三上俊夫, 大澤郁朗<sup>2)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup> (日本医科大学大学院医学研究科加齢科学系細胞生物学分野, <sup>2)</sup> 水素分子医学研究開発拠点): 水素分子による身体拘束マウスの海馬依存的学習・記憶能力低下の抑制. 第31回日本分子生物学会/第81回日本生化学会大会合同大会, 2008. 12.
- 17) 永田和史<sup>1)</sup>, 上村尚美<sup>1)</sup>, 三上俊夫, 大澤郁朗<sup>2)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup> (日本医科大学大学院医学研究科加齢科学系細胞生物学分野, <sup>2)</sup> 水素分子医学研究開発拠点): 水素分子摂取による身体拘束マウスの海馬依存的学習・記憶能力低下の抑制. 第8回日本ミトコンドリア学会年会, 2008. 12.

## 〔2〕 基 礎 医 学



# 1. 解剖学講座（分子解剖学）

## 研究概要

(1) 胎盤の分子解剖学：a) ヒト胎盤胎児血管内皮細胞内のIIb型Fc受容体-小胞の解析，b) 栄養膜細胞層の解析，c) Fc受容体の解析を進めた．形態学的解析（森助教，研究生・倉澤，研究生・岩崎，後藤准教授）と共に，単離血管内皮細胞の分子生物学的解析（石川助教，特別研究生・三嶋，石橋講師）を行った．（当大学産婦人科学講座，生化学・分子生物学講座，米国オハイオ州立大学・John M. Robinson教授，自治医科大学・松原茂樹教授，屋代隆教授，宮崎・片岡寛章教授との共同研究）

(2) バイオイメージング・組織細胞化学法の開発と応用：石橋が中心となり，GFP融合分子発現ベクター作製と培養細胞での解析を行った．

(3) microRNAの分子解剖学的研究：a) 生殖腺，胎盤，消化器系臓器・疾患におけるmicroRNAプロファイリングと機能解析（石橋，三嶋，羅助教，石川，瀧澤<sup>敬</sup>助教，院生・川東，院生・神田，院生・重原，院生・赤城，院生・間瀬，日本学術振興会特別研究員PD・水口），b) P-body，exosomeについての分子解剖学的解析（石橋），c) 卵巣におけるmicroRNAの機能解析（石橋，間瀬，羅，瀧澤<sup>敬</sup>）を行った．（当大学外科学講座，産婦人科学講座，東京大学・程久美子准教授との共同研究）

(4) 生殖細胞特異的分子TEX101の解析：森，技術員・原田が組織化学的解析，石川，瀧澤<sup>敬</sup>，三嶋，技術員・小管が培養細胞のTEX101発現解析，GFP融合shRNAベクター作製，小管，原田がエレクトロポレーションによるベクターのマウス精巣導入実験を行った．（順天堂大学・荒木慶彦准教授，長崎大学・小路武彦教授との共同研究）

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) Robinson MJ<sup>1</sup>), Ackerman Iv EW<sup>2</sup>), Kniss AD<sup>2</sup>), Takizawa T<sup>4</sup>), Vandre DD<sup>1</sup>) (1) Department of Physiology and Cell Biology, Ohio State University, Columbus, OH 43210, USA, (2) Department of Obstetrics and Gynecology, Ohio State University, Columbus, OH 43210, USA, (3) Department of Biomedical Engineering, Ohio State University, Columbus, OH 43210, USA, (4) Department of Molecular Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan) : Proteomics of the human placenta : promises and realities. *Placenta* 2008 ; 29 (2) : 135-143.
- 2) Akagi I<sup>1</sup>), Miyashita M<sup>1</sup>), Makino H<sup>1</sup>), Nomura T<sup>1</sup>), Hagiwara N<sup>1</sup>), Takahashi K<sup>1</sup>), Cho K<sup>1</sup>), Mishima T<sup>2</sup>), Takizawa T<sup>2</sup>), Tajiri T<sup>1</sup>) (1) Departments of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan, (2) Department of Molecular Anatomy and Medicine, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan) : SnoN overexpression is predictive of poor survival in patients with esophageal squamous cell carcinoma. *Ann Surg Oncol* 2008 ; 15 (10) : 2965-2975.
- 3) Mishima Y<sup>1</sup>), Terui Y<sup>1</sup>), Mishima Y<sup>1</sup>), Taniyama A<sup>1</sup>), Kuniyoshi R<sup>1</sup>), Takizawa T<sup>1</sup>), Kimura S<sup>2</sup>), Ozawa K<sup>3</sup>), Hatake K<sup>4</sup>) (1) Department of Clinical Chemotherapy, Cancer Chemotherapy Center, Japanese Foundation for Cancer Research, Tokyo 135-8550, Japan, (2) Department of Molecular Anatomy and Medicine, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan, (3) Department of Transfusion Medicine and Cell Therapy, Kyoto University Hospital, Kyoto 606-8507, Japan, (4) Division of Hematology, Department of Medicine, Jichi Medical University, Tochigi 329-0498, Japan) : Autophagy and autophagic cell death are next targets for elimination of the resistance to tyrosine kinase inhibitors. *Cancer Sci* 2008 ; 99 (11) : 2200-2208.

- 4) Mishima T<sup>1</sup>, Takizawa T<sup>1</sup>, Luo S<sup>1</sup>, Ishibashi O<sup>1</sup>, Kawahigashi Y<sup>1,2</sup>, Mizuguchi Y<sup>1,2</sup>, Ishikawa T<sup>1</sup>, Mori M<sup>1</sup>, Kanda T<sup>1,2</sup>, Goto T<sup>1</sup>, Takizawa T<sup>1</sup> (1) Department of Molecular Anatomy and Medicine, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan, (2) Department of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan) : MicroRNA (miRNA) cloning analysis reveals sex differences in miRNA expression profiles between adult mouse testis and ovary. *Reproduction* 2008 ; 136 (6) : 811-822.
- 5) Akagi I<sup>1</sup>, Miyashita M<sup>1</sup>, Makino H<sup>1</sup>, Nomura T<sup>1</sup>, Hagiwara N<sup>1</sup>, Takahashi K<sup>1</sup>, Cho K<sup>1</sup>, Mishima T<sup>2</sup>, Ishibashi O<sup>2</sup>, Ushijima T<sup>3</sup>, Takizawa T<sup>2</sup>, Tajiri T<sup>1</sup> (1) Departments of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan, (2) Department of Molecular Anatomy and Medicine, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan, (3) Carcinogenesis Division, National Cancer Center Research Institute, Tokyo 104-0045, Japan) : Overexpression of PIK3CA is associated with lymph node metastasis in esophageal squamous cell carcinoma. *Int J Oncol* 2009 ; 34 (3) : 767-775.

(2) 総説 :

- 1) 瀧澤俊広<sup>1</sup> (1) 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学) : 凍結技法と免疫組織化学 : 分子の局在を知りたい, ここ一番の凍結超薄切片法. *顕微鏡* 2008 ; 43 (2) : 140-143.

(3) グラビア :

- 1) 瀧澤敬美<sup>1</sup>, 後藤 忠<sup>1</sup>, 石橋 宰<sup>1</sup>, 羅 善順<sup>1</sup>, 石川朋子<sup>1</sup>, 森 美貴<sup>1</sup>, 石川 源<sup>2</sup>, 竹下俊行<sup>2</sup>, 瀧澤俊広<sup>1</sup> (1) 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学), (2) 日本医科大学産婦人科学講座) : バーチャルスライドシステムによるヒト満期胎盤の高精細デジタル画像 : 新しい解剖学教育のツール. *日医大医学会誌* 2008 ; 4 (4) : 170-171.

学会発表

〔追加分〕

追加分特別講演 :

- 1) 瀧澤俊広<sup>1</sup> (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学) : 凍結技法と組織化学 : 分子の局在を知りたい, ここ一番の時の凍結超薄切片法 (7月28日). 第18回電顕サマースクール (東京), 2007. 7.

(1) 一般講演 :

- 1) Ishikawa G<sup>1</sup>, Luo S<sup>2</sup>, Mishima T<sup>2</sup>, Mase Y<sup>1,2</sup>, Takeshita T<sup>1</sup>, Takizawa T<sup>2</sup> (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan, (2) Department of Molecular Anatomy and Medicine, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan) : MicroRNA expression profiles by sequencing analysis of small RNA libraries from human placenta : normal pregnancy and pregnancy-induced hypertension (P06.19 / Sept 12). 14th Meeting of the International-Federation-of-Placental-Associations (IFPA2008) (Seggau Castle, Austria), 2008. 9.
- 2) 石橋 宰<sup>1</sup>, 羅 善順<sup>1</sup>, 石川朋子<sup>1</sup>, 三嶋拓也<sup>1</sup>, 竹下俊行<sup>2</sup>, 瀧澤俊広<sup>1</sup> (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), (2) 日本医科大学 産婦人科学講座) : miR-125b/351はヒト卵胞顆粒膜細胞のアポトーシスを制御する (12月6日). 第23回日本生殖免疫学会総会・学術集会 (富山), 2008. 12.
- 3) 石川 源<sup>1</sup>, 松原茂樹<sup>2</sup>, 竹下俊行<sup>1</sup>, 瀧澤俊広<sup>3</sup> (1) 日本医科大学 産婦人科学講座, (2) 自治医科大学 産婦人科学講座, (3) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学)) : 胎盤に発現している microRNA の解析 : 妊娠高血圧症候群胎盤の microRNA プロファイリング (P1-151 / 4月12日). 第60回日本産科婦人科学会学術講演会・総会 (横浜), 2008. 4.
- 4) 瀧澤俊広<sup>1</sup>, 石川 源<sup>2</sup>, 松原茂樹<sup>3</sup>, 竹下俊行<sup>2</sup> (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), (2) 日本医科



- 大学 産婦人科学講座, <sup>3)</sup> 自治医科大学 産婦人科学講座)：胎盤に発現している microRNA の解析：初期と満期胎盤の microRNA プロファイリング (P1-148 / 4月12日)．第60回日本産科婦人科学会学術講演会・総会 (横浜), 2008. 4.
- 5) 阿曾亮子<sup>1,2)</sup>, 吉村明修<sup>1,2)</sup>, 八木正敏<sup>1,2)</sup>, 志村俊郎<sup>1,2)</sup>, 滋野恭子<sup>3)</sup>, 伊藤高司<sup>3)</sup>, 瀧澤俊広<sup>2,4)</sup>, 明楽重夫<sup>2,5)</sup>, 儀我真理子<sup>2,6)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学 教育推進室, <sup>2)</sup> 日本医科大学 授業評価委員会, <sup>3)</sup> 日本医科大学 情報科学センター, <sup>4)</sup> 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), <sup>5)</sup> 日本医科大学 産婦人科学講座, <sup>6)</sup> 日本医科大学 数学教室)：学生による授業評価の携帯電話を用いた新しい評価方法の導入 (O26-2 / 7月26日)．第40回日本医学教育学会総会 (東京), 2008. 7.
- 6) 石橋 宰<sup>1)</sup>, 羅 善順<sup>1)</sup>, 三嶋拓也<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup>, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), <sup>2)</sup> 日本医科大学 産婦人科学講座)：miR-125b/351 はヒト卵卵顆粒膜細胞癌由来細胞株 KGN のアポトーシスを誘導する (7月23日)．第10回日本RNA学会 (札幌), 2008. 7.
- 7) 川東 豊<sup>1,2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), <sup>2)</sup> 日本医科大学 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門))：ヒト正常胆管上皮細胞と肝内胆管癌細胞株における microRNA の発現プロファイル解析 (9月19日)．第44回日本胆道学会学術集会 (名古屋), 2008. 9.
- 8) 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, 小管拓治<sup>1)</sup>, 原田明希摩<sup>1)</sup>, 森 美貴<sup>1)</sup>, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 瀧澤敬美<sup>1)</sup>, 荒木慶彦<sup>2)</sup>, 佐藤陽子<sup>3)</sup>, 菱川善隆<sup>3)</sup>, 小路武彦<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), <sup>2)</sup> 順天堂大学大学院 環境医学研究所, <sup>3)</sup> 長崎大学大学院 組織細胞生物学分野)：RNAiによるマウス精巣Tex101に関する in vivo ノックダウン解析：ベクターの作製とエレクトロポレーションによる精巣への導入条件検討 (10月5日)．第49回日本組織細胞化学会総会・学術集会 (長崎), 2008. 10.
- 9) 石橋 宰<sup>1)</sup>, 羅 善順<sup>1)</sup>, 三嶋拓也<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学))：胎盤絨毛栄養膜は exosome を介してマイクロ RNA を細胞外に放出する (10月5日)．第49回日本組織細胞化学会総会・学術集会 (長崎), 2008. 10.
- 10) 羅 善順<sup>1)</sup>, 三嶋拓也<sup>1)</sup>, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学))：In situ hybridization によるマウス卵巣に発現している microRNA の局在解析 (10月5日)．第49回日本組織細胞化学会総会・学術集会 (長崎), 2008. 10.
- 11) 瀧澤敬美<sup>1)</sup>, 後藤 忠<sup>1)</sup>, 藤田敦士<sup>2)</sup>, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 石川朋子<sup>1)</sup>, 森 美貴<sup>1)</sup>, 羅 善順<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>2)</sup>, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), <sup>2)</sup> 日本医科大学 小児科学講座)：塗抹染色標本のパーティクルスライド作製法に関する検討 (10月5日)．第49回日本組織細胞化学会総会・学術集会 (長崎), 2008. 10.
- 12) 原田明希摩<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>2)</sup>, 平田知己<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup>, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), <sup>2)</sup> 日本医科大学 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門))：肺腺癌における cortactin の発現解析と siRNA による機能解析 (10月5日)．第49回日本組織細胞化学会総会・学術集会 (長崎), 2008. 10.
- 13) 石川 源<sup>1)</sup>, 間瀬有里<sup>1,2)</sup>, 羅 善順<sup>2)</sup>, 三嶋拓也<sup>2)</sup>, 松原茂樹<sup>3)</sup>, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学 産婦人科学講座, <sup>2)</sup> 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), <sup>3)</sup> 自治医科大学 産婦人科学講座)：妊娠高血圧症候群の胎盤におけるマイクロ RNA 発現プロファイル解析 (10月12日)．第29回日本妊娠高血圧学会 (福島), 2008. 10.
- 14) 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, 羅 善順<sup>1)</sup>, 三嶋拓也<sup>1)</sup>, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 石川 源<sup>2)</sup>, 松原茂樹<sup>3)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), <sup>2)</sup> 日本医科大学 産婦人科学講座, <sup>3)</sup> 自治医科大学 産婦人科学講座)：妊娠における母体血液中の胎盤特異的 microRNA に関する解析 (11月14日)．第16回日本胎盤学会学術集会 (浜松), 2008. 11.
- 15) 石橋 宰<sup>1)</sup>, 羅 善順<sup>1)</sup>, 三嶋拓也<sup>1)</sup>, 石川 源<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup>, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), <sup>2)</sup> 日本医科大学 産婦人科学講座)：胎盤絨毛栄養膜は exosome を介してマイクロ RNA を細胞外に放出する (11月13日)．第16回日本胎盤学会学術集会 (浜松), 2008. 11.

- 16) 間瀬有里<sup>1,2)</sup>, 石橋 宰<sup>2)</sup>, 石川 源<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 産婦人科学講座, 2) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学)): ヒト卵巣顆粒膜細胞株 (KGN) におけるmicroRNA発現プロファイルの解析 (12月6日). 第23回日本生殖免疫学会総会・学術集会 (富山), 2008. 12.
- 17) 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, 羅 善順<sup>1)</sup>, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 三嶋拓也<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), 2) 日本医科大学 産婦人科学講座): mmu-miR-145は卵胞莢膜細胞に特異的に発現している (12月6日). 第23回日本生殖免疫学会総会・学術集会 (富山), 2008. 12.
- 18) 後藤 忠<sup>1)</sup>, 石川朋子<sup>1)</sup>, 羅 善順<sup>1)</sup>, 森 美貴<sup>1)</sup>, 瀧澤敬美<sup>1)</sup>, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学)): 学生による解剖学授業評価IV: アンケート調査結果とテキストマイニングシステムによる自由意見の解析 (P3-116 / 3月30日). 第114回日本解剖学会総会・全国学術集会 (岡山), 2009. 3.
- 19) 石川朋子<sup>1)</sup>, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 片山 映<sup>2)</sup>, 森 美貴<sup>1)</sup>, 羅 善順<sup>1)</sup>, 松原茂樹<sup>3)</sup>, 竹下俊行<sup>4)</sup>, 西野武士<sup>2)</sup>, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), 2) 日本医科大学 構造生物学・代謝学講座, 3) 自治医科大学 産婦人科学講座, 4) 日本医科大学 産婦人科学講座): ヒト胎盤胎児血管内皮細胞に特異的なIIb型Fc受容体-小胞のプロテオミクス解析 (P2-099 / 3月29日). 第114回日本解剖学会総会・全国学術集会 (岡山), 2009. 3.
- 20) 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, 川東 豊<sup>1,2)</sup>, 三嶋拓也<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1,2)</sup>, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), 2) 日本医科大学 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 肝内胆管癌細胞株のマイクロRNAプロファイリングによる胆管上皮特異的マイクロRNAの同定 (O6-03-2 / 3月30日). 第114回日本解剖学会総会・全国学術集会 (岡山), 2009. 3.
- 21) 瀧澤敬美<sup>1)</sup>, 後藤 忠<sup>1)</sup>, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 石川朋子<sup>1)</sup>, 森 美貴<sup>1)</sup>, 羅 善順<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学)): 新しい解剖学教育ツールとしてのバーチャルスライド: その導入と学生による評価 (O7-02-1 / 3月30日). 第114回日本解剖学会総会・全国学術集会 (岡山), 2009. 3.
- 22) 石橋 宰<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学)): マイクロRNAとその関連蛋白質分子の動態に関するバイオイメージング解析の試み (P3-103 / 3月30日). 第114回日本解剖学会総会・全国学術集会 (岡山), 2009. 3.

## 2. 解剖学講座（生体構造学）

### 研究概要

1) 摂食制御神経ネットワークの構築とステロイドホルモンの影響について：視床下部領域には摂食制御に関わる神経細胞が多数存在し、それぞれの神経細胞間で複雑なコミュニケーションを構成するかについて、神経細胞ネットワークを3次元的に解析し、制御機構に関わる神経細胞の形態変化、機能発現について解析しつつある。特に、これらの神経ネットワークに副腎皮質ホルモンや性ホルモンがどのように関わるかについてこれらの受容体発現細胞との関連より研究展開している。

2) 摂食制御神経ネットワークとストレス応答系とのクロストークについて：摂食制御に関わる視床下部神経系の一部は室傍核のCRH（corticotropin-releasing hormone）と直接コンタクトすることが解明されてきた。摂食がストレス応答系にどのように関わるかについて、神経形態学的アプローチによって解明を目指している。さらにこの複雑なクロストークが視床下部にフィードバックされ、神経内分泌学的調節機構に反映して、ホルモンバランス調節にどのような影響を及ぼすかについて研究展開している。

3) 思春期発現とエネルギー代謝調節の連動に関する神経学的、神経内分泌学的解析：思春期発現には視床下部領域のGnRH（gonadotropin-releasing hormone；性腺刺激ホルモン放出ホルモン）ニューロンの機能発現が重要な因子となるが、GnRHニューロンの機能発現には様々な因子が関わり、特に近年、エネルギー代謝調節機構との関連が注目されている。また、新規生理活性物質Kisspeptinの役割についても注目されており、これらの思春期発現を誘導する因子と、神経ネットワーク構築の変動について、分子細胞生物学的に検索を進めている。

4) 水分子チャネルAquaporinに関する細胞生物学的研究：水分子チャネルであるAquaporin（AQP）の組織、細胞内動態に関して、様々な組織、細胞における役割を解析しつつあり、最近では神経系におけるAQP-4の発現とその生理学的な役割について研究を進めている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Ishikawa Y<sup>1)</sup>, Yasuda T<sup>1)</sup>, Kage T<sup>1)</sup>, Takashima S<sup>1)</sup>, Yoshimoto M, Yamamoto N, Maruyama K<sup>1)</sup>, Takeda, H<sup>1)</sup>, Ito H (1) Research Center for Radiation Protection, National Institute of Radiological Sciences) : Early development of cerebellum in teleost fish : A study based on gene expression pattern and histology in medaka embryo. *Zoological Science* 2008 ; 25 : 407-418.
- 2) Nagano M<sup>1)</sup>, Ozawa H, Suzuki H<sup>1)</sup> (1) Department of Pharmacology) : Prenatal dexamethasone exposure affects anxiety-like behaviour and neuroendocrine systems in an age-dependent manner. *Neuroscience Research* 2008 ; 60 (4) : 355-460.
- 3) Aoki S<sup>1)</sup>, Tanuma K, Iwakiri I<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Ozawa H, Hyakusoku H<sup>1)</sup> (1) Departments of Plastic and Reconstructive Surgery) : Clinical and vascular anatomical study of distally based sural flap. *Annals of Plastic Surgery* 2008 ; 61 (1) : 73-78.
- 4) Yasuda T<sup>1)</sup>, Yoshimoto M, Maeda K<sup>1)</sup>, Matsumoto A<sup>1)</sup>, Maruyama K<sup>1)</sup>, Ishikawa Y<sup>1)</sup> (1) Research Center for Radiation Protection, National Institute of Radiological Sciences) : Rapid and simple method for quantitative evaluation of neurocytotoxic effects of radiation on developing medaka brain. *Journal of Radiation Research* 2008 ; 49 (5) : 533-540.
- 5) Yoshii T<sup>1, 2)</sup>, Sakamoto H<sup>2)</sup>, Kawasaki M<sup>3)</sup>, Ozawa H, Ueta Y<sup>3)</sup>, Onaka T<sup>4)</sup>, Fukui K<sup>1)</sup>, Kawata M<sup>2)</sup> (1)

Department of Psychiatry, Kyoto Prefectural University of Medicine, Graduate School of Medical Science, <sup>2)</sup> Department of Anatomy and Neurobiology, Kyoto Prefectural University of Medicine, Graduate School of Medical Science, <sup>3)</sup> Department of Physiology, School of Medicine, University of Occupational and Environmental Health, <sup>4)</sup> Department of Physiology, Jichii Medical School) : The single-prolonged stress paradigm alters both the morphology and stress response of magnocellular vasopressin neurons. *Neuroscience* 2008 ; 156 (3) : 466-474.

- 6) Iida Y<sup>1)</sup>, Matsuzaki T, Morishima T<sup>1)</sup>, Sasano H<sup>1)</sup>, Asai K<sup>2)</sup>, Sobue K<sup>1)</sup>, Takata K<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Anesthesiology and Medical Crisis Management, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, <sup>2)</sup> Department of Molecular Neurobiology, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, <sup>3)</sup> Department of Anatomy and Cell Biology, Gunma University Graduate School of Medicine) : Localization of reversion-induced LIM protein (RIL) in the rat central nervous system. *Acta Histochemica et Cytochemica* 2009 ; 42 (1) : 9-14.

## 著 書

- 1) 青山裕彦<sup>1)</sup>, 小澤一史, 佐々木克典<sup>2)</sup>, 年森清隆<sup>3)</sup>, 伊藤千鶴<sup>3)</sup>, 妹尾春樹<sup>4)</sup>, 三浦真弘<sup>5)</sup>, 小泉政啓<sup>6)</sup>, 荒川高光<sup>7)</sup>, 永島雅文<sup>8)</sup>, 篠原治道<sup>9)</sup> (<sup>1)</sup> 広島大学大学院 医歯薬学総合研究科, <sup>2)</sup> 信州大学 医学部, <sup>3)</sup> 千葉大学大学院 医学研究院, <sup>4)</sup> 秋田大学 理事・副学長, <sup>5)</sup> 大分大学 医学部, <sup>6)</sup> 熊本大学大学院 医学薬学研究部, <sup>7)</sup> 神戸大学 医学部保健学科, <sup>8)</sup> 埼玉医科大学 医学部, <sup>9)</sup> 金沢医科大学 医学部) : [翻訳] 胸郭. 臨床のための解剖学 (監訳: 佐藤達夫, 坂井建雄), 2008 ; pp77-179, メディカル・サイエンス・インターナショナル社, 東京.
- 2) 高田邦昭<sup>1)</sup>, 松崎利行 (<sup>1)</sup> 群馬大学大学院 医学系研究科 生体構造学) : [分担] 免疫組織化学の原理と応用. 組織細胞化学2008 (日本組織細胞化学会編), 2008 ; pp1-11, 学際企画, 東京.

## 学会発表

### (1) 教育講演 :

- 1) 小澤一史 : 超高压電子顕微鏡の生物試料観察への基礎と応用. 日本顕微鏡学会学術講演会 (第64回), 2008. 5.

### (2) シンポジウム :

- 1) 小澤一史, 梶村直子<sup>1)</sup>, 戸張靖子, 松本恵介, 澤井信彦 (<sup>1)</sup> 大阪大学超高压電子顕微鏡センター) : 超高压電子顕微鏡を用いた神経細胞および神経膠細胞のトモグラフィ観察 (超高压電子顕微鏡: 超高压の過去, 現在, 未来). 日本顕微鏡学会学術講演会 (第64回), 2008. 5.
- 2) 小澤一史, 梶村直子<sup>1)</sup>, 戸張靖子, 松本恵介 (<sup>1)</sup> 大阪大学超高压電子顕微鏡センター) : 超高压電子顕微鏡トモグラフィによる神経細胞, 神経膠細胞の3次元微細構造観察 (神経系の分子形態学: 基礎と臨床). 日本臨床分子形態学会 (第40回), 2008. 10.

### (3) 一般講演 :

- 1) Matsumoto R, Ito H<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>, Takano H<sup>1)</sup>, Suhara T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Molecular Neuroimaging Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences) : Inverse Correlation between Body Mass Index and Serotonin Transporter Binding in Human Brain : A [11C]DASB PET Study. International Symposium on Functional Neuroreceptor Mapping of Living Brain (Seventh) (Pittsburgh, USA), 2008. 7.
- 2) Tobar Y, Iijima N, Matsumoto K, Okanoya K<sup>1)</sup>, Ozawa H (<sup>1)</sup> 独立行政法人 理化学研究所脳科学総合研究センター 生物言語研究チーム) : Distribution of kisspeptin-like immunoreactivity in the brain of the bird, *Taeniopygia guttata*. World conference on kisspeptin signaling in the brain (1st) (Cordoba, Spain), 2008. 10.

- 3) Iijima N, Tobari Y, Matsumoto K, Ozawa H : Reconsideration about immunohistochemistry against kisspeptin in the rat brain : what are the cross-reacted neurons with anti-kisspeptin antibodies. World Conference on Kisspeptin Signaling in the Brain (1st) (Cordoba, Spain), 2008. 10.
- 4) Ishikawa Y<sup>1)</sup>, Yasuda T<sup>1)</sup>, Yoshimoto M, Yamamoto N<sup>2)</sup>, Maruyama K<sup>1)</sup>, Ito H ( <sup>1)</sup> Research Center for Radiation Protection, National Institute of Radiological Sciences, <sup>2)</sup> Laboratory of Fish Biology, Graduate School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University) : Early development of cerebellum in teleost fish : A study based on gene expression pattern and histology in medaka embryo. Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (31th), 2008. 7.
- 5) 松本良平, 伊藤 浩<sup>1)</sup>, 高橋英彦<sup>1)</sup>, 高野晴成<sup>1)</sup>, 小澤一史, 須原哲也<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 放射線医学総合研究所 分子イメージング研究センター 分子神経イメージング研究グループ) : ヒト脳内セロトニントランスポーターとBMIの関連 : [11C]DASBおよびPETによる測定. 日本核医学会学術総会 (第48回), 2008. 10.
- 6) 松本良平, 伊藤 浩<sup>1)</sup>, 高橋英彦<sup>1)</sup>, 須原哲也<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 放射線医学総合研究所 分子イメージングセンター 分子神経イメージング研究グループ) : OCDにおける脳内セロトニントランスポーター : [11C]DASBおよびPETによる測定. OCD研究会 (第10回), 2008. 11.
- 7) 飯島典生, 戸張靖子, 松本恵介, 小澤一史 : Kisspeptin 神経系に関する免疫組織化学による検討とGnRHニューロンとの相関解析. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第114回), 2009. 3.
- 8) 小澤一史, 梶村直子<sup>1)</sup>, 戸張靖子, 松本恵介 ( <sup>1)</sup> 大阪大学超高压電子顕微鏡センター) : 超高压電子顕微鏡を用いた神経細胞, 神経膠細胞の3次元構築. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第114回), 2009. 3.
- 9) 大江裕美子<sup>1)</sup>, 飯島典生, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 小澤一史 ( <sup>1)</sup> 疼痛制御麻酔科学分野) : 吸入麻酔薬セボフルランは時計遺伝子 *mPer2* の発現を抑制する. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第114回), 2009. 3.
- 10) 井村幸介<sup>1)</sup>, 山本直之<sup>2)</sup>, 吉本正美, 佐藤 巖<sup>1)</sup>, 伊藤博信 ( <sup>1)</sup> 日本歯科大学 生命歯学部 解剖学第一講座, <sup>2)</sup> 名古屋大学大学院 生命農学研究科 水圏動物研究分野) : 終脳の間接入力を受ける小脳内 compartment の線維連絡. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第114回), 2009. 3.
- 11) 松崎利行, 澤井信彦, 高田邦昭<sup>1)</sup>, 小澤一史 ( <sup>1)</sup> 群馬大学 大学院医学系研究科 生体構造学) : ラット中枢神経系における水チャネルAQP4の分布局在の検討. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第114回), 2009. 3.
- 12) 松崎利行, 高田邦昭<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 群馬大学大学院 医学系研究科 生体構造学) : マウス耳下腺腺房細胞の果粒放出に伴う頂部細胞膜タンパク質AQP5の分布局在の変化. 日本顕微鏡学会関東支部講演会 (第33回), 2009. 3.
- 13) 松崎利行, 澤井信彦, 高田邦昭<sup>1)</sup>, 小澤一史 ( <sup>1)</sup> 群馬大学大学院 医学系研究科 生体構造学) : ラット脳における水チャネルAQP4の分布局在. 日本顕微鏡学会関東支部講演会 (第33回), 2009. 3.



### 3. 生理学講座（システム生理学）

#### 研究概要

平成19年度末の第85回日本生理学会大会に引き続き、本年も多くの行事があった。9月には日米科学技術協力日米神経内分泌シンポジウム（岐阜）と特定領域性分化機構国際シンポジウム（福岡）、10月には学振・中国国家自然科学基金の交流事業「都市化に代表される社会の変容が脳の健全な成育におよぼす影響についての二国間研究」（筑波）を主催した。研究面では特定領域研究「性分化機構」が最終年度を迎え、脳の性分化に関わる遺伝子カスケードの同定が進んだ。GnRHニューロンの電気生理学的解析では、GABA受容体活性化が興奮を起こすことを発見し、計7編の英文原著を発表し、年度末の時点で受理され電子刊行されているもの2編を加え、計9編を公表した。GnRHニューロンでは細胞内塩素イオン濃度が高いためGABAが興奮性に働くことを電気生理学・カルシウムイメージング・分泌されるGnRHの定量により証明できたことは今年度の大きな成果である。文科省・学振の科学研究費補助金は合計10件を申請し、継続を含め5課題が採択、計3170万円の助成を得た（他に間接経費を213万円）。私立大学戦略的研究基盤整備事業が充足することとなり、特定領域研究の終了後の研究資金について愁眉を開いた。毎年力を入れて行っている生理学教育では、昨今の制度の変化や学生の意識の変化に対応し、系統講義には病態の強調や実習に際しての安全意識の喚起など工夫を加えた。海外との交流中国からの院生が学位を取得し、新たにネパールから2人目の留学生を迎えた。平成18年度から編集委員長を務めている日本生理学会英文誌 *Journal of Physiological Sciences* では、日常の編集業務に加え電子投稿システムの変更などに忙殺されたが、JSTの援助、科研刊行助成を得て20年1月号から無事に出版元を変更することができた。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Xu Q, Hamada T, Kiyama R<sup>1)</sup>, Sakuma Y, Kiyama-Wada Y (1) Signaling Molecules Research Laboratory, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology) : Site-specific regulation of gene expression by estrogen in the hypothalamus of adult female rats. *Neuroscience Letters* 2008 ; 436 (1) : 35-39.
- 2) Yin C, Ishii H, Tanaka N, Sakuma Y, Kato M : Activation of A-type  $\gamma$ -amino butyric acid receptors (GABA<sub>A</sub>Rs) excites gonadotropin-releasing hormone (GnRH) neurons isolated from adult rats. *Journal of Neuroendocrinology* 2008 ; 20 (5) : 566-575.
- 3) Sato S<sup>1,2)</sup>, Yin C<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup>, Sakuma Y<sup>1)</sup>, Kato M<sup>1)</sup> (1) Department of Physiology, Nippon Medical School, 2) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Sexually dimorphic modulation of GABA<sub>A</sub> receptor currents by melatonin in rat gonadotropin-releasing hormone neurons. *Journal of Physiological Sciences* 2008 ; 58 (5) : 317-322.
- 4) Ishii H, Tanaka N, Kobayashi M, Kato M, Sakuma Y : Gene structures, biochemical characterization and distribution of rat melatonin receptors. *Journal of Physiological Sciences* 2009 ; 59 (1) : 37-47.

##### (2) 総説：

- 1) Sakuma Y : Neural substrates for sexual preference and motivation in the female and male rat. *Annals of New York Academy of Sciences* 2008 ; 1129 : 55-60.
- 2) Sakuma Y : Gonadal steroid action and brain sex differentiation in the rat. *Journal of Neuroendocrinology* 2009 ; 21 (4) : 410-414.
- 3) Kato M, Tanaka N, Isii H, Yin C, Sakuma Y : Ca<sup>2+</sup> Channels and Ca<sup>2+</sup>-Activated K<sup>+</sup> Channels in Adult

Rat Gonadotrophin-Releasing Hormone Neurons. *Journal of Neuroendocrinology* 2009 ; 21 (4) : 312-315.

(3) Editorial :

- 1) Sakuma Y : A new beginning for The Journal of Physiological Sciences : A message from the editor-in-chief. *Journal of Physiological Sciences* 2009 ; 59 (1) : 1.

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) Sakuma Y : Estrogens and the brain circuitry for sexual behavior in the female rat. Chinese Society of Andrology (Shanghai, China), 2008. 4.
- 2) Sakuma Y : Estrogens and the brain circuitry for female rat sexual behavior. Invited Lecture at Xi' an Jiaotong University (Xi' an, Shaanxi, China), 2008. 8.
- 3) Kato M : Ionic channels in rat GnRH-1 neurons that define the discharge pattern of action potentials for the regulation of reproductive neuroendocrinology. Japan-US Seminar on Neuroendocrinology 2008 (Gifu), 2008. 9.
- 4) Kondo Y : Steroidal regulation of sexual orientation in the rat. Japan-US Seminar on Neuroendocrinology 2008 (Gifu), 2008. 9.
- 5) Sakuma Y : Neuronal migration or survival, but not neurogenesis, contributes to brain sex differentiation in the rat. International Symposium on Gonad and Brain Sex Differentiation (Fukuoka), 2008. 9.
- 6) 佐久間康夫 : 性ステロイドによる脳の性分化の分子メカニズム. 日本解剖学会 (第114回総会・全国学術集会) (岡山市), 2009. 3.

(2) シンポジウム :

- 1) Sakuma Y : Gonadal steroids and brain sex differentiation. Japan-US Seminar on Neuroendocrinology 2008 (Gifu), 2008. 9.
- 2) Kondo Y : Factors in recipient for chemosensory communication of rodents. 日本学術振興会二国間交流事業 中国とのセミナー学術集会「都市化に代表される社会的変容が脳の健全な育成におよぼす影響についての二国間研究」(つくば市), 2008. 10.
- 3) 近藤保彦 : こころに作用するホルモン. 日本心理学会第72回大会, 2008. 9.

(3) 一般講演 :

- 1) Kondo Y, Saeki T<sup>1)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Tanaka M<sup>1)</sup>, Nishimori K<sup>2)</sup>, Saito T<sup>3)</sup>, Sakuma Y ( <sup>1)</sup> Department of Animal Sciences, Nippon Veterinary and Life Science University, <sup>2)</sup> Department of Veterinary Science, Nippon Veterinary and Life Science University, <sup>3)</sup> Department of Molecular Cell Biology, Tohoku University) : Oxytocin is required for developing ultrasonic vocalization in mouse mating. Society for Behavioral Neuroendocrinology 2008 (第12回) (Groningen, The Netherlands), 2008. 7.
- 2) Orikasa C, Kondo Y, Urakawa S, Usui S, Sakuma Y : Generation of the somatostatin neurons in the sexually dimorphic nucleus of the rat preoptic area. Society for Behavioral Neuroendocrinology 2008 (第12回) (Groningen, The Netherlands), 2008. 7.
- 3) 濱田知宏, 張 春曉<sup>1)</sup>, 佐久間康夫 ( <sup>1)</sup> 吉林大・医・生理) : 視索前野性の二型核ニューロン投射の多様性 # The efferent connections of the sexually dimorphic nucleus in the preoptic area. 第31回日本神経科学学会, 2008. 7.
- 4) 田中伸幸, 石井寛高, 尹 成珠, 加藤昌克, 佐久間康夫 : ラット GnRH ニューロンに発現する電位依存性カルシウムチャネル mRNA Expression of voltage-gated Ca<sup>2+</sup> channel mRNAs in GnRH neurons of male and female adult rats. 第31回日本神経科学学会, 2008. 7.

- 5) 田中伸幸, 石井寛高, 尹 成珠, 加藤昌克, 佐久間康夫: ラット GnRH ニューロンにおける電位依存性カルシウムチャンネルの発現の発達段階による差位. 第35回日本神経内分泌学会第23回日本下垂体研究会合同学術集会, 2008. 8.
  - 6) 石井寛高, 尹 成珠, 加藤昌克, 佐久間康夫: GnRH アンタゴニストの cetrorelix は, GT1-7細胞のメラトニン受容体 1a の発現を誘導する. 第35回日本神経内分泌学会第23回日本下垂体研究会合同学術集会, 2008. 8.
  - 7) 小林桃子, 石井寛高, 田中伸幸, 加藤昌克, 佐久間康夫: ラットメラトニン受容体の生化学的解析. 第35回日本神経内分泌学会第23回日本下垂体研究会合同学術集会, 2008. 8.
  - 8) 濱田知宏, 佐久間康夫: ラット視索前野性の二型核の可視化とその性差形成過程の検討. 第146回日本獣医学会学術集会, 2008. 9.
  - 9) 近藤保彦, 佐伯知香<sup>1)</sup>, 高橋弥生<sup>1)</sup>, 田中 実<sup>1)</sup>, 西森克彦<sup>2)</sup>, 斉藤 徹<sup>1)</sup>, 佐久間康夫 (<sup>1)</sup> 日本獣医生命科学大学, <sup>2)</sup> 東北大学): 雄マウスの交尾時超音波発声の発達におけるオキシトシンの役割. 日本動物心理学会第68回大会, 2008. 9.
- (4) ポスター:
- 1) Dhungel S, Kondo Y, Sakuma Y: Conspecific olfactory preferences of male rats carrying lesions of the medial amygdala or the preoptic area. Japan-US Seminar on Neuroendocrinology 2008 (Gifu), 2008. 9.
  - 2) Yin C, Tanaka N, Ishii H, Kato M, Sakuma Y:  $\gamma$ -Aminobutyric acid depolarizes gonadotropin-releasing hormone (GnRH) neurons in the pre-optic area of adult rats. 日本学術振興会二国間交流事業中国とのセミナー学術集会「都市化に代表される社会的変容が脳の健全な育成におよぼす影響についての二国間研究」(つくば市), 2008. 10.
  - 3) Dhungel S, Urakawa S, Kondo Y, Sakuma Y: Functional differences of medial amygdala and medial preoptic area in the regulation of conspecific odor preferences. 日本学術振興会二国間交流事業中国とのセミナー学術集会「都市化に代表される社会的変容が脳の健全な育成におよぼす影響についての二国間研究」(つくば市), 2008. 10.
  - 4) Xu Q, Kiyama R<sup>1)</sup>, Sakuma Y, Kiyama WY (<sup>1)</sup> NRI, AIST, Ibaraki, Japan): Roles of estrogen-responsive genes in the preoptic area of the female rat during the critical periods for sexual dimorphism of the brain. 第31回日本分子生物学会年会第81回日本生化学会大会合同大会, 2008. 12.



## 4. 生理学講座（生体統御学）

### 研究概要

生理学講座（生体統御学）では、摂食、エネルギー代謝調節機構、ストレス反応機構、てんかん発症機構、神経情報伝達機構および神経変性機序の解明に向けて研究を進めている。今年度は、各研究グループが以下のような研究成果を得て、それらの一部は論文に発表され、さらに一部は投稿中である。

1. 摂食、エネルギー代謝調節機構の研究では、グレリンによるエネルギー代謝調節機構についての解析を継続し、高脂肪摂取ラットおよび加齢ラットでは外因性グレリンによる褐色脂肪組織の機能抑制作用が減弱していることを明らかにした。
2. ストレス反応機構の研究では、ストレスによるゴナドトロピンの分泌低下に下垂体のウロコルチン2が傍分泌的に関与している可能性を明らかにした。また、内側前頭前野のCRFが不安行動の調節に関与している可能性を示した。
3. てんかん発症機構の研究では、新規抗てんかん薬として期待されるレベチラセタムがてんかん焦点形成の一因と考えられる海馬顆粒細胞の分裂促進と遊走異常を有意に減少させることを明らかにした。
4. 神経情報伝達機構の研究では、外液二価イオン除去時に脊髄で見られる、多数の神経細胞の同期した、周期性を持った興奮性発現に内在性アデノシンが関与している可能性を見出した。
5. 神経変性機序の研究では、ドーパミン退行性変性において、糖質コルチコイドがミクログリア活性抑制を介し、神経保護的な役割を果たすことを明らかにした。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Takenouchi T<sup>1</sup>), Iwamaru Y<sup>2</sup>), Sugama S, Sato M<sup>1</sup>), Hashimoto M<sup>3</sup>), Kitani H<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) Transgenic Animal Research Center, National Institute of Agrobiological Sciences, <sup>2</sup>) Research Center for Prion Disease, National Institute of Agrobiological Sciences, <sup>3</sup>) Laboratory for Chemistry and Metabolism, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience) : Lysophospholipids and ATP mutually suppress maturation and release of IL-1b in mouse microglial cells using a Rho-dependent pathway. *Journal of Immunology* 2008 ; 180 (12) : 7827-7839.
- 2) Sakai N<sup>1,2</sup>), Kim K<sup>1,2</sup>), Sanno N<sup>2</sup>), Yoshida D<sup>2</sup>), Teramoto A<sup>2</sup>), Shibasaki T<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) Department of Physiology, <sup>2</sup>) Department of Neurosurgery) : Elevation of growth hormone-releasing hormone receptor messenger ribonucleic acid expression in growth hormone-secreting pituitary adenoma with Gsalpha protein mutation. *Neurol Med-Chir* 2008 ; 48 (11) : 481-487.
- 3) Iwasaki-Sekino A, Mano-Otagiri A, Ohata H, Yamauchi N, Shibasaki T : Gender differences in corticotropin and corticosterone secretion and corticotropin-releasing factor mRNA expression in the paraventricular nucleus of the hypothalamus and the central nucleus of the amygdala in response to footshock stress or psychological stress in rats. *Psychoneuroendocrinology* 2009 ; 34 (2) : 226-237.
- 4) Takenouchi T<sup>1</sup>), Nakai M<sup>2</sup>), Iwamaru Y<sup>1</sup>), Sugama S, Tsukimoto M<sup>2</sup>), Fujita M<sup>3</sup>), Wei J<sup>3</sup>), Sekigawa A<sup>3</sup>), Sato M<sup>1</sup>), Kojima S<sup>2</sup>), Kitani H<sup>1</sup>), Hashimoto M (<sup>1</sup>) Transgenic Animal Research Center, National Institute of Agrobiological Sciences, <sup>2</sup>) Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokyo University, <sup>3</sup>) Laboratory for Chemistry and Metabolism, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience) : The activation of P2X7 receptor impairs lysosomal functions and stimulates the release of autophagolysosomes in microglial cells. *Journal*

of Immunology 2009 ; 182 (4) : 2051-2062.

- 5) Sugama S, Takenouchi T<sup>1)</sup>, Fujita M<sup>2)</sup>, Conti B<sup>3)</sup>, Hashimoto M<sup>2)</sup> (1) Transgenic Animal Research Center, National Institute of Agrobiological Sciences, 2) Laboratory for Chemistry and Metabolism, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience, 3) Harold L. Dorris Neurological Research Center, Molecular and Integrative Neurosciences Department, The Scripps Research Institute) : Differential microglial activation between acute stress and lipopolysaccharide treatment. Journal of Neuroimmunology 2009 ; 207 (1-2) : 24-31.
- 6) Sugama S, Takenouchi T<sup>1)</sup>, Kitani H<sup>1)</sup>, Fujita M<sup>2)</sup>, Hashimoto M<sup>2)</sup> (1) Transgenic Animal Research Center, National Institute of Agrobiological Sciences, 2) Laboratory for Chemistry and Metabolism, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience) : Microglial activation is inhibited by corticosterone in dopaminergic neurodegeneration. Journal of Neuroimmunology 2009 ; 208 (1-2) : 104-114.
- 7) 根本崇宏, 山内直子, 芝崎 保 : 下垂体ウロコルチン2によるゴナドトロピンの遺伝子発現と分泌の抑制制御. ACTH RELATED PEPTIDES 2009 ; 19 : 44-46.

(2) 総説 :

- 1) Sugama S, Conti B<sup>1)</sup> (1) Harold L. Dorris Neurological Research Center, Molecular and Integrative Neurosciences Department, The Scripps Research Institute) : Interleukin-18 and stress. Brain Research Reviews 2008 ; 58 (1) : 85-95.
- 2) 芝崎 保 : 神経性食欲不振症の神経内分泌学的病態. 日医大医学会誌 2008 ; 4 (3) : 148-152.
- 3) 洲鎌秀永 : ストレスと脳内サイトカイン. Brain Medical 2008 ; 20 (2) : 47-51.
- 4) 丸 栄一, 菅谷佑樹<sup>1)</sup> (1) 東京大学医学部精神医学教室) : GABA シナプス伝達と抗てんかん薬. Brain Medical 2009 ; 21 (1) : 53-59.

(3) 研究報告書 :

- 1) 芝崎 保, 眞野あすか, 岩寄あずさ, 大島久幸, 根本崇宏 : ニコチンのエネルギー貯蔵抑制作用機序に関する検討. 平成19年度喫煙科学研究財団研究年報 2008 ; 729-734.
- 2) 眞野あすか, 根本崇宏, 岩寄あずさ : エネルギー代謝調節機構における成長ホルモンとグレリンの役割の解明. 財団法人成長科学協会 研究年報 2008 ; (31) : 183-188.
- 3) 芝崎 保, 大島久幸 : 中枢性摂食異常症の病態と内側前頭前野のcorticotropin-releasing factorとの関連に関する検討. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 中枢性摂食異常症に関する調査研究 平成20年度総括分担研究報告書 2009 ; 11-13.

## 著 書

- 1) 大島久幸, 芝崎 保 : [分担] 間脳・下垂体と自律神経機能. 脳神経外科エキスパート 間脳下垂体 (佐伯直勝), 2008 ; pp37-47, 中外医学社.

## 学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 丸 栄一 : てんかんの神経生理学Update : 酸感受性イオンチャネル (ASIC) は発作停止機構として働く. 日本てんかん学会 (第42回), 2008. 10.

(2) ワークショップ :

- 1) 大島久幸, 芝崎 保 : 神経性食欲不振症の病態におけるcorticotropin-releasing factorの役割に関する考察. 日本摂食障害学会 (第4回), 2008. 9.

(3) 一般講演 :

- 1) Nemoto T, Yamauchi N, Shibasaki T : Pituitary urocortin 2 is involved in the regulation of expression and

- secretion of gonadotropin. The Endocrine Society' s Annual Meeting (90th) (San Francisco, California, USA), 2008. 6.
- 2) 根本崇宏, 山内直子, 芝崎 保:下垂体ウロコルチン2はゴナドトロピンの遺伝子発現と分泌を抑制制御している. 日本内分泌学会学術総会 (第81回), 2008. 5.
  - 3) 岩崎あずさ, 眞野あすか, 芝崎 保:ニコチンの急性および慢性投与によるエネルギー代謝への影響. 日本内分泌学会学術総会 (第81回), 2008. 5.
  - 4) 眞野あすか, 岩崎あずさ, 芝崎 保:グレリンの褐色脂肪組織におけるノルアドレナリン分泌抑制作用への加齢の影響. 日本内分泌学会学術総会 (第81回), 2008. 5.
  - 5) 大和田里奈<sup>1)</sup>, 赤水尚史<sup>2)</sup>, 堀田真理<sup>3)</sup>, 高野加寿恵<sup>1)</sup>, 芝崎 保<sup>4)</sup>, 寒川賢治 (<sup>1)</sup> 東京女子医科大学, <sup>2)</sup> 京都大学探索医療センター, <sup>3)</sup> 政策研究大学院大学, <sup>4)</sup> 国立循環器病センター):グレリンの神経性食欲不振症患者の栄養マーカーの改善に及ぼす効果. 日本神経内分泌学会 (第35回), 2008. 8.
  - 6) 大畠久幸, 芝崎 保:分界条床核および外側中隔のCRF受容体のストレスによる摂食抑制における役割に関する検討. 日本神経内分泌学会 (第35回), 2008. 8.
  - 7) 眞野あすか, 岩崎あずさ, 芝崎 保:高脂肪摂取下でのエネルギー代謝調節機構におけるグレリンの役割の解明. 日本神経内分泌学会 (第35回), 2008. 8.
  - 8) 菅谷佑樹<sup>1)</sup>, 加藤進昌<sup>2)</sup>, 芝崎 保, 丸 栄一 (<sup>1)</sup> 東京大学医学部精神医学教室, <sup>2)</sup> 昭和大学医学部精神医学教室):海馬歯状回のキンドリング誘発性シナプス伝達増強に対するLevetiracetamの効果. 日本てんかん学会 (42回), 2008. 10.
  - 9) 根本崇宏, 大畠久幸, 芝崎 保:ストレスによるゴナドトロピン分泌および発現低下への下垂体中葉ウロコルチン2の関与の解明. 間脳下垂体副腎系研究会 (第20回), 2009. 3.

## 5. 生化学・分子生物学講座（構造生物学・代謝学）

### 研究概要

本教室では、蛋白質の構造と機能、蛋白質相互作用、翻訳後修飾、先天性代謝異常の原因などの課題を中心として分子科学的研究に取り組んできている。それらの中心は金属やフラビンなど補欠分子族をもつ蛋白質であり、分子生物学的手法、分光学やX線結晶解析を含む物理化学的手法、蛋白質化学、反応速度論など様々な手法を用いて総合的に取り組んでいる。

1) 過酸化水素、スーパーオキシドを生成するキサンチン酸化酵素／脱水素酵素についてはX線結晶解析による3次元構造の解析結果を基に、発現系を用い種々の変異酵素を作成し、酵素の構造と反応機構、脱水素酵素型から酸化酵素型への変換機構、スーパーオキシド生成機構、阻害剤の開発などの研究を行ってきた。さらに、スーパーオキシド超産生、不産生型の変異体を作成し、その酵素のノックインマウスの作成とその解析に引き続き取り組んでいる。さらにラクトパーオキシダーゼ欠損マウスを作成し、病理学（統御機構・腫瘍学）と共同で、解析を進めている。一方本酵素の阻害剤は痛風・高尿酸血症の治療薬として働くが、その阻害の種による作用差の機構をX線結晶解析結果に基づき基礎科学物理学教室菊地准教授等とともに分子動力学を含め解析している。またALSトランスジェニックモデルマウスを用いてキサンチン脱水素酵素各種阻害剤の治療効果を確認するため鳥取大学と共同で実験を進めている。

2) 細胞内酸化的ストレス抵抗性蛋白質と予想されるパーオキシレドキシシン（HBP23）に関して反応中間体のX線結晶構造を得るため各種変異体とともに他の蛋白質との複合体の結晶化を進めた。

3) 上記以外の蛋白質についてプロテオミクス法を用いて新しい蛋白質の網羅的検索を行っている。それらの中で重要な蛋白質の発現、精製、結晶化、構造解析を進めた。また、好熱菌由来の特異な鉄イオウ蛋白質の物理化学的性質の解析も進めている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Okamoto K, Eger TB, Nishino T, Pai FE, Nishino T<sup>(1)</sup> University of Toronto) : Mechanism of inhibition of xanthine oxidoreductase by allopurinol : crystal structure of reduced bovine milk xanthine oxidoreductase bound with oxipurinol. *Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids*. 2008 ; 27 (6) : 888-893.
- 2) Tsujii A, Nishino T : Mechanism of Transition from xanthine Dehydrogenase to Xanthine Oxidase : Effect of Guanidine-HCl or Urea on the Activity. *Nucleosides, Nucleotides & Nucleic Acids* 2008 ; 27 (6-7) : 881-887.
- 3) Kounosu A, Iwasaki T, Baba S<sup>1)</sup>, Hayashi-Iwasaki Y<sup>2)</sup>, Oshima T<sup>2)</sup>, Kumasaka T<sup>3)</sup> <sup>(1)</sup> SPring-8/JASRI, <sup>(2)</sup> Inst. Environ. Microbiol, Kyowa Kako Co. , <sup>(3)</sup> SPring-8/JASRI/RIKEN) : Crystallization and preliminary X-ray diffraction studies of the prototypal homologue of mitoNEET (*Tth*-NEET0026) from the extreme thermophile *Thermus thermophilus* HB8. *Acta Crystallogr. Sect. F Struct. Biol. Cryst. Commun.* 2008 ; 64 (12) : 1146-1148.

##### (2) 総説：

- 1) 岡本 研, 西野武士 : モリブデンによる水酸化反応中間体の構造と反応機構. *生化学* 2008 ; 80 (6) : 531-539.
- 2) Nishino T, Okamoto K, Eger TB<sup>1)</sup>, Pai FE<sup>1)</sup>, Nishino T <sup>(1)</sup> Department of Biochemistry, Medical Bio-

physics, and Molecular Genetics, University of Toronto) : Mammalian xanthine oxidoreductase : mechanism of transition from xanthine dehydrogenase to oxidase. the FEBS Journal 2008 ; 275 (13) : 3278-3289.

3) 岡本 研 : 尿酸生成抑制薬. 日本臨床 2008 ; 66 (4) : 748-753.

## 学会発表

[追加分]

追加分学会賞受賞講演 :

1) 岡本 研 : 結晶構造から見たキサンチン酸化還元酵素阻害剤の阻害機構の解明. 第41回痛風核酸代謝学会 (福井), 2008. 2.

(1) 招待講演 :

1) 西野武士 : New Application of Xanthine Oxidoreductase Inhibitors. 16th International Symposium on Flavins and Flavoproteins (Spain), 2008. 6.

(2) 教育講演 :

1) 西野武士 : キサンチンオキシダーゼによる活性酸素の生成機構. 第15回マクロライド新作用研究会, 2008. 7.

(3) シンポジウム :

1) 松村智裕 : 低尿酸血症の分子メカニズム (キサンチン尿症). 日本痛風・核酸代謝学会 (第42回), 2009. 2.

(4) 一般講演 :

1) 鴻巣麻子, 小澤由希子<sup>1)</sup>, 今井竹夫<sup>1)</sup>, 漆山秋雄<sup>2)</sup>, 大森大二郎<sup>3)</sup>, 岩崎俊雄<sup>1)</sup> 立教大・生命理学,<sup>2)</sup> 立教大・化学,<sup>3)</sup> 順天堂大・化学) : 大腸菌を宿主とする超好熱性古細菌の遺伝子クラスターの簡易発現系. 日本生化学会大会・日本分子生物学会年会合同大会 (第81回), 2008. 12.

2) 大森大二郎<sup>1)</sup>, 鴻巣麻子, 漆山秋雄<sup>2)</sup>, 林-岩崎容子<sup>3)</sup>, 大島泰郎<sup>3)</sup>, Samoilova IR<sup>4)</sup>, Dikanov AS<sup>4)</sup>, 岩崎俊雄<sup>1)</sup> 順天堂大・化学,<sup>2)</sup> 立教大・化学,<sup>3)</sup> 共和化工・環境微生物研,<sup>4)</sup> Dept. Vet. Clinic. Med., Univ. Illinois at Urbana-Champaign) : II型糖尿病標的タンパク質 mitoNEET と好熱菌ホモログの新規鉄硫黄クラスターの解析. 日本生化学会大会・日本分子生物学会年会合同大会 (第81回), 2008. 12.

3) 西野朋子, 岡本 研, 川口裕子, 辻井厚子, 松村智裕, 堀 弘幸<sup>1)</sup>, 西野武士<sup>1)</sup> 愛媛大学・理工学研究科・物質生命工学専攻・応用化学コース) : キサンチン脱水素酵素/酸化酵素の変換における二量体構造の非対称性. 第31回日本分子生物学会年会第81回日本生化学会大会合同大会 (神戸), 2008. 12.

4) 阿部靖子, 松村智裕, 岡本 研, 西野武士 : HBP23の構造, 機能およびその制御 (1). 日本分子生物学会年会 (第31回) 日本生化学会 (第81回) 合同大会, 2008. 12.

5) 松村智裕, 阿部靖子, 岡本 研, 西野武士 : HBP23の構造, 機能およびその制御 (2). 日本分子生物学会年会 (第31回) 日本生化学会 (第81回) 合同大会, 2008. 12.

6) 赤塚早紀, 草野輝男, 松村智裕, 岡本 研, 西野武士 : ヒト 3-phosphoglycerate kinase の結晶構造と欠損症患者変異酵素を用いたドメイン開閉機構の解析. 日本分子生物学会年会 (第31回) 日本生化学会 (第81回) 合同大会, 2008. 12.

7) 岡本 研, 松村智裕, 草野輝男, 松本浩二, 西野武士 : キサンチン酸化還元酵素の基質結合様式と反応機構. 日本分子生物学会年会 (第31回) 日本生化学会 (第81回) 合同大会, 2008. 12.

8) 川口裕子, 西野朋子, 松村智裕, 岡本 研, 西野武士 : ラットキサンチン酸化還元酵素におけるD/O変換時のFAD周囲の変化. 日本分子生物学会年会 (第31回) 日本生化学会 (第81回) 合同大会, 2008. 12.

## 6. 生化学・分子生物学講座（分子遺伝学・栄養学）

### 研究概要

分子遺伝学部門では遺伝子治療の基盤技術の開発を中心に、遺伝子解析、細胞治療、遺伝子診療も含めた、ゲノム医学の包括的トランスレーショナルリサーチを目指している。

ウイルスベクターの開発については、グロビン遺伝子由来のインスレーター配列を組み込むことにより、挿入変異の可能性を大幅に減少させた安全なレンチウイルスベクターの作製に成功した。又、アイオデキサソール遠心とゲルろ過カラムを組み合わせて、細胞傷害性の無いアデノ随伴ウイルスベクターの調整法を開発した。遺伝子治療の前臨床研究としては異染性白質ジストロフィー（MLD）と低フォスファターゼ症（HPP）の新生児治療で大きな進展があった。MLDモデルマウスの治療では、脳血液関門（BBB）の存在と、免疫反応による遺伝子発現の抑制が大きな障害になっていたが、新生児期にAAVベクターを全身投与することで非侵襲的に神経組織を治療することが可能であることを示した。又、骨親和性のアルカリフォスファターゼを新生児期に発現させることで、生後2週間しか生存できないHPPモデルマウスの寿命を100日以上延長することに成功した。

遺伝診療科、ハイテクリサーチ・ゲノム解析室と共同で、様々な遺伝性疾患の遺伝子解析を行っている。高感度融解温度曲線解析法を利用して短時間に遺伝子変異を同定する方法を開発し、ライソゾーム病や家族性大動脈瘤の遺伝子診断法を確立した。平成20年度に付属病院に新設されたゲノム先端医療部と連携してオーダーメイド医療を開始した。抗癌剤の副作用に関連したSNPを迅速解析し、個人に最適な治療薬の選択に利用している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Orimo H, Goseki-Sone M<sup>1)</sup>, Hosoi T<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup> Division of Nutrition, Department of Food and Nutrition, Japan Women's University, <sup>2)</sup> Department of Advanced Medicine, National Center for Geriatrics and Gerontology) : Functional assay of the mutant tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene using U<sub>2</sub>OS osteoblast-like cells. *Mol Genet Metab* 2008 ; 94 : 375-381.
- 2) Orimo H, Shimada T : The role of tissue-nonspecific alkaline phosphatase in the phosphate-induced activation of alkaline phosphatase and mineralization in SaOS-2 human osteoblast-like cells. *Mol Cell Biochem* 2008 ; 315 : 51-60.
- 3) Sogabe N<sup>1)</sup>, Oda K<sup>2)</sup>, Nakamura H<sup>3)</sup>, Orimo H, Watanabe H<sup>4)</sup>, Hosoi T<sup>5)</sup>, Goseki-Sone M<sup>1)</sup> <sup>1)</sup> Division of Nutrition, Department of Food and Nutrition, Japan Women's University, <sup>2)</sup> Division of Biochemistry, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, <sup>3)</sup> Department of Chemistry, Faculty of Science, Gakushuin University, <sup>4)</sup> Department of Hard Tissue Engineering (Periodontology), Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, <sup>5)</sup> Department of Advanced Medicine, National Center for Geriatrics and Gerontology) : Molecular effects of the tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene polymorphism (787T>C) associated with bone mineral density. *Biomed Res* 2008 ; 29 (4) : 213-219.
- 4) Kang H<sup>1,2)</sup>, Shyr C<sup>1,3)</sup>, Huang C<sup>1)</sup>, Tsai M<sup>1,4)</sup>, Orimo H, Lin P<sup>1)</sup>, Chang C<sup>5)</sup>, Huang K<sup>1,4)</sup> <sup>1)</sup> Center for Menopause and Reproductive Medicine Research, Chang Gung University and Chang Gung Memorial Hospital, Kaohsiung Medical Center, <sup>2)</sup> Graduate Institute of Clinical Medical Sciences, Chang Gung University and Chang Gung Memorial Hospital, Kaohsiung Medical Center, <sup>3)</sup> Department of Laboratory Medicine and Biotechnology, Tzu Chi University, <sup>4)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Chang Gung University and



Chang Gung Memorial Hospital, Kaohsiung Medical Center, <sup>5)</sup> George Whipple Lab for Cancer Research, Department of Pathology and Urology, University of Rochester Medical Center) : Altered TNSALP expression and phosphate regulation contribute to reduced mineralization in mice lacking androgen receptor. *Mol Cell Biol* 2008 ; 28 (24) : 7354-7367.

- 5) Ogawa K, Hirai Y, Ishizaki M<sup>2)</sup>, Takahashi H, Hanawa H, Fukunaga Y<sup>1)</sup>, Shimada T (<sup>1)</sup> Department Pediatrics, Nippon Medical School, , <sup>2)</sup> Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School) : Long-term inhibition of glycosphingolipid accumulation in Fabry model mice by a single systemic injection of AAV1 vector in the neonatal period. *Molecular Genetics and Metabolism* 2009 ; 96 (3) : 91-96.

(2) 総説 :

- 1) Watanabe A, Shimada T : Vascular type of Ehlers-Danlos syndrome. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (5) : 254-261.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) Hiki Y, Sasaki T, Nemoto M, Fujimoto K, Nakai N, Ohashi T, Hirai Y, Shimada T, Tajima N : In vivo Gene delivery by Pancreatic Direct Injection of rAAV8 vector is Efficient exclusively to the Injured Islets . American Diabetes Association' s 67th Scientific Sessions (シカゴ, 米国), 2007. 6.
- 2) 比企能人, 佐々木敬, 中井 望, 藤本 啓, 根本昌実, 大橋十也, 平井幸彦, 島田 隆, 田嶋尚子 : アデノ随伴ウイルスを用いた膵島細胞に対する新規遺伝子導入法の検討. 日本糖尿病学会 (第50回), 2007. 5.

(1) 教育講演 :

- 1) Miyake K : Adeno-associated viral (AAV) serotypes : in vivo expression and tropism in mice. Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy (14th), 2008. 6.

(2) 一般講演 :

- 1) Miyake K, Miyake N, Hirai Y, Shimada T : Direct comparison of adeno-associated virus serotypes for systemic delivery by long term monitoring of in vivo quantitative noninvasive imaging. Annual Meeting of the American Society of Gene Therapy (11th) (Boston), 2008. 5.
- 2) Miyake N, Miyake K, Atsumi M, Shimada T : Induction of immunotolerance and sustained expression of ASA by single intravenous injection of AAV vector in neonatal immunocompetent mice. Annual Meeting of the American Society of Gene Therapy (11th) (Boston), 2008. 5.
- 3) Wang Y, Chen X, Oue Y, Miyake N, Miyake K, Shimada T : Suppression of tumor growth by single injection of type 8 self-complementary AAV vectorexpressing endostatin in lymphoma model mice at low vector dose. Annual Meeting of the American Society of Gene Therapy (11th) (Boston), 2008. 5.
- 4) Wang Y, Chen X, Oue Y, Miyake N, Miyake K, Shimada T : Development of adeno-associated viral (AAV) vector mediated anti-angiogenic systemic cancer gene therapy. International Society for Cell and Gene Therapy of Cancer (Shijiazhuang (China)), 2008. 9.
- 5) Hiki Y, Sasaki T, Nemoto M, Hirai Y, Ohashi T, Tajima N : Reversal in beta cell mass and glucose tolerance of diabetic mice by reactivation of Cyclin-dependent kinases with in vivo gene transfer. 44th Annual Meeting of the European Association for the Study of Diabetes (ローマ, イタリア), 2008. 9.
- 6) Watanabe A, Yamamoto M, Banyar T, Oue Y, Kondo H, Orimo H, Shimada T : A mutation analysis for lysosomal diseases using a high resolution melting curve analysis (hrMCA). American College of Medical

- Genetics, Annual Clinical Genetics Meeting (16th) (Tampa, FL, USA), 2009. 3.
- 7) Miyake K, Wang Y, Chen X, Miyake N, Shimada T : Development of adeno-associated viral (AAV) vector mediated anti-angiogenic systemic cancer gene therapy. Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy (14th), 2008. 6.
  - 8) Minegishi Y, Miyake K, Gemma A, Shimada T : Inhibition of tumor growth of malignant pleural mesothelioma by single intramuscular injection of AAV type-8 vector expressing MDA-7/IL24. Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy (14th), 2008. 6.
  - 9) Miyake N, Miyake K, Shimada T : Induction of immunotolerance and sustained expression of ASA by single intravenous injection of AAV vector in neonatal MLD Mice. Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy (14th), 2008. 6.
  - 10) 比企能人, 佐々木敬, 根本昌実, 大橋十也, 平井幸彦, 田嶋尚子 : Cyclin 依存性キナーゼ (CDK4) 遺伝子の導入による膵β細胞の *in vivo* 再生促進と耐糖能の改善. 日本再生医療学会 (第8回), 2009. 3.
  - 11) Kamiya M<sup>1</sup>, Asai K<sup>2</sup>, Miyake K, Miyake N, Seino Y<sup>3</sup>, Shimada T, Atarashi H<sup>1</sup>, Mizuno K<sup>2</sup>) <sup>1</sup> Department of internal medicine, Nippon medical school, tamanagayama hospital, Tokyo, <sup>2</sup> 1st department of internal medicine, Nippon medical school, Tokyo, <sup>3</sup> Department of internal medicine, Nippon medical school, chibahokusou hospital, Chiba) : Efficient Correction of Cardiac Abnormalities in Fabry Mice by AAV Type 8 Mediated Systemic Gene Transfer. 日本循環器学会総会・学術集会 (第73回), 2009. 3.
  - 12) 山本基子, 渡邊 淳, 小坂 仁<sup>1</sup>, 山下純正<sup>1</sup>, 右田 真<sup>2</sup>, 島田 隆 <sup>1</sup> 神奈川県立こども医療センター神経内科, <sup>2</sup> 日本医科大学小児科) : 同一アレルに複数の遺伝子変異を有した異染性白質ジストロフィーの1男児例. 第31回日本小児遺伝学会学術集会 (東京), 2008. 4.
  - 13) 比企能人, 佐々木敬, 中井 望, 藤本 啓, 根本昌実, 大橋十也, 平井幸彦, 島田 隆, 衛藤義勝, 田嶋尚子 : 活性型CDK4遺伝子導入による膵β細胞の増殖促進. 日本糖尿病学会 (第51回), 2008. 5.
  - 14) 渡邊 淳, Banyar Naing Tang, 和田敬仁<sup>1</sup>, 古庄知己<sup>1</sup>, 福嶋義光<sup>1</sup>, 島田 隆 <sup>1</sup> 信州大学付属病院 遺伝子診療部) : 血管型 Ehlers-Danlos 症候群 (EDSIV) に対する遺伝子治療の可能性. 第15回日本遺伝子診療学会 (仙台), 2008. 8.
  - 15) 山本晴子, 折茂英生, 埜 秀樹, 松本多絵, 成澤園子<sup>1</sup>, Millan J<sup>1</sup>, 島田 隆 <sup>1</sup> Burnham Institute for Medical Research) : 低ホスファターゼ症のレンチウイルスベクターを用いた遺伝子治療. 日本人類遺伝学会 (第53回), 2008. 9.
  - 16) 三宅紀子, 三宅弘一, 島田 隆 : 異染性白質ジストロフィーの新生児遺伝子治療. 日本人類遺伝学会 (第53回), 2008. 9.
  - 17) 渡邊 淳<sup>1</sup>, 折茂英生<sup>1</sup>, 南 史朗<sup>1</sup>, 宮田広樹<sup>2</sup>, 宮下正夫<sup>3</sup>, 峯岸裕司<sup>4</sup>, 松本智司<sup>3</sup>, 米山剛一<sup>5</sup>, 猪口孝一<sup>6</sup>, 弦間昭彦<sup>4</sup>, 内田英二<sup>7</sup>, 島田 隆<sup>1</sup>) <sup>1</sup> 付属病院ゲノム先端医療部, <sup>2</sup> 付属病院薬剤部, <sup>3</sup> 付属病院消化器外科, <sup>4</sup> 付属病院呼吸器内科, <sup>5</sup> 付属病院女性診療科, <sup>6</sup> 付属病院血液内科, <sup>7</sup> 付属病院がん診療センター, <sup>8</sup> 老人病研究所) : 薬剤感受性遺伝子検査を医療現場に導入する際の課題 : オーダーメイド医療の実現に向けて. 第8回 臨床遺伝研究会 (東京), 2008. 9.
  - 18) 峯岸祐司, 三宅弘一, 弦間昭彦, 島田 隆 : mda-7/IL24発現AAV type8ベクターによる悪性胸膜中皮腫の治療研究. 日本癌学会学術総会 (第67回), 2008. 10.
  - 19) 山本基子, 渡邊 淳, Banyar T, 近藤仁美, 折茂英生, 島田 隆 : 高解像度融解曲線分析法 (HRM法) を利用したリソソーム病の遺伝子診断. 日本ライソソーム病研究会 (第13回), 2008. 11.
  - 20) 山本晴子, 折茂英生, 埜 秀樹, 松本多絵, Narisawa S<sup>1</sup>, Millan J<sup>1</sup>, 島田 隆 <sup>1</sup> Burnham Institute for Medical Research) : 低ホスファターゼ症のモデルマウスを用いた遺伝子治療. 日本生化学会大会 (第81回)・日本分子生物学会年会 (第31回) 合同大会, 2008. 12.



- 21) 折茂英生, 五関 (曾根) 正江<sup>1)</sup>, 細井孝之<sup>2)</sup>, 島田 隆 (1) 日本女子大学・栄養学研究室, 2) 国立長寿センター・先端医療部) : 骨芽細胞様細胞株 U<sub>2</sub>OS を用いた変異組織非特異型アルカリホスファターゼ遺伝子の機能解析. 日本生化学会大会 (第81回) ・日本分子生物学会年会 (第31回) 合同大会, 2008. 12.
- 22) 三宅紀子, 三宅弘一, 島田 隆 : 異染性白質ジストロフィーの新生児遺伝子治療. 日本生化学会大会 (第81回) ・日本分子生物学会年会 (第31回) 合同大会, 2008. 12.
- 23) 足立久美, 島田 隆 : ライソゾーム酵素受容体発現ウイルスベクターの作製. 第81回日本生化学会大会・第31回日本分子生物学会年会合同大会 (神戸), 2008. 12.

## 7. 薬理学講座

### 研究概要

当講座では、精神神経疾患病態の解明や新しい作用機序を有する薬物開発に繋がる基礎研究を目指している。20年度の研究成果は以下のとおりである。

#### 1. 動物を用いた研究

a) グリア細胞株由来神経栄養因子を局所で過剰発現させることにより、神経因性疼痛緩和作用に重要な作用部位を明らかにした。神経因性疼痛に伴ってTAC4遺伝子の発現が脊髄において上昇し、マイクログリアの活性化阻害によって抑制されることを見出した。b) 深部小脳核における抑制性シナプス伝達には発達依存性があることを見いだした。シナプス後電流応答は発達に伴って速くなり、この現象にはGABA<sub>A</sub>受容体サブユニット構成変化が関与していることを明らかにした。さらに幼若期のシナプスはセロトニンによるシナプス抑制作用を成熟期より受けやすいという結果を得た。この結果から小脳核抑制性シナプスは発達に伴った構造的・機能的な変化をシナプス前性・後性とともに引き起こしていることがわかった。c) 抗うつ・抗不安薬である選択的セロトニン再取り込み阻害薬のマウスへの慢性投与によって、海馬歯状回の神経細胞の成熟状態が変化することを見出した。d) 周産期のデキサメタゾン投与によって、発達期に神経内分泌学的異常が先行し、不安様行動は成長後出現することを見出した。この動物において、前頭前野でセロトニン受容体の遺伝子発現が低下していることが明らかになった。e) p21の細胞質局在化に関わるBrap2はユビキチン化される分子であることを観察した。神経系におけるBrap2の機能を解明するために遺伝子ターゲティングマウスを作製した。

#### 2. ヒトを対象にした研究

脳機能画像を用いて、健常者における聴覚性選択的注意課題の成績に関わる脳領域を同定した。同じ課題を用いて、統合失調症患者における認知機能障害に関わる脳領域について研究を行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Ikeda Y, Yahata N, Ito I<sup>1)</sup>, Nagano M, Toyota T<sup>2)</sup>, Yoshikawa T<sup>2)</sup>, Okubo Y<sup>3)</sup>, Suzuki H ( <sup>1)</sup> Asai Hospital, <sup>2)</sup> RIKEN Brain Science Institute, <sup>3)</sup> Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School) : Low serum levels of brain-derived neurotrophic factor and epidermal growth factor in patients with chronic schizophrenia. *Schizophrenia Research* 2008 ; 101 : 58-66.
- 2) Sakai A, Asada M, Seno N<sup>1)</sup>, Suzuki H ( <sup>1)</sup> Kyowa Hakko Kogyo Co. ) : Involvement of neural cell adhesion molecule signaling in glial cell line-derived neurotrophic factor-induced analgesia in a rat model of neuropathic pain. *Pain* 2008 ; 137 : 378-388.
- 3) Nagano M, Ozawa H<sup>1)</sup>, Suzuki H ( <sup>1)</sup> Department of Anatomy and Neurobiology, Nippon Medical School) : Prenatal dexamethasone exposure affects anxiety-like behaviour and neuroendocrine systems in an age-dependent manner. *Neuroscience Research* 2008 ; 60 : 364-371.
- 4) Matsumura T<sup>1)</sup>, Sakai A, Nagano M, Sawada M<sup>2)</sup>, Suzuki H<sup>2)</sup>, Umino M<sup>1)</sup>, Suzuki H ( <sup>1)</sup> Tokyo Medical and Dental University, <sup>2)</sup> Nagoya University) : Increase in hemokinin-1 mRNA in the spinal cord during the early phase of a neuropathic pain state. *British Journal of Pharmacology* 2008 ; 155 : 767-774.
- 5) Kobayashi K, Ikeda Y, Haneda E, Suzuki H : Chronic fluoxetine bidirectionally modulates potentiating effects of serotonin on the hippocampal mossy fiber synaptic transmission. *The Journal of Neuroscience*

2008 ; 28 : 6272-6280.

- 6) Takahashi H<sup>1,2)</sup>, Matsuura M<sup>3)</sup>, Koeda M<sup>4)</sup>, Yahata N, Suhara T<sup>1)</sup>, Kato M<sup>5)</sup>, Okubo Y<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> National Institute of Radiological Sciences, <sup>2)</sup> Asai Hospital, <sup>3)</sup> Tokyo Medical and Dental University, <sup>4)</sup> Departments of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, <sup>5)</sup> Keio University School of Medicine) : Brain activations during judgments of positive self-conscious emotion and positive basic emotion : pride and joy. *Cerebral Cortex* 2008 ; 18 (4) : 898-903.
- 7) Takahashi H<sup>1,2)</sup>, Kato M<sup>3)</sup>, Matsuura M<sup>2)</sup>, Koeda M<sup>4)</sup>, Yahata N, Suhara T<sup>1)</sup>, Okubo Y<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> National Institute of Radiological Sciences, <sup>2)</sup> Tokyo Medical and Dental University, <sup>3)</sup> Keio University School of Medicine, <sup>4)</sup> Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School) : Neural Correlates of Human Virtue Judgment. *Cerebral Cortex* 2008 ; 18 : 1886-1891.
- 8) Yamasaki N<sup>1,2)</sup>, Maekawa M<sup>2,4)</sup>, Kobayashi K<sup>2)</sup>, Kajii Y<sup>5)</sup>, Maeda J<sup>6)</sup>, Soma M<sup>4)</sup>, Takao K<sup>1,2)</sup>, Tanda K<sup>1,2)</sup>, Ohira K<sup>2,3)</sup>, Toyama K<sup>1,2)</sup>, Kanzaki K<sup>5)</sup>, Fukunaga K<sup>8)</sup>, Sudo Y<sup>9)</sup>, Ichinose H<sup>2,9)</sup>, Ikeda M<sup>2,10)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> Kyoto University Graduate School of Medicine, <sup>2)</sup> Japan Science and Technology Agency, CREST, <sup>3)</sup> Japan Science and Technology Agency, BIRD, <sup>4)</sup> National Institute of Neuroscience, National Center of Neurology and Psychiatry, <sup>5)</sup> Mitsubishi Tanabe Pharma Corporation, <sup>6)</sup> National Institute of Radiological Sciences, <sup>7)</sup> Fujita Health University, <sup>8)</sup> Tohoku University, <sup>9)</sup> Tokyo Institute of Technology, <sup>10)</sup> Fujita Health University) : Alpha-CaMKII deficiency causes immature dentate gyrus, a novel candidate endophenotype of psychiatric disorders. *Molecular Brain* 2008 ; 1 : 6.
- 9) Okumura M<sup>1,2)</sup>, Arakawa R<sup>1,2)</sup>, Ito H<sup>1)</sup>, Seki C<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>, Takano H<sup>1)</sup>, Haneda E<sup>1)</sup>, Nakao R<sup>1)</sup>, Suzuki H, Suzuki K<sup>1)</sup>, Okubo Y<sup>2)</sup>, Suhara T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> National Institute of Radiological Sciences, <sup>2)</sup> Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School) : Quantitative analysis of NK<sub>1</sub> receptor in the human brain using PET with <sup>18</sup>F-FE-SPA-RQ. *Journal of Nuclear Medicine* 2008 ; 49 : 1749-1955.
- 10) Saitow F, Murano M, Suzuki H : Modulatory effects of serotonin on GABAergic synaptic transmission and membrane properties in the deep cerebellar nuclei. *Journal of Neurophysiology* 2009 ; 101 : 1361-1374.

(2) 総説 :

- 1) Sakai A, Suzuki H : NCAM as a target for GDNF-induced analgesia in neuropathic pain. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (3) : 136-137.
- 2) Kobayashi K : Targeting the hippocampal mossy fiber synapse for the treatment of psychiatric disorders. *Molecular Neurobiology* 2009 ; 39 : 24-36.
- 3) 坂井 敦, 鈴木秀典 : 特集 : 小児の痛み 1. 痛みの受容器. *小児科* 2008 ; 49 (11) : 1433-1438.
- 4) 坂井 敦, 鈴木秀典 : 特集 : 小児の痛み 2. 痛みの伝達路. *小児科* 2008 ; 49 (11) : 1439-1444.
- 5) 小林克典 : 神経科学シリーズ : 海馬シナプスから精神疾患に迫る (3). *日医大医会誌* 2008 ; 4 (2) : 111-114.
- 6) 鈴木秀典 : 特集・アンチドーピングのための頻用薬の知識 : 総論 禁止表. *臨床スポーツ医学* 2008 ; 25 (5) : 421-425.
- 7) 八幡憲明 : fMRIでみる向精神薬の薬理作用. *臨床精神医学* 2008 ; 37 (6) : 811-817.
- 8) 羽田栄輔 : Sapap3遺伝子欠損マウスが示す強迫性障害様行動. *ファルマシア* 2008 ; 44 (4) : 354.
- 9) 小林克典 : 歯状回ニューロンの生理学的特性とその成熟. *Medical Bio* 2009 ; 6 (2) : 19-24.

著 書

- 1) 鈴木秀典 : [分担] 第4章 薬理学. *クルグス診療科 (4) 基礎医学 (赤川公朗)*, 2008 ; pp139-161, 星和書店.
- 2) 浅田 穰 : [翻訳] 第5章 患者DNAの遺伝し突然変異はどのように調べるのか? . 症例でわかる新しい臨床遺伝学 (水谷修紀), 2008 ; pp111-134, *メディカル・サイエンス・インターナショナル*.

## 学会発表

### (1) 招待講演：

- 1) 八幡憲明：「イメージングバイオマーカーによる基礎と臨床のクロストーク」fMRIによる向精神薬の臨床評価. 第18回日本臨床精神神経薬理学会・第38回日本神経精神薬理学会 合同年会, 2008. 10.

### (2) シンポジウム：

- 1) 小林克典, 鈴木秀典：「病因・病態仮説に基づく精神疾患モデルの開発と創薬への応用」SSRIによる海馬神経細胞の脱成熟. 第82回日本薬理学会年会, 2009. 3.

### (3) 一般講演：

- 1) Kobayashi K, Ikeda Y, Sakai A, Suzuki H : Chronic SSRI changes the maturation state of dentate granule cells. 6th FENS forum of European Neuroscience (Geneva (Switzerland)), 2008. 7.
- 2) Sakai A, Hanawa H<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>, Suzuki H ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School) : Overexpression of GDNF in uninjured DRG neurons exhibits an analgesic effect in a rat neuropathic pain model. 6th FENS forum of European Neuroscience (Geneva (Switzerland)), 2008. 7.
- 3) Ikeda Y, Kobayashi K, Suzuki H : Chronic SSRI treatment increases behavioral instability and anxiety-related behaviors in association with reduced hippocampal mossy fiber synaptic facilitation. 6th FENS forum of European Neuroscience (Geneva (Switzerland)), 2008. 7.
- 4) Takasu K, Sakai A, Suzuki H : Expression changes of a microtubule-destabilizing protein, stathmin, in a rat model of neuropathic pain. 6th FENS forum of European Neuroscience (Geneva (Switzerland)), 2008. 7.
- 5) Yahata N, Sasaki T<sup>1)</sup>, Matsumoto S<sup>1)</sup>, Matsuda T<sup>2)</sup>, Suzuki H, Okubo Y<sup>3)</sup>, Sakai K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Institute for Science of Labour, <sup>2)</sup> Tamagawa University, <sup>3)</sup> Departments of Neuropsychiatry, Nippon Medical School) : Impacts of subacute fatigue Load on the Human Emotional system : an fMRI study. 第2回アジア・太平洋生物学的精神医学会 第30回日本生物学的精神医学会 (富山), 2008. 9.
- 6) Shingai Y<sup>1)</sup>, Ogawa K<sup>1)</sup>, Yahata N, Tateno A<sup>1)</sup>, Matsuda T<sup>2)</sup>, Suzuki H, Okubo Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Departments of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Tamagawa University) : Investigating placebo effect on Amygdala activities induced by subliminal visual stimuli. 第2回アジア・太平洋生物学的精神医学会 第30回日本生物学的精神医学会 (富山), 2008. 9.
- 7) Tateno A<sup>1)</sup>, Yahata N, Morita K<sup>2)</sup>, Masuoka T<sup>2)</sup>, Okubo Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Departments of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Nippon Medical School) : Neural Activities underlying Self-esteem in Healthy Adults : An fMRI Study. 第2回アジア・太平洋生物学的精神医学会 第30回日本生物学的精神医学会 (富山), 2008. 9.
- 8) Ogawa K<sup>1)</sup>, Shingai Y<sup>1)</sup>, Yahata N, Tateno A<sup>1)</sup>, Matsuda T<sup>2)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Suzuki H, Okubo Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Departments of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Tamagawa University) : Placebo Effect on the Emotional Network during Emotional Counting Stroop Paradigm. 第2回アジア・太平洋生物学的精神医学会 第30回日本生物学的精神医学会 (富山), 2008. 9.
- 9) Kobayashi K, Ikeda Y, Suzuki H : Multiple effects of chronic fluoxetine on hippocampal synaptic transmission and behaviors in mice. Neuroscience 2008, the Society for Neuroscience' s 38th annual meeting (Washington DC (USA)), 2008. 11.
- 10) Saitow F, Suzuki H : Role of 5-HT-induced modulation and inhibitory transmission in development of rat deep cerebellar nuclei neurons. Neuroscience 2008, the Society for Neuroscience' s 38th annual meeting (Washington DC (USA)), 2008. 11.
- 11) Ikeda Y, Yahata N, Takahashi H<sup>1)</sup>, Koeda M<sup>2)</sup>, Okubo Y<sup>2)</sup>, Suzuki H ( <sup>1)</sup> National Institute of Radiological Sciences, <sup>2)</sup> Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School) : An fMRI study on auditory selective

attention in diotic listening paradigm. Neuroscience 2008, the Society for Neuroscience' s 38th annual meeting (Washington DC (USA)), 2008. 11.

- 12) Yahata N, Sasaki T<sup>1)</sup>, Matsumoto S<sup>1)</sup>, Matsuda T<sup>2)</sup>, Suzuki H, Okubo Y<sup>3)</sup>, Sakai K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> The Institute for Science of Labour, <sup>2)</sup> Tamagawa University, <sup>3)</sup> Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School) : Modulation of the human emotional system by subacute fatigue load : an fMRI study. Neuroscience 2008, the Society for Neuroscience' s 38th annual meeting (Washington DC (USA)), 2008. 11.
- 13) 福田 一<sup>1, 2)</sup>, 伊藤逸生<sup>2)</sup>, 野上 毅<sup>1, 2)</sup>, 鈴木雅之<sup>1, 2)</sup>, 館野 周<sup>2)</sup>, 八幡憲明, 高橋英彦<sup>1)</sup>, 田井治康友<sup>1)</sup>, 鈴木秀典, 浅井邦彦<sup>1)</sup>, 大久保善朗<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 浅井病院, <sup>2)</sup> 日本医科大学精神医学) : 統合失調症患者における脳形態変化の性差に関するMRI研究. 第2回アジア・太平洋生物学的精神医学会 第30回日本生物学的精神医学会 (富山), 2008. 9.
- 14) 齋藤文仁, 村野光和, 鈴木秀典 : 小脳核GABA作動性シナプスにおける5-HTと発達変化の役割. 第31回日本神経科学大会, 2008. 7.
- 15) 永野昌俊, 小澤一史<sup>1)</sup>, 鈴木秀典 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学解剖学 (生体構造学) ) : 妊娠時デキサメサゾン投与が子の行動と神経内分泌系に与える影響の長期観察. 第31回日本神経科学大会, 2008. 7.
- 16) 八幡憲明, 佐々木司<sup>1)</sup>, 松元 俊<sup>1)</sup>, 松田哲也<sup>2)</sup>, 鈴木秀典, 大久保善朗<sup>3)</sup>, 酒井一博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 労働科学研究所, <sup>2)</sup> 玉川大学, <sup>3)</sup> 日本医科大学精神医学) : 亜急性疲労がヒト情動機構に及ぼす影響に関する検討 : 機能的MRI研究. 第31回日本神経科学大会, 2008. 7.
- 17) 村野光和, 齋藤文仁, 鈴木秀典 : 小脳核グルタミン酸作動性シナプスにおけるセロトニン受容体を介したシナプス可塑性の調節. 第31回日本神経科学大会, 2008. 7.
- 18) 高雄啓三<sup>1, 2)</sup>, 小林克典, 大平耕司<sup>1)</sup>, 山崎信幸<sup>2)</sup>, 遠山桂子<sup>1)</sup>, 高木 豪<sup>3)</sup>, 石井俊輔<sup>3)</sup>, 宮川 剛<sup>1, 2)</sup> ( <sup>1)</sup> 藤田保健衛生大学, <sup>2)</sup> 京都大学, <sup>3)</sup> 理化学研究所) : Schnurri-2ノックアウトにより引き起こされる行動異常と歯状回顆粒細胞の成熟異常. 第31回日本神経科学大会, 2008. 7.
- 19) 村野光和, 齋藤文仁, 鈴木秀典 : 小脳核グルタミン酸作動性シナプスにおけるセロトニンの役割. 第119回日本薬理学会関東部会, 2008. 10.
- 20) 松村朋香<sup>1)</sup>, 鈴木秀典, 海野雅浩<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京医科歯科大学) : 脊髄ミクログリア活性化阻害は神経因性疼痛に伴うhemokinin-1 mRNAの発現増加を抑制する. 第36回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2008. 10.
- 21) 伊藤浩志<sup>1)</sup>, 村越隆之<sup>1)</sup>, 鈴木秀典, 永野昌俊 ( <sup>1)</sup> 東京大学) : 慢性拘束ストレスによるマウス行動亢進と帯状回シナプス可塑性増大. 第82回日本薬理学会年会, 2009. 3.

## 8. 病理学講座（解析人体病理学）

### 研究概要

基礎的な研究としては、肺・腎・移植・眼・心の病理を中心に行なわれた。肺では、間質性肺炎に出現する細胞と細胞外基質、肺気腫における肺胞構造改変など、腎では、腎虚血後再灌流傷害とMMP-2、スタチンおよびアンギオテンシンレセプター阻害剤による腎糸球体障害の抑制、膜性腎症の電顕的研究、腎内血管の発生機序など、移植では、実験的心移植における急性拒絶、実験的腎移植におけるトレランスの維持、ヒト化マウスモデルにおけるヒト抗体の産生、実験的膵島移植、ヒトおよびブタ胸腺移植におけるT細胞など、眼では、フリーラジカルによる角膜内皮細胞傷害、角膜アルカリ傷害におけるプロスタグランディンE合成酵素およびMMP-12など、心では、大動脈弁における石灰化、動脈硬化性動脈瘤の形成機序などが報告された。また、実験的Fabry病を報告した。

診断病理学に関しては、多発性筋炎・皮膚筋炎にともなう間質性肺炎の病理学的鑑別、線維芽細胞と筋線維芽細胞、特発性間質性肺炎の病理診断、線維化性特発性肺線維症の臨床病理学的検討、急性腎障害の組織診断と鑑別などがまとめられ報告された。教育用DVDとして、非腫瘍性肺疾患を担当し、臨床・病理学的事項をまとめた。各種学会のシンポジウム、ワークショップ、特別講演、教育講演では、各種肺疾患、各種腎疾患などのトピックス、病理学教育などが発表された。学内外の臨床各科との共同研究による臨床病理学的研究も行われた。特発性上葉限局型肺線維症、ループス腎炎、縦隔類上皮血管内皮腫、若年性ネフロン癆、各種移植、特発性間質性肺炎、エーラスダンロス症候群、多発性骨髄腫、フロッピー心弁膜、びまん性肺胞傷害、腎糸球体の電顕的研究、ネフローゼ症候群、半月体形成腎炎、巣状糸球体硬化症などの報告が行われた。また、臨床各科との臨床病理検討会（CPC）が行われ、報告としてまとめられた。

### 研究業績

#### 論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Saito Y<sup>1)</sup>, Nei T<sup>1)</sup>, Abe S<sup>1)</sup>, Usuki J<sup>1)</sup>, Azuma A<sup>1)</sup>, Nakayama T, Fukuda Y, Kudoh S<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine) : A case of bucillamine-induced interstitial pneumonia with positive lymphocyte stimulation test for bucillamine using bronchoalveolar lavage lymphocytes. Intern Med 2007 ; 46 (20) : 1739-43.
- 2) Okumi M<sup>1)</sup>, Fishbein J<sup>1)</sup>, Griesemer AD<sup>1)</sup>, Gianello RP<sup>1)</sup>, Hirakata A<sup>1)</sup>, Nobori S<sup>1)</sup>, Moran S<sup>1)</sup>, Samelson JE<sup>1)</sup>, Shimizu A, Sachs DH<sup>1)</sup>, Yamada K<sup>1)</sup> (1) Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Role of persistence of antigen and indirect recognition in the maintenance of tolerance to renal allografts. Transplantation 2008 ; 85 (2) : 270-280.
- 3) Tomonura N<sup>1)</sup>, Shimizu A, Wang S<sup>1)</sup>, Yamada K<sup>1)</sup>, Tchipashvili V<sup>1)</sup>, Weir CG<sup>1)</sup>, Yang-Guang Y<sup>1)</sup> (1) Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Pig islet xenograft rejection in a mouse model with an established human immune system. Xenotransplantation 2008 ; 15 (2) : 129-135.
- 4) Shimizu I<sup>1)</sup>, Fudaba Y<sup>1)</sup>, Shimizu A, Yaung-G Y<sup>1)</sup>, Sykes M<sup>1)</sup> (1) Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Comparison of human T cell repertoire generated in xenogeneic porcine and human thymus grafts. Transplantation 2008 ; 86 (4) : 601-610.



(1) 原著 :

- 1) Tomonura N<sup>1)</sup>, Habiro K<sup>1)</sup>, Shimizu A, Sykes M<sup>1)</sup>, Yang-G Y<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Antigen-specific human T-cell responses and T cell-dependent production of human antibodies on a humanized mouse model. *Blood* 2008 ; 111 (8) : 4293-4296.
- 2) Murano N, Ishizaki M, Sato S<sup>1)</sup>, Fukuda Y, Takahashi H<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Central Institute for Electron Microscopic Researches, <sup>2)</sup> Department of Ophthalmology) : Corneal endothelial cell damage by free radicals associated with ultrasound oscillation. *Arch Ophthalmol* 2008 ; 126 (6) : 816-821.
- 3) Togashi M, Tamura K<sup>1)</sup>, Masuda Y, Fukuda Y (<sup>1)</sup> Division of Surgical Pathology, Tokyo Teishin Hospital) : Comparative study of calcified changes in aortic valvular diseases. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (3) : 138-45.
- 4) Shimizu A, Hisashi Y<sup>1)</sup>, Kuwai K<sup>1)</sup>, Tseng-L Y<sup>1)</sup>, Dor FJ<sup>1)</sup>, Houser SL<sup>1)</sup>, Simon RC<sup>1)</sup>, Schuurman-J H<sup>1)</sup>, Cooper DK<sup>1)</sup>, Sachs DH<sup>1)</sup>, Colvin RB<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Thrombotic microangiopathy associated with humoral rejection of cardiac xenografts from alpha1, 3-galactosyltransferase gene-knockout pigs in baboons. *Am J Pathol* 2008 ; 172 (6) : 1471-1481.
- 5) Griesemer AD<sup>1)</sup>, Lamattina JC<sup>1)</sup>, Ohkumi M<sup>1)</sup>, Etter JD<sup>1)</sup>, Shimizu A, Sachs DH<sup>1)</sup>, Yamada K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Linked suppression across an MHC-mismatched barrier in a miniature swine kidney transplantation model. *J Immunol* 2008 ; 181 (6) : 4027-4036.
- 6) Masuda Y, Mii A, Shimizu A, Fujita E, Aki K, Ishikawa K, Ishizaki M, Sato S<sup>1)</sup>, Hayama N<sup>2)</sup>, Iino Y<sup>2)</sup>, Katayama Y<sup>2)</sup>, Fukuda Y (<sup>1)</sup> Central Institute for Electron Microscopic Researches, <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : Invagination and infolding of podocytes in glomerular basement membrane in the cases of primary membranous nephropathy. *Clin Exp Nephrol* 2008 ; 12 : 440-449.
- 7) Mochimaru H<sup>1)</sup>, Kawamoto M<sup>2)</sup>, Enomoto T<sup>1)</sup>, Saito Y<sup>1)</sup>, Abe S<sup>1)</sup>, Nei T<sup>1)</sup>, Fukuda Y, Kudoh S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, <sup>2)</sup> Department of Surgical Pathology) : Transbronchial biopsy is clinically useful in classifying patients with interstitial pneumonia associated with polymyositis and dermatomyositis. *Respirology* 2008 ; 13 (6) : 863-870.
- 8) Hisashi Y<sup>1)</sup>, Yamada K<sup>1)</sup>, Kuwai K<sup>1)</sup>, Tseng-L Y<sup>1)</sup>, Dor FJ<sup>1)</sup>, Houser SL<sup>1)</sup>, Simon RC<sup>1)</sup>, Schuurman-J H<sup>1)</sup>, Cooper DK<sup>1)</sup>, Sachs DH<sup>1)</sup>, Colvin RB<sup>1)</sup>, Shimizu A (<sup>1)</sup> Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Rejection of cardiac xenografts transplanted from alpha1, 3-galactosyltransferase gene-knockout (GalT-KO) pigs to baboons. *Am J Transplant* 2008 ; 8 (12) : 2516-2526.
- 9) Fubada Y<sup>1)</sup>, Onoe T<sup>1)</sup>, Chittenden M<sup>1)</sup>, Shimizu A, Shaffer J<sup>1)</sup>, Bronson R<sup>1)</sup>, Sykes M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Abnormal regulatory and effector T cell function predispose to autoimmunity following xenogeneic thymic transplantation. *J Immunol* 2008 ; 181 (11) : 7649-7659.
- 10) Kawamura A, Tatsuguchi A, Ishizaki M, Takahashi H<sup>1)</sup>, Fukuda Y (<sup>1)</sup> Department of Ophthalmology) : Expression of Microsomal Prostaglandin E Synthase-1 in Fibroblasts of Rabbit Alkali-Burned Corneas. *Cornea* 2008 ; 27 (10) : 1156-1163.

- 11) Ogawa K<sup>1,2)</sup>, Hirai Y<sup>1)</sup>, Ishizaki M, Takahashi H<sup>1)</sup>, Hanawa H<sup>1)</sup>, Fukunaga Y<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, <sup>2)</sup> Department of Pediatrics) : Long-term inhibition of glycosphingolipid accumulation in Fabry model mice by a single systemic injection of AAV1 vector in the neonatal period. *Molecular Genetics and Metabolism* 2009 ; 96 : 91-96.
- 12) Onozawa S<sup>1)</sup>, Murata S<sup>1)</sup>, Shimizu A, Tajima H<sup>1)</sup>, Hidaka F<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>1)</sup>, Nomura K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology) : Comparative Study of Transcatheter Renal Arterial Embolization with and without Closed Renal Circuit ; Pharmacokinetic and Histologic Assessment in Pigs. *Radiology* 2009 ; 250 (3) : 714-720.
- 13) Mii A, Shimizu A, Masuda Y, Ishizaki M, Kawachi H<sup>1)</sup>, Iino Y<sup>2)</sup>, Katayama Y<sup>2)</sup>, Fukuda Y ( <sup>1)</sup> Cell Biology Institute of Nephrology, Niigata University Graduate School, <sup>2)</sup> Department of Inter Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : Angiotensin II receptor blockade inhibits acute glomerular injuries with the alteration of receptor expression. *Lab Invest* 2009 ; 89 (2) : 164-177.
- 14) Iwanami H<sup>1)</sup>, Ishizaki M, Fukuda Y, Takahashi H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Ophthalmology) : Expression of matrix metalloproteinases (MMP) -12 by myofibroblasts during alkali-burned corneal wound healing. *Curr Eye Res* 2009 ; 34 (3) : 207-14.

(2) 総説 :

- 1) 山元滋樹, 福田 悠 : 特集 特発性間質性肺炎 病理診断の現状と将来. *呼吸器科* 2008 ; 14 (2) : 95-103.
- 2) 功刀しのぶ, 福田 悠 : 呼吸器疾患の臨床検査 up to date IV. 内視鏡 TBLBの適応と限界. *日本胸部臨床* 2008 ; 67 (増刊) : S 154-S 160.
- 3) 三井亜希子, 清水 章 : AKIの腎生検適応と組織診断の秘訣. *内科* 2008 ; 102 (1) : 69-76.
- 4) 清水 章, 三井亜希子, 益田幸成 : 腎内血管の発生機構 (特集 : 腎の発生と再生). *Nephrology Frontier* 2008 ; 7 (2) : 25-31.
- 5) 三井亜希子, 清水 章 : 急性腎傷害 (acute kidney injury : AKI) の組織診断. *Nephrology Frontier* 2009 ; 8 (1) : 43-50.

(3) 症例報告 :

- 1) Mii A, Shimizu A, Masuda Y, Ishizaki M, Sato S<sup>1)</sup>, Hara K<sup>2)</sup>, Kaneko T<sup>2)</sup>, Utsumi K<sup>2)</sup>, Iino Y<sup>2)</sup>, Kameyama Y<sup>2)</sup>, Fukuda Y ( <sup>1)</sup> Central Institute for Electron Microscopic Researches, <sup>2)</sup> Department of Inter Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : A case of lupus nephritis with diffuse podocytic infolding into the glomerular basement membrane. *Clin Exp Nephrol* 2008 ; 12 : 479-484.
- 2) 田中貴久<sup>1)</sup>, 根井貴仁<sup>2)</sup>, 白杵二郎<sup>2)</sup>, 松本亜紀<sup>2)</sup>, 森本泰介<sup>2)</sup>, 神尾孝一郎<sup>2)</sup>, 斉藤好信<sup>2)</sup>, 阿部信二<sup>2)</sup>, 吾妻安良太<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>, 弦間昭彦<sup>2)</sup>, 功刀しのぶ, 許田典男<sup>3)</sup>, 福田 悠 ( <sup>1)</sup> 付属 (千駄木) 病院, <sup>2)</sup> 内科学呼吸器 呼吸器感染腫瘍部門, <sup>3)</sup> 統御機構腫瘍学) : 間質性肺炎の長期経過中に複数の感染症を併発し, 死亡した1例. *THE Lung Perspective* 2008 ; 16 (3) : 2 (314) -8 (320).
- 3) 水谷康彦<sup>1)</sup>, 秋元直彦<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup>, 横山宗伯<sup>3)</sup>, 岸田由起子<sup>2)</sup>, 中原和樹<sup>4)</sup>, 喜納五月<sup>4)</sup>, 福田 悠 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学医学部, <sup>2)</sup> 東京通信病院病理科, <sup>3)</sup> 東京警察病院病理診断科, <sup>4)</sup> 東京通信病院呼吸器外科) : 縦隔に発生した類上皮血管内皮腫の1例. *診断病理* 2008 ; 25 (4) : 315-319.
- 4) 根井貴仁<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>1)</sup>, 佐藤悦子<sup>1)</sup>, 高久多希朗<sup>1)</sup>, 瀬尾宜嗣<sup>1)</sup>, 森本泰介<sup>1)</sup>, 服部久弥子<sup>1)</sup>, 齋藤好信<sup>1)</sup>, 阿部信二<sup>1)</sup>, 白杵二郎<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 中山智子, 福田 悠, 工藤翔二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学呼吸器感染腫瘍部門) : 急性増悪をきたした特発性上葉限局型肺線維症 (網谷病) が疑われた1例. *日本呼吸器学会雑誌* 2009 ; 47 (2) : 116-21.

(4) 研究報告書 :

- 1) 井上義一<sup>1)</sup>, 北市正則<sup>1)</sup>, 審良正則<sup>1)</sup>, 蛇澤 晶<sup>2)</sup>, 山鳥一郎<sup>3)</sup>, 山本 暁<sup>1)</sup>, 新井 徹<sup>1)</sup>, 望月吉郎<sup>4)</sup>, 佐藤利雄<sup>3)</sup>, 藤田結花<sup>5)</sup>, 永田忍彦<sup>6)</sup>, 赤川志のぶ<sup>2)</sup>, 斉藤泰明<sup>7)</sup>, 丸山倫夫<sup>7)</sup>, 福田 悠, その他10名 ( <sup>1)</sup> NHO 近

畿中央胸部疾患センター, <sup>2)</sup> NHO 東京病院, <sup>3)</sup> NHO 岡山医療センター, <sup>4)</sup> NHO 姫路医療センター, <sup>5)</sup> NHO 道北病院, <sup>6)</sup> NHO 大牟田病院, <sup>7)</sup> NHO 西新潟中央病院): 繊維化性特発性間質性肺炎患者の臨床経過に及ぼす治療効果 (第2報). 特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究 2008; 42-46.

- 2) 福田 悠, 富樫真由子, 康 徳東, 高橋美紀子, 山元滋樹, 功刀しのぶ: 間質性肺炎の早期線維化巣に出現する細胞と細胞外基質. 厚生労働科学研究補助金 難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成20年度研究報告書 2009; 118-123.

## 著 書

- 1) 福田 悠: [分担] 肺水腫・びまん性肺胞傷害. 病理画像ケーススタディ, DVD版 (笹野公伸, 真鍋俊明), 2008; 南山堂.
- 2) 川本雅司<sup>1)</sup>, 福田 悠 (<sup>1)</sup> 附属病院病理部): [分担] 気管支肺炎. 病理画像ケーススタディ, DAD版 (笹野公伸, 真鍋俊明), 2008; 南山堂.
- 3) 中山智子, 福田 悠: [分担] 肺結核. 病理画像ケーススタディ, DAD版 (笹野公伸, 真鍋俊明), 2008; 南山堂.
- 4) 福田 悠: [分担] 肺気腫. 病理画像ケーススタディ, DVD版 (笹野公伸, 真鍋俊明), 2008; 南山堂.
- 5) 福田 悠: [分担] 肺気管支喘息. 病理画像ケーススタディ, DVD版 (笹野公伸, 真鍋俊明), 2008; 南山堂.
- 6) 福田 悠: [分担] アスペルギルス症. 病理画像ケーススタディ, DVD版 (笹野公伸, 真鍋俊明), 2008; 南山堂.
- 7) 福田 悠: [分担] ニューモシスチス肺炎. 病理画像ケーススタディ, DVD版 (笹野公伸, 真鍋俊明), 2008; 南山堂.
- 8) 福田 悠: [分担] 通常型間質性肺炎. 病理画像ケーススタディ, DVD版 (笹野公伸, 真鍋俊明), 2008; 南山堂.
- 9) 川本雅司<sup>1)</sup>, 福田 悠 (<sup>1)</sup> 附属病院病理部): [分担] 大葉性肺炎. 病理画像ケーススタディ, DAD版 (笹野公伸, 真鍋俊明), 2008; 南山堂.
- 10) 川本雅司<sup>1)</sup>, 福田 悠 (<sup>1)</sup> 附属病院病理部): [分担] 出血性梗塞. 病理画像ケーススタディ, DAD版 (笹野公伸, 真鍋俊明), 2008; 南山堂.
- 11) 川本雅司<sup>1)</sup>, 福田 悠 (<sup>1)</sup> 附属病院病理部): [分担] 肺高血圧症. 病理画像ケーススタディ, DAD版 (笹野公伸, 真鍋俊明), 2008; 南山堂.
- 12) 中山智子, 福田 悠: [分担] 肺血栓塞栓症. 病理画像ケーススタディ, DAD版 (笹野公伸, 真鍋俊明), 2008; 南山堂.
- 13) 中山智子, 福田 悠: [分担] サルコイドーシス. 病理画像ケーススタディ, DAD版 (笹野公伸, 真鍋俊明), 2008; 南山堂.
- 14) 中山智子, 福田 悠: [分担] 肺膿瘍. 病理画像ケーススタディ, DAD版 (笹野公伸, 真鍋俊明), 2008; 南山堂.

## 学会発表

[追加分]

追加分一般講演:

- 1) 平野大志<sup>1)</sup>, 原 聡<sup>1)</sup>, 村上仁彦<sup>1)</sup>, 山口 裕<sup>2)</sup>, 服部元史<sup>3)</sup>, 藤原周一郎<sup>1)</sup>, 清水 章 (<sup>1)</sup> 埼玉県立小児医療センター腎臓科, 病理部, <sup>2)</sup> 東京慈恵医科大学附属病院病理部, <sup>3)</sup> 東京女子医大病院腎臓小児科): 貧血を主訴に発見され, 若年性ネフロン癆と診断された1例. 関東小児腎臓研究会 (第74回), 2008. 1.

(1) 特別講演：

- 1) 福田 悠：薬剤性肺傷害の病理. 日本病理学会診断病理サマーフェスタ, 2008. 8.

(2) 招待講演：

- 1) 清水 章：糸球体毛細血管障害と糸球体腎炎の進展. 長崎腎セミナー（第18回）出島シンポジウム, 2008. 9.
- 2) 清水 章：糸球体毛細血管の障害から見た糸球体腎炎の進展とその制御. 埼玉腎臓研究会（第45回）, 2008. 11.

(3) 教育講演：

- 1) 清水 章：微小変化群と巣状糸球体硬化症の亜系と診断. 腎病理夏の学校（2008 in Osaka）スケジュール, 2008. 8.
- 2) 清水 章：モーニングレクチャー 100の腎組織Q&A. 日本腎臓学会（第38回）東部学術大会, 2008. 10.
- 3) 清水 章：Overview MPGNの組織の読み方. 日本腎臓学会（第38回）東部学術大会, 2008. 10.
- 4) 清水 章：巣状糸球体腎炎硬化症（FSGS）の硬化像について. 日本腎病理協会研究会, 2009. 1.

(4) シンポジウム：

- 1) 福田 悠：間質性肺炎における線維化形成機序. 日本組織細胞化学会総会（第49回）, 2008. 10.

(5) ワークショップ：

- 1) 秋元直彦<sup>1)</sup>, 水谷康彦<sup>1)</sup>, 小澤明子<sup>1)</sup>, 北嶋俊寛<sup>1)</sup>, 横澤裕美<sup>1)</sup>, 福田 悠, 田村浩一<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学医学部 医学科, <sup>2)</sup> 東京通信病院病理）：病理学のここが面白い：学生からの意見. 日本病理学会総会（第97回）, 2008. 5.

(6) 一般講演：

- 1) Watanabe A, Kawabata Y<sup>2)</sup>, Sasaki F<sup>2)</sup>, Fukuda Y, Kanauchi T<sup>2)</sup>, Aoshima M<sup>2)</sup>, Yamaguchi S<sup>2)</sup>, Shiraki A<sup>2)</sup>, Nakao Y<sup>2)</sup>, Hatamochi A<sup>2)</sup>, Kawabata T<sup>2)</sup>, Uchiyama T<sup>2)</sup>, Watanabe T<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> Inter Medicine Chiba University, <sup>2)</sup> Diffuse Lung Disease Study Group in Tokyo）：Pulmonary manifestations of vascular Ehlers-Danlos syndrome -10 proven cases in Japan. Am Thoracic Society（Toronto）, 2008. 5.
- 2) Inoue Y<sup>1)</sup>, Kitaichi M<sup>1)</sup>, Hebisawa A<sup>2)</sup>, Yamadori I<sup>3)</sup>, Yamamoto S<sup>1)</sup>, Kobashi Y<sup>4)</sup>, Fukuda Y, Colby-V T<sup>5)</sup>, Travis-D W<sup>6)</sup>, et al.（<sup>1)</sup> NHO Kinki Chuo Chest Medical Center, <sup>2)</sup> NHO Tokyo Hospital, <sup>3)</sup> NHO Okayama Medical Center, <sup>4)</sup> Tenri Yorozu Hospital, <sup>5)</sup> Mayo Clinic, <sup>6)</sup> AFIP）：Agreement and disagreement of histologic patterns in recognition of cases with idiopathic interstitial pneumonia. Am Thoracic Society（Toronto）, 2008. 5.
- 3) Aki K, Mii A, Shimizu A, Masuda Y, Fujita E, Ishizaki M, Sugisaki Y, Fukuda Y：Angiotensin II Type 1 Receptor Blocker（ARB）Mediated Anti-Inflammatory Macrophages in Anti-GBM Glomerulonephritis（GN）in WKY Rats. American Society of Nephrology（Philadelphia）, 2008. 11.
- 4) Shimizu A, Masuda Y, Mii A, Fujita E, Aki K, Ishizaki M, Fukuda Y：Matrix Metalloproteinase-2（MMP-2）May Have the Conflicting Roles in Acute and Repair Phase of Ischemia/Reperfusion Renal Injury. American Society of Nephrology（Philadelphia）, 2008. 11.
- 5) Oku M<sup>1)</sup>, Okumi M<sup>1)</sup>, Sahara H<sup>1)</sup>, Griesemer A<sup>2)</sup>, Tsubouchi H<sup>3)</sup>, Shimizu A, Yamada K<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Frontier Science Research Center Kagoshima University, <sup>2)</sup> Surgery Columbia University, <sup>3)</sup> Medicine Kagoshima University）：Hepatocyte Growth Factor Sustains the Treg Population and Prolongs Survival of Kidney Allografts in MHC-Inbred CLAWN Miniature Swine. American Society of Nephrology（Philadelphia）, 2008. 11.
- 6) Fujita E, Shimizu A, Masuda Y, Mii A, Aki K, Iino Y<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>, Ishizaki M, Fukuda Y（<sup>1)</sup> Department of Internal Medicine（Division of Neurology, Nephrology, and Rheumatology））：The anti-inflammatory effect of statin in a rat anti-GBM glomerulonephritis. American Society of Nephrology（Philadelphia）,

2008. 11.

- 7) Fujita E, Shimizu A, Masuda Y, Mii A, Aki K, Iino Y<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>, Ishizaki M, Fukuda Y ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine (Division of Neurology, Nephrology, and Rheumatology)) : The anti-inflammatory effect of statin in a rat anti-GBM glomerulonephritis. American Society of Nephrology (Philadelphia), 2008. 11.
- 8) 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 山元滋樹, 渡辺 哲<sup>1)</sup>, 廣島健三<sup>1)</sup>, 河端美則<sup>1)</sup>, 高橋 智<sup>1)</sup>, 田中さゆり<sup>1)</sup>, 谷野美智枝<sup>1)</sup>, 福田 悠 ( <sup>1)</sup> 東京びまん性肺疾患研究会) : 血管型 Ehlers-Danlos 症候群の肺病変の特徴と病理診断的意義. 日本病理学会総会 (第97回), 2008. 5.
- 9) 藤田恵美子, 清水 章, 益田幸成, 三井亜希子, 安藝 薫, 石崎正通, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 福田 悠 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門) : ラット半月体形成性腎炎におけるスタチンの腎保護作用. 日本病理学会総会 (第97回), 2008. 5.
- 10) 清水 章, 益田幸成, 功刀しのぶ, 三井亜希子, 藤田恵美子, 安藝 薫, 石川かほり, 石崎正通, 福田 悠 : 腎虚血性尿管壊死後の再生・修復へのマトリックスメタロプロテアーゼ-2の関与. 日本病理学会総会 (第97回), 2008. 5.
- 11) 安藝 薫, 三井亜希子, 清水 章, 益田幸成, 藤田恵美子, 石崎正通, 杉崎祐一, 福田 悠 : 抗GBM腎炎におけるアンジオテンシンII受容体拮抗薬の抗炎症作用. 日本病理学会総会 (第97回), 2008. 5.
- 12) 小野ゆり<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 脇田知志<sup>1)</sup>, 河本陽子<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 土屋真一<sup>2)</sup>, 福田 悠, 壇 和夫<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 統御機構・腫瘍学, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 病理部, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院 内科 血液・消化器・代謝内分泌部門) : Crystal depositionを肺・腎に認めた多発骨髄腫の1例. 日本病理学会総会 (第97回), 2008. 5.
- 13) 功刀しのぶ, 田村浩一<sup>1)</sup>, 富樫真由子, 福田 悠 ( <sup>1)</sup> 東京通信病院病理) : Floppy mitral valve (FMV) にて弁形成術後に弁置換術となった4症例の縫合部損傷治療過程の病理学的検討. 日本病理学会総会 (第97回), 2008. 5.
- 14) 富樫真由子, 高橋美紀子, 康 徳東, 山元滋樹, 功刀しのぶ, 福田 悠 : びまん性肺胞障害 (DAD) 繊維化形成における MMPs と TIMPs. 日本病理学会総会 (第97回), 2008. 5.
- 15) 水谷康彦<sup>1)</sup>, 秋元直彦<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup>, 横山宗伯<sup>3)</sup>, 岸田由起子, 富樫真由子, 福田 悠 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学医学部 医学科, <sup>2)</sup> 東京通信病院病理, <sup>3)</sup> 東京警察病院病理) : 上縦隔に発生した epitheloid hemangioendothelioma の1例. 日本病理学会総会 (第97回), 2008. 5.
- 16) 安藝 薫, 三井亜希子, 清水 章, 益田幸成, 藤田恵美子, 石崎正通, 杉崎祐一, 福田 悠 : 抗GBM腎炎におけるアンジオテンシンII受容体拮抗薬の抗炎症作用. 日本腎臓学会学術総会 (第51回), 2008. 5.
- 17) 藤田恵美子, 清水 章, 益田幸成, 三井亜希子, 安藝 薫, 石崎正通, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 福田 悠 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門) : ラット半月体形成性腎炎におけるスタチンの腎保護作用. 日本腎臓学会学術総会 (第51回), 2008. 5.
- 18) 山元滋樹, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 石川吾利美, 福田 悠 : 小葉中心性肺気腫における肺胞構造改変. 日本医科大学医学会総会 (第79回), 2008. 9.
- 19) 田辺真樹<sup>1)</sup>, 清水 章, 益田幸成, 福田 悠 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学医学部 医学科) : 腎臓発生過程におけるリンパ管形成と分布. 日本医科大学医学会総会 (第79回), 2008. 9.
- 20) 安達彰子<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 佐佐木喜広<sup>1)</sup>, 石崎正通, 若松恭子, ガジザデモハammad<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 中央電子顕微鏡研究施設) : 腎生検で見られたBK様ウィルスの電顕観察. 日本臨床分子形態学会 (第40回), 2008. 10.
- 21) 上原朋子<sup>1)</sup>, 遠海重裕<sup>1)</sup>, 五月女由美子<sup>1)</sup>, 松山 健<sup>1)</sup>, 坂井智行<sup>2)</sup>, 濱崎祐子<sup>2)</sup>, 石倉健司<sup>2)</sup>, 幡谷浩史<sup>2)</sup>, 本田雅敬<sup>2)</sup>, 緒方謙太郎<sup>3)</sup>, 三井亜希子, 清水 章 ( <sup>1)</sup> 公立福生病院小児科, <sup>2)</sup> 東京都立清瀬小児病院, <sup>3)</sup> 国家

公務員共済組合連合会立川病院病理科)：多彩な病理像を示したステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の1例．関東小児腎臓研究会（第75回），2009．1．

(7) ミニシンポジウム：

- 1) 渡邊 哲<sup>1)</sup>，河端美則<sup>2)</sup>，酒井文和<sup>2)</sup>，福田 悠，叶内 哲<sup>2)</sup>，青島正大<sup>2)</sup>，岡 輝明<sup>2)</sup>，山口昭三郎<sup>2)</sup>，白木晶<sup>2)</sup>，中野恭幸<sup>2)</sup>，旗持 淳<sup>2)</sup>，河村哲治<sup>2)</sup>，内山隆司<sup>2)</sup>，富島 裕<sup>2)</sup>，渡邊 淳<sup>2)</sup>，その他5名（<sup>1)</sup> 千葉大学，<sup>2)</sup> 東京びまん性肺疾患研究会）：血管型Ehlers-Danlos症候群の肺病変の検討：病理学的疑診断を含めた16例の解析．日本呼吸器学会総会（第48回），2008．6．

(8) 誌上発表：

- 1) Mii A, Shimizu A, Masuda Y, Ishizaki M, Kawachi H<sup>1)</sup>, Iino Y<sup>2)</sup>, Katayama Y<sup>2)</sup>, Fukuda Y（<sup>1)</sup> Cell Biology Institute of Nephrology, Niigata University, <sup>2)</sup> Department of Inter Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology）：Angiotensin II Receptor Blockade Inhibits Acute Glomerular Injuries in Glomerulonephritis with the Alteration of Receptors Expression．American Society of Nephrology（Philadelphia），2008．11．



## 9. 病理学講座（統御機構・腫瘍学）

### 研究概要

病理学講座（統御機構・腫瘍学）－旧病理学第二講座－では消化器腫瘍を中心とした消化器疾患につき、有効な診断法と新たな分子標的治療法の開発を目的とした研究を行なっている。

1) 消化器腫瘍の増殖，転移機序の研究と治療への応用：膵臓癌と消化管の癌（食道，胃，大腸癌）について培養癌細胞，実験動物モデル，ヒト病理組織標本などを用いて検討を行なっている。特に腫瘍細胞と間質細胞における細胞外基質，細胞増殖因子と受容体の発現を免疫組織化学染色法やin situ hybridization法とreal-time PCR法，siRNA，遺伝子導入法などの分子病理学的手法を併せて総合的に研究している。細胞増殖因子では線維芽細胞増殖因子（FGF）ファミリーのFGF-7/KGFとその受容体のKGFRおよびFGFR2のアイソフォームであるFGFR2 IIIb, IIIc受容体の発現とその役割について検討している。細胞外基質では小型ロイシンリッチプロテオグリカンのファミリーのlumicanについて主に研究を行っている。これら細胞外基質や増殖因子の作用機構について，細胞骨格や細胞内シグナル伝達系との関連に注目し，細胞内における情報発現の調節機構の解明を試みている。更に細胞増殖因子と細胞外基質の相互関連，相互作用についての検討，これら細胞増殖因子受容体に対する中和抗体投与による増殖抑制効果について研究している。また近年注目されている，前駆細胞や幹細胞で発現する中間径フィラメントのNestinについて，膵臓癌での発現と増殖，遊走，浸潤への関与を研究している。

2) 膵炎の発症，進展における細胞増殖因子の役割の研究：急性および慢性膵炎の病態の増悪と，組織の再生・回復過程に関与する細胞増殖因子と細胞外基質の発現と局在を，形態学的また遺伝子レベルで解析し，それらの発現の制御や膵臓幹細胞同定・分化誘導による治療の可能性について検討している。

3) 腫瘍，炎症性疾患，変性疾患における血管，リンパ管の増殖機序の検討：腫瘍の増殖，転移や肉芽組織の形成における血管，リンパ管の増殖，分化や動脈硬化症の進展には細胞外基質や細胞増殖因子が関与しており，その制御について研究を行っている。本年度は大腸癌においてKGFが，癌細胞のVEGF-A発現を誘導すること，膵臓癌におけるNestinの発現が神経浸潤，後腹膜浸潤と関連し癌細胞の遊走，浸潤に重要な役割を果たしていることを報告した。今後も消化器疾患の有効な診断，分子標的治療法の開発をめざして，一層の努力を続けるつもりである。

### 研究業績

#### 論文

〔追加分〕

追加分症例報告：

- 1) 米山剛一<sup>1)</sup>，高屋 茜<sup>1)</sup>，岩崎奈央<sup>1)</sup>，阿部裕子<sup>1)</sup>，市川雅男<sup>1)</sup>，三浦 敦<sup>1)</sup>，山田 隆<sup>1)</sup>，石川温子<sup>1)</sup>，竹下俊行<sup>1)</sup>，松田陽子，川本雅司<sup>2)</sup>，土屋真一<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 女性診療科・産科，<sup>2)</sup> 付属病院病理部）：術前組織診断に苦慮した子宮頸部condylomatous carcinomaの1例。日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2008；57（1）：42-46。

(1) 原著：

- 1) Kakinuma D<sup>1)</sup>，Yoshida H<sup>1)</sup>，Mamada Y<sup>1)</sup>，Taniai N<sup>1)</sup>，Mizuguchi Y<sup>1)</sup>，Takahashi T<sup>1)</sup>，Shimizu T<sup>1)</sup>，Ishikawa Y<sup>1)</sup>，Akimaru K<sup>1)</sup>，Naito Z，Tajiri T<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Department of Surgery）：Quantitative analysis of fluorouracil-related genes in chronic viral hepatitis using microdissection. Hepatogastroenterology 2008；55（84）：826-830。
- 2) Yokohira M<sup>1)</sup>，Hosokawa K<sup>1)</sup>，Yamakawa K<sup>1)</sup>，Saoo K<sup>1)</sup>，Matsuda Y，Zeng Y<sup>1)</sup>，Kuno T<sup>1)</sup>，Imaida K<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Department of Pathology and Host-Defence, Faculty of Medicine, Kagawa Univ）：Potential inhibitory effects

- of D-allose, a rare sugar, on liver preneoplastic lesion development in F344 rat medium-term bioassay. *J Biosci Bioeng* 2008 ; 105 (5) : 545-553.
- 3) Yokohira M<sup>1)</sup>, Kuno T<sup>1)</sup>, Yamakawa K<sup>1)</sup>, Hosokawa K<sup>1)</sup>, Matsuda Y, Hashimoto N<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Saoo K<sup>1)</sup>, Imaida K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Onco-Pathology, Department of Pathology and Host-Defense, Faculty of Medicine, Kagawa Univ) : Lung toxicity of 16 fine particles on intratracheal instillation in a bioassay model using f344 male rats. *Toxicol Pathol* 2008 ; 36 (4) : 620-631.
  - 4) Ikegawa S<sup>1)</sup>, Yamamoto T, Ito H<sup>1)</sup>, Ishiwata S<sup>1)</sup>, Sakai T<sup>1)</sup>, Mitamura K<sup>1)</sup>, Maeda M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kinki University, <sup>2)</sup> School of Pharmaceutical Sciences of Showa University) : Immunoprecipitation and MALDI-MS identification of lithocholic acid-tagged proteins in liver of bile duct-ligated rats. *J Lipid Res* 2008 ; 49 (11) : 2463-2473.
  - 5) Yokohira M<sup>1)</sup>, Hosokawa K<sup>1)</sup>, Yamanaka K<sup>1)</sup>, Hashimoto N<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Matsuda Y, Saoo K<sup>1)</sup>, Kuno T<sup>1)</sup>, Imaida K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Onco-Pathology, Department of Pathology and Host-Defense, Faculty of Medicine, Kagawa Univ) : A 90-day toxicity study of L-asparagine, a food additive, in F344 rats. *Food Chem Toxicol* 2008 ; 46 (7) : 2568-2572.
  - 6) Yokohira M<sup>1)</sup>, Yamakawa K<sup>1)</sup>, Saoo K<sup>1)</sup>, Matsuda Y, Hosokawa K<sup>1)</sup>, Hashimoto N<sup>1)</sup>, Kuno T<sup>1)</sup>, Imaida K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Pathology and Host-Defence, Faculty of Medicine, Kagawa Univ.) : Antioxidant effects of flavonoids used as food additives (purple corn color, enzymatically modified isoquercitrin, and isoquercitrin) on liver carcinogenesis in a rat medium-term bioassay. *J Food Sci* 2008 ; 73 (7) : C561-C568.
  - 7) Yokohira M<sup>1)</sup>, Takeuchi H<sup>1)</sup>, Saoo K<sup>1)</sup>, Matsuda Y, Yamakawa K<sup>1)</sup>, Hosokawa K<sup>1)</sup>, Kuno T<sup>1)</sup>, Imaida K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Onco-Pathology, Department of Pathology and Host-Defense, Faculty of Medicine, Kagawa University) : Establishment of a bioassay model for lung cancer chemoprevention initiated with 4- (methylnitrosamino) -1-(3-pyridyl) -1-butanone (NNK) in female A/J mice. *Exp Toxicol Pathol* 2008 ; 60 (6) : 469-473.
  - 8) Tani A<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Taniai N<sup>1)</sup>, Naito Z, Tajiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation ) : Case of biliary cystadenocarcinoma with intracystic bleeding. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (5) : 293-297.
  - 9) Aimoto T<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Matsushita A<sup>1)</sup>, Katsuno A<sup>1)</sup>, Chou K<sup>1)</sup>, Kawamoto M<sup>1)</sup>, Naito Z, Tajiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery) : Multicentric pancreatic intraepithelial neoplasias (PanINs) presenting with the clinical features of chronic pancreatitis. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 2008 ; 15 (5) : 549-553.
  - 10) Mabuchi A<sup>1)</sup>, Nagao T<sup>2)</sup>, Koshio O<sup>2)</sup>, Ishiwata T, Yano A<sup>2)</sup>, Suzuki K<sup>2)</sup>, Yokomuro K<sup>2)</sup>, Wheatley-M A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Physiology, Otago University, New Zealand, <sup>2)</sup> Department of Microbiology and Immunology) : Role of F4/80Mac-1 adherent non-parenchymal liver cells in concanavalin A-induced hepatic injury in mice. *Hepato Res* 2008 ; 38 (10) : 1040-1049.
  - 11) Kuno T<sup>1)</sup>, Yokohira M<sup>1)</sup>, Matsuda Y, Suzuki S<sup>1)</sup>, Hashimoto N<sup>1)</sup>, Yamakawa K<sup>1)</sup>, Saoo K<sup>1)</sup>, Imaida K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Onco-Pathology, Department of Pathology and Host-Defence, Faculty of Medicine, Kagawa University) : Lack of modifying potential of 8-methoxypsoralen in the promotion or progression stages of lung carcinogenesis in A/J female mice. *Oncol Rep* 2008 ; 20 (4) : 767-772.
  - 12) Ikegawa S<sup>1)</sup>, Yamamoto T, Miyashita T<sup>1)</sup>, Okihara R<sup>1)</sup>, Ishiwata S<sup>1)</sup>, Sakai T<sup>1)</sup>, Chong R<sup>1)</sup>, Maeda M<sup>2)</sup>, Hofmann-F A<sup>3)</sup>, Mitamura K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kinki University, <sup>2)</sup> School of Pharmaceutical Sciences of Showa University, <sup>3)</sup> Department of Medicine, University of California, San Diego, USA) : Production and characterization of a monoclonal antibody to capture proteins tagged with lithocholic acid. *Anal Sci* 2008 ; 24 (11) : 1475-1480.

- 13) Matsuda Y, Yamamoto T, Kudo M, Kawahara K, Kawamoto M<sup>1</sup>, Nakajima Y<sup>2</sup>, Koizumi K<sup>2</sup>, Nakazawa N, Ishiwata T, Naito Z <sup>(1)</sup> Division of Pathology, NMS Hospital, <sup>(2)</sup> Department of Biological Regulation and Regenerative Surgery, Graduate School of Medicine) : Expression and roles of lumican in lung adenocarcinoma and squamous cell carcinoma. *Int J Oncol* 2008 ; 33 (6) : 1177-1185.
- 14) Iida S<sup>1</sup>, Furukawa K<sup>1</sup>, Yanagihara K<sup>1</sup>, Iwasaki R<sup>1</sup>, Kurita T<sup>1</sup>, Tsuchiya S<sup>2</sup>, Naito Z, Haga S<sup>1</sup>, Tajiri T<sup>1</sup> <sup>(1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation, <sup>(2)</sup> Division of Pathology, NMS Hospital) : An analysis of factors that influence the duration of suction drainage in breast cancer surgery. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (6) : 332-336.
- 15) Kato S<sup>1</sup>, Matsukura N<sup>1</sup>, Matsuda N<sup>1</sup>, Tsuchiya S<sup>2</sup>, Naito Z, Tajiri T<sup>1</sup> <sup>(1)</sup> Department of Surgery, <sup>(2)</sup> Division of Diagnostic Pathology, NMS Hospital) : Normalization of pH level and gastric mucosa after eradication of *H. pylori* in the remnant stomach. *J Gastroenterol Hepatol* 2008 ; 23 (Suppl 2) : S258-S261.
- 16) Liu A<sup>1,2</sup>, Sugisaki Y<sup>1</sup>, Hosone M<sup>2</sup>, Namimatsu S<sup>2</sup>, Maeda S<sup>1</sup>, Naito Z, Ghazizadeh M<sup>1</sup> <sup>(1)</sup> Central Institute for Electron Microscopic Researches, <sup>(2)</sup> Division of Pathology, TamaNagayama Hospital) : CD30-positive DLBCL with microvillous features : So-called microvillous lymphoma. *J Clin Pathol* 2009 ; Epub.
- 17) Narita K<sup>1</sup>, Fujii T, Ishiwata T, Yamamoto T, Kawamoto Y, Kawahara K, Nakazawa N, Naito Z <sup>(1)</sup> School of Medicine) : Keratinocyte growth factor induces vascular endothelial growth factor-A expression in colorectal cancer cells. *Int J Oncol* 2009 ; 34 (2) : 355-360.
- 18) Kawamoto M<sup>1,2</sup>, Ishiwata T<sup>1</sup>, Cho K<sup>1,2</sup>, Uchida E<sup>2</sup>, Korc M<sup>3</sup>, Naito Z<sup>1</sup>, Tajiri T<sup>2</sup> <sup>(1)</sup> Department of Pathology, Integrative Oncological Pathology, <sup>(2)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation, <sup>(3)</sup> Department of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, NH, USA) : Nestin expression correlates with nerve and retroperitoneal tissue invasion in pancreatic cancer. *Human Pathol* 2009 ; 40 (2) : 189-198.
- 19) Yokohira M<sup>1</sup>, Matsuda Y, Suzuki S<sup>1</sup>, Hosokawa K<sup>1</sup>, Yamakawa K<sup>1</sup>, Hashimoto N<sup>1</sup>, Saoo K<sup>1</sup>, Nabae K<sup>1</sup>, Doi Y<sup>1</sup>, Kuno T<sup>1</sup>, Imaida K<sup>1</sup> <sup>(1)</sup> Dept. of Pathology and Host-Defense, Faculty of Medicine, Kagawa Univ.) : Equivocal colonic carcinogenicity of *Aloe arborescens* Miller var. *natalensis* berger at high-dose level in a Wistar Hannover rat 2-y study. *J Food Sci* 2009 ; 74 (2) : T24-T30.

(2) 症例報告 :

- 1) Kan H<sup>1</sup>, Suzuki H<sup>1</sup>, Shinji S<sup>1</sup>, Naito Z, Furukawa K<sup>1</sup>, Tajiri T<sup>1</sup> <sup>(1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : Case of an inflammatory fibroid polyp of the cecum. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (3) : 181-186.
- 2) 上田純志<sup>1</sup>, 中村慶春<sup>1</sup>, 内田英二<sup>1</sup>, 相本隆幸<sup>1</sup>, 張一光<sup>1,2</sup>, 川本聖郎<sup>1,2</sup>, 田尻孝<sup>1</sup> <sup>(1)</sup> 臓器病態制御外科学, <sup>(2)</sup> 統御機構病理学) : 側副血行路の発達した膵粘液性嚢胞腺腫に対し腹腔鏡下尾側膵切除術を施行した1例. *膵臓* 2008 ; 23 (6) : 734-738.
- 3) 前田昭太郎<sup>1</sup>, 片山博徳<sup>1</sup>, 岩瀬裕美<sup>1</sup>, 内藤善哉 <sup>(1)</sup> 多摩永山病院病理部) : 症例解説 細胞診 体腔液細胞診による胸膜中皮腫の確定診断法. *病理と臨床* 2008 ; 26 (7) : 738-740.
- 4) 田中貴久<sup>1</sup>, 根井貴仁<sup>2</sup>, 臼杵二郎<sup>2</sup>, 松本亜紀<sup>2</sup>, 森本泰介<sup>2</sup>, 神尾孝一郎<sup>2</sup>, 斉藤好信<sup>2</sup>, 阿部信二<sup>2</sup>, 吾妻安良太<sup>2</sup>, 工藤翔二<sup>2</sup>, 弦間昭彦<sup>2</sup>, 功刀しのぶ<sup>3</sup>, 許田典男, 福田 悠<sup>3</sup> <sup>(1)</sup> 付属病院研修医, <sup>(2)</sup> 内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>(3)</sup> 解析人体病理学) : CPC日常臨床から学ぶ この症例の新しい意義は? 間質性肺炎の長期経過中に複数の感染症を併発し死亡した1例. *THE LUNG perspectives* 2008 ; 16 (3) : 314-320.

(3) 解説 :

- 1) 前田昭太郎<sup>1</sup>, 細根 勝<sup>1</sup>, 片山博徳<sup>1</sup>, 内藤善哉 <sup>(1)</sup> 多摩永山病院病理部) : 【アスベストと中皮腫】 アスベストの診断・中皮腫の診断 組織診 細胞・組織構築所見による診断. *臨床検査* 2008 ; 52 (9) : 995-1002.

## 著 書

- 1) 内藤善哉：〔分担〕細胞診, 特殊染色関連項目 (正診率, 色素排除試験, スタンIII染色, 硝子化など). 医学大辞典 第2版 (伊藤正男・井村裕夫・高久史磨), 2009 ; pp1542-1542, 医学書院.

## 学会発表

### (1) ワークショップ：

- 1) 松田陽子<sup>1)</sup>, 山本哲志<sup>1)</sup>, 工藤光洋<sup>1)</sup>, 川原清子<sup>1)</sup>, 河本陽子<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>1,2)</sup>, 中島由貴<sup>3)</sup>, 小泉 潔<sup>3)</sup>, 中澤南堂<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 病理学講座 (統御機構・腫瘍学), <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院病理部, <sup>3)</sup> 日本医科大学外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器外科)) : Lumican in Lung Cancer Cells and Stromal Tissues ; Its clinicopathological significance. 日本癌学会学術総会 (第67回), 2008. 10.

### (2) 一般講演：

- 1) Matsuda Y<sup>1,2)</sup>, Nakazawa N<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Saoo K<sup>2)</sup>, Imaida K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 病理学講座 (統御機構・腫瘍学), <sup>2)</sup> 香川大学 腫瘍病理学) : Effects of high fat diet to MeIQx-induced lung tumorigenesis. American association for cancer research annual meeting (99th) (San Diego, USA), 2008. 4.
- 2) Peng W, Ono Y, Onda M, Matsuda Y, Motoda N, Hayama A<sup>1)</sup>, Sato H<sup>1)</sup>, Gocho Y<sup>2)</sup>, Adachi K<sup>2)</sup>, Tsuchiya S<sup>1)</sup>, Hirato J<sup>2)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Division of Pathology, NMS Hospital, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Gunma University Hospital) : A 0-years-old boy case of choroid plexus carcinoma in lateral ventricle. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (15th) (Tokyo, JAPAN), 2008. 11.
- 3) Hosone M<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>1)</sup>, Liu A<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Division of Pathology, Tama-Nagayama Hospital) : A case of plasmacytoid dendritic cell tumor : newly described agranular CD4+/CD56+ hematodermic neoplasms. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (15th) (Tokyo, JAPAN), 2008. 11.
- 4) Ishigaki S<sup>1)</sup>, Uchiyama S<sup>2)</sup>, Motoda N, Matsuda Y, Onda M, Tsuchiya S<sup>3)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School, 5th year, <sup>2)</sup> Nippon Medical School, 3th year, <sup>3)</sup> Division of Pathology, NMS Hospital) : A case of the transformation of neurocutaneous melanosis into malignant melanoma. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (15th) (Tokyo, JAPAN), 2008. 11.
- 5) Ishiwata T<sup>1)</sup>, Kawamoto M<sup>1,2)</sup>, Kawamoto Y<sup>1)</sup>, Teduka K<sup>1)</sup>, Matsuda Y<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>, Korc M<sup>3)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Integrative Oncological Pathology, <sup>2)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation, <sup>3)</sup> Department of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, NH, USA) : FGFR2IIIc is expressed in pancreatic cancer and enhances cancer cell growth. American Pancreatic Association Annual Meeting (39th) (Chicago, USA), 2008. 11.
- 6) Peng W, Ono Y, Onda M, Motoda N, Tsuchiya S<sup>1)</sup>, Hirato J<sup>2)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Division of Pathology, NMS Hospital, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Gunma University Hospital) : A case report of choroid plexus carcinoma in lateral ventricle. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (16th) (Pattaya, Thailand), 2009. 1.
- 7) Ishigaki S<sup>1)</sup>, Uchiyama S<sup>2)</sup>, Motoda N, Matsuda Y, Onda M, Azuma K<sup>3)</sup>, Katayama H<sup>3)</sup>, Liu A<sup>3)</sup>, Maeda S<sup>3)</sup>, Tsuchiya S<sup>4)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School, 5th year, <sup>2)</sup> Nippon Medical School, 3th year, <sup>3)</sup> Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, <sup>4)</sup> Division of Pathology, NMS Hospital) : A case of the transformation of neurocutaneous melanosis into malignant melanoma ; Part 1 (Cytological and histopathological findings). Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (16th) (Pattaya, Thailand), 2009. 1.
- 8) Uchiyama S<sup>1)</sup>, Ishigaki S<sup>2)</sup>, Motoda N, Matsuda Y, Onda M, Azuma K<sup>3)</sup>, Katayama H<sup>3)</sup>, Liu A<sup>3)</sup>, Maeda S<sup>3)</sup>, Tsuchiya S<sup>4)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School, 3th year, <sup>2)</sup> Nippon Medical School, 5th year, <sup>3)</sup> Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, <sup>4)</sup> Division of Clinical Pathology, NMS Hospital) : A case of the transformation of neurocutaneous melanosis into malignant melanoma ; Part 2 (Immunohisto-

chemical and Ultrastructural findings). Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (16th) (Pat-taya, Thailand), 2009. 1.

- 9) 石川温子<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子<sup>1,2)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 統御機構病理学 ): Expressions of keratinocyte growth factor and its receptor in human endometrial cancer in cooperation with steroid hormones. 日本産婦人科学会総会 (第60回), 2008. 4.
- 10) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 堀場浩二<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 石渡俊行, 内藤善哉, 田尻 孝<sup>3)</sup>, その他5名 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院病理部, <sup>3)</sup> 臓器病態制御外科学 ): 大腸低分化腺癌の免疫組織学的検討. 日本外科学会総会 (第108回), 2008. 5.
- 11) 許田典男, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 西村秀司<sup>2)</sup>, 林 達之<sup>2)</sup>, 小野ゆり, 松田陽子, 恩田宗彦, 細根 勝<sup>3)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 東京警察病院病理部, <sup>2)</sup> 東京警察病院内科, <sup>3)</sup> 多摩永山病院病理部 ): 難治性下痢を呈し生前に診断し得なかった鼻型NK/T細胞リンパ腫の剖検例. 日本病理学会総会 (第97回), 2008. 5.
- 12) 小野ゆり, 恩田宗彦, 脇田知志<sup>1)</sup>, 河本陽子, 石渡俊行, 土屋眞一<sup>2)</sup>, 福田 悠<sup>3)</sup>, 壇 和夫<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 付属病院内科 (血液内科・消化器内科・内分泌代謝内科), <sup>2)</sup> 付属病院病理部, <sup>3)</sup> 解析人体病理学 ): Crystal deposition を肺・腎に認めた多発骨髄腫の1例. 日本病理学会総会 (第97回), 2008. 5.
- 13) 川原清子, 石渡俊行, 藤井雄文, 手塚 潔, 鈴木妙子, 河本陽子, 松田陽子, 山本哲志, 中澤南堂, 内藤善哉 : Lumican 安定過剰発現株を用いたlumicanの役割の検討. 日本病理学会総会 (第97回), 2008. 5.
- 14) 藤井雄文, 成田宏介<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 川原清子, 手塚 潔, 小野ゆり, 工藤光洋, 恩田宗彦, 中澤南堂, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 医学部6学年 ): 大腸癌細胞におけるkeratinocyte growth factorの血管増殖因子発現誘導. 日本病理学会総会 (第97回), 2008. 5.
- 15) 山本哲志, 石渡俊行, 川原清子, 藤井雄文, 小野ゆり, 松田陽子, 恩田宗彦, 内藤善哉 : 小型ロイシンリッチプロテオグリカンlumicanによる膵臓癌の増殖・浸潤への影響. 日本病理学会総会 (第97回), 2008. 5.
- 16) 松田陽子, 小野ゆり, 藤井雄文, 許田典男, 恩田宗彦, 阿部正徳<sup>1)</sup>, 小川俊一<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>2)</sup>, 石渡俊行, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 付属病院小児科, <sup>2)</sup> 付属病院病理部 ): 特徴的な肝細胞ミトコンドリアの変化を示したReye様症候群の剖検例. 日本病理学会総会 (第97回), 2008. 5.
- 17) 川本聖郎, 石渡俊行, 内田英二<sup>1)</sup>, 恩田宗彦, 工藤光洋, 小野ゆり, 松田陽子, 山本哲志, 川原清子, 藤井雄文, 手塚 潔, 河本陽子, 鈴木妙子, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉, その他3名 ( <sup>1)</sup> 臓器病態制御外科学 ): 膵臓におけるNestinの発現と浸潤能との関連. 日本病理学会総会 (第97回), 2008. 5.
- 18) 石渡俊行, 張 一光<sup>1)</sup>, 鈴木妙子, 手塚 潔, 藤井雄文, 川原清子, 中澤南堂, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 臓器病態制御外科学 ): 膵臓癌におけるFibroblast growth factor receptor 2アイソフォームの発現と役割. 日本病理学会総会 (第97回), 2008. 5.
- 19) 渡會泰彦<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>1)</sup>, 原田 大<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>1)</sup>, 佐藤春明<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 付属病院病理部 ): 病理サイドからみた当院の乳癌カンファランス. 日本臨床細胞学会春期大会 (第49回), 2008. 6.
- 20) 浅川一恵<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>1)</sup>, 原田 大<sup>1)</sup>, 渡會泰彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 付属病院病理部 ): 乳腺原発カルチノイド腫瘍. 日本臨床細胞学会春期大会 (第49回), 2008. 6.
- 21) 釜口晴美<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>1)</sup>, 原田 大<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>1)</sup>, 渡會泰彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 付属病院病理部 ): Pleomorphic lobular carcinomaの1例. 日本臨床細胞学会春期大会 (第49回), 2008. 6.
- 22) 片山博徳<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 岩瀬裕美<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部 ): 中皮腫の早期診断・早期治療 体腔液細胞診における中皮腫の細胞形態的特徴と各種マーカーの検討. 日本臨床細胞学会春期大会 (第49回), 2008. 6.
- 23) 川本聖郎<sup>1,2)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 相本隆幸<sup>2)</sup>, 中村慶春<sup>2)</sup>, 廣井 信<sup>2)</sup>, 張 一光<sup>1,2)</sup>, 山初和也<sup>1,2)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 統御機構病理学, <sup>2)</sup> 臓器病態制御外科学 ): 膵臓におけるNestinの発現の検討. 日本消化器外科学会総会 (第41回), 2008. 7.



- 24) 松下 晃<sup>1)</sup>, 川本聖郎<sup>2,3)</sup>, 中村慶春<sup>2)</sup>, 相本隆幸<sup>2)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院外科, 2) 臓器病態制御外科学, 3) 統御機構病理学): Neuropilin-1の膵癌における生物学的意義, そのintegrin beta1との関連について. 日本消化器外科学学会総会 (第41回), 2008. 7.
- 25) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 石渡俊行, 田尻 孝<sup>3)</sup> (1) 千葉北総病院外科, 2) 千葉北総病院病理部, 3) 臓器病態制御外科学): 胃癌におけるlumicanの発現. 日本消化器外科学学会総会 (第41回), 2008. 7.
- 26) 米山剛一<sup>1)</sup>, 市川雅男<sup>1)</sup>, 高屋 茜<sup>1)</sup>, 三浦 敦<sup>1)</sup>, 山田 隆<sup>1)</sup>, 恩田宗彦, 橋本 洋<sup>2)</sup>, 内藤善哉, 土屋眞一<sup>3)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 女性診療科・産科, 2) 産業医科大学病理学第一, 3) 付属病院病理部): 病理組織診断に苦慮した子宮肉腫の1例. 日本婦人科腫瘍学会学術集会 (第44回), 2008. 7.
- 27) 川本聖郎<sup>1,2)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 張 一光<sup>1,2)</sup>, 山初和也<sup>1,2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 臓器病態制御外科学, 2) 統御機構病理学): 膵炎を契機に発見されたStage I膵腺扁平上皮癌の1例. 日本膵臓学会総会 (第23回), 2008. 7.
- 28) 張 一光<sup>1,2)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 中澤南堂<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 相本隆幸<sup>2)</sup>, 中村慶春<sup>2)</sup>, 松下 晃<sup>2)</sup>, 勝野 暁<sup>2)</sup>, 川本聖郎<sup>1,2)</sup>, 山初和也<sup>1,2)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 統御機構病理学, 2) 臓器病態制御外科学): 膵癌の静脈侵及び肝転移におけるKGF, KGF receptor (KGF<sub>R</sub>) とMMP-9の関与. 日本膵臓学会総会 (第23回), 2008. 7.
- 29) 松下 晃<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 相本隆幸<sup>2)</sup>, 中村慶春<sup>2)</sup>, 川本聖郎<sup>2,3)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院外科, 2) 臓器病態制御外科学, 3) 統御機構病理学): ヒト膵癌におけるNeuropilin-1とc-Met, HGFの関連について. 日本膵臓学会総会 (第23回), 2008. 7.
- 30) 石渡俊行, 張 一光, 川本聖郎, 山本哲志, 川原清子, 手塚 潔, 松田陽子, 中澤南堂, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉 (1) 臓器病態制御外科学): 膵臓癌におけるFibroblast growth factor receptor (FGFR) -2の発現と役割の検討. 日本膵臓学会総会 (第23回), 2008. 7.
- 31) 川本聖郎<sup>1,2)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 相本隆幸<sup>2)</sup>, 中村慶春<sup>2)</sup>, 廣井 信<sup>2)</sup>, 張 一光<sup>1,2)</sup>, 山初和也<sup>1,2)</sup>, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 小野ゆり<sup>1)</sup>, 山本哲志<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 統御機構病理学, 2) 臓器病態制御外科学): 膵癌におけるNestinの発現と浸潤との関連性. 日本膵臓学会総会 (第23回), 2008. 7.
- 32) 山本哲志, 石渡俊行, 川本聖郎, 小野ゆり, 松田陽子, 恩田宗彦, 内田英二, 内藤善哉: Expression of lumican correlates with retroperitoneal invasion and prognosis in pancreatic cancer. 日本癌学会学術総会 (第67回), 2008. 10.
- 33) 石渡俊行, 川本聖郎, 山本哲志, 張 一光, 松田陽子, 小野ゆり, 川原清子, 河本陽子, 中澤南堂, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉 (1) 臓器病態制御外科学): Role of fibroblast growth factor receptor 2 IIIc isoforms in pancreatic cancer cell growth. 日本癌学会学術総会 (第67回), 2008. 10.
- 34) 内藤善哉, 川本聖郎, 張 一光, 山本哲志, 松田陽子, 小野ゆり, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 石渡俊行 (1) 臓器病態制御外科学): Expression of nestin correlates with invasion and migration of pancreatic cancer. 日本癌学会学術総会 (第67回), 2008. 10.
- 35) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 内藤善哉, 田尻 孝<sup>3)</sup> (1) 千葉北総病院外科, 2) 千葉北総病院病理部, 3) 臓器病態制御外科学): 肛門類基底細胞癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第69回), 2008. 10.
- 36) 亀山孝二, 町田 稔<sup>1)</sup>, 柳野美希<sup>2)</sup>, 河合健一<sup>2)</sup>, 清水昭夫<sup>2)</sup>, 手塚 潔, 内藤善哉 (1) 国立がんセンターがん予防・検診研究センター, 2) 創価大学環境共生工学科): 血管の基底膜成分である酸性可溶性IV型コラーゲン分子の微小酸性環境での自己会合性の検討. 日本脈管学会総会 (第48回), 2008. 10.
- 37) 浅川一恵<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 永井祥子<sup>1)</sup>, 原田 大<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 内藤善哉 (1) 付属病院病理部, 2)



- 多摩永山病院病理部)：Primary effusion lymphoma (PEL) の1例。日本臨床細胞学会秋期大会 (第47回)，2008. 11.
- 38) 劉 愛民<sup>1,2)</sup>，モハマッドガジザデ<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>2)</sup>，細根 勝<sup>2)</sup>，東 敬子<sup>2)</sup>，片山博徳<sup>2)</sup>，内藤善哉<sup>(1)</sup> 中央電子顕微鏡研究施，<sup>2)</sup> 多摩永山病院病理部)：捺印細胞診材料から作製した電顕標本が確定診断に有用であった2症例。日本臨床細胞学会秋期大会 (第47回)，2008. 11.
- 39) 中村祐司<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>2)</sup>，松原美幸<sup>2)</sup>，柳本邦雄<sup>1)</sup>，大塚俊司<sup>1)</sup>，石井英昭<sup>1)</sup>，土屋眞一<sup>2)</sup>，内藤善哉<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院病理部，<sup>2)</sup> 付属病院病理部)：ポリープ状異型腺筋腫 (Atypical polypoid adenomyoma：APAM) の細胞像の検討。日本臨床細胞学会秋期大会 (第47回)，2008. 11.
- 40) 前本直子<sup>1)</sup>，大塚俊司<sup>1)</sup>，小峯 修<sup>2)</sup>，片山博徳<sup>3)</sup>，劉 愛民<sup>3)</sup>，中村祐司<sup>1)</sup>，石井英昭<sup>1)</sup>，内藤善哉<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院病理部，<sup>2)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター，<sup>3)</sup> 多摩永山病院病理部)：神経細胞への分化を示す類上皮型GIST (GANT) の1例。日本臨床細胞学会秋期大会 (第47回)，2008. 11.
- 41) 磯部宏昭<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，片山博徳<sup>1)</sup>，柳田裕美<sup>1)</sup>，岩瀬裕美<sup>1)</sup>，日吾美栄子<sup>1)</sup>，鈴木美紀<sup>1)</sup>，野手洋治<sup>2)</sup>，内藤善哉<sup>(1)</sup> 多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup> 多摩永山病院脳神経外科)：術中迅速圧挫細胞診が有用であったPilocytic astrocytomaの2例。日本臨床細胞学会秋期大会 (第47回)，2008. 11.
- 42) 清水秀樹<sup>1)</sup>，大秋美治<sup>1)</sup>，森 修<sup>1)</sup>，小黑辰夫<sup>1)</sup>，新井 悟<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>2)</sup>，岡田 進<sup>3)</sup>，内藤善哉，前田昭太郎<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院病理部，<sup>2)</sup> 千葉北総病院脳神経外科，<sup>3)</sup> 千葉北総病院放射線科，<sup>4)</sup> 多摩永山病院病理部)：細胞診UP-TO-DATE 脳腫瘍のUP-TO-DATE・MRI画像と細胞像。日本臨床細胞学会秋期大会 (第47回)，2008. 11.
- 43) 佐藤春明<sup>1)</sup>，土屋眞一<sup>1)</sup>，林由美子<sup>2)</sup>，福田正彦<sup>3)</sup>，松原美幸<sup>1)</sup>，渡會泰彦<sup>1)</sup>，原田 大<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>1)</sup>，内藤善哉<sup>(1)</sup> 付属病院病理部，<sup>2)</sup> 日本細胞病理ラボラトリー，<sup>3)</sup> 戸田中央臨床検査研究所病理)：乳腺穿刺吸引細胞診 「鑑別困難」，「悪性疑い」の本質に迫る 乳腺細胞診「鑑別困難」「悪性の疑い」の細胞および組織学的解析。日本臨床細胞学会秋期大会 (第47回)，2008. 11.
- 44) 松原美幸<sup>1)</sup>，土屋眞一<sup>1)</sup>，佐藤春明<sup>1)</sup>，渡會泰彦<sup>1)</sup>，原田 大<sup>1)</sup>，内藤善哉，川本雅司<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院病理部)：過剰・過小判定に陥りやすい乳腺の細胞像とその臨床 どのような所見をどのように診断するのか? 過剰・過小判定に陥りやすい乳腺の細胞像とその臨床 線維腺腫。日本臨床細胞学会秋期大会 (第47回)，2008. 11.
- 45) 横山宗伯<sup>1,2)</sup>，岡田真也<sup>1)</sup>，小野ゆり<sup>2)</sup>，渡邊 学<sup>1)</sup>，神山慶也<sup>1)</sup>，山崎京子<sup>1)</sup>，佐藤正明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 東京警察病院病理診断科，<sup>2)</sup> 統御機構・腫瘍学)：細胞・組織診断に難渋した右側頭骨内上皮性腫瘍の1例。日本臨床細胞学会秋期大会 (第47回)，2008. 11.
- 46) 渡邊 学<sup>1)</sup>，岡田真也<sup>1)</sup>，篠原令子<sup>1)</sup>，神山慶也<sup>1)</sup>，山崎京子<sup>1)</sup>，佐藤正明<sup>1)</sup>，小野ゆり<sup>2)</sup>，横山宗伯<sup>1,2)</sup> (<sup>1)</sup> 東京警察病院 病理診断科，<sup>2)</sup> 統御機構・腫瘍学)：痴呆症状で発症し，急速に増大した脊索腫様髄膜腫の1例。日本臨床細胞学会秋期大会 (第47回)，2008. 11.
- 47) 松本綾乃<sup>1)</sup>，宮内靖史<sup>1)</sup>，小林義典<sup>1)</sup>，岡崎怜子<sup>1)</sup>，村田広茂<sup>1)</sup>，山本哲平<sup>1)</sup>，岩崎雄樹<sup>1)</sup>，加藤貴雄<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>，松田陽子，田村浩一<sup>2)</sup>，内藤善哉，林 明聡<sup>1)</sup>，小原俊彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院第一内科，<sup>2)</sup> 東京通信病院病理部)：陳旧性下壁梗塞に伴うMitral Isthmus VTの1剖検例。日本心電学会学術集会 (第25回)，2008. 11.
- 48) 米澤美令<sup>1)</sup>，米山剛一<sup>1)</sup>，市川雅男<sup>1)</sup>，大内 望<sup>1)</sup>，三浦 敦<sup>1)</sup>，渡邊建一郎<sup>1)</sup>，高橋恵理佳<sup>1)</sup>，川瀬里衣子<sup>1,2)</sup>，石川温子<sup>1)</sup>，黒瀬圭輔<sup>1)</sup>，土屋眞一<sup>3)</sup>，竹下俊行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 女性診療科・産科，<sup>2)</sup> 統御機構病理学，<sup>3)</sup> 付属病院病理部)：卵巣悪性細胞腺線維腫の1例。日本産婦人科学会関東連合地方部総会 (第116回)，2008. 11.
- 49) 米山剛一<sup>1)</sup>，川瀬里衣子<sup>1,2)</sup>，松島 隆<sup>1)</sup>，関口敦子<sup>1)</sup>，西田直子<sup>1)</sup>，澤倫太郎<sup>1)</sup>，中井章人<sup>1)</sup>，朝倉啓文<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>3)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>，土屋眞一<sup>3)</sup>，竹下俊行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 女性診療科・産科，<sup>2)</sup> 統御機構病理学，<sup>3)</sup> 付属病院病理部)：羊水塞栓症9症例の臨床病理学的検討。日本産婦人科学会関東連合地方部総会 (第116回)，2008. 11.
- 50) 山本哲志，川原清子，河本陽子，藤井雄文，小野ゆり，松田陽子，恩田宗彦，石渡俊行，内藤善哉：安定過剰発現株を用いたlumicanの機能解析。日本薬学会年会 (第129回)，2009. 3.

## 10. 微生物学・免疫学講座

### 研究概要

当微生物学・免疫学講座では「生体防御システムの解明ならびにその制御」を主目的とし、感染症学および感染免疫学・腫瘍免疫学あるいはアレルギー膠原病学などに関連した研究を展開し将来の医学への応用をめざしている。

感染症学および感染免疫学：[A]HIVに対する免疫応答の検討と感染伝播機構の解明：(1) サルモデルを用いSIV初感染に伴い小腸粘膜内のCD4陽性T細胞が著明に減少することを見いだした。(2) HARRT療法によって血液中のHIV量が検出感度以下になった状況でも腸管内に棲息するCD4陽性の樹状細胞やNKT細胞内がHIVのreservoirとなっており、治療の中断によってこうした部位に潜むウイルスが増殖し体内に散布されることを見いだした。(3) HIVは母乳中のマクロファージ群の表面に発現したDC-SIGNを介して児のCD4陽性細胞群に伝播されるが、この感染伝播はPoly (IC) などのdsRNAによりTLR3が刺激されること、あるいはその結果放出されるインターフェロン群により制御される可能性発見した。(4) IFNのシグナルを欠損した動物にHCVが感染すると相乗的なリンパ球増殖反応が誘発され、様々なサイトカイン群が放出されることを見いだした。

腫瘍免疫学：[B]粘膜免疫を介した抗腫瘍免疫の誘導：(1) 腫瘍抗原を粘膜アジュバントであるコレラ毒素とともに経口投与すると全身免疫のみならず粘膜内に強い腫瘍特異的CTLが誘導され、粘膜のみならず皮膚腫瘍の増殖が抑制された。(2) また膀胱内にBCGを注入することにより膀胱癌の再発が優位に抑制されることを確認し、それにはBCGによって活性化された $\gamma\delta$ 型T細胞やNKT細胞の存在が抗腫瘍作用を発揮することが認められた。(3) 腫瘍細胞上の共刺激分子であるB72及びB7-H2が腫瘍増殖の鍵を握る分子であることを突き止めた。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Wakabayashi A, Nakagawa Y, Shimizu M, Moriya K, Nishiyama Y, Takahashi H : Suppression of an already established tumor growing through activated mucosal CTLs induced by oral administration of tumor antigen with cholera toxin. *Journal of Immunology* 2008 ; 180 (6) : 4000-4010.
- 2) Fukazawa Y<sup>1)</sup>, Miyake A<sup>1,2)</sup>, Ibuki K<sup>1)</sup>, Inaba K<sup>1)</sup>, Saito N<sup>1)</sup>, Motohara M<sup>1)</sup>, Horiuchi R<sup>1)</sup>, Himeno A<sup>1)</sup>, Matsuda K<sup>1)</sup>, Matsuyama M<sup>1)</sup>, Takahashi H, Hayami M<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>1)</sup>, Miura T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Laboratory of Primate Model, Experimental Research Center for Infectious Diseases, Institute for Virus Research, Kyoto University, <sup>2)</sup> Department of Medical Genome Sciences, Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo) : Small intestine CD4<sup>+</sup> T cells are profoundly depleted during acute simian-human immunodeficiency virus infection, regardless of viral pathogenicity. *Journal of Virology* 2008 ; 82 (12) : 6039-6044.
- 3) Higuchi T, Shimizu M, Owaki A, Takahashi M, Shinya E, Nishimura T, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Urology, Nippon Medical School) : A possible mechanism of intravesical BCG therapy for human bladder carcinoma : involvement of innate effector cells for the inhibition of tumor growth. *Cancer Immunology, Immunotherapy* 2009.
- 4) Yamashita T<sup>1,2)</sup>, Tamura H<sup>1)</sup>, Satoh C<sup>1,3)</sup>, Shinya E, Takahashi H, Chen L<sup>4)</sup>, Kondo A<sup>1)</sup>, Tsuji T<sup>2)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Ogata K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Biological Science and Technology, Tokyo University of Science, <sup>3)</sup> Department of Bioregulation, Institute of Development and Aging Science, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Department of Dermatology, Department of Oncology and Institute for Cell Engineering, Johns Hopkins University School of Medicine) : Func-

tional B7. 2 and B7-H2 Molecules on Myeloma Cells Are Associated with a Growth Advantage. *Clinical Cancer Research* 2009 ; 15 (3) : 770-777.

- 5) Machida K<sup>1)</sup>, Kohara TK<sup>1)</sup>, Sekiguch S<sup>1)</sup>, Seike E<sup>5)</sup>, Tone S<sup>6)</sup>, Hayashi Y<sup>7)</sup>, Tobita Y<sup>1)</sup>, Kasama Y<sup>4)</sup>, Shimizu M, Takahashi H, Taya C<sup>8)</sup>, Yonekawa H<sup>8)</sup>, Tanaka N<sup>2, 9)</sup>, Kohara M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Cell Biology, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, <sup>2)</sup> Department of Immunology, Graduate School of Medicine and Faculty of Medicine, University of Tokyo, <sup>3)</sup> Department of Molecular Microbiology and Immunology, University of Southern California, Keck School of Medicine, <sup>4)</sup> Department of Experimental Phylaxiology, Faculty of Medical and Pharmaceutical Sciences, Kumamoto University, Kumamoto, <sup>5)</sup> Department of Internal Medicine, Self-Defense Forces Central Hospital, <sup>6)</sup> Department of Biochemistry, Kawasaki Medical School, <sup>7)</sup> Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, <sup>8)</sup> Laboratory of Animal Science, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, <sup>9)</sup> Department of Molecular Oncology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School) : Hepatitis C virus and disrupted interferon signaling promote lymphoproliferation via type II CD95 and interleukins. *Gastroenterology* 2009 ; Epub ahead of prin.
  - 6) 大藪英一, 井上有紀<sup>1)</sup>, 本多和美<sup>1)</sup>, 野呂瀬嘉彦<sup>1)</sup>, 市村恭子<sup>1)</sup>, 葉山修陽<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 信英会越谷大袋クリニック, <sup>2)</sup> 日本医大千葉北総病院腎臓内科) : 無菌性保証に向けた従属栄養菌培養1. *腎と透析* 2008 ; 65 (別冊) : 160-162.
  - 7) 大藪英一, 井上有紀, 本多和美, 野呂瀬嘉彦, 市村恭子, 葉山修陽 ( <sup>1)</sup> 信英会越谷大袋クリニック, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院腎臓内科) : 無菌性保証に向けた従属栄養菌培養2 : メンブレンフィルタ法の検出感度に関する精度管理. *腎と透析* 2008 ; 65 (別冊) : 163-165.
  - 8) 大藪英一, 葉山修陽, 野呂瀬嘉彦 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院腎臓内科) : 透析液清浄化の指標となる従属栄養菌培養方法の精度管理および測定結果に対する警戒基準 : 処置基準設定のためのジェネラルコンセンサスの形成. *日本透析医会雑誌* 2008 ; 23 (3) : 495-510.
  - 9) 高橋秀実 : 漢方薬の解表作用 : 細胞膜上に局在化した脂質の融解と再分配の誘発. *漢方医学* 2008 ; 33 (1) : 285-290.
  - 10) 若林あや子, 高橋秀実 : 感染症と機能性食品. *日本機能性食品学会誌* 2008 ; 4 (6) : 373-380.
- (2) 総説 :
- 1) 高橋秀実 : HIV 感染伝播における母乳中細胞の役割. *血液フロンティア* 2008 ; 18 (5) : 45-51.
  - 2) 市村恭子, 大藪英一, 栗原 怜 ( <sup>1)</sup> 信英会越谷大袋クリニック, <sup>2)</sup> さいたまつきの森クリニック) : 四肢のしびれ. *腎と透析* 2008 ; 64 (5) : 667-671.
  - 3) 高橋秀実 : HIV に対する防御・細胞性免疫の役割. *治療学* 2008 ; 42 (5) : 72-76.
  - 4) 大藪英一 : 感染症の特徴と予防・治療管理. *医学のあゆみ* 2008 ; 227 (6) : 495-510.
  - 5) 大藪英一, 葉山修陽 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院腎臓内科) : 感染対策. *腎と透析* 2008 ; 65 (増刊号) : 626-629.
  - 6) 高橋秀実 : HIV : ヒト免疫不全ウイルス感染と樹状細胞. *実験医学* 2008 ; 26 (20) : 157-163.
  - 7) 井上有紀, 本多和美, 大藪英一, 葉山修陽, 野呂瀬嘉彦 ( <sup>1)</sup> 信英会越谷大袋クリニック, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院腎臓内科) : 透析液採取時におけるコンタミネーションの発生頻度は1%未満である. *日本透析医学雑誌* 2008 ; 41 (12) : 819-825.
  - 8) 高橋秀実 : 日本医科大学微生物学・免疫学講座. *ウイルス* 2008 ; 58 (2) : 232-234.
  - 9) 高橋秀実 : BCGによる自然免疫の活性化. *泌尿器外科* 2009 ; 22 (2) : 200-202.

(3) 研究報告書 :

- 1) 高橋秀実 : 粘膜免疫賦活によるエイズウイルスの制御母乳を介した感染伝播抑制の制御, 平成20年度厚生労働科

- 学研究費補助金 エイズ対策研究事業 HIV の感染予防に関する研究. 総括・分担研究報告書 2009 ; 82-90.
- 2) 高橋めぐみ, 高橋秀実: 脂質関連分子による持続感染症ウイルス増殖の抑制, 平成20年度厚生労働科学研究費補助金 (エイズ対策研究事業) HIV 感染予防における経粘膜ワクチンの開発に関する研究. 総括・分担研究報告書 2009 ; 5-9.
- 3) 高橋秀実: 粘膜免疫賦活による HIV 感染制御法の開発, 平成20年度厚生労働科学研究費補助金 国際医学協力研究事業 HIV 感染症における免疫応答の解析とその臨床応用に関する研究. 総括・分担研究報告書 2009 ; 20-26.

## 著書

- 1) 高橋秀実, 矢田純一: [監修] リッピンコット・イラストレイテッド免疫学, 2009 ; 丸善出版.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 高橋秀実: アレルギー疾患誘発における新たなメカニズム. 日本小児東洋医学会学術集会 (第32回), 2008. 4.
- 2) 高橋秀実: BCG膀胱内注入療法と自然免疫. 日本泌尿器科学会総会 (第96回), 2008. 4.
- 3) 高橋秀実: 漢方薬の効果に関する免疫学的な考察. お茶の水東洋医学フォーラム (第7回), 2008. 6.
- 4) 高橋秀実: 自然免疫システムと生薬成分: 作用解明における新たな視点. 日本臨床中医薬学会学術大会 (第8回), 2008. 9.
- 5) 中塚雄久<sup>1)</sup>, 高橋秀実, 坂本長逸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学第3内科): Rivavirin による T-Helper1/2細胞バランス調節の免疫学的機序と慢性C型肝炎に対する Interferon 治療効果の関連. 日本肝臓学会大会 (第12回), 2008. 10.
- 6) 高橋秀実: BCGによる自然免疫活性化. BCG注入療法研究会 (第1回), 2008. 11.
- 7) 高橋秀実: 自然免疫と東洋医学. 大阪漢方研究会 (第8回), 2009. 2.

### (2) シンポジウム:

- 1) 熊谷善博: 細胞の可塑性と免疫. さきがけ研究21シンポジウム「遺伝と変化領域」, 2009. 3.

### (3) ワークショップ:

- 1) Takahashi H: Inhibition of DC-SIGN-mediated HIV-1 transmission via breast-feeding by IFN- $\beta$  released through TLR3 mediated signaling. The 21st Joint Scientific Meeting of AIDS Panels (Tokyo), 2008. 9.

### (4) 一般講演:

- 1) Wakabayashi A, Moriya K, Harimoto H, Watari E, Takahashi H: Enhancement of expression of DEC-205 and co-stimulatory molecules in intraepithelial DCs after oral administration of an antigen and its involvement in mucosal CTL induction. 日本免疫学会総会 (第38回), 2008. 12.
- 2) Takaku S, Terabe M<sup>1)</sup>, Ambrosino E<sup>1)</sup>, Peng J<sup>1)</sup>, Takahashi H, Berzofsky AJ<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Vaccine Branch, Center for Cancer Research, National Cancer Institute, National Institute of Health): Blockade of TGF- $\beta$  enhances tumor vaccine efficacy independent of CD4<sup>+</sup> CD25<sup>+</sup> T regulatory cells, NKT cells, IL-13, and IL4R-STAT-6 immunoregulatory pathway. 日本免疫学会総会 (第38回), 2008. 12.
- 3) 高橋秀実: エイズってどんな病気?. 免疫不思議未来2008, 2008. 5.
- 4) Higuchi T, Shimizu M, Owaki A, Mayumi N, Ohmi K, Takahashi H: Possible involvement of innate alert cells activated by the live BCG-infected DCs for intravesical BCG therapy. 日本免疫学会総会 (第38回), 2008. 12.
- 5) Yagi Y, Watanabe E, Satomi M<sup>1)</sup>, Watari E, Takeshita T<sup>1)</sup>, Takahashi H (<sup>1)</sup> 日本医科大学女性診療科・産科): Inhibition of DC-SIGN-mediated HIV-1 transmission via breast-feeding by IFN- $\beta$ . 日本免疫学会総会



- (第38回), 2008. 12.
- 6) Kumagai Y, Takahashi H : Analysis of the interaction between HIV-1-gp120 and  $\beta$ -chemokine receptor by using multivalent V3 epitopes grafted at the immunoglobulin hyper-variable regions. 日本免疫学会総会 (第38回), 2008. 12.
  - 7) Shinya E, Owaki A, Shimizu M, Watanabe E, Takaku S, Watari E, Takahashi H : A quick and easy method of laboratory-scale production for multimeric human GM-CSF towards PBMC-derived DCs. 日本免疫学会総会 (第38回), 2008. 12.
  - 8) Katakura T<sup>1</sup>, Nakatsuka K<sup>1</sup>, Shimizu M, Atsukawa M<sup>1</sup>, Harimoto H, Tamura H<sup>2</sup>, Takahashi H, Sakamoto C<sup>1</sup> (<sup>1</sup> Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, <sup>2</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine) : Ribavirin interfered conversion of CD4<sup>+</sup>CD25<sup>+</sup>FOXP3<sup>+</sup> T-helper cells into CD4<sup>+</sup>CD25<sup>+</sup>FOXP3<sup>+</sup> T-regulatory cells in an Interleukin 10-dependent manner. 日本免疫学会総会 (第38回), 2008. 12.
  - 9) Kobayashi F, Watanabe E, Takeuchi H, Nakagawa Y, Takahashi H : A role of TLR2 in the activation of B-1 cells to produce autoantibodies by Helicobacter pylori urease. 日本免疫学会総会 (第38回), 2008. 12.
  - 10) Negishi Y, Inagaki S, Kumagai Y, Takeshita T<sup>1</sup>, Takahashi H (<sup>1</sup> 日本医科大学女性診療科・産科) : Analysis of dendritic cell in pregnant mice. 日本免疫学会総会 (第38回), 2008. 12.
  - 11) Nakagawa Y, Shimizu M, Matsumura J, Norose Y, Takahashi M, Takahashi H : Rapid loss of CD8<sup>+</sup> HIV-1 gp160-specific murine CTLs by free antigenic peptide in vivo was mediated through apoptosis. 日本免疫学会総会 (第38回), 2008. 12.
  - 12) 樋口智江, 清水真澄, 野呂瀬嘉彦, 近藤幸尋<sup>1</sup>, 西村泰司<sup>1</sup>, 高橋秀実 (<sup>1</sup> 日本医科大学泌尿器科) : BCG膀胱注入療法におけるサイトカイン, 自然免疫を中心とする作用機序の考察. 第96回日本泌尿器科学会総会 (第96回), 2008. 4.
  - 13) 若林あや子, 高橋秀実 : 経口免疫療法と腫瘍制御. 中央大学・日本医科大学合同シンポジウム (東京), 2008. 5.
  - 14) 高久 俊, 大藪英一, 高久千鶴乃, 廣田 薫<sup>1</sup>, 吉永恵実<sup>1</sup>, 平馬直樹<sup>1</sup>, 高橋秀実 (<sup>1</sup> 日本医科大学東洋医学科) : 透析患者QOLの改善における漢方薬の役割. 日本東洋医学会学術総会 (第59回), 2008. 5.
  - 15) 藤田 勇<sup>1</sup>, 平馬直樹<sup>1</sup>, 高久千鶴乃, 高久 俊, 高橋秀実 (<sup>1</sup> 日本医科大学東洋医学科) : 眼窩内刺鍼による動眼神経麻痺に対する鍼灸治療の1例. 日本東洋医学会学術総会 (第59回), 2008. 5.
  - 16) 廣田 薫<sup>1</sup>, 高久 俊, 高久千鶴乃, 吉永恵実<sup>1</sup>, 近江恭子, 平馬直樹<sup>1</sup>, 高橋秀実 (<sup>1</sup> 日本医科大学東洋医学科) : 脾胃湿滯が症状憎悪に影響をもたらしたと考えられる尋常性乾癬の1例. 日本東洋医学会学術総会 (第59回), 2008. 6.
  - 17) 高橋めぐみ, 渡邊恵理, 渡理英二, 高橋秀実 : 脂質代謝阻害剤 etomoxir のSIV及びその宿主細胞に及ぼす影響. 日本ウイルス学会学術集会 (第56回), 2008. 10.
  - 18) 新谷英滋, 大脇敦子, 清水真澄, 渡邊恵理, 松村次郎, 八木幸恵, 高久千鶴乃, 高橋秀実 : Down-regulation of CD1 lipid/glycolipid antigen presentation by HIV-1 Nef in immature dendritic cells. 日本エイズ学会学術集会 (第22回), 2008. 11.
  - 19) 高久千鶴乃, 渡邊恵理, 大脇敦子, 清水真澄, 松村次郎, 渡理英二, 新谷英滋, 高橋秀実 : 樹状細胞とNKT細胞の相互作用によるHIV-1感染拡大の可能性. 日本エイズ学会学術集会 (第22回), 2008. 11.
  - 20) 松村次郎, 大脇敦子, 清水真澄, 近江恭子, 秋山純一<sup>1</sup>, 本田元人<sup>2</sup>, 菊池 嘉<sup>2</sup>, 新谷英滋, 岡 慎一<sup>2</sup>, 高橋秀実 (<sup>1</sup> 国立国際医療センター消化器内科, <sup>2</sup> 国立国際医療センターエイズ治療開発研究センター) : HIV患者の腸管粘膜における感染細胞とプロウイルス DNAの検索. 日本エイズ学会学術集会 (第22回), 2008. 11.

## 11. 衛生学・公衆衛生学講座

### 研究概要

衛生学・公衆衛生学（環境医学）領域から、社会医学に寄与する研究テーマを選んで、調査研究を行っている。ラボとフィールドの両面から、「人」を最終的な対象とした予防医学を志向した研究内容である。教室の共通研究テーマは、環境アメニティーの改善にともなう免疫能の変動であり、「森林浴」をキーワードにして実施している。H20年度は成人男性を対象に、ホテル内での曝露実験を行なった。長期的な視点で「研究」をすすめるために、積極的に外部研究資金を獲得することを各スタッフに求めたい。各スタッフの主な研究内容を以下に示す。

- ・交替制勤務者の睡眠習慣・インスリン抵抗性とメタボリック症候群に関する研究（平成20年度科学研究費補助金基盤研究（C））、タバコ依存度質問紙調査法の心理測定上の特性（喫煙科学研究財団研究助成）（川田智之）
- ・シアンの解毒酵素であるメルカプトピルビン酸硫黄転移酵の構造と機能の研究（永原則之）
- ・肝炎流行地域住民の病因と病態との長期的観察（平成20年度科学研究費補助金基盤研究（C））（若山葉子）
- ・免疫系酵素グランザイム3に対するモノクローナル抗体の作製（稲垣弘文）
- ・森林浴の健康に及ぼす影響に関する研究（平成20年度科学研究費補助金基盤研究（S）研究分担）、有機リン農薬による免疫毒性の新機序（平成20年度科学研究費補助金基盤研究（C））（李卿）
- ・コチニンを指標にした喫煙のバイオリジカルモニタリングと、地域における禁煙介入研究（勝又聖夫）
- ・生体の免疫系におけるグランザイム3の役割（検出方法と基質特異性の検討）（平田幸代）
- ・鉛中毒で活性が低下するポルフォビリノーゲン合成酵素の活性化機序に関する研究（澤田典里）
- ・環境要因による呼吸器疾患の発症・増悪リスク、および環境被害で観察される呼吸器障害の個体差（李英姫）
- ・生理学・生化学諸指標を用いた、循環器疾患予防のための包括的研究（大塚俊昭）

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kawada T, Shimizu T, Fujii A, Kuratomi Y, Suto S, Kanai T, Nishime A, Sato K, Otsuka Y : Activity and sleeping time monitored by an accelerometer in rotating shift workers. *Work* 2008 ; 30 (2) : 157-160.
- 2) Kawada T, Amezawa M : Effects of Exercise and Serum Uric Acid on the Metabolic Syndrome for Japanese Workers. *Metabolic Syndrome and Related Disorders* 2008 ; 6 (2) : 137-141.
- 3) Otsuka T, Kawada T, Katsumata M, Ibuki C<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>2)</sup> (1) Department of Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, (2) Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : High-sensitivity C-reactive protein is associated with the risk of coronary heart disease as estimated by the Framingham Risk Score in middle-aged Japanese men. *International Journal of Cardiology* 2008 ; 129 (2) : 245-250.
- 4) Li Y, Takizawa H<sup>1)</sup>, Azuma A<sup>2)</sup>, Kohyama T<sup>3)</sup>, Yamauchi Y<sup>3)</sup>, Takahashi S<sup>4)</sup>, Yamamoto M<sup>4)</sup>, Kawada T, Kudoh S<sup>2)</sup>, Sugawara I<sup>5)</sup> (1) Fourth Department of Internal Medicine, Teikyo University, School of Medicine, (2) Department of Pulmonary Medicine/Infection and Oncology, (3) Department of Respiratory Medicine, University of Tokyo, School of Medicine, (4) Institute of Basic Medical Sciences, University of Tsukuba, (5) Mycobacterial Reference Center, The Research Institute of Tuberculosis) : Disruption of Nrf2 enhances susceptibility to airway inflammatory responses induced by low-dose diesel exhaust particles in mice. *Clin Immunol* 2008 ; 128 (3) : 366-373.



- 5) Kawada T : Agreement rates for sleep/wake judgments obtained via accelerometer and sleep diary : A comparison. *Behavioral Research Methods* 2008 ; 40 (4) : 1026-1029.
- 6) Kawada T, Okada K, Amezawa M : Components of the metabolic syndrome and lifestyle factors in Japanese male workers. *Metabolic Syndrome and Related Disorders* 2008 ; 6 (4) : 263-266.
- 7) Kawada T, Suzuki S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Gunma Industrial Health Promotion Center ) : Physical symptoms and psychological health status by the type of job. *Work* 2008 ; 31 (4) : 397-403.
- 8) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : Chlorpyrifos induces apoptosis in human T cells. *Toxicology* 2009 ; 255 (1-2) : 53-57.
- 9) Okada K<sup>1)</sup>, Kurita A<sup>2)</sup>, Takase B<sup>3)</sup>, Otsuka T, Kodani E<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Fukuinkai Medical Clinic, <sup>3)</sup> Division of Biochemical Engineering, National Defence Medical College Research Institute, <sup>4)</sup> Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School ) : Effects of music therapy on autonomic nervous system activity, incidence of heart failure events, and plasma cytokine and catecholamine levels in elderly patients with cerebrovascular disease and dementia. *International Heart Journal* 2009 ; 50 (1) : 95-110.
- 10) Minami M<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>2)</sup>, Inagaki H, Yamano Y<sup>3)</sup>, Onoue S<sup>1)</sup>, Matsumoto S<sup>1)</sup>, Sasaki T<sup>1)</sup>, Sakai K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Chronic Fatigue Research Center, Institute for Science of Labour, <sup>2)</sup> School of Pharmaceutical Science, Teikyo University, <sup>3)</sup> Department of Hygiene and Preventive Medicine, Showa University School of Medicine ) : Novel tryptamine-related substances, 5-sulphatoxydiacetyltryptamine, 5-hydroxydiacetyltryptamine, and reduced melatonin in human urine and the determination of those compounds, 6-sulphatoxymelatonin, and melatonin with fluorometric HPLC. *J Chromatogr B* 2009 ; 877 (8-9) : 814-822.

(2) 総説 :

- 1) 李 卿 : 森林浴の生体免疫機能への効果. *日本医事新報* 2008 ; (4389) : 66-68.
- 2) 李 卿 : 森林浴による女性看護師の免疫機能への効果. *Aroma Research* 2008 ; 19 (3) : 249-251.
- 3) 李 卿 : 森林浴の抗がん免疫機能への効果. *労働の科学* 2008 ; 63 (8) : 26-30.
- 4) 李 卿, 香川隆英<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 森林総合研究所 ) : 森林浴が働く女性の免疫機能を高める. *季刊 森林総研* 2008 ; 3 : 8-9.

(3) その他 :

- 1) 平田紀美子<sup>1)</sup>, 坂口真弓<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 浅草薬剤師会 ) : 『薬と健康の週間』での薬剤師会活動と役割について. *都薬雑誌* 2008 ; 30 (7) : 51-58.

(4) Letter to the Editor :

- 1) Kawada T, Inagaki H, Suzuki S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Gunma Industrial Health Promotion Center ) : Sleep duration and body mass index. *Sleep Medicine* 2008 ; 9 (7) : 808-808.

(5) 短報 :

- 1) 若山葉子, 勝又聖夫, 川田智之 : HCV 持続感染者における HCV コア抗原量の長期的観察. *肝臓* 2009 ; 50 (1) : 35-37.

著 書

- 1) Li Q : [分担] Chapter 3 : Organophosphorus compounds inhibit natural killer cell activity. *Natural Killer T-Cells : Roles, Interactions, and Interventions* (Fournier NV), 2008 ; pp81-102, Nova Science Publishers, Inc. .
- 2) Li Q, Morimoto K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Osaka University ) : [分担] Chapter 2 : Lifestyle and natural killer activity. *Natural Killer T-Cells : Roles, Interactions, and Interventions* (Fournier NV ), 2008 ; pp51-80, Nova Science

Publishers, Inc. .

- 3) 李 卿：〔分担〕免疫機能と森林セラピー（第3部，第7章）．森林医学II（大井 玄，宮崎良文，平野秀樹），2009；pp98-120，朝倉書店．
- 4) 李 卿，平野秀樹<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>林野庁）：〔分担〕森林医学研究会の発足（コラム7）．森林医学II（大井 玄，宮崎良文，平野秀樹），2009；pp239-241，朝倉書店．
- 5) 川田智之：〔分担〕産業保健．シンプル衛生公衆衛生学2009（鈴木庄亮・久道 茂），2009；pp267-277，南江堂．

## 学会発表

### (1) 招待講演：

- 1) Li Q：Forest medicine trends in Japan. International Symposium on Forests and Human Health of The international Union of Forests Research Organizations (IUFRO) (Marrakesh, Morocco), 2008. 4.
- 2) Li Q：Therapeutic power of forest visits - growing evidence base. Forests - promoting or harming human health. European Forest Week (Rome, Italy), 2008. 10.

### (2) シンポジウム：

- 1) Otsuka T, Ibuki C<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital）：Augmented Arterial Wave Reflection in Middle-Aged Male Workers Exposed to High Job Stress（循環器疾患とストレス/Is Stress a Risk of Cardiovascular Disease?）．Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society（73rd），2009. 3.

### (3) パネルディスカッション：

- 1) 李 卿：森林環境要素フィトンチッドの免疫機能に及ぼす効果．日本衛生学会学術総会（第79回），2009. 3.

### (4) 一般講演：

- 1) Li Y, Takizawa H<sup>1)</sup>, Azuma A<sup>2)</sup>, Sugawara I<sup>3)</sup>, Yamauchi Y<sup>4)</sup>, Kohyama T<sup>4)</sup>, Kawada T, Kudoh S<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> Fourth Department of Internal Medicine, Teikyo University, School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Pulmonary Medicine/Infection and Oncology, <sup>3)</sup> Mycobacterial Reference Center, The Research Institute of Tuberculosis, <sup>4)</sup> Department of Respiratory Medicine, University of Tokyo, School of Medicine）：Mouse Strain Differences in the Generation of Allergic Airway Inflammation by Prolonged Low-Dose Diesel Exhaust Particle Exposure. American Thoracic Society International Conference（104TH）（Toronto, Canada），2008. 5.
- 2) Sawada N, Nagahara N, Kawada T：Enzymatic activation mechanism associated with intrasubunit transfer of a distal zinc ion in human porphobilinogen synthase. International Porphyrin-Heme Symposium（8th）（Matsue），2008. 10.
- 3) Li Q, Kobayashi M, Kawada T：Chlorpyrifos induces apoptosis in human T cells. 48th annual meeting of Toxicology of SOT（Society of Toxicology）（Baltimore, Maryland, USA），2009. 3.
- 4) 李 卿，稲垣弘文，勝又聖夫，平田幸代，川田智之，森本兼曩<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>大阪大学）：森林浴による看護師のストレス軽減．日本産業衛生学会（第81回），2008. 6.
- 5) 大塚俊昭，川田智之，雪吹周生<sup>1)</sup>，草間芳樹<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院 循環器センター，<sup>2)</sup>多摩永山病院 内科・循環器科）：職域中年男性における職業性ストレスと橈骨動脈AIとの関連．臨床血圧脈波研究会（第8回），2008. 6.
- 6) 大塚俊昭<sup>1)</sup>，川田智之，北川裕子<sup>1)</sup>，矢内美雪<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>キヤノン株式会社 矢向事業所 健康支援室）：職域中年男性における職業性ストレスと全身性動脈硬化度との関連．日本産業衛生学会（第81回），2008. 6.
- 7) 李 英姫，清水（五月女）孝子，平田幸代，稲垣弘文，滝澤 始<sup>1)</sup>，吾妻安良太<sup>2)</sup>，川田智之，菅原 勇<sup>3)</sup>，工

- 藤翔二<sup>4)</sup>, 砂塚敏明<sup>5)</sup>, 大村 智<sup>5)</sup> (1) 帝京大学医学部第四内科, 2) 呼吸器・感染・腫瘍内科, 3) 結核研究所抗酸菌レファレンスセンター, 4) 財団法人結核予防会複十字病院, 5) 北里大学北里生命科学研究所): EM・EM703はディーゼル排気粒子によるヒト気道上皮細胞の炎症性サイトカイン産生を抑制する. マクロライド新作用研究会 (第15回), 2008. 7.
- 8) 李 卿, 小林麻衣子, 川田智之: 有機リン農薬ChlorpyrifosによるヒトT細胞のアポトーシス. 日本免疫毒性学会 (第15回), 2008. 9.
- 9) 勝又聖夫, 平田紀美子, 伊藤博子, 川田智之, 深澤幸枝<sup>1)</sup>, 上田美穂<sup>1)</sup> (1) 山梨県早川町): 住民健診票にみられる喫煙習慣と受療状況. 日本公衆衛生学会総会 (第67回), 2008. 11.
- 10) 平田紀美子, 勝又聖夫, 川田智之: 禁煙支援に用いる唾液中ニコチン, コチニン同時測定のための唾液採取器具の開発と検討. 日本公衆衛生学会総会 (第67回), 2008. 11.
- 11) 武藤三千代<sup>1)</sup>, 渡部鎌二<sup>2)</sup>, 渡部月子<sup>3)</sup>, 若山葉子 (1) スポーツ科学教室, 2) 神奈川県立保健福祉大学 人間総合・基礎, 3) 神奈川県立保健福祉大学 看護学): カンボジア・シムリアップにおける青少年の体格と体力について. 日本公衆衛生学会総会 (第67回), 2008. 11.
- 12) 若山葉子, 伊藤博子, 勝又聖夫, 川田智之, 武藤三千代<sup>1)</sup>, 渡部鎌二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 スポーツ科学教室, 2) 神奈川県立保健福祉大学 人間総合・基礎): 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査成績: 肥満指標による比較検討II. 日本公衆衛生学会総会 (第67回), 2008. 11.
- 13) 武藤三千代<sup>1)</sup>, 渡部鎌二<sup>2)</sup>, 渡部月子<sup>3)</sup> (1) スポーツ科学教室, 2) 神奈川県立保健福祉大学 人間総合・基礎, 3) 神奈川県立保健福祉大学 看護学): カンボジア・シムリアップにおける青少年の体格と体力について. 日本公衆衛生学会総会 (第67回), 2008. 11.
- 14) 澤田典里, 永原則之, 川田智之: ポルフォビリノーゲン合成酵素の鉛による阻害機構の解析. 日本生化学会大会 (第81回)・日本分子生物学会年会 (第31回)・合同大会, 2008. 12.
- 15) 清水 (五月女) 孝子, 李 英姫, 平田幸代, 稲垣弘文, 滝澤 始<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>2)</sup>, 川田智之, 菅原 勇<sup>3)</sup>, 工藤翔二<sup>4)</sup>, 砂塚敏明<sup>5)</sup>, 大村 智<sup>5)</sup> (1) 帝京大学医学部第四内科, 2) 呼吸器・感染・腫瘍内科, 3) 結核研究所抗酸菌レファレンスセンター, 4) 財団法人結核予防会複十字病院, 5) 北里大学北里生命科学研究所): EM・EM703はディーゼル排気粒子によるヒト気道上皮細胞の炎症性サイトカイン産生を抑制する. アレルギー・気道上皮細胞研究会 (第12回), 2008. 12.
- 16) 李 卿, 小林麻衣子, 若山葉子, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 平田幸代, 平田紀美子, 清水孝子, 川田智之, 朴鎮範<sup>1)</sup>, 大平辰朗<sup>2)</sup>, 香川隆英<sup>2)</sup>, 宮崎良文<sup>1)</sup> (1) 千葉大学, 2) 森林総合研究所): ヒノキ精油の室内曝露によるヒト免疫機能への影響. 分子予防環境医学研究会 (第8回), 2009. 1.
- 17) 小林麻衣子, 李 卿, 若山葉子, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 平田幸代, 平田紀美子, 五月女孝子, 川田智之, 宮崎良文<sup>1)</sup> (1) 千葉大学): ヒノキ精油によるリラックス効果. 日本衛生学会学術総会 (第79回), 2009. 3.
- 18) 平田幸代, 稲垣弘文, 清水孝子, 川田智之: 活性型ヒトGranzyme 3に対するsandwich ELISA. 日本薬学会 (第129年会), 2009. 3.
- 19) 稲垣弘文, 平田幸代, 清水孝子, 小林麻衣子, 李 卿, 川田智之: ヒト末梢血リンパ球におけるGranzyme 3の分布. 日本薬学会 (第129年会), 2009. 3.
- 20) 平田紀美子, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 川田智之: 唾液中ニコチン, コチニン同時測定のための唾液採取器具の開発と基本的な検討. 日本薬学会 (第129年会), 2009. 3.

## 12. 法医学講座

### 研究概要

#### 1. 臨床法医中毒学

急性薬毒物中毒の疑われる救急患者や法医鑑定の剖検資料に対して、GC/MS, LC/MS等を用いた高精度の薬毒物分析システムの開発に取り組んでいる。また毛髪からの覚醒剤・パラコート等の分析、LC/MSを用いたTetrodotoxin等の微量毒物検出法を開発した。

#### 2. トリカブト毒に関する研究

トリカブト毒について、急性中毒・長期投与における生体内での代謝、心機能への影響等について実験的研究を行っている。またLC/MS, GC/MSによる毒物および代謝物の微量定量法の開発、フグ毒との複合作用の解明に取り組んでいる。

#### 3. アルコール代謝

Alc脱水素酵素 (ADH1・ADH3) の寄与とその調節機構を分子生物学・生化学・薬物動態学的に検討し、Alc感受性の性差・個体差、Alc関連障害の機序を、培養細胞、ノックアウトマウス、人における飲酒実験で検討している。また培養心筋細胞を用いて、Alcの心臓への影響を、蛍光色素を利用して細胞内小器官および分子レベルで解析している。

#### 4. NMRおよびMRIを用いた研究

共同利用のNMR装置を用いて死体の筋肉や脳の代謝物プロファイルと死後硬直などの死体現象の発現との関連を検索し、死後経過時間推定への応用をめざしている。小動物用MRI装置を用いて、死亡時および死後画像診断への活用やMRIを用いた死体の温度マッピングに関する基礎的研究を行っている。美容医療後遺症と美容医療材料との関連について形成外科学と、また我々が開発中の臨床応用可能なNMRメタボロミクスの手法を用いて救急医学・脳外科学と共同研究を進めている。

#### 5. 法医実務的研究

2003年6月より千葉県警の司法解剖を受託している（日本大学医学部法医解剖室を借用）ので、剖検例にかかわる具体的問題を病理組織学的検討を含めて研究している。また、それ以外の刑事・民事事件についても依頼があれば積極的に対応している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Haseba T, Sugimoto J<sup>1)</sup>, Sato S<sup>1)</sup>, Abe Y<sup>2)</sup>, Ohno Y ( <sup>1)</sup> The Nikka Whisky Distilling Co. Ltd. , <sup>2)</sup> Brewing Research and Development Laboratory, Asahi Breweries) : Phytophenols in whisky lower blood acetaldehyde level by depressing alcohol metabolism through inhibition of alcohol dehydrogenase 1 (class I) in mice. *Metabolism Clinical and Experimental* 2008 ; 57 : 1753-1759.
- 2) Kudo K<sup>1)</sup>, Ishida T<sup>1)</sup>, Hikiji W<sup>1)</sup>, Hayashida M, Uekusa K, Usumoto Y<sup>1)</sup>, Tsujii A<sup>1)</sup>, Ikeda N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Legal Medicine, Graduate School of Medicine, Kyushu University ) : Construction of calibration-locking databases for rapid and reliable drug screening by gas chromatography-mass spectrometry. *Forensic Toxicology* 2009 ; 27 : 21-31.
- 3) Ono T, Hayashida M, Uekusa K, Cui F, Hayakawa H, Nihira M, Ohno Y : An accidental case of aconite poisoning due to Kampo herbal medicine ingestion . *Legal Medicine* 2009 ; 11 : 132-135.

## 著 書

- 1) 佐藤喜宣<sup>1)</sup>, 大野曜吉, 高木徹也<sup>1)</sup>, 齋藤一之<sup>2)</sup>, 内ヶ崎西作<sup>3)</sup>, 向井敏二<sup>4)</sup>, 小片 守<sup>5)</sup>, 藤田真幸<sup>6)</sup>, 長尾正崇<sup>7)</sup>, 加藤秀章<sup>8)</sup>, 高瀬 泉<sup>9)</sup>, 都築民幸<sup>10)</sup>, 梶原正弘<sup>1)</sup>, 前野善孝<sup>8)</sup>, 柏手宏允<sup>1)</sup>, その他4名 ( <sup>1)</sup> 杏林大学医学部法医学, <sup>2)</sup> 埼玉医科大学法医学, <sup>3)</sup> 日本大学医学部法医学, <sup>4)</sup> 聖マリアンナ医科大学法医学, <sup>5)</sup> 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科法医学, <sup>6)</sup> 慶應義塾大学医学部法医学, <sup>7)</sup> 広島大学大学院医歯薬学総合研究科法医学, <sup>8)</sup> 名古屋市立大学大学院医学研究科法医学分野, <sup>9)</sup> 滋賀医科大学医学部法医学, <sup>10)</sup> 日本歯科大学生命歯学部歯科法医学センター) : [分担] 第12章 賠償医学. 臨床法医学テキスト (佐藤喜宣), 2008 ; pp247-262, 中外医学社.

## 学会発表

### [追加分]

#### 追加分一般講演 :

- 1) Sano T<sup>1)</sup>, Masuno T<sup>1)</sup>, Asakura T<sup>1)</sup>, Sato N<sup>1)</sup>, Kushimoto S<sup>1)</sup>, Kawai M<sup>1)</sup>, Yokota H<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Hirakawa K, Ohno Y, J. aiboshi J<sup>2)</sup>, Koike K<sup>3)</sup>, Katsumi A<sup>4)</sup>, Suzaki S<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Tokyo Medical and Dental University, <sup>3)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Kyoto University, <sup>4)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Musashino Red Cross Hospital) : <sup>1</sup>H-NMR Metabolomics Study of Post-Hemorrhagic Shock Mesenteric Lymph. Society of Critical Care Medicine' s 37th Critical Care Congress (Hawaii), 2008. 2.

#### (1) 海外留学者講演 :

- 1) 真下啓子 : 心筋細胞のエタノール曝露時のミトコンドリアROS産生と細胞肥大に関与するタンパク質のプロテオミクス解析. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.

#### (2) 一般講演 :

- 1) Chiba A<sup>1)</sup>, Yoshino R<sup>1)</sup>, Haseba T, Shimizu A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dep. of Environmental Engineering for Symbiosis, Faculty of Engineering Soka University) : The stimulatory effect of various salts on yeast alcohol dehydrogenase activity . The Joint 4th AOHUPO (Asian Oceania Human Proteome Organisation) (第4回) and 2nd PRICPS (Pacific Rim International Conference on Protein Sciences) (第2回) (横浜市), 2008. 6.
- 2) Yoshino R<sup>1)</sup>, Chiba A<sup>1)</sup>, Haseba T, Shimizu A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dep. of Environmental Engineering for Symbiosis, Faculty of Engineering Soka University) : The effect of plant compounds from whisky cask on horse liver alcohol dehydrogenase. The Joint 4th AOHUPO (Asian Oceania Human Proteome Organisation) (第4回) and 2nd PRICPS (Pacific Rim International Conference on Protein Sciences) (第2回) (横浜市), 2008. 6.
- 3) Masuno T<sup>1)</sup>, Sano T<sup>1)</sup>, Yokota H<sup>1)</sup>, Sato N<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Hirakawa K, Ohno Y, Aiboshi J<sup>2)</sup>, Koike K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Emergency and Critical Care Medicine Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Dept. of Emergency and Critical Care Medicine, Tokyo Medical and Dental University, <sup>3)</sup> Dept. of Emergency and Critical Care Medicine, Kyoto University) : NMR Metabolomic Investigation in Post-Hemorrhagic Shock Mesenteric Lymph. 6th Congress of the International Federation of Shock Societies (IFSS) and 31st Annual Conference on Shock. Cologne (Germany), 2008. 7.
- 4) Sano T<sup>1)</sup>, Masuno T<sup>1)</sup>, Asakura T<sup>1)</sup>, Sato N<sup>1)</sup>, Kushimoto S<sup>1)</sup>, Kawai M<sup>1)</sup>, Yokota H<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Hirakawa K, Ohno Y, Aiboshi J<sup>2)</sup>, Koike K<sup>3)</sup>, Katsumi A<sup>4)</sup>, Suzaki S<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Tokyo medical and dental university, <sup>3)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Kyoto Uni-



- versity, <sup>4</sup>) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Musashino Red Cross Hospital) : <sup>1</sup>H-NMR Metabolomics Study of Post-Hemorrhagic Shock Mesenteric Lymph and Lung. 68th Annual Meeting of The American Association for the Surgery of Trauma (米国), 2008. 9.
- 5) Uekusa K, Ono T, Hayashida M, Nihira M, Ohno Y : GC/MS analysis of a herbal dietary supplement containing ephedrine. 7th International Symposium Advances in Legal Medicine (第7回 国際法医学シムポジウム) (大阪市), 2008. 9.
  - 6) Hayashida M, Takino M<sup>1</sup>), Uekusa K, Terada M<sup>2</sup>), Kurisaki E<sup>3</sup>), Kudo K<sup>4</sup>) (<sup>1</sup>) LC/MS Application Center, Agilent Technologies, <sup>2</sup>) Department of Legal Medicine, Toho University, <sup>3</sup>) Department of Legal Medicine, Fukushima Medical University School of Medicine, <sup>4</sup>) Department of Legal Medicine, Graduate School of Medicine, Kyushu University) : TOF-MS accurate mass database for benzodiazepine screening. 7th International Symposium Advances in Legal Medicine (第7回 国際法医学シムポジウム) (大阪市), 2008. 9.
  - 7) Mashimo K, Arthur GP<sup>1</sup>), Ohno Y (<sup>1</sup>) Biochemistry & Molecular Biology, The University of Western Australia) : Ethanol reduces cellular protein content and mitochondrial membrane potential of cultured cardiomyocytes : microassays with fluorometric and spectrometric plate readers. The Second United States-Japan Joint Workshop on Alcohol-Related Problems (日米合同アルコール関連問題ワークショップ (2008) (第2回)) (横浜市), 2008. 9.
  - 8) Hirakawa K, Koike K<sup>1</sup>), Uekusa K, Nihira M, Yuta K<sup>2</sup>) (<sup>1</sup>) Department of Primary Care & Emergency Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, <sup>2</sup>) BioIT Business Development Unit, Fujitsu Limited, Japan) : Experimental trial of the estimation of postmortem interval using multivariate analysis of proton NMR based metabolomic data. 7th International Symposium Advances in Legal Medicine (第7回 国際法医学シムポジウム) (大阪市), 2008. 9.
  - 9) Haseba T, Duester G<sup>1</sup>), Ohno Y (<sup>1</sup>) OncoDevelopmental Biology Program, Burnham Institute) : Roles of Two Major Alcohol Dehydrogenase Isozymes, ADH1 (ClassI) and ADH3 (ClassIII), in Pharmacokinetics of Blood Ethanol. The Second United States-Japan Joint Workshop on Alcohol-Related Problems (日米合同アルコール関連問題ワークショップ (2008) (第2回)) (横浜市), 2008. 9.
  - 10) Kuribayashi H<sup>1</sup>), Cui H, Hirakawa K, Ohno Y (<sup>1</sup>) Varian Technologies Japan Limited, Tokyo Japan) : Rectal temperature measurement in cooling dead rats using MR thermometry. 7th International Symposium Advances in Legal Medicine (第7回 国際法医学シムポジウム) (大阪市), 2008. 9.
  - 11) 林田真喜子, 植草協子, 大野曜吉, 栗崎恵美子<sup>1</sup>), 寺田 賢<sup>2</sup>), 工藤恵子<sup>3</sup>), 古田一匡<sup>4</sup>), 滝埜昌彦<sup>5</sup>) (<sup>1</sup>) 福島医大, <sup>2</sup>) 東邦大, <sup>3</sup>) 九大院, <sup>4</sup>) 富士通, <sup>5</sup>) アジレントテクノロジー) : エチゾラムとトリアゾラム及び代謝物のLC/MS-MS分析による識別と定量. 第92次日本法医学会総会, 2008. 4.
  - 12) 真下啓子, Arthur-G P<sup>1</sup>), 大野曜吉 (<sup>1</sup>) Biochemistry & Molecular Biology, The University of Western Australia) : ラット心筋細胞のエタノール曝露によるエネルギー産生の抑制. 第92次日本法医学会総会, 2008. 4.
  - 13) 仁平 信 : GC/MSと私. 法中毒懇話会 (第14回), 2008. 4.
  - 14) 小野真平<sup>1</sup>), 百束比古<sup>1</sup>), 奥田貴久<sup>1</sup>), 石井暢明<sup>1</sup>), 青木 律<sup>1</sup>), 平川慶子, 大野曜吉 (<sup>1</sup>) 日本医科大学付属病院形成外科) : 非吸収性ハイドロジェル注入後後遺症. 日本形成外科学会総会学術集会 (第51回), 2008. 4.
  - 15) 陳貴史<sup>1</sup>), 百束比古<sup>1</sup>), 奥田貴久<sup>1</sup>), 小野真平<sup>1</sup>), 平川慶子 (<sup>1</sup>) 日本医科大学付属病院形成外科) : 当科に於ける顔面異物注入症例の検討. 日本形成外科学会総会学術集会 (第51回), 2008. 4.
  - 16) 陳 貴史<sup>1</sup>), 百束比古<sup>1</sup>), 奥田貴久<sup>1</sup>), 小野真平<sup>1</sup>), 野本俊一, 平川慶子 (<sup>1</sup>) 日本医科大学付属病院形成外科) : 注入後40年経過して疼痛が出現した亀頭異物症例の検討. 日本形成外科学会総会学術集会 (第51回), 2008. 4.
  - 17) 佐野哲孝<sup>1</sup>), 増野智彦<sup>1</sup>), 朝倉隆之<sup>1</sup>), 鈴木崇生<sup>1</sup>), 佐藤格夫<sup>1</sup>), 横田裕行<sup>1</sup>), 平川慶子, 大野曜吉, 相星淳一<sup>2</sup>),



- 小池 薫<sup>3)</sup>, 勝見 敦<sup>4)</sup>, 須崎紳一郎<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学救急医学, 2) 東京医科歯科大学救急医学, 3) 京都大学初期診療救急医学講座, 4) 武蔵野赤十字病院救命救急科): <sup>1</sup>H-NMR Metabolomicsによるラット出血性ショックモデル肺障害の経時的研究. 日本Shock学会総会 (第23回), 2008. 5.
- 18) 滝埜昌彦<sup>1)</sup>, 澤田浩和<sup>1)</sup>, 林田真喜子, 植草協子, 大野曜吉, 栗崎恵美子<sup>2)</sup>, 寺田 賢<sup>3)</sup> (1) アジレントテクノロジー (株), 2) 福島医科大学, 3) 東邦大学): 高速ADC搭載Agilent6220 Time-of-FlightLC/MS用いた法医学分野への応用. 質量分析総合討論会 (第56回), 2008. 5.
- 19) 工藤恵子<sup>1)</sup>, 石田知己<sup>1)</sup>, 引地和歌子<sup>1)</sup>, 林田真喜子, 池田典昭<sup>1)</sup> (1) 九大院・法医): GC/MSによる薬毒物スクリーニングにおけるアセチル化の有用性. 日本法中毒学会第27年会, 2008. 6.
- 20) 平川慶子: NMRメタボロミクスを用いた疾患説明システム: 臨床応用をめざして. 国際バイオフィォーラム&国際バイオEXPO (第7回), 2008. 7.
- 21) 宮内雅人<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 平田清貴<sup>2)</sup>, 林田真喜子, 大野曜吉, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 2) 日本医科大学付属病院薬剤部): 当院における三環系抗うつ薬検出状況. 日本中毒学会総会 (第30回), 2008. 7.
- 22) 平田清貴<sup>1)</sup>, Li X<sup>2)</sup>, 宮内雅人<sup>3)</sup>, 増野智彦<sup>3)</sup>, 森 洵子<sup>1)</sup>, 大下順子<sup>1)</sup>, 林田真喜子, 仁平 信, 片山志郎<sup>1)</sup>, 大野曜吉, 横田裕行<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学付属病院薬剤部, 2) The first hospital of Haerbin Medical University, 3) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 急性中毒症例における入院時服毒情報と薬毒物分析結果のdiscrepancy. 日本中毒学会総会 (第30回), 2008. 7.
- 23) 長谷場健, 大野曜吉: アルコール代謝酵素ADH1 (Class1) およびADH3 (Class3) の血中アルコール動態への寄与. 日本アルコール・薬物医学会 (第43回), 2008. 8.
- 24) 阿部裕子<sup>1)</sup>, 大嶋俊二<sup>1)</sup>, 神田智正<sup>1)</sup>, 長谷場健, 大野曜吉 (1) アサヒビール (株) 酒類研究所): アルコール飲料の酒類および食事の有無におけるアルコール代謝への影響. 日本アルコール・薬物医学会 (第43回), 2008. 8.
- 25) 杉之原崇<sup>1)</sup>, 継松太河<sup>1)</sup>, 富田ゆかり, 崔 范来 (1) 日本医科大学第3学年): 司法解剖で見出された病死: 心疾患例について. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
- 26) 真下啓子, Arthur GP<sup>1)</sup>, 大野曜吉 (1) Biochemistry & Molecular Biology, The University of Western Australia): ラット培養心筋細胞の生理機能に対するエタノール曝露の効果の96穴プレートを使用したmicroassayによる解析. 日本アルコール・薬物医学会総会 (第43回), 2008. 9.
- 27) 佐野哲孝<sup>1)</sup>, 増野智彦<sup>1)</sup>, 平川慶子, 朝倉隆之<sup>1)</sup>, 大野曜吉, 小池 薫<sup>2)</sup>, 相星淳一<sup>3)</sup>, 須崎紳一郎<sup>4)</sup>, 勝見敦<sup>4)</sup>, 原田尚重<sup>4)</sup>, 尾本健一郎<sup>1)</sup>, 横田 裕 (1) 日本医科大学高度救命救急センター, 2) 京都大学初期診療救急医学講座, 3) 東京医科歯科大学災害救急医学講座, 4) 武蔵野赤十字病院救命救急科): <sup>1</sup>H-NMR based Metabolomicsによるラット出血性ショックモデル臓器中脂溶性代謝物の経時的検討. 日本磁気共鳴医学会大会 (第36回), 2008. 9.
- 28) 森 洵子<sup>1)</sup>, 平田清貴清貴<sup>1)</sup>, Li X<sup>2)</sup>, 大下順子<sup>1)</sup>, 宮内雅人<sup>3)</sup>, 大泉 旭<sup>3)</sup>, 林田真喜子, 仁平 信, 片山志郎<sup>1)</sup>, 大野曜吉, 横田裕行<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学付属病院薬剤部, 2) The First Hospital of Haerbin Medical University, 3) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 急性中毒症例における入院時服毒情報と薬毒物分析結果について. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
- 29) 石田知己<sup>1)</sup>, 工藤恵子<sup>1)</sup>, 林田真喜子, 池田典昭<sup>1)</sup> (1) 九大院・法医): UPLC/MSによる血漿中ベンゾジアゼピン系薬物およびその代謝物, ゴルピテム, ゴピクロン計43種の迅速高感度定量法の確立. 日本医用マスペクトル学年会 (第33回), 2008. 9.
- 30) 佐野哲孝<sup>1)</sup>, 増野智彦<sup>1)</sup>, 平川慶子, 朝倉隆之<sup>1)</sup>, 大野曜吉, 小池 薫<sup>2)</sup>, 相星淳一<sup>3)</sup>, 須崎紳一郎<sup>4)</sup>, 勝見敦<sup>4)</sup>, 原田尚重<sup>4)</sup>, 尾本健一郎<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学高度救命救急センター, 2) 京都大学初期診療救急医学講座, 3) 東京医科歯科大学災害救急医学講座, 4) 武蔵野赤十字病院救命救急科): <sup>1</sup>H-NMR based Metabolomicsによるラット外傷性ショックモデル後腸管脂溶性代謝物の経時的検討. 日本救急医学会総会・学

術集会（第36回），2008. 10.

- 31) 土肥輝之<sup>1)</sup>，平川慶子，奥田貴久<sup>1)</sup>，佐藤和夫<sup>1)</sup>，百束比古<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科)：固形ジェル状エンドプロテアーゼのNMR法による分析. 日本美容外科学会総会（第31回），2008. 10.
- 32) 平川慶子，奥田貴久<sup>1)</sup>，河原理子<sup>1)</sup>，小川 令<sup>1)</sup>，陳 貴史<sup>1)</sup>，土肥輝之<sup>1)</sup>，大野曜吉，百束比古<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科)：NMR技術を活用した美容外科後遺症におけるEBMの実践. 日本形成外科学会基礎学術集会（第17回），2008. 10.
- 33) 崔 范来，大野曜吉，小野滝幸，石 雄介，長谷場健，林田真喜子，富田ゆかり，平川慶子，真下啓子，植草協子，早川秀幸<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 筑波剖検センター)：車両の損傷によって成傷機転が推定し得た交通事故例. 日本法医学会関東地方会（第77回），2008. 11.
- 34) 福生吉裕<sup>1)</sup>，長谷場健，押見恵子<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 財団法人博慈会老人病研究所，<sup>2)</sup> 日本医大多摩永山病院栄養課)：ビール腹の研究：ビールは内臓脂肪より皮下脂肪の維持蓄積に作用する. 日本未病システム学会（第15回），2008. 11.
- 35) 平川慶子，阿部孝政<sup>1)</sup>，小池 薫<sup>2)</sup>，佐藤格夫<sup>3)</sup>，増野智彦<sup>3)</sup>，大野曜吉 <sup>(1)</sup> オックスフォード・インストゥルメンツ（株），<sup>2)</sup> 京都大学初期診療・救急医学講座，<sup>3)</sup> 日本医科大学救急医学講座)：DNP-NMRを用いた多核NMRメタボロミクスに関する基礎的研究. NMR討論会（第47回），2008. 11.

## 13. 医療管理学講座

### 研究概要

当教室の研究は大きく分けて、病院経営系と医療政策系の二つに分ける事ができる。研究費についても、厚生科学研究費で前者は「病棟経営」の研究、後者は「超高齢社会における医療システムの設計」を全教室をあげて取り組んでいる。その他、医療安全に関する研究も行なってきた。

研究の成果としては、近年社会問題化しつつある「病院崩壊」の現状や原因が把握できたことで、特に病院医師のストレスや業務への認識の実態や、病院全体として他職種役割を再分担する必要性が明らかとなった。近年、平均在院日数の短縮化による病院機能の分化が促進され、その結果として「病院経営の新しいパラダイムシフト」が起きている。戦後医療法が制定されてから60年、還暦を迎えた医療制度をもう一度見直すべき時期に来ている事が明らかとなった。医療安全についても、病院経営パラダイムシフトに対応して、従来のリスクマネジメントからセーフティマネジメントへ更には効率も重視し質の改善に踏み込まねばならないことが明らかとなっている。これらの研究結果は主として、学会で発表し、一部論文としてまとめた。著書は今後の課題である。

「超高齢社会の医療システムの設計」については、医療システムを医療としてのみならず社会的観点から捉え、人類未踏の超高齢社会に向けて、いわば新しい社会創り国創りの中に医療システム創りを位置づける必要があることが明らかとなった。高齢者の疾病の特徴、すなわち複数疾患が自然史に対応して合併症を起していく事に対応した医療システムのネットワーク化の必要性が明らかとなった。高齢者の医療については、これまでの身体観では対応できず、進化論や生態学から人体を捉える新たな医学が必要である事が判明した。

### 研究業績

#### 論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Miyata H<sup>1)</sup>, Motomura N<sup>2)</sup>, Kondo J<sup>3)</sup>, Takamoto S<sup>2)</sup>, Hasegawa T ( <sup>1)</sup> 東京大学医療品質評価学講座, <sup>2)</sup> 東京大学臓器病態外科学講座, <sup>3)</sup> 日本医療政策機構) : Improving the quality of healthcare in Japan : A Systematic review of procedural volume and outcome literature. *BioScience Trends* 2007 ; 1 (2) : 81-89.
- 2) 松本邦愛<sup>1)</sup>, 田中政信<sup>2)</sup>, 前村俊満<sup>2)</sup>, 平尾智広<sup>3)</sup>, 長谷川敏彦, 長谷川友紀<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 東邦大学医学部社会医学講座, <sup>2)</sup> 東邦大学医療センター産婦人科, <sup>3)</sup> 香川大学医学部医療管理学, <sup>4)</sup> 東邦大学医学部公衆衛生学) : 産科・婦人科医地域偏在に関する研究. *病院管理* 2007 ; 44 (2) : 93-103.

(1) 原著：

- 1) 太田佑子<sup>1)</sup>, 小野寺勝重<sup>2)</sup>, 佐藤紀子<sup>1)</sup>, 相馬孝博<sup>3)</sup>, 野村 実<sup>4)</sup>, 眞嶋朋子<sup>5)</sup>, 長谷川敏彦 ( <sup>1)</sup> 東京女子医科大学, <sup>2)</sup> 茨城大学工学部, <sup>3)</sup> 東京医科大学, <sup>4)</sup> 東京女子医科大学, <sup>5)</sup> 千葉大学看護学部) : 手術室における医療事故防止システムとしてのFMEAの適用：他職種チームによる、胃切除を例とした適用の試み. *日本医療・病院管理学会誌* 2008 ; 45 (4) : 251-261.
- 2) Ikeda N<sup>1)</sup>, Gakidou, E<sup>2)</sup>, Toshihiko H, Christopher M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> University of Washington, <sup>2)</sup> Economics Harvard Center for Population ) : Understanding the decline of mean systolic blood pressure in Japan : an analysis of pooled data from the National Nutrition Survey. *Bulletin of the World Health Organization* 2008 ; 86 (12) : 909-988.

(2) 総説：

- 1) 秋山健一：アメリカの医療から学ぶこと．放射線技師学会誌 2009；56（3）：244-246.

著 書

- 1) Hasegawa T：〔分担〕PartII Country Case Studies-Japan. Social Health Insurance ，2005；pp167-193, World Health Organization.
- 2) 木村憲洋<sup>1)</sup>，秋山健一，井村健司<sup>2)</sup>，笠井 聰<sup>3)</sup>，児玉直樹<sup>1)</sup>，佐藤 譲<sup>4)</sup>，山本雄士<sup>5)</sup>（<sup>1)</sup>高崎健康福祉大学健康福祉学部，<sup>2)</sup>あきる台病院，<sup>3)</sup>コニカミノルタエムジー（株），<sup>4)</sup>榊原記念病院，<sup>5)</sup>研究開発戦略センター）：〔分担〕医療現場のための病院経営のしくみ，2008；日本医療企画.
- 3) 長谷川敏彦：〔分担〕「病院システムと医療機器」．医療機器の基礎知識（財団法人医療機器センター編集），2008；pp22-42，薬事日報社.
- 4) 秋山健一，木村憲洋<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>高崎健康福祉大学健康福祉学部）：〔共著〕病院の仕事としくみ，2009；ナツメ出版企画.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 長谷川敏彦：超高齢社会の病院を構想する：人類の歴史的観点と病院の新たな定義から．第9回日本医療マネジメント学会東京地方会学術集会，2009. 2.
- 2) 長谷川敏彦，永元哲治<sup>1)</sup>，山田義浩<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>京都大学医学部医学科，<sup>2)</sup>新日本監査法人医療福祉部）：独立行政法人化による国立病院の変化と影響評価．第9回日本医療マネジメント学会東京地方会学術集会，2009. 2.

(2) 基調講演：

- 1) 長谷川敏彦：連携を展望する：その過去・現在・未来．日本医療マネジメント学会第一回地域連携クリティカルパス分科会，2008. 9.

(3) 一般講演：

- 1) Hasegawa T：Ageing & Chronic Diseases：Role of Research Universities, APRU World Institute Workshop. Strengthening Public Health Systems in the Pacific Rim：The Role of Research Universities in Responding to Ageing & Chronic Disease. Infectious Disease and Health Security Issues (Tokyo), 2008. 6.
- 2) Hasegawa T：The Future Development of Public Health as Meta-Science 公共衛生的未来, Public Health in the Next 30 Years. 30th Memorial Conference for Prof. K. P. Chen. (Taipei), 2008. 6.
- 3) Hasegawa T：Patient Safety in Japan. The Seventh Annual Quality Colloquium (USA), 2008. 8.
- 4) Hasegawa T：Ageing-in-Place - The Way Forward (hosted by the International Federation Ageing). To Be Confirmed-Japan, The Senior Government Officials' Meeting (Canada), 2008. 9.
- 5) Hasegawa T：Rapid Ageing in Asia：Can Dragons Rush into Welfare State?. Aging of Health System in Asia：From Historical Perspective, 10th Year Dragon Net Meeting. (Tokyo), 2008. 9.
- 6) Hasegawa T：Healthcare Reform in Japan. Asia-Pacific Health Policy Summit J&J Medical Asia-Pacific (Shanghai), 2008. 10.
- 7) 角館奈緒子，熊田朝子，高柳和江：SPの教育効果 ワルテック描画テスト（WZT）を用いて．第40回日本医学教育学会，2008. 7.
- 8) 長谷川敏彦：がん診療施設経営のパラダイムシフト．東京がん科学療法研究会，2008. 4.
- 9) 長谷川敏彦：アレルギー疾患治療ガイドラインの医療経済への影響．第20回日本アレルギー学会春季臨床大会，2008. 6.
- 10) 長谷川敏彦，堀口裕正<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>東京大学大学院医学系研究科医療経営政策学講座）：がん生涯ケア概念の提案と生

- 涯医療費推計の試み. 第10回日本医療マネジメント学会学術総会, 2008. 6.
- 11) 長谷川敏彦, 佐藤 譲<sup>1)</sup>, 小林美亜<sup>2)</sup>, 坂本すが<sup>3)</sup>, 嶋森好子<sup>4)</sup> (1) 榊原記念病院, 2) 国立大学病院データベースセンター, 3) 東京医療保健大学看護学科, 4) 慶應義塾大学看護医療学部): 医療崩壊 病院崩壊に伴う病院経営のパラダイムシフト. 第10回日本医療マネジメント学会学術総会, 2008. 6.
  - 12) 佐藤 譲<sup>1)</sup>, 長谷川敏彦, 小林美亜<sup>2)</sup>, 坂本すが<sup>3)</sup>, 嶋森好子<sup>4)</sup> (1) 榊原記念病院, 2) 国立大学病院データベースセンター, 3) 東京医療保健大学看護学科, 4) 慶應義塾大学看護医療学部): 診療情報の活用について: 備忘録の扱い. 第10回日本医療マネジメント学会学術総会, 2008. 6.
  - 13) 加藤尚子<sup>1)</sup>, 長谷川敏彦 (1) 国際医療福祉大学保険医療学部医療経営管理学科): 在院日数短縮が急性期病院にもたらした業務量変化. 第10回日本医療マネジメント学会学術総会, 2008. 6.
  - 14) 佐藤 譲<sup>1)</sup>, 長谷川敏彦, 小林美亜<sup>2)</sup>, 坂本すが<sup>3)</sup>, 嶋森好子<sup>4)</sup> (1) 榊原記念病院, 2) 国立大学病院データベースセンター, 3) 東京医療保健大学看護学科, 4) 慶應義塾大学看護医療学部): 看護機能からみた病棟マネジメントに関する検討 (第I報). 第10回日本医療マネジメント学会学術総会, 2008. 6.
  - 15) 小塩篤史<sup>1)</sup>, 長谷川敏彦, 齊藤寿一<sup>2)</sup> (1) マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院, 2) 社会保険中央総合病院): 医師業務の他職種での代替可能性に関する研究. 第10回日本医療マネジメント学会学術総会, 2008. 6.
  - 16) 平尾智広<sup>1)</sup>, 池田俊也<sup>2)</sup>, 小林美亜<sup>3)</sup>, 兼児敏浩<sup>4)</sup>, 坂口美佐<sup>5)</sup>, 長谷川友紀<sup>6)</sup>, 藤田 茂<sup>7)</sup>, 長谷川敏彦 (1) 香川大学公衆医療管理学教室, 2) 国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科, 3) 国立大学病院データベースセンター, 4) 3重大学医学部附属病院安全管理部, 5) 滋賀医科大学, 6) 東邦大学社会医学講座医療政策・経営科学分野, 7) 東邦大学社会医学講座医療政策・経営科学分野): 院内医療安全評価のための簡便な有害事象把握手法の開発. 第10回日本医療マネジメント学会学術総会, 2008. 6.
  - 17) 石原明子, 長谷川敏彦, 秋山健一: フィンランドの受診前相談コールセンターに関する調査研究. 第10回日本医療マネジメント学会学術総会, 2008. 6.
  - 18) 堀口裕正<sup>1)</sup>, 長谷川敏彦, 小塩篤史<sup>2)</sup> (1) 東京大学大学院医学系研究科医療経営政策学講座, 2) マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院): 病院経営とGISを用いたマーケティング. 第10回日本医療マネジメント学会学術総会, 2008. 6.
  - 19) 長谷川敏彦: 医療制度改革の功罪 2) 医療制度改革と病院経営. 第11回日本病院脳外科学会, 2008. 7.
  - 20) 秋山健一: 米国の医療について. 第24回放射線技師総合学術大会, 2008. 7.
  - 21) 熊田朝子, 角館奈緒子, 高柳和江: SPの参加意欲をもたらす要因について. 第40回日本医学教育学会, 2008. 7.
  - 22) 長谷川敏彦: 医療崩壊を考察するー医師不足の背景と原因. 第73回日本泌尿器科学会東部総会, 2008. 9.
  - 23) 秋山健一: 診療報酬制度と病院経営入門. 平成20年度日本放射線技師教育学会, 2008. 9.
  - 24) 長谷川敏彦: アレルギ-疾患治療ガイドラインの医療経済への影響. 第45回日本小児アレルギー学会, 2008. 12.
  - 25) 長谷川敏彦, 鈴木修一, 半田祐二郎<sup>1)</sup> (1) 北海道医療大学歯学部): アフリカ8カ国のTQMプロジェクト 日本はそこから何を学ぶか. 第9回日本医療マネジメント学会東京地方会学術集会, 2009. 2.
  - 26) 鈴木修一, 長谷川敏彦: 途上国における病院サービスの質向上に関する考察. 第9回日本医療マネジメント学会東京地方会学術集会, 2009. 2.
  - 27) 赤池 学, 長谷川敏彦: 医師の職業性ストレスに関する仕事志向による傾向分析. 第9回日本医療マネジメント学会東京地方会学術集会, 2009. 2.
  - 28) 中村房子, 長谷川敏彦: 安全管理者の悩みを考える: アンケート結果から見出した課題. 第9回日本医療マネジメント学会東京地方会学術集会, 2009. 2.
  - 29) 畠山洋輔<sup>1)</sup>, 長谷川敏彦 (1) 東京大学大学院総合文化研究科): 患者参加側一般診療ガイドラインの患者における評価可能性の検討1: 小児ぜんそくの診療ガイドラインを事例として. 第9回日本医療マネジメント学会東京地



方会学術集会，2009．2．

- 30) 長谷川敏彦，小塩篤史<sup>1)</sup>，斉藤寿一<sup>2)</sup> (1) マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院，<sup>2)</sup> 社会保険中央総合病院)：医師の労働ストレスと要因に関する調査．第79回日本衛生学会学術総会，2009．3．
- 31) 長谷川敏彦，鈴木修一，加藤尚子<sup>1)</sup> (1) 国際医療福祉大学保険医療学部医療経営管理学科)：平均在院日数．第79回日本衛生学会学術総会，2009．3．
- 32) 鈴木修一，長谷川敏彦：病院の生産性国際比較分析 (OECD諸国と日本)．第79回日本衛生学会学術総会，2009．3．
- 33) 赤池 学，斉藤寿一<sup>1)</sup>，長谷川敏彦 (1) 社会保険中央総合病院)：医師における仕事不満足と職業性ストレス・業務負担感に関する要因分析．第79回日本衛生学会学術総会，2009．3．
- 34) 角館奈緒子，高柳和江，長谷川敏彦：模擬患者教育における模擬患者の心理的・感情的変化．第79回日本衛生学会学術総会，2009．3．
- 35) 池田奈由<sup>1)</sup>，長谷川敏彦，平尾智広<sup>2)</sup>，クリストファーマレー<sup>3)</sup>，ジョシュアサロモン<sup>4)</sup> (1) ワシントン大学，<sup>2)</sup> 香川大学公衆医療管理学教室，<sup>3)</sup> ハーバード大学，<sup>4)</sup> ハーバード大学)：健康に関する自己申告値の異文化間比較の改善の試み：2002-2003年度世界健康調査ヴィネットを用いたセルフケアに支障のある人口の推定と比較．第79回日本衛生学会学術総会，2009．3．
- 36) 永元哲治<sup>1)</sup>，長谷川敏彦 (1) 京都大学医学部医学科)：腎不全に関わるマクロ統計上の分析．第79回日本衛生学会学術総会，2009．3．
- 37) 秋山健一，長谷川敏彦：地域中核病院における各診療科単位の医療連携に対する在り方について．第79回日本衛生学会，2009．3．



## 14. 基礎医学共同研究利用施設

### [実験動物管理室]

#### 研究概要

当施設では、疾患モデル動物の病態検索および動物の行動について研究を行っている。疾患モデルについては、糖尿病および皮膚炎の発症機構の解明、予防法および治療法の開発のために、下記の遺伝性疾患モデル動物について特性検索を行っている。WBN/Kob-*fatty* ラット WBN/Kob ラットの雄は、3ヶ月齢頃より自然発症する膵炎が加齢と共に膵臓全域に進展し、膵ラ氏島の機能障害を伴って糖尿病発症に至る自然発症「膵性糖尿病」のモデル動物である。このラットに肥満遺伝子を導入した肥満2型糖尿病モデル WBN/Kob-*fatty* ラットは早期に糖尿病発症する。このラットの糖尿病および糖尿病性合併症の病態モデルとしての有用性について検討している。ヘアレスラット (WBN/Kob-*Ht* ラット) 正常なラット (ウイスター系) の交配中に発見された被毛異常で、温熱受容体 *Trpv1* 遺伝子の突然変異であることが明らかとなっている。このホモ個体はほぼ完全な無毛、ヘテロ個体は短い軟毛で被われている貧毛になる。更にヘテロ個体はブドウ球菌性の皮膚炎を発症するため、アトピー性皮膚炎のモデルとして有用である。その発症機序やブドウ球菌に対するホモ個体との感受性の差を検索している。また、行動についての研究は日本獣医生命科学大学の比較動物医学教室と共同で行っており、哺育期仔マウスの発する超音波と母性行動との関係、またテレメトリーシステムを用いて非拘束下での雄ラットの血圧および心拍数を計測して性行動による変化を調べている。その他、今年度は臨床獣医と共同で臨床データを集計し、発表を行った。

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 総説：

- 1) 秋元敏雄：非肥満糖尿病モデル動物。日本臨牀 増刊号3 2008；66 (増刊3号)：611-615.

##### 学会発表

###### (1) 一般講演：

- 1) 秋元敏雄, 寺田 節：WBN/Kob-*fatty* ラットの育成期における血中インスリン値の推移について。第146回日本獣医学会, 2008. 9.
- 2) 板垣秀樹<sup>1)</sup>, 寺田 節, 永田克幸<sup>1)</sup> (1) ピジョン動物愛護病院)：卵塞を発症したセキセイインコにおける骨髄骨形成および治療経過との比較検討。日本獣医内科学アカデミー (日本獣医臨床病理学会2009年大会), 2009. 2.

### [中央電子顕微鏡研究施設]

#### 研究概要

本研究施設には本来病院病理部に属すべき電顕診断業務と、中央電子顕微鏡研究施設本来の機能である共同利用研究施設としての業務が混在している。このような施設の置かれた状況の下、電顕診断に関わる研究、電顕試料の技術開発、共同研究および研究支援の形で進行する研究があり、かつ電子顕微鏡技術演習も行っている。

1. 電子顕微鏡診断：平成20年度は付属4病院から198症例の検体を依頼されており、その対象は腎臓140症例、心臓30症例、肝臓2症例、脳15症例、腫瘍2症例、その他9症例であり、内科、小児科、脳神経外科、整形外科、耳鼻咽喉科等の各科から依頼を受けている。これらの中から今年度は腎臓の病変や腫瘍に関して報告がなされた。

2. 独自の研究：臨床に役立つ電顕診断学的发展を目指し、生検材料を用いて診断のための新しい電顕的指標を見

出す研究を継続している。腎生検における thin basement membrane disease は電顕的にしか明確にならない腎疾患である。しかし、係蹄壁基底膜の菲薄化が基底膜全体に均一 (diffuse) に発現しているわけではなく、segmental に発現している症例もあり、その解析が困難であったが、ヒストグラムを用いることでこの問題は解決された。

3. 電顕技術開発：平成20年度において電子顕微鏡2台のうち1台の透過型電子顕微鏡 (H-7500型) をデジタル化へとバージョンアップした。CCD画像とフィルムを用いた従来の電顕とを比較検討しCCD画像の特徴や適応を発表し、また、感度が高いCCD画像に適した電子染色法も報告した。

4. 共同研究ならびに技術指導：平成20年度は学内より65症例 (209検体) の試料作製に関わった。技術提供は機能する共同利用研究施設を自負する本施設の特徴の一つであり、基礎、臨床を問わず依頼があれば試料作製から電顕所見までの研究補助をするシステムをとっている。年度により異なるが、今年度は基礎医学で解析人体病理学、分子解剖学、微生物免疫学、臨床では小児科学、眼科学、皮膚科学、形成外科学、内科学 (4内) 等と、附属、武蔵小杉、多摩永山の各病院病理部への技術提供と共同研究を行った。また、ライヘルト社製ウルトラミクロトームの新たな設置と、本施設が管理する電子顕微鏡の中で主に研究レベルでの観察に使用している電子顕微鏡に関して、利用者への利便性を最優先に考慮しオートフォーカス機能やファイリングシステムを搭載した最新型デジタル電子顕微鏡へのバージョンアップに向けて設備の充実に努めた。

5. 本研究施設の電子顕微鏡を学生教育や講義のために提供している。平成20年度基礎配属による選択学習では19名の学生を受け入れた。

平成20年度は前年度の大学院棟への移転に加え本施設にとって様々な意味で不安定な時期でもあった。本来の形を残しつつ次世代への発展に繋げるために平成21年度から本施設は「形態解析共同研究施設」となる。

## 研究業績

### 論文

(追加分)

追加分原著：

- 1) Ndong M<sup>1)</sup>, Uehara M<sup>1)</sup>, Katsumata S<sup>1)</sup>, Sato S, Suzuki K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Nutritional Science, Faculty of Applied Bioscience, Tokyo University of Agriculture) : Preventive Effects of *Morinaga oleifera* (Lam) on Hyperlipidemia and Hepatocyte Ultrastructural Changes in Iron Deficient Rats. *Biosci. Biotechnol. Biochem.* 2007 ; 71 (8) : 1826-1833.
- 2) Omi T<sup>1)</sup>, Munavalli GS<sup>2)</sup>, Kawana S<sup>3)</sup>, Sato S ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Nippon Medical School and Queen' s Square Medical Center, <sup>2)</sup> Department of Dermatology, Johns Hopkins School of Medicine, Baltimore, USA, <sup>3)</sup> Department of Dermatology) : Ultrastructural evidence for thermal injury to pilosebaceous units during the treatment of acne using photopneumatic (PPX) therapy. *J of Cosmetic and Laser Therapy* 2008 ; 10 : 7-11.

(1) 原著：

- 1) Murano N<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Sato S, Fukuda Y<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Departments of Analytic Human Pathology and Ophthalmology, <sup>2)</sup> Department of Ophthalmology) : Corneal Endothelial Cell Damage by Free Radicals Associated With Ultrasound Oscillation. *Arch Ophthalmol* 2008 ; 126 (6) : 816-821.
- 2) Suzuki S<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Liu A, Hosone M<sup>2)</sup>, Maeda S<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Tama-Nagayama Hp, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tama-Nagayama Hp, <sup>3)</sup> Department of Surgery) : Pathologic complete response confirmed by surgical resection for liver metastases of gastrointestinal stromal tumor after treatment with imatinib mesylate. *World J of Gastroenterology* 2008 ; 14 (23) : 3763-3767.

- 3) Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Sasaki Y, Oguro T<sup>2)</sup>, Sato S, Egawa S<sup>1)</sup>, Inoue K, Shimizu H<sup>1)</sup>, Kawanami O<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Pathology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine and Central Institute for Electron Microsc., <sup>2)</sup> Surgical Pathology Division, Chiba-Hokusoh Hp) : A novel technique for observing the internal ultrastructure of human chromosomes with known karyotype. *Microsc Microanal* 2008 ; 14 (4) : 357-361.
  - 4) Masuda Y<sup>1)</sup>, Mii A<sup>1)</sup>, Shimizu A<sup>1)</sup>, Fujita E<sup>1)</sup>, Aki K<sup>1)</sup>, Ishikawa K<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Sato S, Hayama N<sup>2)</sup>, Iino Y<sup>2)</sup>, Katayama Y<sup>2)</sup>, Fukuda Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Analytic Human Pathology, <sup>2)</sup> Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Department of Internal Medicine) : Invagination and infolding of podocytes in glomerular basement membrane in the cases of primary membranous nephropathy. *Clin Exp Nephrol* 2008 ; 12 : 440-449.
  - 5) Liu A, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Namimatsu S<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M ( <sup>1)</sup> Department of Pathology) : CD30-positive DLBCL with microvillous features : So-called microvillous lymphoma. *J Clin Pathol* 2009.
  - 6) Shimizu H<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Sato S, Oguro T<sup>2)</sup>, Kawanami O<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Pathology, Institute of Development and Aging Sciences and Central Inst. for Electron Microsc. Res. , <sup>2)</sup> Surgical Pathology Division, Chiba Hokusoh Hp. ) : Interaction between  $\beta$ -amyloid protein and heparan sulfate proteoglycans from the cerebral capillary basement membrane in Alzheimer' s disease. *J Clin Neurosci* 2009 ; 16 : 277-282.
  - 7) Suzuki H<sup>1)</sup>, Sato S, Murano N<sup>1)</sup>, Matsui H<sup>1)</sup>, Oharazawa H<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Ophthalmology) : Morphological Observations of Rat Corneal Endothelial Cells After Exposure to Ozonated Solution. *Jpn J Ophthalmol* 2009 ; 53 (2) : 151-158.
  - 8) 佐藤 茂, 安達彰子, 佐佐木喜広 : 電顕写真のデジタル化 : その特徴と適応. *Medical Technology* 2008 ; 36 (6) : 619-623.
  - 9) 安達彰子, 佐藤 茂, 佐佐木喜広, ガジザデモハマッド : デジタル画像のための透過型電子顕微鏡観察法 : 電子染色について. *病理と臨床* 2008 ; 26 (7) : 749-753.
- (2) 症例報告 :
- 1) Mii A<sup>1)</sup>, Shimizu A<sup>1)</sup>, Masuda Y<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Sato S, Hara K<sup>2)</sup>, Kaneko T<sup>2)</sup>, Utsumi K<sup>2)</sup>, Iino Y<sup>2)</sup>, Katayama Y<sup>2)</sup>, Fukuda Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Analytic Human Pathology, <sup>2)</sup> Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Department of Internal Medicine) : A case of lupus nephritis with diffuse podocytic infolding into the glomerular basement membrane. *Clin Exp Nephrol* 2008 ; 12 : 479-484.
- (3) Photogravure :
- 1) Ghazizadeh M : Internal ultrastructure of human chromosomes. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (6) : 318-319.

## 学会発表

- (1) ワークショップ :
- 1) Hosone M<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>1)</sup>, Liu A, Katayama H<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology) : A case of plasmacytoid dendritic cell tumor -newly described agranular CD4<sup>+</sup>/CD56<sup>+</sup> hematodermic neoplasms -. *Japan-Thailand International Cytology Workshop (The 15th) (Tokyo, Japan), 2008.* 11.
  - 2) 佐佐木喜広, 佐藤 茂, 安達彰子, ガジザデモハマッド : 技術研究・試料作製法 「中性緩衝ホルマリンの電顕への試み」. *日本臨床分子形態学会 (第40回), 2008.* 10.
- (2) 一般講演 :
- 1) 上田真太郎<sup>1)</sup>, 佐藤 茂 ( <sup>1)</sup> 上田老人医学研究所) : 高齢マウスにおける肺気腫の出現 : 電子顕微鏡観察. *日本*

- 肺サーファクタント・界面医学会（第44回），
- 2) 佐藤 茂，安達彰子，佐佐木喜広，ガジザデモハマッド：DiffuseおよびSegmental型のThin basement membrane 腎症（TBMN）の電顕検索．日本臨床分子形態学会（第40回），2008．10．
  - 3) 安達彰子，佐藤 茂，佐佐木喜広，石崎正通<sup>1)</sup>，若松恭子<sup>1)</sup>，ガジザデモハマッド（<sup>1)</sup>解析人体病理学）：腎生検で見られた尿細管内のBKウィルスの電顕観察．日本臨床分子形態学会（第40回），2008．10．
  - 4) 佐藤 隼<sup>1)</sup>，舛子夢弥<sup>1)</sup>，椎橋孝太郎<sup>1)</sup>，森元貴子<sup>1)</sup>，松村豪一<sup>1)</sup>，佐藤 茂，永田元春<sup>2)</sup>，高橋常男<sup>3)</sup>，上田眞太郎<sup>4)</sup>（<sup>1)</sup>聖学院大学人間福祉学部，<sup>2)</sup>サンショウウオ研究所，<sup>3)</sup>神奈川歯科大学口腔解剖，<sup>4)</sup>上田老人医学研究所）：夏眠肺魚呼吸器の形態学的研究．日本肺サーファクタント・界面医学会（第44回），2008．10．
  - 5) 舛子夢弥<sup>1)</sup>，佐藤 隼<sup>1)</sup>，椎橋孝太郎<sup>1)</sup>，森元貴子<sup>1)</sup>，松村豪一<sup>1)</sup>，佐藤 茂，永田元春<sup>2)</sup>，高橋常男<sup>3)</sup>，上田眞太郎<sup>4)</sup>（<sup>1)</sup>聖学院大学人間福祉学部，<sup>2)</sup>サンショウウオ研究所，<sup>3)</sup>神奈川歯科大学口腔解剖，<sup>4)</sup>上田老人医学研究所）：腸（管）呼吸をする腸の形態学的研究．日本肺サーファクタント・界面医学会（第44回），2008．10．
  - 6) 前本直子<sup>1)</sup>，大塚俊司<sup>1)</sup>，小峯 修<sup>2)</sup>，片山博徳<sup>3)</sup>，劉 愛民，中村祐司<sup>1)</sup>，石井英昭<sup>1)</sup>，内藤善哉<sup>4)</sup>（<sup>1)</sup>武蔵小杉病院病理部，<sup>2)</sup>武蔵小杉病院消化器病センター，<sup>3)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>4)</sup>病理学講座統御機構・腫瘍学）：神経細胞への分化を示す類上皮型GIST（GANT）の1例．日本臨床細胞学会秋期大会（第47回），2008．11．
  - 7) 劉 愛民，ガジザデモハマッド，前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，東 敬子<sup>1)</sup>，片山博徳<sup>1)</sup>，内藤善哉<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>病理学講座統御機構・腫瘍学）：捺印細胞診材料から作製した電顕標本が確定診断に有用であった2症例．日本臨床細胞学会秋期大会（第47回），2008．11．

## [情報科学センター]

### 研究概要

1. 教育用情報環境について，2008年度に新校舎が完成し学術ネットワークが新規に構成された．2007年度末に導入された大学院棟ディスクレスPCシステム110台も2009年冬のCBTで活用された．環境設営も過去に比べて非常に容易に行う事ができ導入の成果が得られている．

教育棟においては授業用として導入したノートPC54台もディスクレス化が行われ管理負担の低減が実現している．年度末に学生数の増加に対応し上記PCも増強され大学院棟120台 教育用ノートPC60台体制となった．

新丸子校舎においては老朽化PCに代わって60台のディスクレスノートPCが導入され，千駄木地区と同等なPC環境となった．

2. 学術ネットワーク環境について 本学への迷惑メールの総数は極端な増加は無いが僅かずつ増えている状況である．迷惑メール対策機器が有効に対処しており利用者へ届く迷惑メール数は昨年度より大幅に減少しピーク時の10分の1程度となっている．迷惑メールへの対処も1大学の手には負えなくなる時期が来る事を見越し，GoogleMailのアカデミックサービスの利用を検討開始した．他先行大学への調査を行い2009年度には移行を行う予定である．

3. マルチメディア環境 英語自主学习システム（ALC）やマイクロSIMの利用が増加する他 国試対策用に予備校のビデオ閲覧の要望が強くなり実用的な段階へと達している事が実感されている．

### 研究業績

#### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 伊藤高司，早坂明哲，滋野恭子，奥重秀彦：高信頼度教育用情報環境の構築．日本医学教育学会総会および大会（第40回），2008．7．

## 〔3〕臨 床 医 学

# 1. 内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）

〔付属病院一般内科，循環器内科，肝臓内科，再生医療科〕

## 研究概要

内科学第一教室では循環器病学，肝臓病学，再生医学，糖尿病学を中心に以下に示すような臨床的，基礎的研究を行った。

循環器病学では，不整脈に関する研究として，(1) 心拍変動周波数解析などの数理学的手法，薬理学的手法を用いた自律神経系と不整脈，突然死発生との関連の検討，(2) 抗不整脈薬の電気生理学的作用，臨床効果の検討，(3) 各種不整脈に対するカテーテルアブレーション治療，(4) 失神患者における自律神経機能の評価，(5) 加算平均心電図法を用いた不整脈発生機序の検討。

虚血性心疾患，心筋疾患に関する研究として，(1) 薬剤負荷心エコー図法による viable myocardium，心筋虚血の検出，(2) 虚血性心疾患における圧受容体反射，(3) 虚血性心疾患における血管反応性と自律神経機能との関連，(4) 虚血心筋保護法の検討，(5) 虚血性心疾患，心筋疾患における成長因子，細胞増殖因子の検討，(6) 睡眠時無呼吸症候群と循環器疾患，(7) 血管内視鏡やOCTによる冠動脈内画像診断。

肝臓病学では，(1) 門脈圧亢進症の病態，薬物療法に関する検討，(2) 門脈圧亢進症における血管作動物質の動態，(3) SSM（丸山ワクチン）によるサイトカイン産生，(4) 慢性肝疾患における肺循環異常，(5) 2次性胆汁性肝硬変変動物モデルで動脈血酸素化とNOの関係。

糖尿病学では，(1) 冠動脈疾患とインスリン抵抗性，(2) 糖尿病患者における自律神経機能，(3) 無症候性心筋虚血の病態，を検討している。再生医学は骨髄細胞移植を用いた末梢性血管疾患および重症心不全，虚血性心筋症の心臓へ骨髄細胞を移植する心筋再生療法を行っている。2008年日本医科大学は医療特区に認められ，再生医療の分野において基礎研究の成果がこれまで以上のスピードで臨床研究されることが期待される。さらに日本獣医生命科学大学との共同研究で免疫抑制剤不要のバイオ人工臓の開発も研究中である。

## 研究業績

### 論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Takano M, Murakami D<sup>1</sup>, Mizuno K (1) Chiba Hokusoh Hospital) : Overlapping hybrid stenting with a sirolimus-eluting stent and a bare metal stent. *Int J of Cardiol* 2007 ; 118 (1) : e8-e10.
- 2) Takano M, Yamamoto M<sup>1</sup>, Mizuno K (1) Chiba Hokusoh Hospital) : A retrograde approach for the treatment of Chronic total occlusion in a patient with acute coronary syndrome. *Int J of Cardiol* 2007 ; 119 (1) : e22-e24.
- 3) Takano M, Mizuno K : Angioscopic Findings after Drug Eluting Stent Implantation. *Herz* 2007 ; 32 (4) : 282-286.
- 4) Inami S<sup>1</sup>, Takano M<sup>1</sup>, Yamamoto M<sup>1</sup>, Murakami D<sup>1</sup>, Tajika K<sup>1</sup>, Yodogawa K<sup>1</sup>, Yokoyama S<sup>1</sup>, Ohno N<sup>1</sup>, Ohba T<sup>1</sup>, Sano J<sup>1</sup>, Ibuki C<sup>1</sup>, Seino Y<sup>1</sup>, Mizuno K (1) Chiiba Hokusoh Hospital) : Tea catechin consumption reduces circulating oxidized low-density lipoprotein. *Int Heart J* 2007 ; 48 (6) : 725-732.
- 5) Takano M<sup>1</sup>, Inami S<sup>1</sup>, Yang I<sup>2</sup>, Yamamoto M<sup>1</sup>, Murakami D<sup>1</sup>, Seimiya K<sup>1</sup>, Ohba T<sup>1</sup>, Mizuno K (1) Chiiba Hokusoh Hospital, 2) Harvard Univ. ) : Evaluation by optical coherence tomography of neointimal



coverage of sirolimus-eluting stent three months after implantation. *Am J of Cardiol* 2007 ; 99 (8) : 1034-1038.

- 6) Takano M<sup>1</sup>, Jang I<sup>2</sup>, Inami S<sup>1</sup>, Yamamoto M<sup>1</sup>, Murakami D<sup>1</sup>, Okamatsu K<sup>1</sup>, Seimiya K<sup>1</sup>, Ohba T<sup>1</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2</sup> Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School ) : In Vivo Comparison of optical Coherence Tomography and Angioscopy for the Evaluation of Coronary Plaque Characteristics . *Am J of Cardiol* 2007 ; 106 : 471-476.
- 7) Takano M<sup>1</sup>, Yamamoto M<sup>1</sup>, Xie Y<sup>2</sup>, Murakami D<sup>1</sup>, Inami S<sup>1</sup>, Okamatsu K<sup>1</sup>, Seimiya K<sup>1</sup>, Ohba T<sup>1</sup>, Seino Y<sup>1</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2</sup> Harvard Uni. ) : Serial long-term evaluation of neointimal stent coverage and thrombus after sirolimus-eluting stent implantation by use of coronary angioscopy . *Heart* 2007 ; 93 : 1353-1356.
- 8) Otsuka T<sup>1</sup>, Ibuki C<sup>1</sup>, Suzuki T<sup>1</sup>, Ishii K<sup>1</sup>, Yoshida H<sup>1</sup>, Kodani E<sup>1</sup>, Kusama Y<sup>1</sup>, Atarashi H<sup>1</sup>, Kishida H, Takano T, Mizuno K ( <sup>1</sup> Tama-Nagayama Hospital ) : Administration of the Rho-Kinase Inhibitor Fasudil Following Nitroglycerin Additionally Dilates the site of Coronary Spasm in Patients with Vasospastic Angina. *Coronary Artery Disease* 2008 ; 19 (2) : 105-110.
- 9) Takano M, Yamamoto M, Murakami D, Seimiya K, Ohba T, Seino Y, Mizuno K : Long-term follow-up evaluation after sirolimus-eluting stent implantation by optical coherence tomography : do uncovered struts persist? . *J of Ame Coll of Cardiol* 2008 ; 51 (9) : 968-969.

追加分総説 :

- 1) Tsukada Y, Katoh Y, Seino Y : Home-based management in patients with chronic heart failure. *Nippon Rinsho* 2007 ; 28 (65) : 323-328.
- 2) 牛島明子, 清野精彦 : 心臓病と慢性腎臓病. 成人病と生活習慣病 2007 ; 37 (1) : 86-91.
- 3) 田近研一郎, 水野杏一 : 血管内視鏡による診断 : 不安定プラークの特徴. *医学のあゆみ* 2007 ; 221 (13) : 1267-1273.
- 4) 宮内靖史, 小林義典 : カテーテルアブレーションの適応の拡大 : classI適応としてのアブレーション. *CARDIAC PRACTICE* 2008 ; 19 (2) : 33-40.
- 5) 宮本正章, 高木 元, 高野仁司, 川中秀和, 大坪春美, 水野博司<sup>1</sup>, 松田範子<sup>2</sup>, 秋丸琥甫<sup>2</sup>, 徳永 昭<sup>2</sup>, 高橋将文<sup>3</sup>, 池田宇一<sup>3</sup>, 水野杏一 ( <sup>1</sup> 形成外科・美容外科, <sup>2</sup> 高気圧酸素治療部, <sup>3</sup> 信州大学大学院医学研究科臓器発生制御医学 ) : 膠原病による難治性皮膚潰瘍とその対策. *リウマチ科* 2008 ; 39 (2) : 149-155.
- 6) 平山悦之, 新 博次<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 多摩永山病院 ) : ニフェカランとアミオダロン静注をどう使うか. *Medical Practice* 2008 ; 25 (3) : 509-511.
- 7) 八島正明, 加藤貴雄 : 心房細動を発見する手がかりと次の一手. *内科* 2008 ; 101 (3) : 430-434.

(1) 原著 :

- 1) Yamamoto T<sup>1</sup>, Takayama M, Sato N<sup>1</sup>, Yodogawa K<sup>1</sup>, Iwasaki Y<sup>1</sup>, Kato K<sup>1</sup>, Yoshida A, Yoshida R<sup>2</sup>, Tanaka K<sup>1</sup>, Takano T, Mizuno K ( <sup>1</sup> Intensive and Cardiac Care unit, <sup>2</sup> Dept. of Emergency and Critical Care Medicine ) : Inappropriate Analyses of Automated External Defibrillators Used During In-Hospital Ventricular Fibrillation. *Circ J* 2008 ; 72 (4) : 679-681.
- 2) Setsuta K<sup>1</sup>, Seino Y<sup>2</sup>, Kitahara Y<sup>1</sup>, Arao M<sup>1</sup>, Ohbayashi T<sup>1</sup>, Takano T, Mizuno K ( <sup>1</sup> Komagome Hospital, <sup>2</sup> Chiba Hokusoh Hospital ) : Elevated Levels of both Cardiomyocyte Membrane and Myofibril Damage Markers Predict Adverse Outcomes in Patients with Chronic Heart Failure. *Circ J* 2008 ; 72 (4) : 569-574.
- 3) Kobayashi Y, Iwasaki Y, Miyauchi Y, Hayashi M, Ohno N, Yodogawa K, Morita N, Tanaka K, Mizuno

- K : The role of Purkinje fibers in the emergence of an incessant form of polymorphic ventricular tachycardia or ventricular fibrillation associated with ischemic heart disease. *J Arrhythmia* 2008 ; 24 (4) : 200-208.
- 4) Hosokawa Y, Takano H, Ohno T, Takayama M, Mizuno K : Impact of Percutaneous Transluminal Septal Myocardial Ablation on Refractory Paroxysmal Atrial Fibrillation in Patients With Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy. *Angiology* 2008 ; 59 (3) : 329-334.
  - 5) Miyauchi Y, Iwasaki Y, Okazaki R, Murata H, Yamamoto T, Matsumoto A, Kobayashi Y, Katoh T, Mizuno K : Visualizing Complex Cardiac Arrhythmias. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (5) : 252-253.
  - 6) Shirakabe A<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Suzuki Y<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Kikuchi A<sup>1)</sup>, Takano T, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Chiba Hokusoh Hospital) : Cytokine Levels in Pleural Effusions of Patients Under Intensive care. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (5) : 262-268.
  - 7) Tanaka Y<sup>1)</sup>, Hino M<sup>1)</sup>, Morikawa T<sup>2)</sup>, Takeuchi K<sup>2)</sup>, Mizuno K, Kudoh S<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Yokohama Rosai Hospital, <sup>3)</sup> Fourth Department of Internal Medicine) : Arterial Blood Lactate is a Useful Guide to when Rehabilitation Should be Instigated in COPD. *Respirology* 2008 ; 13 (4) : 564-568.
  - 8) Shirakabe A<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Suzuki Y<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Kikuchi A<sup>1)</sup>, Takano T, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Chiba Hokusoh Hospital) : Diagnostic Score to Differentiate Acute Aortic Dissection in the Emergency Room. *Circ J* 2008 ; 72 (6) : 986-990.
  - 9) Xie Y, Takano M, Murakami D<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Okamoto K<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Chiba Hokusoh Hospital) : Comparison of Neointimal Coverage by Optical Coherence Tomography of a Sirolimus-Eluting Stent Versus a Bare-Metal Stent Three Months After Implantation. *A J Cardiol* 2008 ; 102 (1) : 27-31.
  - 10) Raffel C<sup>1)</sup>, Merchant M<sup>1)</sup>, Tearney G<sup>2)</sup>, Chia S<sup>1)</sup>, Gauthier D<sup>1)</sup>, Pomerantsev E<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>2)</sup>, Bouma B<sup>1)</sup>, Jang I ( <sup>1)</sup> Massachusetts General Hospital and Harvard Medical School, <sup>2)</sup> Wellman Center for Photomedicine Massachusetts General Hospital and Harvard Medical School) : In vivo Association Between Positive Coronary Artery Remodelling and Coronary Plaque Characteristics Assessed by Intravascular Optical Coherence Tomography. *Eur Heart J* 2008 ; 29 (7) : 1721-1728.
  - 11) Takano M, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Okamoto K<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Chiba Hokusoh Hospital) : Lack of Association Between Large Angiographic late loss and low risk of In-Stent Thrombus. *Circ Cardiovasc Intervent* 2008 ; 1 (8) : 20-27.
  - 12) Ohba T<sup>1)</sup>, Takano H, Kunimi T<sup>2)</sup>, Fujita N, Kodani E<sup>2)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Tama-Nagayama Hospital) : Direct Comparison Between Pharmacological Stress with Adenosine Triphosphate Disodium and Exercise Stress Myocardial Perfusion Imagings. *J of Cardiol* 2008 ; 52 (8) : 30-38.
  - 13) Tajima N<sup>1)</sup>, Kurata H<sup>1)</sup>, Nakaya N<sup>2)</sup>, Mizuno K, Ohashi Y<sup>3)</sup>, Kushiro T<sup>4)</sup>, Teramoto T<sup>5)</sup>, Uchiyama S<sup>6)</sup>, Nakamura H ( <sup>1)</sup> Jikei Univ. school of Medicine, <sup>2)</sup> Nakaya Clinic, <sup>3)</sup> The Univ. of Tokyo, <sup>4)</sup> Nihon Univ. Surugadai Hospital, <sup>5)</sup> Teikyo Univ. School of Medicine, <sup>6)</sup> Tokyo Women' s Medical Univ. School of Medicine, <sup>7)</sup> Mitsukoshi Health and Welfare Foundation) : Pravastatin reduces the risk for cardiovascular disease in Japanese hypercholesterolemic patients with impaired fasting glucose or diabetes : Diabetes subanalysis of the management of elevated cholesterol in the primary prevention group of adult Japanese (MEGA) study . *Atherosclerosis* 2008 ; 199 : 455-462.
  - 14) Huang C<sup>1)</sup>, Tsukada Y, Perry-Garza C<sup>1)</sup>, Mentzer R<sup>2)</sup>, Gottlieb R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> San Diego State Univ, <sup>2)</sup> Wayne State Univ Sch of Med) : Sulfaphenazole Mediates Cardioprotection Through Preconditioning and Autophagy. *Cir Res* 2008 ; 103 (5) : e35-e70.
  - 15) Takeshita M<sup>1)</sup>, Katsuragi Y<sup>1)</sup>, Kusuhara M<sup>2)</sup>, Higashi K<sup>2)</sup>, Miyajima E<sup>3)</sup>, Mizuno K, Mori K<sup>1)</sup>, Obata T<sup>2)</sup>,

- Ohmori R<sup>2)</sup>, Ohsuzu F<sup>2)</sup>, Onodera Y<sup>4)</sup>, Sano J<sup>5)</sup>, Sawada S<sup>2)</sup>, Tabata S<sup>2)</sup>, Tokimatsu I<sup>1)</sup>, et al. <sup>(1)</sup> Health Care Food Research Lab. Kao Corp. , <sup>(2)</sup> National Defense Medical Coll. , <sup>(3)</sup> Mitsukoshi Health and Welfare Foud. , <sup>(4)</sup> Nikko Memorial Hospital, <sup>(5)</sup> Chiba Hokusoh Hospital) : Phytosterols Dissolved in Diacylglycerol oil Reinforce the Cholesterol-Lowering Effect of low-dose Pravastatin Treatment. *Nutrition, Metabolism&Cardiovascular Diseases* 2008 ; 18 (7) : 483-491.
- 16) Kato K<sup>1)</sup>, Sato N<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Mizuno K <sup>(1)</sup> Intensive and Cardiac Care Unit) : Valuable Markers for Contrast-Induced Nephropathy in Patients Undergoing Cardiac Catheterization. *Circ J* 2008 ; 72 (9) : 1499-1505.
- 17) Otsuka T, Kawada T, Katsumata M, Ibuki C<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 千葉北総病院, <sup>(2)</sup> 多摩永山病院) : High-sensitivity C-reactive protein associated with the risk of coronary heart disease as estimated by the Framingham Risk Score in middle-aged Japanese men . *Int J of Cardiol* 2008 ; (129) : 245-250.
- 18) Teramoto T<sup>1)</sup>, Ohashi Y<sup>1)</sup>, Nakaya N<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Mizuno K, Nakamura H<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> MEGA study Group) : Practical Risk Prediction Tools for Coronary Heart Disease in mild to Moderate Hypercholesterolemia in Japan-Originated from the MEGA Study data-. *Circ J* 2008 ; 72 (10) : 1569-1575.
- 19) Ishikawa T<sup>1)</sup>, Mizuno K, Nakaya N<sup>1)</sup>, Ohashi Y<sup>1)</sup>, Tajima N<sup>1)</sup>, Kushiro T<sup>1)</sup>, Teramoto T<sup>1)</sup>, Uchiyama S<sup>1)</sup>, Nakamura H<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> MEGA study Group) : The Relationship Between the Effect of Pravastatin and risk Factors for Coronary Heart Disease in Japanese Patients with Hypercholesterolemia. *Circ J* 2008 ; 72 (10) : 1576-1582.
- 20) Hata N<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Tsutamoto T<sup>2)</sup>, Hiraiatsu S<sup>3)</sup>, Kaneko N<sup>4)</sup>, Yoshikawa T<sup>5)</sup>, Yokoyama H<sup>6)</sup>, Tanaka K<sup>7)</sup>, Mizuno K, Nejima J<sup>8)</sup>, Kinoshita M<sup>9)</sup> <sup>(1)</sup> Chiba Hokusoh Hospital, <sup>(2)</sup> Shiga Univ. of Medical Science, <sup>(3)</sup> Fujita Health Univ. , <sup>(4)</sup> Dokkyo Univ. , <sup>(5)</sup> Keio Univ. , <sup>(6)</sup> Shizuoka National Hospital, <sup>(7)</sup> Intensive and Coronary Care Unit, <sup>(8)</sup> Tsurumi Univ. School of Dental Science, <sup>(9)</sup> Kusatsu General Hospital) : Effects of Carperitide on the long-term Prognosis of Patients with Acute Decompensated Chronic Heart Failure : the PROTECT Multicenter Randomized Controlled Study. *Circ J* 2008 ; 72 (11) : 1787-1793.
- 21) Osaka M<sup>1)</sup>, Murata H, Fuwamoto Y<sup>2)</sup>, Nanba S<sup>3)</sup>, Sakai K<sup>3)</sup>, Kato T <sup>(1)</sup> Nippon Vaternary and Life Science Univ. , <sup>(2)</sup> Toyota Motor Corp. , <sup>(3)</sup> Denso Corp. ) : Application of Heart rate Variability Analysis to Electrocardiogram Recorded Outside the Driver' s Awareness from an Automobile Steering Wheel. *Circ J* 2008 ; 72 (11) : 1867-1873.
- 22) Hosokawa Y<sup>1)</sup>, Takano H, Aoki A<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Ogano M<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Tanabe J<sup>1)</sup>, Yokoyama H<sup>1)</sup>, Kato T<sup>1)</sup>, Takagi H<sup>1)</sup>, Umemoto T<sup>1)</sup>, Takayama M, Mizuno K <sup>(1)</sup> Shizuoka Madical Center) : Management of coronary artery disease in patients undergoing elective abdominal aortic aneurysm open repair. *Clin Cardiol* 2008 ; 31 (12) : 580-585.
- 23) Yamamoto T<sup>1)</sup>, Murai K<sup>1)</sup>, Tokita Y<sup>1)</sup>, Kato K<sup>1)</sup>, Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Sato N<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>2)</sup>, Mizuno K, Tanaka K<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Intensive and Cardiac care unit, <sup>(2)</sup> Department of Radiology) : Thrombolysis with a Novel Modified Tissue-Type Plasminogen Activator Monteplase Combined with Catheter-Based Treatment for Major Pulmonary Embolism. *Circ J* 2009 ; 73 (1) : 106-110.
- 24) Okada K<sup>1)</sup>, Kurita A<sup>2)</sup>, Takase B<sup>3)</sup>, Otsuka T<sup>4)</sup>, Kodani E<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K <sup>(1)</sup> Tama-Nagayama Hospital, <sup>(2)</sup> Fukuinkai Medical Clinic, <sup>(3)</sup> Division of Biomedical Engineering National Defense Medical College, <sup>(4)</sup> Department of Hygine and Public Health) : Effects of Music Therapy on Autonomic Nervous System Activity Incidence of Heart Failure Events and Plasma Cytokine and Catecholamine Levels in Elderly Patients with Cerebrovascular Disease and Dementia. *Int Heart J* 2009 ; 50 (1) : 95-110.
- 25) Kobayashi N<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Shirakabe A<sup>1)</sup>, Mizuno K <sup>(1)</sup> Division of Intensive

- Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital) : A Case of Takotsubo Cardiomyopathy During 5-Fluorouracil Treatment for Rectal Adenocarcinoma. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (1) : 27-33.
- 26) Kobayashi Y, Fujiki A<sup>1)</sup>, Aonuma K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> University of Toyama, <sup>2)</sup> University of Tsukuba ) : Learning from Clinical Randomized Trials-Individualized Therapy is Important in the Management of Atrial Fibrillation-. *Circ J* 2009 ; 73 (2) : 229-230.
- 27) Ogawa S<sup>1)</sup>, Yamashita T<sup>1)</sup>, Yamazaki T<sup>1)</sup>, Aizawa Y<sup>1)</sup>, Atarashi H, Inoue H<sup>1)</sup>, Ohe T<sup>1)</sup>, Ohtsu H<sup>1)</sup>, Okumura K<sup>1)</sup>, Katoh T, Kamakura S<sup>1)</sup>, Kumagai K<sup>1)</sup>, Kurachi Y<sup>1)</sup>, Kodama I<sup>1)</sup>, Koretsune Y<sup>1)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> J-RHYTHM Study ) : Optimal Treatment Strategy for Patients with Paroxysmal Atrial Fibrillation : J-RHYTHM Study. *Circ J* 2009 ; 73 (2) : 242-248.
- 28) Kushiro T<sup>1)</sup>, Mizuo K, Nakaya N<sup>2)</sup>, Ohashi Y<sup>3)</sup>, Tajima N<sup>4)</sup>, Teramoto T<sup>5)</sup>, Uchiyama S<sup>6)</sup>, Nakamura H<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup> Nihon Univ. School of Medicine, <sup>2)</sup> Nakaya Clinic, <sup>3)</sup> Univ. of Tokyo, <sup>4)</sup> Jikei Univ. School of Medicine, <sup>5)</sup> Teikyo Univ. School of Medicine, <sup>6)</sup> Tokyo Women' s Medical Univ. School of Medicine, <sup>7)</sup> Mitsukoshi Health and Welfare Foundation ) : Pravastatin for cardiovascular event primary prevention in patients with mild-to moderate hypertension in the management of elevated cholesterol in the primary prevention group of adult Japanese (MEGA) study. *Hypertension* 2009 ; 53 : 135-141.
- 29) Yamamoto M<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Okamatsu K<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Xie Y<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> CHiba Hokusoh Hospital ) : Relationship Between Thin cap Fibroatheroma Identified by Virtual Histology and Angioscopic Yellow plaque in Quantitative Analysis with Colorimetry. *Circ J* 2009 ; 73 (3) : 497-502.
- 30) Hirayama Y, Atarashi H, Kobayashi Y, Iwasaki Y, Miyauchi Y, Ohara T, Yashima M, Katoh T, Mizuno K : Long-Term Effects of Upstream Therapy on paroxysmal Atrial Fibrillation in Patients without Overt Heart Diseases. *Int Heart J* 2009 ; 50 (2) : 141-151.
- 31) 宮内靖史, 小林義典, 丸山光紀, 上野 亮, 岡崎怜子, 村田広茂, 山本哲平, 館岡克彦, 小原俊彦, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 平澤泰宏<sup>1)</sup>, 堀江 格<sup>2)</sup>, その他1名 ( <sup>1)</sup> 集中治療室, <sup>2)</sup> 多摩永山病院 ) : 心室頻拍開始時のPurkinje網内の伝導様式を検討しえた心筋梗塞後Electrical Stormの1例. *臨床心臓電気生理* 2008 ; 31 (5) : 209-217.
- 32) 村澤恒男<sup>1)</sup>, 酒井行直<sup>1)</sup>, 酒井紗織<sup>1)</sup>, 大塚智之<sup>1)</sup>, 大野 大<sup>1)</sup>, 網谷賢一<sup>1)</sup>, 小野卓哉, 宗像一雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院 ) : 維持透析患者の血液透析に伴うQT Dispersionの増大とRA系との関連性 : ホルター心電図との検討. *日本腎臓学会誌* 2008 ; 50 (4) : 481-487.
- 33) 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院 ) : 血管内視鏡を用いた急性冠症候群の洞察 (II). *日医大医会誌* 2009 ; 5 (1) : 6-8.
- 34) 塚田弥生, 水野杏一 : 女性循環器勤務医の就労継続のためには何が必要か? : 循環器医の仕事と生活における性差に関する調査結果より. *循環器専門医* 2009 ; 17 (1) : 68-74.
- (2) 総説 :
- 1) 上野 亮<sup>1)</sup>, 加藤貴雄 ( <sup>1)</sup> 集中治療室 ) : 洞不全症候群と心ブロックの治療. *ICUとCCU* 2009 ; 33 (1) : 75-82.
- 2) 宮本正章, 高木 元, 太良修平, 高野仁司, 高木郁代, 安武正弘, 水野杏一 : 治療抵抗性末梢動脈疾患 (PAD) に対する再生医療を追うようした先進併用療法. *日医大医会誌* 2009 ; 5 (1) : 33-37.
- 3) Muramatsu H<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>2)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Kasugai Rehabilitation Hospital, <sup>2)</sup> Sakakibara Heart Institute ) : Revisiting the electrophysiological mechanisms of VF/VT arrest duringe early ischemia and spontaneous electrical activity after degibrillation : from cells to ACLS. *I-ReSS* 2009 ; 1-10.
- 4) 長谷川純一<sup>1)</sup>, 岸田 浩 ( <sup>1)</sup> 鳥取大学医学部薬物治療学 ) : 座長のまとめ. *臨床薬理* (第28回日本臨床薬理学

会年会記録) 2008 ; 39 (3) : 59S-59S.

- 5) 水野杏一, 中村治雄<sup>1)</sup> (1) 三越厚生事業団) : Primary Prevention of Cardiovascular Disease with Pravastatin in Japan (MEGA Study). 臨床薬理 (第28回日本臨床薬理学会年会記録) 2008 ; 39 (3) : 69S-70S.
- 6) 塚田弥生 : 心不全の家庭管理. 日本病院薬剤師会雑誌 2008 ; 44 (5) : 707-710.
- 7) 村上大介<sup>1)</sup>, 高野雅充, 水野杏一 (1) 千葉北総病院) : 血管内視鏡. Heart View 2008 ; 12 (6) : 27-32.
- 8) 宮本正章, 高木 元, 水野博司<sup>1)</sup>, 水野杏一 (1) 形成外科・美容外科) : 重症糖尿病性足壊疽におけるマゴットセラピーの有効性. Diabetes Frontier 2008 ; 19 (3) : 331-339.
- 9) 牛島明子, 福岡長知, 水野杏一 : 心血管リハビリテーションにおける生活習慣病対策の重要性. 心臓リハビリテーション 2008 ; 13 (2) : 281-284.
- 10) 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 福岡長知, 斎藤公一<sup>1)</sup>, 岸田 浩, 水野杏一 (1) 生理機能センター) : 検査技師からみたサクセスフル心リハとは何か. 心臓リハビリテーション 2008 ; 13 (2) : 249-252.
- 11) 加藤貴雄 : 家庭用心電計の適正使用と評価. Medical Practice 2008 ; 25 (6) : 1001-1004.
- 12) 平山悦之, 高野照夫 : 腹部のみかた. 日医雑誌 2008 ; 137 (1) : S42-S43.
- 13) 村上大介<sup>1)</sup>, 高野雅充, 水野杏一 (1) 千葉北総病院) : 冠循環からの視点 : DES留置に関連した冠循環障害. 血管医学 2008 ; 9 (3) : 69-73.
- 14) 加藤貴雄 : 静注用III群抗不整脈薬の使い方を知る. 内科 2008 ; 102 (3) : 508-512.
- 15) 高野雅充, 水野杏一 : 光干渉断層法と血管内視鏡による生体での冠動脈プラーク評価の比較. 循環器専門医 2008 ; 16 (2) : 281-288.
- 16) 宮本正章, 高木 元, 水野博司<sup>1)</sup>, 水野杏一 (1) 形成外科・美容外科) : 治療抵抗性壊疽に対するマゴットセラピー. 皮膚病診療 2008 ; 30 (9) : 1051-1060.
- 17) 時田祐吉, 水野杏一 : 虚血性心疾患の病型. 診断と治療 2008 ; 96 (10) : 18-24.
- 18) 水野杏一 : 命にかかわる病気「心筋梗塞」急性心筋梗塞の治療. JMS 2008 ; 143 : 30-34.
- 19) 宮本正章<sup>1)</sup>, 高木 元, 水野博司<sup>2)</sup>, 水野杏一 (1) 再生医療科, 2) 形成外科・美容外科) : 糖尿病性壊疽に対するマゴットセラピー. 日本臨床 2008 ; 66 (9) : 700-712.
- 20) 安武正弘 : 重症冠動脈疾患に対する骨髄由来単核細胞を用いたハイブリッド治療. Angiology Frontier 2008 ; 7 (4) : 47-52.
- 21) 平山悦之, 加藤貴雄 : 心房細動に対するリズムコントロールとレートコントロールの選択基準は. 循環器科 2008 ; 64 (1) : 143-147.
- 22) 加藤貴雄, 小川 聡<sup>1)</sup> (1) 慶應大学医学部循環器内科) : ガイドラインを実地診療にいかす : Web版「実践的抗不整脈薬選択ツール」の開発. 治療学 2009 ; 43 (1) : 73-75.
- 23) 加藤貴雄 : 薬物性QT延長症候群の患者背景 : 医薬品開発および臨床試験における留意点. 日薬理誌 2009 ; 133 (1) : 19-21.
- 24) 加藤貴雄 : 日本におけるリドカインと静注III群薬の臨床試験成績 (overview). 心電図 2009 ; 29 (1) : 3-9.
- 25) 高野雅充, 水野杏一 : 急性冠症候群のOCT. 救急医学 2009 ; 33 (2) : 234-238.
- 26) 水野杏一 : 医師不足の実態と対応. 呼吸と循環 2009 ; 57 (3) : 237-237.
- 27) 太良修平, 宮本正章, 高木 元, 水野杏一 : 血管新生療法・マゴットセラピーとサルボグレラート併用効果. Angiology Frontier 2009 ; 8 (1) : 71-75.
- 28) 加藤貴雄, 小川 聡<sup>1)</sup> (1) 慶應大学医学部循環器内科) : 実践的抗不整脈薬選択ツールの開発. 不整脈News & Views 2009 ; 27 (1) : 14-15.

(3) 症例報告 :

- 1) Takano M, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Xie Y, Murakami D<sup>1)</sup>, Okamatsu K<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K (1) Chiba Hokusoh Hospital) : Delayed Endothelialization After Polytetrafluoroethylene-Covered



Stent Implantation for Coronary Aneurysm. *Circ J* 2009 ; 73 (1) : 190-193.

- 2) Saito T, Ubara Y<sup>1)</sup>, Suwabe T<sup>1)</sup>, Higa Y<sup>1)</sup>, Nakanishi S<sup>1)</sup>, Hoshino J<sup>1)</sup>, Sawa N<sup>1)</sup>, Katori H<sup>1)</sup>, Takemoto F<sup>1)</sup>, Marui R<sup>1)</sup>, Nakamura M<sup>1)</sup>, Tomikawa S<sup>1)</sup>, Hara S<sup>1)</sup>, Takaichi K<sup>1)</sup>, Tohbai H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Nephrology center Toranomon Hospital, <sup>2)</sup> Department of obstetrics and gynecology, Toranomon Hospital) : A patient with pregnancy-related acute abdomen after hemodialysis for over 18 years. *Clinical nephrology* 2009 ; 71 (3) : 345-349.
- 3) 山本真功<sup>1)</sup>, 高野雅充, 村上大介<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 大秋忠秋<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院) : シロリムス溶出性ステントを留置した3枝すべてにステント内再狭窄を認めた慢性維持透析患者の1例 : 方向性冠動脈粥腫切除術によって得られた病理組織所見からの洞察. *心血管インターベンション* 2008 ; 23 (6) : 454-459.
- (4) エディトリアル :
  - 1) 水野杏一 : 急性冠症候群. *救急医学* 2009 ; 33 (2) : 125-125.
- (5) ガイドライン :
  - 1) 加藤貴雄 : ベースメーカ, ICD, CRTを受けた患者の社会復帰・就学・就労に関するガイドライン. *Circ J* 2008 ; 72 (IV) : 1133-1192.
  - 2) 加藤貴雄 : 臨床心臓電気生理検査に関するガイドライン. *Circ J* 2008 ; 70 (IV) : 1391-1476.
- (6) 追加 座談会 :
  - 1) 山下武志<sup>1)</sup>, 小林義典, 池田隆徳<sup>2)</sup>, 山根禎一<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 心臓血管研究所循環器科, <sup>2)</sup> 杏林大学第二内科, <sup>3)</sup> 東京慈恵医科大学循環器内科) : 本邦での心房細動診療スタンダード : J-RHYTHM試験の結果を受けて. *内科* 2008 ; 101 (3) : 531-542.

## 著 書

- 1) 高野仁司, 水野杏一 : [分担] B不安定狭心症 Q1不安定ブランク Q2不安定ブランクの検出法の進歩は? Q3不安定ブランクの安定化は可能か?. 専門医のための薬物療法Q&A循環器 (富野康日己 小室一成 北風政史), 2008 ; pp128-137, 中外医学社.
- 2) 岸田 浩 : [分担] QT延長症候群. 医薬品副作用ハンドブック (高橋隆一), 2008 ; pp271-272, 日本臨床社.
- 3) 塚田弥生, 岸田 浩 : [分担] 循環器官用薬. 医薬品副作用ハンドブック (高橋隆一), 2008 ; pp71-73, 日本臨床社.
- 4) 平山悦之 : [監修] すく引けるモニター心電図 (平山悦之), 2008 ; 成美堂出版.
- 5) 加藤貴雄 : [分担] 日本におけるリドカインと静注III群薬の臨床試験成績 (overview). リドカイン ニフェカラン ト アミオダロン静注薬の使い方—重症心室不整脈への対策— (大江 透 萩原誠久 小野克重 平岡昌和), 2009 ; pp29-39, ライフメディコム.
- 6) 水野杏一 : [分担] 4.9 光コヒーレンストモグラフィ 4.9.1 はじめに. 新ME機器ハンドブック (電子情報技術産業協会), 2008 ; pp285-286, コロナ社.
- 7) 高野雅充 : [分担] 4.9 光コヒーレンストモグラフィ 4.9.2 原理ならびにシステム 4.9.3 手技 4.9.4 おわりに. 新ME機器ハンドブック (電子情報技術産業協会), 2008 ; pp286-288, コロナ社.
- 8) 加藤貴雄 : [分担] 不整脈の治療. 循環器系コア・カリキュラムテキスト (後藤英司 木村一雄 小西真人), 2008 ; pp248-258, 文光堂.
- 9) 加藤貴雄 : [分担] おもな徐脈性不整脈の心電図の特徴. 循環器系コア・カリキュラムテキスト (後藤英司 木村一雄 小西真人), 2008 ; pp231-237, 文光堂.
- 10) 加藤貴雄 : [分担] おもな致死性不整脈の心電図の特徴. 循環器系コア・カリキュラムテキスト (後藤英司 木村一雄 小西真人), 2008 ; pp238-247, 文光堂.



- 11) 加藤貴雄：〔分担〕おもな頻脈性不整脈の心電図の特徴．循環器系コア・カリキュラムテキスト（後藤英司 木村一雄 小西真人），2008；pp222-230，文光堂．
- 12) 水野杏一：〔分担〕不安定狭心症，非ST上昇型心筋梗塞．今日の治療指針（山口 徹 北原光夫 福井次矢），2009；pp279-282，医学書院．
- 13) 水野杏一：〔分担〕虚血性心疾患評価における各モダリティーの特徴．心臓カテーテル室マニュアル（平山篤志），2009；pp85-88，メディカ出版．
- 14) 高木 元，宮本正章，水野杏一：〔分担〕マゴット治療の実際．足の創傷をいかに治すか（市岡 滋 寺師浩人），2009；pp156-160，克誠堂．
- 15) 八島正明，小林義典：〔分担〕イベントレコーダ．不整脈クリニカルプラクティス（井上博 山下武志），2009；pp30-33，南江堂．
- 16) 宮本正章，高木 元：〔分担〕重症下肢虚血（CLI）に対する血管新生療法．足の創傷をいかに治すか（市岡 滋 寺師 浩人），2009；pp48-53，克誠堂．

## 学会発表

〔追加分〕

追加分シンポジウム：

- 1) 水野杏一：血管内視鏡による不安定プラークの診断．第27回日本画像医学会，2008．2．
- (1) 特別講演：
- 1) 加藤貴雄：アミオダロンの臨床的位置付けと使い方．第2回秋田不整脈セミナー，2008．5．
  - 2) 加藤貴雄：アミオダロンの臨床的位置付けと使い方．第4回長野アミオダロン研究会，2008．7．
  - 3) 宮本正章：重症難治性創傷に対するマゴットセラピー（医療用無菌ウジ治療）の有用性．第60回日本衛生動物学会東日本支部大会，2008．10．
- (2) 教育講演：
- 1) 加藤貴雄：伝送式イベントレコーダー・カルジオフォンのJ-RHYTHMII試験における認容性．第6回心電図伝送システム研究会，2009．2．
  - 2) 加藤貴雄：心房細動における心拍数コントロールとリズムコントロール．第7回Brain & Heart Attack Forum，2008．4．
  - 3) 水野杏一：循環器領域最新の画像診断．日本内科学会北陸支部 第44回生涯教育講演会，2008．6．
  - 4) 加藤貴雄：心室期外収縮・非持続性心室頻拍の薬物治療．第6回日本心電学会教育セミナー，2008．12．
- (3) シンポジウム：
- 1) Miyauchi Y：Characteristics and Radiofrequency Catheter Ablation of Atrial Tachycardia Following Open-Heart Surgery．Tokyo-Taipei-Seoul Arrhythmia Joint Conference（Seoul, Korea），2008．10．
  - 2) 高木 元，宮本正章，安武正弘，高木郁代，高野仁司，加藤浩司，太良修平，大坪春美，田畑泰彦<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>（京都大学再生医科学研究所）：徐放化 basic FGF 蛋白による血管再生治療：低侵襲，安全かつ有効な再生治療の提案．第14回日本血管内治療学会総会，2008．7．
  - 3) Kobayashi Y，Iwasaki Y，Hayashi M<sup>1)</sup>，Miyauchi Y，Ohno N<sup>1)</sup>，Tanaka K<sup>2)</sup>，Katoh T，Mizuno K<sup>1)</sup>（Chiba-Hokusoh Hospital，<sup>2)</sup> Department of Intensive Care Unit）：Catheter ablation for the Purkinje-fiber Related Ventricular Tachyarrhythmias Associated with Myocardial Infarction．第73回日本循環器学会総会・学術集会，2009．3．
  - 4) Hayashi H<sup>1)</sup>，Takagi R<sup>1)</sup>，Kumita S<sup>1)</sup>，Ochi M<sup>2)</sup>，Tanaka K<sup>3)</sup>，Mizuno K<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Department of Radiology，<sup>2)</sup> Department of 2nd Surgery，<sup>3)</sup> Coronary Care Unit）：Impacts of Multidetector Row CT on Diagnosis of

- Aortic Diseases. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 5) Takano H, Yamamoto E, Takahashi Y, Takano M, Takagi G, Asai K, Yasutake M, Mizuno K : Impact of the Prevention of Contrast-induced Nephropathy on Clinical Outcome and Cost-effectiveness in Pre-dialysis Patients Undergoing Coronary Intervention. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
  - 6) Takayama M<sup>1)</sup>, Sumiyoshi T<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology, Sakakibara Heart Institute) : Cost Effective Analysis on Percutaneous Alcohol Septal Myocardial Ablation for Drug Refractory Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy : Was Advantage Preserved as Presumed Prediction at the Approval in Government Health Insurance?. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
  - 7) Tukada Y, Mizuno K : Key to Career Satisfaction of Women in Academic Cardiology. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
  - 8) Takayama M<sup>1)</sup>, Mizuno K, Sumiyoshi T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology Sakakibara Heart Institute) : Alcohol Septal Ablation for Intra-left Ventricular Obstruction for Drug Refractory Severe Symptoms. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
  - 9) Yamamoto A<sup>1)</sup>, Nakamura H<sup>2)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> The Minoh City Council of Social Welfare, <sup>2)</sup> Mitsukoshi Health and Welfare Foundation) : New Insights for Broader Value of Lipid-lowering Therapy for Patients with Mild-to-Moderate Hypercholesterolemia : Findings from Subanalyses of the MEGA Study. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
  - 10) 宮内靖史, 小林義典, 丸山光紀, 岩崎雄樹, 上野 亮, 岡崎怜子, 村田広茂, 山本哲平, 小原俊彦, 加藤貴雄, 水野杏一, 新田 隆<sup>1)</sup>, 大森裕也<sup>1)</sup>, 堀江 格<sup>2)</sup>, 新 博次<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 心臓血管外科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院) : 開心術後遠隔期に出現する心房粗動・心房頻拍の特徴およびカテーテル・アブレーションの効果. 第23回日本不整脈学会学術大会, 2008. 5.
  - 11) 大坂元久<sup>1)</sup>, 村田広茂, 加藤貴雄, 不破本義孝<sup>2)</sup>, 酒井一泰<sup>2)</sup>, 難波晋治<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本獣医生命科学大学, <sup>2)</sup> トヨタ自動車(株)(株)デンソー) : 自動車ステアリングからの無拘束心電図記録の心拍変動解析への応用. 第28回日本ホルター・ノンインベシブ心電学研究会, 2008. 7.
  - 12) 高野雅充, 高野仁司, 高木 元, 浅井邦也, 安武正弘, 水野杏一 : 血管内視鏡所見を用いた観察による薬剤ならびにカテーテルインターベンション後の冠動脈プラークの変化. 第14回日本血管内治療学会・総会, 2008. 7.
  - 13) 小林義典 : 心不全を伴う心房細動への有用性. 第13回アミオダロン研究会, 2008. 9.
  - 14) 高木 元, 宮本正章, 安武正弘, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 太良修平, 高野仁司, 加藤浩司, 高木郁代, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 放射線科) : 再生医療の臨床評価の問題点と多角的血流評価法. 第56回日本心臓病学会学術集会, 2008. 9.
  - 15) 宮内靖史, 小林義典, 岩崎雄樹, 岡崎怜子, 村田広茂, 山本哲平, 加藤貴雄, 水野杏一, 新田 隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 心臓血管外科) : 開心術後心房粗動・心房頻拍のカテーテルアブレーション : 術式による頻拍の特徴と治療効果. 第56回日本心臓病学会学術集会, 2008. 9.
  - 16) 加藤政利<sup>1)</sup>, 福間長知, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 會田智宏<sup>1)</sup>, 林 寛子, 加藤祐子, 土田貴也, 本間 博, 岸田 浩, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 生理機能センター) : 心疾患患者における最大運動負荷時経皮的炭酸ガス分圧と収縮期血圧の関係. 第45回日本臨床生理学会総会, 2008. 11.
  - 17) 福間長知, 林 寛子, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 牛島明子, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 高橋 啓, 岸田 浩, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 生理機能センター) : 心筋梗塞患者における睡眠時無呼吸症候群と炭酸ガス分圧異常. 第45回日本臨床生理学会総会, 2008. 11.
  - 18) 會田智弘<sup>1)</sup>, 福間長知, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 加藤政利, 斎藤公一<sup>1)</sup>, 牛島明子, 愛須紀子, 高橋 啓, 岸田 浩, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 生理機能センター) : 心筋梗塞後患者における睡眠時無呼吸症候群が夜間血圧・心拍・心拍変動に及

ほす影響. 第45回日本臨床生理学会総会, 2008. 11.

19) 福岡長知, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 林 寛子, 牛島明子, 小川 紅, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 高橋啓, 岸田 浩, 水野寿理, 水野杏一<sup>(1)</sup> (生理機能センター): 心筋梗塞患者に認められる睡眠時無呼吸症候群と抑うつとの関係. 第45回日本臨床生理学会総会, 2008. 11.

20) 加藤貴雄: 日本におけるリドカインと静注III群薬の臨床試験成績 (overview). 第25回日本心電学会学術集会, 2008. 11.

(4) パネルディスカッション:

1) 説田浩一<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> (駒込病院, <sup>2)</sup> 千葉北総病院): 本態性高血圧症における心筋傷害マーカーの臨床的意義. 第56回日本心臓病学会学術集会, 2008. 9.

2) 大野忠明, 本間 博, 藤本啓志, 東 春香, 横島友子, 松崎つや子, 水野杏一, 寺嶋克幸<sup>1)</sup>, 中西一浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 麻酔科): 非心臓手術前における心機能評価. 第56回日本心臓病学会学術集会, 2008. 9.

3) 山本真功<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 高野雅充, 水野杏一<sup>(1)</sup> (千葉北総病院): シロリムス溶出性ステントとバクリタクセル溶出性ステント留置6ヶ月後の血管内視鏡所見の比較. 第22回日本心臓血管内視鏡学会, 2008. 10.

4) 安武正弘, 宮本正章, 太良修平, 加藤浩司, 高木 元, 高野仁司, 水野杏一, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 放射線科, <sup>2)</sup> 心臓血管外科): 重症冠動脈疾患に対する骨髄単核細胞移植の有用性と血管新生の評価. 第22回日本冠疾患学会, 2008. 12.

(5) 海外留学者講演:

1) 高橋 啓: The Salivary Gland: a Novel Depot Organ for the Expression of FIX and Treatment of Hemophilia B. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.

2) 遠藤育子: Ultraviolet B Irradiation Selectively Increases the Production of Interleukin-8 in Human cord Blood-Derived mast Cells. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.

3) 佐野純子: Electrocardiography Screening for Cardiotoxicity After Modified Vaccinia Ankara Vaccination. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.

(6) 一般講演:

1) Kohashi K, Takano H, Komiyama H, Okazaki H, Kawanaka H, Tsurumi M, Morisawa T, Yamamoto E, Takahashi Y, Takano M, Fujita N, Takagi G, Asai K, Yasutake M, Takayama M, et al. : Clinical Outcome After Percutaneous Coronary Intervention in Patients Having Previously Received Coronary Artery Bypass Graft Surgery. 第17回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2008. 7.

2) Murakami D<sup>1)</sup>, Takano M, Yamamoto M, Inami T<sup>1)</sup>, Tara S<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Okamatsu K<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Aoki S<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K (<sup>1)</sup> Chiba Hokusoh Hospital): Long-term Follow-up Evaluation After Sirolimus-Eluting Stent Implantation by Optical Coherence Tomography: Do the Uncovered Struts Persist?. 第17回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2008. 7.

3) Takano H, Yamamoto E, Takahashi Y, Takano M, Takagi G, Fujita N, Asai K, Yasutake M, Takayama M<sup>1)</sup>, Mizuno K (<sup>1)</sup> Sakakibara Memorial Hospital): Effectiveness of Cilostazole as a Substitute for Ticlopidine After Sirolimus-Eluting Stent Implantation. 第17回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2008. 7.

4) Miyachi H<sup>1)</sup>, Tanabe J<sup>1)</sup>, Kimata N<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Ogano M<sup>1)</sup>, Shiiba K<sup>1)</sup>, Mizuno K (<sup>1)</sup> Sizuoka Medical Center): Clinical Features and Mid-Term Outcomes of Coronary Artery Disease in Young Japanese Patients. 第17回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2008. 7.

5) Murakami D<sup>1)</sup>, Takano M, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Tara S<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Okamatsu K<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Aoki S<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K (<sup>1)</sup> Chiba-Hokusoh Hospital): Serial Long-Term Evaluation of Neointimal

Stent Coverage and Thrombus After Sirolimus-Eluting Stent Implantation by use of Coronary Angioscopy. 第17回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2008. 7.

- 6) Tara S<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Tajika K<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Takano M, Ohba T<sup>1)</sup>, Aoki S<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Chiba-Hokusoh Hospital) : An Extremely rare case of “in Stent Plaque Rupture” Detected by Coronary Angioscopy. 第17回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2008. 7.
- 7) Inami T<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Tara S<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Tajika K<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Aoki S<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Chiba-Hokusoh Hospital) : Imaging of Early Restenosis in Sirolimus-Eluting Stent by Novel Coronary Imaging Modalities (Angioscopy, OCT, VH-IVUS) in a Hemodialysis Patient. 第17回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2008. 7.
- 8) Yamamoto M<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Tara S<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Tajika K<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Okamatsu K<sup>1)</sup>, Takano M, Ohba T<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Chiba-Hokusoh Hospital) : Relationship Between thin cap Fibroatheroma Identified by Virtual Histology and Angioscopic Yellow Plaque in Quantitative Analysis with Colorimetry. 第17回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2008. 7.
- 9) Takano H, Takahashi Y, Yamamoto E, Takano M, Takagi G, Tajima H<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Department of Radiology) : Angioscopy-Guided Endovascular Treatment for Peripheral Occlusive Disease. TCT2008 (Washington, USA), 2008. 10.
- 10) Takagi G, Miyamoto M, Yasutake M, Fukushima Y<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>2)</sup>, Tara S, Takano H, Kato K, Takagi I, Mizuno K ( <sup>1</sup> Department of Radiology , <sup>2</sup> Department of Plastic Surgery) : Clinical Determination of Therapeutic Angiogenesis by Radionuclide Angiography . Conference on Cell Therapy for Cardiovascular Disease (New York, USA), 2009. 1.
- 11) Miyamoto A : Effect of Inhibiting Nitric Oxide Biosynthesis on the Systemic and Splanchnic Circulation in Rats with Advanced Cirrhosis due to Common bile duct Ligation. APASL (Hong Kong SAR, China), 2009. 2.
- 12) Takagi G, Miyamoto M, Kawanaka H, Tabata Y<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Department of Biomaterials Frontier Medical Sciences Kyoto University) : Novel Approach for most Difficult Case due to Vasculitis Complicated with Infected Ulcer. CCT2009, 2009. 1.
- 13) Tara S : Novel Approach to Critical Ischemia due to Collagen Disease. CCT2009, 2009. 1.
- 14) Aoki A<sup>1)</sup>, Ozaki K<sup>1)</sup>, Sato H<sup>2)</sup>, Takahashi A<sup>3)</sup>, Kudo M<sup>4)</sup>, Sakata Y<sup>2)</sup>, Mizuno H<sup>2)</sup>, Kamatani N<sup>3)</sup>, Tsunoda T<sup>5)</sup>, Takano H, Yasutake M, Mizuno K, Hori M<sup>2)</sup>, Nakamura Y<sup>6)</sup>, Tanaka T<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> Cardiovascular Disease Center for Genomic Medicine RIKEN , <sup>2</sup> Department of Cardiovascular Medicine Osaka University Graduate School of Medicine, <sup>3</sup> Laboratory for Statistical Analysis Center for Genomic Medicine RIKEN , <sup>4</sup> Laboratory for Genotyping, Center for Genomic Medicine RIKEN, <sup>5</sup> Laboratory for Medical Informatics Center for Genomic Medicine RIKEN, <sup>6</sup> Center for Genomic Medicine RIKEN ) : Identification of a Locus on Chromosome 5p that Confers Risk of Coronary Artery Disease by Genome Wide Association Study. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 15) Nakagomi A<sup>1)</sup>, Shibui T<sup>1)</sup>, Endoh I<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>1)</sup>, Endoh Y<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>2)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Tama-Nagayama Hospital, <sup>2</sup> Chiba-Hokusoh Hospital) : Statin Therapy Attenuates Monocyte Tumor Necrosis Factor Production and Improves Cardiac Function and Long-term Prognosis in Chronic Heart Failure. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 16) Inami T<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Kimata N<sup>1)</sup>, Okada K<sup>1)</sup>, Tara S, Murakami D<sup>1)</sup>, Tajika K<sup>1)</sup>, Yodogawa K<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Ohno N<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Aoki S<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>2)</sup>, Hata N<sup>2)</sup>, et al. ( <sup>1</sup> Cardiovascular Center Chiba-Hokusoh Hospital, <sup>2</sup> Department of Intensive Care Unit Chiba-Hokusoh Hospital) : Even

Mild Elevation of sLOX-1 may Reflect Coronary Atherosclerotic Plaque Burden in Non-AMI Coronary Artery Disease Patients. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.

- 17) Kato Y, Fukuma N, Takayama M<sup>1)</sup>, Ushijima A, Hayashi H, Aisu N, Takahashi H, Mizuno K (1) Department of Cardiology Sakakibara Heart Institute) : Characteristics of Exercise Induced Abnormal Blood Pressure Response in Patients with Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 18) Miyachi H<sup>1)</sup>, Yamamoto A<sup>2)</sup>, Kodani E<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K (1) Tama-Nagayama Hospital, 2) Radiology Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : Impact of Myocardial Perfusion and Metabolism for Left Ventricular Systolic Function and Synchrony. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 19) Ushijima A, Fukuma N, Hayashi H, Kato Y, Aisu N, Takahashi H, Kishida H, Mizuno K : Enhanced Sympathetic Excitation at peak Exercise as a Possible Cause of Attenuated Heart Rate Recovery in Patients with Myocardial Infarction. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 20) Mizuno K, Nakamura H<sup>1)</sup> (1) Mitsukoshi Health and Welfare Foundation) : The Effect of Pravastatin on Reduction of Coronary Revascularization in Patients with Elevated Cholesterol but No History of Cardiovascular Disease. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 21) Komiyama H, Takano H, Yanagida T, Okazaki H, Tsuboi I, Aisu N, Ushijima A, Fukuma N, Mizuno K, Kiriya T<sup>1)</sup>, Fukushima Y<sup>1)</sup>, Toba M<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>1)</sup> (1) Department of Radiology) : Incremental Diagnostic Value of Fusion Imaging from Stress Myocardial Scintigraphy and Coronary Multi-slice CT. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 22) Setsuta K<sup>1)</sup>, Kitahara Y<sup>2)</sup>, Arao M<sup>2)</sup>, Seino Y<sup>3)</sup>, Mizuno K (1) Department of Cardiology and Clinical Laboratory Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, 2) Department of Cardiology Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, 3) Department of Internal Medicine and Cardiovascular Center) : Detectable Cardiac Troponin T Predicts Cerebro-Cardiovascular Events in Hypertensive Patients. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 23) Aoki S<sup>1)</sup>, Kimata N<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Okada K<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Tara S, Murakami D<sup>1)</sup>, Tajika K, Yodogawa K<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Takano M, Ohno N<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, et al. (1) Chiba-Hokusoh Hospital) : Multi-biomarker Assessment of Coronary Atherosclerotic Plaque Burden in Non-AMI Patients : Importance of Three Characteristic Biomarkers. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 24) Iwasaki Y, Yamashita T<sup>1)</sup>, Sekiguchi A<sup>1)</sup>, Date T<sup>2)</sup>, Sagara K<sup>1)</sup>, Sawada H<sup>1)</sup>, Aizawa T<sup>1)</sup>, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Katoh T, Mizuno K (1) The Cardiovascular Institute, 2) Jikei University School of Medicine) : Macrophage Infiltration in Atria Precede the Development of Arrhythmogenic Substrates of Atrial Tachyarrhythmia in Spontaneously Hypertensive Rats. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 25) Kosugi M<sup>1)</sup>, Nakagomi A<sup>1)</sup>, Miyachi H<sup>1)</sup>, Shibui T<sup>1)</sup>, Kamiya M<sup>1)</sup>, Hosokawa Y<sup>1)</sup>, Yoshikawa M<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K (1) Tama-Nagayama Hospital) : Statin Therapy Improves Long-Term Prognosis Associated with Reduction of Inflammation in Patients with Vasospastic Angina. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 26) Hayashi M<sup>1)</sup>, Denjoy I<sup>2)</sup>, Extramiana F<sup>2)</sup>, Hayashi M, Roux-Buisson N<sup>4)</sup>, Guicheney P<sup>3)</sup>, Lunardi J<sup>4)</sup>, Kobayashi Y, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K, Leenhardt A<sup>2)</sup> (1) Chiba-Hokusoh Hospital, 2) Hopital Lariboisiere Paris France, 3) Groupe hospitalier Pitie-Salpetriere Paris France, 4) CHU Grenoble Grenoble France) : Do Exercise Stress Tests Exactly Identify Genetically Affected Family Members in Catecholaminergic Polymorphic Ventricular Tachycardia? (DETECT Study). 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.



- 27) Shibui T<sup>1)</sup>, Nakagomi A<sup>1)</sup>, Kosugi M<sup>1)</sup>, Miyachi H<sup>1)</sup>, Sasaki A<sup>1)</sup>, Kamiya M<sup>1)</sup>, Yoshikawa M<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Tama-Nagayama Hospital) : Statin Therapy Reduces Cardiac Events in Acute Coronary Syndrome Patients with Chronic Kidney Disease. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 28) 岡崎怜子, 宮内靖史, 小原俊彦, 佐藤直樹, 本間 博, 水野杏一, 井村 肇<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> 心臓血管外科) : 塞栓症の合併なく心不全を契機に診断された分葉型巨大左房粘液腫の1例. 日本内科学会関東支部主催 第561回関東地方会, 2009. 3.
- 29) 山本 剛<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 上野 亮<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 水野杏一, 田島廣之<sup>2)</sup> ( <sup>1</sup> 集中治療室, <sup>2)</sup> 放射線科) : 高リスク急性肺塞栓症への最近の治療成績 : モンテプラーゼおよび一時型下大静脈フィルター導入後の検討. 第105回日本内科学会総会・講演会, 2008. 4.
- 30) 小原啓子<sup>1)</sup>, 中村俊一<sup>1)</sup>, 加藤活人<sup>1)</sup>, 東 春香<sup>1)</sup>, 櫛方美文<sup>1)</sup>, 太田真夫, 水野杏一 ( <sup>1</sup> 同愛記念病院内科) : 糖尿病患者における肥満症と心血管疾患のリスクについて. 第105回日本内科学会総会・講演会, 2008. 4.
- 31) 松本綾乃, 高野仁司, 高木 元, 古明地弘和, 勝田梯実, 高野照夫, 水野杏一 : 片側性下腿浮腫の診断にリンパシンチグラフィが有用であった1例. 日本内科学会関東支部主催 第553回関東地方会, 2008. 5.
- 32) 松崎つや子<sup>1)</sup>, 高山守正, 手塚晶人<sup>2)</sup>, 藤本啓志, 高木郁代, 小林義典, 本間 博, 青木滝子<sup>3)</sup>, 五代儀新<sup>3)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1</sup> 生理機能センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学学生, <sup>3)</sup> GE横河メディカルシステム) : 富士山山頂における低圧低酸素の心循環に及ぼす影響 : strain rate imagingを用いて. 日本超音波医学会第81回学術集会, 2008. 5.
- 33) 中田 淳, 高山守正<sup>1)</sup>, 松崎つや子<sup>2)</sup>, 手塚晶人<sup>3)</sup>, 藤本啓志, 高木郁代<sup>4)</sup>, 小林義典, 水野杏一 ( <sup>1</sup> 榊原記念病院, <sup>2)</sup> 生理機能センター, <sup>3)</sup> 日本医科大学6年生, <sup>4)</sup> 鶴見大学歯学部附属病院内科) : 富士山山頂における健常登山者の心肺機能の研究 : 低酸素血症と肺高血圧. 第28回日本登山医学シンポジウム, 2008. 5.
- 34) 淀川顕司<sup>1)</sup>, 大野則彦<sup>1)</sup>, 森田典成, 小林義典, 高山英男, 宮内靖史, 小原俊彦, 加藤貴雄, 水野杏一 ( <sup>1</sup> 千葉北総病院) : Brugada症候群と不整脈源性右室異形成症の鑑別 : 心電図QRS波周波数解析を用いた検討. 第23回日本不整脈学会学術大会, 2008. 5.
- 35) 淀川顕司<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 大野則彦<sup>1)</sup>, 小原俊彦, 小鹿野道雄, 村田広茂, 高山英男, 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一 ( <sup>1</sup> 千葉北総病院) : 心サルコイドーシスに合併した心室頻拍に対しステロイドは有効か : 加算平均心電図を用いた検討. 第23回日本不整脈学会学術大会, 2008. 5.
- 36) 村田広茂, 小原俊彦, 小林義典, 淀川顕司, 加藤貴雄, 水野杏一 : 閉塞性肥大型心筋症 (HOCM) の催不整脈性と経皮的中隔心筋焼灼術 (PTSM) との関係 : Wavelet変換心電図による高周波数成分の評価. 第23回日本不整脈学会学術大会, 2008. 5.
- 37) 八島正明, 加藤貴雄, 浮谷勝郎<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> 浮谷クリニック) : 在宅医療における胸部電極使用伝送型イベントレコーダーの有用性. 第23回日本不整脈学会学術大会, 2008. 5.
- 38) 村田広茂, 宮内靖史, 小林義典, 丸山光紀, 岩崎雄樹, 上野 亮, 岡崎怜子, 山本哲平, 松本綾乃, 小原俊彦, 平山悦之, 加藤貴雄, 水野杏一, 堀江 格<sup>1)</sup>, 平澤泰宏<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> 多摩永山病院) : Electroanatomical Mappingにより走行を詳細に検討しえた左側 Atrio-Ventricular Mahaim束の1例. 臨床心臓電気生理研究会 (第38回), 2008. 5.
- 39) 神谷仁孝<sup>1)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1</sup> 多摩永山病院) : 超高齢者に対する冠動脈血行再建後の予後とQOLに影響を及ぼす因子. 第50回日本老年医学会学術集会・総会, 2008. 6.
- 40) 村澤恒男<sup>1)</sup>, 酒井行直<sup>1)</sup>, 酒井沙織<sup>1)</sup>, 大塚智之<sup>1)</sup>, 大野 大<sup>1)</sup>, 網谷賢一<sup>1)</sup>, 小野卓哉, 宗像一雄<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> 武蔵小杉病院) : 血液透析に伴う心筋脱分極過程と再分極過程の変動 : 心室性不整脈とRA系との関連性. 第53回日本透析医学会学術集会・総会, 2008. 6.
- 41) 高瀬仁志<sup>1)</sup>, 宮本正章, 高木 元 ( <sup>1</sup> 株式会社バイオセラピーメディカル) : 難治性糖尿病壊疽に対するマゴットセラピー (医療用ウジ治療) : その臨床導入のノウハウ. 第33回日本足の外科学会, 2008. 6.



- 42) 山本真功<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 高野雅充, 水野杏一<sup>(1)</sup> 千葉北総病院): シロリムス溶出性ステントとバクリタクセル溶出性ステント留置6ヶ月後の血管内視鏡所見の比較. 第14回日本血管内治療学会・総会, 2008. 7.
- 43) 加藤浩司<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 鶴見昌史<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> 集中治療室): 中等度腎障害患者における造影剤腎症に対するシスタチンCの有用性. 第14回日本血管内治療学会・総会, 2008. 7.
- 44) 山本 剛<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高木 元, 高野仁司, 浅井邦也, 安武正弘, 水野杏一<sup>(1)</sup> 集中治療室): ACSに対する血管内治療: BMSが第一選択である. 第14回日本血管内治療学会・総会, 2008. 7.
- 45) 説田浩一<sup>1)</sup>, 北原康行<sup>1)</sup>, 荒尾正人<sup>1)</sup>, 大林民典<sup>2)</sup>, 清野精彦<sup>3)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> 都立駒込病院 循環器内科, <sup>2)</sup> 都立駒込病院 臨床検査科, <sup>3)</sup> 千葉北総病院): 慢性心不全におけるマルチバイオマーカー (脳性ナトリウム利尿ペプチド, 心筋トロポニンT, C反応性蛋白) によるリスク層別化の有用性. 第52回六甲カルディアックセミナー, 2008. 8.
- 46) 来馬明規, 川野誠子<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 東京医科歯科大学難治疾患研究所): 宗教施設の間接喫煙防止対策: 東京巣鴨とげぬき地藏尊高岩寺全面禁煙化. 第3回日本禁煙学会学術総会, 2008. 8.
- 47) 時田祐吉<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 中田 淳<sup>1)</sup>, 吉田明日香<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 上野 亮<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 八島正明, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> 集中治療室): NT-proBNPは急性心不全の診断初期治療の選択に有用なバイオマーカーである. 第56回日本心臓病学会学術集会, 2008. 9.
- 48) 山本哲平, 高野仁司, 西城由之, 太良修平, 川中秀和, 加藤貴雄, 水野杏一: 100kgの減量が著明に低下した心機能の正常化に寄与した肥満心筋症の1例. 第56回日本心臓病学会学術集会, 2008. 9.
- 49) 森澤太郎, 高野仁司, 山本英世, 高橋保裕, 高野雅充, 高木 元, 浅井邦也, 安武正弘, 水野杏一: 過去の冠動脈造影所見から推察する不安定狭心症の発症機序の検討. 第56回日本心臓病学会学術集会, 2008. 9.
- 50) 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 森澤太郎<sup>1)</sup>, 西城由之<sup>1)</sup>, 洪井俊之<sup>1)</sup>, 細川雄亮<sup>1)</sup>, 神谷仁孝<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> 多摩永山病院): 退院時LDL-C/HDL-C比は急性冠症候群患者の心事故発症予測因子となる. 第56回日本心臓病学会学術集会, 2008. 9.
- 51) 藤本啓志, 本間 博, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 東 春香, 佐藤丞子, 横島友子, 安武ひろ子, 伊藤恵子, 大野忠明, 水野杏一<sup>(1)</sup> 生理機能センター): ドプタミン負荷中のLongitudinal Strain rate Imagingで収縮期伸展を示す心筋は Viabilityがあるか?. 第56回日本心臓病学会学術集会, 2008. 9.
- 52) 高橋保裕, 高野仁司, 小宮山英徳, 岡崎大武, 佐藤太亮, 中田 淳, 川中秀和, 山本英世, 高野雅充, 高木元, 浅井邦也, 安武正弘, 水野杏一: 腰部脊柱管狭窄症は下肢閉塞性動脈硬化症の発症・進展の危険因子になるか?. 第56回日本心臓病学会学術集会, 2008. 9.
- 53) 岡崎大武, 山本真功<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 高野雅充, 水野杏一<sup>(1)</sup> 千葉北総病院): 血管内視鏡と光干涉断層法により観察しえた薬剤溶出性ステント留置後再狭窄を認めた2症例. 第22回日本心臓血管内視鏡学会, 2008. 10.
- 54) 斉藤恒徳, 斉藤恒博<sup>1)</sup>, 杉山重幸<sup>1)</sup>, 山口 徹<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> グッドスリープクリニック, <sup>2)</sup> 虎の門病院): 閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する持続的陽圧換気療法の脈波伝播速度における長期的影響. 第49回日本脈管学会総会, 2008. 10.
- 55) 石川真士<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野仁司, 水野杏一, 中澤 賢<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 集中治療室, <sup>2)</sup> 放射線科): 当施設における周術期肺塞栓症の治療成績. 第15回肺塞栓症研究会・学術集会, 2008. 11.
- 56) 上野 亮<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 村田広茂, 岩崎雄樹, 宮内靖史, 小原俊彦, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一, 下川宏明<sup>2)</sup>, 魏 大名<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 集中治療室, <sup>2)</sup> 東北大学大学院医学系研究科循環器病態学, <sup>3)</sup> 会津大学): 標準12誘導心電図より算出したシミュレーション導出18誘導心電図の整合性の集中治療室入室症

- 例における検討. 第25回日本心電学会学術集会, 2008. 11.
- 57) 松本綾乃, 宮内靖史, 小林義典, 岡崎怜子, 村田広茂, 山本哲平, 岩崎雄樹, 加藤貴雄, 水野杏一, 松田陽子<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 林 明聡, 小原俊彦 ( <sup>1)</sup> 病理学, <sup>2)</sup> 東京通信病院病理科): 陳旧性下壁梗塞に伴う Mitral IsthmusVT の1剖検例. 第25回日本心電学会学術集会, 2008. 11.
- 58) 秋谷麻衣, 宮内靖史, 岡崎怜子, 牛島明子, 小原俊彦, 水野杏一, 田中 周<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 消化器内科): 著明な低タンパク血症と浮腫を契機に診断された小腸潰瘍の1例. 日本内科学会第558回関東地方会, 2008. 11.
- 59) 村田広茂, 大野忠明, 本間 博, 藤本啓志, 高橋保裕, 宮内靖史, 小林義典, 水野杏一, 重原健吾<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 田尾清一<sup>2)</sup>, 見友優子<sup>2)</sup>, 関野玲子<sup>2)</sup>, 松崎つや子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学講座 消化器部門, <sup>2)</sup> 生理機能センター): 食道走行の偏位が誘因となり経食道心エコーによる食道穿孔をきたした1例. 第210回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2008. 12.
- 60) 淀川顕司<sup>1)</sup>, 山本真功<sup>1)</sup>, 稲見 徹<sup>1)</sup>, 岡田 薫<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 田近研一郎<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 大野則彦<sup>1)</sup>, 青木 聡<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院): 完全房室ブロックにて発症し胃生検により確定診断に至った心サルコイドーシスの1例. 第210回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2008. 12.
- 61) 榎戸 馨<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 鶴見昌史<sup>1)</sup>, 鈴木大悟<sup>1)</sup>, 上野 亮<sup>1)</sup>, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 川中秀和<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 中野博之, 水野杏一, 細川雄亮<sup>2)</sup>, その他2名 ( <sup>1)</sup> 集中治療室, <sup>2)</sup> 多摩永山病院): 長期に及ぶ右心不全の原因がCABG術で使用したシート状止血剤による心外圧迫・収縮性心膜炎であった1例. 第210回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2008. 12.
- 62) 水野正之<sup>1)</sup>, 高野雅充, 三輪宗史<sup>1)</sup>, 中島健志<sup>1)</sup>, 渡邊英樹<sup>1)</sup>, 原田耕次<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院 放射線センター): 光干渉断層法OCTにおける輝度補正に関する検討. 第19回日本心血管画像動態学会, 2009. 1.
- 63) 水野正之<sup>1)</sup>, 高野雅充, 池亀 敏<sup>1)</sup>, 渡邊英樹<sup>1)</sup>, 原田耕次<sup>1)</sup>, 渡辺典男<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院 放射線センター): 光干渉断層法OCTにおけるキャリブレーション誤差の検討. 第19回日本心血管画像動態学会, 2009. 1.
- 64) Xie Y, Takano M, Murakami D<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Okamatsu K<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Chiba-Hokusoh Hospital): OCTを用いたシロリムス溶出性ステントとペアメタルステント留置後3ヶ月での比較. 第19回日本心血管画像動態学会, 2009. 1.
- 65) 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 根本克也<sup>2)</sup>, 長嶋道貴<sup>3)</sup>, 浅井邦也, 水野雅之<sup>3)</sup>, 南雄一郎<sup>3)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 集中治療室, <sup>2)</sup> 湘南第一病院循環器内科, <sup>3)</sup> 東京女子医科大学循環器内科): 本邦における急性心不全患者背景の実態: ATTENDデータベースからの中間報告. 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.
- 66) 時田祐吉<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 上野 亮<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 八島正明, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 集中治療室): NT-proBNPは虚血性急性心不全の鑑別に有用である. 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.
- 67) 山本 剛<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘, 水野杏一, 田中啓治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 集中治療室): 新しいDESへの期待と集学的治療体系の必要性. 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.
- 68) 村田広茂, 小原俊彦, 小林義典, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 高山英男<sup>2)</sup>, 宮内靖史, 加藤貴雄, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院, <sup>2)</sup> 久我山病院): Wavelet変換心電図を用いた不整脈基質の検出: 完全右脚ブロックをともなう陳旧性心筋梗塞患者における検討. 第19回体表心臓微小電位研究会, 2009. 2.
- 69) 小宮山英徳, 浅井邦也, 水野杏一: 多発する動脈閉塞を指摘されサルコイドーシスと診断した稀有な1症例. 第49回日本老年医学会関東甲信越地方会及び教育企画, 2009. 3.

70) 高木 元, 宮本正章, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 太良修平, 安武正弘, 水野杏一<sup>(1)</sup> 放射線科) : 下肢新生血管径の臨床評価. 第8回日本再生医療学会, 2009. 3.

(7) 公開講座 :

1) 小林義典 : 心電図によるペースメーカー作動・誤作動の鑑別と対処法. 第25回日本心電学会学術集会, 2008. 11.

(8) セッション :

1) 中田 淳<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 吉田明日香<sup>1)</sup>, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 川中秀和, 森澤太一郎, 浅井邦也, 水野杏一<sup>(1)</sup> 集中治療室) : 急性心筋梗塞へのステント留置4日後広範な内膜下血腫に伴い冠閉塞をきたした1例. 第32回日本心血管インターベンション学会, 2008. 5.

2) 森澤太一郎, 高野仁司, 山本英世, 高橋保裕, 水野杏一, 田島廣之<sup>1)</sup> (放射線科) : 浅大腿動脈の長い完全閉塞病変に対しIVUSデバイスを直接先行させ病変通過に成功した1例. 第32回日本心血管インターベンション学会, 2008. 5.

3) 林 寛子, 宮内靖史, 岡崎怜子, 村田広茂, 丸山光紀, 浅井邦也, 小原俊彦, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一, 富村正登<sup>1)</sup> (富村内科循環器医院) : 非通常型房室結節リエントリー性頻拍を合併した修正大血管転位の1例. 第208回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2008. 6.

4) 奥村 剛<sup>1)</sup>, 稲見 徹<sup>1)</sup>, 山本真功<sup>1)</sup>, 太良修平<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 田近研一郎<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 佐藤越<sup>1)</sup>, 大野則彦<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 青木 聡<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> 千葉北総病院) : 3DCTにより明瞭に描出された左鎖骨下動脈瘤を合併した偽性大動脈縮窄症の稀有な1症例. 第208回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2008. 6.

5) 豊田将大<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 吉田明日香<sup>1)</sup>, 高久多希朗<sup>1)</sup>, 中田 淳<sup>1)</sup>, 上野 亮<sup>1)</sup>, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 牛島明子, 古明地弘和, 水野杏一<sup>(1)</sup> 集中治療室) : パセドウ病治療開始まもなく劇症型心筋炎を発症救命し得た1例. 第208回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2008. 6.

6) 西城由之<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 渋井俊之<sup>1)</sup>, 神谷仁孝<sup>1)</sup>, 細川雄亮<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup> (多摩永山病院) : MSCTにて多発性冠動脈瘤を認め川崎病罹患が疑われた若年者狭心症の1例. 第208回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2008. 6.

7) 上野 亮<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 三井誠司<sup>2)</sup>, 本郷卓<sup>2)</sup>, 竹田晋治<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>3)</sup>, 岩崎雄樹, 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, その他1名<sup>(1)</sup> 集中治療室, <sup>2)</sup> 麻酔科, <sup>3)</sup> 心臓血管外科) : 集中治療室における冠動脈バイパス術後の合併する発作性心房細動に対するニフェカラントの有用性. 第7回ニフェカラント研究会, 2008. 7.

8) 牛島明子, 福岡長知, 林 寛子, 加藤祐子, 愛須紀子, 高橋 啓, 加藤和代, 土田貴也, 草間芳樹, 岸田 浩, 水野杏一 : Heart rate Recoveryと運動負荷時交感神経機能. 第58回循環器負荷研究会, 2008. 8.

9) 高野雅充, 高木 元, 浅井邦也, 高野仁司, 安武正弘, 水野杏一 : PCIにおけるOCTの利用. 第19回日本心血管画像動態学会, 2009. 1.

10) 細川雄亮<sup>1)</sup>, 森澤太一郎<sup>1)</sup>, 小杉宗範<sup>1)</sup>, 渋井俊之<sup>1)</sup>, 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 神谷仁孝<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 山科育子<sup>1)</sup>, 堀江格<sup>1)</sup>, 平澤泰宏<sup>1)</sup>, 松本 真<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 遠藤康実<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, その他3名<sup>(1)</sup> 多摩永山病院) : 経カテーテル腫瘍生検により心臓血管肉腫と診断し集学的治療を行った1例. 第211回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2009. 2.

11) 坪井一平, 村田広茂, 高野仁司, 高木 元, 水野杏一, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, その他3名<sup>(1)</sup> 集中治療室) : 偽腔開存型大動脈解離に伴う消費性凝固障害に抗線溶療法が奏功した1例. 第211回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2009. 2.

(9) ポスター :

1) Ogano M<sup>1)</sup>, Iwasaki Y, Miyachi H, Shiiba K<sup>1)</sup>, Tanabe J<sup>1)</sup>, Morita N, Kobayshi Y, Mizuno K<sup>(1)</sup> Shizu-

- ka Medical Center) : Proarrhythmic ECG Deterioration Caused by Myocardial Ischemia at the Conus Branch Artery in Asymptomatic Patients with the Brugada Type ECG. Heart Rhythm2008 (San Francisco, USA), 2008. 5.
- 2) Okazaki R, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Maruyama M, Iwasaki Y, Ueno A, Yamamoto T, Murata H, Ohara T, Hirayama Y, Katoh T, Mizuno K : Electrophysiologic Evidence for Anterior and Posterior Atrioventricular Nodes in a case with Congenitally Corrected Transposition of the Great Arteries and Atypical Atrioventricular Nodal Reentrant Tachycardia. Heart Rhythm2008 (San Francisco, USA), 2008. 5.
  - 3) Miyauchi M, Miyauchi Y, Iwasaki Y, Okazaki R, Kobayashi Y, Mizuno K : Chronic Nicotine Administration Induces Atrial Fibrosis in Normal and Hypertensive Rats via Renin-Angiotensin System. Heart Rhythm2008 (San Francisco, USA), 2008. 5.
  - 4) Ushijima A, Fukuma N, Hayashi H, Kato K, Kimura Y, Aisu N, Tsuchida T, Takahashi H, Kishida H, Mizuno K : Enhanced Sympathetic Excitation at Peak Exercise as a Possible Cause of Prolongation of Heart Rate Recovery in Patients With Myocardial Infarction. ACC2009 (Orlando, USA), 2009. 3.
  - 5) Saito T, Saito T<sup>1)</sup>, Sugiyama S<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Good Sleep Clinic) : Effect of Long-Term Treatment With Continuous Positive Airway Pressure on Pulse Wave Velocity Hypertension and Obesity in Obstructive Sleep Apnea With Metabolic Syndrome. ACC2009 (Orlando, USA), 2009. 3.
  - 6) Tsuchida T, Fukuma N, Oikawa K, Hayashi H, Ushijima A, Kato K, Kato Y, Aisu N, Takahashi H, Kishida H, Mizuno K : Evaluation of Origin of Plasma Norepinephrine at Peak Exercise in Patients With Heart Failure Using Systemic I23I-MIBG Imaging. ACC2009 (Orlando, USA), 2009. 3.
  - 7) Yamamoto M<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Kimata N<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Aoki S<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Chiba-Hokusoh Hospital) : Remote Ischemic Preconditioning at Percutaneous Coronary Intervention Reduce Minute Myocardial Injury : Evaluation by High-sensitivity Troponin T and NT-proBNP Assays. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
  - 8) Okazaki H, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Komiyama H, Satou T, Hara C, Yanagida T, Akiya M, Tara S, Yamamoto E, Takahashi Y, Takano M, Takagi G, Takano H, Asai K, Yasutake M, et al. : Lack of Association Large Angiographic Late Loss and Low Risk of In-Stent Thrombus : Angioscopic Comparison between Paclitaxel-and Sirolimus-Eluting Stent. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
  - 9) Ohno T, Honma H<sup>1)</sup>, Fujimoto H, Matsuzaki T<sup>1)</sup>, Yokoshima T, Mizuno K, Hayashi H<sup>2)</sup>, Kumita S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Physiological Laboratory, <sup>2)</sup> Department of Radiology) : Perioperative Risk Stratification by 64-Slice Multidetector Computed Tomography and Dobutamine Stress Echocardiography. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
  - 10) Tara S, Takagi G, Katoh K, Takano H, Takagi I, Yasutake M, Miyamoto M, Mizuno K : Predictors for Limb Amputation in Patients with Critical Limb Ischemia Subjected to Bone Marrow Mononuclear Cells Implantation. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
  - 11) Tajiri M<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>1)</sup>, Hen Y<sup>1)</sup>, Iguchi N<sup>1)</sup>, Mihara H<sup>1)</sup>, Aikawa M<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Tohbaru T<sup>1)</sup>, Asano R<sup>1)</sup>, Umemura J<sup>1)</sup>, Aman Y<sup>2)</sup>, Mizuno K, Sumiyoshi T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology, Sakakibara Heart Institute, <sup>2)</sup> Nippon Medical School) : Concordance of Alcohol Ablation Localization in Interventricular Septum against Systolic Anterior Motion (SAM) of Mitral Valve in HOCM. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
  - 12) Shirakabe A<sup>1)</sup>, Asai K, Hata N<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Akutsu K<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Division of Intensive Care Unit Chiba-Hokusoh Hospital) : The Effects of Statin Therapy on Matrix Metalloproteases in Patients with Acute Heart Failure. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.



- 13) Takahashi H, Fukuma N, Kishida H, Aisu N, Kimura Y, Ushijima A, Hayashi H, Mizuno K : Role of Cardiac Hormone in Enhanced Hypercapnic Chemosensitivity in Patients with Old Myocardial Infarction (OMI) and Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy (HOCM). 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 14) Nakata J, Satou N<sup>1)</sup>, Miyatake Y<sup>3)</sup>, Motegi T<sup>2)</sup>, Ishii T<sup>2)</sup>, Mizuno K, Kida K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Intensive and Cardiac Care Unit, <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine Divisions of Pulmonary Medicine Infectious Diseases and Oncology, <sup>3)</sup> Heart Evaluation and Promotion Center Yostsuya Medical Cube) : Clinical Significance of B-type Natriuretic Peptide in the Outpatients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 15) Kamiya M<sup>1)</sup>, Asai K, Miyake K<sup>2)</sup>, Miyake N<sup>2)</sup>, Seino Y<sup>3)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> tama-nagayama hospital, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology and Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, <sup>3)</sup> Chiba-hokusoh hospital) : Efficient Correction of Cardiac Abnormalities in Fabry Mice By AAV Type8 Mediated Systemic Gene Transfer. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 16) Minami Y<sup>1)</sup>, Nagashima M<sup>1)</sup>, Kajimoto K<sup>2)</sup>, Mizuno M<sup>4)</sup>, Murai K<sup>3)</sup>, Munakata R<sup>3)</sup>, Asai K, Satoh N<sup>3)</sup>, Hagiwara N<sup>1)</sup>, Kasanuki H<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>3)</sup>, Mizuno K, Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology Tokyo Women' s Medical University, <sup>2)</sup> Department of Cardiology Shonan Dai-ichi Hospital, <sup>3)</sup> Intensive and Cardiac Care Unit, <sup>4)</sup> Department of Cardiology Saitamaken Saiseikai Kurihashi Hospital) : Day and Time of Admission Clinical Characteristics and Outcomes in Acute Heart Failure Syndromes : A Report from the ATTEND Registry. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 17) Kato M<sup>1)</sup>, Fukuma N, Sugaya J<sup>1)</sup>, Hayashi H, Ushijima A, Kimura Y, Aisu N, Tsuchida T, Takahashi H, Honma H, Kishida H, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Physiological Examination Center ) : Oscillatory Ventilation during Exercise is Developed to Maintain Arterial Partial Pressure of Carbon Dioxide in Patients with Heart Failure. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 18) Asai K, Satoh N<sup>1)</sup>, Munakata R<sup>1)</sup>, Murai K<sup>1)</sup>, Minami Y<sup>2)</sup>, Mizuno M<sup>3)</sup>, Nagashima M<sup>2)</sup>, Kajimoto K<sup>4)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Mizuno K, Kasanuki H<sup>5)</sup>, Takano T ( <sup>1)</sup> Intensive and Cardiac Care Unit, <sup>2)</sup> Department of Cardiology Tokyo Woman' s Medical University, <sup>3)</sup> Department of Cardiology Saitamaken Saiseikai Kurihashi Hospital, <sup>4)</sup> Department of Cardiology Shonan Dai-ichi Hospital, <sup>5)</sup> WASEDA University) : Clinical Characteristics in Acute Heart Failure Syndromes Patients with and without Atrial Fibrillation : A Preliminary Report from ATTEND Registry. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 19) Setsuta K<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>2)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology and Clinical Laboratory Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, <sup>2)</sup> Chiba-Hokusoh Hospital) : Relationships between Serial Change in Cardiac Troponin T and Left Ventricular Remodeling and Systolic Functional Change in Chronic Heart Failure. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 20) Setsuta K<sup>1)</sup>, Kitahara Y<sup>1)</sup>, Arai M<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>2)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology and Clinical Laboratory Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, <sup>2)</sup> Chiba-Hokusoh Hospital) : Renal Dysfunction is Related to the Development of Ongoing Myocardial Damage in Patients with Chronic Heart Failure. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 21) Nakata J, Takayama M<sup>1)</sup>, Matsuzaki T<sup>2)</sup>, Takagi I<sup>3)</sup>, Kawamoto M<sup>4)</sup>, Kobayashi Y, Mihara Y<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Sakakibara Heart Institute , <sup>2)</sup> Center for Physiological Function, <sup>3)</sup> Department of Internal Medicine Tsurumi University, <sup>4)</sup> Department of pathology ) : Left Ventricular Diastolic Dysfunction and Pulmonary Hypertension Relating to Hypoxemia Contribute to High Altitude Pulmonary Edema (HAPE). 第73回日本

循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.

- 22) Miyauchi M, Miyauchi Y, Okazaki R, Iwasaki Y, Kobayashi Y, Katoh T, Mizuno K : Chronic Nicotine Administration Induces Atrial Fibrosis in Normal and Hypertensive Rats via Renin-Angiotensin System. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 23) Ohara T, Yashima M, Hirayama Y, Katoh T, Mizuno K : The Relationship between Focal Electrogram and Wavefront Dynamics during Atrial Fibrillation. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 24) Fukuma N, Sugaya J<sup>1)</sup>, Hayashi H, Ushijima A, Miura K, Kimura Y, Tsuchida T, Aisu N, Takahashi H, Kishida H, Mizuno K ( <sup>1</sup> Physiological Examination Center ) : Sleep Apnea Syndrome Leads to Psychological Stress after Myocardial Infarction. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 25) Sugaya J<sup>1)</sup>, Fukuma N, Hayashi H, Ushijima A, Kimura Y, Aisu N, Tsuchida T, Takahashi H, Honma H, Kishida H, Mizuno K ( <sup>1</sup> Physiological Examination Center ) : Mild Depression after Myocardial Infarction Influences on the Pathophysiological Condition. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 26) Ishikawa M, Satoh N<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Katoh K<sup>1)</sup>, Tokita Y<sup>1)</sup>, Ueno A<sup>1)</sup>, Munakata R<sup>1)</sup>, Murai K<sup>1)</sup>, Kawanaka H<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Intensive and Cardiac Care Unit ) : Importance of Systolic Blood Pressure in Acute Heart Failure Syndromes-Relationship between Forrester' s Classification and Clinical Scenarios-. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 27) Kimata N<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Tara S<sup>1)</sup>, Tajika K<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Yodogawa K<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Ohno N<sup>1)</sup>, Aoki S<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Takano M, Mizuno K ( <sup>1</sup> Chiba-Hokusou Hospital ) : Minute Myocardial Injury Detected by High-Sensitivity Troponin T Measurement in Stable Coronary Artery Disease Patients : Significant Link to NT-proBNP Elevation. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 28) Murata H, Kobayashi Y, Miyauchi Y, Iwasaki Y, Matsumoto A, Yamamoto T, Okazaki R, Ueno A, Ohara T, Takayama M<sup>1)</sup>, Katoh T, Mizuno K ( <sup>1</sup> Sakakibara Memorial Hospital ) : Clinical Characteristics of Spontaneous Occurring Ventricular Tachyarrhythmia following PTSMA in Patients with HOCM. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 29) Ueno A<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>2)</sup>, Yamamoto E, Takahashi Y, Takagi G, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Takano H, Miyauchi Y, Asai K, Satoh N<sup>1)</sup>, Yasutake M, Kobayashi Y, Tanaka K<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Intensive and Cardiac Care Unit, <sup>2)</sup> Department of Cardiovascular Medicine Sakakibara Heart Institute ) : The Incidence of Perioperative Complete Atrioventricular Block Associated with Percutaneous Transluminal Septal Myocardial Ablation and the Indication of Permanent Pacemaker. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 30) Murakami D<sup>1)</sup>, Takano M, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Okamatsu K<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Aoki S<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Chiba-Hokusou Hospital ) : Does Angioscopically Intensive Yellow Color of Target Plaque Predict Serum Troponin-T Levels after Elective Percutaneous Coronary Intervention?. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 31) Miyachi H<sup>1)</sup>, Nakagomi A<sup>1)</sup>, Kosugi M<sup>1)</sup>, Shibui T<sup>1)</sup>, Kamiya M<sup>1)</sup>, Yoshikawa M<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Tama-Nagayama Hospital ) : Differential Effect of Lipid Ratios on Lipid Ratios on Long-term Prognosis of Patients with Acute Coronary Syndrome Underwent Successful Percutaneous Coronary Intervention. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- 32) Nakagomi A<sup>1)</sup>, Shibui T<sup>1)</sup>, Endoh I<sup>1)</sup>, Hirasawa Y<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>1)</sup>, Endoh Y<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Morikawa M<sup>2)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Department of Pharmaceutical Tokyo University of Pharmacy and Life Science ) : Upregulation of Monocyte Tissue Factor Activity of Metabolic Syndrome Contributes to the Pathogenesis of Acute Coronary Syndrome. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.



- 33) 小原啓子<sup>1)</sup>, 中村俊一<sup>1)</sup>, 加藤活人<sup>1)</sup>, 東 春香<sup>1)</sup>, 櫛方美文<sup>1)</sup>, 太田真夫, 水野杏一<sup>(1)</sup> 同愛記念病院内科) : 糖尿病患者における心血管疾患のリスクの予測 - BNP, BMIを用いて. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 2008. 5.
- 34) 藤田進彦, 田中古登子, 青木 聡, 宮本正章, 太田真夫, 水野杏一, 菊永恭子<sup>1)</sup>, 古山景子<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 看護部) : 2型糖尿病患者における2相性インスリンアナログ製剤 (25%, 30%) を使用した外来インスリン導入の有用性. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 2008. 5.
- 35) 高山守正<sup>1)</sup>, 中田 淳, 松崎つや子<sup>2)</sup>, 藤本啓志, 手塚晶人, 高木郁代<sup>3)</sup>, 小林義典, 水野杏一<sup>(1)</sup> 榊原記念病院, <sup>2)</sup> 生理機能センター, <sup>3)</sup> 鶴見大学歯学部附属病院内科) : 高所環境における生体の心循環適応のメカニズム : 富士山頂測候所研究からの考察. 第28回日本登山医学シンポジウム, 2008. 5.
- 36) 岩崎雄樹, 岡崎怜子, 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一, 山下武志<sup>1)</sup>, 関口昭子<sup>1)</sup>, 伊達太郎<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 心臓血管研究所, <sup>2)</sup> 東京慈恵会医科大学循環器内科) : 自然発症型高血圧ラットにおける心房細動発症基質の形成には心房筋へのマクロファージ細胞浸潤が先行する. 第23回日本不整脈学会学術大会, 2008. 5.
- 37) 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 山形 強<sup>2)</sup>, 矢尾幸三<sup>2)</sup>, 日下英昭<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> 集中治療室, <sup>2)</sup> 協和発酵工業(株) 医薬研究センター薬理研究所) : ナトリウム利尿ペプチドの利尿効果をドパミンは増強するか?. 第56回日本心臓病学会学術集会, 2008. 9.
- 38) 白壁章宏<sup>1)</sup>, 浅井那也, 畑 典武<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 小林宣明<sup>1)</sup>, 金丸勝弘<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> 千葉北総病院集中治療室) : 急性心不全における MMP Family の臨床的意義 : BNP との比較. 第56回日本心臓病学会学術集会, 2008. 9.
- 39) 田尾清一<sup>1)</sup>, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 関野玲子<sup>1)</sup>, 見友優子<sup>1)</sup>, 水瀬 学<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 齋藤公一<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 藤本啓志, 大野忠明, 水野杏一, 永山 寛<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 生理機能センター, <sup>2)</sup> 内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)) : 麦角系ドパミン作動薬による心臓弁膜症 : 日常検査における弁膜障害の検討. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 40) 吉田由紀子<sup>1)</sup>, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 會田智弘<sup>1)</sup>, 加藤政利<sup>1)</sup>, 竹田裕子<sup>1)</sup>, 佐藤淳子<sup>1)</sup>, 平野美子<sup>1)</sup>, 齋藤公一<sup>1)</sup>, 福岡長知, 林 寛子, 牛島明子, 加藤祐子, 愛須紀子, 高橋 啓, 佐藤直樹, その他3名 <sup>(1)</sup> 生理機能センター) : 日本医科大学における心大血管疾患に対する心臓リハビリテーション. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 41) 中村利枝<sup>1)</sup>, 見友優子<sup>1)</sup>, 田尾清一<sup>1)</sup>, 関野玲子<sup>1)</sup>, 水瀬 学<sup>1)</sup>, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 齋藤公一<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 古明地弘和, 宮元亮子, 清水秀治, 勝田梯実, 水野杏一<sup>(1)</sup> 生理機能センター) : 超音波造影剤ペルフルプタンマイクロバブル製剤 (ソナゾイド) の使用経験. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 42) 古山景子<sup>1)</sup>, 菊永恭子<sup>1)</sup>, 尾崎仁美<sup>1)</sup>, 角田聖子<sup>1)</sup>, 高木 元, 宮本正章, 水野杏一<sup>(1)</sup> 看護部) : 医療用無菌ウジ (Maggot debridement Therapy : MDT) に取り組んで明らかとなった, PAD患者の治療上の問題点と今後の課題. 第13回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2008. 9.
- 43) 高野仁司, 山本英世, 川中秀和, 水野杏一 : コントロール不良な高血圧患者に対するアンジオテンシン受容体拮抗薬増量と少量利尿剤追加の臨床効果の比較検討. 第31回日本高血圧学会総会, 2008. 10.
- 44) 福岡長知, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 林 寛子, 牛島明子, 加藤祐子, 土田貴也, 愛須紀子, 高橋 啓, 岸田 浩, 水野杏一<sup>(1)</sup> 生理機能センター) : 心筋梗塞後患者に合併した睡眠時無呼吸症候群に伴う炭酸ガス分圧異常と夜間血圧. 第31回日本高血圧学会総会, 2008. 10.
- 45) 福岡長知, 及川恵子, 土田貴也, 林 寛子, 牛島明子, 加藤祐子, 愛須紀子, 高橋 啓, 岸田 浩, 水野杏一 : 運動筋における Denervation Hypersensitivity の運動時高血圧における役割 : 骨格筋 MIBG を用いた検討. 第31回日本高血圧学会総会, 2008. 10.
- 46) 岩崎雄樹, 宮内靖史, 小林義典, 松本綾乃, 村田広茂, 山本哲平, 岡崎怜子, 小原俊彦, 平山悦之, 加藤貴雄, 水野杏一 : 持続性心房細動に対する同側肺静脈拡大隔離アブレーション中に incessant 型の左房 : 肺静脈マクロ

- リエントリー性頻拍が出現した1例. 第20回カテーテル・アブレーション, 2008. 10.
- 47) 小原俊彦, 秋谷麻衣, 村田広茂, 山本哲平, 加藤貴雄, 水野杏一: 急激な体位変換に伴うQT間隔の変化の計測. 第25回日本心電学会学術集会, 2008. 11.
- 48) 宮内瑞穂, 宮内靖史, 岡崎怜子, 岩崎雄樹, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一: ニコチン慢性投与による心房細動誘発性および心房線維化の亢進におけるレニンアンジオテンシン系経路の関与. 第25回日本心電学会学術集会, 2008. 11.
- 49) 大坂元久<sup>1)</sup>, 村田広茂, 加藤貴雄, 難波晋治<sup>2)</sup>, 酒井一泰<sup>2)</sup>, 不破本義孝<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本獣医生命科学大学獣医学部保健看護学科, <sup>2)</sup> (株) デンソー基礎研究所, <sup>3)</sup> トヨタ自動車(株)): 自動車ステアリングから記録した心電図の心拍変動カオス解析. 第25回日本心電学会学術集会, 2008. 11.
- 50) 板倉潮人<sup>1)</sup>, 小野卓哉, 小野いすず, 小林義典, 本間 博, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 加藤貴雄, 八名和夫<sup>2)</sup>, 水野杏一 (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院, <sup>2)</sup> 法政大学): 新指標 T-wave Vector Alternans の提案. 第25回日本心電学会学術集会, 2008. 11.
- 51) 村井綱児<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 原千鶴子, 上野 亮<sup>1)</sup>, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 浅井邦也, 水野杏一, 田中啓治<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 集中治療室): ドブタミンとホスホジエステラーゼ阻害薬少量併用療法が有効であった両心不全患者の1例. 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.
- (10) モーニングセッション:
- 1) Yamamoto E, Takano H, Ogawa S<sup>1)</sup>, Ochi M<sup>2)</sup>, Mizuno K (<sup>1)</sup> Department of Radiology, <sup>2)</sup> Department of Thoracic Surgery): IABP counterpulsation therapy as a bridge to CABG in a 5-year-old boy with acute myocardial infarction associated with Kawasaki disease. TCT2008 (Washington, USA), 2008. 10.
- (11) 学術委員会活動:
- 1) 安武正弘: 急性心筋梗塞 (ST上昇型) の診療ガイドライン: その特徴と利用上の留意点. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- (12) 記念講演:
- 1) 岸田 浩: 循環器負荷研究会主導によるガイドライン作成への貢献. 第58回循環器負荷研究会, 2008. 8.
- (13) 教育セッション:
- 1) 水野杏一: 新しい疾患概念: Vulnerable stent について. 第105回日本循環器学会九州地方会, 2008. 12.
- (14) 示説:
- 1) 雪吹周生<sup>1)</sup>, 西脇龍広<sup>2)</sup>, 佐藤光利<sup>2)</sup>, 清野精彦, 水野杏一 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院, <sup>2)</sup> 東邦大学薬学部薬物安全性学研究室): 冠動脈疾患2次予防患者における脂質管理の現状: 心筋梗塞既往の有無による比較. 第22回日本冠疾患学会, 2008. 12.
- 2) 佐藤太亮, 高野仁司, 秋谷麻衣, 岡崎大武, 小宮山英徳, 原千鶴子, 柳田隆行, 山本英世, 高橋保裕, 高野雅充, 高木 元, 浅井邦也, 安武正弘, 水野杏一: 冠動脈疾患と末梢動脈疾患の危険因子の比較. 第22回日本冠疾患学会, 2008. 12.
- 3) 白壁章弘<sup>1)</sup>, 浅井邦也, 畑 典武<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 小林宣明<sup>1)</sup>, 富田和憲<sup>1)</sup>, 水野杏一 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療室): 虚血性心疾患における急性心不全発症時のMMPsの変動. 第22回日本冠疾患学会, 2008. 12.
- (15) 奨学賞受賞記念講演:
- 1) 宮内靖史: 心房細動の電気生理学的・解剖学的基質の解明. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.

## [付属病院老人科]

### 研究概要

高齢者の糖尿病、動脈硬化、脂質代謝異常、高血圧症、認知症、腎機能および自律神経機能に関する臨床的研究を行った。

糖尿病に関して、1) コレスチミドの血糖降下作用に消化管ホルモンのCCKの関与は薄い可能性を明らかにした。2) 長時間作用型スルホニル尿素薬のグリベンクラミド (GC) およびグリクラジドのいずれも中等量の投与時の血糖日内変動は朝1回と朝夕2回分割投与でも差がないこと、および夜間血糖の過降下はGCに高率であることを明らかにした。3) グリニド薬のミチグリニドの糖および脂質代謝に及ぼす影響を明らかにした。4) 上腕動脈血流依存性血管拡張反応 (FMD) が網膜症合併群で障害されていることを明らかにした。5) 地域住民の経年観察成績で血糖値のみならず $\gamma$  GTPがIGTの進展予測因子となることを明らかにした。6) 食後高血糖が尿細管機能の障害をもたらす可能性を示唆する成績を得た。7) 動脈硬化の進展に及ぼす糖尿病と高血圧症の影響に年齢による差異の存在を明らかにした。8) 高齢2型糖尿病患者における食後血糖値の変動の要因を比較検討した。

動脈硬化に関して、1) 頸動脈内中膜複合体厚 (IMT) を糖尿病および高血圧症の合併の有無別に比較検討した。2) FMDの経時的変動の検討を行った。3) FMDが健常者の食後血糖値の影響を受けることを明らかにした。

高血圧症に関して、1) 高血圧患者における年齢階層と動脈硬化度、高血圧合併症との関連臨床コホート研究 (J-CHEARS) を行った。2) ARBと利尿薬の併用療法の有用性と安全性を高齢者および糖尿病患者で確認した。

認知症に関して、1) 認知症の周辺症状に抑肝散が有効であることを多施設共同研究で明らかにした。2) 専門施設での認知症患者のタイプ別死因の検討を行った。

腎機能に関して、1) 年齢と腎尿細管機能との関係を尿中NAG値より検討した。2) 無症候性白血球尿とFMDとの関係を検討した。自律神経機能に関して、過活動膀胱のQOLに及ぼす影響を検討した。

### 研究業績

#### 論文

(追加分)

追加分原著：

- 1) Mizukami K<sup>1)</sup>, Asada T<sup>1)</sup>, Kinoshita T<sup>2)</sup>, Tanaka K<sup>3)</sup>, Sonohara K<sup>3)</sup>, Nakai R<sup>4)</sup>, Yamaguchi K<sup>5)</sup>, Hnanyu H<sup>6)</sup>, Kanaya K<sup>7)</sup>, Takano T<sup>8)</sup>, Okada M<sup>9)</sup>, Kudo S<sup>1.0)</sup>, Kotoku H, Iwakiri M, Suzuki T, et al. (1) Department of Psychiatry, Institute of Clinical Medicine, University of Tsukuba, (2) Kodama Clinic, (3) Department of Geriatric Medicine, Kyorin University, (4) Kikyogahara Hospital, (5) Department of Geriatric Medicine, Tokyo University, (6) Department of Geriatric Medicine, Tokyo Medical University, (7) Geriatric Medicine, Hachioji Medical Center of Tokyo Medical University, (8) Hospital Bando, (9) Hitachi Umegaoka Hospital, (10) Hitachi Sakura Clinic) : A randomized cross-over study of a traditional Japanese medicine (Kampo), yokukansan, in the treatment of behavioral and psychological symptoms of dementia. *Int J Neuropsychopharmacol* 2008 ; 12 (2) : 191-199.

(1) 原著：

- 1) Suzuki T, Oba K, Norose J, Yoshimatsu H, Sekimizu K, Futami-Suda S, Ouchi M, Suzuki K, Kigawa Y, Nakano H : Lack of relationship between blood glucose-lowering activity of colestimide and serum cholecystokinin (CCK) concentrations in patients with type 2 diabetes. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (2) : 111-115.
- 2) Kigawa Y, Oba K, Futami-Suda S, Norose J, Yasuoka H, Suzuki K, Ouchi M, Watanabe K, Suzuki T,

Nakano H : Daily blood glucose profiles of glibenclamide and gliclazide taken once or twice daily in elderly type 2 diabetic patients. *Geriatr Gerontol Int* 2008 ; 8 (3) : 160-165.

- 3) 渡邊健太郎, 鈴木達也, 大内基司, 鈴木一成, 須田(二見)章子, 関水憲一, 安岡比呂子, 野呂瀬準, 中野博司, 大庭建三: 血糖コントロール不良な脂質異常症合併2型糖尿病患者に対するMitiglinideの糖代謝改善効果および脂質代謝に対する影響の検討. *Therapeutic Research* 2008 ; 29 (5) : 811-819.

(2) 総説 :

- 1) 鈴木達也, 大庭建三: 脂質異常症治療薬をめぐるトピックス: 陰イオン交換樹脂. *Medicament News* 2008 ; 1939 : 7-8.
- 2) 中野博司: 高齢者の糖尿病における併用療法のあり方と注意点: 合剤開発の現状. *Geriatric Medicine* 2008 ; 46 (4) : 333-338.
- 3) 大庭建三: 高齢者糖尿病治療の実際: 経口血糖降下薬療法を中心に. *成人病と生活習慣病* 2008 ; 38 (5) : 560-561.
- 4) 鈴木達也, 大内基司, 猪狩吉雅, 大庭建三: N - アセチル -  $\beta$  - D - グルコサミニダーゼ (NAG). *日本臨床* 2008 ; 66 (増刊号4) : 416-422.
- 5) 大庭建三: 高齢者の糖尿病合併高脂血症患者の治療. *Medicament News* 2008 ; 1946 : 8-9.
- 6) 中野博司: 症例から学ぶ: 高度の脳動脈硬化を認めたメタボリックシンドロームの1例. *日医大医学会誌* 2008 ; 4 (3) : 153-156.
- 7) 小野寺直子, 中野博司, 大庭建三: 高齢者糖尿病の疫学. *日本臨床* 2008 ; 66 (増刊号7) : 522-525.
- 8) 大内基司, 大庭建三: 食後高血糖と腎尿細管機能との関係は?. *肥満と糖尿病* 2008 ; 7 (6) : 821-823.
- 9) 大庭建三: 高齢者総合的機能評価 (CGA). *Modern Physician* 2009 ; 29 (1) : 101-101.
- 10) 大庭建三: 私の処方: 高齢者糖尿病のスルホニル尿素薬の使い方. *Modern Physician* 2009 ; 29 (2) : 268-269.

## 著 書

- 1) 中野博司: [分担] 高齢者の過栄養に対する栄養療法. 改定第3版老年医学テキスト (日本老年医学会編), 2008 ; pp170-173, メジカルビュー社.
- 2) 大庭建三: [分担] 施設介護と在宅介護. 改定第3版 老年医学テキスト (日本老年医学会編), 2008 ; pp232-236, メジカルビュー社.
- 3) 大庭建三, 木川好章, 中野博司: [分担] 高齢者糖尿病の薬物療法の実践. 老年医学update 2008-2009 (日本老年医学会雑誌編集委員会), 2008 ; pp56-63, メジカルビュー社.
- 4) 中野博司: [監修] 老年医学update 2008-2009 (日本老年医学会雑誌編集委員会), 2008 ; メジカルビュー社.

## 学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 二見(須田)章子: 無症候性白血球尿と上腕動脈血流依存性血管拡張反応. 第11回 Geriatric Medical Frontier Forum, 2008. 11.

(2) 一般講演 :

- 1) Watanabe K, Suzuki T, Nakano H, Oba K : Effect of combination therapy of angiotensin II receptor blocker (ARB) /diuretics or high-dose ARB therapy on blood pressure and biochemical parameters in poorly-controlled elderly hypertensive Japanese subjects. "Hypertension 2008", the joint congress bringing together delegates for the 18th Scientific Meeting of the European Society of Hypertension and the 22nd Scientific Meeting of the International Society of Hypertension (Berlin), 2008. 6.



- 2) Miyawaki K, Motoyama M, Yasuoka H, Watanabe K, Suzuki T, Nakano H, Oba K : A Case of Persistent Hypoglycemic Patient with Proven Ischemic Enterocolitis. 20th Asia-Pacific Endocrine Conference (Guam), 2009. 1.
- 3) 山本直史, 渡邊健太郎, 岡崎 優, 小原 信, 吉松寛臣, 安岡比呂子, 小野寺直子, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 上腕動脈血流依存性血管拡張反応 (Flow-mediated dilation : FMD) の経時的変化に関する検討. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 4) 安岡比呂子, 渡邊健太郎, 大西哲郎, 山下英俊, 関水憲一, 大内基司, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 高齢高血圧患者のARB/利尿薬併用療法およびARB高用量療法の降圧効果 : 糖代謝および脂質代謝に及ぼす影響の比較検討. 第105回日本内科学会講演会, 2008. 4.
- 5) 野呂瀬準, 渡邊健太郎, 橋本雅夫, 角田美佐子, 二見章子, 鈴木一成, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 高齢2型糖尿病における糖尿病性網膜症と血管内皮機能の関連性の検討 : 断面調査による検討. 第105回日本内科学会講演会, 2008. 4.
- 6) 二見 (須田) 章子, 渡邊健太郎, 橋本雅夫, 小原 信, 関水憲一, 鈴木一成, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 正常耐糖能男性の75gOGTT30, 60分血糖値および $\gamma$  GTPが耐糖能障害移行予測因子になる : 住民健診を用いた9年間の観察による検討. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 2008. 5.
- 7) 大内基司, 大西哲郎, 吉松寛臣, 野呂瀬準, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 食後高血糖と腎尿細管機能との関係 : 1.5-AGと尿中NAG値との関連よりの検討. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 2008. 5.
- 8) 角田美佐子, 渡邊健太郎, 山下英俊, 安岡比呂子, 小野寺直子, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 加齢により2型糖尿病および高血圧症合併有無による動脈硬化進展度に差はあるか : 頸動脈超音波指標を用いた断面調査による検討. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 2008. 5.
- 9) 山下英俊, 渡邊健太郎, 橋本雅夫, 小原 信, 鈴木一成, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 8. 高齢2型糖尿病合併高血圧症患者に対するARB/利尿薬併用療法およびARB高用量療法の降圧効果および代謝に対する影響の検討. 第50回日本老年医学会学術集会, 2008. 6.
- 10) 鈴木一成, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 血糖コントロール不良な壮年・高齢脂質異常症合併2型糖尿病患者に対するミチグリニドの糖代謝改善効果及び脂質代謝に対する影響の検討. 第50回日本老年医学会学術集会, 2008. 6.
- 11) 橋本雅夫, 渡邊健太郎, 二見章子, 鈴木一成, 大内基司, 大西哲郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 食事療法単独の2型糖尿病患者における食前および食後血糖変動に年齢の差はあるか. 第50回日本老年医学会学術集会, 2008. 6.
- 12) 二見章子, 鈴木達也, 野呂瀬準, 猪狩吉雅, 松村典昭, 中野博司, 大庭建三, 村田雄一<sup>1)</sup>, 水野重芳<sup>1)</sup>, 木川好章<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 飯能老年病センター) : 重度認知症患者のタイプ別死因についての検討 : 経年観察による検討 : 第2報. 第50回日本老年医学会学術集会, 2008. 6.
- 13) 安岡比呂子, 猪狩吉雅, 大内基司, 渡邊健太郎, 鈴木一成, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 高齢者の過活動膀胱 (OAB) とQOL. 第50回日本老年医学会学術集会, 2008. 6.
- 14) 野呂瀬準, 鈴木達也, 橋本雅夫, 猪狩吉雅, 松村典昭, 渡邊健太郎, 木川好章<sup>1)</sup>, 奥山 裕, 中野博司, 大庭建三 (<sup>1)</sup> 飯能老年病センター) : 高齢2型糖尿病患者におけるColesimideの血糖降下作用に対するcholecystokinin (CCK) の影響についての検討. 第50回日本老年医学会学術集会, 2008. 6.
- 15) 大西哲郎, 渡邊健太郎, 角田美佐子, 安岡比呂子, 小野寺直子, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 高齢糖尿病合併高血圧症患者におけるLosartan 50mg錠とHydrochlorothiazide 12.5mg併用療法による降圧効果および糖代謝に対する影響の検討. 第50回日本老年医学会学術集会, 2008. 6.
- 16) 関水憲一, 渡邊健太郎, 青木洋平, 吉松寛臣, 大内基司, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 高齢2型糖尿病, 高血圧症合併の有無で動脈硬化進展に差はあるか : 頸動脈超音波指標を用いた断面調査による検討. 第50回日

本老年医学会学術集会, 2008. 6.

- 17) 矢野宏行, 渡邊健太郎, 宮脇佳代, 大西哲郎, 山下英俊, 野呂瀬準, 二見章子, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 前期および後期高齢者において高血圧症および糖尿病合併の有無で動脈硬化進行に差はあるか: 頸動脈超音波指標を用いた断面調査による検討. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 18) 本山正幸, 大内基司, 林真理子, 橋本雅夫, 角田美佐子, 関水憲一, 鈴木一成, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 尿中N-acetyl- $\beta$ -D-glucosaminidase (NAG) と加齢変化: 尿細管上皮細胞との関連よりの検討. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 19) 岡崎 優, 矢野宏行, 大西哲郎, 鈴木一成, 小野寺直子, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 動脈塞栓術により骨盤内腫瘍からの一時的止血を得, 退院可能となった超高齢糖尿病の1例. 第48回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2008. 9.
- 20) 本山正幸, 山本直史, 橋本雅夫, 二見章子, 大内基司, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 水瀬学<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 超音波診断室): 超高齢ネフローゼ症候群の1例. 第48回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2008. 9.
- 21) 山下英俊, 宮脇佳世, 小原 信, 関水憲一, 安岡比呂子, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: ステロイドパルス療法と好中球エラスターゼ阻害薬の併用が奏功した高齢者間質性肺炎の1例. 第48回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2008. 9.
- 22) 橋本雅夫, 小野寺直子, 猪狩吉雅, 中野博司, 大庭建三: 下肢脱力で発症しスタチンによる横紋筋融解症が疑われたWernicke脳炎の1例. 第12回未病症例検討会, 2008. 11.
- 23) 山本直史, 渡邊健太郎, 岡崎 優, 小原 信, 吉松寛臣, 安岡比呂子, 宮脇佳代, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 上腕動脈血流依存性血管拡張反応の経時的変化に関する検討. 第43回日本成人病 (生活習慣病) 学会, 2009. 1.
- 24) 矢野宏行, 渡邊健太郎, 大西哲郎, 山下英俊, 野呂瀬準, 二見 (須田) 章子, 本山正幸, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 前期・後期高齢者において高血圧症・糖尿病合併の有無で動脈硬化進行に差はあるか. 第43回日本成人病 (生活習慣病) 学会, 2009. 1.
- 25) 小原 信, 小野寺直子, 山本直史, 矢野宏行, 関水憲一, 二見章子, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 西 恵吾<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 西クリニック): インスリン分泌能が低下している2型糖尿病に緩徐進行1型糖尿病を併発した1例. 第46回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2009. 1.
- 26) 角田美佐子, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 健康者の血糖変動は血管内皮機能を低下させる. 第46回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2009. 1.
- 27) 山本直史, 本山正幸, 大西哲郎, 吉松寛臣, 小野寺直子, 猪狩吉雅, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 血糖値の上昇とともに認知能が改善した高齢インスリンノーマの1例. 第49回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2009. 3.
- 28) 矢野宏行, 岡崎 優, 橋本雅夫, 野呂瀬準, 鈴木一成, 小野寺直子, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 難治性腹水で入院し剖検にて臍癌の腹膜播種と判明した高齢者糖尿病の1例. 第49回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2009. 3.
- 29) 宮脇佳世, 関水憲一, 安岡比呂子, 二見章子, 大内基司, 渡邊健太郎, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 感冒様症状で発症した高齢者感染性肝嚢胞の1例. 第49回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2009. 3.
- 30) 岡崎 優, 鈴木一成, 猪狩吉雅, 松村典昭, 渡邊健太郎, 中野博司, 大庭建三: 胸部絞扼感で受診した心電図で陰性T波を認めた78歳男性. 第13回未病症例検討会, 2009. 3.



## [武蔵小杉病院内科（内科，循環器科，神経内科）]

### 研究概要

内科 循環器病学，腎臓病学，呼吸器病学および神経病学において研究が行われている。循環器病学ではRIを用いての心機能に関する研究を引き続き行い，国際学会に発表した。

腎臓病学では，Tc99m-sestamibi-Gated-SPECTを用いCKD患者に対する研究を行い，日本腎臓学会学術総会や日本透析医学会学術集会上に発表した。

呼吸器病学では症例報告を日本内科学会地方会で発表した。また75歳以上の高齢者の肺癌患者が当院では多いため，BSC，放射線治療単独，化学療法単独，放射線化学療法併用療法の4群に分けて，全生存率，QOLについて比較検討した結果を川崎医師会研究会で発表，論文としてまとめた。また緩和ケアチームとして，急性期病院における緩和ケアの問題点，と題して緩和医療学会で発表を行った。胃瘻や経管栄養中の誤嚥性肺炎の患者には全例通常の濃厚流動食から半固形食の短時間投与に変更したところ，有意に誤嚥性肺炎の発症が減少したことの中間報告を行った。

神経病学では認知症性疾患についてのニューロイメージングを利用した研究と認知症医療と介護のネットワークについての研究を行っている。また，内分泌疾患について下垂体機能障害の症例報告をおこなった。

### 研究業績

#### 論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Mishina M<sup>1)</sup>, Ohyama M<sup>2)</sup>, Ishii K<sup>2)</sup>, Kitamura S, Kimura Y<sup>2)</sup>, Oda K<sup>2)</sup>, Kawamura K<sup>2)</sup>, Sasaki T<sup>2)</sup>, Shiro K<sup>1)</sup>, Kitayama Y<sup>3)</sup>, Ishiwata K<sup>2)</sup> (1) Neurological Institute Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, 2) Positron Medical Center Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 3) Department of Neurology Nephrology and Rheumatology Nippon Medical School) : Low density of sigma<sub>1</sub> receptors in early Alzheimer's disease. Ann Nucl Med 2008 ; 22 (3) : 151-156.

(1) 総説：

- 1) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 北村 伸, 小林士郎<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院脳神経センター) : 脳血管障害治療薬. 医薬ジャーナル 2009 ; 45 (1) : 318-323.
- 2) 萩原万里子, 北村 伸 (1) 都立大塚病院神経内科) : 高次脳機能の障害とは. 老年精神医学雑誌 2009 ; 19 (8) : 837-840.

#### 著書

- 1) 北村 伸 : [自著] 老化と神経内科の病気の話. 老化と神経内科の病気の話, 2008 ; 老人病研究会.
- 2) 阿部純子, 宗像一雄 : [分担] 不整脈薬物治療に関するガイドライン. 救急医学, 2008 ; pp1306-1315, へるす出版.

#### 学会発表

[追加分]

追加分一般講演：

- 1) 望月 徹<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>2)</sup>, 野口周作<sup>3)</sup>, 鈴木憲康<sup>4)</sup>, 山口朋禎, 西澤善樹<sup>5)</sup>, 土金なおみ<sup>6)</sup>, 板倉剛志 (1) 武蔵小杉病院救命救急センター, 2) 武蔵小杉病院消化器病センター, 3) 武蔵小杉病院薬剤部, 4) 武蔵小杉病院中央検査室, 5) 武蔵小杉病院小児科, 6) 武蔵小杉病院看護部) : グラム染色による起炎菌の推定, WHO-NET5.3に

よる antibiogram 算出から有効抗菌薬を決定して救命につながった重症胆道感染の1例. 第81回日本感染症学会, 2007. 4.

- 2) 野口周作<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>2)</sup>, 土金なおみ<sup>3)</sup>, 鈴木憲康<sup>4)</sup>, 山口朋禎, 西澤善樹<sup>5)</sup>, 渡辺昌則<sup>6)</sup>, 片岡博邦<sup>1)</sup> (1) 武蔵小杉病院薬剤科, 2) 武蔵小杉病院救急救命センター, 3) 武蔵小杉病院看護部, 4) 武蔵小杉病院中央検査室, 5) 武蔵小杉病院小児科, 6) 武蔵小杉病院消化器病センター): 抗菌薬適正使用と ICT 活動の効果. 第23回環境感染学会, 2008. 2.

(1) 一般講演:

- 1) Ishikawa M, Yamamoto A<sup>1)</sup>, Takahashi N, Tezuka S, Abe J, Amitani K, Yamaguchi T, Kawaguchi N, Uchida T, Munakata K (1) Department of Radiology Tama-nagayama Hospital): Systolic and Diastolic Left Ventricular Wall Motion Dyssynchrony Assessed by 99mTc-Sestamibi-Gated-Spect in Patient with Hypertension. Wprld Congress of Cardiology 2008 (Buenos Aires, Argentina), 2008. 5.
- 2) Takahashi N, Yamamoto A<sup>1)</sup>, Ishikawa M, Tezuka S, Abe J, Amitani K, Yamaguchi T, Kawaguchi N, Uchida T, Munakata K (1) Department of Radiology Tama-nagayama Hospital): Impact of Angiotensin Iireceptor Brockadeon Left Ventricular Dyssynchrony in Hypertension. Wprld Congress of Cardiology 2008 (Buenos Aires, Argentina), 2008. 5.
- 3) 高橋直人, 石川昌弘, 阿部純子, 網谷賢一, 山口朋禎, 川口直美, 内田高浩, 山本 彰<sup>1)</sup>, 宗像一雄 (1) 多摩永山病院放射線科): Impact of Angiotensin II Receptor Blockade on Left Ventricular Dyssynchrony in Hypertension. 第56回日本心臓病学会学術集会, 2008. 9.
- 4) 酒井行直, 酒井紗織, 大塚智之, 大野 大, 石川昌弘, 高橋直人, 村澤恒男, 宗像一雄: CKD 患者における Tc99m-sestamibi-Gated-SPECT を用いて評価した心機能と腎機能の相関. 第51回日本腎臓学会学術総会, 2008. 5.
- 5) 村澤恒男, 酒井行直, 酒井紗織, 大塚智之, 大野 大, 網谷賢一, 小野卓也<sup>1)</sup>, 宗像一雄 (1) 付属病院第一内科): 血液透析に伴う心筋脱分極過程と再分極過程の変動: 心室性不整脈と RA 系との関連性. 第53回 (社) 日本透析医学会学術集会・総会, 2008. 6.
- 6) 酒井行直, 酒井紗織, 大塚智之, 大野 大, 石川昌弘, 高橋直人, 村澤恒男, 宗像一雄: 99m-sestamibi-Gated-SPECT を用いて評価したCKD患者の心機能腎機能の相関. 第53回 (社) 日本透析医学会学術集会・総会, 2008. 6.
- 7) 大塚智之, 酒井紗織, 酒井行直, 大野 大, 村澤恒男, 宗像一雄: CAPDにおけるネスプの有用性についての検討. 第53回 (社) 日本透析医学会学術集会・総会, 2008. 6.
- 8) 門松 豊<sup>1)</sup>, 加藤和久<sup>1)</sup>, 尾崎 傑<sup>1)</sup>, 磯野友昭<sup>1)</sup>, 酒井行直, 酒井紗織, 大塚智之, 大野 大, 村澤恒男, 宗像一雄 (1) 武蔵小杉病院血液浄化療法室): On-lineHDFにおけるカーボスターの有用性の検討. 第53回 (社) 日本透析医学会学術集会・総会, 2008. 6.
- 9) 前田幸生<sup>1)</sup>, 曾根崎裕子<sup>1)</sup>, 加藤和久<sup>1)</sup>, 尾崎 傑<sup>1)</sup>, 磯野友昭<sup>1)</sup>, 門松 豊<sup>1)</sup>, 酒井行直, 酒井紗織, 大塚智之, 大野 大, 村澤恒男, 宗像一雄 (1) 武蔵小杉病院血液浄化療法室): 当院透析室におけるネスプの有用性についての検討: アンケートを中心に. 第53回 (社) 日本透析医学会学術集会・総会, 2008. 6.
- 10) 藤原佳美<sup>1)</sup>, 高橋順子<sup>1)</sup>, 長崎千恵子<sup>1)</sup>, 若城由美子<sup>2)</sup>, 原田英博, 山口朋禎 (1) 武蔵小杉病院看護部, 2) 武蔵小杉病院薬剤科): 急性期病院における緩和ケアの現状とチームの課題. 第13回日本緩和医療学会学術大会, 2008. 7.
- 11) 伊藤俊輔, 春原沙織, 木下賀史里, 板倉潮人, 本郷公英, 原田英博, 山口朋禎, 高橋直人, 宗像一雄: CTにて偶然発見された肺原発 MALT リンパ腫の1例. 日本内科学会第555回関東地方会, 2008. 7.
- 12) 大塚智之, 酒井行直, 酒井紗織, 大野 大, 村澤恒男, 宗像一雄: 腹膜透析患者における経口ビタミンDパル

- ス療法からcinacalcetへの変更による効果. 第14回日本腹膜透析研究会, 2008. 9.
- 13) 前田幸生<sup>1)</sup>, 酒井行直, 酒井紗織, 大塚智之, 大野 大, 村澤恒男, 宗像一雄<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院血液浄化療法室): 家族の協力により安全に導入し得た軽度認知症超高齢者APDの1例. 第14回日本腹膜透析研究会, 2008. 9.
  - 14) 石川昌弘, 高橋直人, 山本 彰<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>(1)</sup> 多摩永山病院放射線科): The Assessment of Diastolic Dys-synchrony by Tc99m-sestamibi-gated-SPECT Using a Novel Program “cardioGRAF” in Heart Failure with Preserved Ejection Fraction. 第12回日本心不全学会学術集会, 2008. 10.
  - 15) 板倉潮人, 小野卓也<sup>1)</sup>, 小野いすず<sup>1)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 宗像一雄, 八名和夫<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 付属病院第一内科, 2) 法政大学): 新指標T-wave Vector Alternansの提案. 第25回日本心電学会学術集会, 2008. 11.
  - 16) 中摩健二, 阿部純子, 石川昌弘, 網谷賢一, 川口直美, 内田高浩, 宗像一雄: プレドニゾロンのみで良好な経過が得られ心機能改善を認めた合併Churg-Strauss症候群の1例. 第211回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2009. 2.
  - 17) 春原沙織, 南 史朗<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>2)</sup>, 中村慶春<sup>3)</sup>, 宗像一雄<sup>(1)</sup> 日本医科大学老人病研究所, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>3)</sup> 付属病院消化器外科): 術中超音波検査で局在診断し, 腹腔鏡下手術をしたインスリノーマの1例. 第19回臨床内分泌代謝 Update, 2009. 3.
  - 18) 岩本将人<sup>1)</sup>, 南 史朗<sup>1)</sup>, 長谷川知子<sup>2)</sup>, 宗像一雄<sup>(1)</sup> 日本医科大学老人病研究所, <sup>2)</sup> いでんサポート・コンサルテーションオフィス): 下垂体前葉機能を評価したPrader-Willi症候群の成人3例. 第19回臨床内分泌代謝 Update, 2009. 3.

## [多摩永山病院内科, 循環器内科]

### 研究概要

当科は循環器専攻の内科医により構成され, 虚血性心疾患, 不整脈を中心とした診療体制をとっているが, 多摩地区の中核病院としての機能を維持するため内科全般を診療対象とし, 専門領域の他, 高血圧症, 糖尿病, 脂質異常症, メタボリックシンドローム, 慢性腎臓病 (CKD) などを対象に実地臨床に即した研究を行っている。

- 1) 経皮的カテーテルインターベンション.
- 2) 心筋梗塞後の慢性期左室機能と薬物治療.
- 3) 冠攣縮性狭心症の病態と予後既定因子に関する研究.
- 4) 不整脈の診断, 治療に関する臨床電気生理学的検討.
- 5) 心房細動を中心とした不整脈薬物治療.
- 6) プルガダ症候群の全国多施設共同研究.
- 7) 高血圧症, 糖尿病, メタボリックシンドローム例における左心機能障害と薬物治療.
- 8) 日本循環器学会をはじめとする各種学会主導の多施設共同研究.
- 9) 多摩地区, 南多摩地区における循環器疾患, 糖尿病例を対象とした共同研究.

以上の研究に従事し, 循環器学会, 心臓病学会, 生活習慣病学会, 糖尿病学会ならびに他の関連学会に報告するとともに, 内科総合診療部門として積極的に活動している。

### 研究業績

#### 論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Iwase H<sup>1)</sup>, Kawano K<sup>1)</sup>, Masuda Y<sup>1)</sup>, Isobe H<sup>1)</sup>, Atarashi H,

Tanimura S<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup> (1) Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, 2) Department of Respiratory Surgery, Tama-Nagayama Hospital, 3) Department of Pathology) : Definitive diagnosis of mesothelioma by effusion cytology : Use of the cell transfer method or cell block method for immunochemical staining. J Jpn Soc Clin Cytol 2008 ; 47 (2) : 103-110.

(1) 原著 :

- 1) Ohba T<sup>1)</sup>, Takano H<sup>2)</sup>, Kunimi T<sup>3)</sup>, Fujita N<sup>2)</sup>, Kodani E, Mizuno K<sup>2)</sup> (1) Department of Medicine, Chiba-Hokusou Hospital, 2) Divisions of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine, 3) Department of Medicine, Tama-Nagayama Hospital) : Direct comparison between pharmacological stress with adenosine triphosphate disodium and exercise stress myocardial perfusion imagings. J Cardiol 2008 ; 52 (1) : 30-38.
- 2) Atarashi H, Ogawa S<sup>1)</sup>, Inoue H<sup>2)</sup>, And For The Flecainide Atrial F (1) Cardiopulmonary Division, Department of Medicine, Keio University School of Medicine, 2) The Second Department of Internal Medicine, University of Toyama, Graduate School of Medicine) : Relationship between subjective symptoms and trans-telephonic ECG findings in patients with symptomatic paroxysmal atrial fibrillation and flutter. J Cardiol 2008 ; 52 (2) : 102-110.
- 3) Okada K, Kurita A<sup>1)</sup>, Takase B<sup>2)</sup>, Otsuka T<sup>3)</sup>, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K<sup>4)</sup> (1) Fukuinkai Medical Clinic, 2) Division of Biomedical Engineering, National Defense Medical College Research Institute, 3) Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, 4) Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School) : Effects of Music Therapy on Autonomic Nervous Activity, Incidence of Heart Failure Events, and Plasma Cytokine and Catecholamine Levels in Elderly Patients with Cerebrovascular Disease and Dementia. Int Heart J 2009 ; 50 (1) : 95-110.
- 4) Ogawa S<sup>1)</sup>, Yamashita T<sup>1)</sup>, Yamazaki T<sup>1)</sup>, Aizawa Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Inoue H<sup>1)</sup>, Ohe T<sup>1)</sup>, Ohtsu H<sup>1)</sup>, Okumura K<sup>1)</sup>, Katoh T<sup>1)</sup>, Kamakura S<sup>1)</sup>, Kumagai K<sup>1)</sup>, Kurachi Y<sup>1)</sup>, Kodama I<sup>1)</sup>, Koretsune Y<sup>1)</sup>, et al. (1) J-RHYTHM Investigators) : Optimal Treatment Strategy for Patients With Paroxysmal Atrial Fibrillation : J-RHYTHM Study. Circ J 2009 ; 73 (2) : 242-248.
- 5) Hirayama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Ohara T<sup>1)</sup>, Yashima M<sup>1)</sup>, Katoh T<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine) : Long-Term Effects of Upstream Therapy on Paroxysmal Atrial Fibrillation in Patients Without Overt Heart Diseases. Int Heart J 2009 ; 50 (2) : 141-151.
- 6) 大野 敦<sup>1)</sup>, 山崎泰徳<sup>2)</sup>, 白井崇裕<sup>1)</sup>, 清水彩子<sup>1)</sup>, 小林高明<sup>2)</sup>, 大塚昌樹<sup>3)</sup>, 小谷英太郎, 宮川高一<sup>4)</sup>, 植木彬夫<sup>1,2)</sup> (1) 東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科, 2) 東京医科大学内科学第三講座, 3) 多摩丘陵病院糖尿病内科, 4) 多摩センタークリニックみらい) : 糖尿病神経障害のケアの現状に関するアンケート調査 : 2001年度と2007年度の比較. Prog Med 2008 ; 28 (12) : 3005-3013.
- 7) 緒方憲一<sup>1)</sup>, 小谷英太郎, 田寺 長, 竹山聡美, 草間芳樹, 新 博次 (1) 武蔵小杉病院健康管理科) : 心疾患合併2型糖尿病患者に対するピオグリタゾンの有効性と安全性. Prog Med 2009 ; 29 (2) : 441-448.

(2) 総説 :

- 1) 堀江 格, 新 博次 : 不整脈治療に用いる薬の適応と使いかた : Naチャンネルブロッカー. Medical Practice 2008 ; 25 (6) : 1041-1046.
- 2) 新 博次 : 抗不整脈薬併用療法研究会21年の足跡. Prog Med 2008 ; 28 (8) : 2067-2069.
- 3) 新 博次 : 心房細動の原因 : 孤立性か, 器質性か, 遺伝性か, 全身性か <心房細動をどうマネジメントするか>. Heart View 2009 ; 13 (1) : 8-12.

4) 新 博次：トータルマネジメントの実践：診断から治療戦略まで 5 発作性心房細動の頓服療法<心房細動>. 治療学 2009 ; 43 (1) : 47-49.

(3) 症例報告：

- 1) 岡田 薫, 草間芳樹, 小谷英太郎, 石井健輔, 宮地秀樹, 時田祐吉, 田寺 長, 中込明裕, 新 博次：肺動脈血栓塞栓症の治療中にヘパリン起因性血小板減少症に伴う血栓症を合併した1例. 心臓 2008 ; 40 (4) : 373-378.
- 2) 神谷仁孝, 小谷英太郎, 西城由之, 渋谷俊之, 細川雄亮, 宗像 亮, 吉川雅智, 上村竜太, 堀江 格, 松本真, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次：バイスタンダーによる心肺蘇生と救急隊自動体外除細動器により救命された心室細動の1例. 心臓 2008 ; 40 (Suppl 3) : 5-9.
- 3) 松本 真, 小谷英太郎, 吉田博史, 堀江 格, 緒方憲一, 田寺 長, 草間芳樹, 新 博次, 堀江 稔<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 滋賀医科大学呼吸循環器内科)：就寝中に室細動を発症した先天性QT延長症候群 (LQT1) の1例. 心臓 2008 ; 40 (Suppl 3) : 53-59.
- 4) 宗像 亮, 小谷英太郎, 西城由之, 渋谷俊之, 細川雄亮, 神谷仁孝, 吉川雅智, 堀江 格, 上村竜太, 松本真, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次：治療抵抗性心室細動から救命し得た若年者冠攣縮性狭心症の1例. 心臓 2008 ; 40 (12) : 1113-1118.

著 書

- 1) Atarashi H : [分担] Cardiovascular and renal diseases D. Pharmacological treatment of cardiac arrhythmias. Drug Benefits and Risks : International Textbook of Clinical Pharmacology. Revised 2nd edition (van Boxtel CJ, Santoso B, Edwards IR), 2008 ; pp599-607, IOS Press (Amsterdam).
- 2) 新 博次：[分担] V章不整脈 D. 心室性不整脈. 専門医のための薬物療法Q&A 循環器 (小室一成, 北風政史編), 2008 ; pp379-382, 中外医学社.
- 3) 小谷英太郎, 新 博次：[分担] 動悸. 診断と治療増刊号 プライマリケア時代の症候の診かた, 2008 ; pp245-256, 診断と治療社.
- 4) 宗像 亮：[分担] VII. ST-Tの変化 Q62 STの変化はどう見ればいいのか?. モニター心電図Q&A : 読み方と緊急ケアのすべて (ナーシングケアQ&A) (今村 浩, 岡元和文編), 2008 ; 総合医学社.
- 5) 新 博次：[分担] 病態編 徐脈性不整脈 (洞不全, 刺激伝導障害). 心血管病薬物治療マニュアル (荻尾七臣, 筒井裕之編 山口 徹監修), 2008 ; pp67-72, 中山書店.
- 6) 新 博次：[分担] 第三部 治療における最近の新薬の位置付け (薬効別) : 新薬の広場 : 抗不整脈薬. 医療ジャーナル 増刊号 新薬展望2009 (政田幹夫, 佐藤 博, 佐々木 均編), 2009 ; pp468-471, 医療ジャーナル社.
- 7) 新 博次：[分担] I章不整脈診療に必要な知識 3. 不整脈の治療法を理解しよう! A. 薬物療法 2) 抗不整脈薬の使い方. 不整脈クリニカルプラクティス (井上 博, 山下武志編), 2009 ; pp73-81, 南江堂.
- 8) 新 博次：[分担] IV. 心房細動を診る・治す 4. 薬物療法. 新・心臓病診療プラクティス 13. 不整脈を診る・治す—非薬物療法のすべて— (青沼和隆, 吉川純一, 笠貫 宏, 土師一夫, 別府慎太郎, 松崎益徳編), 2009 ; pp203-207, 文光堂.
- 9) 井上 博<sup>1)</sup>, 新 博次, 奥村 謙<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 富山大学大学院・内科学第二, <sup>2)</sup> 弘前大学大学院・循環呼吸腎臓内科学) : [共著] 心房細動の治療と管理 Q&A 第2版, 2009 ; 医学書院.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演：

- 1) Ogawa S<sup>1)</sup>, Yamashita T<sup>1)</sup>, Aizawa Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Inoue H<sup>1)</sup>, Ohe T<sup>1)</sup>, Okumura K<sup>1)</sup>, Kato T<sup>1)</sup>, Ka-



makura S<sup>1</sup>), Kumagai K<sup>1</sup>), Kurachi Y<sup>1</sup>), Kodama I<sup>1</sup>), Koretsune Y<sup>1</sup>), Saikawa T<sup>1</sup>), Sakurai M<sup>1</sup>), et al. (<sup>1</sup> J-RHYTHM Investigators) : Randomized controlled trial of rhythm vs rate control strategy in Japanese patients with paroxysmal and persistent atrial fibrillation (J-RHYTHM Study). American College of Cardiology 56th Annual Scientific Session (2nd annual Innovation in Intervention : i2 Summit) (New Orleans), 2007. 3.

(1) シンポジウム :

- 1) Otsuka T<sup>1</sup>), Ibuki C<sup>2</sup>), Kusama Y (<sup>1</sup> Department of Hygiene and Public Health, <sup>2</sup> Cardiovascular Center, Chiba-Hokusoh Hospital) : Augmented Arterial Wave Reflection in Middle-aged Male Workers Exposed to High Job Stress. The 73rd Annual Science Meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.

(2) セミナー :

- 1) 新 博次 : 心房細動治療におけるペプリジルの意義. 日本心電学会学術集会 (第25回), 2008. 11.

(3) 海外留学者講演 :

- 1) 佐野純子 : Electrocardiography Screening for Cardiotoxicity after Modified Vaccinia Ankara Vaccination. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.

(4) 一般講演 :

- 1) Fukushima M, Atarashi H : Clinical Significance of Electrocardiogram Pattern in Patients with Bundle Branch Block. 35th International Congress on Electrocardiology (ICE2008) (St. Petersburg, Russia), 2008. 9.
- 2) Kodani E, Atarashi H, Ogawa S<sup>1</sup>), Inoue H<sup>2</sup>), For The Flecainide Atrial Fibrillation I (<sup>1</sup> Cardiopulmonary Division, Department of Medicine, Keio University School of Medicine, <sup>2</sup> The Second Department of Internal Medicine, University of Toyama, Graduate School of Medicine) : Relationship Between Subjective Symptoms and Trans-telephonic ECG Findings in Patients With Symptomatic Paroxysmal Atrial Fibrillation and Flutter. The 1st Asia-Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (APHRs 2008) (Singapore), 2008. 11.
- 3) Shibui T, Nakagomi A, Miyachi H, Sasaki A, Kamiya M, Yoshikawa M, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K<sup>1</sup>) (<sup>1</sup> The First Department of Internal Medicine) : Statin Therapy Reduces Cardiac Events in Acute Coronary Syndrome Patients with Chronic Kidney Disease. The 73rd Annual Science Meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.
- 4) Nakagomi A, Shibui T, Endoh I, Kodani E, Endoh Y, Kusama Y, Seino Y<sup>2</sup>), Atarashi H, Mizuno K<sup>1</sup>) (<sup>1</sup> The First Department of Internal Medicine, <sup>2</sup> Department of Cardiology, Chiba-Hokuso Hospital) : Statin Therapy Attenuates Monocyte Tumor Necrosis Factor Production and Improves Cardiac Function and Long-term Prognosis in Chronic Heart Failure. The 73rd Annual Science Meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.
- 5) Kosugi M, Nakagomi A, Miyachi H, Shibui T, Kamiya M, Hosokawa Y, Yoshikawa M, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K<sup>1</sup>) (<sup>1</sup> The First Department of Internal Medicine) : Statin Therapy Improves Long-term Prognosis Associated with Production of Inflammation in Patients Vasospastic Angina. The 73rd Annual Science Meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.
- 6) Miyachi H, Yamamoto A<sup>1</sup>), Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K<sup>2</sup>) (<sup>1</sup> Radiology, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2</sup> The First Department of Internal Medicine) : Impact of Myocardial Perfusion and Metabolism for Left Ventricular Systolic Function and Synchrony. The 73rd Annual Science Meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.
- 7) Nakagomi A, Shibui T, Endoh I, Hirasawa Y, Kodani E, Endoh Y, Kusama Y, Atarashi H, Morikawa

- M<sup>2</sup>), Mizuno K<sup>1</sup>) (1) The First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, (2) Department of Pharmaceutical, Tokyo University of Pharmacy and Life Science) : Upregulation of Monocyte Tissue Factor Activity of Metabolic Syndrome Contributes to the Pathogenesis of Acute Coronary syndrome. The 73rd Annual Science Meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.
- 8) Miyachi H, Nakagomi A, Kosugi M, Shibui T, Kamiya M, Yoshikawa M, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K (1) The First Department of Internal Medicine) : Differential Effect of Lipid Ratios on Long-term Prognosis of Patients with Acute Coronary Syndrome Underwent Successful Percutaneous Coronary Intervention. The 73rd Annual Science Meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.
- 9) Endoh I, Endoh Y, Tedla N<sup>1</sup>), Xhao J<sup>1</sup>), Goyette J<sup>1</sup>), Geczy C<sup>1</sup>) (1) University of New South Wales, School of Medical Science Pathology, Sydney, Australia) : Regulation of Mast Cell Function by the Pleiotropic Inflammatory Mediator, S100A8. The 73rd Annual Science Meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.
- 10) Kamiya M, Asai K<sup>1</sup>), Miyake K<sup>2</sup>), Miyake N<sup>2</sup>), Seino Y<sup>3</sup>), Shimada T<sup>2</sup>), Atarashi H, Mizuno K<sup>1</sup>) (1) The First Department of Internal Medicine, (2) Department of Biochemistry and Molecular Biology, and Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, (3) Department of Internal Medicine, Chiba-Hokusou Hospital) : Efficient Correction of Cardiac Abnormalities in Fabry Mice by AAV type 8 Mediated Systemic Gene Transfer. The 73rd Annual Science Meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.
- 11) 大野 敦<sup>1</sup>), 宮川高一<sup>2</sup>), 大塚昌樹<sup>3</sup>), 小谷英太郎, 山崎泰徳<sup>1</sup>), 白井崇裕<sup>1</sup>), 清水彩子<sup>1</sup>), 小林高明<sup>1</sup>), 植木彬夫<sup>1</sup>) (1) 東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科, (2) 多摩みなみクリニック, (3) 多摩丘陵病院糖尿病内科) : 糖尿病性神経症のケアの現状に関するアンケート調査. 日本内科学会講演会 (第105回), 2008. 4.
- 12) 小谷英太郎, 雪吹周生<sup>1</sup>), 大塚俊明<sup>2</sup>), 竹山聡美, 草間芳樹, 新 博次 (1) 千葉北総病院内科, (2) 衛生学公衆衛生学教室) : メタボリックシンドローム合併軽症2型糖尿病患者に対するピオグリタゾンの効果の検討. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第51回), 2008. 5.
- 13) 竹山聡美, 松尾美穂<sup>1</sup>), 栗栖啓充<sup>2</sup>), 岩元まり子<sup>3</sup>), 原美和子<sup>4</sup>), 山本有美<sup>5</sup>), 藤井仁美<sup>5</sup>), 植木彬夫<sup>1</sup>), 大野敦<sup>1</sup>), 高村 宏<sup>6</sup>), 宮川高一<sup>5</sup>), 原 義人<sup>7</sup>), 名和知久礼<sup>7</sup>), 住友秀孝<sup>3</sup>), 渡邊裕子<sup>5</sup>) (1) 東京医科大学八王子医療センター, (2) 多摩丘陵病院薬剤科, (3) 立川相互病院, (4) 立川ふれあいクリニック, (5) 多摩みなみクリニック, (6) 高村内科クリニック, (7) 青梅市立総合病院内分泌代謝科) : 体験学習と患者・他職種間交流が及ぼす初心者への学習効果. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第51回), 2008. 5.
- 14) 大道近也<sup>1</sup>), 五島 啓<sup>1</sup>), 笠岡祐二<sup>1</sup>), 村田将光<sup>1</sup>), 徳永裕之<sup>1</sup>), 瀬崎和典<sup>1</sup>), 鈴木文男<sup>2</sup>), 野田 誠<sup>3</sup>), 新 博次 (1) 結核予防会新山手病院循環器科, (2) 結核予防会複十字病院循環器科, (3) 社会保険中央総合病院循環器内科) : Crista terminalis (CT) は心房粗動のposterior barrierかdominant pathwayか : entrainment pacingの際の復元周期はCT刺激により最も短縮する. 臨床心臓電気生理研究会 (第38回), 2008. 5.
- 15) 村田広茂<sup>1</sup>), 宮内靖史<sup>1</sup>), 小林義典<sup>1</sup>), 丸山光紀<sup>1</sup>), 岩崎雄樹<sup>1</sup>), 上野 亮<sup>1</sup>), 岡崎怜子<sup>1</sup>), 山本哲平<sup>1</sup>), 松本綾乃<sup>1</sup>), 小原俊彦<sup>1</sup>), 平山悦之<sup>1</sup>), 加藤貴雄<sup>1</sup>), 水野杏一<sup>1</sup>), 堀江 格, 平澤泰宏, その他1名 (1) 第一内科) : Electroanatomical Mappingにより走行を詳細に検討しえた左側 Atrio-Ventricular Mahaim 束の1例. 臨床心臓電気生理研究会 (第38回), 2008. 5.
- 16) 宮内靖史<sup>1</sup>), 小林義典<sup>1</sup>), 丸山光紀<sup>1</sup>), 岩崎雄樹<sup>1</sup>), 上野 亮<sup>1</sup>), 岡崎怜子<sup>1</sup>), 村田広茂<sup>1</sup>), 山本哲平<sup>1</sup>), 小原俊彦<sup>1</sup>), 加藤貴雄<sup>1</sup>), 水野杏一<sup>1</sup>), 新田 隆<sup>2</sup>), 大森裕也<sup>2</sup>), 堀江 格, 新 博次 (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), (2) 心臓血管外科) : 開心術後遠隔期に出現する心房粗動・心房頻拍の特徴およびカテーテル・アブレーションの効果. 日本不整脈学会学術大会 (第23回), 2008. 5.
- 17) 西城由之, 小谷英太郎, 洪井俊之, 神谷仁孝, 細川雄亮, 宗像 亮, 吉川雅智, 上村竜太, 中込明裕, 草間芳

- 樹, 新 博次: MSCTにて多発性冠動脈瘤を認め, 川崎病罹患が疑われた若年者狭心症の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第208回), 2008. 6.
- 18) 宮地秀樹, 中込明裕, 森澤太郎, 西城由之, 洪井俊之, 細川雄亮, 神谷仁孝, 吉川雅智, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 第一内科): 退院時LDL-C/HDL-C比は急性冠症候群の心事故発症の予測因子となる. 日本心臓病学会学術集会 (第56回), 2008. 9.
- 19) 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 木股伸恒<sup>1)</sup>, 富田和憲<sup>1)</sup>, 小鹿野道雄<sup>1)</sup>, 椎葉邦人<sup>1)</sup>, 田邊 潤<sup>1)</sup>, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新博次 (1) 静岡医療センター): ペアメタルステントと薬物溶出性ステントを同時挿入後, 薬物溶出性ステントにのみ重急性血栓症を認めた1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第209回), 2008. 9.
- 20) 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次, 酒井貴史<sup>1)</sup>, 林 綾子<sup>1)</sup>, 佐藤寛之<sup>1)</sup> (1) 多摩永山病院中央検査室): 末梢循環不全に対するサルボグレラートによる効果の検討: サーモグラフィによる評価. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第209回), 2008. 9.
- 21) 酒井貴史<sup>1)</sup>, 水谷行伸<sup>1)</sup>, 林 綾子<sup>1)</sup>, 佐藤寛之<sup>1)</sup>, 池野廣幸<sup>1)</sup>, 草間芳樹, 新 博次 (1) 多摩永山病院中央検査室): ストレインレートをを用いた左房機能評価. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
- 22) 水谷行伸<sup>1)</sup>, 酒井貴史<sup>1)</sup>, 林 綾子<sup>1)</sup>, 佐藤寛之<sup>1)</sup>, 池野廣幸<sup>1)</sup>, 草間芳樹, 新 博次 (1) 多摩永山病院中央検査室): 2Dトラッキング法によるストレインレートをを用いた左室拡張機能評価 (特に高血圧症, 糖尿病について). 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
- 23) 榎本純子<sup>1)</sup>, 井上 淳<sup>1)</sup>, 佐藤知枝<sup>1)</sup>, 下村由紀<sup>1)</sup>, 澤柳妙子<sup>1)</sup>, 佐々木友里<sup>1)</sup>, 池野廣幸<sup>1)</sup>, 草間芳樹, 新博次 (1) 多摩永山病院中央検査室): グリコアルブミン測定の有用性. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
- 24) 福島正人, 新 博次, 遠藤康実, 小谷英太郎, 草間芳樹: 非通常型脚ブロック症例における背景疾患, 伝導障害, 心収縮機能障害に関する検討. 日本心電学会学術集会 (第25回), 2008. 11.
- 25) 細川雄亮, 神谷仁孝, 吉川雅智, 平澤泰宏, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次, 片山博徳<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup> (1) 多摩永山病院病理部): 経静脈的カテーテル生検時の迅速細胞診が推定診断に有用であった心臓血管肉腫の1例. 日本臨床細胞学会秋季大会 (第47回), 2008. 11.
- 26) 宮地秀樹, 山本 彰<sup>1)</sup>, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次 (1) 多摩永山病院放射線科): 左室心筋血流・収縮能・壁運動同期性の関係 心不全・血流代謝ミスマッチとの関連を含め. 心世代核医学研究会 (第11回), 2008. 11.
- 27) 相澤義泰<sup>1)</sup>, 香坂 俊<sup>1)</sup>, 鈴木信也<sup>2)</sup>, 新 博次, 鎌倉史郎<sup>3)</sup>, 櫻井正之<sup>4)</sup>, 中谷晴昭<sup>5)</sup>, 深谷眞彦<sup>6)</sup>, 三田村秀雄<sup>7)</sup>, 山崎 力<sup>2)</sup>, 山下武志<sup>8)</sup>, 小川 聡<sup>1)</sup>, J-Rhythm Investigators (1) 慶應義塾大学医学部循環器内科, 2) 東京大学医学系大学院臨床疫学システム講座, 3) 国立循環器病センター心臓血管内科, 4) 北光記念病院, 5) 千葉大学大学院医学研究院薬理学, 6) 近森病院, 7) 東京都済生会中央病院, 8) 心臓血管研究所): J-RHYTHM試験サブ解析: 発作性心房細動リズム治療で使用された抗不整脈薬と予後に関する検討. 日本心電学会学術集会 (第25回), 2008. 11.
- 28) 遠藤彩佳<sup>1)</sup>, 香坂 俊<sup>1)</sup>, 鈴木信也<sup>2)</sup>, 新 博次, 鎌倉史郎<sup>3)</sup>, 櫻井正之<sup>4)</sup>, 中谷晴昭<sup>5)</sup>, 深谷眞彦<sup>6)</sup>, 三田村秀雄<sup>7)</sup>, 山崎 力<sup>2)</sup>, 山下武志<sup>8)</sup>, 小川 聡<sup>1)</sup>, J-Rhythm Investigators (1) 慶應義塾大学医学部循環器内科, 2) 東京大学医学系大学院臨床疫学システム講座, 3) 国立循環器病センター心臓血管内科, 4) 北光記念病院, 5) 千葉大学大学院医学研究院薬理学, 6) 近森病院, 7) 東京都済生会中央病院, 8) 心臓血管研究所): J-RHYTHM試験サブ解析: 発作性心房細動リズム治療群における抗不整脈薬の使用状況とその追跡調査. 日本心電学会学術集会 (第25回), 2008. 11.
- 29) 榎戸 馨<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 鶴見昌史<sup>1)</sup>, 鈴木大悟<sup>1)</sup>, 上野 亮<sup>1)</sup>, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 川中秀和<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 中野博之<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup>, 細川雄亮, その他2名 (1) 集中治療室, 2) 内科学 循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 長期に及ぶ右心不全の原因がCABG術で使用したシート状

- 止血剤による心外圧迫・収縮性心膜炎であった1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第210回), 2008. 12.
- 30) 小谷英太郎, 宮地秀樹, 草間芳樹, 新 博次, 長澤絃一: 高血圧症に対する常用量テルミサルタンによるアディポネクチン増加作用の検討. 日本成人病 (生活習慣病) 学会 (第43回), 2009. 1.
- 31) 細川雄亮, 森澤太郎, 小杉宗範, 渋谷俊之, 宮地秀樹, 神谷仁孝, 吉川雅智, 山科育子, 堀江 格, 平澤泰宏, 松本 真, 小谷英太郎, 遠藤康実, 佐野純子, 中込明裕, その他3名: 経カテーテル腫瘍生検により心臓血管肉腫と診断し集学的治療を行った1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第211回), 2009. 2.
- 32) Fukushima M, Kato K, Yoshikawa M, Endoh Y, Kodani E, Nakagomi A, Kusama Y, Atarashi H: Clinical Significance of Electrocardiogram Pattern in Patients with Bundle-Branch Block. The 73rd Annual Science Meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.
- (5) コントロバース:
- 1) 新 博次: レートコントロール支持の立場から (心房細動: 日本ではrhythm controlかrate controlか). 日本心臓病学会学術集会 (第56回), 2008. 9.

## [千葉北総病院循環器内科]

### 研究概要

内科各領域を網羅する臨床的研究を積極的に行っている。

循環器領域では、虚血性心疾患症例を対象に経皮的冠動脈インターベンション (PCI) およびバイオマーカーなどについて積極的に研究を行っている。とくに血管内視鏡や血管内超音波, OCTなど先端画像技術を駆使し, 新規心臓血管バイオマーカーの臨床開発との融合のもと冠動脈プラークや血栓の形成機序解明に取り組んでいる。また, 不整脈では電気生理学的検査やカテーテルアブレーションで千葉県有数の実績をあげている。更に睡眠時無呼吸や女性の狭心症など特色のある臨床研究を推進している。

国際的なトップジャーナルへの論文発表の評価も高く, 国内外の循環器専門学会におけるシンポジウム, プレナリセッション発表も数多い。

### 研究業績

#### 論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) 清野精彦, 白壁章宏: 心腎連関の主因は何か. *Journal of Cardiology* 2008 ; 2 (3) : 196-200.
- 2) 清野精彦: 心不全治療のガイドラインとその使い方. *Medical Practice* 2008 ; 25 (3) : 390-396.

(1) 原著:

- 1) Xie Y<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Murakami D, Yamamoto M, Okamatsu K, Inami S, Seimiya K, Ohba T, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Division of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo) : Comparison of Neointimal Coverage by Optical Coherence Tomography of a Sirolimus-Eluting Stent Versus a Bare-Metal Stent Three Months After Implantation. *The American Journal of Cardiology* 2008 ; 102 (1) : 27-31.
- 2) Takano M<sup>1)</sup>, Yamamoto M, Murakami D, Inami S, Okamatsu K, Seimiya K, Ohba T, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Division of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo) : Lack of Association Between Large Angiographic Late Loss and Low Risk of In-Stent Thrombus : Angioscopic Comparison Between Paclitaxel-and Sirolimus-Eluting Stents. *Circulation Cardiovascular Interventions* 2008 ; 1 (1) : 20-27.
- 3) Takano M<sup>1)</sup>, Yamamoto S, Inami S, Xie Y, Murakami D, Okamatsu K, Ohba T, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup>

(<sup>1</sup>) Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School) : Delayed Endothelialization After Polytetrafluoroethylene-Covered Stent Implantation for Coronary Aneurysm. *Circulation Journal* 2008 ; 73 (1) : 190-193.

- 4) Kawai S<sup>1</sup>), Tanaka K<sup>2</sup>), Ohno I<sup>3</sup>), Utsunomiya K, Seino Y (<sup>1</sup>) Division of Rheumatology, Department of Internal Medicine, Toho University School of Medicine, (<sup>2</sup>) Department of Neurology, Toyama University Hospital, (<sup>3</sup>) Division of Kidney and Hypertension, Department of Internal medicine, Jikei University School of Medicine, (<sup>4</sup>) Division of Diabetes, Metabolism and Endocrinology, Department of Internal Medicine) : Safety of long-term tacrolimus therapy for rheumatoid arthritides : an open-label, uncontrolled study in non-elderly patients. *Modern Rheumatology* 2008 ; 18 (4) : 345-353.
- 5) Hata N<sup>1</sup>), Seino Y, Tsutamoto T<sup>2</sup>), Hiramitsu S<sup>3</sup>), Kaneko N<sup>4</sup>), Yoshikawa T<sup>5</sup>), Yokoyama H<sup>6</sup>), Tanaka K<sup>7</sup>), Mizuno K<sup>8</sup>), Nejima J<sup>9</sup>), Kinoshita M<sup>10</sup>) (<sup>1</sup>) Department of Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, (<sup>2</sup>) Department of Cardiovascular and Respiratory medicine, Shiga University of Medical Science, (<sup>3</sup>) Department of Internal Medicine, Fujita Health University School of Medicine, (<sup>4</sup>) Department of Cardiology and Pneumology, Dokkyo university School of Medicine, (<sup>5</sup>) Cardiopulmonary Division, Department of Medicine, Keio University School of Medicine, (<sup>6</sup>) Department of Cardiovascular Medicine, Shizuoka National Hospital (presently Department of Critical Care Medicine, national Cardiovascular Center, (<sup>7</sup>) Intensive and Coronary Care Unit, Nippon Medical School , (<sup>8</sup>) Department of Cardiovascular, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School ( presently First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School), (<sup>9</sup>) Department of Internal Medicine, Tsurumi University School of Dental Science, (<sup>10</sup>) Kusatsu General Hospital) : Effects of Carperitide on the Long-Term Prognosis of Patients With Acute Decompensated Chronic Heart Failure : The PROTECT Multicenter Randomized Controlled Study. *Circulation Journal* 2008 ; 72 : 1787-1793.
- 6) Takano M<sup>1</sup>), Yamamoto M<sup>1</sup>), Murakami D<sup>1</sup>), Takano H<sup>1</sup>), Asai K<sup>1</sup>), Yasutaka M<sup>1</sup>), Seino Y<sup>1</sup>), Mizuno K<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Opical Coherence tomography after new scoring ball angioplasty for in-stent restenosis and de novo coronary lesions. *Int J Cardiol* 2009.
- 7) Yamamoto M<sup>1</sup>), Takano M<sup>1</sup>), Okamatsu K<sup>1</sup>), Murakami D<sup>1</sup>), Inami S<sup>1</sup>), Xie Y<sup>1</sup>), Seimiya K<sup>1</sup>), Ohba T<sup>1</sup>), Seino Y<sup>1</sup>), Mizuno K<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Relationship between thin cap fibroatheroma identified by virtual history and angioscopic yellow plaque in quantitative analysis with colorimetry. *Circulation J* 2009 ; 73 (3) : 497-502.

(2) 総説 :

- 1) 稲見 徹, 奥村 剛, 清野精彦 : 循環器救急を血液検査でどこまで鑑別できるか. *Medicina* 2008 ; 45 (4) : 630-631.
- 2) 清野精彦 : 心臓病へのマルチバイオマーカー・ストラテジー. *Medical Technology* 2008 ; 36 (4) : 352-358.
- 3) 田近研一郎, 清野精彦, 水野杏一<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) 日本医科大学大学院医学研究科器官機能病態内科学) : 冠動脈先端画像診断 : 冠動脈 MDCT (multidetector-row CT) (I) Novel Coronary Imaging : Coronary MDCT. *日医大医学会誌* 2008 ; 4 (4) : 172-174.
- 4) 清野精彦, 佐藤 越, 稲見 徹 : 慢性心不全における睡眠時呼吸障害の診断と治療 : 特に中枢型睡眠時無呼吸について. *日本内科学会雑誌* 2008 ; 97 (6) : 161-167.
- 5) 清野精彦 : 虚血性心疾患と性差. *EBM ジャーナル* 2008 ; 9 (5) : 52-60.
- 6) 山本真功 : ベアメタルステントと薬剤溶出性ステントと留置後の新生内膜被覆の差 : 血管内視鏡による検討. *脈管学* 2008 ; 48 (2) : 193-201.
- 7) 清野精彦 : 専門医に求められる最新の知識 : 第3回 心血管疾患のバイオマーカー. *CIRCULATION Up-to-*



Date 2008 ; 3 (3) : 122-133.

- 8) 清野精彦：心血管イベント危険因子としての慢性腎臓病（CKD）：4）心疾患と腎機能：Cardio-renal subset revisited. 日本内科学会雑誌 2008 ; 97 (9) : 164-170.
  - 9) 清野精彦, 稲見 徹, 太良修平<sup>1)</sup>, 岡田 薫, 佐藤 越<sup>(1)</sup> 日本医科大学内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）：心不全に対する睡眠時無呼吸症候群の治療：1) 薬物治療, 夜間酸素療法. 睡眠医療 2008 ; 4 (8) : 428-433.
  - 10) 雪吹周生, 清野精彦：心血管病は慢性腎臓病のリスクファクターか？. *Vascular Medicine* 2008 ; 4 (4) : 307-314.
  - 11) 清野精彦：大規模臨床試験：循環・代謝を中心に：主要薬剤の大規模臨床試験  $\beta$  遮断薬 COMET : Carvedilol or Metoprolol European Trial. 日本臨床 2008 ; 66 (8) : 247-254.
  - 12) 清野精彦：女性の冠動脈疾患. *Vascular Lab* 2008 ; 5 (5) : 32 (420) -39 (427).
  - 13) 清野精彦：心血管マルチバイオマーカーストラテジー. *Schneller* 2008 ; 67 : 32-39.
  - 14) 清野精彦：生化学マーカー Role of biomarkers for the diagnosis of acute coronary syndrome. 救急医学：急性冠症候群 up-to-date 2009 ; 33 (2) : 155-160.
  - 15) 清野精彦：ACE阻害薬とブラジキニン. *Pharma Medica* 2009 ; 27 (1) : 112-112.
  - 16) 岡松健太郎, 清野精彦, 水野杏一<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科器官機能病態内科学)：冠動脈先端画像：血管内視鏡を用いた急性冠症候群の洞察 (II) Novel Coronary Imaging : Insight into the Acute Coronary Syndromes from Angioscopic Studies (II). 日医大医学会誌 2009 ; 5 (1) : 6-8.
- (3) 症例報告：
- 1) 山本真功, 高野雅充<sup>1)</sup>, 村上大介, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 岡松健太郎, 大場崇芳, 大秋忠秋<sup>2)</sup>, 清野精彦, 水野杏一<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院心臓血管センター病理部)：シロリムス溶出性ステントを留置した3枝すべてにステント内再狭窄を認めた慢性維持透析患者の1例：方向性冠動脈粥腫切除術によって得られた病理組織所見からの洞察. *Japanese Journal of Interventional Cardiology* 2008 ; 23 (6) : 454-459.
  - 2) 清野精彦：Ca拮抗薬によるBNP値の変動. 日本医事新報 2008 ; 4383 : 87-87.

## 著 書

- 1) 清野精彦：〔分担〕専門医に求められる最新の知識：第3回心血管疾患のバイオマーカー. *Circulation Up-to-Date* (四津良平・赤石誠・上田裕一), 2008 ; pp122-133, メディカ出版.
- 2) 清野精彦：〔自著〕中枢性睡眠時無呼吸症候群に対する夜間酸素療法. 睡眠時無呼吸症候群：循環器科医必須知識 (麻野井英次), 2008 ; pp233-239, 株式会社メジカルビュー社.
- 3) 堀 正二<sup>1)</sup>, 筒井裕之<sup>2)</sup>, 清野精彦, 増山 理<sup>3)</sup> <sup>(1)</sup> 大阪大学・大阪府立成人病センター, <sup>2)</sup> 北海道大学大学院医学研究科循環器病態内科学, <sup>3)</sup> 兵庫医科大学内科学循環器内科)：〔監訳〕心不全治療の新たなアプローチ法：New Approaches to the Treatment of Heart Failure. *Atlas of HEART FAILURE : 心不全の疫学心不全治療の新たなアプローチ法 心臓再同期療法 (CRT)* (堀 正二), 2008 ; pp23-43, Springer.
- 4) 清野精彦, 村上大介：〔編集 (一冊)・分担〕急性冠症候群に対するバイオマーカー・ストラテジー. 心血管マルチバイオマーカー・ストラテジー (清野精彦), 2009 ; pp5-9, 医歯薬出版株式会社.
- 5) 清野精彦, 雪吹周生：〔共著〕血管拡張薬 (末梢循環拡張薬). 治療薬ハンドブック2009 (高久史磨・堀正二・菅野健太郎・門脇孝・乾賢一・林昌洋), 2009 ; pp361-365, 株式会社じほう社.
- 6) 清野精彦：〔分担〕心不全. 今日の診療のために：ガイドライン外来診療2009 (泉孝英), 2009 ; pp425-437, 日経メディカル開発.

## 学会発表

### 〔追加分〕

#### 追加分一般講演：

- 1) Inami T, Yamamoto M, Kimata N, Okada K, Tara S<sup>1)</sup>, Murakami D, Tajika K, Ohba T, Aoki S, Ibuki C, Yokoyama S<sup>2)</sup>, Hata N<sup>2)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School, (2) Intensive Care Unit) : Even Mild Elevation of sLOX-1 may Reflect Coronary Atherosclerotic Plaque Burden in Non-AMI Coronary Artery Disease Patients. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2000. 9.
- 2) 奥村 剛, 稲見 徹, 山本真功, 太良修平, 村上大介, 田近研一郎, 淀川顕司, 高野雅充<sup>1)</sup>, 佐藤 越, 大野則彦, 大場崇芳, 青木 聡, 雪吹周生, 清野精彦, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 3DCTにより明瞭に抽出された, 左鎖骨下動脈瘤を合併した偽性大動脈縮窄症の稀有な1例. 第208回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2008. 2.
- 3) 木富奈穂子<sup>1)</sup>, 野本剛史<sup>1)</sup>, 清野精彦 (1) 中央検査室) : 心電図における留意点について : 異型狭心症例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 4) 松本望里<sup>1)</sup>, 野本剛史<sup>1)</sup>, 清野精彦 (1) 中央検査室) : DPC導入における術前検査の動向 : 呼吸機能検査について. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 5) 岩瀬和真<sup>1)</sup>, 野本剛史<sup>1)</sup>, 清野精彦 (1) 中央検査室) : 非発作時における気管支可逆性試験の有用性. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.

#### (1) シンポジウム：

- 1) 清野精彦 : 心疾患と腎機能 : Cardio Renal Subset revisited. 第105回日本内科学会, 2008. 4.

#### (2) パネルディスカッション：

- 1) 山本真功, 村上大介, 稲見茂信, 岡松健太郎, 大場崇芳, 清野精彦, 高野雅充<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : シロリムス溶出性ステントとバクリタクセル溶出性ステントと留置後6か月後の血管内視鏡所見の比較. 第22回日本心臓血管内視鏡学会, 2008. 10.

#### (3) 一般講演：

- 1) Yodogawa K, Morita N<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Takayama H<sup>1)</sup>, Ohara T<sup>1)</sup>, Ono N, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Internal Medicine, Nippon Medical School) : A New Approach for Differential Diagnosis between Brugada Syndrome and Brugada-like ECG-Application of Wavelet Transformed ECG-. American Heart Association Scientific Session 2008 (Atlanta, USA), 2008. 11.
- 2) Tara S, Yamamoto M, Inami T, Murakami D, Tajika K, Inami S, Takano M<sup>1)</sup>, Ohba T, Aoki S, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School) : An extremely rare case of In stent plaque rupture detected by coronary angiography. 第17回日本心臓血管インターベンション学会学術集会, 2008. 7.
- 3) Murakami D, Takano M<sup>1)</sup>, Yamamoto M, Inami T, Tara S, Inami S, Okamatsu K, Ohba T, Aoki S, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Long-Term Follow-Up Evaluation After Sirolimus-Eluting Stent Implantation By Optical Coherence Tomography : Do The Uncovered Struts Persist?. 第17回日本心臓血管インターベンション学会学術集会, 2008. 7.
- 4) Murakami D, Takano M<sup>1)</sup>, Yamamoto M, Inami T, Tara S, Inami S, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon

- Medical School) : Serial Long-Term Evaluation of Neointimal Stent Coverage and Thrombus after Sirolimus-Eluting Stent Implantation by Use of Coronary Angioscopy. 第17回日本心血管インターベンション学会, 2008. 7.
- 5) Inami T, Yamamoto M, Tara S, Murakami D, Tajika K, Ohba T, Aoki S, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School) : Imaging of early restenosis in sirolimus-eluting stent by novel coronary imaging modalities (Angioscopy, OCT, VH-IVUS) in a hemodialysis patient. 第17回日本心血管インターベンション学会, 2008. 7.
  - 6) Nakagomi A<sup>1)</sup>, Shibui T<sup>1)</sup>, Endoh I<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>1)</sup>, Endoh Y<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Seino Y, Atarashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School) : Statin Therapy Attenuates Monocyte Tumor Necrosis Factor Production and Improves Cardiac Function and Long-term Prognosis in Chronic Heart Failure. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
  - 7) Hayashi M, Denjoy I<sup>1)</sup>, Extramiana F<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>2)</sup>, Roux-Buisson N<sup>3)</sup>, Guicheney P<sup>4)</sup>, Lunardi J<sup>3)</sup>, Kobayashi Y<sup>2)</sup>, Seino Y, Mizuno K<sup>2)</sup>, Leenhardt A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Hopital Lariboisiere, Paris France, <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> CHU Grenoble, Grenoble, France, <sup>4)</sup> Groupe Hospitalier Pitie-Salpetriere, Paris, France) : Do Exercise Stress Tests Exactly Identify Genetically Affected Family Members in Catecholaminergic Polymorphic Ventricular Tachycardia? (DETECT Study). 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
  - 8) Aoki S, Kimata N, Yamamoto M, Okada K, Inami T, Tara S<sup>1)</sup>, Murakami D, Tajika K, Yodogawa K, Hayashi M, Takano M<sup>1)</sup>, Ohno N, Ohba T, Ibuki C, Seino Y, et al. ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School) : Multibiomarker Assessment of Coronary Atherosclerotic Plaque Burden in Non-AMI Patients : Importance of Three Characteristic Biomarker. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
  - 9) Setsuta K<sup>1)</sup>, Kitahara Y<sup>2)</sup>, Arao M<sup>2)</sup>, Seino Y, Mizuno K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology and Clinical Laboratory, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, Tokyo, <sup>2)</sup> Department of Cardiology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, <sup>3)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : Detectable Cardiac Troponin T Predicts Cardiovascular Events in Hypertensive Patients. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
  - 10) Yamamoto M, Seino Y, Kimata N, Inami T, Murakami D, Ohba T, Aoki S, Ibuki C, Mizuno K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School) : Remote Ischemic Preconditioning at Percutaneous Coronary Intervention Reduce Minute-Myocardial Injury : Evaluation by High-sensitivity Troponin and nt-proBNP Assays. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
  - 11) Okazaki H<sup>1)</sup>, Yamamoto M, Komiyama H<sup>1)</sup>, Satou T<sup>1)</sup>, Hara C<sup>1)</sup>, Yanagida T<sup>1)</sup>, Akiya M<sup>1)</sup>, Tara S<sup>1)</sup>, Yamamoto E<sup>1)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Takagi G<sup>1)</sup>, Takano H<sup>1)</sup>, Asai K<sup>1)</sup>, Seino Y, et al. ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School) : Lack of Association Large Angiographic Late Loss and Low Risk of In-Stent Thrombus : Angioscopic Acomparison between Paclitaxel-and Sirolimus-Eluting Stent. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
  - 12) Murakami D, Takano M<sup>1)</sup>, Inami T, Inami S, Okamoto K, Ohba T, Aoki S, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated

ed Medicine, Nippon Medical School) : Does Angioscopically Intensive Yellow Color of Target Plaque Predict Serum Troponin T Levels after Elective percutaneous Coronary Intervention?. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.

13) 白銀一貴<sup>1)</sup>, 太良修平, 山本真功, 岡田 薫, 稲見 徹, 村上大介, 田近研一郎, 淀川顕司, 大野則彦, 大場崇芳, 青木 聡, 雪吹周生, 雨宮志門<sup>2)</sup>, 清野精彦, 水野杏一<sup>3)</sup> (1) 集中治療室, (2) 神経内科, (3) 内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 重症起立性低血圧にピリドスチグミンが著効したびまん性Levy小体認知症の例. 第209回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2008. 9.

14) 雪吹周生, 木村裕子<sup>1)</sup>, 小林理恵<sup>1)</sup>, 清野精彦 (1) 医学部検査部中央検査室: 高血圧患者において橈骨動脈 Augmentation indexはFramingham risk score, BNP値と相関する. 第49回日本脈管学会総会, 2008. 10.

(4) Featured Research Session :

1) Otsuka T<sup>1)</sup>, Ibuki C, Seino Y (1) Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, Tokyo) : Prevalence and Independent Determinants of Elevated High-Sensitivity Troponin T Levels in Middle Aged Subjects without Overt Cardiovascular Disease. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.

(5) ポスター :

1) 雪吹周生, 西脇龍広<sup>1)</sup>, 佐藤光利<sup>1)</sup>, 清野精彦, 水野杏一<sup>2)</sup> (1) 東邦大学薬学部薬物安全性学研究室, (2) 内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 冠動脈疾患2次予防患者における脂質管理の現状: 心筋梗塞既往の有無による比較. 第22回日本冠疾患学会学術集会, 2008. 12.

2) Yamamoto M, Inami T, Tara S, Murakami D, Tajika K, Inami S, Okamatsu K, Takano M<sup>1)</sup>, Ohba T, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School) : Relationship between Thin Cap Fibroatheroma Identified Virtual Histology and Angioscopic yellow Plaque Quantitative Analysis with Colorimetry. 第17回日本心血管インターベンション学会, 2008. 7.

3) Kimata N, Seino Y, Yamamoto M, Inami T, Murakami D, Tara S, Tajika K, Ohba T, Yodogawa K, Hayashi M, Ohno N, Aoki S, Ibuki C, Takano M<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School) : Minute Myocardial injury Detected by High-Sensitivity Troponin T Measurement in Stable Coronary Artery Disease Patients : Significant Link to NT-proBNP Elevation. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.

4) Kamiya M<sup>1)</sup>, Asai K<sup>2)</sup>, Miyake N<sup>3)</sup>, Seino Y, Shimada T, Atarashi H, Mizuno K<sup>2)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tamagayama Hospital, (2) Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School, (3) Department of Biochemistry and Molecular Biology, and Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School) : Efficient Correction of Cardiac Abnormalities in Fabry Mice by AAV Type 8 Mediates Systemic Gene Transfer. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.

5) Setsuta K<sup>1)</sup>, Kitahara Y<sup>1)</sup>, Arai M<sup>1)</sup>, Seino Y, Mizuno K<sup>2)</sup> (1) Department of Cardiology and Clinical Laboratory, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, (2) Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School) : Relationships between Serial Change in Cardiac Troponin T and Left Ventricular Remodeling and Systolic Functional Change in Chronic Heart Failure. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.

6) Setsuta K<sup>1)</sup>, Seino Y, Mizuno K<sup>2)</sup> (1) Department of Cardiology and Clinical Laboratory, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, (2) Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School) : Renal Dysfunction is Related to the Development of Ongoing Myocardial Damage in patients with Chronic Heart Failure. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.

- 7) 西脇龍広<sup>1)</sup>, 佐藤光利<sup>1)</sup>, 吉江文彦<sup>2)</sup>, 岸 大輔<sup>2)</sup>, 濱田康次<sup>2)</sup>, 福田恵子<sup>2)</sup>, 雪吹周生, 清野精彦 (1) 東邦大学薬学部薬物安全性学研究室, 2) 薬剤科) : 脂質異常症の合併症と脂質管理目標達成率-2次予防例とハイリスク1次予防の比較. 第18回日本医療薬学会年会, 2008. 9.
- (6) 教育講演 :
- 1) Seino Y : Clinical Efficacy and Benefit of Nocturnal Home Oxygen Therapy for Central Sleep Apnea in Chronic Heart Failure. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.
- (7) 会長要望演題 :
- 1) 岡崎大武<sup>1)</sup>, 山本真功, 村上大介, 稲見茂信, 岡松健太郎, 大場崇芳, 清野精彦, 高野雅充<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 血管内視鏡と光干渉断層法により観察しえた薬剤溶出性ステント留置後再狭窄を認めた2症例. 第22回日本心臓血管内視鏡学会, 2008. 10.
- (8) ファイヤーサイド :
- 1) 清野精彦 : 心筋バイオマーカーUPDATE N端proBNPと高感度トロポニン測定の新たな知見 : 高感度トロポニン測定による新たな知見. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 2009. 3.



## 2. 内科学講座（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）

### 〔付属病院神経内科，腎臓内科〕

#### 研究概要

当内科学講座は，神経内科学および腎臓内科学を主たる診療科目としております．神経内科では脳血管障害，特に脳梗塞の病態解明および治療を主要課題として取り組んでおります．

基礎研究では，脳梗塞に対する骨髄幹細胞移植による脳保護・神経再生をメインテーマとして研究を行っているが，骨髄単球細胞や骨髄間葉系細胞を脳梗塞モデルに投与して脳梗塞の体積や神経徴候に及ぼす影響およびそのメカニズムについて検討を行っている．骨髄幹細胞移植はヒトにおいて既に試みられており，当教室においても臨床実施を目指して研究を行っている．また，免疫抑制薬，フリーラジカルスカベンジャーおよびそれらと軽微低体温療法の併用による脳の保護効果について検討を行っている．さらに，近年，脂質異常症治療薬であるスタチンの脳卒中予防作用に注目が集まっているが，我々の教室では脳卒中易発症高血圧自然発症ラット（SHRSP）を用いてその予防効果やメカニズムについて検討を行っている．

臨床研究では，SCU（Stroke Care Unit）が設立され，脳卒中急性期の超早期診断・治療に取り組んでおり，MRIを用いた拡散強調画像や灌流画像による診断法の開発に力を注いでいる，また，これらの撮影法を用いてrt-PA投与の決定に役立っている．その他，脳血管性痴呆やアルツハイマー型痴呆等の痴呆性疾患に対し，PET・MRI・SPECT等の画像診断機器を利用した研究を活発に行なっている．

腎臓内科では，従来から行なわれてきた透析を中心とした研究に加え，糸球体腎炎に対するサイトカインの役割やARBおよびスタチンの投与の影響についても研究を進めている．また，腎クリニックや千葉北総病院内科および脳神経センターに教室員の派遣を行い，各施設での診療・研究に貢献している．

以上，当教室では神経および腎臓内科学領域において，国内外の関係学会で幅広く活発な活動を行い，多くの優れた論文を発表している．

#### 研究業績

##### 論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Liu Y<sup>1)</sup>, Okada T<sup>1)</sup>, Shimazaki K<sup>2)</sup>, Sheykholslami K<sup>3)</sup>, Nomoto T, Muramatsu S<sup>4)</sup>, Mizukami H<sup>1)</sup>, Kume A<sup>1)</sup>, Xiao S<sup>5)</sup>, Ichimura K<sup>6)</sup>, Ozawa K<sup>1)</sup> (1) Division of Genetic Therapeutics, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, (2) Department of Otolaryngology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, (3) Department of Otolaryngology, Peking University First Hospital, Beijing, China, (4) Department of Molecular Therapy, National Institute of Neuroscience, National Center of Neurology and Psychiatry, Tokyo, Japan, (5) Department of Physiology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, (6) Department of Neurobiology, Northeastern Ohio Universities College of Medicine, Rootstown, Ohio, USA, (7) Division of Neurology, Department of Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan) : Protection against aminoglycoside-induced ototoxicity by regulated AAV vector-mediated GDNF gene transfer into the cochlea. *Mol Ther* 2008 ; 16 (3) : 474-480.

追加分総説：

- 1) 北村 伸：アルツハイマー病の治療・管理 経過と予後. *日本臨床* 2008 ; 66 (増刊号1) : 428-432.
- 2) Mishina M : Positron Emission Tomography for Brain Research. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (2) : 68-76.
- 3) 野本達也, 瀬田健博, 國本健太, 鎌塚栄一郎, 金村應文, 桂研一郎, 片山泰朗：急性期脳梗塞入院患者におけ

る病巣の左右差について. 北村山公立病院医学雑誌 2007 ; 11 : 3-7.

- 4) 西山康裕, 片山泰朗: 知っておきたい血管医学用語 18. ADMA asymmetric dimethylarginine. *Vascular Medicine* 2008 ; 4 (1) : 76-80.
- 5) 飯野靖彦: Topics : 血管病に関する最新の話題 CKD 診療における関連各科連携の必要性. *Vascular Medicine* 2008 ; 4 (1) : 95-97.
- 6) 鈴木一成<sup>1)</sup>, 松村典昭<sup>1)</sup>, 鈴木達也<sup>1)</sup>, 中野博司<sup>1)</sup>, 永山 寛, 横尾英明<sup>2)</sup>, 田村浩一<sup>3)</sup>, 片山泰朗, 杉崎祐一<sup>4)</sup>, 大庭健三<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学 老人科, <sup>2)</sup> 群馬大学大学院医学系研究科病態病理学分野, <sup>3)</sup> 東京通信病院 病理科, <sup>4)</sup> 日本医科大学付属病院 病理部) : プリオン蛋白遺伝子 *condon180* の点変異と *condon129* の MV 多型を伴った Creutzfeldt-Jakob 病の 1 例. *日老医誌* 2008 ; 45 (1) : 107-111.

(1) 原著 :

- 1) Amemiya S, Hamamoto M, Mishina M, Kumagai T, Nishiyama Y, Katayama Y : Short -term plasticity of central benzodiazepine receptors in status epilepticus : case report. *Acta Neurol Scand* 2008 ; 117 (4) : 285-288.
- 2) Nonaka-Sarukawa M<sup>1)</sup>, Okada T<sup>1)</sup>, Ito T<sup>1)</sup>, Yamamoto K<sup>2)</sup>, Yoshioka T<sup>3)</sup>, Nomoto T, Hojo Y<sup>2)</sup>, Shimpo M<sup>2)</sup>, Urabe M<sup>1)</sup>, Mizukami H<sup>1)</sup>, Kume A<sup>1)</sup>, Ikeda U<sup>3)</sup>, Shimada K<sup>2)</sup>, Ozawa K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Division of Genetic Therapeutics Jichi Medical University, Japan, <sup>2)</sup> Division of Cardiovascular Medicine, Jichi Medical University, Japan, <sup>3)</sup> Department of Organ Regeneration, Shinshu University Graduate School of Medicine, Japan) : Adeno-associated virus vector-mediated systemic interleukin-10 expression ameliorates hypertensive organ damage in Dahl salt-sensitive rats. *J Gene Med* 2008 ; 10 (4) : 368-374.
- 3) Mishina M<sup>1,2)</sup>, Ohya M<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>1)</sup>, Kitamura S<sup>3)</sup>, Kimura Y<sup>4)</sup>, Oda K<sup>1)</sup>, Kawamura K<sup>1,5)</sup>, Sasaki T<sup>6)</sup>, Kobayashi S<sup>2)</sup>, Katayama Y<sup>7)</sup>, Ishiwata K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>2)</sup> Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>3)</sup> Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, <sup>4)</sup> Biophysics Group, Molecular Imaging center, national Institute of Radiological Sciences, <sup>5)</sup> Center of Integrated Brain Science, Brain Research Institute, University of Niigata, <sup>6)</sup> Research Team for Molecular Biomarkers, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>7)</sup> Department of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Nippon Medical School) : Low density of sigma receptors in early Alzheimer' s disease. *Annals of Nuclear Medicine* 2008 ; 22 (3) : 151-156.
- 4) Toyoda K, Yasaka M, Iwade K, Nagata K, Koretsune Y, Sakamoto T, Uchiyama S, Gotoh J, Nagao T, Yamamoto M, Takahashi J, Minematsu K : Dual Antithrombotic Therapy Increases Severe Bleeding Events in Patients with Stroke and Cardiovascular Disease. A Prospective, Multicenter, Observational Study. *Stroke* 2008 ; 39 (6) : 1740-1745.
- 5) Mishina M<sup>1,2)</sup>, Komaba Y<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>2)</sup>, Kominami S<sup>2)</sup>, Fukuchi T<sup>1)</sup>, Mizunari T<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>3)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> The Department of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>3)</sup> The Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Administration of free radical scavenger edaravone associated with higher frequency of hemorrhagic transformation in patients with cardiogenic embolism. *Neurol Med Chir* 2008 ; 48 (7) : 292-297.
- 6) Katsura K, Takahashi K, Watanabe M, Ohsawa I<sup>1)</sup>, Mori T<sup>2)</sup>, Igarashi H, Ohkubo S, Sakurazawa M, Asoh S<sup>1)</sup>, Katayama Y, Ohta S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Saitama Medical center/

- School) : Combination therapy with transductive anti-death FNK protein and FK506 ameliorate the brain damage with focal transient ischemia in rat. *J Neurochem* 2008 ; 106 (1) : 258-270.
- 7) Hagiwara H, Nakamura H, Igarashi H<sup>1</sup>, Katayama Y ( <sup>1</sup> Center for Integrated Human Brain Science, Brain Research Institute, University of Niigata) : Predicting the fate of acute ischemic lesions using perfusion computed tomography. *J Comput Assist Tomography* 2008 ; 32 (4) : 645-650.
  - 8) Ohta Y<sup>1</sup>, Narita T<sup>1</sup>, Ishii K<sup>2</sup>, Ishiwata K<sup>2</sup>, Mishina M<sup>2, 3</sup>, Senda M<sup>2, 4</sup>, Hirakawa K<sup>1</sup>, Ohno K<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Department of Neurosurgery, Tokyo Medical and Dental University, <sup>2</sup> Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>3</sup> Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>4</sup> Department of Image-based Medicine, Institute of Biomedical Research and Innovation) : Voxel-and ROI-based statistical analyses of PET parameters for guidance in the surgical treatment of intractable mesial temporal lobe epilepsy. *Annals of Nuclear Medicine* 2008 ; 22 (6) : 495-503.
  - 9) Zhao Y<sup>1</sup>, Xiao J<sup>1</sup>, Ueda M, Wang Y<sup>1</sup>, Hines M<sup>1</sup>, Nowak T<sup>1</sup>, Le Doux M<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Department of Neurology, University of Tennessee Health Science Center, TN, USA) : Glial elements contribute to stress-induced torsinA expression in the CNS and peripheral nervous system. *Neuroscience* 2008 ; 13 (155 (2)) : 439-453.
  - 10) Kamiya N, Ueda M, Igarashi H<sup>1</sup>, Nishiyama Y, Suda S, Inaba T, Katayama Y ( <sup>1</sup> Center for Integrated Human Brain Science, Brain Research Institute, University of Niigata) : Intra-arterial transplantation of bone marrow mononuclear cells immediately after reperfusion decreases brain injury after focal ischemia in rats. *Life Sci* 2008 ; 12 (83) : 433-437.
  - 11) Watanabe M, Katsura K, Ohsawa I<sup>1</sup>, Mizukoshi G, Takahashi K, Asoh S<sup>1</sup>, Ohta S<sup>1</sup>, Katayama Y ( <sup>1</sup> Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Involvement of mitoK (ATP) channel in protective mechanisms of cerebral ischemic tolerance. *Brain Research* 2008 ; 1238 (10) : 199-207.
  - 12) Nito C, Kamada H<sup>1</sup>, Endo H<sup>1</sup>, Niizuma K<sup>1</sup>, Myer D<sup>1</sup>, Chan P<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Stanford University School of Medicine) : Role of the p38 mitogen-activated protein kinase/cytosolic phospholipase A<sub>2</sub> signaling pathway in blood-brain barrier disruption after focal cerebral ischemia and reperfusion. *J Cereb Blood Flow Metab* 2008 ; 28 (10) : 1686-1696.
  - 13) Niizuma K<sup>1</sup>, Endo H<sup>1</sup>, Nito C, Myer D<sup>1</sup>, Kim G<sup>1</sup>, Chan P<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Stanford University School of Medicine) : The PIDDosome mediates delayed death of hippocampal CA1 neurons after transient global cerebral ischemia in rats. *Proc Natl Acad Sci USA* 2008 ; 105 (42) : 16368-16373.
  - 14) Oyanagi K<sup>1</sup>, Yamazaki M<sup>2</sup>, Takahashi H<sup>3</sup>, Watabe K<sup>1</sup>, Wada M<sup>4</sup>, Komori T<sup>1</sup>, Morita T<sup>5</sup>, Mizutani T<sup>6</sup> ( <sup>1</sup> Department of Neuropathology, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience, <sup>2</sup> Department of Neurology, Nippon Medical School, <sup>3</sup> Department of Pathology, Brain Research Institute, Niigata University, <sup>4</sup> Department of Neurology, Hematology, Metabolism and Diabetology, Yamagata University, <sup>5</sup> Department of Pathology, Shinrakuen Hospital, <sup>6</sup> Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Neurological Hospital) : Spinal anterior horn cells in sporadic amyotrophic lateral sclerosis show ribosomal detachment from, and cisternal distention of the rough endoplasmic reticulum. *Neuropathol Appl Neurobiol* 2008 ; 34 (6) : 650-658.
  - 15) Mii A, Shimizu A<sup>1</sup>, Masuda Y<sup>1</sup>, Ishizaki M<sup>1</sup>, Kawachi H<sup>2</sup>, Iino Y, Katayama Y, Fukuda Y<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, <sup>2</sup> Cell Biology Institute of Nephrology, Niigata University Graduate School) : Angiotensin II receptor blockade inhibits acute glomerular injuries with the alteration of receptor expression. *Laboratory Investigation* 2009 ; 89 (2) : 164-177.

- 16) Toyoda K<sup>1)</sup>, Yasaka M<sup>1)</sup>, Nagata K<sup>1)</sup>, Gotoh J<sup>1)</sup>, Sakamoto T<sup>1)</sup>, Nagao T, Uchiyama S<sup>1)</sup>, Minematsu K<sup>1)</sup> (<sup>1</sup> The Bleeding with Antithrombotic Therapy (BAT) Study Group.) : Antithrombotic Therapy Influences Location, Enlargement, and Mortality from Intracerebral Hemorrhage. *Cerebrovasc Dis* 2009 ; 27 (2) : 151-159.
- 17) Niizuma K<sup>1)</sup>, Endo H<sup>1)</sup>, Nito C, Myer D<sup>1)</sup>, Chan P<sup>1)</sup> (<sup>1</sup> Stanford University School of Medicine) : Potential role of PUMA in delayed death of hippocampal CA1 neurons after transient global cerebral ischemia. *Stroke* 2009 ; 40 (2) : 618-625.
- 18) Nomoto T, Okada T<sup>1)</sup>, Shimazaki K<sup>2)</sup>, Yoshioka T<sup>1)</sup>, Nomaka-Sarukawa M<sup>1)</sup>, Ito T<sup>1)</sup>, Takeuchi K<sup>3)</sup>, Katsura K, Mizukami H<sup>1)</sup>, Kume A<sup>1)</sup>, Ookawara S<sup>3)</sup>, Ikeda U<sup>4)</sup>, Katayama Y, Ozawa K<sup>1)</sup> (<sup>1</sup> Division of Genetic Therapeutics, Center for Molecular Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, <sup>2</sup> Department of Physiology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, <sup>3</sup> Department of Anatomy, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, <sup>4</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Shinshu University Graduate School of Medicine, Nagano, Japan) : Systemic delivery of IL-10 by an AAV vector prevents vascular remodeling and end-organ damage in stroke-prone spontaneously hypertensive rat. *Gene Ther* 2009 ; 16 (3) : 383-391.
- 19) 三品雅洋, 石渡喜一<sup>1)</sup> (<sup>1</sup> 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究所) : [<sup>11</sup>C] SA4503 PETを用いたアルツハイマー病におけるシグマ1受容体分布の検討. *千葉県医師会医学会誌* 2008 ; 60 (4) : 80-82.
- 20) 熊谷智昭<sup>1,2)</sup>, 三品雅洋<sup>1,2)</sup>, 武井健吉<sup>3)</sup>, 松本 尚<sup>3)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>1,2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup>, 赫 彰郎<sup>2)</sup> (<sup>1</sup> 日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター, <sup>2</sup> 日本医科大学内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, <sup>3</sup> 日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター) : 千葉県における脳卒中診療での救急医療用ヘリコプターの利用状況. *脳卒中* 2008 ; 30 (4) : 545-550.
- 21) 大鳥達雄, 大久保誠二, 西山康裕, 西山 稜, 福地孝明, 金丸拓也, 齋藤智成, 村賀香名子, 山崎峰雄, 勝又俊弥, 駒場祐一, 片山泰朗 : 当SCUでの急性期脳梗塞に対するクロピドグレルの使用経験. *Progress in Medicine* 2008 ; 28 (11) : 2762-2765.
- (2) 座談会 :
- 1) 片山泰朗, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 勝又俊弥, 中野博司<sup>2)</sup>, 三枝英人<sup>3)</sup> (<sup>1</sup> 日本医科大学付属病院 集中治療室, <sup>2</sup> 日本医科大学付属病院 老人科, <sup>3</sup> 日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉科) : 脳卒中治療の最前線 日本医科大学付属病院における嚥下障害への対策と取り組み. *日経メディカル* 2008 ; 486 (5) : 1-4.
- 2) 片山泰朗, 藤田敏郎<sup>1)</sup> (<sup>1</sup> 東京大学大学院医学系研究科内科学) : 脳卒中再発予防と治療 : 脳保護の観点から. *Pharma Meidca* 2008 ; 26 (6) : 69-72.
- (3) 総説 :
- 1) 白田和弘, 片山泰朗 : 慢性脳循環不全による頭痛. *Mebio* 2008 ; 25 (4) : 79-83.
- 2) 山崎峰雄<sup>1)</sup> (<sup>1</sup> 日本医科大学内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)) : シリーズ カラーアトラス3. 神経疾患の画像アトラス 特異な神経疾患の画像と病理 (III). *日医大医会誌* 2008 ; 4 (2) : 67-69.
- 3) 片山泰朗, 上田雅之, 永山 寛, 岡本幸市, 大澤美貴雄, 林 明人, 中村雄作, 梶 龍兒, 目崎高広, 田草川豊, 日本神経治療学会, 日本神経治療学会治療作成委員会 : 標準的神経治療・片側顔面痙攣. *日本神経治療学* 2008 ; 25 (4) : 479-493.
- 4) 駒場祐一, 中嶋信人, 野村浩一, 水越元気, 角南英子, 有井一正, 西山 稜, 大鳥達雄, 桂研一郎, 片山泰朗 : Stroke Care Unit 開設後一年間の急性期虚血性脳血管障害の治療成績. *日医大医会誌* 2008 ; 2 (4) : 96-105.
- 5) 長尾毅彦, 峰松一夫<sup>1)</sup>, 中川原讓二<sup>2)</sup>, 平野照之<sup>3)</sup> (<sup>1</sup> 国立循環器病センター 内科脳血管部門, <sup>2</sup> 中村記念病院脳神経外科, 脳卒中センター, <sup>3</sup> 熊本大学大学院医学薬学研究部神経内科学分野) : 座談会 血栓溶解療法 : 承認後2年間の総括. 脳と循環 (特集) 血栓溶解療法 : 現状と未来 2008 ; 13 (2) : 11-20.

- 6) 山崎峰雄, 片山泰朗: 自己免疫疾患に合併する辺縁系脳炎 再発性多発軟骨炎. *Clinical Neuroscience* 2008; 26 (5): 546-547.
- 7) 福地孝明, 片山泰朗: 病院前脳卒中救護体制 (Stroke Care Unit ネットワーク) 脳卒中の急性期治療 (3) SCU管理. ICUとCCU 2008; 32 (5): 395-403.
- 8) 峰松一夫<sup>1)</sup>, 中川原稔二<sup>2)</sup>, 平野照之<sup>3)</sup>, 長尾毅彦<sup>1)</sup> 国立循環器病センター 脳血管内科, <sup>2)</sup> 中村記念病院 脳神経外科, <sup>3)</sup> 熊本大学大学院医学薬学研究部 神経内科部門: 血栓溶解療法: 承認後2年間の総括. 脳と循環 2008; 13 (2): 103-112.
- 9) 永山 寛, 片山泰朗: Guillain-Barré; 症候群の血液浄化療法. *日本臨床* 2008; 66 (6): 1195-1199.
- 10) 福地孝明: 脳血管障害の新しい治療戦略: 急性期治療を中心に. ICUとCCU 2008; 32 (6): 449-458.
- 11) 長尾毅彦: 塩酸ドネペジルの維持効果についてどう考えるか. *CLINICAN* 2008; 569 (6): 635-638.
- 12) 山崎峰雄<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): シリーズ カラーアトラス 4. 神経疾患の画像アトラス 変性性認知症の神経病理 (IV). *日医大医会誌* 2008; 4 (3): 140-142.
- 13) 三井亜希子, 清水 章<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学解析人体病理学: AKIの腎生検適応と組織診断の秘訣. *内科* 2008; 102 (1): 69-76.
- 14) 大久保誠二, 片山泰朗: 血栓溶解療法の新たな展開 脳保護薬, 抗血栓薬との併用療法および新規血栓溶解薬の開発. *分子脳血管病* 2008; 7 (3): 281-287.
- 15) 長尾毅彦, 片山泰朗: 「脳卒中管理Q&A」[Q31. rt-PA 投与後の管理]. *救急・集中治療* 2008; 20 (7): 990-993.
- 16) 長尾毅彦, 井田正博<sup>1)</sup>, 田久保秀樹<sup>2)</sup> (1) 東京都保健医療公社荏原病院 総合脳卒中センター 放射線科, <sup>2)</sup> 東京都保健医療公社荏原病院 総合脳卒中センター 神経内科: 脳梗塞: 急性期の治療. *Medicament News* 2008; (1949): 7-9.
- 17) 片山泰朗, 大鳥達雄: 循環器系疾患の新論点 無症候性脳梗塞にどう対応するか. *循環plus* 2008; 8 (10): 7-9.
- 18) 萩原万里子, 北村 伸: 高次脳機能の障害とは. *老年精神医学雑誌* 2008; 19 (8): 837-840.
- 19) 石渡明子: 神経内科疾患と高次機能の障害 筋強直性ジストロフィー. *老年精神医学雑誌* 2008; 19 (8): 877-883.
- 20) 片山泰朗: 脳卒中の疫学的動向. *神経治療学* 2008; 25 (5): 515-520.
- 21) 永山 寛: 認知症を主症状とする神経変性疾患の治療: アルツハイマー病に対する治療を中心に. *Modern Physician* 2008; 20 (12): 1763-1766.
- 22) 山口武典<sup>1)</sup>, Jd E<sup>2)</sup>, 長尾毅彦<sup>1)</sup> 国立循環器病センター名誉総長, <sup>2)</sup> Brown Medical School and Rhode Island Hospital: 脳梗塞再発予防療法における抗血小板療法のエビデンス. *新薬と臨床* 2008; 57 (12): 1945-1953.
- 23) 村山繁雄<sup>1)</sup>, 斉藤祐子<sup>1)</sup>, 崎山快夫<sup>1)</sup>, 山崎峰雄<sup>2)</sup> (1) 東京都老人総合研究所高齢者ブレインバンク, <sup>2)</sup> 日本医科大学内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): 進行性核上性麻痺: 神経変性疾患の診断と治療: 〈診断編〉. *Modern Physician* 2008; 28 (12): 1703-1707.
- 24) 長尾毅彦: 神経内科における認知症専門外来の役割と問題点. *Cognition and Dementia* 2009; 8 (1): 16-19.
- 25) 片山泰朗, 内山真一郎, 阿部康二, 松本昌泰, 鈴木倫保, 塩川芳昭: 脳卒中の病態・診断・治療のパラダイムシフト. *分子脳血管病* 2009; 8 (1): 1-12.
- 26) 井田正博<sup>1)</sup>, 長尾毅彦<sup>1)</sup> 東京都保健医療公社荏原病院総合脳卒中センター 放射線科: Stroke MRI: 撮像プロトコールと読影の実際. *INNERVISION* 2009; 24 (1): 32-35.
- 27) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 北村 伸<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院内科: 新薬展望2009; 第 III 部治療における最近の新薬の位置付け 〈薬効別〉～新薬の広場～; 脳血管障



害治療薬. 医薬ジャーナル 2009 ; 45 (S-1) : 530-535.

- 28) 上田雅之, 神谷信雄, 須田 智, 片山泰朗: 脳梗塞モデルに対する骨髄細胞移植. 日医大医学会誌 2009 ; 5 (1) : 47-52.
- 29) 長尾毅彦, 日吉康長<sup>1)</sup> (1) 東京都保健医療公社荏原病院 総合脳卒中センター 循環器科): 修正可能な危険因子5 心房細動. からだの科学 2009 ; 260 (260) : 151-154.
- 30) 長尾毅彦: ディベート tPA の意味 有用である. Clinical Neuroscience 2009 ; 27 (2) : 230-230.
- 31) 仁藤智香子, 片山泰朗: 脳卒中: 予防治療の再前線「血压管理」. 総合臨床 2009 ; 58 (2) : 275-279.
- 32) 長尾毅彦: 高度ADの治療に何を期待するか: ドネペジル増量に伴う消化器症状などの考え方を含めて. 老年精神医学雑誌 2009 ; 20 (増刊1) : 119-122.
- 33) 内山真一郎<sup>1)</sup>, 豊田一則<sup>2)</sup>, 平野照之<sup>3)</sup>, 長尾毅彦 (1) 東京女子医科大学神経内科, 2) 国立循環器病センター 脳血管内科, 3) 熊本大学大学院医学薬学研究部神経内科部門): 脳卒中急性期医療をめぐる課題と展望. 医学書院刊行 医学界新聞 2009 ; (2820).

(4) 症例報告:

- 1) Nishiyama Y, Akaishi J, Katsumata T, Katsura K, Katayama Y : Cerebral infarction in a Patient with Macrothrombocytopenia with Leukocyte Inclusions (MTCP, May-Hegglin Anomaly/Sebastian Syndrome). J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (4) : 228-232.
- 2) Nakajima N, Ueda M, Nagayama H, Mizukoshi G, Ohtori T, Komaba Y, Katsumata T, Katayama Y : Migraine-like symptoms and transient occipital hemodynamic change associated with bilateral vertebral artery dissections. Cerebral Blood Flow and Metabolism 2008 ; 19 (3) : 23-27.
- 3) Nagayama H, Yamazaki M, Ueda M, Nishiyama Y, Hamamoto M, Katayama Y, Mori O : Low myocardial MIBG uptake in multiple system atrophy with incidental Lewy body pathology : an autopsy case report. Mov Disord. 2008 ; 15 (23 (7)) : 1055-1057.
- 4) Suda S, Ueda M, Komaba Y, Yamazaki M, Katsumata T, Katayama Y : Tuberculous myelitis diagnosed by elevated adenosine deaminase activity in cerebrospinal fluid. J Clin Neurosci. 2008 ; 15 (9) : 1068-1069.
- 5) Mii A, Shimizu A<sup>1)</sup>, Masuda Y<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Sato S<sup>2)</sup>, Hara S, Kaneko T, Utsumi K, Iino Y, Katayama Y, Fukuda Y<sup>1)</sup> (1) Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, 2) Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School) : A case of lupus nephritis with diffuse podocytic infolding into the glomerular basement membrane. Clin Exp Nephrol 2008 ; 12 (6) : 479-484.
- 6) Usuda K, Sakamaki M, Mokuno E<sup>1)</sup>, Katayama Y (1) Department of Head & Neck and Sensory Organ Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : A Case of Headache Attributed to Otitis Media Chronica Cholesteatomatica with Cerebral Sigmoid Sinus Thrombosis. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (6) : 340-343.
- 7) Hagiwara H, Sakamoto S, Katsumata T, Katayama Y : Acute disseminated encephalomyelitis developed after mycoplasma pneumoniae infection complicating subclinical measles infection. Internal Medicine 2009 ; 48 (6) : 479-483.
- 8) 金子朋広, 平間章郎, 上田佳恵, 飯野靖彦, 片山泰朗: 血清VEGFが高値を示し血漿交換が有効であった重度の糸球体内皮細胞傷害の1例. 内科 2009 ; 103 (1) : 191-194.

(5) 翻訳:

- 1) 石渡明子: 高血圧と軽度認知機能障害のリスク. Cognition and Dementia 2008 ; 7 (2) : 175-176.

## 著書

〔追加分〕

追加分：

- 1) 勝又俊弥：〔分担〕脳卒中に伴う誤嚥性肺炎の予防はどのようにすればよいでしょう。脳卒中診療こんなときどうするQ&A（棚橋紀夫），2008；pp220-222，中外医学社。
- 1) 金子朋広，柏葉 裕<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>川崎幸病院 臨床工学部）：〔分担〕透析トラブルQ&A 返血時のトラブルを防止したいのですが？。腎と透析，2008；pp757-760，東京医学社。
- 2) 長尾毅彦，井田正博<sup>1)</sup>，片山泰朗，田久保秀樹<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>東京都保健医療公社 荏原病院 放射線科，<sup>2)</sup>東京都保健医療公社 荏原病院 総合脳卒中センター）：〔分担〕CT・MRIによる虚血領域の評価。最新医学，2008；pp1427-1434，最新医学社。
- 3) 北村 伸：〔自著〕加齢と神経内科の病気の話。加齢と神経内科の病気の話（川並汪一），2008；pp1-160，老人病研究会。
- 4) 片山泰朗：〔分担〕2. 脳血管障害とchronic kidney disease。Annual Review 神経 2009（柳澤信夫 篠原幸人 岩田 誠 清水輝夫 寺本 明），2009；pp106-111，中外医学社。
- 5) 内海甲一，片山泰朗：〔分担〕尿毒症性脳症。神経疾患 最新の治療2009-2011（小林祥泰，水沢英洋編集），2009；pp327-329，南江堂。

## 学会発表

(1) 会長講演：

- 1) 片山泰朗：脳虚血急性期の脳保護療法を求めて。第20回日本脳循環代謝学会総会，2008. 11.

(2) 特別講演：

- 1) 長尾毅彦：高度ADの治療に何を期待するか：ドネパジル増量に伴う消化器症状などの考え方を含めて。第9回アルツハイマー病研究会学術シンポジウム，2008. 4.
- 2) 白田和弘：片頭痛の診断と治療。社会保険研究会・最新医学研究会，2008. 4.
- 3) 永山 寛：Parkinson病について。第5回江古田の森 公開セミナー，2008. 5.
- 4) 長尾毅彦：当院における24時間MR体制での脳梗塞急性期治療と慢性期管理。第5回新潟脳梗塞研究会，2008. 5.
- 5) 長尾毅彦：認知症の医学的理解。第35回東京プライマリケア研究会，2008. 5.
- 6) 片山泰朗：EPA投与の脳梗塞に対する効果：JELISおよび基礎研究より。生活習慣病フォーラム：EPA研究会（持田製薬主催），2008. 6.
- 7) 白田和弘：頭痛の診断と治療：片頭痛を中心に。第3回千駄木頭痛カンファレンス，2008. 6.
- 8) 白田和弘：頭痛の診断と治療：片頭痛を中心に。足立区医師会耳鼻咽喉科会，2008. 6.
- 9) 片山泰朗：脳梗塞モデルに対する急性期骨髄細胞移植による脳保護効果の検討。箱根脳虚血フォーラム，2008. 7.
- 10) 桂研一郎：脳梗塞の1次2次予防（頸動脈エコーの意義）。南多摩臨床血管障害フォーラム2008，2008. 8.
- 11) 勝又俊弥：かかりつけ医のための脳卒中治療。岡崎内科医会講演会，2008. 8.
- 12) 勝又俊弥：EPA投与による脳血管障害の予防及び治療。Stroke誌掲載記念EPA講演会，2008. 8.
- 13) 角南英子，白田和弘，片山泰朗：脳梗塞後うつ状態の患者に対するフルボキサミン投与による臨床効果およびメラトニンに及ぼす影響。第17回Post Stroke Depression 研究会，2008. 9.
- 14) 飯野靖彦：Metabolic SyndromeとCKD。お茶の水カンファレンス2008 メタボリックシンドローム：最近の話題，2008. 9.
- 15) 片山泰朗：EPA投与の脳梗塞に対する効果：JELISおよび基礎研究より。福井県脳血管障害予防セミナー，

2008. 9.

- 16) 三品雅洋：脳卒中地域連携バス導入と諸問題. 第8回さいたま脳卒中地域連携研究会, 2008. 9.
  - 17) 長尾毅彦：当院における MR first での脳梗塞急性期治療の実際. 第1回関西脳卒中研究会, 2008. 9.
  - 18) 片山泰朗：EPA 投与の脳梗塞に対する効果：JELIS および基礎研究より. 脳血管障害と EPA カンファレンス, 2008. 10.
  - 19) 永山 寛：これもパーキンソン病の症状?. 市民公開フォーラム：パーキンソン病の全てを知る, 2008. 10.
  - 20) 勝又俊弥：脳梗塞治療における EPA の役割. 兵庫県クリニカルセミナー, 2008. 10.
  - 21) 長尾毅彦：脳梗塞に対する抗血栓療法：Evidence と Real World. 第2回鳥取脳梗塞診療研究会, 2008. 10.
  - 22) 石渡明子<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ内科)：変性性痴呆性疾患の脳機能画像の臨床応用. 第12回 Neurology SPECT 定量検討会, 2008. 11.
  - 23) 三品雅洋：慢性期脳梗塞の薬物治療. 八街地区学術講演会, 2008. 11.
  - 24) 勝又俊弥：EPA 投与による脳血管障害の予防および治療. 城北生活習慣病フォーラム：Stroke 誌掲載記念講演会, 2008. 11.
  - 25) 長尾毅彦：脳卒中症例の ARB による降圧療法の意義. ミカルデイス発売6周年記念講演会, 2008. 11.
  - 26) 長尾毅彦：脳腎関連：脳卒中症例に潜在する CKD. 宮崎 CKD 講演会, 2008. 12.
  - 27) 片山泰朗：EPA 投与の脳梗塞に対する効果：JELIS および基礎研究より. 備後脳卒中ネットワーク講演会 (持田製薬), 2009. 2.
  - 28) 片山泰朗：脳卒中にならないために. 第2回小田原医師会神経難病市民講座, 2009. 2.
  - 29) 桂研一郎：脳梗塞の最新の治療 (急性期治療と慢性期再発予防療法). 第1回脳・心・腎連関研究会, 2009. 2.
  - 30) 長尾毅彦：PMA による血栓溶解療法適応判定の試み. 第1回 MRP-CTP 研究会, 2009. 2.
  - 31) 長尾毅彦：臨床現場での脳梗塞再発予防療法の実際：薬剤選択の疑問に答える. 第431回小田原医師会学術講演会, 2009. 3.
  - 32) 長尾毅彦：心房細動と脳梗塞予防 病院連携における抗凝固療法. Stroke-Network 講演会, 2009. 3.
  - 33) 長尾毅彦：心原性脳塞栓症診療の理想と現実. 第2回アテローム血栓症 Up Date, 2009. 3.
- (3) 招待講演：
- 1) 飯野靖彦：ABO 不適合腎移植. 11th Asian Pacific Congress of Nephrology & AFCKDI (Kuala Lumpur, Malaysia), 2008. 5.
  - 2) 上田雅之：神経内科とめまい 危険なめまいを鑑別. 第1回 FTF Meetig, 2008. 8.
  - 3) 石渡明子<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ内科)：アルツハイマー病の認知機能と SPECT による病変の重症度と広がりとの相関. 第6回脳核医学画像解析研究会 (東京), 2008. 9.
  - 4) 神谷信雄：ラット局所脳虚血モデルにおける自己骨髄単核球細胞投与による脳保護効果と投与細胞の動態についての検討. 第5回 Brain Protection Forum, 2008. 10.
  - 5) 上田雅之, 稲葉俊東, 大久保誠二, 勝又俊弥, 西山康裕, 須田 智, 神谷信雄, 永田智香子, 片山泰朗：JELIS および基礎研究からみた EPA の脳梗塞に対する効果. 伊達地区循環器病フォーラム, 2008. 11.
- (4) 教育講演：
- 1) 内海甲一：慢性腎臓病合併例の高血圧治療. 日本医師会生涯教育講座, 2009. 3.
- (5) シンポジウム：
- 1) 峰松一夫<sup>1)</sup>, 山口武典<sup>1)</sup>, 折笠秀樹, 長尾毅彦, 木村和美, 岡田 靖, 橋本洋一郎, 端 和夫, 小林祥泰<sup>1)</sup> (国立循環器病センター 脳血管内科, <sup>2)</sup> The Edaravone Argatroban Stroke Therapy (EAST) Study Group)：アテローム血栓性脳梗塞の対するエダラボン・アルガトロバン併用療法. 多施設共同 RCT, the EAST Study. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
  - 2) 仁藤智香子：p38MAPK/cPLA2 pathway の脳浮腫発現における役割. 脳浮腫・頭蓋内圧フォーラム 2008,

2008. 6.
- 3) 桂研一郎：脳保護療法の新しい試み. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
  - 4) 須田 智：ラット脳梗塞モデルにおける急性期骨髄間葉系幹細胞移植・FK506併用による脳保護増強効果の検討. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
  - 5) 長尾毅彦：血栓溶解療法の臨床. 第31回 日本血栓止血学会 学術集会日本血栓止血学会・日本脳卒中学会ジョイントシンポジウム, 2008. 11.
  - 6) 三品雅洋<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター)：改訂ガイドラインを活かす：それぞれの専門領域からの提言：脳の観点から. 第3回高血圧治療戦略フォーラム in 成田, 2009. 3.
- (6) ランチョンセミナー：
- 1) 長尾毅彦：抗血栓療法の光と影：最近のデータから. 第26回日本神経治療学会総会, 2008. 6.
  - 2) 長尾毅彦：抗血栓療法の光と影：最新のデータから. 第67回日本脳神経外科学会学術総会, 2008. 10.
  - 3) 長尾毅彦：MR標準の脳梗塞急性期治療：画像診断から抗血栓療法へ. 第11回 日本栓子検出と治療学会, 2008. 10.
  - 4) 長尾毅彦：rt-PA静注療法における新たなミスマッチ判定方法の提唱：Perfusion Mismatch Analyzerを用いて. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- (7) 海外留学者講演：
- 1) 仁藤智香子：脳虚血再環流後の血液・脳関門障害におけるp38MAPK/cPLA<sub>2</sub> pathwayの役割. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- (8) 一般講演：
- 1) Mishina M<sup>1, 2)</sup>, Ishii K<sup>2)</sup>, Kitamura S<sup>3)</sup>, Kimura Y<sup>2, 4)</sup>, Naganawa M<sup>2, 4)</sup>, Hashimoto M<sup>2, 5)</sup>, Suzuki M<sup>2, 5)</sup>, Oda K<sup>2)</sup>, Hamamoto M<sup>6)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>6)</sup>, Ishiwata K<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>3)</sup> Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, <sup>4)</sup> Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Science, <sup>5)</sup> Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, <sup>6)</sup> The Department of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Nippon Medical School)：Variations in adenosine A<sub>2A</sub> receptors following anti-parkinsonian therapy in drug naive Parkinson's disease using <sup>11</sup>C-TMSX PET. The Movement Disorder Society's 12th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders. (Chicago), 2008. 6.
  - 2) Nomura K, Liu C, Kitamura S, Mohammad G, Jin E, Fujiwara M, Simizu K, Katayama Y, Kawanami O：Evaluation of brain perfusion SPECT in patients with parkinsonism and dementia. International Conference on Alzheimer's Disease 2008 (Chicago, USA), 2008. 7.
  - 3) Nagao T, Ida M, Nagami A, Okamura M, Kanazawa K, Inoue M, Komine-Kobayashi M, Nohara C：Prognostic Diagnosis for Thrombolytic Therapy using a 'perfusion Mismatch Analyzer' in Case with Middle Cerebral Artery Occlusion. Xth International Symposium on Thrombolysis and Acute Stroke Therapy (Hungary, Budapest), 2008. 9.
  - 4) Nakagawara J, Mori E, Minematsu K, Sasaki M, Hiran T, Yamaguchi T, Japan Alteplase Clinical Trial II Group：Vascular Outcome after Intravenous 0.6 mg/kg Alteplase in Acute Ischemic Stroke. Xth International Symposium on Thrombolysis and Acute Stroke Therapy (Budapest, Hungary), 2008. 9.
  - 5) Nogami A, Nagao T, Okamura M, Kobayashi M, Nohara C, Yoshimura N, Ohta T, Hirabayashi K, Yokochi M, Takubo H：Clinical Characterization of Stroke Patients that Showed Elevated Level of D-dimer. The 6th World Stroke Congress (Wien, Austria), 2008. 9.
  - 6) Inoue K<sup>1)</sup>, Kobayashi M<sup>1)</sup>, Nagao T, Ida M<sup>2)</sup>, Kawamura M<sup>3)</sup>, Yokochi M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 東京都保健医療公社荏原病

- 院 脳卒中センター 神経内科, <sup>2)</sup> 東京都保健医療公社荏原病院 放射線科, <sup>3)</sup> 昭和大学病院内科学講座神経内科部門) : FLAIR Perfusion Map : The detection of perfusion abnormality in acute cerebral infarction by FLAIR MR image. The 6th World Stroke Congress (Wien, Austria), 2008. 9.
- 7) Okamura M, Nagao T, Nogami A, Inoue M<sup>1)</sup>, Katayama Y, Yokochi M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 東京都保健医療公社荏原病院 脳卒中センター 神経内科) : An Exprolation Using a Conventional Multi Slice Computed Tomography (CT) Scan for the Left Auricular Thrombi in Acute Ischemic Stroke Patient. The 6th World Stroke Congress (Wien, Austria), 2008. 9.
  - 8) Abe A, Ueda T<sup>1)</sup>, Nogoshi S<sup>2)</sup>, Nishiyama Y, Katayama Y (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, St. Marianna University School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Endovascular Neurosurgery, Saiseikai Central Hospital) : Carotid Artery Stenting Significantly Improves Cerebral Hemodynamics in Symptomatic Bilateral Carotid Artery Stenosis. The 6th World Stroke Congress (Wien, Austria), 2008. 9.
  - 9) Nagayama H, Ueda M, Hamamoto M, Tsukamoto K, Katayama Y : Longitudinal observation of MIBG myocardial scintigraphy in oatients with multiple system atrophy. The First International Symposium on Cardiac Sympathetic Neuroimaging (Lihue, Hawaii), 2008. 10.
  - 10) Sakurazawa M, Nishiyama Y, Komoba Y, Katsumata T, Katsura K, Katayama Y : The effect of short term simvastatin treatment on plasma asymmetric dimethylarginine (ADMA) in chronic inpatient. The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference (Fukuoka, Japan), 2008. 11.
  - 11) Kamiya N, Igarashi H<sup>1)</sup>, Nishiyama Y, Ueda M, Suda S, Katayama Y (<sup>1)</sup> Center for Integrated Human Brain Science, Brain Research Institute, University of Niigata) : In vivo monitoring of transplanted bone marrow mononuclear cells in rat transient focal ischemia model using MRI. The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference (Fukuoka, Japan), 2008. 11.
  - 12) Usuda K, Sunami E, Katayama Y : The effect of fluvoxamine maleate on the mood disorder and the cerebral blood flow in patients with the vascular depression. The 4th Korean- Japanese Joint Stroke Conference (Japan, Fukuoka), 2008. 11.
  - 13) Kanamaru T, Otori T, Fukuchi T, Nishiyama Y, Okubo S, Nishiyama Y, Saito T, Muraga K, Katayama Y : Presenting findings and prognosis of VA dissection in SCU. The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference (Japan, Fukuoka), 2008. 11.
  - 14) Muraga K, Fukuchi T, Otori T, Nishiyama Y, Okubo S, Nishiyama Y, Saito T, Kanamaru T, Katayama Y : Clinical features of our hospital in top of the basilar syndrome. The 4th Korean- Japanese Joint Stroke Conference (Japan, Fukuoka), 2008. 11.
  - 15) Saito T, Okubo S, Nishiyama Y, Kanamaru T, Muraga K, Nishiyama Y, Otori T, Fukuchi T, Katayama Y : Characteristics of Acute Ischemic Stroke with Internal Carotid Artery Occlusion. The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference (Fukuoka, Japan), 2008. 11.
  - 16) Nomura K, Katsumata T, Jin E, Mohammad G, Fujiwara M, Shimizu H, Edagawa S, Tanaka N, Ueda M, Katsura K, Kawanami O, Katayama Y : Effects of long-term administration of HMG-CoA reductase inhibitor, atorvastatin, on microvessels in the brain of stroke-prone sontanously hepertensive rats. The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference (Fukuoka, Japan), 2008. 11.
  - 17) Ueda M, Inaba T, Nishiyama Y, Kamiya N, Suda S, Okubo S, Nagata C, Nagayama H, Katayama Y : Neuroprotective effects of ethyl eicosapentaenoic acid on ischemic brain damage following transient middle cerebral artery occlusion in rats. The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference (Fukuoka, Japan), 2008. 11.
  - 18) Minematsu K<sup>1)</sup>, Yamaguchi T<sup>1)</sup>, Origasa H<sup>1)</sup>, Hashi K<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Ezura M<sup>1)</sup>, Nagao T<sup>1)</sup>, Kimura



- K<sup>1)</sup>, Okada Y<sup>1)</sup>, Hashimoto Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> The Edaravone Argatroban Stroke Therapy Study Group) : Edaravone in Combination with Argatroban for the Treatment of Acute Atherothrombotic Brain Infarction. 2009 International Stroke Conference (San Diego, USA), 2009. 2.
- 19) Toyoda K, Yasaka M, Uchiyama S, Nagao T, Gotoh J, Nagata K, Koretsune Y, Sakamoto T, Iwade K, Yamamoto M, Takahashi J, Minematsu K ( <sup>1)</sup> The Bleeding with Antithrombotic Therapy (BAT) Study Group. ) : Blood Pressure Levels and Bleeding Events During Antithrombotic Therapy : The Bleeding with Antithrombotic Therapy (BAT) Study. 2009 International Stroke Conference (San Diego) (San Diego), 2009. 2.
- 20) Mori E, Minematsu K, Nakagawara J, Sasaki M, Hirano T, Yamaguchi T, Japan Alteplase Clinical Trial II Group : Efficacy of Intravenous 0.6mg/kg Alteplase in Acute Ischemic Stroke : Correlation between Early Recanalization and Clinical Outcome. 2009 International Stroke Conference (San Diego), 2009. 2.
- 21) 駒場祐一, 中嶋信人, 野村浩一, 水越元気, 角南英子, 有井一正, 西山 稔, 大鳥達雄, 桂研一郎, 片山泰朗 : Stroke Care Unit開設後一年間の急性期脳梗塞の治療成績. 第26回日本神経治療学会総会, 2008. 6.
- 22) 永山 寛, 上田雅之, 濱本 真, 西山康裕, 中嶋信人, 片山泰朗 : Parkinson病患者の心臓弁逆流の評価. 第105回日本内科学会総会, 2008. 4.
- 23) 福地孝明, 三品雅洋, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 千葉北総病院 脳神経センター) : 日本医科大学千葉北総病院脳神経センターにて経験したrt-PA投与22症例の報告. 第105回日本内科学会総会, 2008. 4.
- 24) 駒場祐一, 中嶋信人, 野村浩一, 水越元気, 角南英子, 有井一正, 西山 稔, 大鳥達雄, 桂研一郎, 片山泰朗 : Stroke Care Unit開設後一年間の急性期虚血性脳血管障害の治療成績. 第105回日本内科学会総会, 2008. 4.
- 25) 角南英子, 白田和弘, 片山泰朗 : 脳梗塞後うつ状態の患者に対するフルボキサミン投与による臨床効果についての検討. 第105回日本内科学会総会, 2008. 4.
- 26) 金子朋広, 上田佳恵, 藤野鉄平, 内海甲一, 飯野靖彦, 片山泰朗 : IgA腎症に対する扁桃後ステロイドパルス+ミゾリピン療法の治療効果. 第105回日本内科学会総会, 2008. 4.
- 27) 大久保誠二, 濱本 真, 熊谷智昭, 片山泰朗 : 高齢特発性正常圧水頭症の側頭葉内側萎縮の検討. 第105回日本内科学会総会, 2008. 4.
- 28) 須田 智, 上田雅之, 神谷信雄, 島崎久仁子<sup>1)</sup>, 稲葉俊東, 桂研一郎, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup> 自治医科大学 神経脳生理学) : ラット脳梗塞モデルに対する急性期骨髄細胞移植による脳保護効果の検討. 第7回東京Strokeフロンティア, 2008. 4.
- 29) 山崎峰雄, 森 修<sup>1)</sup>, 山崎昌子<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 齋藤祐子<sup>3)</sup>, 村山繁雄<sup>3)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup> 初石病院 病理・神経内科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院 病理, <sup>3)</sup> 東京都老人研 老年病ゲノム解析高齢者ブレインバンク) : 人格変化・脱抑制行為で発症し, 意味性認知症を呈したTDP-43陽性封入体を伴う前頭側頭型認知症の1例. 第49回日本神経病理学会総会学術研究会, 2008. 5.
- 30) 内海甲一, 飯野靖彦, 片山泰朗 : 糖尿病患者におけるオルメサルタン及びインダプリル投与によるアディポネクチン・P-セレクチンへの影響. 第51回日本腎臓学会総会, 2008. 5.
- 31) 白田和弘, 石渡明子, 片山泰朗 : 頭痛患者におけるうつ状態の検討. 第49回日本神経学会総会, 2008. 5.
- 32) 大鳥達雄, 大久保誠二, 西山康裕, 角南英子, 西山 稔, 福地孝明, 駒場祐一, 片山泰朗 : SCUにおけるrt-PAの使用状況と有効性に関する大規模試験との比較. 第49回日本神経学会総会, 2008. 5.
- 33) 永山 寛, 上田雅之, 塚本和久, 濱本 真, 片山泰朗 : パーキンソン病患者でのドーパミン作動薬と心臓弁逆流の検討. 第49回日本神経学会総会, 2008. 5.
- 34) 雨宮志門, 濱本 真, 熊谷智昭, 葉山修陽, 三品雅洋, 片山泰朗 : 慢性腎不全患者における血漿Aβ<sub>42</sub>・Aβ<sub>40</sub>値. 第49回日本神経学会総会, 2008. 5.

- 35) 三品雅洋<sup>1,3)</sup>, 石渡喜一<sup>3)</sup>, 石井賢二<sup>3)</sup>, 北村 伸<sup>1,4)</sup>, 木村裕一<sup>4)</sup>, 長縄美香<sup>4)</sup>, 織田圭一<sup>3)</sup>, 橋本昌也<sup>3,5)</sup>, 鈴木正彦<sup>3,5)</sup>, 濱本 真<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, (2) 日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター, (3) 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究施設, (4) 日本医科大学武蔵小杉病院 内科, (5) 東京慈恵会 医科大学 神経内科): 未治療パーキンソン病におけるアデノシン A<sub>2A</sub> 受容体の治療開始後の変化. 第49回日本神経学会総会, 2008. 5.
- 36) 角南英子, 白田和弘, 片山泰朗: 脳梗塞うつ状態の患者に対するフルボキサミン投与による臨床効果についての検討. 第49回日本神経学会総会, 2008. 5.
- 37) 安藝 薫<sup>1)</sup>, 三井亜希子, 清水 章<sup>1)</sup>, 益田行成<sup>1)</sup>, 藤田恵美子, 石橋正通<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 解析人体病理学): 抗GBM腎炎におけるアンギオテンシンII受容体拮抗薬の抗炎症症. 第51回日本腎臓学会学術総会, 2008. 5.
- 38) 藤田恵美子, 清水 章<sup>1)</sup>, 益田行成<sup>1)</sup>, 三井亜希子, 安藝 薫<sup>1)</sup>, 石橋正通<sup>1)</sup>, 飯野靖彦, 片山泰朗, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 解析人体病理学): ラット半月体形成性腎炎におけるスタチンの腎作用. 第51回日本腎臓学会学術総会, 2008. 5.
- 39) 神谷信雄, 五十嵐博中<sup>1)</sup>, 西山康裕, 上田雅之, 須田 智, 片山泰朗 (1) 新潟大学脳研究所 統合脳機能研究センター): ラット局所脳虚血モデルにおけるMRIを用いた自己骨髄細胞移植のモニタリング. 第49回日本神経学会総会, 2008. 5.
- 40) 中嶋信人, 上田雅之, 野本達也, 水越元気, 永山 寛, 有井一正, 山崎峰雄, 片山泰朗: 高血圧に伴うRPLSの基礎疾患に関する検討. 第49回日本神経学会総会, 2008. 5.
- 41) 長尾毅彦, 野上 茜, 井田正博<sup>1)</sup>, 岡村正哉, 金澤恭子<sup>2)</sup>, 井上 学<sup>2)</sup>, 小林美紀<sup>2)</sup>, 野原千洋子<sup>2)</sup>, 吉村菜穂子<sup>2)</sup>, 大竹敏之<sup>2)</sup>, 平林久吾<sup>2)</sup>, 片山泰朗, 横地正之<sup>2)</sup> (1) 東京都保健医療公社 荏原病院 放射線科, (2) 東京都保健医療公社 荏原病院 神経内科): Perfusion Mismatch Analyzer を用いた血栓溶解療法治療効果予測. 第49回 日本神経学会総会, 2008. 5.
- 42) 吉村菜穂子<sup>1)</sup>, 横地正之<sup>1)</sup>, 長尾毅彦, 濱本 真 (1) 東京都保健医療公社 荏原病院 神経内科): 初期アルツハイマー型認知症の診断: 嗅覚検査の有用性についての検討. 第49回日本神経学会総会, 2008. 5.
- 43) 野上 茜, 長尾毅彦, 岡村正哉, 金澤恭子<sup>1)</sup>, 井上 学<sup>1)</sup>, 小林美紀<sup>1)</sup>, 野原千洋子<sup>1)</sup>, 吉村菜穂子<sup>1)</sup>, 大竹敏之<sup>1)</sup>, 平林久吾<sup>1)</sup>, 片山泰朗, 横地正之<sup>1)</sup> (1) 東京都保健医療公社 荏原病院 神経内科): 脳梗塞急性期におけるD-dimer 異常高値の意義. 第49回日本神経学会総会, 2008. 5.
- 44) 井上 学<sup>1)</sup>, 長尾毅彦, 吉澤 寿<sup>2)</sup>, 河村 満<sup>3)</sup>, 井田正博<sup>2)</sup>, 横地正之<sup>1)</sup> (1) 東京都保健医療公社 荏原病院 神経内科, (2) 東京都保健医療公社 荏原病院 放射線科, (3) 昭和大学病院内科学講座 神経内科部門): びまん性レビー小体病におけるSusceptibility-Weighted Image (SWI) の比較検討. 第49回日本神経学会総会, 2008. 5.
- 45) 櫻澤誠二, 桂研一郎, 齋藤萌子, 麻生定光<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup>, 片山泰朗 (1) 日本医科大学老人病研究所 生化学部門): ラット中大脳動脈閉塞モデルにおけるPTD-FNK蛋白と低体温療法の併用効果の検討. 第49回日本神経学会総会, 2008. 5.
- 46) 酒巻雅典, 永山 寛, 山崎峰雄, 塚本和久, 野上 茜, 岩川賀世, 中島敦夫, 片山泰朗, 足立好司<sup>1)</sup>, 寺本明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 脳神経外科): 小脳病変を反復したposterior reversible encephalopathy syndrome (PRES) の30歳男性例. 第553回日本内科学会関東地方会, 2008. 5.
- 47) 白田和弘, 石渡明子, 片山泰朗: 頭痛患者におけるうつ状態の検討. 第26回日本神経治療学会総会, 2008. 6.
- 48) 大鳥達雄, 大久保誠二, 西山康裕, 角南英子, 西山 穰, 福地孝明, 駒場祐一, 片山泰朗: 当院SCUにおけるrt-PAの使用状況と有効性に関する大規模試験との比較. 第26回日本神経治療学会総会, 2008. 6.
- 49) 角南英子, 白田和弘, 片山泰朗: 脳梗塞後うつ状態の患者に対するフルボキサミン投与による臨床効果についての検討. 第26回日本神経治療学会総会, 2008. 6.

- 50) 酒巻雅典, 山崎峰雄, 永山 寛, 内海甲一, 片山泰朗: 高度の大脳白質病変を呈したFabry病の44歳男性例. 第185回日本神経学会関東地方会, 2008. 6.
- 51) 勝又俊弥, 西山 稔, 大鳥達雄, 片山泰朗: 脳梗塞患者におけるインスリン抵抗性と大脳白質病変. 第17回日本脳ドック学会総会, 2008. 6.
- 52) 西山康裕, 上田雅之, 阿部 新, 駒場祐一, 桂研一郎, 片山泰朗: 健康診断受診者における血中asymmetric dimethylarginine (ADMA) と脳血管リスクファクターとの関連性. 第17回日本脳ドック学会総会, 2008. 6.
- 53) 稲葉俊東, 上田雅之, 大久保誠二, 西山康裕, 須田 智, 神谷信雄, 永田智香子, 片山泰朗: ラット局所脳虚血モデルにおけるEPA-E 前投与の梗塞・浮腫体積に及ぼす影響. 脳浮腫・頭蓋内圧フォーラム 2008, 2008. 6.
- 54) 金子朋広, 石原 力, 渡辺容子, 肥後清一郎, 原 啓子, 高橋さやか, 藤野鉄平, 上田佳恵, 内海甲一, 飯野靖彦, 片山泰朗: LCAP療法が有効であった続発性アミロイドーシスを併発した関節リウマチの1例. 第53回日本透析医学会学術集会・総会, 2008. 6.
- 55) 駒場祐一, 有井一正, 片山泰朗: T2\*画像を用いた微小脳出血に関与する因子についての検討. 第17回日本脳ドック学会総会, 2008. 6.
- 56) 三品雅洋: 脳卒中地域連携バス. 第95回東葉臨床医学セミナー, 2008. 6.
- 57) 渡辺容子, 上田佳恵, 金子朋広, 肥後清一郎, 石原 力, 原 啓子, 高橋さやか, 藤野鉄平, 内海甲一, 三井亜希子, 清水 章, 飯野靖彦, 片山泰朗: 妊娠時に発症したループス腎炎の1例. 第53回日本透析医学会学術集会・総会, 2008. 6.
- 58) 内海甲一: 高血圧と慢性腎臓病. 第14回江古田の森 公開セミナー, 2008. 6.
- 59) 野本達也, 水越元気, 中嶋信人, 小林和夫<sup>1)</sup>, 桂研一郎, 片山泰朗<sup>(1)</sup> 山形市立済生館 神経内科): MPO-ANCA陽性肥厚性硬膜炎の1例. 第26回日本神経治療学会総会, 2008. 6.
- 60) 野本達也, 水越元気, 中嶋信人, 小林和夫, 桂研一郎, 片山泰朗: Bell麻痺との鑑別が困難であった脳梗塞の1例. 第185回日本内科学会東北地方会, 2008. 6.
- 61) 上田雅之, 塚本和久, 中嶋信人, 永山 寛, 西山康裕, 片山泰朗: Pramipexoleが著効したL-dopa無効の多系統萎縮症の1例. 第26回日本神経治療学会総会, 2008. 6.
- 62) 酒巻雅典, 荒井雅江, 塚本和久, 永山 寛, 山崎峰雄, 片山泰朗: 卵巣奇形腫を合併した辺縁系脳炎の1例. 第3回文京ニューロサイエンスフォーラム (BNSF), 2008. 7.
- 63) 野村浩一, 駒場祐一, 有井一正, 田中紀子, 上田雅之, 片山泰朗: 非典型的な画像所見を認めた脳表へモジエリン沈着症の1症例. 第27回Mt. Fuji Workshop on CVD, 2008. 8.
- 64) 神谷文雄, 酒巻雅典, 永山 寛, 山崎峰雄, 片山泰朗: 下位脳神経麻痺で発症したRamsay-Hunt症候群に38歳男性例. 第186回日本神経学会関東地方会, 2008. 8.
- 65) 大鳥達雄, 大久保誠二, 西山康裕, 西山 稔, 福地孝明, 金丸拓也, 齋藤智成, 村賀香名子, 山崎峰雄, 片山泰朗: 当院SCUにおけるrt-PAの使用状況と有効性に関する検討 (前半と後半の比較). 第27回Mt. Fuji Workshop on CVD, 2008. 8.
- 66) 田尾精一<sup>1)</sup>, 永山 寛, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 関野玲子<sup>1)</sup>, 見友優子<sup>1)</sup>, 水瀬 学<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 齋藤公一<sup>1)</sup>, 藤本啓志<sup>2)</sup>, 大野忠明<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院 生理機能センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学 循環器内科): 麦角系ドーパミン作動薬による心臓弁膜症: 日常検査における弁膜障害の検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 67) 金丸拓也, 大鳥達雄, 福地孝明, 西山 稔, 大久保誠二, 西山康裕, 齋藤智成, 村賀香名子, 片山泰朗: 当院における椎骨脳底動脈解離の検討. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 68) 村賀香名子, 福地孝明, 大鳥達雄, 西山 稔, 大久保誠二, 西山康裕, 金丸拓也, 齋藤智成, 片山泰朗: 当院におけるTop of the basilar syndrome の検討. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 69) 齋藤智成, 大久保誠二, 西山康裕, 金丸拓也, 村賀香名子, 西山 稔, 大鳥達雄, 福地孝明, 片山泰朗: 当院

SCUにおける内頸動脈閉塞症の検討. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.

- 70) 田尾清一<sup>1)</sup>, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 関野玲子<sup>1)</sup>, 見友優子<sup>1)</sup>, 水瀬 学<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 齋藤公一<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 藤本啓志<sup>2)</sup>, 大野忠明<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup>, 永山 寛, 片山泰朗 (1) 付属病院生理機能センター, (2) 内科 循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 麦角系ドパミン作動薬による心臓弁膜症: 日常検査における弁膜障害の検討. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 71) 野本達也, 水越元気, 中嶋信人, 小林和夫, 桂研一郎, 片山泰朗: 静脈血栓症が疑われた1例. 第83回日本神経学会東北地方会, 2008. 9.
- 72) 長尾毅彦, 角田隆文<sup>1)</sup>, 野原千洋子<sup>2)</sup>, 横地正之<sup>2)</sup>, 田久保秀樹<sup>2)</sup> (1) 東京都保健医療公社 荏原病院 感染症科, (2) 東京都保健医療公社 荏原病院 神経内科): 原因不明の肝機能障害を合併した辺縁系脳炎の疑われる72歳女性例. 第186回 日本神経学会関東地方会, 2008. 9.
- 73) 三品雅洋, 石井賢二<sup>1)</sup>, 北村 伸, 木村裕一<sup>2)</sup>, 長縄美香<sup>2)</sup>, 橋本昌也<sup>3)</sup>, 織田圭一<sup>1)</sup>, 鈴木正彦<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>4)</sup>, 片山泰朗, 石渡喜一<sup>1)</sup> (1) 東京都老人総合研究所 ポジトロン医学研究施設, (2) 放射線医学総合研究分子イメージング研究センター 先端生体計測研究グループ画像解析研究チーム, (3) 東京慈恵会医科大学 神経内科, (4) 日本医科大学付属千葉北総病院 脳神経センター): パーキンソン病における抗パーキンソン病薬投与後のアデノシン A<sub>2A</sub>受容体分布の変化. 第48回日本核医学会学術総会, 2008. 10.
- 74) 福地孝明: 脳卒中予防に対する脂質低下療法と大規模臨床試験: 症例登録のポイント. 学術講演会: 日本における脂質低下療法と大規模臨床試験の意義, 2008. 10.
- 75) 神谷信雄: ラット局所脳虚血モデルにおける自己骨髄単核球細胞投与による脳保護効果と投与細胞の動態についての検討. 第5回Brain Protection Forum, 2008. 10.
- 76) 福井めぐみ, 藤野鉄平, 平間章郎, 肥後清一郎, 原 啓子, 金子朋広, 三井亜希子, 清水 章, 飯野靖彦, 片山泰朗: 巣状糸球体硬化病変を伴う慢性腎症に対しLDLアフェレーシスが有効であった1例. 第38回日本腎臓学会東部学術大会, 2008. 10.
- 77) 三品雅洋<sup>1,2)</sup>, 石渡喜一<sup>2)</sup>, 石井賢二<sup>2)</sup>, 北村 伸<sup>3)</sup>, 木村裕一<sup>4)</sup>, 長縄美香<sup>4)</sup>, 織田圭一<sup>2)</sup>, 橋本昌也<sup>2,5)</sup>, 鈴木正彦<sup>2,5)</sup>, 濱本 真<sup>6)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>6)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, (2) 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究施設, (3) 日本医科大学武蔵小杉病院 内科, (4) 放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター画像解析研究チーム, (5) 東京慈恵会 医科大学 神経内科, (6) 日本医科大学 内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): 未治療パーキンソン病における被殻アデノシン A<sub>2A</sub>受容体分布と抗パーキンソン病薬投与後の変化. Movement Disorder Society, Japan 第2回MDSJ学術集会, 2008. 10.
- 78) 三井亜希子, 清水 章<sup>1)</sup>, 藤田恵美子, 安藤 薫<sup>1)</sup>, 益田幸成<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup>, 藤野鉄平, 金子朋広, 飯野靖彦, 片山泰朗, 福田 悠<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学解析人体病理学): 造血幹細胞移植後腎症と考えられる2症例についての病理学的検討. 第38回日本腎臓学会東部学術大会, 2008. 10.
- 79) 平間章郎, 金子朋広, 原 啓子, 藤野鉄平, 福井めぐみ, 飯野靖彦, 片山泰朗: ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群に対してLDL-アフェレーシス, L-CAP療法とシクロスポリンを併用し奏功した1例. 第38回日本腎臓学会東部学術大会, 2008. 10.
- 80) 内海甲一: 慢性腎不全. 透析患者のインスリン療法. 第28回葛飾糖尿病医会, 2008. 10.
- 81) 中嶋信人, 野本達也, 水越元気, 上田雅之, 橋本 功<sup>1)</sup>, 相澤俊峰<sup>1)</sup>, 小澤浩司<sup>1)</sup>, 永山 寛, 山崎峰雄, 片山泰朗 (1) 東北大学 整形外科): 頭痛を契機に発見され, 経過中に片麻痺を呈した1例. 第2回山形神経内科症例検討会, 2008. 10.
- 82) 中嶋信人, 水越元気, 野本達也, 永山 寛, 上田雅之, 片山泰朗: 興味深い画像所見を呈した糖尿病性舞蹈病の1例. 山形県パーキンソン病症例検討会, 2008. 10.
- 83) 阿部 新, 齋藤敬子<sup>1)</sup>, 西山康裕, 萩原 浩, 原 行弘<sup>2)</sup> (1) 塩田病院 リハビリテーション科, (2) 日本医科大学千葉北総病院 リハビリテーション科): 脳幹梗塞にて嚥下障害をきたし, 憩室切除術後改善した1例. 第



- 6回勝浦夷隅脳血管カンファレンス, 2008. 10.
- 84) 酒巻雅典, 山崎峰雄, 永山 寛, 内海甲一, 片山泰朗: 症候性, 無症候性脳梗塞を繰り返したfabry病の1例. 第557回日本内科学会関東地方会, 2008. 10.
- 85) 上田雅之, 稲葉俊東, 西山康裕, 須田 智, 神谷信雄, 大久保誠二, 永山 寛, 永田智香子, 片山泰朗: ラット局所脳虚血モデルにおけるEPA-Eの神経保護効果の検討 (2): 投与中断後の保護効果の持続. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 86) 稲葉俊東, 上田雅之, 西山康裕, 神谷信雄, 須田 智, 大久保誠二, 永田智香子, 永山 寛, 片山泰朗: ラット局所脳虚血モデルにおけるEPA-Eの神経保護効果の検討 (1): 組織酸化ストレスに及ぼす影響. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 87) 三品雅洋, 石渡喜一, 石井賢二, 小林士郎, 片山泰朗: 被殻アデノシン A<sub>2A</sub> 受容体分布の加齢変化: <sup>11</sup>CJTM-SX PETを用いた検討. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 88) 三品雅洋, 石渡喜一, 石井賢二, 北村 伸, 濱本 真, 小林士郎, 片山泰朗: 未治療パーキンソン病における抗パーキンソン病薬投与後の被殻アデノシン A<sub>2A</sub> 受容体分布の変化. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 89) 野村浩一, 勝又俊弥, 金 恩京<sup>1)</sup>, ガジザデモハマッド<sup>1)</sup>, 藤原正和<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 枝川聖子<sup>1)</sup>, 田中紀子, 上田雅之, 桂研一郎, 川並汪一<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所 (分子細胞構造学): SHR-SPに対するスタチン長期投与による脳保護効果の検討: 脳微小血管における酸化ストレスマーカーの評価. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 90) 永山 寛, 酒巻雅典, 上田雅之, 西山康裕, 山崎峰雄, 片山泰朗: 脳循環・機能画像評価が診断に有用であった多系統萎縮症の1例. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 91) 中嶋信人, 野本達也, 水越元気, 上田雅之, 橋本 功<sup>1)</sup>, 相澤俊峰<sup>1)</sup>, 小澤浩司<sup>1)</sup>, 永山 寛, 山崎峰雄, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup> 東北大学 整形外科学教室): 頭痛を契機に発見されたC1/C2椎間関節嚢腫の1例. 第36回日本頭痛学会総会, 2008. 11.
- 92) 勝又俊弥, 大鳥達雄, 西山 穰, 片山泰朗: 脳梗塞患者におけるインスリン抵抗性と大脳白質病変. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 93) 白田和弘, 角南英子, 片山泰朗: 選択的セロトニン再取り込み阻害薬の投与による脳血管性うつ状態の症状と脳血流量の検討. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 94) 白田和弘, 石渡明子, 片山泰朗: 片頭痛, 緊張型頭痛の患者における, 気分障害の検討. 第36回日本頭痛学会総会, 2008. 11.
- 95) 仁藤智香子, 上田雅之, Pak H. C<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Department of Neurology and Neurological Sciences, and Program in Neurosciences, Stanford University School of Medicine): 無酸素無糖状態下でのラット培養アストロサイトにおけるMAPKと水イオンチャネル蛋白AQP4との関係. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 96) 神谷信雄, 上田雅之, 五十嵐博中<sup>1)</sup>, 西山康裕, 須田 智, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup> 新潟大学脳研究所 統合脳機能研究センター): ラット一過性脳虚血モデルにおけるMRIを用いた自己骨髄細胞移植のモニタリング. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 97) 大久保誠二, 五十嵐博中<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup> 新潟大学脳研究所 統合脳機能研究センター): Rat 局所虚血灌流モデルに対するedaravoneの効果. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 98) 福地孝明, 大鳥達雄, 駒場祐一, 大久保誠二, 西山康裕, 長尾毅彦, 岡村正哉, 野本達也, 水越元気, 中嶋信人, 萩原 浩, 阿部 新, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター): 日本医科大学神経内科関連5病院でのrt-PA投与と成績の検討- その1. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 99) 福地孝明, 大鳥達雄, 駒場祐一, 大久保誠二, 西山康裕, 長尾毅彦, 岡村正哉, 野本達也, 水越元気, 中嶋信



- 人, 萩原 浩, 阿部 新, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 日本医科大学神経内科関連5病院でのrt-PA投与成績の検討- その2-. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 100) 齋藤智成, 大久保誠二, 西山康裕, 金丸拓也, 村賀香名子, 西山 稔, 大鳥達雄, 福地孝明, 片山泰朗: 当院における内頸動脈閉塞症の検討. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 101) 村賀香名子, 福地孝明, 大鳥達雄, 西山 稔, 大久保誠二, 西山康裕, 齋藤智成, 金丸拓也, 片山泰朗: 当院におけるTop of the basilar syndromeの検討. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 102) 金丸拓也, 大鳥達雄, 福地孝明, 西山 稔, 大久保誠二, 西山康裕, 齋藤智成, 村賀香名子, 片山泰朗: 当院SCUにおける椎骨脳底動脈解離の検討. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 103) 櫻澤誠二, 桂研一郎, 齋藤萌子, 麻生定光<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所 生化学部門) : PTD-FNK蛋白・低体温併用療法ラット脳梗塞モデルに対する効果の検討. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 104) 熊谷智昭, 雨宮志門, 三品雅洋, 濱本 真, 片山泰朗: 一過性全健忘におけるeZISを用いた脳血流評価. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 105) 駒場祐一, 有井一正, 野村浩一, 片山泰朗: MRI T2'画像を用いた微小脳出血に関与する因子についての検討. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 106) 西山康裕, 上田雅之, 阿部 新, 駒場祐一, 桂研一郎, 片山泰朗: 脳梗塞慢性期患者におけるニセルゴリンの血中サブスタンスPに及ぼす影響. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 107) 角南英子, 白田和弘, 片山泰朗: 脳梗塞うつ状態の患者に対するフルボキサミン投与による臨床効果およびメラトニンに及ぼす影響. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 108) 萩原 浩, 阿部 新, 片山泰朗: MRIにて可逆性の脳幹部病変を認めたアルコール多飲に伴う低Na血症の1例. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 109) 西山 稔, 勝又俊弥, 大鳥達雄, 大久保誠二, 片山泰朗: レムナント様リポ蛋白コレステロールと脳梗塞患者の頸動脈狭窄度の関連の検討. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 110) 野本達也, 岡田尚巳<sup>1)</sup>, 島崎久仁子<sup>2)</sup>, 桂研一郎, 小澤敬也<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup> 自治医科大学 遺伝子治療研究部, <sup>2)</sup> 自治医科大学 脳神経生理学) : II-10 遺伝子導入による脳卒中発症時期. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 111) 村賀香名子, 西山康裕, 大鳥達雄, 福地孝明, 片山泰朗: くしゃみが原因と考えられた椎骨動脈解離によるWallenberg症候群の28歳男性例. 第187回日本神経学会関東地方会, 2008. 11.
- 112) 石渡明子, 水村 直<sup>1)</sup>, 北村 伸, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup> 東邦大学医療センター 大森病院) : 3D-SSPによるアルツハイマー病のintrasubjectの再現性の検討; 最大値参照法を用いて. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 113) 金子朋広, 飯野靖彦, 片山泰朗: 腎臓内科医からみたアクセス. 第4回埼玉バスキュラーアクセス講演会, 2008. 11.
- 114) 中嶋信人, 野本達也, 水越元気, 橋本 功, 相澤俊峰, 小澤浩司, 永山 寛, 上田雅之, 片山泰朗: 頭痛を契機に発見されたC1/C2椎間関節嚢腫の1例. 第36回日本頭痛学会総会, 2008. 11.
- 115) 勝又俊弥, 西山 稔, 大鳥達雄, 片山泰朗: 脳梗塞患者におけるインスリン抵抗性と大脳白質病変. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 116) 須田 智, 島崎久仁子<sup>1)</sup>, 上田雅之, 稲葉俊東, 神谷信雄, 桂研一郎, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup> 自治医科大学 神経脳生理学) : ラット脳梗塞モデルにおける急性期骨髄間葉系幹細胞移植・FK506併用による脳保護増強効果の検討. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 117) 長尾毅彦, 片山泰朗, 横地正之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京都保健医療公社 荏原病院 神経内科) : 外部検査機関のPT-INRデータは正確か?. 第31回 日本血栓止血学会 学術集会, 2008. 11.

- 118) 野上 茜：脳梗塞急性期におけるD-dimer異常高値の意義. 城南脳卒中研究会, 2008. 11.
- 119) 村賀香名子, 福地孝明, 大鳥達雄, 西山 稔, 大久保誠二, 西山康裕, 齋藤智成, 金丸拓也, 片山泰朗：当科SCUにおけるTop of basilar syndromeの検討. 第8回オザゲレル学術講演会, 2008. 12.
- 120) 三品雅洋：千葉県統一パスの進行状況. 第3回印旛脳卒中地域連携パス講演会, 2008. 12.
- 121) 山口良也：脳卒中様発作で発症した肝性脳症の1例. 第4回文京ニューロサイエンスフォーラム, 2009. 1.
- 122) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 佐藤英一<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 新松戸中央総合病院内科)：発熱と一過性のhemiballismで発症した慢性透析患者の1例. 第62回千葉北総神経放射線研究会, 2009. 2.
- 123) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 渡辺 玲<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>1)</sup>, 廣中浩平<sup>1)</sup>, 國保倫子<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター)：MRI異常所見を伴う頭痛患者. 第62回千葉北総神経放射線研究会, 2009. 2.
- 124) 神谷信雄, 上田雅之, 稲葉俊東, 片山泰朗：ラット一過性脳虚血モデルにおけるIbutilast前投与による脳保護効果の検討. 第5回東京脳卒中治療研究会, 2009. 2.
- 125) 井田正博<sup>1)</sup>, 石塚理子<sup>1)</sup>, 長尾毅彦, 横地正之<sup>1)</sup> (1) 東京都保健医療公社荏原病院 脳卒中センター 神経内科)：Susceptibility-weighted Imaging (SWI) & Neuromelanin Imaging (NMI) によるパーキンソン病の評価. 第38回日本神経放射線学会, 2009. 2.
- 126) 野村浩一<sup>1,2)</sup>, 勝又俊弥<sup>1)</sup>, 田中紀子<sup>1)</sup>, 大鳥達雄<sup>1)</sup>, 西山 稔<sup>1)</sup>, ガジザデモハammad<sup>2)</sup>, 藤原正和<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, 2) 日本医科大学老人病研究所分子病理学部門)：ラットにおけるスタチン長期投与による脳保護効果の検討～脳微小血管における酸化ストレスマーカーの評価. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 127) 太田智大, 大久保誠二, 西山康裕, 大鳥達雄, 山崎峰雄, 片山泰朗：fibromuscular dysplasia が原因として疑われた椎骨動脈解離の57歳男性例. 第188回日本神経学会関東地方会, 2009. 3.
- 128) 大久保誠二, 大鳥達雄, 桂研一郎, 西山康裕, 西山 稔, 片山泰朗：脳梗塞急性期における心臓・自律神経機能の検討. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 129) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 渡辺 玲<sup>1,2)</sup>, 金 景成<sup>1,2)</sup>, 立山幸次郎<sup>1,2)</sup>, 大村朋子<sup>1,2)</sup>, 廣中浩平<sup>1,2)</sup>, 國保倫子<sup>1,2)</sup>, 片山泰朗 (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 日本医科大学附属病院脳神経外科)：印旛脳卒中地域連携パス (InCliPS) の運用実績. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 130) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 片山泰朗 (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター)：千葉県における血栓溶解療法の実態. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 131) 阿部 新, 西山康裕, 萩原 浩, 片山泰朗：ニセルゴリンによる substance P の変化：慢性期脳梗塞症例における基底核病変の有無による比較. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 132) 齋藤智成, 福地孝明, 大鳥達雄, 西山 稔, 大久保誠二, 西山康裕, 金丸拓也, 村賀香名子, 片山泰朗：当院Stroke Care Unitにおける内頸動脈閉塞症の検討. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 133) 村賀香名子, 福地孝明, 大鳥達雄, 西山 稔, 大久保誠二, 西山康裕, 金丸拓也, 齋藤智成, 片山泰朗：当院におけるTop of the basilar syndromeの検討. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 134) 金丸拓也, 大鳥達雄, 福地孝明, 西山 稔, 大久保誠二, 西山康裕, 齋藤智成, 村賀香名子, 片山泰朗：当院SCUにおける虚血発症椎骨脳底動脈解離の検討. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 135) 長尾毅彦, 谷佳代子<sup>1)</sup>, 刈米和子<sup>1)</sup>, 佐藤芳雄<sup>1)</sup>, 横地正之<sup>2)</sup>, 片山泰朗, 田久保秀樹<sup>2)</sup> (1) 東京都保健医療公社 荏原病院 検査科, 2) 東京都保健医療公社 荏原病院 神経内科)：抗凝固療法のモニタリングにおけるプロトロビン試薬の精度について：医学部附属病院, 基幹病院の実態調査. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 136) 福地孝明, 三品雅洋, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗 (1) 日本医科大学 千葉北総病院脳神経センター)：日本医科大学神経内科関連施設でのt-PA投与症例の検討 その3. 第34回日本脳卒中学会総会,

2009. 3.

- 137) 岡村正哉, 井田正博<sup>1)</sup>, 長尾毅彦, 横地正之<sup>2)</sup>, 片山泰朗, 田久保秀樹<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 東京都保健医療公社 荏原病院 放射線科, <sup>2)</sup> 東京都保健医療公社 荏原病院 神経内科): 脳虚血急性期再灌流後の細胞性浮腫の可逆性と遅発性神経細胞壊死. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 138) 野上 茜<sup>1,2)</sup>, 横地正之<sup>2)</sup>, 田久保秀樹<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学 内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, <sup>2)</sup> 荏原病院 神経内科): 家族歴を有しSOD1 遺伝子変異を認めた筋萎縮性側索硬化症の65歳女性例. 第188回日本神経学会関東地方会, 2009. 3.
- 139) 塚本和久, 永山 寛, 山崎峰雄: 多彩な振戦を呈した78歳男性例. 第18回お茶の水 Visual Neurology, 2009. 3.
- 140) 古口徳雄, 三品雅洋, 小沢義典, 近藤国嗣, 松永高志: 千葉県における全県共用脳卒中連携パス作成の取り組み. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 141) 角南英子, 白田和弘, 片山泰朗: 脳梗塞後うつ状態の患者に対するフルボキサミン投与による臨床効果についての検討. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 142) 永山 寛: Parkinson病に先行するうつ. パーキンソン病シンポジウム2009, 2009. 3.
- 143) 野本達也, 水越元気, 中嶋信人, 小林和夫, 桂研一郎, 片山泰朗: 甲状腺クリーゼに伴い四肢麻痺を来した1例. 第84回日本神経学会東北地方会, 2009. 3.
- 144) 水越元気, 中嶋信人, 野本達也, 片山泰朗: 穿通枝動脈領域の急性期脳梗塞における perfusion MRI の検討. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 145) 上田雅之, 須田 智, 神谷信雄, 西山康裕, 大久保誠二, 永田智香子, 片山泰朗: ラット一過性中大脳動脈閉塞モデルにおけるEPA-E前投与による虚血性脳損傷軽減効果. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 146) 梅里尚行<sup>1)</sup>, 長尾毅彦, 井上 学<sup>1)</sup>, 岡村正哉, 野上 茜, 土居 浩<sup>2)</sup>, 横地正之<sup>1)</sup>, 内海裕也<sup>3)</sup>, 田久保秀樹<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 東京都保健医療公社 荏原病院 神経内科, <sup>2)</sup> 東京都保健医療公社 荏原病院 脳神経外科, <sup>3)</sup> 東京医科大学 神経内科): 急性期脳卒中における慢性腎臓病合併についての検討. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 147) 井上 学<sup>1)</sup>, 長尾毅彦, 梅里尚行, 野上 茜, 岡村正哉, 平林久吾, 河村 満<sup>2)</sup>, 横地正之, 田久保秀樹 (<sup>1)</sup> 東京都保健医療公社荏原病院総合脳卒中センター 神経内科, <sup>2)</sup> 昭和大学病院内科学講座 神経内科部門): 当院における椎骨脳底動脈解離に伴う脳幹部梗塞と危険因子の関連. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 148) 小林美紀<sup>1)</sup>, 長尾毅彦, 田久保秀樹<sup>1)</sup>, 横地正之<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 東京都保健医療公社荏原病院総合脳卒中センター神経内科): rt-PA 症例における intraarterial signal の検討. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 149) 西山康裕, 上田雅之, 阿部 新, 駒場祐一, 桂研一郎, 片山泰朗: 脳梗塞既往患者と健康診断受診者における血中 asymmetric dimethylarginine (ADMA) の比較と脳血管リスクファクターとの関連性. 第34回脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 150) 櫻澤 誠, 桂研一郎, 齋藤萌子, 麻生定光<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup>, 片山泰朗 (<sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所 生化学部門): PTD-FNK 蛋白・低温併用療法のラット中大脳動脈閉塞モデルに対する効果の検討. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- (9) スライドセッション:
- 1) 山崎峰雄: 歩行障害で発症し, 5年後に認知症が出現した家族歴を有する57歳女性例. 第49回日本神経病理学会総会学術研究会, 2008. 5.

## [付属病院リウマチ科]

### 研究概要

リウマチ科では, リウマチ性疾患に関する臨床研究, 基礎的研究を行っている。

臨床研究では, 1) 近年, 関節リウマチの治療に応用されるようになった生物学的製剤の臨床成績や合併症, 2) 当

科開設以来行っている人工関節手術の成績, 3) 変形性関節症に対するサプリメント療法を課題とし, 学会発表, 論文投稿を行った。

基礎的研究では, 変形性関節症の病態の解明を行うとともに, 軟骨細胞の代謝についてプロテオミクスを用いて分子性生物学に研究を行った。

また, 臨床的検討に値する症例については, 適宜症例報告としてまとめた。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Tachihara A, Nakamura H, Yoshioka T, Miyamoto Y, Morishita M, Koyama T, Iwakawa K, Sakane M, Nakajima A : Postoperative results and complications of total elbow arthroplasty in patients with rheumatoid arthritis : three types of nonconstrained arthroplasty. *Mod Rheumatol* 2008 ; 18 (5) : 465-471.
- 2) Duc P<sup>1)</sup>, Yudoh K<sup>1)</sup>, Masuko K<sup>1)</sup>, Kato T<sup>1)</sup>, Nishioka K<sup>1)</sup>, Nakamura H ( <sup>1)</sup> Institute of Medical Science, St. Marianna University) : Development and characteristics of pannus-like soft tissue in osteoarthritic articular surface in rat osteoarthritis model. *Clin Exp Rheumatol* 2008 ; 26 (4) : 589-595.
- 3) Murata M<sup>1)</sup>, Yudo K<sup>1)</sup>, Nakamura H, Chiba J<sup>2)</sup>, Okamoto K<sup>3)</sup>, Suematsu N<sup>3)</sup>, Nishioka K<sup>1)</sup>, Beppu M<sup>4)</sup>, Inoue K<sup>2)</sup>, Kato T<sup>3)</sup>, Masuko K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Frontier Medicine, Institute of Medical Science, St. Marianna University, <sup>2)</sup> Department of Orthopedic Surgery, Tokyo women's Medical University, Medical Center East, <sup>3)</sup> Department of Biochemistry, St. Marianna University, <sup>4)</sup> Department of Orthopedic Surgery, St. Marianna University) : Hypoxia upregulates the expression of angiopoietin-like-4 in human articular chondrocytes : Role of angiopoietin-like-4 in the expression of matrix metalloproteinases and cartilage degradation. *J Orthop Res* 2009 ; 27 (1) : 50-57.

#### (2) 総説:

- 1) 中村 洋, 吉岡太郎: OA治療 保存療法 「ヒアルロン酸関節内注入療法」. *Bone* 2009 ; 23 (1) : 69-73.
- 2) 吉岡太郎: TNF阻害剤と術後創感染. *リウマチ科* 2008 ; 39 (6) : 520-524.
- 3) 中村 洋: 変形性関節症の画像診断. *リウマチ科* 2008 ; 39 (6) : 476-481.

#### (3) 症例報告:

- 1) Yoshioka T, Tachihara A, Koyama T, Iwakawa K, Sakane M, Nakamura H : Rapidly destruction of the hip joint associated with enlarged iliopsoas bursa in a patient with refractory rheumatoid arthritis. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (4) : 233-238.

### 学会発表

#### (1) 教育講演:

- 1) 中村 洋: 生物製剤とリウマチの外科手術. 神奈川リウマチ医学会イブニングセミナー (第58回), 2008. 7.
- 2) 中村 洋: 変形性関節症に対する薬物治療: 特にグルコサミンの効能について. 石川県整形外科医学会夏季学術講演会, 2008. 7.
- 3) 中村 洋: 整形外科疾患のPETの応用: リウマチ性疾患を中心に. 第1回基礎と臨床を結ぶ分子病態研究会, 2008. 10.

#### (2) シンポジウム:

- 1) 加藤智啓<sup>1)</sup>, 増子佳世<sup>1)</sup>, 中村 洋, 西岡久寿樹<sup>2)</sup>, 遊道和雄<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 聖マリアンナ医科大学 大学院 疾患プロテオーム・分子病態治療学, <sup>2)</sup> 聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター) : プロテオミクスを用いた変形性関節症関連自己抗原およびペプチドの探索. 日本リウマチ学会総会 (第52回), 2008. 4.



- 2) 中村 洋：ヒアルロン酸の基礎と臨床：イントロダクション．第5回グルコサミン研究会，2009．2.
- (3) パネルディスカッション：
- 1) 中村 洋：変形性関節症に対するグルコサミン，コンドロイチン硫酸の有用性．日本関節病学会（第36回），2008．11.
- (4) ワークショップ：
- 1) 坂根 学，岩川賀世，森下 実，宮本洋介，立原章年，吉岡太郎，中村 洋，鈴木伸之，川村晴也<sup>1)</sup>，中島敦夫<sup>1)</sup> 東京白十字病院 整形外科）：関節リウマチにおけるetanercept と tacrolimus の併用効果について．日本リウマチ学会総会（第52回），2008．4.
- 2) 立原章年，中村 洋，吉岡太郎，宮本洋介，森下 実，岩川賀世，坂根 学，鈴木伸之，川村晴也<sup>1)</sup>，中島敦夫<sup>1)</sup> 東京白十字病院 整形外科）：当科における人工肘関節置換術の術後成績と周術期合併症．日本リウマチ学会総会（第52回），2008．4.
- 3) 永島正一<sup>1)</sup>，和宇慶晃一<sup>1)</sup>，高橋 央<sup>1)</sup>，斉藤公久<sup>1)</sup>，鈴木伸之<sup>1)</sup>，森下 実<sup>1)</sup> 東京都立墨東病院 リウマチ膠原病科）：関節リウマチ患者ADLからみた機能回復と手術療法．日本リウマチ学会総会（第52回），2008．4.
- 4) 増子佳世<sup>1)</sup>，村田三奈子<sup>2)</sup>，中村 洋，遊道和雄<sup>2)</sup>，加藤智啓<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 聖マリアンナ医科大学 生化学教室，<sup>2)</sup> 聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター）：関節軟骨細胞におけるプロスタグランジン（PG）E<sub>2</sub>の作用．日本リウマチ学会総会（第52回），2008．4.
- (5) 一般講演：
- 1) Nakamura H：Demineralized subchondral bone modulates the expression of MMP-1, MMP-3 and MMP-13 from bone marrow derived cells in rheumatoid arthritis and osteo arthritis *in vitro*. Congress of the Asia Pacific of Associations for Rheumatology (Yokohama (Japan)), 2008. 9.
- 2) 中村 洋，中島敦夫，吉岡太郎，立原章年，宮本洋介，森下 実，岩川賀世，坂根 学，川村晴也<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 東京白十字病院 整形外科）：MTX 抵抗性関節リウマチに対するD-penicillamineの効果．日本リウマチ学会総会（第52回），2008．4.
- 3) 岩川賀世，坂根 学，森下 実，宮本洋介，立原章年，吉岡太郎，中村 洋，鈴木伸之，川村晴也<sup>1)</sup>，中島敦夫<sup>1)</sup> 東京白十字病院 整形外科）：関節リウマチ（RA）に対する生物学的製剤の長期成績．日本リウマチ学会総会（第52回），2008．4.
- 4) 岩川賀世，坂根 学，小山泰朗，森下 実，立原章年，平井 博，吉岡太郎，中島敦夫<sup>1)</sup>，中村 洋<sup>1)</sup> 東京警察病院 リウマチ内科）：RPLS (reversible posterior leukoencephalopathy syndrome) の発症によって明らかになった大動脈炎症候群の1例．関東リウマチ研究会（第49回），2008．6.
- 5) 平井 博，吉岡太郎，立原章年，森下 実，坂根 学，岩川賀世，中村 洋：人工股関節再置換術後早期に再手術となった1例．東京リウマチ膠原病研究会，2008．10.
- 6) 吉岡太郎，平井 博，立原章年，森下 実，岩川賀世，坂根 学，鈴木伸之，川村晴也<sup>1)</sup>，中村 洋<sup>1)</sup> 東京白十字病院 整形外科）：エタネルセプト治療中の周術期合併症の検討．日本関節病学会（第36回），2008．11.
- 7) 森下 実，吉岡太郎，平井 博，立原章年，小山泰朗，坂根 学，岩川賀世，竹之内研二<sup>2)</sup>，川村晴也<sup>1)</sup>，中村 洋<sup>1)</sup> 東京白十字病院 整形外科，<sup>2)</sup> 湯河原厚生年金病院 整形外科）：関節リウマチに合併した非定型抗酸菌感染による手関節腱鞘滑膜炎の1例．日本関節病学会（第36回），2008．11.
- 8) 吉岡太郎，平井 博，立原章年，森下 実，岩川賀世，竹之内研二，坂根 学，中村 洋：PFC sigma RP-Fを用いたTKAの角度計付大腿コンポーネントサイザーを使用した成績の検討．日本人工関節学会（第39回），2009．2.
- 9) 坂根 学：生物学的製剤の安全な使用に向けて：当科及び市販後調査の結果から．千駄木感染免疫アレルギー研究会（第19回），2009．3.



## [千葉北総病院腎臓内科]

### 研究概要

腎臓内科は持続性蛋白尿，血尿に対し腎生検を施行し積極的に診断，治療を行い外来での長期観察を行っている。腎生検症例は千駄木腎カンファランス，東葛腎カンファランスに提示し治療方針や識別診断，予後推測に役立てている。

CKD，慢性腎不全の保存期は外来にて経過観察し時期を判断し計画性を持って血液浄化への導入を施行している。慢性腎不全の合併症にも各科の協力を得て急性発症の合併症は救急センター，ICU，SCUにて積極的に対処している。成田，印旛地区の慢性腎不全の合併症セミナーを年に2回行い各施設間の意見交換，患者さんのQOLの向上に努めています。

対外循環治療（血漿交換，IDL アフェレーシス）も各科よりの依頼があれば積極的に対応している。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 金子朋広<sup>1)</sup>，上田佳恵<sup>1)</sup>，藤野鉄平，内海甲一<sup>1)</sup>，飯野靖彦<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup> (1) 付属病院内科学（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）：IgA腎症に対する扁摘後ステロイドパルス+ミゾリビン療法の治療効果。日本内科学会講演会（第105回），2008. 4.
- 2) 金子朋広<sup>1)</sup>，石原 力<sup>1)</sup>，渡辺容子<sup>1)</sup>，肥後清一郎<sup>1)</sup>，原 啓子<sup>1)</sup>，高橋さやか<sup>1)</sup>，藤野鉄平，上田佳恵<sup>1)</sup>，内海甲一<sup>1)</sup>，飯野靖彦<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup> (1) 付属病院内科学（神経・腎臓・膠原病・リウマチ部門）：LCAP療法が有効であった続発性アミロイドーシスを併発した関節リウマチの1例。日本透析医学会学術集会（第53回），2008. 6.
- 3) 渡辺容子<sup>1)</sup>，上田佳恵<sup>1)</sup>，金子朋広<sup>1)</sup>，肥後清一郎<sup>1)</sup>，石原 力<sup>1)</sup>，原 啓子<sup>1)</sup>，高橋さやか<sup>1)</sup>，藤野鉄平，内海甲一<sup>1)</sup>，三井亜希子<sup>2)</sup>，清水 章<sup>2)</sup>，飯野靖彦<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup> (1) 付属病院内科学（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門），<sup>2)</sup> 病理学（解析人体病理学）：妊娠時に発症したループス腎炎の1例。日本透析医学会学術集会・総会（第53回），2008. 6.
- 4) 大藪英一<sup>1,2)</sup>，葉山修陽，飯野靖彦<sup>3)</sup> (1) 越谷大袋クリニック，<sup>2)</sup> 日本医科大学微生物学免疫学，<sup>3)</sup> 付属病院内科学（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）：維持血液透析療法における透析液の無菌化の重要性。日本腎臓学会東部学術大会（第38回），2008. 10.
- 5) 田口志保，葉山修陽，三井亜希子<sup>2)</sup>，清水 章<sup>2)</sup>，飯野靖彦<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup> (1) 付属病院内科学（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門），<sup>2)</sup> 病理学（解析人体病理学）：ネフローゼ症候群で発症しクリオグロブリン血症を認めた1症例。日本腎臓学会東部学術大会（第38回），2008. 10.

## [千葉北総病院神経内科]

### 研究概要

北総病院神経内科においては，倫理委員会，IRBの承認の下，以下の臨床研究を行っている。1) アテローム血栓性イベントリスクを持つ患者を対象とする国際前向き観察研究（reach registry）2004-2009. 2) 血清および髄液における変性神経細胞蓄積物質の検討2005. 3) アンジオテンシンII受容体拮抗薬の家庭血圧への影響および脳卒中再発予防効果の比較研究 2005-2008. 4) 認知機能障害における脳画像統計解析の多施設共同研究 2006. 5) 脳血管疾患の再発に対する高脂血症治療薬 HMG-CoA 還元酵素阻害薬の予防効果に関する研究（J-STARS）2006. 6) 高脂血症治

療薬HMG-CoA還元酵素阻害薬の高感度CRP濃度へ及ぼす効果に関する研究（高感度CRPサブスタディ）2006. 7）パーキンソン病患者における心筋MIBG集積の経時的変化の検討 2006. 8）ピリドスチグミンによる起立性低血圧の治療 2008-現在.

また、東京都健康長寿医療センター研究所（旧東京都老人総合研究所）、放射線医学総合研究所、東京慈恵会医科大学と共同で、PETを用いて脳内アデノシン A<sub>1</sub>および A<sub>2A</sub>受容体を指標とした加齢変化およびパーキンソン病の病態解明の研究を行っている。

## 研究業績

### 論文

〔追加分〕

追加分総説：

- 1) Mishina M<sup>1,2)</sup> (<sup>1)</sup> The Department of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Nippon Medical School, (<sup>2)</sup> Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Positron Emission Tomography for Brain Research. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (2) : 68-76.

(1) 原著：

- 1) Amemiya S, Hamamoto M, Mishina M<sup>1)</sup>, Ueda M<sup>2)</sup>, Kumagai T, Nishiyama Y<sup>2)</sup>, Katayama Y<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (<sup>2)</sup> The Department of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Nippon Medical School) : Short-term plasticity of central benzodiazepine receptors in status epilepticus : case report. *Acta Neurol Scand* 2008 ; 117 (4) : 285-288.
- 2) Mishina M<sup>1,2)</sup>, Ohya M<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>1)</sup>, Kitamura S<sup>3)</sup>, Kimura Y<sup>4)</sup>, Oda K<sup>1)</sup>, Kawamura K<sup>1,5)</sup>, Sasaki T<sup>6)</sup>, Kobayashi S<sup>2)</sup>, Katayama Y<sup>7)</sup>, Ishiwata K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, (<sup>2)</sup> Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, (<sup>3)</sup> Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, (<sup>4)</sup> Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, (<sup>5)</sup> Center for Integrated Brain Science, Brain Research Institute, University of Niigata, (<sup>6)</sup> Research Team for Molecular Biomarkers, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, (<sup>7)</sup> Department of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Nippon Medical School) : Low density of sigma<sub>1</sub> receptors in early Alzheimer' s disease. *Annals of Nuclear Medicine* 2008 ; 22 (3) : 151-156.
- 3) Nagayama H<sup>1)</sup>, Yamazaki M<sup>1)</sup>, Ueda M<sup>1)</sup>, Nishiyama M<sup>1)</sup>, Hamamoto M, Katayama Y<sup>1)</sup>, Mori O<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Internal Medicine (Divisions of Neurology, Nephrology, and Rheumatology)) : Low myocardial MIBG uptake in multiple system atrophy with incidental Lewy body pathology : an autopsy case report. *Mov Disord* 2008 ; 23 (7) : 1055-1057.
- 4) Mishina M<sup>1,2)</sup>, Komaba Y<sup>1,2)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Kominami S<sup>1)</sup>, Fukuchi T<sup>1)</sup>, Mizunari T<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>3)</sup>, Katayama Y<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (<sup>2)</sup> The Department of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Nippon Medical School, (<sup>3)</sup> The Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Administration of Free Radical Scavenger Edaravone Associated With Higher Frequency of Hemorrhagic Transformation in Patients With Cardiogenic Embolism. *Neurol Med Chir* 2008 ; 48 (7) : 292-297.
- 5) Ohta Y<sup>1)</sup>, Nariai T<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>2)</sup>, Ishiwata K<sup>2)</sup>, Mishina M<sup>2,3)</sup>, Senda M<sup>2,4)</sup>, Hirakawa K<sup>1)</sup>, Ohno K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Tokyo Medical and Dental University, (<sup>2)</sup> Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, (<sup>3)</sup> Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital,

4) Department of Image-based Medicine, Institute of Biomedical Research and Innovation) : Ohta Y, Nariai T, Ishii K, Ishiwata K, Mishina M, Senda M, Hirakawa K, Ohno K : Voxel- and ROI-based statistical analyses of PET parameters for guidance in the surgical treatment of intractable mesial temporal lobe epilepsy. *Annals of Nuclear Medicine* 2008 ; 22 (6) : 495-503.

6) Amemiya S, Hamamoto M, Kumagai T, Ueda Y<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine (Divisions of Neurology, Nephrology, and Rheumatology) : Neuromyelitis Optica Preceded by Brain Demyelinating Episode. *J Neuroimaging* 2008.

7) 三品雅洋<sup>1, 2)</sup>, 石渡喜一<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, (2) 東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究施設) : [<sup>11</sup>C]SA4503 PETを用いたアルツハイマー病におけるシグマ<sub>1</sub>受容体分布の検討. *千葉県医師会医学会誌* 2008 ; 4 : 80-82.

8) 熊谷智昭<sup>1, 2)</sup>, 三品雅洋<sup>1, 2)</sup>, 武井健吉<sup>3)</sup>, 松本 尚<sup>3)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>1, 2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup>, 赫 彰郎<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, (2) 日本医科大学内科学講座神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, (3) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 千葉県における脳卒中診療での救急医療用ヘリコプターの利用状況. *脳卒中* 2008 ; 30 (4) : 545-550.

(2) 総説 :

1) 濱本 真 : 認知症疾患. *臨床雑誌「内科」* 2008 ; 101 (6) : 1497-1503.

2) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 北村 伸<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, (2) 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : 新薬展望2009 ; 第 III 部治療における最近の新薬の位置付け〈薬効別〉～新薬の広場～ ; 脳血管障害治療薬. *医薬ジャーナル* 2009 ; 45 (S-1) : 530-535.

学会発表

(1) 特別講演 :

1) 三品雅洋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 印旛脳卒中地域連携バス. 印旛脳卒中地域連携バス講演会 (第2回), 2008. 6.

2) 三品雅洋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 脳卒中地域連携バス. 東葉臨床医学セミナー (第95回), 2008. 6.

3) 三品雅洋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 脳卒中地域連携バス導入と諸問題. さいたま脳卒中地域連携研究会 (第8回), 2008. 9.

4) 三品雅洋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 脳卒中診療におけるDrヘリ. 君津中央病院院内講演会, 2008. 11.

5) 三品雅洋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 慢性期脳梗塞の薬物治療. 八街地区学術講演会, 2008. 11.

6) 三品雅洋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 脳血管障害と地域連携. 成田印旛透析カンファレンス (第4回), 2008. 12.

(2) シンポジウム :

1) 三品雅洋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 改訂ガイドラインを活かす : それぞれの専門領域からの提言 : 脳の観点から. 高血圧治療戦略フォーラム in 成田 (第3回), 2009. 2.

(3) 一般講演 :

1) Mishina M<sup>1, 2)</sup>, Ishii K<sup>2)</sup>, Kitamura S<sup>3)</sup>, Kimura Y<sup>2, 4)</sup>, Naganawa M<sup>2, 4)</sup>, Hashimoto M<sup>2, 5)</sup>, Suzuki M<sup>2, 5)</sup>, Oda K<sup>2)</sup>, Hamamoto M, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>6)</sup>, Ishiwata K<sup>2)</sup> (1) Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (2) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, (3) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, (4) Biophysics

Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, <sup>5)</sup> Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, <sup>6)</sup> The Department of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Nippon Medical School) : Variations in adenosine A<sub>2A</sub> receptors following anti-parkinsonian therapy in drug naïve Parkinson's disease using 11C-TMSX PET. The Movement Disorder Society's 12th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (Chicago), 2008. 6.

- 2) 両宮志門<sup>1)</sup>, 濱本 真<sup>1)</sup>, 熊谷智昭<sup>1)</sup>, 葉山修陽<sup>1,2)</sup>, 三品雅洋<sup>1,3)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, 2) 日本医科大学千葉北総病院腎臓内科, 3) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 慢性腎不全患者における血漿 A $\beta$  42・A $\beta$  40 値. 日本神経学会総会 (第49回), 2008. 5.
- 3) 三品雅洋<sup>1,2)</sup>, 石渡喜一<sup>2)</sup>, 石井賢二<sup>2)</sup>, 北村 伸<sup>3)</sup>, 木村裕一<sup>4)</sup>, 長縄美香<sup>4)</sup>, 織田圭一<sup>2)</sup>, 橋本昌也<sup>2,5)</sup>, 鈴木正彦<sup>2,5)</sup>, 濱本 真, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>6)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究施設, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院内科, 4) 放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター画像解析研究チーム, 5) 東京慈恵会医科大学神経内科, 6) 日本医科大学内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)) : 未治療パーキンソン病におけるアデノシン A<sub>2A</sub> 受容体の治療開始後の変化. 日本神経学会総会 (第49回), 2008. 5.
- 4) 三品雅洋<sup>1,2)</sup>, 石渡喜一<sup>2)</sup>, 石井賢二<sup>2)</sup>, 北村 伸<sup>3)</sup>, 木村裕一<sup>4)</sup>, 長縄美香<sup>4)</sup>, 織田圭一<sup>2)</sup>, 橋本昌也<sup>2,5)</sup>, 鈴木正彦<sup>2,5)</sup>, 濱本 真, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>6)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究施設, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院内科, 4) 放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター画像解析研究チーム, 5) 東京慈恵会医科大学神経内科, 6) 日本医科大学内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)) : 未治療パーキンソン病における被殻アデノシン A<sub>2A</sub> 受容体分布と抗パーキンソン病薬投与後の変化. Movement Disorder Society, Japan 学術集会 (第2回), 2008. 10.
- 5) 三品雅洋<sup>1,2)</sup>, 石渡喜一<sup>2)</sup>, 石井賢二<sup>2)</sup>, 北村 伸<sup>3)</sup>, 木村裕一<sup>4)</sup>, 長縄美香<sup>4)</sup>, 織田圭一<sup>2)</sup>, 橋本昌也<sup>2,5)</sup>, 鈴木正彦<sup>2,5)</sup>, 濱本 真, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>6)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究施設, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院内科, 4) 放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター画像解析研究チーム, 5) 東京慈恵会医科大学神経内科, 6) 日本医科大学内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)) : パーキンソン病における抗パーキンソン病薬投与後のアデノシン A<sub>2A</sub> 受容体分布の変化. 日本核医学会学術総会 (第48回), 2008. 10.
- 6) 三品雅洋<sup>1,2)</sup>, 石渡喜一<sup>2)</sup>, 石井賢二<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究施設, 3) 日本医科大学内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)) : 被殻アデノシン A<sub>2A</sub> 受容体分布の加齢変化. 日本脳循環代謝学会総会 (第20回), 2008. 11.
- 7) 三品雅洋<sup>1,2)</sup>, 石渡喜一<sup>2)</sup>, 石井賢二<sup>2)</sup>, 北村 伸<sup>3)</sup>, 濱本 真, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究施設, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院内科, 4) 日本医科大学内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)) : 未治療パーキンソン病における抗パーキンソン病薬投与後の被殻アデノシン A<sub>2A</sub> 受容体分布の変化. 日本脳循環代謝学会総会 (第20回), 2008. 11.
- 8) 福地孝明<sup>1,2)</sup>, 大鳥達雄<sup>2)</sup>, 駒場祐一<sup>2)</sup>, 大久保誠二<sup>2)</sup>, 西山康裕<sup>2)</sup>, 長尾毅彦<sup>3)</sup>, 岡村正哉<sup>3)</sup>, 野本達也<sup>2,4)</sup>, 水越元気<sup>2,4)</sup>, 中嶋信人<sup>2,4)</sup>, 萩原 浩<sup>2,5)</sup>, 阿部 新<sup>2,5)</sup>, 三品雅洋<sup>1,2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 日本医科大学内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門), 3) 荏原病院神経内科, 4) 北村山公立病院神経内科, 5) 塩田病院脳神経内科) : 日本医科大学神経内科関連5病院での rt-PA 投与成績の検討 : その1. 日本脳循環代謝学会総会 (第20回), 2008. 11.
- 9) 福地孝明<sup>1,2)</sup>, 大鳥達雄<sup>2)</sup>, 駒場祐一<sup>2)</sup>, 大久保誠二<sup>2)</sup>, 西山康裕<sup>2)</sup>, 長尾毅彦<sup>3)</sup>, 岡村正哉<sup>3)</sup>, 野本達也<sup>2,4)</sup>, 水越元気<sup>2,4)</sup>, 中嶋信人<sup>2,4)</sup>, 萩原 浩<sup>2,5)</sup>, 阿部 新<sup>2,5)</sup>, 三品雅洋<sup>1,2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 日本医科大学内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門), 3) 荏原病院神経内科, 4) 北村山公立病院神経内科, 5) 塩田病院脳神経内科) : 日本医科大学神経内科関連5病院での rt-PA

投与成績の検討：その2. 日本脳循環代謝学会総会（第20回），2008. 11.

- 10) 熊谷智昭<sup>1)</sup>, 雨宮志門<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>1,2)</sup>, 濱本 真<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学内科学（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター）：一過性全健忘におけるeZISを用いた脳血流評価. 日本脳循環代謝学会総会（第20回），2008. 11.
- 11) 三品雅洋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター）：千葉県統一バスの進行状況. 印旛脳卒中地域連携バス講演会（第3回），2008. 12.
- 12) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 佐藤英一<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 新松戸中央総合病院内科）：発熱と一過性のhemiballismで発症した慢性透析患者の1例. 千葉北総神経放射線研究会（第62回），2009. 2.
- 13) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 渡辺 玲<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>1)</sup>, 廣中浩平<sup>1)</sup>, 國保倫子<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター）：MRI異常所見を伴う頭痛患者. 千葉北総神経放射線研究会（第62回），2009. 2.
- 14) 三品雅洋<sup>1,2)</sup>, 小林士郎<sup>1,3)</sup>, 水成隆之<sup>1,3)</sup>, 渡辺 玲<sup>1,3)</sup>, 金 景成<sup>1,3)</sup>, 立山幸次郎<sup>1,3)</sup>, 大村朋子<sup>1,3)</sup>, 廣中浩平<sup>1,3)</sup>, 國保倫子<sup>1,3)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 日本医科大学内科学（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）, 3) 日本医科大学脳神経外科）：印旛脳卒中地域連携バス（InCliPS）の運用実績. 日本脳卒中学会総会（第34回），2009. 3.
- 15) 三品雅洋<sup>1,2)</sup>, 小林士郎<sup>1,3)</sup>, 水成隆之<sup>1,3)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 日本医科大学内科学（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）, 3) 日本医科大学脳神経外科）：千葉県における血栓溶解療法の実態. 日本脳卒中学会総会（第34回），2009. 3.
- 16) 古口徳雄<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>2)</sup>, 小沢義典<sup>3)</sup>, 近藤国嗣<sup>4)</sup>, 松永高志<sup>5)</sup> (1) 千葉県救急医療センター, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 3) 千葉労災病院脳神経外科, 4) 東京湾岸リハビリテーションセンターリハビリテーション科, 5) 旭中央病院神経内科）：千葉県における全県共用脳卒中連携バス作成の取り組み. 日本脳卒中学会総会（第34回），2009. 3.



### 3. 内科学講座（血液・消化器・内分泌代謝部門）

#### 〔付属病院血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科〕

#### 研究概要

<血液内科>血液病学の基礎的研究では、昨年度に引き続き急性白血病、慢性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群など重要な造血器腫瘍性疾患の発症機序、病態解析などに関して分子生物学、細胞生物学、腫瘍免疫学などの方法論を駆使して検討を行い、さらに、骨髄不全症候群の原因遺伝子の解明を行い、報告した。また真性多血症、本態性血小板血症などの骨髄増殖性疾患の発癌機構、病態についても解析をすすめた。臨床的研究では、急性白血病の臨床病態解析、悪性リンパ腫の化学療法に関する解析などを行い、造血幹細胞移植では臍帯血移植、骨髄非破壊的移植の治療成績改善に関する治療研究を行った。

<消化器内科>消化器内科では、(1) 食道運動機能異常症の病態生理学的検討、(2) *Helicobacter pylori* 感染の意義、(3) ディスペプシア（機能的胃症）の臨床的、病態生理学的研究、(4) 炎症性腸疾患の病態生理に関する検討、(5) 大腸腺腫、癌の病態に関する検討、(6) カプセル内視鏡、小腸内視鏡を用いた小腸潰瘍性疾患、出血性疾患の臨床的解析、(7) 門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術に関する臨床的検討、(8) 慢性活動性C型肝炎の治療と免疫能、など臨床的課題を中心に昨年度に引き続き研究を進め、(9) COX-2の消化管癌に対する役割など基礎的研究も実施されている。

<内分泌代謝内科>基礎研究 (1) 成長ホルモン分泌と食欲調節 (2) 培養脂肪細胞の代謝と成長ホルモン (3) 過酸化リン脂質、フォスファチジルコリンヒドロペルオキシドPCOOHが単球由来細胞 (THP-1) 接着能を亢進。臨床研究 (1) 血清アポB48と動脈硬化 (2) 糖尿病における $\alpha$ グルコシダーゼ阻害剤の治療効果 (3) スタチン治療と頸動脈硬化—3年間の前向き研究 (4) 牛乳による脂質代謝と消化管ホルモンの変化 (5) 内分泌疾患に対する治療介入研究 (6) 厚生労働省科学研究班の一員として異なった3つのテーマに参加 (7) 農水省「生物系産業創出のための異分野融合研究支援事業」を展開。

#### 研究業績

##### 論文

##### 〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Tajika K, Mizuki T, Nakayama K, Yamaguchi H : Umbilical-cord blood transplantation conditioned with a reduced intensity-regimen is a practical salvage therapy for severe aplastic anemia refractory to immunosuppressive therapy with antithymocyte globulin/ciclosporin. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (6) : 424-429.
- 2) Hirokawa M, Sawada K, Fujishima N, Nakao S, Urabe A, Dan K, Fujisawa S, Yonemura Y, Kawano F, Omine M, Ozawa K : Long-term response and outcome following immuno-suppressive therapy in thymoma-associated pure red cell aplasia : a nationwide cohort study in Japan by the PRCA Collaborative Study Group. Haematologica 2008 ; 93(1) : 27-33.
- 3) Tamai H, Yamaguchi H, Inokuchi K, Dan K, et al. : Clinical features of adult acute leukemia with 11q23 abnormalities in Japan : a co-operative multicenter study. Int J Hematol 2008 ; 87 (2) : 195-202.
- 4) 三宅一昌<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 消化器内科) : *H. pylori* 感染によって誘導される IL-8 と *H. pylori* 関連胃炎に対してテブレノンはどう作用するか。消化器の臨床 2008 ; 11 (1) : 19-24.
- 5) 山口博樹 : 血液疾患における真菌感染症のマネージメント : アスペルギルス感染症を中心に。老年者造血器疾患研究会誌 2008 ; 17 (2) : 3-11.

6) 山口博樹：悪性リンパ腫に対する自家造血幹細胞移植. 内科 2008；102 (2)：280-287.

追加分総説：

- 1) 楠 正典, 三宅一昌, 坂本長逸：【膠原病の合併症とその対策】消化性潰瘍. リウマチ科 2008；39 (2)：99-103.
- 2) 玉井勇人, 猪口孝一：11q23転座型急性白血病の予後と治療. 臨床血液 2008；49 (3)：193-200.
- 3) 坂本長逸：疫学研究の立場から (1) 総論. 臨床消化器内科 2008；24 (4)：443-446.
- 4) 檀 和夫：薬剤性貧血. 日本臨床〈特集 貧血〉 2008；66 (3)：540-543.

(1) 原著：

- 1) Takeuchi J, Ly H, Yamaguchi H, Carroll K, Kosaka F, Sawaguchi K, Mitamura Y, Watanabe A, Gomi S, Inokuchi K, Dan K：Identification and functional characterization of novel telomerase variant alleles in Japanese patients with bone-marrow failure syndromes. Blood Cells Mol Dis 2008；40 (2)：185-191.
- 2) Hotta K<sup>1)</sup>, Nkakta Y<sup>2)</sup>, Matsuo T<sup>2)</sup>, Kamohara S<sup>3)</sup>, Kotani K<sup>4)</sup>, Komatsu R<sup>5)</sup>, Itoh N<sup>6)</sup>, Mineo I<sup>7)</sup>, Wada J<sup>8)</sup>, Masuzaki H<sup>9)</sup>, Yoneda M<sup>10)</sup>, Nakajima A, Miyazaki S, Tokunaga K, Kawamoto M, et al. (1) 理化学研究所, 2) 筑波大学体育科学系, 3) 東京医科大学, 4) 大阪大学大学院代謝内科, 5) りんくう総合医療センター, 6) 市立豊中病院, 7) 大手前病院, 8) 岡山大学大学院腎・免疫・内分泌代謝科学分野, 9) 京都大学大学院内分泌・代謝内科, 10) 横浜市立大学大学院内分泌・代謝内科)：Variations in the FTO gene are associated with severe obesity in the Japanese. J Hum Genet 2008；53 (6)：546-553.
- 3) Satoh C, Dan K, Yamashita T, Jo R, Tamura H, Ogata K：Flow cytometric parameters with little interexaminer variability for diagnosing low-grade myelodysplastic syndromes. Leuk Res 2008；32 (5)：699-707.
- 4) Tamai H, Inokuchi K, Tajika K, Dan K, et al.：Treatment of relapsed acute myeloid leukemia with MLL/AF6 fusion after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation with gemtuzumab ozogamicin with a long interval followed by donor lymphocyte infusion. Leukemia. 2008；22 (6)：1273-1274.
- 5) Hotta K<sup>1)</sup>, Nakata Y<sup>2)</sup>, Matsuo T<sup>2)</sup>, Kamohara S<sup>3)</sup>, Kotani K<sup>4)</sup>, Komatsu R<sup>5)</sup>, Itoh N<sup>6)</sup>, Mineo I<sup>7)</sup>, Wada J<sup>8)</sup>, Matsuzaki H<sup>9)</sup>, Yoneda M<sup>10)</sup>, Nakajima A, Miyazaki S, Tokunaga K, Shinichi O, et al. (1) 東京大学理化学研究所, 2) 筑波大学体育科学系, 3) 東京医科大学, 4) 大阪大学大学院代謝内科, 5) りんくう総合医療センター, 6) 市立豊中病院, 7) 大手前病院, 8) 岡山大学大学院腎・免疫・内分泌代謝内科学分野, 9) 京都大学大学院内分泌・代謝内科, 10) 横浜市立大学大学院消化器内科)：Variations in the FTO gene are associated with severe obesity in the Japanese. J Hum Genet 2008；53 (6)：546-553.
- 6) Shimano H<sup>1)</sup>, Arai H<sup>2)</sup>, Harada-Shiba M<sup>3)</sup>, Ueshima H<sup>4)</sup>, Ohta T<sup>5)</sup>, Yamashita S<sup>6)</sup>, Gotoda T<sup>7)</sup>, Kiyohara H<sup>8)</sup>, Hayashi T, Kobayashi J<sup>9)</sup>, Shimamoto K, Bujo H, Ishibashi S, Shirai K, Oikawa S<sup>10)</sup> (1) 筑波大学, 2) 京都大学, 3) 大阪国立循環器病センター, 4) 滋賀医科大学, 5) 琉球大学, 6) 大阪大学, 7) 東京大学, 8) 九州大学, 9) 金沢大学, 10) 日本医科大学内科学講座内分泌代謝部門)：Proposed Guidelines for Hypertriglyceridemia in Japan with Non-HDL Cholesterol as the Second Target. J Atheroscler Thromb 2008；15 (3)：116-121.
- 7) Hotta N<sup>1)</sup>, Kawamori R<sup>2)</sup>, Atsumi Y<sup>3)</sup>, Baba M<sup>4)</sup>, Kishikawa H<sup>5)</sup>, Nakamura J<sup>6)</sup>, Oikawa S<sup>7)</sup>, Yamada N<sup>8)</sup>, Yasuda H<sup>9)</sup>, Shigeta Y<sup>9)</sup> (1) 中部労災病院内科, 2) 順天堂大学医学部糖尿病代謝科, 3) 東京済生会中央病院, 4) 弘前大学, 5) 熊本大学保健管理センター, 6) 名古屋大学, 7) 日本医科大学内科学講座内分泌代謝部門, 8) 筑波大学, 9) 滋賀医科大学)：Stratified analysis for selecting appropriate target patients with diabetic peripheral neuropathy for long-term treatment with an aldose reductase inhibitor, eplrestat. Diabet Med 2008；25 (7)：818-825.

- 8) Tanaka K<sup>1</sup>, Ishikawa Y<sup>2</sup>, Yokoyama M<sup>2</sup>, Origasa H<sup>1</sup>, Matsuzaki M<sup>3</sup>, Saito Y<sup>4</sup>, Matsuzawa Y<sup>5</sup>, Sasaki J<sup>6</sup>, Oikawa S<sup>7</sup>, Hishida H<sup>8</sup>, Itakura H<sup>9</sup>, Kita T<sup>10</sup>, Kitabatake A, Nakaya N, Sakata T, et al. (1) 富山大学, (2) 神戸大学, (3) 山口大学, (4) 千葉大学, (5) 住友病院, (6) 国際医療福祉大学, (7) 日本医科大学内科学講座内分泌代謝部門, (8) 藤田保健衛生大学, (9) 茨城キリスト教大学, (10) 京都大学) : Reduction in the recurrence of stroke by eicosapentaenoic acid for hypercholesterolemic patients : subanalysis of the JELIS trial. *Stroke* 2008 ; 39 (7) : 2052-2058.
- 9) Itakura H<sup>1</sup>, Kita T<sup>2</sup>, Mabuchi H<sup>3</sup>, Matsuzaki M<sup>4</sup>, Matsuzawa Y<sup>5</sup>, Nakaya N<sup>6</sup>, Oikawa S<sup>7</sup>, Saito Y<sup>8</sup>, Sasaki J<sup>9</sup>, Shimamoto K<sup>10</sup> (1) 茨城キリスト教大学, (2) 京都大学, (3) 金沢大学, (4) 山口大学, (5) 住友病院, (6) 中谷内科クリニック, (7) 日本医科大学内科学講座内分泌代謝部門, (8) 千葉大学, (9) 国際医療福祉大学, (10) 札幌医科大学) : Relationship between coronary events and serum cholesterol during 10 years of low-dose simvastatin therapy-Long-term efficacy and safety in Japanese patients with hypercholesterolemia in the Japan Lipid Intervention Trial (J-LIT) extension 10 study, prospective large-scale observational cohort study- Mabuchi H, Matsuzaki M, Matsuzawa Y, Nakaya N, Oikawa S, Saito Y, Sasaki J, Shimamoto K, The J-LIT Study Group. *Circ J* 2008 ; 72 (7) : 1218-1224.
- 10) Hotta N<sup>1</sup>, Kawamori R<sup>2</sup>, Atsumi Y<sup>3</sup>, Baba M<sup>4</sup>, Kishikawa H<sup>5</sup>, Nakamura J<sup>6</sup>, Oikawa S, Yamada N<sup>7</sup>, Yasuda H<sup>8</sup>, Shigeta Y, The Adct Study Group (1) 中部労災病院内科, (2) 順天堂大学医学部糖尿病代謝科, (3) 東京済生会中央病院, (4) 弘前大学, (5) 熊本大学, (6) 名古屋大学内科, (7) 筑波大学内科, (8) 滋賀医科大学内科) : Stratified analysis for selecting appropriate target patients with diabetic peripheral neuropathy for long-term treatment with an aldose reductase inhibitor, eplrestat. *Diabet Med* 2008 ; 25 (7) : 818-825.
- 11) Tanaka K, Ishikawa Y, Yokoyama M, Origasa H, Matsuzaki M, Saito Y, Matsuzawa Y, Sasaki J, Oikawa S, Hishida H, Itakura H, Kita T, Kitabatake A, Nakaya N, Sakata T : Reduction in the recurrence of stroke by eicosapentaenoic acid for hypercholesterolemic patients : subanalysis of the JELIS trial. *Stroke* 2008 ; 39 (7) : 2052-2058.
- 12) Itakura H, Kita T, Mabuchi H, Matsuzaki M, Matsuzawa Y, Nakaya N, Oikawa S, Saito Y, Sasaki J, Shimamoto K, The J-Lit Study Group : Relationship between coronary events and serum cholesterol during 10 years of low-dose simvastatin therapy-Long-term efficacy and safety in Japanese patients with hypercholesterolemia in the Japan Lipid Intervention Trial (J-LIT) extension 10 study. prospective large-scale observational cohort study- *Circ J* 2008 ; 72 : 1218-1224.
- 13) Tanimura K, Nakajima Y, Nagao M, Ishizaki A, Kano T, Harada T, Okajima F, Sudo M, Tamura H, Ishii S, Sugihara H, Yamashita S, Arai A, Oikawa S : Association of serum apolipoprotein B48 level with the presence of carotid plaque in type 2 diabetes mellitus. *Diab Res Clin Pract* 2008 ; 81 : 338-344.
- 14) Nakagawa K, Kubota H, Tsuzuki T, Kariya J, Kimura T, Oikawa S, Miyazawa T : Validation of an ion trap tandem mass spectrometric analysis of mulberry 1-deoxynojirimycin in human plasma : application to pharmacokinetic studies. *Biosci Biotechnol Biochem* 2008 ; 72 (8) : 2210-2213.
- 15) Tanimura K<sup>1</sup>, Nakajima Y<sup>1</sup>, Nagao M<sup>1</sup>, Ishizaki A<sup>1</sup>, Kano T<sup>1</sup>, Harada T<sup>1</sup>, Okajima F<sup>1</sup>, Sudo M<sup>1</sup>, Tamura H<sup>1</sup>, Ishii S<sup>1</sup>, Yamashita S<sup>2</sup>, Asai A<sup>1</sup>, Oikawa S<sup>1</sup> (1) 日本医科大学内科学講座内分泌代謝部門, (2) 大阪大学) : Association of serum apolipoprotein B48 level with the presence of carotid plaque in type 2 diabetes mellitus. *Diab Res Clin Pract* 2008 ; 81 (3) : 338-344.
- 16) Hotta K<sup>1</sup>, Nakamura M<sup>1</sup>, Nakata Y<sup>2</sup>, Matsuo T<sup>3</sup>, Kamohara S<sup>4</sup>, Kotani K<sup>5</sup>, Komatsu R<sup>6</sup>, Itoh N<sup>7</sup>, Mineo I<sup>8</sup>, Wada J<sup>9</sup>, Masuzaki H<sup>10</sup>, Yoneda M, Nakajima A, Miyazaki S, Tokunaga K, et al. (1) 理化学研究所, (2) 筑波大学体育科学系, (3) 東京医科大学, (4) 大阪大学大学院代謝内科, (5) りんくう総合医療センター, (6) 市立豊中病院, (7) 大手前病院, (8) 岡山大学大学院・腎・免疫・内分泌代謝内科, (9) 京都大学大学院内分

- 泌・代謝内科, <sup>10)</sup> 横浜市立大学大学院消化器内科) : INSIG2 gene rs7566605 polymorphism is associated with severe obesity in Japanese. *J Hum Genet* 2008 ; 53 (9) : 857-862.
- 17) Saito Y, Yokoyama M, Origasa H, Matsuzaki M, Matsuzawa Y, Ishikawa Y, Oikawa S, Sasaki J, Hishida H, Itakura H, Kita T, Kitabatake A, Nakaya N, Sakata T, Shimada K : Effects of EPA on coronary artery disease in hypercholesterolemic patients with multiple risk factors : Sun-analysis of primary prevention cases from the Japan EPA Lipid Intervention Study (JELIS). *Atherosclerosis* 2008 ; 200 (1) : 135-140.
  - 18) Ibusuki D, Nakagawa K, Asai A, Oikawa S, Masuda Y, Suzuki T, Miyazawa T : Preparation of pure lipid hydroperoxides. *J Lipid Res* 2008 ; 49 : 2668-2677.
  - 19) Shibata A, Nakagawa K, Sookwong P, Tsuzuki T, Oikawa S, Miyazawa T : Tumor anti-angiogenic effect and mechanism of action of delta-tocotrienol. *Biochem Pharmacol* 2008 ; 76 : 330-339.
  - 20) Tamai H, Yamaguchi H, Takahashi S, Tojo A, Hamaguchi H, Kobayashi T, Akiyama H, Sakamaki H, Okumura H, Nakao S, Arai A, Miura O, Inokuchi K, Dan K : Treatment of de novo adult acute myeloid leukaemia (AML) with t (6 ; 11) (q27 ; q23) by allogeneic haematopoietic stem cell transplantation (allo-HSCT) in first complete remission (CR). *Bone marrow transplantation* 2008 ; 42 (8) : 553-554.
  - 21) Shimamoto H, Arai H, Harada-Shiba M, Ueshima H, Ohta T, Yamashita S, Gotoda T, Kiyohara Y, Shimamoto K, Bujyo H, Isibashi S, Shirai K, Oikawa S, Saito Y, Yamada N : Proposed Guidelines for Hypertriglyceridemia in Japan with Non-HDL Cholesterol as the Second Target. *J Atheroscler Thromb* 2008 ; 15 : 116-121.
  - 22) Ishii S, Kamegai J, Tamura H, Shimizu T, Sugihara H, Oikawa S : Triiodothyronine (T3) stimulates food intake via enhanced hypothalamic AMP-activated kinase activity. *Regul Pept* 2008 ; 151 (1) : 164-169.
  - 23) Nakasone H, Izutsu K, Wakita S, Yamaguchi H, Muramatsu-Kida M, Usuki K : Autologous stem cell transplantation with PCR-negative graft would be associated with a favorable outcome in core-binding factor acute myeloid leukemia. *Biol Blood Marrow Transplant* 2008 ; 14 (11) : 1262-1269.
  - 24) Kanda Y<sup>1)</sup>, Okamoto S<sup>2)</sup>, Tauchi T<sup>3)</sup>, Kizaki M<sup>4)</sup>, Inokuchi K, Yabe M<sup>2)</sup>, Yokoyama K<sup>2)</sup>, Ito Y<sup>3)</sup>, Kimura Y<sup>3)</sup>, Higashihara M<sup>3)</sup>, Bessho M<sup>6)</sup>, Ando K<sup>7)</sup>, Chiba S<sup>8)</sup>, Kurokawa M<sup>9)</sup>, Dan K <sup>1)</sup> Division of Hematology, Saitama Medical Center, Jichi Medical University, <sup>2)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Keio University School of Medicine, <sup>3)</sup> First Department of Internal Medicine, Tokyo Medical University, <sup>4)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Saitama Medical Center, Saitama Medical University, <sup>5)</sup> Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metabolism), <sup>6)</sup> Department of Hematology, Kitasato University School of Medicine, <sup>7)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Saitama Medical University, <sup>8)</sup> Division of Hematology and Oncology, Department of Internal Medicine, Tokai University School of Medicine, <sup>9)</sup> Department of Cell Therapy and Transplantation Medicine, University of Tokyo) : Multicenter prospective trial evaluating the tolerability of imatinib for Japanese patients with chronic myelogenous leukemia in the chronic phase : does body weight matter?. *Am J Hematol* 2008 ; 83 (11) : 835-839.
  - 25) Kaito C, Omae Y, Matsumoto Y, Nagata M, Yamaguchi H, Aoto T, Ito T, Hiramatsu K, Sekimizu K : A novel gene, fudoh, in the SCCmec region suppresses the colony spreading ability and virulence of *Staphylococcus aureus*. *PLoS ONE* 2008 ; 3 (12) : e3921.
  - 26) Ogata K : Diagnostic flow cytometry for low-grade myelodysplastic syndromes. *Hematol Oncol* 2008 ; 26 (4) : 193-198.
  - 27) Tamai H, Yamaguchi H, Tajika K, Inokuchi K, Dan K, et al. : Treatment of adult AML with t (6 ; 11)

- (q27 ; q23) by allogeneic hematopoietic SCT in the first CR. Bone Marrow Transplantation 2008 ; 42 : 553-554.
- 28) Futagami S, Hiratsuka T, Shindo T, Hamamoto T, Horie A, Ueki A, Kusunoki M, Gudis K, Miyake K, Tsukui T, Sakamoto C : Extracellular HSP70 blocks CD40L-induced apoptosis and tubular formation in endothelial cells. J Gastroenterol Hepatol 2008 ; (Suppl 2) : S222-S228.
- 29) Futagami S, Kawagoe T, Horie A, Shindo T, Hamamoto T, Suzuki K, Kusunoki M, Miyake K, Gudis K, Tsukui T, Crowe S<sup>1</sup>, Sakamoto C ( <sup>1</sup> Virginia Univ. ) : Celecoxib inhibits apurinic/aprimidinic endonuclease-1 expression and prevents gastric cancer in *Helicobacter pylori*-infected Mongolian gerbils. Digestion 2008 ; (78) : 93-102.
- 30) Futagami S, Hiratsuka T, Shindo T, Horie A, Hamamoto T, Kusunoki M, Miyake K, Gudis K, Tsukui T, Crowe S<sup>1</sup>, Sakamoto C ( <sup>1</sup> Virginia Univ ) : Expression of apurinic/aprimidinic endonuclease-1 (APE-1) in *H. pylori* associated gastritis, gastric adenoma, and gastric cancer. Helicobacter 2008 ; (13) : 209-218.
- 31) Futagami S, Hiratsuka T, Shindo T, Hamamoto T, Horie A, Kusunoki M, Miyake K, Gudis K, Tsukui T, Sakamoto C : COX-2 and CCR2 induced by CD40 ligand and MCP-1 are linked to VEGF production in endothelial cells. Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids 2008 ; (78) : 137-146.
- 32) Futagami S, Tatsuguchi A, Hiratsuka T, Shindo T, Hamamoto T, Horie A, Kusunoki M, Miyake K, Gudis K, Tsukui T, Sakamoto C : MCP-1 and CD40 ligation have a synergistic effect on VEGF production through COX-2 upregulation in gastric cancer. J Gastroenterol 2008 ; (43) : 31-39.
- 33) Kanda Y, Dan K : Multicenter prospective trial evaluating the tolerability of imatinib for Japanese patients with chronic myelogenous leukemia in the chronic phase : does body weight matter?. Am J Hematol 2008 ; 83 : 835-839.
- 34) Asai A, Okajima F, Nakagawa K, Ibusuki D, Tanimura K, Nakajima Y, Nagao M, Sudo M, Harada T, Miyazawa T, Oikawa S : Phosphatidylcholine hydroperoxide-induced THP-1 cell adhesion to intracellular adhesion molecule-1. J Lipid Res 2009 ; 50 : 957-965.
- 35) Miyake K<sup>1</sup>, Kusunoki M<sup>1</sup>, Shinji Y<sup>1</sup>, Shindo T<sup>1</sup>, Kawagoe T<sup>1</sup>, Futagami S<sup>1</sup>, Gudis K<sup>1</sup>, Tsukui T<sup>1</sup>, Nakajima A<sup>2</sup>, Sakamoto C<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology, Nippon Medical School, <sup>2</sup> Department of Joint Disease and Rheumatism, Nippon Medical School ) : Bisphosphonate increases risk of gastroduodenal ulcer in rheumatoid arthritis patients on long-term nonsteroidal antiinflammatory drug therapy. J Gastroenterol 2009 ; 44 (2) : 113-120.
- 36) Yamashita T, Tamura H, Satoh C, Shinya E<sup>1</sup>, Takahashi H<sup>1</sup>, Chen L<sup>2</sup>, Kondo A, Tsuji T<sup>3</sup>, Dan K, Ogata K ( <sup>1</sup> 日本医科大学微生物学・免疫学, <sup>2</sup> Department of Dermatology, Department of Oncology and Institute for Cell Engineering, Johns Hopkins University School of Medicine, <sup>3</sup> 東京理科大学基礎工学部 ) : Functional B7.2 and B7-H2 molecules on myeloma cells are associated with a growth advantage. Clin Cancer Res 2009 ; 15 (3) : 770-777.
- 37) Shindo T, Futagami S, Hiratsuka T, Horie A, Hamamoto T, Ueki N, Kusunoki M, Miyake K, Gudis K, Tsukui T, Iwakiri K, Sakamoto C : Comparison of gastric emptying and plasma ghrelin levels in patients with functional dyspepsia and non-erosive reflux disease. Digestion 2009 ; (79) : 65-72.
- 38) Fujimori S<sup>1</sup>, Gudis K<sup>1</sup>, Mitsui K<sup>1</sup>, Seo T<sup>1</sup>, Yonezawa M<sup>1</sup>, Tanaka S<sup>1</sup>, Tatsuguchi A<sup>1</sup>, Sakamoto C<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology, Nippon Medical School ) : A randomized controlled trial on the efficacy of synbiotic versus probiotic or prebiotic treatment to improve the quality of life in patients with ulcerative colitis. Nutrition 2009 ; 25 : 520-525.



- 39) 金沢秀典, 榎原義之, 福田 健, 近藤千紗, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 滝 保彦, 木村 祐, 長田祐二, 中塚雄久, 坂本長逸: 経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術 (TIPS) による難治性腹水50例の治療成績. 日本消化器病学会雑誌 2009; 106 (3): 356-369.
- 40) 山口博樹: テロメア異常と骨髄不全症. 日本臨床 2008; 66: 483-489.
- 41) Kizaki M<sup>1</sup>, Okamoto S<sup>2</sup>, Tauchi T<sup>3</sup>, Tanaka H<sup>4</sup>, Tanimoto M<sup>5</sup>, Inokuchi K, Murayama T<sup>6</sup>, Saburi Y<sup>7</sup>, Hino M<sup>8</sup>, Tsudo M<sup>9</sup>, Shimomura T<sup>10</sup>, Isobe Y<sup>10</sup> (1) Department of Hematology, Saitama Medical Center, Saitama Medical University, (2) Division of Hematology, Keio University School of Medicine, (3) First Department of Internal Medicine, Tokyo Medical University, (4) Department of Hematology and Oncology, Research Institute for Radiation Biology and Medicine, Hiroshima University, (5) Department of Hematology, Oncology and Respiratory Medicine, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, (6) Hematology Division, Department of Medicine, Hyogo Cancer Center, (7) Department of Hematology, Oita Prefectural Hospital, (8) Clinical Hematology and Clinical Diagnosis, Graduate School of Medicine, Osaka City University, (9) Department of Hematology, Osaka Red Cross Hospital): Current and future perspectives on the TARGET system: the registration system for Glivec® established by the JSH. Int J Hematol 2008; 88 (4): 409-417.
- 42) 塩井由美子, 平川経晃, 玉井勇人, 中村恭子, 田野崎栄, 田村秀人, 檀 和夫: 急性骨髄性白血病, 扁平上皮癌, び慢性汎細気管支炎様肺病変を併発した慢性活動性EBウイルス感染症. 日本内科学会雑誌 2008; 97 (5): 1081-1082.
- 43) 山口博樹, 猪口孝一: 再生不良性貧血の分子病態. 血液・腫瘍科 2008; 56: 155-161.
- 44) 玉井勇人, 檀 和夫: わが国における成人11q23転座型白血病的臨床的特徴. 血液・腫瘍科 2009; 58 (1): 20-27.
- 45) Satoh C<sup>1</sup>, Tamura H, Yamashita T<sup>1</sup>, Tsuji T, Dan K, Ogata K (1) 東京理科大学基礎工学部): Aggressive characteristics of myeloblasts expressing CD7 in myelodysplastic syndromes. Leuk Res 2009; 33 (2): 326-331.
- 46) 二神生爾, 河越哲郎, 堀江 茜, 新福摩弓, 名児耶浩幸, 進藤智隆, 濱本達彦, 楠 正典, 三宅一昌, 津久井拓, Crowe S<sup>2</sup>, 坂本長逸: 選択的COX-2阻害薬セレコキシブを用いたH. pylori感染胃癌モデルにおけるAPE-1および胃癌発生抑制の検討. Progress in Medicine 2009; 29 (3): 7-12.
- 47) 山口博樹, 猪口孝一: 骨髄増殖性疾患における遺伝子変異の検出法. 細胞 2009; 41 (3): 100-103.
- (2) 総説:
- 1) 金沢秀典: 3大肝疾患 (慢性肝炎, 肝硬変, 肝がん) の病態と治療. 誌上ナースセミナー 2008; 29 (11): 16-26.
- 2) 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 琴寄 誠, 坂本長逸: 逆流性食道炎患者の過剰な食道内酸曝露のメカニズム. 日気食会報 2008; 69: 124-125.
- 3) Nomura T<sup>1</sup>, Miyashita M<sup>1</sup>, Makino H<sup>1</sup>, Okawa K<sup>1</sup>, Iwakiri K, Tajiri T<sup>1</sup> (1) Nippon Medical School, Department of Surgery): Usefulness of the laparoscopic Heller-Dor operation for esophageal achalasia: introducing the procedure to our institution. J Nippon Med Sch 2008; 75: 207-211.
- 4) 金沢秀典: 難治性腹水の診断と治療 最新の知見. 日本医事新報 2009; 4421: 67-72.
- 5) Miyazawa T, Shibata A, Sookwong P, Kawakami Y, Eisuka T, Asai A, Oikawa S, Nakagawa K: Antiangiogenic and anticancer potential of unsaturated vitamin E (tocotrienol). J Nutr Biochem 2009; 20 (2): 79-86.
- 6) 新福摩弓, 二神生爾, 坂本長逸: 胃排出能および血清グレリン値からみたEPS, PDS, NERD群における比較検討. 消化器病学会総会記念誌 2009; 100-104.

- 7) 新福摩弓, 二神生爾, 坂本長逸: 胃排出能および血清グレリン値からみたEPS, PDS, NERD群における比較検討. 消化器科 2009; 48 (4): 1-8.
- 8) 江原彰仁, 田中 周, 辰口篤志, 山田祐希江, 高橋陽子, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 藤森俊二, 坂本長逸: 小腸腫瘍性疾患 上皮性腫瘍 (腺腫, 癌). 胃と腸 2008; 43 (4): 527-532.
- 9) 三宅一昌, 坂本長逸: 誌上ディベート 低用量アスピリンによる消化管傷害の予防について 全例に予防投薬が必要とする立場から. Frontiers in Gastroenterology 2008; 13 (2): 128-135.
- 10) 河越哲郎<sup>1)</sup>, 渡 淳<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 消化器内科, 2) 渡内科胃腸科): 食道・胃・十二指腸出血. 新・図解救急・応急処置ガイド 2008; 25: 739-744.
- 11) 藤森俊二, 坂本長逸: 大腸カプセル内視鏡. 胃と腸 2008; 43 (6): 985-987.
- 12) 藤森俊二, 江原彰仁, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 坂本長逸: 原発性小腸悪性腫瘍. 日本臨牀 2008; 66 (7): 1286-1296.
- 13) 山田裕希江, 田中 周, 小林 剛, 辰口篤志, 坂本長逸: Henoch-Schölein紫斑病における消化管病変の特徴. 日本臨牀 2008; 66 (7): 1350-1356.
- 14) 三宅一昌, 坂本長逸: 胃癌のサーベイランス 臨床診断の立場から. Modern Physician 2008; 28 (7): 997-1001.
- 15) 田中 周, 江原彰仁, 山田裕希江, 小林 剛, 三井啓吾, 藤森俊二, 坂本長逸: 小腸癌. Frontiers in Gastroenterology 2008; 13 (3): 44-47.
- 16) 金沢秀典: 肝硬変の診断と治療. 消化器肝胆膵ケア 2008; 13 (3): 50-55.
- 17) 城所秀子: インターフェロンによる肝炎治療. 消化器肝胆膵ケア 2008; 13 (3): 45-49.
- 18) 河越哲郎<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 消化器内科): 合併症状からのFDの病態解明. 消化器の臨床 2008; 11 (4): 381-384.
- 19) 藤森俊二, 坂本長逸: カプセル内視鏡. 成人病と生活習慣病 2008; 38 (9): 1047-1051.
- 20) 三宅一昌, 坂本長逸: 消化器内科学 低用量アスピリンは潰瘍予防が必要か. 医学のあゆみ 2008; 227 (3): 214-215.
- 21) 三宅一昌, 楠 正典, 進藤智孝, 進士陽子, 河越哲郎, 二神生爾, 津久井拓, 坂本長逸: 長期NSAID服用者において低用量アスピリンの併用が内視鏡的消化性潰瘍に与える影響. 消化器科 2008; 47 (5): 488-493.
- 22) 檀 和夫: 薬剤による血液障害の病態と対応. 臨床免疫・アレルギー科〈特集 薬剤アレルギーの発症メカニズムと治療〉 2008; 50 (5): 568-573.
- 23) 玉井勇人, 檀 和夫: わが国における成人t(11q23)転座型白血病の臨床的特徴. 血液・腫瘍科 2008; 57 (6).
- 24) 檜原義之, 金沢秀典, 福田 健, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 木村 祐, 中塚雄久, 坂本長逸: 適応基準を厳格化した難治性腹水におけるTIPSと腹水穿刺の治療成績の比較. 消化器科 2008; 47 (6): 634-639.
- 25) 檀 和夫: 貧血患者へのアプローチ. medicina〈末梢血検査異常〉 2008; 45 (12): 2166-2170.
- 26) 藤森俊二, 坂本長逸: カプセル内視鏡. メディカル・サイエンス・ダイジェスト 2008; 34 (6): 232-233.
- 27) 岩切勝彦, 田中由理子, 川見典之, 佐野弘仁, 飯泉 匡, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸: アカラシアの病態と診断. 臨床消化器内科 2008; 23: 848-853.
- 28) 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 飯泉 匡, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸: GERD患者の食道運動機能: 食道運動とpHモニタリング. 治療 2008; 90: 1945-1949.
- 29) 飯泉 匡, 岩切勝彦, 星原芳雄, 坂本長逸: 経鼻内視鏡における色素法の有用性. 消化器内視鏡 2008; 20: 518-522.
- 30) 岩切勝彦: プライマリケア時代の症候の診かた, 胸焼け. 診断と治療 2008; 98: 281-287.

- 31) 瀬尾継彦, 藤森俊二, 山田祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸: カプセル内視鏡の適応と成績. 消化器科 2009; 48 (2): 139-144.
- 32) 田中 周, 藤森俊二, 坂本長逸: 小腸疾患: 内視鏡診断の進歩. 日本消化器病学会雑誌 2009; 106: 9-18.
- 33) 飯泉 匡, 岩切勝彦, 星原芳雄, 坂本長逸: 経鼻内視鏡における狭帯域光観察 (Narrow Band Imaging) 併用の有用性. 消化器内視鏡 2009; 21: 91-95.

## 著 書

〔追加分〕

追加分:

- 1) 猪口孝一: 〔分担〕10. 急性骨髄性白血病. 2008今日の指針: 私はこうして治療している (山口 徹, 北原光夫, 福井次夫), 2008; pp500-503, 株式会社医学書院.
- 1) 二神生爾, 坂本長逸: 〔分担〕消化性潰瘍薬物治療指針. 消化器疾患最新の治療 (菅野健太郎, 上西紀夫, 井廻道夫), 2009; pp136-138, 南江堂.
- 2) 岩切勝彦, 田中由理子: 〔分担〕食道アカラシア. 専門医のための薬物療法Q&A, 消化器. (渡辺純夫, 三輪洋人), 2008; pp20-22, 中外医学社.
- 3) 猪口孝一: 〔分担〕10. 慢性骨髄性白血病. 2009 今日の治療指針: 私はこうして治療している (山口 徹, 北原光夫, 福井次夫), 2009; pp501-504, 株式会社医学書院.
- 4) 岩切勝彦: 〔分担〕アカラシア, a 内科的治療. 消化器疾患の最新治療 (菅野健太郎, 上西紀夫, 井廻道夫), 2009; pp95-97, 南江堂.

## 学会発表

〔追加分〕

追加分シンポジウム:

- 1) Futagami S, Hiratsuka T, Hamamoto T, Horie A, Ueki N, Kusunoki M, Gudis K, Miyake K, Tsukui T, Sakamoto C: Extracellular HSP70 blocks CD40L-induced apoptosis and tubular formation in endothelial cells. Taishotoyama International Sympojium on Gastroenterology (the 12th) (下田 (日本)), 2007. 4.

追加分一般講演:

- 1) Kusunoki M, Miyake K, Shindo T, Ueki N, Hiratsuka T, Futagami S, Tsukui T, Sakamoto C: Evaluation of risks for venous thrombosis in endoscopic submucosal dissection. Digestive Disease Week 2007 (Washington DC, USA), 2007. 5.
- 2) Futagami S, Hiratsuka T, Shindo T, Hamamoto T, Ueki N, Kusunoki M, Suzuki K, Miyake K, Gudis K, Tsukui T, Sakamoto C: Mcp-1 and CD40 ligation have synergistic effects on tumorangiogenesis via CCR2 expression through COX-2 upregulation in gastric cancers. Digestive Disease Week 2007 (Washington DC, USA), 2007. 5.
- 3) Ueki N, Miyake K, Kusunoki M, Hamamoto T, Shindo T, Hiratsuka T, Futagami S, Gudis K, Tsukui T, Sakamoto C: Impact of Clarithromycin on second-line treatment based on rabeprazole, amoxicillin and Metronidazole regimen after failure of *Helicobacter pylori* eradication based on proton pump inhibitor, amoxicillin and Clarithromycin in Japan. Digestive Disease Week 2007 (Washington DC, USA), 2007. 5.
- 4) Futagami S, Hiratsuka T, Shindo T, Hamamoto T, Suzuki K, Ueki N, Kusunoki M, Miyake K, Crowe S, Sakamoto C: Expression and Potential Role of Apurinic/Apyrimidic Endonuclease-1 (Ape-1) in Mongolian Gerbil Model of Gastric Caenicinogenesis. Digestive Disease Week 2007 (Washington DC, USA), 2007.

- 5.
- 5) Miyake K, Kusunoki M, Ueki N, Shindo T, Hamamoto T, Hiratsuka T, Futagami S, Tsukui T, Sakamoto C : Potential Risk of Bisphosphonates and the Protective Effects of Histamine-H2 Receptor Antagonists Against Peptic Ulcer Formation in Rheumatoid. Digestive Disease Week 2007 (Washington DC, USA), 2007. 5.
  - 6) Ogata K : Immature dysplastic progenitors by flow cytometry in MDS. The First International ELN Workshop on standardization of flow cytometry in MDS. (Amsterdam), 2008. 3.
  - 7) 二神生爾, 進藤智隆, 平塚哲郎, 濱本達彦, 植木信江, 鈴木健司, 進士陽子, 楠 正典, 三宅一昌, 津久井拓, 岩切勝彦, 坂本長逸 : FD患者における腹部症状と十二指腸粘膜局所におけるマクロファージ浸潤の解析. 日本消化器病学会総会 (第93回), 2007. 4.
  - 8) 濱本達彦, 二神生爾, 鈴木健司, 平塚哲郎, 進藤智隆, 楠 正典, 植木信江, 進士陽子, 三宅一昌, Gudis K, 津久井拓, 坂本長逸 : 選択的COX-2阻害剤cercecoxibを用いた*H. pylori*感染胃癌モデルにおけるMCP-1, CCR2発現の検討. 日本消化器病学会総会 (第93回), 2007. 4.
  - 9) 中島 泰<sup>1)</sup>, 近藤秀士<sup>2)</sup>, 首藤真理子<sup>1)</sup>, 長尾元嗣<sup>1)</sup>, 加納稔子<sup>1)</sup>, 谷村恭子<sup>1)</sup>, 岡島史宜<sup>1)</sup>, 幣憲一郎<sup>3)</sup>, 津田謹輔<sup>4)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院内分泌代謝内科, 2) 日本医科大学付属病院栄養科, 3) 京都大学医学部付属病院疾患栄養治療部, 4) 京都大学人間・環境学) : 糖尿病患者におけるエネルギー消費量の検討. 第50回 日本糖尿病学会年次学術集会, 2007. 5.
  - 10) 谷村恭子, 首藤真理子, 長尾元嗣, 石崎 晃, 中島 泰, 岡島史宜, 田村秀樹, 石井新哉, 杉原 仁, 及川眞一 : 糖尿病治療薬のアポリポ蛋白B48に対する影響. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会, 2007. 5.
  - 11) 中島 泰<sup>1)</sup>, 長尾元嗣<sup>1)</sup>, 首藤真理子<sup>1)</sup>, 加納稔子<sup>1)</sup>, 原田太郎<sup>1)</sup>, 石崎 晃<sup>1)</sup>, 谷村恭子<sup>1)</sup>, 岡島史宜<sup>1)</sup>, 杉原仁<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 内科学講座 内分泌代謝部門) : IIb型(複合型)高脂血症患者におけるメタボリックシンドローム合併頻度の検討. 第39回 日本動脈硬化学会 総会・学術集会, 2007. 7.
  - 12) 谷村恭子, 長尾元嗣, 加納稔子, 石崎 晃, 中島 泰, 岡島史宜, 田村秀樹, 石井新哉, 杉原 仁, 及川眞一 : 糖尿病患者におけるアポリポ蛋白B48と頸動脈プラークとの関係. 第39回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 2007. 7.
  - 13) 中島 泰<sup>1)</sup>, 近藤秀士<sup>2)</sup>, 首藤真理子<sup>1)</sup>, 長尾元嗣<sup>1)</sup>, 加納稔子<sup>1)</sup>, 谷村恭子<sup>1)</sup>, 岡島史宜<sup>1)</sup>, 幣憲一郎<sup>3)</sup>, 津田謹輔<sup>4)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院内分泌代謝内科, 2) 日本医科大学付属病院栄養科, 3) 京都大学医学部付属病院疾患栄養治療部, 4) 京都大学人間・環境学) : 糖尿病患者におけるエネルギー消費量の検討. 第28回 肥満学会年次学術集会, 2007. 10.
  - 14) 中島 泰<sup>1)</sup>, 首藤真理子<sup>1)</sup>, 長尾元嗣<sup>1)</sup>, 加納稔子<sup>1)</sup>, 谷村恭子<sup>1)</sup>, 岡島史宜<sup>1)</sup>, 田村秀樹<sup>1)</sup>, 石井新哉<sup>1)</sup>, 杉原仁<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学内分泌代謝内科) : 抗インスリン抗体陽性に合併した低血糖に対し免疫吸着療法にて改善をみた1例. 第45回 日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2008. 1.
  - 15) 梅澤まり子, 三宅一昌, 進藤智隆, 植木信江, 楠 正典, 河越哲郎, 二神生爾, 津久井拓, 坂本長逸 : 内視鏡的粘膜下層剝離術後の短期・長期的十二指腸胃逆流症について. 日本消化管学会総会 (第4回), 2008. 2.
  - 16) 河越哲郎, 瀬尾継彦, 福田 健, 進藤智隆, 楠 正典, 二神生爾, 三宅一昌, 岩切勝彦, 津久井拓, 坂本長逸 : 当科におけるFunctional dyspepsia (FD) 症例の検討 : 潜在的慢性膵炎の可能性に焦点をあてて. 日本消化管学会総会 (第4回), 2008. 2.
  - 17) 二神生爾, 進藤智隆, 河越哲郎, 濱本達彦, 梅澤まり子, 植木信江, 楠 正典, Gudis K, 三宅一昌, 津久井拓, 岩切勝彦, 坂本長逸 : FD患者における十二指腸粘膜内浸潤細胞の解析. 日本消化管学会総会 (第4回), 2008. 2.
  - 18) 二神生爾, 河越哲郎, 進藤智隆, 濱本達彦, 梅澤まり子, 植木信江, 楠 正典, Gudis K, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸 : 選択的COX-2阻害剤による*H. pylori*感染胃癌モデルにおけるHPG (Heterotropic proliferative

gland) 発生抑制の検討. 日本消化管学会総会 (第4回), 2008. 2.

- 19) 進藤智隆, 二神生爾, 河越哲郎, 濱本達彦, 梅澤まり子, 植木信江, 楠 正典, 三宅一昌, 津久井拓, 岩切勝彦, 坂本長逸: 血清値の ghrelin 胃排出能に及ぼす影響の解析: EPS, PDS, NERD 群の比較検討. 日本消化管学会総会 (第4回), 2008. 2.

(1) 特別講演:

- 1) 岩切勝彦: 逆流性食道炎と非びらん性胃食道逆流症 (NERD) の病態と治療. 盛岡市医師会内科医会, 2008. 4.
- 2) 金沢秀典: 門脈圧亢進症の薬物療法2008. Portal Hemodynamics Forum (第21回), 2008. 11.
- 3) 岩切勝彦: 逆流性食道炎と非びらん性胃食道逆流症 (NERD) の病態. 千代田区医師会・神田医師会合同学術講演会, 2009. 1.
- 4) 岩切勝彦: 逆流性食道炎と非びらん性胃食道逆流症 (NERD) の病態と治療. 飯伊消化器研究会, 2009. 1.
- 5) 岩切勝彦: GERD の病態と治療. 日本医師会生涯教育講座, 2009. 2.

(2) 教育講演:

- 1) 岩切勝彦: PPI 抵抗性 NERD, 食道 pH・多チャンネルインピーダンスモニタリングによる解析. 東京消化管運動機能研究会 (第9回),
- 2) 岩切勝彦: 食道運動異常症の診断と治療. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.

(3) シンポジウム:

- 1) 二神生爾, 進藤智隆, 坂本長逸: 感染後 FD 患者における十二指腸粘膜内マクロファージ浸潤とサイトカイン産生の解析. 第50回日本消化器病学会大会, 2008. 4.
- 2) 河越哲郎, 二神生爾, 坂本長逸: <sup>13</sup>C-acetate 呼気試験法を用いた胃排出能および血清グレリン値からみた FD 患者における検討. 第50回日本消化器病学会大会, 2008. 4.
- 3) 二神生爾, 岩切勝彦, 坂本長逸: 胃排出能および血清グレリン値からみた EPS, PDS, NERD 群における比較検討. 第94回日本消化器病学会総会 (東京), 2008. 10.
- 4) 河越哲郎, 二神生爾, 坂本長逸: PPI 抵抗性 FD 患者に対する masapride 追加投与の効果. 第5回消化管学会 (東京), 2009. 2.
- 5) 江原彰仁, 田中 周, 坂本長逸: 小腸出血症例における出血部位の予測因子の検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第75回), 2008. 5.
- 6) 三宅一昌, 楠 正典, 坂本長逸: 低用量アスピリンと消化管病変 低用量アスピリンの併用が与える, 長期 NSAID 服用者における消化性潰瘍発症への影響. 第94回日本消化器病学会総会 (福岡), 2008. 5.
- 7) 楠 正典, 三宅一昌, 坂本長逸: ESD における深部静脈血栓症のリスク (内視鏡の偶発症対策 術前・術中・術後). 日本消化器内視鏡学会総会 (第76回), 2008. 10.
- 8) 中塚雄久<sup>1)</sup>, 高橋秀実<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学消化器内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学微生物学免疫学): Ribavirin による T-Helper1/2 細胞バランス調節の免疫学的機序と慢性 C 型肝炎に対する Interferon 治療効果の関連. 日本肝臓学会大会 (第12回), 2008. 10.
- 9) 植原義之, 金沢秀典, 坂本長逸: 難治性腹水の臨床像と TIPS による治療成績. 日本肝臓学会東部会 (第37回), 2008. 12.
- 10) 藤森俊二: カプセル内視鏡を用いた NSAIDs による小腸傷害の特徴と対処法の検討. 日本消化管学会 (第5回), 2009. 2.

(4) パネルディスカッション:

- 1) 藤森俊二: スクリーニングモダリティとしてのカプセル内視鏡の有用性. 大腸画像アカデミー (第8回), 2008. 1.
- 2) 藤森俊二, 辰口篤志, 坂本長逸: 健常人と非ステロイド消炎鎮痛剤 (NSAID) による小腸粘膜障害の発生頻度



- と表現形に対する検討. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 3) 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 飯泉 匡, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸: PPI治療抵抗性NERD患者の病態, 24時間食道pH・他チャンネルインピーダンス測定による検討. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
  - 4) 藤森俊二, 辰口篤志, 坂本長逸: 非ステロイド消炎鎮痛剤 (NSAIDs) の小腸障害に対するレバミピド併用効果の検討: 無作為プラセボ対象2重盲検試験. 消化器病学会大会 (第50回), 2008. 10.
  - 5) 榎原義之, 金沢秀典, 坂本長逸: TIPSによる難治性腹水50例の治療成績. 日本消化器病学会大会 (第50回), 2008. 10.
- (5) セミナー:
- 1) 岩切勝彦: 症状は本当に胃酸逆流によるものではないのか. 日本消化器内視鏡学会 (第74回), 2008. 5.
- (6) ワークショップ:
- 1) 二神生爾, 進藤智隆, 坂本長逸: 血清グレリン値の胃排出能に及ぼす影響の解析-EPS, PDS, NERD群の比較検討. 第5回消化管学会 (東京), 2009. 2.
  - 2) 榎原義之, 金沢秀典, 坂本長逸: 適応制限を設けた難治性腹水におけるTIPSと腹水穿刺の治療成績の比較. 日本肝臓学会総会 (第44回), 2008. 6.
  - 3) 張本滉智, 金沢秀典, 滝 保彦, 榎原義之, 中塚雄久, 坂本長逸: 門脈圧亢進症の病態と対策 腹水合併肝硬変の全身血行動態に関する検討 特に難治性腹水例の特異性について. 日本肝臓学会総会 (第44回), 2008. 6.
  - 4) 榎原義之, 金沢秀典, 坂本長逸: C型肝硬変における $\beta$ -IFNの使用経験: 特に門脈圧, 肝線維化マーカー, 肝機能に及ぼす影響について. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第15回), 2008. 11.
  - 5) 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅澤まり子, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸: PPI倍量治療抵抗性NERD患者の病態, 24時間食道pH・多チャンネルインピーダンス測定による検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
  - 6) 城所秀子, 中塚雄久, 金沢秀典, 近藤千紗, 張本滉智, 福田 健, 松下洋子, 片倉玲樹, 厚川正則, 榎原義之, 坂本長逸: 門脈圧亢進症患者に合併する胃粘膜病変に対する門脈圧減圧治療の効果. 日本消化管学会総会 (第5回), 2009. 2.
- (7) 一般講演:
- 1) Tanimura K, Nagao M, Nakajima Y, Ishizaki A, Kano T, Harada T, Okajima F, Sudo M, Tamura H, Ishii S, Sugihara H, Oikawa S: Fasting level and diurnal change of serum apolipoprotein B48 correlated to carotid artery plaque in type 2 diabetes. 77th congress of the European atherosclerosis society (Istanbul, Turkey), 2008. 4.
  - 2) Futgami S, Hiratsuka T, Shindo T, Hamamoto T, Kusunoki M, Miyake K, Tsukui T, Gudis K, Crowe ES, Sakamoto C: Expression of Apurinic/Apyrimidinic Endonuclease-1 (APE) in *H. pylori* Associated Gastritis, Gastric Adenoma and Gastric Cancer. Digestive Disease Week 2008 (San Diego, USA), 2008. 5.
  - 3) Fujimori S, Gudis K, Tatsuguchi A, Takahashi Y, Yamada Y, Sekita Y, Yonezawa M, Sakamoto C: A Randomized Trial On Quality of Life Efficacy of Synbiotic Treatment Versus Probiotic or Prebiotics in Patients with Ulcerative Colitis. Digestive Disease Week 2008 (San Diego, USA), 2008. 5.
  - 4) Tatsuguchi A, Seo T, Shinji S, Yonezawa M, Wada K, Mitsui K, Tanaka S, Fujimori S, Gudis K, Tajiri T, Sakamoto C: Synergistic Effect of Microsomal Prostaglandin E Synthase (MPGES) -1, MPGES-2, and COX-2 Coexpression On Colorectal Cancer Patient Prognosis. Digestive Disease Week 2008 (San Diego, USA), 2008. 5.
  - 5) Fujimori S, Seo T, Gudis K, Tatsuguchi A, Ehara A, Kobayashi T, Mitsui K, Tanaka S, Sakamoto C: Prevention of NSAID-Induced Intestinal Injury By Prostaglandin: A Pilot Randomised Controlled Trial. Di-

- gestive Disease Week 2008 (San Diego, USA), 2008. 5.
- 6) Shindo T, Futagami S, Hiratsuka T, Kusunoki M, Ueki N, Hamamoto T, Gudis K, Miyake K, Iwakiri K, Tsukui T, Sakamoto C : Correlation Between Plasma Ghrelin Levels and Gastric Emptying Time in Patients with Functional Dyspepsia and Non-Erosive Reflux Diseases. Digestive Disease Week 2008 (San Diego, USA), 2008. 5.
  - 7) Gudis K, Fujimori S, Yamada Y, Takahashi Y, Seo T, Ehara A, Kobayashi T, Mitsui K, Yonezawa M, Tanaka S, Tatsuguchi A, Sakamoto C : Small Intestinal Mucosal Breaks with Short-Term Administration of Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drugs. Digestive Disease Week 2008 (San Diego, USA), 2008. 5.
  - 8) Tanaka S, Gudis K, Yamada Y, Takahashi Y, Ehara A, Kobayashi T, Mitsui K, Tatsuguchi A, Fujimori S, Sakamoto C : Unique Redesign of Gadget for Improved DBE Procedure-Usefulness of Double Balloon Endoscopy for Common Chief Complaints and Adaptation of Simple Tool for Efficient Balloon Attachment. Digestive Disease Week 2008 (San Diego, USA), 2008. 5.
  - 9) Ehara A, Tanaka S, Tatsuguchi A, Gudis K, Yamada Y, Takahashi Y, Kobayashi T, Sekita Y, Seo T, Mitsui K, Yonezawa M, Shibata Y, Fujimori S, Sakamoto C : Factors That Help Predict the Bleeding Source in Patients with Obscure Gastrointestinal Bleeding . Digestive Disease Week 2008 (San Diego, USA), 2008. 5.
  - 10) Yamada Y, Tanaka S, Tatsuguchi A, Gudis K, Takahashi Y, Ehara A, Kobayashi T, Seikita Y, Seo T, Mitsui K, Yonezawa M, Shibata Y, Fujimori S, Sakamoto C : Predicting the Probability of Malignancy in Small Intestinal GIST By Double Balloon Endoscopy. Digestive Disease Week 2008 (San Diego, USA), 2008. 5.
  - 11) Takahashi Y, Fujimori S, Gudis K, Yamada Y, Ehara A, Kobayashi T, Seo T, Mitsui K, Yonezawa M, Shibata Y, Tanaka S, Tatsuguchi A, Sakamoto C : Association Between Small Intestinal Villi and Capsule Gastric Transit Time. Digestive Disease Week 2008 (San Diego, USA), 2008. 5.
  - 12) Kusunoki M, Miyake K, Umezawa M, Shindo T, Ueki N, Hiratsuka T, Futagami S, Gudis K, Tsukui T, Sakamoto C : Bisphosphonate Increases Risk of Peptic Ulcer in Rheumatoid Arthritis Patients On Long-Term Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drug Therapy. Digestive Disease Week 2008 (San Diego, USA), 2008. 5.
  - 13) Futagami S, Hiratsuka T, Shindo T, Ueki N, Hamamoto T, Kusunoki M, Miyake K, Gudis K, Tsukui T, Sakamoto C : Extracellular HSP70 Blocks Cd401-Induced Apoptosis and Tubular Formation in Endothelial Cells. Digestive Disease Week 2008 (San Diego, USA), 2008. 5.
  - 14) Iwakiri K, Kawami N, Tanaka Y, Sano H, Hoshihara Y, Sakamoto C : Mechanisms of excessive esophageal acid exposure in patients with reflux esophagitis. 11th World Congress of the International Society for Disease of the Esophagus (Budapest), 2008. 9.
  - 15) Iwakiri K, Kawami N, Tanaka Y, Sano H, Hoshihara Y, Sakamoto C : Effects of hiatus hernia on the way refluxed acid comes up to the proximal esophagus and the rate of transient lower esophageal sphincter relaxations (TLESRs). 11th World Congress of the International Society for Disease of the Esophagus (Budapest), 2008. 9.
  - 16) Kawami N, Iwakiri K, Tanaka Y, Sano H, Hoshihara Y, Sakamoto C : Factors predicting a better outcome after pneumatic dilatation for the treatment of achalasia. 11th World Congress of the International Society for Disease of the Esophagus (Budapest), 2008. 9.
  - 17) Kawami N, Iwakiri K, Tanaka Y, Sano H, Hoshihara Y, Sakamoto C : Acidic, weakly acidic and weakly alkaline reflux in Japanese patients with persistent symptoms of non-erosive reflux disease (NERD), despite double-dose PPIs therapy : A study using combined ambulatory impedance-pH monitoring. 11th World Con-

- gress of the International Society for Disease of the Esophagus (Budapest), 2008. 9.
- 18) Fujimori S, Mitsui K, Tatsuguchi A, Seo T, Takahashi Y, Yamada Y, Gudis K, Ehara A, Kobayashi T, Tanaka S, Sakamoto C : Prevention of NSAID-induced small intestinal injury by rebamipide : A prospective, double-blind, randomized controlled trial. United European Gastroenterology Week Oct 2008 (Wien), 2008. 10.
  - 19) Zhao W, Tamura H, Yamashita T, Kondo A, Ogata K, Dan K : The effect of nartograstim on induction of ENA-78 and IL-8 in the patients with malignant lymphoma. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
  - 20) Narahara Y, Kanazawa H, Fukuda T, Harimoto H, Matsushita Y, Kidokoro H, Katakura T, Atsukawa M, Taki Y, Kimura Y, Nakatsuka K, Sakamoto C : Transjugular intrahepatic portosystemic shunt versus paracentesis plus albumin in selected patients with refractory ascites : a prospective randomized trial. 59th American Association for the Study of Liver Disease (San Francisco), 2008. 11.
  - 21) Fukuda T, Narahara Y, Kanazawa H, Kondo C, Matsushita Y, Harimoto H, Kidokoro H, Katakura T, Atsukawa M, Kimura Y, Taki Y, Nakatsuka K, Sakamoto C : Effects of fasudil on portal and systemic hemodynamics in patients with cirrhosis : a pilot study. 59th American Association for the Study of Liver Disease (San Francisco), 2008. 11.
  - 22) Harimoto H, Kanazawa H, Nakatsuka K, Narahara Y, Taki Y, Kimura Y, Atsukawa M, Katakura T, Kidokoro H, Fukuda T, Matsushita Y, Kondou C, Sakamoto C : The characteristics of systemic hemodynamics in patients with refractory ascites. 59th American Association for the Study of Liver Disease (San Francisco), 2008. 11.
  - 23) Hirakawa T, H, S, T, Yamaguchi H, Gomi S, Yokose N, Inokuchi K, Dan K : Importance of relative dose intensity for survival in diffuse large B-cell lymphoma patients treated with CHOP-like regimen. 50th Annual Meeting of the American Society of Hematology (San Francisco), 2008. 12.
  - 24) Ogata K, Della Porta M, Malcovati L, Picone C, Yokose N, Matsuda A, Yamashita T, Tamura H, Tsukada J, Dan K, Cazzola M : Diagnostic utility of flow cytometry in myelodysplastic syndromes : a prospective validation study in low-risk patients with normal karyotype. 50th American Society of Hematology, Annual Meeting and Exposition. (San Francisco), 2008. 12.
  - 25) Tamura H, Dan K, Yokose N, Iwakiri R, Ohta M, Sakamaki H, Tohyama K, Kondo A, Nakamura K, Yamashita T, Tsuji T, Ogata K : Expression of WT-1 mRNA in Peripheral Blood from Myelodysplastic Syndromes. 50th American Society of Hematology, Annual Meeting and Exposition. (San Francisco), 2008. 12.
  - 26) Yamashita T, Tamura H, Sato C, Kondo A, Shinya E, Takahashi H, Chen L, Tsuji T, Dan K, Ogata K : Expression and function of B7.2 and B7-H2 molecules on myeloma cells. 50th American Society of Hematology, Annual Meeting and Exposition. (San Francisco), 2008. 12.
  - 27) Ogata K : Recent progress in diagnosis and understanding of the pathophysiology in MDS. Asian Hematology Association : The 5th General Assembly with Asian Symposium-2009 (Kobe), 2009. 2.
  - 28) 新福摩弓, 二神生爾, 堀江 茜, 河越哲郎, 進藤智隆, 楠 正典, 三宅一昌, 岩切勝彦, 津久井拓, 坂本長逸 : FD患者の治療指針における13C-acetate呼吸試験法の有用性の検討. 第5回消化管学会 (東京), 2009. 2.
  - 29) 濱本達彦, 二神生爾, 河越哲郎, 進藤智隆, 楠 正典, 堀江 茜, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸 : 選択的COX-2阻害剤celecoxibを用いた*H. pylori*感染胃癌モデルにおけるMCP-1, CCR2発現と胃癌発生抑制の検討. 第5回消化管学会 (東京), 2009. 2.
  - 30) 河越哲郎, 二神生爾, 進藤智隆, 濱本達彦, 楠 正典, 三宅一昌, 津久井拓, 岩切勝彦, 坂本長逸 : Functional dyspepsiaと潜在性膵炎. 第5回消化管学会 (東京), 2009. 2.

- 31) 川見典之, 岩切勝彦, 佐野弘仁, 田中由理子, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸: 食道内酸上昇パターンを含めた, 逆流性食道炎患者における過剰な食道内酸曝露のメカニズム. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 32) 佐野弘仁, 岩切勝彦, 川見典之, 田中由理子, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸: PPI抵抗性 (rabeprazole 20mg) NERD患者の病態, 24時間食道pH・他チャンネルインピーダンス測定による検討. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 33) 守屋慶一, 若林あや子<sup>1)</sup>, 清水真澄<sup>1)</sup>, 渡辺恵理<sup>1)</sup>, 田村秀人, 檀 和夫, 高橋秀実<sup>1)</sup> 日本医科大学微生物学・免疫学): マウスにおける33D1+およびDEC-205+ 樹状細胞のサイトカイン産生と腫瘍増殖抑制に対する効果. 日本血液学会総会 (第70回) / 日本臨床血液学会総会 (第50回), 2008. 10.
- 34) 谷村恭子, 中島 泰, 長尾元嗣, 石崎 晃, 加納稔子, 原田太郎, 岡島史宜, 首藤真理子, 田村秀樹, 石井新哉, 杉原 仁, 及川眞一: 2型糖尿病患者における空腹時アポリポ蛋白B48と頸動脈プラークとの関係. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会 (東京), 2008. 5.
- 35) 中島 泰<sup>1)</sup>, 長尾元嗣<sup>1)</sup>, 首藤真理子<sup>1)</sup>, 加納稔子<sup>1)</sup>, 谷村恭子<sup>1)</sup>, 岡島史宜<sup>1)</sup>, 田村秀樹<sup>1)</sup>, 石井新哉<sup>1)</sup>, 杉原仁<sup>1)</sup>, 小竹英俊<sup>2)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院内科学講座 内分泌代謝内科部門, 2) 仙台赤十字病院健診センター): インスリン抵抗性症例のTG代謝に対する塩酸ビオグリタゾンの影響. 第51回 日本糖尿病学会年次学術集会, 2008. 5.
- 36) 小林 剛, 田中 周, 坂本長逸: ダブルバルーン内視鏡及びカプセル内視鏡を使用したPeutz-Jeghers症候群の有効な検査, 安全な治療法に関する検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第75回), 2008. 5.
- 37) 山田裕希江, 田中 周, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸: ダブルバルーン内視鏡における鎮痛・鎮静剤に関する検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第75回), 2008. 5.
- 38) 川見典之, 岩切勝彦, 佐野弘仁, 田中由理子, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸: 24時間食道pH・インピーダンス測定が有用であったPPI倍量抵抗性NERDの1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第299回), 2008. 5.
- 39) 飯泉 匡, 星原芳雄, 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 坂本長逸: 逆流性食道炎, LA分類のgrade M (minimal change) は胃酸逆流の所見か. 日本消化器内視鏡学会総会 (第75回), 2008. 5.
- 40) 近藤麻加, 水木太郎, 岡部雅弘, 中山一隆, 山口博樹, 中村恭子, 田近賢二, 檀 和夫: Arsenic Trioxide (AS2O3) による再寛解導入8週後に同胞間骨髓移植を施行した再発急性前骨髄球性白血病 (APL) の1例. 日本血液学会第161回例会, 2008. 5.
- 41) 中島 泰<sup>1)</sup>, 近藤秀士<sup>2)</sup>, 首藤真理子<sup>1)</sup>, 長尾元嗣<sup>1)</sup>, 加納稔子<sup>1)</sup>, 谷村恭子<sup>1)</sup>, 岡島史宜<sup>1)</sup>, 幣憲一郎<sup>3)</sup>, 津田謹輔<sup>4)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院内分泌代謝内科, 2) 日本医科大学付属病院栄養科, 3) 京都大学医学部付属病院疾患栄養治療部, 4) 京都大学人間・環境学): 糖尿病患者におけるエネルギー消費量の検討. 第1回 日本肥満症治療学会学術集会, 2008. 6.
- 42) 中島 泰<sup>1)</sup>, 近藤秀士<sup>2)</sup>, 首藤真理子<sup>1)</sup>, 長尾元嗣<sup>1)</sup>, 加納稔子<sup>1)</sup>, 谷村恭子<sup>1)</sup>, 岡島史宜<sup>1)</sup>, 幣憲一郎<sup>3)</sup>, 津田謹輔<sup>4)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院内分泌代謝内科, 2) 日本医科大学付属病院栄養科, 3) 京都大学医学部付属病院疾患栄養治療部, 4) 京都大学人間・環境学): 高齢者糖尿病患者におけるエネルギー消費量の検討. 第50回 日本老年医学会学術集会, 2008. 6.
- 43) 田中由理子, 岩切勝彦, 佐野弘仁, 川見典之, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科): バルーン拡張術が有効であるアカラシア症例の特徴. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 44) 佐野弘仁, 岩切勝彦, 川見典之, 田中由理子, 飯泉 匡, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸: 食道内圧検査にて診断された紡錘型, gradeIのアカラシア患者の食道内視鏡所見. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 45) 川見典之, 岩切勝彦, 佐野弘仁, 田中由理子, 飯泉 匡, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸: 非びらん性胃食道逆流症 (NERD), 逆流性食道炎患者の2次蠕動波を含めた食道運動機能. 日本食道学会学術集会 (第62回),



2008. 6.

- 46) 川見典之, 岩切勝彦, 佐野弘仁, 田中由理子, 飯泉 匡, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸: 食道裂孔ヘルニアの一過性LES弛緩頻度, 一過性LES弛緩時の逆流パターンに及ぼす影響. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 47) 滝 保彦, 金沢秀典, 張本滉智, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 木村 祐, 榎原義之, 中塚雄久, 坂本長逸: 経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術 (TIPS) による難治性腹水50例の治療成績. 日本肝臓学会総会 (第44回), 2008. 6.
- 48) 片倉玲樹<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 張本滉智<sup>1)</sup>, 松下洋子<sup>1)</sup>, 福田 健<sup>1)</sup>, 城所秀子<sup>1)</sup>, 水口淳子<sup>1)</sup>, 木村祐<sup>1)</sup>, 滝 保彦<sup>1)</sup>, 榎原義之<sup>1)</sup>, 金沢秀典<sup>1)</sup>, 高橋秀実<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器内科, 2) 日本医科大学微生物学・免疫学): RibavirinのヒトCD4+CD25+制御性T細胞活性抑制作用がT-Helper1/2細胞バランスに及ぼす影響. 日本肝臓学会総会 (第44回), 2008. 6.
- 49) 谷村恭子, 岡島史宜, 長尾元嗣, 原田太郎, 中島 泰, 首藤真理子, 浅井 明, 及川眞一: ヘパリン負荷試験におけるアポB48の変化について. 第40回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 2008. 7.
- 50) 松田崇史, 谷村恭子, 中島 泰, 長尾元嗣, 原田太郎, 岡島史宜, 首藤真理子, 浅井 明, 及川眞一: 頸動脈プラークは空腹時apoB48値と関係し, 日内変動の増加量と関係しない. 第40回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 2008. 7.
- 51) 中島 泰<sup>1)</sup>, 近藤秀士<sup>2)</sup>, 首藤真理子<sup>1)</sup>, 長尾元嗣<sup>1)</sup>, 加納稔子<sup>1)</sup>, 谷村恭子<sup>1)</sup>, 岡島史宜<sup>1)</sup>, 幣憲一郎<sup>3)</sup>, 津田謹輔<sup>4)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院内分泌代謝内科, 2) 日本医科大学付属病院栄養科, 3) 京都大学医学部付属病院疾患栄養治療部, 4) 京都大学人間・環境学): エネルギー消費量の検討. 第40回 日本動脈硬化学会 総会・学術集会, 2008. 7.
- 52) 名見耶浩幸, 辰口篤志, 山田祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 藤森俊二, 坂本長逸: ダブルバルーン内視鏡で切除した回腸ポリープの1例. 第300回消化器病学会関東支部例会, 2008. 7.
- 53) 福田 健, 片倉玲樹, 近藤千紗, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 厚川正則, 榎原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸: 難治性巨木型食道静脈瘤に対してVasopressin併用硬化療法が有用であったアルコール性肝硬変の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第301回), 2008. 9.
- 54) 中島壮崇, 田村秀人, 山下泰史, 近藤麻加, 趙 万紅, 檀 和夫, 緒方清行: 骨髄異形成症候群 (MDS) における末梢血T細胞上のPD-1発現の検討. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
- 55) 田村秀人, 緒方清行, 横瀬紀夫<sup>1)</sup>, 岩切理歌<sup>2)</sup>, 大田雅嗣<sup>2)</sup>, 坂巻 壽<sup>3)</sup>, 通山 薫<sup>4)</sup>, 山下泰史, 近藤麻加, 守屋慶一, 兵働英也, 塩井由美子, 中村恭子, 檀 和夫 (1) 日本医科大学千葉北総病院血液内科, 2) 都老人医療センター血液科, 3) 都立駒込病院血液内科, 4) 川崎医科大学検査診断学): 骨髄異形成症候群における末梢血WT-1 mRNAの臨床的意義. 日本血液学会総会 (第70回) / 日本臨床血液学会総会 (第50回), 2008. 10.
- 56) 近藤麻加, 田村秀人, 山下泰史, 佐藤千香子, 塩井由美子, 兵働英也, 中村恭子, 常 理紗, 緒方清行, 檀 和夫: 骨髄異形成症候群 (MDS) におけるB7-H1-PD1シグナルの検討. 日本血液学会総会 (第70回) / 日本臨床血液学会総会 (第50回), 2008. 10.
- 57) 山下泰史, 田村秀人, 佐藤千香子, 近藤麻加, 常 理紗, 辻 孝<sup>1)</sup>, 緒方清行, 檀 和夫 (1) 東京理科大学基礎工学部生物工学科): 骨髄腫細胞のB7-H1分子発現: 病態への関与. 日本血液学会総会 (第70回) / 日本臨床血液学会総会 (第50回), 2008. 10.
- 58) 常 理紗, 田村秀人, 山下泰史, 佐藤千香子, 近藤麻加, 辻 孝<sup>1)</sup>, 緒方清行, 檀 和夫 (1) 東京理科大学基礎工学部生物工学科): 好中球におけるLIGHT分子の役割. 日本血液学会総会 (第70回) / 日本臨床血液学会総会 (第50回), 2008. 10.
- 59) 神田善伸, 猪口孝一, 檀 和夫: 本邦の慢性骨髄性白血病患者に対するイマチニブ1日400mg投与の安全性,



- 有効性を評価する多施設共同臨床試験. 日本血液学会総会 (第70回) / 日本臨床血液学会総会 (第50回), 2008. 10.
- 60) 平川経晃, 山口博樹, 横瀬紀夫, 五味聖二, 猪口孝一, 檀 和夫: び慢性大細胞型B細胞性リンパ腫に関して CHOP like regimenにおけるRDIの維持と治療効果の後方視的解析. 日本血液学会総会 (第70回) / 日本臨床血液学会総会 (第50回), 2008. 10.
- 61) 玉井勇人, 近藤麻加, 山口博樹, 田野崎栄, 猪口孝一, 檀 和夫: 当院における急性前骨髄球性白血病34例における寛解前脳出血を来した4例の検討. 日本血液学会総会 (第70回) / 日本臨床血液学会総会 (第50回), 2008. 10.
- 62) 水木太郎, 山口博樹, 三田村佳勇, 小坂文子, 五味聖二, 猪口孝一, 檀 和夫: 造血幹細胞移植が移植後造血幹細胞のテロメア長に与える影響. 日本血液学会総会 (第70回) / 日本臨床血液学会総会 (第50回), 2008. 10.
- 63) 寺田和樹, 上田太一郎, 山口博樹, 三田村佳勇, 小坂文子, 檀 和夫, 猪口孝一: 急性骨髄性白血病 (AML) における予後因子としてのFlt3遺伝子変異の検討. 日本血液学会総会 (第70回) / 日本臨床血液学会総会 (第50回), 2008. 10.
- 64) 脇田知志, 山口博樹, 寺田和樹, 上田太一郎, 三田村佳勇, 小坂文子, 檀 和夫, 猪口孝一: 当院で経験されたCBF-AMLにおける予後とc-kit変異の検討. 日本血液学会総会 (第70回) / 日本臨床血液学会総会 (第50回), 2008. 10.
- 65) 中村恭子, 竹内純子, 玉井勇人, 近藤麻加, 兵働英也, 塩井由美子, 水木太郎, 田村秀人, 緒方清行, 檀 和夫: 急性赤白血病 (AML-M6) 18例の解析. 日本血液学会総会 (第70回) / 日本臨床血液学会総会 (第50回), 2008. 10.
- 66) 山口博樹, 竹内純子, 玉井勇人, 三田村佳勇, 小坂文子, 長谷川節雄, 檀 和夫, 猪口孝一: 本邦の骨髄不全症におけるSBDS遺伝子異常の検索. 日本血液学会総会 (第70回) / 日本臨床血液学会総会 (第50回), 2008. 10.
- 67) 斎藤和憲, 山口博樹, 小林 愛, 檀 和夫, 長谷川節雄: イトラコナゾール内用液の希釈投与が薬物体内動態と服薬コンプライアンスに与える影響. 日本血液学会総会 (第70回) / 日本臨床血液学会総会 (第50回), 2008. 10.
- 68) 田村秀人, 緒方清行, 横瀬紀夫, 岩切理歌<sup>1)</sup>, 大田雅嗣<sup>1)</sup>, 坂巻 壽<sup>2)</sup>, 通山 薫<sup>3)</sup>, 山下泰史<sup>4)</sup>, 近藤麻加, 守屋慶一, 兵藤英也, 塩井由美子, 中村恭子, 檀 和夫 (<sup>1)</sup> 東京都老人医療センター血液科, <sup>2)</sup> 東京都立駒込病院血液内科, <sup>3)</sup> 川崎医科大学検査診断学・同附属病院中央検査部, <sup>4)</sup> 東京理科大学基礎工学部生物工学科): 骨髄異形成症候群における末梢血WT-1 mRNAの臨床的意義. 日本血液学会総会 (第70回) / 日本臨床血液学会総会 (第50回), 2008. 10.
- 69) 横瀬紀夫, 大秋美治<sup>1)</sup>, 脇田知志, 糸川典夫, 猪口孝一 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院病理部): 肺葉切除術とリボソーマルアムホテリシンB投与により治療に成功し得た急性骨髄性白血病症例の肺接合菌症. 日本血液学会総会 (第70回) / 日本臨床血液学会総会 (第50回), 2008. 10.
- 70) 片倉玲樹<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 張本滉智<sup>1)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 松下洋子<sup>1)</sup>, 福田 健<sup>1)</sup>, 城所秀子<sup>1)</sup>, 木村祐<sup>1)</sup>, 植原義之<sup>1)</sup>, 金沢秀典<sup>1)</sup>, 高橋秀実<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学消化器内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学微生物学・免疫学): ヒト制御性T細胞活性にRibavirinが及ぼす影響とT-helper 1/2バランスの関連. 日本肝臓学会大会 (第12回), 2008. 10.
- 71) 植原義之, 金沢秀典, 福田 健, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 滝 保彦, 木村 祐, 中塚雄久, 坂本長逸: 1型肝腎症候群に対してterlipressinを投与した2例. Portal Hemodynamics Forum (第21回), 2008. 11.
- 72) 藤井里子, 金沢秀典, 近藤千紗, 松下洋子, 福田 健, 張本滉智, 城所秀子, 片倉玲樹, 滝 保彦, 木村 祐,

- 榎原義之, 中塚雄久: 下腸間膜動脈領域のarteriportal fistulaにより難治性腹水を呈した1例. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第15回), 2008. 11.
- 73) 福田 健, 榎原義之, 金沢秀典, 近藤千紗, 松下洋子, 張本滉智, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: 肝内びまん性A-Pシャントを合併した難治性腹水に対しTIPSを行った2例. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第15回), 2008. 11.
- 74) 城所秀子, 金沢秀典, 榎原義之, 近藤千紗, 張本滉智, 福田 健, 松下洋子, 片倉玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: 慢性肝疾患におけるバルサルタン長期投与の門脈血行動態肝線維化マーカーへ及ぼす影響. 日本門脈圧亢進症学会 (第15回), 2008. 11.
- 75) 趙 万紅, 田村秀人, 山下泰史, 近藤麻加, 緒方清行, 檀 和夫: 血液病患者におけるT細胞のPD-1発現. 日本医科大学外国人留学者研究会 (第19回), 2008. 11.
- 76) 田村秀人, 山下泰史, 近藤麻加, 檀 和夫, 緒方清行: 骨髄腫細胞のB7. 2, B7-H2分子発現と病態への関与. 日本骨髄腫研究会総会 (第33回), 2008. 11.
- 77) 原 敬介, 楠 正典, 三宅一昌, 進藤智隆, 河越哲郎, 二神生爾, 津久井拓, 坂本長逸: 穹隆部の胃腺腫から発症したピロリ陰性胃癌の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第302回), 2008. 12.
- 78) 福田 健, 榎原義之, 金沢秀典, 近藤千紗, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 木村 祐, 中塚雄久, 坂本長逸: 肝硬変患者における塩酸ファスジルの門脈圧および全身血行動態に及ぼす影響. 日本肝臓学会東部会 (第37回), 2008. 12.
- 79) 城所秀子, 金沢秀典, 榎原義之, 近藤千紗, 張本滉智, 福田 健, 松下洋子, 片倉玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: 難治性肝性胸水6例に対するTIPSの治療経験. 日本肝臓学会東部会 (第37回), 2008. 12.
- 80) 松下洋子, 榎原義之, 金沢秀典, 近藤千紗, 福田 健, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: TIPSにより食道胃静脈瘤と難治性腹水の改善が得られた1例. 日本肝臓学会東部会 (第37回), 2008. 12.
- 81) 春日裕介, 楠 正典, 三宅一昌, 枅 卓史, 新福摩弓, 山田祐希江, 進藤智隆, 河越哲郎, 辰口篤志, 二神生爾, 津久井拓, 坂本長逸: A型胃炎に合併した胃カルチノイドに内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) を施行した1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第87回), 2008. 12.
- 82) 厚川正則<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 片倉玲樹<sup>1)</sup>, 張本滉智<sup>1)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 松下洋子<sup>1)</sup>, 福田 健<sup>1)</sup>, 城所秀子<sup>1)</sup>, 榎原義之<sup>1)</sup>, 金沢秀典<sup>1)</sup>, 高橋秀実<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器内科, 2) 日本医科大学微生物学免疫学): Ribavirinの補助刺激シグナル制御を介するTh1活性化作用がHCV排除に及ぼす影響. 日本肝臓学会東部会 (第37回), 2008. 12.
- 83) 片倉玲樹<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 清水真澄<sup>2)</sup>, 張本滉智<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 田村秀人<sup>3)</sup>, 高橋秀実<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器内科, 2) 日本医科大学微生物学・免疫学, 3) 日本医科大学血液内科): Ribavirin interfered conversion of human CD4+CD25- T-helper lymphocytes into CD4+CD25+Foxp3+T-regulatory lymphocytes through inhibition of IL10. 日本免疫学会学術集会 (第38回), 2008. 12.
- 84) 藤森俊二, 高橋陽子, 山田祐希江, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸: 非ステロイド消炎剤 (NSAIDs) による脂肪吸収機能変化. 日本消化管学会 (第5回), 2009. 2.
- 85) 瀬尾継彦, 藤森俊二, 高橋陽子, 山田祐希江, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸: 当院におけるカプセル内視鏡の保険適応前後の比較. 日本消化管学会 (第5回), 2009. 2.
- 86) 田中由理子, 岩切勝彦, 佐野弘仁, 川見典之, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸: Nizatidine (NIZ) の一過性LES弛緩 (TLESR) と食道内酸曝露時間に及ぼす影響. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 87) 川見典之, 岩切勝彦, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅澤まり子, 飯泉 匡, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸: 食道裂孔ヘルニアの胃酸逆流に及ぼす影響. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.

- 88) 佐野弘仁, 岩切勝彦, 川見典之, 田中由理子, 梅澤まり子, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸: 一過性LES弛緩時の空気逆流パターン. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 89) 飯泉 匡, 星原芳雄, 岩切勝彦, 川見典之, 坂本長逸: LA分類のgrade M (白色混濁, 発赤) は胃酸逆流の所見か. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 90) 梅澤まり子, 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 飯泉 匡, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸: アカシア患者の早期食道内視鏡所見. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 91) 川見典之, 岩切勝彦, 佐野弘仁, 梅澤まり子, 田中由理子, 琴寄 誠, 星原芳雄, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 坂本長逸 (第1) 日本医科大学 外科: 食道癌において胸部食道摘出後の胃管再建を行った症例の残食道体部運動機能. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 92) 名見耶浩幸, 川見典之, 近藤千紗, 福田 健, 松下洋子, 張本滉智, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 植原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸: 食道, 十二指腸静脈瘤合併肝硬変2例に対する治療選択. 日本消化管学会総会 (第5回), 2009. 2.
- 93) 名見耶浩幸, 川見典之, 近藤千紗, 福田 健, 松下洋子, 張本滉智, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 植原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸: 食道, 十二指腸静脈瘤合併肝硬変2例に対する治療選択. 日本消化器病学会関東支部例会 (第303回), 2009. 2.
- 94) 楠 正典, 三宅一昌, 進藤智隆, 植木信江, 河越哲郎, 二神生爾, 津久井拓, 弦間和仁<sup>1)</sup>, 保坂純朗<sup>1)</sup>, 坂本長逸 (第1) 日本医科大学放射線医学: 内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) における静脈血栓症 (VT) のリスク. 日本消化管学会総会 (第5回), 2009. 2.
- 95) 栢 卓史, 三宅一昌, 楠 正典, 植木信江, 進藤智隆, 河越哲郎, 二神生爾, 津久井拓, 坂本長逸: 分化型胃癌の発症部位と空腹時十二指腸胃逆流との関連. 日本消化管学会総会 (第5回), 2009. 2.
- 96) 松下洋子, 植原義之, 金沢秀典, 近藤千紗, 福田 健, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: TIPSにより食道胃静脈瘤と難治性腹水の改善が得られた1例. 日本消化管学会総会 (第5回), 2009. 2.
- 97) 近藤千紗, 植原義之, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸: 直腸静脈瘤の2例. 日本消化管学会総会 (第5回), 2009. 2.
- 98) 田村秀人, 緒方清行: 骨髄異形成症候群における末梢血 WT1 mRNA 発現と抗 WT1 抗体産生の臨床的意義. WT1 癌抗原ペプチドを用いた癌免疫療法研究会 (第10回), 2009. 2.
- 99) 脇田知志, 山口博樹, 中山一隆, 水木太郎, 田村秀人, 中村恭子, 田近賢二, 檀 和夫: 当院の造血幹細胞移植における消化管殺菌の有用性. 日本造血幹細胞移植学会総会 (第31回), 2009. 2.
- 100) 近藤麻加, 岡部雅弘, 中村恭子, 檀 和夫: dicentric (17; 20) (p11. 2, q11. 2) を伴った成人急性リンパ性白血病. 日本血液学会第162回例会, 2009. 2.
- 101) 田村秀人, 緒方清行, 中村恭子, 檀 和夫: 悪性リンパ腫患者における顆粒球コロニー刺激因子 nartograstim による好中球ENA-78およびIL-8産生誘導効果の検討. 日本臨床腫瘍学会総会 (第7回), 2009. 3.
- (8) 12th World Congress of International Society for Disease of Esophagus2010鹿児島大会記念セッション-3:
- 1) Sano H, Iwakiri K, Kawami N, Tanaka Y, Iizumi T, Kotoyori M, Hoshihara Y, Sakamoto C: A case of eosinophilic esophagitis. 第62回日本食道学会学術集会, 2008. 6.
- (9) ポスター:
- 1) 福田 健, 近藤千紗, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 植原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸: 小腸静脈瘤破裂の2例. 日本消化管学会総会 (第5回), 2009. 2.

## [千葉北総病院血液内科]

### 研究概要

白血病，悪性リンパ腫，再生不良性貧血，多発性骨髄腫など血液疾患全般の診療に当たっています。個々の患者さんにとってのベストの治療法を，御本人・御家族とともに考え，治癒のみならず，患者満足度の高い医療を目指しています。慢性骨髄性白血病（CML）の分子標的薬（imatinib）の多施設共同研究と悪性リンパ腫R-CHOP治療に関する多施設共同研究に参加しています。CML発症遺伝子導入マウスの作成に成功し，分子標的薬（imatinib）の薬理効果をpreclinicalに研究をおこなっています。MLL/AF4遺伝子導入マウスの作成に成功し，白血病，リンパ腫が発生することを確認し，この病態生理の解析を行っています。その他，多発性骨髄腫の臨床研究の報告をしました。

### 研究業績

#### 論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Tamai H<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Hamaguchi H<sup>2)</sup>, Yagasaki F<sup>3)</sup>, Bessho M<sup>3)</sup>, Kobayashi T<sup>4)</sup>, Akiyama H<sup>4)</sup>, Sakamaki H<sup>4)</sup>, Takahashi S<sup>5)</sup>, Tojo A<sup>5)</sup>, Ohmine K<sup>6)</sup>, Ozawa K<sup>6)</sup>, Okumura H<sup>7)</sup>, Inokuchi K, Dan K<sup>1)</sup>, et al. (1) Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metabolism), 2) Department of Hematology, Musashino Red Cross Hospital, 3) Department of Hematology, Saitama Medical University, 4) Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, 5) Department of Hematology, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo, 6) Department of Hematology, Jichi Medical School, 7) Department of Hematology, Kanazawa University) : Clinical features of adult acute leukemia with 11q23 abnormalities in Japan : a co-operative multicenter study. Int J Hematol 2008 ; 87 (2) : 195-202.

(1) 原著：

- 1) Tamai H<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Takahashi S<sup>2)</sup>, Tojo A<sup>2)</sup>, Hamaguchi H<sup>3)</sup>, Kobayashi T<sup>4)</sup>, Akiyama H<sup>4)</sup>, Sakamaki H<sup>4)</sup>, Okumura H<sup>5)</sup>, Nakao S<sup>5)</sup>, Arai A<sup>6)</sup>, Miura O<sup>6)</sup>, Tajika K<sup>1)</sup>, Inokuchi K, Dan K<sup>1)</sup> (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, 2) Department of Hematology, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo, 3) Department of Hematology, Musashino Red Cross Hospital, 4) Department of Hematology Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, 5) Department of Hematology Kanazawa University, 6) Department of Hematology Tokyo Medical and Dental University) : Treatment of adult AML with t (6 ; 11) (q27 ; q23) by allogeneic hematopoietic SCT in the first CR. Bone Marrow Transplantation (2008) 2008 ; 42 (8) : 553-554.
- 2) Kizaki M<sup>1)</sup>, Okamoto S<sup>2)</sup>, Tauchi T<sup>3)</sup>, Tanaka H<sup>4)</sup>, Tanimoto M<sup>5)</sup>, Inokuchi K, Murayama T<sup>6)</sup>, Saburi Y<sup>7)</sup>, Hino M<sup>8)</sup>, Tsudo M<sup>9)</sup>, Shimomura T<sup>10)</sup>, Isobe Y<sup>10)</sup>, et al. (1) Department of Hematology, Saitama Medical Center, Saitama Medical University, 2) Division of Hematology, Keio University School of Medicine, 3) First Department of Internal Medicine, Tokyo Medical University, 4) Department of Hematology and Oncology, Research Institute for Radiation Biology and Medicine, Hiroshima University, 5) Department of Hematology, Oncology and Respiratory Medicine, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, 6) Hematology Division, Department of Medicine, Hyogo Cancer Center, 7) Department of Hematology, Oita Prefectural Hospital, 8) Clinical Hematology and Clinical Diagnosis, Graduate School of Medicine, Osaka City University, 9) Department of Hematology, Osaka Red Cross Hospital, 10)

other 2) : Current and future perspectives on the TARGET system : the registration system for Glivec® established by the JSH. *Int J Hematol* 2008 ; 88 (4) : 409-417.

- 3) Kanda Y<sup>1)</sup>, Okamoto S<sup>2)</sup>, Tauchi T<sup>3)</sup>, Kizaki M<sup>4)</sup>, Inokuchi K, Yabe M<sup>2)</sup>, Yokoyama K<sup>2)</sup>, Ito Y<sup>3)</sup>, Kimura Y<sup>3)</sup>, Higashihara M<sup>6)</sup>, Bessho M<sup>7)</sup>, Ando K<sup>8)</sup>, Chiba S<sup>9)</sup>, Kurokawa M<sup>10)</sup>, Dan K<sup>5)</sup>, et al. (1) Division of Hematology, Saitama Medical Center, Jichi Medical University, (2) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Keio University School of Medicine, (3) First Department of Internal Medicine, Tokyo Medical University, (4) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Saitama Medical Center, Saitama Medical University, (5) Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metabolism), (6) Department of Hematology, Kitasato University School of Medicine, (7) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Saitama Medical University, (8) Division of Hematology and Oncology, Department of Internal Medicine, Tokai University School of Medicine, (9) Department of Cell Therapy and Transplantation Medicine, University of Tokyo, (10) Department of Hematology and Oncology, University of Tokyo) : Multicenter prospective trial evaluating the tolerability of imatinib for Japanese patients with chronic myelogenous leukemia in the chronic phase : does body weight matter?. *Am J Hematol* 2008 ; 83 (11) : 835-839.

## 著 書

〔追加分〕

追加分 :

- 1) 猪口孝一 : 〔分担〕 10. 急性骨髄性白血病. 2008 今日の治療指針 : 私はこうして治療している (山口 徹, 北原光夫, 福井次夫), 2008 ; pp500-503, 株式会社医学書院.
- 1) 猪口孝一 : 〔分担〕 10. 慢性骨髄性白血病. 2009 今日の治療指針 : 私はこうして治療している (山口 徹, 北原光夫, 福井次夫), 2009 ; pp501-504, 株式会社医学書院.

## 学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Ogata K<sup>1)</sup>, Della Porta-G M<sup>2)</sup>, Malcovati L<sup>2)</sup>, Picone C<sup>2)</sup>, Yokose N, Matsuda A<sup>3)</sup>, Yamashita T<sup>1)</sup>, Tamura H<sup>1)</sup>, Tsukada J<sup>4)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Cazzola M<sup>2)</sup> (1) Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, (2) Department of Hematology Oncology, University of Pavia & Fondazione IRCCS Policlinico San Matteo, (3) Department of Hematology, Comprehensive Cancer Center, International Medical Center, Saitama Medical University, Saitama, (4) First Department of Internal Medicine, School of Medicine, University of Occupational and Environmental Health, Kitakyushu) : A Prospective Validation Study in Low-Risk Patients with Normal Karyotype. 50th Annual Meeting of the American Society of Hematology (San Francisco), 2008. 12.
- 2) Tamura H<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Yokose N, Iwakiri R<sup>2)</sup>, Ohta M<sup>2)</sup>, Sakamaki H<sup>3)</sup>, Tohyama K<sup>4)</sup>, Kondo A<sup>1)</sup>, Nakamura K<sup>1)</sup>, Yamashita T<sup>1)</sup>, Tsuji T<sup>5)</sup>, Ogata K<sup>1)</sup> (1) Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, (2) Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, (3) Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, (4) Department of Laboratory Medicine, Kawasaki Medical School, Okayama, (5) Department of Biological Science and Technology, Tokyo University of Science) : Expression of WT-1 mRNA in Peripheral Blood from Myelodysplastic Syndromes. 50th Annual Meeting of the American Society of Hematology (San Francisco), 2008. 12.



- 3) 平川経見, 山口博樹<sup>1)</sup>, 横瀬紀夫, 五味聖二<sup>2)</sup>, 猪口孝一, 檀 和夫<sup>1)</sup> (1) 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門), <sup>2)</sup> 横浜南共済病院・血液内科): ひまん性大細胞性B細胞リンパ腫に関してCHOP Like regimen におけるRDIの維持と治癒効果の後方規的解析. 日本血液学会総会 (第70回) (京都), 2008. 10.
- (2) ポスター:
- 1) Hirakawa T, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Gomi S<sup>2)</sup>, Yokose N, Inokuchi K, Dan K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metabolism), <sup>2)</sup> Department of Hematology, Yokohama Minami Kyosai Hospital): Importance of relative dose intensity for survival in diffuse large B-cell lymphoma patients treated with CHOP-like regimen. 50th Annual Meeting of the American Society of Hematology (San Francisco), 2008. 12.
- 2) 田村秀人<sup>1)</sup>, 緒方清行<sup>1)</sup>, 横瀬紀夫, 岩切理歌<sup>2)</sup>, 大田雅嗣<sup>2)</sup>, 坂巻 壽<sup>3)</sup>, 通山 薫<sup>4)</sup>, 山下泰史<sup>1,5)</sup>, 近藤麻加<sup>1)</sup>, 守屋慶一<sup>1)</sup>, 兵藤英也<sup>1)</sup>, 塩井由美子<sup>1)</sup>, 中村恭子<sup>1)</sup>, 檀 和夫<sup>1)</sup> (1) 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝), <sup>2)</sup> 東京都老人医療センター血液科, <sup>3)</sup> 東京都立駒込病院血液内科, <sup>4)</sup> 川崎医科大学検査診断学・同附属病院中央検査部, <sup>5)</sup> 東京理科大学基礎工学部生物工学科): 骨髄異形成症候群における末梢血WT-1 mRNAの臨床的意義. 日本血液学会総会 (第70回) (京都), 2008. 10.
- 3) 横瀬紀夫, 大秋美治<sup>1)</sup>, 脇田知志, 糸川典夫, 猪口孝一 (1) 千葉北総病院病理部): 肺葉切除術とリポソーマムホテリシンB投与により治療に成功し得た急性骨髄性白血病症例の肺接合菌症. 日本血液学会総会 (第70回) (京都), 2008. 10.
- 4) 山口博樹<sup>1,2)</sup>, 齋藤和憲<sup>1)</sup>, 小林 愛<sup>1)</sup>, 田近賢二<sup>2)</sup>, 猪口孝一, 檀 和夫<sup>2)</sup>, 長谷川節雄<sup>1)</sup> (1) 関野臨床薬理クリニック, <sup>2)</sup> 付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)): イトラコナゾール内用液の飲料物による希釈投与が血中薬物動態と服薬コンプライアンスに与える影響. 日本造血細胞移植学会総会 (第31回), 2009. 2.

## [千葉北総病院消化器内科]

### 研究概要

消化器内科では, C型慢性肝炎患者に対しペグインターフェロン, リバビリン併用療法を施行している. HCV-RNA genotype 1, かつ高ウイルス量の, いわゆる難治症例に対し, fluvastatin 併用療法を施行し, 従来の治療法との抗ウイルス効果を比較検討している. またペグインターフェロン, リバビリン併用療法を施行されている. C型慢性肝炎患者の, 末梢血中 CD4 陽性細胞の表面分子であるICOSの変動を解析し HCV 排除との関連性を検討している. 胃癌, 大腸癌の予後に係わる因子の解析を行っている.

### 研究業績

#### 論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Futagami S<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A, Hiratsuka T<sup>1)</sup>, Shindo T<sup>1)</sup>, Horie A<sup>1)</sup>, Hamamoto T<sup>1)</sup>, Ueki N<sup>1)</sup>, Kusunoki M<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Tsukui T<sup>1)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metabolism): Monocytic chemoattractant protein 1 and CD40 ligation have a synergistic effect on vascular endothelial growth factor production through cyclooxygenase 2 upregulation in gastric cancer. J Gastroenterol 2008; 43 (3): 216-224.

(1) 原著：

- 1) Fujimori S<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Mitsui K<sup>1)</sup>, Seo T<sup>1)</sup>, Yonezawa M<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A, Sakamoto C<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup> Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metabolism) : A randomized controlled trial on the efficacy of synbiotic versus probiotic or prebiotic treatment to improve the quality of life in patients with ulcerative colitis. Nutrition 2009 ; 25 (5) : 520-525.

学会発表

(1) ワークショップ：

- 1) 松下洋子, 榎原義之<sup>1)</sup>, 金沢秀典<sup>1)</sup>, 近藤千紗, 福田 健<sup>1)</sup>, 城所秀子<sup>1)</sup>, 片倉玲樹<sup>1)</sup>, 厚川正則, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門) : TIPSにより食道胃静脈瘤と難治性腹水の改善が得られた1例. 第37回日本肝臓学会東部会, 2008. 12.

(2) ポスター：

- 1) 松下洋子, 榎原義之<sup>1)</sup>, 金沢秀典<sup>1)</sup>, 近藤千紗, 福田 健<sup>1)</sup>, 城所秀子<sup>1)</sup>, 片倉玲樹<sup>1)</sup>, 厚川正則, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門) : TIPSにより食道胃静脈瘤と難治性腹水の改善が得られた1例. 第5回日本消化管学会総会学術集会, 2009. 2.

## [千葉北総病院内分泌内科]

### 研究概要

千葉北総病院内分泌内科では甲状腺疾患に関する臨床および基礎的研究と糖尿病の治療供給システムに関する研究を行っている。甲状腺の臨床的研究については、「無痛性甲状腺炎」あるいは「破壊性甲状腺炎」と呼ばれている疾患の病態について、Tc-99mの甲状腺取り込み率の測定値を指標とし検討を行っている。甲状腺の基礎的研究はサイログロブリン分子の生化学的性質とその生物活性についての検討を行い、甲状腺癌でのサイログロブリンの糖鎖の修飾の変化、サイログロブリンの甲状腺細胞増殖刺激活性についての研究を、内分泌外科、東京理科大学との共同研究により行っている。糖尿病の治療供給システムについては、限られた医療資源から、できるだけ良質の医療を患者全員に平等に供給する方法論について、専門医・非専門医の差異の検証と定量化、治療の地域標準化、医療連携パスをコミュニケーションツールとした医療供給システムの構築と分析などを行っている。

### 研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 石崎 晃, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 加納稔子, 田村秀樹<sup>1)</sup>, 石井新哉<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門) : 成長ホルモン, 高脂肪食の成長促進, 脂質代謝, 脂肪肝, 動脈硬化に与える影響. 日本内分泌学会学術総会 (第81回), 2008. 5.
- 2) 長尾元嗣<sup>1)</sup>, 岡島 泰<sup>1)</sup>, 首藤真理子<sup>1)</sup>, 加納稔子, 石崎 晃, 原田太郎<sup>1)</sup>, 谷村恭子<sup>1)</sup>, 岡島史宜<sup>1)</sup>, 田村秀樹<sup>1)</sup>, 石井新哉<sup>1)</sup>, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門) : 2型糖尿病患者における血清IGF-1値の分布と血糖コントロールとの関係. 日本内分泌学会学術総会 (第81回), 2008. 5.
- 3) 加納稔子, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 石崎 晃, 田村秀樹<sup>1)</sup>, 石井新哉<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門) : 成長ホルモンのアディポサイトカイン, 糖代謝に与える影響. 日本内分泌学会学術総会 (第81回), 2008. 5.

- 4) 田村秀樹<sup>1)</sup>, 石井新哉<sup>1)</sup>, 加納稔子, 石崎 晃, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup> (1) 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌): ウロコルチンのGH分泌抑制作用についての検討. 日本内分泌学会学術総会 (第81回), 2008. 5.
- 5) 谷村恭子, 及川眞一<sup>1)</sup>, 小竹英俊<sup>2)</sup> (1) 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門), <sup>2)</sup> 仙台赤十字病院内科: メタボリックシンドロームにおける血清アポB48濃度について. 日本肥満学会 (第29回), 2008. 10.
- 6) 石垣紗恵子<sup>1)</sup>, 岡島史宜, 加納稔子<sup>1)</sup>, 石崎 晃<sup>1)</sup>, 田村秀樹<sup>1)</sup>, 石井新哉<sup>1)</sup>, 岡崎大武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup>, 杉原仁<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup> (1) 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門), <sup>2)</sup> 付属病院内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 診断が困難であった重症右心不全合併アジソン病の1例. 日本内分泌学会 (第9回) 関東甲信越支部学術集会, 2009. 2.
- 7) 原 啓介<sup>1)</sup>, 岡島史宜, 田村秀樹<sup>1)</sup>, 石井新哉<sup>1)</sup>, 田原重志<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>, 五十嵐健人<sup>3)</sup>, 赤須春樹<sup>3)</sup>, 清水一雄<sup>3)</sup>, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup> (1) 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門), <sup>2)</sup> 付属病院脳神経外科学, <sup>3)</sup> 付属病院外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門): 非機能性下垂体腺腫術後にSITSHを呈した甲状腺リンパ腫の1例. 臨床内分泌代謝Update (第19回), 2009. 3.
- 8) 谷村恭子<sup>1)</sup>, 江本直也, 及川眞一<sup>1)</sup> (1) 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門): 漏斗下垂体後葉炎の発症3年後にBasedow病を発症した1例. 臨床内分泌代謝Update (第19回), 2009. 3.

## 4. 内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）

### 〔付属病院呼吸器内科〕

#### 研究概要

炎症：呼吸器炎症疾患，感染症を中心に研究活動を展開している．特に厚労省研究班を軸にIIPsの治療；本邦で市場導入したpirfenidoneの評価，NAC，CyA，PCSOD，活動性，予後評価の研究，びまん性肺疾患全般，特にサルコイドーシスの臨床，難治性気道病変の病因，病態，治療研究を展開．急性肺障害や薬剤性肺障害の国際比較，PMX療法に関する研究を推進している．基礎研究では，肺障害，線維化病態を中心に，サーファクタント，メカニカルストレス，組織再生に関する研究，マクロライド療法の作用機序と新規化合物；EM900の評価を行っている．大気環境関連健康障害に関し，ディーゼル排気粒子の健康被害に関する影響を検討している．

呼吸ケア：COPDを主なテーマとし臨床および基礎研究を進めた．HRCTによる画像所見，栄養，運動に関する臨床指標の関係を英国プリマス大と共同研究．環境再生保全機構（環境省所管）の委託研究として包括的呼吸ケアのモデルを検証する多施設共同研究，厚労科学の特別研究としてCOPDの禁煙対策を多施設共同で推進．基礎的研究ではCOPDに関するSNP，呼気ガスの研究を理化学研究所と共同で実施した．

癌：抗癌剤感受性と遺伝子発現データに基づくレジメン開発，有合併症症例治療，個別化治療；イレッサ感受性に関する変異解析やCPT11の副作用に関する遺伝子多型解析等副作用対策，新薬開発を含む臨床試験等を行っている．個別化治療の基礎的研究として感受性，副作用予測研究を展開している．肺癌の発癌，増殖に関わる研究を遺伝子レベルで行ない，発癌の母地として特発性間質性肺炎に注目し，特殊な発癌機構の理解と予防法の開発を目指している．副作用に関して，薬剤性肺障害の臨床研究において，中心的施設として役割を果たしている．CPT11の副作用対策として腸管循環抑制や遺伝子多型による予測等の研究を行っている．

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Saito Y, Azuma A, Morimoto T, Fujita K, Abe S, Motegi T, Usuki J, Kudoh S : Tiotropium ameliorates symptoms in patients with chronic airway mucus hypersecretion which is resistant to macrolide therapy. *Intern Med* 2008 ; 47 (7) : 585-591.
- 2) Wang C, Abe S, Matsuda K, Yu C, Li Y, Usuki J, Azuma A, Kudoh S : Effects of Gefitinib on Radiation-induced Lung Injury in Mice. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (2) : 96-105.
- 3) Li Y<sup>1)</sup>, Kawada T<sup>1)</sup>, Takizawa H<sup>2)</sup>, Azuma A, Kudoh S, Sugawara I<sup>3)</sup>, Yamauchi Y<sup>4)</sup>, Kohyama T<sup>4)</sup> (1) Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Fourth Department of Internal Medicine, Teikyo University, School of Medicine, Kawasaki, Japan, (3) Mycobacterial Reference Center, The Research Institute of Tuberculosis, Kiyose, Japan, (4) Department of Respiratory Medicine, University of Tokyo, School of Medicine, Tokyo, Japan) : Airway Inflammatory Responses to Oxidative Stress Induced by Prolonged Low-Dose Diesel Exhaust Particle Exposure from Birth Differ Between Mouse Balb/C and C57BL/6 Strains. *Exp Lung Res* 2008 ; 34 (3) : 125-139.
- 4) Azuma A, Hagiwara K<sup>1)</sup>, Kudoh S (1) Saitama Medical School) : Basis of Acute Exacerbation of Idiopathic Pulmonary Fibrosis in Japanese Patients. *Am J Respir Crit Care Med* 2008 ; 177 (12) : 1397-1398.
- 5) Miyanaga A, Gemma A, Noro R, Kataoka K, Matsuda K, Nara M, Okano T, Seike M, Yoshimura A, Kawakami A, Uesaka H<sup>2)</sup>, Nakae H<sup>1)</sup>, Kudoh S<sup>1)</sup> (1) MediBIC Tokyo, Japan , (2) Genetic Lab Co. , Ltd. ,

- Hokkaido, Japan) : Antitumor activity of histone deacetylase inhibitors in non-small cell lung cancer cells : development of a molecular predictive model. *Mol Cancer Ther* 2008 ; 7 (7) : 1923-1930.
- 6) Yamaya M<sup>1)</sup>, Azuma A, Tanaka H<sup>2)</sup>, Takizawa H<sup>3, 4)</sup>, Chida K<sup>5)</sup>, Taguchi Y<sup>6)</sup>, Mikasa K<sup>7)</sup>, Kadota J, Kudoh S<sup>8)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Geriatrics and Gerontology, Tohoku University, School of Medicine, Sendai, Japan, <sup>2)</sup> Third Department of Internal Medicine, Sapporo Medical University, School of Medicine, Hokkaido, Japan, <sup>3)</sup> Department of Respiratory Medicine, University of Tokyo, Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan, <sup>4)</sup> Fourth Department of Internal Medicine, Mizoguchi Hospital, Teikyo University, Mizonokuchi, Japan, <sup>5)</sup> Second Department of Internal Medicine, Hamamatsu University, School of Medicine, Hamamatsu, Japan, <sup>6)</sup> Department of Respiratory Medicine, Tenri Hospital, Nara, Japan, <sup>7)</sup> Center for Infectious Diseases, Nara Medical University, Nara, Japan, <sup>8)</sup> Department of Infectious Diseases, Division of Pathogenesis and Disease Control, Oita University Faculty of Medicine, Oita, Japan ) : Inhibitory effects of macrolide antibiotics on exacerbations and hospitalization in chronic obstructive pulmonary disease in Japan : a retrospective multicenter analysis. *J Am Geriatr Soc* 2008 ; 56 (7) : 1358-60.
- 7) Okumura M<sup>1)</sup>, Iwai K<sup>2)</sup>, Ogata H<sup>1)</sup>, Ueyama M<sup>1)</sup>, Kubota M<sup>1)</sup>, Aoki M<sup>1)</sup>, Kokuto H<sup>1)</sup>, Tadokoro E<sup>1)</sup>, Uchiyama T<sup>1)</sup>, Saotome M<sup>1)</sup>, Yoshiyama T<sup>1)</sup>, Yoshimori K<sup>1)</sup>, Yoshida N<sup>1)</sup>, Azuma A, Kudoh S ( <sup>1)</sup> Respiratory Medicine Section, Fukujuji Hospital, Japan Anti-Tuberculosis Association, Kiyose, <sup>2)</sup> Research Institute of Tuberculosis, Japan Anti-Tuberculosis Association, Kiyose) : Clinical Factors on Cavitory and Nodular Bronchiectatic Types in Pulmonary Mycobacterium avium Complex Disease. *Intern Med* 2008 ; 47 (16) : 1465-1472.
- 8) Yu C, Azuma A, Li Y<sup>1)</sup>, Wang C, Abe S, Usuki J, Matsuda K, Kudoh S, Sunazuka T<sup>2)</sup>, Omura S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Departments of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Kitasato Institute, Tokyo, Japan) : EM703, a New Derivative of Erythromycin, Inhibits Transforming Growth Factor- $\beta$  Signaling in Human Lung Fibroblasts. *Exp Lung Res* 2008 ; 34 (6) : 343-354.
- 9) Ji Li Y<sup>1, 3)</sup>, Takizawa H<sup>2)</sup>, Azuma A, Kohyama T<sup>4)</sup>, Yamauchi Y<sup>4)</sup>, Takahashi S<sup>5)</sup>, Yamamoto M<sup>5)</sup>, Kawada T<sup>1)</sup>, Kudoh S, Sugawara I<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Fourth Department of Internal Medicine, Teikyo University, School of Medicine, Kawasaki, Japan, <sup>3)</sup> Mycobacterial Reference Center, The Research Institute of Tuberculosis, Kiyose, Japan, <sup>4)</sup> Department of Respiratory Medicine, University of Tokyo, School of Medicine, Tokyo, Japan, <sup>5)</sup> Institute of Basic Medical Sciences, University of Tsukuba, Ibaragi, Japan) : Disruption of Nrf2 enhances susceptibility to airway inflammatory responses induced by low-dose diesel exhaust particles in mice. *Clin Immunol* 2008 ; 128 (3) : 366-373.
- 10) Kawai O, Ishii G<sup>1)</sup>, Kubota K<sup>2)</sup>, Murata Y<sup>3)</sup>, Naito Y<sup>2, 1)</sup>, Mizuno T<sup>1, 2)</sup>, Aokage K<sup>1, 2)</sup>, Saijo N<sup>2)</sup>, Nishiwaki Y<sup>2)</sup>, Gemma A, Kudoh S, Ochiai A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Pathology Division, Research Center for Innovative Oncology, National Cancer Center Hospital East, Kashiwa, Chiba, Japan, <sup>2)</sup> Thoracic Oncology Division, National Cancer Center Hospital East, Kashiwa, Chiba, Japan, <sup>3)</sup> Clinical Laboratory Division, National Cancer Center Hospital East, Kashiwa, Chiba, Japan) : Predominant infiltration of macrophages and CD8+ T Cells in cancer nests is a significant predictor of survival in stage IV nonsmall cell lung cancer. *Cancer* 2008 ; 113 (6) : 1387-1395.
- 11) Li Y<sup>1, 2)</sup>, Takizawa H<sup>3)</sup>, Azuma A, Kohyama T<sup>4)</sup>, Yamauchi Y<sup>4)</sup>, Kawada T<sup>1)</sup>, Kudoh S, Sugawara I<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Mycobacterial Reference Center, The Research Institute of Tuberculosis, Kiyose, Japan, <sup>3)</sup> Fourth Department of Internal Medicine, Teikyo University, School of Medicine, Kawasaki, Japan, <sup>4)</sup> Department of Respiratory Medicine, University of Tokyo, School of Medicine, Tokyo, Japan) : The Effects of Oxidative Stress Induced by Prolonged Low-



Dose Diesel Exhaust Particle Exposure on the Generation of Allergic Airway Inflammation Differ between BALB/c and C57BL/6 Mice . Immunopharmacol Immunotoxicol 2008 ; 12 : 1-15.

- 12) Kurosaki H<sup>1)</sup>, Ishii T<sup>1)</sup>, Motohashi N<sup>1)</sup>, Motegi T<sup>1)</sup>, Yamada K<sup>1)</sup>, Kudoh S<sup>1)</sup>, Jones CR<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Pulmonary Medicine, Infection, and Oncology ; Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Respiratory Research Unit, Peninsula Medical School ) : Extent of Emphysema on HRCT Affects Loss of Fat-free Mass and Fat Mass in COPD. Intern Med 2009 ; 48 ( 1 ) : 41-48.
- 13) Takenaka K, Gemma A, Yoshimura A, Hosoya Y, Nara M, Hosomi Y, Okano T, Kunugi S, Koizumi K, Fukuda Y, Uematsu K, Shimizu K, Kudoh S : Molecular Medicine Reports 2009 ; 1 : 73-80.
- 14) Noro R, Miyanaga A, Shimokawa T, Kuribayashi K, Mizutani H, Minegishi Y, Okano T, Seike M, Soeno C, Kataoka K, Matsuda K, Yoshimura A, Gemma A : The Anticancer Effect of Histone Deacetylase Inhibitors and Combination with the Cytotoxic Agents in Lung Cancer Cells : Biological Analyses for Future Clinical Application. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 ( 1 ) : 44-46.
- 15) Shimokawa T<sup>1)</sup>, Shibuya M<sup>1)</sup>, Kitamura K<sup>1)</sup>, Hosomi Y<sup>1)</sup>, Hibino S<sup>1)</sup>, Ota T<sup>1)</sup>, Iguchi M<sup>1)</sup>, Okamura T<sup>1)</sup>, Gemma A ( <sup>1)</sup> Department of Respiratory Medicine, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious diseases Center, Komagome Hospital, 3-18-22 Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo ) : Retrospective analysis of efficacy and safety of amrubicin in refractory and relapsed small-cell lung. Int J Clin Oncol 2009 ; 14 ( 1 ) : 63-69.
- 16) Isobe K<sup>1)</sup>, Kobayashi K<sup>2)</sup>, Kosaihiro S, Kurimoto F<sup>3)</sup>, Sakai H<sup>3)</sup>, Uchida Y<sup>2)</sup>, Nagai Y<sup>2)</sup>, Yamaguchi T<sup>2)</sup>, Miyanaga A<sup>4)</sup>, Ando M<sup>4)</sup>, Mori G<sup>4)</sup>, Hino M<sup>5)</sup>, Gemma A ( <sup>1)</sup> Department of Respiratory Medicine, Toho University Omori Medical Center, Japan, <sup>2)</sup> Department of Respiratory Medicine, Saitama International Medical Center, Saitama Medical University, 1397-1 Yamane, Hidaka City, Saitama, 350-1298, , <sup>3)</sup> Respiratory Section, Saitama Cancer Center, Saitama, Japan, <sup>4)</sup> Division of Internal Medicine, Tsuboi Cancer Center Hospital, Fukushima, Japan, <sup>5)</sup> Division of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Japan ) : Phase II study of nimustine hydrochloride (ACNU) plus paclitaxel for refractory small cell lung cancer. Lung Cancer 2009 ; 31.
- 17) Kuribayashi H<sup>1, 2)</sup>, Tsuta K<sup>2)</sup>, Mizutani E<sup>2)</sup>, Maeshima MA<sup>2)</sup>, Yoshida Y<sup>3)</sup>, Gemma A<sup>1)</sup>, Kudoh S<sup>1)</sup>, Asamura H<sup>3)</sup>, Matsuno Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pulmonary Medicine/Infection and Oncology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Clinical Laboratory Division, National Cancer Center Hospital, <sup>3)</sup> Thoracic Surgery Division, National Cancer Center Hospital ) : Clinicopathological analysis of primary lung carcinoma with heterotopic ossification. Lung Cancer 2009 ; 64 ( 2 ) : 160-165.
- 18) Taniuchi N, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Enomoto T<sup>2)</sup>, Matsuda K<sup>3)</sup>, Sato M<sup>4)</sup>, Takizawa Y<sup>1)</sup>, Jin E<sup>1)</sup>, Egawa S<sup>1)</sup>, Azuma A, Gemma A, Kudoh S, Kawanami O<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Pathology, Institute of Development and Aging Sciences, Nippon Medical School, Graduate, <sup>2)</sup> Department of Respiratory Medicine, Tokyo Metropolitan Hiroo Hospital, Tokyo, Japan. , <sup>3)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Yamanashi Prefectural Central Hospital, Yamanashi, Japan. , <sup>4)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School Musashi-kosugi Hospital, Kawasaki, Japan. ) : Evaluation of Fractional Analysis of Bronchoalveolar Lavage Combined with Cellular Morphological Features. International Journal of Medical Sciences 2009 ; 6 ( 1 ) : 1-8.
- 19) 花田匡利<sup>1, 2)</sup>, 千住秀明<sup>1)</sup>, 髻谷 満<sup>3)</sup>, 菊野佑仁<sup>1)</sup>, 及川真人<sup>1)</sup>, 大嶋 崇<sup>1)</sup>, 大曲正樹<sup>1)</sup>, 北川知佳<sup>1)</sup>, 藤本澄江<sup>4)</sup>, 後藤 尚<sup>4)</sup>, 神津 玲<sup>2)</sup>, 本田純久<sup>5)</sup>, 木田厚瑞<sup>6, 7)</sup> ( <sup>1)</sup> 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻, <sup>2)</sup> 長崎大学医学部・歯学部附属病院リハビリテーション部, <sup>3)</sup> 兵庫医科大学病院リハビリテーション部, <sup>4)</sup> 長崎県県北保健所, <sup>5)</sup> 長崎大学熱帯医学研究所附属熱帯感染症研究センター, <sup>6)</sup> 日本医科大学内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>7)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック ) : 住民基本健診でのCOPD早期診断システムの有

用性：11-Qを第1次スクリーニングに用いて，日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 2008；18（1）：49-53.

- 20) 田中貴久，森本泰介，神尾孝一郎，斉藤好信，阿部信二，吾妻安良太，工藤翔二，弦間昭彦，功刀しのぶ<sup>1)</sup>，許田典男<sup>1)</sup>，福田 悠<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学解析人体病理学)：CPC日常臨床から学ぶ この症例の新しい意義は？ 間質性肺炎の長期経過中に複数の感染症を併発し死亡した1例. THE LUNG-perspectives 2008；16（3）：314-320.
  - 21) 田中貴久，森本泰介，神尾孝一郎，斉藤好信，阿部信二，吾妻安良太，工藤翔二，弦間昭彦，功刀しのぶ<sup>1)</sup>，許田典男<sup>1)</sup>，福田 悠<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学解析人体病理学)：CPC日常臨床から学ぶ この症例の新しい意義は？ 間質性肺炎の長期経過中に複数の感染症を併発し死亡した1例. The Lung-perspectives, 2008. 7.
  - 22) 小野啓資<sup>1)</sup>，谷口泰之<sup>1)</sup>，工藤翔二 <sup>(1)</sup> 慈生会等潤病院内科)：当院における，高齢で脳卒中後遺症などの神経疾患に合併した市中肺炎の入院症例の検討．日本呼吸器学会雑誌 2008；46（9）：700-706.
  - 23) 谷内七三子，川並汪一<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学大学院分子細胞構造学)：フラクショナルBAL：組織学的対応とリンパ球形態. 日本胸部臨床 2008；67（11）：161-165.
  - 24) 吾妻安良太：日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門 薬剤性肺障害と人種差「グローバル時代の薬剤性肺障害 日本人の特殊性」. Annual Review呼吸器 2009；123-127.
  - 25) 吾妻安良太：特発性肺線維症の新規治療とその評価法. 呼吸 2009；28（2）：203-217.
  - 26) 根井貴仁，川本雅司，佐藤悦子，高久多希朗，瀬尾宜嗣，森本泰介，服部久弥子，齋藤好信，阿部信二，白杵二郎，吾妻安良太，中山智子<sup>1)</sup>，福田 悠<sup>1)</sup>，工藤翔二，弦間昭彦 <sup>(1)</sup> 日本医科大学解析人体病理学)：急性増悪をきたした特発性上葉限局型肺線維症（網谷病）が疑われた1例. 日本呼吸器学会誌 2009；47（2）：116-121.
- (2) 総説：
- 1) 茂木 孝<sup>1,2)</sup>，木田厚瑞<sup>1,2)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学内科学（呼吸器・感染・腫瘍部門），<sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック)：COPDとうっ血性心不全. medicina 2008；63（9）：1605-1608.
  - 2) Gemma A：Drug-Induced Interstitial Lung Diseases Associatedwith Molecular-Targeted Anticancer Agents. J Nippon Med Sch 2009；76（1）：4-8.
  - 3) 弦間昭彦：肺がん薬物療法の基礎知識 4 主な副作用とその対策. 肺癌治療薬物療法Q&A.
  - 4) 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門），<sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック)：高齢社会の医療：欧米の後追いは失敗する. 化学療法の領域 2008；24（5）：117-119.
  - 5) 藤田和恵，館田一博<sup>1)</sup>，吾妻安良太，工藤翔二 <sup>(1)</sup> 東邦大学医学部・微生物学)：【抗菌薬選択のポイント】抗菌薬の特性から考えること マクロライド系抗菌薬. 化学療法の領域 2008；24（増刊）：202-211.
  - 6) 千葉弘文<sup>1)</sup>，吾妻安良太 <sup>(1)</sup> 札幌医科大学 第3内科)：Pro&Con 薬剤性肺障害は日本人に高頻度に発生するか?. THE LUNG-perspectives 2008；16（02）：255-263.
  - 7) 松本亜紀，吾妻安良太：【新しい喘息治療の可能性】マクロライドとは？ マクロライドについて教えてください. Q&Aでわかるアレルギー疾患 2008；4（2）：185-187.
  - 8) 吾妻安良太：【呼吸器疾患における医師主導臨床試験の取り組みと将来展望】肺線維症 NAC, CyA, PMX好中球吸着療法. 分子呼吸器病 2008；12（2）：116-122.
  - 9) 野呂林太郎，弦間昭彦：【遺伝子多型とがん薬物治療薬】EGFRとGefitinib (Iressa). 癌と化学療法 2008；35（7）：1076-1079.
  - 10) 森井恵子<sup>1,2)</sup>，木田厚瑞<sup>1,2)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門），<sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック)：COPDとの鑑別，COPD合併例の治療について教えてください. Q&Aでわかるアレルギー疾患 2008；4（4）：406-408.
  - 11) 弦間昭彦，工藤翔二：【肺癌 基礎・臨床研究のアップデート】臨床研究 治療 分子標的治療 EGFR-TKI

- による肺障害とその対策. 日本臨床 2008 ; 66 (増刊6) : 604-607.
- 12) 弦間昭彦：【肺癌 基礎・臨床研究のアップデート】疫学・基礎研究 疫学・環境因子 間質性肺炎と肺癌. 日本臨床 2008 ; 66 (増刊6肺癌) : 26-30.
  - 13) 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : 研究紹介 : COPDの臨床研究をどのように進めてきたか. 金沢大学十全医学会雑誌 2008 ; 117 (3) : 96-97.
  - 14) 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : プライマリー・ケアのための奨励から学ぶCOPD 第9回 : 緊密な医療連携でCOPD診療のレベルを上げる. COPD Frontier 2008 ; 7 (2) : 119-123.
  - 15) 石井健男<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : シンポジウムIV COPDにみられる併存症としての“うつ”傾向. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 2008 ; 18 (2) : 117-121.
  - 16) 茂木 孝<sup>1,2)</sup>, 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : 呼吸ケアと地域医療連携 呼吸ケアにおける地域連携の現状と課題 : 専門医の意見を中心に. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 2008 ; 18 (2) : 125-129.
  - 17) 森本耕三<sup>1)</sup>, 吾妻安良太 (1) 結核予防会複十字病院 呼吸器科) : 【リウマチ医が知るべき関節リウマチの呼吸器合併症 その診断・治療・予防】細気管支炎. リウマチ科 2008 ; 40 (4) : 380-385.
  - 18) 弦間昭彦：【分子標的治療薬による特異的な副作用とその対策】肺毒性. 癌と化学療法 2008 ; 35 (10) : 1668-1670.
  - 19) 峯岸裕司, 弦間昭彦：【呼吸器疾患診療マニュアル】呼吸器疾患の治療 小細胞肺癌. 日本医師会雑誌 2008 ; 137 (特別2) : 243-244.
  - 20) 清家正博, 弦間昭彦：【呼吸器疾患診療マニュアル】画像検査・気管支鏡検査で何が見えるか 気管支鏡検査. 日本医師会雑誌 2008 ; 137 (特別2) : 14-16.
  - 21) 清家正博, 弦間昭彦：多因子疾患の遺伝子診断 : 肺癌. 日本胸部臨床増刊 2008 ; S276-S282.
  - 22) 清家正博, 弦間昭彦：【呼吸器疾患の臨床検査up to date】遺伝子診断 多因子疾患の遺伝子診断 肺癌. 日本胸部臨床 2008 ; 67 (増刊) : 276-282.
  - 23) 服部久弥子, 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : 難治性肺炎. 日本臨床別冊呼吸器症候群I 2008 ; 322-325.
  - 24) 藤田和恵：【呼吸器症候群 (第2版) その他の呼吸器疾患を含めて】閉塞性肺疾患, 気管支の異常 閉塞性肺疾患 びまん性汎細気管支炎. 日本臨床別冊呼吸器症候群I 2008 ; 673-677.
  - 25) 吾妻安良太, 福田 悠<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学解析人体病理学) : 【呼吸器症候群 (第2版) その他の呼吸器疾患を含めて】びまん性肺疾患 間質性肺炎 蜂巣肺. 日本臨床別冊呼吸器症候群I 2008 ; 438-442.
  - 26) 榎本達治<sup>1)</sup>, 吾妻安良太 (1) 東京都立広尾病院 呼吸器科) : 【呼吸器症候群 (第2版) その他の呼吸器疾患を含めて】びまん性肺疾患 間質性肺炎 特発性器質化肺炎. 日本臨床別冊呼吸器症候群I 2008 ; 410-415.
  - 27) 茂木 孝<sup>1,2)</sup>, 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : 特集 COPDの予後を左右する合併疾患1. 心血管障害. COPD Frontier 2008 ; 7 (1) : 50-55.
  - 28) 茂木 孝<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : 【高齢者におけるCOPD】COPDの早期診断 特に発症前の“*At risk*”を再考する. Geriatric Medicine 2009 ; 47 (2) : 191-196.
  - 29) 神尾孝一郎：【呼吸器症候群 (第2版) その他の呼吸器疾患を含めて】肺循環の異常 肺血管炎 ANCA関連肺疾患. 日本臨床 別冊呼吸器症候群II 2009 ; 391-395.
  - 30) 峯岸裕司, 弦間昭彦：【呼吸器症候群 (第2版) その他の呼吸器疾患を含めて】腫瘍性疾患 上皮性 (原発性) 腫瘍 気管支カルチノイド, 肺カルチノイド. 日本臨床別冊呼吸器症候群III 2009 ; 25-28.

31) 水谷英明, 弦間昭彦: 組織型からみた化学療法の選択 肺癌. 癌と化学療法 2009; 36 (2): 171-175.

(3) その他:

- 1) 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック): 質疑応答「内科」患者への禁煙指導の資料. 日本医事新報 2009; (4427): 104-106.
- 2) 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック): 「解説」ウォール街に衝撃を与えたデータ解析の信憑性. MMJ (The Mainichi Medical Journal) 2009; 5 (3): 158.

著書

- 1) 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック): [自著] 肺の生活習慣病 (COPD): 咳, 痰, 息切れを疑う. 肺の生活習慣病 (COPD): 咳, 痰, 息切れを疑う, 2008; pp1-234, 中央公論新社.
- 2) 小野啓資, 松田久仁子, 吾妻安良太: [分担] C. BAL法の手技-6. リンパ球サブセット算定. 気管支肺胞洗浄 (BAL) 法の手引き, 2008; pp17-20, 克誠堂出版.
- 3) 黒崎央子<sup>1,2)</sup>, 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック): [分担] COPDの治療の考え方 COPDの管理目標 症状改善. COPDのすべて (工藤翔二 (監修), 永井厚志, 一ノ瀬正和 (編集)), 2008; pp166-168, 文光堂.
- 4) 本橋典久<sup>1,2)</sup>, 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック): [分担] III-D. 増悪時の管理3. 在宅での治療. COPDのすべて (工藤翔二 (監修), 永井厚志, 一ノ瀬正和 (編集)), 2008; pp260-262, 文光堂.
- 5) 弦間昭彦: [分担] IV 治療 8 分子標的治療 5) EGFR-TKIによる肺障害とその対策. 肺癌: 基礎・臨床研究のアップデート (日本臨牀社), 2008; pp604-607, 日本臨牀社.
- 6) 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック): [自著] COPD慢性閉塞性肺疾患. よくわかる最新医学, 2008; pp1-159, 主婦の友社.
- 7) 清家正博, 弦間昭彦: [分担] 画像検査・気管支鏡検査で何が見えるか 気管支鏡検査. 日本医師会雑誌 第137巻特別号 (2) (工藤翔二), 2008; ppS14-S16, 日本医師会.
- 8) 弦間昭彦: [分担] 抗癌剤による間質性肺炎. Cancer Treatment Navigator (中川和彦編集), 2008; pp240-241, メディカルレビュー社.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 清家正博, 岡野哲也, 添野千絵, 宮永晃彦, 野呂林太郎, 片岡清子, 松田久仁子, 吉村明修, 工藤翔二, 弦間昭彦: 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の血清プロテオミクス. 日本臨床プロテオーム研究会 (第4回), 2008. 5.
- 2) 白杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二: 間質性肺炎の治療法をめぐる臨床研究の展望 ビルフェニドン 臨床試験に基づく位置づけ. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回), 2008. 6.
- 3) 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック): 禁煙治療はどのように変わったか?. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第18回), 2008. 10.

(2) セミナー:

- 1) 阿部信二: Acute exacerbationに対するPMX療法の意義: 炎症担当細胞, 炎症蛋白へのアプローチ. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回), 2008. 6.

(3) ワークショップ:

- 1) 山本信之<sup>1)</sup>, 一瀬幸人<sup>2)</sup>, 久保田馨<sup>3)</sup>, 酒井 洋<sup>4)</sup>, 弦間昭彦, 西條長宏<sup>3)</sup>, 福岡正博<sup>5)</sup>, 有吉 寛<sup>6)</sup>, 仁井谷



久嶋<sup>7)</sup> (1) 静岡県立静岡がんセンター呼吸器内科, <sup>2)</sup> 国立病院機構九州がんセンター呼吸器科, <sup>3)</sup> 国立がんセンター東病院呼吸器科, <sup>4)</sup> 埼玉県立がんセンター呼吸器科, <sup>5)</sup> 近畿大学医学部堺病院, <sup>6)</sup> 丸茂病院, <sup>7)</sup> 東京がん化学療法研究会) : 非小細胞肺癌未治療例に対するCDDP + S1 併用療法の統合解析 : 背景因子による検討. 日本肺癌学会総会 (第49回), 2008. 11.

(4) 一般講演 :

- 1) Ishii T<sup>1,2)</sup>, Wakabayashi R<sup>1,2)</sup>, Morii K<sup>1,2)</sup>, Ohta H<sup>2)</sup>, Kurosaki H<sup>1,2)</sup>, Motohashi N<sup>1,2)</sup>, Motegi T<sup>1,2)</sup>, Yamada K<sup>1,2)</sup>, Kida K<sup>1,2)</sup> (1) Dept. of Pulmonary Medicine, Infection and Oncology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School) : The factors related to depressive symptoms in chronic obstructive pulmonary disease. American Thoracic Society 2008 (Toronto), 2008. 5.
- 2) Wakabayashi R<sup>1,2)</sup>, Ishii T<sup>1,2)</sup>, Kurosaki H<sup>1,2)</sup>, Motohashi N<sup>1,2)</sup>, Yamada K<sup>1,2)</sup>, Gemma A, Kida K<sup>1,2)</sup> (1) Dept. of Pulmonary Medicine, Infection and Oncology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School) : The effect of nocturnal oxygen therapy on exercise capacity, dyspnea, and quality of life in COPD. ERS Annual Congress 2008 (Berlin), 2008. 10.
- 3) 森井恵子, 須藤 京<sup>1)</sup>, 齋藤雅美<sup>2)</sup>, 奥村昌夫<sup>2)</sup>, 阿萬久美子<sup>2)</sup>, 吉森浩三<sup>2)</sup>, 尾形英雄<sup>2)</sup> (1) 杏林大学第一内科, <sup>2)</sup> 結核予防会複十字病院呼吸器内科) : 当院における10年間の過敏性肺炎34症例の解析. 日本内科学会総会講演会 (第105回), 2008. 4.
- 4) 石井健男<sup>1,2)</sup>, 若林律子<sup>1,2)</sup>, 森井恵子<sup>1,2)</sup>, 太田英男<sup>2)</sup>, 黒崎央子<sup>1,2)</sup>, 本橋典久<sup>1,2)</sup>, 茂木 孝<sup>1,2)</sup>, 山田浩一<sup>1,2)</sup>, 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : 慢性閉塞性肺疾患における鬱症状規定因子の検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回), 2008. 6.
- 5) 榎本達治<sup>1)</sup>, 四方田真紀子<sup>1)</sup>, 河野あゆみ<sup>1)</sup>, 金子和代<sup>1)</sup>, 植戸律子<sup>1)</sup>, 齊藤 均<sup>1)</sup>, 渋谷泰寛<sup>1)</sup>, 吾妻安良太, 工藤翔二, 中村清一<sup>1)</sup> (1) 東京都立広尾病院呼吸器科) : HIV感染合併/非合併によるニューモシスチス肺炎患者臨床像の比較検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回), 2008. 6.
- 6) 服部久弥子, 阿部信二, 高橋明子, 瀬尾宜嗣, 松本亜紀, 根井貴仁, 森本泰介, 神尾孝一郎, 藤田和恵, 白杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二 : 当院における過去4年間の結核菌陽性症例の臨床的検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回), 2008. 6.
- 7) 藤田和恵, 瀬尾宜嗣, 服部久弥子, 齊藤好信, 阿部信二, 白杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二 : 関節リウマチの治療中に合併した呼吸器疾患に関する検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回), 2008. 6.
- 8) 森本泰介, 吾妻安良太, 阿部信二, 白杵二郎, 工藤翔二 : サルコイドーシスにおける組織診断群と臨床診断群との比較. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回), 2008. 6.
- 9) 森山 岳<sup>1)</sup>, 山本和男<sup>1)</sup>, 山名一平<sup>1)</sup>, 大岩健満<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 植松和嗣<sup>1)</sup>, 小林国彦<sup>2)</sup>, 弦間昭彦, 工藤翔二 (1) 埼玉医科大学総合医療センター呼吸器内科, <sup>2)</sup> 埼玉医科大学国際医療センター) : 当院における若年者肺癌臨床的検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回), 2008. 6.
- 10) 山本和男<sup>1)</sup>, 國保成暁<sup>1)</sup>, 山名一平<sup>1)</sup>, 大岩健満<sup>1)</sup>, 森山 岳<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 植松和嗣<sup>1)</sup>, 弦間昭彦, 工藤翔二 (1) 埼玉医科大学総合医療センター呼吸器内科) : 筋ジストロフィーに合併した難治性気胸2例における臨床的検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回), 2008. 6.
- 11) 山名一平<sup>1)</sup>, 國保成暁<sup>1)</sup>, 大岩健満<sup>1)</sup>, 森山 岳<sup>1)</sup>, 山本和男<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 植松和嗣<sup>1)</sup>, 弦間昭彦, 工藤翔二 (1) 埼玉医科大学総合医療センター呼吸器内科) : 当院における心臓病変合併Churg-Strauss症候群2例の検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回), 2008. 6.
- 12) 柚 知行<sup>1)</sup>, 山本和男<sup>1)</sup>, 森山 岳<sup>1)</sup>, 大岩健満<sup>1)</sup>, 國保成暁<sup>1)</sup>, 山名一平<sup>1)</sup>, 植松和嗣<sup>1)</sup>, 弦間昭彦, 工藤翔二 (1) 埼玉医科大学総合医療センター呼吸器内科) : 当科における, 新規吸入合剤アドエアール®に関する臨床研究の承諾症例と非承諾症例の臨床背景的検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回), 2008. 6.
- 13) 水谷英明, 弦間昭彦, 岡野哲也, 峯岸裕司, 宮永晃彦, 野呂林太郎, 奈良道哉, 工藤翔二 : TGF- $\beta$ による上



- 皮間葉移行のシグナルネットワーク. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回), 2008. 6.
- 14) 猪俣 稔<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 楠 祐二<sup>1)</sup>, 上原 隆<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 工藤翔二 (1) 日本医科大学千葉北総病院呼吸器病センター) : 当院に於ける他科紹介を契機に診断された肺癌症例の検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回), 2008. 6.
  - 15) 宮永晃彦, 弦間昭彦, 野呂林太郎, 片岡清子, 松田久仁子, 奈良道哉, 岡野哲也, 清家正博, 吉村明修, 川上明子<sup>1)</sup>, 上坂美花<sup>2)</sup>, 中江裕樹<sup>2)</sup>, 工藤翔二 (1) Genetic Lab Co. Ltd, 2) MediBIC) : 肺癌細胞株におけるヒストン脱アセチル化阻害薬の薬剤感受性とパスウェイ解析. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回), 2008. 6.
  - 16) 田中庸介<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 猪俣 稔<sup>1)</sup>, 楠 祐二<sup>1)</sup>, 上原 隆<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 工藤翔二 (1) 日本医科大学千葉北総病院呼吸器病センター) : 右心機能評価による Obstructive Sleep Disordered Breathing (OSDB) の評価法の検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回), 2008. 6.
  - 17) 奈良道哉, 弦間昭彦, 宮永晃彦, 須藤淳子, 水谷英明, 野呂林太郎, 峯岸裕司, 添野千恵, 松田久仁子, 岡野哲也, 吉村明修, 工藤翔二 : Gefitinib 耐性肺癌細胞株における ZD6474 の抗腫瘍効果. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回), 2008. 6.
  - 18) 小野啓資<sup>1)</sup>, 篠田欣也<sup>1)</sup>, 谷口泰之<sup>1)</sup>, 村田 朗, 工藤翔二 (1) 慈生会等潤病院内科) : 間質性肺炎の診断における, 肺音計による吸気肺音の高速フーリエ変換の有用性の検討. 日本呼吸器学会学術総会 (第48回), 2008. 6.
  - 19) 小野啓資, 廣岡大輔<sup>1)</sup>, 藤本啓志<sup>2)</sup>, 小林義典<sup>2)</sup>, 工藤翔二 (1) 帝人在宅医療株式会社, 2) 日本医科大学内科学講座循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 心不全を合併し, Complex SASが疑われ, adaptive servo ventilation (ASV) を導入して改善した1例. 日本睡眠学会定期学術集会 (第33回), 2008. 6.
  - 20) 若林律子<sup>1,2)</sup>, 石井健男<sup>1,2)</sup>, 茂木 孝<sup>1,2)</sup>, 本橋典久<sup>1,2)</sup>, 黒崎央子<sup>1,2)</sup>, 山口敬子<sup>2)</sup>, 瀬川佳余<sup>2)</sup>, 藤田重紀<sup>2)</sup>, 古館隆子<sup>2)</sup>, 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), 2) 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : COPD患者における夜間12時間酸素療法の効果. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第18回), 2008. 10.
  - 21) 古館隆子<sup>1)</sup>, 石井健男<sup>1,2)</sup>, 茂木 孝<sup>1,2)</sup>, 本橋典久<sup>1,2)</sup>, 黒崎央子<sup>1,2)</sup>, 山口敬子<sup>1)</sup>, 瀬川佳余<sup>1)</sup>, 若林律子<sup>1,2)</sup>, 藤田重紀<sup>1,2)</sup>, 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学呼吸ケアクリニック, 2) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門)) : 慢性閉塞性肺疾患における内臓脂肪面積およびメタボリック症候群の評価. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第18回), 2008. 10.
  - 22) 千住秀明<sup>1)</sup>, 神津 玲<sup>2)</sup>, 北川知佳<sup>1)</sup>, 渡邊 尚<sup>3)</sup>, 本田純久<sup>4)</sup>, 木田厚瑞<sup>5,6)</sup> (1) 長崎大学保健学専攻, 2) 長崎大学, 3) 松浦市民病院内科, 4) 長崎大学熱帯医学研究所, 5) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), 6) 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : 50歳~80歳までのM市住民のCOPD有病率 COPD対策委員会の活動から. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回), 2008. 10.
  - 23) 茂木 孝<sup>1,2)</sup>, 島 正之<sup>3)</sup>, 新田裕史<sup>4)</sup>, 小野雅司<sup>4)</sup>, 大原利真<sup>4)</sup>, 中井里史<sup>5)</sup>, 中館俊夫<sup>6)</sup>, 溝上哲也<sup>7)</sup>, 棟方充<sup>8)</sup>, 粒来崇博<sup>9)</sup>, 佐藤俊哉<sup>10)</sup>, 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), 2) 日本医科大学呼吸ケアクリニック, 3) 兵庫医科大学, 4) 国立環境研究所, 5) 横浜国立大学環境情報研究院, 6) 昭和大学, 7) 国立国際医療センター国際保健医療研究部, 8) 福島県立医科大学, 9) 国立病院機構相模原病院臨床研究センター, 10) 京都大学) : スパイロメトリーと質問票による閉塞性換気障害の一般住民スクリーニングに関する検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回), 2008. 10.
  - 24) 峯岸裕司<sup>1)</sup>, 三宅弘一<sup>1)</sup>, 弦間昭彦, 島田 隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学第2生化学) : mda-7/IL24発現AAV type8ベクターによる悪性胸膜中皮腫の治療研究. 日本癌学会学術総会 (第67回), 2008. 10.
  - 25) 水谷英明, 清家正博, 岡野哲也, 峯岸裕司, 宮永晃彦, 野呂林太郎, 工藤翔二, 弦間昭彦 : TGF- $\beta$ による上皮間葉移行のシグナルネットワーク. 日本癌治療学会総会 (第46回), 2008. 10.
  - 26) 水谷英明, 岡野哲也, 峯岸裕司, 宮永晃彦, 野呂林太郎, 工藤翔二, 弦間昭彦 : TGF- $\beta$ による上皮間葉移行

のシグナルネットワーク. 日本肺癌学会総会 (第49回), 2008. 11.

- 27) 小野 竜, 下川恒生, 水谷英明, 栗林英彦, 峯岸裕司, 清家正博, 吉村明修, 弦間昭彦: 塩酸イリノテカンによる化学療法中に小腸潰瘍をきたした1例. 日本呼吸器学会関東地方会 (第182回), 2008. 11.
  - 28) 栗林英彦<sup>1)</sup>, 清家正博<sup>1)</sup>, 岡野哲也<sup>1)</sup>, 宮永晃彦<sup>1)</sup>, 野呂林太郎<sup>1)</sup>, 片岡清子<sup>1)</sup>, 松田久仁子<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門): 肺扁平上皮癌の血清プロテオミクス. 日本肺癌学会総会 (第49回), 2008. 11.
  - 29) 宮永晃彦, 野呂林太郎, 片岡清子, 松田久仁子, 岡野哲也, 清家正博, 吉村明修, 川上明子<sup>2)</sup>, 上坂美花<sup>1)</sup>, 中江裕樹<sup>1)</sup>, 工藤翔二, 弦間昭彦 (1) MediBIC, (2) Genetic Lab): 肺癌細胞株におけるヒストン脱アセチル化阻害薬の抗腫瘍活性: パスウェイ解析による薬剤感受性モデルの構築. 日本肺癌学会総会 (第49回), 2008. 11.
  - 30) 峯岸裕司, 須藤淳子, 宮永昭彦, 下川恒生, 栗林英彦, 水谷英明, 野呂林太郎, 清家正博, 吉村明修, 弦間昭彦: 間質性肺炎合併肺癌におけるカルボプラチン+パクリタキセル療法の有用性の検討. 日本肺癌学会総会 (第49回), 2008. 11.
  - 31) 水谷英明, 岡野哲也, 峯岸裕司, 宮永晃彦, 野呂林太郎, 工藤翔二, 弦間昭彦: TGF- $\beta$ による上皮間葉移行のシグナルネットワーク. 日本肺癌学会総会 (第49回), 2008. 11.
  - 32) 清家正博, 横田 淳<sup>1)</sup>, 柴田龍弘<sup>2)</sup>, 梶村春彦<sup>3)</sup>, 工藤翔二, 弦間昭彦 (1) 国立がんセンター研究所生物学部, (2) 国立がんセンター研究所腫瘍ゲノムプロジェクト, (3) ; 浜松医科大学病理部): Use of a cytokine gene expression signature in lung adenocarcinoma and the surrounding tissue. 日本肺癌学会総会 (第49回), 2008. 11.
  - 33) 小野 靖<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 滝口裕一<sup>2)</sup>, 多田裕司<sup>2)</sup>, 吉村明修, 弦間昭彦, 吉森浩三<sup>3)</sup>, 工藤翔二, 長尾啓一<sup>4)</sup>, 仁井谷久暢<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院呼吸器内科, (2) 千葉大学付属病院呼吸器科, (3) 結核予防会複十字病院呼吸器科, (4) 東京がん化学療法研究会): 進行非小細胞肺癌患者を対象としたドセタキセル+S-1の併用化学療法の第1/2相試験. 日本肺癌学会総会 (第49回), 2008. 11.
  - 34) 森山 岳<sup>1)</sup>, 山本和男<sup>1)</sup>, 山名一平<sup>1)</sup>, 森 健<sup>1)</sup>, 大岩健満<sup>1)</sup>, 植松和嗣<sup>1)</sup>, 小林国彦<sup>2)</sup>, 弦間昭彦 (1) 埼玉医科大学総合医療センター呼吸器内科, (2) 埼玉医大国際医療センター呼吸器内科): 当院での若年者肺癌最近の傾向. 日本肺癌学会総会 (第49回), 2008. 11.
  - 35) 清家正博: 肺癌の分子標的治療剤感受性に関わるMicroRNAの同定. 東京呼吸病態研究会 (第12回), 2008. 11.
- (5) 診療ガイドラインセッション:
- 1) 吾妻安良太: 特発性間質性肺炎. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回), 2008. 6.

## [千葉北総病院呼吸器内科]

### 研究概要

内科学(呼吸器, 感染, 腫瘍部門)を担当し大学付属病院として教育, 臨床研究を担う以外に地域の中核病院として, 以上の三分野について多くの臨床研究実績を持つ.

(1) 呼吸器病学: 特発性間質性肺炎の治療法の開発, 慢性閉塞性肺疾患にともなう肺高血圧の評価, 睡眠時無呼吸症候群の肺循環の超音波評価, 胸腔鏡下肺生検による間質性肺疾患の診断, 気管支拡張症に対する血清診断分類の開発, 慢性閉塞性肺疾患患者の筋疲労からのリハビリの適応決定, 気管支喘息重発作時の非侵襲的陽圧換気法の評価, 呼吸困難感の評価, 呼吸器疾患に対する大うつ, 閾値下うつ病の潜在診断, 咳喘息の治療評価

(2) 感染症学: 市井肺炎の診断と経口抗生剤治療, 肺炎入院治療パスの開発, 病院感染対策, 各種院内感染サーベイランス, 院内肺炎の予防, 特殊感染症診断制御, 結核による院内感染制御, 肺非定型抗酸菌症の治療, 医療関係

者および看護学生に対する麻疹，インフルエンザ，風疹の抗体価測定と予防接種，病院内耐性菌サーベイランス，マクロライドによる各種慢性肺疾患の急性増悪の制御，マクロライド抗菌薬の新作用開発。

(3) 臨床腫瘍学：肺癌抗癌剤化学療法と副作用対策，肺癌の分子生物学的治療標的に対する至適治療法の確立，肺癌の気管支鏡診断，抗癌剤による副作用としての薬剤性肺臓炎の診断と治療以上につき臨床研究を継続中である。

## 研究業績

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 小野 靖，日野光紀，滝口裕一<sup>2)</sup>，多田裕司<sup>2)</sup>，吉村明修<sup>1)</sup>，弦間昭彦<sup>1)</sup>，吉森浩三<sup>3)</sup>，工藤翔二<sup>3)</sup>，長尾啓一<sup>4)</sup>，仁井谷久暢<sup>4)</sup> (1) 付属病院内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門)，2) 千葉大学付属病院呼吸器科，3) 結核予防会複十字病院呼吸器科，4) 東京がん化学療法研究会)：進行非小細胞肺癌患者を対象としたドセタキセル+S-1の併用化学療法の第1/2相試験. 日本肺癌学会総会 (第49回)，2008. 11.

#### (2) ポスター：

- 1) Hino M, Tanaka Y : Current Problems in the Recognition and Management of Patients with Tuberculosis in a Japanese Tertiary Care hospital. Abstracts of the 13th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology (Bangkok, Thailand), 2008. 11.
- 2) Tanaka Y, Hino M, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine (Divisions of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine) : Evaluation of Obstructive Sleep Disordered Breathing in Comparison with RV functional disorder. Abstracts of the 13th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology (Bangkok, Thailand), 2008. 11.
- 3) Hino M, Ono Y : Lymphocyte Transformation Test as a Predictive Test of Adverse Events due to Gefitinib. Abstracts of the 13th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology (Bangkok, Thailand), 2008. 11.
- 4) Inomata M, Tanaka Y, Hino M : Prognosis of Patients with Lung Cancer Diagnosed during Hospitalization at Another Department of Our General Hospital. Abstracts of the 13th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology (Bangkok, Thailand), 2008. 11.
- 5) 森本耕三，石川理恵<sup>1)</sup>，守屋敦子<sup>1)</sup>，新井愛子<sup>1)</sup>，神宮浩之<sup>1)</sup>，安藤常浩<sup>1)</sup>，生島壮一郎<sup>1)</sup>，折津 愈<sup>1)</sup> (1) 日本赤十字社医療センター呼吸器内科)：PP1001 当院における肺MAC症の検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回)，2008. 6.

#### (3) ポスターシンポジウム：

- 1) 猪俣 稔，田中庸介，日野光紀，楠 裕司，上原隆志，小俣雅稔，小野 靖，工藤翔二<sup>1)</sup> (1) 付属病院内科学 (呼吸器・感染・内分泌代謝部門)：PP493 当院に於ける多科紹介を契機に診断された肺癌症例の検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回)，2008. 6.

#### (4) ポスターミニシンポジウム：

- 1) 田中庸介，日野光紀，猪俣 稔，楠 裕司，上原隆志，小俣雅稔，小野 靖，工藤翔二<sup>1)</sup> (1) 付属病院内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門)：MS261. PP712 右心機能評価によるObstructive Sleep Disordered Breathing (OSDB) の評価法の検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第48回)，2008. 6.

## 5. 精神医学講座

### [付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科]

#### 研究概要

当講座では、精神疾患の病態を解明し、より科学的で適切な治療法を開発することを目的に、実際の診療場面で遭遇する症例を対象とする臨床研究を行ってきた。その際に、標準化された精神科診断学、症状評価法とともに各種の画像解析法を駆使し、精神障害の症状や病態を可能な限り科学的に捉えることに心がけた。今年度は以下の研究を行った。

1. 分子イメージングを用いた機能的な精神疾患の病態研究：ポジトロンCT (PET) による神経伝達機能イメージングの技術を用いて、統合失調症および気分障害患者など機能的な精神疾患の神経伝達機能の異常を調べた。
2. 分子イメージングを用いた精神科治療評価に関する研究：PETを用いて、抗精神病薬・抗うつ薬の作用・副作用と脳内特異的作用点の変化との関連を調べ、向精神薬の治療効果の客観的評価法の開発を目指した。また電気けいれん療法の抗うつ作用の神経基盤についても検討した。
3. fMRIを用いた精神疾患の高次脳機能障害の研究：fMRIを用いて、統合失調症患者の高次脳機能障害の神経基盤に関する研究を行った。さらに、情動反応の計測法の開発、標準化を行った上で、プラセボ効果について検討した。
4. 血管性うつ病の研究：血管性うつ病に対し脳画像、治療など様々な検討を行った。
5. 老年期のうつ病に関する臨床研究：老年期のうつ病に関する臨床研究を行った。その際に拡散テンソル解析を用いて老年期うつ病の病態基盤を検討した。
6. 高度救命救急センターに搬送された自殺未遂例に対する介入研究を行った。また厚生労働省による自殺関連戦略研究にもコア施設として参加した。
7. 児童思春期の精神障害に関する研究：子どものうつ病に関する脳画像研究を行った。また、注意欠如多動性障害の子どもの機能的な画像研究を準備した。さらに、子どもの精神症状および問題行動について質問紙を用い横断的、縦断的な理解を深める研究を行った。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Saijo T, Takano A<sup>1)</sup>, Suhara T<sup>1)</sup>, Arakawa R<sup>1)</sup>, Okumura M<sup>1)</sup>, Ichimiya T, Ito H<sup>1)</sup>, Okubo Y ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Neuroimaging, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences) : ECT Decreases Dopamine D2 Receptor Binding in the Anterior Cingulate in Patients with Depression : A PET study with [11C]FLB 457. The Journal of Clinical Psychiatry in press.
- 2) Takahashi H<sup>1)</sup>, Matsuura M<sup>2)</sup>, Koeda M, Yahata N, Suhara T<sup>1)</sup>, Kato M<sup>3)</sup>, Okubo Y ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Neuroimaging, National Institute of Radiological Sciences, <sup>2)</sup> Tokyo Medical and Dental University, <sup>3)</sup> Keio University) : Brain activations during judgments of positive self-conscious emotion and positive basic emotion : pride and joy. Cereb Cortex 2008 ; 18 (4) : 898-903.
- 3) Takahashi H<sup>1)</sup>, Shibuya T<sup>2)</sup>, Kato M<sup>3)</sup>, Sassa T<sup>4)</sup>, Koeda M, Yahata N, Suhara T<sup>1)</sup>, Okubo Y ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Neuroimaging, National Institute of radiological Sciences, <sup>2)</sup> Juntendo University, <sup>3)</sup> Keio University, <sup>4)</sup> Asai Hospital) : Enhanced activation in the extrastriate body area by goal-directed actions. Psychiatry Clin Neurosci 2008 ; 62 (2) : 214-219.

- 4) Arakawa R, Ito H, Takano A, Morimoto T, Sassa T, Ohta K, Kato M, Okubo Y, Suhara T : Dose-finding study of paliperidone ER based on striatal and extrastriatal dopamine D2 receptor occupancy in patients with schizophrenia. *Psychopharmacology (Berl)* 2008 ; 197 (2) : 229-235.
- 5) Ikeda Y, Yahata N, Ito I, Nagano M, Toyota T, Yoshikawa T, Okubo Y, Suzuki H : Low serum levels of brain-derived neurotrophic factor and epidermal growth factor in patients with chronic schizophrenia. *Schizophr Res* 2008 ; 101 (1-3) : 58-66.
- 6) Sheehan W<sup>1)</sup>, Kishi Y, Thurber S<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Minnesota Department of Human Services, <sup>3)</sup> Woodland Centers) : On the universality of mystical and ecstatic condition. *Psychiatry on-line* 2008.
- 7) Takahashi H<sup>1)</sup>, Kato M<sup>2)</sup>, Matsuura M<sup>3)</sup>, Koeda M, Yahata N, Suhara T<sup>1)</sup>, Okubo Y ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Neuroimaging, National Institute of Radiological Sciences, <sup>2)</sup> Keio University, <sup>3)</sup> Tokyo Medical and Dental University) : Neural correlates of human virtue judgment. *Cereb Cortex* 2008 ; 18 (8) : 1886-1891.
- 8) Arakawa R, Okumura M, Ito H, Seki C, Takahashi H, Takano H, Nakao R, Suzuki K, Okubo Y, Halldin C, Suhara T : Quantitative analysis of norepinephrine transporter in the human brain using PET with (S, S) -18F-FMeNER-D2. *J Nucl Med* 2008 ; 49 (8) : 1270-1276.
- 9) Takahashi H, Kato M, Sassa T, Shibuya T, Koeda M, Yahata, N. N, Matsuura M, Asai, K. K, Suhara T, Okubo Y : Functional Deficits in the Extrastriate Body Area During Observation of Sports-Related Actions in Schizophrenia. *Schizophr Bull* 2008 ; in press.
- 10) Takahashi H, Kato M, Takano, H, Arakawa R, Okumura M, Otsuka T, Kodaka F, Hayashi M, Okubo Y, Ito H, Suhara T : Differential contributions of prefrontal and hippocampal dopamine D (1) and D (2) receptors in human cognitive functions. *J Neurosci* 2008 ; 28 (46) : 12032-12038.
- 11) Okumura M, Arakawa R, Ito H, Seki C, Takahashi H, Takano H, Haneda E, Nakao R, Suzuki H, Suzuki K, Okubo Y, Suhara T : Quantitative analysis of NK1 receptor in the human brain using PET with 18F-FE-SPA-RQ. *J Nucl Med* 2008 ; 49 (11) : 1749-1755.
- 12) Koeda M, Shibata T<sup>1)</sup>, Asai K<sup>2)</sup>, Okubo Y, Tanaka H<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokai university, <sup>2)</sup> Asai Hospital, <sup>3)</sup> Tokyo Medical and Dental University) : Care Policy for Patients with Dementia : Family' s Decision and Its Impact. *bmei, International Conference on BioMedical Engineering and Informatics, 2008* 2008 ; 2 : 843-847.
- 13) Swigart S<sup>1)</sup>, Kishi Y, Thurber S<sup>1)</sup>, Kathol R<sup>1)</sup>, Meller W<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> University of Minnesota) : Misdiagnosed delirium in patient referrals to a university-based hospital psychiatry department. *Psychosomatics* 2008 ; 49 (2) : 104-108.
- 14) 松木麻妃<sup>1)</sup>, 松木秀幸<sup>1)</sup>, 岸 泰宏, 堀川直史<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉医科大学総合医療センター) : 【精神科治療過程で有用な臨床検査】 パニック障害の治療過程で有用な臨床検査 抗不安薬使用時の身体チェック, ルーチン検査の項目と検査間隔. *精神科治療学* 2008 ; 23 (1) : 25-50.
- 15) 肥田道彦 : 統合失調症の音声プロソディー認知に関する脳機能画像研究. *脳と精神の医学* 2009 ; 19 (4) : 237-244.
- 16) Mikami K<sup>1)</sup>, Inomata S<sup>1)</sup>, Hayakawa N<sup>1)</sup>, Ohnishi Y<sup>1)</sup>, Enseki Y<sup>1)</sup>, Ohya A<sup>1)</sup>, Haruki Y<sup>1)</sup>, Kishi Y, Shinohara Y<sup>1)</sup>, Ichimura A<sup>1)</sup>, Matsumoto H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokai University) : Frequency and clinical features of pervasive developmental disorder in adolescent suicide attempts. *Gen Hosp Psychiatry* 2009 ; 163-166.
- 17) 上田 諭<sup>1,3)</sup>, 吉池卓也<sup>2,3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学精神医学, <sup>2)</sup> 東京医科歯科大学附属病院精神神経科, <sup>3)</sup> 東京都老人医療センター精神科) : 前頭側頭型認知症の鑑別疾患としての進行性核上性麻痺 : 前頭側頭型認知症にパーキンソン症候群を合併した1例 (本誌 49 : 1129-1132, 2007) に対して. *精神医学* 2008 ; 50 (6) : 618-619.
- 18) 肥田道彦 : fMRIでみる統合失調症の聴覚言語機能とヒトの声の認知機構. *臨床精神医学* 2008 ; 37 (6) :



751-758.

- 19) 上田 諭<sup>1)</sup>, 河原 讓<sup>1)</sup>, 齊藤卓弥<sup>1)</sup>, 野上 毅<sup>1)</sup>, 花尻美和<sup>1)</sup>, 下田健吾<sup>1)</sup>, 大久保善朗<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学精神医学) : 重度の制止に対しECTのみで効果がみられずベンゾジアゼピン併用後に劇的に改善したうつ病の1例. 精神科治療学 2008 ; 23 (7) : 885-890.
  - 20) 伊藤敬雄<sup>1)</sup>, 大久保善朗, Desan P<sup>1)</sup> (1) Psychiatric Consultation Service, Department of Psychiatry, Yale University School of Medicine) : Yale Psychiatric Consultation Serviceにおけるmirtazapineの不眠症への使用経験. 臨床精神医学 2008 ; 37 (7) : 939-948.
  - 21) 上田 諭<sup>1)</sup>, 西川律子<sup>2)</sup>, 伊藤敬雄<sup>1)</sup>, 大久保善朗<sup>1)</sup>, 岩井美幸<sup>2)</sup>, 岡崎怜子<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学精神医学, 2) 日本医科大学付属病院看護部, 3) 日本医科大学第一内科学) : 術後抑うつに対するsulpiride 100mg/日投与で顕著な筋固縮を生じADL回復が遅れた高齢者症例 : リエゾン活動での経験. 精神医学 2008 ; 50 (10) : 1021-1024.
  - 22) 上田 諭<sup>1)</sup>, 児玉由希絵<sup>1,2)</sup>, 大久保善朗<sup>1)</sup>, 伊藤敬雄<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学精神医学, 2) 浅井病院精神科) : 眼球彷徨eye roving movementが観察されほどなく死に至った2症例 : せん妄増悪時の特徴的眼球運動. 精神医学 2008 ; 50 (11) : 1103-1106.
- (2) 総説 :
- 1) 伊藤敬雄 : ジェットラグ症候群の病態. 脳21 2008 ; 11 (4) : 65-68.
  - 2) 伊藤敬雄 : がん医療におけるリエゾン精神医療 (第104回日本精神神経学会総会) : (シンポジウム がん医療における精神医療の役割). 精神神経学雑誌 2009 ; 111 (1) : 57-61.
  - 3) 下田健吾, 木村真人 : うつ病やパニック障害の回復を阻害する因子としての身体併存症. 特集 : 完全寛解に至らないうつ病とパニック障害 : あと一押しの治療的工夫 - II. 精神科治療学 2008 ; 23 (4) : 447-453.
  - 4) 伊藤敬雄<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学救急医学) : 「睡眠リズム障害の臨床」 5) ジェットラグ症候群の病態. 脳 2008 ; 21 (4) : 21-25.
  - 5) 上田 諭<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学精神医学) : 「軽いうつ」の治療 : 初期における精神療法をめぐって. 精神科治療学 2008 ; 23 (8) : 943-950.
  - 6) 木村真人 : メンタルヘルスの広場 : 脳血管障害とうつ病. 心と社会 2008 ; 39 (3) : 102-106.
  - 7) 岸 泰宏, 川瀬英理<sup>1)</sup> (1) 埼玉医科大学総合医療センター) : 【救急診療ガイドライン】 海外のガイドライン 米国精神医学会 急性ストレス障害及び外傷後ストレス障害の患者に対する実践的治療ガイドライン (2004年版). 救急医学 2008 ; 32 (10) : 1487-1493.
  - 8) 岸 泰宏 : 精神疾患と身体疾患の合併 臨床的・医療経済的インパクトならびにその治療システム. 日医大医学会誌 2008 ; 4 (4) : 175-180.
  - 9) 岸 泰宏 : 【向精神薬 - リスク & ベネフィット】 Paroxetine 予防投与で, C型肝炎治療におけるinterferon alpha (INF  $\alpha$ ) 誘発性うつ病発症を減らせるか?. 精神科治療学 2008 ; 23 (10) : 1281-1282.
  - 10) 館野 周, 大久保善朗 : 【アリピプラゾールの臨床】 アリピプラゾールの薬理 Abi-DarghamのPET研究から. 精神科 2008 ; 13 (5) : 401-405.
  - 11) 岸 泰宏 : 【新しい地域ネットワークにおける精神科医療】 プライマリーケアにおけるうつ病診療の新しいシステム 主に米国での試み. 精神科治療学 2008 ; 23 (11) : 1291-1297.
  - 12) 岸 泰宏 : 【向精神薬 - リスク & ベネフィット】 C型肝炎のインターフェロン治療に伴ううつ病へのcitalpramの効果. 精神科治療学 2008 ; 23 (11) : 1401-1402.
  - 13) 齊藤卓弥 : メチールフェニデート徐放剤の臨床エビデンス. 精神科 2008 ; 304-309.
  - 14) 岸 泰宏 : 【精神科医の仕事】 Q&A集 精神科医に向いている人はどのような人ですか?. こころのりんしょう a・la・carte 2008 ; 27 (4) : 554.
  - 15) 岸 泰宏 : 【精神科医の仕事】 Q&A集 精神科医に向いていない人は?. こころのりんしょう a・la・carte

2008 ; 27 (4) : 555.

- 16) 岸 泰宏, 堀川直史<sup>1)</sup> (1) 埼玉医科大学総合医療センター) : 【精神科診療に必要な書式マニュアル改訂版】 指定医・専門医資格申請用の症例レポート 日本総合病院精神医学会症例報告. 臨床精神医学 2008 ; 2008年増刊 : 269-273.
  - 17) 下田健吾, 木村真人, 大久保善朗 : 拡散テンソルMRI : 精神・神経疾患への応用. 日医大医会誌 2009 ; 4 (4) : 210.
  - 18) 木村真人 : 脳卒中後うつ病の早期発見と診断基準. 日本醫事新報 2009 ; (4431) : 109-110.
  - 19) 伊藤敬雄 : 認知症にみられる睡眠障害. 睡眠医療 2009 ; 3 (2) : 196-201.
- (3) 症例報告 :
- 1) 伊藤敬雄, 横田裕行 : 精神科における救急症例. 治療学 2008 ; 42 (12) : 109-112.
- (4) 追悼文 :
- 1) 木村真人 : 故 遠藤俊吉名誉教授を偲んで. 日医大医会誌 2009 ; 5 (1) : 11-12.

## 著 書

- 1) 上條吉人<sup>1)</sup>, 八田耕太郎<sup>2)</sup>, 中村 満<sup>3)</sup>, 桂川修一<sup>4)</sup>, 和田 健<sup>5)</sup>, 岸 泰宏, 佐伯俊成<sup>6)</sup>, 内富庸介<sup>7)</sup> (1) 北里大学, 2) 順天堂大学, 3) 東京都立豊島病院, 4) 東邦大学, 5) 広島市立広島病院, 6) 広島大学, 7) 国立がんセンター東病院) : [共著] 急性薬物中毒の指針, 2008 ; 星和書店.
- 2) 岸 泰宏 : [分担] 手術後精神病, ICU症候群, 人工透析・臓器移植関連精神障害. 今日の治療指針 (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢), 2009 ; p725, 医学書院.
- 3) 齊藤卓弥 : [分担] 薬物療法. 子どもの精神病障害 (齊藤万比古), 2009 ; pp210-224, 中山出版.
- 4) 木村真人, 澤谷 篤 : [分担] 突然の希死念慮. 精神科救急ケースファイル : 現場の技 (平田豊明, 八田耕太郎監修), 2009 ; pp31-33, 中外医学社.
- 5) 木村真人 : [分担] 血管性うつ病. 今日の治療指針 (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢総編集), 2009 ; pp663-664, 医学書院.
- 6) 木村真人 : [分担] 高齢者のうつ病. これだけは知っておきたい女性とうつ病 : サインを見逃さないために (神庭重信編), 2008 ; pp145-157, 医薬ジャーナル社.
- 7) 大久保善朗 : [分担] 自我障害と陰性症状. 精神医学対話 (松下正明, 加藤 敏, 神庭重信), 2008 ; pp91-103, 弘文堂.

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 大久保善朗 : 脳機能画像からみた精神疾患の病態と治療. 島根大学医学部精神医学講座同門会学術講演会, 2008. 6.
- 2) 大久保善朗 : 脳機能画像からみた統合失調症の薬物療法. 石川県神経科精神科医会 (第66回), 2008. 6.
- 3) 大久保善朗 : 脳機能画像からみたうつ病の病態と治療. Post stroke depression 研究会 (第17回), 2008. 9.
- 4) 大久保善朗 : ドーパミンとセロトニンの分子イメージング. DSフォーラム2009, 2009. 3.

### (2) 招待講演 :

- 1) 伊藤敬雄 : 救急医療現場からみた自殺問題. 香川県看護師研究会 (香川), 2008. 10.

### (3) 教育講演 :

- 1) 大久保善朗 : Functional neuroimaging of psychotropic drug action. Korean Society of Biological Psychiatry (Seoul), 2008. 11.
- 2) 齊藤卓弥 : 児童精神科領域における薬物療法. 第49回日本児童青年精神医学会総会 (広島), 2008. 11.

(4) シンポジウム：

- 1) Kishi Y : Asian patients and delirium treatment : Japanese risperidone trial. Academy of Psychosomatic Medicine (Miami, USA), 2008. 11.
- 2) 岸 泰宏：身体疾患と自殺：リエゾン精神医学への新しい期待。第21回日本総合病院精神医学会，2008. 11.
- 3) 岸 泰宏：新任の精神科医に求められるもの。第21回日本総合病院精神医学会，2008. 11.
- 4) 伊藤敬雄：「がん医療における精神医療の役割」 がん医療におけるリエゾン精神医療。第104回日本精神神経学会総会（東京），2008. 5.
- 5) 大久保善朗：医学教育モデル・コア・カリキュラムについて。日本精神神経学会学術総会（第104回），2008. 5.
- 6) 伊藤敬雄，大久保善朗，川島義高，近藤久禎<sup>1)</sup>，増野智彦<sup>1)</sup>，久志本成樹<sup>1)</sup>，川井 真<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学救急医学）：Yale大学Yale-New Haven Hospitalにおける精神科救急医療の実際と本邦との比較。第11回臨床救急医学会総会（東京），2008. 6.
- 7) 齊藤卓弥，傳田健三：子どもの双極性障害をめぐって。第49回日本児童青年精神医学会総会，2008. 11.

(5) パネルディスカッション：

- 1) 川島義高，伊藤敬雄，光井和馬<sup>1)</sup>，大久保善朗，増野智彦<sup>1)</sup>，近藤久禎<sup>1)</sup>，久志本成樹<sup>1)</sup>，川井 真<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学 高度救命救急センター）：自殺企図および自傷行為にて高度救命救急センターに搬送された症例の実態報告：在院期間と精神科介入期間。日本臨床救急医学会（第11回），2008. 6.
- 2) 川島義高，伊藤敬雄，光井和馬，大高靖史，大久保善朗：自傷行為にて救命救急センターへ搬送となった境界性パーソナリティ障害の症例報告：対処法略として自傷行為を選択する理由。日本認知療法学会（第8回），2008. 11.

(6) セミナー：

- 1) 大久保善朗：分子イメージングによる抗精神病薬の薬効評価。日本臨床精神神経薬理学会（第18回）日本神経精神薬理学会合同年会（第38回），2008. 10.
- 2) 齊藤卓弥：Attention-deficit hyperactivity disorderの治療とquality of life。第49回日本児童青年精神医学会総会（広島），2008. 11.
- 3) 齊藤卓弥：注意欠陥・多動性障害（Attention-deficit/hyperactivity disorder）の病態と治療。第21回日本総合病院精神医学会総会（千葉），2008. 11.
- 4) 大久保善朗：分子イメージングによる抗精神病薬の薬効評価。日本統合失調症学会（第4回），2009. 1.
- 5) 大久保善朗：不安のニューロイメージング。日本トラウマティック・ストレス学会（第8回），2009. 3.

(7) ランチョンセミナー：

- 1) 木村真人：脳卒中後のうつ病とアパシー。第14回日本脳神経外科救急学会，2009. 1.

(8) ワークショップ：

- 1) Ito T, Okubo Y : Lacking of Sleep in Attempted Suicide Example of Elderly Person. 3rd Asia Pacific Regional Conference of International Association for Suicide Prevention (Hong Kong), 2008. 11.
- 2) 中井有希，井関由輝子，齊藤卓弥：思春期の抜毛に対する認知行動療法的なアプローチの試み。第49回日本児童青年精神医学会総会，2008. 11.

(9) 一般講演：

- 1) Koeda M, Shibata T<sup>1)</sup>, Asai K<sup>2)</sup>, Okubo Y, Tanaka H<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Tokai University, <sup>2)</sup> Asai Hospital, <sup>3)</sup> Tokyo Medical and Dental University）：Care Policy for Patients with Dementia : Family's Decision and Its Impact. International Conference on BioMedical Engineering and Informatics, 2008 (Sanya, China), 2008. 5.
- 2) Yahata N, Sasaki T, Matsumoto S, Matsuda T, Suzuki H, Okubo Y, Sakai K : Effects of subacute fatigue load on the human emotional system : an fMRI study . The 31st Annual Meeting of the Japan Neuro-

- science Society (Tokyo, Japan), 2008. 7.
- 3) Takahashi H, Takano H, Suzuki K, Okubo Y, Suhara T, Halldin C : Roles of hippocampal and prefrontal dopamine D1 and D2 receptors in human neurocognitive functions. *Neuroreceptor Mapping 2008 (Pittsburg)*, 2008. 7.
  - 4) Ogawa K<sup>1)</sup>, Shingai Y<sup>1)</sup>, Yahata N<sup>2)</sup>, Tateno A<sup>1)</sup>, Matsuda T<sup>3)</sup>, Suzuki H<sup>2)</sup>, Okubo Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Pharmacology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Brain Science Institute. , Tamagawa University) : Placebo effect on the emotional network during emotional counting Stroop paradigm -An fMRI Study. 2nd World Federation of Societies of Biological Psychiatry Asia-Pacific Congress and 30th Annual Meeting of Japanese Society of Biological Psychiatry (Toyama, Japan), 2008. 9.
  - 5) Tateno A, Yahata N<sup>1)</sup>, Morita K<sup>2)</sup>, Masuoka T<sup>2)</sup>, Okubo Y ( <sup>1)</sup> Department of pharmacology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Nippon Medical School) : Neural activities underlying self-esteem in healthy adults : an fMRI study. 2nd WFSBP Asia-Pacific Congress (Toyama City, Toyama), 2008. 9.
  - 6) Yahata N, Sasaki T, Matsumoto S, Matsuda T, Suzuki H, Okubo Y, Sakai K : Impacts of Subacute Fatigue Load on the Human Emotional System : An fMRI Study. 2nd World Federation of Societies of Biological Psychiatry Asia-Pacific Congress and 30th Annual Meeting of Japanese Society of Biological Psychiatry (Toyama, Japan), 2008. 9.
  - 7) Tateno A, Yahata N, Morita T, Masuoka T, Okubo Y : Neural activities underlying self-esteem in healthy adults : an fMRI study. 2nd WFSBP Asia-Pacific Congress and 30 th Annual meeting of JSBP (Toyama, Japan), 2008. 9.
  - 8) Shingai Y, Ogawa K, Yahata N, Tateno A, Matsuda T, Suzuki H, Okubo Y : Investigating placebo effect on amygdala activities induced by subliminal visual stimuli. 2nd World Federation of Societies of Biological Psychiatry Asia-Pacific Congress and 30th Annual Meeting of Japanese Society of Biological Psychiatry (Toyama, Japan), 2008. 9.
  - 9) 古山めぐみ<sup>1)</sup>, 横田雅実, 中山菜央, 池森紀夫, 木村真人 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院看護部) : がん患者の疼痛緩和における足浴とアロママッサージの試み. 第24回日本催眠学会学術大会, 2008. 10.
  - 10) Karibe H<sup>1)</sup>, Arakawa R, Tateno A, Okubo Y ( <sup>1)</sup> Department of Pediatric Dentistry, Nippon Dental University) : Regional cerebral blood flow in patients with pain disorder in the oral region : A SPECT study. 19th Congress of the International Association for Disability and Oral Health (Santos, Brazil), 2008. 10.
  - 11) Ogawa K<sup>1)</sup>, Shingai Y<sup>1)</sup>, Yahata N<sup>2)</sup>, Tateno A<sup>1)</sup>, Matsuda T<sup>3)</sup>, Suzuki H<sup>2)</sup>, Okubo Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Pharmacology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Brain Science Institute. , Tamagawa University) : Placebo effect during the emotional counting Stroop paradigm : an fMRI study. *Neuroscience 2008 (Washington DC)*, 2008. 11.
  - 12) Ogawa K, Shingai Y, Yahata N, Tateno A, Matsuda T, Suzuki H, Okubo Y : Placebo effect on the emotional network during emotional counting Stroop paradigm : An fMRI Study. 2nd World Federation of Societies of Biological Psychiatry Asia-Pacific Congress and 30th Annual Meeting of Japanese Society of Biological Psychiatry (Toyama, Japan), 2008. 11.
  - 13) Ogawa K, Shingai Y, Yahata N, Tateno A, Matsuda T, Suzuki H, Okubo Y : Placebo effect during the emotional counting Stroop paradigm : an fMRI study. *Neuroscience 2008 (Washington DC)*, 2008. 11.
  - 14) Yahata N, Sasaki T, Matsumoto S, Matsuda T, Suzuki H, Okubo Y, Sakai K : Modulation of the human emotional system by subacute fatigue load : an fMRI study. *Neuroscience 2008 (Washington DC, USA)*, 2008. 11.

- 15) Shingai Y, Ogawa K, Yahata N, Tateno A, Matsuda T, Suzuki H, Okubo Y : Placebo effect on amygdala activities during subliminal presentations of emotional pictures : an fMRI study. Neuroscience 2008 (Washington DC), 2008. 11.
- 16) 高柳和江, 齊藤卓弥, 伊藤要子, 熊田朝子, 伊藤高司 : 健康大学生の笑い介入 (落語) での心理的・生理的・身体的変化. 第11回日本補完代替医療学会学術集会 (東京), 2008.
- 17) 伊藤要子, 山田 芳彰, 本多靖明, 高柳和江, 齊藤卓弥 : 笑いとストレスと体温. 日本臨床生理学会 (川崎), 2008.
- 18) Koeda M, Takahashi H<sup>1)</sup>, Noriaki Y, Matsuura M<sup>2)</sup>, Tanaka H<sup>2)</sup>, Okubo Y ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Neuroimaging, National Institute of Radiological Sciences, <sup>2)</sup> Tokyo Medical and Dental University) : A functional MRI study : Cerebral activation for Human Voice Inflexion in schizophrenia. 第30回生物学的精神医学会, 2008. 9.
- 19) 伊藤要子, 山田芳彰, 本多靖明, 高柳和江, 齊藤卓弥 : 笑いとストレスと体温. 日本臨床生理学会 (川崎), 2008.
- 20) 横田雅実, 中山菜央, 澤谷 篤, 藤渡辰馬, 浅野 健<sup>1)</sup>, 木村真人 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院小児科) : 小児科から紹介される児童思春期症例に対する精神心理学的アプローチ. 第13回千葉総合病院精神科研究会, 2008. 4.
- 21) 中山菜央, 林 宗弘, 横田雅実, 藤渡辰馬, 木村真人 : 強迫性障害に対する認知行動療法の試み. 第13回千葉総合病院精神科研究会, 2008. 4.
- 22) 小野紘子, 横田雅実, 保坂裕子, 渡邊真伊, 水木公子, 水成隆之<sup>1)</sup>, 木村真人 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経外科) : 脳血管障害後のうつ症状とアパシーの関連について. 第13回千葉総合病院精神科研究会, 2008. 4.
- 23) 河寫 讓, 齊藤卓弥, 館野 周, 成重竜一郎, 御供正明<sup>1)</sup>, 佐藤忠宏<sup>1)</sup>, 大久保善朗 ( <sup>1)</sup> 医療法人公德会 佐藤病院) : 児童精神科医の不足と遠隔診療の可能性. 第104回日本精神神経学会総会, 2008. 5.
- 24) 上田 諭, 大久保善朗 : 長年のセネストパチーが躁状態ないし混合状態への治療で改善した2症例. 日本老年精神医学会 (第23回), 2008. 6.
- 25) 下田健吾, 木村真人, 大久保善朗 : 拡散テンソルMRIを用いた認知障害を伴う老年期うつ病の検討. 第23回日本老年精神医学会, 2008. 6.
- 26) 小野紘子, 横田雅実, 中山菜央, 水成隆之<sup>1)</sup>, 池森紀夫, 木村真人 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経外科) : 脳血管障害後のうつ症状とアパシーの関連について. 第2回アジア・太平洋生物学的精神医学会・第30回日本生物学的精神医学会, 2008. 9.
- 27) 中山菜央, 横田雅実, 小野紘子, 池森紀夫, 木村真人 : 強迫性障害の認知行動療法. 第10回千葉認知行動療法研究会, 2008. 9.
- 28) 下田健吾, 木村真人, 大久保善朗 : 認知症に移行した老年期うつ病の拡散テンソルMRI所見. 第2回アジア・太平洋生物学的精神医学会・第30回日本生物学的精神医学会, 2008. 9.
- 29) 福田 一, 伊藤逸生, 野上 毅<sup>1)</sup>, 鈴木雅之<sup>1)</sup>, 館野 周, 八幡憲明<sup>2)</sup>, 高橋英彦<sup>1,3)</sup>, 田井治康友<sup>1)</sup>, 鈴木秀典<sup>2)</sup>, 浅井邦彦<sup>1)</sup>, 大久保善朗 ( <sup>1)</sup> 医療法人静和会 浅井病院, <sup>2)</sup> 日本医科大学 薬理学教室, <sup>3)</sup> 独立行政法人放射線医学総合研究所) : 統合失調症患者における脳形態変化の性差に関するMRI研究. 第30回日本生物学的精神医学会 (富山県富山市), 2008. 9.
- 30) 福田 一, 伊藤逸生, 野上 毅, 鈴木雅之, 館野 周, 八幡憲明, 高橋英彦, 田井治康友, 鈴木秀典, 浅井邦彦, 大久保善朗 : 統合失調症患者における脳形態変化の性差に関するMRI研究. 生物学的精神医学会 (第30回), 2008. 9.
- 31) 上田 諭, 伊藤敬雄 : 昏迷と意識障害の鑑別指標としての roving eye movement. 日本救急医学会 (第36回), 2008. 10.
- 32) 川島義高<sup>1)</sup>, 伊藤敬雄<sup>1,2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 精神医学教室, <sup>2)</sup> 日本医科大学 高度救命救急セン



ター)：境界性パーソナリティ障害の自殺企図および自傷行為：高度救命救急センターにて対応に苦慮した症例の心理社会的背景。日本救急医学会 (第36回), 2008. 10.

- 33) 横田雅実, 木村真人：地震被災者の不安および自律神経症状に対する自律訓練法のアプローチ。第24回日本催眠学会学術大会, 2008. 10.
- 34) 秋山友美<sup>1)</sup>, 岡崎安沙美, 中野 司<sup>2)</sup>, 横田雅実, 橋口英俊<sup>1)</sup>, 木村真人 ( <sup>1)</sup>ルーテル学院大学大学院臨床心理学科, <sup>2)</sup>小林歯科医院)：入院療養中の高齢者に対するアロマトリートメントの実践報告。第24回日本催眠学会学術大会, 2008. 10.
- 35) 中野 司<sup>1)</sup>, 横田雅実, 由井靖子<sup>1)</sup>, 木村真人 ( <sup>1)</sup>小林歯科医院)：歯科医療領域におけるアロマセラピーの応用と展望。第24回日本催眠学会学術大会, 2008. 10.
- 36) 才口貴子<sup>1)</sup>, 谷井淳一<sup>1)</sup>, 木村真人, 橋口英俊<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>ルーテル学院大学大学院臨床心理学科)：性暴力被害女性のことばのもつ意味と自己回復過程：調査と事例を中心に。第24回日本催眠学会学術大会, 2008. 10.
- 37) 伊藤滋朗, 武井 大, 清田英樹：精神科における遠隔診療の可能性：三宅島の経験から。第21回北総精神科医会, 2008. 10.
- 38) 石井民子, 小須田茂美, 塩屋桐子, 伊藤滋朗, 中尾泰崇, 池森紀夫, 木村真人, 益田律子<sup>1)</sup>, 中島裕史<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科)：m-ECTにおける麻酔薬の選択と治療効果。第21回北総精神科医会, 2008. 10.
- 39) 木村真人, 小野紘子, 横田雅実, 中山菜央, 水成隆之<sup>1)</sup>, 池森紀夫, 中尾泰崇, 石井民子, 伊藤滋朗, 塩屋桐子, 小須田茂美 ( <sup>1)</sup>北総病院脳神経外科)：当院脳神経センターにおける脳卒中後うつ病とアパシー。第21回北総精神科医会, 2008. 10.
- 40) 伊藤滋朗, 武井 大<sup>1)</sup>, 清田英樹<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>三宅島中央診療所, <sup>2)</sup>NTTレゾナントコミュニケーション事業本部)：精神科における遠隔診療の可能性：三宅島の経験から。第21回北総精神科医会, 2008. 10.
- 41) 小川耕平<sup>1)</sup>, 新貝慈利<sup>1)</sup>, 八幡憲明<sup>2)</sup>, 館野 周<sup>1)</sup>, 松田哲也<sup>3)</sup>, 鈴木秀典<sup>2)</sup>, 大久保善朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学精神医学教室, <sup>2)</sup>日本医科大学 薬理学講座, <sup>3)</sup>玉川大学 学術研究所)：情動ストループ課題遂行時の脳活動に基づく、プラセボおよび抗不安薬が情動回路に及ぼす影響に関する検討：fMRI研究。第38回日本神経精神薬理学会, 2008. 10.
- 42) 伊藤滋朗, 館野 周, 河島 譲, 佐藤忠宏<sup>1)</sup>, 武井 大<sup>2)</sup>, 小峰由貴子<sup>2)</sup>, 齊藤卓弥, 大久保善朗 ( <sup>1)</sup>医療法人公徳会佐藤病院, <sup>2)</sup>三宅島中央診療所)：精神科遠隔診療の可能性：児童精神科への試み：第3報。第28回日本精神科診断学会, 2008. 10.
- 43) 館野 周, 川島義高, 伊藤敬雄, 横田裕行<sup>1)</sup>, 大久保善朗 ( <sup>1)</sup>日本医科大学 救急医学講座)：高エネルギー外傷後の精神科受診者について。第28回日本精神科診断学会, 2008. 10.
- 44) 荒川亮介, 奥村正紀, 伊藤 浩, 高橋英彦, 高野晴成, 関 千江, 大久保善朗, 須原哲也：(S, S) - [18F]FMeNER-D2を用いた脳内ノルエピネフリントランスポーターの定量解析。日本臨床精神神経薬理学会 (第18回)・日本神経精神薬理学会合同年会 (第38回), 2008. 10.
- 45) 小川耕平, 新貝慈利, 八幡憲明, 館野 周, 松田哲也, 鈴木秀典, 大久保善朗：情動ストループ課題遂行時の脳活動に基づく、プラセボおよび抗不安薬が情動回路に及ぼす影響に関する検討：fMRI研究。日本神経精神薬理学会 (第38回), 2008. 10.
- 46) 新貝慈利, 小川耕平, 八幡憲明, 館野 周, 松田哲也, 鈴木秀典, 大久保善朗：視覚情動刺激の閾下呈示における扁桃体の活動性にプラセボないし抗不安薬が及ぼす影響の検討 - fMRI研究。日本神経精神薬理学会 (第38回), 2008. 10.
- 47) 荒川亮介, 奥村正紀, 伊藤 浩, 高橋英彦, 高野晴成, 関 千江, 大久保善朗, 須原哲也：(S, S) - [18F]FMeNER-D2による脳内ノルエピネフリントランスポーターの定量。日本核医学会学術総会 (第48回), 2008. 10.
- 48) 奥村正紀, 荒川亮介, 伊藤 浩, 高橋英彦, 高野晴成, 関 千江, 大久保善朗, 須原哲也：[18F]FE-SPA-RQ

- による脳内NK1受容体の定量. 日本核医学会学術総会 (第48回), 2008. 10.
- 49) 伊藤 浩, 荒川亮介, 高橋英彦, 高野晴成, 奥村正紀, 大塚達以, 小高文聰, 志田原美保, 須原哲也: 抗精神病薬投与時ドーパミンD2レセプター占有率の脳内局所差の検討. 日本核医学会学術総会 (第48回), 2008. 10.
  - 50) 上田 諭<sup>1)</sup>, 小山恵子<sup>2)</sup>, 大久保善朗<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学精神医学教室, <sup>2)</sup> 東京医科歯科大学保健管理センター): 不安強迫症状のち活発な罪業妄想と幻聴を呈した後頭葉の血流低下所見を示す初老期症例. 日本総合病院精神医学会 (第21回), 2008. 11.
  - 51) 下田健吾, 木村真人, 大久保善朗: 非定型抗精神病薬の低用量投与中に躁状態を呈した2例. 第21回日本総合病院精神医学会総会, 2008. 11.
  - 52) 中山菜央, 池森紀夫, 横田雅実, 木村真人: 当院における緩和ケアチームの活動状況と精神科医・臨床心理士の関わり (第2報). 第21回日本総合病院精神医学会総会, 2008. 11.
  - 53) 横田雅実, 赤尾美憲<sup>1)</sup>, 吉田滋子<sup>1)</sup>, 岡崎安沙美, 大塚理恵子, 廣橋 愛, 中山菜央, 福井里美, 池森紀夫, 近喰ふじ子<sup>1)</sup>, 木村真人 (<sup>1)</sup> 東京家政大学文学部教育心理学科): 若年女性の食行動異常における心理学的検討. 第21回日本総合病院精神医学会総会, 2008. 11.
  - 54) 廣橋 愛, 中山菜央, 横田雅実, 木村真人: 健常女性におけるPMS・PMDDの実態調査 (第2報). 第21回日本総合病院精神医学会総会, 2008. 11.
  - 55) 岡崎安沙美, 中山菜央<sup>1)</sup>, 横田雅実, 池森紀夫, 橋口英俊, 木村真人 (<sup>1)</sup> ルーテル学院大学大学院): 抑うつ患者における認知的傾向: 年齢層および自殺念慮の有無に関する検討. 第21回日本総合病院精神医学会総会, 2008. 11.
  - 56) 下田健吾, 木村真人, 大久保善朗: 非定型抗精神病薬の低用量投与中に躁状態を呈した2例. 日本総合病院精神医学会総会 (第21回), 2008. 11.
  - 57) 上田 諭, 大久保善朗, 小山恵子: 不安強迫症状を経て活発な罪業妄想と幻聴を呈した後頭葉の血流低下を示す初老期症例. 日本総合病院精神医学会総会 (第21回), 2008. 11.
  - 58) 江尻真樹, 齊藤卓弥, 大久保善朗: 総合病院における小児リエゾン活動. 日本総合病院精神医学会総会 (第21回), 2008. 11.
  - 59) 江尻真樹, 齊藤卓弥, 大久保善朗: 総合病院における小児科リエゾン活動. 第21回日本総合精神病院医学会総会 (千葉), 2008. 11.
  - 60) 齊藤卓弥: 児童思春期症例に対するsertraline投与による有害事象の出現について. 第49回日本児童青年精神医学会総会 (広島), 2008. 11.

## 6. 小児科学講座

[付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]

### 研究概要

小児科学教室は、付属4病院小児科の協力のもとに、臨床的研究そして基礎的研究を行っており、研究業績は一括して報告する。

主たる研究内容は、(1) 再生医療への造血幹細胞を用いた細胞・遺伝子治療の基礎的研究、(2) 白血病治療後の晩期障害の検討ならびに抗癌剤耐性の機序の解明、(3) 川崎病の冠動脈瘤および血管リモデリングに対する分子生物学的研究、(4) 小児糖尿病児および肥満児の代謝動態の研究、(5) 小児期の腎・尿路疾患の臨床および病理学的検討、(6) 小児呼吸器疾患の臨床的特徴および肺胞音スペクトル解析とKL-6の臨床応用、(7) 新生児・乳児早期の腸内細菌叢とアレルギー疾患発症との検討、(8) 小児慢性疲労症候群の病態の解析、(9) 小児の痙攣およびてんかんの臨床と電気生理学所見・画像所見の検討などである。

### 研究業績

#### 論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) 植田高弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 小児科)：やさしい血液のはなし。チャイルドヘルス 2007；10 (7)：4-8.

(1) 原著：

- 1) Kaizu K<sup>1)</sup>, Maeda M<sup>1)</sup>, Fukunaga Y<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 小児科)：Factors affecting final height and growth hormone provocation tests in survivors of childhood acute lymphoblastic leukemia who underwent cranial irradiation. Jpn J Pediatr Hematol 2008；22 (2)：119-125.
- 2) Boonyaritichikij S<sup>1)</sup>, Kuwabara K<sup>2)</sup>, Rimbara E<sup>3)</sup>, Noguchi N<sup>3)</sup>, Sasatsu M<sup>3)</sup> (1) Department of Family Medicine, Faculty of Medicine, Chiang Mai University, Chiang Mai 50200, Thailand, 2) Department of Pediatrics, 3) Department of Microbiology, School of Pharmacy, Tokyo University, Tokyo, Japan)：Detection of Clarithromycin Resistance and Caga Typing of Helicobacter Pylori from Children. CHIANG MAI MEDICAL JOURNAL 2008；47 (3)：6-6.
- 3) Boonyaritichikij S<sup>1)</sup>, Kuwabara K<sup>2)</sup>, Koga Y<sup>3)</sup> (1) Department of Family Medicine, Faculty of Medicine, Chiang Mai University, Chiang Mai 50200, Thailand, 2) Department of Pediatrics Nippon Medical School, 3) Laboratory of Infectious Disease, Tokai University, School of Medicine, Tokyo, Japan)：Efficacy of Probiotic LG21 in Prevention of Helicobacter Pylori in Chiangmai Children. CHIANG MAI MEDICAL JOURNAL 2008；47 (no. 3)：10-10.
- 4) Boonyaritichikij S<sup>1)</sup>, Kuwabara K<sup>2)</sup> (1) Department of Family Medicine, Faculty of Medicine, Chiang Mai University, Chiang Mai 50200, Thailand, 2) Department of Pediatrics Nippon Medical School, Tokyo, Japan)：A Comparison of the Screening Measurements and Factors Related to Overweight and Obesity in Chiang Mai Children. CHIANG MAI MEDICAL JOURNAL 2008；47 (no. 3)：24-24.
- 5) Sugiura T<sup>1)</sup>, Kawaguchi Y<sup>1)</sup>, Hirano S<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>2)</sup>, Kawamoto M<sup>1)</sup>, Takagi K<sup>1)</sup>, Hara M<sup>1)</sup>, Kamatani N<sup>1)</sup> (1) Institute of Rheumatology, Tokyo Women's Medical School of Medicine, 2) Nippon Medical School)：

Familial Mediterranean fever in three Japanese patients, and a comparison of the frequency of MEFV gene mutation in Japanese and Mediterranean populations. *Mod Rheumatol* 2008 ; 18 : 57-59.

- 6) Hayakawa J<sup>1)</sup>, Hsieh M<sup>1)</sup>, Uchida N<sup>1)</sup>, Phang O<sup>1)</sup>, Tisdale J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Molecular and Clinical Hematology Branch (MCHB), NIDDK, NIH, USA) : Busulfan Produces Efficient Human Cell Engraftment In NOD/Lt-Szscid IL2R $\beta$  null Mice. *Stem Cells* 2009 ; 27 (1) : 175-182.
  - 7) Hayakawa J<sup>1)</sup>, Washington K<sup>1)</sup>, Uchida N<sup>1)</sup>, Phang O<sup>1)</sup>, Kang E<sup>1)</sup>, Hsieh M<sup>1)</sup>, Tisdale J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Molecular and Clinical Hematology Branch (MCHB) , NIDDK, NIH, USA) : Long-term vector integration site analysis following retroviral mediated gene transfer to hematopoietic stem cells for the treatment of HIV infection. *PLoS ONE* 2009 ; 4 (1) : e4211.
  - 8) Hayakawa J<sup>1)</sup>, Ueda T<sup>1)</sup>, Lisowski L<sup>1)</sup>, Hsieh M<sup>1)</sup>, Washington K<sup>1)</sup>, Phang O<sup>1)</sup>, Metzger M<sup>1)</sup>, Krouse A<sup>1)</sup>, Donahue R<sup>1)</sup>, Sadelain M<sup>1)</sup>, Tisdale J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Molecular and Clinical Hematology Branch (MCHB) , NIDDK, NIH, USA) : Transient in vivo beta-globin production after lentiviral gene transfer to hematopoietic stem cells in the non-human primate. *Hum Gene Therapy* 2009 ; 20 (6) : 563-572.
  - 9) 大木由加志<sup>1)</sup>, 折茂裕美<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 小児科) : 2型糖尿病 (よくわかる小児内分泌疾患の診断と治療). *小児科* 2007 ; 48 : 1693-1699.
  - 10) 大木由加志<sup>1)</sup>, 折茂裕美<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 小児科) : 2型糖尿病. “小児・思春期糖尿病管理の手引き (改訂第2版) (日本糖尿病学会編)” 2007 ; 1-210.
  - 11) 大木由加志 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 小児科) : こどもの1型糖尿病ガイドブック : 患児とその家族のために. こどもの1型糖尿病ガイドブック : 患児とその家族のために 2007 ; 1-146.
  - 12) 松浦信夫, 竹内正弘, 雨宮 伸, 大木由加志 : 小児2型糖尿病に対するメトホルミン単独療法. *糖尿病* 2008 ; 51 : 427-434.
  - 13) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>1)</sup>, 五十嵐徹<sup>2)</sup>, 石川 源<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学教育推進室, <sup>2)</sup> 日本医科大学 小児科, <sup>3)</sup> 日本医科大学 女性診療科・産科) : 産褥・新生児および乳児期のシミュレーション医学教育カリキュラム. *小児科* 2008 ; 49 : 1259-1270.
- (2) 総説 :
- 1) 高瀬真人 : 小児疾患診療のための病態整理 : 呼吸器疾患 肺水腫. *小児内科* 2008 ; 40 (増刊) : 129-134.
  - 2) Maeda M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 小児科) : Late effects of childhood cancer : Life-threatening issues. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (6) : 320-324.
  - 3) 植田高弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 小児科) : 血液悪性腫瘍性疾患. *小児科* 2008 ; 49 (5) : 565-571.
  - 4) 高瀬真人 : 呼吸器疾患診療マニュアル. *日本医師会雑誌* 2008 ; 137 (特別) : s38-s39.
  - 5) 高瀬真人 : Stridorの鑑別診断と治療. *小児科* 2008 ; 49 (11) : 1775-1781.
  - 6) 西澤善樹 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : 特集 産婦人科感染症診療マニュアル [各論] ◆周産期 II. 母子感染 12. 麻疹ウイルス. *産科と婦人科* 2008 ; 75 (11) : 1643-1647.
  - 7) 今井丈英 : 呼吸器疾患 : 睡眠時無呼吸症候群. *小児内科* 2008 ; 40 (増刊) : 164-170.
  - 8) 浅野 健 : 白血球の機能異常. 血液疾患へのアプローチ III章 「末梢血検査異常」白血球系の異常. *medicina* 2008 ; 45 (12) : 2210-2213.
  - 9) 前田美穂<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 小児科) : 思春期貧血の早期発見と治療. *小児科診療* 2008 ; 71 (6) : 1042-1046.
  - 10) 前田美穂<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 小児科) : 小児がん経験者のQOL. *小児保健研究* 2008 ; 67 (2) : 304-307.
  - 11) 勝部康弘 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : 特集 川崎病 : 最近の進歩と課題 ガンマグロブリン療法 の心機能への影響. *小児内科* 2009 ; 41 (1) : 76-79.
  - 12) 羽鳥誉之 : 小児で重要なてんかん症候群 : 小児欠神てんかん. *小児内科* 2009 ; 41 (3).

- 13) 前田美穂<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 小児科)：鉄欠乏性貧血の診断と治療. 小児科診療 2009 ; 72 (2) : 303-309.
- (3) 研究報告書：
- 1) 前田美穂<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 小児科)：長期フォローアップ拠点モデル病院構築. 厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業). 「小児がん治療患者の長期フォローアップとその体制整備に関する研究」 2008 ; 25-26.
  - 2) 高瀬真人, 坂田 宏<sup>1)</sup>, 鹿田昌宏<sup>2)</sup>, 多田羅勝義<sup>3)</sup>, 福島崇義<sup>4)</sup>, 宮川知士<sup>5)</sup> (1) 旭川厚生病院小児科, 2) 池上総合病院小児科, 3) 国立病院機構徳島病院小児科, 4) 相模原協同病院小児科, 5) 都立清瀬小児病院呼吸器科)：日本人小児におけるスパイログラム基準値の作成 (最終報告). 日本小児呼吸器疾患学会雑誌 2009 ; 19 (2) : 164-176.
  - 3) 前田美穂<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 小児科)：貧血検査の実施成績. 東京都予防医学協会年報2009年度版 2009 ; 38 : 51-55.
- (4) 症例報告：
- 1) 初鹿野見春, 浅井牧子, 矢代健太郎, 柳原 剛, 藤松真理子, 西澤善樹, 上砂光裕, 藤田武久, 勝部康弘 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科)：焦点性発作で発症し West 症候群を併発したI型滑脳症の乳児例. 日本医科大学医学会雑誌 2008 ; 4 (2) : 123-126.
  - 2) 浅井牧子, 矢代健太郎, 初鹿野見春, 柳原 剛, 藤松真理子, 西澤善樹, 上砂光裕, 藤田武久, 勝部康弘 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科)：けいれん発作を契機に発見された一過性脳梁膨大部病変の2例. 小児科臨床 2008 ; 61 (6) : 1175-1178.
- (5) 宿題報告：
- 1) 長谷川久弥<sup>1)</sup>, 川崎一輝<sup>2)</sup>, 井上壽茂<sup>3)</sup>, 梅原 実<sup>4)</sup>, 高瀬真人 (1) 松戸市立病院新生児科, 2) 国立成育医療センター呼吸器科, 3) 住友病院小児科, 4) 神奈川県立こども医療センター救急診療科)：先天性中枢性肺胞低換気症候群 (オンディーヌの呪い) の全国アンケート調査. 日本小児呼吸器疾患学会 2008 ; 19 (1) : 80-84.

## 著 書

- 1) 前田美穂<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科)：〔分担〕鉄欠乏性貧血. 講義録小児科学 (佐治 勉, 有阪 治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村 司編集), 2008 ; pp574-575, メジカルビュー.
- 2) 前田美穂<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科)：〔分担〕再生不良性貧血, 2次性貧血. 講義録小児科学 (佐治 勉, 有阪 治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村 司編集), 2008 ; pp576-577, メジカルビュー.
- 3) 大木由加志：〔分担〕その他の糖尿病. 小児科学・第3版, 21. 内分泌疾患 : G. 糖尿病4 (大関武彦, 近藤直美編), 2008 ; pp1553-1554, 医学書院.
- 4) 前田美穂<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科)：〔分担〕思春期貧血. 思春期医学臨床テキスト, 日本小児科学会編 (別所文雄, 五十嵐隆監修), 2008 ; pp119-128, 診断と治療社.
- 5) 羽鳥誉之<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科)：〔分担〕検査の目的と方法：視覚誘発電位. 小児神経科診断治療マニュアル改訂第2版 (加我牧子, 佐々木征行, 須貝研司編著), 2009 ; pp146-149, 診断と治療社.
- 6) 羽鳥誉之<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科)：〔分担〕検査の目的と方法：視力検査. 小児神経科診断治療マニュアル改訂第2版 (加我牧子, 佐々木征行, 須貝研司編著), 2009 ; pp255-257, 診断と治療社.
- 7) 羽鳥誉之<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科)：〔分担〕正常値：視覚誘発電位. 小児神経科診断治療マニュアル改訂第2版 (加我牧子, 佐々木征行, 須貝研司編著), 2009 ; pp426-427, 診断と治療社.
- 8) 前田美穂<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科)：〔分担〕貧血. ナースのための小児の病態生理事典 (山城雄一郎監修), 2009 ; pp250-257, へるす出版.
- 9) 前田美穂<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科)：〔分担〕特発性血小板減少性紫斑病. 小児科研修ノート (永井良三総監修, 五十嵐隆責任編集, 金子一成, 田原卓浩, 渡辺 博編集), 2009 ; pp268-269, 診断と治療社.



## 学会発表

### 〔追加分〕

#### 追加分シンポジウム：

- 1) 大木由加志<sup>1)</sup>, 岸 恵<sup>1)</sup>, 折茂裕美<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 小児科)：当科における小児・思春期2型糖尿病に対するメトフォルミンの有効性と安全性の検討。日本小児科学会総会 (第110回), 2007. 4.
- 2) 大木由加志<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 小児科)：小児・思春期2型糖尿病の病態とその対策 (小児2型糖尿病の現状と対策について)。日本糖尿病学会総会 (第50回), 2007. 5.
- 3) 大木由加志<sup>1)</sup>, 岸 恵<sup>1)</sup>, 折茂裕美<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 小児科)：当科における小児・思春期2型糖尿病に対するメトフォルミンの有効性と安全性の検討。日本糖尿病学会総会 (第50回), 2007. 5.

#### 追加分一般講演：

- 1) 望月 徹<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>2)</sup>, 野口周作<sup>3)</sup>, 鈴木憲康<sup>4)</sup>, 山口朋禎<sup>7)</sup>, 西澤善樹<sup>5)</sup>, 土金なおみ<sup>6)</sup>, 板倉剛志 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤科, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, 6) 日本医科大学武蔵小杉病院看護部, 7) 日本医科大学武蔵小杉病院内科)：グラム染色による起炎菌の推定, WHO-NET5.3によるantibiogram算出から有効抗菌薬を決定して救命につながった重症胆道感染の1例。日本感染症学会 (第81回), 2007. 4.
- 2) 野口周作<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>2)</sup>, 土金なおみ<sup>3)</sup>, 鈴木憲康<sup>4)</sup>, 山口朋禎<sup>7)</sup>, 西澤善樹<sup>5)</sup>, 渡辺昌則<sup>6)</sup>, 片岡博邦<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院救急救命センター, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院看護部, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, 6) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 7) 日本医科大学武蔵小杉病院内科)：抗菌薬適正使用とICT活動の効果。環境感染学会 (第23回), 2008. 2.

#### (1) 特別講演：

- 1) 勝部康弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科)：一般診療で遭遇する小児循環器疾患とその対応：抗菌薬による感染性心内膜炎の予防を含めて。川崎市医師会研究会 (第241回), 2008. 5.
- 2) 藤野 修：小児の初発てんかん発作について。埼玉小児神経懇話会, 2009. 2.
- 3) 前田美穂<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 小児科)：小児がん患者における化学療法の晩期合併症について。2008年度関東甲信地区小児がん登録研究会, 2009. 3.
- 4) 一木邦彦<sup>1)</sup>, 海津聖彦<sup>1)</sup>, 浅野 健<sup>1)</sup>, 小泉慎也<sup>1)</sup>, 羽鳥誉之<sup>1)</sup>, 藤野 修<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 藤沢知雄<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院小児科, 2) 日本医科大学千葉北総病院病理部, 3) 済生会横浜市東部病院こどもセンター)：自己免疫性肝炎と診断した1女児例。北総肝胆膵ネットワーク研究会, 2009. 3.

#### (2) シンポジウム：

- 1) Kuwabara K, Kuwabara N, Fukunaga Y, Boonyaritchikij S<sup>1)</sup>, Tanuma M<sup>2)</sup>, Rimbara E<sup>2)</sup>, Noguchi N<sup>2)</sup>, Sasatsu M<sup>2)</sup> (1) Department of Family Medicine, Faculty of Medicine, Chiangmai university, 2) Department of Microbiology, School of Pharmacy, Tokyo University of Pharmacy & Life Sciences)：Genotyping of *H. pylori* CagA using fecal samples obtained from Thai children in Chiangmai (S-2 アジアのヘリコバクター感染症)。第14回日本ヘリコバクター学会, 2008. 6.
- 2) 前田美穂<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科)：小児がん経験者の身体的晩期合併症：低身長に関する考察。日本小児科学会学術集会 (第111回), 2008. 4.
- 3) 深澤隆治：心不全の遺伝子的背景。日本小児科学会 (第111回), 2008. 4.

#### (3) セミナー：

- 1) 前田美穂<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 小児科)：思春期の貧血における対応。第28回学校保健セミナー, 2009. 2.

(4) ワークショップ：

- 1) 藤野 修：小児の初発発作の管理ガイドライン案. 第42回日本てんかん学会 (東京), 2008. 10.

(5) 一般講演：

- 1) 深澤隆治：TNF alpha receptor polymorphism is correlated with resistance to immunoglobulin therapy in Kawasaki disease. 国際川崎病学会 (第9回) (Taipei), 2008. 4.
- 2) Gocho Y<sup>1)</sup>, Maeda M<sup>1)</sup>, Ueda T<sup>1)</sup>, Fujimatsu M<sup>1)</sup>, Fukunaga Y<sup>1)</sup>, Kanegane H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Pediatrics, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Pediatrics, University of Toyama) : X-Linked Lymphoproliferative Syndrome Presenting as Multiple Lymphoid Granulomatosis in the Brain. Pediatric Academic Societies and Asian Society for Pediatric Research (Honolulu, Hawaii), 2008. 5.
- 3) Katsube Y<sup>1)</sup>, Kamisago M<sup>1)</sup>, Abe M<sup>2)</sup>, Fukazawa R<sup>2)</sup>, Ogawa S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Pediatrics, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, <sup>2)</sup> Pediatrics, Nippon Medical School Hospital) : Pentraxin 3 in Patients with Kawasaki Disease. Pediatric Academic Societies and Asian Society for Pediatric Research (Honolulu, Hawaii), 2008. 5.
- 4) Katsube Y<sup>1)</sup>, Kamisago M<sup>1)</sup>, Abe M<sup>2)</sup>, Fukazawa R<sup>2)</sup>, Ogawa S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, <sup>2)</sup> Nippon Medical School Hospital) : A new marker for vasculitis, pentraxin 3, is elevated in patients with Kawasaki disease. European Society of Cardiology Congress 2008 (Munich Germany), 2008. 9.
- 5) Hayakawa J<sup>1)</sup>, Matthew H<sup>1)</sup>, Uchida N<sup>1)</sup>, Kareem W<sup>1)</sup>, Oswald P<sup>1)</sup>, David E<sup>1)</sup>, John T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Molecular and Clinical Hematology Branch (MCHB), NIDDK, NIH, USA) : A Practical Erythroid Assay in Humanized Xenograft Mouse Model Blood (ASH Annual Meeting Abstracts). 50th American society of hematology annual meeting (San Francisco, USA), 2008. 11.
- 6) Hayakawa J<sup>1)</sup>, Matthew H<sup>1)</sup>, Uchida N<sup>1)</sup>, Kareem W<sup>1)</sup>, Oswald P<sup>1)</sup>, Elizabeth K<sup>1)</sup>, John F<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Molecular and Clinical Hematology Branch (MCHB), NIDDK, NIH, USA) : Long-Term Vector Integration Site Analysis Following Retroviral Mediated Gene Transfer to Hematopoietic Stem Cells for the Treatment of HIV Infection. 50th American society of hematology annual meeting (San Francisco, USA), 2008. 11.
- 7) Uchida N<sup>1)</sup>, Kareem W<sup>1)</sup>, Hayakawa J<sup>1)</sup>, Matthew H<sup>1)</sup>, Aylin C<sup>1)</sup>, Allen E<sup>1)</sup>, Mark E<sup>1)</sup>, Robert E<sup>1)</sup>, John F<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Molecular and Clinical Hematology Branch (MCHB), NIDDK, NIH, USA) : Development of An HIV1-Based Lentiviral Vector Able to Transduce Both Human and Rhesus Blood Cells. 50th American society of hematology annual meeting (San Francisco, USA), 2008. 11.
- 8) 浅野 健, 宮武千晴, 小泉慎也, 羽鳥誉之, 藤野 修：一過性血小板減少症に巨大血小板を伴った川崎病の1例. 第70回日本血液学会総会, 2008. 10.
- 9) 浅野 健, 小泉慎也, 三科 香, 宮武千晴, 芦田光隆, 高木篤史, 桑原健太郎, 羽鳥誉之, 藤野 修：小児の急性痙攣性疾患における脳脊髄液中蛋白のプロテオミクス解析. 日本小児科学会学術集会 (第111回), 2008. 4.
- 10) 菅野華子<sup>1)</sup>, 五十嵐徹<sup>1)</sup>, 安藝 薫<sup>1)</sup>, 黒田奈緒<sup>1)</sup>, 山西慎吾<sup>1)</sup>, 柳原 剛<sup>1)</sup>, 伊藤保彦<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 小児科) : 扁桃摘後に発症した紫斑病性腎炎の1例. 第4回 埼玉小児腎・膠原病研究会, 2008. 10.
- 11) 喜多村孝幸<sup>1)</sup>, 桑原健太郎<sup>2)</sup>, 白田和弘<sup>3)</sup>, 石渡明子<sup>3)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 小児科, <sup>3)</sup> 日本医科大学 神経内科) : 特定機能病院における頭痛に関する集学的連携『千駄木頭痛カンファレンス』の意義. 第36回 日本頭痛学会総会, 2008. 11.
- 12) 桑原健太郎<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 小児科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 脳神経外科) : 東京都文京区の小中学生における頭痛疫学調査. 第36回 日本頭痛学会総会, 2008. 11.
- 13) 藤田武久<sup>1)</sup>, 吉野美緒<sup>2)</sup>, 重村朋子<sup>2)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学小児科, <sup>2)</sup> 日本医科大学臨床心理士) : カ

- ウンセリング外来における軽度発達障害児の諸相. 日本小児科学会学術集会 (第111回), 2008. 4.
- 14) 西澤善樹, 勝部康弘, 藤田武久, 上砂光裕, 藤松真理子, 柳原 剛, 初鹿野見春, 浅井牧子, 矢代健太郎: 当院での染色体異常外来における試み: 家族情報交換の場として. 日本小児科学会学術集会 (第111回), 2008. 4.
  - 15) 浅井牧子, 初鹿野見春, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一: 川崎病心機能に対するガンマグロブリンの効果: speckle-trackingならびにカラー組織ドプラー心エコーによる評価. 日本小児科学会学術集会 (第111回), 2008. 4.
  - 16) 勝部康弘, 初鹿野見春, 阿部正徳, 上砂光裕, 深澤隆治, 小川俊一: 川崎病急性期におけるペントラキシン3 (PTX3) 値の変動. 日本小児科学会学術集会 (第111回), 2008. 4.
  - 17) 柳原 剛, 村上睦美, 福永慶隆: in vitro での免疫複合体の作成と培養メサンギウム細胞に対する作用. 日本小児科学会学術集会 (第111回), 2008. 4.
  - 18) 藤松真理子, 藤田武久, 勝部康弘: 免疫グロブリン療法の重篤な副反応. 日本小児科学会学術集会 (第111回), 2008. 4.
  - 19) 初鹿野見春, 浅井牧子, 矢代健太郎, 柳原 剛, 藤松真理子, 上砂光裕, 西澤善樹, 藤田武久, 勝部康弘: 嚢胞性肺病変, Eisenmenger症候群を合併したダウン症に対するボセンタンの使用経験. 日本小児科学会学術集会 (第111回), 2008. 4.
  - 20) 藤田武久<sup>1)</sup>, 中川博文<sup>2)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 桑原健太郎<sup>1)</sup>, 藤野 修<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科, 2) 豊橋創造大学): 光弾性手法による小児座位バランスの定量評価の試み. 日本小児科学会学術集会 (第111回), 2008. 4.
  - 21) 石川浩子, 浅井牧子, 矢代健太郎, 初鹿野見春, 柳原 剛, 藤松真理子, 上砂光裕, 西澤善樹, 藤田武久, 勝部康弘: マスククリーニングを契機に発見されたサイロキシン結合グロブリン (TBG) 欠損症の1例. 日本小児科学会学術集会 (第111回), 2008. 4.
  - 22) 浅井牧子, 矢代健太郎, 黒田奈緒, 初鹿野見春, 柳原 剛, 藤松真理子, 上砂光裕, 西澤善樹, 藤田武久, 勝部康弘: 停留精巣捻転の1例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第295回), 2008. 4.
  - 23) 藤松真理子<sup>1)</sup>, 矢代健太郎<sup>1)</sup>, 浅井牧子<sup>1)</sup>, 黒田奈緒<sup>1)</sup>, 初鹿野見春<sup>1)</sup>, 柳原 剛<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): 3歳で発症した多発性硬化症の1例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第295回), 2008. 4.
  - 24) 藤松真理子<sup>1)</sup>, 矢代健太郎<sup>1)</sup>, 浅井牧子<sup>1)</sup>, 黒田奈緒<sup>1)</sup>, 初鹿野見春<sup>1)</sup>, 柳原 剛<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): マクロファージ活性化症候群を来した若年性特発性関節炎 (全身型) の1例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第295回), 2008. 4.
  - 25) 今井丈英, 高瀬真人, 新藤史子, 飛田正俊: 自己免疫性膵炎と診断した14歳女兒の1例. 日本小児科学会 (第111回), 2008. 4.
  - 26) 今井丈英, 高瀬真人, 清水希和子, 白井潤二, 飛田正俊: マイクロリントによる日本人幼児の気道抵抗値の検討-身長に基づく予測式の検討. 日本小児科学会学術集会 (第111回), 2008. 4.
  - 27) 徳山美香<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>2)</sup>, 菊地 陽<sup>3)</sup>, 加藤陽子<sup>4)</sup>, 小川千登勢<sup>5)</sup>, 小池和敏<sup>6)</sup>, 上條岳彦<sup>7)</sup>, 野口 靖<sup>8)</sup>, 牧本敦<sup>9)</sup>, 土田昌宏<sup>6)</sup> (1) 東邦大学, 2) 日本医科大学 小児科, 3) 埼玉小児医療センター, 4) 慈恵医大, 5) 聖路加国際病院, 6) 茨城こども病院, 7) 信州大学, 8) 成田日赤, 9) 国立がんセンター): 急性リンパ性白血病治療後2次性脳腫瘍の検討: TCCSG治療群1981-1999年. 日本小児科学会学術集会 (第111回), 2008. 4.
  - 28) 小泉慎也, 浅野 健, 芦田光隆, 三科 香, 宮武千晴, 藤野 修, 福永慶隆: 7歳で発症したと考えられるCrohn病の1例. 日本小児科学会学術集会 (第111回), 2008. 4.
  - 29) 芦田光隆, 小泉慎也, 三科 香, 宮武千晴, 今井大洋, 浅野 健, 藤野 修, 福永慶隆: VP-16治療後も高EBウイルス血症が遅延しているEBVAHSの1例. 日本小児科学会学術集会 (第111回), 2008. 4.
  - 30) 白井潤二, 深澤隆治, 飛田正俊: 非定型的な主訴を契機に診断された甲状腺機能異常症の2例. 日本小児科学会学術集会 (第111回), 2008. 4.

- 31) 五十嵐徹<sup>1)</sup>, 伊藤保彦<sup>1)</sup>, 島 義雄<sup>2)</sup>, 大久保隆志<sup>3)</sup>, 中島瑞穂<sup>2)</sup>, 熊坂 栄<sup>2)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学小児科, <sup>2)</sup> 葛飾赤十字産院, <sup>3)</sup> さいたま赤十字産院): RSウイルス感染の診断と予防治療の効果を考えるRSV感染の重症化予防は気管支喘息発症を抑制できるか: 前方視的検討の試み. 日本小児科学会学術集会 (第111回), 2008. 4.
- 32) 藤松真理子, 藤田武久 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): 2相性の経過を示したと考えられる急性散在性脳脊髄炎の1例. 日本小児神経学会総会 (第50回), 2008. 5.
- 33) 深澤隆治, 菌部友良<sup>1)</sup>, 濱岡建城<sup>2)</sup>, 濱本邦洋<sup>3)</sup>, 阿部正徳, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一 ( <sup>1)</sup> 日本赤十字医療センター小児科, <sup>2)</sup> 京都府立医科大学大学院医学研究科小児循環器・腎臓病学, <sup>3)</sup> 国際医療福祉大学リハビリテーション学部): TNF  $\alpha$  受容体遺伝子多型は川崎病免疫グロブリン療法の解熱効果と関係する. 日本小児循環器学会 (第44回), 2008. 5.
- 34) 羽鳥誉之: 右下肢の弛緩性麻痺をきたした脊髄炎と考えられた男児例. 日本小児神経学会 (第50回), 2008. 5.
- 35) 柳原 剛<sup>1)</sup>, 今井丈英<sup>1)</sup>, 安藝 薫<sup>1)</sup>, 黒田奈緒<sup>1,2)</sup>, 早川真理<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 土屋正巳<sup>3)</sup>, 村上睦美<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学小児科, <sup>2)</sup> 東京女子医科大学 腎臓小児科, <sup>3)</sup> つちや小児科): LDLアフェレーシス療法を施行した微小変化型ネフローゼ症候群3症例の経験. 日本小児腎臓病学会学術集会 (第43回), 2008. 6.
- 36) 柳原 剛<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup>, Novak J<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学小児科, <sup>2)</sup> アラバマ大学バーミングハム校 (微生物学): *in vitro* でのIgA1を含む免疫複合体の作成とその作用. 日本小児腎臓病学会学術集会 (第43回), 2008. 6.
- 37) 今井丈英, 高瀬真人, 飛田正俊, 萩原 望<sup>1)</sup>, 小津千佳<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院耳鼻咽喉科): 咽頭外傷と縦隔気腫. 日本小児耳鼻咽喉科学会 (第3回), 2008. 6.
- 38) 藤野 修, 小泉慎也, 羽鳥誉之, 高石康子, 桑原健太郎: West症候群寛解 (治癒) 後20年を経て焦点性発作をきたした成人例. 日本てんかん学会関東甲信越地方会 (第2回) (東京), 2008. 6.
- 39) 濱田真紀子<sup>1)</sup>, 五十嵐徹<sup>2)</sup>, 村上桂子<sup>3)</sup>, 菅谷量俊<sup>3)</sup>, 片山志郎<sup>3)</sup>, 伊藤保彦<sup>2)</sup>, 福永慶隆<sup>2)</sup>, 木津純子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 共立薬科大学, <sup>2)</sup> 日本医科大学 小児科, <sup>3)</sup> 日本医科大学 薬剤科): 小児ネフローゼ症候群におけるシクロスポリンの体内動態の検討. 第43回日本小児腎臓病学会, 2008. 6.
- 40) 勝部康弘, 阿部正徳, 上砂光裕, 深澤隆治, 小川俊一 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学小児科): 川崎病における血管炎バイオマーカーPTX3の $\gamma$ グロブリン治療による変動. 日本小児循環器学会総会・学術集会 (第44回), 2008. 7.
- 41) 藤松真理子 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): マクロファージ活性化症候群を来した若年性特発性関節炎 (全身型) の1例. 神奈川小児免疫・リウマチ性疾患研究会 (第7回), 2008. 7.
- 42) 熊坂 栄<sup>1)</sup>, 中島瑞穂<sup>1)</sup>, 島 義雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 葛飾赤十字産院): 出生前診断された鞍上部クモ膜嚢胞の2例. 日本周産期新生児医学会 (第44回), 2008. 7.
- 43) 井梅和美<sup>1)</sup>, 井上雅則<sup>1)</sup>, 花出 豊<sup>1)</sup>, 森本 進<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 尾藤博保<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科): 川崎赤十字血液センター閉鎖統合に伴う輸血療法委員会の役割. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
- 44) 中島由美子<sup>1)</sup>, 成定昌昭<sup>1)</sup>, 白井一城<sup>1)</sup>, 加藤理絵<sup>1)</sup>, 菅原 通<sup>1)</sup>, 森本 進<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室): 全自動尿中有形成成分分析装置の導入による日当直業務の改善に関する検討. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
- 45) 高久貴子<sup>1)</sup>, 西島美輝子<sup>1)</sup>, 山鹿節子<sup>1)</sup>, 越谷美由紀<sup>1)</sup>, 井出尚子<sup>1)</sup>, 井上雅則<sup>1)</sup>, 森本 進<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 天神敏博<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院外科 (外科, 心臓血管外科): 乳腺超音波検査が有用であった乳腺炎の1症例. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
- 46) 荒井誠一<sup>1)</sup>, 越谷美由紀<sup>1)</sup>, 坂倉剛志<sup>1)</sup>, 井上雅則<sup>1)</sup>, 森本 進<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室): オーダリングシステム接続に伴う生理部門システムの構築. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
- 47) 因泥弘之, 吉田美和, 小伊藤保雄, 森本 進, 勝部康弘 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室): 特定健



- 診調査報告LDL-Cの有用性. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
- 48) 隠岐和美<sup>1)</sup>, 西島美輝<sup>1)</sup>, 山賀節子<sup>1)</sup>, 越谷美由紀<sup>1)</sup>, 井出尚子<sup>1)</sup>, 荒木久美<sup>1)</sup>, 森本 進<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室): 頸動脈超音波検査における右総頸動脈完全閉塞の1症例. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
  - 49) 浅井牧子<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 阿部正徳<sup>2)</sup>, 小川俊一<sup>2)</sup>, 深澤隆治<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, 2) 日本医科大学付属病院小児科, 3) 日本医科大学多摩永山病院小児科): 川崎病における血管炎バイオマーカーPTX3の変動. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第209回), 2008. 9.
  - 50) 羽鳥誉之, 浅野 健, 藤野 修, 伊藤保彦: 紫斑を契機に受診したシェーグレン症候群5歳児例. 第17回日本シェーグレン症候群研究会, 2008. 9.
  - 51) 羽鳥誉之, 宮武千晴, 小泉慎也, 海津聖彦, 浅野 健, 藤野 修, 伊藤保彦, 浅川直之: 紫斑を契機に受診したシェーグレン症候群5歳児例. 第181回日本小児科学会千葉地方会, 2008. 9.
  - 52) 五十嵐徹<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 小児科): RSウイルス感染症と気管支喘息発症. 第3回Neo Forum, 2008. 9.
  - 53) 菅野華子<sup>1)</sup>, 三村成臣<sup>1)</sup>, 植田高弘<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 牛腸義宏<sup>1)</sup>, 渡辺 誠<sup>1)</sup>, 須藤真理子<sup>1)</sup>, 重盛朋子<sup>1)</sup>, 杉田隆<sup>2)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 小児科, 2) 明治薬科大学 微生物学教室): ALL維持療法中に深在性真菌症を発症した3例. 日本血液学会総会 (第70回), 2008. 10.
  - 54) 桑原健太郎<sup>1)</sup>, 桑原奈津子<sup>1)</sup>, Boonyaritchikij S<sup>2)</sup>, 岸 恵<sup>1)</sup>, 大木由加志<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科, 2) チェンマイ大学医学部家庭医学科): タイ国チェンマイ小児の標準身長・体重曲線. 第42回 日本小児内分泌学会学術集会, 2008. 10.
  - 55) 浅井牧子<sup>1)</sup>, 黒田奈緒<sup>1)</sup>, 柳原 剛<sup>1)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): Wilson-Mikity症候群の1例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第300回), 2008. 10.
  - 56) 小林靖宏<sup>1)</sup>, 黒田奈緒<sup>1)</sup>, 浅井牧子<sup>1)</sup>, 柳原 剛<sup>1)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): 急性脊髄炎の1例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第300回), 2008. 10.
  - 57) 黒田奈緒<sup>1)</sup>, 浅井牧子<sup>1)</sup>, 柳原 剛<sup>1)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): 肥満関連腎症と考えられた兄弟例: 今夏, 当科で行った腎生検の報告. 川崎市小児科医会症例検討会 (第300回), 2008. 10.
  - 58) 小原 明<sup>1)</sup>, 真部 淳<sup>1)</sup>, 牧本 敦<sup>1)</sup>, 康 勝好<sup>1)</sup>, 小川千登世<sup>1)</sup>, 磯山恵一<sup>1)</sup>, 杉田憲一<sup>1)</sup>, 杉田完爾<sup>1)</sup>, 野口靖<sup>1)</sup>, 太田節雄<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 矢部普正<sup>1)</sup>, 金子 隆<sup>1)</sup>, 熊谷昌明<sup>1)</sup>, 梶原道子<sup>1)</sup>, その他9名 (1) 東京小児がん研究グループ): 小児ALLに対する化学療法早期の有効性と安全性の検討: TCCSG ALL L04-16研究 Efficacy and safety of early phass of chemotherapy for ALL in children: TCCSG ALL04-16 study. 日本血液学会総会 (第70回), 2008. 10.
  - 59) 熊坂 栄<sup>1)</sup>, 中島瑞恵<sup>1)</sup>, 矢代健太郎<sup>1)</sup>, 小林 梓<sup>1)</sup>, 松村好克<sup>1)</sup>, 島 義雄<sup>1)</sup> (1) 葛飾赤十字産院): 新生児期に診断したPrader-Willi症候群7例の検討. 日本未熟児新生児学会 (第53回), 2008. 10.
  - 60) 今井丈英, 白井潤二, 清水希和子, 小川耕一<sup>1)</sup>, 高瀬真人, 飛田正俊 (1) さいたま赤十字病院小児科): 当科における在宅酸素療法施行例の検討. 日本小児呼吸器疾患学会 (第41回), 2008. 10.
  - 61) 白井潤二, 高瀬真人, 今井丈英, 小川耕一, 清水希和子: 経過が遷延したA群溶血性連鎖球菌による肺炎・膿胸の乳児例. 日本小児呼吸器疾患学会 (第41回), 2008. 10.
  - 62) 小泉慎也, 宮武千晴, 今井大洋, 浅野 健, 藤野 修: 非侵襲的陽圧式人工呼吸器を導入した重症心身障害児の1例. 日本小児呼吸器学会 (第41回), 2008. 10.
  - 63) 深澤隆治, 菌部友良<sup>1)</sup>, 濱岡建城<sup>2)</sup>, 濱本邦洋<sup>3)</sup>, 阿部正徳, 池上 英, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一 (1) 日本赤十字医療センター小児科, 2) 京都府立医科大学大学院医学研究科小児循環器・腎臓病学, 3) 国際医療福祉



大学リハビリテーション学部)：Inositol 1, 4, 5-Trisphosphate 3-Kinase C (ITPKC) 遺伝子多型 (rs28493229) と川崎病との関係。川崎病研究会 (第28回), 2008. 10.

- 64) 五十嵐徹<sup>1)</sup>, 伊藤保彦<sup>1)</sup>, 山西慎吾<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup>, 藤川 敏<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 小児科, 2) 藤川医院)：インフリキシマブが有効であった多関節型JIA3例の抗CCP抗体, MMP-3の推移の検討。第18回日本小児リウマチ学会, 2008. 10.
- 65) 浅井牧子<sup>1)</sup>, 矢代健太郎<sup>1)</sup>, 黒田奈緒<sup>1)</sup>, 柳原 剛<sup>1)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 堀川玲子<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, 2) 成育医療センター内分泌科)：内科的治療に抵抗性であった遷延性高インスリン血性低血糖症 (PHHI) の1例。日本小児科学会神奈川県地方会 (第295回), 2008. 11.
- 66) 康 勝好<sup>1)</sup>, 小原 明<sup>2)</sup>, 磯山恵一<sup>3)</sup>, 梶原道子<sup>4)</sup>, 小池和俊<sup>5)</sup>, 金澤 崇<sup>6)</sup>, 嶋田博之<sup>7)</sup>, 田中竜平<sup>8)</sup>, 熊谷昌明<sup>9)</sup>, 木下明俊<sup>10)</sup>, 杉田完爾<sup>9)</sup>, 杉田憲一<sup>9)</sup>, 真部 淳<sup>9)</sup>, 林 泰秀<sup>10)</sup>, 前田美穂<sup>10)</sup>, その他1名 (1) 東京大学小児科, 2) 東邦大学大森病院 輸血部, 3) 昭和大学藤が丘病院 小児科, 4) 東京医科歯科大学 輸血部, 5) 茨城県立こども病院 小児科, 6) 群馬大学 小児科, 7) 慶応大学 小児科, 8) 埼玉医科大学国際医療センター小児科, 9) 国立成育医療センター 血液科 10) その他)：ALL標準危険群に対するTCCSG治療戦略の変遷：TCCSG ALL L89-12, 92-13, 95-14, 99-15研究。日本小児血液学会 (第50回), 2008. 11.
- 67) 望月慎史<sup>1)</sup>, 菊地 陽<sup>1,2)</sup>, 後藤裕明<sup>2,3)</sup>, 太田節雄<sup>2,4)</sup>, 富澤大輔<sup>2,5)</sup>, 加藤陽子<sup>2,7)</sup>, 前田美穂<sup>2,8)</sup>, 磯山恵一<sup>2,9)</sup>, 小原 明<sup>2,10)</sup>, 真部 淳<sup>2,10)</sup>, 花田良二<sup>1,2)</sup>, 土田昌宏<sup>2,10)</sup> (1) 埼玉県立小児医療センター, 2) 東京小児がん研究グループ (TCCSG) ALL委員会, 3) 横浜市立大学, 4) 帝京大学ちば総合医療センター, 5) 東京医科歯科大学, 6) 山梨大学, 7) 慈恵会医科大学第三病院, 8) 日本医科大学, 9) 昭和大学藤が丘病院, 10) その他)：小児急性リンパ性白血病標準危険群治療における入院期間の後方視的検討。日本小児血液学会 (第50回), 2008. 11.
- 68) 徳山美香<sup>1)</sup>, 谷澤昭彦<sup>2)</sup>, 遠野千佳子<sup>3)</sup>, 渡辺輝浩<sup>4)</sup>, 浜本和子<sup>5)</sup>, 黒澤秀光<sup>6)</sup>, 堀田紀子<sup>7)</sup>, 伊藤正樹<sup>8)</sup>, 村松秀城<sup>9)</sup>, 前田美穂<sup>10)</sup>, 鶴澤正仁<sup>10)</sup>, 堀部敬三<sup>10)</sup>, 嶋田博之<sup>10)</sup> (1) 東邦大学医療センター佐倉病院 小児科, 2) 福井大学医学部 小児科, 3) 青森労災病院 小児科, 4) 新潟県立がんセンター 小児科, 5) 広島赤十字・原爆病院 小児科, 6) 獨協医科大学 小児科, 7) 社会保険徳山中央病院 小児科, 8) 福島県立医科大学 小児科, 9) 名古屋大学 小児科, 10) その他)：CML患者におけるイマチニブ継続内服が身長増加に与える影響の検討：日本小児白血病リンパ腫研究グループ。日本小児血液学会 (第50回), 2008. 11.
- 69) 牛腸義宏<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 菅野華子<sup>1)</sup>, 矢代健太郎<sup>2)</sup>, 島 義雄<sup>2)</sup>, 植田高弘<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 小児科, 2) 葛飾赤十字産院)：臨床的非ダウン症に合併した一過性骨髄異常増殖症の5症例。日本小児血液学会 (第50回), 2008. 11.
- 70) 前田美穂<sup>1)</sup>, 土田昌宏<sup>2)</sup>, 青木由貴<sup>2)</sup>, 有瀧健太郎<sup>2)</sup>, 石井栄三郎<sup>2)</sup>, 石田也寸志<sup>2)</sup>, 加藤陽子<sup>2)</sup>, 菊地 陽<sup>2)</sup>, 後藤晶子<sup>2)</sup>, 齊藤正博<sup>2)</sup>, 杉田憲一<sup>2)</sup>, 徳山美香<sup>2)</sup>, 中館尚也<sup>2)</sup>, 別所文雄<sup>2)</sup>, 細谷亮太<sup>2)</sup>, その他1名 (1) 日本医科大学 小児科, 2) 東京小児がん研究グループ)：小児白血病患児への病名告知に関する検討：この数年の変化。日本小児血液学会 (第50回), 2008. 11.
- 71) 徳山美香<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>2)</sup>, 菊地 陽<sup>2)</sup>, 加藤陽子<sup>2)</sup>, 小川千登世<sup>2)</sup>, 小池和俊<sup>2)</sup>, 上條岳彦<sup>2)</sup>, 牧本 敦<sup>2)</sup>, 土田昌宏<sup>2)</sup> (1) 東邦大学医療センター佐倉病院 小児科, 2) 東京小児がん研究グループ)：TCCSG 11~14次プロトコールで急性リンパ性白血病治療後に発生した2次性脳腫瘍の検討。日本小児血液学会 (第50回), 2008. 11.
- 72) 望月慎史<sup>1)</sup>, 菊地 陽<sup>1)</sup>, 後藤裕明<sup>2)</sup>, 太田節雄<sup>3)</sup>, 富澤大輔<sup>4)</sup>, 廣瀬衣子, 加藤陽子<sup>5)</sup>, 前田美穂<sup>6)</sup>, 磯山恵一<sup>7)</sup>, 小原 明<sup>8)</sup>, 真部 淳<sup>9)</sup>, 花田良二<sup>1)</sup>, 土田昌宏<sup>10)</sup> (1) 埼玉小児医療センター, 2) 横浜市立大学, 3) 帝京大学 市原病院, 4) 東京医科歯科大学, 5) 慈恵医大, 6) 日本医科大学 小児科, 7) 昭和大学, 8) 東邦大学, 9) 聖路加国際病院, 10) 茨城こども病院)：小児急性リンパ性白血病における入院期間の後方視的検討。日本小児血液学会 (第50回), 2008. 11.
- 73) 軸園智雄<sup>1)</sup>, ヘイムス規予美<sup>1)</sup>, 岡村律子<sup>1)</sup>, 五十嵐健人<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 赤須東樹<sup>1)</sup>, 山下浩二<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>2)</sup>,

- 清水一雄<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 第2外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 小児科) : 腹痛を契機に発見された後腹膜神経節神経腫の1例. 第70回日本臨床外科学会, 2008. 11.
- 74) 五十嵐徹<sup>1)</sup>, 伊藤保彦<sup>1)</sup>, 安藝 薫<sup>2)</sup>, 黒田奈緒<sup>3)</sup>, 柳原 剛<sup>3)</sup>, 吉田順子<sup>4)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup>, 清水 章<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 小児科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 解析人体病理学, <sup>3)</sup> 日本医科大学 武蔵小杉病院, <sup>4)</sup> 日本医科大学 千葉北総病院) : 当科における小児期発症IgA腎症に対する扁桃+ステロイドパルス療法, ミゾリビン併用療法の経験について. 第38回日本腎臓学会東部学術集会, 2008. 11.
- 75) 五十嵐徹<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 小児科) : 小児用ACTとイーザーアズマプログラムを用いた小児気管支喘息の外來管理について. 第10回小児呼吸療法フォーラム, 2008. 11.
- 76) 菅野華子<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 加藤秀明<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup>, 島 義雄<sup>2)</sup>, 八木ひとみ<sup>3)</sup>, 東元 健<sup>3)</sup>, 福島英伸<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学小児科, <sup>2)</sup> 葛飾赤十字産院小児科, <sup>3)</sup> 佐賀大学医学部分子生命科学講座) : Beckwith-Wiedemann症候群 (BWS) の1例. 第561回 日本小児科学会東京地方会講話会, 2008. 12.
- 77) 小林靖宏<sup>1)</sup>, 黒田奈緒<sup>1)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : 急性脊髄炎の2歳女児例. 神奈川小児神経懇話会 (第43回), 2009. 1.
- 78) 渡辺 茂<sup>1)</sup>, 秋月哲史<sup>1)</sup>, 麻生健太郎<sup>1)</sup>, 岩田裕吉<sup>1)</sup>, 小澤安文<sup>1)</sup>, 勝部康弘, 上砂光裕, 神田東人<sup>1)</sup>, 岸 良示<sup>1)</sup>, 木村和弘<sup>1)</sup>, 後藤建二郎<sup>1)</sup>, 五味淵誠<sup>1)</sup>, 嶋崎 譲<sup>1)</sup>, 初鹿野見春, 林 毅陸, その他9名 (1) 川崎市医師会学校医部会心臓病判定委員会) : 川崎市立学校心臓病検診結果 : 平成16年度から19年度の結果報告. 川崎市医師会医学会 (第26回), 2009. 2.
- 79) 桑原健太郎<sup>1)</sup>, 小林史子<sup>1)</sup>, Surasak B<sup>2)</sup>, 田沼道也<sup>3)</sup>, 林原絵美子<sup>3)</sup>, 野口雅久<sup>3)</sup>, 笹津備規<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学小児科, <sup>2)</sup> チェンマイ大学医学部家庭医学科, <sup>3)</sup> 東京薬科大学病院微生物学教室) : タイ国小児の糞便を用いたClarithromycin (CAM) 耐性の疫学調査. 第13回日本小児 *H. pylori* 研究会, 2009. 3.
- 80) 石川浩子<sup>1)</sup>, 桑原健太郎<sup>1)</sup>, 植田高弘<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学病院小児科) : 意識障害を主訴とした統合失調症の13歳男子例. 第564回日本小児科学会東京都地方会講話会, 2009. 3.
- 81) 桑原健太郎 : 「小児の頭痛に関する文京区小中学校頭痛アンケート」の結果報告. 第2回千駄木頭痛カンファランス, 2008. 6.
- 82) 桑原健太郎 : 非典型的な画像所見を示した多発性硬症の女児例. 第4回文京ニューロサイエンス, 2008. 7.
- 83) 前田美穂<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 小児科) : 思春期貧血を見つける・なおすロードマップ. 福井県大学連携リーグ推進事業講演会, 2008. 11.
- (6) ポスター :
- 1) 岡崎哲也<sup>1)</sup>, 山西慎吾<sup>1)</sup>, 三枝英人<sup>1)</sup>, 植田高弘<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科) : 出生時より嘔声を認めた若年型喉頭乳頭腫の1例. 日本小児科学会学術集会 (第111回), 2008. 4.
- 2) 菅野華子<sup>1)</sup>, 重盛朋子<sup>1)</sup>, 植田高弘<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 水書教雄<sup>2)</sup>, 三村成巨<sup>2)</sup>, 熊坂 栄<sup>2)</sup>, 中島瑞恵<sup>2)</sup>, 島 義雄<sup>2)</sup>, 藤澤知雄<sup>3)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科, <sup>2)</sup> 葛飾赤十字産院新生児科, <sup>3)</sup> 済生会横浜市東部病院こどもセンター) : 急性巨核芽救性白血病を発症したAlagille症候群の1例. 日本小児科学会学術集会 (第111回), 2008. 4.
- 3) 矢代健太郎<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 浅井牧子<sup>1)</sup>, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 初鹿野見春<sup>1)</sup>, 柳原 剛<sup>1)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科) : モザイク型ダウン症に合併した一過性骨髄異常増殖症 (TAM) の1例. 日本小児科学会学術集会 (第111回), 2008. 4.
- 4) 宮武千晴<sup>1)</sup>, 海津聖彦<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup>, 宮川知士<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学小児科, <sup>2)</sup> 東京都立清瀬小児病院呼吸器科) : QuantiFERON TB-2G の結核診断における有用性について. 東京都地方会, 2008. 4.
- 5) 菅野華子<sup>1)</sup>, 三村成巨<sup>1)</sup>, 植田高弘<sup>1)</sup>, 牛腸義宏<sup>1)</sup>, 渡辺 誠<sup>1)</sup>, 須藤真里子<sup>1)</sup>, 重盛朋子<sup>1)</sup>, 杉田 隆<sup>2)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 小児科, <sup>2)</sup> 明治薬科大学 微生物学教室) : ALL維持療法中に深在性真菌症を発症した3例. 日本血液学会総会 (第70回), 2008. 10.

- 6) 阿部正徳<sup>1)</sup>, 牛腸義宏<sup>1)</sup>, 植田高弘<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 小児科) : PETにて取り込みを認めた gliomatosis peritonei を伴った卵巣の未熟奇形腫の1例. 日本小児がん学会 (第24回), 2008. 11.
- 7) 坂本なほ子<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>2)</sup>, 石田也寸志<sup>3)</sup>, 掛江直子<sup>1)</sup>, 下開千春<sup>4)</sup>, 樋口明子<sup>5)</sup>, 邱 冬梅<sup>1)</sup>, 羊 利敏<sup>1)</sup>, 藤本純一郎<sup>1)</sup> (1) 国立成育医療センター研究所, 2) 日本医科大学 小児科, 3) 聖路加国際病院 小児科, 4) 第一生命経済研究所, 5) 財団法人 がんの子供を守る会) : デルファイ法を用いた小児がん経験者の長期フォローアップに関する意識調査. 日本小児がん学会 (第24回), 2008. 11.
- 8) 梶原伸介<sup>1)</sup>, 辻陽一郎<sup>1)</sup>, 小倉友美<sup>1)</sup>, 今井耕輔<sup>1)</sup>, 子川和宏<sup>1)</sup>, 牛腸義宏<sup>2)</sup>, 前田美穂<sup>2)</sup>, 金兼弘和<sup>3)</sup>, 野々山恵章<sup>1)</sup> (1) 防衛医科大学校 小児科, 2) 日本医科大学 小児科, 3) 富山大学 小児科) : 頭蓋内腫瘍性病変, 血球貧食症候群を合併し, 非血縁者間骨髄移植を施行したX連鎖リンパ増殖症候群の1例. 日本小児血液学会 (第50回), 2008. 11.
- 9) 山西愼吾<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 植田高弘<sup>1)</sup>, 浅野 健<sup>1)</sup>, 菅原信二<sup>2)</sup>, 福島 敬<sup>3)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 小児科, 2) 筑波大学 放射線科, 3) 筑波大学 小児科) : 2次がんと考えられた十二指腸原発のユーイング肉腫の1例. 日本小児がん学会 (第24回), 2008. 11.

## 7. 放射線医学講座

### [付属病院放射線科, 放射線治療科]

#### 研究概要

(放射線診断) 部門では非侵襲的3次元CTの分野での国内外の指導的立場にある。冠動脈CTによる血管狭窄・血管壁性状評価, 3次元血管造影法, 脳灌流画像, 腫瘍病変の血行動態解析などの開発・研究を進めている。MRI部門では3テスラMRI装置を用いた臨床研究が行われており, 特に心疾患や血管病変に対する画像・機能解析, ナビゲーションシステムや高速撮像法に関する研究は高く評価されている。一般撮影部門ではデジタル撮影による乳房撮影の診断精度の研究が行われている。その他, 造影剤に関する研究や遠隔システムを含めて画像ネットワークの研究も行われている。(核医学) 3次元動態解析法を用いた虚血性心疾患の病態解析やモバイル型半導体検出器の研究など循環器核医学領域において国内外で高く評価されている。中枢神経領域では認知症の画像統計学的診断や脳虚血性疾患に関する解析プログラムの開発が進んでいる。PETに関しては, 医療検診センターにて最新のPET/CTを用いた腫瘍核医学と脳内リセプターの分子画像の研究, 画像Fusionなどの画像処理, 新しいPET製剤に関する研究が行われている。

(血管造影・IVR) 血管性病変や悪性腫瘍に対する治療および救急疾患に対するIVR治療では国内外での評価は高く, 肺動脈血栓塞栓症・深部静脈血栓症に対する血栓破砕吸引療法や動脈内ステント療法や腹部悪性腫瘍に対する閉鎖循環下超高濃度抗癌剤治療などの基礎的, 臨床研究が行われている。その他, CTガイド下生検や肺がんや肝がんに対するラジオ波治療の研究も行われている。

(放射線治療) 頭頸部腫瘍・肺癌における化学療法併用療法はその良好な治療成績が注目されている。また頭頸部腫瘍における治療計画や治療効果判定についての超音波検査の研究は高く評価されている。さらに, 皮膚良性疾患に対する放射線治療や前立腺癌小線源療法の研究も進んでいる。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Murata S, Tajima H, Ichikawa K, Onozawa S, Wang J, Kumita S, Nomura K : Oily chemoembolization combined with degradable starch microspheres for HCCwith cirrhosis . *Hepatogastroenterology* 2008 ; 55 (84) : 1041-6.
- 2) Murata S, Tajima H, Onozawa S, Kumita S, Kondo Y, Nomura K : Pilot study of transcatheter arterial ethanol embolization under closed renal circuit for large renal cell carcinomas . *Eur Radiol* 2008 ; 18 (7) : 1464-72.
- 3) Tajima H, Murata S, Kawamata H, Ichikawa K : Application of a stent-graft after initial occlusion with interlocking detachable coils for treatment of penetrating atherosclerotic ulcer of the aorta. *Cardiovasc Intervent Radiol* 2008 ; 31 (2) : 77-8.
- 4) Nakazawa K, Tajima H, Murata S, Kumita S, Yamamoto T, Tanaka K : Catheter fragmentation of acute massive pulmonary thromboembolism : distalembolisation and pulmonary arterial pressure elevation . *Br J Radiol* 2008 ; 81 (971) : 848-54.
- 5) Amano Y, Takayama M, Kumita S : Magnetic resonance imaging of apical left ventricular aneurysm and thinning associated with hypertrophic cardiomyopathy . *J Comput Assist Tomogr* 2008 ; 32 : 259-264.
- 6) Amano Y, Matsumura Y, Kumita S : Free-breathing high-spatial-resolution delayed contrast-enhanced

three-dimensional viability MR imaging of the myocardium at 3.0T : a feasibility study. J Magn Reson Imaging 2008 ; 28 : 1361-1367.

- 7) Murata S, Tajima H, Ichikawa K, Onozawa S, Wang J, Kumita S, Nomura K : Oily chemoembolization combined with degradable starch microspheres for HCC with cirrhosis. Hepato-gastroenterology 2008 ; 55 : 1041-1046.
- 8) Nakazawa K, Tajima H, Murata S, Kumita S, Yamamoto T, Tanaka K : Catheter fragmentation of acute massive pulmonary thromboembolism. distal embolization and pulmonary arterial pressure elevation. British J Radiol 2008 ; 81 : 848-854.
- 9) Murata S, Tajima H, Onozawa S, Kumita S, Kondo Y, Nomura K : Pilot study of transcatheter arterial ethanol embolization under closed renal circuit for large renal cell carcinomas. Eur Radiol 2008 ; 18 : 1464-1472.
- 10) Hayashi H, Hidaka F, Kiriyama T, Sato H, Takagi R, Kumita S : A Left Ventricular Lipoma Diagnosed on Three - dimensional Electrocardiogramgated Cardiac Computed Tomography. Heart Vessels 2008 ; 23 : 366-369.
- 11) Hayashi H, Yuasa Y<sup>1)</sup>, Amano Y, Tanimoto A<sup>2)</sup>, Saito Y<sup>3)</sup>, Yoshioka K<sup>4)</sup>, Kita M<sup>5)</sup>, Kumazaki T, Hiramatsu K<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Eiju General Hospital, <sup>2)</sup> Department of Diagnostic Radiology, Keio University School of Medicine, <sup>3)</sup> School of Health Science, Hirosaki University Hospital, <sup>4)</sup> Department of Radiology, Iwate Medical University Hospital, <sup>5)</sup> Department of Radiology, Fuchu Hospital, <sup>6)</sup> Mizumachi MR Clinic ) : Arterial Visualization by Contrast-Enhanced Moving-Table MR Angiography : Crossover Comparison of 0.1 and 0.2 mmol/kg Doses of Meglumine Gadopentetate in Normal Volunteers. J Magn Reson Imaging 2008 ; 28 : 783-790.
- 12) One S<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Hayashi H, Kumita S ( <sup>1)</sup> Department of plastic and reconstructive surgery, Nippon Medical School ) : Usefulness of Multidetector-row Computed Tomography in the Planning and Post-operative Assessment of Perforator Flaps. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 : 50-52.
- 13) Yamamoto T, Murai K, Tokita Y, Kato K, Iwasaki Y, Sato N, Tajima H, Mizuno K, Tanak K : Thrombolysis with a novel modified tissue-type plasminogen activator, Monteprese, combined with catheter-based treatment for major pulmonary embolism. Circulation Journal 2009 ; 73 : 106-110.
- 14) 町田 幹, 高木 亮, 林 宏光, 汲田伸一郎 : MDCTのthin slice dataを用いた画像解剖学習の試み. 映像情報Medical 2008 ; 40 (7) : 108-112.
- 15) 町田 幹, 高木 亮, 林 宏光, 汲田伸一郎 : 腎機能と画像診断-腎臓CT, 3DCT検査のノウハウ. 腎機能と画像診断 2008 ; 38 (7) : 763-771.
- 16) 道本 薫<sup>1)</sup>, 清水忠夫<sup>1)</sup>, 平野 明<sup>1)</sup>, 小川健治<sup>1)</sup>, 田島廣之, 天神敏博<sup>2)</sup>, 赤須東樹<sup>2)</sup>, 古川清憲<sup>2)</sup>, 矢野つよし<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京女子医科大学東 医療センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学外科, <sup>3)</sup> 荒川区がん予防・健康づくりセンター ) : 荒川区における乳癌検診15年間の成績. 日本乳癌検診学会誌 2008 ; 17 : 261-266.
- 17) 福井めぐみ<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 中田 淳<sup>1)</sup>, 古川雅智<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 川嶋修司<sup>2)</sup>, 高野仁司<sup>2)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup>, 中澤 賢, 田島廣之 ( <sup>1)</sup> 集中治療室, <sup>2)</sup> 循環器内科 ) : 蛋白同化ステロイドが発症に関連した急性心筋梗塞と肺塞栓症の合併例. Therapeutic Research 2008 ; 29 : 695-697.
- 18) 村上隆介, 汲田伸一郎 : 腎機能と画像診断 : 腎血管造影検査のノウハウ. 成人病と生活習慣病 2008 ; 38 (7) : 779-783.

(2) 総説 :

- 1) 田島廣之, 村田 智, 中澤 賢, 福永 毅, 小野澤志郎 : 静脈血栓塞栓症のIVR. 臨床画像 2008 ; 24 : 1156-1164.



- 2) 田島廣之, 村田 智, 中澤 賢, 福永 毅, 小野澤志郎: 急性肺血栓塞栓症に対するカテーテル治療. 心臓 2008 ; 40 : 822-827.
  - 3) 田島廣之, 吉原尚志, 桐山智成, 村田 智, 林 宏光: 肺循環障害 (肺血栓塞栓症・IPAH) の画像診断. 呼吸器科 2008 ; 14 : 441-448.
  - 4) 嶺 貴彦, 田島廣之, 村田 智, 福永 毅, 中澤 賢, 小野澤志郎, 吉原尚志, 上田達夫: 急性腹症の画像診断. 血管性病変. 画像診断 2008 ; 28 : 1320-1333.
  - 5) 天野康雄, 田島廣之, 林 宏光, 高浜克也, 椎葉真人, 汲田伸一郎: 下肢動脈 MRA. Vascular Lab 2008 ; 5 (増刊) : 176-180.
  - 6) 高木 亮: 急性期脳梗塞画像診断実践ガイドライン2007. 救急医学 2008 ; 32 (10) : 1164-1168.
  - 7) 田島廣之, 村田 智, 福永 毅, 小野澤志郎, 吉原尚志, 嶺 貴彦, 上田達夫, 城 正樹, 館野展之, 中澤 賢, 市川和雄: 救急のIVR: 胸部疾患におけるIVR. 映像情報Medical 2008 ; 40 (6) : 560-565.
  - 8) 天野康雄, 田島廣之, 林 宏光, 高浜克也, 椎葉真人, 汲田伸一郎: 下肢動脈. MR. Vascular Lab増刊 2008 ; 5 : 176-180.
  - 9) 田島廣之, 村田 智, 小野澤志郎: 血管造影 (IVR) の適応と役割. 臨床画像 増刊 2008 ; 24 (4) : 60-70.
  - 10) 汲田伸一郎, 福嶋善光, 桐山智成, 林 宏光: SPECTと64列CTを用いた心臓フュージョンイメージの臨床応用. 新医療 2008 ; 35 : 46-49.
  - 11) 汲田伸一郎, 福嶋善光, 桐山智成, 林 宏光: 64列CTとSPECTデータを用いた心臓Fusionシステムの有用性. Rad Fan 2008 ; 6 : 50-52.
  - 12) 汲田伸一郎: 機能画像を用いた病態把握: 形態画像との融合を含めて. 日医大医学会誌 2008 ; 4 : 106-110.
  - 13) 汲田伸一郎, 福嶋善光, 桐山智成, 林 宏光: 心臓疾患の画像診断. 循環制御 2008 ; 29 : 127-131.
  - 14) 林 宏光, 早川克己<sup>1)</sup>, 鳴海義文<sup>2)</sup>, 桑鶴良平<sup>3)</sup> (1) 京都市立病院放射線科, 2) 大阪医科大学, 3) 東京女子医科大学放射線科): 同一患者に対し複数の造影検査を行う場合に考慮すべき事項. 造影剤の適正使用推進ガイド 2008 ; 24 : 1506-1513.
  - 15) 林 宏光: 大動脈解離の診断におけるMDCTとMRIの有用性. 心エコー 2008 ; 9 : 966-976.
  - 16) 早川克己<sup>1)</sup>, 鳴海義文<sup>2)</sup>, 林 宏光, 桑鶴良平<sup>3)</sup> (1) 東京女子医科大学放射線科, 2) 大阪医科大学, 3) 京都市立病院放射線科): 造影剤の適正使用推進ガイド: 副作用発生時の対応素案. 臨床画像 2008 ; 24 : 1058-1065.
  - 17) 鳴海義文<sup>1)</sup>, 早川克己<sup>2)</sup>, 林 宏光, 桑鶴良平<sup>3)</sup> (1) ハイメディッククリニックウエスト, 2) 京都市立病院放射線科, 3) 東京女子医科大学放射線科): 造影剤の適正使用推進ガイド: 造影検査前後の患者フォロー: インフォームド・コンセントと患者用文書. 臨床画像 2008 ; 24 : 662-669.
  - 18) 林 宏光: マルチスライスCTによる最先端の画像診断: 切らずに診る人体 2007. 都耳鼻会報 2008 ; 125 : 42-48.
  - 19) 林 宏光: マルチスライスCTによる冠動脈CTの現状と展望. 日医大会誌 2008 ; 4 : 19-24.
  - 20) 林 宏光, 汲田伸一郎: 臨床放射線医学: 診断面. 日本医事新報 2008 ; 4371 : 38-46.
  - 21) 林 宏光, 早川克己<sup>1)</sup>, 鳴海義文<sup>2)</sup>, 桑鶴良平<sup>3)</sup> (1) 京都市立病院放射線科, 2) ハイメディッククリニックウエスト, 3) 東京女子医科大学放射線科): 造影剤の適正使用推進ガイド: 併用に注意すべき薬剤. 臨床画像 2008 ; 24 : 268-273.
  - 22) 吉原尚志, 村田 智, 田島廣之: 胸部単純X線写真. Vascular Lab-救急診療と血管検査 2009 ; 6 (増刊号) : 148-152.
- (3) 研究報告書:
- 1) 田村正三<sup>1)</sup>, 杉本英治<sup>2)</sup>, 対馬義人<sup>3)</sup>, 林 宏光, 福田国彦<sup>4)</sup>, 細谷龍男<sup>5)</sup>, 大野岩男<sup>5)</sup>, 岡田浩一<sup>6)</sup>, 堀尾勝<sup>7)</sup> (1) 宮崎医科大学放射線科, 2) 自治医科大学放射線科, 3) 群馬大学医学部放射線科, 4) 慈恵会医科大学放射線科, 5) 慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科, 6) 埼玉医科大学腎臓内科, 7) 大阪大学医学部腎臓内科): 腎障

患者におけるガドリニウム造影剤使用に関するガイドライン. 日本医学放射線学会.

(4) 症例報告:

- 1) Kawakami Y<sup>1)</sup>, Koizumi S<sup>1)</sup>, Kuwabara K<sup>2)</sup>, Fujimura J<sup>1)</sup>, Shirai J<sup>1)</sup>, Watanabe M<sup>2)</sup>, Murata S, Imai T<sup>1)</sup>, Takeda S<sup>1)</sup>, Fukazawa R<sup>1)</sup>, Takase M<sup>1)</sup>, Fujita T<sup>2)</sup>, Hida M<sup>1)</sup>, Fujino O<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School ): An 8-year-old boy with vertebral artery dissection with cerebellar ataxia featuring suspected vertebral artery hypoplasia. Brain&Development 2009 ; 31 : 326-330.
- 1) 松下 晃, 相本隆幸, 内田英二, 村田 智, 田島廣之, 田尻 孝: 腹腔動脈起始部狭窄を伴う背側隣動脈瘤の1例. 日医大医会誌 2008 ; 4 (2) : 127-129.
- 2) 田島廣之, 岡部哲夫: Progress in Radiology 2008 報告. 映像情報メデイカル 2009 ; 41 : 66-70.

著 書

- 1) 林 宏光: [分担] 第2章 造影MRI 3. 骨盤・下肢領域. 血管イメージング: 大動脈・末梢動脈 (天沼 誠), 2008 ; pp93-102, 羊土社.
- 2) 田島廣之: [分担] IVR (インターベンショナルラジオロジー). In 新医用放射線科学講座. 診療画像機器学 (岡部哲夫, 小倉敏裕), 2008 ; pp51-55, 医歯薬出版株式会社.
- 3) 天野康雄, 高山守正: [分担] 今後の展望 MRI. 見て診て学ぶ 虚血性心疾患の画像診断 (木村文子, 西村重敬編), 2009 ; pp346-356, 永井書店.

学会発表

[追加分]

追加分モーニングレクチャー:

- 1) Hayashi H : Contrast-induced nephropathy : How to prevent and manage risk patients. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.

追加分一般講演:

- 1) Masaharu Tajiri<sup>1)</sup>, Morimasa Takayama<sup>1)</sup>, Yasuki Hen<sup>1)</sup>, Nobuo Iguchi<sup>1)</sup>, Hirotsugu Mihara<sup>1)</sup>, Masaru Aikawa<sup>1)</sup>, Hiroyuki Watanabe<sup>1)</sup>, Tetsuya Tohbaru<sup>1)</sup>, Ryuta Asano<sup>1)</sup>, Jun Umemura<sup>1)</sup>, Yasuo Amano, Kyoichi Mizuno<sup>3)</sup>, Tetsuya Sumiyoshi<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology, Sakakibara Heart Institute, Tokyo, <sup>2)</sup> Nippon Medical School, Tokyo) : Concordance of Alcohol Ablation Localization in Interventricular Septum against Systolic Anterior Motion (SAM) of Mitral Valve in HOCM. 第73回日本循環器学会総会・学術集会 (大阪国際会議場), 2008. 3.

(1) 特別講演:

- 1) 汲田伸一郎: 臨床に即した心臓核医学. 第26回動態核医学研究会, 2008. 5.
- 2) 林 宏光: MDCT進化論. 第2回日立CT検討会, 2008. 6.
- 3) 高木 亮: 脳梗塞の画像診断: MD-CTの役割と今後の展望. 日立メデイコメデイカルフォーラム, 2008. 7.
- 4) 汲田伸一郎: マルチモダリティ時代の心臓核医学. 第18回秋田県循環核医学研究会, 2008. 7.
- 5) 汲田伸一郎: 虚血性心疾患における心臓核医学. 第12回宮城県心臓核医学研究会, 2008. 7.
- 6) 林 宏光: 切らず診る人体' 08: 心臓CTの現状を中心に. 在日米国商工会議所主催 先進医療技術の役割啓発キャンペーン: 第13回メディアレクチャー, 2008. 7.
- 7) 林 宏光: 心臓CTの実践的活用. 北里医用画像セミナー, 2008. 7.
- 8) 林 宏光: 心臓CT: 検査の実際とその実践的活用. 友愛記念病院病診連携講演会, 2008. 7.

- 9) 汲田伸一郎：心臓核医学の役割. 第20回愛媛心臓核医学研究会, 2008. 9.
- 10) 汲田伸一郎：マルチモダリティ時代の心臓画像診断. 第19回21世紀心臓核医学カンファ, 2008. 9.
- 11) 林 宏光：マルチスライスCTによる血管疾患の低侵襲的診断. 第20回埼玉血管外科懇話会, 2008. 9.
- 12) 高木 亮：急性期脳梗塞の画像診断；緊急検査で何がわかるのか. 第10回埼玉県放射線科医会, 2008. 11.
- 13) 汲田伸一郎：心臓核医学の役割と臨床応用法. 第21回北海道心臓核医学フォーラム, 2008. 11.
- 14) 林 宏光：心臓CT：基礎から最新の3次元画像まで. 大塚開発専門領域勉強会, 2008. 11.
- 15) 林 宏光：心臓CT：何がどこまでわかるようになったのか. 第22回白河医師会循環器病勉強会, 2008. 11.
- 16) 林 宏光：心臓CTの現状と展望：造影剤腎症も含めて. 心臓CT Forum, 2008. 11.
- 17) 林 宏光：循環器MDCT研究会 心臓CT現状アンケート報告. 第6回循環器MDCT研究会, 2008. 11.
- 18) 田島廣之：血管系IVRの基本. 第4回認定IVR看護師講習会, 2009. 1.
- 19) 田島廣之：肺血栓塞栓症のカテーテル治療. 第6回近畿臨床血栓性疾患研究会, 2009. 2.
- 20) 汲田伸一郎：心臓核医学の今後の展望. 第20回火の国カンファレンス, 2009. 2.
- 21) 汲田伸一郎, 石原圭一：PETの臨床的意義；婦人科疾患を含めて. 相模原市産婦人科医学会学術講演会, 2009. 2.
- 22) 林 宏光：心臓CT：現状と展望. 横須賀CT・MRI研究会, 2009. 2.

(2) 教育講演：

- 1) 汲田伸一郎：心臓：心筋の循環代謝. 第67回日本医学放射線学会総会, 2008. 4.
- 2) 汲田伸一郎：心筋の循環代謝：心筋SPECT検査. 第67回日本医学放射線学会総会, 2008. 4.
- 3) 林 宏光：マルチスライスCTを用いた循環器疾患の低侵襲的診断：現状と展望. 第36回日本血管外科学会学術総会, 2008. 4.
- 4) 天野康雄：心臓・心膜腫瘍性病変のMRI. 第213回関東MRI症例検討会, 2008. 9.
- 5) 林 宏光：マルチスライスCTを用いた細径動脈の描出：形成外科領域における治療支援画像としての可能性. 第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 2008. 10.

(3) シンポジウム：

- 1) Takagi R, Amano Y, Teramoto A, Matsumura Y, Tahara S, Hidaka F, Tajima H, Hayashi H, Kumita S : 3D dynamic MRI of pituitary adenoma using 3-Tesla. Progress in Radiology 2008 (Tokyo), 2008. 9.
- 2) Onozawa S, Ueda T, Mine T, Yamaguchi H, Yoshihara H, Fukunaga T, Murata S, Tajima H, Kushimoto S<sup>1)</sup>, Yokota H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Emergency Medicine) : Transcatheter embolization for traumatic injury of the lung . Progress in Radiology 2008 (Tokyo), 2008. 9.
- 3) Ueda T, Murata S, Tajima H, Nakazawa K, Onozawa S, Fukunaga T, Mine T, Kumita S : N-butyl cyanoacrylate embolization in patients with endoscopically unmanaged acute nonvariceal gastrointestinal hemorrhage. Progress in Radiology 2008 (Tokyo), 2008. 9.
- 4) Mine T, Tajima H, Murata S, Fukunaga T, Nakazawa K, Onozawa S, Ueda T, Kushimoto S<sup>1)</sup>, Yokota H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Emergency Medicine) : Severe peritoneal hemorrhage from adrenal artery injury : Successful interventional radiology following damage control surgery. Progress in Radiology (Tokyo), 2008. 9.
- 5) Takagi R, Amano Y, Teramoto A<sup>1)</sup>, Matsumura Y, Tahara S<sup>1)</sup>, Hidaka F, Tajima H, Hayashi H, Kumita S ( <sup>1)</sup> Dept. of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Three dimensional dynamic MRI of Pituitary microadenoma using 3-Tesla. Progress in Radiology 2008, 2008. 9.
- 6) 汲田伸一郎, 福嶋善光, 桐山智成, 林 宏光：最新の3Dイメージング；新しい心臓フュージョンイメージ. 第67回日本医学放射線学会, 2008. 4.
- 7) 久志本成樹, 宮内雅人, 福田令雄, 白石振一郎, 増野智彦, 鈴木崇生, 増野智彦, 鈴木崇生, 佐藤格夫, 川井真, 横田裕行：腹腔内・後腹膜出血合併ショック症例に対する治療：開腹に先行するIVRには厳重な監視を.

- 第22回日本外傷学会, 2008. 5.
- 8) 汲田伸一郎, 福嶋善光, 桐山智成, 林 宏光: 徹底比較: 心臓核医学とCT/MRI. 第18回日本心臓核医学会, 2008. 6.
- 9) 中澤 賢, 田島廣之, 村田 智, 福永 毅, 小野澤志郎, 山本 剛<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 第一内科): 急性塊状肺血栓塞栓症に対する血管内治療: 経カテーテル的血栓破碎術により肺動脈圧は上昇するか?. 第14回日本血管内治療学会, 2008. 7.
- 10) Hayashi H: Conventional angiography: The “brilliant” gold? or “tarnished” gold?. 第40回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 2008. 7.
- (4) パネルディスカッション:
- 1) 林 宏光, 汲田伸一郎, 小野真平<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学形成外科): 基礎研究のためのハイテクツール: マルチスライスCTを用いた動脈穿通枝の描出. 第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 2008. 10.
- (5) セミナー:
- 1) 汲田伸一郎: MDCT/SPECTを用いた心臓フュージョンイメージ; 新たな画像診断法への展開. 第3回 Trans catheter Imaging Forum, 2008. 5.
- 2) 林 宏光: マルチスライスCTによる循環器疾患の低侵襲的診断: 治療支援画像としての可能性をめぐって. 第8回日本心血管カテーテル治療学会, 2008. 11.
- 3) 村田 智, 田島廣之: 出血. 骨盤骨折のIVR. 10th ISIR & 37th JSIR 2008, 2008. 5.
- 4) 汲田伸一郎, 桐山智成, 福嶋善光, 林 宏光: マルチモダリティ時代における心臓核医学の有用性. 第28回日本画像医学会, 2009. 2.
- (6) ワークショップ:
- 1) 林 宏光: 心臓CTで冠動脈を超える: 大動脈疾患への応用. 第2回SCCT研究会, 2008. 9.
- (7) 一般講演:
- 1) Amano Y, Takahama K, Kumita S: Free-breathing non-contrast-enhanced three-dimensional steady-state free precession MR angiography for the detection of thoracic aortic disease and simultaneous visualization of coronary and internal thoracic arteries. 16th annual meeting of ISMRM (Toronto), 2008. 5.
- 2) Amano Y, Takayama M, Matsumura Y, Suzuki Y, Kumita S: Free-breathing delayed contrast-enhanced three-dimensional viability MR imaging of the myocardium at 3T: a feasibility study. 16th annual meeting of ISMRM (Toronto), 2008. 5.
- 3) Amano Y, Takayama M, Kumita S: Cardiac MR imaging parameters characteristic to hypertrophic obstructive cardiomyopathy in the elderly. 94th annual meeting of RSNA (Chicago), 2008. 11.
- 4) Amano Y, Matsumura Y, Kumita S: Free-breathing three-dimensional late gadolinium enhancement MR Imaging of the myocardium using 3T: a feasibility study. 94th annual meeting of RSNA, 2008. 11.
- 5) Amano Y, Takahama K, Suzuki Y, Kumita S: Cardiac and navigator-gated non-contrast-enhanced 3D steady-state free precession MR angiography for detection of thoracic aortic disease and visualization of coronary and internal thoracic arteries. 94th annual meeting of RSNA, 2008. 11.
- 6) Nakazawa K, Fukunaga T, Onozawa S, Murata S, Tajima H: CT-guided abscess aspiration and drainage: Outcome of therapy at IR center. 10th ISIR & 37th JSIR 2008 (Karuizawa), 2008. 5.
- 7) Tajima H, Murata S, Kawamata H, Ichikawa K, Nakazawa K, Fukunaga T, Onozawa S: Application of a stent-graft after initial occlusion with IDC coils for the treatment of PAU of the aorta. 10th ISIR & 37th JSIR 2008 (Karuizawa), 2008. 5.
- 8) Mine T, Tajima H, Onozawa S, Murata S, Nakazawa K, Fukunaga T, Ueda T, Suzuki T: Emergent stent-graft implantation for carotid artery rupture to the esophagus-Successful palliative therapy for end-

- stage pharyngeal cancer. 10th ISIR & 37th JSIR 2008 (Karuizawa), 2008. 5.
- 9) Onozawa S, Tajima H, Murata S, Nakazawa K, Fukunaga T, Mine T, Ueda T, Ichikawa K : Clinical usefulness of hybrid intervention for the treatment of Paget-Schroetter syndrome. 10th ISIR & 37th JSIR 2008 (Karuizawa), 2008. 5.
  - 10) Takagi R, Amano Y, Teramoto A<sup>1)</sup>, Matsumura Y, Tahara S<sup>1)</sup>, Hidaka F, Tajima H, Hayashi H, Kumita S <sup>1)</sup> Dept. of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Scientific presentation High-spatial Resolution isotropic 3D-dynamic MRI of Pituitary microadenoma using 3T. 2008 RSNA, 2008. 12.
  - 11) 村田 智, 小野澤志郎, 田島廣之, 阿部 豊, 汲田伸一郎, 野村和弘<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 東京労災病院) : 門脈内2ルート法による肝閉鎖循環下抗がん剤灌流療法の基礎的研究. 第67回日本医学放射線学会総会, 2008. 4.
  - 12) 高木 亮, 町田 幹, 岡崎恵美, 櫻村剛司, 太田香織, 城 正樹, 吉原尚志, 林 宏光 : Volume shuttleを用いた脳CT Perfusionの初期臨床経験. 第67回日本医学放射線学会総会, 2008. 4.
  - 13) 福嶋善光, 鳥羽正浩, 水村 直, 川口常明<sup>1)</sup>, 横井一磨<sup>1)</sup>, 丸山隆利<sup>1)</sup>, 川崎善幸<sup>1)</sup>, 新開康弘<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎 (<sup>1)</sup> 日立製作所) : 半導体ガンマカメラによる急性心筋梗塞描出能の検討. 第67回日本医学放射線学会総会, 2008. 4.
  - 14) 山口英宣, 福嶋善光, 桐山智成, 趙 圭一, 鳥羽正浩, 水村 直, 汲田伸一郎 : 負荷心筋SPECT/CTにおける融合画像精度に関する検討. 第67回日本医学放射線学会総会, 2008. 4.
  - 15) 桐山智成, 林 宏光, 高木 亮, 村上隆介, 杉崎健一, 佐藤英尊, 箱崎謙太, 田島廣之, 汲田伸一郎, 隈崎達夫 : 急性肺血栓塞栓症の診断におけるCT肺動脈造影の有用性 : 肺動脈造影との比較. 第67回日本医学放射線学会総会, 2008. 4.
  - 16) 佐藤英尊, 石原圭一, 福嶋善光, 椎葉真人, 箱崎謙太, 桐山智成, 岡崎恵美, 汲田伸一郎 : 3D-PETにおけるLOR-RAMLAとamsRAMLA画像再構成法における定量的評価. 第67回日本医学放射線学会総会, 2008. 4.
  - 17) 桐山智成, 林 宏光, 高木 亮, 村上隆介, 杉崎健一, 佐藤英尊, 箱崎謙太, 田島廣之, 汲田伸一郎, 隈崎達夫 : 急性肺血栓塞栓症の診断におけるCT肺動脈造影の有用性 : 血管造影との比較. 第67回日本医学放射線学会総会, 2008. 4.
  - 18) 小野澤志郎, 村田 智, 田島廣之, 日高史貴, 福永 毅, 中澤 賢, 市川和雄, 汲田伸一郎, 清水 章, 福田悠 : エタノール回収下腎塞栓療法の基礎的研究 : 塞栓効果の病理学的検討を中心として. 第67回日本医学放射線学会総会, 2008. 4.
  - 19) 村田 智, 小野澤志郎, 田島廣之, 阿部 豊, 汲田伸一郎, 野村和弘 : 門脈内2ルート法による肝閉鎖循環下抗がん剤灌流療法の基礎的研究. 第67回日本医学放射線学会総会, 2008. 4.
  - 20) 福永 毅, 田島廣之, 村田 智, 中澤 賢, 小野澤志郎, 上田達夫, 汲田伸一郎, 小泉 潔, 弦間昭彦, 坂本篤裕 : 肺悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼術-中期成績. 第67回日本医学放射線学会総会, 2008. 4.
  - 21) 桐山 智成, 福嶋善光, 山口英宣, 箱崎謙太, 鳥羽正浩<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日医大 健診医療センター) : CaedIQ Fusion<sup>TM</sup>を用いた冠動脈CTA/心筋SPECT融合画像による虚血性心疾患の評価 : 初期臨床検討. 第67回日本医学放射線学会総会, 2008. 4.
  - 22) 町田 幹, 富山 毅, 喜友名一, 金子貴久, 高木 亮, 林 宏光, 汲田伸一郎 : 医学部4年生に対する, 肝臓の区域解剖の理解の向上を目指して. 第67回日本医学放射線学会総会, 2008. 4.
  - 23) 古川一博<sup>1)</sup>, 町田 幹, 田島廣之, 汲田伸一郎, 玉井 仁 (<sup>1)</sup> 大洗海岸病院 放) : 市販外付けHDD増設によるPACSサーバー構築. 第67回日本医学放射線学会総会, 2008. 4.
  - 24) 高木 亮, 岡崎恵美, 櫻村剛司, 城 正樹, 林 宏光, 汲田伸一郎 : Volume shuttleを用いた脳CT perfusionの初期臨床経験. 第67回日本医学放射線学会総会, 2008. 4.
  - 25) 林 宏光, 高木 亮, 高浜克也, 貝津俊英, 日高史貴, 佐藤英尊, 桐山智成, 箱崎謙太, 汲田伸一郎, 隈崎達夫 : 正常血管径推定曲線とcolor mapによる血管狭窄病変の新たな診断法の開発. 第67回日本医学放射線学会



学術集会, 2008. 4.

- 26) 嶺 貴彦, 田島廣之, 村田 智, 福永 毅, 中澤 賢, 小野澤志郎, 上田達夫, 汲田伸一郎, 久志本成樹, 横田裕行: 頸胸部血管損傷に対するステントグラフト留置術の有用性. 第22回日本外傷学会, 2008. 5.
- 27) 嶺 貴彦, 村田 智, 田島廣之, 福永 毅, 中澤 賢, 小野澤志郎, 上田達夫, 汲田伸一郎: 多発する門脈体循環シャントに伴う肝性脳症に対し3方向アプローチによるPTO/BRTOが奏功した1例. 第433回日本医学放射線学会関東地方会, 2008. 6.
- 28) 天野康雄, 高山守正<sup>1)</sup>, 城 正樹, 林 宏光, 汲田伸一郎 (<sup>1)</sup> 榊原記念病院・循環器科): 高齢者における閉塞性肥大型心筋症のMRI: 大動脈弁狭窄症例との対比. 第67回心臓血管放射線研究会, 2008. 7.
- 29) 城 正樹, 天野康雄, 田村浩一<sup>1)</sup>, 吉田明日香<sup>2)</sup>, 福島善光, 林 宏光, 汲田伸一郎 (<sup>1)</sup> 日本医科大学・病理部, <sup>2)</sup> 日本医科大学・第一内科): 心アミロイドシスの1例: Look Locker Imagingによる心筋異常造影の評価. 第67回心臓血管放射線研究会, 2008. 7.
- 30) 天野康雄, 高山守正, 城 正樹, 林 宏光, 汲田伸一郎: 高齢者における閉塞性肥大型心筋症のMRI: 大動脈弁狭窄症との対比. 第67回日本心臓血管放射線研究会, 2008. 7.
- 31) 田島廣之, 村田 智, 川俣博志, 市川和雄, 福永 毅, 中沢 賢, 小野澤志郎, 大森裕也<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>1)</sup>, 落雅美<sup>1)</sup>, 別所竜蔵<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>2)</sup>, 小川晋久<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 脳神経外科, <sup>2)</sup> 麻酔科, <sup>3)</sup> 聖マリアンナ医科大学): 薬事承認後における腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療: 初期臨床経験. 第3回日本IVR学会関東地方会, 2008. 7.
- 32) 嶺 貴彦, 田島廣之, 村田 智, 市川和雄, 福永 毅, 中沢 賢, 小野澤志郎, 上田達夫, 吉田陽一<sup>1)</sup>, 寺本明<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 脳神経外科, <sup>2)</sup> 麻酔科): 頸部内頸動脈高度狭窄に対する頸動脈ステント留置術. 第3回日本IVR学会関東地方会, 2008. 7.
- 33) 村上隆介, 太田香織, 吉原尚志, 高濱克也, 石原圭一, 汲田伸一郎, 柳原恵子<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 病理部): FDG-PET/CTによる乳癌術後再発・転移診断. 第16回日本乳癌学会学術総会, 2008. 9.
- 34) 太田香織, 村上隆介, 汲田伸一郎, 柳原恵子<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 栗田智子<sup>1)</sup>, 原田 大<sup>2)</sup>, 土屋眞一<sup>2)</sup>: 乳腺Invasive Micropapillary Carcinomaの画像診断の可能性について. 第16回日本乳癌学会学術総会, 2008. 9.
- 35) 柳原恵子<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 野口智子<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 村上隆介, 土屋眞一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 病理部): 乳腺カルチノイド腫瘍の特徴. 第16回日本乳癌学会学術総会, 2008. 9.
- 36) 飯田信也<sup>1)</sup>, 柳原恵子<sup>1)</sup>, 岩崎玲子<sup>1)</sup>, 栗田智子<sup>1)</sup>, 村上隆介, 土屋眞一<sup>2)</sup>, 古川清憲<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 病理部, <sup>3)</sup> 日本医科大学 千葉北総病院 外科): 当科における併用方センチネルリンパ節生検の検証. 第16回日本乳癌学会学術総会, 2008. 9.
- 37) 箱崎謙太, 趙 圭一, 鳥羽正浩, 秋山一義, 福嶋善光, 椎葉真人, 桐山智成, 汲田伸一郎: FDG-PETによる悪性リンパ腫の治療効果判定. 第48回日本核医学会学術総会, 2008. 10.
- 38) 石原眞木子, 趙 圭一, 秋山一義, 鳥羽正浩, 佐藤英尊, 椎葉真人, 箱崎謙太, 桐山智成, 汲田伸一郎: 食道癌におけるFDG集積および増加率の病巣進展への関与の検討. 第48回日本核医学会学術総会, 2008. 10.
- 39) 趙 圭一, 石原眞木子, 秋山一義, 鳥羽正浩, 佐藤英尊, 椎葉真人, 箱崎謙太, 桐山智成, 汲田伸一郎: FDG-PETを用いた食道癌局所再発病変の評価. 第48回日本核医学会学術総会, 2008. 10.
- 40) 関根鉄朗, 高木 亮, 天野康雄, 林 宏光, 田島廣之, 村井保夫<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎 (<sup>1)</sup> 脳神経外科): クモ膜下出血で発症したCall-Fleming症候群の1例. 第18回救急放射線研究会, 2008. 10.
- 41) 小野澤志郎, 田島廣之, 落 雅美<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 心臓血管外科): 急性大腿動脈閉塞症に対する血栓吸引治療中に動脈解離を生じた1例. 第9回末梢血管画像・血管内治療研究会, 2008. 10.
- 42) 天野康雄: 豊島健康診査センターMRI/CT症例検討会～MRI～. 第1回豊島健康診査センターMRI/CT症例検

討会，2008. 11.

- 43) 上田達夫，福永 毅，田島廣之，村田 智，小野澤志郎，吉原尚志，嶺 貴彦，久志本成樹<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>，汲田伸一郎<sup>1)</sup> (救急医学)：TAEが奏効した胸部多発仮性動脈瘤の1例. 第434回日本医学放射線学会関東地方会，2008. 12.
- 44) 上田達夫，村田 智，田島廣之，福永 毅，小野澤志郎，吉原尚志，嶺 貴彦：肝内門脈肝内門脈シャントに対する肝静脈バルン閉塞下シャント塞栓術. 東京アンギオ・IVR会，2009. 1.
- 45) 古川一博<sup>1)</sup>，町田 幹，田島廣之，汲田伸一郎<sup>1)</sup> (大洗海岸病院)：市販機器によるレポーティングシステム. カラーレーザープリンターを導入して. 第20回医用デジタル画像研究会，2009. 1.
- 46) 天野康雄：造影MRIの意義「心・大血管」. 関東地方会教育セミナー，2009. 2.
- 47) 嶺 貴彦，村田 智，田島廣之，林 宏光，福永 毅，中沢 賢，小野澤志郎，山口英宣，上田達夫，福田 件<sup>1)</sup>，榎原義之<sup>1)</sup>，中塚雄久<sup>1)</sup>，多田教彦<sup>2)</sup> (1) 消化器内科，<sup>2)</sup> 佐藤病院)：急性腹症で発症した内臓動脈瘤破裂の1例. 第18回東京血管外科画像診断治療研究会，2009. 2.

(8) ポスター：

- 1) 嶺 貴彦，田島廣之，村田 智，中沢 賢，福永 毅，小野澤志郎，上田達夫，汲田伸一郎，久志本成樹，山本保博<sup>1)</sup> (日本医科大学 救急医学)：救急疾患に対するNiti-S ComVi Stent留置術. 第67回日本医学放射線学会総会，2008. 4.
- 2) 福永 毅，田島廣之，村田 智，中沢 賢，小野澤志郎，上田達夫，汲田伸一郎，小泉 潔，弦間昭彦，坂本篤裕<sup>1)</sup> (日本医科大学 呼吸器外科)，<sup>2)</sup> 日本医科大学 呼吸器内科，<sup>3)</sup> 日本医科大学 麻酔科)：肺悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼術：中期成績. 第67回日本医学放射線学会総会，2008. 4.
- 3) 林 宏光，高木 亮，高濱克也，貝津俊英，日高史貴，佐藤英尊，桐山智成，箱崎謙太，汲田伸一郎，隈崎達夫：正常血管径推定曲線とcolor mapによる血管狭窄病変の新たな診断法の開発. 第67回日本医学放射線学会総会，2008. 4.

(9) 教育展示：

- 1) 町田 幹，富山 毅，喜友名一，金子貴久，高木 亮，林 宏光，汲田伸一郎：医学部4年生に対する肝臓の区域解剖の理解の向上を目指して. 第67回日本医学放射線学会総会，2008. 4.

(10) 要望演題：

- 1) 石川真士<sup>1)</sup>，山本 剛<sup>1)</sup>，佐藤直樹<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>，高野仁司<sup>2)</sup>，水野杏一<sup>2)</sup>，中沢 賢，田島廣之<sup>1)</sup> (集中治療室，<sup>2)</sup> 循環器内科)：当施設における周術期肺塞栓症の治療成績. 第15肺塞栓研究会，2008. 11.

## [武蔵小杉病院放射線科]

### 研究概要

放射線診断学：1) 呼吸器疾患に対し，MDCTにより高精細画像を作成し，画像診断の向上に力を注いでいる. 肺切除病理標本とCT画像の比較検討から，詳細な画像所見の分析を試みている. 2) 川崎市からの依頼により地域住民の胃癌計画検査業務に参画し，より効率の良い，より精度の高い集検体系の確立をめざし研究中である. 3) MRIによる乳腺疾患の質的診断におけるdynamic studyの応用，乳腺の浸潤判定における高分解能MRIの撮像最適化に取り組んでいる. また，ステレオガイド下マンモトーム生検を行い，マンモグラフィー上，微小石灰化を伴う乳癌診断にも力を注いでいる.

Interventional Radiology：1) 悪性肝臓腫瘍の治療として経皮的肝動脈塞栓術，経皮的肝動脈動注療法を集学的治療に取り組んでいる.

放射線治療学：1) 肺癌に対して，放射線治療を集学的治療の一つとして積極的に取り組んでいる. 2) 形成外科とともに，ケロイド治療に取り組んでいる.

核医学：1) 各種放射性医薬品を用いて虚血性心疾患の評価に取り組んでいる。2) 脳腫瘍SPECTを用いて腫瘍の局在などの検出率の評価に取り組んでいる。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 松島敏春, 江口研二, 桑原正喜, 小倉高志, 佐藤雅史, 酒井文和, 石井晴之, 一色彩子, 木内善太郎<sup>(1)</sup> 倉敷第一病院呼吸器センター, <sup>2)</sup> 帝京大学医学部内科, <sup>3)</sup> 草津総合病院, <sup>4)</sup> 神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科, <sup>5)</sup> 東邦大学医学部放射線科, <sup>6)</sup> 埼玉医科大学国際医療センター画像診断科, <sup>7)</sup> 杏林大学医学部第一内科, <sup>9)</sup> 杏林大学医学部付属病院)：実践：確定診断から治療への道。明解画像診断の手引き 2008；28：2-16.

### 学会発表

#### (1) 教育講演：

- 1) 市川太郎：外科医のための最新画像診断：肝・胆・膵。第70回臨床外科学会総会，2008. 11.

#### (2) 一般講演：

- 1) 一色彩子, 奥山孝男, 安藤 順, 清水康弘, 市川太郎, 阿部純子<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院内科)：心臓MRIが心サルコイドーシスの診断，治療に有効であった皮膚サルコイドーシスの1例。神奈川県放射線医学会学術総会，2008. 10.

## [多摩永山病院放射線科]

### 研究概要

CTでは、ワークステーションを活用した医用画像処理の研究・マルチスライスCTを用いた心疾患の診断・造影剤の腎機能に及ぼす影響について検討を続けている。また、高濃度ヨード造影剤を用いた肝細胞癌の抽出能についての検討も行っている。

MRIでは、拡張強調画像の臨床的有用性に関する検討を行っている。

核医学では、これまで外部企業と共同で心電図同期SPECTの解析プログラムの開発をし、現在もこのプログラムの改良を継続している。またこれを用いて種々の心疾患における心筋の血流・代謝と壁運動・同期性の関係や心筋虚血と壁運動の同期性の関係について検討を重ねている。また、左室壁運動の同期性を用いた予後予測についてもデータを蓄積中である。

この他、各種認知症における脳血流SPECTについて地域の医療機関と連携の上、検討を重ねている。

## 研究業績

### 論文

#### {追加分}

#### 追加分原著：

- 1) Yamamoto A, Takahashi N<sup>1)</sup>, Munakata K<sup>1)</sup>, Hosoya T<sup>2)</sup>, Shiiba M<sup>3)</sup>, Okuyama T<sup>3)</sup>, Abe K, Kaneshiro T<sup>3)</sup>, Tsuruta H<sup>3)</sup>, Takama T<sup>3)</sup>, Sato M<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Musashikosugi Hospital, <sup>2)</sup> Fuji Film RI Pharm, <sup>3)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School, Musashi-kosugi Hospital)：Global and Regional Evaluation of Systolic and Diastolic Left Ventricular Parameters using a Novel Program for ECG-Gated Myocardial Perfusion SPECT-Validation by Comparison with

Gated Equilibrium Radionuclide Angiography and Speckle-Tracking Radial Strain from Echocardiography. *Annals of Nuclear Medicine* 2007 ; 21 (2) : 115-121.

- 2) Yamamoto A, Takahashi N<sup>1)</sup>, Munakata K<sup>1)</sup>, Abe K, Kobayashi Y, Tamai J, Shiiba M<sup>2)</sup>, Okuyama T<sup>2)</sup>, Kaneshiro T<sup>2)</sup>, Tsuruta H<sup>2)</sup>, Takama T<sup>2)</sup>, Sato M<sup>2)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Musashikosugi Hospital, (2) Department of Radiology, Nippon Medical School, MusashiKosugi Hospital) : Relationships among Regional Diastolic Impairment, Elongation of Global Time to Peak Filling rate, and Global Diastolic function using ECG-Gated Myocardial Perfusion SPECT in Heart Failure. *Annals of Nuclear Medicine* 2007 ; 21 (8) : 419-427.
- 3) Takahashi N<sup>1)</sup>, Yamamoto A, Tezuka S<sup>1)</sup>, Ishikawa M<sup>1)</sup>, Abe J<sup>1)</sup>, Amitani K<sup>1)</sup>, Yamaguchi T<sup>1)</sup>, Kawaguchi N<sup>1)</sup>, Uchida T<sup>1)</sup>, Iwahara S<sup>1)</sup>, Munakata K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Musashikosugi Hospital) : Assessment of Left Ventricular Dyssynchrony During Development of Heart Failure by a Novel Program Using ECG-Gated Myocardial Perfusion SPECT. *Circulation Journal* 2008 ; 72 (3) : 370-377.
- 4) 土佐眞美子<sup>1)</sup>, 山本 彰, 佐藤雅史<sup>2)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>3)</sup> (1) 武蔵小杉病院形成外科, (2) 同放射線科, (3) 付属病院形成外科・美容外科) : 日本医科大学武蔵小杉病院におけるケロイド術後電子線治療の実際と長期成績. *癩痕・ケロイド治療ジャーナル* 2007 ; (1) : 29-31.

(1) 原著 :

- 1) Yamamoto A, Takahashi N<sup>1)</sup>, Abe K, Kobayashi Y, Tamai J, Munakata K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Musashikosugi Hospital) : Regional left-ventricular diastolic wall motion assessed by a new program for ECG-gated myocardial perfusion SPECT in early-stage heart failure. *Journal of Nuclear Cardiology* 2008 ; 15 (3) : 375-382.
- 2) Yamamoto A<sup>1)</sup>, Takahashi N<sup>1)</sup>, Ishikawa M<sup>1)</sup>, Abe K, Kobayashi Y, Tamai J, Munakata K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Musashikosugi Hospital) : Relationship between left ventricular function and wall motion synchrony in heart failure assessed by ECG-gated myocardial perfusion SPECT. *Annals of Nuclear Medicine* 2008 ; 22 (9) : 751-759.
- 3) 松谷 毅<sup>1,2)</sup>, 笹島耕二<sup>1,2)</sup>, 鈴木成治<sup>2)</sup>, 小林由子, 丸山 弘<sup>1,2)</sup>, 宮本昌之<sup>1,2)</sup>, 横山 正<sup>1,2)</sup>, 松下 晃<sup>1,2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 大学院医学研究科臓器病態制御外科学, (2) 多摩永山病院外科) : 同時重複癌を合併した食道癌に対する Docetaxel/5-fluorouracil/Nedaplatin を用いた化学放射線療法. *日医大医会誌* 2008 ; 4 (4) : 197-200.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) Takahashi N<sup>1)</sup>, Yamamoto A, Tezuka S<sup>1)</sup>, Masato I<sup>1)</sup>, Ishikawa M<sup>1)</sup>, Abe J<sup>1)</sup>, Amitani K<sup>1)</sup>, Yamaguchi T<sup>1)</sup>, Kawaguchi N<sup>1)</sup>, Uchida T<sup>1)</sup>, Munakata K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Musashikosugi Hospital) : Angiotensin II Receptor Blockade might Express Left Ventricular Remodeling Effects through Improving Left Ventricular Dyssynchrony in hypertension. *日本循環器学会総会・学術集会 (第72回)*, 2008. 3.
- 2) Ishikawa M<sup>1)</sup>, Yamamoto A, Takahashi N<sup>1)</sup>, Tezuka S<sup>1)</sup>, Abe J<sup>1)</sup>, Amitani K<sup>1)</sup>, Yamaguchi T<sup>1)</sup>, Kawaguchi N<sup>1)</sup>, Uchida T<sup>1)</sup>, Munakata K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Musashikosugi Hospital) : Relationship Between Chronic Kidney Disease (CKD) and Left Ventricular Function/Dyssynchrony Assessed by Tc99m-sestamibi-Gated-SPECT using a Novel Program "cardioGRAF".

日本循環器学会総会・学術集会（第72回），2008. 3.

- 3) Ishikawa M<sup>1</sup>), Yamamoto A, Takahashi N<sup>1</sup>), Abe J<sup>1</sup>), Amitani K<sup>1</sup>), Yamaguchi T<sup>1</sup>), Kawaguchi N<sup>1</sup>), Uchida T<sup>1</sup>), Munakata K<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Musashikosugi Hospital) : Systolic and Diastolic Left Ventricular Wall motion Dyssynchrony Assessed by 99mTc-sestamibi-Gated-SPECT in Patient with Hypertension. 日本循環器学会総会・学術集会（第72回），2008. 3.

(1) 教育講演：

- 1) 小林由子：特殊な癌性疼痛管理・放射線治療. 緩和ケア人材育成研修会（第2回），2009. 3.

(2) 一般講演：

- 1) Ishikawa M<sup>1</sup>), Yamamoto A, Takahashi N<sup>1</sup>), Shingo T<sup>1</sup>), Abe J<sup>1</sup>), Amitani K<sup>1</sup>), Yamaguchi T<sup>1</sup>), Kawaguchi N<sup>1</sup>), Uchida T<sup>1</sup>), Munakata K<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Musashikosugi Hospital) : Systolic and Diastolic Left Ventricular Wall motion Dyssynchrony Assessed by 99mTc-sestamibi-Gated-SPECT in patient with hypertension. World Congress of Cardiology 2008 (Buenos Aires), 2008. 5.
- 2) Takahashi N<sup>1</sup>), Yamamoto A, Ishikawa M<sup>1</sup>), Tezuka S<sup>1</sup>), Abe J<sup>1</sup>), Amitani K<sup>1</sup>), Yamaguchi T<sup>1</sup>), Kawaguchi N<sup>1</sup>), Uchida T<sup>1</sup>), Munakata K<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Musashikosugi Hospital) : Impact of Angiotensin II Receptor Blockade on Left Ventricular Dyssynchrony in Hypertension. World of Congress of Cardiology 2008 (Buenos Aires), 2008. 5.
- 3) 石川昌弘<sup>1</sup>), 高橋直人<sup>1</sup>), 阿部純子<sup>1</sup>), 網谷賢一<sup>1</sup>), 山口朋禎<sup>1</sup>), 川口直美<sup>1</sup>), 内田高浩<sup>1</sup>), 宗像一雄<sup>1</sup>), 山本彰 (<sup>1</sup>) 武蔵小杉病院内科) : Relationship between Chronic Kidney Disease (CKD) and Left Ventricular Functions/Dyssynchrony Assessed by Gated myocardial perfusion SPECT using a Novel Program “cardioGRAF”. 神奈川PET・SPECT研究会-心臓- (第22回), 2008. 5.
- 4) 高橋直人<sup>1</sup>), 石川昌弘<sup>1</sup>), 阿部純子<sup>1</sup>), 網谷賢一<sup>1</sup>), 山口朋禎<sup>1</sup>), 川口直美<sup>1</sup>), 内田高浩<sup>1</sup>), 山本彰, 宗像一雄<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) 武蔵小杉病院内科) : Impact of Angiotensin II Receptor Blockade on Left Ventricular Dyssynchrony in Hypertension. 日本心臓病学会学術集会 (第56回), 2008. 9.
- 5) 石川昌弘<sup>1</sup>), 高橋直人<sup>1</sup>), 山本彰, 宗像一雄<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) 武蔵小杉病院内科) : The Assessment of Diastolic Dyssynchrony by Tc99m-sestamibi-gated-SPECT Using a Novel Program “cardioGRAF” in Heart Failure with Preserved Ejection Fraction. 日本心不全学会学術集会 (第12回), 2008. 10.
- 6) Miyachi H<sup>1</sup>), Yamamoto A, Kodani E<sup>1</sup>), Kusama Y<sup>1</sup>), Atarashi H<sup>1</sup>), Mizuno K<sup>2</sup>) (<sup>1</sup>) Department of Cardiology, Nippon Medical School, Tamanagayama Hospital, <sup>2</sup>) The First Department of Cardiology, Nippon Medical School) : Impact of Myocardial Perfusion and Metabolism for Left Ventricular Systolic Function and Synchrony. 日本循環器学会総会・学術集会 (第73回), 2009. 3.
- 7) 古川一博<sup>1</sup>), 町田幹<sup>2</sup>), 田島廣之<sup>2</sup>), 汲田伸一郎<sup>2</sup>), 玉井仁 (<sup>1</sup>) 大洗海岸病院放射線科, <sup>2</sup>) 付属病院放射線科) : 市販外付けHDD増設によるPACSサーバー構築 Author. 日本医学放射線学会総会 (第67回), 2008. 4.
- 8) 山本彰, 阿部和也, 小林由子, 玉井仁, 高橋直人<sup>1</sup>), 宗像一雄<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) 武蔵小杉病院内科) : 心電図同期心筋SPECTを用いた左室局所収縮・拡張能定量化のための予備的研究 超音波との比較検討. 日本医学放射線学会総会 (第67回), 2008. 4.
- 9) 山本彰, 阿部和也, 小林由子, 玉井仁, 高橋直人<sup>1</sup>), 宗像一雄<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) 武蔵小杉病院内科) : 高血圧による左室拡張障害に最も影響を及ぼす区域に関する検討. 日本医学放射線学会総会 (第67回), 2008. 4.
- 10) 山本彰 : 心筋血流・脂肪酸代謝と心機能・壁運動同期性の関係. 西東京核医学研究会 (第7回), 2008. 5.



## [千葉北総病院放射線科]

### 研究概要

婦人科系の腫瘍について、女性診療科および病理部とのカンファランスを通じて、画像と臨床所見や病理像との比較検討を行っており、子宮や卵巣の稀な腫瘍や炎症性疾患などについて、症例を重ねて検討している。

救命救急分野において、救命救急部とのカンファランスを毎週行い、臨床像と画像との対比検討を行っている。骨盤骨折による後腹膜血腫の症例について、後腹膜腔の解剖とあわせて検討している。

消化器疾患については、外科、内科および病理部と合同で、術前症例および術後症例についてのカンファランスを行っている。画像と癌の深達度、転移および浸潤所見などについて、手術所見および病理所見と画像所見との比較検討を行っている。

IVR領域においては、外傷症例、悪性腫瘍、ASO、深部静脈血栓症、透析シャントトラブルなどの多くの症例に対して治療を行い、良好な成績を得ている。大動脈ステントについても症例を積み重ねて、検討している。

MRI領域では、シークエンスについての基礎的検討などを行っている。

CT領域では6、4列マルチスライスCTを用い、冠動脈CTAについて症例を重ねて検討している。

情報処理およびPACS分野では、システムの改善の努力を続けている。また、今後はさらに学術的な部分での強化をはかる予定である。

### 研究業績

#### 論文

(1) 症例報告：

- 1) Yamada T<sup>1,2)</sup>, Furukawa K<sup>1,2)</sup>, Yokoi K<sup>1,2)</sup>, Ohaki Y<sup>3)</sup>, Okada S, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Dept of Surgery, 3) Dept of Pathology) : A case of meningeal carcinomatosis with gastric cancer which manifested meningeal signs as the initial symptom ; the palliative benefit of radiotherapy. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (4) : 216-220.

#### 著書

- 1) 清水秀樹<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1,5)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 新井 悟<sup>1)</sup>, 小黒辰夫<sup>1)</sup>, 赤坂久美<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 岡田 進, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup> (1) 病理部, 2) 脳神経外科, 3) 多摩永山病院病理部, 4) 日本医科大学病理学, 5) 初石病院) : [分担] 脳腫瘍の画像と細胞像. クリエイティブサイトロジー3 : 画像所見と細胞像, 2008 ; pp1-24, 武藤化学株式会社.

#### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 井内亜美<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 白川毅<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 沖野哲也<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 岡田 進, その他6名 (1) 外科) : 黄疸で発症し、中部胆管癌との鑑別に苦慮した術後5年経過胃癌再発例. 第28回千葉胃癌研究会, 2008. 5.
- 2) 榎村剛司, 岡田 進, 桑子智之, 中條秀信, 木島鉄仁, 川俣博志, 大秋美治<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>3)</sup> (1) 病理部, 2) 女性診療科, 3) 付属病院放射線科) : セルトリ・間質細胞腫瘍の1例. 第22回腹部放射線研究会, 2008. 6.
- 3) 加藤文司<sup>1)</sup>, 阿部雅志<sup>1)</sup>, 仲田佳宏<sup>1)</sup>, 結城聖子<sup>1)</sup>, 河原崎昇<sup>1)</sup>, 岡田 進 (1) 放射線センター) : 3D FIESTAによる椎骨脳底動脈撮像. 日本放射線技術学会 第36回秋期学術大会, 2008. 10.

- 4) 加藤丈司<sup>1)</sup>, 阿部雅志<sup>1)</sup>, 原田耕次<sup>1)</sup>, 池亀 敏<sup>1)</sup>, 中島健志<sup>1)</sup>, 永井淳史<sup>1)</sup>, 河原崎昇<sup>1)</sup>, 中條秀信, 木島鉄仁, 岡田 進<sup>(1)</sup> 放射線センター) : FIESTAとRaySumを用いた椎骨脳底動脈の3D Fusion Imaging . GEユーザーズセミナー 千葉, 2008. 10.
  - 5) 加藤丈司<sup>1)</sup>, 阿部雅志<sup>1)</sup>, 永井淳史<sup>1)</sup>, 池亀 敏<sup>1)</sup>, 中島健志<sup>1)</sup>, 河原崎昇<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>(1)</sup> 放射線センター) : 椎骨脳底動脈における血流および血管外観の3D Fusion Imaging. 第24回脳神経血管内治療学会総会, 2008. 11.
  - 6) 岡田 進, 櫻村剛司, 桑子智之, 中條秀信, 木島鉄仁, 貝津俊英, 川俣博志, 三浦剛史<sup>1)</sup>, 天野康雄<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 泌尿器科, <sup>(2)</sup> 付属病院放射線科) : 腎ヘモジデリン沈着症のMRI. 第37回千葉MR研究会, 2009. 2.
  - 7) 加藤丈司<sup>1)</sup>, 阿部雅志<sup>1)</sup>, 菅沼一男<sup>1)</sup>, 水野正之<sup>1)</sup>, 菊池一郎<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 渡辺典男<sup>1)</sup>, 河原崎昇<sup>1)</sup>, 桑子智之, 木島鉄仁, 中條秀信, 岡田 進<sup>(1)</sup> 放射線センター) : 椎骨脳底動脈における血管壁の3D Fusion MRA. 第37回千葉MR研究会, 2009. 2.
- (2) UP-TO-DATE :
- 1) 清水秀樹<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1,2)</sup>, 小黒辰夫<sup>1)</sup>, 新井 悟<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>3)</sup>, 岡田 進, 内藤善哉<sup>4)</sup>, 前田昭太郎<sup>5)</sup> <sup>(1)</sup> 病理部, <sup>(2)</sup> 初石病院内科, <sup>(3)</sup> 脳神経外科, <sup>(4)</sup> 日本医科大学病理学教室, <sup>(5)</sup> 多摩永山病院病理部) : 脳疾患の細胞診 : 脳腫瘍のUP-TO-DATE・MRI画像と細胞像. 第47回日本臨床細胞学会秋期大会, 2008. 11.
- (3) ポスター :
- 1) 貝津俊英, 大川敬一<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 青木 聡<sup>3)</sup>, 宮下次廣<sup>4)</sup>, 河原崎昇<sup>5)</sup>, 菅沼一男<sup>5)</sup>, 高岡慎市<sup>5)</sup>, 岡田 進<sup>(1)</sup> 付属病院外科, <sup>(2)</sup> 外科, <sup>(3)</sup> 内科, <sup>(4)</sup> 付属病院放射線科, <sup>(5)</sup> 放射線センター) : 偽腔開存型大動脈解離合併・進行胸部食道腺癌に対し放射線化学療法が著効した1例. 日本放射線腫瘍学会第21回学術大会, 2008. 10.
  - 2) 阿部雅志<sup>1)</sup>, 加藤丈司<sup>1)</sup>, 渡邊英樹<sup>1)</sup>, 水野正之<sup>1)</sup>, 理崎貴博<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 岡田 進, 渡辺 玲<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 放射線センター, <sup>(2)</sup> 脳神経外科) : 頸動脈狭窄症に対するMRIとIVUS-Virtual Histology・OCTの検討. 第24回日本脳神経血管内治療学会総会, 2008. 11.
  - 3) 加藤丈司<sup>1)</sup>, 阿部雅志<sup>1)</sup>, 永井淳史<sup>1)</sup>, 池亀 敏<sup>1)</sup>, 中島健志<sup>1)</sup>, 渡辺典男<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 岡田 進, 小南修史<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 放射線センター, <sup>(2)</sup> 脳神経外科) : 椎骨脳底動脈における血流および血管外観の3D Fusion Imaging. 第24回日本脳神経血管内治療学会総会 , 2008. 11.
- (4) 展示発表 :
- 1) 貝津俊英 : 偽腔開存型大動脈解離合併・進行胸部食道腺癌に対し放射線化学療法が著効した1例. 日本放射線腫瘍学会第21回学術大会, 2008. 10.

## 8. 皮膚科学講座

### [付属病院皮膚科]

#### 研究概要

1. 皮膚の神経内分泌免疫学
  - ・免疫担当細胞におよぼすCRHの作用メカニズム.
  - ・CRHがおよぼす毛周期への影響.
  - ・サブスタンスP, NGF, GDNFの皮膚における作用.
2. 自己免疫性水疱症の発症機序
  - ・免疫担当細胞の動態, 細胞外基質分解酵素 (matrix metalloproteinase) の表現解析.
3. 皮膚抗原の認識機構の解析.
4. センチネルリンパ節生検法の応用と開発
5. 蕁麻疹, 接触性皮膚炎の原因抗原の解析
6. メラニン産生の制御機構
  - ・尋常性白斑の治療法の開発.
7. ウイルス性疣贅におけるテロメース活性の解析
8. 酸化ストレスが炎症病態成立に果たす役割の解析, 新たな治療法の開発
9. 美容皮膚科学
  - ・ケミカルピーリング, 活性型ビタミンC, レチノイン酸, レーザー療法, photodynamictherapyの基礎的研究.
10. レーザー光を応用した治療・診断の開発
  - ・skin optics, selective photothermolysisの理論に基づき, 生体に対する光の反応の臨床応用を目的とする.
11. アトピー性皮膚炎の病態のメカニズム解明と新たな治療法の開発
12. 難治性皮膚疾患(脱毛症, 痒疹など)に対する治療戦略
  - ・脱毛症に対する免疫療法, 痒疹などに対する紫外線療法.
13. 皮膚疾患における遺伝子治療の基礎的研究
  - ・幹細胞研究・再生工学を駆使した皮膚再生治療, 表遺伝子治療の開発.
14. 心療皮膚科
  - ・患者医師関係において, 皮膚疾患患者に生じる転移transferenceや投影同一視, および医師側に生じる逆転移conufertransferenceなどを利用して行う心身医学的治療戦略.

#### 研究業績

##### 論文

[追加分]

追加分症例報告:

- 1) 狩野律子, 二神綾子, 川名誠司: ゲフィチニブ (イレッサ<sup>R</sup>) によるざ瘡様発疹の治療方針について. 臨床皮膚科 2007; 589-592.
- 2) 狩野律子, 新見やよい, 落合廣武, 川名誠司: D-ペニシラミンによる薬剤誘発性天疱瘡: 内服テストで皮膚再現と抗体価上昇を確認した1例. 皮膚臨床 2008; 50 (1): 19-22.

(1) 原著：

- 1) Mitsuishi T, Ohara K<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Mochizuki T<sup>1)</sup>, Kaneko T<sup>2)</sup>, Kawana S ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Toranomon Hospital, <sup>2)</sup> Department of Dermatology, Douai Memorial Hospital) : Epidermodysplasia verruciformis with keratoacanthoma, Bowen' s disease and squamous cell carcinoma ; isolation of high-risk types of HPV 5 and unknown type of human papillomavirus. J Eur Acad Dermatol Venereol 2008 ; 22 (9) : 1126-1127.
- 2) Kohno M, Mitsuishi T, Tsuruoka A, Sasagawa T<sup>1)</sup>, Kawana S ( <sup>1)</sup> Health Development of Nursing, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University) : Human papillomavirus 1 induced epidermoid cystic structure mimicking molluscum bodies. J Eur Acad Dermatol Venereol 2008 ; 22 (10) : 1242-1244.
- 3) Niimi Y, Kawana S : Type 2 segmental manifestation of disseminated superficial actinic porokeratosis in a 7-year-old girl. Eur J Dermatol 2009 ; 19 (1) : 25-28.
- 4) 川名誠司：血管炎の検査法 特に画像診断；最近のトピックス2008 3. 新しい検査法と診断法. 臨皮 2008 ; 62 (5増) : 72-75.
- 5) 新見やよい, 落合廣武, 本田光芳, 川名誠司：日本医科大学付属病院皮膚科における60年間の皮膚結核の統計. 日皮会誌 2008 ; 118 (6) : 1095-1100.
- 6) 矢島 純, 矢島 通<sup>1)</sup>, 本田光芳<sup>2)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 国際カウンセリング研究所, <sup>2)</sup> 横浜市) : 心身相関に関する皮膚疾患の心理的ケア. 日本臨床皮膚科医会雑誌 2008 ; 25 (4) : 358-361.
- 7) 川名誠司：神経免疫学・内分泌学の視点からみた美容皮膚科学. Seminaria Dermatology 2008 ; 194 : 23-26.
- 8) 尾見徳弥：雀卵斑 part. 1 レーザーできれいに治るシミ. Visual Dermatology 2008 ; 7 (11) : 1208-1209.
- 9) 川名誠司：Henoch-Schonlein紫斑. 日皮会誌 2008 ; 118 (13) : 2948-2950.
- 10) 小坂祥子, 川名誠司：光線力学療法；美容皮膚科領域への応用. 日皮会誌 2008 ; 118 (13) : 2798-2800.
- 11) 川名誠司：本態性クリオグロブリン血症 血管炎症候群の診療ガイドライン. Circulation Journal 2008 ; 72 (4) : 1305-1307.
- 12) 尾見徳弥：Laser safety ; 安全性・副作用について. 日皮会誌 2008 ; 118 (13) : 2795-2797.
- 13) 川島 眞<sup>1)</sup>, 野口靖之<sup>2)</sup>, 澤村正之<sup>3)</sup>, 三石 剛 ( <sup>1)</sup> 東女医大皮膚科, <sup>2)</sup> 愛知医大産婦人科, <sup>3)</sup> 新宿区) : 尖圭コンジローマの新しい薬物療法の実際と展望 (座談会). Phama Medica 2008 ; 26 (12) : 87-93.

(2) 総説：

- 1) Akilov O<sup>1)</sup>, Kosaka S, Maytin E<sup>1)</sup>, Hasan T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Wellman Center for Photomedicine, Department of Dermatology, Massachusetts General Hospital) : Prospects for the use of differentiation-modulating agents as adjuvant of photodynamic therapy for proliferative dermatoses. J Dermatol 2008 ; 35 (4) : 197-205.
- 2) 川名誠司：心と皮膚. JADS 2008 ; 1 : 7-13.
- 3) 尾見徳弥：レーザー治療の小児皮膚疾患における適応と治療. 日児誌 2008 ; 112 (11) : 1647-1653.
- 4) 尾見徳弥, Town G<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> RPA2000 Laser Protection Adviser, Haywards Heath, Unaited Kingdom) : Laser safety ; 安全性・副作用と装置の問題点に関して. 日本美容皮膚科学会雑誌 2008 ; 18 (13) : 277-283.
- 5) 新見やよい, 川名誠司：ケブネル現象をめぐって 臨床例 retractive perforating collagenosis. Visual Dermatology 2009 ; 18 (1) : 66-67.

(3) 症例報告：

- 1) Katayama M, Aoki M, Kawana S : Case of anaphylaxis cased by ingestion of royal jelly. J dermatol 2008 ; 35 (4) : 222-224.
- 2) Kato T, Kawana S, Takezaki S, Kikuchi S<sup>1)</sup>, Futagami A ( <sup>1)</sup> Department of Ophthalmology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : A case of sweet' s syndrome with extensive necrosis and ulcers accompanied by myelodysplastic syndrome. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (3) : 162-165.

- 3) Ueno T, Mitsuishi T, Morita T, Takezaki S, Kawana S : Multiple synchronous melanomas determined as primary by lymphatic mapping. *J Eur Acad Dermatol Venereol* 2008 ; 22 (10) : 1255-1256.
- 4) Ueno T, Kume H, Mitsuishi T, Morimoto K, Kikuchi I, Kawana S : Systemic lupus erythematosus-associated cutaneous cryptococcosis treated successfully with an intermittent 3-day on/off cycle of itraconazole. *J Dermatol* 2008 ; 35 (12) : 778-781.
- 5) Ueno T, Niimi Y, Kawana S : Identification of 6 Sentinel Lymph Nodes in a Case of Malignant Melanoma on the Ungual Region of the Finger. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (1) : 23-26.
- 6) Aoki M, Kawana S : Lichen amyloidosis of the auricular concha : Successful treatment with electrodesiccation. *J Dermatol* 2009 ; 36 (2) : 116-117.
- 7) Uttawichai P, Igarashi T, Kawana S : Case of lupus vulgaris diagnosed 50 years after onset. *J Dermatol* 2009 ; 36 : 103-105.
- 8) 天野彰人, 三石 剛, 川名誠司 : 大量の消化管出血を伴い血液凝固第 XIII 因子活性が低下したアナフィラクトイド紫斑の1例. *皮膚臨床* 2008 ; 50 (4) : 445-448.
- 9) 小坂素子, 三石 剛, 森本健介, 川名誠司 : フェニトインとカルバマゼピンによる薬剤性過敏症候群の1例. *皮膚臨床* 2008 ; 50 (5) : 593-596.
- 10) 小坂素子, 新見やよい, 川名誠司 : Livedoid vasculopathy の小児例. *日小皮会誌* 2008 ; 27 (1) : 19-24.
- 11) 伊藤路子, 池田麻純, 青木見佳子, 岩崎 隆<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 川崎市) : 低重鉛母乳によると考えられる乳児亜鉛欠乏症の1例. *日本小児皮膚科学会雑誌* 2008 ; 27 (1) : 2, 25-27.
- 12) 青木見佳子, 新井栄一<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 埼玉医大病理学教室) : 高度な好酸球浸潤と脂肪組織病変を伴い, 慢性に経過する primary cutaneous cytotoxic T-cell lymphoma. *Skin Cancer* 2008 ; 23 (1) : 60-65.
- 13) 池田麻純, 青木見佳子, 片山美玲, 川名誠司 : 一部にCytokeratin7陽性を示したPagetoid Bowen病の1例. *皮膚臨床* 2008 ; 50 (7) : 899-901.
- 14) 高崎真理子, 三石 剛, 川名誠司 : 陰茎縫線嚢腫の1例. *皮膚臨床* 2008 ; 50 (7) : 924-925.
- 15) 高崎真理子, 福井利光<sup>1)</sup>, 渡辺大輔<sup>1)</sup>, 玉田康彦<sup>1)</sup>, 松本義也<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 愛知医大皮膚科学教室) : G-CSF 投与中のBasedow病患者に生じたSweet病の1例. *臨皮* 2008 ; 62 (8) : 530-532.
- 16) 下田貴子, 二神綾子, 川名誠司 : 皮膚生検にて消退した関節リウマチ合併Intravascular Histiocytosisの1例. *皮膚臨床* 2008 ; 50 (8) : 1003-1007.
- 17) 熊谷聖代, 三石 剛, 川名誠司 : 発症から約40年間と思われる経過後に診断した悪性黒色腫の1例. *臨皮* 2008 ; 62 (9) : 649-651.
- 18) 柳瀬哲至<sup>1)</sup>, 帆足俊彦<sup>1)</sup>, 大原國章<sup>1)</sup>, 三石 剛 ( <sup>1)</sup> 虎の門病院皮膚科) : 多彩な病理像を呈したPaget癌の1例. *日皮会誌* 2008 ; 118 (10) : 2004.
- 19) 前田進太郎<sup>1)</sup>, 帆足俊彦<sup>1)</sup>, 大原國章<sup>1)</sup>, 三石 剛 ( <sup>1)</sup> 虎の門病院皮膚科) : HPV31を同定したQueyrat紅色肥厚症の1例. *日皮会誌* 2008 ; 118 (10) : 2003.
- 20) 小金井宏美, 竹内淳子, 久保田智樹, 川名誠司, 水野博司<sup>1)</sup>, 飯田信也 ( <sup>1)</sup> 形成外科, <sup>2)</sup> 外科学第一) : 浸潤性乳管癌を合併したMuir-Torre症候群の1例. *皮膚臨床* 2008 ; 50 (13) : 1711-1714.
- 21) 高山良子, 二神綾子, 堺 則康, 塚田玲子<sup>1)</sup>, 平岡美紀<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 眼科学教室) : Trichoepithelioma-Multiplexの1例. *皮膚臨床* 2008 ; 50 (13) : 1703-1706.
- 22) 伊藤路子, 青木見佳子, 片山美玲, 松村修志<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 横浜市) : 長期間湿疹と診断されていた癬痕化扁平型基底細胞癌の1例. *皮膚臨床* 2008 ; 50 (13) : 1747-1749.
- 23) 池田麻純, 青木見佳子, 大久保正智<sup>1)</sup>, 川名誠司 : 超高齢者に生じた腫瘤型石灰化上皮腫の1例. *皮膚臨床* 2008 ; 50 (13) : 1691-1693.



## 著 書

- 1) 二神綾子, 川名誠司: [分担] 舐癬・吸癬 アレルギー性皮膚疾患 (湿疹・皮膚炎と類症). 皮膚科診療カラーアトラス大系 (1) (鈴木啓之・神崎 保), 2008; pp74-75, 講談社.
- 2) 小坂祥子: [分担] PhotorejuvenationとしてのALA-PDT; 日本人に対する効果と副作用の検討. Visual Dermatology 皮膚科のPDT (松本義也), 2008; p905, 秀潤社.
- 3) 川名誠司: [分担] 網状皮斑 血行障害・壊疽と類症. 皮膚科診療カラーアトラス大系 (2) (鈴木啓之・神崎保), 2008; p144, 講談社.
- 4) 川名誠司: [分担] 白血球破碎性皮斑 血管炎と類症. 皮膚科診療カラーアトラス大系 (2) (鈴木啓之・神崎保), 2008; pp156-157, 講談社.
- 5) 川名誠司: [分担] 蕁麻疹様血管炎 血管炎と類症. 皮膚科診療カラーアトラス大系 (2) (鈴木啓之・神崎保), 2008; pp158-159, 講談社.
- 6) 尾見徳弥: [自著] これでわかるニキビの治療とケア 安易に抗菌薬に頼っていませんか?, 2008; pp1-145, 南江堂.
- 7) 藤本和久, 川名誠司: [分担] IV 発疹型別薬疹の治療 7. 固定薬疹. 薬疹のすべて; エキスパートにまなぶ診療の実際 (池澤善郎・相原道子), 2008; pp207-212, 南江堂.
- 8) 新見やよい: [分担] 遊走性血栓性静脈炎 血管炎と類症. 皮膚科診療カラーアトラス大系 (2) (鈴木啓之・神崎保), 2008; p166, 講談社.
- 9) 堺 則康, 川名誠司: [分担] 23. 女子単純性紫斑はどのように診断したらよいですか? (生検は全例に必要ですか?) A. 炎症. 皮膚科診療 こんなときどうするQ&A (渡辺晋一), 2008; pp59-60, 中外医学社.
- 10) 堺 則康, 川名誠司: [分担] 24. 慢性色素紫斑への血管強化・止血剤内服, ステロイド外用のエビデンスについて教えてください A. 炎症. 皮膚科診療 こんなときどうするQ&A (渡辺晋一), 2008; pp61-62, 中外医学社.
- 11) 三石 剛: [分担] 50. イボ治療のエビデンスとコツを教えてください C. 感染症. 皮膚科診療 こんなときどうするQ&A (渡辺晋一), 2008; pp122-125, 中外医学社.
- 12) 川名誠司: [分担] 10 結節性多発動脈炎. 皮膚疾患 最新の治療 2009-2010 (瀧川雅浩・渡辺晋一), 2009; p69, 南江堂.
- 13) 三石 剛: [分担] 忘れてはいけない梅毒の皮膚症状. うつる皮膚病最前線 (宮地良樹), 2009; pp236-239, メディカルレビュー社.
- 14) 青木見佳子: [分担] 皮膚結核. 皮膚疾患 最新の治療 2009-2010 (瀧川雅浩・渡辺晋一), 2009; pp159-160, 南光堂.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) Omi T: Fighting back against skin aging. Konas XII Perdoski (Indonesia), 2008. 7.
- 2) 川名誠司: ストレス感受性と皮膚. 日皮会新潟地方会 (第350回), 2008. 7.
- 3) 川名誠司: 好中球による血管障害; 血管炎と血管炎類似疾患の臨床. 日皮会福岡地方会 (第345回), 2008. 7.
- 4) 川名誠司: 皮膚科医のための血管炎分類. 北信皮膚科医学会学術講演会 (第210回), 2008. 9.
- 5) 川名誠司: 皮膚科医のための臨床に役立つ血管炎分類. 会津皮膚科医学会, 2008. 10.
- 6) 尾見徳弥: ニキビの治療; ケミカルピーリング・レーザーなど美容皮膚科的な治療を求めて. 皮膚科レイクサイドセミナー (第3回), 2009. 1.

### (2) 招待講演:

- 1) 三石 剛: ウイルス性疣贅の診断と治療. 日本臨床皮膚科医学会研修講演会 (第46回), 2008. 4.

- 2) 川名誠司：ストレス感受性と皮膚．日本医科大学内分泌懇話会（第22回），2008．6．
  - 3) 木村かやの：外用療法；美容皮膚科のエッセンス．東東京皮膚臨床勉強会（第19回），2008．6．
  - 4) 下田貴子：ケミカルピーリング；美容皮膚科のエッセンス．東東京皮膚臨床勉強会（第19回），2008．6．
  - 5) 尾見徳弥：光治療（レーザー、その他）；美容皮膚科のエッセンス．東東京皮膚臨床勉強会（第19回），2008．6．
  - 6) 小坂祥子：光線力学療法 PDT；美容皮膚科のエッセンス．東東京皮膚臨床勉強会（第19回），2008．6．
  - 7) 川名誠司：アトピー性皮膚炎の精神神経内分泌学的アプローチ．大分皮膚科医学会学術講演会，2008．11．
- (3) 教育講演：
- 1) 川名誠司：科学的根拠に基づくアナフィラクトイド紫斑の診療．日皮会総会学術大会（第107回），2008．4．
  - 2) 小坂祥子，川名誠司：光線力学療法；美容皮膚科領域への応用．日皮会総会学術大会（第107回），2008．4．
  - 3) 尾見徳弥：Laser Safety：安全性，副作用について．日皮会総会学術大会（第107回），2008．4．
  - 4) 尾見徳弥：小児皮膚疾患におけるレーザー治療の適応疾患と治療法（小児科との境界領域の疾患をどう診療するか1）．日本小児科学会学術集会（第111回），2008．4．
- (4) シンポジウム：
- 1) 尾見徳弥：LEDを用いたrejuvenationにおける組織学的，免疫学的変化とPDT治療（美容医療におけるフォトセラピー，その可能性）．日本レーザー治療学会（第20回），2008．6．
  - 2) Omi T：Histological changes during rejuvenation process associated with IPL, PDL and LED. Konas XII Perdoski (Indonesia), 2008. 7.
- (5) パネルディスカッション：
- 1) Higashi N, Nakata T, Koganei H, Ueno K<sup>1</sup>, Ohta M<sup>2</sup>, Ozawa M<sup>2</sup>, Kawasaki S<sup>2</sup>, Kawana S ( <sup>1</sup> Inagi-Shi, <sup>2</sup> Tama-Shi)：The statistical findings of atopic dermatitis at the southern part of Tama district in Tokyo. Georg Rajka International Symposium on Atopic Dermatitis (5th) (Kyoto), 2008. 5.
  - 2) 狩野律子，落合廣武，東 直行，前田昭太郎<sup>1</sup>，川名誠司 ( <sup>1</sup> 多摩永山病院病理部)：神経細胞の増殖を伴った Folliculosebaceous cystic hamartoma の1例．日皮会総会学術大会（第107回），2008．4．
- (6) セミナー：
- 1) 三石 剛：HPV感染症．皮膚科感染症夏季セミナー（第14回），2008．8．
  - 2) 三石 剛：尖圭コンジローマの診断と治療．郡山皮膚科医学会（第93回），2008．9．
  - 3) 尾見徳弥：眼周囲の色素沈着とその対処．日本臨床眼科学会（第62回），2008．10．
  - 4) 三石 剛：性感染症の診断と治療．目黒区皮膚科医学会，2008．11．
  - 5) 三石 剛：性感染症の診断と治療．二金会合同学術講演会（第345回），2008．11．
  - 6) 三石 剛：性感染症の診断と治療．東葛地区皮膚臨床懇話会（第48回），2008．12．
  - 7) 三石 剛：尖圭コンジローマを中心としたSTD：診断と新しい治療．県南地区医師会学術講演会，2009．2．
  - 8) 三石 剛：尖圭コンジローマを中心としたSTD：診断と新しい治療．福嶋臨床産婦人科研究会，2009．2．
  - 9) 三石 剛：尖圭コンジローマを中心としたSTD：診断と新しい治療．いわき性感染症セミナー，2009．3．
- (7) 一般講演：
- 1) Sakai N, Waterman E<sup>1</sup>, Nguyen N<sup>1</sup>, Keene D<sup>2</sup>, Kawana S, Marinkovich M<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Program in Epithelial Biology, Stanford University School of Medicine, <sup>2</sup> Portland Shriners Research Hospital)：Observations of epidermal grafts derived from keratinocytes expressing selectively engineered mutant laminin-332 molecules. The International Investigative Dermatology (5th) (Kyoto), 2008. 5.
  - 2) Omi T：Pulsed dye laser therapy-beyond vascular lesions. IMCAS Asia 2008 (Singapore), 2008. 7.
  - 3) Omi T：Pigmented lesions in Japanese patients. IMCAS Asia 2008 (Singapore), 2008. 7.
  - 4) 高山良子，上野 孝，久保田智樹，二神綾子，新見やよい，川名誠司：Porocarcinoma の4例．日皮会総会学術大会（第107回），2008．4．

- 5) 森本健介, 野呂佐知子, 藤本和久, 川名誠司: 市販感冒薬による Stevens-Johnson 症候群型薬疹の1例. 日皮会総会学術大会 (第107回), 2008. 4.
- 6) 堺 則康, 二神綾子, 上野 孝, 山岡淳一, 川名誠司, 齋藤 裕<sup>1)</sup> (1) 文京区): Majocchi 紫斑様皮疹を呈した livedoid vasculopathy と思われた1例. 日皮会総会学術大会 (第107回), 2008. 4.
- 7) 下田貴子, 荻田あづさ, 森田 孝, 川名誠司: 多彩な臨床を呈した持久性隆起性紅斑の1例. 日皮会総会学術大会 (第107回), 2008. 4.
- 8) 又吉武光, 青木見佳子, 池田麻純, 片山美玲, 川名誠司: 過去4年半に当科で経験した BCG 接種後の副反応. 日皮会総会学術大会 (第107回), 2008. 4.
- 9) 上野 孝, 森田 孝, 竹崎伸一郎, 三石 剛, 川名誠司: 腋窩に多数のセンチネルリンパ節を認めた手指爪甲下黒色腫. 日皮会総会学術大会 (第107回), 2008. 4.
- 10) 小坂祥子: ざそうに対する光線療法 up date. 湯島スキンケア研究会, 2008. 5.
- 11) 西脇 薫, 下田貴子, 伊藤保彦<sup>1)</sup>, 川名誠司 (1) 小児科): 難治性の口腔内潰瘍を認めた小児ベーチェット病の1例. 日本小児皮膚科学会学術大会 (第32回), 2008. 6.
- 12) 加賀美緒, 堺 則康, 二神綾子, 下田貴子, 川名誠司: 皮膚型結節性多発動脈炎の小児例. 日本小児皮膚科学会学術大会 (第32回), 2008. 6.
- 13) 伊藤路子, 青木見佳子, 池田麻純, 又吉武光, 片山美玲, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 石河 晃<sup>2)</sup>, 川名誠司 (1) 武蔵小杉病院小児科, <sup>2)</sup> 慶應義塾大学皮膚科): 水疱型先天性魚鱗様紅皮症の1例. 日本小児皮膚科学会学術大会 (第32回), 2008. 6.
- 14) 山下裕子, 青木見佳子, 片山美玲, 山形健治<sup>1)</sup>, 川名誠司 (1) 川崎市): 平滑筋母斑の1例. 日皮会東京地方会 (第818回), 2008. 6.
- 15) 本木智輝, 高田香織, 二神綾子, 川名誠司, 坪内利江子<sup>1)</sup> (1) 中央区): タクロリムス軟膏外用による酒さ様皮膚炎の2例. 日皮会東京地方会 (第818回), 2008. 6.
- 16) 稲葉基之, 竹崎伸一郎, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 中央区): 両側上眼瞼の著明な腫脹を呈した眼瞼黄色腫の1例. 日皮会東京地方会 (第818回), 2008. 6.
- 17) 池田麻純, 竹崎伸一郎, 高山良子, 上野 孝, 下田貴子<sup>1)</sup>, 川名誠司 (1) 中央区): ゲフィニチブ (イレッサ<sup>R</sup>) による爪囲炎の3例. 日皮会東京地方会 (第819回), 2008. 6.
- 18) 高山良子, 上野 孝, 三石 剛, 川名誠司: 頭部 Eccrine porocarcinoma の2例. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第24回), 2008. 7.
- 19) 大島 玄, 上野 孝, 森田 孝, 荻田あづさ, 三石 剛, 川名誠司: 膝窩, 鼠径リンパ節 micrometastasis を認めた malignant melanoma の1例. 日本皮膚外科学会総会学術大会 (第23回), 2008. 8.
- 20) 小坂素子, 小坂祥子, 田崎美弥子<sup>1)</sup>, 提橋義則<sup>2)</sup>, 松本 梓<sup>3)</sup>, 川名誠司 (1) 慶應義塾大学医学部老年内科, <sup>2)</sup> 資生堂ビューティソリューション開発センター, <sup>3)</sup> 資生堂リサーチセンター): ざ瘡瘢痕患者に対するメーキャップ化粧品の心理的効果. 日本美容皮膚科学会総会学術大会 (第26回), 2008. 8.
- 21) 加藤篤衛, 下田貴子, 小坂祥子, 川名誠司: Nd ; YAG レーザーによる毛細血管拡張の治療. 日本美容皮膚科学会総会学術大会 (第26回), 2008. 8.
- 22) 木村かやの, 木村陽一, 川名誠司: Intense Pulsed Light (IPL) が有効であったアトピー性皮膚炎の dirty neck の1例. 日本美容皮膚科学会総会学術大会 (第26回), 2008. 8.
- 23) 木村かやの, 木村陽一, 川名誠司: Intense Pulsed Light (IPL) を用いた毛細血管拡張症の治療効果. 日本美容皮膚科学会総会学術大会 (第26回), 2008. 8.
- 24) 二宮里紗, 三石 剛, 川名誠司: Punctate wart の1例. 日皮会東京地方会 (第820回), 2008. 9.
- 25) 秋山美知子, 上野 孝, 堺 則康, 新見やよい, 川名誠司: 再発性下腿腫瘍を呈した XXXXY 症候群の1例. 日皮会東京地方会 (第820回), 2008. 9.

- 26) 小金井宏美, 東 直行, 細根 勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>(1)</sup> 多摩永山病院病理部): Tufted hair folliculitisの2例. 日皮会東京地方会 (第820回), 2008. 9.
- 27) 長田真一, 加藤真紀<sup>1)</sup>, 蓮沼直子<sup>1)</sup>, 竹田潤二<sup>2)</sup>, 川名誠司, 板見 智<sup>3)</sup>, 真鍋 求<sup>1)</sup> (1) 秋田大学皮膚科学, <sup>2)</sup> 大阪大院環境生体機能, <sup>3)</sup> 大阪大院皮膚・毛髪再生): プログラニューリンによる毛包形成の制御. 日皮会東部支部学術大会 (第72回), 2008. 9.
- 28) 伊力努尔哈力甫, 加藤陽子, 下田貴子, 川名誠司: 皮膚擦過刺激によるマウスの搔破行動はストレスによって増強される. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 (第38回), 2008. 10.
- 29) 久保田智樹, 加賀美緒, 吉井光信<sup>1)</sup>, 中本百合江<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>(1)</sup> 東京都精神医学総合研究所): 末梢型ベンゾジアゼピン受容体解析からみた円形脱毛症患者のストレス状態. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 (第38回), 2008. 10.
- 30) 若林俊輝, 川名誠司: バラの果実にも陽性反応を示したナッツアレルギーの1例. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 (第38回), 2008. 10.
- 31) 川名誠司: アトピー性皮膚炎に対する5-HT<sub>1A</sub> partial agonistの効果. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 (第38回), 2008. 10.
- 32) 伊藤路子, 青木見佳子, 高本雅哉<sup>1)</sup>, 松岡裕之<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>(1)</sup> 信州大移植免疫感染症学講座, <sup>2)</sup> 自治医大感染免疫学講座): お好み焼き粉に繁殖したダニによると考えられた即時型アレルギーの1例. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 (第38回), 2008. 10.
- 33) 加賀美緒, 中本百合江<sup>1)</sup>, 吉井光信<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>(1)</sup> 東京都精神医学総合研究所): アトピー性皮膚炎におけるストレス感受性: 末梢型ベンゾジアゼピン受容体による解析. 日本アレルギー学会秋季学術大会 (第58回), 2008. 11.
- 34) 伊力努尔哈力甫, 中本百合江<sup>1)</sup>, 吉井光信<sup>1)</sup>, 山岡淳一, 川名誠司<sup>(1)</sup> 東京都精神医学総合研究所): ストレスに対するラット皮膚反応の性差: Substance PおよびNGFを指標として. 日本アレルギー学会秋季学術大会 (第58回), 2008. 11.
- 35) 本木智輝, 上野 孝, 三石 剛, 川名誠司: 陰囊に生じた疣状黄色腫の1例. 日皮会東京地方会 (第821回), 2008. 11.
- 36) 高崎真理子, 二神綾子, 三石 剛, 川名誠司: 菌状息肉症の経過中にCD30陽性大型細胞からなる結節を生じた1例. 日皮会東京地方会 (第821回), 2008. 11.
- 37) 山本三幸, 高田香織, 西脇 薫, 上野 孝, 川名誠司: セレコキシブが原因と考えられた急性汎発性膿疱性発疹症 (AGEP) の1例. 日皮会東京地方会 (第821回), 2008. 11.
- 38) 荻田あづさ, 東 直行, 細根 勝<sup>1)</sup>, 財満信次<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>(1)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup> 中野区): 結節性病変を呈した粘液水腫性苔癬の1例. 日皮会東京地方会 (第821回), 2008. 11.
- 39) 山下裕子, 青木見佳子, 又吉武光, 本田光芳<sup>1)</sup>, 新見やよい, 川名誠司<sup>(1)</sup> 横浜市): テトラサイクリン, ニコチン酸アミドの併用療法が有効であった落葉状天疱瘡の1例. 日皮会東京地方会 (第821回), 2008. 11.
- 40) 東 直行, 中田朋子, 狩野律子, 小金井宏美, 上野和子<sup>1)</sup>, 太田真琴<sup>2)</sup>, 小澤雅邦<sup>2)</sup>, 川崎 了<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>(1)</sup> 稲城市, <sup>2)</sup> 多摩市): 東京都南多摩地区におけるアトピー性皮膚炎の臨床的観察. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 (第38回), 2008. 11.
- 41) 長田真一, 川名誠司, 蓮沼直子<sup>1)</sup>, 真鍋 求<sup>1)</sup> (1) 秋田大学皮膚科学): 表皮におけるSOX転写因子の役割. 表皮細胞研究会 (第22回), 2008. 12.
- 42) 長田真一, 加藤真紀<sup>1)</sup>, 蓮沼直子<sup>1)</sup>, 板見 智<sup>2)</sup>, 川名誠司, 真鍋 求<sup>1)</sup> (1) 秋田大学皮膚科学, <sup>2)</sup> 大阪大院皮膚・毛髪再生): 増殖因子プログラニューリンによる毛包形成の制御. 日皮会東京地方会 (第822回), 2008. 12.
- 43) 秋山美知子, 若林俊輝, 高田香織, 三石 剛, 川名誠司: コチニール色素によるアナフィラキシーの1例. 日皮会東京地方会 (第823回), 2009. 1.



- 44) 田村奈渚, 二神綾子, 新見やよい, 川名誠司: ミノサイクリンが有効であった superficial granulomatous pyoderma の1例. 日皮会東京地方会 (第823回), 2009. 1.
- 45) 二宮里紗, 加藤篤衛, 下田貴子, 川名誠司: 半月体形成および管内性増殖性病変を認めた成人アナフィラクトイド紫斑の1例. 日皮会東京地方会 (第823回), 2009. 1.
- 46) 稲葉基之, 小坂祥子, 加藤篤衛, 川名誠司, 山田祐希江<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 内科学第三): 消化管潰瘍を認めたアナフィラクトイド紫斑の2例. 日皮会東京地方会 (第823回), 2009. 1.
- 47) 山本三幸, 下田貴子, 川名誠司, 福間長知<sup>1)</sup>, 田野崎栄<sup>1)</sup> (1) 内科学第三): 無疹部での皮膚生検が診断に有用であった全身性アミロイドーシスの1例. 日皮会東京地方会 (第823回), 2009. 1.
- 48) 山下裕子, 又吉武光, 高田香織, 上野 孝, 青木見佳子, 岩崎 隆<sup>1)</sup>, 廣瀬始之<sup>1)</sup>, 川名誠司 (1) 川崎市): 多発性皮膚潰瘍を伴った皮膚筋炎の2例. 日皮会東京地方会 (第823回), 2009. 1.
- 49) 加藤篤衛, 下田貴子, 山崎雅英<sup>1)</sup>, 川名誠司 (1) 金沢大血液内科): 抗PE抗体及び抗PS/PT抗体陽性であった livedoid vasculopathy の1例. 皮膚脈管膠原病研究会 (第32回), 2009. 1.
- 50) 小坂祥子, 金子朋広<sup>1)</sup>, 西邨俊吾<sup>1)</sup>, 堺 則康, 川名誠司 (1) 内科学第二): C4欠損症に伴う血管炎の1例. 皮膚脈管膠原病研究会 (第32回), 2009. 1.
- 51) 本木智輝, 三石 剛, 高山良子, 下田貴子, 小坂祥子, 川名誠司: エルロチニブ (タルセバ<sup>R</sup>) によるご瘡様皮疹の6例. 日皮会東京支部学術大会 (第72回), 2009. 2.
- 52) 高山良子, 堺 則康, 川名誠司: Lichen aureus の1例. 日皮会東京支部学術大会 (第72回), 2009. 2.
- 53) 上野 孝, 下田貴子, 新見やよい, 三石 剛, 川名誠司: 下肢2次性リンパ浮腫に生じた基底細胞癌の1例. 日皮会東京支部学術大会 (第72回), 2009. 2.
- 54) 東 直行, 青木見佳子, 川名誠司: 抗核抗体陽性のアトピー性皮膚炎. 日皮会東京支部学術大会 (第72回), 2009. 2.
- 55) 伊藤路子, 青木見佳子, 黒澤真澄<sup>1)</sup>, 新井栄一<sup>2)</sup>, 川名誠司 (1) 川崎市, <sup>2)</sup> 埼玉医大病理): Primary cutaneous CD4+small/medium-sized pleomorphic T cell lymphoma の1例. 日皮会東京支部学術大会 (第72回), 2009. 2.
- 56) 上野 孝, 下田貴子, 新見やよい, 三石 剛, 川名誠司: 下肢2次性リンパ浮腫に生じた基底細胞癌の1例. 日皮会東京支部学術大会 (第72回), 2009. 2.
- (8) 展示:
- 1) Kosaka S, Yasumoto M, Akilov O<sup>1)</sup>, Hasan T<sup>1)</sup>, Kawana S (1) Wellman Center for Photomedicine, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School): Comparative split face study of 5-aminolevulinic acid PDT with intense pulsed light for photorejuvenation of Asian skin. ASLMS Annual Conference (28th) (Kissimmee, Florida, USA), 2008. 4.
  - 2) Niimi Y, Ohyama B<sup>1)</sup>, Hashimoto T<sup>1)</sup>, Kawana S (1) Dept. of Dermatology, Kurume University School of Medicine): Pemphigus foliaceus with severe stomatitis in a patient with B-cell lymphoma. Post IID 2008 Satellite International Meeting on Autoimmune Bullous Diseases (Otsu), 2008. 5.
  - 3) Mitsuishi T, Nakatake M<sup>1)</sup>, Tokunaga K<sup>2)</sup>, Sata T<sup>2)</sup>, Kaneko T<sup>3)</sup>, Iida K<sup>4)</sup>, Kawana S, Yamada O<sup>1)</sup> (1) Medical Research Institute, Tokyo Women's Medical University, <sup>2)</sup> Department of Pathology, National Institute of Infectious Diseases, <sup>3)</sup> Department of Dermatology, Douai Memorial Hospital, <sup>4)</sup> The Research Institute of Vaccine Therapy for Tumors and Infectious Diseases): Evaluation of telomerase activity in HPV's positive cutaneous tumors of anogenital areas. International HPV & Skin Cancer Conference (Germany), 2008. 10.
  - 4) 長田真一, 加藤真紀<sup>1)</sup>, 蓮沼直子<sup>1)</sup>, 竹田潤二<sup>2)</sup>, 川名誠司, 板見 智<sup>3)</sup>, 真鍋 求<sup>1)</sup> (1) 秋田大学皮膚科学, <sup>2)</sup> 大阪大院環境生体機能, <sup>3)</sup> 大阪大院皮膚・毛髪再生): プログラニューリンによる毛包形成の制御. 日皮会東部



支部学術大会（第72回），2008. 9.

- 5) 伊力努尔哈力甫，加藤陽子，下田貴子，川名誠司：皮膚擦過刺激によるマウスの搔破行動はストレスによって増強される．日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会（第38回），2008. 10.
- 6) 久保田智樹，加賀美緒，吉井光信<sup>1)</sup>，中本百合江<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup>（東京都精神医学総合研究所）：末梢型ベンゾジアゼピン受容体解析からみた円形脱毛症患者のストレス状態．日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会（第38回），2008. 10.
- 7) 若林俊輝，川名誠司：バラの果実にも陽性反応を示したナッツアレルギーの1例．日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会（第38回），2008. 10.
- 8) 伊藤路子，青木見佳子，高本雅哉<sup>1)</sup>，松岡裕之<sup>2)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup>（信州大移植免疫感染症学講座，<sup>2)</sup>自治医大感染症免疫学講座）：お好み焼き粉に繁殖したダニによると考えられた即時型アレルギーの1例．日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会（第38回），2008. 10.

## [武蔵小杉病院皮膚科]

### 研究概要

1. 皮膚悪性腫瘍の病理学的診断，研究
2. センチネルリンパ節生検法の確立と応用
3. 薬疹，接触皮膚炎，食物アレルギー：皮膚テストによる原因物質の確認と交叉感作，抗原の検索
4. 皮膚創傷治癒機転における神経ペプチドの関与：gastrin releasing peptide receptor ノックアウトマウスにおける創傷治癒

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 症例報告：

- 1) Katayama M, Aoki M, Kawana S<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Nippon Medical School）：Case of anaphylaxis caused by ingestion of royal jelly. *The Journal of Dermatology* 2008；35（4）：222-224.
- 2) Ueno T, Mitsuishi T<sup>1)</sup>, Morita T, Takezaki S<sup>1)</sup>, Kawana S<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院 皮膚科）：Multiple synchronous melanomas determined as primary by lymphatic mapping. *J Eur Acad Dermatol Venereol* 2008；22（10）：1255-1256.
- 3) Ueno T, Kume H, Mitsuishi T<sup>1)</sup>, Morimoto K<sup>1)</sup>, Kikuchi I<sup>1)</sup>, Kawana S<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院 皮膚科）：Systemic lupus erythematosus associated cutaneous cryptococcosis treated successfully with an intermittent 3-day on/off cycle of itraconazole. *J Dermatol* 2008；35（12）：778-781.
- 4) Ueno T, Mitsuishi T<sup>1)</sup>, Niimi Y<sup>1)</sup>, Kawana S<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院 皮膚科）：Identification of 6 Sentinel Lymph Nodes in a Case of Malignant Melanoma on the Ungual Region of the Finger. *J Nippon Med Sch* 2009；76（1）：23-26.
- 5) 伊藤路子，池田麻純，青木見佳子，岩崎 隆<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 川崎市，<sup>2)</sup> 付属病院 皮膚科）：低亜鉛母乳によると考えられる乳児亜鉛欠乏症の1例. *日本小児皮膚科学会雑誌* 2008；27（1）：25-27.
- 6) 青木見佳子，新井栄一<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 埼玉医科大学 病理学教室，<sup>2)</sup> 付属病院 皮膚科）：高度な好酸球浸潤と脂肪組織病変を伴い，慢性に経過する primary cutaneous cytotoxic T-cell lymphoma. *Skin Cancer* 2008；23（1）：60-65.
- 7) 池田麻純，青木見佳子，片山美玲，川名誠司<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院 皮膚科）：一部にCytokeratin7陽性を示した Pagetoid Bowen 病の1例. *皮膚科の臨床* 2008；50（7）：899-901.

- 8) 伊藤路子, 青木見佳子, 片山美玲, 松村修志<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup> (1) 横浜市, <sup>2)</sup> 付属病院 皮膚科): 長期間湿疹と診断されていた癩痕化扁平型基底細胞癌の1例. 皮膚科の臨床 2008; 50 (13): 1747-1749.

## 学会発表

### (1) パネルディスカッション:

- 1) 上野 孝, 森田 孝, 竹崎伸一郎<sup>1)</sup>, 三石 剛, 川名誠司 (1) 付属病院 皮膚科): 腋窩に多数のセンチネルリンパ節を認めた手指爪甲下黒色腫. 日本皮膚科学会総会 (第107回), 2008. 4.
- 2) 又吉武光, 青木見佳子, 池田麻純, 片山美玲, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院 皮膚科): 過去4年半に当科で経験したBCG接種後の副反応. 日本皮膚科学会総会 (第107回), 2008. 4.
- 3) 高山良子<sup>1)</sup>, 上野 孝, 久保田智樹<sup>1)</sup>, 高田香織, 二神綾子<sup>1)</sup>, 新見やよい<sup>1)</sup>, 竹崎伸一郎<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院 皮膚科): Porocarcinomaの5例. 日本皮膚科学会総会 (第107回), 2008. 4.
- 4) 堺 則康<sup>1)</sup>, 二神綾子<sup>1)</sup>, 上野 孝, 山岡淳一<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院 皮膚科): Majocchi紫斑様皮疹を呈したlivedoid vasculopathyと思われた1例. 日本皮膚科学会総会 (第107回), 2008. 4.
- 5) 伊藤路子, 青木見佳子, 池田麻純, 又吉武光, 片山美玲, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 石河 晃<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>3)</sup> (1) 武蔵小杉病院 小児科, <sup>2)</sup> 慶應義塾大学 皮膚科, <sup>3)</sup> 付属病院 皮膚科): 水疱型先天性魚鱗癬様紅皮症の1例. 日本小児皮膚科学会総会 (第32回), 2008. 6.

### (2) 一般講演:

- 1) 高山良子<sup>1)</sup>, 上野 孝, 三石 剛<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院 皮膚科): 頭部Eccrine porocarcinomaの2例. 日本皮膚科学会総会 (第107回), 2008. 4.
- 2) 山下裕子, 青木見佳子, 片山美玲, 山形健治<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup> (1) 川崎市, <sup>2)</sup> 付属病院 皮膚科): 平滑筋母斑の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第819回), 2008. 6.
- 3) 小坂素子, 小坂祥子<sup>1)</sup>, 田崎美弥子<sup>2)</sup>, 堤橋義則<sup>3)</sup>, 松本 梓<sup>4)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院 皮膚科, <sup>2)</sup> 慶應義塾大学医学部老年内科, <sup>3)</sup> 資生堂ビューティソリューション開発センター, <sup>4)</sup> 資生堂リサーチセンター, <sup>5)</sup> 付属病院 皮膚科): 座瘡癩痕患者に対するメーカー化粧品の心理的效果. 日本美容皮膚科学会・学術大会 (第26回), 2008. 8.
- 4) 大島 玄<sup>1)</sup>, 上野 孝, 荻田あづさ<sup>1)</sup>, 森田 孝, 三石 剛<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院 皮膚科): 膝窩, 鼠径リンパ節にmicrometastasisを認めたmalignant melanomaの1例. 日本皮膚外科学会総会 (第23回), 2008. 8.
- 5) 秋山美知子<sup>1)</sup>, 上野 孝, 堺 則康<sup>1)</sup>, 新見やよい<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院 皮膚科): 下腿潰瘍を合併したXXXXY症候群の1例. 日本皮膚科学会東京支部第820回東京地方会, 2008. 9.
- 6) 伊藤路子, 青木見佳子, 高本雅哉<sup>1)</sup>, 松岡裕之<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>3)</sup> (1) 信州大学移植免疫感染症学講座, <sup>2)</sup> 自治医科大学感染免疫学講座, <sup>3)</sup> 付属病院 皮膚科): お好み焼き粉に繁殖したダニによると考えられた即時型アレルギーの1例. 日本接触皮膚炎皮膚アレルギー学会 (第38回), 2008. 11.
- 7) 山下裕子, 青木見佳子, 又吉武光, 本田光芳<sup>1)</sup>, 新見やよい<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup> (1) 東京都, <sup>2)</sup> 付属病院 皮膚科): テトラサイクリン, ニコチン酸アミド併用療法が有効であった落葉状天疱瘡の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第821回), 2008. 11.
- 8) 山下裕子, 又吉武光, 高田香織, 上野 孝, 岩崎 隆<sup>1)</sup>, 廣瀬始之<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup> (1) 川崎市, <sup>2)</sup> 付属病院 皮膚科): 多発性皮膚潰瘍を伴った皮膚筋炎の2例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第823回), 2009. 1.
- 9) 上野 孝, 下田貴子<sup>1)</sup>, 新見やよい<sup>1)</sup>, 三石 剛<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院 皮膚科): 下肢2次性リンパ浮腫に生じた基底細胞癌の1例. 日本皮膚科学会東京支部学術大会 (第72回), 2009. 2.
- 10) 伊藤路子, 青木見佳子, 黒澤真澄<sup>1)</sup>, 新井栄一<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>3)</sup> (1) 川崎市, <sup>2)</sup> 埼玉医科大学 病理学教室, <sup>3)</sup> 付属病院 皮膚科): Primary cutaneous CD4+ small/medium-sized pleomorphic T-cell lymphomaの1例. 日本皮膚科学会 東京支部学術大会 (第72回), 2009. 2.

## [多摩永山病院皮膚科]

### 研究概要

1. アトピー性皮膚炎の病態におけるケモカイン／サイトカインの解析と治療戦略.
2. アトピー性皮膚炎の出生時，出生前要因の検討.
3. アナフィラクトイド紫斑，掌蹠膿疱症，自己免疫水疱症の病態におけるケモカイン／サイトカインの発現解析.
4. 蕁麻疹，接触皮膚炎，食物アレルギー，全身性金属アレルギー：皮膚テストによる原因物質の確認と交差感作，抗原の検索.
5. 皮膚腫瘍，皮膚悪性腫瘍の病理学的診断と研究.

### 研究業績

#### 論文

##### [追加分]

##### 追加分症例報告：

- 1) 狩野律子<sup>1)</sup>，二神綾子<sup>2)</sup>，川名誠司<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院皮膚科，<sup>2)</sup> 付属病院皮膚科)：ゲフィチニブ (イレッサ®) によるざ瘡様発疹の治療方針について. 臨皮 2007；61 (8)：589-592.
- 2) 狩野律子<sup>1)</sup>，新見やよい<sup>2)</sup>，落合廣武<sup>2)</sup>，川名誠司<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院皮膚科)：D-ペニシラミンによる薬剤誘発性天疱瘡：内服テストで皮疹再現と抗体価上昇を確認した1例. 皮膚臨床 2008；50 (1)：19-22.

##### (1) 症例報告：

- 1) 東 直行<sup>1,2)</sup>，瀬田健博<sup>3)</sup>，野村浩一<sup>3)</sup>，野本達也<sup>3)</sup> (1) 多摩永山病院皮膚科，<sup>2)</sup> 北村山公立皮膚科，<sup>3)</sup> 北村山公立神経内科)：下腿に紫斑を認めたスギヒラタケ脳症の1例. 皮膚臨床 2008；50 (4)：467-472.
- 2) 東 直行<sup>1)</sup>，狩野律子<sup>1)</sup> (1) 多摩永山病院皮膚科)：薬剤性過敏症候群 (drug-induced hypersensitivity syndrome：DIHS) の1例. 日医大医会誌 2008；4 (4)：205-209.
- 3) 小金井宏美<sup>1)</sup>，竹内淳子<sup>2)</sup>，久保田智樹<sup>2)</sup>，川名誠司<sup>2)</sup>，水野博司<sup>3)</sup>，飯田信也<sup>4)</sup> (1) 多摩永山病院皮膚科，<sup>2)</sup> 付属病院皮膚科，<sup>3)</sup> 付属病院形成外科，<sup>4)</sup> 外科学第1)：浸潤性乳管癌を合併した Muir-Torre 症候群の1例. 皮膚臨床 2008；50 (13)：1711-1711.

#### 学会発表

##### (1) パネルディスカッション：

- 1) Higashi N<sup>1)</sup>，Nakata T<sup>1)</sup>，Kano R<sup>1)</sup>，Koganei H<sup>1)</sup>，Ueno K<sup>2)</sup>，Ohta M<sup>3)</sup>，Ozawa M<sup>3)</sup>，Kawasaki S<sup>3)</sup>，Kawana S<sup>4)</sup> (1) Dep. of Dermatology, Tama Nagayama hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Inagi-shi, <sup>3)</sup> Tama-shi, <sup>4)</sup> Dep. of Dermatology, Nippon Medical School)：The statistical findings of atopic dermatitis at the southern part of Tama district in Tokyo. 5th Georg Rajka International Symposium on Atopic Dermatitis (Kyoto), 2008. 5.
- 2) 狩野律子<sup>1)</sup>，落合廣武<sup>1)</sup>，東 直行<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>2)</sup>，川名誠司<sup>3)</sup> (1) 多摩永山病院皮膚科，<sup>2)</sup> 同 病理部，<sup>3)</sup> 付属病院皮膚科)：神経細胞の増殖を伴った folliculosebaceous cystic hamartoma の1例. 第107回日本皮膚科学会総会，2008. 4.

##### (2) 一般講演：

- 1) 林 綾子<sup>1)</sup>，酒井貴史<sup>1)</sup>，水谷行伸<sup>1)</sup>，佐藤寛之<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，草間芳樹<sup>2)</sup>，東 直行<sup>3)</sup>，中田朋子<sup>3)</sup>，狩野律子<sup>3)</sup>，小金井宏美<sup>3)</sup> (1) 多摩永山病院中央検査室，<sup>2)</sup> 多摩永山病院内科，循環器内科，<sup>3)</sup> 多摩永山病院皮膚科)：皮膚科領域における超音波検査と病理組織学的診断の比較検討. 第33回日本超音波検査学会，2008. 6.
- 2) 東 直行<sup>1)</sup>，北川泰之<sup>2)</sup>，細根 勝<sup>3)</sup>，川名誠司<sup>4)</sup> (1) 多摩永山病院皮膚科，<sup>2)</sup> 同 整形外科，<sup>3)</sup> 同 病理部，

- 4) 付属病院皮膚科)：左前腕に生じたlow-grade myxofibrosarcomaの1例。第24回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会，2008. 7.
- 3) 小金井宏美<sup>1)</sup>，東 直行<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>2)</sup>，前田昭太郎<sup>2)</sup>，川名誠司<sup>3)</sup> (1) 多摩永山病院皮膚科，2) 同 病理部，3) 付属病院皮膚科)：Tufted hair folliculitisの2例。日本皮膚科学会第820回東京地方会，2008. 9.
- 4) 荻田あづさ<sup>1)</sup>，東 直行<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>2)</sup>，財満信次<sup>3)</sup>，川名誠司<sup>4)</sup> (1) 多摩永山病院皮膚科，2) 同 病理部，3) 中野区，4) 付属病院皮膚科)：結節性病変を呈した粘液水腫性苔癬の1例。日本皮膚科学会第821回東京地方会，2008. 11.
- 5) 東 直行<sup>1)</sup>，中田朋子<sup>1)</sup>，狩野律子<sup>1)</sup>，小金井宏美<sup>1)</sup>，上野和子<sup>2)</sup>，太田真琴<sup>3)</sup>，小澤雅邦<sup>3)</sup>，川崎 了<sup>3)</sup>，川名誠司<sup>4)</sup> (1) 多摩永山病院皮膚科，2) 稲城市，3) 多摩市，4) 付属病院皮膚科)：東京都南多摩地区におけるアトピー性皮膚炎の臨床的観察。第38回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会・学術大会，2008. 11.
- 6) 東 直行<sup>1)</sup>，青木見佳子<sup>2)</sup>，川名誠司<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院皮膚科，2) 付属病院皮膚科)：抗核抗体陽性のアトピー性皮膚炎。第72回日本皮膚科学会東京支部学術大会，2009. 2.

## [千葉北総病院皮膚科]

### 研究概要

- 1) 薬疹，接触性皮膚炎，食物アレルギー：パッチテスト，プリックテスト，チャレンジテスト，光パッチテストによる原因物質の確認と，交叉感作，抗原決定基の検索，アレルギーカードの発行.
- 2) 皮膚腫瘍の臨床診断，形成外科学的治療・再建術および病理学的研究：特に電顕，酵素抗体法を用いた研究.
- 3) 動物性皮膚疾患：疥癬，Creeping disease等に対する新しい内服治療法の研究.
- 4) 褥瘡，難治性潰瘍：新しい素材，薬剤を用いた保存的，外科的治療，および糖尿病性壊疽の患者管理と治療法の研究.
- 5) 皮膚真菌症：白癬菌の寄生形態に関する電顕学的研究，白癬に対する効果的な外用・内服治療法の研究.
- 6) 水疱症：尋常性天疱瘡，水疱性類天疱瘡に対する，血漿交換療法を含めた集学的治療法の研究.
- 7) 悪性黒色腫：センチネルリンパ節生検および病理組織学的検討による病期診断と治療方法の選択，予後に関する研究.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 総説：

- 1) 藤本和久：疥癬の治療と対策：院内感染と看護の場での対策。看護技術 2008；54 (7)：761-774.

#### 著書

- 1) 藤本和久：〔分担〕人工蕁麻疹。皮膚科診療カラーアトラス大系 第1巻 (湿疹・皮膚炎/蕁麻疹/痒疹/薬疹) (鈴木啓之，神崎 保)，2008；pp117-117，講談社 (東京)。
- 2) 藤本和久，川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院皮膚科)：〔分担〕固定薬疹。薬疹の全て：エキスパートに学ぶ診療の実際 (池澤善郎 他)，2008；pp207-212，南江堂 (東京)。

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 森本健介，野呂佐知子，藤本和久，川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院皮膚科)：市販感冒薬によるStevens-Johnson症候群型薬疹の1例。日本皮膚科学会総会 (第107回)，2008. 4.
- 2) 若林俊輝<sup>1)</sup>，高田香織<sup>1)</sup>，藤本和久，川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院皮膚科)：バラの果実にも陽性反応を示したナツツアレギーの1例。日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 (第38回)，2008. 11.

## 9. 外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門）

### 〔付属病院消化器外科，乳腺科，一般外科，移植外科〕

#### 研究概要

教室では，消化器外科・一般外科・乳腺外科・移植外科学を中心に臨床医学に直結し，しかも将来につながる研究を目的とし，先端医療を含めた臨床的，基礎的研究を行っている．具体的には，外科腫瘍学を基本に，消化器全般（食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肝・胆・膵・脾），乳腺，移植に関して，外科的治療を中心とした治療成績の向上のための臨床および基礎的研究を行っている．

1. 鏡視下手術（腹腔鏡・胸腔鏡・内視鏡）を用いた低侵襲手術を導入し，基礎的技術習熟のためのトレーニングシステムの構築およびその実践．

2. 生体肝移植における過小グラフト問題に対して，小腸同時切除が過小グラフトのoutflow blockを解決可能かどうかを実験動物（イヌ）を用いて証明．

3. 門脈圧亢進症による食道，胃静脈瘤の病態生理の解明および新しい治療法の開発．

4. 肝不全に対する高圧酸素療法の有用性を証明すべく，障害肝ラットへの高圧酸素療法の効果を病理組織学的に検索．

5. 腹膜炎，イレウス，急性膵炎などを中心とする急性腹症，腹部救急疾患の病態，とくに細菌性ショック発来機構の解明ならびにイレウスの新しい診断法の確立．

6. 創傷治癒，外科侵襲の基礎及び臨床研究さらには外科感染症対策に関してエビデンスをもとにした治療法・予防法の実践．

7. 乳癌，肝癌および膵癌のFNA細胞診断の向上に努めるべく，手術標本からのFNA細胞診断とともに分子生物学的手法を用いた腫瘍マーカーの同定，定量から組織診断の鑑別への応用．

8. 悪性腫瘍に関して，外科的治療を中心として治療成績の向上，基礎的研究として増殖因子の役割，胃十二指腸疾患におけるヘリコバクター・ピロリの役割，胃癌発生における遺伝子多形性の意義，肝癌発生分子生物学的解明，膵癌転移機構の解明，大腸癌発生における細菌性因子の関与の研究など，スタッフの指導のもとに，それぞれのテーマに対し教員が配属されて積極的に研究が進められている．

#### 研究業績

##### 論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Yoshida H, Mamada Y, Tani N, Mizuguchi Y, Kakinuma D, Ishikawa Y, Kanda T, Matsumoto S, Bando K, Akimaru K, Tajiri T : Long-term results of elective hepatectomy for the treatment of ruptured hepatocellular carcinoma. J Hepatobiliary Pancreat Surg 2008 ; 15 (2) : 178-182.

追加分症例報告：

- 1) 宮下正夫，牧野浩司，野村 務，萩原信敏，宮下次廣<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup> 放射線科）：リピオドールによるリンパ管造影があった食道癌術後乳び胸の1例．手術 2008 ; 62 (3) : 377-380.

(1) 原著：

- 1) Sakamoto H<sup>1)</sup>, Yoshimura K<sup>1)</sup>, Saeki N<sup>1)</sup>, Katai H<sup>1)</sup>, Shimoda T<sup>1)</sup>, Matsumo Y<sup>1)</sup>, Saito D<sup>1)</sup>, Sugimura H<sup>1)</sup>, Tanioka F<sup>1)</sup>, Kato S, Matsukura N, Matsuda N, Nakamura T<sup>1)</sup>, Hyodo I<sup>1)</sup>, Nishima T<sup>1)</sup>, et al. <sup>(1)</sup> Study



- Group of Millennium Genome Project for Cancer) : Genetic variation in PSCA is associated with susceptibility to diffuse-type gastric cancer. *Nature Genetics* 2008 ; 40 (6) : 730-740.
- 2) Kakinuma D, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mizuguchi Y, Takahashi T, Shimizu T, Ishikawa Y, Akimaru K, Naito Z, Tajiri T : Quantitative analysis of fluorouracil-related genes in chronic viral hepatitis using microdissection. *Hepato-Gastroenterology* 2008 ; 55 (84) : 826-830.
  - 3) Ishikawa Y, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Bando K, Mizuguchi Y, Kakinuma D, Kanda T, Akimaru K, Tajiri T : Surgical disconnection of patent paraumbilical vein in refractory hepatic encephalopathy. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (3) : 152-156.
  - 4) Suzuki S<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Sato Y<sup>4)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Iida S, Hosone M<sup>2)</sup>, Tsukui T<sup>3)</sup>, Maeda S<sup>2)</sup>, Shimizu K, Tajiri T ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Dept. of Pathology, do, <sup>3)</sup> Dept. of Gastroenterol. , do, <sup>4)</sup> Dept. of Molecular Diagnostics, School of Allied Health Science, Kitasato Univ. ) : MAGE-A protein and MAGE-A10 gene expressions in liver metastasis in patients with stomach cancer. *British J Cancer* 2008 ; 99 (2) : 350-356.
  - 5) Taniai N, Yoshida H, Akimaru K, Tajiri T : Adaptation of hepatectomy for huge hepatocellular carcinoma. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 2008 ; 15 (4) : 410-416.
  - 6) Kanno H, Kiyama T, Fujita I, Kato S, Yoshiyuki T, Tajiri T : A Rat Gastric Banding Model for Bariatric Surgery. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (4) : 202-206.
  - 7) Aimoto T, Uchida E, Nakamura Y, Matsushita A, Katsuno A, Chou K, Kawamoto M, Taniai N, Yoshida H, Tajiri T : Efficacy of a Blake Drain<sup>R</sup> on Pancreatic Fistula after Pancreaticoduodenectomy. *Hepato-Gastroenterol* 2008 ; 55 (86-87) : 1796-1800.
  - 8) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mizuguchi Y, Kakinuma D, Ishikawa Y, Nakamura Y, Okuda T, Kiyama T, Tajiri T : Afferent loop obstruction treated by percutaneous transhepatic insertion of an expandable metallic stent. *Hepato-Gastroenterology* 2008 ; 55 (86-87) : 1767-1769.
  - 9) Akagi I, Miyashita M, Makino H, Nomura T, Hagiwara N, Takahashi K, Cho K, Mishima T, Takizawa T, Tajiri T : SnoN overexpression is predictive of poor survival in patients with esophageal squamous cell carcinoma. *Ann Surg Oncol* 2008 ; 15 (10) : 2965-2975.
  - 10) Kiyama T, Fujita I, Kanno H, Tani A, Yoshiyuki T, Kato S, Tajiri T, Barbul A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Sinai Hospital of Baltimore and the Johns Hopkins Medical Institutions ) : Laparoscopy-assisted distal gastrectomy for gastric cancer. *J Gastrointest Surg* 2008 ; 12 (10) : 1807-1811.
  - 11) Kato S, Matsukura N, Matsuda N, Tsuchiya S<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup> Dept. of Integrative Pathology, <sup>2)</sup> Div. of Pathology, Nippon Medical School Hospital ) : Normalization of pH level and gastric mucosa after eradication of *H. pylori* in the remnant stomach. *J Gastroenterol & Hepatol* 2008 ; 23 (2) : S258-S261.
  - 12) Nakamura Y, Uchida E, Aimoto T, Matsumoto S, Yoshida H, Tajiri T : Clinical outcome of laparoscopic distal pancreatectomy. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 2009 ; 16 (1) : 35-41.
  - 13) Akagi I, Miyashita M, Makino H, Nomura T, Hagiwara N, Takahashi K, Cho K, Mishima T, Ishibashi O, Ushijima T, Takizawa T, Tajiri T : Overexpression of PIK3CA is associate with lymph node metastasis in esophageal squamous cell carcinoma. *Int J Oncol* 2009 ; 34 (3) : 767-775.
  - 14) 鈴木英之, 田尻 孝, 鶴田宏之 : イレウスの診断と治療. *消化器外科* 2008 ; 31 (4) : 451-457.
  - 15) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科 ) : 切除不能・再発食道扁平上皮癌に対する second-line chemotherapy としての Docetaxel/5-fluorouracil/Cisplatin 併用療法の検討. *日本消化器外会誌* 2008 ; 41 (4) : 458-463.
  - 16) 松田明久<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 田村和広<sup>2)</sup>, 向後博

- 司<sup>2)</sup>, 古川清憲, 鈴木英之, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 外科, <sup>2)</sup> 東京薬科大学薬学部内分泌分子薬理学教室) : 脂肪細胞機能からみた手術侵襲後の生体防御反応と術後感染症. 成人病と生活習慣病 2008 ; 38 (5) : 521-524.
- 17) 鈴木英之, 菅 隼人, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 神栖済生会病院外科) : S状結腸捻転. 救急医学 2008 ; 32 (6) : 721-724.
- 18) 中村慶春, 内田英二, 田尻 孝 : 自動縫合器による膵切除 : 腹腔鏡下での手順・注意点・コツ. 消化器外科 2008 ; 31 (8) : 1271-1278.
- 19) 鈴木英之, 古川清憲, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 松田明久, 進士誠一, 佐々木順平, 田尻 孝 : 当科における進行大腸癌に対する腹腔鏡手術の現況 : 適応と除外因子の検討. 日医大医学会誌 2008 ; 4 (4) : 181-192.
- 20) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科) : Prolene Hernia System の underlay patch 挿入・展開の工夫. 手術 2008 ; 62 (11) : 1579-1583.
- 21) 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 佐々木順平, 田尻 孝 : イレウス管による腸管内減圧. 外科 2008 ; 70 (12) : 1345-1350.
- 22) 木山輝郎, 藤田逸郎, 菅野仁士, 谷 杏彌, 加藤俊二, 田尻 孝 : 食事摂取・投与熱量調査からみた腹部救急疾患での栄養管理の必要性. 日腹部救急医学会誌 2008 ; 28 (7) : 939-942.
- 23) 中村慶春, 内田英二, 野村 務, 相本隆幸, 松本智司, 田尻 孝 : 低侵襲を目指した膵領域の腹腔鏡下手術 : 腹腔鏡下膵尾側切除術. 胆と膵 2008 ; 29 (12) : 1325-1329.
- 24) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科) : 再発鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下経腹的腹膜前メッシュ修復術の検討. 日臨外会誌 2009 ; 70 (2) : 368-374.
- 25) 加藤俊二, 松倉則夫, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 菅野仁士, 藤田逸郎, 木山輝郎, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 第2病理) : 5. 残胃の発癌リスク : (2) 残胃癌の発生要因としての *H. pylori* 遺残感染および十二指腸液の逆流. 臨牀消化器内科 2009 ; 24 (4) : 435-442.
- 26) 小泉正樹<sup>1)</sup>, 前島颯太郎<sup>1)</sup>, 尾崎卓司<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター) : 下部消化管出血に対する緊急大腸内視鏡検査の検討 : 早期の検査は必要か? . 日腹部救急医学会誌 2009 ; 29 (3) : 441-446.
- (2) 総説 :
- 1) Tajiri T, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Yokomuro S, Mizuguchi Y : Diagnosis and initial management for cholangiocarcinoma with obstructive jaundice. World J Gastroenterol 2008 ; 14 (19) : 3000-3005.
  - 2) Uchida E, Matsushita A, Yanagi K, Hiroi M, Aimoto T, Nakamura Y, Yokoyama T, Tajiri T : Experimental Pancreatic Cancer Model Using PGHAM-1 Cells : Characteristics and Experimental Therapeutic Trials. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (6) : 325-331.
  - 3) Matsutani T<sup>1)</sup>, Matsuda A<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>(1)</sup> Dept. of Surgery, Tama Nagayama Hospital) : Gender-related Differences in Circulating Levels of Adipocytokine associated with Postoperative Complication following Major Surgery. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (1) : 50-52.
  - 4) Matsuda A<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>(1)</sup> Dept. of Surgery, Tama Nagayama Hospital) : Prevention of Postoperative Infection and Micrometastasis by Preoperative Administration of a PPAR  $\gamma$  Agonist following Colorectal Cancer Surgery. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (1) : 47-49.
  - 5) Mishima T<sup>1)</sup>, Akagi I, Miyashita M, Ishibashi O<sup>1)</sup>, Mizuguchi Y, Tajiri T, Takizawa T<sup>1)</sup> (1) Dept. of Molecular Anatomy and Medicine) : Study of MicroRNA Expression Profiles of Esophageal Cancer. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (1) : 43-43.

- 6) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 坂東功一, 平方敦史, 水口義昭, 川野陽一, 柿沼大輔, 神田知洋, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 肝細胞癌の外科治療 1) 肝硬変依存時の肝切除術. 消化器外科 2008 ; 31 (6) : 971-976.
  - 7) 田尻 孝, 加藤俊二, 内田英二, 西 恵吾<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>西クリニック ): 21世紀に求められる医療—がん—: 地域がん診療連携拠点病院がめざす医療と大学病院の役割. 日本癌病態治療研究会誌 2008 ; 14 (1) : 18-21.
  - 8) 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 丸山弘<sup>2)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 鈴木英之, 秋谷行宏, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院 外科, <sup>2)</sup>多摩永山病院 外科 ): 【術後感染症治療薬】外科における深在性真菌症の診断と治療指針 ガイドラインを中心に. 日本外科感染症学会雑誌 2008 ; 5 (3) : 255-259.
  - 9) 宮下正夫, 赤城一郎, 田尻 孝: 外科の立場からみたSurviving Sepsis Campaign Guidelines. 日本外科感染症学会雑誌 2008 ; 5 (4) : 329-333.
  - 10) 鈴木英之, 田尻 孝: 下部消化管疾患: 最近の動向. Cefiro 2008 ; Autumn (8) : 2-6.
  - 11) 谷合信彦, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 田尻 孝: 本邦における生体肝移植. 日医大医会誌 2009 ; 5 (1) : 13-21.
- (3) 症例報告 :
- 1) Yokoi K<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Furukawa K<sup>1)</sup>, Ishikawa N<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Horiba K<sup>1)</sup>, Kanazawa Y<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup>Dept. of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital ) : Male Choriocarcinoma with Metastasis to the Jejunum : A Case Report and Review of the Literature. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (2) : 116-121.
  - 2) Akagi I, Miyashita M, Makino H, Nomura T, Ohkawa K, Tajiri T : So-called Carcinosarcoma of the Esophagus : Report of a Case. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (3) : 171-174.
  - 3) Akagi I, Miyashita M, Hashimoto M<sup>1)</sup>, Makino H, Nomura T, Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Mitsubishi Ohkurayama Hospital ) : Adult Intussusception Caused by an Intestinal Lipoma : Report of a Case. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (3) : 166-170.
  - 4) Suzuki S<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Liu A<sup>2)</sup>, Hosone M<sup>2)</sup>, Maeda S<sup>2)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup>Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hospital ) : Pathologic complete response confirmed by surgical resection for liver metastases of gastrointestinal stromal tumor after treatment with imatinib mesylate. World J Gastroenterol 2008 ; 14 (23) : 3763-3767.
  - 5) Kan H, Suzuki H, Shinji S<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Furukawa K<sup>2)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Pathology, <sup>2)</sup>Dept. of Surgery, Chiba-Hokusoh Hospital ) : A Case of an Inflammatory Fibroid Polyp of the Cecum. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (3) : 181-186.
  - 6) Matsunobu T<sup>1)</sup>, Watanabe M<sup>1)</sup>, Bou H<sup>1)</sup>, Takahashi N<sup>1)</sup>, Tokunaga A<sup>1)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup>Institute of Gastroenterol, Musashi-Kosugi Hospital ) : Acute Pulmonary Thromboembolism after Distal Gastrectomy : An Appraisal of the Guidelines for Preventing Pulmonary Thromboembolism/Deep Vein Thrombosis. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (3) : 175-180.
  - 7) Akimaru K, Suzuki H, Tsuruta H, Ishikawa Y, Tajiri T, Horikita T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Western Veterinary Clinical Center, Chiba Prefectural Federation of Agricultural Mutual Aid Association ) : Eversion and Ligation of a Diverticulum : Report of an Inspirational Case and Subsequent Animal Study. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (3) : 157-161.
  - 8) Taniai N, Akimaru K, Ishikawa Y, Kanda T, Kakinuma D, Mizuguchi Y, Mamada Y, Yoshida H, Tajiri T : Hepatotoxicity Caused by both tacrolimus and cyclosporin after living donor liver transplantation. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (3) : 187-191.
  - 9) Yokoi K<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Furukawa K<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Chiba Hoku-

- soh Hospital, <sup>2</sup> Dept. of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital) : A Case of Adenosquamous Carcinoma of the Ascending Colon. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (4) : 242-246.
- 10) Aimoto T, Uchida E, Yamahatsu K, Yoshida H, Hiroi M, Tajiri T : Surgical Treatment for Isolated Multiple Pancreatic Metastases from Renal Cell Carcinoma : Report of a Case. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (4) : 221-224.
  - 11) Yamada T<sup>1</sup>, Furukawa K<sup>1</sup>, Yokoi K<sup>1</sup>, Ohaki Y<sup>2</sup>, Okada S<sup>3</sup>, Tajiri T (<sup>1</sup> Dept. of Surgery, Chiba-Hokusoh Hospital, <sup>2</sup> Dept. of Pathology, Chiba-Hokusoh Hospital, <sup>3</sup> Dept. of Radiology, Chiba-Hokusoh Hospital) : A Case of Meningeal Carcinomatosis with Gastric Cancer Which Manifested Meningeal Signs as the Initial Symptom : the Palliative Benefit of Radiotherapy. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (4) : 216-220.
  - 12) 小泉岐博<sup>1</sup>, 古川清憲<sup>2</sup>, 田中宣威<sup>2</sup>, 瀬谷知子<sup>2</sup>, 金沢義一<sup>2</sup>, 田尻 孝<sup>3</sup> (<sup>1</sup> 坪井病院外科, <sup>2</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科, <sup>3</sup> 日本医科大学外科) : Meckel憩室内のアニサキス感染が原因となったイレウスの1例. *日臨外会誌* 2008 ; 69 (9) : 130-133.
  - 13) Akagi I, Miyashita M, Hashimoto M, Makino H, Nomura T, Ohkawa K, Tsuchiya Y, Tajiri T : Cardiac Tamponade due to Metastasis from Early Gastric Cancer : Report of a case. *Clin J Gastroenterology* 2008 ; 1 (3) : 100-104.
  - 14) Seya T<sup>1</sup>, Tanaka N<sup>1</sup>, Yokoi K<sup>1</sup>, Shinji S<sup>1</sup>, Oaki Y<sup>2</sup>, Tajiri T (<sup>1</sup> Dept. of Surgery, Chiba-Hokusoh Hospital, <sup>2</sup> Dept. of Pathology, Chiba-Hokusoh Hospital) : Life-threatening Bleeding from Gastrointestinal Stromal Tumor of the Stomach. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (5) : 306-311.
  - 15) Aimoto T, Uchida E, Nakamura Y, Matsushita A, Katsuno A, Chou K, Kawamoto M, Naito Z<sup>1</sup>, Tajiri T (<sup>1</sup> Dept. of Pathology) : Multicentric pancreatic intraepithelial neoplasias (PanINs) presenting with the clinical features of chronic pancreatitis. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 2008 ; 15 (5) : 549-553.
  - 16) Takao Y, Yoshida H, Mamada Y, Bando K, Tajiri T : Transcatheter hepatic arterial embolization for hemobilia from hepatocellular carcinoma. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (5) : 284-288.
  - 17) Tani A, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Naito Z<sup>1</sup>, Tajiri T (<sup>1</sup> Dept. of Pathology) : A case of biliary cystadenocarcinoma with intracystic bleeding. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (5) : 293-297.
  - 18) Takahashi G, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Bando K, Tajiri T : Intracystic hemorrhage of a huge simple hepatic cyst. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (5) : 302-305.
  - 19) Akagi I, Miyashita M, Makino H, Nomura T, Ohkawa K, Tajiri T : Basaloid Squamous Cell Carcinoma of the Esophagus : Report of Two Cases. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (6) : 354-360.
  - 20) Miyashita M, Akagi I, Ohkawa K, Nomura T, Makino H, Tajiri T : Esophagoscopy-guided thoracoscopic resection of large epiphrenic esophageal diverticulum. *Esophagus* 2008 ; 5 (4) : 225-228.
  - 21) Akagi I, Miyashita M, Makino H, Nomura T, Taniai N, Tajiri T : Incisional Bladder Hernia with Temporary Bowel Incarceration : Report of a Case. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (1) : 34-37.
  - 22) Kan H, Suzuki H, Takasaki H<sup>1</sup>, Sasaki J, Furukawa K<sup>2</sup>, Tajiri T (<sup>1</sup> Dept. of Surgery, Kamisu Saiseikai Hospital, <sup>2</sup> Dept. of Surgery, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital) : A Case of an Intramesosigmoid Hernia. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (1) : 13-18.
  - 23) Mizutani S<sup>1</sup>, Shioya T<sup>1</sup>, Komine O<sup>1</sup>, Yoshino M<sup>1</sup>, Hoshino A<sup>1</sup>, Ogata M<sup>1</sup>, Watanabe M<sup>1</sup>, Yanagimoto K<sup>2</sup>, Shibuya T<sup>3</sup>, Tokunaga A<sup>1</sup>, Tajiri T (<sup>1</sup> Institute of Gastroenterology, Musashikosugi Hospital, <sup>2</sup> Institute of Pathology, Musashikosugi Hospital, <sup>3</sup> Dept. of Surgery, Omiya Medical Association Hospital) : Two successful curative operations using stomach-preserving distal pancreatectomy with celiac axis resection for the treatment of locally advanced pancreatic body cancer. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 2009 ; 16 (1) : 229-233.

- 24) 秋谷行宏, 古川清憲, 鈴木英之, 松本智司, 鶴田宏之, 菅 隼人, 寺西宣央, 佐々木順平, 田尻 孝: 止血に難渋した急性出血性直腸潰瘍に対し経肛門的直腸粘膜環状切除が有効であった1例. 日本大腸肛門病学会誌 2008; 61 (4): 199-203.
- 25) 松下 晃, 相本隆幸, 内田英二, 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 放射線科): 腹腔動脈起始部閉塞を伴う背側腓動脈瘤の1例. 日医大医学会誌 2008; 4 (2): 127-129.
- 26) 菅 隼人, 鈴木英之, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 田尻 孝: 再発を繰り返した超高齢のS状結腸軸捻転症に対し腹腔鏡補助下前方切除術を行った1例. 日臨外会誌 2008; 69 (5): 1145-1150.
- 27) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝: Miles手術後に出現した膵嚢胞性腫瘍と左副腎腫瘍に対し腹腔鏡下に尾側膵切除術と左副腎摘除術を同時に施行した1例. 手術 2008; 62 (5): 661-665.
- 28) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 相本隆幸, 金沢義一<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科, <sup>2)</sup> 同 病理): ガストリン産生肝腫瘍を合併し Zollinger-Ellison 症候群を呈した多発性内分泌腺腫症1型膵グルカゴノーマの1例. 日消外会誌 2008; 41 (6): 646-652.
- 29) 相本隆幸, 奥田武志, 神田知洋, 青木 律<sup>1)</sup>, 内田英二, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 形成外科): Vater乳頭部癌が併存した唇状瘻合併・広範腹壁欠損症に対し膵頭十二指腸切除術と腹壁再建術を2期的に施行した1例. 手術 2008; 62 (8): 1127-1130.
- 30) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 柏原元<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科): tailored S-1/CPT-11 併用療法が奏効した肝転移・腹膜播種を伴うStageIV胃癌の1例. 癌と化学療法 2008; 35 (7): 1193-1195.
- 31) 柏原 元<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科): 十二指腸潰瘍出血による高度貧血を伴った黄色肉芽腫性胆嚢炎の1例. 外科 2008; 70 (8): 920-924.
- 32) 柏原 元<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科): von Recklinghausen病に合併し大量下血をきたした空腸gastrointestinal stromal tumorの1例. 外科 2008; 70 (10): 1129-1133.
- 33) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科): 進行食道癌に対する術後化学放射線療法施行後に発症した門脈ガス血症・腸管嚢胞様気腫症の1例. 日消誌 2008; 105 (10): 1504-1508.
- 34) 柳 健<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科): 巨大直腸内異物除去に有用であった腹腔鏡補助下手術の1例. 日鏡外会誌 2008; 13 (6): 775-779.
- 35) 松田明久<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科): 中心静脈カテーテルポート留置後に生じた化膿性胸鎖関節炎の1例. 日臨外会誌 2008; 69 (12): 3119-3122.
- 36) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科): 自己拡張型腹部ヘルニア用の複合型メッシュで修復したSpigelヘルニアの1例. 外科 2008; 70 (13): 1552-1556.
- 37) 山初和也, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 有馬保生, 横室茂樹, 相本隆幸, 中村慶春, 田尻 孝: 術前に診断しえた胆嚢捻転症の1例. 日医大医学会誌 2009; 5 (1): 57-60.
- 38) 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川毅<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科): CTにて術前診断し得た閉鎖孔ヘルニア. 日腹部救急医学会誌 2009; 29 (3): 517-520.
- 39) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 鈴木誠治<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 杉浦篤<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科): 上行結腸癌術後の局所再発に対しmFOLFOX6とFOLFIRIの交代療法 (mFIREFOX療法) が奏効した1例. 癌と化学療法 2009; 36 (3): 505-507.



(4) 症例から学ぶ：

- 1) 坊 英樹<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 近藤恭司<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター)：出血性胃潰瘍(吐血)を契機に発見された同時性多発早期胃癌の1例. 日医大医学会誌 2009；5(1)：53-56.

(5) 臨床および実験報告：

- 1) Nomura T, Miyashita M, Makino H, Okawa K, Iwakiri K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> Dept. of Pathophysiological Management/Medical Oncology)：Usefulness of the Laparoscopic Heller-Dor Operation for Esophageal Achalasia：Introducing the Procedure to Our Institution. J Nippon Med Sch 2008；75(4)：207-211.
- 2) Iida S, Furukawa K<sup>1)</sup>, Yanagihara K, Iwasaki R, Kurita T, Tsuchiya S<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup>, Haga S, Tajiri T<sup>1)</sup> 千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 付属病院病理部, <sup>3)</sup> 病理学講座(統御機構・腫瘍学))：An Analysis of Factors That Influence the Duration of Suction Drainage in Breast Cancer Surgery. J Nippon Med Sch 2008；75(6)：332-336.

(6) 臨床医のために：

- 1) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 小林由子<sup>2)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 同 放射線科)：同時重複癌を合併した食道癌に対するDocetaxel/5-fluorouracil/Nedaplatinを用いた化学放射線療法. 日医大医学会誌 2008；4(4)：197-200.

著 書

- 1) 鈴木英之, 田尻 孝：〔分担〕小腸腫瘍. 消化器癌の外科治療 1. 消化管(上西紀夫, 中尾昭公), 2008；pp147-151, 中外医学社.
- 2) 鈴木英之, 田尻 孝, 松本智司：〔分担〕2. 腸疾患：4. イレウス. 消化器外科学レビュー2009(炭山嘉伸, 門田守人, 跡見 裕), 2009；pp59-65, 総合医学社.

学会発表

〔追加分〕

追加分シンポジウム：

- 1) 相本隆幸：臍頭十二指腸切除術におけるドレーン留置とその管理. 日本外科系連合学会学術集会(第32回), 2007. 6.

追加分一般講演：

- 1) 藤田俊郎<sup>1)</sup>, 古谷政一<sup>1)</sup>, 清水康仁<sup>1)</sup>, 沖野哲也<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> 筑西市民病院外科)：十二指腸と瘻孔を形成したS状結腸癌の1例. 茨城外科学会(第214回), 2007. 2.
- 2) 松野邦彦<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 沖野哲也<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田尻 孝, その他6名<sup>1)</sup> 千葉北総病院 外科)：当院におけるソケイヘルニアに対するDirect Kugel法. 千葉ヘルニア研究会, 2008. 2.

(1) 特別講演：

- 1) 田尻 孝：教室における手術手技の変遷. 日本手術医学会総会(第30回), 2008. 9.

(2) 宿題講演：

- 1) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 坂東功一, 平方敦史, 水口義昭, 柿沼大輔, 神田知洋, 秋丸琥甫, 田尻 孝：HCV陽性肝細胞癌に対する肝切除術の治療指針. 日本肝胆膵外科学会・学術集会(第20回), 2008. 5.
- 2) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 坂東功一, 田尻 孝：肝細胞癌に対する系統切除と部分切除の適応. 日本消化器外科学会総会(第63回), 2008. 7.

- 3) 神田知洋, 吉田 寛, 谷合信彦, 真々田裕宏, 坂東功一, 平方敦史, 水口義昭, 川野陽一, 柿沼大輔, 永山寛<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 神経内科, <sup>(2)</sup> 立正佼成会附属佼成病院外科): 肝移植後に陳旧性脳挫傷及び免疫抑制剤による重積てんかん発作を繰り返した1例. 日本肝臓学会東部会 (第37回), 2008. 12.
- (3) 招待講演:
- 1) Nakamura Y, Tajiri T, Nomura T, Matsumoto S, Aimoto T, Yamahatsu K, Kou K, Uchida E : Laparoscopic pancreatoduodenectomy in our institution. International Single Topic Symposium 2008 (The 4th) (Daegu, Korea), 2008. 10.
  - 2) Tajiri T, Nakamura Y, Nomura T, Matsumoto S, Aimoto T, Yamahatsu K, Kou K, Uchida E : Laparoscopic distal pancreatectomy in our institution. International Single Topic Symposium 2008 (The 4th) (Daegu, Korea), 2008. 10.
  - 3) Tajiri T, Nakamura Y, Nomura T, Matsumoto S, Aimoto T, Yamahatsu K, Kou K, Uchida E : Laparoscopic pancreas surgery in Japan. International Single Topic Symposium 2008 (The 4th) (Daegu, Korea), 2008. 10.
  - 4) Nakamura Y : Laparoscopic pancreatic resection (Hepatobiliary Surgery). Annual General Surgery Symposium & Workshop (4th) (Riyadh, Saudi Arabia), 2009. 3.
  - 5) Matsumoto S : Surgical techniques of laparoscopic low anterior resection for rectal cancer. Annual General Surgery Symposium & Workshop (4th) (Riyadh, Saudi Arabia), 2009. 3.
  - 6) 中村慶春: 腹腔鏡下膵臓手術の最前線: DPからPDまで. 手術手技研究会 (第62回), 2008. 5.
- (4) 教育講演:
- 1) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Tajiri T : New trend of surgical treatment for portal hypertension. JSH Single Topic Conference (7th) (Fukuoka, Japan), 2008. 11.
- (5) シンポジウム:
- 1) Suzuki H, Kan H, Tsuruta H, Matsumoto S, Akiya Y, Matsuda A, Sasaki J, Tajiri T : Short term performance of laparoscopic assisted colectomy for obese patients. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (ELSA2008) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
  - 2) Nakamura Y, Nomura T, Uchida E, Aimoto T, Matsumoto S, Hiroi M, Yamahatsu K, Kawamoto M, Yokomuro S, Yoshida H, Taniai N, Arima Y, Tajiri T : Laparoscopic pancreatic resection. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (ELSA 2008) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
  - 3) Nakamura Y, Nomura T, Uchida E, Aimoto T, Matsumoto S, Hiroi M, Yamahatsu K, Kawamoto M, Yokomuro S, Arima Y, Tajiri T : Laparoscopic distal pancreatectomy. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (ELSA2008) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
  - 4) Kiyama T, Fujita I, Kanno H, Tani A, Kato S, Yoshiyuki T, Tajiri T : Current Status and Reconstruction of Laparoscopy-Assisted Total Gastrectomy for Gastric Cancer. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (ELSA2008) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
  - 5) Yokomuro S, Arima Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Kawahigashi Y, Kanda T, Arai M, Tajiri T : Efficiency of ERCP during laparoscopic cholecystectomy for common bile duct stone. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (ELSA 2008) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
  - 6) Yoshida H : Interventional radiology for esophagogastric varices. Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association (2nd) (Bangkok, Thailand), 2009. 3.
  - 7) 谷合信彦, 吉田 寛, 田尻 孝: 当院における肝細胞癌合併 食道静脈瘤に対する治療戦略. 日本消化器内視鏡学会総会 (第75回), 2008. 5.
  - 8) 谷合信彦, 吉田 寛, 田尻 孝: 後期研修医プログラムの下での肝臓外科医育成の現状と反省. 日本肝胆膵外

科学会・学術集会（第20回），2008. 5.

- 9) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 廣井 信, 張 一光, 山初和也, 川本聖郎, 谷合信彦, 横室茂樹, 吉田 寛, 有馬保生, 田尻 孝: 腹腔鏡下脾温存脾体尾部切除術. 日本肝胆膵外科学会・学術集会（第20回）, 2008. 5.
  - 10) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 廣井 信, 張 一光, 山初和也, 川本聖郎, 谷合信彦, 横室茂樹, 吉田 寛, 有馬保生, 田尻 孝: 膵臓の鏡視下手術. 日本肝胆膵外科学会・学術集会（第20回）, 2008. 5.
  - 11) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 廣井 信, 張 一光, 山初和也, 川本聖郎, 谷合信彦, 横室茂樹, 吉田 寛, 有馬保生, 田尻 孝: 先天性胆道拡張症における腹腔鏡下手術. 日本肝胆膵外科学会・学術集会（第20回）, 2008. 5.
  - 12) 千原直人<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 麻生定光<sup>2)</sup>, 太田成男<sup>2)</sup> <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 老人病研究所生化学部門: 大腸癌細胞株におけるミトコンドリアDNA体細胞変異と抗癌剤耐性の関連. 日本消化器癌発生学会総会（第19回）, 2008. 8.
  - 13) 坊 英樹<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 増田剛太郎, 千原直人<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝 <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター: 当科における鳥肌胃炎. 日本消化器癌発生学会総会（第19回）, 2008. 8.
  - 14) 中村慶春, 鈴木英之, 内田英二, 宮下正夫, 田尻 孝: 教室における鏡視下手術リスクマネージメントにおける取り組み. 日本手術医学会総会（第30回）, 2008. 9.
  - 15) 菅 隼人, 鈴木英之, 田尻 孝: 大腸切除術後に生じた吻合部狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術の検討. 日本消化器病学会大会（第50回）, 2008. 10.
  - 16) 松田範子<sup>1)</sup>, 黄川田信允<sup>1)</sup>, 前田美紀<sup>1)</sup>, 木山輝郎, 滝沢隆雄, 宮本正章<sup>2)</sup>, 坂本篤裕<sup>3)</sup>, 徳永 昭<sup>4)</sup>, 田尻 孝 <sup>1)</sup> ME部, <sup>2)</sup> 内科, <sup>3)</sup> 麻酔科, <sup>4)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター: 糖尿病性および末梢動脈閉塞症による難治性潰瘍の治療: 骨髄幹細胞移植と高気圧酸素療法. 日本高気圧環境・潜水医学会学術総会（第43回）, 2008. 10.
  - 17) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 大川敬一, 土屋喜一, 二見良平, 高橋 健, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>2)</sup>, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 萩原信敏<sup>3)</sup>, 田尻 孝 <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>3)</sup> 坪井病院外科: 食道表在癌の治療戦略: 縦隔鏡補助下と胸腔鏡補助下食道切除術 (MATHE&VATS-E). 日本臨床外科学会総会（第70回）, 2008. 11.
  - 18) 宮本昌之<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 杉浦 篤<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 田尻 孝 <sup>1)</sup> 多摩永山病院 外科: 腹腔鏡下胆嚢摘出 (LC) における術中胆道造影の有用性—術中発見微小総胆管結石に対する経胆嚢管的乳頭バルーン拡張術 (L-TCPBD). 日本臨床外科学会総会（第70回）, 2008. 11.
- (6) パネルディスカッション:
- 1) 松野邦彦<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 金沢 義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 沖野哲也<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 田尻 孝, その他6名 <sup>1)</sup> 千葉北総病院 外科: 当院におけるソケイヘルニアに対するDirect Kugel法. 日本ヘルニア研究会（第6回）, 2008. 4.
  - 2) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 杉浦 篤<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝 <sup>1)</sup> 多摩永山病院 外科: 鼠径ヘルニアに対するP. H. S法のunderlay patch挿入の工夫. 日本ヘルニア研究会（第6回）, 2008. 4.
  - 3) 加藤俊二, 内田英二, 奥田武志, 藤田逸郎, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫, 田尻 孝: 癌治療認定医時代における消化器外科医: 消化器症状のOncology Emergencyと緩和医療の接点. 日本消化器外科学会総会（第63回）, 2008. 7.
  - 4) 吉田 寛, 真々田裕宏, 田尻 孝: 当科における門脈圧亢進症治療法の工夫と変遷. 日本肝臓学会大会（第12回）, 2008. 10.

- 5) 中村慶春, 野村 務, 内田英二, 松本智司, 相本隆幸, 廣井 信, 山初和也, 川本聖郎, 上田純志, 金谷洋平, 谷合信彦, 横室茂樹, 吉田 寛, 有馬保生, 田尻 孝: 腹腔鏡下膵体尾部切除術の導入と継承: 確実な手技習得のために. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
  - 6) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 川野陽一, 平方敦史, 神田知洋, 柿沼大輔, 峯田 章, 坂東功一, 田尻 孝: 門亢症に対する生体肝移植における部分的脾動脈塞栓術 (PSE) の位置づけ. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第15回), 2008. 11.
  - 7) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 坂東功一, 峯田 章, 川野陽一, 田尻 孝: 術後腸管運動からみた肝切除術時の皮膚切開の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
  - 8) 馬越通信, 中村慶春, 内田英二, 野村 務, 相本隆幸, 松本智司, 廣井 信, 山初和也, 川本聖郎, 上田純志, 金谷洋平, 田尻 孝: 腹腔鏡下膵体尾部切除術を施行した膵嚢胞性腫瘍の1例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
  - 9) 加藤あゆみ<sup>1)</sup>, 谷合信彦, 岩井昭子<sup>2)</sup>, 金子真理子<sup>2)</sup>, 西川律子<sup>2)</sup>, 深田陽子<sup>2)</sup>, 千田英理子<sup>2)</sup>, 須賀理絵<sup>1)</sup>, 輪湖哲也<sup>1)</sup>, 宮田広樹<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 伊藤敬雄<sup>3)</sup>, 中西一浩<sup>4)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 薬剤部, <sup>2)</sup> 看護部, <sup>3)</sup> 精神神経科, <sup>4)</sup> 麻酔科 ): 緩和ケアチームの役割と分担 (緩和ケアチームコンサルテーションの特徴). 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
  - 10) 山田岳史<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院 外科 ): 終末期大腸癌におけるオンコロジーエマージェンシーに対する予後予測に基づいた初期治療計画. 日本腹部救急医学会総会 (第45回), 2009. 3.
- (7) ワークショップ:
- 1) Nakamura Y, Uchida E, Tajiri T: Laparoscopic distal pancreatectomy for solid tumor. World Congress of Endoscopic Surgery (The 11th) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
  - 2) 谷合信彦, 吉田 寛, 田尻 孝: 胃静脈瘤に対する予防的治療. 日本消化器内視鏡学会総会 (第75回), 2008. 5.
  - 3) 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 吉田 寛, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科 ): 当科におけるPSEの位置づけ: 汎血球減少に対する治療を中心に. 日本肝臓学会東部会 (第37回), 2008. 12.
  - 4) 清水哲也<sup>1)</sup>, 横室茂樹, 水口義昭, 川東 豊, 重原健吾, 神田知洋, 有馬保生, 谷合信彦, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 吉田 寛, 秋丸琥甫, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科 ): 肝内胆管癌細胞株HuCCT1におけるTGF- $\beta$  1, p27の発現と増殖への影響に関する検討. 日本肝臓学会東部会 (第37回), 2008. 12.
  - 5) 山下直行<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 徳沢英哲<sup>2)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 坪井病院外科, <sup>2)</sup> 白河病院外科 ): 発生の初期像を捕らえた残胃食道浸潤癌の1例. 日本胃癌学会総会 (第81回), 2009. 3.
- (8) サージカルフォーラム:
- 1) 清水哲也<sup>1)</sup>, 横室茂樹, 水口義昭, 川東 豊, 神田知洋, 有馬保生, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 秋丸琥甫, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 北村山公立病院 ): 肝内胆管癌細胞株HuCCT1におけるTGF-beta1とp27の発現に対する検討. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
  - 2) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 有馬保生, 鈴木英之, 木山輝郎, 横室茂樹, 松本智司, 中村慶春, Shrestha S<sup>1)</sup>, 阿曾亮子<sup>2)</sup>, 吉村明修<sup>2)</sup>, 志村俊郎<sup>2)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> カトマンズ医科大学 外科, <sup>2)</sup> 教育推進室 ): 医学生に対するVRシミュレーターを用いた内視鏡外科手技の教育システム. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
  - 3) 山田岳史<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 沖野哲也<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院 外科 ): 院内周術期バスは定着した: がん治療全体の標準化を目指し, 連携バス等を活用した周術期以後の標準化を目指す. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.

(9) 一般講演：

- 1) Kato S, Naito Z<sup>1)</sup>, Matsukura N, Matsuda N, Tsuchiya S<sup>2)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup> Department of Integrated Pathology, <sup>2)</sup> Pathology Division of Nippon Medical School) : Characteristics and predictions of the high-risk mucosa for secondary stomach cancer. American Association for Cancer Research Meeting (99th) (San Diego, USA), 2008. 4.
- 2) 金沢義一<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院 外科) : 大腸sm癌における内視鏡的切除後の外科的手術適応症例の検討. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 3) Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Seo T<sup>1)</sup>, Shinji S, Yonezawa M<sup>1)</sup>, Wada K<sup>1)</sup>, Mitsui K<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>, Fujimori S<sup>1)</sup>, Guidis K<sup>1)</sup>, Tajiri T, Sakamoto C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Internal Medicine) : Synergistic Effect of Microsomal Prostaglandin E Synthase (MPGES) -1, MPGES-2, and COX-2 Coexpression On Colorectal Cancer Patient Prognosis. The American Gastroenterological Association (AGA) Institute and Digestive Disease Week (San Diego, CA), 2008. 5.
- 4) Kan H, Suzuki H, Tsuruta H, Matsumoto S, Akiya Y, Shinji S<sup>1)</sup>, Matsuda A, Sasaki J, Teranishi N, Furukawa K<sup>1)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Chiba Hokusoh Hospital) : A case of intramesosigmoid hernia. The International College of Surgeons Annual Congress of the Japan Section (The 54th) (Tokyo, Japan), 2008. 6.
- 5) Yanagi K<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Matsuda A<sup>1)</sup>, Nishi Y<sup>1)</sup>, Arai H<sup>1)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital) : Laparoscopic assisted surgery for perforated small intestine due to an incarcerated obturator hernia : a case report. World Congress of Endoscopic Surgery (The 11th) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
- 6) Makino H<sup>1)</sup>, Furukawa K<sup>1)</sup>, Miyashita M, Yokoi K<sup>1)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Horiba K<sup>1)</sup>, Kanazawa Y<sup>1)</sup>, Shirakawa T<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Nomura T, Okawa K, Tsuchiya Y, Hagiwara N, Tajiri T, et al. ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Chiba Hokusoh Hospital) : Video Assisted Thorascopic Surgery of Esophagus (VATS-E) in Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital. World Congress of Endoscopic Surgery (The 11th) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
- 7) Makino H<sup>1)</sup>, Furukawa K<sup>1)</sup>, Miyashita M, Nomura T, Seya T<sup>1)</sup>, Horiba K<sup>1)</sup>, Okawa K, Tsuchiya Y, Hagiwara N, Katsuta M, Takahashi K, Akagi I, Sakata Y, Kudo H<sup>1)</sup>, Tajiri T, et al. ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Chiba Hokusoh Hospital) : Mediastinoscope Assisted Lymphadenectomy Around Recurrent Nerves in Esophagectomy. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (ELSA2008) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
- 8) Bando K, Akimaru K, Yoshida H, Mamada Y, Tani ai N, Matsumoto S, Mizuguchi Y, Kakinuma D, Kanda T, Tajiri T : Usefulness of laparoscopic liver resection in cirrhotic patients. World Congress of Endoscopic Surgery (The 11th) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
- 9) Bando K, Akimaru K, Yoshida H, Mamada Y, Tani ai N, Matsumoto S, Mizuguchi Y, Kakinuma D, Kanda T, Tajiri T : Current state of laparoscopic liver resection in cirrhotic patients in our hospital. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (ELSA 2008) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
- 10) Nomura T, Miyashita M, Makino H, Akagi I, Nakamura Y, Arima Y, Suzuki H, Yokomuro S, Kiyama T, Iwakiri K<sup>1)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup> Dept. of Medicine, Division of Gastroenterology) : Usefulness of Laparoscopic Heller-dor Operation for Patients of Esophageal Achalasia ; Introducing The Procedure to Our Institute. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (ELSA2008) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
- 11) Nomura T, Miyashita M, Makino H, Okawa K, Akagi I, Katsuta M, Takahashi K, Hagiwara N, Futami



- R, Kashiwabara M, Tajiri T : Argon Plasma Coagulation for Patient with Locoregional Failure after Definitive Chemoradiotherapy for Esophageal Carcinoma : A Case Report. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (ELSA2008) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
- 12) Kan H, Suzuki H, Tsuruta H, Matsumoto S, Akiya Y, Sasaki J, Teranishi N, Tajiri T : A Case Report of Lower Rectal Adenocarcinoma (T2) Treated by Transanal Endoscopic Microsurgery (TEM) in Combination with Preoperative Chemoradiation Therapy. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (ELSA2008) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
  - 13) Matsumoto S, Suzuki H, Kan H, Tsuruta H, Nakamura Y, Akiya Y, Sasaki J, Tajiri T : Small Incision Precedence Method, A Useful Technique in Laparoscopic-Assisted Colectomy. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (ELSA2008) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
  - 14) Miyamoto M<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Yanagi K<sup>1)</sup>, Matsushita A<sup>1)</sup>, Sugiura A<sup>1)</sup>, Matsuda A<sup>1)</sup>, Nishi Y<sup>1)</sup>, Arai H<sup>1)</sup>, Tajiri T (<sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital) : A Conception of Treatment Strategy, Hepatectomy or Radio Frequency Ablation (RFA) , for Small Hepatic Tumors. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (ELSA2008) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
  - 15) Matsutani T<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Sugiura A<sup>1)</sup>, Yanagi K<sup>1)</sup>, Matsushita A<sup>1)</sup>, Matsuda A<sup>1)</sup>, Kashiwabara M<sup>1)</sup>, Nishi Y<sup>1)</sup>, Arai H<sup>1)</sup>, Tajiri T (<sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital) : Laparoscopic Transabdominal Preperitoneal Repair Versus Anterior Open Mesh Repair for Recurrent Inguinal Hernia. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (ELSA2008) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
  - 16) Kiyama T, Fujita I, Kanno H, Tani A, Yoshiyuki T, Kato S, Tajiri T : Oncologic Outcome of Laparoscopy-assisted Gastrectomy for Early Gastric Cancer. World Congress of Endoscopic Surgery (The 11th) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
  - 17) Kan H, Suzuki H, Tsuruta H, Matsumoto S, Akiya Y, Sakurazawa N, Sasaki J, Teranishi N, Furukawa K<sup>1)</sup>, Tajiri T (<sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Chiba Hokusoh Hospital) : A Case of Synchronous Multiple Colon Cancers and Gastric Cancer Developing Protein-Losing Gastroenteropathy Resected by Laparoscopy-Assisted Surgery and Endoscopic Resections. World Congress of Endoscopic Surgery (The 11th) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
  - 18) Kanno H, Kiyama T, Fujita I, Kato S, Yoshiyuki T, Tajiri T : Prevention of Surgical Site Infection Following Laparoscopic Gastric Surgery : Focus on Incisional SSI. World Congress of Endoscopic Surgery (The 11th) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
  - 19) Miyamoto M<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Yanagi K<sup>1)</sup>, Matsushita A<sup>1)</sup>, Sugiura A<sup>1)</sup>, Matsuda A<sup>1)</sup>, Nishi Y<sup>1)</sup>, Arai H<sup>1)</sup>, Tajiri T (<sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital) : An Efficacy of Laparoscopic Trans Cystic Duct Papillary Balloon Dilation (L-TCPBD) for C. B. D. Stone Pointed Out in Ooperation. World Congress of Endoscopic Surgery (The 11th) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
  - 20) Matsutani T<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Sugiura A<sup>1)</sup>, Yanagi K<sup>1)</sup>, Matsushita A<sup>1)</sup>, Matsuda A<sup>1)</sup>, Kashiwabara M<sup>1)</sup>, Nishi Y<sup>1)</sup>, Arai H<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Tajiri T (<sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital) : Laparoscopic Surgical Treatment of Enlarged Splenic Cyst with Preservation of Splenic Function : Report of A Case. World Congress of Endoscopic Surgery (The 11th) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
  - 21) Mizutani S<sup>1)</sup>, Nakamura Y, Maejima K<sup>1)</sup>, Chihara N<sup>1)</sup>, Komine O<sup>1)</sup>, Yoshino M<sup>1)</sup>, Hoshino A<sup>1)</sup>, Shioya

- T<sup>1</sup>), Ogata M<sup>1</sup>), Watanabe M<sup>1</sup>), Shibuya T<sup>1</sup>), Tokunaga A<sup>1</sup>), Tajiri T ( <sup>1</sup> Institute of Gastroenterology, Musashikosugi Hospital) : Giant Mucinous Cyst Neoplasm (MCN) Completely Resected by Laparoscopic Surgery, Case Report. World Congress of Endoscopic Surgery (The 11th) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
- 22) Watanabe M<sup>1</sup>), Maejima K<sup>1</sup>), Komine O<sup>1</sup>), Mizutani S<sup>1</sup>), Yoshino M<sup>1</sup>), Bou H<sup>1</sup>), Ogata M<sup>1</sup>), Tokunaga A<sup>1</sup>), Tajiri T ( <sup>1</sup> Institute of Gastroenterology, Musashikosugi Hospital) : Multiple Adenocarcinoma with Extensive Dysplasia in Long Segment Barrett' s Esophagus Treated with Thoracoscopic Surgery : Report of A Case. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (ELSA2008) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
- 23) Nomura T, Miyashita M, Makino H, Okawa K, Tsuchiya Y, Akagi I, Yokomuro S, Yokoshima K<sup>1</sup>, Nakamizo M<sup>1</sup>), Tajiri T ( <sup>1</sup> Dept. of Otolaryngology) : Utility of a transhiatal esophagectomy and extended gastric tube for reconstruction after surgery for cancer of the cervical esophagus or hypopharynx. World Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus (11th) (Budapest, Hungary), 2008. 9.
- 24) Akagi I, Miyashita M, Makino H, Nomura T, Hagiwara N, Takahashi K, Cho K, Mishima T, Watanabe N, Ushijima T, Takizawa T, Tajiri T : The comprehensive analysis of PIK3CA in esophageal squamous cell carcinoma. World Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus (11th) (Budapest, Hungary), 2008. 9.
- 25) Seya T<sup>1</sup>), Tanaka N<sup>1</sup>), Shirakawa T<sup>1</sup>), Horiba K<sup>1</sup>), Yokoi K<sup>1</sup>), Oaki Y<sup>2</sup>), Tajiri T ( <sup>1</sup> Dept. of Surgery, Chiba hokuso Hospital, <sup>2</sup> Dept. of Pathology, Chiba Hokuso Hospital) : Emmprin, Matrix Metalloproteinase-9 and Type IV Collagen Expression in Colorectal Cancer with Liver Metastasis. United European Gastroenterology Week (16th) (Vienna, Austria), 2008. 10.
- 26) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Kawano Y, Kanda T, Ueda J, Takahashi G, Tajiri T : Simultaneous Evaluation of Portal Hemodynamics and Liver Function by Scintiphotosplenoportography in Pediatric Recipients of Living-Donor Liver Transplants. Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association (2nd) (Bangkok, Thailand), 2009. 3.
- 27) Taniai N : Evaluation of Gastrointestinal Movement after Hepatectomy Using X-Rays Non-penetrated Marker (Sitzmarks). Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association (2nd) (Bangkok, Thailand), 2009. 3.
- 28) Ueda J, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Bando K, Mizuguchi Y, Kawano Y, Kakinuma D, Kanda T, Kogo H, Onda M<sup>1</sup>), Naito Z<sup>1</sup>), Hayashi H<sup>1</sup>), Kumita S<sup>2</sup>), Tajiri T ( <sup>1</sup> Dept. of Pathology, <sup>2</sup> Dept. of Radiology) : Inflammatory Pseudotumor in the Liver Associated with Intrahepatic Bile Duct Stones Mimicking Malignancy . Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association (2nd) (Bangkok, Thailand), 2009. 3.
- 29) Takahashi G, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Bando K, Mineta S, Kawano Y, Kanda T, Ueda J, Tajiri T : Intracystic Hemorrhage of a Huge Simple Hepatic Cyst. Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association (2nd) (Bangkok, Thailand), 2009. 3.
- 30) 松下 晃<sup>1</sup>), Tobias G<sup>2</sup>), 川本聖郎, 張 一光, 柳 健<sup>1</sup>), 中村慶春, 横山 正<sup>1</sup>), 相本隆幸, 内田英二, 笹島耕二<sup>1</sup>), 田尻 孝, Murray K<sup>2</sup>) ( <sup>1</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2</sup> Dept. of Medicine, Dartmouth Medical School) : Neuropilin-1 Association with c-Met in Pancreatic Cancer Cells Enhances Hepatocyte Growth Factor-Mediated Cell Invasion. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 31) Kanno H, Kiyama T, Fujita I, Tani A, Kato S, Yoshiyuki T, Tajiri T : The outcome of laparoscopy-assisted distal gastrectomy in obese patients . 日本胃癌学会総会 (第81回), 2009. 3.
- 32) 牧野浩司<sup>1</sup>), 古川清憲<sup>1</sup>), 大川敬一, 勝田美和子<sup>1</sup>), 横井公良<sup>1</sup>), 石川紀行<sup>1</sup>), 瀬谷知子<sup>1</sup>), 堀場光二<sup>1</sup>), 金沢義一<sup>1</sup>), 白川 毅<sup>1</sup>), 山田岳史<sup>1</sup>), 工藤秀徳<sup>1</sup>), 吉岡正人<sup>1</sup>), 富樫晃祥<sup>1</sup>), 田尻 孝, その他5名 ( <sup>1</sup> 千葉北総

- 病院 外科)：食道癌に対するCDGPを用いた根治的CRTの効果と副作用。日本消化器病学会総会(第94回)，2008. 5.
- 33) 山田岳史<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，石川紀行<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，白川 毅<sup>1)</sup>，工藤秀徳<sup>1)</sup>，吉岡正人<sup>1)</sup>，進士誠一<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，田尻 孝，その他1名<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科)：L-OHP低感受性大腸癌に対するCPT-11の効果。日本消化器病学会総会(第94回)，2008. 5.
- 34) 吉岡正人<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，住吉宏樹<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科)：腎細胞癌の多発肺転移に対して肺全摘出を行った1例。日本消化器病学会総会(第94回)，2008. 5.
- 35) 進士誠一<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，石川紀行<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，白川 毅<sup>1)</sup>，工藤秀徳<sup>1)</sup>，吉岡正人<sup>1)</sup>，田尻 孝，その他3名<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科)：Invasive micropapillary carcinoma成分を伴った大腸癌の1例。日本消化器病学会総会(第94回)，2008. 5.
- 36) 真々田裕宏<sup>1)</sup>，吉田 寛，谷合信彦，坂東功一，柿沼大輔，吉岡正人<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科)：A-Pシャントを伴う肝癌合併肝硬変の1切除例。日本消化器病学会総会(第94回)，2008. 5.
- 37) 瀬谷知子<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，進士誠一<sup>1)</sup>，小泉岐博<sup>1)</sup>，吉岡正人<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，高橋由至<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，石川紀行<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，大秋美治<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科，<sup>2)</sup> 同 病理)：大腸癌肝転移・肺転移症例におけるEMMPRIN, MMP-9, TypeIV collagenの発現。日本外科学会定期学術集会(第108回)，2008. 5.
- 38) 進士誠一<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，石川紀行<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，白川 毅<sup>1)</sup>，工藤秀徳<sup>1)</sup>，吉岡正人<sup>1)</sup>，田尻 孝，その他5名<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科)：大腸低分化腺癌の免疫組織学的検討。日本外科学会定期学術集会(第108回)，2008. 5.
- 39) 山田岳史<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，白川 毅<sup>1)</sup>，工藤秀徳<sup>1)</sup>，吉岡正人<sup>1)</sup>，富樫晃祥<sup>1)</sup>，進士誠一<sup>1)</sup>，田尻 孝，その他1名<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科)：大腸癌における5FU/CPT-11併用療法の効果に関する検討。併用療法は相加的か？。日本外科学会定期学術集会(第108回)，2008. 5.
- 40) 清水哲也<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，白川 毅<sup>1)</sup>，工藤秀徳<sup>1)</sup>，沖野哲也<sup>1)</sup>，富樫晃祥<sup>1)</sup>，進士誠一<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，その他6名<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科)：腹壁瘻痕ヘルニア嵌頓による壊死性筋膜炎の救命し得た1例。千葉重症感染症研究会(第4回)，2008. 5.
- 41) 吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，坂東功一，水口義昭，柿沼大輔，神田知洋，秋丸琥甫，田尻 孝：食道胃静脈瘤破裂症例の検討：anti-ulcer drugs, Alcohol, NSAIDsとの相互関係を中心に。日本外科学会定期学術集会(第108回)，2008. 5.
- 42) 山初和也，加藤俊二，松倉則夫，菅野仁士，中村慶春，奥田武志，藤田逸郎，木山輝郎，田尻 孝：胃・十二指腸潰瘍穿孔症例のフォローアップ ピロリ菌除菌治療は再穿孔予防に有効か？。日本消化器病学会総会(第94回)，2008. 5.
- 43) 加藤俊二，松倉則夫，山初和也，奥田武志，藤田逸郎，木山輝郎，田尻 孝：胃・十二指腸潰瘍穿孔症例のフォローアップ 穿孔体質の可能性と除菌治療は再穿孔予防に有効か？。日本消化器病学会総会(第94回)，2008. 5.
- 44) 谷合信彦，吉田 寛，真々田裕宏，松本智司，坂東功一，平方敦史，柿沼大輔，秋丸琥甫，田尻 孝：肝癌診療ガイドラインにおいて腫瘍径3cmでの分類は妥当か？。日本肝癌研究会(第44回)，2008. 5.
- 45) 中村慶春，内田英二，田尻 孝，相本隆幸，廣井 信，張 一光，川本聖郎：腹腔鏡下脾臓・脾動静脈温存尾側脾切除術。日本外科学会定期学術集会(第108回)，2008. 5.

- 46) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 張 一光, 川本聖郎, 山初和也, 廣井 信, 田尻 孝: 臨床的に慢性膵炎像を呈した多中心発生性PanINs1の1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第20回), 2008. 5.
- 47) 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 青笹季文<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>2)</sup>, 星野有哉<sup>2)</sup>, 徳永昭<sup>2)</sup>, 柳本邦雄<sup>3)</sup>, 田尻 孝 (1) 大宮医師会市民病院外科, (2) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, (3) 同 病理部): 超高齢者自己免疫性膵炎の1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第20回), 2008. 5.
- 48) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 豊田 鉄<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺正則<sup>1)</sup>, 柳本邦雄<sup>2)</sup>, 渋谷哲男<sup>3)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝 (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, (2) 大宮医師会市民病院外科, (3) 武蔵小杉病院病理部): 全胃温存腹腔動脈幹合併膵体尾部切除により切除可能であった進行膵体尾部癌の2例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第20回), 2008. 5.
- 49) 勝田美和子<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田尻 孝, その他2名 (1) 千葉北総病院 外科): 腹腔内出血をきたした小腸GISTの1例. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 50) 千原直人<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 近藤恭司<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 麻生定光<sup>2)</sup>, 太田成男<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, (2) 老人病研究所生化学部門): 大腸癌細胞株の抗癌剤感受性: Cybridの作製とミトコンドリアDNA体細胞変異. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 51) 杠葉 良<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 麻生定光<sup>2)</sup>, 太田成男<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, (2) 老人病研究所生化学部門): 大腸癌における5FU, S-1抗癌剤感受性試験と術後化学療法. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 52) 永嶋裕司<sup>1)</sup>, 小野田正美<sup>1)</sup>, 辻本志郎<sup>2)</sup>, 吉田 寛, 田尻 孝 (1) 聖ヨゼフ病院内科, (2) 横須賀市立うわまち病院病理部): 生前に原発を診断しえなかった膵管癌の癌性腹膜炎の一部検例. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 53) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 小林由子<sup>2)</sup>, 田尻 孝 (1) 多摩永山病院 外科, (2) 同 放射線科): 5-Fluorouracil+nedaplatin+docetaxel併用化学放射線療法を行った食道癌と他臓器の重複. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 54) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 田尻 孝 (1) 多摩永山病院 外科, (2) 同 消化器科): mFOLFOLFOX6法とFOLFIRI法の交代療法を導入した進行・再発大腸癌症例の検討. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 55) 松田明久<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 古川清憲, 田尻 孝 (1) 多摩永山病院 外科): 脂肪細胞機能と大腸癌術後感染性合併症. 日本Shock学会総会 (第23回), 2008. 5.
- 56) 尾形昌男<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 近藤恭司<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 鈴木英之, 田尻 孝 (1) 武蔵小杉病院消化器病センター): 腹腔鏡下S状結腸癌切除中に見つかった回腸悪性リンパ腫の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第299回), 2008. 5.
- 57) 張 一光, 鈴木英之, 鶴田宏之, 菅 隼人, 松本智司, 秋谷行宏, 佐々木順平, 田中 周<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 田尻 孝 (1) 第3内科): ダブルバルーン (DB) 小腸内視鏡にて術前診断し得たメッケル憩室出血の1例. 外科集談会 (第809回), 2008. 5.
- 58) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 坂東功一, 水口義昭, 柿沼大輔, 秋丸琉甫, 田尻 孝: X腺不透過マーカーによる肝切除後の腸管運動評価—大建中湯 (TJ-100) の有用性. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 59) 松本智司, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 佐々木順平, 高田英志, 田尻 孝: 当科における腹腔



鏡補助下低位前方切除術での工夫. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.

- 60) 赤城一郎, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 高橋 健, 張 一光, 三嶋拓也<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, 渡邊直子<sup>2)</sup>, 牛島俊和<sup>2)</sup>, 田尻 孝 (1) 第一解剖, <sup>2)</sup> 国立がんセンター研究所発がん研究部): 食道扁平上皮癌におけるPIK3CA発現の意義. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 61) 宮本昌之<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 田尻 孝 (1) 多摩永山病院外科): 総胆管結石治療のstrategyにおける腹腔鏡下術中経胆嚢管的乳頭バルーン拡張術 (IOTCPBD) の意義. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 62) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 柏原元<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 田尻 孝 (1) 多摩永山病院外科): 食道癌手術後の末梢血アディポカインとテストステロン値の関連. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 63) 松田明久<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 古川清憲, 鈴木英之, 田尻 孝 (1) 多摩永山病院外科): 脂肪細胞機能低下は術後感染症発症の独立した危険因子である. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 64) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 劉 愛民<sup>3)</sup>, 田尻 孝, その他1名 (1) 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 同 消化器科, <sup>3)</sup> 同 病理部): GIST肝転移症例の検討: 臨床経過・治療方針を中心に. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 65) 千原直人<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 麻生定光<sup>2)</sup>, 太田成男<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 老人病研究所生化学部門): 大腸癌細胞株を用いたCybridの作製と抗癌剤感受性におけるミトコンドリアDNA体細胞変異の関連. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 66) 杠葉 良<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 麻生定光<sup>2)</sup>, 太田成男<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 老人病研究所生化学部門): 大腸癌における5FU, S-1抗癌剤感受性試験の樹立とミトコンドリアDNAの変異. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 67) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>2)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 埜 秀暁<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 小峯修<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝 (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 老人病研究所生化学部門): 抗癌剤耐性とミトコンドリアDNA体細胞変異の関連における分子生物学的検討. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 68) 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>2)</sup>, 徳永昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝 (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 大宮医師会市民病院外科): 大腸憩室手術症例に関する検討. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 69) 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 木山輝郎, 菅野仁士, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 田尻 孝 (1) 武蔵小杉病院消化器病センター): 胃癌術後補助化学療法におけるTS-1による抗癌剤感受性試験の有用性の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 70) 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 埜 秀暁<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝 (1) 武蔵小杉病院消化器病センター): SSIサーベイランスの結果と問題点. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 71) 山下直行<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 高橋 健<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 藤岡 薫<sup>1)</sup>, 岩波 洋<sup>1)</sup>, 吉田初雄<sup>2)</sup>, 湖山信篤<sup>3)</sup>, 櫻澤信行, 宮下正夫, 加藤俊二, 田尻 孝 (1) 坪井病院外科, <sup>2)</sup> 今泉西病院外科, <sup>3)</sup> 志木市立病院外科): 上部胃癌に対する噴門側胃切除の適応, 郭清範囲, 再建, 残胃のフォロー. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.



- 72) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 高橋 健<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 櫻澤信行, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 坪井病院外科): 胃癌手術症例における, 多重複癌の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 73) 小峯 修<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 安倍 仁<sup>1)</sup>, 吉川朱実<sup>2)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>3)</sup>, 渡辺昌則<sup>3)</sup>, 徳永昭<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 埼玉県立がんセンター消化器外科, <sup>2)</sup> 東京大学附属病院胃食道外科, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター): 食道癌に対する胸腔鏡補助下食道切除術の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 74) 櫻澤信行, 宮下正夫, 加藤俊二, 木山輝郎, 野村 務, 藤田逸郎, 奥田武志, 大川敬一, 関 奈紀, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 内科): 輪状ダブルスプリング使用, 局所カウタートラクション法による粘膜胃癌に対するESDの1症例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第75回), 2008. 5.
- 75) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 小林由子<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 同 放射線科): Docetaxel/5-FU/CDGP併用化学放射線療法にてCRが得られた進行期胸部食道癌と下咽頭重複癌の1例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第75回), 2008. 5.
- 76) 山下直行<sup>1)</sup>, 加藤博之<sup>2)</sup>, 高橋 健<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 小澤俊文<sup>3)</sup>, 河野孝一郎<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 坪井病院外科, <sup>2)</sup> 東京女子医科大学東医療センター検査科, <sup>3)</sup> 坪井病院内科): 腹腔鏡下に切除した長径8mmの低分化上行結腸癌の1例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第75回), 2008. 5.
- 77) 牧野浩司<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 大川敬一, 堀場光二<sup>1)</sup>, 萩原信敏, 高橋 健, 琴寄 誠<sup>2)</sup>, 野村 務, 土屋喜一, 岩切勝彦<sup>3)</sup>, 田中由里子<sup>3)</sup>, 川見典之<sup>3)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科, <sup>2)</sup> 同 内科, <sup>3)</sup> 付属病院 内科): 当院における食道癌化学療法・化学放射線療法の治療としての位置付けと方法. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 78) 徳永健吾<sup>1)</sup>, 伊藤慎芳<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>3)</sup>, 河合 隆<sup>4)</sup>, 川上浩平<sup>4)</sup>, 鈴木雅之<sup>5)</sup>, 加藤俊二, 榊 信廣<sup>6)</sup>, 高橋信一<sup>1)</sup> (1) 帝京大学医学部第三内科, <sup>2)</sup> 四谷メディカルキューブ, <sup>3)</sup> 日本医科大学多摩永山病院消化器科, <sup>4)</sup> 東京医科大学内視鏡センター, <sup>5)</sup> 国立病院機構国際医療センター, <sup>6)</sup> 東京HP研究会): 2次除菌不成功例に対するPPI+AMPC+GFLXによる*H. pylori* 3次除菌療法の検討: 東京都内多施設における共同調査結果から第2報. 日本ヘリコバクター学会 (第14回), 2008. 6.
- 79) 川上浩平<sup>1)</sup>, 河合 隆<sup>1)</sup>, 鈴木秀和<sup>1)</sup>, 正岡建洋<sup>1)</sup>, 永原章仁<sup>1)</sup>, 大草敏史<sup>1)</sup>, 伊藤慎芳<sup>1)</sup>, 徳永健吾<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 鈴木雅之<sup>1)</sup>, 加藤俊二, 高橋信一<sup>1)</sup>, 榊 信廣<sup>1)</sup> (1) 東京HP研究会): 3剤療法による*Helicobacter pylori* 除菌率の経年的推移: 東京都多施設における共同調査から. 日本ヘリコバクター学会 (第14回), 2008. 6.
- 80) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 坂東功一, 平方敦史, 水口義昭, 柿沼大輔, 田尻 孝: HCV陽性肝細胞癌に対する肝切除術の治療指針. 日本肝臓学会総会 (第44回), 2008. 6.
- 81) 坂東功一, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 谷合信彦, 松本智司, 平方敦史, 水口義昭, 柿沼大輔, 神田知洋, 田尻 孝, 真々田裕宏<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院外科): 肝硬変合併肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除術の有用性. 日本肝臓学会総会 (第44回), 2008. 6.
- 82) 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 木山輝郎, 菅野仁士, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター): 胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性試験の検討. 日本外科系連合学会学術集会 (第33回), 2008. 6.
- 83) 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター): CEA高値を契機に発見された虫垂粘液嚢胞腺腫の1例. 日本外科系連合学会学術集会 (第33回), 2008. 6.
- 84) 加藤俊二, 松倉則夫, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 菅野仁士, 藤田逸郎, 木山輝郎, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 第2病理): 残胃癌の発生要因としての*H. pylori* 遺残感染および十二指腸液の逆流. 胃癌のリスクファクター研究会 (第8回), 2008. 6.
- 85) 松田範子<sup>1)</sup>, 黄川田信充<sup>1)</sup>, 滝沢隆雄, 木山輝郎, 宮本正章<sup>2)</sup>, 徳永 昭<sup>3)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> ME部,

- 2) 内科・再生医療科, 3) 武蔵小杉病院消化器病センター): 日本医科大学における高気圧酸素治療の変遷. 日本高気圧環境・潜水医学会関東地方会総会 (第8回), 2008. 6.
- 86) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 大川敬一, 土屋喜一, 赤城一郎, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科): T1bNO食道表在癌に対する縦隔鏡補助下食道切除術の長期的予後. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 87) 赤城一郎, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 大川敬一, 土屋喜一, 萩原信敏, 高橋 健, 田尻 孝: 食道類基底細胞癌の2手術例. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 88) 坂田義則, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 大川敬一, 土屋喜一, 萩原信敏, 赤城一郎, 田尻 孝: 上部消化管内視鏡と胸腔鏡を併用し切除しえた横隔膜上食道憩室の1例. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 89) 田中由理子<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 佐野弘仁<sup>1)</sup>, 川見典之<sup>1)</sup>, 琴寄 誠<sup>1)</sup>, 星原芳雄<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 牧野浩司, 野村 務, 宮下正夫, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 消化器内科): バルーン拡張術が有効であるアカラシア症例の特徴. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 90) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 杉浦 篤<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 小林由子<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 外科, <sup>2)</sup> 同 放射線科): 切除不能食道癌に対するDocetaxel/5FU/CDGP併用化学放射線療法の評価. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 91) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 杉浦 篤<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 外科, <sup>2)</sup> 同 病理): 食道癌胆嚢壁内転移を認め切除し得た1例. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 92) 小峯 修<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター): 食道癌周術期における好中球エラスターゼ阻害薬の有用性の検討. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 93) 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 徳永昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター): 食道癌術後感染症の危険因子に関する検討. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 94) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 高橋 健, 赤城一郎, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 坪井病院外科): 放射線化学療法が有効であった進行食道小細胞癌 (内分泌細胞癌) の1例. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 95) 山下直行<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 藤岡 薫<sup>1)</sup>, 岩波 洋<sup>1)</sup>, 櫻澤信行, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 坪井病院 外科): 門脈系の腫瘍塞栓を伴う胃癌の3例. 東北外科集談会 (第153回), 2008. 6.
- 96) 馬越通信, 吉田 寛, 谷合信彦, 坂東功一, 水口義昭, 柿沼大輔, 神田知洋, 田尻 孝, 村田 智<sup>1)</sup> (放射線科): 巨大奇静脈系短絡に伴う難治性肝性脳症に対してB-RTOが有効であった1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第300回), 2008. 7.
- 97) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科, <sup>2)</sup> 同 病理部): 当院における大腸pMP癌症例の検討. 大腸癌研究会 (第69回), 2008. 7.
- 98) 牧野浩司, 古川清憲<sup>1)</sup>, 大川敬一, 堀場光二<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>2)</sup>, 宮下正夫, 野村 務, 土屋喜一, 赤城一郎, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科, <sup>2)</sup> 坪井病院 外科): CDGP, 5-FUを用いた食道癌の術前CRTの治療成績: 副作用が少なく効果的な方法. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 99) 山田岳史, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科): 緩和医療における外科医のかかわり: ツールの有効活用による緩和医療の一般化. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.

- 100) 白川 毅<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田尻 孝 (1) 千葉北総病院 外科) : 高度進行胃癌に対するS1+CDDP併用化学療法後の胃切除手術の検討. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 101) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>3)</sup>, 田尻 孝 (1) 千葉北総病院 外科, 2) 同 病理, 3) 付属病院 第二病理) : 胃癌におけるlumicanの発現. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 102) 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 松野邦彦<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田尻 孝 (1) 千葉北総病院 外科) : G-CSF産生上行結腸癌の1例. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 103) 松野邦彦<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田尻 孝 (1) 千葉北総病院 外科) : 穿孔性腹膜炎にて発症した空腸悪性T細胞リンパ腫の1例. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 104) 堀場光二<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 田尻 孝 (1) 千葉北総病院 外科) : クロウン病及び潰瘍性大腸炎腸管におけるEMMPRINの免疫組織化学的検討. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 105) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 相本隆幸, 金沢義一<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 田尻 孝 (1) 千葉北総病院 外科, 2) 同 病理部) : ガストリン産生肝腫瘍を合併しZollinger-Ellison症候群を呈したMEN1膵グルカゴノーマの1例. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 106) 鶴田宏之, 古川清憲<sup>1)</sup>, 鈴木英之, 菅 隼人, 松本智司, 秋谷行宏, 佐々木順平, 田尻 孝 (1) 千葉北総病院 外科) : 大腸癌術前診断におけるPET-CTの有用性. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 107) 坂東功一, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 谷合信彦, 松本智司, 平方敦史, 水口義昭, 柿沼大輔, 神田知洋, 田尻 孝 : 当科における腹腔鏡下肝切除術の現状と展望. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 108) 櫻澤信行, 加藤俊二, 木山輝郎, 藤田逸郎, 田尻 孝 : 高齢者に対するESDと当科での工夫. 日本高齢消化器病学会 (第11回), 2008. 7.
- 109) 吉岡正人<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 古川清憲<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 岩本美樹<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院 外科) : 限局型原発性硬化性胆管炎の1切除例. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 110) 柏原 元<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 木内博之<sup>2)</sup>, 山本一仁<sup>2)</sup>, 宮下正夫, 田尻 孝 (1) 多摩永山病院外科, 2) 北村山公立病院外科) : 血中および胆汁中CEA, CA19-9高値を示し他疾患との鑑別に苦慮した直腸癌の1例. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 111) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 廣井 信, 張 一光, 山初和也, 川本聖郎, 田尻 孝 : 巨大膵嚢胞性腫瘍に対する腹腔鏡下尾側膵切除術. 日本膵臓学会大会 (第39回), 2008. 7.
- 112) 木山輝郎, 藤田逸郎, 菅野仁士, 吉行俊郎, 谷 杏彌, 加藤俊二, 田尻 孝 : 胃切除後の代謝 栄養障害 幽門側胃切除の糖代謝に対する影響と体重変化. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 113) 木山輝郎, 藤田逸郎, 吉行俊郎, 菅野仁士, 谷 杏彌, 加藤俊二, 田尻 孝 : 食事摂取・投与熱量調査からみた集中治療室の栄養管理の特徴. 日本外科代謝栄養学会学術集会 (第45回), 2008. 7.
- 114) 小泉岐博<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 高橋 健, 鈴木英之, 田尻 孝 (1) 坪井病院外科) : 回腸人工肛門造設後に術前化学放射線療法を施行した直腸癌の2例. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 115) 川東 豊, 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 谷合信彦, 横室茂樹, 吉田 寛, 有馬保生, 田尻 孝 : 先天性胆道拡張症における腹腔鏡下手術. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 116) 山初和也, 内田英二, 相本隆幸, 高橋吾郎, 吉田 寛, 廣井 信, 土屋喜一, 中村慶春, 田尻 孝 : 左腎細胞癌術後膵転移症例における外科的治療の1例. 日本膵臓学会大会 (第39回), 2008. 7.

- 117) 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (武蔵小杉病院消化器病センター) : 2期的に切除した胃癌穿孔の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第300回), 2008. 7.
- 118) 石田麻里子<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 中村慶春, 田尻 孝, 渋谷哲男<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 大宮医師会市民病院外科) : 経十二指腸の乳頭切除を施行し得たファーター乳頭癌の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第300回), 2008. 7.
- 119) 菅野仁士, 木山輝郎, 藤田逸郎, 加藤俊二, 吉行俊郎, 田尻 孝 : ラット胃バンディングモデルにおける食餌形態による術後管理. 日本外科代謝栄養学会学術集会 (第45回), 2008. 7.
- 120) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 廣井 信, 張 一光, 川本聖郎, 山初和也, 宮本正章<sup>1)</sup>, 田畑康彦<sup>2)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 内科, <sup>2)</sup> 京都大学再生医科研究生体材料学) : bFGF含浸ゼラチンハイドロゲルを用いた膵消化管吻合モデルの経時的検討. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 121) 菅 隼人, 鈴木英之, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 佐々木順平, 古川清憲<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科) : 5FUとCDDPを併用した術前化学放射線療法を行った下部直腸腺癌症例の検討. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 122) 松本智司, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 櫻澤信行, 佐々木順平, 中村慶春, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院 外科) : 脾湾曲部腫瘍に対する腹腔鏡下結腸切除術の工夫. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 123) 大川敬一, 宮下正夫, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村 務, 土屋喜一, 赤城一郎, 田尻 孝, 古川清憲<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院 外科, <sup>2)</sup> 付属病院 放射線科) : 食道癌肺転移に対するCTガイド下肺RFA (ラジオ波焼灼術) の治療経験. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 124) 佐々木順平, 松本智司, 鈴木英之, 野村 務, 菅 隼人, 鶴田宏之, 中村慶春, 秋谷行宏, 櫻澤信行, 田尻 孝 : 教育機関における腹腔鏡下虫垂切除術. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 125) 山初和也, 中村慶春, 野村 務, 松本智司, 秋谷行宏, 内田英二, 田尻 孝 : 腹壁瘻痕ヘルニアに対する腹腔鏡下ヘルニア修復術4例の検討. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 126) 赤城一郎, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 高橋 健, 張 一光, 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, 牛島俊和<sup>2)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 第1解剖, <sup>2)</sup> 国立がんセンター研究所発がん研究部) : 食道扁平上皮癌におけるPIK3CA遺伝子解析. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 127) 川本聖郎, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 廣井 信, 張 一光, 山初和也, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 第2病理) : 膵癌におけるNestinの発現の検討. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 128) 菅野仁士, 木山輝郎, 藤田逸郎, 加藤俊二, 吉行俊郎, 田尻 孝 : 胃癌手術におけるSurgical Site Infection 予防 : 切開層SSIを中心に. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 129) 高橋吾郎, 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 山初和也, 重原健吾, 川本聖郎, 田尻 孝 : 腹腔鏡下脾臓・脾動脈静脈温存脾体尾部切除術を施行した症候性漿液性嚢胞腺腫の1例. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 130) 宮本昌之<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下晃<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院 外科) : 当科における再発肝細胞癌に対する集学的治療のstrategy. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 131) 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院 外科) : ソケイヘルニア修復手術における外科医習熟度の検討. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 132) 横山 正<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 松田明



- 久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 外科): 当施設における膵頭十二指腸切除後のドレーン管理: クリニカルパスを目指して. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 133) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 細根勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 外科, <sup>2)</sup> 同 消化器科): 再発性の治療方針: メシル酸イマチニブ導入の意義. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 134) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 外科): 男性患者における手術侵襲後の合併症とアディポカイン・性ホルモンの関連. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 135) 松下 晃<sup>1)</sup>, 川本聖郎, 中村慶春, 相本隆幸, 横山 正<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 内田英二, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学病理): Neupilin-1の膵癌における生物学的意義, そのintegrin beta1との関連について. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 136) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 高橋 健, 赤城一郎, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 坪井病院外科): 拇指末節骨に骨転移を来した原発性食道癌の1例. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 137) 勝田美和子<sup>1, 2)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 古川清憲<sup>2)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 吉岡正人<sup>2)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 坪井病院外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院外科): 胃切除後30年目に残胃癌により輸入脚症候群を呈した1例. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 138) 小峯 修<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 徳永昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター): 当科における切除不能・再発食道癌に対するDCF療法の治療経験. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 139) 千原直人<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター): 大腸癌細胞株のCybridによる抗癌剤感受性とミトコンドリアDNA体細胞変異. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 140) 尾形昌男<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 渡辺正則<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>2)</sup>, 徳永昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 大宮医師会市民病院外科): 術後7年目に骨転移を発症した若年性胃癌の1例. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 141) 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 木山輝郎, 菅野仁士, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター): TS-1による胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性試験の検討. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 142) 坊 英樹<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター): 当科における腹腔鏡補助下噴門側胃切除術. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 143) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>2)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>3)</sup>, 徳永昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学老人病研究所, <sup>3)</sup> 大宮医師会市民病院外科): 膵臓癌細胞の抗癌剤耐性とミトコンドリアDNA体細胞変異の関連. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 144) 吉野雅則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター): 当院における外科医主導の大腸癌化学療法. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 145) 星野有哉<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 塙 秀暁<sup>1)</sup>, 尾崎卓司<sup>1)</sup>, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 近藤恭司<sup>1)</sup>, 徳永昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター): 肝細胞癌切除症例の補助療法の検討. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 146) 佐藤精一<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 塙 秀暁<sup>1)</sup>, 二宮理貴<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター): 成人単径ヘルニア嵌頓症例の検討. 日本消化器外科学会



総会（第63回），2008. 7.

- 147) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 張 一光, 川本聖郎, 山初和也, 田尻 孝: 通常型膵管癌の術前診断におけるMR1・T2強調画像の有用性. 日本膵臓学会大会（第39回）, 2008. 7.
- 148) 張 一光, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 中澤南堂<sup>1)</sup>, 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 川本聖郎, 山初和也, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝（<sup>1)</sup>第2病理）: 膵癌の静脈侵及び肝転移におけるKGF, KGF receptor（KGFR）とMMP-9の関与. 日本膵臓学会大会（第39回）, 2008. 7.
- 149) 川本聖郎, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 廣井 信, 張 一光, 山初和也, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 小野ゆり<sup>1)</sup>, 山本哲志<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝（<sup>1)</sup>第2病理）: 膵癌におけるNestinの発現と浸潤との関連性. 日本膵臓学会大会（第39回）, 2008. 7.
- 150) 上田純志, 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 廣井 信, 張 一光, 山初和也, 川本聖郎, 田尻 孝: 腹腔鏡下脾臓・脾動脈温存膵体尾部切除術にて切除しえた膵体部インスリノーマの1例. 日本膵臓学会大会（第39回）, 2008. 7.
- 151) 横山 正<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 杉浦 篤<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 内田英二, 田尻 孝（<sup>1)</sup>多摩永山病院外科）: 進行膵癌におけるゲムシタピン（GEM）/カベシタピン（CAP）併用療法の検討: 第2報. 日本膵臓学会大会（第39回）, 2008. 7.
- 152) 松下 晃<sup>1)</sup>, 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 川本聖郎, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝, その他1名（<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>日本医科大学第2病理）: ヒト膵癌におけるNeuropilin-1とc-Met, HGFの関連について. 日本膵臓学会大会（第39回）, 2008. 7.
- 153) 石渡俊行<sup>1)</sup>, 張 一光, 川本聖郎, 山本哲志<sup>1)</sup>, 川原清子<sup>1)</sup>, 手塚 潔<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>1)</sup>, 中澤南堂<sup>1)</sup>, 内田英二, 田尻 孝, 内藤善哉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>第2病理）: 膵臓癌におけるFibroblast growth factor receptor（FGFR）-2の発現と役割の検討. 日本膵臓学会大会（第39回）, 2008. 7.
- 154) 野村 聡<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>2)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>2)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝（<sup>1)</sup>武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup>大宮医師会市民病院外科）: 術前に組織型を指摘し得た退形成性膵癌の1例. 日本膵臓学会大会（第39回）, 2008. 7.
- 155) 川本聖郎, 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 廣井 信, 張 一光, 山初和也, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝（<sup>1)</sup>第2病理）: 膵炎を契機に発見されたStageI膵腺扁平上皮癌の1例. 日本膵臓学会大会（第39回）, 2008. 7.
- 156) 山下直行<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 田尻 孝（<sup>1)</sup>坪井病院 外科）: 胃癌非根治切除に対する合併切除の適応. 日本消化器病学会東北支部例会（第185回）, 2008. 7.
- 157) 山下直行<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 小澤俊文<sup>2)</sup>, 和知栄子<sup>3)</sup>, 田尻 孝（<sup>1)</sup>坪井病院 外科, <sup>2)</sup>同内科, <sup>3)</sup>同病理）: StageIV胃癌の再発切除の適応決定に腹腔鏡が有用であった1例. 日本消化器内視鏡学会東北支部例会（第141回）, 2008. 7.
- 158) 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 田中宣威, 牧野浩司, 田尻 孝（<sup>1)</sup>千葉北総病院 外科）: 肺繊維症を合併した超高齢者の胃穿孔に対して大網充填施行し, 術後の生検で胃癌穿孔と診断された1例. 潰瘍性病態研究会フォーラム（第17回）, 2008. 8.
- 159) 山初和也, 加藤俊二, 松倉則夫, 菅野仁士, 奥田武志, 藤田逸郎, 木山輝郎, 田尻 孝: 十二指腸潰瘍穿孔治療症例における胃粘膜生検でのUpdated Sydney Systemによる*H. pylori*感染評価法の問題点: 穿孔治療に使われた抗生物質およびPPIの影響. 潰瘍性病態研究会フォーラム（第17回）, 2008. 8.
- 160) 丸山 弘<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 杉浦 篤<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 田尻 孝, その他1名（<sup>1)</sup>多摩永山病

- 院外科)：十二指腸潰瘍穿孔に対する手術症例の検討。潰瘍性病態研究会フォーラム(第17回), 2008. 8.
- 161) 二神生爾<sup>1)</sup>, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 堀江 茜<sup>1)</sup>, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 梅沢まりこ<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 加藤俊二, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 消化器内科)：胃粘膜防御機構におけるMCF-刺激と間葉系細胞由来COX-2発現の検討。潰瘍性病態研究会フォーラム(第17回), 2008. 8.
- 162) 坊 英樹<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター)：難治性潰瘍とカンジダ。潰瘍性病態研究会フォーラム(第17回), 2008. 8.
- 163) 井内亜美<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 沖野哲也<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 田尻 孝, その他6名<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科, <sup>2)</sup> 同病理部)：後腹膜原発extragastrointestinal stromal tumor (EGIST) の1例。日本消化器病学会関東支部例会(第301回), 2008. 9.
- 164) 柳 健<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科)：閉鎖孔ヘルニアかん頓による小腸穿孔に対する腹腔鏡補助下手術の1例。日本内視鏡外科学会総会(第21回), 2008. 9.
- 165) 牧野浩司<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 横井公良<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 野村 務, 大川敬一, 土屋喜一, 萩原信敏, 田尻 孝, その他3名<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科)：当院における胸腔鏡補助下食道癌手術。日本内視鏡外科学会総会(第21回), 2008. 9.
- 166) 岩本美樹<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 成毛育恵<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科, <sup>2)</sup> 同 看護部)：当科におけるNO乳癌に対するセンチネルリンパ節生検の検討。日本乳癌学会学術総会(第16回), 2008. 9.
- 167) 柳原恵子, 飯田信也, 野口智子, 古川清憲, 田尻 孝, 村上隆介<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 放射線科, <sup>2)</sup> 病理部)：乳腺カルチノイド腫瘍の特徴。日本乳癌学会学術総会(第16回), 2008. 9.
- 168) 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 岩本美樹<sup>1)</sup>, 井内亜美<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科)：MRI, PET-CTで乳房内腫瘍を検出し乳房温存術を行った潜在性乳癌の1例。日本乳癌学会学術総会(第16回), 2008. 9.
- 169) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 廣井 信, 山初和也, 川本聖郎, 野村 務, 横室茂樹, 吉田 寛, 有馬保生, 田尻 孝)：腹腔鏡下尾側膵切除術。日本内視鏡外科学会総会(第21回), 2008. 9.
- 170) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 廣井 信, 山初和也, 川本聖郎, 野村 務, 横室茂樹, 吉田 寛, 有馬保生, 田尻 孝)：腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術。日本内視鏡外科学会総会(第21回), 2008. 9.
- 171) 中村慶春, 野村 務, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 廣井 信, 山初和也, 川本聖郎, 上田純志, 田尻孝)：腹腔鏡下尾側膵切除術式の実際。日本消化器病学会関東支部例会(第301回), 2008. 9.
- 172) 飯田信也, 柳原恵子, 岩崎玲子, 栗田智子, 村上隆介<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>2)</sup>, 古川清憲<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 放射線科, <sup>2)</sup> 付属病院病理部, <sup>3)</sup> 千葉北総病院外科)：当科における併用法センチネルリンパ節生検の検証。日本乳癌学会学術総会(第16回), 2008. 9.
- 173) 木山輝郎, 藤田逸郎, 菅野仁士, 谷 杏彌, 吉行俊郎, 加藤俊二, 田尻 孝)：早期胃癌に対する腹腔鏡補助下胃切除の成績の検討。日本内視鏡外科学会総会(第21回), 2008. 9.
- 174) 坂東功一, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 水口義昭, 柿沼大輔, 神田知洋, 田尻孝)：肝硬変合併症例に対する腹腔鏡下肝切除術の有用性。日本内視鏡外科学会総会(第21回), 2008. 9.
- 175) 坂東功一, 吉田 寛, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦, 松本智司, 峯田 章, 平方敦史<sup>1)</sup>, 川野陽一, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 神田知洋, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 千葉北総病院外科)：腹腔鏡下肝切除術におけるデバイス使用の工夫。肝臓内視鏡外科研究会(第2回), 2008. 9.
- 176) 横山 正<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 外科)：HER-2陽性乳癌におけるTrastuzumab+Paclitaxel+Capecitabineを用いた術前化学療法(HXP療法)の有用性。日本

乳癌学会学術総会（第16回），2008. 9.

- 177) 山田岳史<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，岩本美樹<sup>1)</sup>，井内亜美<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（千葉北総病院 外科）：センチネルリンパ節生検を施行した若年者線維腺腫内癌の1例. 日本乳癌学会学術総会（第16回），2008. 9.
- 178) 菅 隼人，鈴木英之，鶴田宏之，松本智司，秋谷行宏，櫻澤信行，佐々木順平，寺西宣央，古川清憲<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（千葉北総病院外科）：蛋白漏出性胃腸症を伴い胃・大腸の多重癌を伴う多発性大腸腺腫に対しESDと腹腔鏡補助下手術で治療した1例. 日本内視鏡外科学会総会（第21回），2008. 9.
- 179) 松本智司，鈴木英之，菅 隼人，鶴田宏之，中村慶春，秋谷行宏，佐々木順平，田尻 孝：脾彎曲部結腸癌に対する鏡視下手術. 日本内視鏡外科学会総会（第21回），2008. 9.
- 180) 菅野仁士，木山輝郎，藤田逸郎，加藤俊二，吉行俊郎，田尻 孝：胃癌に対する腹腔鏡下手術における Surgical Site Infection 予防：表層・深部切開層SSIを中心に. 日本内視鏡外科学会総会（第21回），2008. 9.
- 181) 宮本昌之<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，柳 健<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，杉浦篤<sup>1)</sup>，松田明久<sup>1)</sup>，西 佳史<sup>1)</sup>，新井洋紀<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（多摩永山病院外科）：術中に発見された総胆管結石に対する腹腔鏡下経胆嚢管的乳頭バルーン拡張術（L-TCPBD）の有効性と適応. 日本内視鏡外科学会総会（第21回），2008. 9.
- 182) 松谷 毅<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，杉浦 篤<sup>1)</sup>，柳 健<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，松田明久<sup>1)</sup>，柏原 元<sup>1)</sup>，西 佳史<sup>1)</sup>，新井洋紀<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（多摩永山病院外科）：巨大脾嚢胞に対し脾臓機能温存腹腔鏡下手術を施行した1例. 日本内視鏡外科学会総会（第21回），2008. 9.
- 183) 水谷 聡<sup>1)</sup>，中村慶春，前島顕太郎<sup>1)</sup>，千原直人<sup>1)</sup>，小峯 修<sup>1)</sup>，吉野雅則<sup>1)</sup>，星野有哉<sup>1)</sup>，塩谷 猛<sup>1)</sup>，尾形昌男<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，渋谷哲男<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（武蔵小杉病院消化器病センター）：完全腹腔鏡下に切除し得た巨大MCNの1例. 日本内視鏡外科学会総会（第21回），2008. 9.
- 184) 坊 英樹<sup>1)</sup>，前島顕太郎<sup>1)</sup>，小峯 修<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（武蔵小杉病院消化器病センター）：当科における腹腔鏡補助下噴門側胃切除術. 日本内視鏡外科学会総会（第21回），2008. 9.
- 185) 尾形昌男<sup>1)</sup>，吉野雅則<sup>1)</sup>，小泉正樹<sup>1)</sup>，近藤恭司<sup>1)</sup>，尾崎卓司<sup>1)</sup>，前島顕太郎<sup>1)</sup>，杠葉 良<sup>1)</sup>，松信哲朗<sup>1)</sup>，千原直人<sup>1)</sup>，水谷 聡<sup>1)</sup>，小峯 修<sup>1)</sup>，坊 英樹<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，田尻 孝，その他2名<sup>1)</sup>（武蔵小杉病院消化器病センター）：腹腔鏡下大腸切除例の当科における検討. 日本内視鏡外科学会総会（第21回），2008. 9.
- 186) 高橋吾郎，櫻澤信行，菅野仁士，赤城一郎，大川敬一，藤田逸郎，吉行俊郎，木山輝郎，加藤俊二，宮下正夫，田尻 孝：胃癌術後に発症した腸軸捻転症の1例. 日本消化器病学会関東支部例会（第301回），2008. 9.
- 187) 新井洋紀<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，松田明久<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，杉浦篤<sup>1)</sup>，柳 健<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，西 佳史<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>2)</sup>，前田昭太郎<sup>2)</sup>，田尻 孝，その他1名<sup>1)</sup>（多摩永山病院外科，<sup>2)</sup> 同 病理部）：直腸子宮内膜症の2例. 日本消化器病学会関東支部例会（第301回），2008. 9.
- 188) 若林秀幸<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，杉浦篤<sup>1)</sup>，柳 健<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，松田明久<sup>1)</sup>，西 佳史<sup>1)</sup>，新井洋紀<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（多摩永山病院外科）：十二指腸乳頭部癌術後の多発肝転移，リンパ節転移に対してgemcitabineによる化学療法が奏功した1例. 日本消化器病学会関東支部例会（第301回），2008. 9.
- 189) 三島圭介<sup>1)</sup>，小峯 修<sup>1)</sup>，前島顕太郎<sup>1)</sup>，山岸征嗣<sup>1)</sup>，豊田哲鎬<sup>1)</sup>，野村 聡<sup>1)</sup>，水谷 聡<sup>1)</sup>，吉野雅則<sup>1)</sup>，坊 英樹<sup>1)</sup>，尾形昌男<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（武蔵小杉病院消化器病センター）：内視鏡的粘膜切除術・放射線治療施行9年後に同部位より発生したと思われる食道未分化癌の1例. 日本消化器病学会関東支部例会（第301回），2008. 9.
- 190) 黒田誠司<sup>1)</sup>，水谷 聡<sup>1)</sup>，山岸征嗣<sup>1)</sup>，野村 聡<sup>1)</sup>，豊田哲鎬<sup>1)</sup>，前島顕太郎<sup>1)</sup>，小峯 修<sup>1)</sup>，吉野雅則<sup>1)</sup>，塩谷 猛<sup>1)</sup>，尾形昌男<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，石井英昭<sup>2)</sup>，渋谷哲男<sup>3)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（武蔵小杉病院消化器病セ



- ンター, <sup>2)</sup> 同 病理部, <sup>3)</sup> 大宮医師会市民病院外科): (TS-I+GEM) 化学療法により4年生存中の切除不能膵癌の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第301回), 2008. 9.
- 191) 関 奈紀, 廣井 信, 川本聖郎, 中村慶春, 相本隆幸, 内田英二, 田尻 孝: 術中胆道造影にて膵・胆管合流部の異常を指摘し得た3例. 外科集談会 (第810回), 2008. 9.
- 192) 川東 豊, 三嶋拓也<sup>1)</sup>, 水口義昭, 有馬保生, 横室茂樹, 清水哲也, 重原健吾, 神田知洋, 新井政男, 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 第1解剖): ヒト正常胆管上皮細胞と肝内胆管癌細胞株における microRNA の発現プロファイル解析. 日本胆道学会学術集会 (第44回), 2008. 9.
- 193) 新井政男, 古谷政一<sup>1)</sup>, 清水康仁<sup>1)</sup>, 沖野哲也<sup>1)</sup>, 有馬保生, 横室茂樹, 水口義昭, 清水哲也, 川東 豊, 重原健吾, 神田知洋, 藤田俊郎, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 筑西市民病院外科): 肝膿瘍ドレナージカテーテルの断裂により肝内遺残となった1例. 日本胆道学会学術集会 (第44回), 2008. 9.
- 194) 神田知洋, 有馬保生, 横室茂樹, 水口義昭, 清水哲也, 川東 豊, 重原健吾, 新井政男, 田尻 孝: 胆嚢結石総胆管結石に対する術中内視鏡的結石除去術の有用性. 日本胆道学会学術集会 (第44回), 2008. 9.
- 195) 横山 正<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 杉浦 篤<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 内田英二, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科): StageIVb胆道癌における治療戦略: サルベージ手術+術後化学療法は有用か?. 日本胆道学会学術集会 (第44回), 2008. 9.
- 196) 佐々木順平, 松本智司, 菅 隼人, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久, 寺西宣央, 鈴木英之, 田尻 孝: 腹腔鏡補助下結腸切除術後の腸管運動の実際. 日本手術医学会総会 (第30回), 2008. 9.
- 197) 菅野仁士, 木山輝郎, 藤田逸郎, 加藤俊二, 吉行俊郎, 田尻 孝: 胃癌手術における Surgical Site Infection 予防策. 日本手術医学会総会 (第30回), 2008. 9.
- 198) 山田岳史<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 沖野哲也<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田尻 孝, その他1名<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科): 大腸癌化学療法における効果予測: 5FU代謝関連酵素の活性値から5FUのAUCIR50が予測可能か?. 日本消化器病学会大会 (第50回), 2008. 10.
- 199) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 古川清憲<sup>2)</sup>, 横井公良<sup>2)</sup>, 瀬谷知子<sup>2)</sup>, 真々田裕宏<sup>2)</sup>, 堀場光二<sup>2)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 白川 毅<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>2)</sup>, 清水哲也<sup>2)</sup>, 田尻 孝, 大秋美治<sup>3)</sup>, その他1名<sup>(1)</sup> 坪井病院 外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院 外科, <sup>3)</sup> 同 病理): 当院におけるStageIII結腸癌症例の検討. 日本消化器病学会大会 (第50回), 2008. 10.
- 200) 菅 隼人, 鈴木英之, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 佐々木順平, 古川清憲<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科): 下部直腸癌に対する5-FUとCDDP併用術前化学放射線療法の功罪. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第63回), 2008. 10.
- 201) 松本智司, 鈴木英之, 吉田 寛, 谷合信彦, 菅 隼人, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 坂東功一, 柿沼大輔, 佐々木順平, 田尻 孝: 大腸癌多発肝転移に対し, 経皮経肝の門脈塞栓術を用いた新たな治療戦略. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第63回), 2008. 10.
- 202) 鈴木英之, 古川清憲<sup>1)</sup>, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 進士誠一<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 寺西宣央, 佐々木順平, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院 外科): 肥満症例に対する腹腔鏡下大腸手術の成績. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第63回), 2008. 10.
- 203) 山田岳史<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科): 大腸癌におけるCPT-11, 5FU, LV併用療法の効果: in vitroにおける投与スケジュールによる抗腫瘍効果の違い. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第63回), 2008. 10.
- 204) 進士誠一<sup>3)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科, <sup>2)</sup> 同 病理部, <sup>3)</sup> 坪井病院 外科): 大腸内視鏡にて診断し得た直腸癌術後局所再発回腸浸潤による腸閉塞症の1例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第63回), 2008. 10.

- 205) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 外科,<sup>2)</sup> 同 病理): 肺転移を有する大腸癌における EMMPRIN, MMP-9 と type IV collagen の発現. 日本癌学会学術総会 (第67回), 2008. 10.
- 206) 松本智司, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 佐々木順平, 田尻 孝: 脾彎曲部結腸癌に対する鏡視下手術の工夫. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第63回), 2008. 10.
- 207) 佐々木順平, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久, 寺西宣央, 田尻 孝: 大腸癌術後多発肺転移に対する 3rd ライン化学療法として bevacitumab を使用した1例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第63回), 2008. 10.
- 208) 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 青笹孝文<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 大宮医師会市民病院外科,<sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): Kugel 法による鼠径ヘルニア術後にパッチによる大腸穿通をきたした1例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第63回), 2008. 10.
- 209) 加藤俊二, 松倉則夫, 菅野仁士, 奥田武志, 藤田逸郎, 木山輝郎, 田尻 孝: 十二指腸潰瘍穿孔治療症例における胃粘膜生検での Updated Sydney System による *H. pylori* 感染評価法の問題点: 穿孔治療に使われた抗生物質およびPPIの影響. 日本消化器病学会大会 (第50回), 2008. 10.
- 210) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 廣井 信, 川本聖郎, 山初和也, 田尻 孝: MRI・T2強調画像に注目した通常型膵管癌の術前診断. 日本消化器病学会大会 (第50回), 2008. 10.
- 211) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科): 性差からみた食道癌手術後の生体防御反応と術前ステロイド投与の影響. 日本消化器病学会大会 (第50回), 2008. 10.
- 212) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 杉浦 篤<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>2)</sup>, 田尻 孝, その他1名<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科,<sup>2)</sup> 同 消化器科): mFOLFOX6法を施行した進行・再発大腸癌腹膜転移症例の検討. 日本消化器病学会大会 (第50回), 2008. 10.
- 213) 近藤恭司<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター): 認知症患者に対する消化器癌治療. 日本消化器病学会大会 (第50回), 2008. 10.
- 214) 山下直行<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 菅野仁士, 宮下正夫, 和知栄子<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 坪井病院外科,<sup>2)</sup> 同 病理): 門脈系の腫瘍塞栓を伴う胃癌の3例. 日本消化器病学会大会 (第50回), 2008. 10.
- 215) 加藤俊二, 菅野仁士, 藤田逸郎, 木山輝郎, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 消化器内科): 経鼻内視鏡検査で診断が困難であった Borrmann4 型胃癌の2例: スクリーニングとしての経鼻内視鏡の問題点. 日本消化器内視鏡学会総会 (第76回), 2008. 10.
- 216) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 廣井 信, 川本聖郎, 山初和也, 田尻 孝, 露口利夫<sup>1)</sup> (1) 千葉大附属病院消化器内科): 内視鏡的十二指腸乳頭切開術後の傍乳頭部十二指腸穿孔に対し早期手術を選択した1例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第76回), 2008. 10.
- 217) 櫻澤信行, 加藤俊二, 木山輝郎, 藤田逸郎, 高田英志, 坂田義則, 高橋吾郎, 関 奈紀, 馬越通信, 山下直行<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>2)</sup>, 宮下正夫, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 坪井病院外科,<sup>2)</sup> 日本医科大学第3内科): 胃粘膜病変に対するループ付き細径スプリングによるカウンタートラクション法. 日本消化器内視鏡学会総会 (第76回), 2008. 10.
- 218) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 小林由子<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科,<sup>2)</sup> 同 放射線科): Docetaxel/5-FU/CDGP 併用化学放射線療法にてCRが得られた高齢者進行期胸部食道癌の1例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第76回), 2008. 10.



- 219) 坊 英樹<sup>1)</sup>, 近藤恭司<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター) : 認知症患者における上部消化管出血. 日本消化器内視鏡学会総会 (第76回), 2008. 10.
- 220) 山下直行<sup>1)</sup>, 櫻澤信行, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 小澤俊文<sup>2)</sup>, 宮下正夫, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 坪井病院外科, <sup>2)</sup> 同 内科) : 23年前の食道手術, 縫合不全後の狭窄, 屈曲に対し粘膜切開併用の内視鏡拡張にて症状を改善しえた1例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第76回), 2008. 10.
- 221) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 櫻澤信行, 高橋 健, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 坪井病院外科) : 空腸瘻より逆行性挿入した胃管チューブによる経管栄養の1経験例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第76回), 2008. 10.
- 222) 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 張 一光, 川本聖郎, 山初和也, 廣井 信, 田尻 孝, 島田 隆<sup>1)</sup> (1) 生化学) : イメージングシステムを用いたハムスター膵がんモデル. 日本癌学会学術総会 (第67回), 2008. 10.
- 223) 松下 晃<sup>1)</sup>, 内田英二, 中村慶春, 相本隆幸, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 外科) : 膵癌においてNeuropilin-1はintegrin beta1との関連し, その増殖, 生存, 浸潤に関与する. 日本癌学会学術総会 (第67回), 2008. 10.
- 224) 内藤善哉<sup>1)</sup>, 川本聖郎, 張 一光, 山本哲志<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>1)</sup>, 小野ゆり<sup>1)</sup>, 内田英二, 田尻 孝, 石渡俊行<sup>1)</sup> (1) 第2病理) : 膵臓癌細胞の遊走, 浸潤におけるネスチンの役割の検討. 日本癌学会学術総会 (第67回), 2008. 10.
- 225) 石渡俊行<sup>1)</sup>, 川本聖郎, 山本哲志<sup>1)</sup>, 張 一光, 松田陽子<sup>1)</sup>, 小野ゆり<sup>1)</sup>, 川原清子<sup>1)</sup>, 河本陽子<sup>1)</sup>, 中澤南堂<sup>1)</sup>, 内田英二, 田尻 孝, 内藤善哉<sup>1)</sup> (1) 第2病理) : 膵臓癌増殖における線維芽細胞増殖因子受容体2IIIcアイソフォームの役割. 日本癌学会学術総会 (第67回), 2008. 10.
- 226) 菅 隼人, 鈴木英之, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 佐々木順平, 田尻 孝 : 下部直腸癌 (T2) に対しneoCRTを施行後にTEMで局所切除を行った2例. 日本癌治療学会総会 (第46回), 2008. 10.
- 227) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 小林由子<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 同 放射線科) : 切除不能食道扁平上皮癌に対するDocetaxel/5-FU/CDGP併用化学放射線療法を試み. 日本癌治療学会総会 (第46回), 2008. 10.
- 228) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 杉浦 篤<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 飯田信也, 津久井拓<sup>3)</sup>, 田尻 孝, その他2名<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 同 病理部, <sup>3)</sup> 同 消化器科) : 胃癌原発巣・肝転移巣におけるMAGE-A10蛋白・mRNA発現の検討と臨床的意義. 日本癌治療学会総会 (第46回), 2008. 10.
- 229) 山田岳史<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 千葉北総病院外科) : 大腸癌における5-FU/L-OHP併用療法の効果に関する検討. 併用療法は相加的か?. 日本癌治療学会総会 (第46回), 2008. 10.
- 230) 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 木山輝郎, 菅野仁士, 山田岳史<sup>2)</sup>, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 千葉北総病院外科) : 日本医科大学病院におけるS-1による胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験 : 第3報. 日本癌治療学会総会 (第46回), 2008. 10.
- 231) 山下直行<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 藤岡 薫<sup>1)</sup>, 岩波 洋<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 坪井病院外科) : 高度進行胃癌における原発巣切除の適応とその時期. 日本癌治療学会総会 (第46回), 2008. 10.
- 232) 黄川田信允<sup>1)</sup>, 前田美紀<sup>1)</sup>, 松田範子<sup>1)</sup>, 横堀将司<sup>2)</sup>, 白石振一郎<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 木山輝郎, 滝沢隆雄, 田尻 孝, 徳永 昭<sup>3)</sup>, 坂本篤裕<sup>4)</sup> (1) ME部, <sup>2)</sup> 高度救命救急センター, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>4)</sup> 麻酔科) : 急性一酸化炭素中毒の治療症例と治療プロトコルの検討. 日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 (第43回), 2008. 10.
- 233) 秋谷行宏, 鈴木英之, 松本智司, 菅 隼人, 鶴田宏之, 中村慶春, 佐々木順平, 新井政男, 田尻 孝 : 脾彎曲

- 部結腸癌に対する腹腔鏡下手術の工夫．腹腔鏡的治療研究会（第19回），2008．11．
- 234) 井内亜美<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，白川 毅<sup>1)</sup>，山田武史<sup>1)</sup>，進士誠一<sup>1)</sup>，住吉宏樹<sup>1)</sup>，松野邦彦<sup>1)</sup>，岩本美樹<sup>1)</sup>，大秋美治<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（千葉北総病院 外科，<sup>2)</sup> 同 病理）：EBV発現が異なった胃2重癌の1例．日本臨床外科学会総会（第70回），2008．11．
- 235) 山田岳史<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，白川 毅<sup>1)</sup>，工藤秀徳<sup>1)</sup>，沖野哲也<sup>1)</sup>，富樫晃祥<sup>1)</sup>，清水哲也<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（千葉北総病院 外科）：緩和ケアチームの役割：クリニカルパスとマニュアルを整備し，主治医との連携を改善する．日本臨床外科学会総会（第70回），2008．11．
- 236) 白川 毅<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，工藤秀徳<sup>1)</sup>，沖野哲也<sup>1)</sup>，富樫晃祥<sup>1)</sup>，進士誠一<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（千葉北総病院 外科）：当院における早期胃癌治療に対する腹腔鏡補助下幽門側胃切除術の位置づけ．日本臨床外科学会総会（第70回），2008．11．
- 237) 住吉宏樹<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，白川 毅<sup>1)</sup>，工藤秀徳<sup>1)</sup>，沖野哲也<sup>1)</sup>，富樫晃祥<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（千葉北総病院 外科）：当科における再発単径ヘルニアの再発形式と術式の検討．日本臨床外科学会総会（第70回），2008．11．
- 238) 中村慶春，内田英二，野村 務，松本智司，相本隆幸，廣井 信，山初和也，川本聖郎，田尻 孝：腹腔鏡下腓尾側切除術．腹腔鏡的治療研究会（第19回），2008．11．
- 239) 瀬谷知子<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，進士誠一<sup>1)</sup>，白川 毅<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，高橋由至<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，大秋美治<sup>2)</sup>，内藤善哉<sup>3)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（千葉北総病院 外科，<sup>2)</sup> 同 病理，<sup>3)</sup> 第二病理）：肛門類基底細胞癌の1例．日本臨床外科学会総会（第70回），2008．11．
- 240) 岩本美樹<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，白川 毅<sup>1)</sup>，工藤秀徳<sup>1)</sup>，沖野哲也<sup>1)</sup>，富樫晃祥<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（千葉北総病院 外科）：乳癌治療の標準化と個別化：クリニカルパスを用いて．日本臨床外科学会総会（第70回），2008．11．
- 241) 山田岳史<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（千葉北総病院 外科）：クレアチニンクリアランスと術後感染症予防薬の投与量．日本外科感染症学会総会（第21回），2008．11．
- 242) 岩本美樹<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，白川毅<sup>1)</sup>，工藤秀徳<sup>1)</sup>，沖野哲也<sup>1)</sup>，富樫晃祥<sup>1)</sup>，清水哲也<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（千葉北総病院 外科）：腹壁癭痕ヘルニア嵌頓により腹壁の広範な壊死性筋膜炎を来した症例．日本外科感染症学会総会（第21回），2008．11．
- 243) 坂東功一，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，松本智司，平方敦史，川野陽一，柿沼大輔，神田知洋，田尻 孝：腹腔鏡下肝切除術における肝切離の工夫．日本臨床外科学会総会（第70回），2008．11．
- 244) 丸山 弘<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，松田明久<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（多摩永山病院 外科）：皮下埋め込み型中心静脈カテーテルポートによる化膿性胸鎖関節炎の1例．日本外科感染症学会総会（第21回），2008．11．
- 245) 渡辺昌則<sup>1)</sup>，小峯 修<sup>1)</sup>，小泉正樹<sup>1)</sup>，塙 秀暁<sup>1)</sup>，前島頭太郎<sup>1)</sup>，水谷 聡<sup>1)</sup>，吉野雅則<sup>1)</sup>，坊 英樹<sup>1)</sup>，尾形昌男<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（武蔵小杉病院消化器病センター）：当科における結腸手術のSSI危険因子．日本外科感染症学会総会（第21回），2008．11．
- 246) 坊 英樹<sup>1)</sup>，豊田哲鎬<sup>1)</sup>，野村 聡<sup>1)</sup>，近藤恭司<sup>1)</sup>，前島頭太郎<sup>1)</sup>，増田剛太郎，小峯 修<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（武蔵小杉病院消化器病センター）：*H. pylori*と胃癌：*H. pylori*感染鳥肌胃炎の検討．胃外科・術後障害研究会（第38回），2008．11．
- 247) 横山 正<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>2)</sup>，細根 勝<sup>2)</sup>，片山博徳<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（多摩永山病院外科，<sup>2)</sup> 同 病

- 理部)：穿刺細胞診材料による遺伝子学的検索が治療方針決定に有用であったHER-2陽性授乳期乳癌の1例．日本臨床細胞学会秋期大会(第47回)，2008．11．
- 248) 佐々木順平，鈴木英之，菅 隼人，松本智司，鶴田宏之，中村慶春，秋谷行宏，新井政男，田尻 孝：腹腔鏡補助下低位前方切除術における手技の工夫．腹腔鏡的治療研究会(第19回)，2008．11．
- 249) 山初和也，中村慶春，内田英二，野村 務，松本智司，相本隆幸，廣井 信，川本聖郎，田尻 孝：先天性胆道拡張症における腹腔鏡下手術．腹腔鏡的治療研究会(第19回)，2008．11．
- 250) 鈴木成治<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，杉浦 篤<sup>1)</sup>，柳 健<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，松田明久<sup>1)</sup>，西 佳史<sup>1)</sup>，新井洋紀<sup>1)</sup>，若林秀幸<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 外科)：mFOLFOX 6法不応進行・再発大腸癌症例の検討．日本臨床外科学会総会(第70回)，2008．11．
- 251) 横山 正<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，杉浦 篤<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，柳 健<sup>1)</sup>，松田明久<sup>1)</sup>，西 佳史<sup>1)</sup>，新井洋紀<sup>1)</sup>，若林秀幸<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 外科)：HER-2陽性進行・再発乳癌における Trastuzumab + Paclitaxel + Capecitabine 三剤併用療法(HXP療法)の検討．日本臨床外科学会総会(第70回)，2008．11．
- 252) 松谷 毅<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，柳 健<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，松田明久<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，杉浦 篤<sup>1)</sup>，西 佳史<sup>1)</sup>，新井洋紀<sup>1)</sup>，若林秀幸<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 外科)：鼠径ヘルニアに対する Prolene Hernia System の Underlay Patch 挿入と展開：術後再発ヘルニアを予防するための工夫．日本臨床外科学会総会(第70回)，2008．11．
- 253) 松谷 毅<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，杉浦 篤<sup>1)</sup>，柳 健<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，松田明久<sup>1)</sup>，西 佳史<sup>1)</sup>，新井洋紀<sup>1)</sup>，若林秀幸<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 外科)：上行結腸癌術後の局所再発に対し modified-FIREFOX 療法が奏効した1例．日本臨床外科学会総会(第70回)，2008．11．
- 254) 松谷 毅<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，杉浦 篤<sup>1)</sup>，柳 健<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，松田明久<sup>1)</sup>，西 佳史<sup>1)</sup>，新井洋紀<sup>1)</sup>，若林秀幸<sup>1)</sup>，小林由子<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 外科，<sup>2)</sup> 同 放射線科)：術後再発食道癌に対する Docetaxel 併用化学療法と化学放射線療法の有効性と安全性．日本臨床外科学会総会(第70回)，2008．11．
- 255) 柳 健<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，杉浦 篤<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，松田明久<sup>1)</sup>，西 佳史<sup>1)</sup>，新井洋紀<sup>1)</sup>，若林秀幸<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 外科)：感染性臍仮性嚢胞を伴った臍粘液性嚢胞腫瘍の1手術例．日本臨床外科学会総会(第70回)，2008．11．
- 256) 松下 晃<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，杉浦 篤<sup>1)</sup>，柳 健<sup>1)</sup>，松田明久<sup>1)</sup>，西 佳史<sup>1)</sup>，新井洋紀<sup>1)</sup>，若林秀幸<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 外科)：横行結腸間膜GIST(EGIST)の1例．日本臨床外科学会総会(第70回)，2008．11．
- 257) 松田明久<sup>1)</sup>，古谷政一<sup>2)</sup>，清水康仁<sup>2)</sup>，沖野哲也<sup>2)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，杉浦 篤<sup>1)</sup>，柳 健<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 外科，<sup>2)</sup> 筑西市民病院外科)：腸閉塞症例に対する Gastrografin の消化管内投与にて尿路系が抽出された1例．日本臨床外科学会総会(第70回)，2008．11．
- 258) 新井洋紀<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，杉浦 篤<sup>1)</sup>，柳 健<sup>1)</sup>，松田明久<sup>1)</sup>，西 佳史<sup>1)</sup>，若林秀幸<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 外科，<sup>2)</sup> 同 病理部)：盲腸癌術後7年目の局所再発を治癒切除し得た1例．日本臨床外科学会総会(第70回)，2008．11．
- 259) 若林秀幸<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，杉浦 篤<sup>1)</sup>，柳 健<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，松田明久<sup>1)</sup>，西 佳史<sup>1)</sup>，新井洋紀<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 外科)：急速進行性の両下肢浮腫・腎不全を合併した胃癌両側腸腰筋浸潤の1例．日本臨床外科学会総会(第70回)，2008．11．

- 260) 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 近藤恭司<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター) : CEA上昇を契機にPETで再発部位を同定, 切除しえた大腸癌術後再発の2症例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 261) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>2)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 大宮医師会市民病院外科) : 膵管空腸粘膜吻合VS膵管完全外瘻. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 262) 飯ヶ谷重来<sup>1)</sup>, 和田由大<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター) : NSAIDs誘発下血により発見された重症糖尿病患者の大腸癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 263) 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 塙 秀暁<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター) : 大腸癌手術におけるSSI危険因子. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 264) 星野有哉<sup>1)</sup>, 中村慶春, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター) : 脾臓および脾動静脈を温存して腹腔鏡下膵体尾側切除術を施行したインスリノーマの1例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 265) 尾形昌男<sup>1)</sup>, 二宮理貴<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 近藤恭司<sup>1)</sup>, 尾碕卓司<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 小峯修<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター) : 右腎直接浸潤を伴い合併切除した上行結腸癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 266) 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>3)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>3)</sup>, 塩谷 猛<sup>3)</sup>, 青笹季文<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 柳本邦雄<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 大宮医師会市民病院外科, <sup>2)</sup> 同 病理部, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター) : 大腸イレウスが初発症状となった膵尾部癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 267) 吉岡正人<sup>1)</sup>, 吉村和泰<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 吉安正行<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 古川清憲<sup>2)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 田尻孝<sup>1)</sup> 博慈会記念総合病院 外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院 外科) : 膵頭十二指腸切除における膵液瘻および動脈性出血を防ぐ工夫. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 268) 松野邦彦<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀之<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 沖野哲也<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院 外科) : 真性多血症に合併した胆石症の1手術例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 269) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 小泉岐博, 高橋 健, 田尻 孝<sup>1)</sup> 坪井病院) : 直腸癌の肝および大動脈周囲リンパ節転移症例に対し術後のFOLFFOX4+bevacizumabが著効した1症例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 270) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 渡邊千香<sup>3)</sup>, 熊田貞子<sup>2)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 小泉岐博, 宮下正夫, 高橋 健, 田尻 孝<sup>1)</sup> 坪井病院 外科, <sup>2)</sup> 同病理) : ウォーターレス法に至るまでの当院の手術時手洗の変遷と現状について. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 271) 山下直行<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 小泉岐博, 進士誠一<sup>1)</sup>, 櫻澤信行, 和知栄子<sup>2)</sup>, 宮下正夫, 田尻 孝<sup>1)</sup> 坪井病院 外科, <sup>2)</sup> 同病理) : 根治切除可能であった術後3年のStageIV胃癌再発の1例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 272) 渡邊睦弥<sup>1)</sup>, 山下直行, 勝田美和子, 小泉岐博, 萩原信敏, 進士誠一, 田淵崇文<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 坪井病院 緩和ケア科, <sup>2)</sup> 東京医大霞ヶ浦病院 外科) : ホスピス専門病院からオンコロジスト・緩和ケアチームへの要望 : 「生きる」しあわせ, 「死ぬ」しあわせ. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 273) 山下直行<sup>1)</sup>, 吉田初雄<sup>2)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 小泉岐博, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 藤岡 薫<sup>1)</sup>, 岩波 洋<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>3)</sup>, 宮下正夫, 加藤俊二, 田尻 孝<sup>1)</sup> 坪井病院 外科, <sup>2)</sup> 今泉西病院 外科, <sup>3)</sup> 志木市立病院 外科) : 噴門側胃切



- 除における迷走神経温存胃前壁筋層縦切開噴門形成術．日本臨床外科学会総会（第70回），2008．11．
- 274) 坂東功一，吉田 寛，真々田裕宏<sup>1)</sup>，谷合信彦，田尻 孝<sup>1)</sup>（千葉北総病院外科）：この症例をどうする：腹腔鏡下切除術における肝切除の工夫．日本肝臓学会東部会（第37回），2008．12．
- 275) 吉岡正人<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>2)</sup>，横井公良<sup>2)</sup>，古川清憲<sup>2)</sup>，田中宣威<sup>2)</sup>，吉田 寛，田尻 孝<sup>1)</sup>（博慈会記念総合病院外科，<sup>2)</sup>千葉北総病院外科）：小腸浸潤，転移を来した大腸癌肝転移の1例．日本肝臓学会東部会（第37回），2008．12．
- 276) 関 奈紀，坂東功一，平方敦史，高橋吾郎，水口義昭，神田知洋，川東 豊，横室茂樹，吉田 寛，有馬保生，田尻 孝：急性胆嚢炎術後短期間に急激な増大を認めた肝内胆管癌の1例．日本肝臓学会東部会（第37回），2008．12．
- 277) 高橋吾郎，吉田 寛，真々田裕宏<sup>1)</sup>，谷合信彦，坂東功一，水口義昭，柿沼大輔，神田知洋，宮下正夫，田尻 孝<sup>1)</sup>（千葉北総病院外科）：画像的に稀な形態を呈していた出血性肝嚢胞の1例．日本肝臓学会東部会（第37回），2008．12．
- 278) 菅野仁士，木山輝郎，藤田逸郎，谷 杏彌，加藤俊二，吉行俊郎，田尻 孝：腹腔鏡下胃癌手術における Surgical Site Infection 予防：切開層SSIを中心に．日本創傷治療学会（第38回），2008．12．
- 279) 坊 英樹<sup>1)</sup>，野村 聡<sup>1)</sup>，小泉正樹<sup>1)</sup>，尾形昌男<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（武蔵小杉病院消化器病センター）：消化器癌手術における手術部位感染防止に対する腹壁縫合の影響について．日本創傷治療学会（第38回），2008．12．
- 280) 上田純志，鈴木英之，菅 隼人，鶴田宏之，松本智司，秋谷行宏，小泉岐博，佐々木順平，新井政男，堀田正啓，田尻 孝：S状結腸癌を契機に55年後に診断されたガーゼオーマの1例．日本消化器病学会関東支部例会（第302回），2008．12．
- 281) 和田由大<sup>1)</sup>，水谷 聡<sup>1)</sup>，星野有哉<sup>1)</sup>，塩谷 猛<sup>1)</sup>，山岸征嗣<sup>1)</sup>，埜 秀暁<sup>1)</sup>，佐藤精一<sup>1)</sup>，二宮理貴<sup>1)</sup>，前島顕太郎<sup>1)</sup>，吉野雅則<sup>1)</sup>，小峯 修<sup>1)</sup>，尾形昌男<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，田尻 孝，その他2名<sup>1)</sup>（武蔵小杉病院消化器病センター）：先天性胆道拡張症4例の手術経験．日本消化器病学会関東支部例会（第302回），2008．12．
- 282) 高橋吾郎，野村 務，宮下正夫，鈴木英之，木山輝郎，牧野浩司，大川敬一，赤城一郎，内田英二，田尻 孝：食道，胃，直腸の同時性3重癌に対し二期的に切除を行った1例．外科集談会（第811回），2008．12．
- 283) 三浦克洋<sup>1)</sup>，山岸征嗣<sup>1)</sup>，尾崎卓司<sup>1)</sup>，尾形昌男<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（武蔵小杉病院消化器病センター）：腹痛が軽微であった高齢者ヘルニア嵌頓2手術例．外科集談会（第811回），2008．12．
- 284) 水谷 聡<sup>1)</sup>，塩谷 猛<sup>1)</sup>，星野有哉<sup>1)</sup>，山岸征嗣<sup>1)</sup>，豊田哲鎬<sup>1)</sup>，野村 聡<sup>1)</sup>，埜 秀暁<sup>1)</sup>，前島顕太郎<sup>1)</sup>，吉野雅則<sup>1)</sup>，小峯 修<sup>1)</sup>，尾形昌男<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，渋谷哲男<sup>2)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（武蔵小杉病院消化器病センター，<sup>2)</sup>大宮医師会市民病院外科）：肝内結石が原因で遅発性胆汁漏を来した肝切除の1例．日本肝臓学会東部会（第37回），2008．12．
- 285) 関 奈紀，横室茂樹，吉田 寛，神田知洋，川東 豊，柿沼大輔，内田英二，田尻 孝，山口英宣<sup>1)</sup>，福永毅<sup>1)</sup>，村田 智<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>放射線科）：左胃動脈瘤破裂による腹腔内出血に対しn-butyl-cyanoacrylate止血術にて治療した1例．日本消化器病学会関東支部例会（第303回），2009．2．
- 286) 山田岳史<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（千葉北総病院 外科）：胃癌大腸癌における予後予測ツールPPIの有用性．日本消化管学会総会学術集会（第5回），2009．2．
- 287) 工藤秀徳<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，白川毅<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（千葉北総病院 外科）：術前診断し得た閉鎖孔ヘルニアの1例．日本消化管学会総会学術集会（第5回），2009．2．
- 288) 加藤俊二，松倉則夫<sup>1)</sup>，櫻澤信行，菅野仁士，藤田逸郎，木山輝郎，内藤善哉<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（松倉中央クリニック，<sup>2)</sup>日本医科大学第2病理）：胃粘膜の内視鏡的個別評価による再発生リスク（累積再発生率）とウルソ



- デオキシコロール酸の発癌予防. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 289) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 大川敬一, 赤城一郎, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 田中由理子<sup>1)</sup>, 川見典之<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 消化器内科): 腹腔鏡下 Heller-Dor 法を施行した小児食道アカラシアの1例. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 290) 野村 務, 宮下正夫, 鈴木英之, 藤田逸郎, 古川清憲, 田尻 孝: 外傷の既往のないS字状結腸 Seromuscular tear の1例. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 291) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 大川敬一, 赤城一郎, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川見典之<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>2)</sup>, 琴寄 誠<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 消化器内科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院外科, <sup>3)</sup> 同 内科): 食道癌診療における細径・経鼻内視鏡の治療前, 術後, 超音波内視鏡などの多様な有用性の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 292) 尾形昌男<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 近藤恭司<sup>1)</sup>, 尾崎卓司<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 田尻 孝, その他5名<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター): 大腸癌高齢者患者に対する腹腔鏡下大腸切除術の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 293) 三浦克洋<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 埴 秀暁<sup>1)</sup>, 近藤恭司<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター): 大腸癌治癒切除後のサーベイランス下部消化管内視鏡検査で新たに発見された大腸癌再手術症例の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 294) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 小澤俊文<sup>1)</sup>, 和知栄子<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 坪井病院外科): アカラシア術後に発生した食道癌の1例. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 295) 川見典之<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 佐野弘仁<sup>1)</sup>, 梅澤まり子<sup>1)</sup>, 田中由理子<sup>1)</sup>, 琴寄 誠<sup>1)</sup>, 星原芳雄<sup>1)</sup>, 牧野浩司, 野村 務, 宮下正夫, 坂本長逸<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 消化器内科): 食道癌において胸部食道摘出後に胃管再建を行った症例の残食道体部運動機能. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 296) 山下直行<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 勝田美和子, 進士誠一<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 坪井病院 外科): 拡大手術後に化学療法継続中の胃癌非根治切除の1例. 日本消化器病学会東北支部例会 (第186回), 2009. 2.
- 297) 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 木山輝郎, 菅野仁士, 山田岳史<sup>2)</sup>, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 千葉北総病院外科): S-1による胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験. 制癌剤適応研究会 (第42回), 2009. 2.
- 298) 吉野雅則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 小峯修<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター): 当科における Bevacizumab 併用大腸癌化学療法. 制癌剤適応研究会 (第42回), 2009. 2.
- 299) 加藤俊二, Sutharat P<sup>1)</sup>, 松倉則夫, 菅野仁士, 藤田逸郎, 木山輝郎, 田尻 孝, Trichak S<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> タイ国チェンマイ大学外科): *H. pylori* 感染と胃癌発生リスクの人種差: 粘膜組織の COX-2 mRNA 発現からみた胃癌リスクとそのメカニズム. 日本胃癌学会総会 (第81回), 2009. 3.
- 300) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 杉浦 篤<sup>1)</sup>, 松下晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科): SI/CDDP 療法を施行した切除不能・高度進行胃癌症例の検討. 日本胃癌学会総会 (第81回), 2009. 3.
- 301) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科): 高度進行食道胃接合部癌に対し TXT/5-FU/CDGP 併用化学放射線療法が奏効し切除し得た1例. 日本胃癌学会総会 (第81回), 2009. 3.
- 302) 金沢義一<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 千葉北総病院外科): 幽門側胃切除後再建 (Roux-en Y) の検討. 日本胃癌学会総会 (第81回), 2009. 3.
- 303) 山田岳史<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 千葉北総病院外科): 胃癌における PTX の効果: 5FU および Irinotecan の効果との相関. 日本胃癌学会総会 (第81回), 2009. 3.

- 304) 坊 英樹<sup>1)</sup>, 近藤恭司<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 増田剛太郎, 小峯 修<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター) : *Helicobacter Pylori* と鳥肌胃炎. 日本胃癌学会総会 (第81回), 2009. 3.
- 305) 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 木山輝郎, 菅野仁士, 山田岳史<sup>2)</sup>, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 栗原雄司<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 千葉北総病院外科) : 胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験. 日本胃癌学会総会 (第81回), 2009. 3.
- 306) 山下直行<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 小泉岐博, 櫻澤信行, 宮下正夫, 田尻 孝<sup>1)</sup> 坪井病院外科) : 遺残なく切除しえたStageIV胃癌再発の1例. 日本胃癌学会総会 (第81回), 2009. 3.
- 307) 山下直行<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 加藤俊二, 宮下正夫, 田尻 孝<sup>1)</sup> 坪井病院外科) : 胃癌手術における迷走神経温存の有効性. 日本胃癌学会総会 (第81回), 2009. 3.
- 308) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 小泉岐博, 田尻 孝<sup>1)</sup> 坪井病院外科) : 胃全摘術後のY脚間隙より小腸の嵌入をきたし, イレウスを生じた1例. 日本胃癌学会総会 (第81回), 2009. 3.
- 309) 原絵津子<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 沖野哲也<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田尻 孝, その他2名<sup>1)</sup> 千葉北総病院 外科) : 虫垂憩室穿孔の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第45回), 2009. 3.
- 310) 鶴田宏之, 鈴木英之, 加藤俊二, 奥田武志, 菅 隼人, 松本智司, 秋谷行宏, 佐々木順平, 向後英樹, 高尾嘉宗, 田尻 孝 : 回腸脂肪腫による成人腸重積の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第45回), 2009. 3.
- (10) ビデオシンポジウム :
- 1) 櫻澤信行, 加藤俊二, 田尻 孝 : 両端ループ付き細径スプリングによる粘膜胃癌に対するESD. 日本消化器内視鏡学会総会 (第75回), 2008. 5.
  - 2) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 田尻 孝 : 膵臓の鏡視下手術 : 将来の標準化を目指して. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- (11) ビデオワークショップ :
- 1) 廣井 信, 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 田尻 孝 : 嚢胞性膵腫瘍に対する腹腔鏡下尾側膵切除術. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
  - 2) 山下直行<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 田尻 孝<sup>1)</sup> 坪井病院外科) : 吊り上げ空腸を波型鉗子で閉鎖する自動縫合器による幽門側胃切除Roux-en-Y吻合. 日本胃癌学会総会 (第81回), 2009. 3.
- (12) ミニシンポジウム :
- 1) 横室茂樹, 清水哲也, 有馬保生, 水口義昭, 川東 豊, 神田知洋, 吉田 寛, 谷合信彦, 重原健吾, 田尻 孝 : 腹腔鏡下胆嚢摘出術の術中, 術後に診断されたss胆嚢癌症例の検討. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第20回), 2008. 5.
  - 2) 坂東功一, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 水口義昭, 柿沼大輔, 神田知洋, 田尻 孝 : 当院における腹腔鏡下肝切除術の現状. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第20回), 2008. 5.
  - 3) 宮本昌之<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科) : 肝細胞癌治療における肝切除, RFAの住み分け - strategyの構築. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第20回), 2008. 5.
  - 4) 横山 正<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 内田英二, 田尻 孝<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科) : 胆管非拡張型の膵・胆管合流異常に合併したTS1膵癌の1切除例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第20回), 2008. 5.
- (13) 要望演題 :
- 1) 松田明久<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 古川清憲, 田尻 孝<sup>1)</sup> 多摩永山病院 外科) : 肥満関連mediatorとSSI発症との関係. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.

- 2) 山下直行<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 高橋 健, 宮下正夫, 田尻 孝<sup>1)</sup> (坪井病院外科) : 吊り上げ空腸を波型鉗子で閉鎖する自動縫合器による幽門側胃切除Roux-en Y吻合. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 3) 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 埴 秀暁<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (武蔵小杉病院消化器病センター) : 結腸手術のSSI危険因子に関する検討. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.

## [多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科]

### 研究概要

「研究体制とその現状」研究目的：臨床上の疑問点をテーマとし臨床研究で得られた結果をフィードバックさせ、治療成績の向上を目指す。研究体制：消化器系臓器別に上部消化管，下部消化管，肝・胆・膵の3領域における病態生理，臨床病理的研究を行う体制をとっている。研究課題は，癌に関連するものが多い。手術手技，腹腔鏡下手術など外科特有のものもある。研究者は，自分の診療における専門領域に関する研究課題を見出しテーマとしている。

研究材料，方法：診療業務から得た臨床データ，血液，組織，臓器等を材料としている。病理組織学的方法を用いる場合には，当院病理部との共同研究となる。分子生物学的方法を用いる場合は，武蔵小杉病院・老人病研究所の協力，文部科学省，厚生労働省の科学研究補助金による研究，多施設共同研究，日本がん臨床試験推進機構主導の臨床試験にも参画している。

研究結果の公表：各医学会地方会，総会，多摩地域の研究会で発表する。あるいは，原著，症例報告，著書等に論文として公表する。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Suzuki S, Sasajima K, Sato Y<sup>1)</sup>, Watanabe H, Matsutani T, Iida S<sup>2)</sup>, Hosone M<sup>3)</sup>, Tsukui T<sup>4)</sup>, Maeda S<sup>3)</sup>, Shimizu K<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup> (1) Department of Molecular Diagnostics, School of Allied Health Science, Kitasato University, (2) First Dept. of Surgery, Nippon Medical School, (3) Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, (4) Department of Gastroenterology, Tama-Nagayama Hospital) : MAGE-A protein and MAGE-A10 gene expressions in liver metastasis in patients with stomach cancer. British Journal of Cancer 2008 ; 99 (2) : 350-356.
- 2) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 二見良平, 土屋喜一, 柏原 元, 松田明久, 鈴木成治, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学第一) : 切除不能・再発食道扁平上皮癌に対するsecond-line chemotherapyとしてのDocetaxel/5-fluorouracil/Cisplatin併用療法の検討. 日本消化器外科学会雑誌 2008 ; 41 (4) : 458-463.
- 3) 松田明久, 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 田村和広<sup>1)</sup>, 向後博司<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>2)</sup>, 鈴木英之<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 東京薬科大学薬学部内分泌分子薬理学教室, (2) 外科学第一) : 脂肪細胞機能からみた手術侵襲後の生体防御反応と術後感染症. 成人病と生活習慣病 2008 ; 38 (5) : 521-524.
- 4) 松谷 毅, 丸山 弘, 宮本昌之, 笹島耕二, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学第一) : Prolene Hernia Systemのunderlay patch挿入・展開の工夫. 手術 2008 ; 62 (11) : 1579-1583.
- 5) 松谷 毅, 笹島耕二, 鈴木成治, 小林由子<sup>1)</sup>, 丸山 弘, 宮本昌之, 横山 正, 松下 晃, 松田明久, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院放射線科, (2) 臓器病態制御外科学) : 同時重複癌を合併した食道癌に対するDocetaxel/5-fluorouracil/Nedaplatinを用いた化学放射線療法. 日医大医会誌 2008 ; 4 (4) : 197-200.
- 6) 松谷 毅, 宮本昌之, 柳 健, 丸山 弘, 松下 晃, 松田明久, 横山 正, 鈴木成治, 笹島耕二, 田尻 孝<sup>1)</sup>

(<sup>1</sup> 外科学第一)：再発鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下経腹的腹膜前メッシュ修復術の検討. 日本臨床外科学会雑誌 2009；70 (2)：368-374.

(2) 症例報告：

- 1) Suzuki S, Sasajima K, Miyamoto M, Watanabe H, Yokoyama T, Maruyama H, Matsutani T, Liu A<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup> (<sup>1</sup> Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2</sup> First Dept. of Surgery, Nippon Medical School)：Pathologic complete response confirmed by surgical resection for liver metastases of gastrointestinal stromal tumor after treatment with imatinib mesylate. World Journal of Gastroenterology 2008；14 (23)：3763-3767.
- 2) 松谷 毅, 鈴木成治, 水谷 崇, 宮本昌之, 丸山 弘, 横山 正, 柳 健, 松下 晃, 柏原 元, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 笹島耕二, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1</sup> 外科学第一)：Tailored S-1/CPT-11 併用療法が奏効した肝転移・腹膜播種を伴う Stage IV 胃癌の1例. 癌と化学療法 2008；35 (7)：1193-1195.
- 3) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 柳 健, 柏原 元, 松田明久, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1</sup> 外科学第一)：進行食道癌に対する術後化学放射線療法施行後に発症した門脈ガス血症・腸管嚢胞様気腫症の1例. 日本消化器病学会雑誌 2008；105 (10)：1504-1508.
- 4) 柳 健, 笹島耕二, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1</sup> 臓器病態制御外科学)：巨大直腸内異物除去に有用であった腹腔鏡補助下手術の1例. 日本内視鏡外科学会雑誌 2008；13 (6)：775-779.
- 5) 松田明久, 笹島耕二, 丸山 弘, 松谷 毅, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1</sup> 外科学第一)：中心静脈カテーテルポート留置後に生じた化膿性胸鎖関節炎の1例. 日本臨床外科学会雑誌 2008；69 (12)：3119-3122.
- 6) 松谷 毅, 丸山 弘, 宮本昌之, 西 佳史, 笹島耕二, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1</sup> 外科学第一)：自己拡張型腹部ヘルニア用の複合型メッシュで修復した Spigel ヘルニアの1例. 外科 2008；70 (13)：1552-1556.
- 7) 松谷 毅, 笹島耕二, 鈴木成治, 松下 晃, 丸山 弘, 松田明久, 宮本昌之, 横山 正, 杉浦 篤, 柳 健, 西 佳史, 新井洋紀, 若林秀幸, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1</sup> 外科学第一)：上行結腸癌術後の局所再発に対し mFOLFOX6 と FOLFIRI の交代療法 (mFIREFOX 療法) が奏効した1例. 癌と化学療法 2009；36 (3)：505-507.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演：

- 1) 新井洋紀, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 柳 健, 松下 晃, 柏原 元, 松田明久, 西 佳史, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1</sup> 外科学第一)：胃全摘術後の輸入脚閉塞に対して経胆管的ドレナージが有効であった1例. 外科集談会 (第806回), 2007. 9.
- 2) 西 佳史, 笹島耕二, 宮本昌之, 水谷 崇, 丸山 弘, 横山 正, 鈴木成治, 松谷 毅, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 柏原 元, 新井洋紀, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1</sup> 外科学第一)：Composix Kugel パッチで修復した Spigel ヘルニアの1例. 外科集談会 (第806回), 2007. 9.
- 3) 松田明久, 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 渡邊秀裕, 水谷 崇, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 柳 健, 松下 晃, 柏原 元, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1</sup> 外科学第一)：脂肪細胞からみた術後感染症発症予測. 日本成人病 (生活習慣病) 学会 (第42回), 2008. 1.

(1) シンポジウム：

- 1) Matsuda A, Sasajima K, Matsutani T, Maruyama H, Miyamoto M, Yokoyama T, Suzuki S, Suzuki H<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> (<sup>1</sup> First Dept. of Surgery)：Aggressive undifferentiated colon carcinoma producing granulocyte-colony stimulating factor. Japan-China-Korea Symposium for Colorectal Cancer (11th) (Tokyo), 2008. 12.



(2) 一般講演：

- 1) Matsutani T, Sasajima K, Matsuda A, Miyashita M<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Tamura K<sup>2)</sup>, Kogo H<sup>2)</sup>, Chaudry I<sup>3)</sup> (1) First Dept. of Surgery, 2) Dept. Endocrine Pharmacology, Tokyo Univ. Pharmacy and Life Sciences, 3) Center for Surgical Research, Univ. Alabama) : Gender-related differences in immune responses following major surgical trauma are diminished by preoperative steroid administration. Annual Conference on Shock (31st) (Germany), 2008. 6.
- 2) Matsuda A, Matsutani T, Sasajima K, Furukawa K<sup>1)</sup>, Miyashita M<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Tamura K<sup>2)</sup>, Kogo H<sup>2)</sup> (1) First Dept. of Surgery, 2) Dept. Endocrine Pharmacology, Tokyo Univ. Pharmacy and Life Sciences) : Depressed adipocyte function is a risk factor for postoperative infection following colorectal cancer surgery. Annual conference on shock (31st) (Germany), 2008. 6.
- 3) Miyamoto M, Sasajima K, Yokoyama T, Maruyama H, Suzuki S, Matsutani T, Yanagi K, Matsushita A, Sugiura A, Matsuda A, Nishi Y, Arai H, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) First Dept. of Surgery) : An efficacy of laparoscopic trans cystic duct papillary balloon dilation (L-TCPBD) for C. B. D. stone pointed out in operation. World Congress of Endoscopic Surgery (11th), 2008. 9.
- 4) Matsutani T, Miyamoto M, Yokoyama T, Maruyama H, Suzuki S, Sugiura A, Yanagi K, Matsushita A, Matsuda A, Kashiwabara M, Nishi Y, Arai H, Sasajima K, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) First Dept. of Surgery) : Laparoscopic surgical treatment of enlarged splenic cyst with preservation of splenic function : report of a case. World Congress of Endoscopic Surgery (11th), 2008. 9.
- 5) Yanagi K, Sasajima K, Miyamoto M, Yokoyama T, Maruyama H, Matsutani T, Matsushita A, Matsuda A, Nishi Y, Arai H, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) First Dept. of Surgery) : Laparoscopic assisted surgery for perforated small intestine due to an incarcerated obturator hernia : a case report. World Congress of Endoscopic Surgery (11th), 2008. 9.
- 6) Matsutani T, Sasajima K, Miyamoto M, Maruyama H, Suzuki S, Sugiura A, Yanagi K, Matsushita A, Matsuda A, Kashiwabara M, Nishi Y, Arai H, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) First Dept. of Surgery) : Laparoscopic trans-abdominal preperitoneal repair versus anterior open mesh repair for recurrent inguinal hernia. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia, 2008. 9.
- 7) Miyamoto M, Sasajima K, Yokoyama T, Maruyama H, Suzuki S, Matsutani T, Yanagi K, Matsushita A, Sugiura A, Matsuda A, Nishi Y, Arai H, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) First Dept. of Surgery) : A conception of treatment strategy, hepatectomy or radio frequency ablation (RFA) , for small hepatic tumors. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia, 2008. 9.
- 8) 松下 晃, Gotze T<sup>1)</sup>, 川本聖郎<sup>2)</sup>, 張 一光<sup>2)</sup>, 柳 健, 中村慶春<sup>2)</sup>, 横山 正, 相本隆幸<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 笹島耕二, 田尻 孝<sup>2)</sup>, Korc M<sup>1)</sup> (1) Department of Medicine, Dartmouth Medical School, 2) 外科学第一) : Neuropilin-1 Association with c-Met in Pancreatic Cancer Cells Enhances Hepatocyte Growth Factor Mediated Cell Invasion. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 9) 松谷 毅, 丸山 弘, 宮本昌之, 杉浦 篤, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 柏原 元, 西 佳史, 新井洋紀, 横山 正, 鈴木成治, 笹島耕二, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学第一) : 鼠径ヘルニアに対する P. H. S法の underlay patch挿入の工夫. 日本ヘルニア研究会 (第6回), 2008. 4.
- 10) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 鈴木成治, 宮本昌之, 横山 正, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 柏原 元, 西 佳史, 新井洋紀, 小林由子<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院放射線科, 2) 外科学第一) : 5-Fluorouracil+nedaplatin+docetaxel併用化学放射線療法を行った食道癌と他臓器の重複癌の3症例. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 11) 鈴木成治, 笹島耕二, 丸山 弘, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 松谷 毅, 柳 健, 松下 晃, 松田明久,



- 津久井拓<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院消化器科, 2) 外科学第一) : mFOLFOX6法とFOLFIRI法の交代療法を導入した進行・再発大腸癌症例の検討. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 12) 松田明久, 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 柳 健, 松下 晃, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学第一) : 脂肪細胞機能と大腸癌術後感染性合併症. 日本Shock学会総会 (第23回), 2008. 5.
- 13) 宮本昌之, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 水谷 崇, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 柏原 元, 西 佳史, 新井洋紀, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学第一) : 総胆管結石治療のstrategyにおける腹腔鏡下術中経胆嚢管的乳頭バルーン拡張術 (IOTCPBD) の意義. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 14) 松谷 毅, 笹島耕二, 松田明久, 丸山 弘, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 柳 健, 柏原 元, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学第一) : 食道癌手術後の末梢血アディポカインとテストステロン値の関連. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 15) 鈴木成治, 笹島耕二, 宮本昌之, 渡邊秀裕, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 柏原 元, 津久井拓<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 劉 愛民<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, その他1名 (1) 多摩永山病院消化器科, 2) 同病理部) : GIST肝転移症例の検討 : 臨床経過・治療方針を中心に. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 16) 松田明久, 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 鈴木成治, 柳 健, 松下 晃, 柏原 元, 古川清憲<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学第一) : 脂肪細胞機能低下は術後感染症発症の独立した危険因子である. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 17) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 柏原 元, 西 佳史, 新井洋紀, 小林由子<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院放射線科, 2) 外科学第一) : Docetaxel/5-FU/CDGP併用化学放射線療法にてCRが得られた進行期胸部食道癌と下咽頭重複癌の1例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第75回), 2008. 5.
- 18) 宮本昌之, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学第一) : 肝細胞癌治療における肝切除, RFAの住み分け - strategyの構築. 日本肝胆膵外科学会 (第20回), 2008. 5.
- 19) 横山 正, 笹島耕二, 宮本昌之, 丸山 弘, 松谷 毅, 柳 健, 松下 晃, 柏原 元, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学第一) : 胆管非拡張型の膵・胆管合流異常に合併したTS1膵癌の一切除例. 日本肝胆膵外科学会 (第20回), 2008. 5.
- 20) 松谷 毅, 笹島耕二, 柏原 元, 宮本昌之, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 杉浦 篤, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 細根 勝<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院病理部, 2) 外科学第一) : 食道癌胆嚢壁内転移を認め切除し得た1例. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 21) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 鈴木成治, 宮本昌之, 横山 正, 杉浦 篤, 柳 健, 松下 晃, 柏原 元, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 小林由子<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院放射線科, 2) 外科学第一) : 切除不能食道癌に対するDocetaxel/5-FU/CDGP併用化学放射線療法の評価. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 22) 鈴木成治, 笹島耕二, 宮本昌之, 渡邊秀裕, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 松久威史<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup> (1) 多摩永山病院消化器科, 2) 多摩永山病院病理部, 3) 外科学第一) : 再発性の治療方針 : メシル酸イマチニブ導入の意義. 日本消化器外科学会 (第63回), 2008. 7.
- 23) 丸山 弘, 松谷 毅, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 笹島耕二, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学第一) : ソケイヘルニア修復手術における外科医習熟度の検討. 日本消化器外科学会 (第63回), 2008. 7.

- 24) 横山 正, 笹島耕二, 宮本昌之, 丸山 弘, 松谷 毅, 松下 晃, 柳 健, 柏原 元, 松田明久, 田尻 孝<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup> 外科学第一) : 当施設における膵頭十二指腸切除後のドレーン管理 : クリニカルパスを目指して. 日本消化器外科学会 (第63回), 2008. 7.
- 25) 松下 晃, 川本聖郎<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 横山 正, 笹島耕二, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 臓器病態制御外科学, <sup>2)</sup> 日本医科大学病理) : Neuropilin-1の膵癌における生物学的意義, その integrin betalとの関連について. 日本消化器外科学会 (第63回), 2008. 7.
- 26) 宮本昌之, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 柳 健, 松下 晃, 田尻 孝<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup> 外科学第一) : 当科における再発肝細胞癌に対する集学的治療のstrategy. 日本消化器外科学会 (第63回), 2008. 7.
- 27) 松田明久, 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 外科学第一) : 肥満関連mediatorとSSI発症との関係. 日本消化器外科学会 (第63回), 2008. 7.
- 28) 松谷 毅, 笹島耕二, 松田明久, 丸山 弘, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 柳 健, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 外科学第一) : 男性患者における手術侵襲後の合併症とアディポカイン・性ホルモンの関連. 日本消化器外科学会 (第63回), 2008. 7.
- 29) 松下 晃, 内田英二<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 川本聖郎<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 柳 健, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 笹島耕二, その他1名 (<sup>1)</sup> 外科学第一, <sup>2)</sup> 日本医科大学第二病理) : ヒト膵癌におけるNeuropilin-1とc-Met, HGFの関連について. 日本膵臓学会大会 (第39回), 2008. 7.
- 30) 横山 正, 笹島耕二, 宮本昌之, 松下 晃, 柳 健, 渡邊秀裕, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 杉浦 篤, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 外科学第一) : 進行膵癌におけるゲムシタピン (GEM) /カペシタピン (CAP) 併用療法の検討. 日本膵臓学会大会 (39回), 2008. 7.
- 31) 宮本昌之, 笹島耕二, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 柳 健, 松下 晃, 杉浦 篤, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 外科学第一) : 術中に発見された総胆管結石に対する腹腔鏡下経胆嚢管的乳頭バルーン拡張術 (L-TCPBD) の有効性と適応. 日本内視鏡外科学会総会 (第21回), 2008. 9.
- 32) 松谷 毅, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 杉浦 篤, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 柏原 元, 西 佳史, 新井洋紀, 笹島耕二, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 外科学第一) : 巨大脾嚢胞に対し脾臓機能温存腹腔鏡下手術を施行した1例. 日本内視鏡外科学会総会 (第21回), 2008. 9.
- 33) 柳 健, 笹島耕二, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 松下 晃, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 外科学第一) : 閉鎖孔ヘルニアかん頓による小腸穿孔に対する腹腔鏡補助下手術の1例. 日本内視鏡外科学会総会 (第21回), 2008. 9.
- 34) 若林秀幸, 笹島耕二, 宮本昌之, 渡邊秀裕, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 杉浦 篤, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 外科学第一) : 十二指腸乳頭部癌術後の多発肝転移, リンパ節転移に対してgemcitabineによる化学療法が奏功した1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第301回), 2008. 9.
- 35) 新井洋紀, 笹島耕二, 丸山 弘, 松谷 毅, 松田明久, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 杉浦 篤, 柳 健, 松下 晃, 西 佳史, 若林秀幸, 細根 勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, その他1名 (<sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup> 外科学第一) : 直腸子宮内膜症の2例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第301回), 2008. 9.
- 36) 横山 正, 笹島耕二, 宮本昌之, 丸山 弘, 松谷 毅, 杉浦 篤, 松下 晃, 柳 健, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 外科学第一) : StageIVb胆道癌における治療戦略 : サルベージ手術 + 術後化学療法は有用か? . 日本胆道学会学術集会 (第44回), 2008. 9.
- 37) 横山 正, 笹島耕二, 丸山 弘, 柳 健, 西 佳史, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 外科学第一) : HER-2陽性乳癌におけるTrastuzumab+Paclitaxel+Capecitabineを用いた術前化学療法 (HXP療法) の有用性. 日本乳癌学会学術総会

(第16回), 2008. 9.

- 38) 若林秀幸, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 杉浦 篤, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 細根 勝<sup>1)</sup>, その他1名<sup>(1) 多摩永山病院病理部</sup>: 急速進行性の両下肢浮腫・腎不全を合併した胃癌腸腰筋浸潤の1例. 城西外科研究会 (第77回), 2008. 9.
- 39) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 鈴木成治, 宮本昌之, 横山 正, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 柏原 元, 西 佳史, 新井洋紀, 小林由子<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> <sup>(1) 多摩永山病院放射線科, 2) 外科学第一</sup>: Docetaxel/5-FU/CDGP 併用化学放射線療法にてCRが得られた高齢者進行期胸部食道癌の1例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第76回), 2008. 10.
- 40) 松谷 毅, 笹島耕二, 松田明久, 鈴木成治, 丸山 弘, 宮本昌之, 横山 正, 柳 健, 松下 晃, 柏原 元, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> <sup>(1) 外科学第一</sup>: 性差からみた食道癌手術後の生体防御反応と術前ステロイド投与の影響. 日本消化器病学会大会 (第50回), 2008. 10.
- 41) 鈴木成治, 笹島耕二, 丸山 弘, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 松谷 毅, 杉浦 篤, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 津久井拓<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, その他1名<sup>(1) 多摩永山病院消化器科</sup>: mFOLFOX6法を施行した進行・再発大腸癌腹膜転移症例の検討. 日本消化器病学会大会 (第50回), 2008. 10.
- 42) 松下 晃, 内田英二<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 松谷 毅, 鈴木成治, 丸山 弘, 横山 正, 宮本昌之, 渡邊秀裕, 笹島耕二, 田尻 孝<sup>1)</sup> <sup>(1) 外科学第一</sup>: 腫瘍においてNeuropilin-1はintegrin beta1との関連し, その増殖, 生存, 浸潤に関与する. 日本癌学会学術総会 (第67回), 2008. 10.
- 43) 鈴木成治, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 杉浦 篤, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 細根 勝<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>2)</sup>, 津久井拓<sup>3)</sup>, 松久威史<sup>3)</sup>, その他2名<sup>(1) 多摩永山病院病理部, 2) 外科学第一, 3) 多摩永山病院消化器科</sup>: 胃癌原発巣・肝転移巣におけるMAGE-A10蛋白・mRNA発現の検討と臨床的意義. 日本癌治療学会総会 (第46回), 2008. 10.
- 44) 松谷 毅, 笹島耕二, 鈴木成治, 丸山 弘, 宮本昌之, 横山 正, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 柏原 元, 西 佳史, 新井洋紀, 小林由子<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> <sup>(1) 多摩永山病院放射線科, 2) 外科学第一</sup>: 切除不能食道扁平上皮癌に対するDocetaxel/5-FU/CDGP 併用化学放射線療法の試み. 日本癌治療学会総会 (第46回), 2008. 10.
- 45) 宮本昌之, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 杉浦 篤, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 若林秀幸, 田尻 孝<sup>1)</sup> <sup>(1) 外科学第一</sup>: 腹腔鏡下胆嚢摘出 (LC) における術中胆道造影の有用性: 術中発見微小総胆管結石に対する経胆嚢管的乳頭バルーン拡張術 (L-TCPBD). 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 46) 松田明久, 古谷政一<sup>1)</sup>, 清水康仁<sup>1)</sup>, 沖野哲也<sup>1)</sup>, 笹島耕二, 宮本昌之, 渡邊秀裕, 丸山 弘, 横山 正, 鈴木成治, 松谷 毅, 杉浦 篤, 柳 健, 松下 晃, 田尻 孝<sup>2)</sup> <sup>(1) 筑西市民病院外科, 2) 外科学第一</sup>: 腸閉塞症例に対するGastrografinの消化管内投与にて尿路系が描出された1例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 47) 若林秀幸, 笹島耕二, 鈴木成治, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 丸山 弘, 横山 正, 松谷 毅, 杉浦 篤, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 田尻 孝<sup>1)</sup> <sup>(1) 外科学第一</sup>: 急速進行性の両下肢浮腫・腎不全を合併した胃癌両側腸腰筋浸潤の1例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 48) 鈴木成治, 笹島耕二, 丸山 弘, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 松谷 毅, 杉浦 篤, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 若林秀幸, 田尻 孝<sup>1)</sup> <sup>(1) 外科学第一</sup>: mFOLFOX6法不応進行・再発大腸癌症例の検討. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 49) 横山 正, 笹島耕二, 宮本昌之, 渡邊秀裕, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 杉浦 篤, 松下 晃, 柳 健, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 若林秀幸, 田尻 孝<sup>1)</sup> <sup>(1) 外科学第一</sup>: HER-2陽性進行・再発乳癌におけるTrastuzumab+Paclitaxel+Capecitabine 三剤併用療法 (HXP療法) の検討. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.

- 50) 松下 晃, 笹島耕二, 鈴木成治, 丸山 弘, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 松谷 毅, 杉浦 篤, 柳 健, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 若林秀幸, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学第一) : 横行結腸間膜GIST (EGIST) の1例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 51) 柳 健, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 杉浦 篤, 松下 晃, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 若林秀幸, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学第一) : 感染性臍仮性嚢胞を伴った臍粘性嚢胞腫瘍の1手術例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 52) 新井洋紀, 笹島耕二, 松谷 毅, 丸山 弘, 松下 晃, 鈴木成治, 宮本昌之, 横山 正, 杉浦 篤, 柳 健, 松田明久, 西 佳史, 若林秀幸, 細根 勝<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院病理部, 2) 外科学第一) : 盲腸癌術後7年目の局所再発を治癒切除し得た1例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 53) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 鈴木成治, 宮本昌之, 横山 正, 杉浦 篤, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 若林秀幸, 小林由子<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院放射線科, 2) 外科学第一) : 術後再発食道癌に対する Docetaxel 併用化学療法と化学放射線療法の有効性と安全性. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 54) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 杉浦 篤, 西 佳史, 新井洋紀, 若林秀幸, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学第一) : 鼠径ヘルニアに対する Prolene Hernia System の Underlay Patch 挿入と展開 : 術後再発ヘルニアを予防するための工夫. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 55) 松谷 毅, 笹島耕二, 鈴木成治, 丸山 弘, 宮本昌之, 横山 正, 杉浦 篤, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 若林秀幸, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学第一) : 上行結腸癌術後の局所再発に対し modified FIREFOX 療法が奏効した1例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 56) 杉浦 篤, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 松下 晃, 松田明久, 川本聖郎, 新井洋紀, 若林秀幸 : 化学療法が有効であった臍癌の1例. 城西外科研究会 (第78回), 2009. 2.
- 57) 鈴木成治, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 丸山 弘, 横山 正, 松谷 毅, 杉浦 篤, 松下 晃, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 若林秀幸, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学第一) : S1/CDDP 療法を施行した切除不能・高度進行胃癌症例の検討. 日本胃癌学会総会 (第81回), 2009. 3.
- 58) 松谷 毅, 笹島耕二, 鈴木成治, 松下 晃, 丸山 弘, 宮本昌之, 横山 正, 柳 健, 松田明久, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学第一) : 高度進行食道胃接合部癌に対し TXT/5-FU/CDGP 併用化学放射線療法が奏効し切除し得た1例. 日本胃癌学会総会 (第81回), 2009. 3.

## [千葉北総病院外科]

### 研究概要

消化器外科および一般外科領域における, 基礎的ならびに臨床的研究を行い, その成果を学会および学会誌等で報告している. 開院以来, 外来・入院患者数の増加とともに年間手術件数も増加し, 地域における基幹病院としての役割を果たしている. 院内においては内科, 放射線科, 病理部との合同カンファレンスを行い, 診断・外科的治療の質の向上を図っている.

1. 進行食道癌, 胃癌, 大腸癌をはじめとする消化器癌に対して, 外科的治療とともに術前・術後の化学療法や免疫療法による集学的治療を行い, 良好な成績を得ている.

2. 消化器疾患に対する内視鏡的治療, とくに早期胃癌, 早期大腸癌に対するEMR, 胆道疾患に対する内視鏡的治療, 閉塞性黄疸あるいは癌再発に伴う消化管狭窄に対する内視鏡的ステント挿入等, 内視鏡的治療を行っている.

3. 腹腔鏡下手術は胆嚢摘出術のみならず, 早期胃癌・早期大腸癌から進行癌にも適応拡大し, 良い成績を得ている.



4. 乳癌はSLNB, 積極的な術前・術後のホルモン化学療法の導入, ラジオ波焼灼術, 縮小手術など患者のADLおよびQOLの向上に努め, その成績を報告している.

5. EBMに基づいた医療を行うだけでなく, 新たなEBMを作るべく, 癌化学療法, 外科感染症に対する抗菌療法を中心に臨床試験を積極的に行っている. 臨床試験の迅速に結果をだすために多施設共同研究には特に力を入れている.

6. 基礎的研究としては (1) 大腸癌リンパ節微小転移の臨床的意義とメカニズム, (2) 大腸内分泌細胞癌の培養細胞を作成し, その特性と治療法, (3) 抗癌剤感受性試験の有用性, 消化器癌化学療法の中心となる5-FUについて, 臨床材料を用いた胃癌, 大腸癌における5FU代謝酵素の役割, (4) 多剤併用療法が行われる胃癌, 大腸癌における等において研究を行っている.

## 研究業績

### 論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Yamada T, Tanaka N, Yokoi K, Seya T, Kanazawa Y, Koizumi M, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School Chiba hokusoh Hospital): Correlation between Clinical Pathologic Factors and Activity of 5-FU-Metabolizing Enzymes in Colorectal Cancer. J Nippon Med Sch 2008; 75 (1): 23-27.
- 2) Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y, Taniyai N<sup>1)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Kakinuma D<sup>1)</sup>, Ishikawa Y<sup>1)</sup>, Kanda T<sup>1)</sup>, Matsumoto S<sup>1)</sup>, Bando K<sup>1)</sup>, Akimaru K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): Long-term results of elective hepatectomy for treatment of ruptured hepatocellular carcinoma. J Hepatobiliary Pancreat Surg 2008; 15 (2): 178-182.

追加分症例報告:

- 1) 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) 付属病院 放射線科): リビオドールによるリンパ管造影があった食道癌術後乳び胸の1例. 手術 2008; 62 (3): 377-380.

(1) 原著:

- 1) Kakinuma D<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y, Taniyai N<sup>1)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Takahashi T<sup>1)</sup>, Shimizu T<sup>1)</sup>, Ishikawa Y<sup>1)</sup>, Akimaru K<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) 付属病院 第二病理): Quantitative analysis of fluoracil-related genes in chronic viral hepatitis using microdissection. Hepato-Gastroenterology 2008; 55 (84): 826-830.
- 2) Ishikawa Y<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y, Taniyai N<sup>1)</sup>, Bando K<sup>1)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Kakinuma D<sup>1)</sup>, Kanda T<sup>1)</sup>, Akimaru K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) Dept. of Surgery): Surgical disconnection of patent paraumbilical vein in refractory hepatic encephalopathy. Journal of Nippon Medical School 2008; 75 (3): 152-156.
- 3) Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y, Taniyai N<sup>1)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Kakinuma D<sup>1)</sup>, Ishikawa Y<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Okuda T<sup>1)</sup>, Kiyama T<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): Afferent loop obstruction treated by percutaneous transhepatic insertion of an expandable metallic stent. Hepato-Gastroenterology 2008; 55 (88): 1767-1769.
- 4) 吉澤一巳<sup>1)</sup>, 木本陶子<sup>1)</sup>, 濱田康次<sup>1)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup>, 藤岡久恵<sup>3)</sup>, 松丸雪江<sup>3)</sup>, 古山めぐみ<sup>2)</sup>, 三浦剛史<sup>2)</sup>, 池森紀夫<sup>2)</sup>, 山田岳史, 益田律子<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院 薬剤科, 2) 千葉北総病院 緩和ケアチーム, 3) 千葉北総病



院 看護部)：入院がん患者に対する医療用麻薬の自己管理運用マニュアルの検討。日本病院薬剤師会雑誌 2008；44 (7)：1053-1055.

- 5) 小泉岐博<sup>1)</sup>, 古川清憲, 田中宣威, 瀬谷知子, 金沢義一, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 坪井病院 外科, 2) 付属病院 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)：Meckel憩室内のアニサキス感染が原因となったイレウスの1例。日本臨床外科学会雑誌 2008；69 (9)：2278-2281.
- 6) 道本 薫<sup>1)</sup>, 清水忠夫<sup>1)</sup>, 平野 明<sup>1)</sup>, 小川健治<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 天神敏博<sup>3)</sup>, 赤須東樹<sup>3)</sup>, 古川清憲, 矢野侃<sup>4)</sup> (1) 東京女子医科大学東医療センター 外科, 2) 付属病院 放射線科, 3) 付属病院 第二外科, 4) 荒川区がん予防・健康づくりセンター)：荒川区における乳癌検診15年間の成績。日本乳癌検診学会誌 2008；17 (3)：261-266.
- 7) 鈴木英之<sup>1)</sup>, 古川清憲, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 秋谷行宏<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)：当科における進行大腸癌に対する腹腔鏡手術の現況：適応と除外因子の検討。日医大医会誌 2008；4 (4)：181-192.

(2) 総説：

- 1) Tajiri T<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y, Taniyai N<sup>1)</sup>, Yokomuro S<sup>1)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup> (1) Dept. of Surgery)：Diagnosis and initial management for cholangiocarcinoma with obstructive jaundice. World J Gastroenterol 2008；14 (19)：3000-3005.
- 2) 古川清憲：外科における深在性真菌症診断と治療指針。深在性真菌症 2008；4 (1)：18-21.
- 3) 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 牧野浩司, 金沢義一, 白川 毅, 工藤秀徳, 山田岳史, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>2)</sup>, 秋谷行宏<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院 外科, 2) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)：【術後感染症治療薬】外科における深在性真菌症の診断と治療指針 ガイドラインを中心に。日本外科感染症学会雑誌 2008；5 (3)：255-259.
- 4) 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 坂東功一<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 付属病院 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)：肝細胞癌の外科治療 1) 肝硬変併存時の肝切除術。消化器外科 2008；31 (6)：971-976.

(3) 症例報告：

- 1) Yokoi K, Tanaka N, Furukawa K, Ishikawa N, Seya T, Horiba K, Kanazawa Y, Yamada T, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital)：Male Choriocarcinoma with Metastasis to the Jejunum：A Case Report and Review of the Literature. J Nippon Med Sch 2008；75 (2)：242-246.
- 2) Taniyai N<sup>1)</sup>, Akimaru K<sup>1)</sup>, Ishikawa Y<sup>1)</sup>, Kanda T<sup>1)</sup>, Kakinuma D<sup>1)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Mamada Y, Yoshida H<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School)：Hepatotoxicity Caused by both tacrolimus and cyclosporin after living donor liver transplantation. J Nippon Med Sch 2008；75 (3)：187-191.
- 3) Kan H<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Shinji S, Naito Z<sup>2)</sup>, Furukawa K, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) 第二病理)：A Case of an Inflammatory Fibroid Polyp of the Cecum. J Nippon Med Sch 2008；75 (3)：181-186.
- 4) Akagi I<sup>1)</sup>, Miyashita M<sup>1)</sup>, Hashimoto M<sup>2)</sup>, Makino H, Nomura T<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) Dept. of Surgery, Mitsubishi Ohkurayama Hospital)：Adult Intussusception Caused by an Intestinal Lipoma：Report of a Case. J Nippon Med Sch 2008；75 (3)：166-170.
- 5) Akagi I<sup>1)</sup>, Miyashita M<sup>1)</sup>, Makino H, Nomura T<sup>1)</sup>, Ohakawa K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)：So-called Carcinosarcoma of the Esophagus：Report of a Case. J Nippon Med Sch 2008；

75 (3) : 171-174.

- 6) Yokoi K, Tanaka N, Furukawa K, Seya T, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : A Case of Adenosquamous Carcinoma of the Ascending Colon. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (4) : 242-246.
  - 7) Yamada T, Furukawa K, Yokoi K, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Okada S<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>3)</sup> (1) Dept. of Pathology, Chiba-Hokusoh Hospital, 2) Dept. of Radiology, Chiba-Hokusoh Hospital, 3) Dept. of Surgery) : A Case of Meningeal Carcinomatosis with Gastric Cancer Which Manifested Meningeal Signs as the Initial Symptom : the Palliative Benefit of Rediotherapy. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (4) : 216-220.
  - 8) Seya T, Tanaka N, Yokoi K, Shinji S, Oaki Y<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School Chiba hokusoh Hospital) : Life-threatening Bleeding from Gastrointestinal Stromal Tumor of the Stomach. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (5) : 306-311.
  - 9) Takahashi G<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y, Taniai N<sup>1)</sup>, Bando K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : Intracystic hemorrhage of a huge simple hepatic cyst. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (5) : 302-305.
  - 10) Tani A<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y, Taniai N<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) 第二病理) : A case of biliary cystadenocarcinoma with intracystic bleeding. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (5) : 293-297.
  - 11) Takao Y<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y, Bando K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : Transcatheter hepatic arterial embolization for hemobilia from hepatocellular carcinoma. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (5) : 284-288.
  - 12) Kan H<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>2)</sup>, Sasaki J<sup>1)</sup>, Furukawa K, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) Dept. of Surgery, Kamisu Saiseikai Hospital) : A case of an Intramesosigmoid Hernia. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (1) : 13-18.
  - 13) 秋谷行宏<sup>1)</sup>, 古川清憲, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 田尻孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 止血に難渋した急性出血性直腸潰瘍に対し経肛門の直腸粘膜環状切除が有効であった1例. 日本大腸肛門病会誌 2008 ; 61 (4) : 199-203.
  - 14) 松田明久<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 田村和広<sup>2)</sup>, 向後博司<sup>2)</sup>, 古川清憲, 鈴木英之<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup> (1) 多摩永山病院 外科, 2) 東京薬科大学薬学部内分泌分子薬理学教室, 3) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 【肥満と外科手術】脂肪細胞機能からみた手術侵襲後の生体防御反応と術後感染症. 成人病と生活習慣病 2008 ; 38 (5) : 521-524.
  - 15) 進士誠一, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 瀬谷知子, 相本隆幸<sup>2)</sup>, 金沢義一, 吉岡正人, 大秋美治<sup>1)</sup>, 田尻孝<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院 病理 , 2) 付属病院 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : ガストリン産生肝腫瘍を合併し Zollinger-Ellison 症候群を呈した多発性内分泌腺腫症1型膵グルカゴノーマの1例. 日本消化器外科学会雑誌 2008 ; 41 (6) : 646-652.
  - 16) 工藤秀徳, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : CTにて術前診断し得た閉鎖孔ヘルニア. 日本腹部救急医学会雑誌 2009 ; 29 (3) : 517-520.
- (4) 臨床および実験報告 :
- 1) Iida S<sup>1)</sup>, Furukawa K, Yanagihara K<sup>1)</sup>, Iwaki R<sup>1)</sup>, Kurita T<sup>1)</sup>, Tsuchiya S<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup>, Haga S<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) 付属病院 病理部, 3) 病理学 (統御機構・腫瘍学)) : An

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 松野邦彦, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 真々田裕宏, 堀場光二, 牧野浩司, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 沖野哲也, 富樫晃祥, 田尻 孝<sup>1)</sup>, その他6名<sup>(1)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : 当院におけるソケイヘルニアに対するDirect Kugel法. 千葉ヘルニア研究会 (第3回), 2008. 2.
- 2) 吉澤一巳<sup>1)</sup>, 木本陶子<sup>1)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup>, 古山めぐみ<sup>2)</sup>, 成毛育恵<sup>2)</sup>, 中山菜央<sup>2)</sup>, 三浦剛史<sup>2)</sup>, 山田岳史, 澤谷篤<sup>2)</sup>, 益田律子<sup>2)</sup>, 井上哲夫<sup>3)</sup> <sup>(1)</sup> 千葉北総病院 薬剤科, <sup>(2)</sup> 千葉北総病院 緩和ケアチーム, <sup>(3)</sup> 千葉北総病院 麻酔科 : フェンタニル貼付剤の半面貼付に関する薬剤師としての取り組み. 日本ペインクリニック学会東京地方会 (第22回), 2008. 2.

(1) 宿題講演：

- 1) 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 坂東功一<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : HCV陽性肝細胞癌に対する肝切除術の治療指針. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第20回), 2008. 5.
- 2) 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 坂東功一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : 肝細胞癌に対する系統切除と部分切除の適応. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 3) 神田知洋<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 坂東功一<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 永山 寛<sup>2)</sup>, 秋丸琥甫<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), <sup>(2)</sup> 神経内科, <sup>(3)</sup> 立正佼成会附属佼成病院外科 : 肝移植後に陳旧性脳挫傷及び免疫抑制剤による重積てんかん発作を繰り返した1例. 日本肝臓学会東部会 (第37回), 2008. 12.

(2) 教育講演：

- 1) Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y, Taniyai N<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : New trend of surgical treatment for portal hypertension. JSH Single Topic Conference (7th) (Fukuoka, Japan), 2008. 11.

(3) シンポジウム：

- 1) 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 金沢義一, 山田岳史 : non-albicansの治療はキャンディンを選択. 日本医真菌学会総会 (第52回), 2008. 9.
- 2) 牧野浩司<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 高橋 健<sup>1)</sup>, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 古川清憲, 丸山 弘<sup>2)</sup>, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 萩原信敏<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), <sup>(2)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>(3)</sup> 坪井病院外科 : 食道表在癌の治療戦略：縦隔鏡補助下と胸腔鏡補助下食道切除術 (MATHE&VATS-E). 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.

(4) パネルディスカッション：

- 1) 松野邦彦, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 真々田裕宏, 堀場光二, 牧野浩司, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 沖野哲也, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup>, その他6名<sup>(1)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : 当院におけるソケイヘルニアに対するDirect Kugel法. 日本ヘルニア研究会 (第6回), 2008. 4.
- 2) 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 田尻 孝<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 付属病院 外科外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : 当科における門脈圧亢進症治療法の工夫と変遷. 日本肝臓学会大会 (第12回), 2008. 10.
- 3) 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 坂東功一<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 外科学 (消化

器・一般・乳腺・移植部門))：術後腸管運動からみた肝切除術時の皮膚切開の工夫．日本臨床外科学会総会 (第70回)，2008．11．

4) 谷合信彦<sup>1)</sup>，吉田 寛<sup>1)</sup>，真々田裕宏，川野陽一<sup>1)</sup>，平方敦史<sup>1)</sup>，神田知洋<sup>1)</sup>，柿沼大輔<sup>1)</sup>，峯田 章<sup>1)</sup>，坂東 功一<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門))：門亢症に対する生体肝移植における部分的脾動脈塞栓術 (PSE) の位置づけ．日本門脈圧亢進症学会総会 (第15回)，2008．11．

5) 山田岳史，古川清憲，横井公良，真々田裕宏，瀬谷知子，金沢義一，田中宣威，田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門))：終末期大腸癌におけるオンコロジーエマージェンシーに対する予後予測に基づいた初期治療計画．日本腹部救急医学会総会 (第45回)，2009．3．

(5) セミナー：

1) 古川清憲：どうするの！手術室での安全管理と術後感染予防対策．日本手術医学会総会 (第30回)，2008．9．

2) 真々田裕宏：難治性腹水症に対するデンプー腹腔：静脈シャント術の臨床効果．日本肝臓学会東部会 (第37回)，2008．12．

(6) ワークショップ：

1) 柿沼大輔，吉田 寛<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門))：当科におけるPSEの位置づけ：汎血球減少に対する治療を中心に．日本肝臓学会東部会 (第37回)，2008．12．

2) 清水哲也，横室茂樹<sup>2)</sup>，水口義昭<sup>1)</sup>，川東 豊<sup>1)</sup>，重原健吾<sup>1)</sup>，神田知洋<sup>1)</sup>，有馬保生<sup>1)</sup>，谷合信彦<sup>1)</sup>，真々田裕宏，吉田 寛<sup>1)</sup>，秋丸琥甫<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門))：肝内胆管癌細胞株HuCCT1におけるTGF- $\beta$  1，p27の発現と増殖への影響に関する検討．日本肝臓学会東部会 (第37回)，2008．12．

(7) サージカルフォーラム：

1) 清水哲也<sup>1)</sup>，横室茂樹<sup>2)</sup>，水口義昭<sup>2)</sup>，川東 豊<sup>2)</sup>，神田知洋<sup>2)</sup>，有馬保生<sup>2)</sup>，谷合信彦<sup>2)</sup>，真々田裕宏，吉田 寛<sup>2)</sup>，秋丸琥甫<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 北村山公立病院，<sup>2)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門))：肝内胆管癌細胞株HuCCT1におけるTGF-beta1とp27の発現に対する検討．日本外科学会定期学術集会 (第108回)，2008．5．

2) 野村 務<sup>1)</sup>，宮下正夫<sup>1)</sup>，牧野浩司，有馬保生<sup>1)</sup>，鈴木英之<sup>1)</sup>，木山輝郎<sup>1)</sup>，横室茂樹<sup>1)</sup>，松本智司<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，Shresthe S<sup>2)</sup>，阿曾亮子<sup>3)</sup>，吉村明修<sup>3)</sup>，志村俊郎<sup>3)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)，<sup>2)</sup> カトマンズ医科大学 外科，<sup>3)</sup> 付属病院 教育推進室)：医学生に対するVRシミュレーターを用いた内視鏡外科手技の教育システム．日本外科学会定期学術集会 (第108回)，2008．5．

3) 山田岳史，古川清憲，横井公良，真々田裕宏，瀬谷知子，堀場光二，金沢義一，白川 毅，工藤秀徳，沖野哲也，富樫晃祥，清水哲也，田中宣威，田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門))：院内周術期バスは定着した：がん治療全体の標準化を目指し，連携バス等を活用した周術期以後の標準化を目指す．日本臨床外科学会総会 (第70回)，2008．11．

(8) 一般講演：

1) Kan H<sup>1)</sup>，Suzuki H<sup>1)</sup>，Tsuruta H<sup>1)</sup>，Matsumoto T<sup>1)</sup>，Akiya Y<sup>1)</sup>，Shinji S，Matsumoto S<sup>1)</sup>，Matsuda A<sup>2)</sup>，Sasaki J<sup>1)</sup>，Teranishi N<sup>1)</sup>，Furukawa K，Tajiri T<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)，<sup>2)</sup> 多摩永山病院 外科)：A case of intramesosigmoid hernia．The International College of Surgeons Annual Congress of the Japan Section (The 54th) (Tokyo, Japan)，2008．6．

2) Makino H，Furukawa K，Miyashita M<sup>1)</sup>，Yokoi K，Mamada Y，Horiba K，Kanazawa Y，Shirakawa T，Yamada T，Tanaka N，Nomura T<sup>1)</sup>，Okawa K<sup>1)</sup>，Tsuchiya Y<sup>1)</sup>，Hagiwara N<sup>1)</sup>，Tajiri T<sup>1)</sup>，et al. (1) Department of Surgery，)：Video Assisted Thorascopic Surgery of Esophagus (Vats-E) in Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital. 11th World Congress of Endoscopic Surgery (Yokohama, Japan)，2008．9．

3) Makino H，Furukawa K，Miyashita M<sup>1)</sup>，Nomura T<sup>1)</sup>，Seya T，Horiba K，Okawa K<sup>1)</sup>，Tsuchiya Y<sup>1)</sup>，

- Hagiwara N<sup>1</sup>, Katsuta M<sup>1</sup>, Takahashi K<sup>1</sup>, Akagi I<sup>1</sup>, Sakata Y<sup>1</sup>, Kudo H, Tajiri T<sup>1</sup>, et al. (1) Department of Surgery) : Mediastinoscope Assisted Lymphadenectomy Around Recurrent Nerves in Esophagectomy. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (Yokohama, Japan), 2008. 9.
- 4) Kan H<sup>1</sup>, Suzuki H<sup>1</sup>, Tsuruta H<sup>1</sup>, Matsumoto S<sup>1</sup>, Akiya Y<sup>1</sup>, Sakurazawa N<sup>1</sup>, Sasaki J<sup>1</sup>, Teranishi N<sup>1</sup>, Furukawa K, Tajiri T<sup>1</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : A Case of Synchronous Multiple Colon Cancers and Gastric Cancer Developing Protein-Losing Gastroenteropathy Resected by Laparoscopy-Assisted Surgery and Endoscopic Resections. World Congress of Endoscopic Surgery (The 11th) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
- 5) Bando K<sup>1</sup>, Akimaru K<sup>1</sup>, Yoshida H<sup>1</sup>, Mamada Y, Taniai N<sup>1</sup>, Matsumoto S<sup>1</sup>, Mizuguchi Y<sup>1</sup>, Kakinuma D<sup>1</sup>, Kanda T<sup>1</sup>, Tajiri T<sup>1</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : Usefulness of laparoscopic liver resection in cirrhotic patients. World Congress of Endoscopic Surgery (The 11th) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
- 6) Yokomuro S<sup>1</sup>, Arima Y<sup>1</sup>, Mizuguchi Y<sup>1</sup>, Shimizu T, Kawahigashi Y<sup>1</sup>, Kanda T<sup>1</sup>, Arai M<sup>1</sup>, Tajiri T<sup>1</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : Efficiency of ERCP during laparoscopic cholecystectomy for common bile duct stone. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (Yokohama, Japan), 2008. 9.
- 7) Bando K<sup>1</sup>, Akimaru K<sup>1</sup>, Yoshida H<sup>1</sup>, Mamada Y, Taniai N<sup>1</sup>, Matsumoto S<sup>1</sup>, Mizuguchi Y<sup>1</sup>, Kakinuma D, Kanda T<sup>1</sup>, Tajiri T<sup>1</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : Current state of laparoscopic liver resection in cirrhotic patients in our hospital. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (Yokohama, Japan), 2008. 9.
- 8) Seya T, Tanaka N, Shinji S, Shirakawa T, Horiba K, Yokoi K, Ohaki Y<sup>1</sup>, Tajiri T<sup>2</sup> (1) Pathology, Chiba hokuso Hospital, Nippon Medical School, 2) Department of surgery) : Emmprin, Matrix Metalloproteinase-9 and Type IV Collagen Expression in Colorectal Cancer with Liver Metastasis. 16th United European Gastroenterology Week (Vienna, Austria), 2008. 10.
- 9) Takahashi G<sup>1</sup>, Yoshida H<sup>1</sup>, Mamada Y, Taniai N<sup>1</sup>, Bando K<sup>1</sup>, Mineta S<sup>1</sup>, Kawano Y<sup>1</sup>, Kanda T<sup>1</sup>, Ueda J<sup>1</sup>, Tajiri T<sup>1</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : Intracystic Hemorrhage of a Huge Simple Hepatic Cyst. Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association (2nd) (Bangkok, Thailand), 2009. 3.
- 10) Ueda J<sup>1</sup>, Yoshida H<sup>1</sup>, Mamada Y, Taniai N<sup>1</sup>, Bando K<sup>1</sup>, Mizuguchi Y<sup>1</sup>, Kawano Y<sup>1</sup>, Kakinuma D, Kanda T<sup>1</sup>, Kogo H<sup>1</sup>, Onda M<sup>2</sup>, Naito Z<sup>2</sup>, Hayashi H<sup>2</sup>, Kumita S<sup>3</sup>, Tajiri T<sup>1</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) Dept. of Pathology, 3) Dept. of Radiology) : Inflammatory Pseudotumor in the Liver Associated with Intrahepatic Bile Duct Stones Mimicking Malignancy . Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association (2nd) (Bangkok, Thailand), 2009. 3.
- 11) Yoshida H<sup>1</sup>, Mamada Y, Taniai N<sup>1</sup>, Mineta S<sup>1</sup>, Kawano Y<sup>1</sup>, Kanda T<sup>1</sup>, Ueda J<sup>1</sup>, Takahashi G<sup>1</sup>, Tajiri T<sup>1</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : Simultaneous Evaluation of Portal Hemodynamics and Liver Function by Scintiphotosplenoportography in Pediatric Recipients of Living-Donor Liver Transplants. Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association (2nd) (Bangkok, Thailand), 2009. 3.
- 12) 牧野浩司, 古川清憲, 大川敬一<sup>1</sup>, 勝田美和子, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川毅, 山田岳史, 工藤秀徳, 吉岡正人, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1</sup>, その他5名 (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : 食道癌に対するCDGPを用いた根治的CRTの効果と副作用. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 13) 山田岳史, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 牧野浩司, 堀場光二, 金沢義一, 白川



- 毅, 工藤秀徳, 吉岡正人, 進士誠一, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup>, その他1名<sup>(1)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): L-OHP低感受性大腸癌に対するCPT-11の効果. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 14) 吉岡正人, 古川清憲, 真々田裕宏, 金沢義一, 住吉宏樹, 田尻 孝<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 腎細胞癌の多発臓器転移に対して臓全摘出を行った1例. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 15) 進士誠一, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 真々田裕宏, 堀場光二, 牧野浩司, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 吉岡正人, 田尻 孝<sup>1)</sup>, その他3名<sup>(1)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): Invasive micropapillary carcinoma成分を伴った大腸癌の1例. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 16) 金沢義一, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 牧野浩司, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 吉岡正人, 進士誠一, 勝田美和子, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 大腸sm癌における内視鏡的切除後の外科的手術適応症例の検討. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 17) 真々田裕宏, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 坂東功一<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 吉岡正人, 古川清憲, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): A-Pシャントを伴う肝癌合併肝硬変の1切除例. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 18) 井内亜美: 黄疸で発症し, 中部胆管癌との鑑別に苦慮した術後5年経過胃癌再発例. 千葉胃癌研究会 (第28回), 2008. 5.
- 19) 瀬谷知子, 田中宣威, 進士誠一, 小泉岐博, 吉岡正人, 山田岳史, 金沢義一, 高橋由至, 堀場光二, 石川紀行, 横井公良, 古川清憲, 大秋美治<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 千葉北総病院 病理, <sup>2)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 大腸癌肝転移・肺転移症例におけるEMMPRIN, MMP-9, TypeIV collagenの発現. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 20) 進士誠一, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 真々田裕宏, 堀場光二, 牧野浩司, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 吉岡正人, 田尻 孝<sup>1)</sup>, その他5名<sup>(1)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 大腸低分化腺癌の免疫組織学的検討. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 21) 山田岳史, 古川清憲, 田中宣威, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 牧野浩司, 金沢義一, 白川 毅, 工藤秀徳, 吉岡正人, 富樫晃祥, 進士誠一, 田尻 孝, その他1名<sup>(1)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 大腸癌における5FU/CPT-11併用療法の効果に関する検討. 併用療法は相加的か?. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 22) 清水哲也, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 牧野浩司, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 沖野哲也, 富樫晃祥, 進士誠一, 田中宣威, その他6名: 腹壁瘻痕ヘルニア嵌頓による壊死性筋膜炎の救命し得た1例. 千葉重症感染症研究会 (第4回), 2008. 5.
- 23) 赤城一郎<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 高橋 健<sup>1)</sup>, 張 一光<sup>1)</sup>, 三嶋拓也<sup>2)</sup>, 瀧澤俊広<sup>2)</sup>, 渡邊直子<sup>3)</sup>, 牛島俊和<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), <sup>2)</sup> 付属病院 第一解剖, <sup>3)</sup> 国立がんセンター研究所 発がん研究部: 食道扁平上皮癌におけるPIKA3CA発現の意義. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 24) 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 坂東功一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): X線不透過マーカーによる肝切除後の腸管運動評価—大建中湯 (TJ-100) の有用性. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 25) 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 坂東功一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 食道胃静脈瘤破裂症例の検討: unti-ulcerdrugs. alcohol. NSAIDsとの相互関係を中心に. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 26) 勝田美和子, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 真々田裕宏, 牧野浩司, 堀場光二, 金沢義一, 白川

- 毅, 山田岳史, 工藤秀徳, 吉岡正人, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 腹腔内出血をきたした小腸GISTの1例. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 27) 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 松本智司<sup>1)</sup>, 坂東功一<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 肝癌診療ガイドラインにおいて腫瘍径3cmでの分類は妥当か?. 日本肝癌研究会 (第44回), 2008. 5.
- 28) 松田明久<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 古川清憲, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院 外科, 2) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 脂肪細胞機能と大腸癌術後感染性合併症. 日本Shock学会総会 (第23回), 2008. 5.
- 29) 松田明久<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 古川清憲, 鈴木英之<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院 外科, 2) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 脂肪細胞機能低下は術後感染症発症の独立した危険因子である. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 30) 牧野浩司, 古川清憲, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 大川敬一<sup>2)</sup>, 堀場光二, 萩原信敏<sup>2)</sup>, 高橋 健<sup>2)</sup>, 琴寄 誠<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>2)</sup>, 土屋喜一<sup>2)</sup>, 岩切勝彦<sup>3)</sup>, 田中由里子<sup>3)</sup>, 川見典之<sup>3)</sup>, 勝田美和子, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院 内科, 2) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 3) 付属病院 内科: 当院における食道癌化学療法・化学放射線療法の治療としての位置付けと方法. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 31) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 野村 務<sup>2)</sup>, 牧野浩司, 高橋 健<sup>2)</sup>, 赤城 一郎<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 坪井病院 外科, 2) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 放射線化学療法が有効であった進行食道小細胞癌 (内分泌細胞癌) の1例. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 32) 田中由理子<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 佐野弘仁<sup>1)</sup>, 川見典之<sup>1)</sup>, 琴寄 誠<sup>1)</sup>, 星原芳雄<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 牧野浩司, 野村 務<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 付属病院 消化器内科, 2) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): バルーン拡張術が有効であるアカラシア症例の特徴. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 33) 坂田義則<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 牧野浩司, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 上部消化管内視鏡と胸腔鏡を併用し切除しえた横隔膜上食道憩室の1例. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 34) 赤城一郎<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司, 野村 務<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 高橋 健<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 食道類基底細胞癌の2手術例. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 35) 野村 務<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>2)</sup>, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) 多摩永山病院外科: T1bNO食道表在癌に対する縦隔鏡補助下食道切除術の長期的予後. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
- 36) 坂東功一<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 真々田裕宏 (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 肝硬変合併肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除術の有用性. 日本肝臓学会総会 (第44回), 2008. 6.
- 37) 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 坂東功一<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): HCV陽性肝細胞癌に対する肝切除術の治療指針. 日本肝臓学会総会 (第44回), 2008. 6.
- 38) 進士誠一, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 小泉岐博, 大秋美治<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院 病理, 2) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 当院における大腸pMP癌症例の検討. 大腸癌研究会 (第69回), 2008. 7.
- 39) 山田岳史, 益田律子<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>2)</sup>, 澤谷 篤<sup>3)</sup>, 吉沢一巳<sup>4)</sup>, 木本陶子<sup>4)</sup>, 古川清憲, 田中宣威, 田尻 孝<sup>5)</sup> (1) 千葉北総病院 麻酔科, 2) 千葉北総病院 泌尿器科, 3) 千葉北総病院 メンタルヘルスケア科, 4) 千葉北

- 総病院 薬剤部, <sup>5)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 大腸癌終末期患者における予後予測 : 胃癌と比較して. 日本緩和医療学会学術大会 (第13回), 2008. 7.
- 40) 牧野浩司<sup>1)</sup>, 古川清憲, 大川敬一<sup>1)</sup>, 堀場光二, 勝田美和子<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), <sup>2)</sup> 坪井病院 外科) : CDGP, 5-FUを用いた食道癌の術前CRTの治療成績 : 副作用が少なく効果的な方法. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 41) 山田岳史, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 牧野浩司, 金沢義一, 白川 毅, 田中宣威, 田尻孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 緩和医療における外科医のかかわり : ツールの有効活用による緩和医療の一般化. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 42) 白川 毅, 古川清憲, 横井公良, 瀬谷知子, 真々田裕宏, 牧野浩司, 金沢義一, 山田岳史, 田中宣威, 田尻孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 高度進行胃癌に対するS1+CDDP併用化学療法後の胃切除手術の検討. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 43) 瀬谷知子, 田中宣威, 高橋由至, 進士誠一, 白川 毅, 横井公良, 古川清憲, 大秋美治<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 田尻孝<sup>3)</sup> (1) 千葉北総病院 病理, <sup>2)</sup> 第二病理, <sup>3)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 胃癌におけるlumicanの発現. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 44) 住吉宏樹, 古川清憲, 牧野浩司, 横井公良, 瀬谷知子, 山田岳史, 進士誠一, 松野邦彦, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : G-CSF産生上行結腸癌の1例. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 45) 松野邦彦, 古川清憲, 牧野浩司, 真々田裕宏, 白川 毅, 工藤秀徳, 進士誠一, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 穿孔性腹膜炎にて発症した空腸悪性T細胞リンパ腫の1例. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 46) 堀場光二, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 瀬谷知子, 真々田裕宏, 牧野浩司, 金沢義一, 白川 毅, 田尻孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : クロウン病及び潰瘍性大腸炎腸管におけるEMMPRINの免疫組織化学的検討. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 47) 進士誠一, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 瀬谷知子, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 金沢義一, 吉岡正人, 大秋美治<sup>2)</sup>, 田尻孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), <sup>2)</sup> 千葉北総病院 病理) : ガストリン産生肝腫瘍を合併しZollinger-Ellison症候群を呈したMEN1膵グルカゴノーマの1例. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 48) 坂東功一<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 谷信彦<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 平方敦史, 水口義昭<sup>1)</sup>, 柿沼大輔, 神田知洋<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 当科における腹腔鏡下肝切除術の現状と展望. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 49) 吉岡正人, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 古川清憲, 真々田裕宏, 岩本美樹, 田中宣威 (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 限局型原発性硬化性胆管炎の1切除例. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 50) 勝田美和子<sup>1)</sup>, 田中宣威, 古川清憲, 牧野浩司, 金沢義一, 吉岡正人, 進士誠一, 山下直行<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 坪井病院外科, <sup>2)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 胃切除後30年目に残胃癌により輸入脚症候群を呈した1例. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 51) 大川敬一<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司, 野村 務<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 古川清憲, 田中宣威, 田島廣之<sup>2)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), <sup>2)</sup> 付属病院 放射線科) : 食道癌肺転移に対するCTガイド下肺RFA (ラジオ波焼灼術) の治療経験. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 52) 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 秋谷行宏<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 古川清憲, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 5FUとCDDPを併用した術前化学放射線療法を行った下部直腸腺癌症例の検討. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 53) 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 古川清憲, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 秋谷行宏<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外

- 科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)：大腸癌術前診断における PET-CT の有用性. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 54) 富樫晃祥, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 山田岳史, 田中宣威, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)：肺繊維症を合併した超高齢者の胃穿孔に対して大網充填施行し, 術後の生検で胃癌穿孔と診断された1例. 潰瘍性病態研究会第17回フォーラム, 2008. 8.
- 55) 井内亜美, 古川清憲, 横井公良, 瀬谷知子, 真々田裕宏, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 山田岳史, 工藤秀徳, 沖野哲也, 平方敦史, 田中宣威, 大秋美治<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, その他6名 (1) 千葉北総病院 病理部, 2) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)：後腹膜原発extragastrintestinal stromal tumor (EGIST) の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第301回), 2008. 9.
- 56) 牧野浩司, 古川清憲, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 横井公良, 真々田裕宏, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 山田岳史, 田中宣威, 野村 務<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, その他3名 (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)：当院における胸腔鏡補助下食道癌手術. 日本内視鏡外科学会総会 (第21回), 2008. 9.
- 57) 成毛育恵<sup>1)</sup>, 古川清憲, 山田岳史, 岩本美樹 (1) 千葉北総病院 看護部)：乳房切除術クリニカルパスの検討. 日本乳癌学会学術総会 (第16回), 2008. 9.
- 58) 山田岳史, 古川清憲, 堀場浩司, 岩本美樹, 井内亜美, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)：センチネルリンパ節生検を施行した若年者線維腺腫内癌の1例. 日本乳癌学会学術総会 (第16回), 2008. 9.
- 59) 柳原恵子<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 野口智子<sup>1)</sup>, 古川清憲, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>2)</sup>, 土屋眞一<sup>3)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) 付属病院 放射線科, 3) 付属病院 病理部)：乳腺カルチノイド腫瘍の特徴. 日本乳癌学会学術総会 (第16回), 2008. 9.
- 60) 堀場光二, 古川清憲, 岩本美樹, 井内亜美：腰痛精査で発見, 化学療法後, ホルモン療法にてコントロールされている多発転移を有する若年乳癌の1例. 日本乳癌学会学術総会 (第16回), 2008. 9.
- 61) 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 牧野浩司, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 岩本美樹, 井内亜美, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)：MRI, PET-CTで乳房内腫瘍を検出し乳房温存術を行った潜在性乳癌の1例. 日本乳癌学会学術総会 (第16回), 2008. 9.
- 62) 岩本美樹, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 牧野浩司, 金沢義一, 山田岳史, 白川毅, 工藤秀徳, 成毛育恵<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院 看護部, 2) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)：当科におけるNO乳癌に対するセンチネルリンパ節生検の検討. 日本乳癌学会学術総会 (第16回), 2008. 9.
- 63) 神田知洋<sup>1)</sup>, 有馬保生<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也, 川東 豊<sup>1)</sup>, 重原健吾<sup>1)</sup>, 新井政男<sup>1)</sup>, 田尻孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)：胆嚢結石総胆管結石に対する術中内視鏡的結石除去術の有用性. 日本胆道学会学術集会 (第44回), 2008. 9.
- 64) 新井政男<sup>1)</sup>, 古谷政一<sup>2)</sup>, 清水康仁<sup>2)</sup>, 沖野哲也, 有馬保生<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 川東豊<sup>1)</sup>, 重原健吾<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 藤田俊郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) 筑西市市民病院外科)：肝膿瘍ドレナージカテーテルの断裂により肝内遺残となった1例. 日本胆道学会学術集会 (第44回), 2008. 9.
- 65) 川東 豊<sup>1)</sup>, 三島拓也<sup>2)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 有馬保生<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 清水哲也, 重原健吾<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 新井政男<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) 第1解剖)：ヒト正常胆管上皮細胞と肝内胆管癌細胞株における microRNA の発現プロファイル解析. 日本胆道学会学術集会 (第44回), 2008. 9.
- 66) 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 秋谷行宏<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 古川



- 清憲, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 蛋白漏出性胃腸症を伴い胃・大腸の多重癌を伴う多発性大腸腺腫に対し ESD と腹腔鏡補助下手術で治療した1例. 日本内視鏡外科学会総会 (第21回), 2008. 9.
- 67) 坂東功一<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 平方敦史, 川野陽一<sup>1)</sup>, 柿沼大輔, 神田知洋<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 腹腔鏡下肝切除術におけるデバイス使用の工夫. 肝臓内視鏡外科研究会 (第2回), 2008. 9.
- 68) 坂東功一<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 肝硬変合併症例に対する腹腔鏡下肝切除術の有用性. 日本内視鏡外科学会総会 (第21回), 2008. 9.
- 69) 飯田信也<sup>1)</sup>, 柳原恵子<sup>1)</sup>, 岩崎玲子<sup>1)</sup>, 栗田智子<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>2)</sup>, 土屋眞一<sup>3)</sup>, 古川清憲, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), <sup>2)</sup> 付属病院 放射線科, <sup>3)</sup> 付属病院 病理部: 当科における併用法センチネルリンパ節生検の検証. 日本乳癌学会学術総会 (第16回), 2008. 9.
- 70) 山田岳史, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 牧野浩司, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 工藤秀徳, 沖野哲也, 富樫晃祥, 進士誠一, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup>, その他1名 (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 大腸癌化学療法における効果予測: 5FU代謝関連酵素の活性値から5FUのAUCIR50が予測可能か?. 日本消化器病学会大会 (第50回), 2008. 10.
- 71) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 瀬谷知子, 真々田裕宏, 堀場光二, 牧野浩司, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 小泉岐博, 清水哲也, 大秋美治<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>, その他1名 (1) 坪井病院 外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院 病理, <sup>3)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 当院におけるStageIII結腸癌症例の検討. 日本消化器病学会大会 (第50回), 2008. 10.
- 72) 山田岳史, 古川清憲, 横井公良, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 大腸癌における5FU/L-OHP併用療法の効果に関する検討. 併用療法は相加的か?. 日本癌治療学会総会 (第46回), 2008. 10.
- 73) 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 秋谷行宏<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 古川清憲, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 下部直腸癌に対する5-FUとCCDP併用術前化学放射線療法の功罪. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第63回), 2008. 10.
- 74) 松本智司<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 秋谷行宏<sup>1)</sup>, 坂東功一<sup>1)</sup>, 柿沼大輔, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 大腸癌多発肝転移に対し, 経皮経肝の門脈塞栓術を用いた新たな治療戦略. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第63回), 2008. 10.
- 75) 鈴木英之<sup>1)</sup>, 古川清憲, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 進士誠一, 松田明久<sup>2)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), <sup>2)</sup> 多摩永山病院 外科: 肥満症例に対する腹腔鏡下大腸手術の成績. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第63回), 2008. 10.
- 76) 山田岳史, 古川清憲, 横井公良, 瀬谷知子, 金沢義一, 進士誠一, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 大腸癌におけるCPT-11, 5FU, LV併用療法の効果: in vitroにおける投与スケジュールによる抗腫瘍効果の違い. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第63回), 2008. 10.
- 77) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 瀬谷知子, 金沢義一, 山田岳史, 小泉岐博, 大秋美治<sup>2)</sup>, 田尻孝<sup>3)</sup> (1) 坪井病院 外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院 病理部, <sup>3)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 大腸内視鏡にて診断し得た直腸癌術後局所再発回腸浸潤による腸閉塞症の1例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第63回), 2008. 10.
- 78) 瀬谷知子, 田中宣威, 進士誠一, 小泉岐博, 高橋由至, 山田岳史, 白川 毅, 金沢義一, 堀場光二, 横井公良, 古川清憲, 大秋美治<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院 病理, <sup>2)</sup> 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 肺転移を有する大腸癌におけるEMMPRIN, MMP-9とtype IV collagenの発現. 日本癌学会学術総会 (第67回),



2008. 10.

- 79) 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>2)</sup>, 菅野仁士<sup>2)</sup>, 山田岳史, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 古川清憲, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 日本医科大学病院におけるS-1による胃癌術後補助化学療法における抗瘤剤感受性に関する臨床試験: 第3報. 日本癌治療学会総会 (第46回), 2008. 10.
- 80) 井内亜美, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 山田岳史, 進士誠一, 住吉宏樹, 松野邦彦, 岩本美樹, 大秋美治<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院 病理, 2) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): EBV発現が異なった胃2重癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 81) 山田岳史, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 工藤秀徳, 沖野哲也, 富樫晃祥, 清水哲也, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 緩和ケアチームの役割: クリニカルパスとマニュアルを整備し, 主治医との連携を改善する. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 82) 白川 毅, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 牧野浩司, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 工藤秀徳, 沖野哲也, 富樫晃祥, 進士誠一, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 当院における早期胃癌治療に対する腹腔鏡補助下幽門側胃切除術の位置づけ. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 83) 住吉宏樹, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 牧野浩司, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 沖野哲也, 富樫晃祥, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 当科における再発兎径ヘルニアの再発形式と術式の検討. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 84) 松野邦彦, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 真々田裕宏, 堀場光二, 牧野浩司, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 沖野哲也, 富樫晃祥, 進士誠一: 真性多血症に合併した胆石症の1手術例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 85) 瀬谷知子, 田中宣威, 進士誠一, 白川 毅, 山田岳史, 高橋由至, 金沢義一, 堀場光二, 牧野浩司, 真々田裕宏, 横井公良, 古川清憲, 大秋美治<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup> (1) 千葉北総病院 病理, 2) 付属病院 第二病理, 3) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 肛門類基底細胞癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 86) 岩本美樹, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 牧野浩司, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 沖野哲也, 富樫晃祥, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 乳癌治療の標準化と個別化: クリニカルパスを用いて. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 87) 山田岳史, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 金沢義一, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): クレアチニンクリアランスと術後感染症予防薬の投与量. 日本外科感染症学会総会 (第21回), 2008. 11.
- 88) 岩本美樹, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 牧野浩司, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 沖野哲也, 富樫晃祥, 清水哲也, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 腹壁癒痕ヘルニア嵌頓により腹壁の広範な壊死性筋膜炎を来した症例. 日本外科感染症学会総会 (第21回), 2008. 11.
- 89) 吉岡正人<sup>1)</sup>, 吉村和泰<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 吉安正行<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 金沢義一, 古川清憲, 田中宣威, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 博慈会記念総合病院外科, 2) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 臍頭十二指腸切除における臍液瘻および動脈性出血を防ぐ工夫. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 90) 松田明久<sup>2)</sup>, 古谷政一<sup>3)</sup>, 清水康仁<sup>3)</sup>, 沖野哲也, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 宮本昌之<sup>2)</sup>, 渡邊秀裕<sup>2)</sup>, 丸山 弘<sup>2)</sup>, 横山正<sup>2)</sup>, 鈴木成治<sup>2)</sup>, 松谷 毅<sup>2)</sup>, 杉浦 篤<sup>2)</sup>, 柳 健<sup>2)</sup>, 松下 晃<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) 多摩永山病院 外科, 3) 筑西市民病院外科): 腸閉塞症例に対する Gastrografin の消

- 化管内投与にて尿路系が抽出された1例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 91) 坂東功一<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 腹腔鏡下肝切除術における肝切離の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 92) 坂東功一<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): この症例をどうする: 腹腔鏡下切除術における肝切離の工夫. 日本肝臓学会東部会 (第37回), 2008. 12.
- 93) 吉岡正人<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 横井公良, 古川清憲, 田中宣威, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 博慈会記念総合病院 外科, 2) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 小腸浸潤, 転移を来した大腸癌肝転移の1例. 日本肝臓学会東部会 (第37回), 2008. 12.
- 94) 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 坂東功一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 画像的に稀な形態を呈していた出血性肝嚢胞の1例. 日本肝臓学会東部会 (第37回), 2008. 12.
- 95) 関 奈紀<sup>1)</sup>, 坂東功一<sup>1)</sup>, 平方敦史, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 川東 豊<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 吉田寛<sup>1)</sup>, 有馬保生<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 急性胆嚢炎術後短期間に急激な増大を認めた肝内胆管癌の1例. 日本肝臓学会東部会 (第37回), 2008. 12.
- 96) 白川 毅, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 工藤秀徳, 沖野哲也, 平方敦史, 富樫晃祥, 清水哲也, 柿沼大輔, 田中宣威, その他4名: 当院での早期胃癌に対する腹腔鏡補助下幽門側胃切除術 (LADG) の適応. 千葉内視鏡外科研究会 (第14回) (旧 千葉胸・腹腔鏡下手術研究会), 2009. 1.
- 97) 山田岳史, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 金沢義一, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 胃癌大腸癌における予後予測ツールPPIの有用性. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 98) 野村 務<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 古川清憲, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 外傷の既往のないS字状結腸Seromuscular tearの1例. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 99) 工藤秀徳, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 術前診断し得た閉鎖孔ヘルニアの1例. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 100) 牧野浩司<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>2)</sup>, 川見典之<sup>2)</sup>, 古川清憲, 琴寄誠<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) 付属病院 内科, 3) 千葉北総病院 内科): 食道癌診療における細径・経鼻内視鏡の治療前, 術後, 超音波内視鏡などの多様な有用性の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 101) 関 奈紀<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 吉田 弘<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 川東 豊<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 山口英宣<sup>2)</sup>, 福永 毅<sup>2)</sup>, 村田 智<sup>2)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) 付属病院 放射線科): 左胃動脈瘤破裂による腹腔内出血に対しn-butyl-cyanoacrylate止血術にて治癒した1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第303回), 2009. 2.
- 102) 山田岳史, 古川清憲, 金沢義一, 白川 毅, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 胃癌におけるlumicanの発現PTXの効果: 5FUおよびIrinotecanの効果との相関. 日本胃癌学会総会 (第81回), 2009. 3.
- 103) 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>2)</sup>, 菅野仁士<sup>2)</sup>, 山田岳史, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 坊英樹<sup>1)</sup>, 栗原雄司<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院 消化器センター, 2) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験. 日本胃癌学

会総会（第81回），2009. 3.

- 104) 金沢義一，古川清憲，山田岳史，白川 毅，田中宣威，田尻 孝<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 外科学（消化器・一般・乳腺・移植部門））：幽門側胃切除後再建（Roux-en Y）の検討．日本胃癌学会総会（第81回），2009. 3.
- 105) 原絵津子，古川清憲，横井公良，真々田裕宏，瀬谷知子，堀場光二，金沢義一，山田岳史，白川 毅，工藤秀徳，沖野哲也，平方敦史，富樫晃祥，田中宣威，田尻 孝<sup>1)</sup>，その他2名（<sup>1)</sup> 外科学（消化器・一般・乳腺・移植部門））：虫垂憩室穿孔の1例．日本腹部救急医学会総会（第45回），2009. 3.
- (9) ミニシンポジウム：
- 1) 坂東功一<sup>1)</sup>，秋丸琥甫<sup>1)</sup>，吉田 寛<sup>1)</sup>，真々田裕宏，谷合信彦<sup>1)</sup>，松本智司<sup>1)</sup>，水口義昭<sup>1)</sup>，柿沼大輔<sup>1)</sup>，神田知洋<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 外科学（消化器・一般・乳腺・移植部門））：当院における腹腔鏡下肝切除術の現状．日本肝胆膵外科学会・学術集会（第20回），2008. 5.
- 2) 横室茂樹<sup>1)</sup>，清水哲也，有馬保生<sup>1)</sup>，水口義昭<sup>1)</sup>，川東 豊<sup>1)</sup>，神田知洋<sup>1)</sup>，吉田 寛<sup>1)</sup>，谷合信彦<sup>1)</sup>，重原健吾<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 外科学（消化器・一般・乳腺・移植部門））：腹腔鏡下胆嚢摘出術の術中，術後に診断されたss胆嚢癌症例の検討．日本肝胆膵外科学会・学術集会（第20回），2008. 5.
- (10) 要望演題：
- 1) 松田明久<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，宮下正夫<sup>2)</sup>，古川清憲，田尻 孝<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 多摩永山病院 外科，<sup>2)</sup> 外科学（消化器・一般・乳腺・移植部門））：肥満関連 mediator と SSI 発症との関係．日本消化器外科学会総会（第63回），2008. 7.

## 10. 外科学講座（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）

[付属病院内分泌外科，心臓血管外科，呼吸器外科・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科]

### 研究概要

外科学当講座は付属病院外科，武蔵小杉病院心臓血管・呼吸器・乳腺内分泌外科，千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科，多摩永山病院呼吸器外科の各施設において教育，研究，診療を担っている。付属病院外科では，以下の項目を重点的に研究している。(1) 心臓血管外科部門では，冠動脈バイパス術・後天性弁膜疾患・先天性心疾患・胸部および腹部大動脈瘤・末梢血管疾患・不整脈等年間600例以上の手術を行っている。虚血性心疾患外科治療，心房細動を中心とした不整脈外科，心筋保護法，小児開心術術式等に関する研究を主体としている。胸部大動脈瘤手術成績や末梢血行再建術式に関する研究にも積極的に取り組んでいる。(2) 呼吸器外科領域では，肺癌外科治療を中心に年間約200例の手術を施行している。肺癌では1994年より低侵襲性手術である胸腔鏡補助下手術を他に先駆けて導入し高齢者，低身体機能を有する予備力低下症例に応用し良好な成果をあげ，国内外で評価を受けている。併せて分子生物学，遺伝子解析による肺癌に対するオーダーメイド治療などの研究に国内外で従事している。さらに肺縦隔良性疾患，多汗症などの機能的疾患には胸腔鏡下手術による短期入院での治療を実施し，社会的に貢献している。(3) 内分泌外科領域では，甲状腺，副甲状腺，副腎および乳腺疾患を対象に年間300例以上の手術を行っている。1998年から内視鏡下手術として，副腎はもとより甲状腺，副甲状腺腫瘍摘出術に新しい術式のVideo-assisted neck surgery (VANS法)を国内外で最も早く取り組み，高度先進医療として国から許可されている。全国各地からの紹介患者も多く，また，海外からの評価も高く，国際学会での発表，ライブ手術も頻回に行っている。さらには，分子生物学的研究を中心に基礎研究も積極的に行っている。

### 研究業績

#### 論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Haraguchi S, Fukuda Y : Histogenesis of abnormal elastic fibers in blebs and bullae of patients with spontaneous pneumothorax : Ultrastructural and immunohistochemical studies. Acta Pathol Jpn 1993 ; 43 : 709-722.
- 2) Haraguchi S, Koizumi K, Hatori N, Akiyama H, Mikami I, Kubokura H, Tanaka S : Prediction of postoperative pulmonary function and complication rate in elderly patients ; Postoperative complications in the elderly. Surgery Today 2001 ; 31 : 860-865.
- 3) Haraguchi S, Koizumi K, Hatori N, Hioki M, Yamashita K, Akiyama H<sup>1)</sup>, Hirata T, Hirai K, Mikami I, Kubokura H, Tanaka S (1) Saitama Cancer Center) : Postoperative respiratory complications of video-assisted thoracic surgery for lung cancer. J Nippon Med Sch 2004 ; 71 : 30-34.
- 4) Haraguchi S, Hioki M, Hisayoshi T, Yamashita K, Yamashita Y, Kawamura J, Hirata T, Yamagishi S, Koizumi K, Shimizu K : Resection of sternal tumors and reconstruction of the thorax : a review of 15 patients. Surgery Today 2006 ; 36 : 225-229.
- 5) Haraguchi S, Koizumi K, Hioki M, Hirata T, Hirai K, Mikami I, Kubokura H, Enomoto Y, Kinoshita H, Shimizu K : Analysis of risk factors for postoperative bronchopleural fistulas in patients with lung cancer. J Nippon Med Sch 2006 ; 73 : 314-319.

- 6) Haraguchi S, Hioki M, Yamashita K, Orii K, Yamashita Y, Kawamura J, Takushima M, Endo N, Koizumi K, Shimizu K : Ciprofloxacin penetration into the pulmonary parenchyma in Japanese patients. *Surgery Today* 2007 ; 37 : 282-284.
- 7) Haraguchi S, Hioki M, Koizumi K, Hisayoshi T, Hirata T, Akiyama H, Hirai K, Mikami I, Kubokura H, Shimizu K : Characteristics by gender in multiple primary malignancies associated with lung cancer. *Respiration* 2007 ; 74 : 192-195.
- 8) Ishii Y, Sakamoto S, Kronengold R, Virmani R, Rivera E, Goldman S, Prechtel E, Hill J, Damiano R <sup>(1)</sup> (Washington University School of Medicine) : A Novel Bio-engineered Small Caliber Vascular Graft Incorporating Heparin and Sirolimus : Excellent 6 Month Patency. *J Thorac Cardiovasc Surg* 2008 ; 135 (6) : 1237-46.

追加症例報告 :

- 1) Haraguchi S, Koizumi K, Akiyama H, Fukushima M, Nishina D, Tanaka S : Video-assisted thoracoscopic excision of a benign mesothelioma of pleura. *Jpn J Thorac Cardiovasc Surg* 1998 ; 46 : 664-666.
- 2) Haraguchi S, Fukuda Y, Sugisaki Y, Yamanaka N : Pulmonary carcinosarcoma : Immunohistochemical and ultrastructural studies. *Pathology International* 1999 ; 49 : 903-908.
- 3) Haraguchi S, Hioki M, Yamashita K, Orii K, Matsumoto K, Shimizu K : Sternal resection for metastasis from thyroid carcinoma and reconstruction with the sandwiched Marlex and stainless steel mesh. *Jpn J Thorac Cardiovasc Surg* 2004 ; 52 : 209-212.
- 4) Haraguchi S, Hioki M, Yamashita K, Yamashita Y, Matsumoto K, Shimizu K : Large anomalous systemic arterial supply to basal segments of the left lung. *Jpn J Thorac Cardiovasc Surg* 2004 ; 52 : 395-397.
- 5) Haraguchi S, Hioki M, Yamashita K, Orii K, Matsumoto K, Shimizu K : Metastasis to the thyroid from lung adenocarcinoma mimicking thyroid carcinoma. *Jpn J Thorax Cardiovasc Surg* 2004 ; 52 : 352-356.
- 6) Haraguchi S, Hioki M, Hisayoshi T, Yamashita K, Koizumi K, Shimizu K : Resection of sternal metastasis from endometrial carcinoma followed by reconstruction with sandwiched marlex and stainless steel mesh : report of a case. *Surgery Today* 2006 ; 36 : 184-186.
- 7) Haraguchi S, Hioki M, Takushima M, Yanagimoto K, Koizumi K, Shimizu K : Metastatic chest wall tumor suspected to be of lung origin by immunoreactivity for cytokeratin 7 and 20. *Jpn J Thorac Cardiovasc Surg* 2006 ; 54 : 132-136.
- 8) Haraguchi S, Hioki M, Hisayoshi T, Yamashita K, Sato M, Koizumi K, Shimizu K : Enucleation of esophageal leiomyoma with azygos continuation of the inferior vena cava : Report of a case. *Surgery Today* 2006 ; 36 : 722-726.
- 9) 原口秀司, 仁科 大, 岡田大輔, 飯田竹美, 福島光浩, 秋山博彦, 小泉 潔, 田中茂夫 : 肺尖部胸壁浸潤肺癌の治療経験. *日医大誌* 1997 ; 64 : 184-186.
- 10) 原口秀司, 山本光伸, 西村仁志 : 気管グロムス腫瘍の1切除例. *日本胸部外科学会雑誌* 1991 ; 39 : 408-415.
- 11) 原口秀司, 田中茂夫, 小泉 潔, 塩田晶彦, 保坂浩希, 川本雅司 : 肺癌と鑑別困難であった肺梗塞の1切除例. *日本胸部外科学会雑誌* 1995 ; 43 : 1208-1212.
- 12) 原口秀司, 檜山和弘, 見城正剛, 飯田竹美, 福島光浩, 岩城秀行, 三上 巖, 秋山博彦, 五味測誠, 小泉 潔, 田中茂夫 : 肋骨に発生した動脈瘤様骨嚢腫の1切除例. *胸部外科* 1995 ; 48 : 1147-1149.
- 13) 原口秀司, 小泉 潔, 秋山博彦, 三上 巖, 福島光浩, 飯田竹美, 藤井正大, 佐藤泰雄, 鈴木世考, 田中茂夫 : 肺ノカルジア症の合併が疑われた気管支結石症の1手術例. *日本呼吸外科学会雑誌* 1997 ; 11 : 95-99.
- 14) 原口秀司, 小泉 潔, 飯田竹美, 川島徹生, 田中茂夫 : 骨転移を疑った胸囲結核の1切除例. *日本胸部臨床* 1997 ; 56 : 774-776.



- 15) 原口秀司, 小泉 潔, 秋山博彦, 福島光浩, 仁科 大, 田中茂夫: 右肺尖部胸壁浸潤肺癌における鎖骨下動静脈の切除再建法. 日本呼吸器外科学会雑誌 1998 ; 補遺 : 78-82.

追加分総説 :

- 1) 久保田憲<sup>1)</sup>, 石川直文<sup>2)</sup>, 小澤安則<sup>3)</sup>, 清水一雄 ( <sup>1)</sup> 東京都立駒込病院内分泌代謝科 部長, <sup>2)</sup> 石川内科クリニック 院長, <sup>3)</sup> 虎の門小澤クリニック 院長) : 甲状腺疾患における診療スタンダードと新たなチャレンジ. 内科 2007 ; 100 ( 5 ) : 923-935.
- 2) 原口秀司, 小泉 潔, 谷村繁雄, 平田知己, 平井恭二, 窪倉浩俊, 日置正文, 清水一雄 : 原発性自然気胸に対する胸腔鏡下手術. 内視鏡外科学会雑誌 2007 ; 12 : 483-491.

(1) 原著 :

- 1) Haraguchi S, Koizumi K, Hioki M, Hisayoshi T, Hirata T, Shimizu K : Hereditary factors in multiple primary malignancies associated with lung cancer. *Surgery Today* 2007 ; 74 : 192-195.
- 2) Haraguchi S, Koizumi K, Hioki M, Orii K, Kinoshita H, Endo N, Tomita T, Hoshina H : Postoperative pneumothorax recurrences in video-assisted thoracoscopic surgery for primary spontaneous pneumot. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 ( 2 ) : 91-95.
- 3) Yamashita K, Shimizu K : Trans-axillary retro-mammary gland route approach of video-assisted breast surgery can perform breast conserving surgery for cancers even in inner side of the breast. *Chinese Medical Journal* 2008 ; 121 ( 20 ) : 1960-1964.
- 4) Ishii Y, Nitta T, Kambe M, Kurita J, Ochi M, Miyauchi Y, Shimizu K : Intraoperative verification of conduction block in atrial fibrillation surgery. *J Thorac Cardiovasc Surg* 2008 ; 136 : 998-1004.
- 5) Yamashita K, Shimizu K : Trans-Axillary Retro-Mammary Route Approach of Video-Assisted Breast Surgery Enable The Inner-Side Breast Cancer To Be Resected For Breast Conserving Surgery. *The American Journal of Surgery* 2008 ; 196 ( 4 ) : 578-581.
- 6) Shimizu A<sup>1)</sup>, Nitta T<sup>1)</sup>, Kurita T<sup>1)</sup>, Imai K<sup>1)</sup>, Kimura T<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Soejima K<sup>1)</sup>, Niwano S<sup>1)</sup>, Watanabe S<sup>1)</sup>, Abe H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Japanese Heart Rhythm Society ICD committee) : Current status of implantable defibrillator devices in patients with left ventricular dysfunction : The first report from the online registry database. *Journal of Arrhythmia* 2008 ; 24 ( 3 ) : 133-140.
- 7) 丸山雄二, Chambers JD<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayne Institute ( King' s College London) , Guy' s and St Thomas' Hospital) : Myocardial protection : efficacy of a novel magnesium-based cardioplegia ( RS-C) compared to St Thomas' Hospital cardioplegic solution. *Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery* 2008 ; 7 ( 5 ) : 745-749.
- 8) Miyagi Y, Ishii Y, Nitta T, Ochi M, Shimizu M : Electrophysiological and Histological Assessment of Transmurality after Epicardial Ablation Using Unipolar Radiofrequency Energy. *J Card Surg* 2009 ; 24 : 34-40.
- 9) Yamashita K, Shimizu K : Evaluation of Only Sentinel Lymph Node Metastasis guided by 3D-CT Lymphography in Video-assisted Breast Surgery ( VABS). *Surgical Endoscopy* 2009 ; 23 ( 3 ) : 633-640.
- 10) Yamashita K, Shimizu K : Video-Assisted Breast Surgery can Sample the Second and Third Sentinel Nodes to Omit Axillary Node Dissection for Sentinel Node Positive Patients. *Surgical Endoscopy* 2009.
- 11) Masaru K<sup>1)</sup>, Bessho R<sup>1)</sup>, Fujii M<sup>1)</sup>, Ochi M<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biological Regulation and Regenerative Surgery, Nippon Medical School Graduate School of Medicine) : Sivelestat reduces myocardial ischemia and reperfusion injury in rat hearts even when administered after onset of myocardial ischemia. *European Journal of Cardio-Thoracic Surgery (Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery)* 2009.

- 12) 原口秀司, 小泉 潔, 五味測誠, 松島伸治, 真崎義隆, 秋山博彦, 三上 巖, 福島光浩, 飯田竹美, 田中茂夫: 肺癌に対する肺切除後気管支断端瘻の危険因子に関する検討. 日本胸部外科学会雑誌 1996 ; 44 : 1835-1839.
- 13) 原口秀司, 尾関雄一, 桑原元尚, 佐藤光春, 出口博之, 丸井 努, 近藤伸彦, 田中 勸, 小泉 潔, 三上 巖, 窪倉浩俊: プレブ発生, 組織構築に関する病理組織学的検討: MMP-1, MMP-2, TIMP-2の局在について. 気胸 1998 ; 1 : 99-101.
- 14) 原口秀司, 日置正文, 山下浩二, 織井恒安, 山下康夫, 川村 純, 宅島美奈, 遠藤直哉, 小泉 潔, 清水一雄: 日本人におけるシプロフロキサシン点滴静注時の肺組織移行性. 日本臨床外科学会雑誌 2006 ; 67 : 277-280.
- 15) 五十嵐健人, 赤須東樹, 軸菌智雄, 岡村律子, 清水一雄: 吊り上げ法を用いた内視鏡補助下甲状腺手術: 悪性甲状腺腫に対する適応と現状. 日本内視鏡外科学会雑誌 2008 ; 13 (3) : 283-287.
- (2) 座談会:
- 1) 新田 隆, Jeffrey K<sup>1)</sup>, 南方謙二<sup>2)</sup> (1) University of Connecticut School of Medicine, Hartford Hospital, (2) 医療法人寿会富永病院心臓病センター): 心臓手術後心房性頻拍の予防と管理. 新薬と臨牀 2009 ; 58 (3) : 315-325.
- (3) 総説:
- 1) 清水一雄: 本学における前期, 後期研修医の動向をみて感じること. 日医大医会誌 2008 ; 4 (2) : 64-65.
- 2) 清水一雄: 甲状腺疾患に対する内視鏡下手術: われわれはこうしている: 甲状腺内視鏡 (補助下) 手術の現状と展望. 日本内視鏡外科学会雑誌 2008 ; 13 (3) : 263-264.
- 3) 清水一雄, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, 軸菌智雄, ヘイムス規予美: 甲状腺・副甲状腺手術後のドレナージ. 手術 2008 ; 62 (11) : 1497-1502.
- 4) 高須信行<sup>1)</sup>, 吉村 弘<sup>2)</sup>, 清水一雄 (1) 琉球大学医学部第二内科教授, (2) 伊藤病院内科部長): パセドウ病治療の最前線. カレントセラピー 2009 ; 27 (2) : 106-112.
- 5) 清水一雄: 特集: 内分泌・甲状腺外科専門医制度: スタートした専門医制度の詳細. 内分泌外科 2009 ; 26 (1) : 28-32.
- 6) 清水一雄: 試験問題: 問題作成委員会の設置から問題内容の概要まで. 内分泌外科 2009 ; 26 (1) : 28-32.
- (4) 症例報告:
- 1) 丸山雄二, 山内茂生, 井村 肇, 坂本俊一郎, 落 雅美, 清水一雄: Nonocclusive Mesenteric Ischemia after Aortic Surgery in a Hemodialysis Patient. Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2008 ; 14 (2) : 129-132.
- 2) Yoshino N<sup>1)</sup>, Kubokura H<sup>1)</sup>, Shigeo Y<sup>2)</sup>, Ohaki Y<sup>3)</sup>, Koizumi K<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup> (1) Division of Thoracic Surgery, Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, (2) Department of Thoracic Surgery, Shirakawa Hospital, Shirakawa, (3) Department of Pathology, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, Inba-gun): A True Pulmonary Carcinosarcoma that Required Diagnostic Differentiation from Pleomorphic Adenoma: A Case Report. Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2009 ; 15 (1) : 42-45.
- 3) 吉野直之, 山岸茂樹, 岡田大輔, 窪倉浩俊, 三上 巖, 平田知己, 小泉 潔, 清水一雄: 胸腺摘出術を契機に診断されたBasedow病の1例. 日医大医会誌 2008 ; 4 (2) : 115-117.
- (5) Editorial:
- 1) Nitta T : A less invasive examination for atrial tachycardias after surgery for congenital heart disease. Circ J 2009 ; 73 (3) : 430-431.
- (6) Invited commentary:
- 1) Nitta T : Invited commentary to Ann Thorac Surg Li et al. 2008 ; 86 : 1219-26. Ann Thorac Surg 2008 ;

86 (4) : 1225-1226.

(7) 研究報告書 :

- 1) 奥村 謙<sup>1)</sup>, 安部治彦<sup>2)</sup>, 小川 聡<sup>3)</sup>, 笠貫 宏<sup>4)</sup>, 鎌倉史郎<sup>5)</sup>, 住友直方<sup>6)</sup>, 新田 隆, 野島俊雄<sup>7)</sup>, 堀江正知<sup>2)</sup>, 松崎益徳<sup>8)</sup>, 山口 巖<sup>9)</sup>, 江島浩一郎<sup>4)</sup>, 金丸 浩<sup>6)</sup>, 菅野重人, 佐々木真吾<sup>1)</sup>, その他7名 ( <sup>1)</sup> 弘前大学, <sup>2)</sup> 産業医科大学, <sup>4)</sup> 東京女子医科大学, <sup>5)</sup> 国立循環器病センター, <sup>6)</sup> 日本大学, <sup>7)</sup> 北海道大学, <sup>8)</sup> 山口大学, <sup>9)</sup> 筑波大学) : 循環器病の診断と治療に関するガイドライン (2006-2007年度合同研究班報告) : ペースメーカー, ICD, CRTを受けた患者の社会復帰・就学・就労に関するガイドライン. Circ J 2008 ; 72 : 1133-1192.

著 書

- 1) 石井庸介, 新田 隆 : [分担] 心房細動の外科治療. 新・心臓病診療プラクティス 13 不整脈を診る・治す (青沼和隆, 松崎益徳), 2009 ; pp271-77, 文光堂.
- 2) Yamashita K : [共著] 3D-CT Lymphography for Mapping Metastatic Breast Sentinel Node and Axillary Nodes. "From Local Invasion to Metastatic Cancer : Involvement of Distant Sites through the Lymphovascular System" (Stanley Leong), 2009 ; The Humana Press, Springer.
- 3) 落 雅美 : [共著] 冠動脈バイパス術前後の画像診断に外科医は何を求めるか?. 心臓血管画像MOOK2 ; pp100-103, 産業開発機構株式会社.
- 4) 原口秀司 : [分担] 主な呼吸器疾患とその診察・外科的治療の適用となる主な疾患とその治療法. 新体系看護学5, 疾病の成り立ちと回復の促進, 呼吸器疾患/腎疾患 (工藤翔二, 山田 明), 2002 ; pp154-178, メヂカルフレンド社.
- 5) 原口秀司 : [分担] 呼吸器疾患の主な治療法. 新体系看護学全書15 (工藤翔二), 2007 ; pp91-101, メヂカルフレンド社.
- 6) 原口秀司 : [分担] 外科的治療の適用となる主な疾患とその治療法. 新体系看護学全書15 (工藤翔二), 2007 ; pp211-233, メヂカルフレンド社.
- 7) 新田 隆, 石川利之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 横浜市立大学) : [監修] 2008-2009 Data Book ペースメーカー ICD CRT (須磨幸蔵, 田中茂夫), 2008.
- 8) 新田 隆 : [分担] 不整脈手術 : 心室頻拍手術. 心臓血管外科テクニク III 冠動脈・心筋疾患編 (四津良平, 松居喜郎), 2009 ; pp186-190, メディカ出版.
- 9) 新田 隆, 石井庸介, 坂本俊一郎 : [分担] 最近の不整脈外科治療. Annual Review 2009 循環器 (山口 徹, 高本真一, 中澤 誠, 小室一成), 2009 ; pp216-223, 中外医学社.
- 10) 清水一雄 : [分担] 9. クッシング症候群. 経静脈治療オーダーマニュアル (小川 龍, 島崎修次, 飯野靖彦, 五十嵐隆, 福島亮治), 2009 ; pp314-318, メディカルレビュー社.
- 11) 新田 隆 : [分担] B. 非薬物療法 5) 外科療法. 不整脈クリニカルプラクティス (井上 博, 山下武志), 2009 ; pp123-128, 南江堂.
- 12) 新田 隆 : [分担] 心房細動の手術. 図説成人心臓外科「手術を究める」II 弁膜症の外科/冠動脈の外科 (川副浩平), 2009 ; pp94-105, メジカルビュー.

学会発表

[追加分]

追加分シンポジウム :

- 1) 原口秀司, 小泉 潔, 平井恭二, 福島光浩, 岡田大輔, 天神敏博, 田中茂夫 : 肺癌胸腔鏡下手術の予後について. 日本内視鏡外科学会総会 (第14回), 2001. 9.

追加分セミナー：

- 1) 石井庸介, 新田 隆, 別所竜蔵, 清水一雄：術後心房細動・心房頻拍について. 日本心臓血管外科学会 (第38回), 2008. 2.

追加分一般講演：

- 1) 原口秀司, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 山下浩二, 日置正文, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 山岸茂樹, 清水一雄：異時性多発肺癌切除例の臨床的検討. 日本肺癌学会総会 (第44回), 2003. 10.
- 2) 原口秀司, 小泉 潔, 谷村繁雄, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 窪倉浩敏, 山岸茂樹, 川島徹夫, 吉野直之, 木下裕康, 中島由貴, 日置正文, 清水一雄：閉塞性肺炎合併肺癌の外科治療について. 日本呼吸器外科学会総会 (第24回), 2007. 5.
- 3) 原口秀司, 西村仁志, 山本光伸<sup>(1)</sup> 埼玉県立がんセンター)：再発胸腺腫2例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第67回), 1988. 9.
- 4) 原口秀司, 西村仁志, 山本光伸, 出雲俊之, 高山昇二郎<sup>(1)</sup> 埼玉県立がんセンター)：気管グロムス腫瘍の1切除例. 日本肺癌学会関東部会 (第93回), 1988. 12.
- 5) 原口秀司, 西村仁志, 山本光伸, 出雲俊之, 高山昇二郎<sup>(1)</sup> 埼玉県立がんセンター)：肺癌肉腫の1切除例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第69回), 1989. 2.
- 6) 原口秀司, 田中茂夫, 小泉 潔, 塩田晶彦, 川本雅司, 保坂浩希, 井村 肇, 別所竜蔵, 大久保直子, 山田研一, 秋山博彦, 真崎義隆：喀痰細胞診でクラス4, 5腺癌と診断された肺梗塞の1例. 外科集談会 (第734回), 1989. 9.
- 7) 原口秀司, 田中茂夫, 五味測誠, 小泉 潔, 塩田晶彦, 川本雅司, 井村 肇, 大久保直子, 山田研一, 秋山博彦, 庄司 佑：高IgE症候群に伴った多発性肺膿瘍に対する外科治療の経験. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第72回), 1989. 12.
- 8) 原口秀司, 小泉 潔, 五味測誠, 松島伸治, 塩田晶彦, 川本雅司, 真崎義隆, 師田哲郎, 井村 肇, 田中茂夫, 庄司 佑：pT1N2症例の外科的治療の検討. 日本呼吸器外科学会総会 (第7回), 1990. 5.
- 9) 原口秀司, 田中茂夫, 五味測誠, 小泉 潔, 塩田晶彦, 佐々木建志, 川本雅司, 井村 肇, 庄司 佑：食道平滑筋腫の1例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第74回), 1990. 6.
- 10) 原口秀司, 田中茂夫, 五味測誠, 松島伸治, 小泉 潔, 塩田晶彦, 川本雅司, 師田哲郎, 真崎義隆, 大久保直子, 庄司 佑：外科治療をおこなった若年者肺癌11例の検討. 日本肺癌学会総会 (第31回), 1990. 10.
- 11) 原口秀司, 田中茂夫, 五味測誠, 小泉 潔, 塩田晶彦, 杉本忠彦, 師田哲郎, 山田研一, 秋山博彦, 庄司 佑：転位気管支を伴う原発性肺癌の1例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第76回), 1990. 12.
- 12) 原口秀司, 田中茂夫, 松島伸治, 五味測誠, 小泉 潔, 塩田晶彦, 真崎義隆, 井村 肇, 山田研一, 庄司 佑：肺癌外科治療における術中血行動態の変動に関する検討. 日本呼吸器外科学会総会 (第8回), 1991. 5.
- 13) 原口秀司, 田中茂夫, 池下正敏, 五味測誠, 小泉 潔, 塩田晶彦, 井村 肇, 山田研一, 秋山博彦, 庄司 佑：肋骨から発生したと思われる動脈瘤様骨嚢腫の1切除例. 外科集談会 (第741回), 1991. 6.
- 14) 原口秀司, 田中茂夫, 五味測誠, 小泉 潔, 塩田晶彦, 真崎義隆, 山田研一, 秋山博彦, 大久保直子, 庄司 佑：高齢者肺癌の手術成績と合併症. 日本肺癌学会総会 (第32回), 1991. 10.
- 15) 原口秀司, 福田 悠, 山中宣昭：気腫性肺嚢胞 (ブラ, プレブ) の弾性線維障害. 日本病理学会総会 (第81回), 1992. 5.
- 16) 原口秀司, 福田 悠, 山中宣昭, 庄司 佑：肺ブラ・プレブの弾性線維障害. 日本医科大学医学会総会 (第60回), 1992. 9.
- 17) 原口秀司, 福田 悠：肺ブラ・プレブの弾性線維障害. 日本胸部疾患学会総会 (第33回), 1993. 4.
- 18) 原口秀司, 田中茂夫, 五味測誠, 小泉 潔, 塩田晶彦, 真崎義隆, 井村 肇, 大沢 肇, 窪倉浩俊, 庄司 佑：肺 carcinosarcoma の1切除例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第86回), 1993. 6.



- 19) 原口秀司, 田中茂夫, 五味測誠, 小泉 潔, 塩田晶彦, 真崎義隆, 井村 肇, 大沢 肇, 窪倉浩俊, 庄司 佑: 肺癌肉腫の1切除例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第86回), 1993. 12.
- 20) 原口秀司, 田中茂夫, 五味測誠, 小泉 潔, 小坂真一, 真崎義隆, 見城正剛, 飯田竹美, 庄司 佑: 肺全摘出術後気管支断端瘻の2治験例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第89回), 1994. 2.
- 21) 原口秀司, 田中茂夫, 五味測誠, 小泉 潔, 塩田晶彦, 真崎義隆, 秋山博彦, 福島光浩, 石井庸介, 二見長一郎, 飯田竹美, 神野正明, 見城: 肺全摘出後気管支断端瘻の検討. 日本呼吸器外科学会総会 (第11回), 1994. 5.
- 22) 原口秀司, 田中茂夫, 小泉 潔, 五味測誠: 教室における胸腔鏡下手術の経験. 日本医科大学医学会総会 (第62回), 1994. 9.
- 23) 原口秀司, 田中茂夫, 小泉 潔, 五味測誠, 秋山博彦, 福島光浩, 見城正剛, 飯田竹美, 神野正明, 檜山和弘: 胸壁損傷からみた自然気胸に対する胸腔鏡下手術と定型的開胸手術の比較検討. 日本呼吸器外科学会総会 (第12回), 1995. 5.
- 24) 原口秀司, 小泉 潔, 五味測誠, 松島伸治, 真崎義隆, 秋山博彦, 三上 巖, 福島光浩, 飯田竹美, 田中茂夫: 肺癌に対する肺切除術後気管支断端瘻の危険因子に関する検討. 日本胸部外科学会総会 (第48回), 1995. 10.
- 25) 原口秀司, 田中茂夫, 五味測誠, 小泉 潔, 秋山博彦, 三上 巖, 福島光浩, 見城正剛, 神野正明, 飯田竹美: 胸部単純写真による肺癌患者の簡便な術後肺機能予測からみた肺合併症の検討. 日本肺癌学会総会 (第36回), 1995. 10.
- 26) 原口秀司, 小泉 潔, 秋山博彦, 福島光浩, 飯田竹美, 佐藤泰雄, 藤井正大, 檜山和弘, 佐地嘉章, 田中茂夫: 肺ノカルジア症を合併した気管支結石症の1切除例. 日本呼吸器外科学会総会 (第13回), 1996. 5.
- 27) 原口秀司, 小泉 潔, 秋山博彦, 三上 巖, 福島光浩, 飯田竹美, 川島徹生, 田中茂夫: 診断に苦慮した胸囲結核の1切除例. 外科集談会 (第762回), 1996. 8.
- 28) 原口秀司, 小泉 潔, 秋山博彦, 福島光浩, 飯田竹美, 鈴木世考, 榎本 豊, 田中茂夫: 良性嚢胞状中皮腫の1切除例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第101回), 1997. 2.
- 29) 原口秀司, 小泉 潔, 秋山博彦, 福島光浩, 仁科 大, 田中茂夫: 鎖骨下動静脈を切除再建した右肺尖部浸潤肺癌の1切除例. 呼吸器手術フォーラム (第1回), 1997. 5.
- 30) 原口秀司, 小泉 潔, 三上 巖, 福島光浩, 飯田竹美, 岡田大輔, 川島徹生, 高津圭介, 鈴木世考, 吉野直之, 松島伸治, 五味測誠, 榎本 豊, 秋山博彦, 田中茂夫: 予測肺機能からみた肺癌肺切除例における術後肺合併症と予後への影響について. 日本胸部外科学会総会 (第50回), 1997. 10.
- 31) 原口秀司, 尾関雄一, 桑原元尚, 佐藤光春, 出口博之, 丸井 勉, 橋本博史, 田中 勸, 小泉 潔, 山下浩二, 秋山博彦, 三上 巖, 窪倉浩敏, 福島光浩, 岡田大輔: 肺ブレブの発生, 組織構築に関する病理組織学的検討. 日本胸部外科学会総会, 1998. 10.
- 32) 原口秀司, 尾関雄一, 桑原元尚, 佐藤光春, 出口博之, 近藤伸彦, 橋本博史, 田中 勸: 肺癌肉腫の1切除例. Histogenesisについて. 日本呼吸器外科学会総会 (第16回), 1999. 5.
- 33) 原口秀司, 小泉 潔, 平田知己, 三上 巖, 窪倉浩敏, 岡田大輔, 天神敏博, 田中茂夫: 肺癌胸腔鏡下手術における術後肺合併症の検討. 日本肺癌学会総会 (第41回), 2000. 11.
- 34) 原口秀司, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 窪倉浩敏, 岡田大輔, 天神敏博, 田中茂夫: 肺癌胸腔鏡下手術における術後肺合併症の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第13回), 2000. 12.
- 35) 原口秀司, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 窪倉浩敏, 岡田大輔, 田中茂夫: 肺ブラ・ブレブの線維化巣と弾性線維症の形成機序について. 日本外科学会総会 (第101回), 2001. 4.
- 36) 原口秀司, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 窪倉浩敏, 岡田大輔, 田中茂夫: 高齢者肺癌胸腔鏡下手術の予後と死因について. 日本呼吸器外科学会総会 (第18回), 2001. 5.
- 37) 原口秀司, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 窪倉浩敏, 福島光浩, 岡田大輔, 天神敏博, 田中茂夫: 気腫性肺嚢胞のelastofibrosisの形成機序について. 日本胸部外科学会総会 (第54回), 2001. 10.



- 38) 原口秀司, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 岡田大輔, 榎本 豊, 岡本淳一, 天神敏博, 田中茂夫: 肺癌手術における予測術後一秒量の過大評価例の検討. 日本肺癌学会総会 (第42回), 2001. 11.
- 39) 原口秀司, 織井恒安, 村野光和, 宅島美奈, 川村 純, 山下浩二, 久吉隆郎, 日置正文: 甲状腺癌との重複を疑った肺癌甲状腺転移の1例. 日本呼吸器外科学会総会 (第19回), 2002. 5.
- 40) 原口秀司, 日置正文, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 山下浩二, 小泉 潔, 平井恭二, 福島光浩, 山岸茂樹, 田中茂夫, 吉野直之, 久吉隆郎: 肺癌切除例における重複癌症例の臨床的検討. 日本肺癌学会総会 (第43回), 2002. 11.
- 41) 原口秀司, 日置正文, 山下浩二, 山下康夫, 宅島美奈, 久吉隆郎: 胸骨腫瘍切除例の臨床的検討. 日本呼吸器外科学会総会 (第21回), 2004. 5.
- 42) 原口秀司, 日置正文, 山下浩二, 小泉 潔, 川村 純, 平田知己, 平井恭二, 山岸茂樹, 久吉隆郎, 清水一雄: 肺癌重複癌症例の性別による検討. 日本肺癌学会総会 (第45回), 2004. 10.
- 43) 原口秀司, 日置正文, 山下浩二, 小泉 潔, 清水一雄: 高齢者肺癌の治療成績の検討. 日本肺癌学会総会 (第46回), 2005. 11.
- 44) 原口秀司, 日置正文, 山下浩二, 山下康夫, 織井恒安, 川村 純, 宅島美奈, 遠藤直哉, 小泉 潔, 清水一雄: 自然気胸鏡視下手術の術後再発危険因子の検討. 日本臨床外科学会総会 (第67回), 2005. 11.
- 45) 原口秀司, 日置正文, 山下浩二, 山下康夫, 宅島美奈, 遠藤直哉, 小泉 潔, 清水一雄: 原発性自然気胸において術後再発率は低下したか? 臓側胸膜の補強方法と意義について. 日本呼吸器外科学会総会 (第23回), 2006. 5.
- 46) 原口秀司, 小泉 潔, 日置正文, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 窪倉浩敏, 吉野直之, 岡田大輔, 川島徹夫, 山岸茂樹, 清水一雄: 肺癌重複癌例の臨床背景の検討: 肺癌単独例との差について. 日本癌学会学術総会 (第65回), 2006. 9.
- 47) 原口秀司, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 窪倉浩敏, 山岸茂樹, 川島徹夫, 木下裕康, 吉野直之, 日置正文, 清水一雄: 肺摘除術後気管支断端瘻の危険因子の再検討. 日本肺癌学会総会 (第47回), 2006. 10.
- 48) 原口秀司, 小泉 潔, 谷村繁雄, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 窪倉浩俊, 山岸茂樹, 川島徹夫, 吉野直之, 木下裕康, 日置正文, 清水一雄: pIA期症例に補助療法は不必要か?. 日本肺癌学会総会 (第48回), 2007. 10.
- 49) 石井庸介, 新田 隆, 別所竜蔵, 藤井正大, 大森裕也, 川瀬康裕, 神戸 将, 栗田二郎, 落 雅美, 清水一雄: 心房細動手術は有効か?: ワーファリン フリーを目指して. 日本心臓血管外科学会 (第38回), 2008. 2.

(1) 特別講演:

- 1) Igarashi T, Shimizu K: Endoscopic Thyroid Surgery for Malignant Disease. 6th International Congress Egyptian Society of Laparoscopic Surgery (ESLS) (Egypt), 2008. 6.
- 2) Yamashita K, Shimizu K: 3D-CT lymphography mapping of breast lymphatic system helps sentinel node biopsy. Congress of the European Society of Surgical Oncology (14th) (Den Haag, Netherlands), 2008. 9.
- 3) Kazuo S: New technology for diagnosis of thyroid malignancy-Usefulness of real-time tissue elastography. 4th Annual General Surgery Symposium & Workshop (Saudi Arabia), 2009. 3.
- 4) 新田 隆: 心房細動の外科治療. 岐阜循環器疾患研究会, 2008. 7.
- 5) 石井庸介, 川瀬康裕, 神戸 将, 別所竜蔵: 心房細動手術は有効か?: 当科での心房細動手術の現況. 北総循環器フォーラム (第1回), 2008. 7.
- 6) 清水一雄: 内分泌頸部外科領域における低侵襲手術の現状と将来展望. 第11回福島ホルモカンファレンス, 2008. 8.
- 7) 小泉 潔: 胸腔鏡下肺葉切除術. 第2回四国VATSセミナー, 2008. 8.
- 8) 新田 隆: 不整脈の外科治療. 阪神心臓弁膜症シンポジウム, 2008. 10.

- 9) 新田 隆：心臓手術後心房細動の機序と治療．心臓外科 cutting edge forum, 2008. 11.
  - 10) 石井庸介：術後心房細動，心房頻拍の機序とその対策．Advanced Technology in Cardiovascular Surgery (5th), 2008. 11.
  - 11) 小泉 潔：伝統に則った呼吸器外科の安全と将来．第7回3重呼吸器外科懇話会，2009. 2.
  - 12) 清水一雄：甲状腺悪性腫瘍に対する診断と治療の現況．第37回中国四国甲状腺外科研究会，2009. 3.
- (2) 招待講演：
- 1) Yamashita K, Hames YK, Jikuzono T, Okamura R, Igarashi T, Akasu H, Yanagihara K, Iida S, Haga S, Shimizu K：3D-CT Mammary Lymphography Can Show Intramammary Lymphatic Network and Axillary Lymphatic System. World Congress on Cancer (WCC-2009) (Kotayam, India.), 2009. 1.
  - 2) Yamashita K, Shimizu K：Video-assisted Breast Surgery and 3D-CT Mammary Lymphography. General Surgical Symposium (4th) (Riyadh, Saudi Arabia.), 2009. 3.
  - 3) Kazuo S：Video assisted endoscopic thyroid and parathyroid surgery-proper techniques for cosmetic advantages and prevention of complications obtained from more than 400 case experience. 4th Annual General Surgery Symposium & Workshop (Saudi Arabia), 2009. 3.
  - 4) Kazuo S：Suitable indication for endoscopic total thyroidectomy and prophylactic lymph node clearance-experience of two cases. 4th Annual General Surgery Symposium & Workshop (Saudi Arabia), 2009. 3.
  - 5) Kazuo S：Gasless Video Assisted Endoscopic Surgery for Thyroid Malignancy. The 17th Asian Congress of Surgery & The 68th Annual Meeting of Taiwan Surgical Association (Taiwan), 2009. 3.
  - 6) 神戸 将, 川瀬康裕, 石井庸介, 川島徹生, 平井恭二, 別所竜蔵：術後急性肺障害に対してエラスポールを使用した1例：最大CPK値5000を呈した急性心筋梗塞に対する緊急冠動脈バイパス術．千葉SIRS・ALI研究会2008, 2008. 7.
  - 7) 新田 隆：心房細動の外科治療：次世代のアブレーションデバイス．次世代のアブレーションデバイス講演会, 2008. 7.
  - 8) 清水一雄：甲状腺疾患に対するガスレス低侵襲手術：400例を超える経験に基く工夫と改善．第1回日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会学術集会, 2008. 12.
  - 9) 新田 隆：心房細動手術の最近の動向．福岡冠疾患内科外科ジョイントフォーラム, 2009. 2.
  - 10) 別所竜蔵：重症虚血肢に対する治療戦略(外科治療からハイブリッド治療)．ASOを考える会(第2回), 2009. 3.
- (3) 教育講演：
- 1) 新田 隆：心房細動手術の落とし穴と対策．近畿心血管治療ジョイントライブ2008, 2008. 4.
  - 2) 小泉 潔：胸腔鏡下手術．第1回信州大学呼吸器外科教育プログラム, 2008. 6.
  - 3) 小泉 潔：気胸に対する胸腔鏡下手術．市民公開講座, 2008. 9.
  - 4) 小泉 潔：手術後肺合併症．3学会合同呼吸療法認定士認定委員会, 2008. 9.
  - 5) 新田 隆：Video demonstration．ATCVS研究会, 2008. 11.
  - 6) 落 雅美：冠動脈外科：NMS experience．東北大学大学院心臓血管外科講演会, 2008. 11.
  - 7) 小泉 潔：肺癌の胸腔鏡下肺葉切除術．第2回信州大学呼吸器外科教育プログラム, 2008. 12.
  - 8) 小泉 潔：呼吸器外科領域のリスクマネージメント．平成20年度日本外科学会生涯教育セミナー, 2009. 1.
- (4) シンポジウム：
- 1) Kazuo S：Totally gasless Video-assisted endoscopic thyroidectomy for various thyroid and parathyroid diseases based on the 400 cases of experience. 6th International Congress of Egyptian Society Laparoscopic Surgery (Egypt), 2008. 6.
  - 2) Yamashita K, Shimizu K：Video-Assisted Breast Surgery is Effective in Curability and Aesthetics for Breast Diseases (GasLESS). Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (ELSA) 2008 (Yokohama,

- Japan), 2008. 9.
- 3) Koizumi K : Revolution of thoracotomy for lung cancer. 11th Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (Yokohama), 2008. 9.
  - 4) Koizumi K : Revlution of Thoracotomy for Lung Cancer Surgery. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia 2008 (Yokohama), 2008. 9.
  - 5) Nitta T, Ishii Y, Ohmori H, Sakamoto S, Shirakawa M, Maruyama Y, Kurita J, Tanoue M, Imura H, Ochi M, Shimizu K : Intraoperative verification of conduction block in AF surgery. ISMICS Winter Seminar 2008 (Okinawa), 2008. 11.
  - 6) Nitta T, Ishii Y, Ohmori H, Sakamoto S, Shirakawa M, Maruyama Y, Kurita J, Tanoue M, Ochi M, Shimizu K : New Insight from Human Epicardial Mapping. Asia-pacific Heart Rhythm Society (Singapore), 2008. 11.
  - 7) 石井庸介, 別所竜蔵, 新田 隆, 落 雅美, 清水一雄, Damiano-J R (<sup>1</sup>) Washington University School of Medicine) : 術後心房細動の機序 : 心房の炎症との関係 (術後不整脈の管理). 日本不整脈学会 (第23回), 2008. 5.
  - 8) 小泉 潔 : 基本外科手技と胸腔鏡補助下肺癌手術. 第33回日本外科系連合学会学術集会, 2008. 6.
  - 9) 清水昭彦<sup>1</sup>), 新田 隆, 栗田隆志<sup>1</sup>), 安部治彦<sup>1</sup>), 今井克彦<sup>1</sup>), 小林義典<sup>1</sup>), 木村 剛<sup>1</sup>), 副島京子<sup>1</sup>), 庭野慎一<sup>1</sup>), 渡辺重行<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) 日本不整脈学会ICD委員会) : 日本におけるICD/CRT-Dの適応に関するガイドラインの進歩. 日本心臓病学会, 2008. 9.
  - 10) 宮内靖史<sup>1</sup>), 小林義典<sup>1</sup>), 岩崎雄樹<sup>1</sup>), 岡崎怜子<sup>1</sup>), 村田広茂<sup>1</sup>), 小林哲平<sup>1</sup>), 加藤貴雄<sup>1</sup>), 水野杏一<sup>1</sup>), 新田 隆 (<sup>1</sup>) 日本医科大学 第一内科) : 開心術後心房粗動・心房頻拍のカテーテルアブレーション : 術式による頻拍の特徴と治療効果. 日本心臓病学会, 2008. 9.
  - 11) 新田 隆 : 心房細動とアミオダロン : 心臓血管手術後の不整脈予防の観点から. アミオダロン研究会, 2008. 9.
  - 12) 落 雅美, 井村 肇, 坂本俊一郎, 丸山雄二, 栗田二郎, 白川 真 : シンポジウム : 冠動脈疾患の治療 : PCIかCABGか : 患者の視点から : 「私達は今何を患者さんに伝えねばならないか? ; 本邦の現状から考える」. 第56回日本心臓病学会学術集会, 2008. 9.
  - 13) 清水一雄, 武市宣雄<sup>1</sup>), 片桐 誠<sup>2</sup>), 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, 軸菌智雄, ヘイムス規予美, 竹間由佳, 早川朋宏 (<sup>1</sup>) 武市甲状腺クリニック, <sup>2</sup>) 小島病院 外科) : チェルノブイリ原発事故後の甲状腺癌検診参加から10年 : 甲状腺内視鏡手術の普及を目的とした国際貢献. 第41回日本甲状腺外科学会学術集会, 2008. 10.
  - 14) 清水一雄, 赤須東樹, 五十嵐健人, 軸菌智雄, 岡村律子, ヘイムス規予美, 竹間由佳, 早川朋宏 : 甲状腺低侵襲手術の現況と将来展望. 第41回日本甲状腺外科学会学術集会, 2008. 10.
  - 15) 原口秀司, 小泉 潔, 谷村繁雄, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 斉藤祐二, 窪倉浩俊, 山岸茂樹, 川島徹生, 吉野直之, 岡田大輔, 木下裕康, 榎本 豊, 岡本淳一, その他5名 : 肺癌に対するVATSの功罪. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- (5) パネルディスカッション :
- 1) Nitta T, Ishii Y, Ohmori H, Sakamoto S, Shirakawa M, Maruyama Y, Kurita J, Tanoue M, Ochi M, Shimizu K : Intraoperative verification of conduction block in AF surgery. Asia-pacific Heart Rhythm Society (Singapore), 2008. 11.
  - 2) Nitta T, Ishii Y, Ohmori H, Sakamoto S, Shirakawa M, Maruyama Y, Kurita J, Tanoue M, Ochi M, Shimizu K : Minimally Invasive Surgery for Lone AF - Benefits and Limitations. Asia-pacific Heart Rhythm Society (Singapore), 2008. 11.
  - 3) Nitta T, Hiromoto A, Kurita J, Shirakawa M, Ohomori H, Ishii Y, Imura H, Yajima T, Ochi M, Shimizu K : Surgery for Ventricular Tachycardia. 日本不整脈学会, 2008. 6.

- 4) Shimizu A<sup>1)</sup>, Nitta T, Imai K<sup>1)</sup>, Kimura T<sup>1)</sup>, Kurita T<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Soejima K<sup>1)</sup>, Niwano S<sup>1)</sup>, Watanabe S<sup>1)</sup>, Abe H<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Japanese Heart Rhythm Society ICD committee) : Japanese actual conditions and the transition of the indications in patients with implanted ICD/CRT-D devices. 日本不整脈学会, 2008. 6.
  - 5) 山下浩二, Hames規予美, 軸菌智雄, 岡村律子, 五十嵐健人, 赤須東樹, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄 : 上肢由来リンパ路温存の選択的腋窩リンパ節郭清の試み. 日本臨床外科学会 (第70回), 2008. 11.
  - 6) 落 雅美, 丸山雄二, 坂本俊一郎, 栗田二郎, 白川 真, 田上素子, 井村 肇, 新田 隆, 清水一雄 : コントロバシー : 三枝病変に対する治療戦略 -OPCABかPCIか? : 「Mid-term results of off-pump CABG for multi-vessel coronary disease in the Drug Eluting Stent Era : a single institutional clinical experience」. 第73回日本循環器学会学術集会, 2009. 3.
- (6) ワークショップ :
- 1) Kazuo S, Koji Y, Haruki A, Takehito I, Ritsuko O, Tomoo J, Yuka T, Tomohiro H : Gasless Video Assisted Endoscopic Neck Dissection for Thyroid Malignancy. 11th World Congress of Endoscopic Surgery (Yokohama), 2008. 9.
  - 2) Kazuo S, Haruki A, Takehito I, Ritsuko O, Tomoo J, Kiyomi H, Yuka T, Tomohiro H : Experience of Two Cases of Thyroid Malignancy Among Over 400 Cases of Totally Gasless Endoscopic Thyroidectomy. 11th World Congress of Endoscopic Surgery (Yokohama), 2008. 9.
  - 3) Igarashi T, Takema Y, Jikuzono T, Okamura R, Akasu H, Shimizu K : Endoscopic Thyroid Surgery for Malignant Disease. 11th World Congress of Endoscopic Surgery (Yokohama), 2008. 9.
  - 4) Kazuo S, Haruki A, Takehito I, Ritsuko O, Tomoo J, Kiyomi H, Yuka T, Tomohiro H, Koji Y : Clinical Study on Totally Gasless Endoscopic Endocrine Neck Surgery Based on Over 400 Cases of Experience. 11th World Congress of Endoscopic Surgery (Yokohama), 2008. 9.
  - 5) 原口秀司, 小泉 潔, 谷村繁雄, 平田知己, 平井恭二, 斉藤祐二, 窪倉浩俊, 川島徹生, 岡田大輔, 木下裕康, 榎本 豊, 岡本淳一, 中島由貴, 竹内真吾, 清水一雄 : 異時性多発肺癌の診断と治療. 日本肺癌学会総会 (第49回), 2008. 10.
  - 6) 石井庸介, 新田 隆, 別所竜蔵, 清水一雄 : 心房細動手術のそこが知りたい : 手術適応・術式選択, 術後管理, トラブルシューティング. 不整脈外科研究会 (第22回), 2008. 2.
- (7) 一般講演 :
- 1) Yamashita K, Shimizu K : Trans-axillary retro-mammary (TARM) approach of video-assisted breast surgery (VABS) applied for breast conserving surgery of cancers even on inner-side of the breast. European Breast Cancer Conference (6th) (Berlin, Germany), 2008. 4.
  - 2) Yamashita K, Shimizu K : Trans-Axillary Retro-Mammary Route Approach of Video-Assisted Breast Surgery Enable The Inner-Side Breast Cancer To Be Resected For Breast Conserving Surgery. Annual meeting of the American Society of Breast Surgeons (9th) (New York, NY, USA), 2008. 4.
  - 3) 岡田大輔, 小泉 潔, 平田知己, 窪倉浩俊, 吉野直之, 清水一雄 : Operative cases of refractory pneumothorax. 世界気管支会議/世界気管食道科学会議 (第15回) (東京), 2008. 4.
  - 4) 原口秀司, 小泉 潔, 谷村繁雄, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 窪倉浩俊, 山岸茂樹, 川島徹生, 吉野直之, 岡田大輔, 木下裕康, 榎本 豊, 中島由貴, 日置正文, 他. : 新TNM分類改定案の評価. 日本呼吸器外科学会総会 (第25回), 2008. 5.
  - 5) Kurita J<sup>1)</sup>, Nitta T<sup>1)</sup>, Hiromoto A<sup>1)</sup>, Shirakawa M<sup>1)</sup>, Kambe M<sup>1)</sup>, Ohmori H<sup>1)</sup>, Fujii S<sup>1)</sup>, Ishii Y<sup>1)</sup>, Bessho R<sup>1)</sup>, Imura H<sup>1)</sup>, Ochi M<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Intraoperative use of electro-anatomical mapping (CARTO) for ventricular tachycardia surgery. Heart Rhythm Society (29th) (San Francisco, USA), 2008. 5.

- 6) Kurita J<sup>1)</sup>, Nitta T<sup>1)</sup>, Hiromoto A<sup>1)</sup>, Shirakawa M<sup>1)</sup>, Kambe M<sup>1)</sup>, Ohmori H<sup>1)</sup>, Fujii S<sup>1)</sup>, Ishii Y<sup>1)</sup>, Bessho R<sup>1)</sup>, Imura H<sup>1)</sup>, Ochi M<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Intraoperative use of electro-anatomical mapping (CARTO) for ventricular tachycardia surgery. Heart Rhythm Society (29th) (San Francisco, USA), 2008. 5.
- 7) Yamashita K, Shimizu K : Five axillary node groups beyond sentinel node observed by 3D-CT lymphography, evaluated for avoiding axillary dissection with sentinel node metastasis. Annual meeting of the American Society of Clinical Oncology (44th) (Chicago, IL, USA), 2008. 6.
- 8) 丸山雄二, Chambers JD<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayne Institute (King's College London), Guy's and St Thomas' Hospital) : Myocardial protection : Efficacy of RS-C (Aqix), a novel magnesium-cardioplegia, compared to St Thomas' Hospital solution. European Section of the International Society for Heart Research (The 28th Annual Meeting) (Athens, Greece), 2008. 5.
- 9) 丸山雄二, Chambers JD<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayne Institute (King's College London), Guy's and St Thomas' Hospital) : Does ischemic postconditioning improve myocardial protection after conventional cardioplegia?. European Section of the International Society for Heart Research (The 28th Annual Meeting) (Athens, Greece), 2008. 5.
- 10) Yamashita K : New Approach for Ductal Carcinoma In Situ (DCIS) by Video-Assisted Breast Surgery (VABS). Annual congress of the Japan Section of the International College of Surgeons (54th) (Tokyo, Japan), 2008. 6.
- 11) Yamashita K, Shimizu K : Video-Assisted Breast Surgery can Sample the Second and Third Sentinel Nodes to Omit Axillary Node Dissection for Sentinel Node Positive Patients. International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery (16th) (Stockholm, Sweden), 2008. 6.
- 12) Yamashita K, Shimizu K : 3D-CT Mammary Lymphography Can Show the Precise Lymphovascular System Which Make Distant Metastasis. International Union Against Cancer (UICC) World Cancer Congress (20th) (Geneva, Switzerland), 2008. 8.
- 13) Yamashita K, Hames YK, Jikuzono T, Okamura R, Igarashi T, Akasu H, Shimizu K : Second and Third Node Groups Can Be Sampled By Video-Assisted Breast Surgery To Preserve Axillary Nodes For Sentinel Node-Metastasized Patients. World Congress of Endoscopic Surgery (11th) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
- 14) Yamashita K, Hames YK, Jikuzono T, Okamura R, Igarashi T, Akasu H, Shimizu K : Trans-Axillary Retro-Mammary Route Approach of Video-Assisted Breast Surgery For The Inner-Side Breast Cancer. Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (ELSA) 2008 (Yokohama, Japan), 2008. 9.
- 15) Yamashita K, Shimizu K : Preoperative systemic therapy with Trastuzumab is effective for advanced breast cancer. Congress of the International Association for Breast Cancer Research (IABCR) (26th) (Kurashiki, Japan), 2008. 9.
- 16) 岡田大輔, 原口秀司, 平田知己, 窪倉浩俊, 吉野直之, 木下裕康, 岡本淳一, 竹内真吾, 中島由貴, 小泉 潔, 清水一雄 : Examination of VATS for patients of small stature. 世界内視鏡外科会議 (第11回) (東京), 2008. 9.
- 17) Shimizu A<sup>1)</sup>, Nitta T, Kurita T<sup>1)</sup>, Imai K<sup>1)</sup>, Kimura T<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Soejima K<sup>1)</sup>, Niwano S<sup>1)</sup>, Watanabe S<sup>1)</sup>, Abe H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Japanese Heart Rhythm Society ICD committee) : Therapy of Implantable Cardioverter. Defibrillator For Patients With Idiopathic Ventricular Fibrillation In Japan -From The National Registry Administrated By Japanese Heart Rhythm Society. Asia-pacific Heart Rhythm Society (Singapore), 2008. 11.
- 18) Yamashita K, Hames YK, Jikuzono T, Okamura R, Igarashi T, Akasu H, Yanagihara K, Iida S, Haga S, Shimizu K : Video-Assisted Breast Surgery is Less Invasive and Good Aesthetic Surgical Procedure for



- Breast Diseases, Evaluated with Long-Term Results. 3-6 December, 2008, Poster presentation. Biennial World Congress of The International College of Surgeons (36th) (Vienna, Austria), 2008. 12.
- 19) Yamashita K, Hames YK, Jikuzono T, Okamura R, Igarashi T, Akasu H, Yanagihara K, Iida S, Haga S, Shimizu K : Selective axillary node dissection differed from the arm lymph flow oriented by 3D-CT lymphography. 10-14 December, 2008, Poster presentation. Annual San Antonio Breast Cancer Symposium (31st) (San Antonio, Texas, USA), 2008. 12.
  - 20) Yamashita K, Hames YK, Jikuzono T, Okamura R, Igarashi T, Akasu H, Yanagihara K, Iida S, Haga S, Shimizu K : 3D-CT Mammary Lymphography can help the Selective Axillary Node Dissection Differed from the arm Lymph Flow. 4th, 3-6 February, 2009, Oral Quick Shot. Annual Academic Surgical Congress (4th) (Fort Myers, FL, USA), 2009. 2.
  - 21) Yamashita K, Shimizu K, Akasu H, Igarashi T, Jikuzono T, Hames YK, Yanagihara K, Iida S, Haga S : Selective Axillary Node Dissection Differed From the arm Lymph Flow Oriented by 3D-CT Lymphography. St. Gallen Oncology Conference- Primary Therapy of Early Breast Cancer International Conference (11th) (St. Gallen, Switzerland), 2009. 3.
  - 22) 山下浩二, 清水一雄 : 非浸潤性乳管癌 (DCIS) に対する乳腺内視鏡手術の挑戦 New approach for ductal carcinoma in situ (DCIS) by video-assisted breast surgery (VABS). 日本外科学会学術総会 (第108回), 2008. 5.
  - 23) 岡田大輔, 小泉 潔, 平田知己, 窪倉浩俊, 吉野直之, 中島由貴, 清水一雄 : 肺癌術後約15年後に発症した難治性膿胸の1例. 日本呼吸器外科学会総会 (第25回), 2008. 5.
  - 24) 山下浩二, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, 軸菌智雄, 清水一雄 : 経腋窩乳腺後方アプローチTARMでの乳腺内視鏡手術VABSによる内側領域乳腺部分切除. 日本内分泌外科学会総会 (第20回), 2008. 6.
  - 25) 山下浩二, Hames規予美, 軸菌智雄, 岡村律子, 五十嵐健人, 赤須東樹, 清水一雄 : 経腋窩乳腺後方アプローチTARM-VABSによる鏡視下乳腺内側部分切除法. 小切開・鏡視下手術研究会 (第3回), 2008. 6.
  - 26) 岡田大輔, 小泉 潔, 平田知己, 窪倉浩俊, 吉野直之, 中島由貴, 川本雅司<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 病理部) : 非結核性抗酸菌症を契機に発症した難治性膿胸の2症例. 日本呼吸器学会総会 (第48回), 2008. 6.
  - 27) 清水一雄, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, 軸菌智雄, 竹間由佳, ヘイムス規予美, 山下浩二 : チェルノブイリ原発事故で胎内被曝した20歳女性の甲状腺微小乳頭癌に対する内視鏡下甲状腺全摘およびD1郭清. 第3回小切開・鏡視下手術研究会, 2008. 6.
  - 28) 赤須東樹, Hames規予美, 軸菌智雄, 岡村律子, 五十嵐健人, 山下浩二, 清水一雄 : VANS法におけるスコープ挿入用頸部側孔位置の重要性. 第3回小切開・鏡視下手術研究会, 2008. 6.
  - 29) 軸菌智雄<sup>1)</sup>, 石川真士<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, ヘイムス規予美<sup>1)</sup>, 岡村律子<sup>1)</sup>, 五十嵐健人<sup>1)</sup>, 赤須東樹<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学外科学・内分泌外科) : 成人に発症した巨大頸部嚢胞状リンパ管腫の1例. 日本内分泌外科学会 (第20回), 2008. 6.
  - 30) 軸菌智雄<sup>1)</sup>, 石川真士<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, ヘイムス規予美<sup>1)</sup>, 岡村律子<sup>1)</sup>, 五十嵐健人<sup>1)</sup>, 赤須東樹<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学外科学・内分泌外科) : 成人に発症した巨大頸部嚢胞状リンパ管腫の1例. 日本内分泌外科学会 (第20回), 2008. 6.
  - 31) 山下浩二, Hames規予美, 軸菌智雄, 岡村律子, 五十嵐健人, 赤須東樹, 清水一雄 : センチネルリンパ節転移陽性患者の腋窩温存を目指した内視鏡的2・第3リンパ節群生検. 日本内視鏡外科学会総会 (第21回), 2008. 9.
  - 32) 山下浩二, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, 軸菌智雄, Hames規予美, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄 : 3D-CT乳腺リンパ管造影の腋窩リンパ節マッピングによるリンパ節転移予測. 日本乳癌学会総会 (第

- 16回), 2008. 9.
- 33) 岡田大輔, 原口秀司, 平田知己, 窪倉浩俊, 吉野直之, 木下裕康, 岡本淳一, 竹内真吾, 中島由貴, 小泉 潔, 清水一雄: 身長150cm以下の患者における胸腔鏡手術症例の検討. 日本内視鏡外科学会総会(第21回), 2008. 9.
- 34) 吉村明修<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 阿曾亮子<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 森本泰介<sup>1)</sup>, 明楽重夫<sup>1)</sup>, 新田 隆, 高岡雅子<sup>1)</sup>, 竹原典子<sup>1)</sup>, 早坂百合子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 教育推進室): 研修医の臨床技能教育のためのクリニカル・シミュレーション・ラボ講習会の開設. 日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 35) 丸山雄二: Does ischaemic postconditioning improve myocardial protection after conventional cardioplegic arrest?. 日本医科大学医学会総会(第76回), 2008. 9.
- 36) 山下浩二, Hames規予美, 軸菌智雄, 岡村律子, 五十嵐健人, 赤須東樹, 清水一雄: 3D-CT乳腺リンパ管造影による選択的腋窩リンパ節郭清の可能性. 日本癌治療学会(第46回), 2008. 10.
- 37) 軸菌智雄<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, ヘイムス規予美<sup>1)</sup>, 岡村律子<sup>1)</sup>, 五十嵐健人<sup>1)</sup>, 赤須東樹<sup>1)</sup>, 山下浩二<sup>2)</sup>, 川本雅司<sup>3)</sup>, 土屋真一<sup>3)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学外科学・内分泌外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学外科学・乳腺外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学病理部): 甲状腺細胞診の判定区分で鑑別困難であった症例の検討. 日本甲状腺外科学会(第41回), 2008. 10.
- 38) 軸菌智雄<sup>1)</sup>, ヘイムス規予美<sup>1)</sup>, 岡村律子<sup>1)</sup>, 五十嵐健人<sup>1)</sup>, 赤須東樹<sup>1)</sup>, 山下浩二<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学外科学・内分泌外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学外科学・乳腺外科): 診断に超音波検査が有用であった成人発症頸部嚢胞状リンパ管腫の1例. 日本超音波医学会関東甲信越地方会(第20回), 2008. 10.
- 39) 石井庸介, 新田 隆, 別所竜蔵, 川瀬康裕, 神戸 将, 落 雅美, 清水一雄: 冠静脈洞, 肺静脈に対する術中伝導ブロック確認の有効性: 心房細動手術の成功率を上げるために. 日本胸部外科学会定期学術集会(第61回), 2008. 10.
- 40) 丸山雄二, Chambers JD<sup>1)</sup>, 別所竜蔵, 藤井正大, 仁科 大, 落 雅美, 清水一雄 ( <sup>1)</sup> Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayne Institute (King' s College London), Guy' s and St Thomas' Hospital): Efficacy of RS-C, a novel magnesium-cardioplegia, compared to St Thomas' hospital solution for myocardial protection. 日本胸部外科学会定期学術集会(第61回), 2008. 10.
- 41) 原口秀司, 小泉 潔, 谷村繁雄, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 斉藤祐二, 窪倉浩俊, 山岸茂樹, 川島徹生, 吉野直之, 岡田大輔, 木下裕康, 榎本 豊, 岡本淳一, その他5名: 胸腔鏡下肺葉切除術の手術成績の変遷. 日本胸部外科学会定期学術集会(第61回), 2008. 11.
- 42) 軸菌智雄<sup>1)</sup>, 村瀬幸宏<sup>2)</sup>, 渡会泰彦<sup>2)</sup>, 赤須東樹<sup>1)</sup>, 山下浩二<sup>3)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 土屋真一<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学外科学・内分泌外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学病理部, <sup>3)</sup> 日本医科大学外科学・乳腺外科): 甲状腺細胞診で鑑別困難であった濾胞性腫瘍の病理組織診断結果の検討. 日本臨床細胞学会(第47回), 2008. 11.
- 43) 軸菌智雄<sup>1)</sup>, ヘイムス規予美<sup>1)</sup>, 岡村律子<sup>1)</sup>, 五十嵐健人<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>2)</sup>, 赤須東樹<sup>1)</sup>, 山下浩二<sup>3)</sup>, 前田美穂<sup>4)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学外科学・内分泌外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学外科学・消化器外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学外科学・乳腺外科, <sup>4)</sup> 日本医科大学小児科): 腹痛を契機に発見された後腹膜神経節神経腫の1例. 日本臨床外科学会(第70回), 2008. 11.
- 44) 丸山雄二, 落 雅美, 田上素子, 白川 真, 栗田二郎, 坂本俊一郎, 大森裕也, 清水一雄: OPCABの中期成績. 日本冠疾患学会学術集会(第22回), 2008. 12.
- 45) 山下浩二, 赤須東樹, 五十嵐健人, 軸菌智雄, Hames規予美, 芳賀駿介, 清水一雄: 3D-CT乳腺リンパ管造影によるセンチネルリンパ節生検と選択的腋窩郭清. 3次元CT・MRI研究会(第14回), 2009. 1.
- 46) 山下浩二, Hames規予美, 軸菌智雄, 岡村律子, 五十嵐健人, 赤須東樹, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄: 3D-CT乳腺リンパ管造影による上肢由来リンパ路温存の選択的腋窩リンパ節郭清の試み 日本医科大学外科. 日本臨床腫瘍学会学術総会(第7回), 2009. 3.

(8) 教育セミナー：

- 1) 清水一雄：「内分泌外科」・甲状腺．第13回日本内視鏡外科学会，2008．9．

## 〔武蔵小杉病院心臓血管・呼吸器・乳腺内分泌外科〕

### 研究概要

心臓血管外科領域，呼吸器外科領域，乳腺・甲状腺内分泌外科領域の研究を中心としている．

1) 心臓血管外科領域：開心術周術期における各種薬剤の薬理効果，および有効な心筋保護の確立について取り組んでいる．また，OPCABにおいてランジオロールを使った心筋保護作用及び抗不整脈作用に関する研究を行い，高齢者の心大血管症例の術前・術後合併症の管理・治療法について検討し，成績の向上を計っている．末梢動脈・静脈疾患に対する低侵襲診断・治療についても研究中である．

2) 呼吸器外科領域：原発性肺癌に関して，CD40を用いた術後補助免疫療法の有用性に対して基礎実験を行っている．また同じくCD40の特殊免疫染色法を確立し，これが肺癌における新たな転移マーカーとなりうるかをレトロスペクティブに検証している．画像上診断困難なGGOを含めた末梢小型肺腫瘍に対して，胸腔鏡下超音波断層診断の有用性について新たに臨床研究として開始した．自然気胸においては，胸腔鏡下ブラ切除術後の再発予防手段としてPGAシート被覆法の有用性について引き続き立証している段階である．

3) 乳腺・甲状腺内分泌外科領域：診断では，MRIを中心にした微細画像診断により，癌の進展形態を評価し，手術方針の決定に役立っている．手術では，鏡視下乳房温存手術，乳頭・皮膚保存乳腺全摘術，胸筋温存乳房切除術を行い，センチネルリンパ節生検を行って検証を進めている．化学療法は，外来通院投与を中心に積極的に行い，QOLを高めるよう努力している．また，タキサン系薬剤の化学療法やハーセプチンに対しての遺伝子解析を行っている．

### 研究業績

#### 論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Lin Y<sup>1)</sup>, You L<sup>1)</sup>, Xu Z<sup>1)</sup>, He B<sup>1)</sup>, Yang C<sup>1)</sup>, Chen J<sup>1)</sup>, Mikami I<sup>1)</sup>, Clement G<sup>1)</sup>, Shi Y<sup>1)</sup>, Kuchenbecker K<sup>1)</sup>, Okamoto J<sup>1)</sup>, Kashani-Sabet M<sup>1)</sup>, Jablons D<sup>1)</sup> (1) Thoracic Oncology Laboratory, Department of Surgery, University of California, San Francisco) : Wnt inhibitory factor-1 gene transfer inhibits melanoma cell growth. *Hum Gene Ther* 2007 ; 18 (4) : 379-386.
- 2) Shi Y<sup>1)</sup>, He B<sup>1)</sup>, Kuchenbecker K<sup>1)</sup>, You L<sup>1)</sup>, Xu Z<sup>1)</sup>, Mikami I<sup>1)</sup>, Yagui-Beltran A<sup>1)</sup>, Clement G<sup>1)</sup>, Lin Y<sup>1)</sup>, Okamoto J<sup>1)</sup>, Bravo D<sup>1)</sup>, Jablons D<sup>1)</sup> (1) Thoracic Oncology Laboratory, Department of Surgery, Comprehensive Cancer Center, University of California, San Francisco) : Inhibition of Wnt-2 and galectin-3 synergistically destabilizes beta-catenin and induces apoptosis in human colorectal cancer cells. *Int J Cancer* 2007 ; 15 (121) : 1175-1181.
- 3) Clement G<sup>1)</sup>, Guilleret I<sup>1)</sup>, He B<sup>1)</sup>, Yagui-Beltran A<sup>1)</sup>, Lin Y<sup>1)</sup>, You L<sup>1)</sup>, Xu Z<sup>1)</sup>, Shi Y<sup>1)</sup>, Okamoto J<sup>1)</sup>, Benhattar J<sup>1)</sup>, Jablons D<sup>1)</sup> (1) Thoracic Oncology Laboratory, Department of Surgery, Comprehensive Cancer Center, University of California San Francisco) : Epigenetic alteration of the Wnt inhibitory factor-1 promoter occurs early in the carcinogenesis of Barrett' s esophagus. *Cancer Sci* 2008 ; 99 (1) : 46-53.

(1) 原著：

- 1) Okamoto J<sup>1)</sup>, Mikami I<sup>2)</sup>, Tominaga Y<sup>1)</sup>, Kuchenbecker K<sup>1)</sup>, Lin Y<sup>1)</sup>, Bravo D<sup>1)</sup>, Clement G<sup>1)</sup>, Yagui-

Beltran A<sup>1)</sup>, Ray M<sup>1)</sup>, Koizumi K<sup>2)</sup>, He B<sup>1)</sup>, Jablons D<sup>1)</sup> (1) Thoracic Oncology Laboratory, Department of Surgery, Helen Diller Family Comprehensive Cancer Center, University of California, San Francisco, (2) Department of Surgery, Division of Thoracic Surgery, Nippon Medical School) : Inhibition of Hsp90 leads to cell cycle arrest and apoptosis in human malignant pleural mesothelioma. J Thorac Oncol 2008 ; 3 (10) : 1089-1095.

2) 窪倉浩俊, 天神敏博, 原田明希摩<sup>1)</sup>, 保科淑子, 富田剛志, 遠藤直哉, 岡本淳一, 織井恒安, 日置正文, 小泉潔<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学分子解剖学講座, (2) 日本医科大学外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)) : 肺腺癌におけるCD40およびCD40Ligandの免疫組織学的検討 : CD40発現とリンパ節転移との関連について. 日本サイトメトリー学会機関誌 2009 ; 19 (1) : 41-44.

(2) 症例報告 :

1) Kubokura H, Koizumi K<sup>1)</sup>, Yoshino N<sup>1)</sup>, Yamagishi S<sup>1)</sup>, Mikami I<sup>1)</sup>, Hirata T<sup>1)</sup>, Harada A<sup>1)</sup>, Kawamoto M<sup>2)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup> (1) Division of Thoracic Surgery, Department Surgery, Nippon Medical School, (2) Department Pathology, Nippon Medical School) : A Case Report : Thoracic Extramedullary Hematopoiesis Found by Occurring Spontaneous Pneumothorax. Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2008 ; 14 (6) : 382-385.

2) 窪倉浩俊, 小泉 潔<sup>2)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 大秋義治<sup>3)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院呼吸器センター, (2) 日本医科大学外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門), (3) 日本医科大学千葉北総病院病理部) : 左肺底区動脈大動脈起始症の2例. 日医大医会誌 2008 ; 4 (2) : 118-122.

学会発表

(1) 一般講演 :

1) Kubokura H<sup>1)</sup>, Koizumi K<sup>1)</sup>, Harada A<sup>1)</sup>, Yoshino N<sup>1)</sup>, Okada D<sup>1)</sup>, Hirata T<sup>1)</sup>, Kawamoto M<sup>2)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup> (1) Department of Surgery, Division of Thoracic Surgery, Nippon Medical School, (2) Department of Pathology, Nippon Medical School) : The relationship between CD40 and lymph node metastasis on lung adenocarcinomas by using immunohistochemical staining. Aacr Annual Meeting 2008 (San Diego), 2008. 4.

2) Kubokura H, Koizumi K<sup>1)</sup>, Yoshino N<sup>1)</sup>, Kawashima T<sup>1)</sup>, Hirai K<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup> (1) Department of Surgery, Division of Thoracic Surgery, Nippon Medical School) : Evaluation of Prevention techniques against postoperative recurrence in primary spontaneous pneumothorax. WCES 2008 (11th) (Yokohama), 2008. 9.

3) Orii K, Hioki M : Long-term results of renal insufficiency after cardiac surgery by analyzing estimated glomerular filtration rate. AscvtS (17th) (Taipei), 2009. 3.

4) 保科淑子, 富田剛志, 遠藤直哉, 木下裕康, 織井恒安, 原口秀司, 天神敏博, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)) : 腹部大動脈瘤手術におけるMEP測定の意義. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.

5) 窪倉浩俊, 天神敏博, 日置正文, 保科淑子, 富田剛志, 遠藤直哉, 織井恒安, 原田明希摩<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)) : 肺癌におけるCD40およびCD40Ligandの免疫組織学的検討. 日本サイトメトリー学会学術集会 (第18回), 2008. 6.

6) 富田剛志, 天神敏博, 保科淑子, 遠藤直哉, 織井恒安, 日置正文 : ICD (Implantable Cardioverter Defibrillator) 留意側に発生した乳癌. 日本乳癌学会総会 (第16回), 2008. 9.

7) 遠藤直哉, 織井恒安, 富田剛志, 保科淑子, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)) : 溶血性貧血を生じた僧帽弁位Starr-Edwards Ball弁 (Model 6120) 術後遠隔期症例に対し再弁置換術を要した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第209回), 2008. 9.

- 8) 岡本淳一, 窪倉浩俊, 保科淑子, 富田剛志, 遠藤直哉, 織井恒安, 天神敏博, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門): 自然気胸に対する鏡視下手術におけるPGAシート被覆法の一工夫. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 9) 遠藤直哉, 織井恒安, 富田剛志, 保科淑子, 岡本淳一, 窪倉浩俊, 天神敏博, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門): 冠動脈病変及び腹部アンギーナを伴った腹部大動脈瘤に対し, 人工血管置換術と一期的血行再建を施行した1症例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 10) 保科淑子, 富田剛志, 遠藤直哉, 岡本淳一, 窪倉浩俊, 織井恒安, 天神敏博, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門): 大腿部に発生した骨外性骨肉腫の1例. 外科集談会 (第811回), 2008. 12.
- 11) 遠藤直哉, 富田剛志, 保科淑子, 岡本淳一, 織井恒安, 窪倉浩俊, 天神敏博, 家所良夫, 日置正文: 両側膝窩動脈瘤の一治療例. 外科集談会 (第813回), 2009. 3.

## [多摩永山病院呼吸器外科]

### 研究概要

2008年度は, 多摩永山病院呼吸器外科が立ち上がって3年目にあたります. 3人のスタッフの関係も良好で, 日常診療内容も充実してきました.

基礎研究は, 経験がないため全く実施していませんが, 臨床研究は, 肺癌の外科療法, 特に胸腔鏡手術手技の向上のための研究を, またこの地区で比較的多い自然気胸の病態と治療, 再発防止の工夫などについての研究を実施してきました.

また, 当病院病理部との提携で, 肺癌の術中吸引迅速細胞診の手技の確立と診断学の発展を目的に積極的に行ない, その成果を細胞診学会に発表しました.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 症例報告:

- 1) Tanimura S, Saitou Y, Koizumi K, Honma K<sup>1)</sup> (1) Department of pulmonary medicine, Sagamihiro kyoudo Hospital) : A Surgical case of Giant malignant mesenchymoma in the posterior mediastinum That Recurred in the Bilateral Mediastinum. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (4) : 212-215.
- 2) 榎本 豊, 齋藤祐二, 谷村繁雄, 前田昭太郎, 片山博徳, 小泉 潔: 術中穿刺細胞診が有用であった腭臓癌孤立性肺転移の一切除例. 日本呼吸器外科学会雑誌 2009 ; 23 (1) : 75-80.

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 榎本 豊, 齋藤祐二, 谷村繁雄, 岩瀬裕美, 片山博徳, 前田昭太郎: 呼吸器外科領域における術中迅速穿刺吸引細胞診 (FNAC) の有用性について. 日本臨床細胞診学会, 2008. 11.
- 2) 榎本 豊, 齋藤祐二, 谷村繁雄, 小泉 潔: Intrapulmonary solitary fibrous tumor の一切除例. 日本呼吸器外科学会総会 (第25回) (栃木県総合文化センター), 2008. 5.
- 3) 齋藤祐二, 谷村繁雄, 榎本 豊, 小泉 潔, 清水一雄: 右上葉切除後の同側第二肺葉に対する胸腔鏡補助下中葉切除術. 日本呼吸器外科学会総会 (第25回) (栃木県分化総合センター), 2008. 5.



# 11. 脳神経外科学講座

## [付属病院脳神経外科]

### 研究概要

平成20年度当教室における論文業績は英文17編、和文14編の計31編であった。その分野別内訳は、下垂体腫瘍11編、他の脳腫瘍4編、脳血管障害5編、脊髄5編、外傷2編、その他4編であり、基礎的研究4編、臨床的研究37編であった。これに、分担著書として11編が加わる。学会発表は159回あり、内国際学会は10回であった。

一方、研究補助金に関しては、文部科学省科学研究費を5件、厚生労働省科学研究費を2件取得している。当教室の基礎的な研究グループは、下垂体、悪性脳腫瘍、血管障害、神経外傷の4つに分かれている。

また、治療を主体とした横断的なグループとしては、血管内治療、神経内視鏡、バイパス手術や脊髄脊椎等のグループが活動している。下垂体腫瘍は教室最大のテーマであるため、研究者も多く基礎の教室や老人病研究所、さらには他の大学との関連が深く、従って業績も最も多い。経蝶形骨下垂体手術件数は2,200例を越え、更に内視鏡単独手術も600例を越えた。この分野は引き続き、本邦をリードする基礎的および臨床的研究業績を重ねていきたい。他の脳腫瘍については、教室で永年取り組んできた悪性脳腫瘍の化学療法の基礎的、臨床的研究に加えて、症例報告がいくつかみられた。脳血管障害は血管内治療の領域も含め、最近活動が活発になってきているが、千駄木地区の再開発のため十分な診療機器が備わっていないことが難点である。

一方、神経外傷は臨床面での活動は盛んであるが、業績が不十分であるといわざるを得ない。本学ではこの点を救急医学科が補っているといえる。さらに、少数ではあるが日常臨床の知見をまとめて報告している教室員もおり、症例報告を含めて臨床的研究についても進めていく予定である。

また、最近脊髄グループや医学教育への取り組みに関する活躍が目立っている。脳神経外科という極めて多忙な診療活動をかかえながらも教室員には年1編以上の論文投稿（審査有のもの）と助教以上には科研費応募を義務としている。平成16年から実施された卒後研修制度を契機として、我国の医療制度の矛盾が顕在化したといえる。その一つが、いわゆるキツイ診療科の敬遠であり、脳神経外科もその例外ではない。事実、脳神経外科医療は地方から崩壊しつつあり、東京近郊にもその影響は現れ始めている。大学病院には教育と診療からは力を抜くことは出来ず、自ら研究面が犠牲になり始めている。まず、海外へ留学させる余力がなくなってきた。さらに、臨床医が2～3年じっくりと関連ある基礎研究をするという時間もなくなった。事実、学術論文の数は少しずつ減少してきている。それでも、当教室は本邦では屈指の研究レベルを保持しているが、マンパワーが回復されない限り、大きな飛躍は期待できない状況である。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kim K<sup>1)</sup>, Isu T<sup>2)</sup>, Nomura R, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokusai Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital) : Cervical ligamentum flavum ossification — two case reports —. *Neurol Med Chir* 2008 ; 48 (4) : 183-187.
- 2) Yoshida D<sup>1)</sup>, Nomura R, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kojima Hospital) : Regulation of cell invasion and signalling pathways in the pituitary adenoma cell line, HP-75, by reversion-inducing cysteine-rich protein with kazal motifs (RECK). *J Neurooncol* 2008 ; 89 (2) : 141-150.
- 3) Osamura RY<sup>1)</sup>, Kajiyama H<sup>1)</sup>, Takei M<sup>2)</sup>, Egashira N<sup>1)</sup>, Tobita M<sup>1)</sup>, Takekoshi S<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> De-

- partment of Pathology, Tokai University School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Pathology of the human pituitary adenomas. *Histochem Cell Biol* 2008 ; 130 (3) : 495-507.
- 4) Kogiku M, Ohsawa I<sup>1)</sup>, Matsumoto K<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>2)</sup>, Teramoto A, Ohta S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Musashi Kosugi Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Prognosis of glioma patients by combined immunostaining for survivin, Ki-67 and epidermal growth factor receptor. *J Clin Neurosci* 2008 ; 15 (11) : 1198-1203.
  - 5) Morimoto D<sup>1)</sup>, Yoshida D<sup>2)</sup>, Noha M<sup>3)</sup>, Sasaki M<sup>4)</sup>, Takahashi H<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusō Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Okinawa Red Cross Hospital, <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Teikyo University, Chiba Medical Center) : Transient uptake of thallium-201 into a cerebral infarction : a case report. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (6) : 344-346.
  - 6) Sasaki N<sup>1)</sup>, Kim K<sup>2)</sup>, Sanno N<sup>3)</sup>, Yoshida D<sup>1)</sup>, Teramoto A, Shibasaki T<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusō Hospital, <sup>3)</sup> Sanno Clinic, <sup>4)</sup> Department of Physiology, Nippon Medical School) : Elevation of Growth hormone-releasing hormone receptor messenger ribonucleic acid expression in growth hormone-secreting pituitary adenoma with Gs  $\alpha$  protein mutation. *Neurol Med Chir* 2008 ; 48 (11) : 481-488.
  - 7) Morita K<sup>1)</sup>, Takano K<sup>1)</sup>, Yasufuku-Takano J<sup>1)</sup>, Yamada S<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>3)</sup>, Takei M<sup>4)</sup>, Osamura RY<sup>5)</sup>, Sano T<sup>6)</sup>, Fujita T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Nephrology and Endocrinology, University of Tokyo Faculty of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Hypothalamic and Pituitary Surgery, Toranomon Hospital, <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, Musashikosugi Hospital, <sup>5)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, <sup>6)</sup> Department of Pathology, Institute of Health Biosciences, The University of Tokushima Graduate School) : Expression of pituitary tumour-derived, N-terminally truncated isoform of fibroblast growth factor receptor 4 (ptd-FGFR4) correlates with tumour invasiveness but not with G-protein alpha subunit (gsp) mutation in human GH-secreting pituitary adenomas. *Clinical Endocrinology* 2008 ; 68 : 435-441.
  - 8) Miyakoshi T<sup>1)</sup>, Takei M<sup>2)</sup>, Kajiya H<sup>1)</sup>, Egashira N<sup>1)</sup>, Takekoshi S<sup>1)</sup>, Teramoto A, Osamura RY<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Expression of Wnt4 in Human Pituitary Adenomas Regulates Activation of the beta-Catenin-Independent Pathway. *Endocr Pathol* 2008 ; 19 (4) : 261-273.
  - 9) Tamaki T<sup>1)</sup>, Node Y<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital) : Changes of the plasma ketone body level and arterial ketone body ratio at the onset of mild aneurysmal subarachnoid hemorrhage. *Neurological Research* 2008 ; 30 (9) : 898-902.
  - 10) Sato S<sup>1)</sup>, Yin C<sup>2)</sup>, Teramoto A, Sakuma Y<sup>2)</sup>, Kato M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, <sup>2)</sup> Department of Physiology, Nippon Medical School) : Sexually dimorphic modulation of GABAA receptor currents by melatonin in rat gonadotropin-releasing hormone neurons. *J Physiol Sci* 2008 ; 58 (5) : 317-322.
  - 11) Suzuki M, Egashira N<sup>1)</sup>, Kajiya H<sup>1)</sup>, Minematsu T<sup>1)</sup>, Takekoshi S<sup>1)</sup>, Tahara S, Sanno N<sup>2)</sup>, Teramoto A, Osamura RY<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, <sup>2)</sup> Sanno Clinic) : ACTH and alpha-subunit are co-expressed in rare human pituitary corticotroph cell adenomas proposed to originate from ACTH-committed early pituitary progenitor cells. *Endocr Pathol* 2008 ; 19 (1) : 17-26.

- 12) Nomura R, Yoshida D<sup>1)</sup>, Kim K<sup>2)</sup>, Kobayashi S<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital) : Intracerebral hemorrhage caused by a neoplastic aneurysm from pleomorphic lung carcinoma. *Neurol Med Chir* 2009 ; 49 (1) : 33-36.
- 13) Teshima T<sup>1)</sup>, Hara Y<sup>1)</sup>, Takekoshi S<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>3)</sup>, Osamura RY<sup>2)</sup>, Tagawa M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Veterinary Surgery, Department of Veterinary Science, Faculty of Veterinary Medicine, Nippon Veterinary and Life Science University, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Expression of genes related to corticotropin production and glucocorticoid feedback in corticotroph adenomas of dogs with Cushing' s disease. *Domest Anim Endocrinol* 2009 ; 36 (1) : 3-12.
- 14) Teshima T<sup>1)</sup>, Hara Y<sup>1)</sup>, Takekoshi S<sup>2)</sup>, Nezu Y<sup>1)</sup>, Harada Y<sup>1)</sup>, Yoga T<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>3)</sup>, Osamura RY<sup>2)</sup>, Tagawa M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Veterinary Surgery, Department of Veterinary Science, Faculty of Veterinary Medicine, Nippon Veterinary and Life Science University, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, <sup>3)</sup> Department of neurosurgery, Nippon Medical School) : Trilostane-induced inhibition of cortisol secretion results in reduced negative feedback at the hypothalamic-pituitary axis. *Domest Anim Endocrinol* 2009 ; 36 (1) : 32-44.
- 15) Yamaguchi F : Navigation-Assisted Subcortical Mapping : Intraoperative motor tract detection by bipolar needle electrode in combination with Neuro-navigation system. *J Neuro-Oncol* 2009.
- 16) 田中敏章<sup>1, 2)</sup>, 伊藤純子<sup>1, 3)</sup>, 島津 章<sup>1, 4)</sup>, 田中弘之<sup>1, 5)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 永井敏郎<sup>1, 6)</sup>, 長谷川泰延<sup>1, 7)</sup>, 羽二生邦彦<sup>1, 8)</sup>, 藤田敬之助<sup>1, 9)</sup>, 堀川玲子<sup>1, 10)</sup>, 向井徳男<sup>1)</sup>, 和田尚弘<sup>1)</sup>, 横谷 進<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 成長科学協会成長ホルモン治療研究専門委員会, <sup>2)</sup> たなか成長クリニック, <sup>3)</sup> 虎の門病院小児科, <sup>4)</sup> 国立病院機構京都医療センター臨床研究センター, <sup>5)</sup> 岡山済生会総合病院小児科, <sup>6)</sup> 独協医科大学越谷病院小児科, <sup>7)</sup> 慶應義塾大学医学部小児科, <sup>8)</sup> 羽二生クリニック, <sup>9)</sup> 大阪市立総合医療センター小児内科, <sup>10)</sup> 国立成育医療センター第一専門診療部) : 年齢別およびSGA児とAGA児における成長ホルモン治療の1年目の効果の比較. *日本成長学会雑誌* 2008 ; 14 (1) : 25-29.
- 17) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 菅原 淳<sup>2)</sup>, 松本亮司<sup>2)</sup>, 磯部正則<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科) : 3種類の異なる腰椎後方除圧術における術後筋肉損傷に関する研究. *日本脊椎脊髄病学会雑誌* 2008 ; 19 (1) : 60.
- 18) 喜多村孝幸 : 脳腫瘍による頭痛. *小児内科* 2008 ; 40 (5) : 865-868.
- 19) 山口文雄, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科) : グリオーマ摘出における覚醒下手術と機能マッピング. *癌と化学療法* 2008 ; 35 (6) : 914-917.
- 20) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 菅原 淳<sup>2)</sup>, 松本亮司<sup>2)</sup>, 磯部正則<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科) : 脊椎・脊髄疾患における脊髄造影後CTの必要性に関する検討. *脊髄外科* 2008 ; 22 (1) : 10-16.
- 21) 田原重志 : 特集 : 視床下部・下垂体領域の最近の話題 : 内視鏡的下垂体腺腫摘出術. *ホルモンと臨床* 2008 ; 56 (8) : 51-62.
- 22) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 菅原 淳<sup>2)</sup>, 松本亮司<sup>2)</sup>, 磯部正則<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科) : Sandwich法を併用したWilliams-Isu法の放射線学的検討. *脊髄外科* 2008 ; 22 (2) : 131-133.
- 23) 村井保夫, 足立好司, 高島伸之介, 寺本 明 : Indocyanine green を用いた術中蛍光血管撮影. *脳神経外科速報* 2008 ; 18 (2) : 235-241.
- 24) 村井保夫, 寺本 明, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 高山泰広<sup>2)</sup>, 佐藤英貴<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>

- (<sup>1</sup> 千葉北総病院脳神経外科, <sup>2</sup> 救命救急センター)：血行再建術を行った非穿通性外傷による外傷性脳血管障害例の検討. *Neurosurgical Emergency* 2008 ; 13 (1) : 77-84.
- 25) 吉田大蔵<sup>1</sup>, 寺本 明 (<sup>1</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科)：1. 神経科学シリーズ：cDNA full-length cloneの導入およびsiRNA法を用いた解析による培養下垂体腺腫細胞におけるシグナル伝達経路の研究 (5). *日医大医会誌* 2008 ; 4 (4) : 201-204.
- 26) 金 景成<sup>1</sup>, 井須豊彦<sup>2</sup>, 菅原 淳<sup>2</sup>, 松本亮司<sup>2</sup>, 磯部正則<sup>2</sup>, 森本大二郎<sup>1</sup>, 小林士郎<sup>1</sup>, 寺本 明 (<sup>1</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2</sup> 釧路労災病院脳神経外科)：Eden type IVの腰部椎間孔部腫瘍に対する傍脊柱筋アプローチ. *脊髄外科* 2008 ; 22 (2) : 139-141.
- (2) 総説：
- 1) 荒木 尚<sup>1</sup>, 横田裕行<sup>1</sup>, 山本保博<sup>1</sup>, 寺本 明 (<sup>1</sup> 高度救命救急センター)：小児重症頭部外傷治療の現状：EBM時代の治療標準化. *小児の脳神経* 2008 ; 33 (4) : 367-375.
- (3) 症例報告：
- 1) Takumi I<sup>1</sup>, Mori O<sup>2</sup>, Mizutani N<sup>1</sup>, Akimoto M<sup>3</sup>, Kobayashi S<sup>1</sup>, Teramoto A (<sup>1</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital Nippon Medical School, <sup>2</sup> Cranio Facial Institute, Chiba Hokuso Hospital Nippon Medical School, <sup>3</sup> Department of Plastic Surgery, Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School)：Expansile neurenteric cyst arising in the frontal lobe associated with status epilepticus : report of a case and discussion of epileptogenesis. *Brain Tumor Pathol* 2008 ; 25 (2) : 97-101.
- 2) Nomura R, Yoshida D<sup>1</sup>, Kim K<sup>2</sup>, Kobayashi S<sup>2</sup>, Teramoto A (<sup>1</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, <sup>2</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital)：Intracerebral Hemorrhage Caused by a Neoplastic Aneurysm From Pleomorphic Lung Carcinoma. *Neurol Med Chir* 2009 ; 49 (1) : 33-36.

## 著 書

- 1) 寺本 明：〔分担〕VI. 内分泌・代謝疾患：124. 先端巨大症（成長ホルモン産生下垂体腺腫）。総合臨牀, 2008 ; pp401-404, 永井書店.
- 2) 寺本 明, 新井 一<sup>1</sup>, 塩川芳昭<sup>2</sup>, 大畑建治<sup>3</sup> (<sup>1</sup> 順天堂大学医学部脳神経外科, <sup>2</sup> 杏林大学医学部脳神経外科, <sup>3</sup> 大阪市立大学大学院医学研究科脳神経外科)：〔編集〕テント上髄膜腫：アプローチから摘出まで. *NS NOW* 3, 2008 ; Medical View.
- 3) 山口文雄：〔記事〕合成吸収性人工硬膜SEAMDURAの使用経験. *Codman News*, 2008 ; ジョンソン&ジョンソン (株).
- 4) 石井雄道, 寺本 明：〔分担〕6. 疾患各論：A. 下垂体腺腫 4. 下垂体偶発腫. *脳神経外科エキスパート：間脳下垂体*, 2008 ; pp240-243, 中外医学社.
- 5) 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明：〔分担〕5. 治療：A. 手術：3. 内視鏡下経蝶形骨洞手術. *脳神経外科エキスパート：間脳下垂体*, 2008 ; pp144-156, 中外医学社.
- 6) 村井保夫, 足立好司, 水成隆之<sup>1</sup>, 寺本 明 (<sup>1</sup> 千葉北総病院脳神経センター)：〔自著〕傍鞍部髄膜腫の摘出術：approachとわれわれの方法. *脳腫瘍の外科：基本と挑戦*, 2008 ; pp203-209.
- 7) 寺本 明, 新井 一<sup>1</sup>, 塩川芳昭<sup>2</sup>, 大畑建治<sup>3</sup> (<sup>1</sup> 順天堂大学医学部脳神経外科, <sup>2</sup> 杏林大学医学部脳神経外科, <sup>3</sup> 大阪市立大学大学院医学研究科脳神経外科)：〔編集〕脳神経外科医のための脊椎外科－必須手技と合併症回避のコツ. *NS NOW* 4, 2008 ; Medical View.
- 8) 柳澤信夫<sup>1</sup>, 篠原幸人<sup>2</sup>, 岩田 誠<sup>3</sup>, 清水輝夫<sup>4</sup>, 寺本 明 (<sup>1</sup> 東京工科大学, <sup>2</sup> 国家公務員共済組合連合会立川病院, <sup>3</sup> 東京女子医科大学, <sup>4</sup> 帝京大学)：〔編集〕Annual Review2009 神経, 2009 ; 中外医学社.
- 9) 寺本 明, 新井 一<sup>1</sup>, 塩川芳昭<sup>2</sup>, 大畑建治<sup>3</sup> (<sup>1</sup> 順天堂大学医学部脳神経外科, <sup>2</sup> 杏林大学医学部脳神経外科)

科, <sup>3)</sup> 大阪市立大学大学院医学研究科脳神経外科): [編集] グリオーマ: その最新知見. NS NOW 5, 2009; Medical View.

- 10) 寺本 明, 林 泰史<sup>1)</sup>, 原田 敦<sup>2)</sup>, 鈴木隆雄<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 東京都リハビリテーション病院, <sup>2)</sup> 国立長寿医療センター, <sup>3)</sup> 東京都老人総合研究所): [座談会] 特集 転倒・転落をめぐって: 転倒・転落の原因から予防・治療まで. 日本医師会雑誌, 2009; pp2235-2247, 日本医師会.
- 11) 寺本 明: [自著]「整容」でChangeする脳神経外科. 医療タイムス, 2009; p35, (株) 医療タイムス社.
- 12) 寺本 明, 新井 一<sup>1)</sup>, 塩川芳昭<sup>2)</sup>, 大畑建治<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 順天堂大学医学部脳神経外科, <sup>2)</sup> 杏林大学医学部脳神経外科, <sup>3)</sup> 大阪市立大学大学院医学研究科脳神経外科): [編集] 脳虚血の外科: このピットフォールに陥らない. NS NOW 6, 2009; Medical View.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) Teramoto A: Recent Progress of Endoscopic Pituitary Surgery. Jiangsu Province Neurosurgical Conference (Suzhou), 2008. 10.
- 2) Teramoto A: Recent Advances of Endoscopic Transsphenoidal Pituitary Surgery. Jiangsu Province Neurosurgical conference (Jiangsu, China), 2008. 11.
- 3) 寺本 明: 顔貌で診断のつく内分泌疾患: 先端巨大症とクッシング病. 埼玉内分泌代謝研究会, 2008. 6.
- 4) 寺本 明: 成人成長ホルモン分泌不全症の診断と治療. 第3回茨城県成長ホルモン研究会, 2008. 7.
- 5) 喜多村孝幸: 頭痛治療のトピックス: 片頭痛・低髄液圧性頭痛を中心に. 第9回愛媛頭痛研究会, 2008. 9.
- 6) 喜多村孝幸: 片頭痛の最近のトピックス. 第7回福岡頭痛研究会, 2008. 9.
- 7) 寺本 明: 内視鏡下経蝶形骨下垂体手術の現況. 第20回脳神経外科学臨床講座, 2008. 11.

### (2) シンポジウム:

- 1) 石井雄道, 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明: 内視鏡単独経鼻の下垂体腫瘍摘出術における鞍底形成術. 第17回脳神経外科手術と機器学会, 2008. 4.
- 2) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 菅原 淳<sup>2)</sup>, 松本亮司<sup>2)</sup>, 磯部正則<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): 3種類の異なる腰椎後方除圧術における術後筋肉損傷に関する研究. 第37回日本脊椎脊髄病学会, 2008. 4.
- 3) 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明, 山岡亜希子<sup>2)</sup>, 高木寛維<sup>2)</sup>, 恵藤信一郎<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 小林メディカルカンパニー, <sup>3)</sup> プレインラボ株式会社): 人工骨による一期的骨形成術: 術前の人工骨作製とナビゲーションシステムを使用した骨切除. 第17回脳神経外科手術と機器学会, 2008. 4.
- 4) 村井保夫, 足立好司, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経外科): 傍鞍部髄膜腫の摘出術における合併症の予防対策. 第20回日本頭蓋底外科学会, 2008. 7.
- 5) 村井保夫, 足立好司, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経外科): 髄膜腫手術における静脈損傷の予防法と損傷時の処置. 第13回日本脳腫瘍の外科学会, 2008. 10.
- 6) 田原重志: 下垂体腺腫に対する内視鏡単独経鼻経蝶形骨手術の治療成績と合併症. 第13回日本脳腫瘍の外科学会, 2008. 10.
- 7) 田原重志: 内視鏡下経鼻経蝶形骨手術を用いた再発下垂体腺腫に対する治療戦略. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 8) 喜多村孝幸: 脳脊髄液減少症の症候学. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 9) 山口文雄, 小島豊之<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>2)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 四谷メディカルキューブ脳神経外科, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科): ナビゲーションシステムを有効に利用した術中錐体路モニタリング Navigation-assisted monitoring. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.



- 10) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 菅原 淳<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科) : 腰部脊柱管狭窄症における最近の文献レビュー. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
  - 11) 石井雄道, 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明 : 内視鏡下経鼻下垂体手術における鞍底形成術. 第15回日本神経内視鏡学会, 2008. 11.
  - 12) 小南修史<sup>1)</sup>, 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 高度救命救急センター) : ガンマナイフを前提とした脳動静脈奇形の塞栓術. 第24回日本脳神経血管内治療学会総会, 2008. 11.
  - 13) 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 瀨瀬健太, 野村竜太郎, 石井雄道, 田原重志, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科) : 低酸素状態におけるCXCR4のシグナル増強とアンタゴニストAMD-3100の成長ホルモン産生に対する抑制効果. 第19回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2009. 2.
  - 14) 竹井麻生<sup>1)</sup>, 田原重志, 石井雄道, 野村竜太郎, 梶谷華子<sup>2)</sup>, 井野元智恵<sup>2)</sup>, 竹腰 進<sup>2)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学) : Crooke cell adenomaの臨床病理学的検討 治療の可能性に関する免疫組織化学的検討. 第19回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2009. 2.
- (3) パネルディスカッション :
- 1) 喜多村孝幸 : 我国における神経内視鏡手術技術認定制度の将来像. 第15回日本神経内視鏡学会, 2008. 11.
- (4) セミナー :
- 1) 田原重志 : 内視鏡下経鼻の下垂体手術. 第24回東京成長ホルモン成長因子セミナー, 2008. 6.
  - 2) 寺本 明 : 下垂体腫瘍の外科治療. 第11回日本病院脳神経外科学会, 2008. 7.
  - 3) 寺本 明 : 成人GHDをきたす脳外科疾患. 和歌山下垂体疾患セミナー, 2008. 8.
  - 4) 寺本 明 : 内視鏡下垂体手術の現況. 第61回社団法人日本脳神経外科学会北海道支部会ランチョンセミナー, 2008. 9.
- (5) 一般講演 :
- 1) Yoshida D<sup>1)</sup>, Nomura R, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Signaling pathway by SDF-1/CXCR4 in pituitary adenoma. 76th Annual Meeting of the American Association of Neurological Surgeons (AANS) (Chicago, Illinois), 2008. 4.
  - 2) Teramoto A : Recent progress of endoscopic pituitary surgery. All-Russian Scientific and Practical Neurosurgical Conference Polenov' s Reading (St-Petersburg, Russia), 2008. 4.
  - 3) Takahashi H<sup>1)</sup>, Hirakawa K, Ohno Y, Teramoto A, Yuta K ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Usefulness of NMR based metabolomics as the prognostic factor of malignant type of meningioma. Russian-Japanese Friendship Neurosurgical Symposium (Petersberg, Russia), 2008. 4.
  - 4) Toda S, Yamaguchi F, Teeamoto A : Anterior fixation of the cervical spine using a cage and Biopex-R. 76th Annual Meeting of the American Association of Neurological Surgeons (AANS) (Chicago, Illinois), 2008. 4.
  - 5) Takei M<sup>1)</sup>, Kajiya H<sup>2)</sup>, Tahara S, Osamura RY<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : The correlation between the expression of somatostatin receptors in pathology specimens from acromegalic patients and the percent suppression of GH levels in the octreotide suppression test. 91th Annual Meeting of the Endocrine Society (ENDO2008) (San Francisco, USA), 2008. 6.
  - 6) Nomura R, Yoshida D<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : The Expression of SDF-1 in Pituitary Adenoma. Eighth Congress of the European Association for Neuro-Oncology (EANO) (Barcelona, Spain), 2008. 9.

- 7) Tahara S, Ishii Y, Takei M, Sanno N<sup>1)</sup>, Kitamura T, Osamura R<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Sanno Clinic, <sup>2)</sup> Department of pathology, tokai university of medicine) : The Treatment Results of Endoscopic Transnasal Surgery for Pituitary Adenomas. 13th International Congress of Endocrinology (Rio de Janeiro, Brazil), 2008. 11.
- 8) Ishii Y, Tahara S, Kitamura T, Teramoto A : Surgical results of endoscopic endonasal transsphenoidal surgery for prolactinomas. 20th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (APEC) (Guam, USA), 2009. 1.
- 9) 廣中浩平, 足立好司, 村井保夫, 岩川賀世<sup>1)</sup>, 酒巻雅典<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> リウマチ科, <sup>2)</sup> 第二内科) : 経過観察中に再発した Posterior reversible encephalopathy syndrome の1例 : A case of recurrent posterior reversible encephalopathy syndrome. 第105回日本脳神経外科学会関東支部会, 2008. 4.
- 10) 金 景成<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科) : 症候群椎間関節周囲嚢腫の1例. 第2回博多中洲脊髄懇話会, 2008. 4.
- 11) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科) : SONOPET を用いた前方除圧術にて治療し得た bow hunter' s syndrome の1例. 第17回脳神経外科手術と機器学会, 2008. 4.
- 12) 太組一郎<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>3)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 千葉北総病院形成外科, <sup>3)</sup> 形成外科) : 人工骨による頭蓋骨形成手術後の難治性皮膚潰瘍 : インプラントの全摘出は必要か? . 第17回脳神経外科手術と機器学会, 2008. 4.
- 13) 額頰健太<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター) : 椎骨動脈巨大血栓化動脈瘤に対し trapping&bypass 術が有効であった1例. 第105回日本脳神経外科学会関東支部会, 2008. 4.
- 14) 金 景成<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科) : 椎間間接のう腫により下肢痛をきたした1例. 第29回東北北海道脊髄疾患研究会, 2008. 4.
- 15) 石井雄道, 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明 : 当院におけるプロラクチン産生腺腫の手術成績と治療方針. 第81回日本内分泌学会学術総会, 2008. 5.
- 16) 山口文雄, 小島豊之<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 四谷メディカルキューブ脳神経外科, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科) : 脳腫瘍の術中モニタリング. 第1回中央大学・日本医科大学 学術合同ワークショップ “医学工学の連携を求めて”, 2008. 5.
- 17) 山口文雄 : 脳腫瘍と鬱. ニューロオンコロジーフォーラム, 2008. 5.
- 18) 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター) : 突然の意識障害を呈した1症例. 第59回千葉北総神経放射線研究会, 2008. 5.
- 19) 竹井麻生<sup>1)</sup>, 鈴木雅規, 石井雄道, 田原重志, 梶谷華子<sup>2)</sup>, 宮腰隆史<sup>2)</sup>, 山王直子<sup>3)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 東海大学基盤診療学系病理診断学, <sup>3)</sup> 山王クリニック) : GH, TSH 同時産生下垂体腺腫の臨床像と病理所見. 第81回日本内分泌学会学術総会, 2008. 5.
- 20) 足立好司, 小南修史<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科) : 急速に増大を示した乳児脈絡叢乳頭癌の1手術例. 第36回日本小児神経外科学会, 2008. 5.
- 21) 田原重志, 石井雄道, 竹井麻生<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>2)</sup>, 喜多村孝幸, 長村義之<sup>3)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 山王クリニック, <sup>3)</sup> 東海大学医学部基盤診断系病理診断学) : 内視鏡単独経鼻蝶形骨手術を施行した高齢者非機能性下垂体腺腫の臨床病理学的検討. 第81回日本内分泌学会学術総会, 2008. 5.
- 22) 石井雄道, 田原重志, 寺本 明 : 内視鏡下経鼻蝶形骨手術の現状. 第22回日本医科大学内分泌懇話会, 2008. 6.
- 23) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 菅原 淳<sup>3)</sup>, 松本亮司<sup>2)</sup>, 磯部正則<sup>2)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>4)</sup>, 戸田茂樹, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 岩手医科大学脳神経外科, <sup>4)</sup>

- 多摩永山病院脳神経外科)：Sandwich法を併用したWilliams-Isu法の放射線学的検討．第23回日本脊髄外科学会，2008．6．
- 24) 金 景成<sup>1)</sup>，井須豊彦<sup>2)</sup>，菅原 淳<sup>3)</sup>，松本亮司<sup>2)</sup>，磯部正則<sup>2)</sup>，森本大二郎<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，木暮一成<sup>4)</sup>，戸田茂樹，寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター，2) 釧路労災病院脳神経外科，3) 多摩永山病院脳神経外科)：Eden type IVの腰部椎間孔部腫瘍に対する傍脊柱筋アプローチ．第23回日本脊髄外科学会，2008．6．
- 25) 小南修史<sup>1)</sup>，金 景成<sup>1)</sup>，戸田茂樹，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター)：前脊髄動脈から流入する脊髄動静脈奇形に対する塞栓術．第23回日本脊髄外科学会，2008．6．
- 26) 國保倫子<sup>1)</sup>，金 景成<sup>1)</sup>，立山幸次郎<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター)：片麻痺で発症した頸椎疾患の1例．第69回東葛脳神経外科カンファレンス，2008．6．
- 27) 渡邊 玲<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，玉置智規<sup>2)</sup>，勝野 亮，寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター，2) 多摩永山病院脳神経外科)：頸動脈内膜剥離術後の神経障害についての検討．第7回日本頸部血管治療学会，2008．6．
- 28) 木暮一成<sup>1)</sup>，井須豊彦<sup>2)</sup>，寺本 明 (1) 多摩永山病院脳神経外科，2) 釧路労災病院脳神経外科)：頸椎前方固定術：William-Isu法の諸問題と改良．第23回日本脊髄外科学会，2008．6．
- 29) 木暮一成<sup>1)</sup>，戸田茂樹，寺本 明 (1) 多摩永山病院脳神経外科)：脊髄腫瘍に対する低侵襲手術：特に2期的手術の境界．第23回日本脊髄外科学会，2008．6．
- 30) 田原重志，石井雄道，竹井麻生<sup>1)</sup>，喜多村孝幸，寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科)：内視鏡単独経鼻蝶形骨手術の治療成績．第12回Water Front Neurosurgical Conference，2008．6．
- 31) 山口文雄：脳神経外科の最先端と日常診療．したまち病診連携交流会，2008．7．
- 32) 竹井麻生<sup>1)</sup>，田原重志，高橋 弘<sup>1)</sup>，長村義之<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院脳神経外科，2) 東海大学基盤診療学系病理診断学)：神経下垂体部に近接して存在したACTH産生下垂体腺腫の1症例．第10回神奈川間脳下垂体研究会，2008．7．
- 33) 佐藤 俊<sup>1)</sup> (1) 武蔵小杉病院脳神経外科)：前頭葉腫瘍と高次機能について．第3回文京ニューロサイエンスフォーラム，2008．7．
- 34) 金 景成<sup>1)</sup>，井須豊彦<sup>2)</sup>，森本大二郎<sup>1)</sup>，小南修史<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター，2) 釧路労災病院脳神経外科)：前方除圧術にて治療しえたbow hunter's syndromeの1例．Aichi Summer Forum for Practical Spinal Surgery，2008．8．
- 35) 水成隆之<sup>1)</sup>，玉置智規<sup>2)</sup>，村井保夫，梅岡克哉，寺尾 健，立山幸次郎<sup>1)</sup>，勝野 亮，瀬瀬健太，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター，2) 多摩永山病院脳神経外科)：前交通動脈瘤治療における穿通枝温存について（手術治療の立場から）．第27回The Mt. Fuji Workshop on CVD，2008．8．
- 36) 梅岡克哉，村井保夫，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，高橋 弘<sup>2)</sup>，寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター，2) 武蔵小杉病院脳神経外科)：くも膜下出血患者においてCT所見と脳血管撮影所見の一致しない場合の手術検討．第27回The Mt. Fuji Workshop on CVD，2008．8．
- 37) 廣中浩平<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，足立好司，村井保夫，岩川賀世<sup>2)</sup>，酒巻雅典<sup>3)</sup>，片山泰朗<sup>3)</sup>，寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，2) リウマチ科，3) 第二内科)：経過観察中に再発したPosterior reversible encephalopathy syndromeの1例．第22回千葉県重症患者管理研究会，2008．9．
- 38) 金 景成<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター)：腰部脊柱管狭窄症：最近のレビュー．釧路脳神経外科懇話会，2008．9．
- 39) 國保倫子<sup>1)</sup>，金 景成<sup>1)</sup>，立山幸次郎<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター)：片麻痺を主訴とした特発性脊髄硬膜外血腫の1例．第106回日本脳神経外科関東支部会，2008．9．
- 40) 渡邊 玲<sup>1)</sup>，小南修史<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター)：複視で発症した内頸動脈瘤の1例．第70回東葛脳神経外科カンファレンス，2008．9．
- 41) 竹井麻生<sup>1)</sup>，高橋 弘<sup>1)</sup>，田原重志，石井雄道，喜多村孝幸，山王直子<sup>2)</sup>，寺本 明，長村義之<sup>3)</sup> (1) 武蔵小杉

- 病院脳神経外科,<sup>2)</sup> 山王クリニック,<sup>3)</sup> 東海大学基盤診療学系病理診断学): 神経下垂体部に隣接して存在したACTH産生下垂体腺腫の1症例. 第106回日本脳神経外科関東支部会, 2008. 9.
- 42) 足立好司, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科): IL-12, IL-23が抗グリオーマ活性を示す時に誘導されるサイトカインの解析. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 43) 村井保夫, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経外科): 内頸動脈病変に対する橈骨動脈グラフトを用いた血行再建術: 50例の経験から学んだこと. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 44) 石井雄道, 田原重志, 竹井麻生<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 寺本 明<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科): Pituitary macroadenomaにおける内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術: surgical planeとしての外科的被膜の有用性. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 45) 高橋 弘<sup>1)</sup>, 平川慶子<sup>2)</sup>, 山口文雄, 足立好司, 大野曜吉<sup>2)</sup>, 寺本 明, 湯田浩太郎<sup>3)</sup> <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 法医学NMR研究施設, <sup>3)</sup> 富士通バイオIT事業開発本部): 髄膜腫悪性転化を予測するNMRメタボロミクス(メタボローム): 脂溶性代謝産物解析による新展開. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 46) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 戸田茂樹, 金 景成<sup>3)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 山崎道生<sup>1)</sup>, 土屋雅人<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本明, 湧井健治<sup>4)</sup>, 赤石江太郎<sup>4)</sup>, 中村一也<sup>4)</sup> <sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>4)</sup> 千葉脳神経外科病院): 頸椎前方固定術: Williams-Isu法の改良と応用-TCP配合セラミックを用いて. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 47) 野村竜太郎, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科): 下垂体腺腫におけるSDF-1発現の意義. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 48) 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 野村竜太郎, 寺本 明<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科): 下垂体腺腫におけるCXCR7発現の細胞内シグナル伝達における意義. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 49) 小南修史<sup>1)</sup>, 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター): 脳動脈奇形の塞栓術の治療成績. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 50) 山崎道生<sup>1)</sup>, 梶谷華子<sup>2)</sup>, 竹腰 進<sup>2)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 東海大学基盤診療学系病理診断学): 下垂体腺腫におけるEgr-1の発現. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 51) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 村井保夫, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院脳神経センター): 脳血管攣縮に対するPTA後の再狭窄に対する検討. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 52) 関根鉄朗<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 天野康雄<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村井保夫, 寺本 明, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> <sup>1)</sup> 放射線科): クモ膜下出血で発症したCall-Fleming症候群の1例. 第44回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2008. 10.
- 53) 金 景成<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター): 頸椎亜脱臼の1例. 第3回房総脊髄手術手技研究会, 2008. 10.
- 54) 岩本直高, 金澤隆三郎, 寺本 明: 当施設における動脈瘤の治療方針(血管内治療に必要な血管撮影について). 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 55) 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター): 内頸動脈内膜剥離術後の嚙下障害・嘔声の検討. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 56) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): 脊髄障害性疼痛の治療について. 第30回東北北海道脊髄疾患研究会, 2008. 10.
- 57) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 國保倫子<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): 脊髄障害性疼痛の治療について. 第30回東北北海道脊髄疾患研究会, 2008. 10.
- 58) 竹井麻生<sup>1)</sup>, 石井雄道, 田原重志, 山王直子<sup>2)</sup>, 寺本 明, 梶谷華子<sup>3)</sup>, 井野元智恵<sup>3)</sup>, 長村義之<sup>3)</sup> <sup>1)</sup> 武蔵小



- 杉病院脳神経外科,<sup>2)</sup> 山王クリニック,<sup>3)</sup> 東海大学基盤診療学系病理診断学): Acromegaly を呈した GH, TSH 同時産生下垂体腺腫の臨床病理学的検討. 第4回アクロメガリーフォーラム, 2008. 10.
- 59) 野手洋治<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 脳神経外科手術における医事紛争, 医療訴訟防止のための具体的提言. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 60) 太組一朗<sup>1)</sup>, 原 恵子<sup>2)</sup>, 川勝正喜<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>4)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科,<sup>2)</sup> 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科,<sup>3)</sup> 東京電機大学情報環境学部,<sup>4)</sup> 千葉北総病院脳神経センター): 内側側頭葉てんかんの1手術例. 第20回川崎脳神経外科懇話会, 2008. 10.
- 61) 石井雄道, 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明: 内視鏡下経鼻手術により垂全摘し得た斜台部脊索腫の1例. 第15回日本神経内視鏡学会, 2008. 11.
- 62) 山口文雄: 回診車に取り付け可能な照明器具. 医療業界-日本医科大学-文京区連携事業: ここにもありますビジネスチャンス!, 2008. 11.
- 63) 山口文雄: 大きさの変えられるカーテンレール. 医療業界-日本医科大学-文京区連携事業: ここにもありますビジネスチャンス!, 2008. 11.
- 64) 山口文雄: 学生教育用の手術術野を見せるアーム付小型 CCD カメラ. 医療業界-日本医科大学-文京区連携事業: ここにもありますビジネスチャンス!, 2008. 11.
- 65) 山口文雄: 脳腫瘍に密着させて組織を観察する顕微鏡. 医療業界-日本医科大学-文京区連携事業: ここにもありますビジネスチャンス!, 2008. 11.
- 66) 寺尾 健, 寺本 明: シロスタゾール投与中に頭蓋内動脈狭窄が改善した3症例. 第13回東部脳神経外科フォーラム, 2008. 11.
- 67) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 國保倫子<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター,<sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): 脊髄障害性疼痛に対するケタミンの使用経験. 第43回日本脊髄障害医学会, 2008. 11.
- 68) 小南修史<sup>1)</sup>, 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター): NBCA を用いた脳動静脈奇形の塞栓術の結果の評価. 第24回日本脳神経血管内治療学会総会, 2008. 11.
- 69) 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 岩本直高, 梅岡克哉, 金澤隆三郎, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター): 初回治療後に他部位に再発した硬膜動静脈瘻の1例. 第24回日本脳神経血管内治療学会総会, 2008. 11.
- 70) 金 景成<sup>1)</sup>, 廣中浩平<sup>1)</sup>, 國保倫子<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター): 腰部脊柱管の治療-脊髄疾患との鑑別を要した転換性障害の2例. 釧路地区脳神経外科研究会, 2008. 11.
- 71) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 國保倫子<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター,<sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): 脊髄障害性疼痛に対するケタミン使用の小経験. 第43日本脊髄障害医学会, 2008. 11.
- 72) 田原重志: 内視鏡下経鼻経蝶形骨手術による再発下垂体腺腫の治療. 第15回日本神経内視鏡学会, 2008. 11.
- 73) 喜多村孝幸, 桑原健太郎<sup>1)</sup>, 白田和弘<sup>2)</sup>, 石渡明子<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 小児科, <sup>2)</sup> 神経内科): 特定機能病院における頭痛に関する集学的連携「千駄木頭痛カンファレンス」の意義. 第36回日本頭痛学会総会, 2008. 11.
- 74) 大村朋子<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター): 両側内頸動脈低形成に発生した脳底動脈瘤の2例. 第107回日本脳神経外科学会関東支部会, 2008. 12.
- 75) 竹井麻生<sup>1)</sup>, 田原重志, 石井雄道, 長村義之<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科,<sup>2)</sup> 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学): 治療に難渋している ACTH 産生下垂体腺腫の1症例. 第35回ニューロオンコロジーの会, 2008. 12.
- 76) 山崎道生<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 土屋雅人<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 圧控細胞診が有用であった神経膠腫症の1例. 第46回日本臨床細胞学会, 2008. 12.
- 77) 土屋雅人<sup>1)</sup>, 山崎道生<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): クモ膜嚢胞に合



- 併した若年性慢性硬膜下血腫の1例. 第107回日本脳神経外科学会関東支部会, 2008. 12.
- 78) 太組一朗<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院形成外科): 小児巨大骨欠損における自家骨移植: Catcher' s mask cranioplasty. 第14回京浜脳神経外科懇話会, 2008. 12.
- 79) 太組一朗<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 小泉慎也<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>3)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院小児科, <sup>3)</sup> 千葉北総病院脳神経センター): てんかん外科セットアップにおける諸問題: How I am establishing the Epilepsy Surgery Practice in my place. 第32回日本てんかん外科学会学術集会, 2009. 1.
- 80) 金 景成<sup>1)</sup>, 國保倫子<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター): 保存的治療で経過観察中の歯突起骨折の1例. 第4回房総脊髄手術手技研究会, 2009. 1.
- 81) 竹井麻生<sup>1)</sup>, 田原重志, 石井雄道, 野村竜太郎, 梶谷華子<sup>2)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 東海大学基盤診療学系病理診断学): クルックセルアデノーマと診断されたCushing病患者の臨床病理学的検討. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業間脳下垂体機能障害調査研究班平成20年度班会議, 2009. 1.
- 82) 山口文雄: てんかんにて発症し覚醒下手術にて安全に摘出し得たDysembryoplastic neuroepithelial tumor (DNT) 症例. 第4回文京ニューロサイエンスフォーラム, 2009. 1.
- 83) 山口文雄: 「見逃せない脳疾患」: 症状と画像診断. 第21回メディカルスキニング・イメージング研究会, 2009. 2.
- 84) 太組一朗<sup>1)</sup>, 原 恵子<sup>2)</sup>, 川勝正喜<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>4)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科, <sup>3)</sup> 東京電気大学情報環境学部, <sup>4)</sup> 千葉北総病院脳神経センター): 手術で治癒可能なてんかん: 難治性内側側頭葉てんかんの1例. 第26回川崎市医師会医学会, 2009. 2.
- 85) 石井雄道, 田原重志, 竹井麻生<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科): pituitary macroadenomaの手術戦略: 内視鏡による外科的被膜の同定と摘出. 第19回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2009. 2.
- 86) 石井雄道, 田原重志, 喜多村孝幸<sup>1)</sup>, 寺本 明: 内視鏡下経鼻下垂体手術におけるSEAMDURA®を用いたトルコ鞍底形成. 第19回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2009. 2.
- 87) 金 景成<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター): 当施設における外傷性脊椎骨折の手術戦略. The 2nd STR Spine Forum in Zao, 2009. 2.
- 88) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): Williams-Isu法と経椎体アプローチのcombined approachに関する検討. 釧路脊椎疾患セミナー, 2009. 2.
- 89) 酒井直之<sup>1)</sup>, 太組一朗<sup>1)</sup>, 纈纈健太, 竹井麻生<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科): 鉄欠乏性貧血に起因した若年性脳静脈洞血栓症の1例. 第21回川崎脳神経外科懇話会, 2009. 2.
- 90) 喜多村孝幸: 非交通性水頭症を伴う中脳水道閉塞例に対する神経内視鏡手術. 5th Neurosurgical Video Conference, 2009. 2.
- 91) 田原重志: クッシング病に対する内視鏡単独経鼻経蝶形骨手術の治療成績. 第19回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2009. 2.
- 92) 村井保夫, 水成隆之<sup>1)</sup>, 梅岡克哉, 寺尾 健, 勝野 亮, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター): いわゆる内頸動脈前壁動脈瘤破裂によるくも膜下出血の治療におけるradial artery graftの意義. 第38回日本脳卒中の外科学会, 2009. 3.
- 93) 村井保夫, 水成隆之<sup>1)</sup>, 梅岡克哉, 寺尾 健, 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 勝野 亮, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター): Radial artery graftを安全に行う為に: 50例の経験からの知見. 第38回日本脳卒中の外科学会, 2009. 3.
- 94) 竹井麻生<sup>1)</sup>, 田原重志, 石井雄道, 石井直子<sup>2)</sup>, 長村重志<sup>3)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 山王クリニック, <sup>3)</sup> 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学): 治療に難渋している下垂体クルックセルアデノーム

- マの1症例. 第19回臨床内分泌代謝Update, 2009. 3.
- 95) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 村井保夫, 小南修史<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院脳神経センター) : 脳血管攣縮に対してPTAを行った部位の長期的経過観察. 第38回日本脳卒中の外科学会, 2009. 3.
- 96) 石井雄道, 田原重志, 竹井麻生<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科) : Maffucci症候群に合併した下垂体腺腫の1例. 第19回臨床内分泌代謝Update, 2009. 3.
- 97) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 菅原 淳<sup>3)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 岩手医科大学脳神経外科) : Williams-Isu法を用いた頸椎前方固定術に対しSandwich法が与える影響について. 第32回日本脳神経CI学会総会, 2009. 3.
- 98) 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 太組一朗<sup>2)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科) : PerfusionCTによるクモ膜下出血急性期脳血流評価. 第32回日本脳神経CI学会総会, 2009. 3.
- 99) 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター) : RAグラフトの基本手技と応用. 第38回日本脳卒中の外科学会総会, 2009. 3.
- 100) 小南修史<sup>1)</sup>, 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター) : 脳動静脈奇形に対するガンナイツを前提とした血管内治療の治療戦略. 第38回日本脳卒中の外科学会総会, 2009. 3.
- 101) 金 景成<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター) : 頭蓋内慢性硬膜下血腫に合併する腰椎疾患に関する検討. 第22回日本老年脳神経外科学会総会, 2009. 3.
- 102) 國保倫子<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>2)</sup>, 井須豊彦<sup>3)</sup>, 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 岩手医科大学脳神経外科, <sup>3)</sup> 釧路労災病院脳神経外科) : 特発性脊髄硬膜外血腫の4例. 第22回日本老年脳神経外科学会総会, 2009. 3.
- 103) 額頰健太, 金 景成<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター) : 脳内出血で発症した腫瘍性脳動脈瘤の1例. 第22回日本老年脳神経外科学会総会, 2009. 3.
- (6) ポスター :
- 1) Yamaguchi F, Asakura T, Takahashi H<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Induction of apoptosis by 5-ALA Sonochemical Therapy in malignant glioma. 76th Annual Meeting of the American Association of Neurological Surgeons (AANS) (Illinois, Chicago), 2008. 4.
- 2) 森本大二郎<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科) : 胸髄くも膜下血腫の2例. 第23回日本脊髄外科学会, 2008. 6.
- 3) 寺尾 健, 谷有紀子<sup>1)</sup>, 井上京子<sup>1)</sup>, 村上ルミコ<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 松江病院リハビリテーション科, <sup>2)</sup> 松江病院看護部) : 松江病院脳神経外科病棟における深部静脈血栓症予防のためのマニュアル (案). 第11回日本病院脳神経外科学会, 2008. 7.
- 4) 戸田茂樹 : 中心性頸髄損傷の治療. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 5) 戸田茂樹 : 外傷後脳脊髄液減少症の診断および治療の問題点. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 6) 山王直子<sup>1)</sup>, 田原重志, 竹井麻生, 石井雄道, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 山王クリニック) : GH産生下垂体腺腫に対するOctreotide徐放製剤 (LAR) とGH拮抗薬の併用療法. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 7) 勝野 亮, 横田裕行<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 高度救命救急センター) : くも膜下出血と脳内出血における心電図変化. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 8) 大村朋子<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター) : 両側内頸動脈の低形成に発生した脳低動脈本幹動脈瘤の破裂によるくも膜下出血の1例. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 9) 額頰健太 : 椎骨動脈巨大血栓化動脈瘤に対しtrapping&bypass術が有効であった1例. 第67回日本脳神経外科

学会総会, 2008. 10.

- 10) 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター) : 右巨大椎骨動脈瘤に対しバイパス術, 血管内塞栓術を施行した1例. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 11) 佐藤 俊<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科) : 群発頭痛に対するSSRIの効果. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 12) 森本大二郎<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター, 2) 釧路労災病院脳神経外科) : 脳髄くも膜下血腫の2例. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 13) 金澤隆三郎 : ラットを用いたマイクロサージェリーの練習を通じてのよりよい術野の実現. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 14) 太組一朗<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>2)</sup>, 百東比古<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター, 2) 千葉北総病院形成外科, 3) 形成外科) : 頭蓋骨欠損におけるリン酸カルシウムペーストの適応拡大. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 15) 寺尾 健, 寺本 明 : シロスタゾール投与中に頭蓋内動脈狭窄が改善した2症例. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 16) 野手洋治<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 山崎道生<sup>1)</sup>, 土屋雅人<sup>1)</sup>, 寺本 明 (1) 多摩永山病院脳神経外科) : 血小板マイクロパーティクル測定は脳血栓症予防に有用である. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 17) 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター) : 開頭手術が望まれる脳動脈瘤とはどんなものか. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 18) 竹井麻生<sup>1)</sup>, 石井雄道, 田原重志, 梶谷華子<sup>2)</sup>, 山王直子<sup>3)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科, 2) 東海大学基盤診療学系病理診断学, 3) 山王クリニック) : TSH, GH同時産生下垂体腺腫の診断治療 : 当科の経験より. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 19) 山口文雄, 朝倉隆之, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科) : 悪性グリオーマに対する5-ALA超音波力学療法の基礎的研究. 第26回日本脳腫瘍学会, 2008. 11.
- 20) 足立好司, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科) : IL-12と23が示す抗グリオーマ活性と活性化サイトカインネットワークの解析. 第26回日本脳腫瘍学会, 2008. 11.
- 21) 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明 (1) 多摩永山病院脳神経外科) : 前頭部小開頭による脳室内および視床出血除去術. 第38回日本脳卒中の外科学会, 2009. 3.
- 22) 寺尾 健, 寺本 明 : 頭蓋内動脈狭窄に対するシロスタゾール投与の効果. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 23) 國保倫子<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 菅原 淳<sup>3)</sup>, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター, 2) 釧路労災病院脳神経外科, 3) 岩手医科大学脳神経外科) : 特発性脊髄硬膜外血腫の4例. 第32回日本脳神経CI学会総会, 2009. 3.
- 24) 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 國保倫子<sup>1)</sup>, 廣中浩平<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター) : 右椎骨巨大動脈瘤の1例. 第38回日本脳卒中の外科学会総会, 2009. 3.
- 25) 金澤隆三郎 : どうして脳神経外科医は少なくなったのか?. 第38回日本脳卒中の外科学会, 2009. 3.
- 26) 金澤隆三郎, 寺本 明 : 脳血管内治療時代を迎えて, 知っておくべき脳血管撮影のやり方 : 安全に必要な情報をいかに得るか. 第38回日本脳卒中の外科学会, 2009. 3.
- 27) 勝野 亮, 寺本 明 : 椎骨・脳底動脈系における脳梗塞の急性期診断. 第38回日本脳卒中の外科学会, 2009. 3.
- 28) 額額健太, 足立好司, 村井保夫, 高島伸之介<sup>1)</sup>, 寺本 明 (1) 高度救命救急センター) : 視野障害にて発症した視神経海綿状血管腫の1例. 第38回日本脳卒中の外科学会, 2009. 3.
- 29) 戸田茂樹, 額額健太, 寺本 明 : 髄内出血で発症し, 数年後に神経鞘腫と診断された1例. 第38回日本脳卒中

の外科学会, 2009. 3.

- 30) 額頰健太, 足立好司, 村井保夫, 高島伸之介<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (高度救命救急センター): くも膜下出血にて発症したCall Fleming syndromeの1例. 第38回日本脳卒中の外科学会, 2009. 3.
- 31) 戸田茂樹, 額頰健太, 寺本 明: 髄内出血で発症・治療その数年後に神経鞘腫が認められた1例. 第32回日本脳神経CI学会総会, 2009. 3.

## [武蔵小杉病院脳神経外科]

### 研究概要

武蔵小杉病院脳神経外科は, 付属病院脳神経外科と密接な連携を保ちながら, 脳腫瘍・脳血管障害・神経外傷・中枢神経系奇形・機能的脳疾患(顔面痙攣, 三叉神経痛, パーキンソン病, てんかんなど)・整容脳神経腫瘍部とあらゆる脳神経系疾患の外科的治療を行っている. 特に脳腫瘍に関しては, 従来摘出困難と思われてきた脳幹部などの腫瘍に対しても積極的に手術療法を施行して予後の改善を目指し, 悪性脳腫瘍に対しては手術後の補助療法としてQOLを重視した新しい化学療法を施行し, 良好な結果を取ってきている. また, 虚血性脳卒中中の急性期治療(tPA療法)を施行する神奈川県内の拠点病院となっていることから, 脳卒中治療室(SCU)を中心として脳卒中を主体とした救急疾患の治療にも力を注いでいる. 小児疾患に関しても, 脳腫瘍の治療を主体に行っているが, もやもや病などの血管性病変や中枢神経系奇形に対しての治療にも積極的に取り組んでいる. 基礎的研究としては, 分子生物学的手法を用いて脳腫瘍の悪性度に従って発現が異なる遺伝子のcDNAマイクロアレイによる解析, メタボローム解析による腫瘍の悪性転化に関する研究, 腫瘍血管新生抑制に関する新規薬剤の開発, 癌抑制遺伝子を用いた遺伝子療法の研究などを主として施行している. また, 悪性腫瘍において, 多くの基礎的データを基に特異的・非特異的免疫療法を組み合わせる臨床的に応用する研究を盛んに行っている. そして, 毎年国内外に確実に発表を行っており, 今年度は英文論文11編, 和文論文7編, 分担著書3編の発表がなされた.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) Miyakoshi T<sup>1)</sup>, Takei M, Kajiya H<sup>1)</sup>, Egashira N<sup>1)</sup>, Takekoshi S<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup>, Osamura-R Y<sup>1)</sup> (1) Tokai University, The school of medicine, Pathology, (2) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Expression of Wnt4 in Human Pituitary Adenomas Regulates Activation of the beta-Catenin-Independent Pathway. *Endocr Pathol* 2008; 19 (4): 261-273.
- 2) Takumi I, Akimoto M<sup>1)</sup> (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusyo Hospital): Catcher's mask cranioplasty for extensive cranial defects in children with an open head trauma: a novel application of partial cranioplasty. *Childs Nerv Syst* 2008; 24 (8): 927-932.
- 3) Osamura-R Y<sup>1)</sup>, Kajiya H<sup>1)</sup>, Takei M, Egashira N<sup>1)</sup>, Tobita M<sup>1)</sup>, Takekoshi S<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup> (1) Tokai University, The school of medicine, Pathology, (2) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Pathology of the human pituitary adenomas. *Histochem Cell Biol* 2008; 130 (3): 495-507.
- 4) Yoshida D, Nomura R, Teramoto A<sup>1)</sup> (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Regulation of cell invasion and signalling pathways in the pituitary adenoma cell line, HP-75, by reversion-inducing cysteine-rich protein with kazal motifs (RECK). *J Neuro-oncol* 2008; 89 (2): 141-150.
- 5) Wakabayashi T<sup>1)</sup>, Kayama T<sup>2)</sup>, Nishikawa R<sup>3)</sup>, Takahashi H, Yoshimine T<sup>4)</sup>, Hashimoto N<sup>5)</sup>, Aoki T<sup>6)</sup>, Kurisu K<sup>7)</sup>, Natsune A<sup>1)</sup>, Ogura M<sup>1)</sup>, Yoshida J<sup>1)</sup> (1) Department of Neurosurgery, Nagoya University School of Medicine, (2) Department of Neurosurgery, Yamagata University School of Medicine, (3) Depart-



ment of Neurosurgery, Saitama Medical School, <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Osaka University School of Medicine, <sup>5)</sup> Department of Neurosurgery, Kyoto University School of Medicine, <sup>6)</sup> Department of Neurosurgery, Kitano Hospital, <sup>7)</sup> Department of Neurosurgery, Hiroshima University School of Medicine) : A Multicenter Phase I Trial of Interferon-[beta] and Temozolomide Combination Therapy for High-grade Gliomas (INTEGRA Study). Jap J Clin Oncol 2008 ; 38 (10) : 715-718.

- 6) Sato S, Yin C<sup>1, 2)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup>, Sakuma Y<sup>1)</sup>, Kato M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Physiology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Sexually Dimorphic Modulation of GABAA Receptor Currents by Melatonin in Rat Gonadotropin-Releasing Hormone Neurons. J Physiol Sci 2008 ; 58 (5) : 317-322.
- 7) Sakai N, Kim K<sup>1, 2)</sup>, Sanno N<sup>1)</sup>, Yoshida D, Teramoto A<sup>1)</sup>, Shibasaki T<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Physiology, Nippon Medical School) : Elevation of Growth hormone-releasing hormone receptor messenger ribonucleic acid expression in growth hormone-secreting pituitary adenoma with Gs<sub>i</sub> protein mutation. Neurol Med Chir (Tokyo) 2008 ; 48 (11) : 481-488.
- 8) Morimoto D, Yoshida D, Noha M<sup>1)</sup>, Sasaki M<sup>1)</sup>, Takahashi H, Teramoto A<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Transient uptake of thallium-201 into a cerebral infarction : a case report. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (6) : 344-346.
- 9) Takumi I, Akimoto M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital) : Advantage of catcher's mask cranioplasty for post-surgical infectious skin trouble. Childs Nerv Syst 2009 ; 25 (4) : 493-495.
- 10) 山口文雄<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院 脳神経外科) : グリオーマ摘出における覚醒下手術と機能マッピング. 癌と化学療法 2008 ; 35 (6) : 914-917.
- 11) 高橋 弘 : 医療係争事例から学ぶ ; 脳ドックでの脳動脈瘤見落とし. 日本医師会雑誌 2008 ; 137 (8) : 1692-1693.
- 12) 吉田大蔵, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院 脳神経外科) : cDNA full-length clone の導入および siRNA 法を用いた解析による培養下垂体腺腫細胞におけるシグナル伝達経路の研究 (5). 1. 神経科学シリーズ. 日医大医会誌 2008 ; 4 (4) : 201-204.

(2) 総説 :

- 1) 太組一郎, 小泉慎也<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 藤野 修<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院 脳神経外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院 小児科) : てんかん診療における長時間デジタル脳波ビデオモニタリングシステムの導入. 日医大医会誌 2008 ; 4 (1) : 50-51.
- 2) 高橋 弘 : 慢性期意識障害スケール. Clinical Neurosci 2008 ; 26 (6) : 612-614.
- 3) 高橋 弘 : Central Nervous System Tumor 脳腫瘍 ; グリオーマ. 癌と化学療法 2008 ; 35 (6) : 910-910.
- 4) 高橋 弘 : 悪性脳腫瘍・脳卒中对策などテーマを明確化した連携を推進. 最新医療経営 Phase 3 2008 ; 291 (11) : 47-47.

(3) 症例報告 :

- 1) Takumi I, Mori O<sup>2)</sup>, Mizutani N<sup>1)</sup>, Akimoto M<sup>3)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Neurological Institute, Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Plastic Surgery, Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Expansile neurenteric cyst arising in the frontal lobe associated with status epilepticus : report of a case and discussion of epileptogenesis. Brain Tumor Pathol 2008 ; 25 (2) : 97-101.
- 2) Nomura R, Yoshida D, Kim K<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon



Medical School) : Intracerebral hemorrhage caused by a neoplastic aneurysm from pleomorphic lung carcinoma. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 2009 ; 49 (1) : 33-36.

## 著 書

- 1) 太組一朗 : [分担] Chapter3 てんかんの脳波検査 Q68 発作の観察とビデオ脳波モニタリングの注意点は？. てんかん診療のクリニカルクエスチョン194 (松浦雅人), 2009 ; pp100-104, 診断と治療社.
- 2) 吉田大蔵<sup>1)</sup> (1) 付属病院 脳神経外科) : [分担] 下垂体腺腫における Discoidin domain receptor (DDR-1) 発現の腫瘍浸潤における生物学的意義に関する研究. 内分泌病理学最近の進歩2007. hoホルモンと臨床 下垂体の基礎研究up date 2008 冬季増刊号, 2008 ; pp29-34, 医学の世界社.
- 3) 兄玉南海雄<sup>1)</sup>, 太組一朗 (1) 福島県立医科大学) : [分担] 第6章 脳神経外科手術. プリオン病感染予防ガイドライン要約 (2008年版), 2008 ; pp10-12.

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 高橋 弘 : 悪性脳腫瘍グリオーマの診断と治療. 明治薬科大学大学院 ; 医療薬学特論, 2008. 8.
- 2) 太組一朗 : プリオン病感染予防ガイドライン2008 : 脳外科. プリオン病全国担当者会議, 2009. 2.
- 3) 太組一朗 : 脳神経外科手術における整容的課題とその対策 : 機能回復の先に求められるQOL. 脳神経外科手術と機器学会 (第17回), 2008. 4.
- 4) 高橋 弘 : 悪性脳腫瘍のスタンダードとチャレンジ. 多摩脳腫瘍研究会 (第9回), 2008. 6.

### (2) シンポジウム :

- 1) 吉田大蔵, 瀧澤健太<sup>1)</sup>, 野村竜太郎<sup>1)</sup>, 石井雄道<sup>1)</sup>, 田原重志<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院 脳神経外科) : 低酸素状態における CXCR4 のシグナル増強とアンタゴニスト, AMD-3100 の成長ホルモン産生に対する抑制効果. 日本間脳下垂体腫瘍学会 (第19回), 2009. 2.
- 2) 竹井麻生, 田原重志<sup>1)</sup>, 石井雄道<sup>1)</sup>, 野村竜太郎, 梶谷華子<sup>2)</sup>, 井野元智恵<sup>2)</sup>, 竹腰 進<sup>2)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本明<sup>1)</sup> (1) 付属病院 脳神経外科, <sup>2)</sup> 東海大学 医学部基盤診療学系 病理診断学) : Crooke cell adenoma の臨床病理学的検討 治療の可能性に関する免疫組織化学的検討. 日本間脳下垂体腫瘍学会 (第19回), 2009. 2.
- 3) 太組一朗 : プリオン病感染予防ガイドライン2008 : 脳外科. プリオン病のサーベイランスと対策に関する全国担当者会議, 2009. 2.

### (3) 一般講演 :

- 1) Yoshida D, Nomura R, Teramoto A<sup>1)</sup> (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Signaling pathway by SDF-1/CXCR4 in pituitary adenoma. Annual Meeting of American Association of Neurological Surgeons (Chicago), 2008. 4.
- 2) Takahashi H, Hirakawa K<sup>2)</sup>, Ohno Y<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>, Yuta K<sup>1) 3)</sup> (1) 付属病院 脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 法医学・NMR研究施設, <sup>3)</sup> 富士通バイオIT事業開発本部) : Usefulness of NMR based metabolomics as the prognostic factor of malignant type of meningioma. Russian-Japanese Friendship Neurosurgical Symposium (St. Petersburg, Russia), 2008. 4.
- 3) Yamaguchi F<sup>1)</sup>, Asakura T<sup>1)</sup>, Takahashi H, Teramoto A<sup>1)</sup> (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Induction of apoptosis by 5-ALA sonochemical therapy in malignant glioma. The 76th Annual Meeting of the American Association of Neurological Surgeons (Chicago, USA), 2008. 4.
- 4) Yamada M<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>2)</sup>, Takumi I, Yamanouchi Y<sup>3)</sup> (1) Kanazawa University, <sup>2)</sup> Jichi Medical School, <sup>3)</sup> Ministry of Health, Labour and Welfare) : (1) Summary of the current data on the CJD surveillance in Japan (2) Genetic prion disease in Japan (3) Epidemiology of dura mater graft-associated CJD in Japan.

The Meeting of the European and Associated Countries Collaborative CJD (Surveillance Group, Riga, Latvia), 2008. 5.

- 5) Takei M, Kajiya H<sup>2)</sup>, Tahara S<sup>1)</sup>, Osamura-R Y<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup> (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, 2) Tokai University, The school of Medicine Pathology) : The correlation between the expression of somatostatin receptors in pathology specimens from acromegalic patients and the percent suppression of GH levels in the octreotide suppression test. 91th Annual Meeting of the Endocrine Society (ENDO2008) (San Francisco), 2008. 6.
- 6) 竹井麻生, 石井雄道<sup>1)</sup>, 田原重志<sup>1)</sup>, 梶谷華子<sup>2)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明明<sup>1)</sup> (1) 付属病院 脳神経外科, 2) 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学) : TSH, GH同時産生下垂体腺腫の診断治療 : 当科の経験より. 日本脳神経外科学会総会 (第67回), 2008. 10.
- 7) 竹井麻生, 田原重志<sup>1)</sup>, 石井雄道<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科, 2) 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学) : 治療に難渋しているACTH産生下垂体腺腫の1症例. ニューロオンコロジーの会 (第35回), 2008. 12.
- 8) Takumi I, Mohri S, Kitamoto T : The Japan CJD guideline 2008 ; an introduction to the Japanese CJD guidelines. The 8th symposium of the International Expert Advisory Group meeting : Iterative Risk Assessment Processes for Policy Development under Conditions of Uncertainty / Emerging Infectious Diseases : Round V (オタワ), 2009. 3.
- 9) 太組一朗, 原 恵子<sup>1)</sup>, 川勝正喜<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>3)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>4)</sup> (1) 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科, 2) 東京電機大学情報環境学部, 3) 千葉北総病院 脳神経外科, 4) 付属病院 脳神経外科) : 手術で治癒可能なたんかん : 難治性内側側頭葉てんかんの1例. 川崎市医師会医学会 (第26回), 2009. 2.
- 10) 竹井麻生, 石井雄道<sup>1)</sup>, 田原重志<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 梶谷華子<sup>2)</sup>, 井野元智恵<sup>2)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup> (1) 付属病院脳神経外科, 2) 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学) : Acromegaly を呈したGH, TSH同時産生下垂体腺腫の臨床病理学的検討. アクロメガリーフォーラム (第4回), 2008. 10.
- 11) 吉田大蔵, 野村竜太郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院 脳神経外科) : 下垂体腺腫におけるCXCR7発現の細胞内シグナル伝達における意義. 日本脳神経外科学会総会 (第67回), 2008. 10.
- 12) 若林俊彦, 夏目敦至, 嘉山孝正, 西川 亮, 松谷雅生, 高橋 弘, 藤井正純, 橋本信夫, 吉峰俊樹, 青木友和, 栗栖 薫, 吉田 純 (1) 名古屋大学医学部 脳神経外科, 2) 山形大学医学部 脳神経外科, 3) 埼玉医科大学 脳神経外科, 4) 京都大学医学部 脳神経外科, 5) 大阪大学医学部 脳神経外科, 6) 北野病院 脳神経外科, 7) 広島大学医学部 脳神経外科) : 悪性神経膠腫に対するインターフェロン $\beta$  + テモゾロミド併用療法 (INTEGRA study) 安全性試験中間報告. 日本脳神経外科学会総会 (第67回), 2008. 10.
- 13) 足立好司<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院 脳神経外科) : IL-12, IL-23が抗グリオーマ活性を示す時に誘導されるサイトカインの解析. 日本脳神経外科学会総会 (第67回), 2008. 10.
- 14) 山口文雄<sup>1)</sup>, 小島豊之<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> : ナビゲーションシステムを有効に利用した術中錐体路モニタリング” Navigation-Assisted Monitoring”. 日本脳神経外科学会総会 (第67回), 2008. 10.
- 15) 足立好司<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院 脳神経外科) : IL-12と23が示す抗グリオーマ活性と活性化サイトカインネットワークの解析. 日本脳腫瘍学会 (第26回), 2008. 11.
- 16) 山口文雄<sup>1)</sup>, 朝倉隆之<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院 脳神経外科) : 悪性グリオーマに対する5-ALA超音波力学療法の基礎的研究. 日本脳腫瘍学会 (第26回), 2008. 11.
- 17) 太組一朗, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup> (1) 千葉北総病院 形成外科, 2) 付属病院 形成外科, 3) 付属病院 脳神経外科) : 人工骨による頭蓋骨形成手術後の難治性皮膚潰瘍 : インプラントの全摘出は必要か? . 脳神経外科手術と機器学会 (第17回), 2008. 4.
- 18) 竹井麻生, 鈴木雅規<sup>2)</sup>, 石井雄道<sup>1)</sup>, 田原重志<sup>1)</sup>, 梶谷華子<sup>2)</sup>, 宮腰隆史<sup>2)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本

- 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院 脳神経外科, <sup>2)</sup> 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学) : GH, TSH同時産生下垂体腺腫の臨床像と病理所見. 日本内分泌学会学術総会 (第81回), 2008. 5.
- 19) 足立好司<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院 脳神経外科) : 急速に増大を示した乳児脈絡叢乳頭腫の1手術例. 日本小児神経外科学会 (第36回), 2008. 5.
- 20) 太組一朗 : トラブルシューティングからみた脳神経外科術後整容の課題. 千葉神経外科研究会 (第43回), 2008. 6.
- 21) 竹井麻生, 田原重志<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 長村義之<sup>2)</sup> (1) 付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学) : 神経下垂体部に近接して存在したACTH産生下垂体腺腫の1症例. 神奈川間脳下垂体研究会 (第10回), 2008. 7.
- 22) 佐藤 俊 : 前頭葉腫瘍と高次機能について. 文京ニューロサイエンスフォーラム, 2008. 7.
- 23) 梅岡克哉, 村井保夫<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 付属病院脳神経外科) : くも膜下出血患者においてCT所見と脳血管撮影所見の一致しない場合の手術検討. The Mt. Fuji Workshop on CVD (第27回), 2008. 8.
- 24) 竹井麻生, 高橋 弘, 田原重志<sup>1)</sup>, 石井雄道<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup> (1) 付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学) : 神経下垂体部に隣接して存在したACTH産生下垂体腺腫の1症例. 日本脳神経外科学会関東地方会 (第106回), 2008. 9.
- 25) 太組一朗, 原 恵子<sup>1)</sup>, 川勝正喜<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>3)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>4)</sup> (1) 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科, <sup>2)</sup> 東京電機大学情報環境学部, <sup>3)</sup> 千葉北総病院 脳神経外科, <sup>4)</sup> 付属病院 脳神経外科) : 内側側頭葉てんかんの1手術例. 川崎脳神経外科懇話会 (第20回), 2008. 10.
- 26) 梅岡克哉, 村井保夫<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 付属病院脳神経外科) : 脳血管攣縮に対するPTA後の再狭窄に対する検討. 日本脳神経外科学会総会 (第67回), 2008. 10.
- 27) 野村竜太郎, 吉田大蔵, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院 脳神経外科) : 下垂体腺腫におけるSDF-1発現の意義. 日本脳神経外科学会総会 (第67回), 2008. 10.
- 28) 高橋 弘, 平川慶子<sup>2)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>1)</sup>, 大野曜吉<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 湯田浩太郎<sup>3)</sup> (1) 付属病院 脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 法医学・NMR研究施設, <sup>3)</sup> 富士通バイオIT事業開発本部) : 髄膜腫悪性転化を予測するNMRメタボロミクス (メタボローム) : 脂溶性代謝産物解析による新展開. 日本脳神経外科学会総会 (第67回), 2008. 10.
- 29) 太組一朗, 小南修史<sup>1)</sup>, 渡辺 玲, 浦 裕之, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院 脳神経外科, <sup>2)</sup> 付属病院 脳神経外科) : 硬膜動静脈瘻とてんかん : Epilepsy in dural arteriovenous fistulae (AVM). てんかん学会総会 (第42回), 2008. 10.
- 30) 太組一朗, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>3)</sup> (1) 千葉北総病院 形成外科, <sup>2)</sup> 付属病院 脳神経外科, <sup>3)</sup> 付属病院 形成外科) : 開頭手術後の自家骨吸収とCPC on-lay grafting . 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第26回), 2008. 10.
- 31) 太組一朗, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>4)</sup> (1) 付属病院 形成外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院 脳神経外科, <sup>3)</sup> 付属病院 形成外科, <sup>4)</sup> 付属病院 脳神経外科) : 頭蓋骨欠損におけるリン酸カルシウムペーストの適応拡大 Indication of calcium phosphate paste in the large cranial defect . 日本脳神経外科学会学術総会 (第67回), 2008. 10.
- 32) 佐藤 俊, 喜多村孝幸<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院 脳神経外科) : 群発頭痛に対するSSRIの効果. 日本脳神経外科学会総会 (第67回), 2008. 10.
- 33) 太組一朗, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院 形成外科, <sup>2)</sup> 付属病院 脳神経外科) : 小児巨大骨欠損における自家骨移植 : Catcher's mask cranioplasty. 京浜脳神経外科懇話会 (第14回), 2008. 12.

- 34) 太組一朗, 高橋 弘, 小泉慎也<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup> (1) 千葉北総病院 小児科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院 脳神経外科, <sup>3)</sup> 付属病院 脳神経外科) : てんかん外科セットアップにおける諸問題. 日本てんかん外科学会 (第32回), 2009. 1.
- 35) 梅岡克哉, 村井保夫<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 付属病院脳神経外科) : 脳血管攣縮に対しPTAを行った部位の長期的経過観察. 日本脳卒中の外科学会 (第38回), 2009. 3.
- 36) 竹井麻生, 田原重志<sup>1)</sup>, 石井雄道<sup>1)</sup>, 石井直子<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院 脳神経外科, <sup>2)</sup> 東海大学 医学部基盤診療学系 病理診断学) : 治療に難渋している下垂体クルックセルアデノーマの1症例. 臨床内分泌代謝Update (第19回), 2009. 3.

## [多摩永山病院脳神経外科]

### 研究概要

多摩永山病院脳神経外科は日本脳神経外科専門医訓練施設として付属病院脳神経外科と密接な連携を保ちながら以下の研究を行っている。これらは全てハイレベルの受診者満足度を目的として観点からの研究と考えている。

多摩地区は高齢者人口が増加の一途をたどり、それに伴い虚血性脳血管障害症例が急増している。それゆえ、上記疾患に対する研究を第一とした。すなわち、内頸動脈狭窄症に対しては外科的治療戦略のさらなる改善・工夫についての研究を行った。また、脳梗塞急性期症例に対し、重要な要因のひとつである血小板機能の病態解明について、従来にはなかった最新の研究が可能となり目下進行中である。そして近々その報告ができると確信している。なお、3D-CTAなどの画像検査・頸動脈エコー・PWV・経頭蓋超音波ドプラー検査および電気生理学的検査(ABR・SEP)等を駆使し、臨床研究の一助としている。特にPWVおよび頸動脈エコーについては、脳梗塞予防・再発防止の観点からも研究を行っている。

次に、いわゆる無症候性疾患、特に高齢者の脳腫瘍・未破裂脳動脈瘤および脊椎・脊髄疾患などに対しては、QOLを第一とした手術法についての改良研究を行った。一方、従来摘出困難とされていた頭蓋底腫瘍に対しては、予後改善目的に手術法の検討のみならず手術器具の開発研究も行っている。また、当教室の主体の1つである脳下垂体腺腫、および悪性脳腫瘍については、付属病院他専門スタッフの協力を得て、脳神経外科学教室共通のプロトコールに従い治療・研究を行っている。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Tamaki T, Node Y, Teramoto A<sup>1)</sup> (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Changes of the plasma ketone body level and arterial ketone body ratio at the onset of mild aneurysmal subarachnoid hemorrhage. Neurological Research 2008 ; 30 (9) : 898-902.

#### 学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 木暮一成, 伊須豊彦<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : 頸椎前方固定術～William-Isu法の諸問題と改良. 日本脊髄外科学会 (第23回), 2008. 6.
- 2) 木暮一成, 戸田茂樹<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科) : 脊髄腫瘍に対する低侵襲手術～特に2期的手術の境界. 日本脊髄外科学会 (第23回), 2008. 6.
- 3) 玉置智規, 野手洋治 : 脳室内出血を伴う視床出血に対する前頭部小開頭による血腫除去術. 脳神経外科学会関



東地方会（第106回）、2008. 9.

- 4) 野手洋治, 玉置智規, 山崎道生, 土屋雅人, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 血小板マイクロパーティクル測定は脳血栓症予防に有用である. 日本脳神経外科学会総会 (第67回), 2008. 10.
- 5) 野手洋治, 玉置智規, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 脳神経外科手術における医事紛, 医療訴訟防止のための具体的提言. 日本脳神経外科学会総会 (第67回), 2008. 10.
- 6) 玉置智規, 野手洋治: 前頭部小開頭による脳室内および視床出血除去術. 日本脳神経外科学会総会 (第67回), 2008. 10.
- 7) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 戸田茂樹<sup>2)</sup>, 金 景成<sup>2)</sup>, 玉置智規, 山崎道生, 土屋雅人, 野手洋治, 寺本 明<sup>2)</sup>, 湧井健治<sup>3)</sup>, 赤石江太郎<sup>3)</sup>, 中村一也<sup>3)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 日本医科大学脳神経外科, 3) 千葉脳神経外科病院): 頸椎前方固定術: William-Isu法の改良と応用~TCP配合セラミックを用いて. 脳神経外科学会総会 (第67回), 2008. 10.
- 8) 山崎道生, 梶谷華子<sup>1)</sup>, 竹腰 進<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学, 2) 日本医科大学脳神経外科): 下垂体腺腫におけるEgr-1の発現. 日本脳神経外科学会総会 (第67回), 2008. 10.
- 9) 山崎道生, 玉置智規, 土屋雅人, 木暮一成, 野手洋治, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 圧挫細胞診が有用であった神経膠腫症の1例. 日本臨床細胞学会 (第46回), 2008. 12.
- 10) 土屋雅人, 山崎道生, 玉置智規, 野手洋治, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): クモ膜嚢胞に合併した若年性慢性硬膜下血腫の1例. 日本脳神経外科学会関東支部会 (第107回), 2008. 12.
- 11) 玉置智規, 齋藤寛浩<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>2)</sup>, 梅岡克哉<sup>2)</sup>, 立山幸次郎<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 野手洋治 (1) 東京警察病院脳神経外科, 2) 日本医科大学脳神経外科): 自験例におけるCEA時のシャントの経験. 日本脳卒中の外科学会 (第38回), 2009. 3.
- 12) 玉置智規, 野手洋治, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 前頭部小開頭による脳室内および視床出血除去術. 日本脳卒中の外科学会 (第38回), 2009. 3.

## [千葉北総病院脳神経外科]

### 研究概要

開設15年が経過した千葉北総病院脳神経外科は, 付属病院脳神経外科と綿密な関係を保ちながら, 脳血管障害, 頭部外傷, 脳腫瘍, 脳代謝, 脳血管内手術, 脊髄脊椎外科, 機能的脳神経外科, および整容脳神経外科を中心とした臨床的および基礎的研究を行った. 脳卒中ケアユニット (SCU) も順調に稼動しており, 新たに導入した印旛脳卒中地域連携パスも加わり, 千葉県における基幹施設としての責務を果たした. 完成した千葉県統一脳卒中地域連携パスにおいて中心的役割を演じた. 1) 脳血管障害: 脳卒中診療におけるドクターヘリの実績をまとめた. SCUにて経験したrt-PA連続40症例の報告を行った. 外科的にはRAgraft50例の経験により, その基本手技と応用に関しての総説を行った. 又, 頸動脈内膜剥離術後の神経障害について検討した. 内頸動脈大型 (巨大) もしくは血栓化動脈瘤に対する治療法の選択基準を強調した. 2) 頭部外傷: 受傷急性期の分子マーカーからみた頭部外傷の形態把握と予後予測に関しての調査を行った. 3) 脳腫瘍: 脳下垂体腺腫形成におけるPTTG (pituitary tumortransformin gene) の役割に関しての研究を継続した. 4) 脳代謝: 未治療パーキンソン病におけるアデノシン A2A 受容体の治療開始後の変化について検討した. 5) 脳血管内治療: 前脊髄動脈から流入する脊髄動静脈奇形に対する塞栓術を報告した. 6) 脊髄脊椎外科: 3種類の異なる腰椎後方除圧術における術後筋肉損傷に関する研究を行った. 7) 機能的脳神経外科: 内側側頭葉てんかんについての検討を行った. 8) 整容脳神経外科: 頭蓋骨欠損におけるリン酸カルシウムペーストの適応拡大について報告した.



## 研究業績

### 論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Mishina M, Ohyama M<sup>1</sup>, Ishii K<sup>1</sup>, Kitamura S<sup>1</sup>, Kimura Y<sup>2</sup>, Oda K<sup>2</sup>, Kawamura K<sup>2</sup>, Sasaki T<sup>1</sup>, Kobayashi S, Katayama Y<sup>1</sup>, Ishiwata K<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> Department of Neurology, Nephrology, and Rheumatology, Nippon Medical School, <sup>2</sup> Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology ) : Low density of sigma1 receptors in early Alzheimer' s disease. *Annals of Nuclear Medicine* 2008 ; 22 (3) : 151-156.

(1) 原著：

- 1) Mishina M, Ishii K<sup>2</sup>, Kitamura S<sup>1</sup>, Kimura Y<sup>2</sup>, Naganawa M<sup>2</sup>, Hashimoto M<sup>2</sup>, Suzuki M<sup>2</sup>, Oda K<sup>2</sup>, Hamamoto M<sup>1</sup>, Kobayashi S, Katayama Y<sup>1</sup>, Ishiwata K<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> Department of Neurology, Nephrology, and Rheumatology, Nippon Medical School , <sup>2</sup> Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology ) : Variations in adenosine A2A receptors following anti-parkinsonian therapy in drug na ve Parkinson's disease using 11C-TMSX PET. *Movement Disorders* 2008 ; 23 (1) : S68.
- 2) Kim K, Isu T<sup>1</sup>, Nomura R, Kobayashi S, Teramoto A<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, <sup>2</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School ) : Cervical ligamentum flavum ossification : Two Case Reports. *Neurol Med Chir* 2008 ; 48 (4) : 183-187.
- 3) Amemiya S<sup>1</sup>, Hamamoto M<sup>1</sup>, Mishina M, Ueda M<sup>1</sup>, Kumagai T<sup>1</sup>, Nishiyama Y<sup>1</sup>, Katayama Y<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Department of Neurology, Nephrology, and Rheumatology, Nippon Medical School ) : Short-term plasticity of central benzodiazepine receptors in status epilepticus : case report. *Acta Neurol Scand* 2008 ; 117 (4) : 285-288.
- 4) Kim K, Isu T<sup>1</sup>, Sugawara A<sup>1</sup>, Matsumoto R<sup>1</sup>, Isobe M<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital ) : Prediction of postoperative alignment in patients undergoing anterior cervical fusion using autologous vertebral bone grafting. *Neurol Med Chir* 2008 ; 48 (5) : 201-207.
- 5) Ohta Y<sup>1</sup>, Nariai T<sup>1</sup>, Ishii K<sup>1</sup>, Ishiwata K<sup>1</sup>, Mishina M, Senda M<sup>1</sup>, Hirakawa K<sup>1</sup>, Ohno K<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology ) : Voxel- and ROI-based statistical analyses of PET parameters for guidance in the surgical treatment of intractable mesial temporal lobe epilepsy. *Annals of Nuclear Medicine* 2008 ; 22 (6) : 495-503.
- 6) Mishina M, Komaba Y<sup>1</sup>, Kobayashi S, Kominami S, Fukuchi T<sup>1</sup>, Mizunari T, Teramoto A<sup>2</sup>, Katayama Y<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Department of Neurology, Nephrology, and Rheumatology, Nippon Medical School, <sup>2</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School ) : Administration of free radical scavenger Edaravone associated with higher frequency of hemorrhagic transformation in patients with cardiogenic embolism. *Neurol Med Chir* 2008 ; 48 (7) : 292-297.
- 7) Takumi I, Akimoto M<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Cranio-Facial Institute, Nippon Medical School Chiba-Hokuso Hospital ) : Catchers' s mask cranioplasty for extensive cranial defects in children with an open head trauma : a novel application of partial cranioplasty. *Childs Nerv Syst* 2008 ; 24 : 927-932.
- 8) Sakai N<sup>1</sup>, Kim K, Yoshida D<sup>1</sup>, Teramoto A<sup>1</sup>, Shibasaki T ( <sup>1</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, <sup>2</sup> Department of Physiology, Nippon Medical School ) : Elevation of growth hormone-releasing hormone receptor messenger ribonucleic acid expression in growth hormone-secreting pituitary adenoma with Gs  $\alpha$  Protein Mutation. *Neurol Med Chir* 2008 ; 48 (11) : 481-488.

- 9) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科): 3種類の異なる腰椎後方除圧術における術後筋肉損傷に関する研究. 日本脊椎脊髄病学会雑誌 2008; 19 (1): 60-60.
  - 10) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科): 脊椎・脊髄疾患における脊髄造影後CTの必要性に関する検討. 脊髄外科 2008; 22 (1): 10-16.
  - 11) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 小林士郎 (1) 釧路労災病院脳神経外科): 脊髄外科手術における超音波骨メス (SONOPET) の有用性及び合併症について. 日本脊髄障害医学会雑誌 2008; 21 (1): 122-123.
  - 12) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科): Sandwich法を併用したWilliams-Isu法の放射線学的検討. 脊髄外科 2008; 22 (2): 131-133.
  - 13) 原 行弘<sup>1)</sup>, 小林士郎 (1) 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科): 脳卒中急性期リハビリテーション. 救急・集中治療, 脳・神経系管理Q & A: 研修医からの質問288 2008; 20 (1.2): 239-244.
  - 14) 三品雅洋, 北村 伸<sup>1)</sup>, 小林士郎 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科): 新薬展望2009 第III部 治療における最近の新薬に位置付け<薬効別>: 新薬の広場 脳血管障害治療薬. 医薬ジャーナル 2009年増刊号 2009; 45 (S-1): 530-535.
- (2) 総説:
- 1) Mishina M: Positron Emission Tomography for Brain Research. J Nippon Med Sch 2008; 75 (2): 68-76.
- (3) 症例報告:
- 1) Takumi I, Mori O<sup>1)</sup>, Mizutani N, Akimoto M<sup>2)</sup>, Kobayashi S, Teramoto A<sup>3)</sup> (1) Cranio-Facial Institute, Nippon Medical School Chiba-Hokuso Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Expansile neurenteric cyst arising in the frontal lobe associated with status epilepticus: report of a case and discussion of epileptogenesis. Brain Tumor Pathol 2008; 25 (2): 97-101.
- (4) 研究報告書:
- 1) 三品雅洋, 石渡喜一<sup>1)</sup> (1) 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究施設): [11C]SA4503 PETを用いたアルツハイマー病におけるシグマ1受容体分布の検討. 千葉県医師会医学会誌 4 2008; 4: 80-82.

## 著 書

- 1) 兎玉南海雄<sup>1)</sup>, 太組 一朗 (1) 福島県立医科大学脳神経外科): [分担] 脳神経外科手術. 厚生労働科学研究費補助金・難治性疾患克服研究事業 プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する研究調査班プリオン病感染予防ガイドライン (2008年版) 要約, 2008; pp8-10.
- 2) 清水秀樹<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 新井 悟<sup>1)</sup>, 小黒辰夫<sup>1)</sup>, 赤坂久美<sup>1)</sup>, 小林士郎, 岡田 進<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院放射線科, <sup>3)</sup> 日本医科大学多摩永山病院病理部, <sup>4)</sup> 日本医科大学病理学教室): [分担] 脳腫瘍の画像と細胞像. クリエイティブサイトロジー3 画像所見と細胞像, 2009; pp1-26, 武藤科学 (株).
- 3) 小林士郎: [分担] 転倒により生じる頭部外傷. 日本医師会雑誌, 第137巻・第11号, 2009; pp2281-2285.
- 4) 三品雅洋, 北村 伸<sup>1)</sup>, 小林士郎 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科): [分担] 新薬展望2009 第III部 治療における最近の新薬に位置付け<薬効別>: 新薬の広場 脳血管障害治療薬. 医薬ジャーナル 2009年増刊号 (Vol. 45 No. S-1), 2009; pp318-323.

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 太組一朗：脳神経外科手術における整容的課題とその対策：機能回復の先に求められるQOL. 第17回脳神経外科手術と機器学会, 2008. 4.
- 2) 三品雅洋：印旛脳卒中地域連携バスの運用実績. 第2回印旛脳卒中地域連携バス講演会, 2008. 6.
- 3) 三品雅洋：脳卒中地域連携バス. 第95回東葉臨床医学セミナー, 2008. 6.
- 4) 小林士郎：脳卒中にならないために. 印西市市民公開講座, 2008. 6.
- 5) 小南修史：NBCAを用いた脳血管内治療：NBCAで何ができるか, NBCAでどこまでできるか. 第1回北東北脳血管内治療カンファレンス, 2008. 6.
- 6) 太組一朗：トラブルシューティングからみた脳神経外科術後整容の課題. 第43回千葉神経外科研究会, 2008. 6.
- 7) 水成隆之：最近の脳動脈瘤手術症例から. 第3回城東stroke研究会, 2008. 6.
- 8) 金 景成：腰椎黄色靭帯における血管新生に関する研究. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 9) 金 景成：腰部脊柱管狭窄症：最近のレビュー. 釧路脳神経外科懇話会, 2008. 9.
- 10) 三品雅洋：脳卒中地域連携バス導入と諸問題. 第8回さいたま脳卒中地域連携研究会, 2008. 9.
- 11) 三品雅洋：千葉県における血栓溶解療法の実態と地域連携. 千葉県脳卒中講演会, 2008. 10.
- 12) 金 景成：それもせぼねの病気ですか?. 第67回日本脳神経外科学会総会公開市民講座, 2008. 10.
- 13) 三品雅洋：脳卒中診療におけるDr. ヘリ. 君津中央病院院内講演会, 2008. 11.
- 14) 三品雅洋：慢性期脳梗塞の薬物治療. 八街地区学術講演会, 2008. 11.
- 15) 小林士郎：脳卒中にならないために. 佐倉市脳卒中市民公開講座, 2008. 11.
- 16) 三品雅洋：千葉県統一バスの進行状況. 第3回印旛脳卒中地域連携バス講演会, 2008. 12.
- 17) 三品雅洋：脳血管障害と地域連携. 第4回成田印旛透析カンファレンス, 2008. 12.

### (2) シンポジウム：

- 1) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, (2) 日本医科大学脳神経外科)：3種類の異なる腰椎後方除圧術における術後筋肉損傷に関する研究. 第37回日本脊椎脊髄病学会, 2008. 4.
- 2) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, (2) 日本医科大学脳神経外科)：腰部脊柱管狭窄症における最近の文献レビュー. 第67回日本脳神経外科学会学術総会, 2008. 10.
- 3) 小南修史, 渡辺 玲, 布施 明<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学高度救命救急センター, (2) 日本医科大学脳神経外科)：ガンマナイフを前提とした脳動静脈奇形の塞栓術. 第24回日本脳神経血管内治療学会総会, 2008. 11.

### (3) 一般講演：

- 1) Kominami S：Presurgical Embolization of Choroid Plexus Papilloma. The 8th Meeting of Asian-Australasian Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology, 2008. 4. 8. Taipei Taiwan (Taipei Taiwan), 2008. 4.
- 2) Yamada M<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>2)</sup>, Takumi I, Yamanouchi M<sup>3)</sup> (1) Kanazawa University, (2) Jichi Medical School, (3) Ministry of Health, Labour and Welfare)：Summary of the current data on the CJD surveillance in Japan. The Meeting of the European and Associated Countries Collaborative CJD Surveillance Group, Riga, (Riga, Latvia), 2008. 5.
- 3) Yamada M<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>2)</sup>, Takumi I, Yamanouchi Y<sup>3)</sup> (1) Kanazawa University, (2) Jichi Medical School, (3) Ministry of Health, Labour and Welfare)：(1) Summary of the current data on the CJD surveillance in Japan (2) Genetic prion disease in Japan (3) Epidemiology of dura mater graft-associated CJD in Japan. The Meeting of the European and Associated Countries Collaborative CJD Surveillance Group (Riga, Latvia),

2008. 5.

- 4) Mishina M, Kobayashi S, Katayama Y<sup>1)</sup> (1) The Department of Neurology, Nephrology, and Rheumatology, Nippon Medical School) : Variations in adenosine A2A receptors following anti-parkinsonian Therapy in drug nave Parkinsons disease using 11C-TMSX PET. 12th International Congress of Parkinsons' s Disease and Movement Disorders (Chicago, USA), 2008. 6.
- 5) Kyongsong K : Anterior vertebral artery decompression to treat bow hunter' s syndrome. Korean Cervical Spine Research Society (Korea Soul), 2008. 7.
- 6) 金 景成, 森本大二郎, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : 症候群椎間関節周囲囊腫の1例. 第2回博多中洲脊髄懇話会, 2008. 4.
- 7) 井須豊彦<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>1)</sup>, 金 景成, 松本亮司<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科) : 腰椎変性疾患に対する後方除圧術の手術手技. 第17回脳神経外科手術と機器学会, 2008. 4.
- 8) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 森本大二郎, 小南修史, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : SONOPETを用いた前方除圧術にて治療し得た bow hunter' s syndrome の1例. 第17回脳神経外科手術と機器学会, 2008. 4.
- 9) 菅原 淳<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 笹森 徹<sup>2)</sup>, 磯部正則<sup>2)</sup>, 松本亮司<sup>2)</sup>, 金 景成, 小川 彰<sup>1)</sup> (1) 岩手医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科) : 後方除圧術のみにて治療された腰椎椎間孔狭窄症の2例. 第17回脳神経外科手術と機器学会, 2008. 4.
- 10) 太組一朗, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学形成外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : 人工骨による頭蓋骨形成手術後の難治性皮膚潰瘍 : インプラントの全摘出は必要か? . 第17回脳神経外科手術と機器学会, 2008. 4.
- 11) 瀨藤健太, 水成隆之, 渡辺 玲, 小南修史, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科) : 椎骨動脈巨大血栓化動脈瘤に対し trapping&bypass 術が有効であった1例. 第105回日本脳神経外科学会関東支部会, 2008. 4.
- 12) 金 景成, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : 椎間関節のう腫により下肢痛をきたした1例. 第29回東北海道脊髄疾患研究会, 2008. 4.
- 13) 井須豊彦<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>2)</sup>, 金 景成, 磯部正則<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 岩手医科大学脳神経外科) : 腰椎変性すべり症に対する後方除圧術単独の治療成績 : 利点ならびに問題点. 第28回日本脳神経外科コンgres総会, 2008. 5.
- 14) 小南修史 : 内頸動脈バルーン閉塞後とC5欠損の2症例における内頸動脈の再構築. Niche Neuro-Angiology Conference, 2008. 5.
- 15) 三品雅洋, 石渡喜一<sup>1)</sup>, 石井賢二<sup>1)</sup>, 北村 伸<sup>2)</sup>, 木村祐一<sup>1)</sup>, 長縄美香<sup>1)</sup>, 織田圭一<sup>1)</sup>, 橋本昌也<sup>1)</sup>, 鈴木正彦<sup>1)</sup>, 濱本 真<sup>3)</sup>, 小林士郎, 片山泰朗<sup>4)</sup> (1) 東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究グループ, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院内科, <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院内科, <sup>4)</sup> 日本医科大学第二内科) : 未治療パーキンソン病にけるアデノシンA2A受容体の治療開始後の変化. 第49回日本神経学会総会, 2008. 5.
- 16) 雨宮志門<sup>1)</sup>, 濱本 真<sup>1)</sup>, 熊谷智昭<sup>1)</sup>, 葉山修陽<sup>1)</sup>, 三品雅洋, 片山泰朗<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学第二内科) : 慢性腎不全患者における血漿Aβ42・Aβ40値. 第49回日本神経学会総会, 2008. 5.
- 17) 渡辺 玲, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科) : 突然の意識障害を呈した1症例. 第59回千葉北総神経放射線研究会, 2008. 5.
- 18) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>2)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>, 森本大二郎, 小林士郎, 木暮一成<sup>3)</sup>, 戸田茂樹<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 岩手医科大学脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : Sandwich法を併用したWilliams-Isu法の放射線学的検討. 第23回日本脊髄外科学会, 2008. 6.
- 19) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>, 森本大二郎, 小林士郎, 木暮一成<sup>2)</sup>, 戸田茂樹<sup>3)</sup>,



- 寺本 明<sup>3)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : Eden type IVの腰部椎間孔部腫瘍に対する傍脊柱筋アプローチ. 第23回日本脊髄外科学会, 2008. 6.
- 20) 小南修史, 金 景成, 戸田茂樹<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科) : 前脊髄動脈から流入する脊髄動脈奇形に対する塞栓術. 第23回日本脊髄外科学会, 2008. 6.
- 21) 國保倫子, 金 景成, 立山幸次郎, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科) : 片麻痺で発症した頸椎疾患の1例. 第69回東葛脳神経外科カンファレンス, 2008. 6.
- 22) 渡辺 玲, 水成隆之, 玉置智規<sup>1)</sup>, 勝野 亮<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : 頸動脈内膜剥離術後の神経障害についての検討. 第7回日本頸部血管治療学会, 2008. 6.
- 23) 青木華映<sup>1)</sup>, 福田美香<sup>1)</sup>, 浅野亜由美<sup>1)</sup>, 齊藤歩美<sup>1)</sup>, 佐野さやか<sup>1)</sup>, 久下谷好恵<sup>1)</sup>, 松永智永<sup>1)</sup>, 水成隆之 (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター7階東病棟) : プラーク除去を強化した口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防. 第17回日本意識障害学会, 2008. 7.
- 24) 富永加奈<sup>1)</sup>, 伴 美幸<sup>1)</sup>, 吉田麻美<sup>1)</sup>, 福田弥生<sup>1)</sup>, 堤 悦子<sup>1)</sup>, 大木朋美<sup>1)</sup>, 権藤有紀<sup>1)</sup>, 水成隆之 (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター7階東病棟) : 睡眠・覚醒障害に対する我々の取り組み : ミルクとはちみつ, アロマオイルを用いて. 第17回日本意識障害学会, 2008. 7.
- 25) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 森本大二郎, 小南修史, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : 前方除圧術にて治療しえた bow hunter' s syndrome の1例. Summer forum for practical spinal surgery, 2008. 8.
- 26) 水成隆之, 玉置智規<sup>1)</sup>, 村井保夫<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 寺尾 健<sup>1)</sup>, 立山幸次郎, 勝野 亮<sup>1)</sup>, 額額健太<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科) : 前交通動脈瘤治療における穿通枝温存について (手術治療の立場から). 第27回The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2008. 8.
- 27) 國保倫子, 金 景成, 立山幸次郎, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科) : 片麻痺を主訴とした特発性脊髄硬膜外血腫の1例. 第106回日本脳神経外科関東支部会, 2008. 9.
- 28) 廣中浩平, 小林士郎, 足立好司<sup>1)</sup>, 村井保夫<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 岩川賀世<sup>2)</sup>, 酒巻雅典<sup>3)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院リウマチ科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院第二内科) : 経過観察中に再発したPosterir reversible encephalopathy syndromeの1例. 第22回千葉県重症患者管理研究会, 2008. 9.
- 29) 金 景成, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科) : 腰部脊柱管狭窄症 最近のレビュー. 釧路脳神経外科懇話会, 2008. 9.
- 30) 廣中浩平, 國保倫子, 大村朋子, 立山幸次郎, 金 景成, 渡辺 玲, 太組一郎, 三品雅洋, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎 : 44歳男性脳出血の1例. 第60回千葉北総神経放射線研究会, 2008. 9.
- 31) 渡辺 玲, 小南修史, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科) : 複視で発症した内頸動脈瘤の1例. 第70回東葛脳神経外科カンファレンス, 2008. 9.
- 32) 勝野 亮, 横田裕行<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : くも膜下出血と脳内出血の心電図変化. 第67回日本脳神経外科学会学術総会, 2008. 10.
- 33) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科) : 開頭手術が望まれる脳動脈瘤とはどんなものか. 第67回日本脳神経外科学会学術総会, 2008. 10.
- 34) 小南修史, 渡辺 玲, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科) : 脳動脈奇形の塞栓術の治療成績. 第67回日本脳神経外科学会学術集會, 2008. 10.
- 35) 太組一朗, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学形成外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : 頭蓋骨欠損におけるリン酸カルシウムペーストの適応拡大. 第67回日本脳神経外科学会学術総会, 2008. 10.
- 36) 渡辺 玲, 小南修史, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科) : 内頸動脈内膜剥離術後の嚥下障



害・嘔声の検討. 第67回日本脳神経外科学会学術総会, 2008. 10.

- 37) 立山幸次郎, 渡辺 玲, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 右巨大椎骨動脈瘤に対しバイパス術, 血管内塞栓術を施行した1例. 第67回日本脳神経外科学会学術総会, 2008. 10.
- 38) 大村朋子, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 両側内頸動脈の低形成に発生した脳底動脈幹動脈瘤の破裂によるくも膜下出血の1例. 第67回日本脳神経外科学会学術総会, 2008. 10.
- 39) 三品雅洋, 石井賢二<sup>1)</sup>, 北村 伸<sup>2)</sup>, 木村裕一<sup>1)</sup>, 長縄美香<sup>1)</sup>, 織田圭一<sup>1)</sup>, 橋本昌也<sup>1)</sup>, 鈴木正彦<sup>1)</sup>, 濱本真<sup>3)</sup>, 小林士郎, 片山泰朗<sup>4)</sup>, 石渡喜一<sup>1)</sup> (1) 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究グループ, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院内科, 3) 日本医科大学千葉北総病院内科, 4) 日本医科大学第二内科): 未治療パーキンソン病における被殻アデノシン A2A 受容体分布と抗パーキンソン病薬投与後の変化. Movement Disorder Society, Japan 第2回MDSJ学術集会, 2008. 10.
- 40) 金丸勝弘<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 斉藤伸行<sup>1)</sup>, 武井健吉<sup>1)</sup>, 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 朽方規喜<sup>1)</sup>, 小林宣明<sup>2)</sup>, 横山昌也<sup>2)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>2)</sup>, 小林士郎, 益子邦洋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室): 広範な脳梗塞にみられた神経原性肺水腫の2例. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 41) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 日本医科大学脳神経外科): 脊髄障害性疼痛の治療について. 第30回東北北海道脊髄疾患研究会, 2008. 10.
- 42) 三品雅洋, 石井賢二<sup>1)</sup>, 北村 伸<sup>2)</sup>, 木村裕一<sup>1)</sup>, 長縄美香<sup>1)</sup>, 橋本昌也<sup>1)</sup>, 織田圭一<sup>1)</sup>, 鈴木正彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 片山泰朗<sup>3)</sup>, 石渡喜一<sup>1)</sup> (1) 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究グループ, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院内科, 3) 日本医科大学第二内科): パーキンソン病における抗パーキンソン病薬投与後のアデノシン A2A 受容体分布の変化. 第48回日本核医学会学術総会, 2008. 10.
- 43) 太組一朗, 原 恵子<sup>1)</sup>, 川勝正喜<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>4)</sup> (1) 東京医科歯科大学保健衛生学研究科, 2) 東京電機大学情報環境学部, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, 4) 日本医科大学脳神経外科): 内側側頭葉てんかんの1手術例. 第20回川崎脳神経外科懇話会, 2008. 10.
- 44) 三品雅洋, 石渡喜一<sup>1)</sup>, 石井賢二<sup>1)</sup>, 小林士郎, 片山泰朗<sup>2)</sup> (1) 東京都老人総合研究所ポジトロン医学施設, 2) 日本医科大学内科学講座神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): 被殻アデノシン A2A 受容体分布の加齢変化: [11C]TMSX PETを用いた検討. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 45) 三品雅洋, 石渡喜一<sup>1)</sup>, 石井賢二<sup>1)</sup>, 北村 伸<sup>2)</sup>, 濱本 真<sup>2)</sup>, 小林士郎, 片山泰朗<sup>2)</sup> (1) 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究施設, 2) 日本医科大学内科学講座神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): 未治療パーキンソン病における抗パーキンソン病薬投与後の被殻アデノシン A2A 受容体分布の変化. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 46) 福地孝明<sup>1)</sup>, 大鳥達雄<sup>1)</sup>, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 大久保誠二<sup>1)</sup>, 西山康裕<sup>1)</sup>, 長尾毅彦<sup>2)</sup>, 岡村正哉<sup>2)</sup>, 野本達也<sup>3)</sup>, 水越元気<sup>3)</sup>, 中嶋信人<sup>2)</sup>, 萩原 浩<sup>4)</sup>, 阿部 新<sup>4)</sup>, 小林士郎, 片山泰朗 (1) 日本医科大学付属病院神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, 2) 東京都保険医療公社荏原病院神経内科, 3) 山梨県北村山公立病院神経内科, 4) 塩田病院神経内科): 日本医科大学神経内科関連5病院でのrt-PA投与成績の検討: その1. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 47) 大鳥達雄<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>1)</sup>, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 大久保誠二<sup>1)</sup>, 西原康裕<sup>1)</sup>, 長尾毅彦<sup>2)</sup>, 岡村正哉<sup>2)</sup>, 野本達也<sup>3)</sup>, 水越元気<sup>3)</sup>, 中嶋信人<sup>3)</sup>, 萩原 浩<sup>4)</sup>, 阿部 新<sup>4)</sup>, 三品雅洋, 小林士郎, 片山泰朗<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, 2) 東京都保険医療公社荏原病院神経内科, 3) 山梨県北村山公立病院神経内科, 4) 塩田病院神経内科): 日本医科大学神経内科関連5病院でのrt-PA投与成績の検討: その2. 第20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.
- 48) 熊谷智昭<sup>1)</sup>, 雨宮志門<sup>1)</sup>, 三品雅洋, 濱本 真<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院内科, 2) 日本医科大学付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): 一過性全健忘におけるeZISを用いた脳血流評価. 第

20回日本脳循環代謝学会総会, 2008. 11.

- 49) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 國保倫子, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科): 脊髄障害性疼痛に対するケタミン使用の小経験. 第43回日本脊髄障害医学会, 2008. 11.
- 50) 小南修史, 渡辺 玲, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): NBCAを用いた脳動脈奇形の塞栓術の結果の評価. 第24回日本脳神経血管内治療学会総会, 2008. 11.
- 51) 渡辺 玲, 小南修史, 岩本直高<sup>2)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 金澤隆三郎<sup>2)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 流山中央病院脳神経外科): 初回治療後に他部位に再発した硬膜動脈瘻の1例. 第24回日本脳神経血管内治療学会総会, 2008. 11.
- 52) 加藤丈司<sup>1)</sup>, 阿部雅志<sup>1)</sup>, 永井淳司<sup>1)</sup>, 池亀 敏<sup>1)</sup>, 中島健志<sup>1)</sup>, 渡辺典男<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 小南修史, 小林士郎 (1) 日本医科大学千葉北総病院放射線センター): 椎骨脳底動脈における血流および血管外観の3D Fusion Imaging. 第24回日本脳神経血管内治療学会総会, 2008. 11.
- 53) 清水秀樹<sup>1)</sup>, 大秋美秋<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 小黑辰夫<sup>1)</sup>, 新井 悟<sup>1)</sup>, 小林士郎, 岡田 進<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 前田昭太郎<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院放射線科, <sup>3)</sup> 日本医科大学病理学教室, <sup>4)</sup> 日本医科大学多摩永山病院病理部): 脳腫瘍のUP-TO-DATE・MRI画像と細胞像. 第47回日本臨床細胞学会終期大会, 2008. 11.
- 54) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 廣中浩平, 國保倫子, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科): 腰部脊柱管の治療: 脊髄疾患との鑑別を要した転換性障害の2例. 釧路地区脳神経外科研究会, 2008. 11.
- 55) 廣中浩平, 國保倫子, 大村朋子, 立山幸次郎, 金 景成, 渡辺 玲, 三品雅洋, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎: 脳腫瘍. 第61回千葉北総神経放射線研究会, 2008. 11.
- 56) 大村朋子, 國保倫子, 廣中浩平, 立山幸次郎, 金 景成, 渡辺 玲, 三品雅洋, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎: 後頭蓋窩の髄外病変. 第61回千葉北総神経放射線研究会, 2008. 11.
- 57) 大村朋子, 水成隆之, 立山幸次郎, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 両側内頸動脈低形成に発生した脳底動脈瘤の2例. 第107回日本脳神経外科学会関東支部会, 2008. 12.
- 58) 金 景成, 國保倫子, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 保存的治療で経過観察中の歯突起骨折の1例. 第4回房総脊髄手術手技研究会, 2009. 1.
- 59) 金 景成, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 当施設における外傷性脊椎骨折の手術戦略. The 2nd STR Spine Forum in Zao, 2009. 2.
- 60) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科): Williams-Isu法と経椎体アプローチのcombined approachに関する検討. 釧路脊椎疾患セミナー, 2009. 2.
- 61) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>2)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>3)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 岩手医科大学脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学脳神経外科): Williams-Isu法を用いた頸椎前方固定術に対しSandwich法が与える影響について. 第32回日本脳神経CI学会総会, 2009. 3.
- 62) 立山幸次郎, 太組一朗<sup>1)</sup>, 三品雅洋, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科): PerfusionCTによるクモ膜下出血急性期脳血流評価. 第32回日本脳神経CI学会総会, 2009. 3.
- 63) 國保倫子, 金 景成, 立山幸次郎, 小林士郎, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 岩手医科大学脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学脳神経外科): 特発性脊髄硬膜外血腫の4例. 第32回日本脳神経CI学会総会, 2009. 3.
- 64) 三品雅洋, 小林士郎, 水成隆之, 渡辺 玲, 金 景成, 立山幸次郎, 大村朋子, 廣中浩平, 國保倫子, 片山泰朗<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学内科講座・腎臓・膠原病リウマチ部門): 印旛脳卒中地域連携パス (InClips) の運用実績. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.

- 65) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): RA グラフトの基本手技と応用. 第38回日本脳卒中の外科学会総会, 2009. 3.
- 66) 小南修史, 渡辺 玲, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 脳動静脈奇形に対するガンマナイフを前提とした血管内治療の治療戦略. 第38回日本脳卒中の外科学会総会, 2009. 3.
- 67) 三品雅洋, 小林士郎, 水成隆之, 片山泰朗<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座・腎臓・膠原病リウマチ部門): 千葉県における血栓溶解療法の実態. 第38回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 68) 立山幸次郎, 水成隆之, 渡辺 玲, 小南修史, 國保倫子, 廣中浩平, 大村朋子, 金 景成, 小林士郎, 寺本明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 右椎骨巨大動脈瘤の1例. 第38回日本脳卒中の外科学会総会, 2009. 3.
- 69) 村井保夫<sup>1)</sup>, 水成隆之, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 寺尾 健<sup>1)</sup>, 勝野 亮<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): いわゆる内頸動脈前壁解離性動脈瘤破裂によるくも膜下出血の治療における radial artery graft の意義. 第38回日本脳卒中の外科学会総会, 2009. 3.
- 70) 村井保夫<sup>1)</sup>, 水成隆之, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 寺尾 健<sup>1)</sup>, 立山幸次郎, 勝野 亮<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): Radial artery graft を安全に行う為に: 50例の経験からの知見. 第38回日本脳卒中の外科学会総会, 2009. 3.
- 71) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 村井保夫<sup>2)</sup>, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科): 脳血管攣縮に対しPTAを行った部位の長期的経過観察. 第38回日本脳卒中の外科学会総会, 2009. 3.
- 72) 吉田陽一<sup>1)</sup>, 中村精紀<sup>1)</sup>, 望月由武人<sup>1)</sup>, 徳永 仁<sup>1)</sup>, 大橋元一郎<sup>1)</sup>, 土居 浩<sup>1)</sup>, 小南修史 (1) 東京都保健医療公社荏原病院脳神経外科): 脳血管攣縮に対しPTAを行った部位の長期的経過観察. 第38回日本脳卒中の外科学会総会, 2009. 3.
- 73) 福地孝明<sup>1)</sup>, 大島達雄<sup>1)</sup>, 三品雅洋, 阿部 新<sup>2)</sup>, 中嶋信人<sup>3)</sup>, 岡村正哉<sup>4)</sup>, 小林士郎, 野本達也<sup>4)</sup>, 長尾毅彦<sup>4)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院神経内科, <sup>2)</sup> 塩田病院神経内科, <sup>3)</sup> 北村公立病院神経内科, <sup>4)</sup> 東京都保健医療公社荏原病院神経内科): 日本医科大学神経内科関連施設でのrt-PA投与症例の検討 その3. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.
- 74) 佐藤聡美<sup>1)</sup>, 長麻里子<sup>1)</sup>, 福田弥生<sup>1)</sup>, 堤 悦子<sup>1)</sup>, 水成隆之 (1) 日本医科大学千葉北総病院看護部): SCUを有する脳神経センターにおける看護の実践. 第38回日本脳卒中の外科学会総会, 2009. 3.
- 75) 玉置智規<sup>1)</sup>, 齋藤寛浩<sup>2)</sup>, 鈴木紀成<sup>3)</sup>, 梅岡克哉<sup>3)</sup>, 立山幸次郎, 水成隆之, 野手洋治<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 東京警察病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学脳神経外科): 自験例におけるCEA時のシヤントの経験. 第38回日本脳卒中の外科学会総会, 2009. 3.
- 76) 金 景成, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 頭蓋内慢性硬膜下血腫に合併する腰椎疾患に関する検討. 第22回日本老年脳神経外科学会総会, 2009. 3.
- 77) 國保倫子, 金 景成, 菅原 淳<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 立山幸次郎, 小林士郎, 寺本 明<sup>3)</sup> (1) 岩手医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学脳神経外科): 特発性脊髄硬膜外血腫の4例. 第22回日本老年脳神経外科学会総会, 2009. 3.
- 78) 國保倫子, 金 景成, 菅原 淳<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 立山幸次郎, 小林士郎, 寺本 明<sup>3)</sup> (1) 岩手医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学脳神経外科): 特発性脊髄硬膜外血腫の4例. 第22回日本老年脳神経外科学会総会, 2009. 3.
- 79) 額額健太<sup>1)</sup>, 金 景成, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 脳内出血で発症した腫瘍性脳動脈瘤の1例. 第22回日本老年脳神経外科学会総会, 2009. 3.

## 12. 整形外科学講座

[付属病院整形外科・武蔵小杉病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科]

### 研究概要

整形外科学教室の平成20年度の研究は、臨床的研究において脊椎部、肩、肘、股、膝関節部、手の外科、足の外科、骨、軟部腫瘍などを対象とした疾患ならびに外傷に対する系統的臨床研究報告を行った。部位別にみると、脊椎では頸、腰部疾患の診断、治療、手術手技、手の外科では手関節周辺骨折、末梢神経、腱の障害に対する治療および手術法、の開発、肩関節障害に対する手術的治療の新知見などを発表した。骨軟部腫瘍に対する診断、治療法における新知見を報告している。基礎的研究では、留学先との共同研究である手の指関節を支持する靭帯の3次元的な構造と機能の解明に対する研究成果を学会、誌上で報告した。またヒト骨髄ES細胞を2次培養後の細胞増殖に関する研究成果を報告した。

学会発表は量、質ともに向上し、国際学会の発表頻度が増加して発表の場の広がりをみせ、シンポジウム、招待、研修、一般講演などが積極的に行われた。

### 研究業績

#### 論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Nakajima T, Ieda T, Murashige R, Minami K, Miyamoto M, Ito H : Management of the perioperative risk of venous thromboembolism in spinal surgery patients. The Journal of the Japanese Society for spine surgery and related research 2007 ; 18 (3) : 646-650.
- 2) Liu X, Konno S, Miyamoto M, Gembun Y, Horiguchi G, Ito H : clinical value of motor evoked potential with transcranial magnetic stimulation in the assessment of lumbar spinal stenosis. international orthopaedics 2008 ; Erup ahead of print.
- 3) 大場俊二<sup>1)</sup>, 南 和文, 伊藤博元<sup>1)</sup> 大場整形外科) : 腰椎疲労骨折の早期診断と早期スポーツ復帰. 日本臨床スポーツ医学会誌 2007 ; 15 (3) : 429-440.

(1) 原著：

- 1) Mitsuru F<sup>1)</sup>, Kazuhiro C<sup>2)</sup>, Mamoru K<sup>3)</sup>, Shin-Ichi K<sup>4)</sup>, Shin-Ichi K<sup>4)</sup>, Masabumi M, Atsushi S<sup>5)</sup>, Tadashi S<sup>6)</sup>, Osamu S<sup>7)</sup>, Toshihiko T<sup>8)</sup>, Kazuhisa T<sup>9)</sup>, Katsushi T<sup>5)</sup>, Toshikazu T<sup>10)</sup>, Yoshiaki T<sup>2)</sup>, et al. <sup>1)</sup> Laboratory of Statistics, Osaka City University Faculty of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Keio University, <sup>3)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Wakayama Medical University, <sup>4)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, School of Medicine, Fukushima Medical University, <sup>5)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, The University of Tokyo, <sup>6)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Iwate Medical University School of Medicine, <sup>7)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Saitama Medical School, <sup>8)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Yamaguchi University School of Medicine, <sup>9)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medicine, Chiba University, <sup>10)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Kochi Medical School) : Japanese Orthopaedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire. Part 3. Validity study and establishment of the measurement scale. J Orthop Sci 2008 ; 13 (3) : 173-179.



- 2) Konno S, Aoki T, Ito H : A new mathematical approach for approximating the baseline of F-waves using spreadsheet software. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (5) : 274-279.
- 3) Miyamoto M, Konno S, Gembun Y, Liu X, Minami K, Ito H : Epidemiological study of low back pain and occupational risk factors among taxi drivers. industrial health 2008 ; 46 : 112-117.
- 4) 南野光彦, Viegas FS<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Orthopaedic Surgery and Rehabilitation, The University of Texas Medical Branch, Galveston Tx ) : Three-dimensional computed tomography of the carpal ligaments. Semin Musculoskeletal Radiol 2009 ; 13 (1) : 3-17.
- 5) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : Pin and rubbers traction system によるPIP 関節背側脱臼骨折の治療経験. 骨折 2008 ; 30 (2) : 234-237.
- 6) 澤泉卓哉 : 整形外科手術に役立つ皮弁とそのコツ : 有茎皮弁 手の皮弁 手の有茎血管柄付き骨移植 舟状骨偽関節に対する血管柄付き第2中手骨基部骨移植術. Orthopaedics 2008 ; 21 (5) : 47-53.
- 7) 河路秀巳, 玉井健介, 堀口 元, 松井秀平, 伊藤博元 : 全身状態不良の大腿骨近位部骨折の保存療法症例の検討. 関東整形災害外科学会雑誌 2008 ; 39 (3) : 114-117.
- 8) 橋口 宏, 伊藤博元, 飯澤典茂 : Neer 分類 minimal displacement (1-part) 上腕骨近位端骨折における成績不良因子. 肩関節 2008 ; 32 (2) : 325-328.
- 9) 澤泉卓哉, 南野光彦 : 肘関節脱臼・骨折治療マニュアル : 橈骨頭・頸部骨折の治療. Orthopaedics 2008 ; 21 (7) : 65-71.
- 10) 玉井和哉<sup>1)</sup>, 石毛徳之<sup>2)</sup>, 黒田重史<sup>2)</sup>, 大野 弥<sup>1)</sup>, 伊藤博元, 橋口 宏, 飯澤典茂, 三笠元彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 獨協医科大学整形外科学教室, <sup>2)</sup> 松戸整形外科病院 ) : 上腕骨近位端骨折の分類と治療 : JSS データベースの検討 : 第1部 分類. 肩関節 2008 ; 32 (3) : 581-585.
- 11) 玉井和哉<sup>1)</sup>, 石毛徳之<sup>2)</sup>, 黒田重史<sup>2)</sup>, 大野 弥<sup>1)</sup>, 伊藤博元, 橋口 宏, 飯澤典茂, 三笠元彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 獨協医科大学整形外科学教室, <sup>2)</sup> 松戸整形外科病院 ) : 上腕骨近位端骨折の分類と治療 : JSS データベースの検討 : 第2部 治療. 肩関節 2008 ; 32 (3) : 587-592.
- 12) 青木孝文, 小寺訓江, 萩原祐介, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 骨性槌指に対する小切開ピンニング法の経験と治療上の問題点. 日本手の外科学会雑誌 2008 ; 24 (4) : 514-517.
- 13) 飯澤典茂, 伊藤博元, 橋口 宏, 黒田重史<sup>1)</sup>, 石毛徳之<sup>1)</sup>, 三笠元彦<sup>1)</sup>, 玉井和哉<sup>2)</sup>, 大野 弥<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 松戸整形外科病院, <sup>2)</sup> 獨協医科大学整形外科学教室 ) : 多施設集計に基づく上腕骨近位端骨折データベースの分析. 関節外科 2008 ; 27 (10) : 1302-1309.
- 14) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 青木孝文, 劉 新宇, 伊藤博元 : 腰部脊柱管狭窄症の病態 腰部脊柱管狭窄症診断における下肢刺激性感覚誘発電位 Lp 電位潜時の意義. 日本腰痛学会雑誌 2008 ; 14 (1) : 28-33.
- 15) 河路秀巳, 玉井健介, 小林俊之, 植松卓哉, 伊藤博元 : 大腿骨近位部骨折の術後早期死亡例の検討. Hip Joint 2008 ; 34 : 602-606.
- 16) 玉井健介 : Roof osteophyte を有する末期股関節症の疼痛について. Hip Joint 2008 ; 34 : 530-533.
- 17) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 第1手根中手骨関節靭帯の3次元運動解析. 日本手の外科学会誌 2008 ; 25 (2) : 22-26.
- 18) 南 和文, 大場俊二<sup>1)</sup>, 伊藤博元 ( <sup>1)</sup> 大場整形外科 ) : 腰椎分離症の up to date 診断と治療・予防の実際 : 腰椎分離症の画像診断. 臨床スポーツ医学 2008 ; 25 (12) : 1359-1369.
- 19) 青木孝文, 堀口 元, 今野俊介, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 軽症手根管症候群の治療における母指対立開排運動の試行. 末梢神経 2008 ; 19 (2) : 537-539.
- 20) 田中陽子, 北川泰之, 藤井信人, 伊藤博元 : 骨膜性軟骨腫の2例. 東日本整形災害外科学会雑誌 2008 ; 20 (4) : 647-650.



(2) 総説：

- 1) 宮本雅史, 伊藤博元：作業姿勢からみた腰痛予防. Orthopaedics 2008 ; 21 (6) : 25-30.
- 2) 伊藤博元：運動器不安定症の診断基準. Clinical Calcium 2008 ; 18 (11) : 18-23.
- 3) 河路秀巳, 伊藤博元：骨粗鬆症の診断と治療. 日医大医学会誌 2009 ; 5 (1) : 41-46.

(3) 症例報告：

- 1) Hayashi M, Kitagawa Y, Kim Y, Tanaka Y, Fujii N, Ito H, Maeda S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Division of Pathology, Tamana-gayama Hospital) : Malignant glomus tumor arising among multiple glomus tumors. Source : Journal of Orthopaedic Science 2008 ; 13 (5) : 472-475.

著 書

- 1) 伊藤博元：〔分担〕肩関節への進入路. 肩関節外科の要点と盲点, 2008 ; pp84-89, 文光堂.
- 2) 橋口 宏：〔分担〕腱板障害：インピンジメント症候群 (2) 鏡視下肩峰形成術. 肩関節外科の要点と盲点 (編集 高岸憲二), 2008 ; pp312-313, 文光堂.
- 3) 橋口 宏：〔分担〕滑液包側断裂を肩峰形成のみで処置できるか？. 肩関節外科の要点と盲点 (高岸憲二), 2008 ; p355, 文光堂.
- 4) 宮本雅史：〔分担〕腰痛のしくみと腰椎椎間板ヘルニアに関する基本的な話. 患者さんのための腰椎椎間板ヘルニアガイドブック, 2008 ; pp1-13, 南江堂.
- 5) 伊藤博元：〔分担〕手術のための局所解剖 肩甲帯・肩関節. 最新整形外科学大系 7, 手術進入法：上肢, 2008 ; pp8-15, 中山書店.
- 6) 伊藤博元：〔分担〕手術のための局所解剖 上腕. 最新整形外科学大系 7, 手術進入法：上肢, 2008 ; pp6-20, 中山書店.
- 7) 宮本雅史：〔分担〕いわゆる腰痛症. 今日の治療指針, 2008 ; pp774, 医学書院.

学会発表

〔追加分〕

追加分シンポジウム：

- 1) 中嶋隆夫, 丸山晴久, 村重良一, 南 和文, 家田俊也, 宮本雅史, 伊藤博元：脊椎手術周術期静脈血栓塞栓症のRisk management. 脊椎脊髄病学会 (第36回), 2007. 4.
- 2) 南 和文, 大場俊二<sup>1)</sup>, 伊藤博元 (<sup>1)</sup> 大場整形外科)：発育期スポーツはどうあるべきか：発育期の腰椎分離症の早期診断と治療. 日本整形外科学会学術集会 (第80回), 2007. 5.

追加分一般講演：

- 1) Nakajima T : An evaluation of perioperative anticoagulant therapy in spinal surgery. 日仏整形外科合同会議 (第9回) (Nice), 2007. 9.
- 2) 中嶋隆夫, 南 和文：治療に難渋した陳旧性第1腰椎圧迫骨折の1症例. 順天堂大学脊椎セミナー (第3回), 2007. 5.
- 3) 中嶋隆夫, 南 和文：治療に難渋した化膿性脊椎炎の1症例. 函館脊椎セミナー (第1回), 2008. 2.
- 4) 中嶋隆夫, 南 和文：イリザロフ創外固定器併用 後方侵入360° 固定を施行した化膿性脊椎炎の1症例. ちば脊椎カンファレンス (第10回), 2008. 2.
- 5) 中嶋隆夫, 南 和文：治療に難渋した化膿性脊椎炎の1症例. 函館脊椎セミナー (第1回), 2008. 2.

(1) 招待講演：

- 1) Sawaizumi T, Nanno M, Ito H : Treatment of fracture-dislocations of the proximal interphalangeal joint with the “pins and rubbers” traction systems. annual congress of Ho-Chi Minh City Hand Surgery Society

(The 9th) (Ho-Chi Minh), 2009. 3.

(2) 教育講演：

- 1) 伊藤博元：肩関節の外傷，スポーツ障害の診療ポイント．鹿児島外傷研究会（第4回），2008. 4.
- 2) 森 淳：運動と年齢；整形外科系．平成20年度東京都医師会健康スポーツ医学講習会，2008. 5.
- 3) 青木孝文：吸収性骨接合材の臨床応用と展望．日本骨折治療学会（第34回），2008. 6.
- 4) 伊藤博元：肩関節の疼痛性疾患，スポーツ障害の診療ポイント．千葉県整形外科病診連携セミナー（第10回），2008. 7.
- 5) 伊藤博元：運動器不安定症と肩関節疾患のリハビリテーション．岡山県臨床整形医会（第243回），2008. 7.
- 6) 伊藤博元：肩関節疼痛性疾患の診療とリハビリテーションのポイント．骨関節代謝外科研究会（第11回），2008. 7.
- 7) 森 淳：下肢のリハビリテーション．運動器リハビリテーションセラピスト研修会，2008. 7.
- 8) 伊藤博元：外傷後・術後のリハビリテーション．日本整形外科学会認定運動器リハビリ医研修会（第3回），2008. 9.
- 9) 伊藤博元：肩関節の外傷・スポーツ障害の診療ポイント．東京都臨床整形外科医会統合研修会（第272回），2008. 9.
- 10) 伊藤博元：肩関節外傷・スポーツ障害の診療と治療．京都運動器疾患フォーラム（第39回），2008. 10.
- 11) 伊藤博元：肩関節画像診断の基礎と臨床．日本整形外科学会基礎学術集会（第23回），2008. 10.
- 12) 北川泰之：軟部腫瘍：外来診療における留意点．中野区・杉並区整形外科合同医会，2008. 10.
- 13) 伊藤博元：疾患別リハビリテーション2：下肢：運動器不安定症．運動器リハビリテーションセラピスト研修会，2008. 11.
- 14) 宮本雅史：頸椎性脊髄症の診断と治療．北総整形外科カンファレンス（第9回），2008. 11.
- 15) 宮本雅史：上肢脊椎リハビリテーション．運動器リハビリテーションセラピスト研修会，2008. 11.
- 16) 宮本雅史：ガイドラインからみた腰椎椎間板ヘルニアにおける診療のポイント．岩手軟骨懇話会（第10回），2009. 1.
- 17) 澤泉卓哉：舟状骨骨折と偽関節：最近の治療戦略．葛飾区医師会整形外科集談会（第275回），2009. 1.

(3) シンポジウム：

- 1) Mori A：Revision surgery of anterior cruciate ligament with the augmented one bundle reconstruction. Taiwan-Japan Orthopaedic Symposium (The 17th) (Taipei), 2008. 4.
- 2) Aoki T：Simple and Easy Therapeutic Exercise for Chronic Low Back Pain. Taiwan-Japan Orthopaedic Symposium (The 17th) (Taipei), 2008. 5.
- 3) Sawaizumi T, Nanno M, Ito H：New vascularized bone grafting to the nonunion of the scaphoid using second dorsal metacarpal artery. SICOT/SIROT 2002 XXII World Congress (Hong Kong), 2008. 8.
- 4) 橋口 宏，伊藤博元：腱板大断裂・広範囲断裂に対する腱板修復術：直視下法と鏡視下法の比較．日本関節鏡学会（第34回），2008. 6.
- 5) 澤泉卓哉，南野光彦，大場良輔，伊藤博元：DISI変形を伴った舟状骨偽関節に対する血管柄付き第2中手骨基部骨移植術．東日本整形災害外科学会（第57回），2008. 9.
- 6) 江川慶長，伊藤博元，南 和文，森 淳，橋口 宏，飯澤典茂，金 竜，北村繁行：CR型人工膝関節の長期成績：術後10年以上経過例の検討．日本人工関節学会（第39回），2009. 2.

(4) パネルディスカッション：

- 1) 澤泉卓哉<sup>1)</sup>，中尾悦宏<sup>1)</sup>，西浦康正<sup>2)</sup>，森友寿夫<sup>3)</sup>，藤井 哲<sup>4)</sup>（<sup>1)</sup> 中日新聞社健康保険組合中日病院，<sup>2)</sup> 筑波大学整形外科，<sup>3)</sup> 大阪大学整形外科，<sup>4)</sup> 弘前大学整形外科）：橈骨遠位端骨折：X線診断法とそのエビデンス．日本手の外科学会学術集会（第51回），2008. 4.

- 2) 星野雄一<sup>1)</sup>, 伊藤博元<sup>(1)</sup> 自治医科大学整形外科学教室) : 運動器リハビリテーションの課題. 日本整形外科学会学術総会 (第81回), 2008. 5.
  - 3) 南 和文, 伊藤博元, 中川泰彰<sup>1)</sup> (1) 京都大学整形外科) : スポーツ現場での医療行為の現状と課題 : 相撲. 日本整形外科学会スポーツ医学会学術集会 (第39回), 2008. 7.
  - 4) 青木孝文, 宮本雅史, 元文芳和, 今野俊介, 伊藤博元 : 青慢性腰痛に対する簡便な運動療法の試み. 日本運動器リハビリテーション学会 (第20回), 2008. 7.
  - 5) 宮本雅史 : 日本整形外科学会腰痛評価質問票 JOABPEQ の有用性について. 日本腰痛学会 (第16回), 2008. 11.
  - 6) 橋口 宏, 伊藤博元 : 関節拘縮を伴った腱板不全断裂に対する鏡視下腱板修復・関節包解離術の治療成績. 日本肩関節学会 (第35回), 2008. 11.
- (5) ワークショップ :
- 1) Kitagawa Y, Tanaka Y, Yoshizawa T, Hayashi M, Kim Y, Fujii N, Ito H, Hosone M<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>1)</sup> (1) Division of Pathology, Tamanagayama Hospital) : Complementary relation between MRI and FNAC in diagnosis of soft tissue tumors. Japan-Thailand International Cytology Workshop (The 15th) (Tokyo), 2008. 11.
- (6) 一般講演 :
- 1) Miyamoto M : recurrence of fibrous hamartoma of infancy 14 years after the primary surgery a case report. Taiwan-Japan Orthopaedic Symposium (The 17th) (Yi-Lan city, Taiwan), 2008. 4.
  - 2) Mori A : Revision Surgery of Anterior Cruciate Ligament with the Augmented One Bundle Reconstruction. Taiwan-Japan Orthopaedic Symposium (The 17th) (Taipei, Taiwan), 2008. 4.
  - 3) Hashiguchi H, Ito H : Postoperative MRI evaluation of arthroscopic treatments for partial : thickness rotator cuff tears. Academic Congress of Asian Shoulder Association (The 6th) (Hong Kong), 2008. 4.
  - 4) Miyamoto M : Japanese Orthopaedic Society BackPain Evaluation Questionnaire (JOABPEQ). Taiwan Spine Summit Forum TSSF (The 3rd) (Taoyuan city, Taiwan), 2008. 7.
  - 5) Egawa Y, Hashiguchi H, Nakajima T, Murashige R, Minami K, Ito H : Effect of tranexamic acid on postoperative blood loss and DVT in total knee arthroplasty. TWC SICOT (The 26th) (Hong Kong), 2008. 8.
  - 6) Hashiguchi H, Ito H, Egawa Y, Murashige R : Murashige R : Clinical comparison of intramedullary fixations versus plate osteosynthesis for humeral shaft fractures. SICOT/SIROT 2008 XXIV World Congress (Hong Kong), 2008. 8.
  - 7) Hashiguchi H, Ito H, Egawa Y, Murashige R : Arthroscopic transtendon repair for partial articular surface tendon avulsion (PASTA) lesion. Biennial Asia Arthroscopy Congress (The 1st) (Seoul), 2008. 9.
  - 8) Egawa Y, Hashiguchi H, Minami K, Ito H : Effect of tranexamic acid on postoperative blood loss and DVT in total knee arthroplasty. 2009 AAOS Annual Meeting (Las Vegas Nevada), 2009. 2.
  - 9) Hashiguchi H, Ito H, Egawa Y, Murashige R : Analysis of radiographic findings on patients with subacromial impingement syndrome. Annual Meeting of AAOS (The 76th) (Las Vegas, NV), 2009. 2.
  - 10) Hashiguchi H, Ito H, Egawa Y, Murashige R : Arthroscopic treatments for partial-thickness rotator cuff tears. Annual Meeting of AAOS (The 76th) (Las Vegas, NV), 2009. 2.
  - 11) Egawa Y, Hashiguchi H, Minami K, Ito H : Effect of tranexamic acid on postoperative blood loss and DVT in total knee arthroplasty. 2009 AAOS Annual Meeting (Las Vegas Nevada), 2009. 2.
  - 12) 南野光彦, Viegas FS<sup>1)</sup>, 澤原卓哉, 伊藤博元<sup>(1)</sup> Department of Orthopaedic Surgery and Rehabilitation, The University of Texas Medical Branch, Galveston, TX) : 第1手根中手骨関節靭帯の3次元運動解析. 日本手の外科学会 (第51回), 2008. 4.
  - 13) 宮本雅史, 元文芳和, 今野俊介, 萩原祐介, 劉 新宇, 伊藤博元, 福井 充<sup>1)</sup> (1) 大阪市立大学医学部推計学研究室) : 日本整形外科学会腰痛評価質問票 (JOABPEQ) を用いた治療成績評価の評価について. 日本脊椎脊

髓病学会（第37回），2008. 4.

- 14) 齋藤 善, 澤泉卓哉, 南野光彦, 青木孝文, 伊藤博元: 成人ばね指に対する腱鞘内トリアムシノロン注射による腱・腱鞘の形態学的変化. 日本手の外科学会（第51回）, 2008. 4.
- 15) 北川泰之, 伊藤博元, Ek E<sup>1)</sup>, Ojaimi J<sup>1)</sup>, Choong P<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Orthopaedics, St. Vincent Hospital Melbourne): 骨肉腫における血管新生の予後的意義. 関東骨軟部腫瘍の基礎を語る会（第6回）, 2008. 4.
- 16) 澤泉卓哉, 南野光彦, 齋藤 善, 堀口 元, 伊藤博元: Ilizarov Minifixatorを用いた手指の仮骨延長術. 日本手の外科学会学術集会（第51回）, 2008. 4.
- 17) 河路秀巳, 玉井健介, 植松卓哉, 苗代和彦, 伊藤博元: 大腿骨近位部骨折における保存療法と手術療法の短期生命予後の比較: 手術適応の限界について. 日本整形外科学会学術総会（第81回）, 2008. 5.
- 18) 元文芳和, 宮本雅史, 今野俊介, 堀口 元, 伊藤博元: 椎体骨折における後壁損傷の頻度. 日本整形外科学会学術総会（第81回）, 2008. 5.
- 19) 泉川幸恵<sup>1)</sup>, 小塚和豊<sup>1)</sup>, 大熊康弘<sup>1)</sup>, 玉川智子<sup>1)</sup>, 正能千明<sup>1)</sup>, 荻野拓也<sup>1)</sup>, 吉田真一<sup>1)</sup>, 橋口 宏 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院リハビリテーション科): 腱板断裂術後感覚訓練による運動正確性に関する検討. 日本理学療法学術大会（第43回）, 2008. 5.
- 20) 吉田真一<sup>1)</sup>, 小塚和豊<sup>1)</sup>, 大熊康弘<sup>1)</sup>, 玉川智子<sup>1)</sup>, 正能千明<sup>1)</sup>, 荻野拓也<sup>1)</sup>, 泉川幸恵<sup>1)</sup>, 橋口 宏 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院リハビリテーション科): 腱板修復術後セルフエクササイズに感覚フィードバックを応用した腱板機能訓練の試み. 日本理学療法学術大会（第43回）, 2008. 5.
- 21) 玉川智子<sup>1)</sup>, 橋口 宏, 小塚和豊<sup>1)</sup>, 大熊康弘<sup>1)</sup>, 正能千明<sup>1)</sup>, 荻野拓也<sup>1)</sup>, 吉田真一<sup>1)</sup>, 泉川幸恵<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院リハビリテーション科): 成長期投球肩障害に対するメディカルチェック. 日本理学療法学術大会（第43回）, 2008. 5.
- 22) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 青木孝文, 堀口 元, 劉 新宇, 伊藤博元: 腰部脊柱管狭窄症症例における体性感覚誘発電位頂点潜時の検討. 日本整形外科学会学術総会（第81回）, 2008. 5.
- 23) 中嶋隆夫, 家田俊也, 江川慶長, 村重良一, 橋口 宏, 南 和文, 宮本雅史, 伊藤博元: 脊椎手術周術期静脈血栓塞栓症対策の検討. 日本整形外科学会学術総会（第81回）, 2008. 5.
- 24) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元: 陳旧性骨性槌指に対するpull out wire法による治療経験. 日本骨折治療学会（第34回）, 2008. 6.
- 25) 森 淳, 成田哲也, 飯澤典茂, 尾崎大也, 伊藤博元: 35歳以上の女性アスリートに対する膝前十字靭帯再建の術後経過. 日本膝関節学会（第33回）, 2008. 6.
- 26) 齋藤 善, 家田俊也, 堀口 元, 伊藤博元: 炎症性呼吸器疾患を伴う高齢者大腿骨近位部骨折の検討. 日本骨折治療学会（第34回）, 2008. 6.
- 27) 田中陽子, 藤井信人, 金 竜, 林 幹彦, 吉澤隆明, 高山景範, 伊藤博元: 肩関節脱臼後に生じた上腕骨頭壊死の1例. 関東整形災害外科学会月例会（第644回）, 2008. 6.
- 28) 尾崎大也: 両側同時発症した膝蓋腱断裂の1例. 御茶ノ水・膝スポーツ懇話会, 2008. 6.
- 29) 青木孝文, 堀口 元, 林 央介, 植松卓哉, 伊藤博元: 小児脛骨遠位骨端線損傷の予後について. 日本骨折治療学会（第34回）, 2008. 6.
- 30) 青木孝文, 飯澤典茂, 森 淳, 伊藤博元: 変形性膝関節症に対する内側支帯局注療法の臨床効果. 日本膝関節学会（第33回）, 2008. 6.
- 31) 青木孝文, 堀口 元, 伊藤博元: 足部糖尿病性骨髄炎に対する開放療法の試み. 日本足の外科学会（第33回）, 2008. 6.
- 32) 仁木久照<sup>1)</sup>, 青木孝文, 奥田龍三<sup>1)</sup>, 須田康文<sup>1)</sup>, 高尾昌人<sup>1)</sup>, 田中康仁<sup>1)</sup>, 原口直樹<sup>1)</sup>, 立浪 忍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本足の外科学会評価等基準委員会): 日本足の外科学会診断・評価等基準委員会活動報告. 日本足の外科学会（第33回）, 2008. 6.



- 33) 澤泉卓哉, 南野光彦, 堀口 元, 林 央介, 伊藤博元: 手指の変形治癒・偽関節に対する創外固定器を用いた最小侵襲矯正骨切り術. 日本骨折治療学会 (第34回), 2008. 6.
- 34) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 青木孝文, 松井秀平, 伊藤博元: 運動誘発電位による圧迫性頸随障害の上肢機能評価の試み. 日本運動器リハビリテーション学会 (第20回), 2008. 7.
- 35) 青木孝文, 堀口 元, 今野俊介, 澤泉卓哉, 伊藤博元: 軽症手根管症候群の治療における母指対立開排運動の試行. 日本末梢神経学会 (第19回), 2008. 9.
- 36) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元: 肘頭裂離骨片を伴った上腕三頭筋皮下断裂の1例. 神奈川手・肘の外科研究会 (第14回), 2008. 10.
- 37) 林 央介, 勝部好裕<sup>1)</sup>, 廣瀬志弘<sup>1)</sup>, 伊藤博元, 大串 始<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 産業技術総合研究所): ラットを用いた骨髄, 骨膜, 脂肪組織由来間葉系細胞の骨化能に関する比較研究. 日本整形外科学会基礎学術集会 (第23回), 2008. 10.
- 38) 澤泉卓哉, 南野光彦, 松井秀平, 岩下 哲, 伊藤博元: 小児上腕骨顆上骨折に対する挺子を利用した経皮的ピンニング法: 従来法と改良法の比較. 日本最小侵襲整形外科学会 (第14回), 2008. 10.
- 39) 尾崎大也, 森 淳, 牧野 晃, 飯澤典茂, 伊藤博元: 特発性大腿骨顆部骨壊死に対する保存療法例の検討. 日本関節病学会 (第36回), 2008. 11.
- 40) 泉川幸恵<sup>1)</sup>, 橋口 宏, 吉田真一<sup>1)</sup>, 小塚和豊<sup>1)</sup>, 大熊康弘<sup>1)</sup>, 玉川智子<sup>1)</sup>, 正能千明<sup>1)</sup>, 荻野拓也<sup>1)</sup>, 山口明子<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院リハビリテーション科): 拘縮肩における上肢挙上時の上半身重心移動に関する検討. 肩の運動機能研究会 (第5回), 2008. 11.
- 41) 今野俊介, 青木孝文, 宮本雅史, 元文芳和, 伊藤博元: 圧迫性脊髄症診断における上下肢運動誘発電位中枢伝導時間の意義. 日本臨床神経生理学学会学術大会 (第38回), 2008. 11.
- 42) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 松井秀平, 大場良輔, 伊藤博元: 脛骨神経刺激体性感覚誘発電位指標の腰部脊柱管狭窄症診断における意義. 日本腰痛学会 (第16回), 2008. 11.
- 43) 中嶋隆夫, 南 和文: 感染性脊椎炎に対するイリザロフ創外固定器の使用経験. お茶の水脊椎セミナー (第4回), 2008. 11.
- 44) 田中陽子, 藤井信人, 金 竜, 林 幹彦, 吉澤隆明, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 伊藤博元 (<sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部): 骨外性粘液型軟骨肉腫の1例. 日本臨床細胞学会秋季大会 (第47回), 2008. 11.
- 45) 大場良輔, 澤泉卓哉, 齋藤 善, 水江史樹<sup>1)</sup>, 伊藤博元 (<sup>1)</sup> アビコ外科整形外科病院): 橈骨遠位端骨折術後に長母指屈筋腱皮下断裂をきたした1例. 関東整形災害外科学会月例会 (第646回), 2008. 11.
- 46) 南 和文, 伊藤博元, 中川泰彰<sup>1)</sup>, 中川博文<sup>2)</sup>, 樫村修生<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 京都大学整形外科, <sup>2)</sup> 豊橋創造大学, <sup>3)</sup> 東京農業大学): 学生相撲選手の足底部圧力分布の特徴. 日本臨床スポーツ医学会学術集会 (第19回), 2008. 11.
- 47) 南 和文, 中川泰彰<sup>1)</sup>, 伊藤正秀<sup>1)</sup>, 伊藤博元 (<sup>1)</sup> 日本相撲連盟ドーピングコントロール委員会): 相撲におけるドーピング検査の現状と課題. 日本臨床スポーツ医学会学術集会 (第19回), 2008. 11.
- 48) 河路秀巳, 玉井健介, 小林俊之, 林 央介, 植松卓哉, 松井秀平, 伊藤博元: 全身状態不良の大腿骨近位部骨折症例における合併症の検討. 日本股関節学会 (第35回), 2008. 12.
- 49) 玉井健介, 河路秀巳, 牧野 晃, 植松卓哉, 伊藤博元: 末期変形性股関節症における疼痛と臼蓋摩耗との関連. 日本股関節学会 (第35回), 2008. 12.
- 50) 南 和文, 橋口 宏, 中嶋隆夫, 江川慶長, 村重良一, 苗代和彦: THAにおける造影3D-CTの有用性について. 千葉股関節研究会 (第9回), 2008. 12.
- 51) 大津賀康章<sup>1)</sup>, 太田充美<sup>1)</sup>, 青山晋作<sup>1)</sup>, 橋口 宏 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院中央手術室): 鏡視下肩関節形成術における灌流液回収方法の検討: 肩関節鏡用ドレープの作成. 千葉内視鏡外科研究会 (第14回), 2009. 1.
- 52) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元: 陳旧性Monteggia脱臼骨折に伴った遅発性後骨間神経麻痺の1例. 日本肘関節学会 (第21回), 2009. 2.
- 53) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元: 巨指症を伴わない母指尺側指神経の線維脂肪性肥大の1例. 東日本手の外科



研究会（第23回），2009. 2.

- 54) 林 央介, 澤泉卓哉, 伊藤博元: Kienböck病を合併したPreiser病の2例. 東日本手の外科研究会（第20回）, 2009. 2.
- 55) 中嶋隆夫, 南 和文: 骨粗鬆性脊椎骨折による遅発性麻痺に対する治療法（ディベート）: 脊椎短縮術の立場から. 千葉脊椎カンファレンス（第12回）, 2009. 2.
- 56) 岩下 哲, 澤泉卓哉, 松井秀平, 福田慶一, 伊藤博元: 15年前の尺骨茎状突起骨折が原因と考えられる尺骨手根伸筋皮下断裂の1例. 東日本手の外科研究会（第23回）, 2009. 2.
- 57) 青木孝文, 堀口 元, 今野俊介, 澤泉卓哉, 伊藤博元: 手根管症候群軽症例に対する母指対立開排運動療法の試み. 東日本手の外科研究会（第23回）, 2009. 2.
- 58) 須藤賢太郎, 花岡央泰, 山田祐子, 南野光彦, 青木孝文, 藤井信人, 伊藤博元: 恥坐骨に発生した骨Paget病と考えられる症例. 神奈川県整形災害外科研究会, 2009. 3.
- 59) 田中陽子, 藤井信人, 北川泰之, 金 竜, 林 幹彦, 伊藤博元, 前田昭太郎<sup>1)</sup> (多摩永山病院病理部): 足底部に発生した神経症腫の1例. 関東整形災害外科学会（第49回）, 2009. 3.
- 60) 青木孝文, 南野光彦, 萬歳祐子, 堀口 元, 伊藤博元: 手根管症候群, 軽症例に対する母指対立開排運動の試み. 関東整形災害外科学会（第49回）, 2009. 3.
- 61) 澤泉卓哉, 南野光彦, 伊藤博元: 手指の関節近傍骨折に対するNon-Bridging型創外固定法. 日本創外固定・骨延長学会（第22回）, 2009. 3.

(7) ポスター:

- 1) Egawa Y, Minami K, Hashiguchi H, Nakajima T, Murashige R, Ito H, Maruyama H: A case of tibial posterior cruciate ligament (PCL) avulsion fracture treated with arthroscopically assisted screw fixation. Biennial Asia Arthroscopy Congress (The first) (Seoul), 2008. 9.
- 2) Kitagawa Y, Tanaka Y, Yoshizawa T, Hayashi M, Kim Y, Fujii N, Tsunoda R, Sawaizumi T, Ito H: Bony change associated with benign soft tissue tumors in the hand. Asia Pacific Musculoskeletal Tumor Society Meeting (The 7th) (Beijing), 2008. 9.
- 3) 北川泰之, 田中陽子, 吉澤隆明, 金 竜, 藤井信人, 伊藤博元: 染色体異常を示した手指発生のびまん型腱鞘巨細胞腫の1例. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会（第41回）, 2008. 7.
- 4) 北川泰之, 藤井信人, 角田隆明, 澤泉卓哉, 伊藤博元, 前田昭太郎<sup>1)</sup> (多摩永山病院病理部): 手の深部良性線維性組織球腫. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会（第41回）, 2008. 7.
- 5) 北川泰之, 田中陽子, 藤井信人, 伊藤博元, 片山博徳<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 柳田裕美<sup>1)</sup>, 岩瀬裕美<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup> (多摩永山病院病理部): 穿刺吸引細胞診で推定診断した多形型横紋筋肉腫の1例. 日本臨床細胞診学会（第47回）, 2008. 11.

## 13. 産婦人科学講座

### [付属病院女性診療科・産科]

#### 研究概要

周産期医学, 婦人科腫瘍学, 生殖内分泌医学, 手術学の各部門でそれぞれ精力的に行われた。周産期医学領域では, 分子解剖学講座との共同研究により胎盤特異的に発現するマイクロRNAの血中への発現機序の解明が行われた。また, 過去25年間に経験した羊水塞栓症の詳細な臨床病理学的研究がすすめられた。

婦人科腫瘍学では, 神奈川県立がんセンター等との共同研究として子宮体癌の病理組織学的因子のどの因子が予後に重要であるかを検討した。また, 卵巣明細胞腺癌患者における血清中自己抗体に注目し, プロテオミクスの技術を用いて新規腫瘍マーカーの開発を目指し研究中である。

生殖医学部門では, 不育症治療における種々の抗リン脂質抗体の意義, 治療法の検討が行われた。また, 習慣性流産症例における血中グラニューライシン濃度に注目し, 新知見を得た。さらに, 治療法としてのヘパリンの効果の機序の解明が行われた。

手術学部門では, 従来からの内視鏡下手術の臨床的検討に加え, 骨盤臓器脱に対してメッシュを用いた新しい手術方法を取り入れ, 積極的に臨床研究を行っている。以上各分野において積極的, 独創的な研究がなされている。

#### 研究業績

##### 論文

##### [追加分]

##### 追加分原著:

- 1) 米山剛一, 高屋 茜, 岩崎奈央, 阿部裕子, 市川雅男, 三浦 敦, 山田 隆, 石川温子, 竹下俊行, 松田陽子<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup> (1) 病理部): 術前組織診断に苦慮した子宮頸部 condylomatous carcinoma の1例. 日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2008 ; 57 (1) : 42-46.

##### 追加分症例報告:

- 1) 山本良也, 市丸 愛, 岡本麻美, 中川誉之, 鈴木大悟, 中田 淳, 加藤浩司, 田中啓治, 竹下俊行: 動脈管開存を有し, 分娩後に大動脈解離を来した1例. 日医大医会誌 2008 ; 4 (1) : 45-49.

##### (1) 原著:

- 1) Abe T, Akira S, Negishi Y, Ichikawa M, Nakai A, Takeshita T (1) Nippon medical school ): The relevance of declines in serum human chorionic gonadotropin levels to the management of persistent ectopic pregnancy. The journal of Obstetrics and Gynaecology Research.
- 2) Miyake H, Nakai A, Takeshita T : Fetal heart rate monitoring as a predictor of histopathologic chorioamnionitis in the third trimester. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (2) : 106-110.
- 3) Akira S, Negishi Y, Ichikawa M, Takeshita T : Prophylactic intratubal injection of methotrexate after linear salpingostomy for prevention of persistent ectopic pregnancy. J Obstet Gynaecol Res 2008 ; 34 (5) : 885-889.
- 4) Oya A, Oikawa T, Nakai A, Takeshita T, Hanawa T : Clinical efficacy of Kampo medicine (Japanese traditional herbal medicine) in the treatment of primary dysmenorrhea. J Obstet Gynaecol Res 2008 ; 34 (5) : 898-908.
- 5) Negishi Y, Otsubo Y : Longitudinal follow up of delayed eclampsia using cerebroangiography. The Journal

of Obstetrics and Gynaecology Research 2008 ; 34 (4) : 638-640.

- 6) Ishikawa A, Kudo M<sup>1)</sup>, Nakazawa N<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Takeshita T, Naito Z<sup>1)</sup> (1) Dept. of Pathology, Integrative Oncological Pathology) : Expression of keratinocyte growth factor and its receptor in human endometrial cancer in cooperation with steroid hormones. International Journal of Oncology 2008 ; 32 : 565-574.
- 7) Akira S, Negishi Y, Abe T, Ichikawa M, Takeshita T : Prophylactic intratubal injection of methotrexate after linear salpingostomy for prevention of persistent ectopic pregnancy. J Obstet Gynecol Res 2008 ; 34 : 885-889.
- 8) Noumura T, Miyashita M, Yoshimura A, Shimura T, Akira S, Tajiri T : Can interview prior to laparoscopic simulator training predict a trainee' s skills? . J Surg Educ 2008 ; 65 : 335-339.
- 9) Miyake H, Yamamoto A, Yamada T, Okazaki K, Morita K, Kondo M, Ishida T, Nishina N, Yokota A, Nakai A, Takeshita T : Umbilical cord ulceration after prenatal diagnosis of duodenal atresia with interstitial deletion of chromosome 13q : a case report. Fetal Diagn Ther 2008 ; 24 (2) : 115-118.
- 10) Oya A, Nakai A, Miyake H, Kawabata I, Takeshita T : Risk factors for peripartum blood transfusion in women with placenta previa : a retrospective analysis. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (3) : 146-151.
- 11) Yagi S, Oda-Sato E, Uehara I, Asano Y, Nakajima W, Takeshita T, Tanaka N : 5-Aza-2' -deoxycytidine restores proapoptotic function of p53 in cancer cells resistant to p53-induced apoptosis. Cancer Invest 2008 ; 26 (7) : 680-688.
- 12) Sugiura-Ogasawara M, Aoki K, Fujii T, Fujita T, Kawaguchi R, Maruyama T, Ozawa N, Sugi T, Takeshita T, Saito S : Subsequent pregnancy outcomes in recurrent miscarriage patients with a paternal or maternal carrier of a structural chromosome rearrangement. J Hum Genet 2008 ; 53 (7) : 622-628.
- 13) Ishikawa A, Kudo M<sup>1)</sup>, Nakazawa N<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Takeshita T, Naito Z<sup>1)</sup> (1) 日本医大病理学第2) : Expression of keratinocyte growth factor and its receptor in human endometrial cancer in cooperation with steroid hormones. Int J Oncol 2008 ; 32 (3) : 565-574.
- 14) Kamoi S, Ohaki Y, Mori O, Kurose K, Fukunaga M, Takeshita T : Serial histologic observation of endometrial adenocarcinoma treated with high-dose progestin until complete disappearance of carcinomatous foci—review of more than 25 biopsies from five patients. Int J Gynecol Cancer 2008 ; 18 (6) : 1305-1314.
- 15) Sawa R : A healthcare crisis in Japan : Criminalizing medical malpractice. JMAJ 2008 ; 54 (4) : 235-241.
- 16) Akira S, Mine K, Kuwabara Y, Takeshita T : Efficacy of long-term, low-dose gonadotropin-releasing hormone agonist therapy (draw-back therapy) for adenomyosis. Med Sci Monit 2009 ; 15 (1) : 1-4.
- 17) Doi D, Boh Y, Konishi H, Asakura H, Takeshita T : Combined chemotherapy with paclitaxel and carboplatin for mucinous cystadenocarcinoma of the ovary during pregnancy. Arch Gynecol Obstet 2009.
- 18) Asakura H, Fukami T, Kurashina R, Tateyama N, Doi D, Takeshita T : Significance of Cervical Gland Area in Predicting Preterm Birth for Patients with Threatened Preterm Delivery Comparison with Cervical Length and Fetal Fibronectin. Gynecol Obstet Invest 2009 ; 68 (1) : 1-8.
- 19) Sawa R : Accident or Crime? : Thoughts on criminalization of medical accidents. JMAJ 2009 ; 52 (1) : 1-6.
- 20) 澤倫太郎 : 術中にわかる異常 : 前置胎盤と診断されており, 予定帝王切開で癒着胎盤がわかった. ペリネタルケア 2009 ; 増刊 : 170-172.
- 21) 渋井庸子, 佐藤杏月, 中井晶子, 間瀬有里, 深見武彦, 松島 隆, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行 : 正期産妊婦の陣痛発来における経膈超音波による予備的検討.
- 22) 明楽重夫 : 骨盤臓器脱の新しい手術 メッシュ手術 (TVM法) はオールマイティーである. 日医大医学会誌

2008 ; 4 : 193-196.

- 23) 印出佑介, 三宅秀彦, 高屋 茜, 菊池美美, 永山千晶<sup>1)</sup>, 中川道子, 五十嵐美和, 木下和哉<sup>1)</sup>, 渡邊英樹<sup>1)</sup>, 鈴木俊治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 葛飾赤十字産院) : 大動脈弁上部狭窄を伴う大動脈縮窄複合を合併した胎児発育遅延の1例. 日産婦東京地方部会誌 2008 ; 57 (2) : 287-291.
- 24) 高橋恵理佳, 稲川智子, 峯 克也, 桑原慶充, 里見操緒, 三浦 敦, 石川 源, 澤倫太郎, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行 : 妊娠末期にHELLP症候群を呈したHBeAg陽性B型肝炎合併妊娠の1例. 日産婦東京地方部会誌 2008 ; 57 (2) : 234-238.
- 25) 阿部 崇, 谷内良成, 中井晶子, 林 昌子, 奥田直貴, 川端伊久乃, 高橋 肇, 三田俊二, 大屋敦子, 露木佳子, 横田明重, 中井章人 : 帝王切開癒痕部妊娠の1例. 日産婦東京地方部会誌 2008 ; 57 (2) : 190-195.
- 26) 岩崎奈央, 市川雅男, 明楽重夫, 峯 克也, 桑原慶充, 山田 隆, 阿部裕子, 小野修一, 高屋 茜, 山下恵理子, 早川朋広, 米山剛一, 竹下俊行 : 子宮腺筋症は深部静脈血栓症のリスクファクターである, 深部静脈血栓症を発症した3症例の検討. エンドメトリオーシス研究会会誌 2008 ; 29 : 103-108.
- 27) 印出佑介, 菊池美美, 朝倉禎史, 五十嵐建治, 荻原弘光, 渡辺美千明, 黒瀬圭輔, 鴨井青龍, 竹下俊行 : 切迫早産治療中に発症した母児間輸血症候群の1例. 日産婦関東連会誌 2008 ; 45 (4) : 323-327.
- 28) 米澤美令, 米山剛一, 市川雅男, 高橋恵理佳, 渡邊建一郎, 大内 望, 三浦 敦, 石川温子, 黒瀬圭輔, 竹下俊行 : 術前に診断し得た卵巣成熟嚢胞性奇形腫悪性転化の1例. 日産婦東京地方部会誌 2008 ; 57 (4) : 459-463.
- 29) 桑原知仁, 奥田直貴, 大屋敦子, 山岸絵美, 中井晶子, 林 昌子, 阿部 崇, 川端伊久乃, 高橋 肇, 谷内良成, 三田俊二, 中井章人 : 著明な右水腎症を呈した卵巣静脈症候群の1例. 日産婦東京地方部会誌 2008 ; 57 (4) : 532-535.
- 30) 峯 克也, 明楽重夫, 岩崎奈央, 桑原慶充, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学泌尿器科学) : 膀胱子宮内膜症に対する腹腔鏡手術-2症例を経験して. エンドメトリオーシス研究会会誌 2008 ; 29 : 152-155.
- 31) 澤倫太郎 : 心臓インターベンション領域における胎児血管特性の応用に関する基礎的研究. 日本産婦人科・新生児血液学会誌 2008 ; 18 : 125-126.
- 32) 黒瀬圭輔, 米澤美令, 渡邊建一郎, 三浦 敦, 市川雅男, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行 : 卵巣成熟嚢胞性奇形腫悪性転化の1例. 日産婦関東連会誌 2009 ; 46 (1) : 75-81.
- 33) 渡邊建一郎, 三浦 敦, 米山剛一, 米澤美令, 市川雅男, 石川温子, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行, 川本雅司<sup>1)</sup>, 土屋真一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医大付属病院 病理部) : 扁平上皮癌への悪性転化を認めた卵巣成熟嚢胞性奇形の1例. 日産婦東京地方部会誌 2009 ; 58 (1) : 49-52.

(2) 総説 :

- 1) 里見操緒, 竹下俊行 : 血糖検査. 周産期医学 2007 ; 37 (増刊号) : 234-236.
- 2) 三宅秀彦, 鈴木俊治, 中井章人, 竹下俊行 : 【妊婦感染症を考える】 妊娠第3三半期における胎児心拍数パターンに対する絨毛膜羊膜炎の影響. 産婦人科の実際 2008 ; 57 (5) : 811-818.
- 3) 里見操緒, 竹下俊行 : 妊産婦の感染症とその管理. 産婦人科治療 2008 ; 97 (5) : 425-429.
- 4) 澤倫太郎 : 前置胎盤・癒着胎盤. 周産期医学 2008 ; 38 (9) : 1073-1078.
- 5) 立山尚子, 竹下俊行 : 【周産期診療プラクティス】 妊娠 合併症妊婦 周産期のウィルス感染とその対策. 産婦人科治療 2008 ; 96 (増刊) : 647-652.
- 6) 平泉良枝, 竹下俊行 : 【安心するのはちょっと待って!フローチャートで学ぶ産褥期の異常徴候】 フローチャートで学ぶ産褥期の異常徴候 分娩後24時間以降の出血. ペリネイタルケア 2008 ; 27 (6) : 557-561.
- 7) 竹下俊行 : 習慣流産と母性について考える. 日産婦神奈川地方部会会誌 2008 ; 45 (1) : 2-5.
- 8) 澤倫太郎 : 県立大野病院事件から見えてくるもの. 世界 2008 ; 195-209.
- 9) 稲川智子, 竹下俊行 : 周産期臨床検査のポイント】 産科編 不育症(習慣流産)に対する検査. 産婦人科の実際

際 2008 ; 57 (12) : 2013-2019.

- 10) 里見操緒, 竹下俊行 : 【妊産婦の感染症とその対策】 妊産婦の感染症とその管理. 産婦人科治療 2008 ; 97 (5) : 425-429.
- 11) 稲川智子, 竹下俊行 : 【周産期臨床検査のポイント】 産科編 不育症 (習慣流産) に対する検査. 周産期医学 2008 ; 38 (増刊号) : 16-21.
- 12) 大屋敦子, 花輪壽彦, 竹下俊行 : 【婦人科医療とこれからの漢方療法】 月経困難症の漢方療法. 産婦人科治療 2009 ; 98 (1) : 51-54.

## 著 書

- 1) 阿部 崇, 中井章人 <sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院, <sup>(2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 : [自著] 子宮外妊娠. 産科救急の初期診療 (北川道弘), 2008 ; pp18-24, 永井書店.
- 2) 阿部 崇, 中井章人 : [自著] 妊産婦の薬物療法 : あなたの処方間違っていますか【よく使われる薬剤と処方の実例 8】胃腸薬, 制吐薬, 便秘薬. 臨床婦人科産科, 2008 ; pp1203-1207, 医学書院.
- 3) 磯崎太一 : [分担] 血液・膠原病疾患合併妊娠. 合併妊娠, 2008 ; pp87-100, 日本産婦人科医会.
- 4) 明楽重夫 : [共著] 腹腔鏡手術スキルアップシリーズ. 産婦人科 実践編 (明楽重夫), 2008 ; pp2-19, ベクトルコア.
- 5) 竹下俊行 : [分担] 異常妊娠・異常分娩. わかりやすい疾患と処方薬の解説 (齋藤 康), 2009 ; pp331-336, アークメディア.

## 学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) Sawa R, Yamada T : Serious bipolar depression amalgamation pregnancy with severe IUGR would be caused by placenta thrombus formation after ECT. The 14th world congress on Gestational Trophoblastic Disease (Fukuoka), 2007. 11.
- 2) 羅 善順, 三嶋拓也, 石橋 宰, 石川 源, 竹下俊行, 松原茂樹, 瀧澤俊広 : 妊娠における母体血液中の胎盤特異的microRNAに関する解析. 日本解剖学会 (第113回), 2008. 3.
- 3) 瀧澤俊広, 森 美貴, 石川 源, 竹下俊行 : 超高解像力蛍光顕微鏡法によるヒト初期胎盤絨毛組織におけるIgG輸送の解析. 日本解剖学会 (第113回), 2008. 3.
- 4) 阿部 崇, 谷内良成, 安藤恵美, 中井晶子, 林 昌子, 奥田直貴, 川端伊久乃, 高橋 肇, 三田俊二, 大屋敦子, 横田明重, 中井章人 <sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 : 帝王切開癒痕部妊娠の1例. 日本産科婦人科学会東京地方部会 (第345) (東京), 2008. 3.

(1) 特別講演 :

- 1) 明楽重夫 : 骨盤臓器脱に対する新しい手術 : TVM法を中心として. 川崎市産婦人科医会学術講演会, 2008.
- 2) 明楽重夫 : 腹腔鏡手術を安全・確実に : 導入から技術認定まで. 兵庫産婦人科内視鏡手術懇話会 (第7回), 2008.
- 3) 竹下俊行 : 不育症と母性 : 流産死産後の心理ケア. 神奈川県母性衛生学会 (第22回), 2009. 2.

(2) シンポジウム :

- 1) Akira S, Mine K, Kuwabara Y, Miura A, Ichikawa M, Kurose K, Takeshita T : Cost effective laparoscopically assisted myomectomy. The 11th Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (Japan), 2008. 9.
- 2) 峯 克也, 明楽重夫, 菊池美美, 阿部 崇, 稲川智子, 竹下俊行 : 子宮腺筋症に対するGnRHアゴニスト漸減



療法：1年以上施行し得た症例から．日本エンドメトリオーシス学会（第30回），2009．1．

(3) ワークショップ：

- 1) 明楽重夫，市川雅男，竹下俊行：子宮筋腫を合併した骨盤臓器脱に対するLAVHとTVM手術：膣壁の非連続十字切開の試み．日本女性骨盤底医学会（第10回），2008．6．
- 2) 三宅秀彦，高屋 茜，菊池美美，印出佑介，三浦直美，五十嵐美和，村田知昭<sup>1)</sup>，鈴木俊治<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院）：胎盤早期剥離．日本妊娠高血圧学会（第29回），2008．10．
- 3) 石川 源，大澤洋之<sup>1)</sup>，小黑辰夫<sup>2)</sup>，田中嘉代子<sup>3)</sup>，峯尾松一郎<sup>4)</sup>，畑 俊夫<sup>1)</sup>，石原 理<sup>1)</sup>，板倉敦夫<sup>1)</sup>，竹下俊行，相馬廣明<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>埼玉医科大学産婦人科，<sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院，<sup>3)</sup>埼玉医科大学解剖学教室，<sup>4)</sup>東京医科大学病理学教室）：ChorangiomaとChoranogiosisの病理組織発生の比較．日本胎盤学会（第16回），2008．11．
- 4) 明楽重夫：骨盤臓器脱に対するTension-free Vaginal Mesh（TVM）手術：導入からLearning Curveを中心として．日本産婦人科手術学会（第31回），2008．11．
- 5) 明楽重夫，市川雅男，竹下俊行：当科におけるTVM手術：導入からのLearning curveの検討と合併症の経験から．TVM研究会（第3回），2008．

(4) 一般講演：

- 1) Akira S, Mine K, Takeshita T : The efficacy of gasless laparoscopically assisted surgery with mini-laparotomy using wound sealing devise. 6th International congress Egyptian society of laparoscopic surgery (ESLS) (Egypt), 2008. 6.
- 2) Mine K, Akira S, Takeshita T : Gasless laparoscopically assisted uterine myomectomy and its clinical outcome. 6th International congress Egyptian society of laparoscopic surgery (ESLS) (Egypt), 2008. 6.
- 3) Tomiyama R, Kuwabara Y, Mine K, Inagawa T, Nishi Y, Abe T, Akira S, Nariai K<sup>1)</sup>, Sato K<sup>2)</sup>, Takeshita T（<sup>1)</sup>Jikei University School, Obstetrics and Gynecology, <sup>2)</sup>Nihon University, Bioresource Sciences）：Copper, zinc-superoxide dismutase levels in follicular fluid reflect the ovarian potential and are diminished in unexplained infertility. The 24th Annual Meeting of the ESHRE (Spain), 2008. 7.
- 4) Ishikawa G, Shan-Shun L<sup>1)</sup>, Mishima T<sup>1)</sup>, Mase Y, Takeshita T, Takizawa T<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>Dept. of Molecular Anatomy and Medicine）：Microna Expression Profiles by Sequencing Analsys of Small RNA Libraries from Human Placenta : Normal Pregnancy and Pregnancy Induced Hypertention. International Federation of Placenta Associations Meeting (Austria), 2008. 9.
- 5) Ichikawa M, Satomi M, Iwasaki N, Yoneyama K, Akira S, Takeshita T : Efficacy and limitation of MRI/CT imaging in differentiating malignant disease from benign ovarian teratoma in laparoscopic surgery. Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (Japan), 2008. 9.
- 6) Kuwabara Y, Mine K, Miura A, Inagawa T, Yamada T, Satomi M, Ichikawa M, Kurose K, Yoneyama K, Akira S, Takeshita T : Analyses of the parameters o cause problematic perioperative bleeding during laparoscopically assisted myomectomy. Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (Japan), 2008. 9.
- 7) Kuwabara Y, Mine K, Tomiyama R, Inagawa T, Akira S, Takeshita T : Proteomic analyses of urinary-derived and recombinant human follicle stimulating hormone preparations. The 61th annual congress of Japan society of obstetrics and gynecology (Yokohama), 2008.
- 8) Tomiyama R, Kuwabara Y, Mine K, Inagawa T, Akira S, Takeshita T : Copper, zinc-superoxide dismutase levels in follicular fluid reflect the ovarian potential and are diminished in unexplained infertility. The 24th Annual Meeting of the ESHRE (Spain), 2008.
- 9) Inagawa T, Mine K, Kuwabara Y, Satomi M, Akira S, Takeshita T : Heparin Reduces Serum Granulysin

Levels in Patients with Recurrent Miscarriage Associated with Antiphospholipid Syndrome. Asia Oceania Congress in Obstetrics & Gynaecology 2009 (AOCOG 2009) (New Zealand), 2009. 3.

- 10) 石川温子, 川瀬里衣子, 米山剛一, 竹下俊行: Expressions of keratinocyte growth factor and its receptor in human endometrial cancer in cooperation with steroid hormones. 日本産科婦人科学会 (第60回), 2008. 4.
- 11) Kuwabara Y, Mine K, Tomiyama R, Inagawa T, Abe T, Nishi Y, Akira S, Takeshita T: Proteomic analyses of urinary-derived and recombinant human follicle stimulating hormone preparations. 日本産科婦人科学会 (第60回), 2008. 4.
- 12) 石川 源, 松原茂樹<sup>1)</sup>, 竹下俊行, 瀧澤俊広<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 自治医科大学, <sup>2)</sup> 日本医大分子解剖): 胎盤に発現している microRNA の解析: 妊娠高血圧症候群胎盤の microRNA のプロファイリング. 日本産科婦人科学会 (第60回), 2008. 4.
- 13) 坊 裕美, 吉田有里, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 正期産の陣痛発来予測における超音波上の子宮頸管領域腺像の意義: 子宮頸管熟化過程の関係. 日本産科婦人科学会 (第60回), 2008. 4.
- 14) 富山僚子, 桑原慶充, 峯 克也, 稲川智子, 西 弥生, 阿部 崇, 明楽重夫, 竹下俊行: 不妊症患者における卵胞液内 Hexanoyl-lysine 濃度についての検討. 日本産科婦人科学会 (第60回), 2008. 4.
- 15) 川端伊久乃, 山田 隆, 高橋 肇, 中井晶子, 大屋敦子, 横田明重, 中井章人, 竹下俊行: 前置癒着胎盤における modified cesarean hysterectomy の有効性. 日本産科婦人科学会 (第60回), 2008. 4.
- 16) 大屋敦子, 三宅秀彦, 川端伊久乃, 谷内良成, 高橋 肇, 奥田直貴, 中井晶子, 三田俊二, 露木佳子, 横田明重, 中井章人, 竹下俊行: 前置胎盤症例における輸血リスクの検討. 日本産科婦人科学会 (第60回), 2008. 4.
- 17) 倉品隆平, 佐藤杏月, 柿栖陸実, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 切迫早産における2週間以内の早産予知: 経陰超音波所見は癌胎児性フィブロネクチンによる予知を高めるか?. 日本産科婦人科学会 (第60回), 2008. 4.
- 18) 朝倉禎史, 五十嵐健治, 黒瀬圭輔, 鴨井青龍, 三浦 敦, 米山剛一, 三田俊二, 土居大祐, 加藤久盛, 中山裕樹, 太田雄治郎, 竹下俊行 (<sup>1)</sup> 神奈川県立がんセンター, <sup>2)</sup> 多摩南部地域病院): FIGO3c 期 (リンパ節転移陽性) 子宮体癌に手術完遂例における予後についての検討. 日本産科婦人科学会 (第60回), 2008. 4.
- 19) 林 昌子, 三宅秀彦, 山本晃人, 中井晶子, 奥田直貴, 稲川智子, 阿部 崇, 川端伊久乃, 横田明重, 中井章人, 竹下俊行: 妊産婦健康診査未受診症例の周産期予後. 日本産科婦人科学会 (第60回), 2008. 4.
- 20) 峯 克也, 桑原慶充, 稲川智子, 山田 隆, 里見操緒, 市川雅男, 三浦 敦, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行: 腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術における出血リスクを高める因子の解析. 日本産科婦人科学会 (第60回), 2008. 4.
- 21) 吉田有里, 澤倫太郎, 松島 隆, 佐藤杏月, 西田直子, 柿栖陸実, 倉品隆平, 深見武彦, 土居大祐, 朝倉啓文, 竹下俊行: デジタルビデオ軟性子宮鏡の使用経験. 日本産科婦人科学会 (第60回), 2008. 4.
- 22) 佐藤杏月, 松島 隆, 吉田有里, 西田直子, 倉品隆平, 柿栖陸実, 深見武彦, 土居大祐, 朝倉啓文, 中井章人, 竹下俊行, 可世木久幸:  $\gamma$ -GTP (GTP) は尿中 NTx クレアチニン補正值 (NTx) と相関する. 日本産科婦人科学会 (第60回), 2008. 4.
- 23) 黒瀬圭輔, 小野修一, 山下恵理子, 朝倉禎史, 平泉良枝, 荻原弘光, 五十嵐健治, 山口 暁, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 竹下俊行: 卵巢原発癌肉腫症例における腹水細胞診の検討. 日本産科婦人科学会 (第60回), 2008. 4.
- 24) 稲川智子, 里見操緒, 岩崎奈央, 山下恵理子, 阿部裕子, 峯 克也, 桑原慶充, 石川 源, 磯崎太一, 澤倫太郎, 明楽重夫, 竹下俊行: 抗リン脂質抗体陽性妊婦に対するヘパリン療法の作用機転—細胞性免疫能の変調を介したメカニズム. 日本産科婦人科学会 (第60回), 2008. 4.
- 25) 里見操緒, 阿部裕子, 岩崎奈央, 稲川智子, 峯 克也, 桑原慶充, 石川 源, 磯崎太一, 澤倫太郎, 明楽重夫, 竹下俊行: 抗リン脂質抗体陽性妊婦に対する未分画ヘパリン療法の安全性について. 日本産科婦人科学会 (第

- 60回), 2008. 4.
- 26) 里見操緒, 高橋秀実<sup>1)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学微生物免疫学教室): 母乳マクロファージ上に発現したDC-SIGNを介したHIV-1の垂直感染. 日本感染症学会 (第82回), 2008. 4.
- 27) 米山剛一, 中山裕樹<sup>1)</sup>, 土居大祐, 三田俊二, 鴨井青龍, 太田雄治郎<sup>2)</sup>, 山田 隆, 三浦 敦, 黒瀬圭輔, 市川雅男, 小西英喜, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup> 神奈川県立がんセンター婦人科, <sup>2)</sup> 南部地域病院婦人科): 子宮体癌予後因子に関する再評価. 第60回日本産科婦人科学会学術講演会 (横浜), 2008. 4.
- 28) 高屋 茜, 菊池美美, 印出佑介, 五十嵐美和, 三浦直美, 中川道子, 三宅秀彦, 鈴木俊治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 葛飾赤十字産院): 当院での「医師が立ち会わない院内助産」の試み. 日産婦東京地方部会 (第346回), 2008. 5.
- 29) 奥田直貴, 川端伊久乃, 三田俊二, 中井晶子, 林 昌子, 阿部 崇, 高橋 肇, 谷内良成, 大屋敦子, 中井章人: 子宮内膜細胞診で発見された子宮頸部漿液性腺癌の1例. 日産婦東京地方部会 (第346回), 2008. 5.
- 30) 黒瀬圭輔, 大秋美治<sup>1)</sup>, 土居大祐, 米山剛一, 鴨井青龍 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院病理部): 卵巣原発癌肉腫症例における腹水細胞診の検討. 日本臨床細胞学会 (第49回), 2008. 6.
- 31) 菊池美美, 三宅秀彦, 高屋 茜, 印出佑介, 中川道子, 三浦直美, 五十嵐美和, 鈴木俊治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 葛飾赤十字産院): 単胎経膈分娩時に輸血を要した症例に関する検討. 日産婦関東連合地方部会 (第115回), 2008. 6.
- 32) 岩崎奈央, 桑原慶充, 稲川智子, 峯 克也, 里見操緒, 山田 隆, 市川雅男, 三浦 敦, 明楽重夫, 竹下俊行: 子宮下部後壁の瘢痕部無症候性不完全破裂を呈した頸部筋腫核出後妊娠の1例. 日産婦関東連合地方部会 (第115回), 2008. 6.
- 33) 山下恵理子, 小野修一, 朝倉禎史, 平泉良枝, 五十嵐建治, 渡辺美千明, 黒瀬圭輔, 鴨井青龍, 竹下俊行: 急性腹症で発症した卵巣未熟奇形腫の1例. 日産婦関東連合地方部会 (第115回), 2008. 6.
- 34) 峯 克也, 高橋恵理佳, 渡邊建一郎, 稲川智子, 桑原慶充, 里見操緒, 三浦 敦, 石川 源, 磯崎太一, 澤倫太郎, 明楽重夫, 竹下俊行: 未分画ヘパリン・低用量アスピリンにて管理した反復脳静脈血栓症既往妊娠. 日産婦関東連合地方部会 (第115回), 2008. 6.
- 35) 里見操緒, 石川 源, 米山剛一, 竹下俊行: 人工妊娠中絶がその後の妊娠分娩転帰に与える影響. 日産婦関東連合地方部会 (第115回), 2008. 6.
- 36) 桑原知仁, 川端伊久乃, 中井晶子, 山岸絵美, 林 昌子, 阿部 崇, 奥田直貴, 谷内良成, 高橋 肇, 三田俊二, 大屋敦子, 中井章人: 診断に苦慮した子宮筋腫合併卵管間質部妊娠の1例. 日産婦関東連合地方部会 (第115回), 2008. 6.
- 37) 米山剛一, 石川温子, 山田 隆, 松田陽子<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>1)</sup>, 土屋真一<sup>1)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup> 病理部): 術前診断に苦慮した子宮頸部コンジローマ様癌の1例. 第49回日本臨床細胞学会春季大会, 2008. 6.
- 38) 澤倫太郎: 心臓インターベンション領域における胎児血管特性の応用に関する基礎的研究. 日本産婦人科・新生児血液学会 (第18回), 2008. 6.
- 39) 峯 克也, 稲川智子, 桑原慶充, 里見操緒, 石川 源, 磯崎太一, 澤倫太郎, 竹下俊行: 妊娠初期より抗凝固療法を行い良好に産褥にいたった反復脳静脈血栓症既往妊娠. 日本周産期・新生児医学会 (第44回), 2008. 7.
- 40) 澤倫太郎, 石川 源, 竹下俊行: 胎児アデノシン活性を応用した虚血性心疾患の新しいデバイス開発に関する基礎的研究. 日本周産期・新生児医学会 (第44回), 2008. 7.
- 41) 川端伊久乃, 中井晶子, 谷内良成, 横田明重, 大屋敦子, 三宅秀彦, 中井章人, 竹下俊行: CATCH22症候群が疑われた胎児水腫の1例. 日本周産期・新生児医学会 (第44回), 2008. 7.
- 42) 深見武彦, 倉品隆平, 柿栖陸実, 阿部裕子, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行: 入院2週間以内の早産例の予知: 経陰超音波所見とfetal fibronectinとの比較. 日本周産期・新生児医学会 (第44回), 2008. 7.
- 43) 中川道子, 鈴木俊治<sup>1)</sup>, 島 義雄<sup>2)</sup>, 三宅秀彦, 中島瑞恵<sup>2)</sup>, 五十嵐美和, 熊坂 栄<sup>2)</sup>, 印出佑介 ( <sup>1)</sup> 葛飾赤十字産院, <sup>2)</sup> 葛飾赤十字産院小児科): 当院における選択的帝王切開と新生児呼吸障害に関する検討. 日本周産期・新生児医学会 (第44回), 2008. 7.

- 44) 米山剛一, 市川雅男, 高屋 茜, 三浦 敦, 山田 隆, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 橋本 洋<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学病理, <sup>2)</sup> 産業医科大学病理): 病理組織診断に苦慮した子宮肉腫の1例. 日本婦人科腫瘍学会 (第44回), 2008. 7.
- 45) 市川雅男, 明楽重夫, 竹下俊行: 骨盤臓器脱を併発した子宮筋腫に対するTVM併施LAVH手術. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第48回), 2008. 7.
- 46) 西 弥生<sup>1)</sup>, 江崎 敬<sup>1)</sup>, 杉山里英<sup>1)</sup>, 中川浩次<sup>1)</sup>, 金城 洋<sup>1)</sup>, 井上正人<sup>1)</sup>, 杉山力一<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup> 杉山産婦人科生殖医療科): 当院における腹腔鏡下手手術の検討: 小規模施設での安全な手術を目指して. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第48回), 2008. 7.
- 47) 阿部裕子, 可世木久幸, 島田博美, 倉品隆平, 深見武彦, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行: 軟性子宮鏡取り扱いに関する注意点. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第48回), 2008. 7.
- 48) 渡辺建一郎, 峯 克也, 稲川智子, 桑原慶充, 里見操緒, 市川雅男, 三浦 敦, 石川温子, 黒瀬圭輔, 渡辺美千明, 明楽重夫, 竹下俊行: 腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術の手術時間に影響を与える因子の解析. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第48回), 2008. 7.
- 49) 阿部 崇, 明楽重夫, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 中井章人, 竹下俊行: 腹腔鏡下卵管線状切開術後のフォローアップについての検討: 血中hCG値測定のプロトコールの確立と存続外妊症の治療開始のタイミングについて. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第48回), 2008. 7.
- 50) 峯 克也, 富山僚子, 桑原慶充, 稲川智子, 阿部 崇, 西 弥生, 明楽重夫, 竹下俊行, 佐藤嘉兵<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本大学生物資源科学部): GnRHアンタゴニストは卵胞内のhypoxiaを誘導する. 日本受精着床学会 (第26回), 2008. 8.
- 51) 米澤美令, 米山剛一, 市川雅男, 渡辺建一郎, 高橋恵理佳, 大内 望, 三浦 敦, 石川温子, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 術前に診断しえた卵巣成熟嚢胞性奇形腫悪性転化の1例. 日本産科婦人科東京地方部会 (第347回), 2008. 9.
- 52) 桑原知仁, 奥田直貴, 大屋敦子, 山岸絵美, 中井晶子, 林 昌子, 阿部 崇, 川端伊久乃, 高橋 肇, 谷内良成, 三田俊二, 中井章人: 著明な右水腎症を呈した卵巣静脈症候群の1例. 日本産科婦人科東京地方部会 (第347回), 2008. 9.
- 53) 印出佑介, 三宅秀彦, 高屋 茜, 菊池美美, 三浦直美, 五十嵐美和, 村田知昭<sup>1)</sup>, 木下和哉<sup>1)</sup>, 鈴木俊治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 葛飾赤十字産院): 急速な転帰を辿った双胎間輸血症候群の1例. 日本産科婦人科東京地方部会 (第347回), 2008. 9.
- 54) 里見操緒, 高橋秀実, 竹下俊行: HIVの母子感染 母乳マクロファージ上に発現したDC-SIGNを介したHIV-1の垂直感染. 第82回日本感染症学会, 2008. 9.
- 55) 石川 源, 間瀬有里, 羅 善順<sup>1)</sup>, 三嶋拓也<sup>1)</sup>, 松原茂樹<sup>2)</sup>, 朝倉啓文, 竹下俊行, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学分子解剖, <sup>2)</sup> 自治医科大学産婦人科): 妊娠高血圧症候群の胎盤におけるマイクロRNA発現プロファイル解析. 日本妊娠高血圧学会 (第29回), 2008. 10.
- 56) 杉浦真弓<sup>1)</sup>, 川口里恵<sup>2)</sup>, 丸山哲夫<sup>3)</sup>, 小沢伸晃<sup>4)</sup>, 杉 俊隆<sup>5)</sup>, 竹下俊行, 齋藤 滋<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> 名古屋市立大学産婦人科, <sup>2)</sup> 慈恵医大産婦人科, <sup>3)</sup> 慶応大学産婦人科, <sup>4)</sup> 国立成育医療センター周産期診療部, <sup>5)</sup> 東海大学産婦人科, <sup>6)</sup> 富山大学産婦人科): 染色体転座をもつ反復流産患者の生児獲得率に関する多施設共同研究. 日本生殖医学会 (第53回), 2008. 10.
- 57) 稲川智子, 阿部 崇, 峯 克也, 桑原慶充, 里見操緒, 富山僚子, 明楽重夫, 竹下俊行: 弓状子宮は不育症の原因になりうるか?. 日本生殖医学会 (第53回), 2008. 10.
- 58) 桑原慶充, 富山僚子, 峯 克也, 稲川智子, 阿部 崇, 西 弥生, 明楽重夫, 竹下俊行: 調節卵巣刺激への反応性と, 卵胞液中のケモカインCXCL12濃度についての検討. 日本生殖医学会 (第53回), 2008. 10.
- 59) 米山剛一, 渡辺昇一<sup>1)</sup>, 土屋 玲<sup>2)</sup>, 市川雅男, 高屋 茜, 三浦 敦, 高橋恵里佳, 石川温子, 黒瀬圭輔, 竹



- 下俊行<sup>1)</sup> 勝楽堂病院産婦人科,<sup>2)</sup> 勝楽堂病院外科): 鼠径ヘルニアとして発見された卵巣癌腹膜播種例. 日本癌治療学会 (第46回), 2008. 10.
- 60) 杉浦真弓, 川口里恵, 丸山哲夫, 小澤伸晃, 杉 俊隆, 竹下俊行, 斎藤 滋: 染色体転座をもつ反復流産患者の生児獲得率に関する多施設共同研究. 第53回日本生殖医学会, 2008. 10.
- 61) 石橋 宰<sup>1)</sup>, 羅 善順<sup>1)</sup>, 三嶋拓也<sup>1)</sup>, 石川 源, 竹下俊行, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学分子解剖): 胎盤絨毛栄養膜はexosomeを介してマイクロRNAを細胞外に放出する. 日本胎盤学会 (第16回), 2008. 11.
- 62) 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, 羅 善順<sup>1)</sup>, 三嶋拓也<sup>1)</sup>, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 石川 源, 松原茂樹<sup>2)</sup>, 竹下俊行 (<sup>1)</sup> 日本医科大学分子解剖, <sup>2)</sup> 自治医科大学産婦人科): 妊娠における母体血液中の胎盤特異的microRNAに関する解析. 日本胎盤学会 (第16回), 2008. 11.
- 63) 市川雅男, 明楽重夫, 竹下俊行: 骨盤臓器脱に大して包括的な修復をめざした全腹腔鏡下仙骨陰固定術. 日本産婦人科手術学会 (第31回), 2008. 11.
- 64) 米山剛一, 川瀬里衣子, 松島 隆, 関口敦子, 西田直子, 澤倫太郎, 中井章人, 朝倉啓文, 川本雅司<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup>, 竹下俊行 (<sup>1)</sup> 日本医科大学病理, <sup>2)</sup> 日本医科大学高度救命救急センター): 羊水栓塞症9症例の臨床病理学的検討. 日本産科婦人科関東連合地方部会 (第116回), 2008. 11.
- 65) 渡邊建一郎, 三浦 敦, 米山剛一, 米澤美令, 市川雅男, 石川温子, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 川本雅司<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院病理部): 子宮内膜増殖症を伴った卵巣顆粒膜細胞腫の1例. 日本産科婦人科関東連合地方部会 (第116回), 2008. 11.
- 66) 米澤美令, 米山剛一, 市川雅男, 大内 望, 三浦 敦, 渡邊建一郎, 高橋恵理佳, 川瀬里衣子, 石川温子, 黒瀬圭輔, 土屋眞一<sup>1)</sup>, 竹下俊行 (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院病理部): 卵巣悪性性細胞腺線維腫の1例. 日本産科婦人科関東連合地方部会 (第116回), 2008. 11.
- 67) 林 昌子, 中井晶子, 阿部 崇, 奥田直貴, 川端伊久乃, 高橋 肇, 大屋敦子, 中井章人: von Hippel-Lindau病が疑われ, 胎児腎嚢胞を認めた網膜血管腫合併妊娠の1例. 日産婦関東連合地方部会 (第116回), 2008. 11.
- 68) 印出佑介, 三宅秀彦, 高屋 茜, 菊池美美, 五十嵐美和, 村田知昭<sup>1)</sup>, 木下和哉<sup>1)</sup>, 鈴木俊治<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 葛飾赤十字産院): 羊水過多症と胎児水腫を合併した胎児乳糜胸水の1例. 日産婦関東連合地方部会 (第116回), 2008. 11.
- 69) 三宅秀彦, 高屋 茜, 菊池美美, 印出佑介, 五十嵐美和, 村田知昭<sup>1)</sup>, 木下和哉<sup>1)</sup>, 鈴木俊治<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 葛飾赤十字産院): 胎盤位置異常との鑑別が困難であった絨毛膜外性胎盤 (Placenta extrachoralis) の1例. 日産婦関東連合地方部会 (第116回), 2008. 11.
- 70) 高橋恵理佳, 里見操緒, 稲川智子, 峯 克也, 桑原慶充, 三浦 敦, 石川 源, 澤倫太郎, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行: 骨盤MRIで癒着胎盤と診断された2症例の検討. 日産婦関東連合地方部会 (第116回), 2008. 11.
- 71) 八木幸恵, 渡邊恵理, 高橋めぐみ, 里見操緒, 竹下俊行, 高橋秀実: ウイルス感染 母乳栄養におけるDC-SIGNを介したHIV-1感染伝播がIFN- $\beta$ により阻害される可能性 (Inhibition of DC-SIGN-mediated HIV-1 transmission via breast-feeding by IFN-b). 日本免疫学会 (第38回), 2008. 11.
- 72) 間瀬有里, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 石川 源, 竹下俊行, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 解剖学 (分子解剖学)): ヒト卵巣顆粒膜細胞株 (KGN) におけるmicroRNA発現プロファイルの解析. 日本生殖免疫学会 (第23回), 2008. 12.
- 73) 富山僚子, 峯 克也, 阿部 崇, 桑原慶充, 西 弥生, 明楽重夫, 成相孝一<sup>1)</sup>, 佐藤嘉兵<sup>2)</sup>, 竹下俊行 (<sup>1)</sup> 東京慈恵会医科大学実験動物研究施設, <sup>2)</sup> 日本大学生物資源科学部): 卵胞内の酸素環境と卵子の質について. 日本生殖免疫学会 (第23回), 2008. 12.
- 74) 石橋 宰<sup>1)</sup>, 羅 善順<sup>1)</sup>, 石川明子<sup>1)</sup>, 三嶋拓也<sup>1)</sup>, 竹下俊行, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 解剖学講座 (分子解剖学)): miR-125b/351はヒト卵巣顆粒膜細胞のアポトーシスを制御する. 日本生殖免疫学会 (第23回), 2008. 12.
- 75) 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, 羅 善順<sup>1)</sup>, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 三嶋拓也<sup>1)</sup>, 竹下俊行 (<sup>1)</sup> 解剖学 (分子解剖学)): mmu-miR-145は卵胞莖膜細胞に特異的に発現している. 日本生殖免疫学会 (第23回), 2008. 12.
- 76) 成相孝一<sup>1)</sup>, 中村元彦<sup>2)</sup>, 富山僚子, 竹下俊行, 湯浅 真<sup>3)</sup>, 坪田昭人<sup>4)</sup>, 並木禎尚<sup>4)</sup>, 保科定頼<sup>4)</sup>, 藤瀬清隆<sup>4)</sup>,



金山喜一<sup>5)</sup>，川口里恵<sup>6)</sup>，田中忠夫<sup>6)</sup>，大川 清<sup>1)</sup> (1) 東京慈恵会医科大学実験動物研究施設，<sup>2)</sup> 東京慈恵会医科大学柏病院臨床工芸学部，<sup>3)</sup> 東京理科大学理工・工業化学科，<sup>4)</sup> 東京慈恵会医科大学臨床医学研究所，<sup>5)</sup> 日本大学生物資源・獣医学科，<sup>6)</sup> 東京慈恵会医科大学産婦人科学講座)：抹消循環血中の食細胞の除去は排卵を抑制する。日本生殖免疫学会 (第23回)，2008. 12.

- 77) 渡邊建一郎，三浦 敦，米山剛一，米澤美令，市川雅男，石川温子，黒瀬圭輔，明楽重夫，竹下俊行，川本雅司<sup>1)</sup>，土屋眞一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学病理部)：扁平上皮癌への悪性転化を認めた卵巣成熟嚢胞性奇形腫の1例。日産婦東京地方部会 (第348回)，2008. 12.
- 78) 根岸靖幸，熊谷善博<sup>1)</sup>，高橋秀実<sup>1)</sup>，竹下俊行 (1) 日本医大微生物免疫学教室)：妊娠マウスの樹状細胞におけるDEC205/33D1比の検討。日本生殖免疫学会 (第23回)，2008. 12.
- 79) 根岸靖幸，稲垣眞一郎<sup>1)</sup>，熊谷善博<sup>1)</sup>，竹下俊行，高橋秀実<sup>1)</sup> (1) 日本医大 微生物・免疫学教室)：Analysis of dendritic cells in pregnant mice. 日本免疫学会，2008. 12.
- 80) 菊池芙美，明楽重夫，峯 克也，市川雅男，渡辺美千明，竹下俊行：子宮腺筋症に対する腹腔鏡補助下子宮腺筋症核出術：高周波ループ電極を用いて。日本エンドメトリオーシス学会 (第30回)，2009. 1.
- 81) 稲川智子，渡辺建一郎，阿部 崇，峯 克也，桑原慶充，里見操緒，石川 源，澤倫太郎，竹下俊行：免疫抑制剤を投与し分娩に至った再生不良性貧血合併妊娠の1例。日産婦東京地方部会例会 (349回)，2009. 2.
- 82) 阿部 崇：不妊治療のいろは。多摩生殖医療研究会 (第1回) (東京)，2009. 3.

## [武蔵小杉病院女性診療科・産科]

### 研究概要

1. 超音波画像診断 妊娠初期胎児および周産期における胎児超音波診断に加え，1) 上位胎盤早期剥離における早期超音波像の研究，2) 超音波画像から見た前置胎盤の出血量の子測，3) 子宮頸管無力症における超音波画像変化，4) 妊娠初期胎嚢像の3次元超音波断層像の研究
2. 産婦人科内視鏡学 新しい内視鏡治療器具の開発や内視鏡手術による卵管通水と子宮内膜症と不妊症の関連研究などが行われている
3. 婦人科腫瘍 1) 子宮頸癌検診における日母分類の改定やHPVとの関連についての研究，2) 卵巣癌における抗がん剤の効果および副作用の研究

### 研究業績

#### 論文

[追加分]

追加分症例報告：

- 1) Peng W, Nakai M, Matsushima T, Asakura H : Atypical case of reversible posterior leucoencephalopathy syndrome associated with puerperal HELLP syndrome. Arch Gynecol Obstet 2008 ; 3 : 269-271.

追加分総説：

- 1) 朝倉啓文：正期産仮死児と胎児脳障害について。日産婦千葉地方部会雑誌 2008 ; (2) : 3-4.

(1) 原著：

- 1) Asakura H, Fukami T, Kurashina R, Tateyama N, Doi D, Takeshita T : Significance of Cervical Gland Area in Predicting Preterm Birth for Patients with Threatened Preterm Delivery : Comparison with Cervical Length and Fetal Fibronectin. Gynecol Obstet Invest 2009 ; 68 (1) : 1-8.
- 2) 可世木久幸，松島 隆：産婦人科臨床の難題を解く－私はこうしているII 不妊治療〔一般不妊治療〕1. 不妊

患者の内視鏡検査・手術の適応とタイミングは？. 臨床婦人科産科 2008 ; 62 (4 (別冊)) : 438-443.

- 3) 奥田直貴, 川端伊久乃<sup>1)</sup>, 三田俊二<sup>1)</sup>, 中井晶子<sup>1)</sup>, 林 昌子<sup>1)</sup>, 安部 崇<sup>1)</sup>, 谷内良成<sup>1)</sup>, 高橋 肇<sup>1)</sup>, 大屋敦子<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科) : 子宮内膜細胞診で発見された子宮頸部漿液性腺癌の1例. 日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2009 ; 57 (3).

(2) 総説 :

- 1) 立山尚子, 竹下俊行 : 周産期のウィルス感染とその対策. 周産期診療プラクティス 20 ; 96 (増刊) : 647-652.
- 2) 土居大祐, 朝倉啓文 : 卵巣癌および境界悪性腫瘍の取り扱い. 産婦実際 2008 ; 57 (4) : 657-662.
- 3) 渋井庸子, 佐藤杏月, 中井晶子, 深見武彦, 松島 隆, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行 : 正期産妊婦の陣痛発来における経膈超音波による予備的検討. 産婦実際 2008 ; 57 (12) : 2013-2019.
- 4) 朝倉啓文 : 帝王切開の増加を考える. 神奈川母性衛生学会雑誌 2008 ; 1 (1) : 71-72.

(3) 症例報告 :

- 1) Doi D, Boh Y, Konishi H, Asakura H, Takeshita T : Combined chemotherapy with paclitaxel and carboplatin for mucinous cystadenocarcinoma of the ovary during pregnancy. Arch Gynecol Obstet 2009.

(4) 研究報告書 :

- 1) 可世木久幸 : 神奈川県産婦人科内視鏡研究会 : この1年の歩み. 日産婦神奈川地方会誌 2008 ; 45 (1) : 54-54.

## 著 書

- 1) 可世木久幸 : [自著]「子宮内膜症・子宮筋腫かもしれないと思ったときに読む本」, 2008 ; pp1-204, 法研.
- 2) 奥田直貴, 中井章人<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科) : [自著] 若年妊娠のリスクとメリット. ペリネイタルケア (東京女子医科大学八千代医療センター 産婦人科准教授 正岡直樹), 2008 ; pp669-672, メディカ出版.
- 3) 松島 隆, 竹下俊行 : [分担] よくわかる病理生理12. 婦人科疾患 (松尾理 久保田敏郎), 2009 ; pp48-50, 日本医事新報社.

## 学会発表

(1) 会長講演 :

- 1) 朝倉啓文 : 帝王切開術の増加を考える. 神奈川母性衛生学会 (第22回), 2009. 2.

(2) 特別講演 :

- 1) 土居大祐 : 子宮頸癌検診における「新日母分類 (案) の改訂と科学療法の副作用対策」. 高知産婦人科学術講演会, 2008. 6.
- 2) 可世木久幸 : ルナベル : 子宮内膜症の新薬 : 低容量ピルは効くのか? . 小田原産婦人科医会後援会 (小田原商工会議所), 2008. 6.
- 3) 可世木久幸 : ルナベル : 子宮内膜症の新薬 : 低容量ピルは効くのか? . 座間・綾瀬・海老名産婦人科医会研究会 (ホテルビスタ海老名), 2008. 6.
- 4) 可世木久幸 : ルナベル : 子宮内膜症の新薬 : 低容量ピルは効くのか? . 郡山産婦人科医会研究会 (郡山ビューホテルアネックス), 2008. 9.
- 5) 土居大祐 : 子宮頸部細胞診の新しい報告様式 : ベセスダシステム2001について : 日本産婦人科医会における動向も含めて. 横浜市産婦人科医会 (第450回例会), 2009. 2.
- 6) 土居大祐 : ベセスダシステム2001準拠子宮頸部細胞診報告について. 平成20年度神奈川県細胞診従事者講習会, 2009. 2.

(3) 招待講演 :

- 1) Kaseki H : Total Hysterectomy. The 9th Asia-Pacific Association of Gynecologic Endoscopy and Minimally

Invasive Medicine (APAGE) (Daegu, Korea), 2008. 11.

(4) シンポジウム：

- 1) 深見武彦：早期予防戦略（切迫早産の取り扱い）. 神奈川母性衛生学会総会ならびに学術集会（第22回），2009. 2.

(5) ワークショップ：

- 1) 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>，大秋美治<sup>2)</sup>，土居大祐，米山剛一<sup>3)</sup>，鴨居青龍<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院産婦人科，<sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院病理部，<sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院産婦人科）：卵巣原発癌肉腫症例における腹水細胞新の検討. 日本臨床細胞学会総会（第49回），2008. 6.
- 2) 土居大祐：ASU-USの細胞像と臨床的取扱い：新しい子宮頸部細胞診の報告様式について. 日本臨床細胞学会秋期大会，2008. 11.

(6) 一般講演：

- 1) Abe H, Kurashina R, Matsushima T, Kaseki H : Clinical Trials of the Flexible Digital Video Office and Operating Hysteroscope. 17th Annual Congress of the International Society for Gynecologic Endoscopy (ISGE). (Bari, Italy), 2008. 6.
- 2) Kaseki H : Prototyping flexible digital video hysteroscope for a diagnosis and surgery. 20th International Conference of the Society for Medical Innovation and Technology. (Vienna, Austria), 2008. 8.
- 3) Nishida N, Fukami T, Asakura H, Takeshita T : Significance of cervical gland area (CGA) in predicting for preterm birth in patients suffered from threatened preterm delivery : comparison of predictive efficacy with cervical length (CL) and positive fetal fibronectin (fFN). World congress on ultrasound in obstetrics and gynecology (18th) (Chicago), 2008. 8.
- 4) Nishida N, Abe H, Doi D, Asakura H, Takeshita T : Intramural pregnancy with a past history of artificial abortion-a case report. World congress on ultrasound in obstetrics and gynecology (18th) (chicago), 2008. 8.
- 5) 倉品隆平, 佐藤杏月, 柿栖睦実, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行：切迫早産における2週間以内の早産予知：経膈超音波所見は癌胎児性フィブロネクチンによる予知を高めるか？. 日本産科婦人科学会学術講演会（第60回），2008. 4.
- 6) 坊 裕美, 吉田有里, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行：正期産の陣痛発来予測における超音波上の子宮頸管領域像の意義：子宮頸管熟化との関係. 日本産科婦人科学会学術講演会（第60回），2008. 4.
- 7) 吉田有里, 澤倫太郎<sup>1)</sup>，松島 隆, 佐藤杏月, 西田直子, 柿栖睦実, 倉品隆平, 深見武彦, 土居大祐, 朝倉啓文, 竹下俊行：デジタルビデオ軟性子宮鏡の使用経験. 日本産科婦人科学会学術講演会（第60回），2008. 4.
- 8) 佐藤杏月, 松島 隆, 吉田有里, 西田直子, 倉品隆平, 柿栖睦実, 深見武彦, 土居大祐, 朝倉啓文, 中井章人, 竹下俊行, 可世木久幸（<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科）：rGTP（GTP）は尿中NTxクレアチニン補正值（NTx）と相関する. 日本産科婦人科学会学術講演会（第60回），2008. 4.
- 9) 深見武彦, 倉品隆平, 柿栖睦実, 阿部裕子, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行：入院2週間以内の早産例の予知：経膈超音波所見とfetal fibronectinとの比較. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会，2008. 7.
- 10) 小野瀬亮<sup>1)</sup>，雨宮 清<sup>1)</sup>，小林陽一<sup>1)</sup>，小山秀樹<sup>1)</sup>，角田新平<sup>1)</sup>，土居大祐<sup>1)</sup>，仲沢経夫<sup>1)</sup>，秦 和子<sup>1)</sup>，林 康子<sup>1)</sup>，林 玲子<sup>1)</sup>，宮城悦子<sup>1)</sup>，村松俊成<sup>1)</sup>，横山和彦<sup>1)</sup>，三上幹男<sup>1)</sup>，中山裕樹<sup>1)</sup>，その他1名（<sup>1)</sup> 神奈川県産科婦人科医会婦人科悪性腫瘍対策部）：平成19年度神奈川県産科婦人科医会 婦人科悪性腫瘍登録集計. 日本産科婦人科学会神奈川地方部会，2008. 7.
- 11) 島海博司<sup>1)</sup>，倉品隆平, 柿栖睦実, 阿部裕子, 坊 裕美, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文（<sup>1)</sup> 研修医）：子宮破裂から敗血症ショック，多臓器不全を呈した子宮体癌の1例. 日本産科婦人科学会神奈川地方部会（382回），2008. 7.

- 12) 深見武彦, 倉品隆平, 柿栖睦実, 阿部裕子, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行: 入院後2週間以内の早産予知: 陰腔超音波所見とfetal fibronectinとの比較. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会, 2008. 7.
- 13) 西尾麻衣子<sup>1)</sup>, 伊藤るみ子<sup>1)</sup>, 朝日恵理子<sup>1)</sup>, 小河原美代子<sup>1)</sup>, 朝倉啓文 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科助産師): 緊急帝王切開となった産婦との分娩のふりかえ: 産婦の物語からみた一考察一. 日本母性衛生学会 (第49回), 2008. 8.
- 14) 高橋恵理佳, 島田博美, 小野修一, 品川寿弥, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文: 帝王切開術における高齢妊婦と出血量との関係. 日本医科大学医学会 (76回), 2008. 9.
- 15) 島田博美, 倉品隆平, 柿栖睦実, 阿部裕子, 坊 裕美, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文: Clostridium perfringensの感染による敗血症性ショックを来たした子宮体癌の子宮穿孔の1例. 日本医科大学医学会 (第76回), 2008. 9.
- 16) 石川 源, 間瀬有里, 羅順善順, 三嶋拓也, 松原茂樹, 朝倉啓文, 竹下俊行, 滝澤俊広: 妊娠高血圧症候群の胎盤におけるマイクロRNA発現プロファイル解析. 妊娠高血圧学会 (第29回), 2008. 9.
- 17) 米澤美令, 米山剛一, 市川雅男, 高橋恵理佳, 渡辺健一郎, 大内 望, 三浦 敦, 石川温子, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 術前に診断し得た卵巣成熟嚢胞性奇形腫悪性転化の1例. 日本産科婦人科学会東京地方部会例会 (第347回), 2008. 9.
- 18) 倉品隆平, 柿栖睦実, 坊 裕美, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 腹水28Lを伴った巨大卵巣癌の1例. 日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2008. 11.
- 19) 米山剛一, 川瀬理衣子, 松島 隆, 関口敦子, 西田直子, 澤倫太郎, 中井章人, 朝倉啓文, 川本雅司, 横田裕行, 堤 真一, 竹下俊行: 羊水寒栓9症例の臨床病理学的検討. 関東連合地方部会 (116回), 2008. 11.
- 20) 島田博美, 倉品隆平, 柿栖睦実, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文: Clostridium perfringensの感染により子宮穿孔から敗血症性ショックを生じた子宮体癌の1例. 関東連合地方部会 (116回), 2008. 11.
- 21) 米澤美令, 米山剛一, 市川雅男, 大内 望, 三浦 敦, 渡辺健一郎, 高橋恵理佳, 川瀬衣里子, 石川温子, 黒瀬圭輔, 土屋真一, 竹下俊行: 卵巣悪性明細胞腺線維腫の1例. 日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会 (第116回), 2008. 11.
- 22) 佐藤杏月, 桑原慶充<sup>1)</sup>, 河合尚基<sup>1)</sup> (1) 東京臨海病院産婦人科): 静脈内平滑筋腫例の1例について. 江戸川/江東・千葉西ブロック産婦人科医会合同卒後研修会 (第25回), 2008. 12.
- 23) 高橋恵理佳, 島田博美, 品川寿弥, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文: 妊婦年齢が帝王切開術に及ぼす影響. 神奈川母性衛生学会総会ならびに学術集会 (22回), 2009. 2.
- 24) 中庭路華<sup>1)</sup>, 勝俣喜代子<sup>1)</sup>, 笠原 伸<sup>1)</sup>, 朝倉啓文, 小河原美代子<sup>2)</sup>, 榎谷寛子<sup>2)</sup> (1) サクラバース助産院, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科助産師): 妊産婦のニードを考慮した周産期ケアの必要性—分娩と助産所の連絡事例を振り返って. 神奈川母性衛生学会 (第22回), 2009. 2.
- 25) 松島 隆: ジェノゲスト投与後の腹腔鏡下手術の1例. 神奈川産婦人科内視鏡研究会プログラム (24回), 2009. 3.
- 26) 米澤美令, 西田直子, 島田博美, 柿栖睦実, 倉品隆平, 奥田直貴, 立山尚子, 深見武彦, 品川寿弥, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文: 人口妊娠中絶既往の筋層内妊娠の1例. 日産婦学会神奈川地方部会 (第385回), 2009. 3.

## [多摩永山病院女性診療科・産科]

### 研究概要

本年度の当教室の研究内容は以下の如くである。

- (1) 妊婦とスポーツ 妊婦スポーツの安全性や効果について, 身体的および精神的側面から幅広く研究を行って

いる。身体面では、活性酸素や抗酸化物質の測定によるトレーニング効果の評価や超音波パルスドブラを用いた運動中の母児の血行動態変化、心機能変化の評価をはじめ、スポーツが妊娠、分娩に与える影響、予後を広範囲に調査している。また、産褥期の子宮復古、母乳栄養の確立に関しても、興味深い成績をあげつつある。

(2) 周産期領域 臨床面では、妊娠高血圧症候群、子宮内胎児発育遅延に対し、超音波断層装置、生化学検査などを用いその病態生理の解明を行っている。超音波断層装置による母体腎、肝臓の観察では新たな視点から妊娠高血圧症候群に関する有益なデータが集積しつつある。また 胎児、新生児低酸素脳症に関する動物実験を行い、脳内のエネルギー代謝やミトコンドリア機能と虚血灌流傷害の関係を検討している。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Oya A, Nakai A, Miyake H, Kawabata I, Takeshita T : Risk factors for peripartum blood transfusion in women with placenta previa : A retrospective analysis. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (3) : 146-151.
- 2) Miyake H<sup>1)</sup>, Yamamoto A<sup>2)</sup>, Yamada T<sup>2)</sup>, Okazaki K<sup>3)</sup>, Morita K<sup>3)</sup>, Kondo M<sup>3)</sup>, Ishida T<sup>4)</sup>, Nishida T<sup>4)</sup>, Yokota A<sup>2)</sup>, Nakai A<sup>2)</sup>, Takeshita T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Japanese Red Cross Katsushika Maternity Hospital, <sup>2)</sup> Nipponn Medical School, <sup>3)</sup> Neonatal Unit Tokyo Metropolitan Hachioji Children' s Hospital, <sup>4)</sup> Division of Pediatric Surgery Tokyo Metropolitan Hachioji Children' s Hospital) : Umbilical cord ulceration after prenatal diagnosis of duodenal atresia with interstitial deletion of chromosome 13q : A case report. Fetal Diagnosis and Therapy 2008 ; 24 : 115-118.
- 3) Oya A<sup>1, 2)</sup>, Okikawa T<sup>2)</sup>, Nakai A<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup>, Hanawa T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Oriental Medicine Research Center, Kitasato University) : Clinical efficacy of kampo medicine (Japanese traditional herbel medicine) in the treatment of primary dysmenorrhea. J Obstet Gynaecol Res 2008 ; 34 (5) : 898-908.
- 4) 阿部 崇, 谷内良成, 中井晶子, 林 昌子, 奥田直貴, 川端伊久乃, 高橋 肇, 三田俊二, 大屋敦子, 露木佳子, 横田明重, 中井章人 : 帝王切開癒痕部妊娠の1例. 日産婦東京会誌 2008 ; 57 (2) : 190-195.
- 5) 奥田直貴, 川端伊久乃, 三田俊二, 中井晶子, 林 昌子, 阿部 崇, 谷内良成, 高橋 肇, 大屋敦子, 中井章人 : 子宮内膜細胞診で発見された子宮頸部漿液性腺癌の1例. 日産婦東京会誌 2008 ; 57 (3) : 386-390.
- 6) 桑原知仁, 奥田直貴, 大屋敦子, 山岸絵美, 中井晶子, 林 昌子, 阿部 崇, 川端伊久乃, 高橋 肇, 谷内良成, 三田俊二, 中井章人 : 著明な右水腎症を呈した卵巣静脈症候群の1例. 日産婦東京会誌 2008 ; 57 (4) : 532-535.
- 7) 山下恵理子, 谷内良成, 奥田直貴, 桑原知人, 川端伊久乃, 大屋敦子, 中井章人 : 変性多発筋腫合併妊娠の1例. 日産婦東京会誌 2009 ; 58 (1) : 22-26.

#### (2) 総説：

- 1) 川端伊久乃, 中井章人 : 臨スポオピニオン : 妊娠中の睡眠障害と妊婦スポーツ. 臨床スポーツ医学 2008 ; 25 (4) : 392-396.
- 2) 中井章人 : 産婦人科医師不足の問題と対策 : 10. 産婦人科医師不足と周産期救急搬送. 産婦人科の実際 2008 ; 57 (4) : 705-714.
- 3) 大屋敦子, 中井章人 : 特集 : 前置癒着胎盤 : 臨床経験に学ぶ : 5. 帝王切開手術法 : 2) 癒着胎盤の帝王切開と子宮全摘術. 産婦人科の実際 2008 ; 57 (6) : 983-987.
- 4) 中井章人 : 特集 : 周産期脳障害の原因とその予防 : 周産期脳障害の要因 : 低酸素性虚血性脳障害. 周産期医学 2008 ; 38 (6) : 683-687.
- 5) 奥田直貴, 中井章人 : 特集 ; 高年妊娠と若年妊娠 ; 若年妊娠のリスクとメリット. ペリネイタルケア 2008 ;



27 (7) : 669-672.

- 6) 中井章人, 阿部 崇 : 特集 ; 妊産婦の薬物療法 ; あなたの処方間違っていますか ; よく使われる薬剤と処方の実例 ; 8. 胃腸薬, 制吐剤, 便秘薬. 臨床婦人科産科 2008 ; 62 (9) : 1203-1207.
- 7) 小笹 宏<sup>1)</sup>, 栃木武一<sup>1)</sup>, 和田裕一<sup>1)</sup>, 栗林 靖<sup>1)</sup>, 田邊清男<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 清川 尚<sup>1)</sup>, 竹村秀雄<sup>1)</sup>, 寺尾俊彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本産婦人科医会勤務医部会) : 産婦人科勤務医師の待遇改善に関する全国調査 ; 日本産婦人科医会 2007年全国調査. 周産期医学 2008 ; 38 (11) : 1477-1482.
- 8) 中井章人 : 特集 ; 加齢ステージと運動 ; 女性のライフスタイルと運動. 体育の科学 2008 ; 58 (12) : 853-858.
- 9) 林 昌子, 中井章人 : 周産期臨床検査のポイント ; 産科編 ; 2. 妊娠初期における異常妊娠の画像診断. 周産期医学 2008 ; 38 (増刊) : 6-10.
- 10) 林 昌子, 中井章人 : 特集 ; ドクターコールのタイミングを見逃すな ! ; 正常分娩急変時の症状・所見 ; 胎児心拍数モニタリング読解力向上プロジェクト ; 私たちの施設の取り組み. ペリネイタルケア 2009 ; 28 (1) : 94-99.
- 11) 林 昌子, 中井章人 : 周産期救急そのときどうする ? ; 明日にでも起こりうる69の危機に立ち向かう ; V. 番外編 ; 「お金がないので分娩費用が払えません」と言われた ; 福祉との連携 (1). ペリネイタルケア 2009 ; 28 (新春増刊) : 298-300.
- 12) 大屋敦子<sup>1, 2)</sup>, 花輪壽彦<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学産婦人科学教室, <sup>2)</sup> 北里大学東洋医学総合研究所) : 特集 ; 婦人科医療とこれからの漢方療法 ; 月経困難症の漢方療法. 産婦人科治療 2009 ; 98 (1) : 51-54.
- 13) 中井章人, 林 昌子, 奥田直貴 : 特集 ; 子育て支援 ; 妊娠・出産時の支援 ; 妊婦健康診査の意義と未受診妊婦のリスク. 周産期医学 2009 ; 39 (2) : 175-179.
- 14) 川端伊久乃, 中井章人 : 特集 ; ハイリスク妊婦への情報提供実例集 ; 帝王切開既往妊娠の分娩. 周産期医学 2009 ; 39 (3) : 375-380.

## 著 書

- 1) 川端伊久乃, 中井章人 : [分担] III. 切迫早産の管理 : 当院における切迫早産の管理法. 切迫早産の診断と治療 (岩下光利監修), 2008 ; pp208-218, メディカルレビュー社.
- 2) 阿部 崇, 中井章人 : [分担] 1. 妊娠初期の出血 ; 3. 子宮外妊娠. 産科救急の初期診療 (北川道弘編), 2008 ; pp18-19, 永井書店.
- 3) 中井章人 : [自著] 周産期看護マニュアル : よくわかるリスクサインと病態生理. 周産期看護マニュアル : よくわかるリスクサインと病態生理 (中井章人), 2008 ; pp3-315, (株) 東京医学社.

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 中井章人 : 妊娠初期の超音波診断 ; 見逃してはいけない異常妊娠を中心に. 第30回埼玉県産婦人科医会超音波研究会, 2008. 5.
- 2) 関口敦子 : 漢方診療 ; 頻用処方の使い方. 平成20年度南多摩産婦人科医会講演会, 2008. 8.
- 3) 中井章人 : 医療安全リスクマネジメント ; 女性とスポーツ ; 妊娠中の運動. 第680回日本鍼灸師会学術講演会, 2008. 8.
- 4) 中井章人 : 周産期医療ステージV : 妊婦健康審査 : 「産婦人科診療ガイドライン」を読む. 第19回産科中小施設研究会, 2008. 9.
- 5) 中井章人 : 胎児機能不全を考える. 江戸川区産婦人科医会学術講演会, 2008. 9.
- 6) 中井章人 : 産科診療ガイドラインを読み解く. 第33回多摩産婦人科病診連携懇話会, 2008. 9.
- 7) 中井章人 : 東京都 (および全国) の産婦人科医療の現状と問題点. 自由民主党東京都支部連合会青年部プロッ

ク協議会，2009. 1.

- 8) 中井章人：妊産婦死亡統計から見た周産期医療．第34回多摩産婦人科病診連携懇話会，2009. 1.
- 9) 林 昌子：新しいCTGの読み方；NRFSスコア．第34回多摩産婦人科病診連携懇話会，2009. 1.
- 10) 中井章人：妊産婦死亡統計から見た周産期救急医療．SSニューイヤーセミナー，2009. 1.
- 11) 中井章人：セミオープンシステム；地域連携；母と子のネットワーク．平成20年度周産期医療研修会，2009. 2.
- 12) 中井章人：周産期医療システム；「母と子のネットワーク」．日本医科大学四病院医事課研究会，2009. 2.
- 13) 中井章人：セミオープンシステム；地域連携「母と子のネットワーク」．周産期医療研究会，2009. 2.
- 14) 中井章人：切迫早産の新しい治療戦略とその効果．岩手周産期研究会，2009. 3.

(2) シンポジウム：

- 1) 中井章人：プライマリケアに必要な専門領域の知識；骨盤領域（直腸・泌尿器・産婦人科）におけるプライマリケア；妊娠初期のAcute Abdomen．第33回日本外科系連合学会学術集会，2008. 6.
- 2) 川端伊久乃：日本早産研究会参加施設における早産管理と治療変遷．日本早産予防研究会第2回学術集会，2008. 7.
- 3) 中井章人：周産期医療の現状と問題点：周産期医療の現状と問題点（東京都）．平成20年度日本産婦人科医会関東ブロック協議会，2008. 9.
- 4) 尾山裕美<sup>1)</sup>，林 昌子<sup>2)</sup>，吉田温子<sup>1)</sup>，中井晶子<sup>2)</sup>，奥田直貴<sup>2)</sup>，川端伊久乃<sup>2)</sup>，関口敦子<sup>2)</sup>，中井章人<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院母子センター，<sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科）：CTG判断基準の標準化に向けて：院内助産院における助産師の立場から．第32回分娩監視研究会，2008. 11.
- 5) 中井章人：東京都の周産期医療を考える；東京都の現状．東京産婦人科医会創立60周年記念式典・シンポジウム，2009. 1.
- 6) 中井章人：東京都の医療崩壊を防ぐには（救急医療の東京ルールの概要と展望）：東京都の産婦人科救急．東京大学附属病院シンポジウム；東京都の救急医療を考える，2009. 3.

(3) セミナー：

- 1) 中井章人：切迫早産の新しい治療戦略とその効果：子宮頸管粘液顆粒球エラストラーゼ測定のタイミング．第44回日本周産期・新生児医学会総会及び学術集会，2008. 7.

(4) 一般講演：

- 1) 川端伊久乃，山田 隆，高橋 肇，中井晶子，大屋敦子，横田明重，中井章人，竹下俊行：前置癒着胎盤におけるmodified cesarean hysterectomyの有効性．第60回日本産科婦人科学会学術講演会，2008. 4.
- 2) 大屋敦子，三宅秀彦，川端伊久乃，谷内良成，高橋 肇，奥田直貴，中井晶子，三田俊二，露木佳子，横田明重，中井章人，竹下俊行：前置胎盤症例における輸血リスクの検討．第60回日本産科婦人科学会学術講演会，2008. 4.
- 3) 林 昌子，三宅秀彦，山本晃人，中井晶子，奥田直貴，稲川智子，阿部 崇，川端伊久乃，横田明重，中井章人，竹下俊行：妊産婦健康診査未受診症例の周産期予後．第60回日本産科婦人科学会学術講演会，2008. 4.
- 4) 富山僚子，桑原慶充，峯 克也，稲川智子，西 弥生，阿部 崇，明楽重夫，竹下俊行：不妊症患者における卵胞液内Hexanoyl-Lysine濃度についての検討．第60回日本産科婦人科学会学術講演会，2008. 4.
- 5) 朝倉禎史<sup>1)</sup>，五十嵐健治<sup>1)</sup>，黒瀬圭輔<sup>1)</sup>，鴨井青龍<sup>1)</sup>，三浦敦子<sup>2)</sup>，米山剛一<sup>2)</sup>，三田俊二<sup>3)</sup>，土居大祐<sup>4)</sup>，加藤久盛<sup>5)</sup>，中山裕樹<sup>5)</sup>，太田雄治郎<sup>6)</sup>，竹下俊行<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医大千葉北総病院，<sup>2)</sup> 日本医大，<sup>3)</sup> 日本医大多摩永山病院，<sup>4)</sup> 日本医大武蔵小杉病院母子科，<sup>5)</sup> 神奈川県立がんセンター，<sup>6)</sup> 多摩南部地域病院）：FIGO3c期（リンパ節転移陽性）子宮体癌の手術完遂例における予後についての検討．第60回日本産科婦人科学会学術講演会，2008. 4.
- 6) 米山剛一<sup>1)</sup>，中山裕樹<sup>2)</sup>，土居大祐<sup>1)</sup>，三田俊二<sup>1)</sup>，鴨井青龍<sup>1)</sup>，太田雄治郎<sup>3)</sup>，山田 隆<sup>1)</sup>，三浦 敦<sup>1)</sup>，黒瀬圭輔<sup>1)</sup>，市川雅男<sup>1)</sup>，小西英喜<sup>1)</sup>，竹下俊行<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医大，<sup>2)</sup> 神奈川県立がんセンター，<sup>3)</sup> 多摩南部地域病

- 院)：子宮体癌予後因子に関する再評価。第60回日本産科婦人科学会学術講演会，2008。4。
- 7) 佐藤杏月<sup>1)</sup>，松島 隆<sup>1)</sup>，吉田有里<sup>1)</sup>，西田直子<sup>1)</sup>，倉品隆平<sup>1)</sup>，柿栖睦美<sup>1)</sup>，深見武彦<sup>1)</sup>，土居大祐<sup>1)</sup>，朝倉啓文<sup>1)</sup>，中井章人<sup>2)</sup>，竹下俊行<sup>2)</sup>，可世木久幸<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医大武蔵小杉病院， <sup>2)</sup> 日本医大)： $\gamma$ -GTP (GTP) は尿中NTxクレアチニン補正值 (NTx) と相関する。第60回日本産科婦人科学会学術講演会，2008。4。
  - 8) 奥田直貴，川端伊久乃，三田俊二，中井晶子，林 昌子，阿部 崇，高橋 肇，谷内良成，大屋敦子，中井章人：子宮内膜細胞診で発見された子宮頸部漿液性腺癌の1例。第346回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，2008。5。
  - 9) 桑原知仁，川端伊久乃，中井晶子，山岸絵美，林 昌子，阿部 崇，奥田直貴，谷内良成，高橋 肇，三田俊二，大屋敦子，中井章人：診断に苦慮した子宮筋腫合併卵管間質部妊娠の1例。第115回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会，2008。6。
  - 10) 川端伊久乃，中井晶子，谷内良成，横田明重，大屋敦子，三宅秀彦<sup>1)</sup>，中井章人，竹下俊行 ( <sup>1)</sup> 葛飾赤十字産院)：CATCH22症候群が疑われた胎児水腫の1例。第44回日本周産期・新生児医学会総会及び学術集会，2008。7。
  - 11) 山下恵理子，小野修一，朝倉禎史，平泉良枝，五十嵐健治，渡辺美千明，黒瀬圭輔，鴨井青龍，竹下俊行，大秋美治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医大千葉北総病院病理部)：開院以来経験した卵巣未熟奇形腫の5例。第44回特定非営利活動法人日本婦人科腫瘍学会学術集会，2008。7。
  - 12) 小野修一，山下恵理子，朝倉禎史，平泉良枝，五十嵐健治，渡辺美千明，黒瀬圭輔，鴨井青龍，竹下俊行，大秋美治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医大千葉北総病院病理部)：当科にて経験した子宮腺肉腫の3例。第44回特定非営利活動法人日本婦人科腫瘍学会学術集会，2008。7。
  - 13) 峯 克也<sup>1)</sup>，富山僚子<sup>1)</sup>，桑原慶充<sup>1)</sup>，稲川智子<sup>1)</sup>，阿部 崇<sup>1)</sup>，西 弥生<sup>1)</sup>，明楽重夫<sup>1)</sup>，竹下俊行<sup>1)</sup>，富山僚子<sup>2)</sup>，佐藤嘉兵<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学産婦人科， <sup>2)</sup> 日本大学生物資源科学部)：GnRH アンタゴニスト卵胞内のhypoxiaを誘導する。第26回日本受精着床学会総会・学術集会，2008。8。
  - 14) 桑原知仁，奥田直貴，大屋敦子，山岸絵美，中井晶子，林 昌子，阿部 崇，川端伊久乃，高橋 肇，谷内良成，三田俊二，中井章人：著明な右水腎症を呈した卵巣静脈症候群の1例。第347回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，2008。9。
  - 15) 川端伊久乃，関口敦子，林 昌子，中井晶子，桑原知仁，山下恵理子，阿部 崇，奥田直貴，高橋 肇，三田俊二，中井章人：前置癒着胎盤の術前診断：超音波診断による後方視的検討。第76回日本医科大学医学会総会，2008。9。
  - 16) 林 昌子，三宅秀彦，山本晃人，中井晶子，奥田直貴，稲川智子，阿部 崇，川端伊久乃，横田明重，中井章人：妊産婦健康審査未受診症例の周産期予後の検討。第76回日本医科大学医学会総会，2008。9。
  - 17) 林 昌子，中井晶子，阿部 崇，奥田直貴，川端伊久乃，高橋 肇，大屋敦子，中井章人：von Hippel-Lindau病が疑われ，胎児腎嚢胞を認めた網膜血管腫合併妊娠の1例。第116回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会，2008。11。
  - 18) 米山剛一，川瀬里衣子，松島 隆，大屋敦子，西田直子，澤倫太郎，中井章人，朝倉啓文，川本雅司<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>2)</sup>，土屋眞一<sup>1)</sup>，竹下俊行：羊水塞栓症9症例の臨床病理学的検討。第116回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会，2008。11。
  - 19) 桑原知仁，大屋敦子，中井章人：著明な右水腎症を呈した卵巣静脈症候群の1例。平成20年度日本医科大学産婦人科学教室同窓会臨床研究会，2008。11。
  - 20) 中井晶子，三田俊二，奥田直貴，中井章人，片山博徳<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院病理部)：子宮体部細胞診を契機に発見されたポリープ状発育を認めた子宮頸部漿液性腺癌の1例。第47回日本臨床細胞学会秋期大会，2008。11。
  - 21) 三田俊二，前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，片山博徳<sup>1)</sup>，岩瀬裕美<sup>1)</sup>，磯部宏昭<sup>1)</sup>，日吾美栄子<sup>1)</sup>，鈴木美紀<sup>1)</sup>，中井晶子，中井章人：体腔液に対する免疫細胞化学染色 (細胞転写法) による原発巣の同定。第47回日本臨床細

胞学会秋期大会, 2008. 11.

- 22) 中井晶子, 川端伊久乃, 関口敦子, 朝倉啓文, 越野立夫, 中井章人, 井上裕子<sup>1)</sup> (1) 正裕会井上レディースクリニック) : 妊婦スポーツが脈波伝導速度に与える影響. 第22回女性スポーツ医学研究会学術集会, 2008. 12.
- 23) 山下恵理子, 谷内良成, 奥田直貴, 桑原知仁, 川端伊久乃, 大屋敦子, 中井章人 : 変性多発子宮筋腫合併妊娠の1例. 第348回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2008. 12.
- 24) 林 昌子, 三田俊二, 桑原知仁, 中井晶子, 川端伊久乃, 高橋 肇, 大屋敦子, 中井章人 : 化学療法2日後に腫瘍破裂をきたし, 同日死亡に至った子宮体部低分化腺癌の1例. 第22回東京産婦人科医会・日産婦東京地方部会合同研修会並びに第349回日産婦東京地方部会例会, 2009. 2.

## [千葉北総病院女性診療科・産科]

### 研究概要

1) 婦人科腫瘍：婦人科腫瘍分野は千葉北総病院女性診療科・産科における診療の中心的な位置を占めている。腫瘍学は症例1例1例の集積が大切であり、症例報告を中心に研究を行っている。また、抗癌剤の効果予知因子の研究の一環として、今回は子宮内膜癌にたいする高用量黄体ホルモン療法における効果予知因子の解明について研究をおこなった。

2) 婦人科内視鏡手術：腹腔鏡手術の教育システムの確立の必要性が謳われている。特に腹腔鏡下子宮筋腫核出術は子宮壁の修復に正確な縫合結紮を要し、医育機関においては術式と導入方法の工夫が必要とされてきた。これまで腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術を標準術式として導入してきたが、今回、導入における問題点と術式の妥当性について検討を加えた。さらに子宮内膜症や卵巣嚢腫に対する手術、子宮全摘術、および卵管卵管間質部妊娠を含む子宮外妊娠手術および子宮奇形に対する腹腔鏡手術あるいは子宮鏡手術についても症例を重ねている。

3) 周産期：ハイリスク妊娠の管理および分娩における問題点について検討し、緊急帝王切開術に対する諸問題を関係各部門と検討、分析した。妊産婦の栄養管理について、具体的に各症例について検討し日本人妊産婦に必要な栄養所要量について研究をおこなった。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Kamoi S, Ohaki Y<sup>3)</sup>, Mori O<sup>3)</sup>, Kurose K<sup>1)</sup>, Fukunaga M<sup>2)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup> (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, 2) Department of Pathology, Tokyo Jikei University Daisan Hospital, 3) Department of Pathology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Serial histologic observation of endometrial adenocarcinoma treated with high-dose progestin until complete disappearance of carcinomatous foci—review of more than 25 biopsies from five patients. *Int J Gynecol Cancer* 2008 ; 18 (6) : 1305-1314.
- 2) 原原弘光<sup>1)</sup>, 河野美貴子<sup>4)</sup>, 岩本美樹<sup>4)</sup>, 菊池美美<sup>1)</sup>, 印出佑介<sup>1)</sup>, 朝倉禎史, 五十嵐美和<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔, 渡辺美千明, 山口 暁, 鴨井青龍, 大秋美治<sup>2)</sup>, 岡田 進<sup>3)</sup> (1) 付属病院女性診療科・産科, 2) 千葉北総病院 病理部, 3) 千葉北総病院 放射線科, 4) 千葉北総病院 研修医) : 癒着胎盤を合併した分葉胎盤の1例 ; MTX化学療法による癒着胎盤の経時的変化. *日本産科婦人科学会千葉地方部会誌* 2008 ; 1 : 37-41.

#### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Kamoi S, Ohaki Y<sup>3)</sup>, Mori O<sup>3)</sup>, Yamada T, Kurose K, Fukunaga M<sup>2)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup> (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, 2) Department of Pathology, Tokyo Jikei University

- Daisan Hospital, <sup>3)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Best Predictor During High dose Progestin Therapy for Endometrial Endometrioid Adenocarcinoma using Semiquantitative Analysis Based on Image Processing and Immunohistochemistry. Congress of the International Academy of Pathology (XXVIIth) (Athens), 2008. 10.
- 2) 樫村剛司<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 桑子智之<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>3)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院 放射線科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院 病理部, <sup>3)</sup> 付属病院 放射線科) : セルトリ間質細胞腫瘍の1例. 腹部放射線研究会 (第22回) (つくば国際会議場), 2008. 6.
  - 3) 小野修一, 山下恵理子, 朝倉禎史, 平泉良枝, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 黒瀬圭輔, 鴨井青龍, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院 女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院 病理部) : 当院にて経験した子宮腺肉腫の3例. 日本婦人科腫瘍学会学術集会 (第44回), 2008. 7.
  - 4) 山下恵理子, 小野修一, 朝倉禎史, 平泉良枝, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 黒瀬圭輔, 鴨井青龍, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院 女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院 病理部) : 開院以来経験した卵巣未熟奇形腫の5例. 第44回日本婦人科腫瘍学会学術集会 (第44回), 2008. 7.
  - 5) 阿部裕子, 平泉良枝, 高屋 茜, 朝倉禎史, 山田 隆, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 鴨井青龍 : OHVIRA非対称性子宮奇形の5症例. 日本産科婦人科学会千葉地方部会 平成20年度冬季学術講演会, 2009. 1.
  - 6) 山田 隆, 渡辺美千明, 阿部裕子, 高屋 茜, 平泉良枝, 朝倉禎史, 五十嵐健治, 鴨井青龍 : 吊り上げ法・ループ電気メスによる腹腔鏡補助下子宮腺筋症切除術 (LAAM). 千葉内視鏡外科研究会 (第14回), 2009. 1.



## 14. 耳鼻咽喉科学講座

[付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科]

### 研究概要

教室の主たる研究領域は、耳科学、めまい平衡医学、聴覚学、免疫・アレルギー学、頭頸部外科学、音声言語医学ならびに嚥下機能に関するものである。また、その研究手法としては、生理学的、形態学的、免疫学的、分子生物的方法が駆使されている。

以下に示された英文・和文論文、学会発表で示されている通り、基礎的あるいは臨床的研究、症例検討等に関する業績の結果の提示が積極的に国内・国外に示されている。教室の活動も本邦に止まらず、海外へむけて大いに発展している。また、海外からの研究者も、教室で研究活動に従事している。これらの活動を援助するための、外部からの競争的研究補助金獲得も積極的に行われ、文部科学省研究費補助金や厚生労働省科学研究費をはじめとした研究補助金を多く獲得している。

国際学会や国内学会への参加と、発表も積極的に行われ成果を上げている。平成18年5月からは、教室の八木が(社)日本耳鼻咽喉科学会の理事長となり、平成20年5月までの任期で本邦の耳鼻咽喉科の蛇取り役を委嘱された。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Fukumoto A, Nonaka M, Ogihara N, Pawankar R : Induction of TARC production by lipopolysaccharide and interleukin-4 in nasal fibroblasts. *Int Arch Allergy Immunol* 2008 ; 145 (4) : 291-297.
- 2) Nonaka M, Pawankar R, Fukumoto A, Yagi T : Heterogeneous response of nasal and lung fibroblasts to TGF- $\beta$  1. *Clin Exp Allergy* 2008 ; 38 (5) : 812-821.
- 3) Nonaka M, Ogihara N, Fukumoto A, Sakanushi A, Pawankar R, Yagi T : Combined stimulation of nasal polyp fibroblasts with poly IC, interleukin 4, and tumor necrosis factor alpha potently induces production of thymus- and activation-regulated chemokine. *Arch Otolaryngol Head Neck Surg* 2008 ; 134 (6) : 630-635.
- 4) Shindo S, Ikezono T, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Sekiguchi S<sup>2)</sup>, Mizuta K<sup>3)</sup>, Li L, Takumida M<sup>4)</sup>, Pawankar R, Yagi T ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School, , <sup>2)</sup> R&D and Business Development Segment, Mitsubishi Chemical Medience Corporation, <sup>3)</sup> Department of Otorhinolaryngology, Hamamatsu University School of Medicine, <sup>4)</sup> Department of Otorhinolaryngology, University of Hiroshima) : Spatiotemporal expression of cochlin in the inner ear of rats during postnatal development. *Neuroscience letters* 2008 ; 444 (2) : 148-152.
- 5) Okubo K, Gotoh M, Fujieda S<sup>1)</sup>, Okano M<sup>2)</sup>, Yoshida H<sup>3)</sup>, Morikawa H<sup>3)</sup>, Masuyama K<sup>4)</sup>, Okamoto Y<sup>5)</sup>, Kobayashi M<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Otorhinolaryngology, University of Fukui, <sup>2)</sup> Department of Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery, Graduate School of Medicine and Dentistry, Okayama University, <sup>3)</sup> Department of Otorhinolaryngology and Bronchoesophagology, Dokkyo University School of Medicine, Tochigi, <sup>4)</sup> Department of Otorhinolaryngology, Graduate School of Medical Engineering, University of Yamanashi, Yamanashi, <sup>5)</sup> Department of Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery, Graduate School of Medicine, Chiba University, Chiba, <sup>6)</sup> Department of Medical Information and Management Science, Nagoya University, Aichi, Japan. ) : A randomized double-blind comparative study of sublingual immunotherapy for cedar polli-

- nosis. *Allergol Int* 2008 ; 57 (3) : 265-275.
- 6) Okubo K, Baba K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Dokkyo Medical College) : Therapeutic effect of montelukast, a cysteinyl leukotriene receptor 1 antagonist, on Japanese patients with seasonal allergic rhinitis. *Allergol Int* 2008 ; 57 (3) : 247-255.
  - 7) Nonaka M, Ogihara N, Fukumoto A, Pawankar R, Yagi T : Toll-like receptor 2, 3, 4, 5 ligands and interleukin-4 synergistically induce TARC production in nasal polyp fibroblasts. *Auris Nasus Larynx* 2008 ; 35 (4) : 515-520.
  - 8) Sakashita M<sup>1, 2)</sup>, Yoshimoto K<sup>3)</sup>, Hirota T<sup>1)</sup>, Harada M<sup>1)</sup>, Okubo K, Osawa Y<sup>2)</sup>, Fujieda S<sup>2)</sup>, Nakamura S<sup>4)</sup>, Yasuda K<sup>3)</sup>, Nakanishi K<sup>3)</sup>, Tamari M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Riken Reserch Center, <sup>2)</sup> Fukui Univ, <sup>3)</sup> Hyogo Medical School, <sup>4)</sup> Tokyo Univ) : Association of serum IL-33 level and the IL-33 genetic variant with Japanese cedar pollinosis. *Clin Exp Allergy* 2008 ; 38 (10) : 1875-1881.
  - 9) Okano M<sup>1)</sup>, Otsuki N<sup>2)</sup>, Azuma M<sup>2)</sup>, Fujiwara T<sup>1)</sup>, Kariya S<sup>1)</sup>, Sugata Y<sup>1)</sup>, Higaki T<sup>1)</sup>, Kino K<sup>3)</sup>, Tanimoto Y<sup>1)</sup>, Okubo K, Nishizaki K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Okayama Univ, <sup>2)</sup> Tokyo Med Dent Univ, <sup>3)</sup> Meiji Health Science) : Allergen-specific immunotherapy alters the expression of BTLA, a co-inhibitory molecule, in allergic rhinitis. *Clin Exp Allergy* 2008 ; 38 (10) : 1891-1900.
  - 10) Sashihara T<sup>1)</sup>, Ikegami S<sup>1)</sup>, Sueki N<sup>1)</sup>, Yamaji T<sup>1)</sup>, Kino K<sup>1)</sup>, Taketomo N<sup>1)</sup>, Gotoh M, Okubo K (<sup>1)</sup> Food Science Institute, Division of Research and Development) : Oral administration of heat-killed *Lactobacillus gasseri* OLL2809 reduces cedar pollen antigen-induced peritoneal eosinophilia in Mice. *Allergol Int* 2008 ; 57 (4) : 397-403.
  - 11) Okubo K, Baba K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Dokkyo Medical College) : A double-blind non-inferiority clinical study of montelukast, acysteinyl leukotriene receptor antagonist, compared with Pranlukast in patients with seasonal allergic rhinitis. *Allergol Int* 2008 ; 57 (4) : 383-390.
  - 12) Shojyaku H<sup>1)</sup>, Watanabe Y<sup>1)</sup>, Yagi T, Takahashi M<sup>2)</sup>, Takeda T<sup>3)</sup>, Ikezono T, Ito J<sup>4)</sup>, Kubo T<sup>5)</sup>, Suzuki M<sup>6)</sup>, Takumida M<sup>7)</sup>, Takeda N<sup>8)</sup>, Furuya N<sup>9)</sup>, Yamashita H<sup>10)</sup> (<sup>1)</sup> University of Toyama, <sup>2)</sup> Yokohama Central Clinic, <sup>3)</sup> University of Kochi, <sup>4)</sup> University of Kyoto, <sup>5)</sup> University of Osaka, <sup>6)</sup> Tokyo Medical College, <sup>7)</sup> University of Hiroshima, <sup>8)</sup> University of Tokushima, <sup>9)</sup> University of Gunma, <sup>10)</sup> University of Yamaguchi) : Changes in the characteristics of definite Meniere' s disase over time in Japan : a long-term survey by the peripheral vestibular disorder research committee of Japan, formaly theMeniere' s disease research committee of Japan. *Acta Oto-laryngol* 2008 ; 129 : 155-160.
  - 13) Hashiguchi K<sup>1)</sup>, Tang H<sup>2)</sup>, Fujita T<sup>3)</sup>, Suematsu K<sup>4)</sup>, Tsubaki S<sup>5)</sup>, Nagakura H<sup>6)</sup>, Kitajima S<sup>7)</sup>, Gotoh M, Okubo K (<sup>1)</sup> Kitasato Institute Hospital, <sup>2)</sup> Research and Development Center, Shinryo Corporation, <sup>3)</sup> Engineering and Construction Division 1, Shinryo Corporation, <sup>4)</sup> Chamber Business Department, Tokyo Research Center of Clinical Pharmacology, Co., Ltd., <sup>5)</sup> Samoncho Clinic, <sup>6)</sup> Nagakura Allergy Clinic, <sup>7)</sup> Kitajima Otolaryngology Clinic, and Departments of Otolaryngology) : Validation study of the OHIO chamber in patients with Japanese Cedar pollinosis. *Int Arch Allergy Immunol* 2009 ; 149 : 141-149.
  - 14) Okubo K, Nakashima M<sup>1)</sup>, Miyake N<sup>2)</sup>, Komatsubara M<sup>2)</sup>, Okuda M (<sup>1)</sup> Hamamatsu Pharmacology and Therapeutics, <sup>2)</sup> GSK) : Comparison of fluticasone furoate and fluticasone propionate for the treatment of Japanese cedar pollinosis. *Allergy Asthma Proc* 2009 ; 30 (1) : 84-94.
  - 15) Shojaku H<sup>1)</sup>, Watanabe Y<sup>1)</sup>, Yagi T, Takahashi M<sup>2)</sup>, Takeda T<sup>3)</sup>, Ikezono T, Ito J<sup>4)</sup>, Kubo T<sup>5)</sup>, Suzuki M<sup>6)</sup>, Takumida M<sup>7)</sup>, Takeda N<sup>8)</sup>, Furuya N<sup>9)</sup>, Yamashita H<sup>10)</sup> (<sup>1)</sup> Departments of Otolaryngology, University of Toyama, <sup>2)</sup> Yokohama Central Clinic, <sup>3)</sup> University of Kochi, <sup>4)</sup> University of Kyoto, <sup>5)</sup> University of Osaka, <sup>6)</sup> Tokyo Medical University, <sup>7)</sup> University of Hiroshima, <sup>8)</sup> University of Tokushima, <sup>9)</sup> Univer-

- sity of Gunma, <sup>10</sup> University of Yamaguchi) : Changes in the characteristics of definite Meniere' s disease over time in Japan : a long-term survey by the Peripheral Vestibular Disorder Research Committee of Japan, formerly the Meniere' s Disease Research Committee of Japan. *Acta Otolaryngol* 2009 ; 129 (2) : 155-160.
- 16) Shah N<sup>1</sup>, Pawankar R ( <sup>1</sup> JJ Clinic, India) : Chronic rhinosinusitis in asthmatics and non-asthmatics- A comparison of clinical an inflammatory parameters. *J Practical Rhinology* 2009 ; 2 (1) : 10-19.
- 17) Hashiguchi K<sup>1</sup>, Tang H<sup>2</sup>, Fujita T<sup>3</sup>, Suematsu K<sup>4</sup>, Gotoh M, Okubo K ( <sup>1</sup> Kitasato Institute Hospital, <sup>2</sup> Research and Development Center, Shinryo Corporation, <sup>3</sup> Engineering and Construction Division I, Shinryo Corporation, <sup>4</sup> Chamber Business Department, Tokyo Research Center of Clinical Pharmacology, Co. , Ltd. ) : Bepotastine besilate OD tablets suppress nasal symptoms caused by Japanese cedar pollen exposure in an artificial exposure chamber (OHIO Chamber). *Expert Opin Pharmacother* 2009 ; 10 (4) : 523-529.
- 18) Ogino S<sup>1</sup>, Nagakura T<sup>2</sup>, Okubo K, Sato N<sup>3</sup>, Takahashi M<sup>3</sup>, Ishikawa T<sup>4</sup> ( <sup>1</sup> Osaka Univ, <sup>2</sup> Yoga Allergy Clinic, <sup>3</sup> Novartis, <sup>4</sup> Kumamoto Univ) : Re-Treatment with Omalizumab at One Year Interval for Japanese Cedar Pollen-Induced Seasonal Allergic Rhinitis Is Effective and Well Tolerated. *Int Arch Allergy Immunol* 2009 ; 149 (3) : 239-245.
- 19) Sasaki K<sup>1</sup>, Okamoto Y<sup>1</sup>, Yonekura S<sup>1</sup>, Okawa T<sup>1</sup>, Horiguchi S<sup>1</sup>, Chazono H<sup>1</sup>, Hisamitsu M<sup>1</sup>, Sakurai D<sup>1</sup>, Hanazawa T<sup>1</sup>, Okubo K ( <sup>1</sup> Chiba Univ) : Cedar and cypress pollinosis and allergic rhinitis : Quality of life effects of early intervention with leukotriene receptor antagonists. *Int Arch Allergy Immunol* 2009 ; 149 (3) : 350-359.
- 20) 中溝宗永, 横島一彦, 稲井俊太, 酒主敦子, 八木聰明 : 下咽頭・頸部食道癌における非定形的遊離空腸再建の信頼性: 縫合不全の検討. *頭頸部外科* 2008 ; 18 (1) : 39-43.
- 21) 後藤 穰 : アレルギー実践講座 鼻粘膜誘発テストの実際と問題点. *アレルギー* 2008 ; 57 (7) : 824-827.
- 22) 三枝英人<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 日本医科大学耳鼻咽喉科学) : 喉頭乳頭腫の治療戦略. *JOHNS* 2008 ; 24 (7) : 1051-1055.
- 23) 山口 智<sup>1</sup>, 三枝英人<sup>1</sup>, 愛野威一郎<sup>1</sup>, 中村 毅<sup>1</sup>, 小町太郎<sup>1</sup>, 松岡智治<sup>1</sup>, 角田晃一<sup>2</sup>, 横山宗伯<sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 日本医科大学耳鼻咽喉科学教室, <sup>2</sup> 独立行政法人国立病院機構東京医療センター人工臓器機器開発研究部, <sup>3</sup> 日本医科大学付属病院病理部) : 喉頭に発生した異所性唾液腺の1例. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科* 2008 ; 80 (8) : 553-556.
- 24) 三枝英人<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 日本医科大学耳鼻咽喉科学) : 痙攣性発声障害と音声振戦症 : その発症に関する神経学的背景について. *ENTONI* 2008 ; 91 : 42-48.
- 25) 小津千佳, 横島一彦, 稲井俊太, 酒主敦子, 中溝宗永 : Maxillary swing approachにより摘出した上咽頭粘表皮癌の1例. *耳喉頭頸* 2008 ; 80 (12) : 879-883.
- 26) 湯田厚司<sup>1</sup>, 大久保公裕, 服部玲子<sup>1</sup>, 押 正徳<sup>1</sup>, 清水 優<sup>1</sup>, 間島雄一<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 三重大) : 科におけるスギ花粉症に対する舌下免疫療法の現状と2年間の治療成績. *耳鼻免疫アレルギー* 2008 ; 26 (4) : 285-289.
- 27) 三枝英人<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 日本医科大学耳鼻咽喉科学) : 「吃音の治癒 - 原因と治療法 -」を読んで. *音声言語医学* 2009 ; 50 (1) : 26-27.
- 28) 指原紀宏<sup>1</sup>, 後藤 穰, 池上秀二<sup>1</sup>, 紀 光助<sup>1</sup>, 折居直樹<sup>1</sup>, 大久保公裕 ( <sup>1</sup> 明治乳業研究本部食機能科学研究所) : 乳酸菌, *Lactobacillus gasseri* OLL2809のスギ花粉症改善効果. *アレルギーの臨床* 2009 ; 29 (2) : 155-159.
- 29) 菅原一真<sup>1</sup>, 御厨剛史<sup>1</sup>, 橋本 誠<sup>1</sup>, 大久保公裕, 山下裕司<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 山口大) : プランルカスト水和物追加投与の花粉症に対する短期QOL改善効果. *アレルギー・免疫* 2009 ; 16 (2) : 92-98.
- 30) 湯田厚司<sup>1</sup>, 宮本由起子<sup>1</sup>, 萩原仁美<sup>1</sup>, 服部玲子<sup>1</sup>, 大久保公裕 ( <sup>1</sup> 三重大) : 小児スギ花粉症に対する抗原特異的舌下免疫療法. *アレルギー* 2009 ; 58 (2) : 124-132.
- 31) 三枝英人<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 日本医科大学耳鼻咽喉科学教室) : 胃食道逆流による咽喉頭所見と症状. *日本重症心身障害学会*

誌 2009 ; 34 (1) : 37-46.

(2) 総説 :

- 1) Bousquet J, Khaltaev N, Cruz A, Denburg J, Fokkens W, Togias A, Baena-Cagnani EC, Canonica WG, Pawankar R <sup>(1)</sup> Resp Dept. Montpellier INSERM, <sup>(2)</sup> WHO, <sup>(3)</sup> WHO, <sup>(4)</sup> AllergEN, <sup>(5)</sup> Dept. ORL, Amsterdam University, Netherland, <sup>(6)</sup> NIH, <sup>(7)</sup> Resp Dept. Cordobs University, Argentina, <sup>(8)</sup> Allergy and Resp Dept. Genoa Univ, Italy) : Allergic Rhinitis and its Impact on Asthma (ARIA) 2008 update (in collaboration with the World Health Organization, GA (2) LEN and AllerGen). Allergy 2008 ; 86 : 8-160.
- 2) Hashiguchi K<sup>1)</sup>, Tang H<sup>2)</sup>, Fujita T<sup>3)</sup>, Suematsu K<sup>2)</sup>, Tsubaki S<sup>2)</sup>, Nagakura H<sup>4)</sup>, Kitajima S<sup>5)</sup>, Gotoh M, Okubo K <sup>(1)</sup> Kitasato Reserch Hospital, <sup>(2)</sup> Shinryou-Reinetsu, <sup>(3)</sup> Samontyo Clinic, <sup>(4)</sup> Nagakura ENT, <sup>(5)</sup> Kitajima ENT) : Pilot study of Japanese cedar pollen exposure using a nobel artificial exposure chamber (OHIO chamber). Clin Exp Allergy Rev 2008 ; 8 (suppl) : 30-36.
- 3) Wallace D<sup>1)</sup>, Dykewicz M<sup>1)</sup>, Bernstein D<sup>1)</sup>, Cox L<sup>1)</sup>, Niklas R<sup>1)</sup>, Oppenheimer J<sup>1)</sup>, Portnoy J<sup>1)</sup>, Spector S<sup>1)</sup>, Pawankar R<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Joint Task Force on Practice ; American Academy of Allergy ; Asthma & Immunology ; American College of Allergy ; Asthma and Immunology. ) : The diagnosis and management of rhinitis : an updated practice parameter. J Allergy Clin Immunol 2008 ; 122 (2) : 1-84.
- 4) Okubo K, Nagakura T<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Yoga Allergy Clinic) : Anti-IgE antibody therapy for Japanese cedar pollinosis. Allergol Int 2008 ; 57 (3) : 205-209.
- 5) Passalacqua G<sup>1)</sup>, Pawankar R, Baena-Cagnani EC<sup>2)</sup>, Canonica WG<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Allergy and Respiratory Dept. University of Genoa, <sup>(2)</sup> Resp Dept. Cordoba University) : Sublingual immunotherapy : where do we stand? Present and future Passalacqua G, Pawankar R, Baena-Cagnani CE, Canonica GW. Curr Opin Allergy Clin Immunol 2009 ; 9 (1) : 1-3.
- 6) Pawankar R : Immune mechanisms linking allergic rhinitis and asthma. Croat ORL Proceedings 2009 ; 10 (2) : 10-14.
- 7) Pawankar R : Regulatory T cels in allergic airway disease. Inflammation Allergy Infaction 2009 ; 2 (1) : 19-28.
- 8) Pawankar R : Local IgE synthess in allergic rhinitis and rhinosinusitis. Inflammation Allergy Infection 2009 ; 2 (1) : 32-42.
- 9) Pawankar R, Zernotti EM<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Dept. ORL, Cordoba University, Argentina) : Rhinosinusitis in children and asthma severity. Curr Opin Allergy Clin Immunol 2009 ; 9 (2) : 151-153.
- 10) 藤倉輝道 : 耳介周囲の粉瘤手術. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 (耳喉頭頸) 80 (5) : 11-18, 2008 2008 ; 80 (5) : 11-18.
- 11) 大西正樹 : 国民病, スギ花粉症で思うこと. Q & Aでわかるアレルギー疾患 2008 ; 4 (5) : 519-521.
- 12) 大久保公裕 : 医科からみた上顎洞. 日歯先技研会誌 2008 ; 14 (3) : 139-141.
- 13) 大久保公裕 : 満足度を高める抗ヒスタミン薬処方. アレルギーの臨床 2008 ; 28 (6) : 465-471.
- 14) 藤倉輝道 : 症例で学ぶ鼻科診療の実際 : 鼻腔良性疾患における内視鏡の有用性. 鼻アレルギーフロンティア 2008 ; 8 (3) : 41-44.
- 15) 池園哲郎 : 診断におけるコクリンの意義と検査精度・診断精度. ENTONI 2008 ; 94 : 51-56.
- 16) 池園哲郎 : 専門講座 外リンパ瘻 (解説). 日本耳鼻咽喉科学会会報 2008 ; 111 (10) : 676-679.
- 17) 大久保公裕 : スギ花粉症に対する新規アプローチ. アレルギーの臨床 2008 ; 28 (10) : 833-839.
- 18) 大西正樹 : 一般開業医における抗原特異的免疫療法の実際. 鼻アレルギーフロンティア, メディカルレビュー社 2008 ; 8 (3) : 46-49.
- 19) 後藤 穰 : アレルギー相談室 Q&A 重症アレルギー性鼻炎に対する点鼻ステロイドの倍量投与の意義は?. ア

レルギーの臨床 2008 ; 28 (12) : 1076-1076.

- 20) 小泉康雄, 八木聡明: 眼振の記録 1) 赤外線 CCD カメラによる記録と分析. 臨床検査 2008 ; 52 (12) : 1431-1436.
- 21) 大久保公裕: 代替療法プロバイオティクス. アレルギー 2008 ; 37 : 24-26.
- 22) 大久保公裕: 喘息とアレルギー性鼻炎における新治療: 抗ロイコトリエン薬 (LTRA) モンテルカスト. 呼吸 2008 ; 27 (11) : 1070-1074.
- 23) 藤倉輝道: アレルギーの病気で気になること: 鼻アレルギー診療での病診連携とは?. Q&Aでわかるアレルギー疾患 2008 ; 4 (6) : 551-552.
- 24) 藤倉輝道: 全身性疾患としての花粉症: 花粉症と通年性アレルギー性鼻炎の合併. アレルギー・免疫 2009 ; 16 (2) : 166-172.
- 25) 後藤 穰: アレルギー性鼻炎としての花粉症. アレルギー・免疫 2009 ; 16 (2) : 154-160.
- 26) 後藤 穰, 大久保公裕: スギ花粉症に対する舌下免疫療法. 臨床免疫・アレルギー科 2009 ; 51 (1) : 37-43.
- 27) 後藤 穰: スギ花粉抗原とヒノキ花粉抗原の関連性. アレルギーの臨床 2009 ; 29 (2) : 109-112.
- 28) 野中 学: 鼻症状を主訴とする疾患 アレルギー性鼻炎 (診断 治療 喘息). 耳喉頭頸 2009 ; 81 (2) : 147-153.
- 29) 大久保公裕: スギ花粉症に対する舌下免疫療法. 日医大医会誌 2009 ; 5 (1) : 61-62.
- 30) 大久保公裕: 特異的免疫療法を普及させるために. Progress in Medicine 2009 ; 29 (2) : 327-330.
- 31) 後藤 穰: ペプチド免疫療法とその展望について教えてください (Q&A/特集). JOHNS 2009 ; 25 (3) : 483-486.
- 32) 大久保公裕: 舌下免疫療法とその展望について教えてください. JONES 2009 ; 25 (3) : 475-477.
- 33) 大西正樹: 児童生徒の生活習慣改善健康教育マニュアル 担当 アレルギー性鼻炎. 東京都医師会学校医委員会 2009 ; 3 : 112-119.

### (3) 症例報告:

- 1) 横島一彦, 山口 智, 滝沢竜太, 杉崎一樹, 稲井俊太, 酒主敦子, 中溝宗永, 八木聡明: 口蓋垂裏面に生じた扁平上皮癌の1例. 耳喉頭頸 2008 ; 80 (12) : 828-830.
- 2) 中溝宗永, 横島一彦, 稲井俊太, 酒主敦子, 川本雅司<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学附属病院 病理部): 舌癌切除後の再建皮弁に生じた尋常性疣贅の1例. 耳喉頭頸 2008 ; 80 (13) : 902-903.
- 3) 小町太郎<sup>1)</sup>, 後藤 穰<sup>1)</sup>, 馬場俊吉<sup>1)</sup>, 八木聡明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科学): 両側視力障害をきたした蝶形骨洞嚢胞の1例. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2009 ; 81 (1) : 6-8.

### 著 書

- 1) Pawankar R : [分担] Improving compliance and patient perspectives in allergic rhinitis and asthma. Allergy Update proceedings (D. Ghosh), 2008 ; pp1-6, Int Med.
- 2) 野中 学: [監修] 後鼻漏. 朝日新聞13版, 2008 ; pp30-30, 朝日新聞社.
- 3) 大久保公裕: [自著] やさしいアレルギー性鼻炎の自己管理. やさしいアレルギー性鼻炎の自己管理 (大久保公裕), 2008 ; pp1-43, 医薬ジャーナル社.
- 4) Pawankar R : [分担] Allergic rhinitis - Update on pathomechanisms to treatment. Monograph on Allergy (Bhagat G), 2009 ; pp28-39, Kothari Pub.
- 5) 大久保公裕: [分担] 第4章. 学童期. 花粉症. 小児科臨床ピクシス5年代別アレルギー疾患への対応 (海老澤元宏), 2009 ; pp168-170, 中山書店.
- 6) Pawankar R : [分担] Versatile role of mast cells in innate and adaptive immunity. Allergy Proceedings (R. Ganguly), 2009 ; pp33-42, Creative Int.



- 7) 馬場俊吉：〔自著〕CHART2 耳鼻咽喉科 第3版，2009；医学評論社。
- 8) 馬場俊吉：〔共著〕耳鼻・咽喉・口腔系. CBT こあかり オリエンテーション 第3版（庄司進一，松田重三），2009；pp302-312，医学評論社。
- 9) Pawankar R：〔分担〕Inflammatory mechanisms and remodelling in allergic rhinitis and asthma. Allergy Update (S. Mehta and R. Shah)，2009；pp20-28，Int Medical Pub.
- 10) Pawankar R：〔分担〕Allergic rhinitis and its link to Rhinosinusitis, asthma and OME. Allergy Symposium Proceedings (Bhagat R)，2009；pp6-14，Creative Int.
- 11) Marshall J, Brown GM<sup>1)</sup>, Pawankar R<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Dalhousie University, Canada)：〔分担〕Mast Cell and Basophils：Interaction with IgE and Responses to Toll like Receptor Activators. Allergy Frontiers- Classification and Pathomechanisms (R. Pawankar, S. Holgate, L. Rosenwasser)，2009；pp113-134，Springer.
- 12) Watelet J, McGill IJ<sup>2)</sup>, Pawankar R, Church SD<sup>2)</sup>, Church KM<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> Upper Resp Disease Centre, Ghent University, <sup>2)</sup> Southampton Univ)：〔分担〕Allergic Rhinitis and Conjunctivitis：Update on Pathophysiology. Allergy Frontiers- Clinical Manifestations (R. Pawankar, S. Holgate, L. Rosenwasser)，2009；pp1-24，Springer.
- 13) Pawankar R, Takizawa R：〔分担〕Epithelial cells as immune-regulators in allergic airway disease. Current Concepts in Allergy (K. Shah and R. Joshi)，2009；pp28-42，Int Med.
- 14) 馬場俊吉：〔分担〕第102回 医師国家試験問題解説書，2008；医学評論社。
- 15) 中溝宗永：〔分担〕食道異物，食道外傷. 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 第3版（岸本誠司，小林俊光，森山 寛），2008；pp404-406，医学書院。
- 16) 春名真一<sup>1)</sup>，中溝宗永，須納瀬弘<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 独協医科大学 耳鼻咽喉科学教室，<sup>2)</sup> 東京女子医科大学 耳鼻咽喉科学教室)：〔編集協力〕今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 第3版（森山 寛，岸本誠司，小林俊光，川内秀之），2008；医学書院。
- 17) 野中 学：〔自著〕鼻茸. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針第3版（森山 寛，岸本誠司，小林俊光，川内秀之），2008；pp241-242，医学書院。
- 18) 馬場俊吉：〔共著〕老人性難聴. 今日の耳鼻咽喉科頭頸部外科治療指針 第3版（森山 寛，岸本誠治，小林俊光，川内秀之），2008；pp211-212，医学書院。
- 19) 馬場俊吉：〔自著〕医師国家試験解説 アプローチ' 0912 耳鼻咽喉科（馬場俊吉），2008；医学評論社。
- 20) 馬場俊吉：〔分担〕耳鼻・咽喉・口腔系. 5 CBT こあかり リ・コ2009 五肢択一形式編（「CBT こあかり リ・コ」編集委員会），2008；pp389-404，医学評論社。
- 21) 馬場俊吉：〔分担〕耳鼻・咽喉・口腔系. 6 CBT こあかり リ・コ2009 連問形式編（「CBT こあかり リ・コ2009」編集委員会），2008；医学評論社。
- 22) 藤倉輝道：〔分担〕耳鼻咽喉科疾患：アデノイド，扁桃肥大. 今日の治療指針2009（山口 徹，北原光夫，福井次矢），2009；pp1101-1102，医学書院。

#### 学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 櫻井 努<sup>1)</sup>，工藤 毅<sup>1)</sup>，二宮 洋<sup>1)</sup>，古屋信彦<sup>1)</sup>，池園哲郎，新藤 晋 <sup>(1)</sup> 群馬大学耳鼻咽喉科)：長期にわたり聴力保存された外リンパ瘦症例. 日本耳鼻咽喉科学会総会（第108回），2007. 4.

(1) 特別講演：

- 1) Pawankar R：Managing chronic allergic airways disease：what do the guidelines say. Annual Congress of

- BANSAI (Dhaka, Bangladesh), 2008. 4.
- 2) Pawankar R : Immunomodulators for allergic disease. Annual Congress of BANSAI (Dhaka, Bangladesh), 2008. 4.
  - 3) Pawankar R : Current concepts in managing Allergic rhinitis and asthma : ARIA and GINA guidelines. Pakistan Allergy Symposium (Karachi, Pakistan), 2008. 4.
  - 4) Pawankar R : How to improve patient compliance in managing allergic rhinitis and its comorbidities. Pakistan Allergy Symposium (Karachi, Pakistan), 2008. 4.
  - 5) Pawankar R : Allergy an epidemic of the 21st century : Asian perspective. AANMA Meeting (Washington DC, USA), 2008. 5.
  - 6) Pawankar R : Patient education in rhinitis and asthma. AANMA Meeting (Washington DC, USA), 2008. 5.
  - 7) Pawankar R, Ozu C, Mori S, Nonaka M : Eosinophilic airways disease : current concepts. 6th International Allergy Symposium (Cordoba, Argentina), 2008. 8.
  - 8) Pawankar R : Anaphylaxis- Causes to treatment. Indian College of Allergy and Applied Immunology Congress ICAAICON 2008 (Ahmedabad, India), 2008. 12.
  - 9) Pawankar R : Immunotherapy : SCIT to SLIT- where do we stand?. Indian College of Allergy and Applied Immunology Congress ICAAICON 2008 (Ahmedabad, India), 2008. 12.
  - 10) Pawankar R : Evidence-based management of persistent allergic rhinitis and the XPERT study. Sharjah, UAE (Sharjah Medical Symposium), 2008. 12.
  - 11) Pawankar R : The new ARIA classification and managing persistent rhinitis . Kuwait Allergy Symposium, 2008. 12.
  - 12) Pawankar R : Advances in allergy and asthma. Allergy Immunology Update 2008 (New Delhi, India), 2008. 12.
  - 13) Pawankar R : RSV, allergy. asthma- the connection. Allergy Immunology Update (New Delhi, India), 2008. 12.
  - 14) Pawankar R : Current treatments of allergic rhinitis with co-morbid asthma and the ARIA update. 10th Congress of the Malaysian Society of Allergy and Immunology (Kuala Lumpur), 2009. 2.
  - 15) Pawankar R : Novel intranasal steroids in the management of allergic rhinitis and conjunctivitis. 10th Congress of the Malaysian Society of Allergy and Immunology (Kuala Lumpur), 2009. 2.
  - 16) Pawankar R : Immunotherapy- where do we stand. 7th International Congress of the Egyptian Society of Pediatric Allergy and Immunology- ESPAI 2009 (Cairo, Egypt), 2009. 2.
  - 17) Pawankar R : Current concepts in managing AR with co-morbid asthma and the ARIA update 2008 with highlighting the XPERT study. Lebanon Allergy symposium (Beirut, Lebanon), 2009. 2.
  - 18) Pawankar R : Managing AR with co-morbid asthma -the ARIA update 2008 and the XPERT study. Jordan Allergy Symposium (Amman, Jordan), 2009. 2.
  - 19) Pawankar R : The New ARIA classification for Allergic Rhinitis : Why the change and how do we use them. First Allergy-Rhinology Workshop (Beirut, Lebanon), 2009. 2.
  - 20) Pawankar R : Current Concepts on the role of Allergy in Nasal Polyposis & Chronic Sinusitis. First Allergy Rhinology Symposium (Beirut, Lebanon), 2009. 2.
  - 21) Pawankar R : Allergy Worldwide : The Asian Scenario and Perspective. First Middle East Asia Allergy Asthma Immunology Congress (Dubai, UAE), 2009. 3.
  - 22) 三枝英人<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科学) : こどもの成長と胃食道逆流 : 成長と生命の形態学から考える. 第70回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 2008. 6.
  - 23) 三枝英人<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科学) : 声帯に異常所見の無い発声障害. 第16回耳鼻咽喉科臨床懇話会, 2008. 7.

- 24) 池園哲郎：外リンパ瘻アップデート 診断から治療まで. 東上耳鼻咽喉科臨床研究会 (第26回), 2008. 8.
  - 25) 後藤 稷：鼻アレルギー治療における抗ロイコトリエン薬の位置づけ. 第3回日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会川崎医学会学術集会, 2008. 10.
  - 26) 後藤 稷：鼻アレルギー治療における第二世代抗ヒスタミン薬の位置づけ. 東京都耳鼻咽喉科医学会学術講演会, 2008. 11.
  - 27) 後藤 稷：花粉症治療の最近の話題. 第32回岡山耳鼻咽喉科フォーラム, 2008. 11.
  - 28) 野中 学：好酸球性副鼻腔炎の病態と治療. 蕨・戸田市医師会学術講演会, 2008. 11.
  - 29) 藤倉輝道：アレルギー性鼻炎治療薬の実践的使用法. 竜ヶ崎市・牛久市医師会学術講演会, 2008. 12.
  - 30) 池園哲郎：生化学的検査がもたらす難聴の診断・治療の新展開. SENT会 (静岡県耳鼻咽喉科研究会) (第41回), 2009. 2.
  - 31) 池園哲郎：めまい・難聴診断のバイオマーカー CTP (コクリン・トモ蛋白) の有用性. 神奈川めまいフォーラム (第10回), 2009. 2.
  - 32) 後藤 稷：花粉症における最新の治療. 長崎アレルギー講習会, 2009. 3.
  - 33) 八木聡明：眼球運動の3次元解析. 信越耳鼻咽喉科セミナー (第5回), 2009. 3.
  - 34) 藤倉輝道：これからの耳鼻咽喉科医にもとめられるアレルギー性鼻炎, 花粉症診療の実際. 川崎市耳鼻咽喉科医学会, 2009. 3.
  - 35) 野中 学：喘息と慢性副鼻腔炎. 新潟地区耳鼻科医学会, 2009. 3.
- (2) 招待講演：
- 1) Pawankar R：Rhinitis and Otitis Media with Effusion：Is there a Connection?. 27th Congress of the European Academy of Allergy and Clinical Immunology (Barcelona, Spain), 2008. 6.
  - 2) Yagi T：Pathological localization of labyrinthine disorders：From the view point of 3D analysis of nystagmus. Annual Congress of Taiwan Otorhinolaryngological Society (The 85th) (Taipei, Taiwan), 2008. 11.
  - 3) 野中 学：好酸球性鼻炎の薬物治療. 第4回群馬気道疾患研究会, 2008. 10.
- (3) 教育講演：
- 1) Pawankar R：Management of Anaphylaxis and How to Use Epinephrine. First Middle East Asia Allergy Asthma Immunology Congress- WAO Allergy Training School (WATS) (Dubai, UAE), 2009. 3.
  - 2) 馬場俊吉：めまいの診断. 我孫子市医師会学術講演会 (柏市), 2008. 4.
  - 3) 馬場俊吉：めまいの診断と治療. 山武郡医師会学術講演会 (東金市), 2008. 10.
  - 4) 三枝英人<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科学)：臨床家のための発話の解剖学再入門. 第53回日本音声言語医学会総会・学術講演会ポストコンGRESSセミナー, 2008. 10.
  - 5) 小町太郎<sup>1)</sup>, 三枝英人<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 耳鼻咽喉科, 2) 日本医科大学附属病院 耳鼻咽喉科)：嚥下の基礎：嚥下に関する器官の形態と働き. 関東嚥下訓練技術者講習会 (第12回), 2008. 10.
  - 6) 大久保公裕：アレルギー疾患に対する免疫療法の現状と展望. 第58回日本アレルギー学会, 2008. 11.
  - 7) 野中 学：好酸球性副鼻腔炎の病態に基づいた薬物治療. 埼玉県アレルギー性鼻炎診療Strategy, 2009. 2.
  - 8) 三枝英人<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科学)：解剖・系統発生：発声・発語器官, 嚥下関連器官の形態と発生学的背景. 平成20年度音声言語機能等判定医師講習会, 2009. 2.
  - 9) 三枝英人<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科学)：嚥下障害の発症と対応を考える. 第5回音声・呼吸・嚥下の会, 2009. 2.
  - 10) 野中 学：気管支喘息と慢性副鼻腔炎. 第6回西関東アレルギーカンファレンス, 2009. 3.
- (4) シンポジウム：
- 1) Pawankar R：Gamma-delta T cells and epithelial cell interactions in allergic airway disease. 1st Asthma and COPD Congress (Dubai, UAE), 2008. 4.

- 2) Pawankar R : Are allergic rhinitis and asthma part of the same disease- the ARIA Update. 1st Asthma and COPD Congress (Dubai, UAE), 2008. 4.
- 3) Iino Y<sup>1)</sup>, Matsubara A<sup>2)</sup>, Matsutani S<sup>3)</sup>, Nonaka M ( <sup>1)</sup> Dept. of Otolaryngology, Jichi Medical University Saitama Medical Center, <sup>2)</sup> Dept of Otolaryngology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, <sup>3)</sup> Dept of Otolaryngology, Sendai Red Cross Hospital, <sup>4)</sup> Dept of Otolaryngology, Fukuoka University School of Medicine) : Clinical characteristics of eosinophilic otitis media. 8th International Conference on cholesteatoma & ear surgery (Antalya, Turkey), 2008. 6.
- 4) Pawankar R : The Nose and the Allergic Child-Pathophysiology of the allergic reaction in the nose. 27th Congress of the European Academy of Allergy and Clinical Immunology (Barcelona, Spain), 2008. 6.
- 5) Pawankar R : 3rd Latin American Conference on Allergy and Immunology in Pediatrics. Module "Upper airway 2008- Therapeutic aspects (Buenos Aires, Argentina), 2008. 8.
- 6) Pawankar R, Nonaka M, Ozu C, Mori S : Upper airways remodelling. More evidences. XXXII Annual Congress of the AAAeIC in collaboration with the Regional Chapter of INTERASMA. (Buenos Aires, Argentina), 2008. 8.
- 7) Okubo K, Gotoh M : Japanese cedar pollinosis and circumstances. Harmony with climate and pollinosis. 18th International Society of Biometeorology (Tokyo), 2008. 9.
- 8) Pawankar R : Leukotriene receptor antagonists (LTRAs) -an update in airway disease. Highlights in Allergy and Respiratory Diseases (Genoa, Italy), 2008. 10.
- 9) Yagi T : Diagnosis and treatment of perilymph fistula. -a new insight. Annual Congress of Taiwan Otorhinolaryngological Society. (Taipei, Taiwan), 2008. 11.
- 10) Pawankar R : Allergic Rhinitis and its Impact on Asthma 2008 Update. INTERASTHMA (Monte Carlo), 2008. 11.
- 11) Pawankar R, Nonaka M, Ozu C, Yagi T : Inflammatory Mechanisms and Remodelling in Nasal Polyposis and Chronic Rhinosinusitis. 13th Asian Research Symposium in Rhinology (Bangkok, Thailand), 2008. 11.
- 12) Pawankar R : Inflammatory Mechanisms and Current Trends of Treatment of Allergic Rhinitis-The ARIA update 2008. 13th Asian Research Symposium in Rhinology (Bangkok, Thailand), 2008. 11.
- 13) Pawankar R : Immune mechanisms linking allergic rhinitis and asthma and the ARIA update. Symposium on Experimental Rhinology, SERIN (Dubrovnik, Croatia), 2008. 11.
- 14) Pawankar R, Mori S, Ozu C, Nonaka M, Yagi T : Medical Management of Nasal Polyposis and CRS. 13th Asian Research Symposium in Rhinology (Bangkok, Thailand), 2008. 11.
- 15) Pawankar R : Immunotherapy -current and future perspectives. 10th Congress of the Malaysian Society of Allergy and Immunology, 2009. 2.
- 16) Pawankar R : Managing allergic rhinitis and co-morbid asthma- ARIA update 2008. 7th International Congress of the Egyptian Society of Pediatric Allergy and Immunology- ESPAI 2009 (Cairo, Egypt), 2009. 2.
- 17) Pawankar R, Nonaka M, Ozu C : Current concepts on Rhinosinusitis-Update in the management of Nasal Polyposis. First Middle East Asia Allergy Asthma Immunology Congress (Dubai, UAE), 2009. 3.
- 18) Pawankar R : IgE- IgE receptor- mast cell cascade in allergic inflammation. First Middle East-Asia Allergy Asthma Immunology Congress (Dubai, UAE), 2009. 3.
- 19) Pawankar R : United Airways Disease-From Concept to Reality. First Middle East Asia Allergy Asthma Immunology Congress (Dubai, UAE), 2009. 3.
- 20) 後藤 穰, 大久保公裕, 奥田 稔 : アレルギー性鼻炎の寛解と治癒. 第20回日本アレルギー学会春期臨床大会, 2008. 6.

- 21) 大久保公裕, 後藤 稔, 岡本美孝<sup>1)</sup>, 増山敬祐<sup>2)</sup>, 藤枝重治<sup>3)</sup>, 岡野光博<sup>4)</sup> (1) 千葉大, 2) 山梨大, 3) 福井大, 4) 岡山大): スギ花粉症に対する舌下免疫療法. 花粉症 最新のトピックス. 第20回春季アレルギー学会, 2008. 6.
  - 22) 大久保公裕: 花粉症の予防と治療について 国の花粉症対策. 日本花粉学会第49回大会, 2008. 9.
  - 23) 大久保公裕: 免疫療法の最前線 アレルギー性鼻炎治療の最前線: 現状と今後の展望. 第47回日本鼻科学会総会, 2008. 9.
  - 24) 久保伸夫, 野中 学: アレルギー性鼻炎: 治療. 第58回日本アレルギー学会秋季学術大会, 2008. 11.
  - 25) 大久保公裕, 後藤 稔: 望まれる花粉症の初期治療とは. 花粉症 - 理想的な治療: 抗ヒスタミン薬を含めた薬剤選択. 第58回日本アレルギー学会, 2008. 11.
  - 26) 大久保公裕, 後藤 稔: アレルギー性鼻炎 治癒への挑戦. アレルギー疾患: 治癒への挑戦. 第58回日本アレルギー学会, 2008. 11.
  - 27) 三枝英人<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科学): 音声障害の診断と治療. 4) 手術療法. 第22回日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会, 2008. 11.
  - 28) 大久保公裕: 小児耳鼻咽喉科領域におけるアレルギーの関与. アレルギー疾患総合診療を目指して: ピットフォールの回避. 第17回小児臨床薬理・アレルギー・免疫研究会, 2009. 1.
  - 29) 増山敬祐<sup>1)</sup>, Pawankar R (1) 山梨大学): 免疫療法はどこまで解明されたか. 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 (第27回), 2009. 2.
- (5) セミナー:
- 1) 大久保公裕: スギ花粉症患者において第2世代抗ヒスタミン薬はなぜ必要か?. 第27回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 2009. 2.
  - 2) 八木聰明: 眼球運動解析: ENGと3次元解析. 日本めまい平衡医学会 (第67回), 2008. 11.
  - 3) 後藤 稔: スギ・ヒノキ花粉症に対する治療の実際. 第72回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2009. 2.
- (6) ワークショップ:
- 1) Pawankar R: The Nose and the Ear-The middle ear in allergic children . 27th Congress of the European Academy of Allergy and Clinical Immunology (Barcelona, Spain), 2008. 6.
  - 2) Singh M<sup>1)</sup>, Pawankar R (1) Dept. Pediatrics, PGI Chandigarh, India): Birth cohort and risk factors of atopy. Indo-US Joint Expert panel workshop on CRD and environmental issues (Chandigarh, India), 2008. 7.
  - 3) Pawankar R: Burden of CRD and risk factors. Indo-US Joint Expert panel workshop on CRD and environmental issues (Chandigarh, India), 2008. 9.
  - 4) 野中 学: 線維芽細胞・筋線維芽細胞の機能解析について. 第58回日本アレルギー学会秋季学術大会, 2008. 11.
- (7) 一般講演:
- 1) Yokoshima K, Nakamizo M, Inai S, Sakanushi A, Saigusa H, Yagi T: Gloss-valleculo-epiglottectomy for advanced cancer of the tongue base. Japan-Korea Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery (12th) (Nara), 2008. 4.
  - 2) Koizumi Y, Sugizaki K, Yagi T: Is Caloric Nystagmus Governed by Listing' s Law?. the XXV B&aacute;acute; cute; rány Society Meeting (Kyoto, Japan), 2008. 4.
  - 3) Pawankar R, Ozu C, Takizawa R, Nonaka M, Mori S, Yagi T: RANTES induces mast cell migratio in the allergic nasal epithelium. Collegium International Allergologicum Congress (Curacao, NA), 2008. 5.
  - 4) Yokoshima K, Nakamizo M, Inai S, Sakanushi A, Yagi T: Time-course of intact PTH after the operation for advanced pharyngolaryngeal cancer. International Conference on Head and Neck Cancer (7th) (San Francisco), 2008. 7.
  - 5) Okubo K, Hashiguchi K<sup>1)</sup>, Gotoh M, Endo H<sup>2)</sup>, Suzuki H<sup>3)</sup>, Masuyama K<sup>2)</sup> (1) Kitasato Reserch Hospital,



- 2) Yamanashi Univ, 3) Dept of Pharmacology, NMS) : A double-blind cross-over controlled study of Pranlukast, a leukotriene receptor antagonist, against Japanese cedar pollinosis using the OHIO chamber. 7th symposium on experimental rhinology and immunology of the nose (Dubrovnik, Croatia), 2008. 11.
- 6) Soneja P, Singh IM, Pawankar IR (1) PGI Chandigarh, India) : A Prospective cohort study on bygiene hypothesis in a selected Indian population reveals positive family history as the dominant predictive factor. First Middle East Asia Allergy Asthma Immunology Congress (Dubai, UAE), 2009. 3.
- 7) Mori S, Pawankar R, Ozu C, Takizawa R, Nonaka M, Yagi T : Expression of MMP 2, 9 and 13 and TIMP 1 and 2 in the allergic nasal mucosa . First Middle East-Asia Allergy asthma Immunology Congress (Dubai, UAE), 2009. 3.
- 8) 森 幸子, パワンカールルビー, 小津千佳, 横山有希子, 滝沢竜太, 八木聰明 : MMP2, 9, 13 and TIMP in allergic rhinitis. The First Middle East-Asia Allergy Asthma Immunology Congress (ドバイ), 2009. 3.
- 9) 宮下元明<sup>1)</sup>, 櫻井 努<sup>1)</sup>, 古屋信彦<sup>1)</sup>, 池園哲郎 (1) 群馬大学耳鼻咽喉科) : 外リンパ瘦症例の検討. 日本耳科学会総会 (第18回), 2008. 10.
- 10) 池園哲郎, 新藤 晋, 関根久遠, 松田 帆, 八木聰明 : The clinical symptomatology of PLF and its Diversity. 日本耳科学会総会 (第18回), 2008. 10.
- 11) 中村 毅, 三枝英人, 山口 智, 小町太郎, 粉川隆行, 愛野威一郎, 松岡智治 : 両側声帯固定を合併した嚥下機能改善術後に対する喉頭機能改善について. 第29回東日本音声外科研究会, 2008. 4.
- 12) 池園哲郎, 新藤 晋, 関根久遠, 松田 帆, 八木聰明 : 難聴・めまいの原因診断と reporting standard (報告基準). 日本耳鼻咽喉科学会総会 (第109回), 2008. 5.
- 13) 稲井俊太, 中溝宗永, 横島一彦, 粉川隆行, 愛野威一郎<sup>0, 1)</sup>, 横山有希子, 小町太郎, 八木聰明 (1) あいの耳鼻咽喉科医院) : 頭頸部髄外性形質細胞腫の5例. 日本耳鼻咽喉科学会 (第109回), 2008. 5.
- 14) 酒主敦子, 野中 学, 福元 晃, 荻原 望, Pawankar R, 八木聰明 : 中耳線維芽細胞からの TARC 産生. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会, 2008. 5.
- 15) 米倉修二<sup>1)</sup>, 大川 徹<sup>1)</sup>, 堀口茂敏<sup>1)</sup>, 岡本美孝<sup>1)</sup>, 後藤 稔, 大久保公裕, 鈴木秀典<sup>2)</sup>, 角間辰之<sup>3)</sup>, 今野昭義<sup>3)</sup>, 奥田 稔 (1) 千葉大, 2) 日医大薬理, 3) 南東北病院) : スギ花粉症に対する初期療法の意義 : プランルカストを用いたランダム化比較試験による検討. 第109回日本耳鼻咽喉科学会, 2008. 5.
- 16) 横山有希子<sup>1)</sup>, 小町太郎<sup>1)</sup>, 井手路子<sup>1)</sup>, 中村 毅<sup>1)</sup>, 後藤 稔<sup>1)</sup>, 馬場俊吉<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院) : 当院での中耳手術の検討 : 慢性中耳炎の術後経過を中心に. 日本耳鼻咽喉科学会 千葉地方部会 (第73回), 2008. 6.
- 17) 湯田厚司<sup>1)</sup>, 藤枝重治<sup>2)</sup>, 増山敬祐<sup>3)</sup>, 盛川 宏<sup>4)</sup>, 服部玲子<sup>1)</sup>, 宮本由起子<sup>1)</sup>, 大久保公裕 (1) 3重大, 2) 福井大, 3) 山梨大, 4) 独協医大) : スギ花粉症舌下免疫療法による末梢血好塩基球ヒスタミン遊離率の変化. 第20回春季アレルギー学会, 2008. 6.
- 18) 指原紀宏<sup>1)</sup>, 池上秀二<sup>1)</sup>, 山地健人<sup>1)</sup>, 紀 光助<sup>1)</sup>, 末木奈津子<sup>1)</sup>, 折居直樹<sup>1)</sup>, 竹友直生<sup>1)</sup>, 後藤 稔, 大久保公裕 (1) 明治乳業ヘルスサイエンス) : 乳酸菌 *Lactobacillus gasseri* OLL2809 のスギ花粉症軽減効果. 第20回春季アレルギー学会, 2008. 6.
- 19) 後藤 稔, 大久保公裕, 奥田 稔 : プランルカストのスギ花粉症に対する初期療法薬としての2重盲検比較試験 : 単独効果を中心に. 第47回日本鼻科学会, 2008. 9.
- 20) 野中 学, 酒主敦子, 福元 晃, 荻原 望, 小津千佳, Pawankar R, 八木聰明 : 好酸性副鼻腔炎の抗ロイコトリエン薬とステロイド点鼻併用治療効果. 第47回日本鼻科学会総会, 2008. 9.
- 21) 福元 晃, 野中 学, 荻原 望, 酒主敦子, Pawankar R, 八木聰明 : 鼻茸線維芽細胞からの TSLP 産生とその制御. 第47回日本鼻科学会総会, 2008. 9.
- 22) 三枝英人<sup>1)</sup>, 山口 智<sup>1)</sup>, 中村 毅<sup>1)</sup>, 小町太郎<sup>1)</sup>, 桃井貴裕<sup>1)</sup>, 粉川隆行<sup>1)</sup>, 愛野威一郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学

- 耳鼻咽喉科学)：声門下狭窄術後に漢方製剤による偽アルドステロン症のために声門下浮腫を来した1例。第24回日本耳鼻咽喉科漢方研究会，2008. 9.
- 23) 杉崎一樹，池園哲郎，登坂亜希子，新藤 晋：BO症候群に人工内耳埋込み術を行い，gusherを認めた1症例。日本耳科学会総会（第18回），2008. 10.
- 24) 新藤 晋，池園哲郎，関根久遠，杉崎一樹，登坂亜希子，八木聰明：生後ラット内耳発達過程の外リンパにおけるcochlin発現の検討。日本耳科学会総会（第18回），2008. 10.
- 25) 松田 帆，池園哲郎，新藤 晋，関根久遠，八木聰明：CTP検査法で診断したいわゆる突発性外リンパ瘻症例。日本めまい平衡医学会総会（第67回），2008. 10.
- 26) 池園哲郎，新藤 晋，関口沙登美<sup>1)</sup>，関根久遠，松田 帆，八木聰明（<sup>1)</sup>三菱化学メディエンス）：迅速CTP検査法の開発 外リンパ瘻術前診断をめざして。日本めまい平衡医学会総会（第67回），2008. 10.
- 27) 三好正人<sup>1)</sup>，小川徹也<sup>1)</sup>，谷川 徹<sup>1)</sup>，稲福 繁<sup>1)</sup>，池園哲郎（<sup>1)</sup>愛知医大耳鼻咽喉科）：CTPが有力なマーカーになると考えられた特発性外リンパ瘻の1症例。日本耳科学会総会（第18回），2008. 10.
- 28) 杉崎一樹，小泉康雄，岩村美生，八木聰明：両眼同時記録によるOCRの3次元解析。日本めまい平衡医学会総会・学術講演会（第67回），2008. 10.
- 29) 小泉康雄，杉崎一樹，八木聰明：咳嗽時に眼振が誘発される上半規管裂隙症候群の1例。第67回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会，2008. 10.
- 30) 中村 毅，三枝英人，小町太郎，山口 智，粉川隆行，愛野威一郎，松岡智治：下顎骨の位置と咽頭期嚥下の機能的相関について。第53回日本音声言語医学会，2008. 10.
- 31) 富山俊一<sup>1)</sup>，荻原 望<sup>1)</sup>，斎藤明彦<sup>1)</sup>，小津千佳<sup>1)</sup>，野中 学<sup>1)</sup>，国友万由美<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院耳鼻咽喉科，<sup>2)</sup>大宮中央総合病院 耳鼻咽喉科）：内耳自己免疫病の治療経験。第18回日本耳科学会，2008. 10.
- 32) 三枝英人<sup>1)</sup>，中村 毅<sup>1)</sup>，小町太郎<sup>1)</sup>，山口 智<sup>1)</sup>，愛野威一郎<sup>1)</sup>，松岡智治<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学耳鼻咽喉科学）：下顎疾患と嚥下障害について。第53回日本音声言語医学会総会・学術講演会，2008. 10.
- 33) 横島一彦，中溝宗永，粉川隆行，稲井俊太，酒主敦子，三枝英人，宮下次廣<sup>1)</sup>，八木聰明（<sup>1)</sup>放射線科学）：喉頭癌を生じた女性症例の検討。日本気管食道科学会（第60回），2008. 11.
- 34) 後藤 穰，大久保公裕：抗ロイコトリエン薬によるスギ花粉症の初期療法。第62回臨床アレルギー研究会，2008. 11.
- 35) 西端慎一<sup>1)</sup>，村田篤司<sup>2)</sup>，井上 栄<sup>3)</sup>，大久保公裕，佐橋紀男<sup>4)</sup>，高橋 浩<sup>5)</sup>，広岡順子<sup>6)</sup>，星山佳治<sup>7)</sup>，村山貢司<sup>8)</sup>，日澤朗憲，横山敏孝<sup>9)</sup>，遠藤朝彦<sup>10)</sup>，雑賀寿和<sup>5)</sup>，斉藤洋三（<sup>1)</sup>西端耳鼻科，<sup>2)</sup>秋津療育園，<sup>3)</sup>大妻女子大，<sup>4)</sup>東邦大，<sup>5)</sup>日医大眼科，<sup>6)</sup>ヒロオカクリニック，<sup>7)</sup>人間総合科学大，<sup>8)</sup>気象業務支援センター，<sup>9)</sup>林業科学技術振興所，<sup>10)</sup>遠藤耳鼻科）：東京都のスギ花粉症有病率 - 平成18年度の患者実態調査結果と20年間の推移 - 。第58回日本アレルギー学会，2008. 11.
- 36) 高村悦子<sup>1)</sup>，海老原信行<sup>2)</sup>，岡本茂樹<sup>3)</sup>，福島敦樹<sup>4)</sup>，末松潔親<sup>5)</sup>，大久保公裕，橋口一弘<sup>6)</sup>（<sup>1)</sup>女子医大眼科，<sup>2)</sup>順天大眼科，<sup>3)</sup>福島眼科，<sup>4)</sup>高知大眼科，<sup>5)</sup>東京臨床薬理，<sup>6)</sup>北里研究所）：OHIO Chamberでのスギ花粉暴露による季節性アレルギー性結膜炎患者における眼症状発現に関する検討。第58回日本アレルギー学会，2008. 11.
- 37) 米倉修二<sup>1)</sup>，堀口茂俊<sup>1)</sup>，花澤豊行<sup>1)</sup>，岡本美孝<sup>1)</sup>，本田耕平<sup>2)</sup>，石川和夫<sup>2)</sup>，大久保公裕，松崎全成<sup>3)</sup>，増山敬祐<sup>3)</sup>，湯田厚司<sup>4)</sup>，間島雄一<sup>4)</sup>，岡野光博<sup>5)</sup>，松根彰志<sup>6)</sup>，黒野祐一<sup>6)</sup>（<sup>1)</sup>千葉大，<sup>2)</sup>秋田大，<sup>3)</sup>山梨大，<sup>4)</sup>三重大，<sup>5)</sup>岡山大，<sup>6)</sup>鹿児島大）：アレルギー性鼻炎に対する代替療法の現況：全国アンケート調査から。第58回日本アレルギー学会，2008. 11.
- 38) 小町太郎<sup>1)</sup>，三枝英人<sup>1)</sup>，山口 智<sup>1)</sup>，中村 毅<sup>1)</sup>，粉川隆行<sup>1)</sup>，木村 繁<sup>2)</sup>，愛野威一郎<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学耳鼻咽喉科学，<sup>2)</sup>木村耳鼻咽喉科医院，<sup>3)</sup>あいの耳鼻咽喉科医院）：第二鰓溝の遺残による下極型扁桃周囲膿

- 瘍の1例：下極型扁桃周囲膿瘍発症についての考察．日本気管食道科学会（第60回），2008．11．
- 39) 三枝英人<sup>1)</sup>，中村 毅<sup>1)</sup>，山口 智<sup>1)</sup>，小町太郎<sup>1)</sup>，横島一彦<sup>1)</sup>，中溝宗永<sup>1)</sup>，愛野威一郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学耳鼻咽喉科学）：喉頭乳頭腫に対する病変部分の切除，切除断端縫合による手術治療．第60回日本気管食道科学会総会・学術講演会，2008．11．
- 40) 山口 智<sup>1)</sup>，三枝英人<sup>1)</sup>，中村 毅<sup>1)</sup>，小町太郎<sup>1)</sup>，粉川隆行<sup>1)</sup>，愛野威一郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学耳鼻咽喉科学）：嚥下改善手術後の死亡例．第60回日本気管食道科学会総会・学術講演会，2008．11．
- 41) 酒主敦子<sup>1)</sup>，中溝宗永<sup>1)</sup>，横島一彦<sup>1)</sup>，稲井俊太<sup>1)</sup>，粉川隆行<sup>1)</sup>，三枝英人<sup>1)</sup>，宮下次廣<sup>2)</sup>，八木 聰<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学耳鼻咽喉科学，<sup>2)</sup>日本医科大学放射線医学）：下咽頭癌T1，T2症例の再発・死因の検討．第60回日本気管食道科学会総会・学術講演会，2008．11．
- 42) 馬場俊吉：めまいで発症した脳梗塞．第7回千葉めまい・平衡障害研究会（千葉市），2008．12．
- 43) 中澤裕子，関根久遠，三枝英人，横島一彦，中溝宗永，八木聰明，川本雅司<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院 病理部）：肉芽様組織との鑑別に難渋した放射線治療後喉頭多形性肉腫の1例．日本頭頸部外科学会（第19回），2009．1．
- 44) 稲井俊太，中溝宗永，横島一彦，酒主敦子，粉川隆行，八木聰明：喉頭腺系癌4例の検討．日本頭頸部外科学会（第19回），2009．1．
- 45) 小町太郎<sup>1)</sup>，後藤 穰<sup>1)</sup>，横山有希子<sup>1)</sup>，中村 毅<sup>1)</sup>，井手路子<sup>1)</sup>，馬場俊吉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院）：両側視力障害をきたした蝶形骨洞嚢胞の1例．日耳鼻千葉県地方部会（第74回），2009．1．
- 46) 中村 毅，三枝英人，小町太郎，山口 智，粉川隆行，愛野威一郎，松岡智治：下顎骨の位置と咽頭期嚥下の機能的相関について．第32回日本嚥下医学会，2009．2．
- 47) 富山俊一<sup>1)</sup>，荻原 望<sup>1)</sup>，野中 学<sup>1)</sup>，国友万由美<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院 耳鼻咽喉科，<sup>2)</sup>大宮中央総合病院耳鼻咽喉科）：内耳自己免疫病の短期予後．第27回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，2009．2．
- 48) 菅原一真<sup>1)</sup>，御厨剛史<sup>1)</sup>，橋本 誠<sup>1)</sup>，大久保公裕，山下裕司<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>山口大）：花粉症に対するプラナルカスト水和物追加投与の短期QOL改善効果．第27回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，2009．2．
- 49) 小町太郎<sup>1)</sup>，三枝英人<sup>1)</sup>，山口 智<sup>1)</sup>，中村 毅<sup>1)</sup>，粉川隆行<sup>1)</sup>，愛野威一郎<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学耳鼻咽喉科学，<sup>2)</sup>あいの耳鼻咽喉科医院）：延髄梗塞後，頸部食道の異常運動による嚥下障害の1例．日本嚥下医学会（第32回），2009．2．
- 50) 重見大介<sup>1)</sup>，大塚英恵<sup>1)</sup>，志摩綾香<sup>1)</sup>，三枝英人<sup>2)</sup>，中村 毅<sup>2)</sup>，小町太郎<sup>2)</sup>，山口 智<sup>2)</sup>，粉川隆行<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学5年生，<sup>2)</sup>日本医科大学耳鼻咽喉科学）：嚥下時の舌骨上・下筋群の体位および頭位の変化による筋活動の変化．第32回日本嚥下医学会総会・学術講演会，2009．2．
- 51) 三枝英人<sup>1)</sup>，山口 智<sup>1)</sup>，中村 毅<sup>1)</sup>，小町太郎<sup>1)</sup>，小嶋恭代<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学耳鼻咽喉科学，<sup>2)</sup>多摩北部医療センター リハビリテーション科）：高齢発症の重症筋無力症に対する嚥下・構音改善手術の経験．第32回日本嚥下医学会総会・学術講演会，2009．2．
- 52) 三枝英人<sup>1)</sup>，山口 智<sup>1)</sup>，小町太郎<sup>1)</sup>，中村 毅<sup>1)</sup>，愛野威一郎<sup>1)</sup>，松岡智治<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学耳鼻咽喉科学）：延髄機能障害による誤嚥・呼吸障害と考えられていた胃食道逆流による喉頭痙攣の1例．第183回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会学術講演会，2009．3．
- 53) 山口 智<sup>1)</sup>，三枝英人<sup>1)</sup>，粉川隆行<sup>1)</sup>，小津龍一郎<sup>1)</sup>，中村 毅<sup>1)</sup>，小町太郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学耳鼻咽喉科学）：術後性もしくは占拠性病変に起因しない混合性喉頭麻痺症例とその経過．第21回日本喉頭科学会総会・学術講演会，2009．3．
- 54) 三枝英人<sup>1)</sup>，中村 毅<sup>1)</sup>，山口 智<sup>1)</sup>，粉川隆行<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学耳鼻咽喉科学）：食生活の改変により症状の改善が得られた外転型痙攣性発声障害の1例．第21回日本喉頭科学会総会・学術講演会，2009．3．

## 15. 泌尿器科学講座

### [付属病院泌尿器科]

#### 研究概要

##### 臨床研究

1. 従来開腹で行っていた手術の多くを腹腔鏡下で行っている。特に腹腔鏡下前立腺全摘除術は本邦で技術及び症例数でも最先端である。開腹術との比較検討や術後の尿失禁を予防するために術式の改良の検討を行っている。
2. 前立腺癌診断ではPSAおよびその関連parameterによる早期前立腺癌と良性疾患との血清学的鑑別診断，超音波パワードップラー法，超音波Fusion3D法等の先端画像解析技術を用いた研究を行っている。
3. 前立腺全摘除術から得られた前立腺の全割全埋標本を作製し，領域別癌の好発部位，進展形式を解析し見逃しの少ない生検法の開発など臨床応用している。
4. 局所進行前立腺癌に対しては術前ホルモン化学療法を行い根治手術の可能性を模索している。
5. 限局性前立腺癌に関しては低侵襲治療である密封小線源療法を2006年4月から施行している。
6. 浸潤性膀胱癌に対しては抗癌剤の動注療法や放射線医学講座の汲田教授との共同研究として「閉鎖循環下抗癌剤灌流療法システム」により膀胱温存を試みている。温存の困難なものに関しては，小腸を用いた新膀胱を作成しQOL温存に心がけている。
7. 腎癌に関しては，PerfusionCTを駆使して腎癌の組織型の術前鑑別診断に応用しており，特に小径腎細胞癌に関しては腹腔鏡下腎部分切除術を行い腎機能温存を試みている。
8. 男性学にも力を入れており勃起機能検査，薬物療法，男性更年期に関する研究を行っている。

##### 基礎研究

1. 癌の「低酸素応答因子」について泌尿生殖器腫瘍領域での先駆的研究。
2. 生体内微量金属結合蛋白メタロチオネインと制癌剤耐性および腎機能保護の研究。
3. 麻酔科学講座坂本教授との共同研究として行っている「人工赤血球」の腎機能および男性性機能に及ぼす影響に関する研究。
4. 前立腺癌症例に関する血中浮遊癌細胞に関する研究。

以上 臨床基礎を幅広く研究している。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Murata S<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup>, Onozawa S<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>1)</sup>, Kondo Y<sup>2)</sup>, Nomura K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Radiology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School) : Pilot study of transcatheter arterial ethanol embolization under closed renal circuit for large renal cell carcinomas. Eur Radiol 2008 ; 18 : 1464-1472.
- 2) Higuchi T<sup>1, 2)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Owaki A<sup>1)</sup>, Takahashi M<sup>1)</sup>, Shinya E<sup>1)</sup>, Nishimura T<sup>2)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Urology, Nippon Medical School) : A possible mechanism of intravesical BCG therapy for human bladder carcinoma : involvement of innate effector cells for the inhibition of tumor growth. Cancer immunology Immunotherapy (Published online : 13 January 2009) 2009.

##### (2) 総説：

- 1) 木村 剛：分子標的治療と進行腎癌. 日本医師会雑誌 2008 ; 137 (5) : 1022-1023.



- 2) 木村 剛：これからはじまる進行腎癌に対する分子標的治療Practice 転移腎臓明細胞癌の治療戦略：私はこう治療する (2). Urology View 2008 ; 8 (6) : 53-57.
- 3) 鈴木康友, 斎藤友香, 松沢一郎, 濱崎 務, 近藤幸尋, 木村 剛, 吉田和弘, 西村泰司：TUR-P：基本手技を中心に. Japanese Journal of Endourology and Eswl 2008 ; 21 : 293-300.
- 4) 木村 剛：腎細胞がん治療 update 2008ASCO 2008から. 泌尿器外科 2009 ; 22 (増刊号) : 328-330.
- 5) 篠原信雄<sup>1)</sup>, 富田善彦<sup>2)</sup>, 江藤正俊<sup>3)</sup>, 木村 剛, 内藤誠二<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 北海道大学医学部泌尿器科, <sup>2)</sup> 山形大学医学部泌尿器科, <sup>3)</sup> 九州大学医学部泌尿器科)：腎癌カンファレンス：第1回 局所進行性の腎細胞癌 (RCC). 泌尿器外科 2009 ; 22 (3) : 463-472.
- 6) 江藤正俊, 篠原信雄, 富田善彦, 木村 剛, 内藤誠二 (<sup>1)</sup> 九州大学医学部泌尿器科, <sup>2)</sup> 北海道大学医学部泌尿器科, <sup>3)</sup> 山形大学医学部泌尿器科)：腎癌カンファレンス：第2回 T1aの腎細胞癌 (RCC). 泌尿器外科 2009 ; 22 (3) : 473-484.

## 著 書

- 1) 鈴木康友, 西村泰司：〔分担〕経尿道的前立腺切除術：TUR-P. よくわかって役に立つ前立腺肥大症のすべて (平尾佳彦), 2009 ; pp240-255, 永井書店.

## 学会発表

### 〔追加分〕

#### 追加分一般講演：

- 1) 林 達郎, 松澤一郎, 富田祐司, 尾形吉彦, 佐々木崇, 樋口智江, 斎藤友香, 藤原博通, 鈴木康友, 近藤幸尋, 木村 剛, 吉田和弘, 西村泰司：ハンドアシストによる腹腔鏡下副腎摘出術を施行した副腎骨髄脂肪腫の1例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第593回), 2008. 1.

#### (1) 教育講演：

- 1) 鈴木康友：前立腺肥大症の診断と治療. 日本泌尿器科学会総会 (第96回), 2008. 4.
- 2) 木村 剛：腎非淡明細胞癌：診断・治療の現状と今後. 第89回千葉泌尿器科集団会, 2008. 6.

#### (2) シンポジウム：

- 1) Yukihiko K, Ichiro M, Tsutomu H, Taiji N (<sup>1)</sup> Dept. of Urology Nippon Medical School)：What is the advanced in recent laparoscopic radical prostatectomy?. Endoscopic and laparoscopic surgery of Asia (Yokohama), 2008. 9.
- 2) 木村 剛：臨床病期C前立腺癌の治療戦略MAB+エストラムスチン+ドセタキセル療法を用いた術前補助ホルモン化学療法+手術療法. 第96回日本泌尿器科学会総会, 2008. 4.
- 3) 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 濱崎 務<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院泌尿器科)：腹腔鏡下前立腺全摘除術の今後. 第32回日本外科系連合学術集会 (千葉), 2008. 6.

#### (3) パネルディスカッション：

- 1) 松沢一郎<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 濱崎 務<sup>1)</sup>, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 今本 敬<sup>2)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 千葉大学泌尿器科)：腹腔鏡下前立腺全摘術の普及には何が必要か?. 日本泌尿器科学会 (96) (横浜), 2008. 4.
- 2) 高橋 亮<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 濱崎 務<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 北村山公立病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院泌尿器科)：外来バルーン管理患者のMemokathを用いた抜去への挑戦. 日本泌尿器科学会総会 (第96回) (横浜), 2008. 4.
- 3) 斎藤友香, 木村 剛：至適前立腺生検とは?. 日本泌尿器科学会総会 (96回), 2008. 4.



- 4) 近藤幸尋：腹腔鏡の立場から．第73回日本泌尿器科学会東部総会（東京），2008．9．
- (4) セミナー：
- 1) 近藤幸尋：腎臓癌：診断治療の up-to-date．第38回日本腎臓学会東部学術大会（東京），2008．12．
- (5) ワークショップ：
- 1) 木村 剛：腎細胞がん治療 Update 2008ASCO 2008から．第73回日本泌尿器科学会東部総会，2008．10．
- (6) 一般講演：
- 1) 齋藤友香，木村 剛，近藤幸尋，鈴木康友，松沢一郎，藤原博通，富田祐司，佐々木崇，藤野綾子，小串聡子，尾形吉彦，吉田和弘，西村泰司：経直腸の前立腺生検における穿刺数別合併症の検討．日本泌尿器科学会東部総会（第73回），2008．9．
- 2) Tomoe H<sup>1,2)</sup>，Masumi S<sup>1)</sup>，Nobuko M<sup>1)</sup>，Hidemi T<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Department of Microbiology&Immunology，<sup>2)</sup> Department of Urology）：Possible involvement of innate alert cells activated by the live BCG-infected DCs for intravesical BCGtherapy．第38回日本免疫学会総会，学術総会（京都），2008．12．
- 3) 樋口智江<sup>1)</sup>，清水真澄<sup>2)</sup>，野呂瀬嘉彦<sup>2)</sup>，近藤幸尋<sup>1)</sup>，西村泰司<sup>1)</sup>，高橋秀実<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学泌尿器科，<sup>2)</sup> 日本医科大学微生物学免疫学）：膀胱癌に対するBCG膀胱内注入療法的作用機序：自然免疫を介した腫瘍制御の可能性．日本泌尿器科学会総会（第96回）（横浜），2008．4．
- 4) 藤野綾子，藤原博通，尾形吉彦，佐々木崇，富田祐司，樋口智江，齋藤友香，松沢一郎，鈴木康友，近藤幸尋，木村 剛，吉田和弘，西村泰司：片側腎に同時発生した2種類の腎細胞癌の1例．第594回日本泌尿器科学会東京地方会，2008．6．
- 5) 小玉敬亮，齋藤友香，遠藤勇氣，佐々木崇，鈴木康友，木村 剛，近藤幸尋，吉田和弘，西村泰司，阿部裕行<sup>1)</sup>，清水宏之<sup>2)</sup>，沖 守<sup>2)</sup>，長谷川潤<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 神栖済生会病院泌尿器科，<sup>2)</sup> はせがわ病院泌尿器科）：異所性骨形成を伴った嫌色素性腎細胞癌の1例．第596回日本泌尿器科学会東京地方会，2008．6．
- 6) 武田隼人，富田祐司，松沢一郎，赤塚 純，遠藤勇氣，小玉敬亮，尾形吉彦，木村 剛，佐々木崇，藤野綾子，樋口智江，齋藤友香，藤原博通，鈴木康友，近藤幸尋，その他3名：2次性白血病をきたした進行性精巣腫瘍の1例．日本泌尿器科学会東京地方会（第594回）（東京），2008．6．
- 7) 赤塚 純，松沢一郎，武田隼人，尾形吉彦，佐々木崇，齋藤友香，木村 剛，近藤幸尋，吉田和弘，西村泰司：腎盂腫瘍腎実質浸潤との鑑別が困難であった類上皮性肉芽腫の1例．日本泌尿器科学会東京地方会（第595回）（東京），2008．7．
- 8) 遠藤勇氣，鈴木康友，藤原博通，富田祐司，藤野綾子，小玉敬亮，樋口智江，近藤幸尋，木村 剛，吉田和弘，西村泰司：両側精巣上体に発症した局所性結節性動脈周囲炎の1例．日本泌尿器科学会東京地方会（第595回）（東京），2008．7．
- 9) 木村 剛，松沢一郎，鈴木康友，近藤幸尋，富田祐司，尾形吉彦，赤塚 純，吉田和弘，西村泰司：前立腺癌射精管浸潤の発生頻度とその臨床病理学的因子との相関，予後．第46回日本癌治療学会，2008．10．
- 10) 尾形吉彦，木村 剛，松沢一郎，鈴木康友，近藤幸尋，富田祐司，藤原博通，吉田和弘，西村泰司：前立腺移行領域癌の発生頻度とその進展形式，予後．第46回日本癌治療学会，2008．10．
- 11) 近藤幸尋，濱崎 務，松沢一郎，鈴木康友，齋藤友香，木村 剛，吉田和弘，西村泰司：腹腔鏡下前立腺全摘除術における膀胱頸部完全温存は断端陽性および予後に影響を与えるか．第46回日本癌治療学会総会（名古屋），2008．11．
- 12) 近藤幸尋，松沢一郎，濱崎 務，鈴木康友，齋藤友香，木村 剛，吉田和弘，西村泰司：腹腔鏡下前立腺全摘除術において何が進歩したか．第22回日本Endourology&ESWL学会（大阪），2008．11．
- 13) 尾形吉彦，松沢一郎，近藤幸尋，鈴木康友，浜崎 務，木村 剛，西村泰司：Perisurgical evaluation of laparoscopic nephroureterectomy for renal pelvic and ureteral cancer．日本Endourology・ESWL学会（第22回）（大阪），2008．11．

- 14) 赤塚 純, 根本 勺<sup>1)</sup>, 林 達郎, 佐々木崇<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>1)</sup>, 坪井成実<sup>1)</sup>, 阿部裕行<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学北総病院 泌尿器科, 2) 神栖済生会病院 泌尿器科) : 下大静脈血栓を契機に発覚した精巢腫瘍の1例. 第90回千葉泌尿器科集談会, 2008. 12.
  - 15) 尾形吉彦<sup>1)</sup>, 浜崎 務<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 吉田和弘<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>, 小林 泉<sup>2)</sup>, 小林 元<sup>2)</sup>, 磯貝正博<sup>2)</sup>, 三木義隆<sup>2)</sup>, 坪井成美<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学泌尿器科, 2) 小林病院) : 膀胱尿管ヘルニアの1例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第597回) (東京), 2009. 1.
- (7) 市民公開講座 :
- 1) 近藤幸尋 : 内視鏡手術って、なに? : 外科革命進行中! 専門医が解説します. 日本内視鏡外科学会 (横浜), 2008. 9.

## [武蔵小杉病院泌尿器科]

### 研究概要

当科では現在、尿路生殖器腫瘍疾患をはじめ尿路結石、尿路感染症、前立腺肥大症などの排尿障害を中心に診療および臨床的研究を行っている。特筆すべきものを以下に示す。

- 1) 前立腺癌に対しては生検正診率を向上させるために、経直腸的多コア生検を導入し、従来の6ヶ所生検との比較も行っている。
- 2) 経尿道的手術には電解質溶液下TURシステムを導入し、膀胱腫瘍や前立腺肥大症で安全な手術成績を収めている。
- 3) 重篤合併症を有する下部尿路症状患者に対する永久留置型尿道ステントの有用性や尿路結石における尿管結石除去用カテーテルであるストーンコーンの有用性の検討も行っている。
- 4) 尿路感染症に対しては、ニューキノロン系抗菌剤の投与方法を変えながら急性単純性膀胱炎への有効性を検討している。
- 5) 下部尿路症状 (LUTS) や過活動膀胱 (OAB) に対して、国際前立腺症状スコアや過活動膀胱症状スコアおよび尿流測定や残尿測定を実施し内服における治療効果を判定するとともに、メタボリック症候群との関連の有無も検討している。
- 6) その他、稀な症例についてはcase reportとして報告に努めている。

### 研究業績

#### 論文

- (1) 原著 :
- 1) Horiuchi K, Banya Y<sup>1)</sup>, Ohgaki K, Sato M, Nishimura T<sup>2)</sup> (1) Dept. of Urology, Kuriyama Central Hospital, 2) Dept. of Urologic Surgery, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Clinical evaluation of the Stone Cone during ureteroscopic pneumatic lithotripsy. Jpn J Endourol ESWL 2008 ; 21 (3) : 393-396.
  - 2) Ohgaki K, Horiuchi K, Sato M, Nishimura T<sup>1)</sup> (1) Dept. of Urologic Surgery, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Advantages and disadvantage of long-term placement of a urethral stent. Jpn J Endourol ESWL 2008 ; 21 (3) : 384-387.
- (2) 総説 :
- 1) 堀内和孝 : 膀胱腔瘻閉鎖術 : 手術手技 : 尿失禁の手術. 臨床泌尿器科 2008 ; 62 (7) : 489-495.
- (3) 症例報告 :
- 1) Ohgaki K, Horiuchi K, Oka F, Sato M, Nishimura T<sup>1)</sup> (1) Dept. of Urologic Surgery, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : A Case of Seminal Vesicle Cyst Associated with Ipsilateral Renal Agene-

sis Diagnosed during an Investigation of Perineal Pain. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (2) : 122-126.

- 2) Ohgaki K, Horiuchi K, Oka F, Sato M, Nishimura T<sup>1)</sup> (1) Department of Urologic Surgery, Graduate School of Medicine Nippon Medical School) : Vaginal Metastasis of Urothelial Carcinoma Found Incidentally during Transurethral Resection of a Bladder Tumor. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (5) : 312-315.
- 3) Horiuchi K, Ohgaki K, Sato M, Oka F, Nishimura T<sup>1)</sup> (1) Department of Urologic Surgery, Graduate School of Medicine Nippon Medical School) : A case of asymptomatic cystitis glandularis found incidentally with ultrasonography at a private clinic. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (6) : 347-349.

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 堀内和孝 : 排尿障害 : 医療と健康. かわさき市民アカデミー特別講座 (川崎), 2008. 6.

### (2) 一般講演 :

- 1) 萬谷嘉明<sup>1)</sup>, 堀内和孝<sup>2)</sup>, 近藤幸尋<sup>3)</sup> (1) 栗山中央病院泌尿器科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院, 3) 日本医科大学付属病院) : 過活動膀胱に対するソリフェナシンならびに前立腺肥大症合併過活動膀胱に対するソリフェナシン・シロドシン併用の有用性について. 第96回日本泌尿器科学会総会 (横浜), 2008. 4.
- 2) 萬谷嘉明<sup>1)</sup>, 堀内和孝<sup>2)</sup>, 近藤幸尋<sup>3)</sup> (1) 栗山中央病院泌尿器科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院, 3) 日本医科大学付属病院) : 根治的前立腺全摘術 (順行性) における手術時間短縮の試み. 第96回日本泌尿器科学会総会 (横浜), 2008. 4.
- 3) 田中金雄<sup>1)</sup>, 堀内和孝<sup>2)</sup>, 山口佐緒里<sup>1)</sup>, 山本由佳<sup>1)</sup>, 佐藤三洋<sup>2)</sup>, 吉田和弘<sup>3)</sup>, 西村泰司<sup>3)</sup> (1) 入谷クリニック, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院, 3) 日本医科大学付属病院) : 透析患者の腎性貧血に対するダルベポエチンアルファの有効性と安全性. 第53回日本透析医学会学術集会 (神戸), 2008. 6.
- 4) 佐藤三洋, 大垣憲司, 堀内和孝 : 外来患者の尿より分離されたキノロン耐性大腸菌の検討. 第73回日本泌尿器科学会東部総会 (東京), 2008. 9.

## [多摩永山病院泌尿器科]

## 研究概要

当科は開設して20年になるが研究業績の主なもの次のようなものである。

前立腺肥大症 : 前立腺肥大症に対する平岡式経尿道的前立腺剥離切除術は, 1984年に開始して以来3000例を超えている。本術式は肥大腺腫を完全に切除ができる唯一の内視鏡手術である。最近切除を行わないで生食水を灌流液として使用し, 経尿道的に腺腫を剥離し膀胱に脱落させ, これを吸引摘出する経尿道的剥離摘出術を世界に先がけて開始した。この術式を用いたPSAの研究を続けている。前立腺癌 : 平岡式経尿道的前立腺剥離切除術 (剥離TURP) は内腺と外腺とを確実に区別して組織を得られるという特徴がある。この特徴を生かして, 内腺を完全切除したあと, 外腺を生検切除する平岡式剥離TURP法を開発した。これにより, 前立腺偶発癌の見落としが一番少ない方法であり, 外腺域内の癌の残存の有無までも知ることができるという新しい道を開いている。前立腺癌に対して全摘術と, 断端陽性例に対しては放射線外照射を行っている。膀胱癌 : 進行性膀胱癌の微小転移の存在とその転移経路としては組織間隙性転移の発見をした。最近, 治療としては組織間隙内抗癌剤投与という新しい治療法の開発とCCDPと放射線照射との併用治療を行っている。

腎細胞癌 : 腎腫瘍に腎血管動脈造影的に超選択的に腎腫瘍血管を24時間一時的に阻血し, インターフェロンを動注し, 腫瘍壊死を起こさせる方法をとっている。3~6ヶ月後に腫瘍核出術, 腎部分切除術か, 腹腔鏡下腎摘出術を行っている。今までの研究では, 9割は阻血治療で腫瘍細胞は完全壊死が得られている。副腎・腎腫瘍 : 副腎, 腎腫瘍に対して腹腔鏡下摘出手術を行っている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 総説：

- 1) 平岡保紀：生食下経尿道的前立腺剥離摘出術（TUDPis）. ウロロジー・ビュー 2008；6（5）：110-115.

### 学会発表

#### (1) 教育講演：

- 1) 平岡保紀：経尿道的前立腺剥離摘出術. 奈良泌尿器科手術手技研究会（第3回），2008. 4.

#### (2) シンポジウム：

- 1) 平岡保紀：How to Learn Transurethral Detaching Prostatectomy（TUDP）in Saline. 日本泌尿器科学会総会（第96回），2008. 4.

#### (3) 一般講演：

- 1) 平岡保紀：前立腺肥大症に対する内視鏡的肥大腺腫全摘出のための方法. 日本Endourology・ESWL学会総会（第22回），2008. 11.
- 2) 平岡保紀，清水有二，藤原博通，林 達郎，武田隼人：前立腺肥大症に対する内視鏡手術の根治性. 多摩泌尿器科医会（第97回），2008. 11.

## [千葉北総病院泌尿器科]

### 研究概要

千葉北総病院泌尿器科では地域医療における一般的泌尿器科診療とともに，大学病院として泌尿生殖器癌の治療を行っている．検診などでPSAを測定する自治体が増え，PSA高値を指摘され受診する方が増加している．超音波ガイド下に12カ所の前立腺生検を行い，前立腺癌の早期発見を目指している．前立腺癌と診断されたときには，個々の方のご要望に合った治療法を呈示し，ご希望により各種医療施設を紹介している．当院で治療可能な場合には放射線科，外科なども協力し治療にあたっている．特に前立腺癌手術においては腹腔鏡を用いる前立腺全摘術を本院と協力しながら積極的に行っている．

腎盂尿管癌では，尿管引き抜き術を行い手術時間の短縮を図っている．

膀胱癌では経尿道的に根治的切除を目指し，正確な病理診断を得た後に動注化学療法を併用することにより膀胱温存を目指している．尿路結石では体外衝撃波結石破碎装置を用いる碎石術のほかに，硬性尿管鏡とホルミウムレーザーを用いた尿管結石破碎術を症例により行い，また軟性尿管鏡とレーザーを用いて大きな腎結石を完全碎石する試みも始めている．前立腺肥大症に対しては通常の電気メスを用いる経尿道的前立腺切除術を標準術式として行っているが，重篤な合併症のある場合や，超高齢者にはレーザーを用いたHoLAPと呼ばれる手術も行っている．また脳血管障害などで，尿道バルーンカテーテルを留置し続けなければならなかった方に尿道ステントを挿入し，自排尿可能にしてバルーン交換の必要を無くす処置も行っている．

### 研究業績

#### 論文

#### (1) 症例報告：

- 1) 根本 勺<sup>1)</sup>，石館卓三<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 国立病院機構函館病院 泌尿器科，<sup>(2)</sup> 国立病院機構函館病院 病理部：尿道進展を認めた高齢者乾燥性閉塞性龟头炎. 臨床泌尿器科 2009；63（2）：177-179.

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) 坪井成美<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科)：軟性尿管鏡による尿管結石破碎術，日本泌尿器科学会総会 (第96回) (横浜)，2008. 4.
- 2) 三浦剛史<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科)：緩和ケアの実際，日本泌尿器科学会総会 (第96回)，2008. 4.
- 3) 三浦剛史<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科)：「外から見た緩和ケア —こう活用してほしい！緩和ケアチーム—」「キュアとケア」兼務する立場から，大学病院の緩和ケアを考える (第14回)，2008. 9.

### (2) 一般講演：

- 1) 根本 勺<sup>1)</sup>，石館卓三<sup>2)</sup>，木村伯子<sup>2)</sup>，西村泰司<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科，<sup>2)</sup> 国立病院機構函館病院 病理部，<sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院 泌尿器科)：高齢者閉塞性乾燥性龟头炎の治療経験，日本泌尿器科学会総会 (第96回)，2008. 4.
- 2) 赤塚 純<sup>1)</sup>，根本 勺<sup>1)</sup>，林 達郎<sup>1)</sup>，木全亮二<sup>1)</sup>，三浦剛史<sup>1)</sup>，坪井成美<sup>1)</sup>，白壁章宏<sup>2)</sup>，阿部裕行<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科，<sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 集中治療部，<sup>3)</sup> 神栖済生会病院 泌尿器科)：下大静脈血栓症を契機に発覚した精巣腫瘍の1例，千葉泌尿器科集談会 (第90回)，2008. 12.
- 3) 三浦剛史<sup>1)</sup>，近藤幸尋<sup>2)</sup>，根本 勺<sup>1)</sup>，木全亮二<sup>1)</sup>，佐々木崇<sup>1)</sup>，赤塚 純<sup>1)</sup>，林 達郎<sup>1)</sup>，坪井成美<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科，<sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 泌尿器科)：巨大前立腺に対する腹腔鏡下前立腺摘除術の経験，千葉内視鏡外科学会 (第14回)，2009. 1.



## 16. 眼科学講座

### 〔付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科〕

#### 研究概要

角膜酸化ストレスに関する研究、眼内炎予防としてのオゾン水による組織侵襲に関する研究が継続された。2008年度の眼炎症/免疫分野では、基礎研究として「眼内炎症の自動制御機構の解析」において、制御性T細胞とGITRL, B7-H3, Galectin-9分子の機能解析で成果報告をした。また、「自己免疫性強膜炎マウスモデルの作成」および「網膜色素変性症モデルマウスにおける羊膜由来神経前駆細胞を用いた網膜機能再生」においても成果を報告した。臨床研究として「本学における眼炎症疾患の臨床統計」および「ベーチェット病ぶどう膜炎におけるインフリキシマブ投与の長期経過と課題」について成果報告をした。ドライアイ関連では、疾患眼不快の前頭葉活性パターン解析が継続された。網膜障害分野では、網膜虚血-再灌流障害における水素ガス点眼の網膜神経保護効果を調べる実験が継続された。分子遺伝学分野では眼組織におけるCochlin分子の局在とmRNA発現の検討を行った。また、モルフォリノを用いた筋ジストロフィーモデルマウスに対するエクソン・スキッピングに関する基盤的研究において、網膜でのジストロフィンの機能改善に関する研究を行い、モルフォリノを用いたエクソン・スキッピングによる遺伝子治療によって、網膜でのジストロフィンおよびそのアイソフォームの発現の回復が認められるか、これに伴い網膜電図での異常所見が改善されるかが解析され、またこれに関連してジストロフィンとほぼ一致した局在の分子である、Pikachurinの局在の変化をジストロフィンノックアウトマウスであるmdx52マウスを用いて検討された。抗VEGF療法が臨床に導入されたが、関連した研究としてウイルスベクターを用いた網膜新生血管病治療の試みが開始された。

#### 研究業績

##### 論文

〔追加分〕

追加分総説：

- 1) 堀 純子：眼の免疫特権：角膜移植から学ぶ。Journal of the Society of Japanese Women Scientists 2008；8 (1).

(1) 原著：

- 1) Hinkovska-Galcheva V, Clark A, Vanway S, Huang J, Hiraoka M, Abe A, Borofsky M, Kunkel R, Shanley T, Shayman J, Lanni F, Petty H, Boxer L：Ceramide kinase promotes Ca<sup>2+</sup> signaling near IgG-opsonized targets and enhances phagolysosomal fusion in COS-1 cells. J Lipid Res 2008；49 (3)：531-542.
- 2) Abe A, Kelly R, Kollmeyer J, Hiraoka M, Lu Y, Shayman J：The secretion and uptake of lysosomal phospholipase A2 by alveolar macrophages. J Immunol 2008；1 (181)：7873-7881.
- 3) Hayashi A, Ando K, Ono M, Suzukamo Y, Michimata A, Akiyama M, Fukuhara S, Izumi S：Analysis of Subjective Evaluations of the Functions of Tele-Coaching Intervention in Patients with Spinocerebellar Degeneration. Neuro Rehabilitation 2008；2：159-169.
- 4) Hori J：Role of B7-H1 in Immune Privilege of the Eye. J Nippon Med Sch 2009；75 (1)：56-57.
- 5) Hori J：Mechanisms of immune privilege of the anterior segment：what we learn from corneal transplantation. Journal of Ocular Biology Disease & Informatics 2009；1 (2)：94-100.
- 6) 國重智之, 鈴木久晴, 小野眞史, 高橋永幸, 平岡美紀, 高橋 浩：角膜移植後ヘルペスウイルス感染における遷延性角膜上皮欠損を繰り返した1例. 臨床眼科 2008；62 (8)：1323-1326.

7) 鈴木久晴, 大木孝太郎, 國重智之, 稲毛道憲, 若山久仁子, 志和利彦, 高橋 浩: 正常眼圧白内障手術における角膜侵襲評価 (学会トピックス). 日本眼科学会雑誌 2008; 112 (9): 815.

(2) 総説:

- 1) 堀 純子: ウィルズアイホスピタル, 眼科診療のための診断治療マニュアル 書評. 日本の眼科 2008; 79 (4): 579-579.
- 2) 小野真史: アレルギー性眼疾患とドライアイ: 重症度別治療法. Meige 症候群. 眼科インストラクションコース 2008; (16): 94-97.
- 3) 高橋 浩: 臨床医の知るべき眼組織関連細胞生物学: 抗VEGF療法を題材として: 総説35. 日本眼科学会雑誌 2008; 112 (7): 647-658.
- 4) 小野真史: わかりやすい臨床講座. ドライアイの点眼, 内服, 外科的治療. 日本の眼科 2008; 79 (8): 1079-1083.
- 5) 小野真史: 目の様子からわかるさまざまな病気・異常. 「目やに, 涙目」からわかる眼の病気・異常. 健康教室 2008; 59 (13): 9-11.
- 6) 小野真史: リウマチと合併症: リウマチと眼症状. 流 2008; (259): 48-50.
- 7) 小野真史: やさしいシェーグレン症候群の自己管理3. 検査所見 2) 眼科的検査. やさしいシェーグレン症候群の自己管理 2008; 37-41.
- 8) 堀 純子: 他臓器疾患に随伴する自己免疫性眼疾患「強膜炎」. 日本の眼科 2008; 79 (11): 1577-1581.
- 9) 高橋 浩: 特集=アレルギー疾患・治療の話題: アレルギー性結膜疾患の薬物治療. MEDICAMENT NEWS 2009; (1972): 4-5.
- 10) 堀 純子: 抗加齢眼科学, 眼科プラクティス22, 書評. 日本の眼科 2009; 80 (3): 411-411.

著 書

- 1) 高橋 浩: [分担] 角膜内皮機能の新しい評価法. 検査・診断 眼科診療のコツと落とし穴3 (樋田哲夫, 江口秀一郎), 2008; p20, 中山書店.
- 2) 高橋 浩: [分担] 第4章 角膜・強膜. よくわかる病態生理 13 眼疾患 (松橋正和), 2009; pp63-71, 日本医事新報社.
- 3) 堀 純子: [分担] 難治性強膜炎へのアプローチ. 眼科薬物療法のコツと落とし穴4 薬物療法 (樋田哲夫, 江口秀一郎), 2008; pp20-21, 中山書店.
- 4) 堀 純子: [分担] 角膜移植後の拒絶反応の予防と治療. 眼科薬物療法のコツと落とし穴4 薬物療法 (樋田哲夫, 江口秀一郎編集), 2008; pp31-33, 中山書店.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 高橋 浩: 角膜内皮の基礎知識 +  $\alpha$ . Cornea and Ocular Surface Seminar in To (第18回), 2008. 7.
- 2) 高橋 浩: Corneal Endothelium, Basics and Causes of Its Damage. チェンマイ大学眼科講演会 (タイ王国), 2008. 10.
- 3) 堀 純子: 眼組織移植の免疫応答, 女性医師の生き方について. 新潟女性眼科医会, 2008. 11.
- 4) 高橋 浩: 第7回難儀な手術シリーズ. 千駄木眼科フォーラム (第8回), 2008. 7.
- 5) 堀 純子: Tim-3/Gal-9 Pathway Is Necessary For Corneal Allograft Survival. Tokyo ocular immunology meeting (第8回), 2008. 9.
- 6) 高橋 浩: 角膜内皮細胞: 臨床医の常識. 福岡眼科フォーラム (第14回), 2008. 11.
- 7) 高橋 浩: 角膜内皮細胞: その障害因子. ミッドランドセミナー (第2回), 2008. 11.

- 8) 高橋 浩：目の痒みとドライアイ．耳鼻咽喉科アレルギー懇話会（第35回），2008． 11．
  - 9) 堀 純子：Molecular mechanisms of self-regulation of corneal inflammation．京都コルネアクラブ，2008． 12．
  - 10) 高橋 浩：角膜内皮の基礎知識 +  $\alpha$ ．平成20年度千葉県眼科医学会学術講演会（第2回），2009． 1．
  - 11) 堀 純子：第1部：眼の移植免疫応答の不思議，第2部：日本の女性医師の生き方．文月会学術総会（第46回），2009． 1．
  - 12) 高橋 浩：角膜内皮の基礎知識 +  $\alpha$ ．鹿児島県眼科集談会（第220回），2009． 2．
  - 13) 高橋 浩：眼科領域，特に白内障超音波乳化吸引術におけるヒアルロン酸製剤の役割．グルコサミン研究会（第5回），2009． 2．
  - 14) 堀 純子：眼炎症疾患の診療アプローチ．東京眼科集談会，2009． 2．
  - 15) 堀 純子：インフリキシマブ抵抗性のパーチェット病ぶどう膜炎．Tokyo Ocular Inflammation Forum， 2009． 2．
  - 16) 小野真史：ドライアイと眼瞼痙攣：類似する患者愁訴．眼瞼痙攣シンポジウム in 越谷，2009． 3．
  - 17) 堀 純子：前眼部コース：感染，免疫を極めよう1．東京都眼科医学会平成20年度卒後研修研究会，2009． 3．
- (2) 教育講演：
- 1) 小野真史：ドライアイとは，ドライマウス研究会（第13回），2008． 4．
  - 2) 小野真史：シェーグレン症候群の眼症状-ドライアイ診断基準の変更点と自覚症状の評価．シェーグレン症候群セミナー（第13回），2008． 5．
  - 3) 小野真史：検査と診断．コツと盲点．箱根ドライアイクラブ（第2回），2008． 5．
  - 4) 小野真史：ドライマウス診療におけるコーチングの実際．2008ドライマウス研究会，2008． 6．
  - 5) 小野真史：シェーグレン症候群の眼症状と治療．川越市医師会学術講演会，2008． 7．
  - 6) 鈴木久晴：切開創作成時のトラブル症例．CSE研究会（第10回），2008． 7．
  - 7) 小野真史：ドライアイとは，ドライマウス研究会（第14回），2008． 9．
  - 8) 小野真史：ドライアイをきわめようI，II．平成19年度東京都眼科医学会卒後研修会，2009． 1．
  - 9) 鈴木久晴：トラブル/ヒヤリ症例との遭遇，回避．CSE研究会（第11回），2009． 1．
- (3) シンポジウム：
- 1) Hori J：Corneal endothelium tolerance of intracameral medications（during cataract surgery）．（Symposium：Pharmacological strategies for cataract surgery）．World Ophthalmology Congress（Hong Kong），2008． 7．
  - 2) Hori J：Immune response of neural stem cell．（Symposium：Immunology）．World Ophthalmology Congress（Hong Kong），2008． 7．
  - 3) Hori J：GITR-L-mediated local expansion of regulatory T cell as a mechanism of immune privilege of corneal allografts．（Symposium：Transplantation Immunology in the Eye）．ICER（International Congress for Eye Research）（Beijing, China），2008． 9．
- (4) セミナー：
- 1) 鈴木久晴：白内障手術教育と患者の満足度．日本眼内レンズ屈折矯正手術学会総会（第23回），2008． 6．
  - 2) 鈴木久晴：オゾン水による前房洗浄（オゾン水の眼科手術への導入<耐性菌を生じない新しい消毒法>）．日本眼科手術学会総会（第32回），2009． 1．
- (5) 一般講演：
- 1) Hori J, Taniguchi H, Wang M, Kitahara Y, Oshima M, Azuma M：GITR-ligand-dependent local expansion of regulatory T cells as a mechanism of immune privilege for corneal allografts．ARVO（Association for research in vision and ophthalmology）（Fort Lauderdale, FL, USA），2008． 4．
  - 2) Taniguchi H, Wang M, Kitahara Y, Oshima M, Yagita H, Hori J：B7-H3-mediated Protection Of Corneal

- Endothelial Cells From Killing By Allo-reactive-T Cells. ARVO (Association for research in vision and ophthalmology) (Fort Lauderdale, FL, USA), 2008. 4.
- 3) Wang M, Taniguchi H, Nakajima A, Hori J : A New Model of Anterior Scleritis Associated With Type II Collagen-Induced Arthritis. ARVO (Association for research in vision and ophthalmology) (Fort Lauderdale, FL, USA), 2008. 4.
  - 4) Tomita M, Wang M, Taniguchi H, Takahashi H, Shimazaki J, Yagita H, Hori J : Tim-3 Is Necessary for Corneal Allograft Survival. ARVO (Association for research in vision and ophthalmology) (Fort Lauderdale, FL, USA), 2008. 4.
  - 5) Oharazawa H, Ohsawa I, Igarashi T, Ishikawa M, Fujii H, Suzuki H, Takahashi H, Ohta S : Protective Effect of Hydrogen in Retinal Ischemia-Reperfusion Injury. ARVO (Florida), 2008. 5.
  - 6) Kitahara Y, Kobayashi M, Wang M, Taniguchi H, Kameya S, Takahashi H, Sakuragawa N, Hori J : Antigenicity of Human Amnion Mesenchyme Cell-Derived Side Population Cells in Xenogeneic Subretinal Transplantation. ARVO (Association for research in vision and ophthalmology) (Fort Lauderdale, FL, USA), 2008. 5.
  - 7) Ono M, Shiwa T, Kasahara T, Suzuki H, Kunishige T, Inage M, Yamashita H, Takahashi H : Basic research of sub retinal fluid exhaust method by a sound wave of the audible range. WOC (Chaina, Hongkong), 2008. 6.
  - 8) Taniguchi H, Wang M, Kitahara Y, Oshima M, Yagita H, Hori J : Role of B7-H3 on immune privilege of corneal allografts. XVIII . ICER (International Congress for Eye Research) (Beijing, China), 2008. 9.
  - 9) 北原由紀 : 『失明しないために』 : 糖尿病網膜症・緑内障・加齢黄斑変性. 日本医科大学多摩永山病院公開講座 (第26回), 2008. 10.
  - 10) 堀 純子, 谷口ヒロ子, 王 明聡, 高橋 浩, 坂口志文, 東みゆき : 前眼部に発現するGITRLを介した制御性T細胞の誘導と眼組織障害の抑制. 日本眼科学会総会 (第112回), 2008. 4.
  - 11) 谷口ヒロ子, 堀 純子, 王 明聡, 北原由紀, 大島正道, 八木田秀雄 : 眼局所の免疫応答におけるB7-H3の役割. 日本眼科学会総会 (第112回), 2008. 4.
  - 12) 富田真知子, 堀 純子, 王 明聡, 谷口ヒロ子, 高橋 浩, 島崎 潤, 八木田秀雄 : 角膜移植後の免疫応答におけるTim-3の役割. 日本眼科学会総会 (第112回), 2008. 4.
  - 13) 王 明聡, 堀 純子, 谷口ヒロ子, 高橋 浩, 中島敦夫 : 自己免疫性関節炎に合併する前部強膜炎のマウスモデルの作成. 日本眼科学会総会 (第112回), 2008. 4.
  - 14) 鈴木久晴, 大木孝太郎, 國重智之, 稲毛道憲, 若山久仁子, 志和利彦, 高橋 浩 : 正常眼圧白内障手術における角膜侵襲評価. 日本眼内レンズ屈折矯正手術学会総会 (第23回), 2008. 6.
  - 15) 稲毛道憲, 鈴木久晴, 國重智之, 小野眞史, 高橋 浩 : 白内障術後のPaecilomyces lilacinus角膜・眼内炎の1例. 日本眼感染症学会 (第45回), 2008. 7.
  - 16) 富田真知子, 堀 純子, 王 明聡, 谷口ヒロ子, 高橋 浩, 島崎 潤, 八木田秀雄 : 角膜移植後の免疫応答におけるTim-3/Gal-9経路の役割. 日本眼炎症学会 (第42回), 2008. 7.
  - 17) 北原由紀, 堀 純子, 小林 護, 王 明聡, 谷口ヒロ子, 亀谷修平, 高橋 浩, 桜川宣男 : ヒト羊膜間葉細胞由来Side Population細胞の網膜下移植における抗原性. 日本眼炎症学会 (第42回), 2008. 7.
  - 18) 國重智之, 鈴木久晴, 青木路子, 荒木久仁子, 稲毛道憲, 五十嵐勉, 小野眞史, 高橋 浩 : 加温による眼軟膏の組織移行性, 感染予防効果, 分布の検討. 日本感染症学会 (第45回), 2008. 7.
  - 19) 竹内千恵子, 中原るり子, 菊地由美, 小野眞史 : コーチング演習が受講生のコミュニケーションに及ぼす影響 : 自己効力感とソーシャルスキルの変化に焦点を当てて. 日本看護管理学会年次大会 (第12回), 2008. 8.
  - 20) 小野眞史 : 医療分野におけるコーチング研究の最前線. 脳科学からみた音声分析によるコーチングの機能解析.

Coaching 2008, 2008. 9.

- 21) 小野眞史, 高橋 浩: ドライアイ関連疾患眼不快の前頭葉活性パターン. 日本臨床眼科学会 (第62回), 2008. 10.
  - 22) 鈴木久晴, 五十嵐勉, 堀 純子, 小野眞史, 國重智之, 稲毛道憲, 高橋 浩: 生体共焦点顕微鏡HRT-IICRMで見た帯状角膜変性症のカルシウム沈着部位. 日本臨床眼科学会 (第62回), 2008. 10.
  - 23) 塚田玲子, 堀 純子, 菊地佐知子, 伊藤由紀子, 稲毛道憲, 高橋 浩: インフリキシマブによるベーチェット病ぶどう膜炎の治療効果. 日本臨床眼科学会 (第62回), 2008. 10.
  - 24) 伊藤由紀子, 堀 純子, 塚田玲子, 河上花子, 高橋 浩: 日本医科大学付属病院眼科における内眼炎患者の統計的観察. 日本臨床眼科学会 (第62回), 2008. 10.
  - 25) 五十嵐勉, 矢口智恵美<sup>1)</sup>, 稲毛道憲, 鈴木久晴, 小野眞史, 高橋 浩 ( <sup>1)</sup> 矢口眼科クリニック): 角膜脂肪変性に対する光線力学的療法. 日本臨床眼科学会 (第62回), 2008. 10.
  - 26) 國重智之, 小野眞史, 若山久仁子, 稲毛道憲, 鈴木久晴, 五十嵐勉, 後藤英樹<sup>2)</sup>, 高橋 浩 ( <sup>1)</sup> 鶴見大): 薄膜干渉計による涙膜水層厚の妥当性の検討. 日本臨床眼科学会 (第62回), 2008. 10.
  - 27) 西端慎一, 高橋 浩: 東京都のスギ花粉症有病率: 平成18年度の患者実態調査結果と20年間の推移. 日本アレルギー学会秋季学術大会 (第58回) (東京), 2008. 11.
  - 28) 高橋 浩: 第8回難儀な手術シリーズ. 千駄木眼科フォーラム (第9回), 2008. 12.
  - 29) 平岡美紀: 眼組織におけるCochlin分子の局在とmRNA発現. BMB2008 日本分子生物学会年会 (第31回) 日本生化学会年会合同大会 (第81回), 2008. 12.
  - 30) 鈴木久晴, 大木孝太郎, 國重智之, 稲毛道憲, 若山久仁子, 志和利彦, 高橋 浩: 白内障手術における角膜体積と角膜厚マップの推移. 日本眼科手術学会総会 (第32回), 2009. 1.
  - 31) 若山久仁子, 鈴木久晴, 大木孝太郎, 國重智之, 稲毛道憲, 志和利彦, 高橋 浩: 白内障手術における角膜厚と角膜屈折力の推移. 日本眼科手術学会総会 (第32回), 2009. 1.
  - 32) 鈴木久晴, 佐藤 茂, 村野奈緒, 松井洋法, 佐佐木喜広, 安達彰子, 小原澤英彰: ラット角膜におけるオゾン水曝露後の角膜内皮障害の評価. 角膜カンファランス (第33回), 2009. 2.
  - 33) 伊藤由紀子, 堀 純子, 高橋 浩: アレキサンドライトレーザーによる外傷性虹彩炎の1例. 東京眼科集談会, 2009. 2.
  - 34) 富田真知子, 堀 純子, 王 明聡, 谷口ヒロ子, 高橋 浩, 島崎 潤, 八木田秀雄: 角膜移植後の免疫寛容におけるTim-3/Gal-9経路の役割. 日本角膜移植学会 (第25回), 2009. 2.
  - 35) 五十嵐勉, 矢口智恵美<sup>1)</sup>, 稲毛道憲, 鈴木久晴, 小野眞史, 高橋 浩 ( <sup>1)</sup> 矢口眼科クリニック): 角膜脂肪変性に対する光力学線療法. 角膜カンファランス (第33回), 2009. 2.
- (6) 受賞講演 (学術展示優秀賞):
- 1) 谷口ヒロ子, 堀 純子, 王 明聡, 北原由紀, 高橋 浩, 大島正道<sup>1)</sup>, 八木田秀雄<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立感染免疫研究所, <sup>2)</sup> 順天堂大学 免疫): 眼局所の免疫応答におけるB7-H3の役割. 日本眼科学会総会 (第112回), 2008. 4.

## [千葉北総病院眼科]

### 研究業績

#### 論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) 山木邦比古: 眼内炎症のこれから Vogt-小柳-原田病. 眼科プラクティス 2007; 16: 170-177.



(1) 原著：

- 1) Yamaki K, Ohono S : Animal models of Vogt-Koyanagi-Harada disease (Sympathetic ophthalmia). *Ophthalmic Research* 2008 ; 40 : 129-135.

(2) 総説：

- 1) 山木邦比古：眼内炎症反応の成立と抗原提示過程. *日医大医学会誌* 2008 ; 4 (1) : 8-14.

著 書

- 1) 山木邦比古：〔分担〕眼外所見から考えるぶどう膜炎. 基礎からわかるぶどう膜炎 (水木信久), 2006 ; pp76-79, 金原出版.
- 2) 山木邦比古：〔分担〕眼外所見の診かた：眼外所見から考えるぶどう膜炎. 基礎からわかるぶどう膜炎 (水木信久), 2006 ; pp76-79, 金原出版.
- 3) 山木邦比古：〔分担〕眼内炎症診療のこれから VKHの初期ステロイド薬治療用量. *眼科プラクティス* 16 (岡田アナベルあやめ), 2007 ; pp170-177, 文光堂.
- 4) 山木邦比古：〔分担〕虹彩結節 前眼部アトラス. *眼科プラクティス* (大鹿哲郎), 2007 ; pp344 -345, 文光堂.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 山木邦比古, 天野真穂<sup>1)</sup>, 亀谷修平, 早川宏一<sup>2)</sup>, 高関早苗<sup>2)</sup> (1) 昭和女子大, <sup>2)</sup> 秋田大) : 原田病局所浸潤細胞の網膜色素上皮細胞に対する細胞障害活性. *日本眼科学会総会* (第110回), 2006. 4.
- 2) 廣瀬敦視, 田嶋友子, 亀谷修平, 後藤陽子, 山木邦比古, 高橋 浩 : 脳血管撮影後に発症した網膜分枝閉塞症の1例. *日本臨床眼科学会* (第60回), 2006. 10.

追加分特別講演：

- 1) 山木邦比古：千葉眼疾患の分子病態と最近の治療法. *東洋臨床セミナー*, 2006. 10.
- 2) 山木邦比古：ぶどう膜および硝子体疾患とその対応. *獣医眼科学会*, 2006. 11.
- 3) 山木邦比古：眼内炎症と抗原提示. *千葉県眼科集談会*, 2007. 1.

(1) 特別講演：

- 1) 山木邦比古：眼内炎症反応と自己免疫疾患. *日本医科大学医学会総会 新任教授特別講演* (第76回), 2008. 9.

(2) 一般講演：

- 1) Kimura M, Amano T, Kimoto K, Yamaki K, Baum L, Matsumura M : Localization of Galectin-1, -3, and -9 in The Retina of Rats with Experimental Autoimmune Uveoretinitis. *ARVO* (FortLodadale Florida (USA)), 2008. 5.
- 2) Yamaki K, Amano M : Expression of Galectin molecules in intraocular tissues. *European Association of Vision and Eye Research* (Portoroz (Slovenia)), 2008. 10.
- 3) Yamaki K, Hanafy A : T cell receptors that may induce Vogt-Koyanagi-Harada disease. *International workshop on Vpgt-Koyanagi-Harada disease* (Singapore), 2009. 2.
- 4) Hanafy A, Yamaki K : Sequence analysis of TCR specific to Vogt-Koyanagi-Harada disease (VKH). *日本医科大学留学生講演会*, 2008.
- 5) 木村元貴<sup>1)</sup>, 天野真穂<sup>2)</sup>, 木本高志<sup>1)</sup>, 山木邦比古, Baum L<sup>3)</sup>, 松村美代<sup>4)</sup> (1) 関西医大・滝井, <sup>2)</sup> 北大院・先端生命, <sup>3)</sup> 米国UCLA・病理, <sup>4)</sup> 関西医大・枚方) : 実験的ぶどう膜炎におけるガレクチン-1, -3, -9の発現についての検討. *日本眼科学会総会* (第112回), 2008. 4.

## 17. 麻酔科学講座

### [付属病院麻酔科]

#### 研究概要

本年度も本教室のメインテーマとしての麻酔の機序解明、重症患者管理と生体侵襲、神経因性疼痛につき種々の研究が行われた。また、呼吸管理、術後疼痛管理、緩和医療、ペインクリニック等従来から踏襲している多くのテーマについても幅広く研究が行われた。さらに、周術期管理教育のための教科書を作成した。以下に主な内容を示す。

基礎研究：マイクロアレイ、realtime RT-PCR、細胞培養装置、パッチクランプ、心血管灌流装置等を用いて、1) 麻酔による体内遺伝子発現への影響、2) 麻酔とプロテオミクス、3) 麻酔とメタボロミクス、4) 呼吸中枢と痙攣閾値の関連、5) 頸動脈小体活動機序、6) ショックにおける人工酸素運搬体の効果、7) 神経因性疼痛に及ぼすECTの効果等。

臨床研究：臨床麻酔、外科系集中治療、ペインクリニック、緩和医療領域において、1) 周術期 $\beta$ 遮断薬の効果、2) 周術期心イベントの発生要因、3) 新たな輸液製剤の臨床の効果、4) 外科侵襲による生体反応、5) 非侵襲的人工呼吸管理、6) 新たな疼痛管理法等。

#### 研究業績

##### 論文

(1) 原著：

- 1) Akada S, Takeda S<sup>1)</sup>, Yoshida Y, Nakazato K, Mori M, Hongo T<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Sakamoto A (1) Intensive Care Unit, Nippon Medical School Hospital) : The efficacy of dexmedetomidine in patients with non-invasive ventilation : a preliminary study. *Anesthesia & Analgesia* 2008 ; 107 (1) : 167-170.
- 2) Yoshida Y, Takeda S<sup>1)</sup>, Akada S<sup>1)</sup>, Hongo T<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Sakamoto A (1) Intensive Care Unit, Nippon Medical School Hospital) : Factors predicting successful noninvasive ventilation in acute lung injury. *Journal of Anesthesia* 2008 ; 22 (3) : 201-206.
- 3) Nishikawa K, Yamada K, Sakamoto A : A new curved laryngoscope blade for routine and difficult tracheal intubation. *Anesthesia & Analgesia* 2008 ; 107 (4) : 1248-1252.
- 4) Kishikawa H, Kobayashi K, Takemori K, Okabe T, Sakamoto A : The effects of dexmedetomidine on human neutrophil apoptosis. *Biomedical Research* 2008 ; 29 (4) : 189-194.
- 5) Nakazato K, Yoshida Y, Takemori K, Kobayashi K, Sakamoto A : Expressions of genes encoding drug-metabolizing enzymes are altered after sevoflurane, isoflurane, propofol or dexmedetomidine anesthesia. *Biomedical Research* 2009 ; 30 (1) : 17-24.
- 6) 金 徹, 倉藤晶子<sup>1)</sup>, 上村明子<sup>1)</sup>, 金子栄子<sup>1)</sup>, 野呂瀬嘉彦<sup>2)</sup>, 谷合信彦<sup>3)</sup>, 古川清憲<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup> (1) 付属病院看護部, 2) 微生物学・免疫学講座, 3) 外科学講座) : ラビング法による効果的な手術時手指消毒の検討 : 消毒手順と消毒効果. *日本手術医学会誌* 2008 ; 29 (4) : 255-262.
- 7) 篁 武郎 : 半夏厚朴湯合苓桂朮甘湯が有効であった多汗症の1例. *日本東洋医学雑誌* 2009 ; 60 (1) : 69-72.

(2) 総説：

- 1) 中西一浩, 鈴木健一<sup>1)</sup> (1) 付属病院ME部) : 部位 (臓器) 温度の特徴を理解し, 温度変化を判断, 対処できる力を身につける. *LiSA* 2008 ; 15 (5) : 489-491.
- 2) 竹田晋浩 : 急性肺傷害 (ALI/ARDS) の呼吸管理 : 急性肺傷害の up-to-date. 侵襲と免疫 2008 ; 17 (2) : 19-22.

- 3) 岸川洋昭, 坂本篤裕: ガバペンチン (ガバペン). ペインクリニック 2008; 29 (7): 997-999.
  - 4) 坂本篤裕:  $\beta$  遮断薬の周術期投与は冠動脈疾患患者の予後を改善するか?. LiSA 2008; 15 (10): 980-985.
  - 5) 坂本篤裕: 塩酸ランジオロールの出番. 日本集中治療医学会雑誌 2008; 15 (4): 490-491.
  - 6) 竹田晋浩: 心不全に挑む: 急性心不全患者におけるNPPVのエビデンス. LiSA 2008; 15 (11): 1076-1081.
  - 7) 鈴木規仁: 眼科手術の麻酔; Marfan症候群患者の水晶体亜脱臼手術. LiSA 2008; 15 (12): 1234-1237.
  - 8) 坂本篤裕: 日本医科大学付属病院初期研修における麻酔科研修. Anesthesia 21 Century 2009; 11 (1): 19-21.
  - 9) 杖下隆哉: 腎不全患者の輸液管理: 適切な評価と血行動態管理, 積極的な腎保護が必要. LiSA 2009; 16 (2): 138-141.
  - 10) 金 徹, 坂本篤裕: 心血管作動薬の使い方: 最近の知見. 麻酔 2009; 58 (3): 272-278.
  - 11) 中西一浩: パルスCOオキシメトリによる非侵襲的ヘモグロビン (SpHb) 測定と周術期貧血; SpHbモニターは周術期患者管理を変えるか?. 臨床麻酔 2009; 33 (3): 504-513.
- (3) 症例報告:
- 1) 大江裕美子, 寺嶋克幸, 古市昌市, 岸川洋昭, 坂本篤裕: 異常浸潤性胎盤妊婦の予定帝王切開術における周術期管理2症例と文献的考察. 日本臨床麻酔学会誌 2009; 29 (2): 204-213.

## 著 書

- 1) 竹田晋浩: [分担] 人工呼吸中の鎮静は是か非か. 人工呼吸良法における30の謎 (編集: 安本和正, 小谷透), 2008; pp138-144, 克誠堂出版.
- 2) 坂本篤裕: [分担] 合併症を有する患者の麻酔 C 内分泌・代謝疾患 D 肝疾患 E 腎疾患. TEXT 麻酔・蘇生学 (監修: 土肥修司, 澄川耕二), 2008; pp313-328, 南山堂.
- 3) 竹田晋浩: [分担] ARDSの経過と予後. ARDS診療ノウハウ (編集石坂彰敏), 2008; pp114-123, 診断と治療社.
- 4) 竹田晋浩: [分担] 外科手術後ARDS. ARDS診療ノウハウ (編集石坂彰敏), 2008; pp151-157, 診断と治療社.
- 5) 竹田晋浩: [分担] 心筋梗塞による急性肺水腫の呼吸管理. エキスパートの呼吸管理 (編集 岡元和文), 2008; pp291-295, 中外医学社.
- 6) 坂本篤裕: [分担] 放射線造影剤によるアナフィラキシー. アナフィラキシーショック (監修: 光畑裕正), 2008; pp196-207, 克誠堂出版.
- 7) 金 徹: [分担] 第1章 術前合併症の評価と対策 循環器疾患 2) 心不全. 周術期診療のポイントマニュアル (監修: 坂本篤裕・編集: 中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp14-15, 真興交易医書出版部.
- 8) 金 徹: [分担] 第1章 術前合併症の評価と対策 呼吸器疾患 5) 拘束性肺疾患. 周術期診療のポイントマニュアル (監修: 坂本篤裕・編集: 中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp41-42, 真興交易医書出版部.
- 9) 金 徹: [分担] 第1章 術前合併症の評価と対策 肝疾患 1) 黄疸. 周術期診療のポイントマニュアル (監修: 坂本篤裕・編集: 中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp70-71, 真興交易医書出版部.
- 10) 金 徹: [分担] 第1章 術前合併症の評価と対策 血液疾患 3) 白血球の異常. 周術期診療のポイントマニュアル (監修: 坂本篤裕・編集: 中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp96-97, 真興交易医書出版部.
- 11) 金 徹: [分担] 第1章 術前合併症の評価と対策 神経・筋疾患 1) 重症筋無力症. 周術期診療のポイントマニュアル (監修: 坂本篤裕・編集: 中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp124-125, 真興交易医書出版部.
- 12) 金 徹: [分担] 第1章 術前合併症の評価と対策 神経・筋疾患 12) 認知症. 周術期診療のポイントマニュアル (監修: 坂本篤裕・編集: 中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp147-148, 真興交易医書出版部.
- 13) 金 徹: [分担] 第2章 特殊なモニタリング・ME機器 2) 血管・神経エコー. 周術期診療のポイントマ

- ニユアル (監修:坂本篤裕・編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp147-148, 真興交易医書出版部.
- 14) 金 徹: [分担] 第3章 特殊な手術症例の周術期管理 循環器外科 1) 人工心肺下の麻酔管理. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕・編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp208-209, 真興交易医書出版部.
  - 15) 金 徹: [分担] 第3章 特殊な手術症例の周術期管理 消化器外科 2) 食道異物. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕・編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp234-235, 真興交易医書出版部.
  - 16) 金 徹: [分担] 第3章 特殊な手術症例の周術期管理 脳神経外科 7) 特発性低髄液圧症候群 (SIH). 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp263-264, 真興交易医書出版部.
  - 17) 金 徹: [分担] 第3章 特殊な手術症例の周術期管理 周産期外科 1) 体外受精. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp294-295, 真興交易医書出版部.
  - 18) 金 徹: [分担] 第3章 特殊な手術症例の周術期管理 小児外科 5) 幽門狭窄. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp323-324, 真興交易医書出版部.
  - 19) 金 徹: [分担] 第3章 特殊な手術症例の周術期管理 その他 3) NIPP. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp361-362, 真興交易医書出版部.
  - 20) 金 徹: [分担] 第4章 術中合併症の評価と対策 アナフィラキシー. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp382-383, 真興交易医書出版部.
  - 21) 中西一浩: [分担] 第5章 術後管理 覚醒遅延. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp398-399, 真興交易医書出版部.
  - 22) 中西一浩: [分担] 第5章 術後管理 術後疼痛管理. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp400-402, 真興交易医書出版部.
  - 23) 中西一浩: [分担] 第6章 外科系集中治療 術後循環器合併症の予防. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp429-432, 真興交易医書出版部.
  - 24) 中西一浩: [分担] 第6章 外科系集中治療 術後循環器合併症の治療. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp433-437, 真興交易医書出版部.
  - 25) 中西一浩: [分担] 第6章 外科系集中治療 栄養管理. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp438-440, 真興交易医書出版部.
  - 26) 中西一浩: [分担] 第6章 外科系集中治療 急性血液浄化法. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp441-445, 真興交易医書出版部.
  - 27) 坂本篤裕: [監修] 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp1-458, 真興交易医書出版部.
  - 28) 本郷 卓: [分担] 第1章 術前合併症の評価と対策 循環器疾患 高血圧. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp12-13, 真興交易医書出版部.
  - 29) 本郷 卓: [分担] 第1章 術前合併症の評価と対策 呼吸器疾患 COPD. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp39-40, 真興交易医書出版部.
  - 30) 本郷 卓: [分担] 第1章 術前合併症の評価と対策 内分泌代謝疾患 副腎の異常. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp68-69, 真興交易医書出版部.
  - 31) 本郷 卓: [分担] 第1章 術前合併症の評価と対策 自己免疫性疾患 ベーチェット病. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp122-123, 真興交易医書出版部.
  - 32) 本郷 卓: [分担] 第1章 術前合併症の評価と対策 神経・筋疾患 脊髄損傷. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp145-146, 真興交易医書出版部.
  - 33) 本郷 卓: [分担] 第2章 特殊なモニタリング・ME機器 PCPS. 周術期診療のポイントマニュアル (監



- 修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp174-175，真興交易医書出版部。
- 34) 本郷 卓：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 消化器外科 腹腔鏡手術．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp232-233，真興交易医書出版部。
  - 35) 本郷 卓：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 脳神経外科 脳圧亢進とその対策．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp261-262，真興交易医書出版部。
  - 36) 本郷 卓：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 移植外科 肺移植．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp291-292，真興交易医書出版部。
  - 37) 本郷 卓：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 小児外科 胆道閉鎖症．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp321-322，真興交易医書出版部。
  - 38) 本郷 卓：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 救急外科 頭部外傷．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp347-348，真興交易医書出版部。
  - 39) 本郷 卓：〔分担〕第4章 術中合併症の評価と対策 悪性高熱．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp379-380，真興交易医書出版部。
  - 40) 岸川洋昭：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 循環器疾患 4) 弁膜症．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp20-21，真興交易医書出版部。
  - 41) 岸川洋昭：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 呼吸器疾患 7) 気胸．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp47-48，真興交易医書出版部。
  - 42) 岸川洋昭：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 循環器疾患 4) 弁膜症．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp20-21，真興交易医書出版部。
  - 43) 岸川洋昭：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 肝疾患 3) 胆道系の異常．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp75-76，真興交易医書出版部。
  - 44) 岸川洋昭：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 血液疾患 5) 凝固線溶系の異常．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp101-103，真興交易医書出版部。
  - 45) 岸川洋昭：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 神経・筋疾患 3) 進行性筋ジストロフィー．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp128-129，真興交易医書出版部。
  - 46) 岸川洋昭：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 その他 1) アナフィラキシー．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp152-153，真興交易医書出版部。
  - 47) 岸川洋昭<sup>1)</sup>：〔分担〕第2章 特殊なモニタリング・ME機器 4) 胃粘膜pH測定．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp183-184，真興交易医書出版部。
  - 48) 岸川洋昭：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 消化器外科 4) 肝切除術．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp239-241，真興交易医書出版部。
  - 49) 岸川洋昭：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 整形外科 2) 人工関節手術．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp268-270，真興交易医書出版部。
  - 50) 岸川洋昭：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 周産期外科 3) 胎児仮死．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp299-301，真興交易医書出版部。
  - 51) 岸川洋昭：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 小児外科 7) 早期出生児．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp328-329，真興交易医書出版部。
  - 52) 岸川洋昭：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 その他 1) m-ECT．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp356-357，真興交易医書出版部。
  - 53) 岸川洋昭：〔分担〕第4章 術中合併症の評価と対策 血糖値異常．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp387-388，真興交易医書出版部。



- 54) 岸川洋昭：〔分担〕第4章 術中合併症の評価と対策 血糖値異常．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp387-388，真興交易医書出版部。
- 55) 杖下隆哉：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 循環器疾患 不整脈．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp28-30，真興交易医書出版部。
- 56) 杖下隆哉：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 内分泌代謝性疾患 肥満．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp55-57，真興交易医書出版部。
- 57) 杖下隆哉：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 肝疾患 蛋白合成障害．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp81-82，真興交易医書出版部。
- 58) 杖下隆哉：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 自己免疫性疾患 天疱瘡，類天疱瘡．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp109-111，真興交易医書出版部。
- 59) 杖下隆哉：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 神経・筋疾患 強直性脊椎炎．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp135-136，真興交易医書出版部。
- 60) 杖下隆哉：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 その他 深部静脈血栓症/肺動脈血栓症．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp160-162，真興交易医書出版部。
- 61) 杖下隆哉：〔分担〕第2章 特殊なモニタリング・ME機器 BIS．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp191-193，真興交易医書出版部。
- 62) 杖下隆哉：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 呼吸器外科 胸腔鏡手術．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp219-221，真興交易医書出版部。
- 63) 杖下隆哉：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 脳神経外科 覚醒下開頭術．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp247-249，真興交易医書出版部。
- 64) 杖下隆哉：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 整形外科 側彎症手術．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp276-278，真興交易医書出版部。
- 65) 杖下隆哉：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 周産期外科 無痛分娩．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp308-310，真興交易医書出版部。
- 66) 杖下隆哉：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 泌尿器外科 膀胱摘出術．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp334-335，真興交易医書出版部。
- 67) 杖下隆哉：〔分担〕第4章 術中合併症の評価と対策 大量出血．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp364-366，真興交易医書出版部。
- 68) 杖下隆哉：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 歯牙損傷．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp394-396，真興交易医書出版部。
- 69) 佐藤千代：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 自己免疫性疾患 6) 結節性多発動脈炎．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp119-121，真興交易医書出版部。
- 70) 佐藤千代：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 内分泌代謝疾患 5) 膵臓の異常．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp65-67，真興交易医書出版部。
- 71) 佐藤千代：〔分担〕第2章 特殊なモニタリング・ME機器 11) IABP．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp202-204，真興交易医書出版部。
- 72) 佐藤千代：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 呼吸器外科 5) Volume Reduction Surgery．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp229-231，真興交易医書出版部。
- 73) 佐藤千代：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 神経・筋疾患 10) 末梢神経疾患．周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp143-144，真興交易医書出版部。

- 74) 佐藤千代：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 脳神経外科 5) 血管内手術 (Coiling). 周術期診療のポイントマニュアル (監修：坂本篤裕, 編集：中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp258-260, 真興交易医書出版部.
- 75) 佐藤千代：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 移植外科 4) 心移植. 周術期診療のポイントマニュアル (監修：坂本篤裕, 編集：中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp288-290, 真興交易医書出版部.
- 76) 佐藤千代：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 小児外科 3) 横隔膜ヘルニア. 周術期診療のポイントマニュアル (監修：坂本篤裕, 編集：中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp318-320, 真興交易医書出版部.
- 77) 佐藤千代：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 救急外科 2) 多発外傷. 周術期診療のポイントマニュアル (監修：坂本篤裕, 編集：中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp344-346, 真興交易医書出版部.
- 78) 佐藤千代：〔分担〕第4章 術中合併症の評価と対策 肺血栓塞栓症. 周術期診療のポイントマニュアル (監修：坂本篤裕, 編集：中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp376-378, 真興交易医書出版部.
- 79) 佐藤千代：〔分担〕第5章 術後管理 脊麻後頭痛. 周術期診療のポイントマニュアル (監修：坂本篤裕, 編集：中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp410-412, 真興交易医書出版部.
- 80) 佐藤千代：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 呼吸器疾患 3) 気管支喘息. 周術期診療のポイントマニュアル (監修：坂本篤裕, 編集：中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp37-38, 真興交易医書出版部.
- 81) 佐藤千代：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 血液疾患 1) 貧血. 周術期診療のポイントマニュアル (監修：坂本篤裕, 編集：中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp91-93, 真興交易医書出版部.
- 82) 佐藤千代：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 その他 8) 宗教上の理由による制限. 周術期診療のポイントマニュアル (監修：坂本篤裕, 編集：中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp171-172, 真興交易医書出版部.
- 83) 小林克也：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 呼吸器疾患 2) 上気道感染. 周術期診療のポイントマニュアル (監修：坂本篤裕, 編集：中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp35-36, 真興交易医書出版部.
- 84) 小林克也：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 内分泌代謝系疾患 4) 甲状腺・副甲状腺の異常. 周術期診療のポイントマニュアル (監修：坂本篤裕, 編集：中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp63-64, 真興交易医書出版部.
- 85) 小林克也：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 腎疾患 3) 人工透析中の患者. 周術期診療のポイントマニュアル (監修：坂本篤裕, 編集：中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp89-90, 真興交易医書出版部.
- 86) 小林克也：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 神経・筋疾患 9) パーキンソン病. 周術期診療のポイントマニュアル (監修：坂本篤裕, 編集：中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp141-142, 真興交易医書出版部.
- 87) 小林克也：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 その他 7) Full Stomach. 周術期診療のポイントマニュアル (監修：坂本篤裕, 編集：中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp169-170, 真興交易医書出版部.
- 88) 小林克也：〔分担〕第2章 特殊なモニタリング・ME機器 10) 体外式ペースメーカー. 周術期診療のポイントマニュアル (監修：坂本篤裕, 編集：中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp200-201, 真興交易医書出版部.
- 89) 小林克也：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理呼吸器外科 4) 縦隔腫瘍手術. 周術期診療のポイントマニュアル (監修：坂本篤裕, 編集：中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp227-228, 真興交易医書出版部.
- 90) 小林克也：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 脳神経外科 4) 頸動脈内膜剥離術・血栓内膜摘出術. 周術期診療のポイントマニュアル (監修：坂本篤裕, 編集：中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp256-257, 真興交易医書出版部.
- 91) 小林克也：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 移植外科 3) 肝移植. 周術期診療のポイントマニュアル (監修：坂本篤裕, 編集：中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp285-287, 真興交易医書出版部.
- 92) 小林克也：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 小児外科 2) 食道閉鎖症. 周術期診療のポイントマニュアル (監修：坂本篤裕, 編集：中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp316-317, 真興交易医書出版部.
- 93) 小林克也：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 救急外科 1) 熱傷. 周術期診療のポイントマニ

- アル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp342-343, 真興交易医書出版部.
- 94) 小林克也: [分担] 第4章 術中合併症の評価と対策 心停止. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp373-375, 真興交易医書出版部.
- 95) 小林克也: [分担] 第5章 術後管理 術後乏尿. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp408-409, 真興交易医書出版部.
- 96) 鈴木規仁: [分担] 第1章 術前合併症の評価と対策 循環器疾患 5) 肺高血圧症. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp22-24, 真興交易医書出版部.
- 97) 鈴木規仁: [分担] 第1章 術前合併症の評価と対策 呼吸器疾患 8) 睡眠時無呼吸症候群. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp49-51, 真興交易医書出版部.
- 98) 鈴木規仁: [分担] 第1章 術前合併症の評価と対策 肝疾患 4) 慢性肝疾患 (肝硬変など). 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp77-78, 真興交易医書出版部.
- 99) 鈴木規仁: [分担] 第1章 術前合併症の評価と対策 血液疾患 6) 抗血小板・抗凝固薬服用患者. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp104-105, 真興交易医書出版部.
- 100) 鈴木規仁: [分担] 第1章 術前合併症の評価と対策 神経・筋疾患 4) 筋緊張性ジストロフィー. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp130-132, 真興交易 (株) 医書出版部.
- 101) 鈴木規仁: [分担] 第1章 術前合併症の評価と対策 その他 2) ショック. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp154-156, 真興交易医書出版部.
- 102) 鈴木規仁: [分担] 第2章 特殊なモニタリング・ME機器 5) 呼気ガスモニター. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp185-187, 真興交易医書出版部.
- 103) 鈴木規仁: [分担] 第3章 特殊な手術症例の周術期管理 循環器外科 4) 胸腹部大動脈瘤. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp215-216, 真興交易医書出版部.
- 104) 鈴木規仁: [分担] 第3章 特殊な手術症例の周術期管理 消化器外科 5) 虚血性腸炎. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp242-244, 真興交易医書出版部.
- 105) 鈴木規仁: [分担] 第3章 特殊な手術症例の周術期管理 整形外科 3) 頸椎前方固定. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp271-273, 真興交易医書出版部.
- 106) 鈴木規仁: [分担] 第3章 特殊な手術症例の周術期管理 産科 4) 帝王切開. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp302-304, 真興交易医書出版部.
- 107) 鈴木規仁: [分担] 第3章 特殊な手術症例の周術期管理 泌尿器外科 1) TUR手術. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp330-331, 真興交易医書出版部.
- 108) 鈴木規仁: [分担] 第3章 特殊な手術症例の周術期管理 その他 2) 日帰り麻酔. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp358-360, 真興交易医書出版部.
- 109) 鈴木規仁: [分担] 第4章 術中合併症の評価と対策 末梢神経損傷. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp389-391, 真興交易医書出版部.
- 110) 竹田晋浩: [分担] 第6章 外科系集中治療 呼吸管理. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp414-428, 真興交易医書出版部.
- 111) 竹田晋浩: [分担] 第6章 外科系集中治療 SIRSとSepsis. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp446-453, 真興交易医書出版部.
- 112) 寺嶋克之: [分担] 第1章 術前合併症の評価と対策 循環器疾患 3) 虚血性心疾患. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008; pp16-19, 真興交易医書出版部.
- 113) 寺嶋克之: [分担] 第1章 術前合併症の評価と対策 呼吸器疾患 6) 気管の異常. 周術期診療のポイントマ



- ニユアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp43-46, 真興交易医書出版部.
- 114) 寺嶋克之:〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 肝疾患 2) 門脈・脈管系の異常. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp72-74, 真興交易医書出版部.
- 115) 寺嶋克之:〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 血液疾患 4) 血小板の異常. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp98-100, 真興交易医書出版部.
- 116) 寺嶋克之:〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 神経・筋疾患 周期性四肢麻痺. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp126-127, 真興交易医書出版部.
- 117) 寺嶋克之:〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 神経・筋疾患 13) てんかん. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp149-151, 真興交易医書出版部.
- 118) 寺嶋克之:〔分担〕第2章 特殊なモニタリング・ME機器 3) 心拍出量測定. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp179-182, 真興交易医書出版部.
- 119) 寺嶋克之:〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 循環器外科 2) オフポンプ冠動脈再建術. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp210-212, 真興交易医書出版部.
- 120) 寺嶋克之:〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 消化器外科 3) 食道癌手術. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp236-238, 真興交易医書出版部.
- 121) 寺嶋克之:〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 整形外科 1) 大腿骨頸部骨折. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp265-267, 真興交易医書出版部.
- 122) 寺嶋克之:〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 産科 2) 妊娠中毒症. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp296-298, 真興交易医書出版部.
- 123) 寺嶋克之:〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 小児外科 6) 二分脊椎. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp325-327, 真興交易医書出版部.
- 124) 寺嶋克之:〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 救急外科 5) 腹部コンパートメント症候群. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp352-355, 真興交易医書出版部.
- 125) 寺嶋克之:〔分担〕第4章 術中合併症の評価と対策 高K血症. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp384-386, 真興交易医書出版部.
- 126) 赤田信二:〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 循環器疾患 6) 心筋症. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp25-27, 真興交易医書出版部.
- 127) 赤田信二:〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 呼吸器疾患 9) 挿管困難症. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp52-54, 真興交易医書出版部.
- 128) 赤田信二:〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 肝疾患 5) 肝代謝異常. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp79-80, 真興交易医書出版部.
- 129) 赤田信二:〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 自己免疫性疾患 1) 慢性関節リウマチ. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp106-108, 真興交易医書出版部.
- 130) 赤田信二:〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 神経・筋疾患 5) 筋萎縮性側索硬化症. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp133-134, 真興交易医書出版部.
- 131) 赤田信二:〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 その他 3) 感染症. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp157-159, 真興交易医書出版部.
- 132) 赤田信二:〔分担〕第2章 特殊なモニタリング・ME機器 6) 筋弛緩モニター. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp188-190, 真興交易医書出版部.
- 133) 赤田信二:〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 循環器外科 5) 急性大動脈解離. 周術期診療のポ

- イントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp217-218，真興交易医書出版部。
- 134) 赤田信二：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 消化器外科 6) 腹膜炎手術。周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp245-246，真興交易医書出版部。
- 135) 赤田信二：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 整形外科 4) 腹臥位脊椎手術。周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp274-275，真興交易医書出版部。
- 136) 赤田信二：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 周産期外科 5) 前置胎盤。周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp305-307，真興交易医書出版部。
- 137) 赤田信二：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 泌尿器外科 2) 腎摘出術。周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp332-333，真興交易医書出版部。
- 138) 赤田信二：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 救急外科 4) フルニエ症候群。周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp350-351，真興交易医書出版部。
- 139) 赤田信二：〔分担〕第4章 術中合併症の評価と対策 バックギング・吃逆。周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp392-393，真興交易医書出版部。
- 140) 幸田修典：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 循環器疾患 8) ベースメーカー・ICD。周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp31-32，真興交易医書出版部。
- 141) 幸田修典：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 内分泌・代謝疾患 2) 糖尿病。周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp58-60，真興交易医書出版部。
- 142) 幸田修典：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 腎疾患 1) 急性腎機能障害。周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp83-85，真興交易医書出版部。
- 143) 幸田修典：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 自己免疫性疾患 3) SLE。周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp112-114，真興交易医書出版部。
- 144) 幸田修典：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 神経・筋疾患 7) 側彎症。周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp137-138，真興交易医書出版部。
- 145) 幸田修典：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 その他 5) 精神疾患。周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp163-165，真興交易医書出版部。
- 146) 幸田修典：〔分担〕第2章 特殊なモニタリング・ME機器 9) 加温加湿器。周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp194-196，真興交易医書出版部。
- 147) 幸田修典：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 呼吸器外科 2) 気管内手術。周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp222-223，真興交易医書出版部。
- 148) 幸田修典：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 脳神経外科 2) 脳動脈瘤。周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp250-252，真興交易医書出版部。
- 149) 幸田修典：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 移植外科 1) 骨髄採取術。周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp279-281，真興交易医書出版部。
- 150) 幸田修典：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 周産期外科 7) 妊娠合併手術。周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp311-313，真興交易医書出版部。
- 151) 幸田修典：〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 泌尿器外科 4) 尿路変更術。周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp336-338，真興交易医書出版部。
- 152) 幸田修典：〔分担〕第4章 術中合併症の評価と対策 低酸素血症。周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp367-369，真興交易医書出版部。
- 153) 幸田修典：〔分担〕第5章 術後管理 PONV。周術期診療のポイントマニュアル（監修：坂本篤裕，編集：中西一浩，竹田晋浩），2008；pp403-405，真興交易医書出版部。
- 154) 三井誠司：〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 呼吸器疾患 1) 喫煙。周術期診療のポイントマニュアル



- ル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp33-34, 真興交易医書出版部.
- 155) 三井誠司:〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 内分泌代謝疾患 3) 下垂体の異常. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp61-62, 真興交易医書出版部.
- 156) 三井誠司:〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 腎疾患 2) 慢性腎機能障害. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp86-88, 真興交易医書出版部.
- 157) 三井誠司:〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 自己免疫性疾患 4) 全身性強皮症. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp115-116, 真興交易医書出版部.
- 158) 三井誠司:〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 神経・筋疾患 8) 多発性硬化症. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp139-140, 真興交易医書出版部.
- 159) 三井誠司:〔分担〕第1章 術前合併症の評価と対策 その他 6) ポルフィリン症. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp166-168, 真興交易医書出版部.
- 160) 三井誠司:〔分担〕第2章 特殊なモニタリング・ME機器 9) 急速輸液装置. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp197-199, 真興交易医書出版部.
- 161) 三井誠司:〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 呼吸器外科 3) 気管再建術. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp224-226, 真興交易医書出版部.
- 162) 三井誠司:〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 脳神経外科 3) 脳動脈奇形. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp253-255, 真興交易医書出版部.
- 163) 三井誠司:〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 移植外科 2) 腎移植. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp282-284, 真興交易医書出版部.
- 164) 三井誠司:〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 小児外科 1) 唇裂・口蓋裂. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp314-315, 真興交易医書出版部.
- 165) 三井誠司:〔分担〕第3章 特殊な手術症例の周術期管理 泌尿器外科 5) Brachytherapy. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp339-341, 真興交易医書出版部.
- 166) 三井誠司:〔分担〕第4章 術中合併症の評価と対策 術中心停止. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp370-372, 真興交易医書出版部.
- 167) 三井誠司:〔分担〕第5章 術後管理 術後高血圧. 周術期診療のポイントマニュアル (監修:坂本篤裕, 編集:中西一浩, 竹田晋浩), 2008 ; pp406-407, 真興交易医書出版部.
- 168) 竹田晋浩:〔分担〕肺循環の異常, 心原性肺水腫, 呼吸器症候群, 第2版 (監修 工藤翔二), 2009 ; pp21-217, 日本臨床社.
- 169) 竹田晋浩:〔分担〕麻酔科医と救急医療. 麻酔科学レビュー2009 (監修:天羽啓介), 2009 ; pp208-211, 総合医学社.
- 170) 坂本篤裕:〔分担〕心・血管作動薬. 麻酔科学レビュー2009 (監修:天羽敬祐), 2009 ; pp19-25, 総合医学社.
- 171) 竹田晋浩:〔分担〕集中治療CCU. 経静脈治療オーダーマニュアル'09 (編集 和田孝雄, 小川 龍, 林田憲明, 島崎修次, 飯野靖彦), 2009 ; pp437-440, メディカルレビュー社.

## 学会発表

〔追加分〕

追加分セミナー:

- 1) 中西一浩:周術期管理における心房性ナトリウム利尿ペプチド投与の可能性. 日本集中治療医学会学術集会 (第35回), 2008. 2.

追加分一般講演:

- 1) 篁 武郎:アトピー性皮膚炎の治療症例 (温清飲, 荊芥連翹湯, 小青竜湯合方による清熱, 補血, 解表, 宣肺).

日本東洋医学会山形県部会（第11回），2007. 3.

- 2) 篁 武郎：慢性虫垂炎と診断されて手術された症例（桂枝加芍薬湯合真武湯）. 日本東洋医学会山形県部会（第12回），2008. 3.

(1) 特別講演：

- 1) 坂本篤裕：周術期 $\beta$ 遮断薬使用の理論と実際. さいたま周術期管理研究会，2008. 4.
- 2) 坂本篤裕：周術期管理における $\beta$ 遮断薬への期待. 信州周術期循環管理研究会，2008. 9.
- 3) 坂本篤裕： $\beta$ 遮断薬と周術期治療戦略. 福島周術期アカデミー2008，2008. 10.
- 4) 坂本篤裕： $\beta$ 遮断薬の周術期における使用意義. 郡山周術期研究会，2008. 11.
- 5) 坂本篤裕：周術期における $\beta$ 遮断薬の有用性. 並木麻酔研究会（第6回），2009. 1.
- 6) 坂本篤裕：周術期における $\beta$ 遮断薬の有用性. 臨床外科学術講演会（第2回），2009. 2.
- 7) 坂本篤裕：電気痙攣療法の麻酔. 首都圏ECTネットワーク研究会（第1回），2009. 2.

(2) 教育講演：

- 1) 坂本篤裕：周術期 $\beta$ 遮断薬使用の理論と実際. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会（第17回），2008. 8.
- 2) 金 徹：補助循環作動時の麻酔科医の役割. 日本臨床麻酔学会大会（第28回），2008. 11.
- 3) 坂本篤裕：電気痙攣療法の麻酔. 日本総合病院精神医学会2008年度専門医講習会，2008. 11.
- 4) 坂本篤裕：医療機器の進歩；非侵襲的患者動態測定装置. 救急隊員学術研究会（第46回），2009. 2.

(3) シンポジウム：

- 1) 中西一浩：周術期における炎症性サイトカインと心収縮・拡張機能の変動. 日本外科系連合学会学術集会（第33回），2008. 5.
- 2) 坪光祥晃，竹田晋浩<sup>1)</sup>，本郷 卓<sup>1)</sup>，三井誠司<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>，坂本篤裕（<sup>1)</sup> 附属病院集中治療室）：外科手術後のALIに対するNPPVについて. 日本呼吸療法医学会学術総会（第30回），2008. 7.
- 3) 竹田晋浩：シンポジウム急性肺傷害（ALI）に対する非侵襲的陽圧換気（NPPV）. 最近の研究の紹介：ALIにたいするNPPV療法の現状を探る. 日本呼吸療法医学会学術総会（第30回），2008. 7.

(4) パネルディスカッション：

- 1) 坂本篤裕：臨床工学技士および専任薬剤師業務による医療機器・医薬品安全管理. 日本臨床麻酔学会大会（第28回），2008. 11.

(5) セミナー：

- 1) 坂本篤裕：周術期と $\beta$ 遮断薬；心保護効果への期待. 急性期循環管理セミナー，2008. 4.
- 2) 坂本篤裕：周術期管理における $\beta$ ブロッカーの有用性. 山口県周術期管理セミナー，2008. 4.
- 3) 坂本篤裕： $\beta$ 遮断薬による新たな治療戦略. 仙台心臓血管外科周術期管理セミナー，2008. 5.
- 4) 中西一浩：慢性心不全合併患者の周術期管理；心房性ナトリウム利尿ペプチド投与の意義. 日本麻酔科学会学術集会（第55回），2008. 6.
- 5) 中西一浩：進化するパルスオキシメータ；新パラメーターPleth Variability Index（PVI）による麻酔領域での有用性. 日本麻酔科学会学術集会（第55回），2008. 6.
- 6) 坂本篤裕：短時間作用型 $\beta$ 1遮断薬の潜在的有用性と治療戦略. 日本麻酔科学会学術集会（第55回），2008. 6.
- 7) 坂本篤裕：周術期管理における $\beta$ ブロッカーの展望. 愛宕外科侵襲・栄養セミナー（第1回），2008. 6.
- 8) 坪光祥晃，竹田晋浩<sup>1)</sup>，三井誠司<sup>1)</sup>，川口宏志，伊藤公亮，本郷 卓<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>，坂本篤裕（<sup>1)</sup> 附属病院集中治療室）：APRVの使用経験. 日本呼吸療法医学会学術総会（第30回），2008. 7.
- 9) 坂本篤裕：新たなパルスオキシメータ指標とその応用. バイタルサインセミナーin浜松，2008. 11.
- 10) 坪光祥晃，竹田晋浩：NPPV中のメンタルケアと不隠時の対応. 急性期NPPV研究会（第8回），2008. 12.
- 11) 竹田晋浩：ALI/ARDS. Open lung approachを成功させるために. Open lung toolとneurallyadjusted ventila-

- tory assist (NAVA), 日本集中治療医学会学術集会 (第36回), 2009. 2.
- 12) 竹田晋浩: Noninvasive ventilation. 急性心原性肺水腫のエビデンス. 日本集中治療医学会学術集会 (第36回), 2009. 2.
  - 13) 坂本篤裕: 周術期管理における $\beta$ 遮断薬の有用性. 成田地区周術期管理セミナー (第2回), 2009. 2.
  - 14) 坂本篤裕: 周術期管理における $\beta$ 遮断薬の有用性. 川越周術期管理セミナー, 2009. 3.
- (6) ワークショップ:
- 1) 坪光祥晃, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 本郷 卓<sup>1)</sup>, 三井誠司<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup> (付属病院集中治療室): 術後ALIに対するNPPVの治療成績. 日本集中治療医学会学術集会 (第36回), 2009. 2.
  - 2) 野口裕幸<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup> (付属病院ME部): 当院高度救命救急センターにおける臨床工学技士のかかわりについて. 日本医工学治療学会学術大会 (第24回), 2008. 5.
  - 3) 金 徹: GANZ -Proper usage of GANZ, or PA catheter- (麻酔専門医の必須テクニックシリーズ-2 ~ Aライン・CVPライン/SGカテの挿入, SEP, MEP). 日本麻酔科学会学術集会 (第55回), 2008. 6.
  - 4) 野口裕幸<sup>1)</sup>, 鎌田隆行<sup>1)</sup>, 前田美紀<sup>1)</sup>, 黄川田信允<sup>1)</sup>, 高田友人<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>2)</sup>, 竹田晋浩<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup> (付属病院ME部, <sup>2)</sup> 付属病院集中治療室): CRRTからの離脱. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第17回), 2008. 9.
- (7) 一般講演:
- 1) 佐藤千代, 金 徹, 岸川洋昭, 鈴木規仁, 中西一浩, 坂本篤裕: 手術枠使用実績の視覚化による使用率改善効果. 日本手術医学会総会 (第30回), 2008. 9.
  - 2) 鈴木規仁, 岸川洋昭, 金 徹, 中西一浩, 坂本篤裕: 中枢痛におけるガバペンチンの効果. 日本ペインクリニック学会 (第42回), 2008. 7.
  - 3) 鈴木規仁, 岸川洋昭, 金 徹, 坂本篤裕: ベンゾジアゼピン併用患者におけるフルマゼニルを使用した電気痙攣療法. 日本臨床麻酔学会大会 (第28回), 2008. 11.
  - 4) 岸川洋昭, 岡部 格, 佐藤千代, 小林克也, 鈴木規仁, 金 徹, 中西一浩, 坂本篤裕: がん性疼痛に対するケタミン・オピオイド併用持続静注投与の効果. 日本臨床麻酔学会大会 (第28回), 2008. 11.
  - 5) 土屋直俊<sup>1)</sup>, 鈴木健一<sup>1)</sup>, 粟屋俊輔<sup>1)</sup>, 鈴木 完<sup>1)</sup>, 高橋真弓<sup>1)</sup>, 三宅直樹<sup>1)</sup>, 杉山千紘<sup>1)</sup>, 横山大祐<sup>1)</sup>, 野口裕幸<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup> (付属病院ME部): ICDリード断線により再手術に至った1症例. 植え込みデバイス関連冬季大会 (第1回), 2008. 4.
  - 6) 吉田結富子, 中里桂子, 竹森 健, 小林克也, 坂本篤裕: Propofolとdexmedetomidineによる脳内circadian geneの発現. 日本麻酔科学会学術集会 (第55回), 2008. 5.
  - 7) 岡部 格, 岸川洋昭, 鈴木規仁, 中西一浩, 坂本篤裕: 癌化学療法に起因する末梢神経障害に対する治療経験. 日本麻酔科学会学術集会 (第55回), 2008. 6.
  - 8) 中里桂子, 吉田結富子, 竹森 健, 小林克也, 坂本篤裕: セボフルラン, イソフルラン麻酔後のラット肝臓における薬物代謝系遺伝子発現への影響. 日本麻酔科学会学術集会 (第55回), 2008. 6.
  - 9) 中西一浩, 竹田晋浩, 金 徹, 坪光祥晃, 伊藤公亮, 坂本篤裕: 心臓手術における術中の $\beta$ 遮断薬投与は術後心房細動の発症を抑制する. 日本麻酔科学会学術集会 (第55回), 2008. 6.
  - 10) 川口宏志, 寺嶋克幸, 坂本篤裕: 挿管困難予測症例に対するIntubating laryngeal maskとAirway scopeの比較. 日本麻酔科学会学術集会 (第55回), 2008. 6.
  - 11) 坪光祥晃, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 三井誠司<sup>1)</sup>, 本郷 卓<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup> (付属病院集中治療室): 右肺全摘後に急性大動脈解離を発生し術後呼吸管理に難渋した1症例. 日本呼吸療法医学会学術総会 (第30回), 2008. 7.
  - 12) 岡部 格, 岸川洋昭, 中西一浩, 深田陽子<sup>1)</sup>, 加藤あゆみ<sup>1)</sup> (1) (付属病院緩和ケアチーム): 中枢性疼痛の急性発作に対し塩酸デクスメドミジンとプロポフォールの少量持続投与が有効であった1例. 日本緩和医療学会

学術集会（第13回），2008. 7.

- 13) 坪光祥晃，竹田晋浩<sup>1)</sup>，本郷 卓<sup>1)</sup>，三井誠司<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>，坂本篤裕<sup>1)</sup>（付属病院集中治療室）：シンポジウム急性肺傷害（ALI）に対する非侵襲的陽圧換気（NPPV）＜外科手術後＞. 日本呼吸療法医学会学術総会（第30回），2008. 7.
- 14) 金 徹，岸川洋昭，鈴木規仁，中西一浩，坂本篤裕：急性骨髄性白血病寛解期に発症した三叉神経領域の帯状疱疹に星状神経節ブロックが奏効した1症例. 日本ペインクリニック学会（第42回），2008. 7.
- 15) 岸川洋昭，岡部 格，鈴木規仁，金 徹，中西一浩，坂本篤裕：がん性疼痛に対するガバペンチンの使用経験. 日本ペインクリニック学会（第42回），2008. 7.
- 16) 黄川田信允<sup>1)</sup>，鈴木 完<sup>1)</sup>，前田美紀<sup>1)</sup>，河野里枝<sup>1)</sup>，鎌田隆行<sup>1)</sup>，野口裕幸<sup>1)</sup>，坂本篤裕<sup>1)</sup>（付属病院ME部）：ALSの著効により救命し得た劇症肝不全の1例. 日本臨床工学会（第18回），2008. 8.
- 17) 伊藤裕子，吉田結富子，守 真輝，小林克也，中西一浩，坂本篤裕：同一患者への覚醒下ラリソマイクロ手術における2回の麻酔経験. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会（第48回），2008. 9.
- 18) 伊藤裕子，寺嶋克幸，鈴木規仁，坂本篤裕：変形開脚位による術後の右腓骨神経麻痺の1症例と文献的考察. 日本手術医学会総会（第30回），2008. 9.
- 19) 杖下隆哉，中谷英彦，鈴木規仁，寺嶋克幸，坂本篤裕：術中体位が原因と考えられる術後腕神経叢麻痺の1症例. 日本手術医学会総会（第30回），2008. 9.
- 20) 大江裕美子，金 徹，杖下隆哉，岸川洋昭，鈴木規仁，坂本篤裕：術直後の急性肝機能障害増悪中に：イソフルランで安全に麻酔管理が出来た再手術の1例. 日本臨床麻酔学会（第28回），2008. 10.
- 21) 中里桂子，吉田結富子，守 真輝，赤田信二，本郷 卓，竹田晋浩，坂本篤裕：コルホルシン・ダロパート（アデル）が奏功した低心機能，透析のCABG術後の1症例. 日本心臓血管麻酔学会（第13回），2008. 11.
- 22) 中里桂子，金 徹，竹内純平，坂本篤裕：閉鎖循環下抗癌剤灌流療法（NIPP）中，肺水腫となった1症例. 日本臨床麻酔学会大会（第28回），2008. 11.
- 23) 四方友美，杖下隆哉，竹森 健，鈴木規仁，金 徹，坂本篤裕：妊娠中に感染性心内膜炎を発症し，緊急帝王切開術を施行された1例. 日本心臓血管麻酔学会（第13回），2008. 11.
- 24) 杖下隆哉，赤田信二，佐藤千代，小泉有美馨，坂本篤裕：腹腔鏡補助下低位前方切除術後に正中神経支配領域の知覚麻痺を生じた1例. 日本臨床麻酔学会大会（第28回），2008. 11.
- 25) 竹内純平，金 徹，竹森 健，小泉有美馨，岸川洋昭，鈴木規仁，中西一浩，坂本篤裕：全身麻酔にレミフェンタニルを併用すると尿量が増加するか？. 日本臨床麻酔学会大会（第28回），2008. 11.
- 26) 金 徹，三井誠司，本郷 卓，中西一浩，竹田晋浩，坂本篤裕：術中投与薬剤がOff pump CABGの輸液・輸血管理に与える影響. 日本心臓血管麻酔学会（第13回），2008. 11.
- 27) 黄川田信允<sup>1)</sup>，前田範子<sup>1)</sup>，横堀将司<sup>2)</sup>，白石振一郎<sup>2)</sup>，宮内雅人<sup>2)</sup>，横田裕行<sup>2)</sup>，木山輝郎<sup>3)</sup>，滝沢隆雄<sup>3)</sup>，田尻 孝<sup>3)</sup>，徳永 昭<sup>3)</sup>，坂本篤裕<sup>1)</sup>（付属病院ME部），<sup>2)</sup> 付属病院高度救命救急センター，<sup>3)</sup> 付属病院外科）：急性一酸化炭素中毒の治療症例と治療プロトコルの検討. 日本高血圧環境・潜水医学学会学術総会（第43回），2008. 11.
- 28) 川口宏志，竹田晋浩，坪光祥晃，伊藤公亮，三井誠司，本郷 卓，中西一浩，坂本篤裕：CABG後に難治性心房細動に至った1例. 日本心臓血管麻酔学会学術大会（第13回），2008. 11.
- 29) 吉田結富子，中里桂子，守 真輝，赤田信二，岸川洋昭，本郷 卓，竹田晋浩，坂本篤裕：僧帽弁置換術後左室破裂を来し救命し得た2症例. 日本心臓血管麻酔学会学術集会（第13回），2008. 11.
- 30) 吉田結富子，金 徹，杖下隆哉，岸川洋昭，鈴木規仁，寺嶋克幸，坂本篤裕：超音波ガイド下穿刺をおこなったところ，右内頸静脈血栓がみつかった症例. 日本臨床麻酔学会大会（第28回），2008. 11.
- 31) 小林克也，竹田晋浩，竹森 健，三井誠司，本郷 卓，中西一浩，坂本篤裕：心臓血管外科手術後の低酸素血症に対するNPPVの有効性. 日本心臓血管麻酔学会学術大会（第13回），2008. 11.



- 32) 中里桂子, 鈴木規仁, 岸川洋昭, 吉田結富子, 三井誠司, 本郷 卓, 竹田晋浩, 坂本篤裕: 麻酔導入後に換気不全となり, 気管軟化症が疑われたFallot四徴症根治術後の1症例. 日本集中治療医学会学術集会 (第36回), 2009. 2.
- 33) 伊藤裕子, 鎌形千尋, 中谷英彦, 三井誠司<sup>1)</sup>, 本郷 卓<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 (1) 付属病院集中治療室): 頸部膿瘍からのショックに対し早期気管切開術による周術期管理が奏効した2症例. 日本集中治療医学会学術集会 (第36回), 2009. 2.
- 34) 鎌形千尋, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 中谷英彦, 伊藤裕子, 三井誠司<sup>1)</sup>, 本郷 卓<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 (1) 付属病院集中治療室): NPPVとシベレスタット投与により胸腔穿刺後の再膨張性肺水腫を予防しえた2症例. 日本集中治療医学会学術集会 (第36回), 2009. 2.
- 35) 金 徹, 佐藤千代, 岸川洋昭, 鈴木規仁, 坂本篤裕, 吉村明修<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学教育推進室): 気管挿管シミュレーションの問題点について. モデル&シミュレーション医学教育研究会 (第5回), 2009. 2.
- 36) 吉村明修<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 阿曾亮子<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>1)</sup>, 金 徹, 森本泰介<sup>1)</sup>, 明楽重夫<sup>2)</sup>, 新田 隆<sup>2)</sup>, 高岡雅子<sup>3)</sup>, 竹原典子<sup>3)</sup>, 早坂百合子<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学教育推進室, 2) 付属病院研修管理委員会, 3) 付属病院看護部): 新研修医の臨床技能教育のためのクリニカル・シミュレーション・ラボ (C. S. Lab) 講習会. モデル&シミュレーション医学教育研究会 (第5回), 2009. 2.
- 37) 小泉有美馨, 金 徹, 竹森 健, 小林克也, 杖下隆哉, 坂本篤裕, 吉村明修<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学教育推進室): シミュレーションによる超音波ガイド下中心静脈カテーテル留置術講習の意義. モデル&シミュレーション医学教育研究会 (第5回) (東京), 2009. 2.
- 38) 川口宏志, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 伊藤公亮, 坪光祥晃, 三井誠司<sup>1)</sup>, 本郷 卓<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 (1) 付属病院集中治療室): 川崎病罹患後巨大冠動脈瘤の血栓閉塞による急性心筋梗塞に対し, IABP挿入し緊急CABGを施行した1例. 日本集中治療医学会学術集会 (第36回), 2009. 2.
- 39) 中谷英彦, 鎌形千尋, 伊藤裕子, 三井誠司, 本郷 卓, 竹田晋浩, 坂本篤裕: 一時的な高二酸化炭素血症に続発した遷延性意識障害に対して浸透圧利尿薬が奏効した2症例. 日本集中治療医学会学術集会 (第36回), 2009. 2.
- 40) 篁 武郎: 眼痛を伴う顔面痙攣の1例 (抑肝散加陳皮半夏合真武湯). 日本東洋医学会山形県部会 (第13回), 2009. 3.
- 41) 大江裕美子, 飯島典生<sup>1)</sup>, 小澤一史<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学大学院医学研究科生体制御形態科学分野): 吸入麻酔薬セボフルランは時計遺伝子*mPer2*の発現を抑制する. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第114回), 2009. 3.
- (8) ポスター:
- 1) 戸田 繁, 寺嶋克幸, 坂本篤裕: 術後人工呼吸管理を必要とする危険因子の検討. 日本麻酔科学会学術集会 (第55回), 2008. 6.
- (9) ポスター発表:
- 1) 竹森 健, 古市昌之, 坂本篤裕: 僧帽弁・三尖弁形成術後に術前からの心室中隔欠損症が判明した1症例. 日本心臓血管麻酔学会 (第13回), 2008. 11.
- 2) 竹森 健, 本郷 卓<sup>1)</sup>, 三井誠司<sup>1)</sup>, 戸田 繁, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 (1) 付属病院集中治療室): 左房浸潤を伴った肺癌に対して人工心肺下での肺切除および左房合併切除を行った患者の術後管理経験. 日本集中治療医学会学術集会 (第36回), 2009. 2.



## [武蔵小杉病院麻酔科]

### 研究概要

慢性的なマンパワー不足の中、武蔵小杉病院麻酔科では主に臨床に即した研究を行っている。医局員が日常の麻酔-ペイン業務で遭遇する種々の問題、疑問より発生起案したテーマをもとにチームを編成し研究を進めている。従って臨床にすぐ反映され、有益となる研究テーマであるという特徴を有している。食道がん、肺がん等の開胸手術における侵襲防御、産科領域の麻酔管理法、気道管理法は当科の長年のテーマであり継続的な研究を行っている。特に産科麻酔領域は帝王切開術だけでも年間250例以上と付属4病院の中でも有数の症例数である。この領域は非常に緊急性を伴う手術であるにもかかわらず、国により、国内でも施設により差があり、本邦におけるスタンダードといえる麻酔管理も確立していない。日本麻酔科学会でも今後の重要課題として提起されており、今後も当科研究活動の柱として位置付けられるものである。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Bito H<sup>1,2)</sup>, Suzuki M<sup>1,2)</sup>, Shimada Y<sup>1,2)</sup> : Combination of Thoracic Epidural Anesthesia Does Not Always Induce Hypothermia during General Anesthesia. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (2) : 85-90.

##### (2) 症例報告：

- 1) 阿部拓吉<sup>1)</sup>, 山崎 謙<sup>1)</sup>, 藤下彰彦<sup>1)</sup>, 米澤敏郎<sup>1)</sup>, 赤羽日出男, 三橋 明<sup>1)</sup>, 山口重貴<sup>1)</sup> (1) 東戸塚記念病院 整形外科) : 化膿性外閉鎖筋炎の1例. 昭和医学会雑誌 2008 ; 68 (2) : 138-138.
- 2) 赤羽日出男, 山崎 謙<sup>1)</sup>, 玉置 聡<sup>2)</sup>, 米澤俊郎, 神崎浩二 (1) 東戸塚記念病院整形外科, 2) 昭和大学藤が丘病院整形外科) : 腰椎椎間板嚢腫の治療経験 . 神奈川整形災害外科研究会雑誌 2009 ; 21 (3) : 51-51.

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 鈴木万三, 尾藤博保, 稲木敏一郎, 坂本光太郎, 島田洋一 : 原発性肺がん手術における麻酔管理と再発率の関係. 日本麻酔科学会 (第55回), 2008. 6.
- 2) 加藤久美子, 尾藤博保, 鈴木万三 : 下部消化管穿孔手術中の急激なSPO2の低下に対しシベラストットの投与が奏功した症例. 日本臨床麻酔学会 (第28回), 2008. 11.
- 3) 菅野 元, 尾藤博保, 鈴木万三 : 腹腔鏡下卵巣手術中の気胸の1症例. 日本臨床麻酔学会 (第28回), 2008. 11.
- 4) 坂本光太郎, 尾藤博保, 鈴木万三 : 電気メス使用時に電磁干渉を起こしたペースメーカー埋め込み患者の1例. 日本臨床麻酔学会 (第28回), 2008. 11.

##### (2) 研究会：

- 1) 稲木敏一郎 (1) 武蔵小杉病院麻酔科) : 食道癌手術における塩酸オルプリノン投与と術後血清ビリルビン値の推移. 第2回周術期PDEIII阻害薬研究会, 2009. 2.

## [多摩永山病院麻酔科]

### 研究概要

昨年度はスタッフの不足と施術件数の増加により、多忙な診療活動に追われたものの、引き続き地道な研究活動を行ってきた。

ペインクリニック領域においては、筋筋膜痛症候群、顎関節症を対象とした、新しい神経ブロック法を考案し、基

礎的研究を継続し診療に応用している。一定の成果を挙げており、昨年度は国際学会においてその一部を発表した。

さらに、複合性局所疼痛症候群などの難治性疼痛に対しては、エビドラスコピー、透視下神経根ブロック、高周波熱凝固、硬膜外脊髄刺激電極埋め込み術、脊髄くも膜下持続カテーテル挿入および薬液注入ポート埋め込み術などを積極的に施行し、その成果を発表している。こうした手技の向上に相まって外来患者数は増加の一方である。

手術麻酔においては、気管挿管時の咽喉等の位置および形状を解析し、成果を国際学会及び学会誌に発表した。その解析と同時に開発を行なった新たな喉頭鏡を本学 TLO センターを通じて特許出願し、また医療機器メーカーから市販するに至り、高い評価を受けている。

さらに、近年本邦でも市販された作用、代謝時間の短い筋弛緩薬、オピオイド作動薬の効果判定について、末梢動脈カテーテルからの侵襲の少ない心拍出量測定装置、及び脳波を元にしたエントロピーをモニターとした検討を行っている。

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) Nishikawa K, Yamada K, Sakamoto A<sup>1)</sup> (1) Department of Anesthesiology, Nippon Medical School) : A New Curved Laryngoscope Blade for Routine and Difficult Tracheal Intubation. *Anesthesia & Analgesia* 2008 ; 107 (4) : 1248-1252.

### 学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 西川晃司：予期しない挿管困難症に新たな挑戦—新しい硬性曲型喉頭鏡（ダイナブレード）の開発（気道確保デバイスの進歩）。第33回日本外科系連合会学術集会，2008. 6.
- 2) 西川晃司：曲型喉頭鏡の原点からの再出発—新しい曲型ダイナブレードの開発について（マッキントッシュ型喉頭鏡は生き残るか？）。日本麻酔科学会関東甲信越東京支部第48回合同学術集会，2008. 9.

(2) 一般講演：

- 1) Nishikawa K : A New Modification of the Macintosh Blade for Routine and Difficult Tracheal Intubation. *American Society of Anesthesiologists 2008 Annual Meeting*,
- 2) Yamada K, Yamashiro M<sup>1)</sup>, Iino O, Nishikawa K (1) Dept. of Anesthesiology, Nippon Dental University, School of Life Dentistry At Tokyo, Japan) : Trigger point injections of the masseter muscle in the treatment of acute temporomandibular joint pain. *12th World Congress on Pain (Glasgow, Scotland)*, 2008. 8.
- 3) Nishikawa K, Iino O, Yamashiro M<sup>0,1)</sup>, Ishihara Y, Yamada K (1) Dept. of Anesthesiology, Nippon Dental University, School of Life Dentistry At Tokyo, Japan) : A new modification of the Macintosh blade for routine and difficult tracheal intubation. *2008 annual meeting of American society of anesthesiologists (Orlando, Florida)*, 2008. 10.
- 4) 西川晃司, 幸田真理子, 飯野 治, 山城三喜子<sup>1)</sup>, 山田光輝, 坂本篤裕<sup>2)</sup> (1) 日本歯科大学歯学部麻酔科, 2) 日本医科大学麻酔科) : 予期しない挿管困難症に新たな挑戦：新しい硬性曲型喉頭鏡の開発。日本麻酔科学会第55回学術集会，2008. 6.
- 5) 内木亮介, 水野幸一, 幸田真理子, 小林德行, 山田光輝, 坂本篤裕<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学麻酔科) : エビドラスコピーの合併症：術中予期し得なかった2症例。日本ペインクリニック学会第42回大会，2008. 7.
- 6) 水野幸一, 幸田真理子, 小林德行, 内木亮介, 山田光輝, 坂本篤裕<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学麻酔科) : 脊髄刺激により感音性難聴が改善した外傷性頸部症候群の1例。日本ペインクリニック学会第42回大会，2008. 7.

## [千葉北総病院麻酔科]

### 研究概要

依然、診療活動が多忙をきわめ、研究活動に専念する時間が少なくならざるを得ない状況が続いている。研究テーマは、日常診療に直結した臨床研究のみに限られてしまうが、昨年に引き続いて、気道管理、疼痛管理、薬物およびモニタリング、麻酔法などに関したものが取り上げられた。

気道管理では、新しい気道確保器具類について全員でその臨床評価を行っているほか、井上、後藤らを中心に気道評価法についての検討、模索が続けられている。

疼痛管理では、ペインクリニック診療や緩和医療に携わる益田、加藤らを中心に、各種薬物の効果、術後鎮痛での手法や薬物の選択について新たな知見が見出されてきている。麻酔中の薬物の使用法、術前の身体状況による生理学的影響の相違などについては、中嶋、小澤、神谷、辻本らが研究に参画している。医局全員が専門医であり、自身の経験を基盤として、異常な病態を示す症例として報告を行うべきかどうか、また新たな研究テーマが必要かどうかを常に念頭においた緻密な診療活動が行われているところである。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Toshiya S<sup>1)</sup>, Zen' ichiro W, Yoko O<sup>1)</sup> (1) Toho University School of Medicine) : Is operative delay associated with increased mortality of hip fracture patient s? Systematic review, meta-analysis, and meta-regression. Can J Anaesth 2008 ; 55 (3) : 146-154.
- 2) 吉澤一巳<sup>1, 2)</sup>, 益田律子<sup>2)</sup>, 木本陶子<sup>1, 2)</sup>, 濱田康次<sup>1)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup>, 藤岡久恵<sup>3)</sup>, 松丸雪江<sup>3)</sup>, 古山めぐみ<sup>2, 3)</sup>, 三浦剛史<sup>2)</sup>, 池森紀夫<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院薬剤科, 2) 日本医科大学千葉北総病院緩和ケアチーム, 3) 日本医科大学千葉北総病院看護部) : 入院がん患者に対する医療用麻薬の自己管理運用マニュアルの検討. 日本薬剤師会雑誌 (社) 日本病院薬剤師会 2008 ; 60 (7) : 1053-1055.
- 3) 益田律子 : 抗うつ薬, 抗てんかん薬 (特集・慢性疼痛の薬学的ケア). 薬事 2008 ; 50 (12) : 111-119.

##### (2) 総説：

- 1) 加藤信也, 益田律子 : 抗てんかん薬 : その適応と実際の使用. ペインクリニック 2008 ; 29 (4) : 633-644.
- 2) 益田律子 : 鎮痛補助薬 (特集 : 慢性疼痛診療ガイド). 治療 2008 ; 90 (7) : 2081-2086.
- 3) 益田律子 : 鎮痛補助薬. 日本薬剤師会雑誌 2008 ; 61 (2) : 169-174.
- 4) 井上哲夫 : 麻酔機器 : 気道確保器具, 気管チューブ, 点滴路 : (特集 : この50年間の麻酔の進歩). 臨床麻酔 2008 ; 32 (9) : 1477-1483.
- 5) 益田律子 : 海外における神経障害性疼痛に対する薬物治療指針の変遷. ペインクリニック 2008 ; 29 (9) : 1255-1266.
- 6) 輪嶋善一郎 : マグネシウム製剤について. 臨床麻酔 2008 ; 32 (9) : 1555-1555.
- 7) 井上哲夫 : 麻酔関連機器の標準化. 麻酔 2008 ; 57 (11) : 1327-1327.
- 8) 益田律子 : 病棟で実践する硬膜外鎮痛法・くも膜下鎮痛法. 日本臨床麻酔学会誌 2009 ; 129 (2) : 160-170.
- 9) 井上哲夫 : 硬膜外麻酔に用いる局所麻酔薬は高用量か低用量か (特集 : 区域麻酔のControversies). LiSA 2009 ; 16 (3) : 216-219.

#### 著書

- 1) 加藤信也, 益田律子 : [共著] 特集疼痛治療に用いる薬物 -Update- 抗てんかん薬 : その適応と実際の使用. ペインクリニック, 2008 ; pp633-644.

- 2) 井上哲夫：〔分担〕硬膜外麻酔．麻酔実践テキスト（武田純三，森田茂穂），2008；pp229-231，南江堂．
- 3) 益田律子：〔分担〕第77章 くも膜下ブロック．痛みの概念が変わった“新キーワード100+ a”（小川節郎編著），2008；pp190-201，真興交易医書出版部．
- 4) 益田律子：〔分担〕第78章 椎間関節ブロック．痛みの概念が変わった“新キーワード100+ a”（小川節郎編著），2008；pp193-195，真興交易医書出版部．
- 5) 益田律子：〔分担〕第79章 後枝内側枝ブロック．痛みの概念が変わった“新キーワード100+ a”（小川節郎編著），2008；pp196-198，真興交易医書出版部．
- 6) 益田律子：〔分担〕第80章 下垂体ブロック．痛みの概念が変わった“新キーワード100+ a”（小川節郎編著），2008；pp199-201，真興交易医書出版部．

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) 井上哲夫：気道確保機器，気管チューブ，点滴路（主題：この50年間の麻酔の進歩）．東京麻酔専門医会総会（東京），2008．7．
- 2) 井上哲夫：マッキントッシュ型喉頭鏡は生き残るか？（新しい気道確保：Pro & Con）．日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部 第48回合同学術集会（東京），2008．9．
- 3) 益田律子：神経障害性疼痛に対するペインクリニック．日本臨床麻酔学会第28回大会（京都），2008．11．

### (2) 一般講演：

- 1) Yoshizawa K<sup>1,3)</sup>，Masuda R<sup>2)</sup>，Kazumaki N<sup>3)</sup>，Narita M<sup>3)</sup>，Suzuki T<sup>3)</sup>，Fukuda K<sup>1)</sup>，Kimoto T<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Section of Pharmaceutical Service, Chiba-Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, Chiba, Japan, <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology, Chiba-Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, Chiba, Japan, <sup>3)</sup> Department of Toxicology, Hoshi University, Tokyo, Japan）：Low-dose Ketamine Reduces Demand for Opioids for Breakthrough pain Treatment. The International Narcotics Research Conference (INRC) 2008, (Charleston, South Carolina, USA), 2008. 7.
- 2) Masuda R, Kato N, Inoue T, Sakamoto A<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan）：Clinical Characteristics and Effect of Pharmacotherapy in 15 Spinal Cord Injury Pain Cases. 12th World Congress on Pain (Glasgow), 2008. 8.
- 3) Zen' ichiro W, Toshiya S<sup>1)</sup>，Kazuyuki I<sup>2)</sup>，Tetsuo I, Atsuhiro S<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> Toho University Ohashi Medical Center, <sup>2)</sup> Showa University Northern Yokohama Hospital, <sup>3)</sup> Nippon Medical School）：Assessment of the impact of post-anesthesia bed transfer on hemodynamics . American Society of Anesthesiologists 2008 Annual Meeting (Orlando, Florida, USA), 2008. 10.
- 4) Zen' ichiro W, Takeshi S, Kazuyuki I<sup>1)</sup>，Toshiya S<sup>2)</sup>，Tetsuo I, Atsuhiro S<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> Showa University, Northern Yokohama Hospital, <sup>2)</sup> Toho University Ohashi Medical Center, <sup>3)</sup> Nippon Medical School）：The effect of rapid crystalloid infusion on stroke volume variation after a preoperative fast. American Society of Anesthesiologists 2008 Annual Meeting (Orlando, Florida, USA), 2008. 10.
- 5) Kazuyuki I<sup>1)</sup>，Zen' ichiro W, Toshiya S<sup>2)</sup>，Makoto K<sup>1)</sup>，Kazuyuki S<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Showa University, Northern Yokohama Hospital, <sup>2)</sup> Toho University, Ohashi Medical Center）：Effect of infusion time on remifentanyl for propofol injection pain . International Anesthesia Research Society 2009 Annual Meeting (San Diego, California, USA), 2009. 3.
- 6) Zen' ichiro W, Kazuyuki I<sup>1)</sup>，Toshiya S<sup>2)</sup>，Tetsuo I, Atsuhiro S（<sup>1)</sup> Showa University 'Northern Yokohama Hospital, <sup>2)</sup> Toho University Ohashi Medical Center）：Is there continuity of stroke volume variation between mechanically ventilated and spontaneously breathing patients?. International Anesthesia Research

Society 2009 Annual Meeting (San Diego, California, USA), 2009. 3.

- 7) 益田律子, 加藤信也, 井上哲夫, 坂本篤裕<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院麻酔科): 脊髄損傷痛 13 症例における臨床像と薬物療法の効果. 日本麻酔科学会第 55 回大会 (横浜), 2008. 6.
- 8) 中島祐史, 辻本芳孝, 輪嶋善一郎, 益田律子, 井上哲夫, 坂本篤裕: プロポフォールを用いた修正型電気痙攣療法 mECT における電気刺激の至適時期の検討. 第 55 回日本麻酔科学会 (横浜), 2008. 6.
- 9) 益田律子, 加藤信也, 井上哲夫, 吉澤一巳<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院薬剤科): がん疼痛治療における PCA 機能付きデイスポーザブル製品を用いた PCA 単独回路の工夫と有用性. 日本ペインクリニック学会 (第 42 回大会) (福岡), 2008. 7.
- 10) 加藤信也: CRPS type 1 に対する星状神経節ブロックと直流電気鍼の併用療法. 第 60 回日本良導絡自律神経学会学術大会, 2008. 10.
- 11) 中島祐史, 設楽敏朗, 井上哲夫, 坂本篤裕: 脊椎外科において自己血回収装置における洗浄血により出血傾向を来したと考えられる症例の検討. 第 28 回日本臨床麻酔学会 (京都), 2008. 11.
- 12) 輪嶋善一郎, 志賀俊哉<sup>1)</sup>, 今永和幸<sup>2)</sup>, 井上哲夫, 坂本篤裕<sup>3)</sup> (1) 東邦大学大橋医療センター, 2) 昭和大学横浜市北部病院, 3) 日本医科大学付属病院): 麻酔後ベッド移動の循環動態に及ぼす影響. 日本臨床麻酔学会第 28 回大会 (京都), 2008. 11.
- 13) 輪嶋善一郎, 今永和幸<sup>1)</sup>, 志賀俊哉<sup>2)</sup>, 井上哲夫, 坂本篤裕<sup>3)</sup> (1) 昭和大学横浜市北部病院, 2) 東邦大学大橋医療センター, 3) 日本医科大学付属病院): 急速輸液の stroke volume variation (一回拍出量変動) に及ぼす影響. 日本臨床麻酔学会第 28 回大会 (京都), 2008. 11.
- 14) 今永和幸<sup>1)</sup>, 輪嶋善一郎, 志賀俊哉<sup>2)</sup>, 大江克憲<sup>1)</sup>, 宮本 諭<sup>1)</sup>, 小坂 誠<sup>1)</sup>, 鈴木尚志<sup>1)</sup>, 世良田和幸<sup>1)</sup> (1) 昭和大学横浜市北部病院, 2) 東邦大学大橋医療センター): 麻酔導入時のプロポフォール静注痛に対するレミフェンタニルの効果. 日本臨床麻酔学会第 28 回大会 (京都), 2008. 11.
- 15) 益田律子, 吉澤一巳<sup>1)</sup>, 加藤信也, 井上哲夫, 坂本篤裕<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 薬剤部, 2) 日本医科大学付属病院麻酔科): フェンタニ貼付剤使用者における突出痛対策に要する経静脈・経皮下オピオイド至適用量について. 第 23 回日本ペインクリニック学会東京地方会 (東京), 2009. 3.



## 18. 救急医学講座

### [付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩 永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック]

#### 研究概要

・外傷系 文部科学省科研費の獲得から出血性ショックモデルからの基礎的研究（増野，白石など），外科栄養学の基礎的研究から臨床応用などで多くの業績があった（佐藤，中田など）。さらに宮内はラット出血性ショックモデルにおけるマイクロRNA発言解析の研究で丸茂救急医学研究振興基金助成を受けた。以上の成果を関連学会の講演，院内研修医師への外傷診療教育，指導に反映させた。さらに，本邦の先駆けとなる Acute Care Surgery の学問体系を構築すべく，新たな学会立ち上げに努力した。

・整形系 寛骨臼骨折に対する新しい手術進入法について検討を行い，国内外の各学会で発表し，高い評価を得た。その評価は手術での見学者が多数であることから裏付けられている。

・脳神経外科系 重症脳血管障害，頭部外傷，頸髄損傷，および蘇生後脳症に関しての治療，頭蓋内循環代謝動態に関して臨床的，基礎的研究をした。この中で，横田や恩田は文部科学省の科研費を獲得し，診療研究を行い，さらに横堀らは損保協会から補助金を獲得し，高齢者頭部外傷に関する研究を行っている。一方，荒木らは小児頭部外傷の病態，特に虐待児頭部外傷の病態や診断，臨床的な対応法について研究を行い，各学会で発表した。

・災害医療 ミャンマーサイクロン災害現場に人材を派遣し，その成果を学会発表した。

・基礎研究 ショックに続発する多臓器障害の発症機序を解明することを研究課題として，腸間膜リンパ液に着目し研究を行った。さらに本学法医学教室と共同でMRIを用いたmetabolomicsで新しい分析医科学の手法を用いた出血性ショックの病態研究を行っている。

後期研修医，大学院生，研究生など研究する医師の多様な要望に答える研究体制を構築した。本邦の救急医学をリードするような人材を引き続き養成するために，常に新しく柔軟な発想で研究を行っている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Yokobori S, Masuno T, Suzuki T, Sato H, Araki T, Atsumi T, Kitazono M, Yokota H : Prognostic factor between young and elderly groups in a severe head injury - Significance of CPP management in geriatric head injured patients. 6th Congress of the international federation of shock societies 2008 ; 109-112.
- 2) Tsujii A<sup>1)</sup>, Nishino T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School) : Mechanism of Transition from Xanthine Dehydrogenase to Xanthine Oxidase : Effect of Guanidine-HCl or Urea on the Activity. Nucleosides, Nucleotides, and Nucleic Acids 2008 ; 27 (6-7) : 881-887.
- 3) Kushimoto S, Yokota H, Kawai M, Yamamoto Y : Management of the open abdomen - Usefulness of the bilateral anterior rectus abdominis sheath turnover flap method for early fascial closure. JMA journal 2008 ; 51 (4) : 272-277.
- 4) Gando S<sup>1)</sup>, Saitoh D<sup>1)</sup>, Ogura H<sup>1)</sup>, Mayumi T<sup>1)</sup>, Koseki K<sup>1)</sup>, Ikeda T<sup>1)</sup>, Ishikura H<sup>1)</sup>, Iba T<sup>1)</sup>, Ueyama M<sup>1)</sup>, Eguchi Y<sup>1)</sup>, Otomo Y<sup>1)</sup>, Okamoto K<sup>1)</sup>, Kushimoto S<sup>1, 2)</sup>, Endo S<sup>1)</sup>, Shimazaki S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> JAAMDIC study group, <sup>2)</sup> Department of Emergency and Crit Care Med, Nippon Medical School) : Natural history of disseminated intravascular coagulation diagnosed based on the newly established diagnostic criteria for critically ill patients : Results of a multicenter, prospective survey. Crit Care Med 2008 ; 36 : 145-150.

- 5) Endo S, Aikawa N, Fujishima S, Sekine I, Kogawa K, Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Kushimoto S<sup>1)</sup>, Yukioka H, Kato N, Totsuka K, Kikuchi H, Ikeda T, Ikeda K, Yamada H, Harada K, et al. (<sup>1)</sup> Department of Emergency and Crit Care Med, Nippon Medical School) : Usefulness of procalcitonin serum level for discrimination of severe sepsis from sepsis : a multicenter prospective study. *J Infect Chemother* 2008 ; 14 : 244-249.
  - 6) Kato K, Kimura A, Sasaki R, Kaneko N, Takeda M, Hagiwara A, Ogura S, Mizoguchi T, Matsuoka T, Ono H, Mitsuura K, Kushimoto S<sup>1)</sup>, Fuse A<sup>1)</sup>, Nakatani T, Iwase M, et al. (<sup>1)</sup> Department of Emergency and Crit Care Med, Nippon Medical School) : Cervical spinal cord injury without bony injury : a multicenter retrospective study of emergency and critical care centers in Japan. *J Trauma* 2008 ; 65 : 373-379.
  - 7) Kushimoto S<sup>1, 2)</sup>, Gando S<sup>2)</sup>, Saitoh D<sup>2)</sup>, Ogura H<sup>2)</sup>, Mayumi T<sup>2)</sup>, Koseki K<sup>2)</sup>, Ikeda T<sup>2)</sup>, Ishikura H<sup>2)</sup>, Iba T<sup>2)</sup>, Ueyama M<sup>2)</sup>, Eguchi Y<sup>2)</sup>, Otomo Y<sup>2)</sup>, Okamoto K<sup>2)</sup>, Endo S<sup>2)</sup>, Shimazaki S<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Emergency and Crit Care Med, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Japanese Association for Acute Medicine Disseminated Intravascular Coagulation (JAAM DIC) Study Group) : Clinical course and outcome of disseminated intravascular coagulation diagnosed by Japanese Association for Acute Medicine criteria : Comparison between sepsis and trauma. *Thromb Haemost* 2008 ; 100 : 1099-1105.
  - 8) Gando S<sup>2)</sup>, Saito D<sup>2)</sup>, Ogura H<sup>2)</sup>, Mayumi T<sup>2)</sup>, Koseki K<sup>2)</sup>, Ikeda T<sup>2)</sup>, Ishikura T<sup>2)</sup>, Iba T<sup>2)</sup>, Ueyama M<sup>2)</sup>, Eguchi Y<sup>2)</sup>, Otomo Y<sup>2)</sup>, Okamoto K<sup>2)</sup>, Kushimoto S<sup>1, 2)</sup>, Endo S<sup>2)</sup>, Shimazaki S<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Emergency and Crit Care Med, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Japanese Association for Acute Medicine Disseminated Intravascular Coagulation (JAAM DIC) Study Group) : Disseminated intravascular coagulation (DIC) diagnosed based on the Japanese Association for Acute Medicine criteria is a dependent continuum to overt DIC in patients with sepsis. *Thromb Res* 2009 ; 123 : 715-718.
  - 9) 三宅康史<sup>1)</sup>, 有賀 徹<sup>1)</sup>, 井上健一郎<sup>2)</sup>, 奥寺 敬<sup>3)</sup>, 北原孝雄<sup>4)</sup>, 島崎修次<sup>5)</sup>, 鶴田良介<sup>6)</sup>, 前川剛志<sup>6)</sup>, 横田裕行 (<sup>1)</sup> 昭和大学医学部救急医学, <sup>2)</sup> 井上病院, <sup>3)</sup> 富山大学医学部救急災害医学, <sup>4)</sup> 北里大学医学部救急医学, <sup>5)</sup> 杏林大学医学部救急医学, <sup>6)</sup> 山口大学医学部高度救命救急センター) : 熱中症の実態調査 : Heatstroke STUDY 2006 最終報告. *日本救急医学会雑誌* 2008 ; 19 : 309-321.
  - 10) 重村朋子, 横田裕行, 久志本成樹, 山本保博 : 臨床的脳死患者家族の心理過程に関する一考察. *脳死・脳蘇生* 2008 ; 20 : 63-67.
  - 11) 高山泰広<sup>1)</sup>, 桑本健太郎<sup>1)</sup>, 小関一英<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴, 横田裕行 (<sup>1)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター) : 頭部外傷に伴う凝固・線溶系障害の検討 : d-Dimer 値の意義を中心に, 神経外傷 2008 ; 31 : 32-36.
  - 12) 大泉 旭, 川井 真 : 開放骨折の治療 : 最近の考え方 : 開放骨折の軟部組織損傷の違いによる治療. *整形・災害外科* 2008 ; 51 (13) : 1655-1664.
  - 13) 久志本成樹, 柴田泰史<sup>1)</sup>, 宮内雅人, 鈴木崇生, 佐藤格夫, 増野智彦, 福田令雄, 白石振一郎, 川井 真, 横田裕行, 山本保博 (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院中央検査部) : 重症敗血症における血漿BNPレベルの変動には全身性炎症反応が関与する. *バイオメディカル* 2008 ; 18 : 43-51.
  - 14) 荒木 尚, 横田裕行, 山本保博, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : 小児重症頭部外傷治療の標準化. *Nervous System in Children* 2008 ; 33 : 367-375.
  - 15) 布施理美, 布施 明, 横田裕行 : 災害急性期における被災者のメンタルの問題点 : 新潟県中越沖地震における経験から. *東京都医師会雑誌* 2008 ; 61 (3) : 223-228.
  - 16) 荒木 尚 : 成人救命救急センターにおける小児外傷診療の取り組み. *Neurosurgical Emergencies* 2009.
- (2) 総説 :
- 1) 北薮雅敏, 横田裕行 : 頭部外傷とGH分泌不全. *内分泌・糖尿病科* 2008 ; 26 (4) : 396-401.
  - 2) 久志本成樹 : ICUにおける細菌感染症診断の新しいマーカーとしてのプロカルシトニン. *ICUとCCU* 2008 ; 32 : 199-207.

- 3) 島本千秋<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>(1)</sup> 大阪市立大学医学部付属病院救急科): 脳神経救急疾患の初期対応スタンダード 頭部外傷の対応. EMERGENCY CARE 2008; 21 (6): 546-551.
- 4) 小林士郎<sup>1)</sup>, 横田裕行, 益子邦洋<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 新・凶解救急・応急処置ガイドー脳死判定. Medical Practice 2008; 25: 1068-1081.
- 5) 横田裕行: 救急医学におけるシミュレータ. 人工臓器 2008; 37 (1): 76-80.
- 6) 横田裕行: 病院前からの脳卒中診療体制. ICUとCCU 2008; 23 (5): 347-355.
- 7) 横田裕行: 標準的蘇生法と脳蘇生. 日医大医学会誌 2008; 4 (3): 143-147.
- 8) 久志本成樹: 出血傾向. 救急・集中治療 2008; 20: 646-653.
- 9) 布施 明: Blast injury: 鼓膜損傷, 爆傷肺を見落とすな. ERマガジン 2008; 5 (2): 347-350.
- 10) 横田裕行: 熱中症と紫外線対策. IPPO 2008; 12: 68-70.
- 11) 田中俊尚: 大腿骨近位部骨折の地域完結型診療システムと連携バス. 地域連携network 2008; 1 (3): 49-57.
- 12) 福田令雄, 久志本成樹, 横田裕行: 胸部外傷に特異な病態: 気胸・血胸. 救急医学 2008; 32 (8): 945-949.
- 13) 荒木 尚, 横田裕行, 山本保博, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 小児重症頭部外傷治療の標準化. 小児の脳神経 2008; 33: 367-375.
- 14) 苛原隆之, 横田裕行: 大都市部・大学病院併設型救命救急センターの現状と問題点. 医学のあゆみ 2008; 226 (9): 698-702.
- 15) 横田裕行: 「臓器の移植に関する法律」の運用に関する指針 (ガイドライン). 救急医学 2008; 32: 1377-1380.
- 16) 渥美生弘<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>(1)</sup> 神戸市立医療センター中央市民病院救命救急センター): 救急医療における脳卒中の位置づけ. 救急医学 2008; 32 (10): 1507-1512.
- 17) 伊藤敬雄<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>(1)</sup> 日本医科大学精神神経科): 精神科における救急症例. 治療学 2008; 42 (12): 109-112.
- 18) 白石振一郎, 久志本成樹: 右下腹部痛. 救急医学 2008; 32: 524-527.
- 19) 久志本成樹: 感染症迅速検査アップデート: 敗血症. Medical Technology 2008; 36: 1489-1499.
- 20) 久志本成樹: ダメージコントロールサージェリーの判断と術式. 手術 2008; 63 (3): 285-294.
- 21) 久志本成樹: 集中治療の立場からみたSurviving sepsis campaign guideline. 集中治療室における患者管理に関して. 日本外科感染症学会雑誌 2008; 5 (4): 341-348.
- 22) 北蘭雅敏, 横田裕行: 重症頭部外傷の下垂体機能不全. Annual Review神経2009 2009; 159-165.
- 23) 平田清貴<sup>1)</sup>, 青山隆彦<sup>2)</sup>, 平田理恵<sup>3)</sup>, 山崎浩史<sup>3)</sup>, 松本宜明<sup>2)</sup>, 横田裕行, 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院薬剤部, <sup>2)</sup> 日本大学薬学部臨床薬物動態学研究室, <sup>3)</sup> 昭和薬科大学薬物動態学研究室): 集中治療患者におけるミカファンギンの適正使用. 医薬ジャーナル 2009; 45 (2): 149-153.
- 24) 増野智彦, 横田裕行: 一酸化炭素中毒とSpCO: 非観血的モニターを用いた血中一酸化炭素濃度測定 (SpCO) の意義. 臨床麻酔 2009; 33 (3): 528-534.
- 25) 石川真士, 横田裕行: 輸液療法パーフェクト 多発外傷. レジデントノート 2009; 11: 213-219.
- 26) 恩田秀賢, 横田裕行: 誘発電位. 救急医学 2009; 33 (3): 329-334.
- 27) 久志本成樹: 急性期DICにおける基礎疾患: 外傷と敗血症に伴うDICは同一の病態か. Coagulation & Inflammation 2009; 3: 29-32.
- 28) 丸山征郎<sup>1)</sup>, 坂田洋一<sup>1)</sup>, 和田英夫<sup>1)</sup>, 朝倉英策<sup>1)</sup>, 岡嶋研二<sup>1)</sup>, 丸藤 哲<sup>1)</sup>, 射場敏明<sup>1)</sup>, 内場光浩<sup>1)</sup>, 内山俊正<sup>1)</sup>, 江口 豊<sup>1)</sup>, 岡本好司<sup>1)</sup>, 小倉真治<sup>1)</sup>, 川杉和夫<sup>1)</sup>, 久志本成樹, 小池 薫<sup>1)</sup>, その他4名 (1) 日本血栓止血学会学術標準化委員会DIC専門部会): 科学的根拠に基づいた感染症に伴うDIC治療のエキスパートコンセンサス. 日本血栓止血学会誌 2009; 20: 77-113.
- 29) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 久志本成樹 (1) 日本医科大学付属病院中央検査部): 救命救急におけるプロカルシトニン測定. 検

査と技術 2009 ; 37 (4) : 363-366.

30) 横田裕行：医療訴訟と診療録管理：終末期における一事例から考える．診療録管理 2009 ; 20 (3) : 30-47.

(3) 症例報告：

- 1) Kushimoto S, Yamamoto Y, Miyauchi M, Tajima H<sup>1)</sup> (1) Department of Radiology, Nippon Medical School) : Pseudostenosis of the external iliac artery in a patient with blunt pelvic trauma. J Trauma 2009 ; 66 (2) : 586.
- 2) 北園雅敏, 横堀将司, 渥美生弘, 荒木 尚, 布施 明, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博, 飯野靖彦<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学第二内科) : 頭部外傷後低ナトリウム血症が遷延した1例. 日救急医学会誌 2008 ; 29 : 78-79.
- 3) 横堀将司, 横田裕行 : 画像による紙上カンファレンス : 低血糖性片麻痺. BRAIN RESCUE 2009 ; (19) : 29-30.

(4) 研究報告書：

- 1) 久志本成樹：アナフィラキシーショックに対する急性期治療の意義と重要性．厚生労働科学研究費厚生労働科学特別研究事業報告書. 救急救命士による救命救急処置に関する研究. アナフィラキシーショックの救命率向上に関わる早期治療の妥当性とその実施方法. 2008.
- 2) 布施 明：分担研究報告「都市型災害」に関する研究．平成19年度厚生労働科学研究費補助金. 健康危機管理・テロリズム対策システム研究事業「健康危機・大規模災害に対する初動医療体制のあり方に関する研究」平成19年度総括研究報告書（主任研究者 辺見弘） 2008 ; 315-338.
- 3) 大友康裕<sup>1)</sup>, 布施 明 (1) 東京医科歯科大学 救急災害医学) : 分担研究 : NBCテロに対する標準的対応手順. 平成18年度厚生科学研究費補助金 (医療安全・医療技術評価総合研究事業) 「テロに対する医療体制の充実及び評価に関する研究」 2008.
- 4) 横田裕行：研究分担報告書「救急医療における脳死患者の対応法の啓発セミナーに関する研究」. 平成20年度厚生労働科学研究費補助金. 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業「臓器移植の社会的基盤整備に関する研究」(研究代表者：篠崎尚史先生) 研究分担「救急医療における脳死患者の対応法の啓発セミナーに関する研究」報告書 2009.
- 5) 横田裕行：研究分担報告書「ADEの使用実績の把握と科学的評価法にかかえわる研究」. 平成20年度厚生労働科学研究費補助金. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業「自動体外式除細動器 (ADE) を用いた心疾患の救命率向上のための体制の構築に関する研究」(研究者代表者：丸川征四郎先生) 研究分担「ADEの使用実績の把握と科学的評価法にかかわる研究」報告書 2009.
- 6) 横田裕行：研究分担「提供側からみたドナー管理のあり方に関する研究」. 平成20年厚生労働科学研究費補助金. 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業「脳死下・心臓停止下臓器斡旋のコーディネートに関する研究」(研究代表者：小山節子先生) 平成20年度総括・分担研究報告書 2009 ; 197-246.

著 書

- 1) 荒木 尚：〔分担〕頭部外傷. 実践小児外傷初療学 (益子邦洋), 2008 ; 永井書店.
- 2) 久志本成樹：〔分担〕電話救急医療相談プロトコル (日本救急医学会 監修), 2008 ; へるす出版.
- 3) 大泉 旭, 川井 真：〔分担〕あれっ？頭痛と意識障害で搬入された患者さんだけど, この胸部X線写真気になる… 救急外来「まさか!」の症例53日常にひそむ思考の落とし穴と診断のポイント (千代孝夫), 2008 ; pp94-98, 羊土社.
- 4) 荒木 尚, 横田裕行：〔分担〕頭部外傷・顔面外傷. 小児救急ピクシス (羽鳥文麿・五十嵐隆), 2008 ; 中山書店.
- 5) 荒木 尚：〔自著〕院内における法的手続き. 救急クリティカルケア領域における看取り (山勢善江), 2008 ; pp44-50, 学研.



- 6) 久志本成樹：〔自著〕ケアに使える画像の見かた，2008；照林社。
- 7) 増野智彦：〔分担〕多発外傷による生体侵襲．生体侵襲と臓器管理（松田直之），2008；pp1135-1140，総合医学社。
- 8) 荒木 尚：〔翻訳〕トロント小児病院外傷マニュアル．トロント小児病院外傷マニュアル（荒木 尚・清水直樹・上村克徳・小原崇一郎），2008；Medical Science International．
- 9) 荒木 尚：〔分担〕頭部外傷．小児救急Q & A—適切な初期対応のために—（山田至康），2008；pp1618-1626，総合医学社。
- 10) 横田裕行：〔分担〕頸部鈍的外傷．今日の治療指針2009年版（Volume 51）（山口 徹，北原光夫，福井次矢），2009；pp40-41，医学書院。
- 11) 荒木 尚：〔分担〕外傷．目で視る小児救急（五十嵐隆），2009；文光堂。
- 12) 久志本成樹：〔分担〕開胸心マッサージ．今日の治療指針2009年版（山口 徹，北原光夫，福井次矢 編），2009；pp70-71，医学書院。
- 13) 久志本成樹：〔分担〕消毒薬中毒（クレゾール，逆性石鹼）．今日の治療指針2009年版（山口 徹，北原光夫，福井次矢 編），2009；p121，医学書院。
- 14) 横田裕行：〔分担〕出血性ショック．経静脈治療オーダーマニュアル（小川 龍，島崎修次，飯野靖彦，五十嵐隆，福島亮治），2009；pp42-46，レディカルレビュー。
- 15) 横田裕行：〔編集〕救急治療・薬剤ハンドブック第5版（山本保博，横田裕行），2009；pp1-353，じほう。
- 16) 荒木 尚：〔分担〕頭部外傷．小児救急診療アルゴリズム（山田至康），2009；総合医学社。
- 17) 荒木 尚：〔自著〕命を守る機器たち 集中治療室を支える先端技術．暮しと健康，2009；保健同人社。
- 18) 布施 明：〔共著〕気象災害（風水害）．災害医学（改訂2版）（山本保博，鶴飼卓，杉本勝彦），2009；pp87-99，南山堂。
- 19) 久志本成樹：〔分担〕プロカルシトニン．臨床検査データブック 2009-2010（高久史麿 監修，黒川 清，春日雅人，北村 聖 編），2009；pp584-585，医学書院。

## 学会発表

### 〔追加分〕

#### 追加分一般講演：

- 1) 田上 隆<sup>1)</sup>，渥美生弘，宮崎善史<sup>2)</sup>，松田 潔<sup>2)</sup>，大山廉平<sup>1)</sup>，久志本成樹，小井土雄一，川井 真，横田裕行，山本保博（<sup>1)</sup> 東京都済生会中央病院外科，<sup>2)</sup> 山梨県立中央病院救命救急センター）：PiCCO（連続心拍出量測定装置）を使用した新しい循環呼吸動態管理法の提案．第10回CCM輸液・栄養研究会，2006．2．
- 2) 渥美生弘，横田裕行，佐藤秀貴，布施 明，荒木 尚，金子純也，鈴木 剛，中江竜太，山本保博：SAH後の輸液管理：連続心拍出量測定装置（PiCCO）を用いて．第11回CCM輸液・栄養研究会，2007．2．
- 3) 荒木 尚，山本 守，三重野英樹，中村英一郎，田久保啓誌，北蘭雅敏，横堀将司，渥美生弘，布施 明，佐藤秀貴，横田裕行，山本保博：救急医と脳神経外科医の連携：小児神経外傷におけるPALSとTrauma Team Leadership-成人3次救命救急センターにおける小児神経外傷診療に対する意識調査と取り組み．第13回日本脳神経外科救急学会，2008．1．

#### 追加分基調講演：

- 1) 荒木 尚：トロント小児病院における神経終末期医療の経験．第35回日本集中治療学会看護部会，2008．2．

#### (1) 特別講演：

- 1) Araki T, Kitazono M, Yokobori S：Efficacy of decompressive craniectomy and selection of second tier therapy for refractory intracranial hypertension with severe traumatic brain injury in children. Internation-



- al Society of Pediatric Neurosurgery (36th) (Capte Town, South Africa), 2008. 10.
- 2) 横田裕行：病院前脳卒中救護 (PSLS) の背景と医療機関の体制. 第42回プレホスピタル研究会, 2008. 6.
  - 3) 久志本成樹：重症敗血症をどのように捉え, いかにかに治療する?. 第25回臨床救急医療薬学研究会, 2008. 6.
  - 4) 久志本成樹：急性期DICにおける基礎病態：外傷と敗血症に伴うDICは同一の病態か. 第5回岩手DIC研究会, 2008. 6.
  - 5) 横田裕行：今, 脳卒中専門医療機関に求められるもの～プレホスピタルケアから急性期治療まで. 第4回脳卒中初期治療研究会, 2008. 7.
  - 6) 横堀将司：「秋葉原無差別殺傷事件」における東京DMATの活動. 東亜大学 特別講演, 2008. 7.
  - 7) 横田裕行：医療訴訟と診療録管理：終末期における一事例から考える. 第34回日本診療録管理学会, 2008. 8.
  - 8) 横田裕行：脳卒中患者の観察と判断. 第23回東京救助救急研究会夏季セミナー, 2008. 8.
  - 9) 佐野哲孝, 増野智彦, 朝倉隆之, 佐藤格夫, 横田裕行, 相星淳一<sup>1)</sup>, 小池 薫<sup>2)</sup>, 勝見 敦<sup>3)</sup>, 須崎紳一郎<sup>3)</sup> (1) 東京医科歯科大学災害救急医学, 2) 京都大学初期診療救急医学, 3) 武蔵野赤十字病院救命救急科)：1H NMR based Metabolomicsを用いた研究経過・成果報告. 日本医科大学医用磁気共鳴分析施設公開セミナー (4), 2008. 8.
  - 10) 横田裕行：病院前救急医療の標準化とその意義. 救命救急講演会 (会津若松), 2008. 9.
  - 11) 横田裕行：集中治療における脳低体温療法：合併症としての感染, 敗血症対策. 第6回沖縄県敗血症治療研究会, 2008. 9.
  - 12) 横田裕行：救急医療施設からみた脳死下臓器提供の問題点と解決法. 秋田県臓器移植施設懇話会, 2008. 10.
  - 13) 荒木 尚：小児終末期医療の実践に向けて：トロント小児病院における経験をもとに. 日本看護協会救急認定看護師教育セミナー, 2008. 10.
  - 14) 横田裕行：意識障害と脳卒中患者の対応と治療：病院前救護から救急初療室へ. 室蘭市医師会学術講演会, 2009. 1.
  - 15) 荒木 尚, 横田裕行：救急蘇生後のミオクロームスと精神症状. 第4回文京ニューロサイエンスセミナー, 2009. 1.
  - 16) 横田裕行：救急医療最前線：脳蘇生の可能性. 岡崎内科医会, 2009. 3.
  - 17) 横田裕行：救急医療標準化の意義：外傷 (JPTEC, JATEC, JNTEC) から内因性疾患へ向け. 第7回山形県メデカルコントロール指導医セミナー, 第11回山形救急懇話会, 2009. 3.
  - 18) 荒木 尚：児童虐待における組織的問題点. 東京都福祉保健局セミナー, 2009. 3.
  - 19) 久志本成樹：重症外傷治療における外科的治療とIVRのコラボレーション. 第5回京滋ERセミナー, 2009. 3.
- (2) 招待講演：
- 1) Masuno T, Ohtomo Y<sup>1)</sup> (1) Tokyo Medical and Dental University)：Emergency Surgery in Japan. World Society of Emergency Surgery (Bologna, Italy), 2008. 7.
  - 2) 荒木 尚：児童虐待における頭部外傷の脳神経外科的アプローチ. 第50回日本小児神経学会, 2008. 5.
  - 3) 横田裕行：救急医療における標準化とその意義. 第377回富士宮医師会学術講演会, 2008. 6.
  - 4) 荒木 尚：重症頭部外傷における頭蓋内圧モニターの重要性. (東京), 2008. 7.
  - 5) 荒木 尚：小児頭頸部外傷へのアプローチ. 小児救急医療ワークショップ in 北九州, 2008. 7.
  - 6) 増野智彦：重症患者の病態解析にマルチオミックスの導入は新たな展開をもたらすか?. 日本医科大学医用磁気共鳴分析施設公開セミナー (4), 2008. 8.
  - 7) 増野智彦：出血性ショック後に生じる臓器不全と腸管リンパ液の関与. 第10回侵襲と生体反応研究会, 2009. 2.
  - 8) 横田裕行：提供施設からみた臓器提供の現状と問題点厚生労働科学研究事業「脳死者の発生等に関する研究」からの報告. 財団法人日本臓器移植ネットワーク西日本支部第三回「臓器の提供に関する懇話会」(大阪),

2009. 3.

9) 横田裕行：救急医療における臓器提供. 第4回埼玉県臓器の提供に関する懇話会, 2009. 3.

10) 久志本成樹：アナフィラキシーとその初期治療：致死的病態を防ぐために. 小金井市医師会講演会, 2009. 3.

(3) 教育講演：

1) 久志本成樹：敗血症をどのように捉え、いかに治療する？：敗血症の診断と治療の考え方とその展開. 第701回 松本市医師会生涯教育講座, 2008. 4.

2) 久志本成樹：急性期病態におけるDICの捉え方と新しい診断基準. 第1回多摩血液検査懇話会, 2008. 4.

3) 久志本成樹：動脈圧波形解析による連続心拍出量測定装置 (PiCCO) を呼吸循環動態の評価と管理に生かす. 第25回スバズムシンポジウム, 2009. 3.

(4) シンポジウム：

1) Oizumi A : Unstable pelvic injury with the acetabulum and femoral neck fracture. (Pelvic ring and acetabular fractures). North Asian Trauma Summit (第1回) (Beijing, china), 2008. 10.

2) Araki T, Kitazono M, Yokobori S : Efficacy of mild hypothermia therapy for refractory intracranial hypertension with severe traumatic brain injury in children, Tokyo experience : a single center, retrospective study. 日本小児科学会総会 (第111回), 2008. 4.

3) 横堀将司, 横田裕行, 佐藤秀貴, 布施 明, 荒木 尚, 渥美生弘, 北園雅敏, 山本保博：高齢者重症頭部外傷における病態の考察：転帰改善をめざして：(シンポジウム：重症頭部外傷：病態と管理). 第31回日本神経外傷学会, 2008. 4.

4) 高山泰弘<sup>1)</sup>, 小関一英<sup>1)</sup>, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 小川太志<sup>1)</sup>, 桑本健太郎<sup>1)</sup>, 横田裕行, 佐藤秀貴<sup>1)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター)：重症頭部外傷の凝固・線溶系障害からみた緊急穿頭術の有効性. 第22回日本外傷学会, 2008. 5.

5) 久志本成樹, 宮内雅人, 白石振一郎, 増野智彦, 鈴木崇生, 佐藤格夫, 川井 真, 横田裕行, 山本保博, 田島廣之<sup>1)</sup> (日本医科大学放射線科)：腹腔内・後腹膜出血合併ショック症例に対する治療：開腹に先行するIVRには厳重な監視を. 第22回日本外傷学会, 2008. 5.

6) 佐藤格夫, 増野智彦, 久志本成樹, 荒木 尚, 宮内雅人, 大泉 旭, 布施 明, 佐藤秀貴, 川井 真, 横田裕行：自己完結型チーム医療の意義：救命の限界への挑戦. 第22回日本外傷学会, 2008. 5.

7) 荒木 尚, 山本 守, 三重野英樹, 中村英一郎, 田久保啓誌, 北園雅敏, 横堀将司, 渥美生弘, 布施 明, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博：救急医と脳神経外科医の連携：小児神経外傷におけるPALSとTrauma Team Leadership—成人3次救命救急センターにおける小児神経外傷診療に対する意識調査と取り組み. 第22回日本小児救急医学会, 2008. 6.

8) 荒木 尚, 北園雅敏, 横堀将司, 渥美生弘, 布施 明, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博：小児重症頭部外傷に対する減圧開頭術と治療戦略：日本医科大学高度救命救急センターにおけるSecond Tier Therapyの選択. 第22回日本小児救急医学会, 2008. 6.

9) 近藤久禎, 奥村 徹<sup>1)</sup>, 黒木由美子<sup>2)</sup>, 山本 都<sup>3)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> 佐賀大学医学部危機管理医学,<sup>2)</sup> 財団法人中毒情報センター,<sup>3)</sup> 国立医薬品衛生研究所安全情報部)：化学テロに対する国際協力体制. 第30回日本中毒学会総会・学術集会, 2008. 7.

10) 佐藤格夫, 増野智彦, 横堀将司, 北園雅敏, 荒木 尚, 布施 明, 横田裕行：免疫栄養と腸管虚血再灌流障害. 第14回日本脳代謝モニタリング研究会, 2008. 7.

11) 横田裕行, 川井 真, 久志本成樹, 横堀将司：救急医療, 集中治療における終末期医療とその対応. 第17回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2008. 8.

12) 大泉 旭, 川井 真, 原 義明<sup>1)</sup>, 内川 健, 林 励治, 神田倫秀, 横田裕行<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター)：長管骨骨幹部骨折を伴う多発外傷症例に対する整形外科的アプローチ. 第36回日本救急

医学会総会, 2008. 10.

- 13) 高山泰広<sup>1)</sup>, 小関一英<sup>1)</sup>, 小川太志<sup>1)</sup>, 桑本健太郎<sup>1)</sup>, 加茂 潤<sup>1)</sup>, 立花栄三<sup>2)</sup>, 榎本光信<sup>2)</sup>, 横田裕行, 久志本茂樹 ( <sup>1)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター, <sup>2)</sup> 川口市立医療センター集中治療科 ): 蘇生後脳症に対する脳低温療法への適応: 蘇生後脳症102例の予後検証から. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
  - 14) 田中俊尚: 大腿骨近位部骨折の病診連携パスの急性期病院からみた問題点. 第10回日本骨粗鬆学会, 2008. 10.
  - 15) 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 小幡 徹<sup>2)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 朽方規喜<sup>1)</sup>, 武井健吉<sup>1)</sup>, 金丸勝弘<sup>1)</sup>, 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 東京慈恵会医科大学DNA医学研究所分子細胞生物学研究部 ): 酸化ストレス (F2-イソプロスタニン値) および各種因子から見た敗血症性ショック症例に対するPMX-DHP早期導入とPMMA-CHDFの有用性に関する検討. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
  - 16) 小南修史<sup>1)</sup>, 渡辺 玲<sup>1)</sup>, 布施 明, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 脳神経外科 ): ガンマナイフを前提とした脳動脈奇形の塞栓術. 第24回日本脳神経血管内治療学会総会, 2008. 11.
  - 17) 佐藤格夫, 嘉村洋志, 苛原隆之, 山村英治, 秋山 豪, 志村知子, 島田一光, 西畑 毅, 鈴木佳奈子, 佐々木清香, 高島恵子, 今井圭司, 佐藤麻衣子, 佐藤憲明, 横田裕行: 救命救急センターICUでの早期経腸栄養プロトコル導入成功例と多臓器障害を呈し, 栄養療法困難な失敗例. 第24回日本静脈経腸栄養学会, 2009. 1.
  - 18) 久志本成樹: 基礎研究から臨床研究へ, そして臨床における展開を目指して. 第59回日本救急医学会関東地方学会術集会, 2009. 2.
  - 19) 田上 隆<sup>1)</sup>, 土佐亮一<sup>1)</sup>, 平間久雄<sup>1)</sup>, 中野公介<sup>1)</sup>, 米沢光平<sup>1)</sup>, 今津嘉宏<sup>2)</sup>, 久志本成樹, 増野智彦, 山本保博, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 会津中央病院, <sup>2)</sup> 東京都済生会病院 ): ARDSの治療戦略: 連続心拍出量測定装置 (PiCCO) による診断の評価. 第36回日本集中治療医学会術集会, 2009. 2.
  - 20) 久志本成樹, 柴田泰史, 横田裕行, 川井 真, 宮内雅人, 佐藤格夫, 増野智彦: 敗血症診断におけるプロカラルシトニン. 第13回CCM輸液・栄養研究会, 2009. 3.
- (5) パネルディスカッション:
- 1) 荒木 尚, 横田裕行, 山本保博, Rutka J, Cox P: トロント小児病院における神経終末期医療の経験. 第22回日本小児救急医学会, 2008. 6.
  - 2) 布施 明, 井上潤一<sup>1)</sup>, 渥美生弘, 近藤久禎, 田邊晴山, 横田裕行, 辺見 弘<sup>1)</sup>, 山本保博 ( <sup>1)</sup> 独立行政法人国立病院機構 災害医療センター ): 爆傷災害における医療対応と関係機関との連携. 第11回日本臨床救急医学会, 2008. 6.
  - 3) 近藤久禎, 山本保博, 野口 宏<sup>1)</sup>, 浅井康文<sup>2)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 愛知医科大学付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 札幌医科大学付属病院高度救命救急センター ): 2次救急医療機関の地域格差について. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
  - 4) 近藤久禎, 森野一真<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>2)</sup>, 小井士雄一<sup>2)</sup>, 辺見 弘<sup>2)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 山形県立中央病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 国立病院機構災害医療センター ): DMATと行政機関の連携. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
  - 5) 宮内雅人, 増野智彦, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行: 当院高度救命救急センターにおける感染症に対する取り組み. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
  - 6) 伊藤敬雄<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学医学部精神神経科・救急医学科 ): 自殺未遂患者の精神医学的診断と自殺未遂手段との関連, その追跡調査. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
  - 7) 荒木 尚, 横堀将司, 布施 明, 近藤久禎, 横田裕行, 田村益巳<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京消防庁委託研修生 ): 秋葉原無差別殺傷事件における東京DMATの活動. 第3回病院前救護研究会, 2008. 12.
  - 8) 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 小幡 徹<sup>2)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 朽方規喜<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 東京慈恵会医科大学DNA医学研究所分子細胞生物学研究部 ): PMX-DHPによる敗血症関連因子の変化および収縮期血圧上昇との関連性についての検討. 第13回エンドトキシン血症救命治療研究会, 2009. 2.

(6) セミナー：

- 1) 久志本成樹：横隔膜損傷に対する開腹的アプローチ。第8回外傷外科手術手技研究会，2008。11。
- 2) 横田裕行：病院前脳卒中救護（PSLS）の考え方と今後。第11回日本臨床救急医学会総会・学術集会，2008。6。
- 3) 久志本成樹：急性期DICにおける基礎疾患：外傷と敗血症に伴うDICは同一の病態か。第36回日本救急医学会学術集会，2008。10。
- 4) 荒木 尚：脳死における脳幹反射の評価。臓器移植ネットワークセミナー，2008。11。
- 5) 久志本成樹：脳死のメカニズムと脳死判定。第7回JATCO総合研修会（東京），2008。11。
- 6) 久志本成樹：提供施設における問題点。2008年救急医療における脳死患者の対応セミナー，2008。11。
- 7) 久志本成樹：Flail chestに対する肋骨骨折固定術。第8回外傷外科手術手技研究会，2008。11。
- 8) 横田裕行：重症頭蓋内疾患の診断と治療。救急看護セミナー，2008。12。

(7) ワークショップ：

- 1) 横田裕行：あっていいもの，ないほうがいいもの。21世紀のクリティカルケアを考える会，2008。5。
- 2) 横田裕行，増野智彦，佐藤格夫，久志本成樹：出血性ショック治療の最前線。第23回日本ショック学会，2008。5。
- 3) 小川太志<sup>1)</sup>，小関一英<sup>1)</sup>，小井土雄一<sup>1)</sup>，高山泰弘<sup>1)</sup>，桑本健一郎<sup>1)</sup>，横田裕行，久志本成樹（<sup>1)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター）：当院救命救急センターでの鈍的外傷CPAの特徴と治療指針：560例の検証より。第22回日本外傷学会，2008。5。
- 4) 宮内雅人，増野智彦，久志本成樹，川井 真，横田裕行：T-BSA50%-この症例の手術計画。第34回日本熱傷学会総会，2008。6。
- 5) 宮内雅人，久志本成樹，川井 真，横田裕行：救急医療従事者の感染症予防対策-危機管理体制と対処-。第11回日本臨床救急医学会総会，2008。6。
- 6) 荒木 尚，北蘭雅敏，横堀将司，宮崎志在，布施 明，横田裕行：日本医科大学高度救命救急センターにおける延命治療適応判断の変容：死亡例からの考察。第36回日本救急医学会総会，2008。10。
- 7) 横堀将司，増野智彦，佐藤格夫，荒木 尚，宮内雅人，布施 明，久志本成樹，川井 真，横田裕行：3次救命救急センターにおける高齢者診療の現状と問題点：高齢化社会において救急医療に求められる対応。第36回日本救急医学会総会，2008。10。
- 8) 佐藤格夫，嘉村洋志，苛原隆之，山村英治，秋山 豪，白石振一郎，増野智彦，宮内雅人，久志本成樹，横田裕行：ICUにおけるEnteral Feeding Protocolの本格的導入による早期経腸栄養管理。第36回日本集中治療医学会学術集会，2009。2。
- 9) 宮内雅人，佐藤格夫，久志本成樹，横田裕行：腹部救急における内視鏡の役割：極細径上部消化管内視鏡の腹部救急分野への応用。第45回日本腹部救急医学会総会，2009。2。
- 10) 久志本成樹，佐藤格夫，増野智彦，宮内雅人，福田令雄，白石振一郎，苛原隆之，川井 真，横田裕行：一期的閉腹不適應症例に対するenterocutaneous fistulaの予防と早期筋膜閉鎖のためのopen abdomenの管理法。第45回日本腹部救急医学会総会，2009。3。

(8) サージカルフォーラム：

- 1) 久志本成樹，鈴木崇生，佐藤格夫，増野智彦，宮内雅人，福田令雄，川井 真，横田裕行，山本保博：Enterocutaneous fistulaの予防と早期筋膜閉鎖のためのOpen abdominal management。第108回日本外科学会定期学術集会，2008。5。

(9) 一般講演：

- 1) 渥美生弘<sup>1)</sup>，坂本哲也<sup>2)</sup>，浅井康文<sup>2)</sup>，長尾 健<sup>2)</sup>，森村尚登<sup>2)</sup>，田原良雄<sup>2)</sup>，佐藤慎一<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> 神戸市立医療センター中央市民病院救命救急センター，<sup>2)</sup> SAVE-J，<sup>3)</sup> 日本医科大学高度救命救急センター）：院外心肺停止に対するPCPSの導入：本邦における現状，SAVE-Jアンケート結果から。



- 2) Masuno T, Sano T, Yokota H, Sato N, Suzuki T, Hirakawa K, Ohno Y<sup>1)</sup>, Aiboshi J<sup>2)</sup>, Koike K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Legal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Tokyo Medical and Dental University, <sup>3)</sup> Kyoto University) : NMR Metabolomic Investigation in Post-hemorrhagic Shock Mesenteric Lymph. Congress of the International Federation of Shock Societies (6th) (Cologne, Germany), 2008. 6.
- 3) Yokobori S, Masuno T, Suzuki T, Sato H, Fuse A, Araki T, Atsumi T, Kitazono M, Yokota H : Prognostic Factors between Young and Elderly Groups in a Severe Head Injury -Significance of CPP Management in Geriatric Head Injury Patients. Congress of the International Federation of Shock Societies (6th) (Cologne, Germany), 2008. 6.
- 4) Araki T, Kushimoto S, Yokota H, Yamamoto Y : Efficacy of decompressive craniectomy and selection of second tier therapy for refractory intracranial hypertension with severe traumatic brain injury in children. American Association for Surgery of Trauma (67th) (Hawaii, Maui), 2008. 9.
- 5) Shiraishi S, Sato N, Masuno T, Kushimoto S, Matsuda K<sup>1)</sup>, Otomo Y<sup>2)</sup>, Yokota H ( <sup>1)</sup> Yamanashi Prefectural Central Hospital, <sup>2)</sup> Tokyo Medical and Dental University ER center) : The Usefulness of Diagnostic Peritoneal Lavage Compared with Mdcct in Blunt Abdominal Trauma. American Association for the Surgery of Trauma 67th Annual Meeting (Maui, Hawaii), 2008. 9.
- 6) Sano T, Masuno T, Hirakawa K, Ohno Y, Sato N, Koike K<sup>1)</sup>, Katsumi A, Suzuki S, Yokota H ( <sup>1)</sup> Kyoto University) : 1H-NMR Metabolomics Study of Post-Hemorrhagic Shock Mesenteric Lymph and Lung. American Association for the Surgery of Trauma (67th) (Maui, Hawaii), 2008. 9.
- 7) Fuse A, Miyake Y<sup>1)</sup>, Morimura N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropolitan Emergency Consultation Center Committe) : Analysis of head injuries in Tokyo metropolitan emergency consultation center. American Association for the Surgery of Trauma Sixty-seventh meeting (Hawaii, USA), 2008. 9.
- 8) Yokobori S, Araki T, Kondo H, Kamura H, Fuse A, Masuno T, Yokota H : The importance of volunteer-control and privacy protection in urban criminal incident : A report on Tokyo indiscriminate murder case . Asia Pacific Congress on Disaster Medicine (9th) (Seoul, Korea), 2008. 11.
- 9) Ogawa T, Tamura M, Nomura K, Sawato M, Iijima M, Yokobori S, Kondo H, Fuse A, Masuno T, Yokota H : Quick Disaster Response : Dispatch of Emergency Medical Teams using Doctor' s Car. Asian Pacific Conference on Disaster Medicine (9th) (Soul, Korea), 2008. 11.
- 10) Kamura H, Irahara T, Akiyama G, Yokobori S, Kondo H, Araki T, Fuse A, Masuno T, Yokota H : The Need of Self-Protection for Field Medicine for the Criminal Incidents in Japan. Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (9th) (Seoul, Korea), 2008. 11.
- 11) Ozaki K, Iijima M, Watanabe A, Otake K, Kamura H, Irahara T, Shiraishi S, Yokobori S, Sato N, Fuse A, Masuno T, Kondo H, Kushimoto S, Yokota H, Ito T<sup>1)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> Department of Psychology, Nippon Medical School) : The Care for the Patient Who is the Victim in the Akihabara Massacre. Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (9th) (Seoul, Korea), 2008. 11.
- 12) 佐藤秀貴, 横田裕行, 増野智彦, 山本保博, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 原田尚重<sup>2)</sup>, 山口孝治<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター, <sup>2)</sup> 武蔵野赤十字病院救命救急センター, <sup>3)</sup> フジ虎ノ門病院外傷外科) : 富士スピードウェイでの外傷救護体制. 第22回日本外傷学会, 2008. 5.
- 13) Araki T, Kitazono M, Yokobori S : Efficacy of mild hypothermia therapy for refractory intracranial hypertension with severe traumatic brain injury in children. Tokyo Experience : a single center, retrospective study. Japanese Association of Pediatrics (111th), 2008. 4.
- 14) 荒木 尚, 横田裕行, 山本保博 : 小児急性期外傷治療の標準化. 第111回日本小児科学総会, 2008. 4.
- 15) 荒木 尚 : 小児頭部外傷後静脈洞血栓症の診断と所見. 第111回日本小児科学総会, 2008. 4.



- 16) 布施 明, 荒木 尚, 北蘭雅敏, 横堀将司, 佐藤秀賢, 横田裕行, 山本保博: 内臓逆位を伴った特発性脊髄硬膜外血腫の1例. 第31回日本神経外傷学会, 2008. 4.
- 17) 北蘭雅敏, 白石振一郎, 横堀将司, 渥美生弘, 佐藤格夫, 荒木 尚, 布施 明, 佐藤秀貴, 久志本成樹, 横田裕行, 山本保博: 低体温を伴う心停止症例でPCPSが蘇生に奏功し, 神経学的予後良好であった1例. 第21回日本脳死・脳蘇生学会, 2008. 5.
- 18) 重村朋子, 横田裕行, 久志本成樹, 山本保博: 脳死患者家族の心理過程～質問紙調査より. 第21回日本脳死・脳蘇生学会, 2008. 5.
- 19) 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 上田達夫<sup>1)</sup>, 汲田紳一郎<sup>1)</sup>, 久志本成樹, 横田裕行 (<sup>1)</sup> 日本医科大学放射線科): 頸胸部血管損傷に対するステントグラフト留置術の有用性. 第22回日本外傷学会, 2008. 5.
- 20) 大嶽康介, 佐藤格夫, 久志本成樹, 増野智彦, 白石振一郎, 福田令雄, 宮内雅人, 横田裕行: 頸部穿通性外傷における外傷性動脈瘤. 第22回日本外傷学会, 2008. 5.
- 21) 北蘭雅敏, 荒木 尚, 横堀将司, 渥美生弘, 布施 明, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博: 鈍的外傷によるBrown-Sequard症候群を呈した頸部椎間板ヘルニアの1例. 第22回日本外傷学会, 2008. 5.
- 22) 横堀将司, 横田裕行, 佐藤秀貴, 布施 明, 荒木 尚, 渥美生弘, 北蘭雅敏, 山本保博: 高齢者重症頭部外傷における病態特異性の検討: 転帰改善のために. 第22回日本外傷学会, 2008. 5.
- 23) 久志本成樹, 柴田泰史, 増野智彦, 佐藤格夫, 横田裕行: 重症敗血症における血漿BNPレベルの変動には全身性炎症反応が関与する. 第23回日本Shock学会, 2008. 5.
- 24) 佐野哲孝<sup>1)</sup>, 増野智彦, 朝倉隆之, 佐藤格夫, 横田裕行, 平川慶子, 大野曜吉, 相星淳一<sup>2)</sup>, 小池 薫<sup>3)</sup>, 勝見敦<sup>1)</sup>, 須崎紳一郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 武蔵野赤十字病院救命救急科, <sup>2)</sup> 東京医科歯科大学救急科, <sup>3)</sup> 京都大学救急医学): 1H NMR Metabolomicsによるラット出血性ショックモデル肺障害の経時的研究. 第23回日本ショック学会, 2008. 5.
- 25) 増野智彦, 相星淳一<sup>1)</sup>, 佐藤格夫, 佐野哲孝, 久志本成樹, 横田裕行, E M<sup>2)</sup>, C S<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 東京医科歯科大学救急科, <sup>2)</sup> コロラド大学外科): 輸血関連急性肺障害 (TRAIL) 発生における保存血非血球成分の役割および保存期間の影響. 第23回日本ショック学会, 2008. 5.
- 26) 相星淳一<sup>1)</sup>, 小池 薫<sup>2)</sup>, 増野智彦, 佐藤格夫, 鈴木崇生<sup>2)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 山本保博 (<sup>1)</sup> 東京医科歯科大学救急科, <sup>2)</sup> 京都大学初期診療・救急医学): 出血性ショック後の腸間膜リンパ球中に存在するリン脂質の網羅的解析. 第23回日本ショック学会, 2008. 5.
- 27) 布施 明, 森村尚登<sup>1)</sup>, 石原 哲<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 東京都救急相談センター運用部会): 東京都救急相談センターにおける“小児頭部外傷”症例の検討. 第22回日本外傷学会, 2008. 5.
- 28) 白石振一郎, 佐藤格夫, 増野智彦, 宮内雅人, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行, 山本保博: 当救命救急センターにおける中毒性表皮壊死融解症 (TEN) 症例の検討. 第34回日本熱傷学会総会・学術集会, 2008. 6.
- 29) 荒木 尚, 北蘭雅敏, 横堀将司, 渥美生弘, 布施 明, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博: 成人3次救命救急センターにおける重症小児外傷診療に対する意識調査と取り組み. 第11回日本臨床救急学会, 2008. 6.
- 30) 大泉 旭, 川井 真, 内川 健, 原 義明<sup>1)</sup>, 小原良規, 神田倫秀, 伊藤博元<sup>2)</sup>, 横田裕行 (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属千葉北総病院 救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学 整形外科): 骨盤骨折を伴った寛骨臼骨折症例の検討. 第34回日本骨折治療学会, 2008. 6.
- 31) 渡邊顕弘, 布施 明, 荒木 尚, 横堀将司, 恩田秀賢, 福田令雄, 神田倫秀, 嘉村洋志, 横田裕行: 電撃症後のICU長期管理にて発症したcritical-illness neuromuscular abnormalities (CINMAs)と思われる1例. 第22回日本神経救急学会, 2008. 6.
- 32) 布施 明: 「緊急度判断・他」. 第11回日本臨床救急医学会, 2008. 6.
- 33) 宮内雅人, 久志本成樹, 川井 真, 平田清貴<sup>1)</sup>, 林田真喜子<sup>2)</sup>, 大野曜吉<sup>2)</sup>, 横田裕行 (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病

- 院薬剤部, <sup>2)</sup> 日本医科大学法医学) : 当院における三環系抗うつ薬検出状況. 第30回日本中毒学会総会・学術集会, 2008. 7.
- 34) 平田清貴<sup>1)</sup>, Li X<sup>1)</sup>, 宮内雅人, 増野智彦, 森 句子<sup>1)</sup>, 大下順子<sup>1)</sup>, 林田真喜子<sup>2)</sup>, 仁平 信<sup>2)</sup>, 大野曜吉<sup>2)</sup>, 横田裕行 (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院薬剤部, <sup>2)</sup> 日本医科大学法医学) : 急性中毒症例における入院時服毒情報と薬毒物分析の discrepancy. 第30回日本中毒学会総会・学術集会, 2008. 7.
- 35) 小杉宗範<sup>1)</sup>, 田中邦夫<sup>1)</sup>, 菊池有史<sup>1)</sup>, 小川 剛<sup>1)</sup>, 白石振一郎, 横田裕行 (<sup>1)</sup> 博慈会記念総合病院循環器科) : 頻回に心肺停止を呈した急性肺塞栓症を, 3次医療機関との速やかな連携により後遺症なく救命し得た1例. 第17回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2008. 8.
- 36) 久志本成樹, 柴田泰史, 横田裕行, 増野智彦, 佐藤格夫 : 敗血症診断と重症度判定におけるプロカルシトニン, Endotoxin Activity Assay, CPRの比較. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 37) 荒木 尚, 横堀将司, 布施 明, 近藤久禎, 増野智彦, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行, 田村益己<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 東京消防庁) : 秋葉原無差別大量殺人事件における東京DMATの活動概要. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 38) 増野智彦, 志村知子, 近藤久禎, 横堀将司, 布施 明, 横田裕行 : ミャンマー連邦サイクロン被害に対する国際緊急援助隊医療チーム活動報告. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 39) 飯島真理子, 嘉村洋志, 布施 明, 近藤久禎, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行, 二宮宣文<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター) : 岩手・宮城内陸地震における日本医大チームの活動. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 40) 尾崎景子, 渡邊顕弘, 大嶽康介, 苛原隆之, 林 励治, 白石振一郎, 横堀将司, 山本昌督, 近藤久禎, 久志本成樹, 横田裕行 : 秋葉原無差別殺傷事件における被害者の患者対応. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 41) 鈴木麻也, 嘉村洋志, 布施 明, 近藤久禎, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行, 二宮宣文<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター) : 岩手・宮城内陸地震における被災者の健康状況. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 42) 苛原隆之, 近藤久禎, 布施 明, 久志本成樹, 横田裕行, 内海清乃<sup>1)</sup>, 木野毅彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院看護部) : 2008年北海道洞爺湖サミットでの救急医療体制におけるモバイルICUの役割. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 43) 荒木 尚, 北薮雅敏, 渡邊顕弘, 恩田秀賢, 横堀将司, 布施 明, 増野智彦, 横田裕行 : 小児重症頭部外傷に対する減圧開頭術と治療戦略. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 44) 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 斉藤伸行<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 朽方規喜<sup>1)</sup>, 武井健吉<sup>1)</sup>, 横田裕行 (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : Pulse Contour Cardiac Output (PiCCO) からみたContinuous Hemodiafiltration (CHDF) による肺血管外水分の除水効果に関する検討. 第17回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2008. 9.
- 45) 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 朽方規喜<sup>1)</sup>, 横田裕行 (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 現場で可能なSIRS判定3項目(脈拍数, 呼吸数, 体温)における外傷重症度予測に関する検討. 第23回日本救命救急医療学会総会・学術集会, 2008. 9.
- 46) 佐野哲孝, 増野智彦, 朝倉隆之, 佐藤格夫, 平川慶子<sup>1)</sup>, 大野曜吉<sup>1)</sup>, 相星淳一<sup>2)</sup>, 小池 薫<sup>3)</sup>, 勝見 敦<sup>4)</sup>, 須崎紳一郎<sup>4)</sup>, 横田裕行 (<sup>1)</sup> 日本医科大学法医学, <sup>2)</sup> 東京医科歯科大学災害救急医学, <sup>3)</sup> 京都大学初期診療救急医学, <sup>4)</sup> 武蔵野赤十字病院救命救急科) : 1H-NMR based Metabolomicsによるラット出血性ショックモデル臓器脂質代謝物の検討. 日本核磁気共鳴医学会, 2008. 9.
- 47) 佐藤秀貴, 横田裕行, 高山泰広<sup>1)</sup>, 桑本健太郎<sup>1)</sup>, 荒木 尚, 山本保博 (<sup>1)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター) : くも膜下出血患者における脳脊髄液中S-100  $\beta$  蛋白の測定 : 機能予後の予測. 第36回日本救急医学会

総会, 2008. 10.

- 48) 川島義高<sup>1)</sup>, 伊藤敬雄<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>(1)</sup> 日本医科大学精神医学教室): 境界性パーソナリティー障害の自殺企図および自傷行為: 高度救命救急センターにて対応に苦慮した症例の心理社会的背景. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 49) 佐藤格夫, 増野智彦, 白石振一郎, 嘉村洋志, 宮内雅人, 福田令雄, 苛原隆之, 久志本成樹, 横田裕行, Rosemary K<sup>1)</sup>, Frederick M<sup>1)</sup> (1) テキサス大学外科学トラウマリサーチセンター): 腸管虚血再灌流障害時のグルタミンの効果と Peroxysome Proliferator activated receptor (PPAR) の役割. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 50) 苛原隆之, 雨森俊介<sup>1)</sup>, 大嶽康介, 福田令雄, 白石振一郎, 山本昌督, 佐藤格夫, 宮内雅人, 増野智彦, 久志本成樹, 横田裕行 (1) 国立病院機構災害医療センター救命救急科): 当センターにおける十二指腸潰瘍穿孔に対する保存的治療指針の再検討. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 51) 渥美生弘<sup>1)</sup>, 福田令雄, 嘉村洋志, 久志本成樹, 横田裕行 (1) 神戸市立医療センター中央市民病院救急部): 院外心肺停止症例に対するPCPS導入の現状. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 52) 北蘭雅敏, 渥美生弘, 佐藤格夫, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行: 偶発性低体温症を伴う心肺停止症例でPCPSを導入した14例の蘇生, 神経保護における検討. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 53) 牧野俊郎<sup>1)</sup>, 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 村越秀光<sup>1)</sup>, 近藤久禎, 原 義明<sup>2)</sup>, 松本 尚<sup>2)</sup>, 畑 典武<sup>3)</sup>, 益子邦洋<sup>2)</sup>, 横田裕行 (1) 日本医科大学成田国際空港クリニック, 2) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 3) 日本医科大学千葉北総病院集中治療部): 成田国際空港クリニックにおける救急医療の現状: ロングフライト血栓症(肺血栓塞栓症)を中心に. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 54) 高山泰広<sup>1)</sup>, 小関一英<sup>1)</sup>, 小川太志<sup>1)</sup>, 桑本健太郎<sup>1)</sup>, 加茂 潤<sup>1)</sup>, 本田哲史<sup>1)</sup>, 米花伸彦<sup>1)</sup>, 一林 亮<sup>1)</sup>, 横田裕行, 久志本成樹 (1) 川口市立医療センター): 頭部外傷合併骨盤損傷の新たな治療アプローチ: 頭部外傷に伴う線溶系亢進をふまえたショック回避の選択. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 55) 畝本恭子<sup>1)</sup>, 北蘭雅敏<sup>1)</sup>, 一瀬麻紀<sup>1)</sup>, 牧 真彦<sup>1)</sup>, 上笹 宙<sup>1)</sup>, 上田康晴<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 横田裕行 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター): 重症頭部外傷に対する開頭術: 低体温療法の再検討. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 56) 久野将宗<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 根本香代<sup>1)</sup>, 久保田稔<sup>2)</sup>, 松本辰美<sup>3)</sup>, 横田裕行 (1) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, 2) 日本医科大学多摩永山病院中央検査室, 3) 武田薬品工業(株)医薬研究本部): TLR4シグナル伝達阻害薬TAK-242のエンドトキシン血症モルモットモデルに対する効果. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 57) 荒木 尚, 北蘭雅敏, 横堀将司, 渥美生弘, 布施 明, 佐藤秀貴, 横田裕行: 成人3次救命救急センターにおける重症小児外傷治療の質の向上について. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 58) 武井健吉<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 朽方規喜<sup>1)</sup>, 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 金丸勝弘<sup>1)</sup>, 富田祥輝<sup>1)</sup>, 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 小児頭部外傷の初期治療では積極的な補助換気が必要である. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 59) 直江康孝<sup>1)</sup>, 中野渡雄一<sup>1)</sup>, 石之神小織<sup>1)</sup>, 諸江雄太<sup>1)</sup>, 島田 靖<sup>1)</sup>, 原 俊輔<sup>1)</sup>, 久野将宗<sup>1)</sup>, 稲垣栄次<sup>1)</sup>, 北橋章子<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 横田裕行 (1) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター): 高齢者救急医療の現状と問題点: アンケート調査の結果から. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 60) 久志本成樹, 白石振一郎, 佐藤格夫, 宮内雅人, 福田令雄, 増野智彦, 川井 真, 横田裕行: 鈍的外傷による腎動脈閉塞に対してendovascular stentを施行した1例: 外科的血行再建の限界を考える. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 61) 東 和明<sup>1)</sup>, 小池 薫<sup>2)</sup>, 三和敬史<sup>3)</sup>, 小山 敦<sup>1)</sup>, 新谷史明<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>4)</sup>, 横田裕行 (1) いわき市立総合磐城共立病院救命救急センター, 2) 京都大学大学院医学研究科初期診療・救急医学分野, 3) 東レ株式会社先端融



- 合研究所, <sup>4)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 熱傷および外傷患者におけるスーパー抗原の測定. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 62) 望月 徹<sup>1)</sup>, 野口周作<sup>2)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 上田康晴<sup>1)</sup>, 上笹 宙<sup>1)</sup>, 牧 真彦<sup>1)</sup>, 一瀬麻紀<sup>1)</sup>, 北菌雅敏<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤科) : 集中治療室における特定抗菌薬届出制とICT (感染制御チーム) 介入の有用性. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 63) 田上 隆<sup>1)</sup>, 久志本成樹, 土佐亮一<sup>1)</sup>, 平間久雄<sup>1)</sup>, 渥美生弘, 今津嘉宏<sup>2)</sup>, 松田 潔<sup>3)</sup>, 増野智彦, 川井 真, 横田裕行, 山本保博 ( <sup>1)</sup> 会津中央病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 東京都済生会病院, <sup>3)</sup> 山梨県立中央病院救命救急センター) : 急性呼吸不全に対する新しいアプローチ : 肺水腫鑑別分類表. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 64) 佐野哲孝, 増野智彦, 平川慶子<sup>1)</sup>, 小池 薫<sup>2)</sup>, 大野曜一<sup>1)</sup>, 相星淳一<sup>3)</sup>, 尾本健一郎<sup>4)</sup>, 原田尚重<sup>4)</sup>, 勝見敦<sup>4)</sup>, 須崎紳一郎<sup>4)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学医用核磁気共鳴施設, <sup>2)</sup> 京都大学初期診療救急医学, <sup>3)</sup> 東京医科歯科大学災害救急医学講座, <sup>4)</sup> 武蔵野赤十字病院救命救急科) : H-NMR based Metabolomicsによるラット外傷出血性ショックモデル後腸管脂溶性代謝物の経時的検討. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 65) 朽方規喜<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 武井健吉<sup>1)</sup>, 金丸勝弘<sup>1)</sup>, 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 飯田浩章<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 血管外傷の治療戦略 : 外科的血行再建術からの検討. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 66) 二宮宣文<sup>1)</sup>, 布施 明, 島田 靖<sup>1)</sup>, 羽場和美<sup>1)</sup>, 曾山明美<sup>2)</sup>, 榊原牧子<sup>2)</sup>, 青木政幸<sup>2)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本エマージェンシーアシスタンス) : 集団災害における同時多数傷病者国際搬送. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 67) 横田裕行, 布施 明, 渥美生弘, 堤 晴彦<sup>1)</sup>, 三宅康史<sup>1)</sup>, 安心院康彦<sup>1)</sup>, 鈴木伸行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本臨床救急医学会教育研修委員会) : 病院前脳卒中救護の普及と脳神経外科医. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 68) 荒木 尚, 北菌雅敏, 横堀将司, 布施 明, 佐藤秀貴, 横田裕行, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : 小児重症頭部外傷に対する減圧開頭術と治療戦略. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 69) 渥美生弘<sup>1)</sup>, 佐藤慎一<sup>1)</sup>, 山上 宏<sup>2)</sup>, 坂井信幸<sup>2)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 神戸市立医療センター中央市民病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 神戸市立医療センター中央市民病院脳卒中センター) : 脳卒中病院前救急活動への脳外科医の参画 : 神戸PSLSの経験から. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 70) 高山泰広<sup>1)</sup>, 桑本健太郎<sup>1)</sup>, 小川太志<sup>1)</sup>, 小関一英<sup>1)</sup>, 横田裕行, 佐藤秀貴, 寺本 明<sup>2)</sup>, 喜多村孝幸<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院脳神経外科) : 急性期脳神経外科の現状と役割. 第67回日本脳神経外科学会総会, 2008. 10.
- 71) 布施 明, 森村尚登<sup>1)</sup>, 石原 哲<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京都救急相談センター運用部会) : 電話救急医療相談は“脳卒中治療の7つのD”におけるDetectionの役割を果たしているか?. 第36回日本救急医学会, 2008. 10.
- 72) 布施 明 : 「精神科3」. 日本救急医学会総会 (第36回), 2008. 10.
- 73) 秋山 豪, 荒木 尚, 白石振一郎, 横田裕行 : 重症頭部外傷後に肺塞栓をきたし二度の低体温療法, PCPSを施行し良好な転機をたどった症例. 第42回過大侵襲研究会, 2008. 11.
- 74) 横田裕行 : 救急医療施設からみた脳死下臓器提供の問題点. 第2回諏訪救急救命セミナー, 2008. 11.
- 75) 平田清貴<sup>1)</sup>, 森 洵子<sup>1)</sup>, 大下順子<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院薬剤部) : 救急・集中治療領域の薬剤管理指導に有用な臨床薬理学的アプローチ. 第29回日本臨床薬理学会, 2008. 12.
- 76) 荒木 尚, 北菌雅敏, 渡邊顕弘 : 小児重症頭部外傷における頭蓋内圧亢進の長期予後と予後決定因子. 第14回日本脳神経外科救急学会, 2009. 1.
- 77) 苛原隆之, 佐藤格夫, 山本昌督, 嘉村洋志, 山村英治, 秋山 豪, 増野智彦, 久志本成樹, 横田裕行 : 創部開腹管理 (OAM) を必要とする重症外傷症例に対する免疫賦活栄養素グルタミンの超早期経腸栄養. 第24回日

本静脈経腸栄養学会, 2009. 1.

- 78) 嘉村洋志, 佐藤格夫, 山村英治, 苛原隆之, 大嶽康介, 秋山 豪, 白石振一郎, 宮内雅人, 福田令雄, 横田裕行: 救命センター早期経腸栄養Feeding Protocol導入に際し, 内視鏡的経鼻空腸栄養チューブ留置に関する検討. 第24回日本静脈経腸栄養学会, 2009. 1.
- 79) 宮内雅人, 佐藤格夫, 増野智彦, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行: Post-endoscopic AGMLにより止血に難渋した1例. 第59回日本救急医学会関東地方会, 2009. 2.
- 80) 吉永 綾, 白石振一郎, 荒木 尚, 内川 健, 島本 実, 苛原隆之, 田村哲男, 秋山 豪, 吉尾敬秀, 佐藤格夫, 増野智彦, 久志本成樹, 横田裕行: 重症頭部外傷に対する脳低温療法中に重症急性膵炎を併発した1例. 第59回日本救急医学会関東地方会, 2009. 2.
- 81) 石之神小織<sup>1)</sup>, 稲垣栄治<sup>1)</sup>, 久野将宗<sup>1)</sup>, 原 俊輔<sup>1)</sup>, 小柳正雄<sup>1)</sup>, 諸江雄太<sup>1)</sup>, 中野渡雄一<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター): 救命医と救急救命士, 現状と将来: 救急医療に対する情熱と体力の限界とのジレンマ. 第59回日本救急医学会関東地方会, 2009. 2.
- 82) 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 朽方規喜<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): PMX カラムの敗血症治療薬 (抗菌薬,  $\gamma$  グロブリン製剤) 吸着作用に関する検討. 第59回日本救急医学会関東地方会, 2009. 2.
- 83) 石之神小織<sup>1)</sup>, 北橋章子<sup>1)</sup>, 横堀将司, 桑本健太郎<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>2)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター): 脳神経外科疾患における急性期異常高血圧疾患への対応. 第59回日本救急医学会関東地方会, 2009. 2.
- 84) 田邊邦明, 辻井厚子, 宮内雅人, 近藤久禎, 横堀将司, 田中俊尚, 福田令雄, 嘉村洋志, 吉永 綾, 横田裕行: 陳旧性肺結核に伴う動脈瘤からの大量咯血の1例. 第59回日本救急医学会関東地方会, 2009. 2.
- 85) 秋山 豪, 佐藤格夫, 増野智彦, 荒木 尚, 白石振一郎, 横田裕行: 自然破壊した腎血管筋脂肪腫の2例. 第59回日本救急医学会関東地方会, 2009. 2.
- 86) 小網博之<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 朽方規喜<sup>1)</sup>, 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 武井健吉<sup>1)</sup>, 金丸勝弘<sup>1)</sup>, 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 鉄慎一郎<sup>1)</sup>, 飯田浩章<sup>1)</sup>, 増田幸子<sup>1)</sup>, 瀬尾卓生<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学北総病院救命救急センター): 馬関連外傷の検討. 第59回日本救急医学会関東地方会, 2009. 2.
- 87) 吉尾敬秀, 荒木 尚, 福田令雄, 宮内雅人, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行: 銀杏中毒の1例. 第59回日本救急医学会関東地方会, 2009. 2.
- 88) 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 朽方規喜<sup>1)</sup>, 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 敗血症の重症度評価指標および血中乳酸値からみた急性血液浄化療法におけるカラム選択に関する検討. 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.
- 89) 久志本成樹<sup>1)</sup>, 丸藤 哲<sup>2)</sup>, 齋藤大蔵<sup>2)</sup>, 小倉裕司<sup>2)</sup>, 池田寿昭<sup>2)</sup>, 石倉宏恭<sup>2)</sup>, 射場敏明<sup>2)</sup>, 上山昌史<sup>2)</sup>, 江口豊<sup>2)</sup>, 大友康裕<sup>2)</sup>, 岡本好司<sup>2)</sup>, 小関一英<sup>2)</sup>, 真弓俊彦<sup>2)</sup>, 遠藤重厚<sup>2)</sup>, 島崎修次<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 救急医学, <sup>2)</sup> 日本救急医学会DIC特別委員会): 急性期DIC診断基準による感染症と外傷を基礎疾患とするDIC症例の比較. 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.
- 90) 横堀将司, 荒木 尚, 近藤久禎, 嘉村 洋, 布施 明, 増野智彦, 横田裕行, 山本保博: 都市型多数傷病者犯罪現場における医療活動の特殊性: 東京DMAT活動事案からの報告. 第14回日本集団災害医学会総会, 2009. 2.
- 91) 白石振一郎, 佐藤格夫, 増野智彦, 久志本成樹, 横田裕行: 胸部鈍的外傷に伴う肺挫傷の呼吸不全に対しECMO (Extracorporeal membrane oxygenation) が有効であった症例. 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.
- 92) 久野将宗<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 中野渡雄一<sup>1)</sup>, 根本香代<sup>1)</sup>, 久保田稔<sup>2)</sup>, 松本辰美<sup>3)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院中央検査室, <sup>3)</sup> 武田薬品工業 (株) 医薬研究本



- 部)：新規TLR4シグナル伝達阻害薬TAK-242はモルモットのエンドトキシン血症を改善する．第13回エンドトキシン血症救命治療研究会，2009．2．
- 93) 嘉村洋志，秋山 豪，苛原隆之，横堀将司，近藤久禎，布施 明，横田裕行：災害時における巡視船“いず”の活用に対する検討．第14回日本集団災害医学会，2009．2．
- 94) 苛原隆之，近藤久禎，田辺晴山，布施 明，久志本成樹，横田裕行，内海清乃，木野毅彦，井 清司：2008年北海道洞爺湖サミットでの救急医療体制におけるモバイルICUの役割．第14回日本集団災害医学会，2009．2．
- 95) 秋山 豪，嘉村洋志，横堀将司，近藤久禎，横田裕行：広域搬送トリアージ基準における除外基準の妥当性についての検討．第14回日本集団災害医学会，2009．2．
- 96) 渡邊顕弘，荒木 尚，久志本成樹，横田裕行，玉井勇人<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院第3内科)：急性前骨髄球性白血病 (APL) による播種性血管内凝固 (DIC) により脳出血を発症した若年者の1例．第59回日本救急医学会 関東地方会，2009．2．
- 97) 布施 明，嘉村洋志，横堀将司，川井 真，横田裕行：広域災害における病院船運用の可能性の検討．第14回日本集団災害医学会総会，2009．2．
- 98) 布施 明：災害時の医療連携．地域防災緊急医療ネットワーク (第12回)，2009．3．
- (10) シンポジウム座長：
- 1) 横田裕行：救急医療における移植医療．第36回日本救急医療学会総会・学術集会，2008．10．
- (11) トピックス：
- 1) 増野智彦，相星淳一<sup>1)</sup>，小池 薫<sup>2)</sup>，横田裕行，Ernest E<sup>3)</sup> (1) 東京医科歯科大学災害救急医学，<sup>2)</sup> 京都大学救急医学，<sup>3)</sup> コロラド大学外科)：出血性ショック後肺障害は腸管リンパ液を介し発生する：IIa型ホスホリパーゼA2由来メディエーターの関与．第45回日本腹部救急医学会総会，2009．3．
- (12) ビデオシンポジウム：
- 1) 桑本健太郎<sup>1)</sup>，高山泰広<sup>1)</sup>，小川太志<sup>1)</sup>，田上正成<sup>1)</sup>，加茂 潤<sup>1)</sup>，小井土雄一<sup>2)</sup>，横田裕行 (1) 川口市立医療センター救命救急センター，<sup>2)</sup> 独立行政法人国立病院機構災害医療センター臨床研究部)：D-dimerを指標にした重症頭部外傷の治療戦略．第36回日本救急医学会，2008．10．
- 2) 久志本成樹，福田令雄，宮内雅人，白石振一郎，佐藤格夫，増野智彦，川井 真，横田裕行：Open abdomenの管理法．第36回日本救急医学会総会，2008．10．
- (13) ポスター：
- 1) 畝本 (猪鹿倉) 恭子<sup>1)</sup>，横田裕行，戸田茂樹<sup>2)</sup>，中江竜太，鈴木 剛，北薮雅敏，黒川 顕<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター，<sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科)：骨傷のない頸髄損傷の急性期治療の検討．第67回日本脳神経外科学会総会，2008．10．
- 2) 戸田茂樹<sup>1)</sup>，高島伸之介<sup>1)</sup>，瀬瀬健太<sup>1)</sup>，小暮一成<sup>1)</sup>，金 景成<sup>1)</sup>，横田裕行，寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科)：中心性頸髄損傷の治療．第67回日本脳神経外科学会総会，2008．10．
- 3) 横堀将司，横田裕行，恩田秀賢，増野智彦，荒木 尚，布施 明，佐藤秀貴：高齢者重症頭部外傷における積極的治療決定因子の検討：日本頭部外傷データベース (JNTDB project2004) 登録症例から．第67回日本脳神経外科学会総会，2008．10．
- 4) 勝野 亮<sup>1)</sup>，横田裕行，寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科)：くも膜下出血と脳内出血における心電図変化．第67回日本脳神経外科学会総会，2008．10．
- (14) 緊急報告：
- 1) 増野智彦，志村知子，堀内義仁，京極多歌子，妹尾正子，園田美和，竹内美紀，中島 誠，小川圭子，古賀善明，山中勝一郎：ミャンマー連邦サイクロン被害に対する国際緊急援助隊医療チーム活動報告．第14回日本集団災害医学会，2009．2．

(15) 症例検討会：

- 1) 荒木 尚：小児多発外傷における頸椎クリアランス．日本医科大学付属4病院症例検討会，2008．10．
- 2) 荒木 尚，横田裕行：児童虐待による頭部外傷．日本医科大学小児科4病院症例検討会，2008．11．

## [武蔵小杉病院救命救急センター]

### 研究概要

当科は少数スタッフで構成される，ICU10床の新型救命救急センターで，一般病床15床前後も有効に稼働して年間700～800例の3次救急対象症例を扱っている．常に厳しい医療制度と高齢社会を中心とした社会問題に直面しており，施設の課題のひとつとして患者受け入れの後の所謂“出口問題”をかかえている．また，限られたICU病床を最大限に利用し，重症熱傷，重症特殊感染症，重症脳損傷，多発外傷症例などを扱い，臨床研究を行う一方，これらの疾患の管理上，最重点課題である抗菌薬使用のコントロールについても研究している．

今年度は，以下のような検討結果を発表した．1) 重症熱傷；II度熱傷，あるいは植皮後の感染創のコントロール，上皮化の補助としての銀イオン含有被覆材の有効利用2) 中枢神経疾患：重症脳損傷，頭部外傷に対する手術適応と脳低温療法併用の再検討3) 感染制御チーム（ICT）による特定抗菌薬届け出制を確立し，ICUでの耐性菌出現を有意に抑制した効果を上げて発表している．4) 救急医，あるいは救急医療施設の今後の在り方と教育についても検討し，報告を行っている．また，今後，5) 救急施設に搬送される高齢者，重度後遺症障害者の終末期医療の一面としての出口問題に関する検討も行い，社会制度の変化を見込んだデータを発信する予定である．

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) 黒川 顕：クリティカルケアにおける倫理的問題の調整．日本クリティカルケア看護学会雑誌 2008；4 (2)：11-13．
- 2) 黒川 顕：急性中毒治療時の2次災害防止のための防御体制の実態．中毒研究 2009；22 (1)：33-37．

(2) 総説：

- 1) 畝本恭子：事例でみるJATEC™．エマージェンシー・ケア 2008；22 (4)：48-54．

(3) 巻頭エッセイ：

- 1) 黒川 顕：E Word 私の救急医としての原点の言葉「診てもらってよかった」．Emergency Care 2009；22 (1)．

#### 著書

- 1) 黒川 顕：〔分担〕めまい．救急診療指針改訂第3版，2008；pp111-115，へるす出版．
- 2) 黒川 顕：〔分担〕第31回救急救命士国家試験問題 解答・解説集．第31回救急救命士国家試験問題 解答・解説集，2008；pp4-14，へるす出版．
- 3) 望月 徹，宮内雅人<sup>1)</sup>，平田清貴<sup>2)</sup>，平野公晟<sup>2)</sup>，黒川 顕，山本保博<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター，<sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院薬剤部，<sup>3)</sup> 東京臨海病院)：〔分担〕診療科薬品集 救急治療・薬剤ハンドブック 第4版．診療科薬品集 救急治療・薬剤ハンドブック 第4版，2009；株式会社じほう．

#### 学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 畝本恭子，直江康孝<sup>1)</sup>，北橋章子<sup>2)</sup>，石之神小織<sup>2)</sup>，黒川 顕，横田裕行<sup>3)</sup> (1) 川口市立医療センター救命救急

センター，<sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター，<sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター）：重症頭部外傷 - 急性硬膜内病変の治療戦略 減圧開頭術に関する分析．日本神経外傷学会（第31回），2008. 4.

2) 黒川 顕：クリティカルケアにおける倫理的問題の調整：医師の立場から．日本クリティカルケア看護学会学術集会（第4回），2008. 5.

3) 黒川 顕，一瀬麻紀，牧 真彦，上笹 宙，望月 徹，畝本恭子，岸 泰宏<sup>1)</sup>，野口周作<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院精神科，<sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤科）：集団中毒に対する危機管理体制：医療関係者の2次災害の防止を考える．日本中毒学会総会（第30回），2008. 7.

(2) ワークショップ：

1) 黒川 顕：自殺企図中毒への対策 - 治療とケア：硫化水素自殺事例の流行に対する学会のあり方を通して．日本中毒学会総会（第30回），2008. 7.

(3) 一般講演：

1) 一瀬麻紀，上田康晴：胸部外傷患者における硬膜外鎮痛の有用性．日本麻酔科学会（第55回），2008. 6.

2) 望月 徹，野口周作<sup>1)</sup>，黒川 顕，畝本恭子，上田康晴，上笹 宙，牧 真彦，一瀬麻紀，北菌雅敏<sup>2)</sup>，横田裕行<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部，<sup>2)</sup> 東京臨海病院，<sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター）：集中治療室における特定抗菌薬届出制とICT（感染制御チーム）介入の有用性．日本救急医学会総会（第36回），2008. 10.

3) 畝本恭子，北菌雅敏<sup>1)</sup>，一瀬麻紀，牧 真彦，上笹 宙，望月 徹，黒川 顕，横田裕行<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 東京臨海病院，<sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター）：重症頭部外傷に対する開頭術 - 脳低温療法の再検討．日本救急医学会総会（第36回），2008. 10.

(4) ポスター：

1) 畝本（猪鹿倉）恭子，黒川 顕，横田裕行<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター，<sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院脳神経外科）：骨傷のない頸髄損傷の急性期治療の検討．日本脳神経外科学会総会（第67回），2008. 10.

## [多摩永山病院救命救急センター]

### 研究概要

当施設は多摩地区の3次救急医療施設として多発外傷，頭部外傷，整形外科外傷，熱傷，虚血性心疾患，脳血管障害，薬物中毒，災害医療と多岐にわたる患者に対して，それぞれの分野での専門医を中心に自己完結的に集中治療にあたりるとともに，併せて各分野での臨床研究を行っている．重症患者における循環動態モニタリング，頭部外傷に対する軽度低体温療法，脳梗塞急性期に対するt-PAの投与，血栓溶解法，多発性外傷に対するダメージコントロール，心肺停止蘇生後の低体温療法などに取り組んでいる．また，病院前から継続して行われる救急医療システムの改善についても救急救命士とともに検討している．臨床研究のほか基礎研究も継続して行っており，エンドトキシン血症に対するPMX，各種薬剤の有効性について基礎実験を行い，結果を学会発表，誌上発表している．また，災害医療に関しても国内，海外への派遣に積極的に参加している．

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

1) Hara S<sup>1)</sup>，Nemoto K<sup>1)</sup>，Ninomiya N<sup>1)</sup>，Kubota M<sup>2)</sup>，Kuno M<sup>1)</sup>，Yamamoto Y<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Clinical Laboratory, Nippon Med-

ical School) : Continuous Infusion of Sivelestat Sodium Hydrate Prevents Lipopolysaccharide-Induced Intestinal Paralysis and Hypotension in Conscious Guinea-Pigs. *Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology* 2008 ; 35 (7) : 841-845.

(2) 事例報告 :

- 1) 青木政幸<sup>1)</sup>, 榊原牧子<sup>1)</sup>, 曾山明美<sup>1)</sup>, 二宮宣文, 島田 靖, 山本保博<sup>2)</sup>, 高野達夫<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本エマージェンシーアシスタンス株式会社, <sup>2)</sup> 日本医科大学救急医学 高度救命救急センター, <sup>3)</sup> 中日本航空株式会社) : 患者の国際搬送手段日本における実態と問題点. *日本航空医療学会雑誌* 2008 ; 9 (3) : 69-75.

著 書

- 1) 二宮宣文 : [分担] 自然災害と人為的災害の違い. いのちとこころを救う災害看護 (小原真理子 日本赤十字看護大学教授), 2008 ; pp52-52, 学習研究社.
- 2) 二宮宣文 : [分担] International Repatriation (国際帰国搬送). 災害医学 (山本保博 鶴飼 卓 杉本勝彦 編集 : 災害人道医療支援会 (HuMA)), 2009 ; pp460-462, 南山堂.
- 3) 島田 靖 : [分担] 災害の疫学. 災害医学 (山本保博 鶴飼 卓 杉本勝彦 編集 : 災害人道医療支援会 (HuMA)), 2009 ; pp23-58, 南山堂.

学会発表

(1) パネルディスカッション :

- 1) 諸江雄太, 二宮宣文, 直江康孝, 中野渡雄一, 石之神小織, 島田 靖, 小柳正雄, 原 俊輔, 久野将宗, 稲垣栄次, 北橋章子 : 「自殺企図」と「気象、自然現象」の関係についての検討 : その日とその手段は自然界から影響を受けたか? . 日本救急医学会総会・学術集会 (第36回), 2008. 10.

(2) 一般講演 :

- 1) 二宮宣文 : Collaboration and Coordination for Disaster Medicine at the Scene (Voluntary aid Coordination). The 9th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (韓国), 2008. 11.
- 2) 直江康孝, 二宮宣文, 中野渡雄一, 石之神小織, 諸江雄太, 久野将宗, 島田 靖, 原 俊輔, 稲垣栄次, 林幹彦 : 救急搬送体制の見直しに向けて. 日本外傷学会総会 (第22回), 2008. 5.
- 3) 二宮宣文, 島田 靖, 久野将宗, 横田裕行<sup>1)</sup>, 曾山明美<sup>2)</sup>, 榊原牧子<sup>2)</sup>, 青木政幸<sup>2)</sup>, 毛呂花子<sup>3)</sup>, 田中秀治<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本エマージェンシーアシスタンス, <sup>3)</sup> 国士舘大学スポーツ医科学科) : 国際救急救命士育成の試み. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第11回), 2008. 6.
- 4) 飯島真理子<sup>1)</sup>, 嘉村洋志<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 近藤久禎<sup>1)</sup>, 久志本茂樹<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 二宮宣文 (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター) : 岩手・宮城内陸地震における日本医大チームの活動. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
- 5) 鈴木麻也<sup>1)</sup>, 嘉村洋志<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 近藤久禎<sup>1)</sup>, 久志本茂樹<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 二宮宣文 (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター) : 岩手・宮城内陸地震における被災者の健康状況. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
- 6) 直江康孝, 中野渡雄一, 石之神小織, 諸江雄太, 島田 靖, 原 俊輔, 久野将宗, 稲垣栄次, 北橋章子, 二宮宣文, 横田裕行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター) : 高齢者救急医療の現実と問題点 : アンケート調査の結果から. 日本救急医学会総会・学術集会 (第36回), 2008. 10.
- 7) 北橋章子, 直江康孝, 中野渡雄一, 石之神小織, 諸江雄太, 島田 靖, 原 俊輔, 久野将宗, 稲垣栄次, 二宮宣文 : 痙攣と環境要因. 日本救急医学会総会・学術集会 (第36回), 2008. 10.
- 8) 久野将宗, 二宮宣文, 根本香代, 久保田稔<sup>1)</sup>, 松本辰美<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 中央検査室, <sup>2)</sup> 武田薬品工業株式会社医薬研究本部, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター) : TLR4シグ



ナル伝達阻害 TAK-242のエンドトキシン血症モルモットモデルに対する効果. 日本救急医学会総会・学術集会 (第36回), 2008. 10.

- 9) 二宮宣文, 布施 明<sup>1)</sup>, 島田 靖, 羽場和美, 曾山明美<sup>2)</sup>, 榎原牧子<sup>2)</sup>, 青木政幸<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター, 2) 日本エマージェンシーアシスタンス): 集団災害における同時多発数傷病者国際搬送. 日本救急医学会総会・学術集会 (第36回), 2008. 10.
- 10) 島田 靖, 近藤久禎<sup>1)</sup>, 富岡譲二<sup>2)</sup>, 大友康裕<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター, 2) 福岡和白病院 高度救命救急センター, 3) 東京医科歯科大学医学部 救命救急センター): JICA 国際緊急援助隊医療チームにおける災害疫学研修. 日本救急医学会総会・学術集会 (第36回), 2008. 10.
- 11) 石之神小織, 稲垣栄次, 久野将宗, 原 俊輔, 小柳正雄, 諸江雄太, 中野渡雄一, 二宮宣文, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター): 救命医と救急救命士, 現状と将来: 救急医療に対する情熱と体力の限界とのジレンマ. 日本救急医学会関東地方会 (第59回), 2009. 2.
- 12) 稲垣栄次, 久野将宗, 原 俊輔, 小柳正雄, 石之神小織, 諸江雄太, 中野渡雄一, 直江康孝, 二宮宣文, 北橋章子, 島田 靖: 循環動態不安定な骨盤骨折に対して経腹膜外ガーゼパッキングを行った2例. 日本救急医学会関東地方会 (第59回), 2009. 2.
- 13) 久野将宗, 二宮宣文, 中野渡雄一, 根本香代, 久保田稔<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 松本辰美<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院 中央検査室, 2) 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター, 3) 武田薬品工業): 新規TLR4シグナル伝達阻害 TAK-242はモルモットのエンドトキシン血症を改善する. エンドトキシン血症救命治療研究会 (第13回), 2009. 2.
- 14) 石之神小織, 北橋章子, 横堀将司<sup>1)</sup>, 榎本健太郎, 直江康孝<sup>2)</sup>, 二宮宣文, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター, 2) 川口市立医療センター 救命救急センター): 脳神経外科疾患における急性期異常高血圧疾患への対応. 日本救急医学会関東地方会 (第59回), 2009. 2.

## [千葉北総病院救命救急センター]

### 研究概要

当施設は千葉県北総地域の基幹救急医療施設として平成6年1月に開設した。その後、平成8年11月に千葉県の基幹災害医療センターに、また平成9年1月に千葉県で最初の日本救急医学会指導医指定施設に認可された。平成11年4月には県内8施設目の救命救急センターに認定され、各種学会・研究会において活発な活動を行っている。平成13年10月からは、厚生労働省事業である千葉県ドクターヘリ事業の基地病院として、千葉県及び茨城県南部で発生した広範囲熱傷、薬物中毒、重症外傷、脳卒中、急性冠症候群、急性大動脈疾患など様々な重症患者に最適の初期治療を提供している。また中越地震などの大規模災害に対してもDMATチームが出勤し、めざましい治療効果を挙げている。

教育活動としては、ACLS, BLS, ICLS, PALS, JATEC, JPTEC, DMATなどの標準医療教育システムの指導者を擁し、救急救命士、看護師、医学生、専門学生などへのベーシックおよびアドバンスの質の高い救急医療教育を提供するとともに、フライトクルーを目指す医療者のドクターヘリ搭乗教育にも力を入れている。

研究テーマは、救急医療システム特に外傷診療のあり方に関する研究、ヘリコプターを活用した救命救急医療のもたらす医学的効果についての研究、災害医療システムの研究、新たな小児重症救急医療システムの構築に関する研究、多発外傷や重症骨盤骨折の病態生理の解明に関する研究、ショックに対する病態生理の解明ならびに新たな診断・治療手法の開発、外傷患者に対するDamage Controlの効果に関する研究、敗血症・多臓器不全の病態解明と血液浄化療法の効果に関する研究、交通事故調査を中心とした外傷予防システムの研究、シミュレーションモデルを用いた救急医学教育の開発に関する研究、メディカルコントロールに関する研究等、多岐に渡っており、これらの研究成果を国内学会、専門誌ばかりでなく国際学会や英文雑誌で発表し、広く内外に情報発信している。



## 研究業績

### 論文

〔追加分〕

追加分研究報告書：

- 1) 益子邦洋, 鈴川正之<sup>1)</sup>, 今道英秋<sup>1)</sup>, 阪井裕一<sup>2)</sup>, 鈴木 真<sup>3)</sup>, 岡田真人<sup>4)</sup>, 坂田久美子<sup>5)</sup> (1) 自治医科大学救急医学, 2) 国立成育医療センター手術・集中治療部, 3) 亀田総合病院総合周産期母子医療センター, 4) 聖隷三方原病院救命救急センター, 5) 愛知医科大学高度救命救急センター)：ドクターヘリの病院間の連携, 患者と医療資源の集約化への効果についての研究. 平成19年度厚生労働科学研究費補助金(医療安全・医療技術評価総合研究事業)救急医療体制の推進に関する研究(主任研究者 小濱啓次)分担研究 ドクターヘリの病院間の連携, 患者と医療資源の集約化への効果についての研究 2008 ; 1-74.
- 2) 益子邦洋：救急センターにおける危機的出血への対応の現状の把握. 平成19年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品医療機器等レギュラトリーサイエンス研究事業)危機的出血に対する輸血ガイドライン導入による救命率の変化および輸血ネットワークシステムに関する研究(主任研究者：順天堂大学・麻酔科学教授 稲田英一)分担研究 救急センターにおける危機的出血への対応の現状の把握 2008 ; 1-34.

追加分原著：

- 1) 熊谷智昭<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 武井健吉, 松本 尚, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 益子邦洋, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup>, 赫 彰郎<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 日本医科大学内科神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：千葉県における脳卒中診療での救急医療用ヘリコプターの利用状況. 脳卒中 2008 ; 30 (4) : 545-550.

追加分総説：

- 1) 武井健吉<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター)：小児外傷の初期治療. 小児科診療 2006 ; 69 (5) : 725-732.
- 2) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹<sup>1)</sup>, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 齋藤伸行, 山本保博<sup>2)</sup> (1) 東京慈恵会医科大学DNA医学研究所分子細胞生物学研究部, 2) 日本医科大学 救急医学)：Endotoxin Scatting Photometry (ESP) 法からみたPolymyxin B-immobilized fiber column-Direct hemo-perfusion (PMX-DHP) の適応基準についての見当. ICUとCCU 2008 ; 32 (別冊) : 206-209.

(1) 原著：

- 1) Sakamoto Y, Mashiko K, Obata T<sup>1)</sup>, Matsumoto H, Hara Y, Kutsukata N, Yamamoto Y<sup>2)</sup> (1) Department of Molecular Cell Biology, Institute of DNA Medicine, Jikei University School of Medicine, 2) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School)：Relationship between treatment resistance to hemoperfusion using a polymyxin B-immobilized fiber column and oxidative stress. ASAIO J 2008 ; 54 (4) : 412-415.
- 2) Hata N<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Shinoda T<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Shirakabe A<sup>1)</sup>, Matsumoto H, Mashiko K (1) Department of Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital)：Severity of acute myocardial infarction in patients transported by air ambulance ; エアアンビュランスで搬送された急性心筋梗塞の重症度. 日本航空医療学会雑誌 2008 ; 9 (3) : 21-26.
- 3) 武井健吉<sup>1)</sup>, 清水直樹<sup>2)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 小原崇一郎<sup>2)</sup>, 阪井裕一<sup>2)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 国立成育医療センター手術・集中治療部)：小児重症患者の救命には小児集中治療施設への患者集約が必要である. 日本救急医学会雑誌 2008 ; 19 (4) : 201-207.
- 4) 阪本雄一郎, 益子邦洋：肝損傷の治療戦略についての検討. 日本腹部救急医学会雑誌 2008 ; 28 (6) : 803-807.

- 5) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹<sup>1)</sup>, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 山本保博<sup>2)</sup> (1) 東京慈恵会医科大学 DNA医学研究所分子細胞生物学研究部, (2) 日本医科大学 救急医学): Endotoxin Scattering Photometry (ESP) 法と従来法 (比濁時間法) のエンドトキシン値からみた敗血症性ショック症例におけるPMX-DHPの施行基準についての検討. エンドトキシン血症救命治療研究会誌 2008; 12 (1): 92-96.
  - 6) 小幡 徹<sup>1)</sup>, 阪本雄一郎, 野村真弓<sup>1)</sup>, 鹿瀬陽一<sup>2)</sup>, 益子邦洋 (1) 東京慈恵会医科大学 DNA医学研究所分子細胞生物学研究部, (2) 東京慈恵会医科大学 麻酔学教室): エンドトキシン測定の問題点: なぜ従来法で測れないのか?. エンドトキシン血症救命治療研究会誌 2008; 12 (1): 97-101.
  - 7) 松本 尚<sup>1)</sup>, 今 明秀<sup>1)</sup>, 坂本照夫<sup>1)</sup>, 篠崎正博<sup>1)</sup>, 田勢長一郎<sup>1)</sup>, 谷川攻一<sup>1)</sup>, 中川 隆<sup>1)</sup>, 中川雄公<sup>1)</sup>, 中野実<sup>1)</sup>, 奈良 理<sup>1)</sup>, 和藤幸弘<sup>1)</sup>, 河原和夫<sup>2)</sup> (1) 日本航空医療学会「ドクターヘリ導入推進委員会」, (2) 東京医科歯科大学大学医療政策学政策科学): ドクターヘリの適正配備に向けた課題とground designの提示. 日本航空医療学会雑誌 2008; 9 (3): 11-20.
  - 8) 片田裕子<sup>1)</sup>, 中村奈緒子<sup>2)</sup>, 八塚美樹<sup>1)</sup>, 片田正一<sup>3)</sup>, 益子邦洋 (1) 富山大学大学院医薬学研究部臨床看護学成人看護II, (2) 富山大学医学部看護学科, (3) 茨城県立中央病院救命救急センター): フライトナースの現状から考える看護師の役割: KJ法を用いて. 日本航空医療学会雑誌 2008; 9 (3): 54-61.
- (2) 総説:
- 1) 益子邦洋: ドクターヘリと外傷センターの整備で交通事故死者数を5千人以下に. アスカ21 2008; 17 (2): 10-11.
  - 2) 朽方規喜, 益子邦洋: 破裂性腹部大動脈瘤. 救急医学 2008; 32 (5): 600-601.
  - 3) 小林士郎<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 益子邦洋 (1) 日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター, (2) 日本医科大学救急医学教室): 脳死判定. Medical Practice 2008; (臨時増刊): 1068-1081.
  - 4) 阪本雄一郎: 症候・病態 腹部外傷. プレホスピタル・ケア 2008; 21 (3): 60-63.
  - 5) 益子邦洋: ドラマ「コード・ブルー」から何を学ぶか. アスカ21 2008; 17 (3): 10-11.
  - 6) 阪本雄一郎, 益子邦洋: 受傷機転からみた胸部外傷の特徴と問題点. 救急医学 2008; 32 (8): 871-876.
  - 7) 益子邦洋: 外傷救急医療の現状と展望. 医学のあゆみ 2008; 226 (9): 741-747.
  - 8) 八木貴典: チアノーゼ. 月刊ナーシング 2008; 28 (12): 202-205.
  - 9) 八木貴典: 呼吸停止. 月刊ナーシング 2008; 28 (12): 214-217.
  - 10) 益子邦洋: 二の矢を継ぐ. アスカ21 2008; 17 (4): 10-11.
  - 11) 朽方規喜: 胸部外傷時にみられる単純X線所見 (総論). 救急医学 2008; 32 (13): 1769-1774.
  - 12) 金丸勝弘, 益子邦洋: 病院前救護の質向上3; ドクターヘリコプター (「ドクターヘリ」) 事業. 治療学 2008; 42 (12): 1379-1383.
  - 13) 益子邦洋: 車の安全装置を適切に使用することの大切さ. アスカ21 2009; 18 (1): 10-11.
  - 14) 朽方規喜, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 阪本雄一郎: 腹部大血管損傷 (大動脈, 下大静脈, 腸骨動・静脈). 手術 2009; 63 (3): 341-348.
- (3) 症例報告:
- 1) Kutsukata N, Sakamoto Y, Matsumoto H, Mashiko K: Revascularization by Right Gastroepiploic Arterial Bypass in a Patient with Superior Mesenteric Arterial Thrombosis. 日本血管外科学会雑誌 2008; 17 (5): 59-61.
  - 2) Kutsukata N, Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Sakamoto Y, Takei K, Saito N: A Case of Abdominal Aortic Injury Caused by a Traffic Accident. J Nippon Med Sch 2008; 75 (6): 337-339.
  - 3) 金丸勝弘, 松本 尚: オンラインでの事後検証システム. プレホスピタル・ケア 2008; 21 (2): 107-111.

(4) 研究報告書：

- 1) 阪本雄一郎, 益子邦洋：日本外傷登録データベースからみた交通事故傷害予測について。傷害予測で事故死傷者をどこまで減らせるかフォーラム2008 2008；11-14.
- 2) 穴田賢二<sup>1)</sup>, 宮崎裕介<sup>1)</sup>, 立矢 宏<sup>1)</sup>, 放生明廣<sup>1)</sup>, 阪本雄一郎 ( <sup>1)</sup> 金沢大学 工学部)：実形状頭部物理モデルの脳部変形計測。日本機械学会第21回バイオエンジニアリング講演会講演論文集 2009；8 (53)：477-478.
- 3) 山中嘉仁<sup>1)</sup>, 宮崎裕介<sup>1)</sup>, 穴田賢二<sup>1)</sup>, 立矢 宏<sup>1)</sup>, 放生明廣<sup>1)</sup>, 阪本雄一郎 ( <sup>1)</sup> 金沢大学 工学部)：同一形状の実験モデルによる頭部有限要素モデルの精度評価と脳挫傷メカニズムの検討。日本機械学会第21回バイオエンジニアリング講演会講演論文集 2009；8 (53)：479-480.

(5) 実態調査：

- 1) 入田和男<sup>1)</sup>, 稲田英一<sup>2)</sup>, 吉村 速<sup>3)</sup>, 蕨 謙吾<sup>2)</sup>, 津崎晃一<sup>4)</sup>, 稲葉頌一<sup>5)</sup>, 半田 誠<sup>6)</sup>, 上村知恵<sup>6)</sup>, 紀野修一<sup>7)</sup>, 益子邦洋, 矢野 哲<sup>8)</sup>, 亀井良政<sup>9)</sup>, 久保隆彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 九州大学行新病院建設推進室, <sup>2)</sup> 順天堂大学医学部麻酔科学・ペインクリニック講座, <sup>3)</sup> 九州大学病院手術部, <sup>4)</sup> 慶應義塾大学医学部麻酔学教室, <sup>5)</sup> 神奈川県赤十字血液センター, <sup>6)</sup> 慶應義塾大学病院輸血・細胞療法部, <sup>7)</sup> 旭川医科大学輸血学, <sup>8)</sup> 東京大学医学部産婦人科学教室, <sup>9)</sup> 東京大学医学部附属病院周産期母子診療部)：麻酔科認定病院の手術室で発生している大量出血とその対応に関する実態調査。麻酔 2008；25 (臨時増刊)：109-123.

著 書

〔追加分〕

追加分：

- 1) Kohama A<sup>1)</sup>, Akashi K<sup>1)</sup>, Ishihara S<sup>1)</sup>, Katoh K<sup>1)</sup>, Kawamura T<sup>1)</sup>, Sakai H<sup>1)</sup>, Suzukawa M<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Nakazawa M<sup>1)</sup>, Noguchi H<sup>1)</sup>, Nomiya S<sup>1)</sup>, Mashiko K ( <sup>1)</sup> Red Cross First Aid Research Members)：〔共著〕Textbook of Basic First Aid Course (Japanese Red Cross Society), 2007；pp1-60, NISSEKI SERVICE CENTER.
- 1) 金丸勝弘：〔分担〕やけど。ブリタニカ国際大百科事典・『エンサイクロペディア・ブリタニカ・オンライン (ブリタニカ ジャパン株式会社 編集部), 2008；ブリタニカ ジャパン株式会社.
- 2) 金丸勝弘, 松本 尚：〔分担〕新しい搬送スタイル プラチナの10分。救急ケア最前線 知っておくべき救急初期対応 (箕輪良行), 2008；pp34-37, 医学書院.
- 3) 小濱啓次<sup>1)</sup>, 明石勝也<sup>1)</sup>, 石原 晋<sup>1)</sup>, 加藤啓一<sup>1)</sup>, 河村剛史<sup>1)</sup>, 阪井裕一<sup>1)</sup>, 鈴川正之<sup>1)</sup>, 田中経一<sup>1)</sup>, 中澤誠<sup>1)</sup>, 野口 宏<sup>1)</sup>, 野見山延, 益子邦洋 ( <sup>1)</sup> 赤十字救急法研究委員会)：〔共著〕日赤救急法講習教本 (日本赤十字社), 2008；pp1-125, 日赤サービス.
- 4) 小濱啓次<sup>1)</sup>, 明石勝也<sup>1)</sup>, 石原 晋<sup>1)</sup>, 加藤啓一<sup>1)</sup>, 河村剛史<sup>1)</sup>, 阪井裕一<sup>1)</sup>, 鈴川正之<sup>1)</sup>, 田中経一<sup>1)</sup>, 中澤誠<sup>1)</sup>, 野口 宏<sup>1)</sup>, 野見山延, 益子邦洋 ( <sup>1)</sup> 赤十字救急法研究委員会)：〔共著〕赤十字救急法基礎講習教本 (日本赤十字社), 2008；pp1-59, 日赤サービス.
- 5) 益子邦洋：〔分担〕I救急医学総論2. 救急医療システム. 救急診療指針改定第3版 (監修 日本救急医学会 編集 日本救急医学会専門医認定委員会), 2008；pp8-17, へるす出版.
- 6) 益子邦洋：〔分担〕II救急初期診療における診療指針7. 外因性救急の診療指針A外傷 (4) 胸部外傷. 救急診療指針改定第3版 (監修 日本救急医学会 編集 日本救急医学会専門医認定委員会), 2008；pp287-301, へるす出版.
- 7) 金丸勝弘, 松本 尚：〔分担〕18. 消化管異物. 救急医学 研修・当直医必携シリーズ (3) 消化器救急, 2008；pp606-609, へるす出版.
- 8) 益子邦洋：〔分担〕第5章 救命率向上のためのドクターヘリ・ドクターカーの導入. 救急医療改革-役割分

- 担, 連携, 集約化と分散－(編集 小濱啓次), 2008; pp145-160, 東京法令出版.
- 9) 武井健吉: [分担] なぜ12歳未満の輪状甲状間膜切開は禁忌なのか?. 小児科研修の素朴な疑問に答えませ  
(真部淳・上村克徳), 2008; pp12-13, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
  - 10) 阪本雄一郎: [分担] I・小児外傷学総論5. JPTEC™. 実践 小児外傷初療学: 初期対応と緊急処置 (編集  
益子邦洋, 編集責任 武井健吉), 2008; pp33-38, 永井書店.
  - 11) 金丸勝弘: [分担] III・必須基本手技3. 胸腔穿刺・胸腔ドレナージ. 実践 小児外傷初療学: 初期対応と緊急  
処置 (編集 益子邦洋, 編集責任 武井健吉), 2008; pp208-214, 永井書店.
  - 12) 益子邦洋, 武井健吉: [編集] 序文. 実践 小児外傷初療学: 初期対応と緊急処置 (編集 益子邦洋 編集責  
任 武井健吉), 2008; pp1-370, 永井書店.
  - 13) 益子邦洋, 阪本雄一郎, 武井健吉: [分担] I・小児外傷学総論1. 小児外傷の疫学. 実践 小児外傷初療学:  
初期対応と緊急処置 (編集 益子邦洋 編集責任 武井健吉), 2008; pp3-12, 永井書店.
  - 14) 武井健吉: [分担] I・小児外傷学総論8. 緊急度・重症度評価. 実践 小児外傷初療学: 初期対応と緊急処置  
(編集 益子邦洋 編集責任 武井健吉), 2008; pp52-57, 永井書店.
  - 15) 八木貴典: [分担] III・必須基本手技4. 末梢静脈路確保. 実践 小児外傷初療学: 初期対応と緊急処置 (編集  
益子邦洋 編集責任 武井健吉), 2008; pp215-218, 永井書店.
  - 16) 原 義明: [分担] II・小児外傷学各論5. 四肢・骨盤外傷. 実践 小児外傷初療学: 初期対応と緊急処置 (編  
集 益子邦洋 編集責任 武井健吉), 2008; pp122-141, 永井書店.
  - 17) 松本 尚: [分担] I・小児外傷学総論4. JATEC™. 実践 小児外傷初療学: 初期対応と緊急処置 (編集 益  
子邦洋 編集責任 武井健吉), 2008; pp25-32, 永井書店.
  - 18) 朽方規喜: [分担] III・必須基本手技6. 心嚢穿刺, 心嚢開窓法. 実践 小児外傷初療学: 初期対応と緊急処置  
(編集 益子邦洋 編集責任 武井健吉), 2008; pp224-228, 永井書店.
  - 19) 八木貴典: [分担] III・必須基本手技5. 骨髄液. 実践 小児外傷初療学: 初期対応と緊急処置 (編集 益子  
邦洋, 編集責任 武井健吉), 2008; pp219-223, 永井書店.
  - 20) 松本 尚: [分担] III・必須基本手技7. 緊急開胸・大動脈遮断. 実践 小児外傷初療学: 初期対応と緊急処置  
(編集 益子邦洋, 編集責任 武井健吉), 2008; pp229-231, 永井書店.
  - 21) 富田祥輝: [分担] IV・外傷初期治療4. 外出血に対する緊急処置. 実践 小児外傷初療学: 初期対応と緊急処  
置 (編集 益子邦洋, 編集責任 武井健吉), 2008; pp259-267, 永井書店.
  - 22) 富田祥輝: [分担] IV・外傷初期治療5. 骨折・脱臼に対する緊急処置. 実践 小児外傷初療学: 初期対応と緊  
急処置 (編集 益子邦洋, 編集責任 武井健吉), 2008; pp268-303, 永井書店.
  - 23) 朽方規喜: [分担] IV・外傷初期治療5. 血管外傷に対する緊急処置. 実践 小児外傷初療学: 初期対応と緊急  
処置 (編集 益子邦洋, 編集責任 武井健吉), 2008; pp304-310, 永井書店.
  - 24) 松本 尚: [分担] IV・外傷初期治療8. 緊急開胸, 開腹手術の適応. 実践 小児外傷初療学: 初期対応と緊急  
処置 (編集 益子邦洋, 編集責任 武井健吉), 2008; pp321-324, 永井書店.
  - 25) 武井健吉: [分担] V・小児外傷を取り巻く諸問題6. 医療機関の連携. 実践 小児外傷初療学: 初期対応と緊  
急処置 (編集 益子邦洋 編集責任 武井健吉), 2008; pp365-370, 永井書店.
  - 26) 武井健吉: [分担] 搬送体制. 小児科臨床ピクシス 小児救急医療 (五十嵐隆総編集・羽鳥文磨専門編集),  
2008; pp44-45, 中山書店.
  - 27) 武井健吉: [分担] 骨盤外傷. 小児科臨床ピクシス 小児救急医療 (五十嵐隆総編集・羽鳥文磨専門編集),  
2008; pp196-197, 中山書店.
  - 28) 石原 晋<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>(1)</sup> 公立邑智病院): [監修] メディカルコントロールの過去・現在・未来－消防の視点  
から. プレホスピタルBOOK6 (監修/石原 晋・益子邦洋 編集/松本 尚), 2008; pp1-158, 永井書店.
  - 29) 松本 尚: [自著] 序文. プレホスピタルBOOK6 (監修/石原 晋・益子邦洋 編集/松本 尚), 2008;



pp1-1, 永井書店.

- 30) 松本 尚：〔編集〕メディカルコントロールの過去・現在・未来－消防の視点から。プレホスピタルBOOK6 (監修/石原 晋・益子邦洋 編集/松本 尚), 2008 ; pp1-158, 永井書店.
- 31) 益子邦洋：〔分担〕第1章ドクターヘリとヘリ救急 2. ドクターヘリの効果. フライトナース実践ガイド (監修 日本航空医療学会 編集 小濱啓次・杉山 貢・坂田久美子), 2008 ; pp13-19, へるす出版.
- 32) 益子邦洋：〔分担〕胸部刺創. 今日の治療指針 (山口 徹 北原光夫 福井次矢), 2009 ; pp41-42, 医学書院.
- 33) 金丸勝弘, 松本 尚：〔分担〕17. 外因性CPA. プレホスピタルMOOK7 新ガイドラインを読み解く (石原 晋・益子邦洋・畑中哲生), 2009 ; pp134-141, 永井書店.
- 34) 石原 晋<sup>1)</sup>, 益子邦洋 (1) 公立邑智病院)：〔監修〕新ガイドラインを読み解く. プレホスピタルBOOK7 (石原 晋・益子邦洋), 2009 ; pp1-155, 永井書店.
- 35) 肥田誠治, 益子邦洋：〔分担〕IV. ショック 5. 熱傷性ショック. 経静脈治療オーダーマニュアル (編集 小川 龍・島崎修次・飯野靖彦・五十嵐隆・福島亮治), 2009 ; pp65-69, メディカルビュー社.

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 益子邦洋：ドクターヘリの有効性. 第2回湯島救急フォーラム, 2008. 12.
- 2) 阪本雄一郎：敗血症性ショックに対するPMX療法：治療後のPMMA膜hemofilyerを用いたCHDFの有効性. 第2回長野CHDF技術検討会, 2009. 2.
- 3) 益子邦洋：ドクターヘリ法案成立は病院前救急診療の幕開け. 鹿児島救急医学会 (第65回医師部会), 2009. 3.

### (2) 招待講演：

- 1) 益子邦洋：救急医療体制とドクターヘリ. 勝浦市夷隅郡医師会, 2008. 10.
- 2) 益子邦洋：メディカルコントロールの必要性・指示医に求められる役割について. メディカルコントロールに係る医師等基礎研修, 2008. 10.
- 3) 益子邦洋：“翼を持ったER”ドクターヘリは命の危機管理. 第9回山口救急初療研究会, 2008. 12.
- 4) 益子邦洋：ドクターヘリの現状. 茨城県救急医療フォーラム, 2009. 1.
- 5) 益子邦洋：ドクターヘリ法案成立と今後の展望. 花巻市医師会平成20年度救急医療講演会, 2009. 2.
- 6) 益子邦洋：ドクターヘリの現状と展望 (大規模災害におけるドクターヘリの活用). 印旛市郡医師会大規模災害講演会, 2009. 2.

### (3) 教育講演：

- 1) 益子邦洋：救急医療におけるヘリコプターの活用. 第11回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 2008. 6.
- 2) 益子邦洋：FlyingICUの我が国の現状. 第17回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2008. 8.
- 3) 益子邦洋：ドクターヘリのコストベネフィット. 第15回日本航空医療学会総会, 2008. 11.
- 4) 益子邦洋：ドクターヘリの現状と将来. 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.

### (4) 基調講演：

- 1) 益子邦洋：交通事故におけるドクターヘリの効果. 第44回日本交通科学協議会総会・学術講演会, 2008. 5.

### (5) シンポジウム：

- 1) Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Sakamoto Y, Kutsukata N, Takei K, Saitoh N, Kanemaru K, Yagi T, Tetsu S, Iida H, Masuda Y, Koami H, Seo T, Yokota H<sup>1)</sup> (1) Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : PHYSICIAN STAFFED HEMS (DR-HELI) IN JAPAN. The 2<sup>nd</sup> Japanese- Korean Joint Session of 36<sup>th</sup> Annual Meeting of JAAM, 2008. 10.
- 2) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹<sup>1)</sup>, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 横田裕行<sup>2)</sup> (1) 東京慈恵会医科大学 DNA医学研究所 分子細胞生物学研究部, <sup>2)</sup> 日本医科大学 救急医学) : 内因性カンナビノイド (AEA, 2AG)



等の敗血症関連因子から見た敗血症性ショック症例に対するPMMA-CHDFの有用性に関する検討. 第19回日本急性血液浄化学会学術集会, 2008. 9.

- 3) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹<sup>1)</sup>, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 金丸勝弘, 齋藤伸行, 横田裕行<sup>2)</sup> (1) 東京慈恵会医科大学 DNA医学研究所 分子生物学研究部, <sup>2)</sup> 日本医科大学 救急医学): 酸化ストレス (F2-イソプロスタン値) および各種因子 (HMGB-1, AEA, 2AG) から見た敗血症性ショック症例に対するPMX-DHP早期導入とPMMA-CHDFの有用性に関する検討. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 4) 朽方規喜<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup>, Kindl R<sup>3)</sup>, Liewald F<sup>3)</sup>, 横田裕行<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学心臓血管外科, <sup>3)</sup> Klinikum Esslingen Germany, <sup>4)</sup> 日本医科大学救急医学教室): 血行再建手技の基本と応用. 第70回日本臨床外科学会総会, 2008. 11.

(6) パネルディスカッション:

- 1) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹<sup>1)</sup>, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 横田裕行<sup>2)</sup> (1) 東京慈恵会医科大学 DNA医学研究所 分子細胞生物学研究部, <sup>2)</sup> 日本医科大学 救急医学): PMX-DHPによる敗血症関連因子の変化および収縮期血圧上昇との関連性についての検討. 第13回エンドトキシン血症救命治療研究会, 2009. 2.
- 2) 齋藤伸行, 阪本雄一郎, 鉄慎一郎, 益子邦洋: 敗血症性ショックにおいてPiCCO (pulse counter cardiac output) システムは予後を改善し得るか?. 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.

(7) セミナー:

- 1) 益子邦洋: 救命救急医療の現状と緊急輸血: ERでは何が起きているか. 第56回日本輸血・細胞治療学会, 2008. 4.
- 2) 阪本雄一郎: 血液浄化 (PMX, CHDF) を用いたSepsisの治療戦略について: 各種因子 (ANA, 2-AG, HMGB-1, PAI-1) の変動を中心に. 第19回臨床工学セミナー, 2008. 10.
- 3) 朽方規喜<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学救急医学教室, <sup>3)</sup> 日本医科大学心臓血管外科): 外傷センターにおける心臓血管外科医の役割. 第23回心臓血管外科ウインターセミナー, 2009. 1.
- 4) 阪本雄一郎: ESP法からみたPMX-DHPの適応基準および外傷長期絶食症例における経腸栄養との関連についての検討. 高感度エンドトキシン測定テクニカルセミナー, 2009. 2.

(8) ランチョンセミナー:

- 1) 益子邦洋: ドクターヘリ整備法案施行による今後の展望. 第32回茨城県救急医学会, 2008. 9.
- 2) 松本 尚: LONDON-HEMSにおける病院前診療に学ぶ. 第3回病院前救急診療研究会, 2008. 12.

(9) ワークショップ:

- 1) 松本 尚, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 原 義明, 富田祥輝, 飯田浩章, 鉄慎一郎, 小網博之, 益子邦洋: 現場開胸術による救命の可能性. 第22回日本外傷学会, 2008. 5.
- 2) 原 義明, 松本 尚, 小網博之, 八木貴典, 金丸勝弘, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 益子邦洋: 災害時にドクターヘリを利用したDMAT活動の有用性と問題点. 第11回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 2008. 6.
- 3) 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 武井健吉, 齋藤伸行, 金丸勝弘, 八木貴典, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 増田幸子, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): プレホスピタルケアの質向上への取り組み: ドクターヘリとメディカルコントロール. 第3回医療の質・安全学会学術集会, 2008. 11.

(10) 一般講演:

- 1) Kutsukata N, Mashiko K, Ochi M<sup>1)</sup>, Kindl R<sup>2)</sup>, Schwilden E<sup>2)</sup> (1) Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Klinikum Esslingen): European Venous Thrombectomy for Acute Deep Vein Thrombosis in Japanese Experience.

- The 5th Meeting of the Japanese-German Society for Vascular Surgery (鳥羽市, 三重), 2008. 8.
- 2) Sakamoto Y, Mashiko K, Obata T<sup>1)</sup>, Matsumoto H ( <sup>1)</sup> Molecular Cell Biology, Institute of DNA Medicine, Jikei University School of Medicine ) : Effectiveness of Combined Acute Blood Purification Therapy by Direct Hemoperfusion Using a Polymyxin B-Immobilized Fiber Column and Continuous Venovenous Hemodiafiltration Using a Polymethylmethacrylate Membrane Hemofilter for Septic Shock Patients. European Society of Intensive Care Medicine 21th Annual Congress (LISBON), 2008. 9.
  - 3) Sakamoto Y, Mashiko K, Obata T<sup>1)</sup>, Matsumoto H, Hara Y, Kutsukata N ( <sup>1)</sup> Molecular Cell Biology, Institute of DNA Medicine, Jikei University School of Medicine) : Effectiveness of Antithrombin Supplementation in Septic Shock Cases with a Diagnosis of Acute-Phase dic According to Jaam (Japanese Association for Acute Medicine). European Society of Intensive Care Medicine 21th Annual Congress (LISBON), 2008. 9.
  - 4) Saito N, Mashiko K, Matsumoto H, Sakamoto Y : Prolonged hyperglycemia was correlated with high nosocomial infection rate in trauma patient. American Association for Surgery of Trauma Sixty-Seventh Meeting (Hawaii), 2008. 9.
  - 5) Kutsukata N, Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Sakamoto Y : Current Surgical Strategies for Vascular Trauma -From a situation of Emergency Treatment in Japan. the 9th International Congress of Asian Society for Vascular Surgery (Bangkok), 2008. 9.
  - 6) Matsumoto H, Mashiko K, Hara Y, Kutsukata N, Sakamoto Y, Tomita Y : Resuscitative Emergency Field Thoracotomy in Japanese HEMS System. American Association for Surgery of Trauma Sixty-Seventh Meeting (Hawaii), 2008. 9.
  - 7) Sakamoto Y, Mashiko K, Saito N, Matsumoto H, Hara Y, Kutsukata N<sup>1)</sup>, Yokota H ( <sup>1)</sup> Department of Emergency Medicine, Nippon Medical School) : Effectiveness of human atrial natriuretic peptide (HANP) supplementation in pulmonary edema patients using the pulse contour cardiac output (PICCO) system. Asia Pacific Critical Care 2008 Congress (Sydney), 2008. 10.
  - 8) Sakamoto Y, Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Kutsukata N, Saito N, Yokota H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School, Emergency Medicine) : Best choice of acute blood purification therapy based on the severity score and blood lactic acid values in septic shock patients. 29th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (Brussels, Belgium), 2009. 3.
  - 9) Sakamoto Y, Mashiko K, Matsumoto H, Yokota H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School, Emergency Medicine) : Serum high-mobility group box-1 protein as a specific marker of severe abdominal injury. 29th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (Brussels, Belgium), 2009. 3.
  - 10) Saito N, Sakamoto Y, Mashiko K ( <sup>1)</sup> Dept. of Emergency and Critical Care Medicine, Chiba Hokusou Hospital, Nippon Medical School) : Does early appropriate antibiotic therapy improve the outcome of severe sepsis or septic shock?. 29th International Symposium on Intensive and Critical Care Medicine (Brussels, Belgium), 2009. 3.
  - 11) Saito N, Sakamoto Y, Mashiko K ( <sup>1)</sup> Dept. of Emergency and Critical Care Medicine, Chiba Hokusou Hospital, Nippon Medical School) : Global end-diastolic volume as a predictor of the need for massive transfusion in multiple-trauma patients with hemorrhagic shock. 29th International Symposium on Intensive and Critical Care Medicine (Brussels, Belgium), 2009. 3.
  - 12) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹<sup>1)</sup>, 松本 尚, 横田裕行<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京慈恵会医科大学 DNA医学研究所 分子細胞生物学研究部, <sup>2)</sup> 日本医科大学 救急医学) : 内因性カンナビノイド (AEA, 2-AG) および酸化ストレスマーカー (F2-イソプロスタニン値) に対するPMXカラムの吸着能に関する検討. 第29回日本アフエレス学会学術大会, 2008. 11.

- 13) 阪本雄一郎：当院における災害訓練の実際と災害発生時の院内対応について．第6回東葛地区カンファレンス，2009．2．
- 14) 朽方規善，松本 尚，原 義明，阪本雄一郎，武井健吉，金丸勝弘，富田祥輝，益子邦洋，山本保博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学救急医学教室)：血管外傷の治療戦略：初療から手術まで．第36回日本血管外科学会学術集総会，2008．4．
- 15) 飯田浩章，小網博之，鉄慎一郎，八木貴典，齋藤伸行，富田祥輝，金丸勝弘，武井健吉，阪本雄一郎，朽方規喜，原 義明，松本 尚，益子邦洋：肝内ガス像を呈し急激な経過で死亡した1症例．第11回千葉県救急医療研究会，2008．4．
- 16) 齋藤伸行，益子邦洋：中心静脈ライン関連血流感染 (Central line associated Bloodstream infection：CLAB) 予防にバイオパッチ (BIOPATCH) は有効か？．第82回日本感染症学会総会，2008．4．
- 17) 益子邦洋，稲田英一<sup>1)</sup> (1) 順天堂大学医学部附属病院麻酔科学講座)：「危機的出血への対応ガイドライン」の活用を目指して：救急の立場から．第56回日本輸血・細胞治療学会，2008．4．
- 18) 阪本雄一郎，益子邦洋，齋藤伸行，松本 尚，原 義明，朽方規喜，武井健吉，金丸勝弘，富田祥輝，山本保博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 救急医学)：Pulse Contour Cardiac Output (PiCCO) からみた肺うっ血に対する carperitide の効果に関する検討．第23回 Shock 学会総会，2008．5．
- 19) 阪本雄一郎，益子邦洋，松本 尚，原 義明，朽方規喜，山本保博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 救急医学)：重症腹部外傷の特異的マーカーとしての来院時 HMGB-1 値の有用性についての検討．第22回日本外傷学会，2008．5．
- 20) 阪本雄一郎，益子邦洋：日本外傷登録データベースからみた交通事故傷害予測について．自動車技術会2008年春季大会，2008．5．
- 21) 金丸勝弘，横山真也<sup>1)</sup>，白壁章宏<sup>1)</sup>，小林宣明<sup>1)</sup>，品田卓郎<sup>1)</sup>，畑 典武<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室)：PMX-DHP で加療した敗血症の1例．千葉県急性血液浄化研究会 (第9回) (千葉)，2008．5．
- 22) 原 義明，富田祥輝，飯田浩章，大泉 旭<sup>1)</sup>，川井 真<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学救急医学教室)：整形外傷を含む多発外傷の初期治療戦略：ETC と DCO 導入による効果．第81回日本整形外科学会学術総会，2008．5．
- 23) 齋藤伸行，阪本雄一郎，朽方規喜，原 義明，松本 尚，益子邦洋，濱邊祐一<sup>1)</sup> (1) 東京都立墨東病院救命救急センター)：胸郭外傷における胸部硬膜外麻酔の可能性．第22回日本外傷学会，2008．5．
- 24) 朽方規喜，益子邦洋，松本 尚，原 義明，阪本雄一郎，富田祥輝，齋藤伸行，飯田浩章，小網博之，山本保博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 救急医学)：交通外傷による鎖骨下動脈損傷の2例．第22回日本外傷学会，2008．5．
- 25) 富田祥輝，原 義明，川井 真，大泉 旭<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学救急医学教室)：大腿骨骨折7例の検討．第33回日本骨折治療学会，2008．6．
- 26) 齋藤伸行：人工鼻 (Heat and Moisture Exchanger) で人工呼吸器関連肺炎は予防できるか？．第55回日本麻酔科学会，2008．6．
- 27) 阪本雄一郎，益子邦洋，小幡 徹<sup>1)</sup>，松本 尚，原 義明，朽方規喜，山本保博<sup>2)</sup> (1) 東京慈恵会医科大学 DNA 医学研究所 分子細胞生物学研究部，<sup>2)</sup> 日本医科大学 救急医学)：重症急性膵炎の治療成績，各種因子 (HMGB-1, AEA, 2AG) からみた特徴と治療法に関する検討．第63回日本消化器外科学会総会，2008．7．
- 28) 阪本雄一郎，益子邦洋，齋藤伸行，松本 尚，原 義明，朽方規喜，武井健吉，金丸勝弘，横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 救急医学)：Pulse Contour Cardiac Output (PiCCO) からみた Continuous Hemodiafiltration (CHDF) による肺血管外水分の除水効果に関する検討．第17回日本集中治療医学会関東甲信越地方会，2008．8．
- 29) 阪本雄一郎，益子邦洋，松本 尚，原 義明，朽方規喜，横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 救急医学)：現場で測定可能な SIRS 判定3項目 (脈拍数，呼吸数，体温) における外傷重傷度予測に関する検討．第23回日本救命医療学会総会・学術集会，2008．9．
- 30) 増田幸子，益子邦洋，松本 尚，原 義明，朽方規喜，阪本雄一郎，武井健吉，齋藤伸行，八木貴典，飯田浩

- 章, 鉄慎一郎, 小網博之, 瀬尾卓生: 薬物中毒・偶発性低体温による心肺停止状態から救命した1例. 第22回千葉県重症患者管理研究会, 2008. 9.
- 31) 小網博之, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 齋藤伸行, 八木貴典, 益子邦洋: 重症外傷症例での人工呼吸器関連肺炎 (Ventilator-Associated Pneumonia ; VAP) の危険因子の検討. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 32) 齋藤伸行, 八木貴典, 富田義輝, 金丸勝弘, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: 飲酒運転基準再考: Zero toleranceの必要性: 血中アルコール濃度の違いによって外傷重症度は影響されない. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 33) 朽方規喜, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 阪本雄一郎, 武井健吉, 金丸勝弘, 齋藤伸行, 八木貴典, 飯田浩章, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学救急医学): 血管外傷の治療戦略: 外科的血行再建術からの検討. 第36回日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 34) 瀬尾卓生, 小網博之, 増田幸子, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 八木貴典, 齋藤伸行, 金丸勝弘, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: ドクターヘリによる劇的救命例: 腹腔内出血による出血性ショックに対する早期急速輸液および輸血の重要性. 第9回千葉CCM輸液・栄養研究会, 2008. 10.
- 35) 小原まみ子<sup>1)</sup>, 葛西 猛<sup>2)</sup>, 益子邦洋, 上 昌広<sup>3)</sup>, 鈴木 真<sup>4)</sup> (1) 亀田総合病院腎臓高血圧内科, 2) 亀田総合病院救命救急センター, 3) 東京大学医科学研究所探索医療ヒューマンネットワークシステム部門, 4) 亀田総合病院産婦人科): ヘリコプターによる母体搬送における振動の影響について. 第36回日本救急医学会総会・学術集会, 2008. 10.
- 36) 武井健吉, 益子邦洋, 松本 尚, 八木貴典, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 金丸勝弘, 富田祥輝, 齋藤伸行, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学救急医学教室): 小児頭部外傷の初期治療では積極的な補助換気が必要である. 第36回日本救急医学会総会・学術集会, 2008. 10.
- 37) 金丸勝弘, 松本 尚, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 小林宣明<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 益子邦洋 (1) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科): 広範な脳梗塞にみられた神経原性肺水腫の2例. 第36回日本救急医学会総会・学術集会, 2008. 10.
- 38) 阪本雄一郎: 超重症緊急手術症例における早期経腸栄養管理についての検討. 第7回EN・BT研究会, 2008. 11.
- 39) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 原 義明, 朽方規喜, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 救急医学): 絞扼性イレウスの補助診断としてのSIRS判定と乳酸値の有用性についての検討. 第70回日本臨床外科学会総会, 2008. 11.
- 40) 八木貴典: 小児ICUとドクターヘリ: コードブルーの世界. 日本小児集中治療研究会, 2008. 11.
- 41) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 救急医学): 急性期DIC診断基準による敗血症性DICと臓器不全および各種敗血症関連因子との関連性. 第19回バイオメディカルフォーラム, 2008. 12.
- 42) 小網博之, 松本 尚, 原 義明, 阪本雄一郎, 武井健吉, 金丸勝弘, 齋藤伸行, 八木貴典, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 増田幸子, 瀬尾卓生, 益子邦洋: 現場FASTの精度を考える. 第3回病院前救急診療研究会, 2008. 12.
- 43) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜: 重傷肝損傷の治療戦略に関する検討. 第23回千葉集中治療研究会, 2009. 1.
- 44) 齋藤伸行, 阪本雄一郎, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: 敗血症におけるインスリン療法の効果についての検討. 第23回千葉集中治療研究会, 2009. 1.
- 45) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 救急医学): PMXカラムの敗血症治療薬 (抗菌薬,  $\gamma$  グロブリン製剤) 吸着作用に関する検討. 第59回日本救急医学会関東地方会, 2009. 2.
- 46) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 齋藤伸行, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 救急医学): 敗血症の重傷度評価指標および血中乳酸値からみた急性血液浄化療法におけるカラム選択に関する検討.



- 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.
- 47) 松本 尚: 航空機事故の医療対策の現状とこれから. 平成20年度三郡医師会航空機対策協議会研修会, 2009. 2.
- 48) 金丸勝弘: トリアージの実際について. 平成20年度三郡医師会航空機対策協議会研修会, 2009. 2.
- 49) 鉄慎一郎, 齋藤伸行, 阪本雄一郎, 益子邦洋: 多発外傷に対する鎮静においてデクスメトミジンの有用性を検討. 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.
- 50) 小網博之, 阪本雄一郎, 齋藤伸行, 鉄慎一郎, 益子邦洋: 早期の動注療法により手術を回避し得た非閉塞性腸管虚血の1例. 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.
- 51) 増田幸子, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 武井健吉, 金丸勝弘, 齋藤伸行, 八木貴典, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 小網博之, 瀬尾卓生: 急性喉頭蓋炎から縦隔炎へ進展し, 鎖骨下動脈食道瘻により大量吐血した1例. 第59回日本救急医学会関東地方会, 2009. 2.
- 52) 瀬尾卓生, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 武井健吉, 金丸勝弘, 八木貴典, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 小網博之, 増田幸子, 齋藤伸行: Fall from standing (転倒) からのIII型腎損傷の3例. 第59回日本救急医学会関東地方会, 2009. 2.
- 53) 小網博之, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 武井健吉, 金丸勝弘, 齋藤伸行, 八木貴典, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 増田幸子, 瀬尾卓生, 益子邦洋, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 馬関連外傷の検討. 第59回日本救急医学会関東地方会, 2009. 2.
- 54) 今道英秋<sup>1)</sup>, 鈴川正之<sup>2)</sup>, 益子邦洋, 阪井裕一<sup>3)</sup>, 鈴木 真<sup>4)</sup>, 岡田真人<sup>5)</sup>, 坂田久美子<sup>6)</sup> (1) 自治医科大学大学院, 2) 自治医科大学救急医学, 3) 国立成育医療センター手術・集中治療部, 4) 亀田総合病院総合周産期母子医療センター, 5) 聖隷三方原病院救命救急センター, 6) 愛知医科大学高度救命救急センター): へき地・離島からのヘリコプター搬送の実態: 消防防災ヘリとドクターヘリの比較. 第59回日本救急医学会関東地方会, 2009. 2.
- (11) 症例検討会:
- 1) 飯田浩章, 瀬尾卓生, 増田幸子, 小網博之, 鉄慎一郎, 八木貴典, 齋藤伸行, 金丸勝弘, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: 治療に難渋した右上腕骨・左大腿骨粉碎骨折症例についての検討. 第15回救急整形外傷シンポジウム, 2009. 3.



## 19. 形成外科学講座

### [付属病院形成外科・美容外科]

#### 研究概要

本年度は以下のような研究活動を主に行った。その概要は箇条書きにする。

1. 基礎的研究活動 脂肪組織幹細胞による組織工学・再生医療—とくに脂肪由来幹細胞による歯周組織の再生は米国歯周病学会で最高賞を取得した。生体充填用異物の化学的解析—新たに出現した物質の解析を行った。超薄皮弁の血管解剖—MDCTによる動態血管解剖で成果を得た。
2. 臨床的研究活動広範囲熱傷再建外科—超薄皮弁など当教室で開発した手法を学会や英語論文で世界に普及させつつある。ケロイドの集学的治療—ハーバード大や南方医大との共同研究が結実しつつある。美容レーザー・光治療—基礎的研究に基づく臨床応用に成果があった。美容用充填異物後遺症・人アジュバント病—とくに自己注入の危険性を発表しマスコミを通して有意の警告となった。
3. 海外学会活動第2回プロペラ皮弁ワークショップ（インド）5題 IMCAS ASIA（シンガポール）1題 第18回中日形成外科学会（西安）7題 第12回国際perforator course（インド）2題 第6回国際脂肪学会（トロント）5題 第2回国際癬痕学会（モンペリエ）7題 第9回ベトナム熱傷学会4題 その他多数

#### 研究業績

##### 論文

[追加分]

追加分：

- 1) 村上正洋<sup>1)</sup>, 百東比古, 宮里和明<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院形成外科, <sup>2)</sup> 宮里眼科) : 牽引筋腱膜縫着術を行った老人性下眼瞼内反症の長期結果. 日美外報 2008 ; 30 (2) : 11-16.

追加分原著：

- 1) Nambu M<sup>1)</sup>, Kishimoto S<sup>3)</sup>, Nakamura S<sup>2)</sup>, Mizuno H, Yanagibayashi S<sup>1)</sup>, Yamamoto N<sup>1)</sup>, Azuma R<sup>1)</sup>, Nakamura S<sup>1)</sup>, Kiyosawa T<sup>1)</sup>, Ishihara M<sup>3)</sup>, Kanatani Y<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 防衛医科大学学校形成外科, <sup>2)</sup> 防衛医科大学学校第2外科, <sup>3)</sup> 防衛医科大学学校研究センター) : Accelerate wound healing in healing-impaired db/db mice by autologous adipose tissue-derived stromal cells combined with atelocollagen matrix. Ann Plast Surg 2009 ; 62 (3) : 317-321.
- 2) 土佐真美子<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 岩切 致<sup>1)</sup>, 奈良慎平<sup>1)</sup>, 百東比古 (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院形成外科) : ケロイドに対する治療を中断した理由についての検討. 癬痕ケロイド治療ジャーナル 2009 ; 3 : 60-61.
- 3) 百東比古, 小野真平, 小川 令, 水野博司, 平川慶子<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> NMR 研究施設) : 脂肪注入法による豊胸術の合併症について. 形成外科 2008 ; 51 (3) : 289-296.

(1) 原著：

- 1) Akaishi S, Ogawa R, Hyakusoku H : Keloid and hypertrophic scar : Neurogenic inflammation hypotheses. Med Hypotheses 2008 ; 71 (10) : 32-38.
- 2) Murakami M, Hyakusoku H : Treatment of upper eyelid dermatochalasis by resection of excess skin at the inferior margin of the eyebrow. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (6) : 364-366.
- 3) Tobita M, Uysal A, Ogawa R, Hyakusoku H, Mizuno H : Periodontal tissue regeneration with adipose-derived stem cells. Tissue Eng Part A 2008 ; 14 (6) : 945-953.

- 4) Aoki S, Tanuma K, Iwakiri I, Mizuno H, Ogawa R, Ozawa H, Hyakusoku H : Clinical and vascular anatomical study of distally based sural flap. *Ann Plast Surg* 2008 ; 61 (1) : 73-78.
- 5) Ogawa R, Vinh V<sup>1)</sup>, Anh T<sup>1)</sup>, Hyakusoku H ( <sup>1)</sup> Vietnam National Burn Institute) : Supraclavicular Flaps for the Reconstruction of Neck Scar Contractures. *Plast Reconstr Surg* 2008 ; 122 (2) : 671-672.
- 6) Akaishi S, Ogawa R, Hyakusoku H : Management of ear keloid. *Plast Reconstr Surg* 2008 ; 122 (2) : 670-671.
- 7) Ogawa R, Hyakusoku H : Flap thinning technique : the effect of primary flap defatting. *Plast Reconstr Surg*. 2008 ; 122 (3) : 987-988.
- 8) Ogawa R : Keloids as a serious disease such as malignancy. *Plast Reconstr Surg*. 2008 ; 122 (3) : 993-994.
- 9) Sano K, Ozeki S<sup>1)</sup>, Kimura K, Hyakusoku H ( <sup>1)</sup> Dokkyou Koshigaya Hp) : Relationship between sensory recovery and advancement distance of oblique triangular flap for fingertip reconstruction. *J Hand Surg* 2008 ; 33 (7) : 1088-1092.
- 10) Ogawa R : Keloid and hypertrophic scarring may result from a mechanoreceptor or mechanosensitive nociceptor disorder. *Med Hypotheses*. 2008 ; 71 (4) : 493-500.
- 11) Murakami M, Hyakusoku H : Abstracts of outstanding presentation (2) treatment of upper eyelid dermatochalasis by resection of excess skin at the inferior margin of the eyebrow. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (6) : 364-366.
- 12) Chin T, Hyakusoku H, Kubo K, Ohmori Y : Modified square flap method. *J Plast Reconstr Aesthet Surg* 2008 ; 61 (12) : 1515-1515.
- 13) 小川 令, 赤石論史, 小野真平, 栗林茂彦<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 放射線科) : ケロイドに対する手術および術後電子線治療 : 18ヶ月以上経過観察された522部位の検討. *日形会誌* 2008 ; 28 (12) : 763-770.
- 14) Ogawa R, Aoki R, Mizuno H, Hyakusoku H : Aesthetic microsurgical reconstruction of the female lower leg . *Euro J Plast Surg* 2008 ; 31 (6) : 325-327.
- 15) Ogawa R, Chin M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Harvard Medical School) : Animal models of keloids and hypertrophic scars. *J Burn Care Res* 2008 ; 29 (6) : 1016-1017.
- 16) Akaishi S, Ogawa R, Hyakusoku H : Treatment of recurrent earlobe keloids with surgery and high-dose-rate brachytherapy. *Plast Reconstr Surg* 2009 ; 123 (1) : 424-426.
- 17) Hyakusoku H, Ogawa R, Ono S, Ishii N, Hirakawa K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> NMR laboratory) : Complications after autologous fat injection to the breast. *Plast Reconstr Surg* 2009 ; 123 (1) : 360-370.
- 18) 小川 令 : 小児熱傷後の肥厚性瘢痕・ケロイドの治療. *PEPARS* 2009 ; 25 (1) : 64-71.
- 19) Sano K, Aoki S, Kitta E, Hagiwara Y, Hyakusoku H : Atypical ulnar tunnel syndrome accompanied by sensory disturbance of the dorsal sensory branch of the ulnar nerve. *Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg* 2009 ; 43 (2) : 117-119.
- 20) 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古, 岩切 致<sup>1)</sup>, 梅沢裕己<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院形成外科) : 下腿・足の再建術における皮弁手術. *PAPERS* 2009 ; 26 (2) : 41-54.
- 21) Tosa M, Murakami M, Ghazuzadeh M, Hyakusoku H : Chronologic Change of the Maximum Dimension of Bacillus Calmette-Guerin-Induced Keloids. *Dermatologic Surgery* 2009 ; 35 (2) : 189-194.
- 22) Tosa M, Murakami M, Hyakusoku H : Effect of Lidocaine tape on Pain during Intralesional Injection of Triamcinolone Acetonide for the Treatment of Keloid. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (1) : 9-12.
- 23) Mizuno H, Nomoto S, Ishii N, Hyakusoku H, Fukuda R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 救急医学) : Frontal musculocutaneous v-y island flap for coverage of forehead defect with a dural exposure after craniotomy. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (1) : 19-22.

- 24) 百束比古, 利根川均<sup>1)</sup> (1) 東京クリニック丸の内オアゾMC) : レーザー, 光学療器による脱毛. PAPERS 2009 ; 27 (3) : 74-82.
- 25) 水野博司, 青木 律, 岩切 致<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 小川 令, 赤石論史, 百束比古, Vuquang V<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院形成外科, <sup>2)</sup> ベトナム国立熱傷研究所) : ベトナムにおける熱傷再建外科治療の経験. 熱傷 2008 ; 34 (2) : 104-109.
- 26) 陳 貴史, 百束比古 : 当科における顔面異物注入後遺症の検討. Aesthetic Dermatology 2008 ; 18 (2) : 72-76.
- 27) 相本隆幸<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 青木 律, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科) : Vater 乳頭部癌が併存した唇状瘻合併・広範腹壁欠損症に対し臍頭十二指腸切除術と腹壁再建術を2期的に施行した1例. 手術 2008 ; 62 (8) : 1127-1130.
- 28) 小川 令 : 脂肪注入による豊胸術の世界的趨性. 日美外報 2008 ; 30 (3) : 10-14.
- 29) 百束比古 : 脂肪注入による豊胸術の合併症・後遺症. 日美外報 2008 ; 30 (3) : 23-30.
- 30) 水野博司 : 脂肪組織由来幹細胞注入と脂肪注入の違いによる乳房増大術の現状と課題について. 日美外報 2008 ; 30 (3) : 41-44.
- 31) 宮本正章<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 水野博司, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 第一内科) : 治療抵抗性壞疽に対するマゴットセラピー. 皮膚病診療 2008 ; 30 (9) : 1051-1060.
- 32) 小川 令, Pearlei T, Ashish P, 百束比古 : 顔面委嘱に対する日本人の考え方 : アンケート調査の結果から. 日形会誌 2008 ; 28 (12) : 757-762.
- 33) 高見佳宏<sup>1)</sup>, 野中由紀子<sup>1)</sup>, 小野真平, 百束比古 (1) 西部総合病院) : 高齢者の皮膚繊維芽細胞培養の検討. Skin Surgery 2008 ; 17 (2) : 70-73.
- 34) 村上正洋, 百束比古, 王 春梅<sup>1)</sup> (1) 東莞康華医院形成外科) : 小児の顔面・頸部熱傷の治療. PEPARS 2009 ; 25 (1) : 37-47.
- 35) 小川 令, Orgill D<sup>1)</sup> (1) ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院形成外科) : 陰圧閉鎖療法 (VAC療法) の作用機序に関する考察. 日形会誌 2009 ; 29 (3) : 127-134.
- 36) 杉野宏子<sup>1)</sup>, 青木 律 (1) 青山エルクリニック) : 単極型高周波による治療. PAPERS 2009 ; 27 (3) : 33-39.
- 37) 青木 律, 新橋 武<sup>1)</sup>, 杉野宏子<sup>2)</sup> (1) 新橋形成外科クリニック, <sup>2)</sup> 青山エルクリニック) : レーザーリサーフェシング. PAPERS 2009 ; 27 (3) : 93-101.
- 38) 赤石論史, 小川 令, 小池幸子, 百束比古 : 瘢痕拘縮治療におけるレーザー治療の効果と限界. PEPARS 2009 ; 27 (3) : 112-119.
- 39) かづきれいこ, 百束比古 : 新しいメイクアップセラピー. PEPARS 2009 ; 27 (3) : 120-127.
- 40) 小川 令, 赤石論史, 百束比古 : ケロイド・肥厚性瘢痕の治療に即した分類法の提唱 (第2報). 瘢痕ケロイド治療ジャーナル 2009 ; 3 : 6-9.
- 41) 水野博司 : 徐放型 bFGF ハイドロゲルを用いた新しい創傷治療. 瘢痕ケロイド治療ジャーナル 2009 ; 3 : 24-27.
- 42) 小川 令, 吉龍澄子<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>2)</sup>, 吉田 謙<sup>3)</sup> (1) 国立病院機構大阪治療センター形成外科, <sup>2)</sup> 日本医大放射線科, <sup>3)</sup> 国立病院機構大阪治療センター放射線科) : ケロイド治療における発癌リスクの考察. 瘢痕ケロイド治療ジャーナル 2009 ; 3 : 28-31.
- 43) 赤石論史, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 小川 令, 土肥輝之, 百束比古 (1) 千葉北総病院形成外科) : シリコンジェルシートの力学的効果の検討. 瘢痕ケロイド治療ジャーナル 2009 ; 3 : 40-44.
- 44) 奈良慎平<sup>1)</sup>, 土佐真美子<sup>1)</sup>, 岩切 致<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古 (1) 武蔵小杉病院形成外科) : 貼付用局所麻酔剤によるステロイド局所注射の疼痛軽減効果に関する研究. 瘢痕ケロイド治療ジャーナル 2009 ; 3 : 54-55.
- 45) 小川 令, 赤石論史, 百束比古 : ケロイドの疫学調査の必要性. 瘢痕ケロイド治療ジャーナル 2009 ; 3 : 62-

64.

(2) 総説：

- 1) Akaishi S, Akimoto M, Ogawa R, Hyakusoku H : The Relationship Between Keloid Growth Pattern and Stretching Tension : Visual Analysis Using the Finite Element Method. *Annals of Plastic Surgery* 2008 ; 60 (4) : 445-451.
- 2) 百束比古, 水野博司：骨髄単核球移植による創傷治療. *形成外科 (増刊)* 2008 ; 51 (増刊) : s279-s284.
- 3) 宮本正章<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 川中秀和<sup>1)</sup>, 大坪春美<sup>1)</sup>, 水野博司, 田畑泰彦<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 第一内科, <sup>2)</sup> 京都大学再生医療研究所)：皮膚組織の再生医療. *Medical Science Digest* 2008 ; 34 (3) : 25-28.
- 4) 宮本正章<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 川中秀和<sup>1)</sup>, 大坪春美<sup>1)</sup>, 水野博司, 松田範子<sup>2)</sup>, 秋丸琥甫<sup>2)</sup>, 徳永昭<sup>2)</sup>, 高橋将文<sup>3)</sup>, 池田宇一<sup>3)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 第一内科, <sup>2)</sup> 高気圧酸素治療部, <sup>3)</sup> 信州大学大学院研究科臓器発生制御医学)：膠原病による難治性皮膚潰瘍とその対策. *リウマチ科* 2008 ; 39 (2) : 149-155.
- 5) 百束比古, 小野真平：切開とアプローチの基本戦略 3. ケロイド・肥厚性癬痕の好発部位での切開とアプローチ. *PAPERS* 2008 ; 23 (9) : 109-115.
- 6) 百束比古：肥厚性癬痕・ケロイド (特集：処置と小手術のコツと合併症). *外科* 2008 ; 70 (12) : 1424-1428.
- 7) 百束比古：シミに対するレーザー治療で患者に熱傷による癬痕が生じた症例. *医療判例解説* 2008 ; 13 (4) : 86-107.
- 8) 百束比古：癬痕 (キズあと) と癬痕拘縮. *治療* 2009 ; 91 (2) : 247-254.

(3) 症例報告：

- 1) Ogawa R, Ono S, Hyakusoku H, Rennekampff H : A case of upper lip and moustache reconstruction using a submental artery perforator (SMAP) flap. *Euro J Plast Surg* 2008 ; 31 (1) : 33-35.
- 2) 陳 貴史, 小野真平, 百束比古, 高見佳宏<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 西部総合病院形成外科)：超薄皮弁における付加肋間穿通枝においてMD-CTによる術前検討が有効であった1例. *日本マイクロ会誌* 2008 ; 21 (2) : 93-97.
- 3) 小野真平, 小川 令, 百束比古：肩甲部に発生したChronic expanding hematomaの1例. *形成外科* 2008 ; 51 (7) : 823-829.
- 4) 陳 貴史, 百束比古：注入後40年経過して疼痛が出現した亀頭注入異物症例の1例. *日美外報* 2008 ; 30 (4) : 41-45.
- 5) 小野真平, 小川 令, 宮本 暖, 百束比古：注射用カルシウム製剤が原因と考えられた皮膚石灰沈着症の1例. *皮膚臨床* 2008 ; 50 (6) : 737-739.
- 6) 陳 貴史, 小野真平, 久保一人, 百束比古：上眼瞼内側有棘細胞癌に対して V-Y advancement flapにて再建した1例. *日本頭蓋顎顔面外科学会誌* 2009 ; 25 (1) : 54-59.

著 書

- 1) Rennekampff H<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup> Dept of Plastic, Hand and Reconstructive Surgery, Medical School Hannover Germany) : [分担] II-11. 2 Klassifikation und Nomenklatur von Perforatoylappen und mikrovaskular augmentierter Lappen. *Plastische Chirurgie* (Krupp S, Rennekampff HO, Pallua N), 2008 ; pp1-6, Ecomed-Medizin, Landsberg.
- 2) Furimura J<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup> 日本医科大学小児科) : [分担] Pharmacological Interventions and Regenerative Medicine for Neuromuscular Diseases. *Tissue Engineering Research Trends* (Greco GN and Ferreri ML), 2008 ; pp87-114, Nova Science Publishers, New York.
- 3) Fujimura J<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup> 日本医科大学小児科) : [分担] Perspectives in Adipose-Derived Stem Cells (ASC's) Research. *Research Progress in Stem Cells* (Greco TJ and Ferreri ML), 2008 ; pp65-78, Nova Science Publishers, New York.

- 4) 原 理子, 百束比古: [分担] 注入異物同定法. 美容外科基本手技 (酒井成身), 2008; pp220-222, 南江堂.
- 5) 百束比古, 水野博司: [分担] 乳房異物の除去と再建. 美容外科基本手技 (酒井成身), 2008; pp223-225, 南江堂.
- 6) 百束比古, 大木更一郎: [分担] 殿部領域の再建外科 9, 大転子の再建1) 大転子部の筋弁, 筋皮弁による再建手術. 形成外科アドバンスシリーズ 殿部・会陰部の再建と褥瘡の治療 最近の進歩 第2版 (監修・波利井清紀 編著・野崎幹弘), 2009; pp163-171, 克誠堂出版.
- 7) 百束比古: [著書分担編集] ステッドマンポケット医学略語辞典, 2009; メディカルビュー社.
- 8) 百束比古: [編集] 実践非手術的美容医療. PEPARS, 2009; 全日本病院出版会.

## 学会発表

### (1) 招待講演:

- 1) Hyakusoku H: Use of perforator in flap surgery and my reconstructive burn surgery. 東莞形成外科学会, 2009. 2.
- 2) Ono S, Hyakusoku H: Investigation of systemic suprafascial perforator course axially (PCA) by multi-detector row CT (MDCT). 東莞形成外科学会 (広東省), 2009. 2.
- 3) Hyakusoku H: Perforator supercharging superthin flaps and propeller flap method- Their new development using MDCT. 9th National Conference of Burn, Reconstructive and Plastic Surgery (Hanoi, Vietnam), 2009. 3.
- 4) Mizuno H: Adipose-derived stem cells for tissue repair and regeneration. 9th National Conference of Burn, Reconstructive and Plastic Surgery (Hanoi, Vietnam), 2009. 3.
- 5) Ono S, Hyakusoku H: Investigation of systemic suprafascial perforator course axially (PCA) by multi-detector row CT (MDCT). 9th National Conference of Burn, Reconstructive and Plastic Surgery (Hanoi, Vietnam), 2009. 3.

### (2) 教育講演:

- 1) Aoki R: Fractional Photothermolysis- A new device for Redurfacing: Its Aesthetic Efficacy and Contribution for Scar Management. 34th annual meeting of the Taiwanese Dermatological Association, 2008. 11.
- 2) 百束比古: ケロイド・肥厚性癬痕の治療. 第108回日本外科学会, 2008. 5.
- 3) 百束比古: 21世紀の形成外科. 横浜医師会, 2008. 6.
- 4) 百束比古: プロペラ皮弁法と穿通枝付加超薄皮弁: MDCTによる術前診断を絡めて. 北里大形成外科教室研究会, 2008. 11.
- 5) 百束比古: 私の皮弁外科の履歴: 下肢の皮弁による再建を含めて. 九州昭和大同門会, 2009. 1.

### (3) シンポジウム:

- 1) 青木 律<sup>1,2)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 赤石論史<sup>1)</sup>, 小池幸子<sup>1)</sup>, 中尾淳一<sup>1)</sup> (1) 形成外科・美容外科, 2) グリーンウッドスキンクリニック立川): レーザーによる癬痕治療. 第29回日本レーザー医学会 (東京都八王子), 2008. 11.
- 2) 小野真平, 林 宏光<sup>1)</sup>, 高見佳宏<sup>2)</sup>, 百束比古 (1) 放射線科, 2) 西部総合病院 形成外科): 形成外科領域におけるMulti Detector-row CT (MDCT) の可能性: 皮弁の微小血管解剖の解明に向けて. 第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 2008. 10.
- 3) 河邊京子, Uysal A, 小野花澄<sup>1)</sup>, 鈴木康二<sup>1)</sup>, 百束比古, 水野博司 (1) (株) JMS 中央研究所): ヒト血清下における脂肪組織由来幹細胞の生体外増殖能の検討. 第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 2008. 10.
- 4) 小野真平, 百束比古, 青木 律, 水野博司, 奥田貴久, 平川慶子<sup>1)</sup> (1) NMR研究室): 注入異物後後遺症治療のためのフィラー・後遺症分類. 第31回日本美容外科学会総会, 2008. 10.
- 5) 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古 (1) 武蔵小杉病院形成外科): 眉下切開法による老人性上眼瞼皮膚弛緩症の治療. 第104



回日本美容外科学会, 2009. 1.

(4) パネルディスカッション:

- 1) Ono S, Hyakusoku H, Ogawa R, Akaishi S, Tosa M, Koike S: Keloids and hypertrophic scars: a review of our hypothesis of their pathogenesis and recent developments in management. 18th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (中国西安), 2008. 9.
- 2) 小川 令, 赤石諭史, 百束比古: ケロイド・肥厚性瘢痕の点数化による評価・分類法の提唱 (第2報). 第3回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2008. 8.
- 3) 小川 令: 海外留学の意義. 第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 2008. 10.
- 4) 平川慶子<sup>1)</sup>, 奥田貴久, 河原理子, 小川 令, 陳 貴史, 土肥輝之, 大野曜吉<sup>1)</sup>, 百束比古 (1) NMR 施設設): NMR 技術を活用した美容外科後遺症におけるEBMの実践. 第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 2008. 10.
- 5) 水野博司: 海外留学から一番得たもの. 第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 2008. 10.
- 6) 水野博司, 百束比古, 宮本正章<sup>1)</sup> (1) 再生医療科): 皮弁移植から細胞サイトカイン治療まで: 難治性創傷治療に対する形成外科の果たす役割. 第1回日本創傷外科学会, 2009. 1.

(5) セミナー:

- 1) 青木 律: フラクショナルレーザー治療「AffirmRによる最新臨床報告」. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 2) 秋元正宇: ケロイドの力学. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 3) 赤石諭史, 小池幸子, 百束比古: Evidenceに基づいた美容医療. 美容医療協会講習会 (東京), 2008. 5.
- 4) 水野博司: 徐放型bFGFハイドロゲルを用いた新しい創傷治療. 第3回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2008. 8.
- 5) 赤石諭史, 小池幸子, 百束比古: 光・レーザーマルチプラットフォームXeο (ゼオ) による美容治療: EBMに基づいた美容医療の実践 最新の研究を踏まえて 演題名: YSGGを用いた最新アブレーション機器 (Pearl) の臨床および基礎研究. 美容外科学会ランチョン, 2008. 10.

(6) 一般講演:

- 1) Ogawa R, Hyakusoku H: Operative session: The SCAP flap. The 2nd National Workshop On Propeller Flap (India), 2008. 4.
- 2) Ogawa R, Hyakusoku H: Operative session: The CSV Propeller flap. The 2nd National Workshop On Propeller Flap (India), 2008. 4.
- 3) Hyakusoku H, Ogawa R, Ono S: New Definition and Classification of Propeller Flap Methods. The 2nd National Workshop On Propeller Flap (India), 2008. 4.
- 4) Ogawa R, Hyakusoku H, Ono S: New Development of Propeller Flaps: Perforator Supercharged Propeller Flaps Using Dorsal and Gluteal Perforators. The 2nd National Workshop On Propeller Flap (India), 2008. 4.
- 5) Ono S, Hyakusoku H, Ogawa R, Hayashi H, Kumita H: Usefulness of Multi Detector-Row CT (MDCT) in the Planning of Perforator Pedicled Propeller (PPP) Flaps. The 2nd National Workshop On Propeller Flap (India), 2008. 4.
- 6) Chin M, Lancerotto L, Ogawa R, Youman G, Mathews J, Pietramaggiori G, Scherer S, Prsa M, Ottensmeyer M, Veves A, Orgill D: Effects of Mechanical Force on Skin: Cellular Proliferation, Angiogenesis, and Neuropeptide Upregulation. The 3rd Annual Research Poster Symposium of The Massachusetts Medical Society 2008 (Waltham), 2008. 4.
- 7) Tobita M, Mizuno H, Uysal C, Itoi Y, Ogawa R, Hyakusoku H: Behavior of Adipose-derived Stem Cells in Periodontal tissue regeneration. The 37th Annual Meeting of the American Association for Dental Re-

- search (Dallas), 2008. 4.
- 8) 村上正洋<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院 形成外科) : 牽引筋腱膜縫着術を行った老人性眼瞼内反症の長期結果とその結果から得られた対応策. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
  - 9) Ogawa R, Mizuno H, Orgill D : Cartilage Tissue Engineering Using Adipose-Derived Stem Cells. The 53rd Plastic Surgery Research Council (Illinois), 2008. 5.
  - 10) Okuda T, Uysal A, Ogawa R, Hyakusoku H, Mizuno H : Flap prefabrication technique as a tool for inducing angiogenesis in tissue engineering. The 53rd Plastic Surgery Research Council (Illinois), 2008. 5.
  - 11) Ogawa R, Mizuno S<sup>1)</sup>, Orgill D<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Harvard Medical School) : Cartilage Tissue Engineering Using Adipose-Derived Stem Cells. The 53rd Plastic Surgery Research Council (Illinois), 2008. 5.
  - 12) Ogawa R, Mizuno H, Orgill D, Pribaz J : Cartilage Regeneration Using Human Adipose-Derived Stem Cells. 2008 New England Society for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery (Vermont), 2008. 6.
  - 13) Ogawa R, Mizuno S<sup>1)</sup>, Orgill D<sup>1)</sup>, Pribaz J<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Harvard Medical School) : Cartilage Regeneration Using Human Adipose-Derived Stem Cells. 2008 New England Society for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery (Vermont), 2008. 6.
  - 14) Ono S, Hyakusoku H, Okuda T, Ogawa R, Aoki R : Complications of long durability fillers in facial reshaping. IMCAS ASIA Singapore 2008 (Singapore), 2008. 7.
  - 15) Tobita M, Mizuno H, Uysal A, Guo X, Hyakusoku H : Canine Periodontal Tissue Regeneration Using Adipose-Derived Stem Cells. 87th International and American Association for Dental Research (Toronto), 2008. 7.
  - 16) Ono S, Hyakusoku H, Kozai M, Kimura H, Okuda T : Complications after Polyacrylamide Hydrogel (PAG) Injection for Soft-Tissue Augmentation. 18th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (中国西安), 2008. 9.
  - 17) Ono S, Hyakusoku H, Ogawa R, Hayashi H<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Radiology) : Usefulness of Multi Detector-Row CT (MDCT) in The Planning of Propeller Flaps. 18th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (中国西安), 2008. 9.
  - 18) Kozai T, Akaishi S, Kobe K, Koike S, Ogawa R, Aoki R, Hyakusoku H : Treatment of Keloids and Hypertrophic Scars with Long-pulsed Nd : YAG Laser-Effect and limit of laser treatment for scar management. 18th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (中国西安), 2008. 9.
  - 19) Hyakusoku H, Mizuno H, Murakami M<sup>1)</sup>, Ogawa R, Ono S, Ishii N, Akaishi S (<sup>1)</sup> Musashikosugi Hp) : Our definition and classification of the propeller flap method. 18th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (中国西安), 2008. 9.
  - 20) Ono S, Hyakusoku H, Ogawa R, Hayashi H<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Radiology) : Usefulness of Multi Detector-Row CT (MDCT) in The Planning of Perforator Pedicled Propeller (PPP) Flaps. 12th International Perforator Flap Course (India), 2008. 9.
  - 21) Ono S, Hyakusoku H, Ogawa R : New Definition and Classification of The Propeller Flap Methods. 12th International Perforator Flap Course (India), 2008. 9.
  - 22) Ogawa R : Corticosteroid treatment for keloids. The 2nd Scar Meeting (Montpellier), 2008. 9.
  - 23) Akaishi S, Ogawa R, Koube K, Koike S, Hyakusoku H : 1064NM ND : YAG laser treatment for keloids and hypertrophic scars. The 2nd Scar Meeting (Montpellier), 2008. 9.
  - 24) Akaishi S, Ogawa R, Akimoto M, Hyakusoku H : Visualized finite element analysis of the relationship between keloid growth pattern and stretching tension. The 2nd Scar Meeting (Montpellier), 2008. 9.
  - 25) Kimura H, Mizuno H, Eura S, Hyakusoku H, Miyamoto M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 再生医療科) : Maggot debridement thera-

- py for chronic wound. 18th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (中国西安), 2008. 9.
- 26) Amagai K, Oki K, Ono S, Kozai T, Hyakusoku H : Free superficial cervical artery perforator (SCAP) flap. 18th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (中国西安), 2008. 9.
  - 27) Chin M<sup>1)</sup>, Ogawa R, Lancerotto L<sup>1)</sup>, Mathews J<sup>1)</sup>, Akaishi A, Orgill D<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Harvard Medical School) : Neurogenic inflammation induced by mechanical stretch : study of a fibroproliferative disease mechanisms. The 2nd Scar Meeting (Montpellier), 2008. 9.
  - 28) Ogawa R, Akaishi S, Ono S, Kuribayashi S, Miyashita T, Hyakusoku H : Postoperative electron-beam irradiation therapy for keloid Analysis of 552 sites followed up over 18 months. The 2nd Scar Meeting (Montpellier), 2008. 9.
  - 29) Ogawa R, Akaishi S, Hyakusoku H : Differential diagnosis of diseases that resemble keloid and hypertrophic scars. The 2nd Scar Meeting (Montpellier), 2008. 9.
  - 30) Chin M<sup>1)</sup>, Ogawa R, Lancerotto L<sup>1)</sup>, Younan G<sup>1)</sup>, Mathews J<sup>1)</sup>, Schomacker K<sup>1)</sup>, Pietramaggiori G<sup>1)</sup>, Scherer S<sup>1)</sup>, Prsa M<sup>1)</sup>, Ottensmeyer M<sup>1)</sup>, Veves A<sup>1)</sup>, Orgill D<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Harvard Medical School) : Neurogenic inflammation induced by mechanical stretch : study of a fibroproloferative disease mechanism. The 2nd Scar Meeting (Montpellie), 2008. 9.
  - 31) 土肥輝之, 平川慶子<sup>1)</sup>, 奥田貴久, 佐藤和夫, 百東比古 ( <sup>1)</sup> 法医学NMR研究施設) : 固形ジェル状エンドプロテーゼのNMR法による分析. 第31回日本美容外科学会総会, 2008. 10.
  - 32) Mizuno H, Uysal A, Orbay H, Okuda T, Hyakusoku H : Adipose derived stem cells accelerate primary nerve repair. 6th Annual Meeting of International Federation of Adipose Therapeutics and Science (Toulouse, France), 2008. 10.
  - 33) Uysal A, Mizuno H, Orbay H, Okuda T, Hyakusoku H : Adipose derived stem cells accelerate primary tendon repair. 6th Annual Meeting of International Federation of Adipose Therapeutics and Science (Toulouse, France), 2008. 10.
  - 34) Okuda T, Uysal A, Itoi Y, Ogawa R, Hyakusoku H, Mizuno H : Prefabrication of engineered bone using adipose-derived stem cells. 6th Annual Meeting of International Federation of Adipose Therapeutics and Science (Toulouse, France), 2008. 10.
  - 35) Ikegami Y<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>3)</sup>, Hayashi S<sup>2)</sup>, Yo F<sup>2)</sup>, Nakashima S<sup>2)</sup>, Yoshimura S<sup>1)</sup>, Mizuno H ( <sup>1)</sup> 岐阜大学大学院医学研究科脳神経外科学分野, <sup>2)</sup> 岐阜大学大学院医学研究科細胞情報学分野, <sup>3)</sup> 朝日大学附属村上記念病院脳神経外科) : Potential of adipose tissue-derived stem cells compared to bone marrow-derived stem cells for cell transplantation therapies against cerebral ischemia. 6th Annual Meeting of International Federation of Adipose Therapeutics and Science (Toulouse, France), 2008. 10.
  - 36) Ikegami Y<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>3)</sup>, Hayashi S<sup>2)</sup>, Yo F<sup>2)</sup>, Nakashima S<sup>2)</sup>, Yoshimura S<sup>1)</sup>, Mizuno H ( <sup>1)</sup> 岐阜大学大学院医学研究科脳神経外科学分野, <sup>2)</sup> 岐阜大学大学院医学研究科細胞情報学分野, <sup>3)</sup> 朝日大学附属村上記念病院脳神経外科) : Potential of adipose tissue-derived stem cells compared to bone marrow-derived stem cells for cell transplantation therapies against cerebral ischemia 3rd BioStar 2008. the 3rd International Congress on Regenerative Biology and Medicine and the 3rd Congress of the German Society for Stem Cell Research (Stuttgard, Germany), 2008. 10.
  - 37) Ogawa R, Mizuno S<sup>1)</sup>, Murphy G<sup>1)</sup>, Orgill D<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Harvard Medical School) : The Effect of Hydrostatic Pressure on Three-Dimensional Cartilage Regeneration Using Human Adipose-Derived Stem Cells. The 6th International federation of Adipose Therapeutic and Science (Toulouse), 2008. 10.
  - 38) Ogawa R, Mizuno S<sup>1)</sup>, Orgill D<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Harvard Medical School) : Cartilage Tissue Engineering Using Adipose-Derived Stem Cells. The 94th American College of Surgeons (Sun Francisco), 2008. 10.

- 39) 小野真平, 百束比古: ヒアルロン酸の顔面自己注入後遺症の1例. 第104回日本美容外科学会, 2009. 1.
- 40) Nakao J, Hyakusoku H, Ono S: Post-burn scar constructure cases successfully reconstructed by the square flap method. 9th National Conference of Burn, Reconstructive and Plastic Surgery (Hanoi, Vietnam), 2009. 3.
- 41) Orbay H, Uysal A, 奥田貴久, 百束比古, 水野博司: *In Vitro*における脂肪組織由来幹細胞のシュワン細胞への分化とそれをを用いた神経修復の試み. 第8回日本再生医療学会, 2009. 3.
- 42) 伊吾田慎一<sup>1)</sup>, 百束比古, 水野博司<sup>(1)</sup> 東戸塚記念病院 形成外科): その地域にとって最も効果的な褥瘡対策とは?: 3つの病院の経験から. 第10回日本褥瘡学会学術集会, 2008. 8.
- 43) 水野博司, 小池幸子, 赤石論史, 河邊京子, 百束比古, 宮本正章<sup>1)</sup> (1) 再生医療科): 自家骨髄間質細胞による血管再生治療を併用した難治性潰瘍治療の長期フォローアップ. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 44) 小川 令, Tan P<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup> Bloomfield Hospital, UK): 顔面同種移植に対する日本人の考え方アンケート調査の結果から. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 45) 小川 令, 赤石論史, 百束比古: ケロイド・肥厚性瘢痕と他の類似疾患との鑑別・除外診断. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 46) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 形成外科): 瘢痕拘縮形成術の有限要素法による評価の試み. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 47) 土佐真美子<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 岩切 致<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院 形成外科): 抗がん剤の術後瘢痕ケロイド発生に対する抑制効果の検討. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 48) 赤石論史, 小池幸子, 河邊京子, 石井暢明, 栗林茂彦<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup> 放射線治療科): ケロイドに対する手術後放射線療法の新しいプロトコルの試み. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 49) 土佐真美子<sup>1)</sup>, 岩切 致<sup>1)</sup>, 梅澤裕己<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院 形成外科): ケロイド術後電子線治療の再発例に関する検討. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 50) 小川 令, 赤石論史, 小野真平, 石井暢明, 栗林茂彦<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>1)</sup> (1) 放射線科): ケロイドに対する手術後放射線療法の新しいプロトコルの試み. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 51) 小野真平, 百束比古, 赤石論史, 林 宏光, 汲田伸一郎<sup>(1)</sup> 放射線科): MDCTにより同定された穿通枝皮弁による前胸部ケロイド再建. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 52) 小野真平, 野本俊一, 小川 令, 百束比古: 瘢痕・ケロイドの外科的治療における“small wave incision”の有用性. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 53) 久保一人, 青木 律, 天海恵子, 河邊京子, 百束比古: 血管腫に対する複合レーザー治療の試み. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 54) 小野真平, 百束比古, 陳 貴史, 小川 令, 大木更一郎, 赤石論史, 林 宏光<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>(1)</sup> (1) 放射線科): 形成外科領域におけるMulti Detected-row CT (MDCT) の可能性: 穿通枝皮弁術の新しい血管評価法. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 55) 小野真平, 百束比古, 石井暢明, 小川 令: 脂肪注入豊胸術の問題点とインフォームドコンセントの重要性. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 56) 小川 令, 百束比古: 熱傷後瘢痕拘縮に対する評価および治療方法に対する考察. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 57) 陳 貴史, 小野真平, 百束比古: Venous arterializationにより生着したDegloving injuryの2例. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 58) 土肥輝之, 小野真平, 河邊京子, 野本俊一, 久保一人, 水野博司, 百束比古: 急性薬物中毒後に発生したコンパートメント症候群3症例の治療経験. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 59) 小野真平, 百束比古, 奥田貴久, 石井暢明, 青木 律, 平川慶子<sup>1)</sup>, 大野曜吉<sup>1)</sup> (1) 法医学NMR研究施設):

- 非吸収性ハイドロジェル注入後後遺症. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 60) 大木更一郎, 赤石論史, 小池幸子, 陳 貴史, 小野真平: 穿通枝皮弁としてのSCAP flap: 遊離と有茎の選択について. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 61) 小野真平, 百束比古, 陳 貴史, 小川 令, 水野博司, 村上正洋<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>2)</sup>, 高見佳宏<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院 形成外科, <sup>2)</sup> 放射線科, <sup>3)</sup> 西部総合病院 皮膚科・形成外科): 微小血管付加したOccipitocervicopectoral (OCP) “Super-thin” flapによる下顎部再建. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 62) 小野真平, 王 春梅<sup>1)</sup>, 百束比古 (<sup>1)</sup> 東莞康華病院形成外科): Expanded Occipitocervicodorsal (OCD) flapによる熱傷再建. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 63) 陳 貴史, 小野真平, 百束比古: 超薄皮弁における付加肋間穿通枝においてMDCTによる術前検討が有用であった1例. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 64) 大木更一郎, 赤石論史, 小池幸子, 陳 貴史, 小野真平, 村上正洋<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院 形成外科): プロペラ皮弁法の新たな分類法. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 65) 野本俊一, 百束比古, 青木 律, 水野博司, 青木雅代, 江浦重義, 石井暢明, 土肥輝之: 陰股部再建におけるSEPA皮弁の有用性について. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 66) 陳 貴史, 百束比古, 奥田貴久, 小野真平, 野本俊一, 平川慶子 (<sup>1)</sup> 法医学NMR研究施設): 当科に置ける顔面異物注入症例の検討. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 67) 陳 貴史, 百束比古, 奥田貴久, 小野真平, 野本俊一, 平川慶子<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 法医学NMR研究施設): 注入後40年経過して疼痛が出現した亀頭異物症例の検討. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
- 68) 小野真平, 百束比古, 小川 令, 大木更一郎: 深達性皮膚欠損の修復における穿通枝局所皮弁 (プロペラ皮弁) の有用性. 第33回日本外科系連合学会, 2008. 6.
- 69) 土肥輝之, 赤石論史, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 百束比古 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院 形成外科): ケロイド・肥厚性瘢痕に対するシリコンジェルシートの力学的効果の検討. 第33回日本外科系連合学会, 2008. 6.
- 70) 小野真平, 王 春梅<sup>1)</sup>, 百束比古 (<sup>1)</sup> 中国東莞康華病院 形成外科): 下顎-頸部熱傷瘢痕拘縮再に対する薄く大きな皮弁による再建その方法-論の分類を中心に. 第34回日本熱傷学会総会・学術集会, 2008. 6.
- 71) 土肥輝之, 赤石論史, 百束比古: 肥厚性瘢痕に対するポリエチレンジェルシートの治験経験. 第34回日本熱傷学会, 2008. 6.
- 72) 大木更一郎, 村上正洋, 小川 令, 百束比古: 熱傷瘢痕拘縮に対する植皮術における3次元ワイヤーフレーム外固定法の経験. 第34回日本熱傷学会総会・学術集会, 2008. 6.
- 73) 野本俊一<sup>1)</sup>, 水野博司, 赤石論史, 百束比古 (<sup>1)</sup> 博慈会記念総合病院 形成外科): 踵後部の瘢痕癌切除後再建～プロペラ皮弁法の適用. 第24回皮膚悪性腫瘍学会, 2008. 7.
- 74) 小野真平, 陳 貴史, 百束比古: 外陰癌切除後に臀溝皮弁 (会陰動脈穿通枝プロペラ皮弁) で再建した1例. 第24回皮膚悪性腫瘍学会, 2008. 7.
- 75) 陳 貴史, 小野真平, 百束比古: 上眼瞼有棘細胞癌に対してV-Y advancement myotarsocutaneous flapにて再建した1例. 第24回皮膚悪性腫瘍学会, 2008. 7.
- 76) 小野真平, 林 宏光<sup>1)</sup>, 陳 貴史, 百束比古 (<sup>1)</sup> 放射線科): MDCTによる内胸動脈穿通枝の検索. 第254回東京地方会, 2008. 7.
- 77) 江浦重義, 石井暢明, 久保一人, 百束比古: 筋肉茎プロペラ皮弁 (MPP flap) によって再建した坐骨部褥瘡の経験. 第254回東京地方会, 2008. 7.
- 78) 石井暢明, 小野真平, 木村広美, 青木 律, 百束比古: 注入による隆鼻術の問題点. 第102回日本美容外科学会学術集会, 2008. 7.
- 79) 赤石論史, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 土肥輝之 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院 形成外科): シリコンジェルシートの力学的効果の検討. 第3回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2008. 8.



- 80) 小川 令<sup>1)</sup>, Michael C<sup>1)</sup>, Luca L<sup>1)</sup>, Jasmine C M<sup>1)</sup>, 赤石論史, 百束比古, Dennis P O<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Plastic Surgery, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School) : 皮膚に生じる張力と神経原性炎症の関連性について. 第3回癬痕・ケロイド治療研究会, 2008. 8.
- 81) 泉 美貴<sup>1)</sup>, 菅又 章<sup>2)</sup>, 小川 令, 赤石論史, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 東京医科大学 病理診断学, <sup>2)</sup> 東京医科大学医療センター 形成外科学) : 癬痕, 肥厚性癬痕, ケロイドの組織所見. 第3回癬痕・ケロイド治療研究会, 2008. 8.
- 82) 土佐真美子<sup>1)</sup>, 岩切 致<sup>1)</sup>, 奈良慎平<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院 形成外科) : ケロイド治療の現状とケロイド疫学調査の必要性についての検討. 第3回癬痕・ケロイド治療研究会, 2008. 8.
- 83) 小川 令, 赤石論史, 百束比古 : ケロイドの疫学調査の必要性. 第3回癬痕・ケロイド治療研究会, 2008. 8.
- 84) 小川 令, 赤石論史, 小野真平, 栗林茂彦<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 放射線治療科) : ケロイドに対する手術および術後電子線照射療法の検討. 第3回癬痕・ケロイド治療研究会, 2008. 8.
- 85) 三原恵理<sup>1)</sup>, 稲田浩美<sup>1)</sup>, 志村知子<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 看護部) : 弾性ストッキングによる褥瘡様トラブルの検討. 第10回日本褥瘡学会学術集会, 2008. 8.
- 86) 大木更一郎, 百束比古, 大木琴美 : 術後抗生剤局所投与により治癒し得た難治性潰瘍の検討. 第10回日本褥瘡学会学術集会, 2008. 8.
- 87) 近藤秀士<sup>1)</sup>, 木村豊美<sup>1)</sup>, 坂本ゆみ<sup>2)</sup>, 志村知子<sup>1)</sup>, 稲田浩美<sup>2)</sup>, 石井暢明, 大木更一郎, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 栄養科, <sup>2)</sup> 看護部) : 栄養管理の工夫を行い救命し得たガス壊疽を伴う広範囲仙骨部褥瘡の1例. 第10回日本褥瘡学会学術集会, 2008. 8.
- 88) 菊池美智子<sup>1)</sup>, 小川 令, 山本 達<sup>2)</sup>, 加藤一良<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 全仁会高木病院 看護部, <sup>2)</sup> 全仁会高木病院 形成外科, <sup>3)</sup> 全仁会高木病院 外科) : 褥瘡予防・治療における当院の工夫. 第10回日本褥瘡学会学術集会, 2008. 8.
- 89) 石井暢明, 大木更一郎, 稲田浩美<sup>1)</sup>, 近藤秀士<sup>2)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学附属病院 看護部, <sup>2)</sup> 日本医科大学附属病院 栄養科) : 広範囲褥瘡による敗血症性ショックからパッチ植皮を繰り返し行い救命しえた1例. 第10回日本褥瘡学会学術集会, 2008. 8.
- 90) 江浦重義, 石井暢明, 久保一人, 百束比古 : 筋肉茎プロペラ皮弁 (MPP flap) によって再建した坐骨部褥瘡の2症例. 第10回日本褥瘡学会学術集会, 2008. 8.
- 91) 奈良慎平<sup>1)</sup>, 土佐真美子<sup>1)</sup>, 岩切 致<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古 : 貼付用局所麻酔剤によるステロイド局所注射の疼痛軽減効果に関する検討. 第3回ケロイド・癬痕研究会, 2008. 9.
- 92) 土佐真美子<sup>1)</sup>, 岩切 致<sup>1)</sup>, 奈良慎平<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院 形成外科) : ケロイドに対する治療を中断した理由についての検討. 第3回ケロイド・癬痕研究会, 2008. 9.
- 93) 陳 貴史, 久保一人, 小野真平, 百束比古 : 帯状疱疹後外陰部ケロイドの治療経験. 日本形成外科学会第255回東京地方会, 2008. 9.
- 94) 飛田護邦, 水野博司, Uysal A, 郭 金, 百束比古 : 脂肪組織幹細胞を応用した歯周組織再生 : 新たな歯周組織再生治療を目指して. 第6回日本再生歯科医学会, 2008. 9.
- 95) 河邊京子, 百束比古 : 乳房異物症例におけるPET検査の意義. 第31回日本美容外科学会総会, 2008. 10.
- 96) 小野真平, 百束比古, 奥田貴久, 石井暢明, 土肥輝之, 青木 律 : 顔面注入異物後遺症における外科的手術の適応と限界. 第26回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 2008. 10.
- 97) 小野真平, 大木更一郎, 赤石論史, 百束比古 : 顔面頸部再建における“狭茎超薄皮弁”の適用と長期結果. 第26回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 2008. 10.
- 98) 小川 令, 水野秀一<sup>1)</sup>, Orgil D<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> ハーバード大学 形成外科) : 静水圧付加によるヒト脂肪組織由来幹細胞を用いた3次元軟骨組織再生. 第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 2008. 10.
- 99) 大木琴美<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 大木更一郎, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院 形成外科) : 内胸動脈-肋間動脈系穿通枝による前胸壁皮膚血行支配についての血管解剖学的検討. 第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 2008. 10.
- 100) 高見佳宏<sup>1)</sup>, 小野真平, 河邊京子, 赤石論史, 佐藤格夫<sup>2)</sup>, 高橋 聡<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 西部総合病院 形成外科, <sup>2)</sup> 救急医

- 学)：無細胞真皮マトリックスを用いた3層性代用真皮の開発。第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 2008. 10.
- 101) 奥田貴久, Uysal-Cagri A, 糸井由里恵, 河邊京子, 小野真平, Orbay H, 百束比古, 水野博司：prefabricated flapを用いた再生培養骨への血管付加。第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 2008. 10.
- 102) 飛田護邦, 水野博司, Uysal A, 郭 金, 百束比古：犬脂肪組織幹細胞による歯周組織再生。第51回日本歯周病学会, 2008. 10.
- 103) 小川 令, Chin M<sup>1)</sup>, Lancerotto L<sup>1)</sup>, 赤石論史, 百束比古, Orgill D ( <sup>1)</sup> ハーバード大学 形成外科)：マウス皮膚伸展モデルにおける神経原性炎症の解析。第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 2008. 10.
- 104) Uysal A, Hakan O, 奥田貴久, 糸井由里恵, 河邊京子, 小野真平, 百束比古, 水野博司：脂肪由来幹細胞を用いた腱修復。第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 2008. 10.
- 105) 木村広美, 百束比古, 青木 律, 水野博司, 小野真平, 奥田貴久, 利根川均：非吸収性ハイドロジェル大量注入による豊胸術後後遺症の画像所見。第31回日本美容外科学会総会, 2008. 10.
- 106) 水野博司, 木村広美, 大木更一郎, 天海恵子, 香西達一, 百束比古：2種類の異なる物質を異なる時期に注入された乳房異物症例の治療経験。第31回日本美容外科学会総会, 2008. 10.
- 107) 陳 貴史<sup>1)</sup>, 小野真平, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 会津中央病院形成外科)：上眼瞼内側皮膚欠損にV-Y Advancement myotarsocutaneous flapにて再建した1例。第26回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2008. 10.
- 108) 小野真平, 百束比古, 陳 貴史, 奥田貴久, 石井暢明, 土肥輝之, 青木 律：顔面注入異物後遺症における外科的手術の適応と限界。第26回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2008. 10.
- 109) 土佐真美子, モハマッドガジザデ<sup>1)</sup>, 枝川聖子<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>, 村上正洋, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所病理部門)：ケロイド発生におけるIL-17遺伝子の発現解析。第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 2008. 10.
- 110) 小野真平, 林 宏光<sup>1)</sup>, 高見佳宏<sup>2)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 放射線科, <sup>2)</sup> 西部総合病院 形成外科)：術前MDCTを用いた“custom-made flapdesign”の可能性。第35回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2008. 11.
- 111) 村上正洋<sup>1)</sup>, 奈良慎平<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院形成外科)：男性の老人性眼瞼皮膚弛緩症の行った眉下切開法の検討。第13回横浜形成外科フォーラム, 2008. 11.
- 112) 大木更一郎, 百束比古, 天海恵子, 小野真平, 香西達一：free SCAP (superficial cervical artery perforator) flap-interposition の試み。第35回日本マイクロサージャリー学会, 2008. 11.
- 113) 陳 貴史, 百束比古, 久保一人, 小野真平, 赤石論史, 江浦重義, 水野博司, 大木更一郎：プロペラ皮弁による再建症例の検討：遊離皮弁の代替となるか。第35回日本マイクロサージャリー学会, 2008. 11.
- 114) 小野真平, 林 宏光<sup>1)</sup>, 高見佳宏<sup>2)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 放射線科, <sup>2)</sup> 西部総合病院形成外科)：術前MDCTを用いた“custom-made flap design”の可能性。第35回日本マイクロサージャリー学会, 2008. 11.
- 115) 梅澤裕己, 百束比古, 水野博司, 大木更一郎, 小野真平, 橋本 聡, 宮本 暖：後脛骨動脈穿通枝を軸としたプロペラ皮弁による再建。第256回日本形成外科学会東京地方会, 2008. 12.
- 116) 久保一人, 大森康貴, 陳 貴史, 百束比古：propeller flap concept を利用した前内側大腿穿通枝皮弁の1例。第256回日本形成外科学会東京地方会, 2008. 12.
- 117) 小野真平, 林 宏光<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 放射線科)：MDCTによる後頭穿通枝の解析。第256回日本形成外科学会東京地方会, 2008. 12.
- 118) 水野博司, 河邊京子, 百束比古, 宮本正章<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院再生医療科)：虚血性難治性潰瘍治療に対する自家骨髄細胞を用いた血管再生治療と創傷治癒促進効果の長期成績。第38回日本創傷治癒学会, 2008. 12.
- 119) 河邊京子, Uysal A, 小野花澄<sup>1)</sup>, 鈴木康二<sup>1)</sup>, 百束比古, 水野博司 ( <sup>1)</sup> 株式会社JMS中央研究所)：脂肪組織由来幹細胞のヒト血清付加培地における生体外増殖能の検討。第38回日本創傷治癒学会, 2008. 12.
- 120) Uysal A, 水野博司, 飛田護邦, 奥田貴久, 百束比古：脂肪組織由来幹細胞を用いた腱修復の試み。第38回日本創傷治癒学会, 2008. 12.
- 121) Uysal A, 水野博司, Orbay H, 奥田貴久, 百束比古：脂肪組織由来幹細胞を用いた神経修復の試み。第38回

- 日本創傷治癒学会, 2008. 12.
- 122) 奥田貴久, Uysal A, Orbay H, 河邊京子, 小野真平, 糸井由里恵, 百束比古, 水野博司: Prefabricated flap を用いた再生骨移植の臨床応用に向けた研究. 第38回日本創傷治癒学会, 2008. 12.
- 123) 土佐真美子, 村上正洋, 松島 隆<sup>1)</sup>, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院女性診療科・産科): 手術後瘢痕成熟過程の検討と肥厚性瘢痕およびケロイドの発生率に関する臨床研究. 第38回日本創傷治癒学会, 2008. 12.
- 124) 小野真平, 百束比古: 脂肪融解注射液自己注射後遺症の1例. 第104回日本美容外科学会, 2009. 1.
- 125) 中尾淳一, 青木 律, 久保一人, 河邊京子, 天海恵子, 百束比古: 血管腫に対する複合レーザーの試み. 第104回日本美容外科学会, 2009. 1.
- 126) 水野博司, 江浦重義, 木村広美, 百束比古, 宮本正章<sup>1)</sup>: 医療経済からみた下肢難治性潰瘍治療の問題点. 第1回日本創傷外科学会, 2009. 1.
- 127) 奥田貴久, Uysal C, Orbay H, 河邊京子, 小野真平, 糸井由里恵, 百束比古, 水野博司: 幹細胞より誘導した再生骨に対し prefabrication 手法を用いて血管導入された組織移植に関する研究. 第1回日本創傷外科学会, 2009. 1.
- 128) 土佐真美子<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院形成外科): 当科におけるピアスケロイド症例の検討. 第1回日本創傷外科学会, 2009. 1.
- 129) 大木更一郎, 小池幸子, 村上正洋<sup>1)</sup>, 青木 律, 百束比古<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院形成外科): 多発顔面骨折の術後変形と蝶頬骨縫合固定の検討. 第1回日本創傷外科学会, 2009. 1.
- 130) 水野博司, 大木更一郎, 江浦重義, 木村広美, 青木雅代, 中尾淳一, 百束比古: 下顎頸部熱傷瘢痕拘縮再建に用いた, 微小血管束付加をしないOCP superthin flap の生着域の限界. 第17回日本熱傷学会関東地方会, 2009. 1.
- 131) 石井暢明<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup> 会津中央病院形成外科): 小皮膚潰瘍に対する局所麻酔で可能なプロペラ皮弁法. 第14回形成外科手術手技研究会, 2009. 2.
- 132) 村上正洋, 岩切 致, 野本俊一, 赤石論史, 百束比古: 皮弁により再建した若年発症の静脈性下腿潰瘍. 第7回日本フットケア学会学術集会, 2009. 2.
- 133) 小野真平, 林 宏光<sup>1)</sup>, 高見佳宏<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup> 放射線科, <sup>2)</sup> 西部総合病院形成外科): MDCTによる鎖骨上穿通枝 (Supraclavicular perforator) の解析. 第257回日本形成外科学会東京地方会, 2009. 3.
- 134) 香西達一, 大木更一郎, 天海恵子, 百束比古: 外陰部に生じた巨大なCellular angiofibromaの1例. 第257回日本形成外科学会東京地方会, 2009. 3.
- 135) Uysal A, 飛田護邦, 百束比古, 水野博司: 脂肪組織由来幹細胞を用いた腱修復の試み. 第8回日本再生医療学会, 2009. 3.
- 136) Uysal A, 奥田貴久, Orbay H, 百束比古, 水野博司: 脂肪組織由来幹細胞を用いた神経修復の試み. 第8回日本再生医療学会, 2009. 3.
- 137) 河邊京子, 水野博司, 鈴木康二<sup>1)</sup>, 小野花澄<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup> JMS 中央研究所): 脂肪組織由来幹細胞のヒト血清清付加培地における生体外増殖能の検討. 第8回日本再生医療学会, 2009. 3.
- (7) ポスター:
- 1) Ogawa R, Mizuno S<sup>1)</sup>, Murphy G<sup>1)</sup>, Orgill D<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Harvard Medical School): Effects of Mechanical Force on Skin: Cellular Proliferation, Angiogenesis, and Neuropeptide Upregulation. The 3rd Annual Research Poster Symposium of The Massachusetts Medical Society 2008 (Waltham), 2008. 4.
- 2) 赤石論史, 小川 令, 百束比古: ケロイドの発生に関する張力による神経原性炎症仮説. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
- 3) 河邊京子, 水野博司, 赤石論史, 久保一人, 橋本 聡<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup> 会津中央病院形成外科): 有茎SCA flapを用いた腋窩部瘢痕拘縮の形成術. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.

- 4) 宮本 暖, 小池幸子, 大木更一郎, 百東比古: Open abdomen treatmentにおける大網上植皮後に鹿角状異所性骨形成を来した1例. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
  - 5) 小池幸子, 赤石論史, 河邊京子, 青木 律, 百東比古: リストカットによる癍痕に対する複合的治療. 第51回日本形成外科学会総会学術集会, 2008. 4.
  - 6) 稲田浩美<sup>1)</sup>, 三原恵理<sup>1)</sup>, 志村知子<sup>1)</sup>, 近藤秀士<sup>2)</sup>, 石井暢明, 大木更一郎, 百東比古 (<sup>1)</sup> 看護部, <sup>2)</sup> 栄養科): 大学病院におけるハイリスク患者ケア加算の現状. 第10回日本褥瘡学会学術集会, 2008. 8.
  - 7) 村上正洋<sup>1)</sup>, 百東比古 (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院 形成外科): 眉下切開法による上眼瞼皮膚弛緩症の治療. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
  - 8) 土肥輝之, 赤石論史, 小川 令, 百東比古: ケロイドの形態に対する感染・手術の影響. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
  - 9) 大木更一郎, 天海恵子, 香西達一, 百東比古: 遊離SCAP皮弁=世界でわれわれだけが報告してきた皮弁. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
  - 10) 奈良慎平<sup>1)</sup>, 土佐眞美子<sup>1)</sup>, 岩切 致<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百東比古 (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院 形成外科): 60%リドカインテープ前処置によるケロイドに対するトリアムシノロンアセトニド局所注射治療の疼痛軽減効果に関する検討. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
  - 11) 石井暢明<sup>1)</sup>, 江浦重義, 久保一人, 百東比古 (<sup>1)</sup> 北村山公立病院 形成外科): 筋肉茎プロペラ皮弁による坐骨部褥瘡の再建. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
  - 12) 土肥輝之, 赤石論史, 小川 令, 百東比古: ケロイドに対する感染と手術の影響. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
  - 13) 河邊京子, 青木 律, 百東比古: 乳房異物症例におけるPET検査の意義. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
  - 14) かづきれいこ, 青木 律, 小池幸子, 百東比古: 癍痕ケロイドに対するリハビリメイクについて. 第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 2008. 10.
  - 15) Uysal-Cagri A, Orbay H, 奥田貴久, 糸井由里恵, 河邊京子, 小野真平, 百東比古, 水野博司: 脂肪由来幹細胞を用いた神経修復. 第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 2008. 10.
  - 16) Uysal-Cagri A, Hakan O, 奥田貴久, 糸井由里恵, 河邊京子, 小野真平, 百東比古: 脂肪由来幹細胞を用いた軟骨修復. 第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 2008. 10.
  - 17) Uysal A, Orbay H, 奥田貴久, 糸井由里恵, 河邊京子, 小野真平, 水野博司: 脂肪由来幹細胞を用いたin vivo 3D軟骨再生. 第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 2008. 10.
  - 18) 江浦重義, 水野博司, 赤石論史, 青木 律, 百東比古: フルニエ壊疽の検討と再建法について. 第1回日本創傷外科学会, 2009. 1.
  - 19) 赤石論史, 小川 令, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 百東比古 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院形成外科): ケロイド発生における仮説とその妥当性. 第1回日本創傷外科学会, 2009. 1.
- (8) 主演演題:
- 1) 赤石論史, 小川 令, 百東比古: ケロイド発生における仮説: 張力による神経原性炎症. 第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 2008. 10.
  - 2) 小川 令: ケロイド・肥厚性癍痕における細胞メカノセンサーの過剰応答および機能異常の可能性. 第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 2008. 10.



## [武蔵小杉病院形成外科]

### 研究概要

臨床：ケロイドや肥厚性瘢痕の治療において、手術後に行う後療法<sup>の</sup>best protocol作成へ向けた取り組みを引き続き行った。また、ケロイドや肥厚性瘢痕の予防および早期発見に主眼を置いた新たなコンセプトである scar control 外来にて、1000例を超える女性診療科産科患者を術後早期から診察した結果、術後の肥厚性瘢痕予防およびケロイドの早期治療が可能となりつつある。さらに、アクネケロイドに対しての光線力学療法を継続するとともに、褥瘡や下腿潰瘍などの難治性潰瘍に対する光線療法を行い成果を得ている。加えて、一昨年から開始した糖尿病患者の足病変の予防と早期発見を目的としたフットケア外来を皮膚科および糖尿病療養指導士の協力を得て継続しているとともに、重症下肢虚血においては近隣病院と協力しあうことで集学的治療を可能とする医療チームj. WALKを立ち上げ、救肢に努めている。

基礎：ケロイドの発生機序の解明と特効薬の開発を目的とした基礎研究を継続している。われわれは、ケロイド発生にIL-6シグナルが関与していることを明らかにしてきたが、その研究を進展させ、IL-6シグナルに持続的な刺激を与えている可能性があるTh17（helper T cell）の働きについて注目し、新たな研究をスタートさせている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Murakami M, Hyakusoku H<sup>1)</sup> (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : Treatment of upper eyelid dermatochalasis by resection of excess skin at the inferior margin of the eyebrow. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (2) : 364-366.
- 2) Tosa M, Murakami M, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>2)</sup> (1) Department of Molecular Pathology, Institute of Development and Aging Sciences, Nippon Medical School , 2) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : Chronologic change of the maximum dimension of bacillus calmette-guerin-induced keloids. Dermatol Surg 2009 ; 35 (2) : 89-94.
- 3) Tosa M, Murakami M, Hyakusoku H<sup>1)</sup> (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : Effect of lidocaine tape on pain during intralesional injection of triamcinolone acetonide for the treatment of keloid. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (1) : 9-12.
- 4) 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup>, 宮里和明<sup>2)</sup> (1) 付属病院形成外科・美容外科, 2) 船堀眼科) : 牽引筋腱膜縫着術を行った老人性下眼瞼内反症の長期結果. 日美外報 2008 ; 30 (2) : 11-16.
- 5) 水野博司<sup>1)</sup>, 青木 律<sup>1)</sup>, 岩切 致, 村上正洋, 小川 令<sup>1)</sup>, 赤石論史<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, Vu -Quang V<sup>2)</sup> (1) 付属病院形成外科・美容外科, 2) ベトナム国立熱傷研究所) : ベトナムにおける熱傷再建外科治療の経験. 熱傷 2008 ; 34 (2) : 104-109.
- 6) 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup>, 王 春梅<sup>2)</sup> (1) 付属病院形成外科・美容外科, 2) 東莞康華医院形成外科) : 小児の顔面・頸部熱傷の治療. PEPARS 2009 ; 25 : 37-47.
- 7) 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup>, 岩切 致, 梅澤裕己<sup>2)</sup> (1) 付属病院形成外科・美容外科, 2) 付属病院高度救命救急センター) : 下腿・足の再建術における皮弁手術. PEPERS 2009 ; 26 : 41-54.
- 8) 奈良慎平, 土佐眞美子, 岩切 致, 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 貼付用局所麻酔剤によるステロイド局所注射の疼痛軽減効果に関する研究. 瘢痕・ケロイド 2009 ; 3 : 54-55.
- 9) 土佐眞美子, 村上正洋, 岩切 致, 奈良慎平, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 付属病院形成外科・美容外科) : ケロイドに対する治療を中断した理由についての検討. 瘢痕・ケロイド 2009 ; 3 : 60-61.



## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 村上正洋：皮膚の外傷：傷痕を残さぬために、残ってしまったら。神奈川県皮膚科医会（第129回），2009. 3.

### (2) 教育講演：

- 1) 土佐眞美子：ケロイドの診断と治療。平成20年度日本形成外科学会春期学術研修会，2008. 4.

### (3) シンポジウム：

- 1) 村上正洋，百束比古<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科）：眉下切開法による老人性上眼瞼皮膚弛緩症の治療。日本美容外科学会（第104回），2009. 1.

### (4) 一般講演：

- 1) Hyakusoku H<sup>1)</sup>，Mizuno H<sup>1)</sup>，Murakani M，Ogaw R<sup>1)</sup>，Ishii N<sup>1)</sup>，Akaishi S<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Department of Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital）：Our definition and classification of the propeller flap method. China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery（18th）（中国西安），2008. 9.
- 2) 土佐眞美子，村上正洋，岩切 致，百束比古<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科）：抗がん剤の術後瘢痕ケロイド発生に対する抑制効果の検討。日本形成外科学会総会学術集会（第51回），2008. 4.
- 3) 土佐眞美子，岩切 致，梅沢裕己，村上正洋，百束比古<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科）：ケロイド術後電子線治療の再発例に関する検討。日本形成外科学会総会学術集会（第51回），2008. 4.
- 4) 村上正洋，百束比古<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科）：牽引筋腱膜縫着術を行った老人性眼瞼内反症の長期結果とその結果から得られた対応策。日本形成外科学会総会学術集会（第51回），2008. 4.
- 5) 小野真平<sup>1)</sup>，百束比古<sup>1)</sup>，陳 貴史<sup>1)</sup>，小川 令<sup>1)</sup>，水野博司<sup>1)</sup>，村上正洋，林 宏光<sup>2)</sup>，高見佳宏<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科，<sup>2)</sup> 付属病院放射線科，<sup>3)</sup> 西部総合病院皮膚科形成外科）：微小血管付加したOccipito-cervico-pectoral (OCP) "Super-thin "flap による下顎部再建。日本形成外科学会総会学術集会（第51回），2008. 4.
- 6) 大木更一郎<sup>1)</sup>，赤石諭史<sup>1)</sup>，小池幸子<sup>1)</sup>，陳 貴史<sup>1)</sup>，小野真平<sup>1)</sup>，村上正洋，百束比古<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科）：プロペラ皮弁法の新たな分類法。日本形成外科学会総会学術集会（第51回），2008. 4.
- 7) 大木更一郎<sup>1)</sup>，村上正洋，小川 令<sup>1)</sup>，百束比古<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科）：熱傷瘢痕拘縮に対する植皮術における3次元ワイヤ-フレーム外固定法の経験。日本熱傷学会総会学術集会（第34回），2008. 6.
- 8) 奈良慎平，土佐眞美子，岩切 致，村上正洋，百束比古<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科）：貼付用局所麻酔剤によるステロイド局所注射の疼痛軽減効果に関する検討。瘢痕・ケロイド治療研究会（第3回），2008. 8.
- 9) 土佐眞美子，岩切 致，奈良慎平，村上正洋，百束比古<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科）：ケロイドに対する治療を中断した理由についての検討。瘢痕・ケロイド研究会（第3回），2008. 8.
- 10) 土佐眞美子，岩切 致，奈良慎平，村上正洋，百束比古<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科）：ケロイド治療の現状とケロイド疫学調査の必要性についての検討。瘢痕・ケロイド治療研究会（第3回），2008. 8.
- 11) 野村好美<sup>1)</sup>，村上正洋，若城由美子<sup>2)</sup>，月岡悦子<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院看護部，<sup>2)</sup> 武蔵小杉病院薬剤部）：BIPAP管理下で生じる顔面褥瘡に対する当院の試み。日本褥瘡学会学術集会（第10回），2008. 9.
- 12) 村上正洋，百束比古<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科）：眉下切開法による上眼瞼皮膚弛緩症の治療。日本医科大学医学会総会（第76回），2008. 9.
- 13) 奈良慎平，土佐眞美子，岩切 致，村上正洋，百束比古<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科）：60%リドカインテープ前処置によるケロイドに対するトリアムシノロンアセトニド局所注射治療の疼痛軽減効果に関する検討。日本医科大学医学会総会（第76回），2008. 9.
- 14) 大木琴美，村上正洋，大木更一郎<sup>1)</sup>，百束比古<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科）：内胸動脈：肋間動脈系穿通枝による前胸壁皮膚血行支配についての血管解剖学的検討。日本形成外科学会基礎学術集会（第17回），2008. 10.

- 15) 土佐眞美子, モハマッドガジザデ<sup>1)</sup>, 枝川聖子<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>, 村上正洋, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 老人病研究所病理部門, <sup>2)</sup> 付属病院形成外科・美容外科) : ケロイド発生におけるIL-17遺伝子の発現解析. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第17回), 2008. 10.
- 16) 村上正洋, 秋元正宇<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院形成外科) : ドッグイヤーの観点からみたくりぬき縫合法について : 有限要素法による解析を用いて. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第17回), 2008. 10.
- 17) 村上正洋, 奈良慎平, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 男性の老人性眼瞼皮膚弛緩症の行った眉下切開法の検討. 横浜形成外科フォーラム (第13回), 2008. 11.
- 18) 土佐眞美子, 村上正洋, 松島 隆<sup>1)</sup>, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 付属病院形成外科・美容外科) : 手術後瘢痕成熟過程の検討と肥厚性瘢痕およびケロイドの発生率に関する臨床研究. 日本創傷治癒学会 (第38回), 2008. 12.
- 19) 土佐眞美子, 村上正洋, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 当科におけるピアスケロイド症例の検討. 日本創傷外科学会 (第1回), 2009. 1.
- 20) 大木更一郎<sup>1)</sup>, 小池幸子<sup>1)</sup>, 村上正洋, 青木 律<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 多発顔面骨折の術後変形と蝶頬骨縫合固定の検討. 日本創傷外科学会 (第1回), 2009. 1.
- 21) 村上正洋, 岩切 致, 野本俊一<sup>1)</sup>, 赤石論史<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 皮弁により再建した若年発症の静脈性下腿潰瘍. 日本フットケア学会学術集会 (第7回), 2009. 2.

## [千葉北総病院形成外科]

### 研究概要

主に皮膚手術シミュレーションの研究, 褥瘡の発生機序コンピュータシミュレーションの研究, ケロイドの進展機序に関するコンピュータシミュレーションの研究, 頭蓋顔面外科領域とくに脳神経外科との境界領域における頭蓋再建術の研究に成果があった. 皮膚手術シミュレーションの研究は, 様々な皮膚形成術をモデル化し, 手術シミュレーションを行うものである. 皮膚形成術により発生する皮膚の進展, 圧縮変形, 応力, ひずみなどを解析しその構造力学的挙動を解明した. 皮弁形成術のデザインは熟練医の経験と勘によることが多かった. これを客観的に示し, 誰にでもできるようにするために, 皮膚形成術の従来法を構造力学的に評価した. 褥瘡発生機序の研究は, 褥瘡モデルを作成し, 様々な力学的条件からその発生機序を解明するものである. これらの結果から, 褥瘡発生予防効果の高いシートの形状を考察した. 今後, 褥瘡発生予防のための新しい器具の開発. 褥瘡再発防止効果の高い新しい手術法の開発等が期待できる. ケロイドの進展機序に関する研究は, ケロイドをモデル化し, 応力集中の状況からその進展機序を解明しようとするものである. 従来のモデルでは説明のできなかつた様々ケロイドの特性について構造力学的に解析した. さらにケロイドの進展予防のためのシリコンシートの作用機序について解明を試みた. 頭蓋顔面外科領域の再建の研究では, 自家組織による再建を中心として, 整容的にも考慮した術式を考案した. とくに肋骨によるフレームを用いることによって効果的に小児の頭蓋を再建することに成功した. また頭蓋骨外板を分節上に切離しさらにこれを皮弁として用いることで形態再建に優れた術式を開発した.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Akaishi S<sup>1)</sup>, Akimoto M, Ogawa R<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup> (1) 付属病院 形成外科・美容外科) : The Relationship Between Keloid Growth Pattern and Stretching Tension : Visual Analysis Using the Finite Element Method. Ann Plast Surg 2008 ; 60 (4) : 445-451.
- 2) Takumi I<sup>1)</sup>, Akimoto M (1) 千葉北総病院 脳神経外科) : Catcher' s mask cranioplasty for extensive cra-

nial defects in children with an open head trauma : a novel application of partial cranioplasty. Childs Nerv Syst 2008 ; 24 (8) : 927-932.

- 3) Takumi I<sup>1)</sup>, Mori O<sup>1)</sup>, Mizutani N<sup>1)</sup>, Akimoto M, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院 脳神経外科, 2) 付属病院 脳神経外科) : Expansile neurenteric cyst arising in the frontal lobe associated with status epilepticus : report of a case and discussion of epileptogenesis. Brain Tumor Pathol 2008 ; 25 (2) : 97-101.
- 4) Takumi I<sup>1)</sup>, Akimoto M (1) 武蔵小杉病院 脳神経外科) : Advantage of Catcher' s mask cranioplasty for post-surgical infectious skin trouble. Childs Nerv Syst 2009 ; 25 (8) : 493-495.
- 5) 宮田美穂, 秋元正宇, 太組一朗<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院 脳神経外科, 2) 付属病院 形成外科) : 眼窩底骨折に対するナビゲーションシステムの使用. 日本シミュレーション外科学会誌 2008 ; 15 (4) : 1-5.
- 6) 秋元正宇 : 切開とアプローチの基本戦略 : 皮膚の基本的切開法 : Z形成術とW形成術. PEPARS 2008 ; 23 (23) : 20-26.
- 7) 赤石諭史, 秋元正宇, 小川 令, 土肥輝之, 百束比古 : シリコンジェルシートの力学的効果の検討. 癩痕・ケロイド治療ジャーナル 2009 ; 3 (1) : 40-44.

## 著 書

- 1) 宮田美穂 : [分担] 顔面外傷, 実践小児外傷学. 実践小児外傷初療学 (益子邦洋), 2008 ; pp90-99, 永井書店.

## 学会発表

### [追加分]

#### 追加分一般講演 :

- 1) 太組一朗<sup>1)</sup>, 秋元正宇, 百束比古<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup> (1) 千葉北総病院 脳神経外科, 2) 付属病院 形成外科, 3) 付属病院 脳神経外科) : リン酸4カルシウムペーストを用いた頭蓋形成. 整容脳神経外科学会 (第1回), 2008. 2.

#### (1) パネルディスカッション :

- 1) 秋元正宇 : 有限要素法による皮膚, 軟部組織のシミュレーションと構造解析 : パソコン上の実験室. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第17回), 2008. 10.

#### (2) セミナー :

- 1) 秋元正宇 : ケロイドの力学. 日本形成外科学会総会学術集会 (第51回), 2008. 4.

#### (3) 一般講演 :

- 1) Akaishi S<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Akimoto M, Hyakusoku H<sup>1)</sup> (1) Dept. of Aesthetic Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School, Fuzoku Hospital) : Visualized finite element analysis of the relationship between keloid growth pattern and stretching tension. The 2nd Scar Meeting (Montpellier), 2008. 9.
- 2) 秋元正宇, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 付属病院 形成外科・美容外科) : 癩痕拘縮形成術の有限要素法による評価の試み. 日本形成外科学会総会学術集会 (第51回), 2008. 4.
- 3) 土肥輝之, 赤石諭史, 秋元正宇, 百束比古 : ケロイド・肥厚性癩痕に対するシリコンジェルシートの力学的効果の検討. 日本外科系連合学会 (第33回), 2008. 6.
- 4) 太組一朗, 秋元正宇, 寺本 明, 百束比古 : 開頭手術後の自家骨吸収とCPC on-lay grafting. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第26回), 2008. 8.
- 5) 赤石諭史<sup>1)</sup>, 秋元正宇, 土肥輝之<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 付属病院 形成外科・美容外科) : シリコンジェルシートの力学的効果の検討. 癩痕・ケロイド治療研究会 (第3回), 2008. 8.
- 6) 秋元正宇 : 仙骨部CTをトレースした褥瘡発生モデルによる有限要素シミュレーション. 日本シミュレーシ

ン外科学会（第18回），2008. 10.

- 7) 赤石論史，秋元正宇：力学的に理想的なシリコンジェルシートの検討．日本シミュレーション外科学会（第18回），2008. 10.
- 8) 宮田美穂，秋元正宇，百束比古：鼻骨骨折整復の工夫．日本救急医学会総会・学術集会（第36回），2008. 10.
- 9) 太組一朗<sup>1)</sup>，秋元正宇，小林士郎<sup>1)</sup>，百束比古<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> 千葉北総病院 脳神経外科，<sup>2)</sup> 付属病院 形成外科，<sup>3)</sup> 付属病院 脳神経外科）：頭蓋骨欠損におけるリン酸カルシウムペーストの適応拡大：Indication of calcium phosphate paste in the large cranial defect. 日本脳神経外科学会学術総会（第67回），2008. 10.
- 10) 太組一朗<sup>1)</sup>，秋元正宇，高橋 弘<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 付属病院脳神経外科）：小児巨大骨欠損における自家骨移植；Catcher' s mask cranioplasty. 京浜脳神経外科懇話会，2008. 12.

## 20. 付属病院付置施設等

### [付属病院遺伝診療科]

#### 研究概要

遺伝子医療部門が大学病院を中心に全国的に立ち上がる新しい時代の遺伝子医学に対応するため、日本医科大学付属病院では平成15年5月から独立した遺伝診療科として外来診療を行っている。平成16年には、私立大学として初めて臨床遺伝専門医研修施設として認定され、現在も学内外から研修医が集まっている。

遺伝診療外来は臨床遺伝専門医、看護師のチームで担当している。新患者数は平成21年3月までに先天性代謝異常症、家族性腫瘍、染色体異常症など多彩な分野にわたるのべ270件となり、年々来談者数は増加している。個々の症例の診療方針や倫理的問題点は、外来担当者以外に、臨床医、研究者、臨床心理士などが参加する月1回定例の遺伝診療カンファレンスで検討されている。外来ではこれらの議論も参考に遺伝子研究も含めた最先端の医学的進歩について情報提供を行うとともに、患者さん本人の状況に最大限配慮した遺伝カウンセリングを行っている。遺伝子検査はハイテクリサーチセンターと共同で低ホスファターゼ症、血管型Ehlers-Danlos症候群、異染性白質ジストロフィーをはじめライソゾーム病などについて遺伝子診断法を独自に確立し、他施設からの依頼にも応じている。特に、高度の倫理的な検討が必要な出生前遺伝子診断は倫理委員会との連携をとり施行した。

遺伝診療は、新しい医学領域であるが、既に厚生労働省から臨床遺伝専門医の標榜が認められている。本学では基礎医学研究者、臨床医、看護師が密接に連携して、遺伝と遺伝病にたいする様々な問題を解決できる独自の遺伝診療体制を確立している。また、平成20年4月に渡邊淳を大会長として第31回日本小児遺伝学会学術集会を開催し盛会を得た。このことは、日本医大遺伝診療科が対外的にも周知されてきた成果と考え、今後も我が国の遺伝医療の一角を担うと共に、日本医大を代表する診療科として発展させていきたい。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 三宅秀彦, 高屋 茜<sup>1)</sup>, 菊池美美<sup>1)</sup>, 印出佑介<sup>1)</sup>, 中川道子<sup>1)</sup>, 三浦直美<sup>1)</sup>, 五十嵐美和<sup>1)</sup>, 鈴木俊治<sup>1)</sup>, 島義雄<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>(1)</sup> 葛飾赤十字産院)：地域周産期施設における生殖補助医療 (ART) の周産期予後への影響。日本遺伝カウンセリング学会誌 2009；29 (2)：49-55.

##### (2) 総説：

- 1) Watanabe A, Shimada T：Vascular type of Ehlers-Danlos syndrome. J Nippon Med Sch 2008；75 (5)：254-261.
- 2) 三宅秀彦：妊娠・出産時の支援 先天異常児の出生が予想される妊婦への支援。周産期医学 2009；39 (2)：161-165.

##### (3) 症例報告：

- 1) Okamoto O<sup>1)</sup>, Ando T<sup>1)</sup>, Watanabe A, Sato F<sup>1)</sup>, Mimata H<sup>1)</sup>, Shimada T, Fujiwara S<sup>1)</sup> (大分大学医学部)：A novel point mutation in type III collagen gene resulting in exon 24 skipping in a case of vascular type Ehlers-Danlos syndrome. Arch Dermatol Res 2008；300 (9)：525-529.

##### 著書

- 1) 渡邊 淳：〔分担〕Ehlers-Danlos 症候群。小児科学第3版 (大関武彦, 近藤直美), 2008；pp401-403, 医学書院。
- 2) 渡邊 淳：〔分担〕骨形成不全症。小児科学第3版 (大関武彦, 近藤直美), 2008；pp420-422, 医学書院。



## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) Watanabe A, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Banyar T<sup>1)</sup>, Oue Y<sup>1)</sup>, Kondo H<sup>1)</sup>, Orimo H<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> 生化学・分子生物学 (分子遺伝学・栄養学)：A mutation analysis for lysosomal diseases using a high resolution melting curve analysis (hrMCA). American College of Medical Genetics, Annual Clinical Genetics Meeting (16th) (ampa, FL, USA), 2009. 3.
- 2) 菅野華子<sup>1)</sup>, 渡辺 淳, 渡辺裕子, 桑原健太郎<sup>1)</sup>, 熊坂 栄<sup>2)</sup>, 島 義雄<sup>2)</sup>, 島田 隆, 福永慶隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院小児科, <sup>2)</sup> 葛飾赤十字産院新生児科)：Multiplex ligation-dependent probe amplification (MLPA) 法が診断に有用であった由来不明の染色体異常症の1例. 第31回日本小児遺伝学会学術集会 (東京), 2008. 4.
- 3) 山本基子<sup>1)</sup>, 渡邊 淳, 小坂 仁<sup>2)</sup>, 山下純正<sup>2)</sup>, 右田 真<sup>3)</sup>, 島田 隆 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学大学生化学・分子生物学, <sup>2)</sup> 神奈川県立こども医療センター神経内科, <sup>3)</sup> 日本医科大学小児科)：同一アレルに複数の遺伝子変異を有した異染性白質ジストロフィーの1男児例. 第31回日本小児遺伝学会学術集会 (東京), 2008. 4.
- 4) 右田 真<sup>1)</sup>, 渡辺 淳, 守田利貞<sup>2)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学小児科, <sup>2)</sup> 静岡医療センター小児科)：股関節痛を呈した成人ゴーシェ病の1症例. 第31回日本小児遺伝学会学術集会 (東京), 2008. 4.
- 5) 浅野ありさ<sup>1)</sup>, 渡邊 淳, 菅野華子<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>, 福永慶隆 ( <sup>1)</sup> 小児科学)：日本医科大学付属病院における遺伝カウンセリング. 第111回日本小児科学会学術集会 (東京), 2008. 4.
- 6) 三宅秀彦, 高屋 茜<sup>1)</sup>, 菊池美美<sup>1)</sup>, 印出佑介<sup>1)</sup>, 中川道子<sup>1)</sup>, 三浦直美<sup>1)</sup>, 五十嵐美和<sup>1)</sup>, 鈴木俊治<sup>1)</sup>, 島義雄<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 葛飾赤十字産院)：地域周産期施設における生殖補助医療 (ART) の影響. 第32回日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (仙台), 2008. 5.
- 7) 渡邊 淳, 渡辺 哲<sup>1)</sup>, 渡辺裕子, 鈴木由美, 小泉信達<sup>2)</sup>, 籠持 淳<sup>3)</sup>, 第8回東京びまん性肺疾患研究会, 島田 隆 ( <sup>1)</sup> 千葉大学附属病院感染症管理治療部, <sup>2)</sup> 東京医科大学血管外科, <sup>3)</sup> 獨協医科大学皮膚科学)：血管型 Ehlers-Danlos 症候群における新たな課題 呼吸器病変から診断された場合の対応について. 第32回日本遺伝カウンセリング学会 (仙台), 2008. 5.
- 8) 渡邊 哲, 河端美則, 酒井文和, 福田 悠, 叶内 哲, 青島正大, 岡 輝明, 山口昭三郎, 白木 晶, 中野恭幸, 旗持 淳, 河村哲治, 内山隆司, 富島 裕, 志熊 啓, その他5名：血管型 Ehlers-Danlos 症候群の肺病変の検討 病理学的疑診例を含めた16例の解析. 第48回日本呼吸器学会学術講演会 (神戸), 2008. 6.
- 9) 渡邊 淳, Banyar Naing Tang<sup>1)</sup>, 和田敬仁<sup>2)</sup>, 古庄知己<sup>2)</sup>, 福嶋義光<sup>2)</sup>, 島田 隆 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学大学生化学・分子生物学, <sup>2)</sup> 信州大学付属病院 遺伝子診療部)：血管型 Ehlers-Danlos 症候群 (EDSIV) に対する遺伝子治療の可能性. 第15回日本遺伝子診療学会 (仙台), 2008. 7.
- 10) 鈴木由美<sup>1)</sup>, 本間郁恵<sup>1)</sup>, 里見操緒<sup>2)</sup>, 菅野華子<sup>3)</sup>, 渡邊 淳<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 看護部, <sup>2)</sup> 産科・女性診療科, <sup>3)</sup> 小児科, <sup>4)</sup> 日本医科大学分子遺伝医学)：妊娠中に18トリソミーが判明した患児・家族への看護の1例第1報：診断確定から出産までの看護：その人らしい意思決定の支援とは？. 日本遺伝看護学会 (第7回), 2008. 9.
- 11) 垣内麻由美<sup>1)</sup>, 柿沼範子<sup>1)</sup>, 鈴木由美<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 看護部)：妊娠中に18トリソミーが判明した患児・家族への看護の1例第2報：出生後の看護：患児と家族の絆を強くする看護とは？. 日本遺伝看護学会 (第7回), 2008. 9.
- 12) 山本基子<sup>1)</sup>, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, Banyar Than Naing<sup>1)</sup>, 近藤仁美<sup>1)</sup>, 折茂英生<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学大学生化学・分子生物学 (分子遺伝学・栄養学)：高解像度融解曲線分析法 (HRM法) を利用したリソソーム病の遺伝子診断. 第13回日本ライソソーム病研究会 (東京), 2008. 11.

## [付属病院集中治療室]

### 研究概要

終末期医療をメインテーマとして第17回日本集中治療医学会関東甲信越地方会を主催した。また2011年には第38回日本集中治療医学会総会を担当することになり、準備委員会を設立した。日本循環器学会の循環器病の診断と治療に関するガイドライン「急性心筋梗塞（ST上昇型）の診断と治療に関するガイドライン」に班員として参加し、これを作成した。日本循環器学会救急医療制度小委員会に参加し、全国アンケート調査を行った。日本循環器学会班研究「循環器領域における末期医療へのガイドライン」および「肺血栓塞栓症予防のためのガイドライン改訂のための班研究」の班員として参加しガイドライン作りをすすめている。アスピリンレジスタンスの実態調査（ProGAR）の登録、デクスメトミジン多施設共同長期投与試験が終了し、解析が始まった。トロンビン受容体拮抗薬（E5555）の臨床第Ⅱ相試験、ネシリチド前期第Ⅱ相試験および塩酸ニフェカラン多施設前向き観察試験が完了し、ネシリチドは後期第Ⅲ相試験、ニフェカランは日本循環器学会総会で発表され、現在論文化が進められている。新たに体外設置式血液ポンプシステム（MJ010）の多施設共同一般臨床試験が開始の予定である。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Yoshida Y, Takeda S, Akada S, Hongo T, Tanaka K, Sakamoto A : Factors predicting successful noninvasive ventilation in acute lung injury. *J Anesth* 2008 ; 22 (3) : 201-206.
- 2) Kato K, Sato N, Yamamoto T, Iwasaki Y, Tanaka K, Mizuno K : Valuable markers for Contrast-Induced Nephropathy in patients undergoing cardiac catheterization. *Circulation Journal* 2008 ; 72 (9) : 1499-1505.
- 3) Kitada S, Akutsu K, Tamori Y, Yoshimuta T, Hashimoto H, Takeshita S : Usefulness of fibrinogen/fibrin degradation product (FDP) to predict poor 1-Year outcome of medically treated patients with acute type B aortic dissection. *Am J Cardiol* 2008 ; 101 (9) : 1341-1344.
- 4) Kamiya C, Sakamoto S, Tamori Y, Yoshimuta T, Higashi M, Tanaka R, Akutsu K, Takeshita S : Long-term outcome after percutaneous peripheral Intervention vs medical treatment for patients with superficial femoral artery occlusive disease. *Circ J* 2008 ; 72 (5) : 734-739.
- 5) Takeshita S, Sakamoto S, Kitada S, Akutsu K, Hashimoto H : Angiotensin-Converting Enzyme Inhibitors Reduce Long-Term Aortic Events in Patients with Acute Type B Aortic Dissection. *Circulation J* 2008 ; 72 (11) : 1758-1761.
- 6) Akada S, Takeda S, Yoshida Y, Nakazato K, Mori M, Hongo T, Tanaka K, Sakamoto A : Efficacy of dexmedetomidine in patients with non-invasive ventilation : a preliminary study. *Anesth Analg* 2008 ; (107) : 167-170.
- 7) Sakamoto S, Yokoyama N, Tamori Y, Akutsu K, Hashimoto H, Takeshita S : Patients with peripheral artery disease who complete 12-week supervised exercise training program show reduced cardiovascular mortality and morbidity. *Circulation J* 2009 ; 73 (1) : 167-173.
- 8) Kato K, Sato N, Yamamoto T, Iwasaki Y, Tanaka K, Mizuno K : Valuable markers for contrast-induced nephropathy in patients undergoing cardiac catheterization. *Circ J* 2009 ; (72) : 106-110.
- 9) Yamamoto T, Murai K, Tokita Y, Kato K, Iwasaki Y, Sato N, Tajima H, Mizuno K, Tanaka K : Thrombolysis With a Novel Modified Tissue-Type Plasminogen Activator, Montelase, Combined With Catheter-Based Treatment for Major Pulmonary Embolism. *Circ J* 2009 ; (73) : 106-110.
- 10) Suzuki H, Geshi E, Nanjo S, Nakano H, Yamazaki J, Sato N, Tanaka K, Takano T, Yagi H, Shibata T,

Mochizuki S, Katagiri T : Inhibitory effect of valsartan against progression of left ventricular dysfunction after myocardial infarction. Circ J 2009 ; (73) : 918-924.

- 11) 鈴木 学, 放生雅章, 小林信之, 篠原有香, 高崎 仁, 吉澤篤人, 杉山温人, 工藤宏一郎, 豊田恵美子: 当センターにおける外国人結核症患者の臨床的特徴の変遷: 8年前との比較ならびに今後の対策に向けて. 結核 2008 ; 83 (10).
- 12) 佐藤直樹, 田中啓治, 神島 宏, 公文啓二, 上嶋健治, 坪井英之, 中尾浩一, 林田憲明, 三嶋正芳, 宮崎俊一, 吉野秀朗, 山科 章<sup>1)</sup> 集中治療医学会,<sup>2)</sup> CCU委員会): 急性心筋梗塞に関する全国データネットワークの構築の意義. 日集中医誌 2008 ; (15) : 503-508.
- 13) 佐藤直樹, 田中啓治, 山科 章: 急性心筋梗塞に関する全国データネットワーク構築の重要性. ICUとCCU 2008 ; (32) : 862-865.

(2) 総説:

- 1) 山本 剛: 重症病態と輸血ヘモグロビンはどのレベルに保つべきか, CCUにおける至適ヘモグロビン値. 体液・代謝管理 2007 ; 23 (1) : 49-53.
- 2) 山本 剛<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup> (1) 第一内科学): 肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症(静脈血栓塞栓症) 予防ガイドライン. 侵襲と免疫 2008 ; 2007 (17 (1)) : 31-33.
- 3) 福井めぐみ, 山本 剛, 中田 淳, 吉川雅智, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 田中啓治, 川嶋修司, 高野仁司, 高山守正, 水野杏一, 中澤 賢, 田島廣之: 蛋白同化ステロイドが発症に関連した急性心筋梗塞と肺塞栓症の合併例. Ther Res 2008 ; 2008 (29 (5)) : 695-697.
- 4) 戸澤友美, 山本 剛: 心房粗動とは, どんな心電図なの? (モニター心電図Q&A: 読み方と緊急ケアのすべて; 今村浩, 岡元和文編). ナーシングケアQ&A 2008 ; (22).
- 5) 竹田晋浩: 急性肺傷害 (ALI/ARDS) の呼吸管理: 急性肺傷害のup-to-date. 侵襲と免疫 2008 ; 17 (2) : 19-22.
- 6) 山本 剛<sup>1)</sup> (1) 第一内科): 血栓溶解療法 (特集: 周術期の血栓症). 血栓と循環 2008 ; 2008 (16 (3)) : 237-241.
- 7) 竹田晋浩: 心不全に挑む: 急性心不全患者におけるNPPVのエビデンス. LiSA 2008 ; 11 (15) : 1076-1081.
- 8) 時田祐吉, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 第一内科): 虚血性心疾患—最近の進歩 虚血性心疾患の病型. 診断と治療 2008 ; 96 (10) : 18-24.
- 9) 坂本慎吾, 坪 宏一<sup>1)</sup> (1) 国立循環器病センター): 血管疾患の診断とモダリティー 大動脈/MR. Vascular Labo Vol 6, 2008増刊号 2008 ; 115-121.
- 10) 坪 宏一<sup>1)</sup> (1) 国立循環器病センター): 心血管マルチバイオマーカー: 急性大動脈解離, 大動脈瘤に関するバイオマーカー. 医学のあゆみ 2008 ; 224 (5) : 326-328.
- 11) 坪 宏一<sup>1)</sup> (1) 千葉北総ICU): 注意すべき心血管疾患: 大動脈解離. 日本医師会雑誌 特別号 (1) 心血管疾患診療のエクセレンス 2008 ; (137) : 162-164.
- 12) 佐藤直樹: 循環器の3大疾患をスピード理解: 不整脈・急性心筋梗塞・心不全の治療とケア: 心不全の診断・検査・治療. HEART nursing 2008 ; 21 (11) : 51-55.
- 13) 佐藤直樹: 心不全の薬物療法Q&A: 心不全における血管拡張薬の使い方について教えてください. 薬局 2008 ; 43-47.
- 14) 佐藤直樹: 急性心不全における血管拡張薬の使い分け - ニコランジル注の活かし方. Ther Res 2008 ; (29) : 1683-1691.
- 15) 佐藤直樹: 心不全に挑む 慢性心不全の重症度をどのようにとらえるのか. LISA 2008 ; (15) : 1064-1068.
- 16) 佐藤直樹: 急性心不全の初期対応: まず, 最初に何をすべきか? 救急蘇生が必要な患者に対する初期対応 (蘇生処置をしながらの診断). CIRCULATION Up-to-Date 8 2008 ; (増刊) : 20-25.

- 17) 佐藤直樹, 高野照夫: 心不全 大規模臨床試験 「急性心不全」. 日本臨床66 2008 ; (増刊号8) : 218-226.
- 18) 佐藤直樹, 清野精彦: 特集 腎障害と心疾患: 心腎相関を識る: 14 「心不全での急性腎不全の管理」. Heart View 2008 ; (12) : 81-85.
- 19) 佐藤直樹: 特集 呼吸困難からみた呼吸器・循環器疾患 循環器疾患の呼吸困難の機序. 呼吸と循環 2008 ; (56) : 37-40.
- 20) 上野 亮, 加藤貴雄<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 危険な不整脈の予防と治療 洞不全症候群と心ブロックの治療. ICUとCCU 2009 ; 33 (1).
- 21) 坪 宏一<sup>1)</sup> (1) 国立循環器病センター): 大動脈解離: 内科から 救急と血管検査, 迅速な診断と治療に役立てる. Vascular Labo 2009 ; 6 ((増刊号)) : 63-67.
- 22) 東 将浩, 堀 祐郎, 中澤哲郎, 神崎 歩, 福田哲也, 山田直明, 魚谷健祐, 木曾啓祐, 内藤博昭, 坪 宏一<sup>1)</sup> (1) 国立循環器病センター): 胸部の最新画像情報2009, 診療 Dual source CTを用いた冠動脈CTA. 臨床放射線 2009 ; 54 (1) : 163-169.

### (3) 症例報告:

- 1) Sakamoto S, Akutsu K, Kawase K, Takada T, Seyama H, Takahashi J, Miyamoto S, Nonogi H, Takeshita S : Simultaneous presentations of deep vein thrombosis and cerebral sinus thrombosis in a case of primary antiphospholipid syndrome. Angiology 2008 ; 59 (6) : 765-768.
- 2) Takigawa M, Akutsu K, Kasai S, Tamori Y, Yoshimuta T, Higashi M, Takeshita S : Angiographic documentation of aortoiliac occlusion in Leriche' s syndrome. Can J Cardiol 2008 ; 24 (7) : 568.
- 3) Yoshimuta T, Akutsu K, Okajima T, Tamori Y, Kubota Y, Takeshita S : Images in cardiovascular medicine. String of beads appearance of bilateral brachial artery in fibromuscular dysplasia. Circulation 2008 ; 117 (19) : 2542-2543.
- 4) Okajima T, Wada T, Akutsu K, Yoshimuta T, Sakamoto S, Tamori Y, Tanaka H, Higashi M, Takeshita S : Giant aortic root aneurysm after valve replacement. Can J Cardiol 2008 ; 24 (12) : 109.
- 1) Nakazawa K<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup>, Murata S<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>2)</sup>, Tanaka K<sup>2)</sup> (1) Department of Radiology, 2) Department of Internal Medicine (Divisions of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Catheter fragmentation of acute massive pulmonary thromboembolism : distal embolisation and pulmonary arterial pressure elevation. Br J Radiol 2008 ; 81 (971) : 848-854.
- 2) Yamamoto T, Takayama M, Sato N, Yodogawa K, Iwasaki Y, Kato K, Yoshida A, Yoshida R, Tanaka K, Takano T, Mizuno K (1) Department of Internal Medicine (Divisions of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), 2) Department of Emergency and Critical Care Medicine) : Inappropriate analyses of automated external defibrillators used during in-hospital ventricular fibrillation. Circ J 2008 ; 72 (4) : 679-681.
- 3) Yamamoto T, Murai K, Tokita Y, Kato K, Iwasaki Y, Sato N, Tajima H, Mizuno K, Tanaka K (1) Department of Internal Medicine (Divisions of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Thrombolysis with a novel modified tissue-type plasminogen activator, monteplase, combined with catheter-based treatment for major pulmonary embolism. Circ J 2009 ; 73 (4) : 116-110.

### 著 書

- 1) 竹田晋浩: [分担] 人工呼吸中の鎮静は是か非か. 人工呼吸良法における30の謎 (安本和正, 小谷 透), 2008 ; pp138-144, 克誠堂出版.
- 2) 竹田晋浩: [分担] ARDSの経過と予後. ARDS診療ノウハウ (編集石坂彰敏), 2008 ; pp114-123, 診断と治療社.

- 3) 竹田晋浩：〔分担〕外科手術後ARDS. ARDS診療ノウハウ（編集石坂彰敏），2008；pp151-157，診断と治療社.
- 4) 竹田晋浩：〔分担〕心筋梗塞による急性肺水腫の呼吸管理. エキスパートの呼吸管理（編集岡元和文），2008；pp291-295，中外医学社.
- 5) 佐藤直樹：A. 急性冠症候群 1. 臨床症状から心電図所見，血清マーカーを含め，どのような組み合わせを用いると精度の高い急性心筋梗塞の診断ができるか？. EBM循環器疾患の治療 2008-2009（三田村秀雄，山科章，川名正敏，桑島 巖 編）中外医学社，2008.
- 6) 佐藤直樹：A. 急性冠症候群 2. 急性期のリスク層別化は？. EBM循環器疾患の治療 2008-2009（三田村秀雄，山科章，川名正敏，桑島 巖 編）中外医学社，2008.
- 7) 竹田晋浩：〔分担〕肺循環の異常，心原性肺水腫. 呼吸器症候群，第2版（監修 工藤翔二），2009；pp21-217，日本臨床社，大阪市.
- 8) 竹田晋浩：〔分担〕麻酔科医と救急医療. 麻酔科学レビュー2009：最新主要文献集（監修：天羽啓介），2009；pp208-211，総合医学社.
- 9) 竹田晋浩：〔分担〕麻酔科医と救急医療. 麻酔科学レビュー2009：最新主要文献集（監修：天羽啓介），2009；pp208-211，総合医学社.
- 10) 竹田晋浩：〔分担〕集中治療CCU. 経静脈治療オーダーマニュアル'09（和田孝雄，小川 龍，林田憲明，島崎修次，飯野靖彦 編），2009；pp437-440，メディカルレビュー社.
- 11) 环 宏一<sup>(1)</sup> 千葉北総ICU：急性大動脈解離：症例から判断できる 迷わない循環器治療薬の使い方. 羊土社 池田隆徳編，2009；pp334-342.
- 12) 环 宏一<sup>(1)</sup> 千葉北総ICU：大動脈瘤：症例から判断できる 迷わない循環器治療薬の使い方. 羊土社 池田隆徳編，2009；pp343-347.

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) 佐藤直樹：心不全急性期治療と臓器保護 急性心不全治療のピットホール. 第21回日本冠疾患学会学術集会，2007. 12.
- 2) 佐藤直樹：急性循環不全における血管拡張薬の使い分け. 急性循環不全における血管拡張薬の使い分け，2008. 6.
- 3) 坪光祥晃，竹田晋浩，本郷 卓，三井誠司，田中啓治，坂本篤裕：シンポジウム急性肺傷害（ALI）に対する非侵襲的陽圧換気（NPPV）. 外科手術後. 第30回日本呼吸療法医学会学術総会，2008. 7.
- 4) 竹田晋浩：シンポジウム急性肺傷害（ALI）に対する非侵襲的陽圧換気（NPPV）. 最近の研究の紹介：ALIにたいするNPPV療法の現状を探る. 第30回日本呼吸療法医学会学術総会，2008. 7.

### (2) パネルディスカッション：

- 1) 時田祐吉，山本 剛，中田 淳，吉田明日香，村井綱兄，上野 亮，加藤浩司，岩崎雄樹，八島正明，佐藤直樹，田中啓治，水野杏一<sup>(1)</sup>（<sup>(1)</sup> 第一内科）：NT-proBNPは急性心不全の診断，初期治療の選択に有用なバイオマーカーである. 心臓病学会，2008. 9.

### (3) セミナー：

- 1) Sato N, Mizuno K：Therapeutic strategies and clinical outcomes in ST-elevation myocardial infarction：East versus West. Therapeutic strategies for ST-elevation myocardial infarction in Japan. European society of cardiology Congress，2008. 8.
- 2) 時田祐吉：ERにおけるNT-proBNP測定の意義. 集中治療学会地方会 ランチョンセミナー，2008. 8.
- 3) 竹田晋浩：ALI/ARDS. Open lung approachを成功させるために. Open lung toolとneurallyadjusted ventila-



- tory assist (NAVA). 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.
- 4) 竹田晋浩: Noninvasive ventilation. 急性心原性肺水腫のエビデンス. 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.
- (4) 一般講演:
- 1) Sato N: Updated strategy for treatment of acute heart failure - Importance of renoprotection. Asia Pacific Heart Rhythm Management Fellowship Program 2008 2nd fellows symposium of HF and AF Directed by Brugada P, Ohe T, and Lau CP, 2008. 6.
  - 2) Yamamoto T, Obayashi T, Tanabe Y, Yagi H, Nagao K, Sato N, Takayama M <sup>(1)</sup> Tokyo CCU Network Scientific Committee, <sup>(2)</sup> Intensive and Cardiac Care Unit): The Latest Clinical Outcomes of Massive Pulmonary Embolism in the Tokyo CCU Network. 第73回日本循環器学会学術集会 (ポスター (大阪), 2009. 3.
  - 3) Akutsu K, Morisaki H, Takeshita S, Okajima T, Yoshimuta T, Tsusumi Y, Nonogi H, Ogino H, Higashi M, Morisaki T: New Genetic Disorders in the Patients with Aortic Disease. 第73回日本循環器学会総会 (ポスター) (大阪), 2009. 3.
  - 4) Akutsu K, Tohbaru T, Koyama N, Tanaka K, Nagao K, Sato N, Takayama M: The characteristics of thrombosed type Acute Aortic Dissections compared with patent type: Analysis of 223 type B aortic dissection. 第73回日本循環器学会総会 (口述) (大阪), 2009. 3.
  - 5) Ueno A, Takayama M, Yamamoto E, Takahashi Y, Takagi G, Yamamoto T, Takano H, Miyauchi Y, Asai K, Satoh N, Yasutake M, Kobayashi Y, Tanaka K, Mizuno K <sup>(1)</sup> Intensive Care Unit, Nippon Medical School, Tokyo, <sup>(2)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Sakakibara Heart Insutitute, Fuchu, <sup>(3)</sup> Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine), Nippon Medical School, Tokyo): The incidence of perioperative complete atrioventricular block associated with percutaneous transluminal septal myocardial ablation and the indication of permanent pacemaker. 第73回日本循環器学会学術集会, 2009. 3.
  - 6) Takayama M, Sato N, Sakurada H, Shimizu Y, Shibata T, Sumiyoshi T, Nagao K, Nishi Y, Yamashina A, Yoshino H, Takano T: Current state of emergency cardiovascular care requiring CCU admission in Tokyo metrpolitan distinct: From Tokyo CCU Network annual surveyCirc J 73 (suppl): 203, 2009. The 73th annual scientific meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.
  - 7) Sakai T, Yoshikawa T, Takagi A, Harada K, Miyamoto T, Sato N, Nagao K, Takayama M: In hospital outcome in patients with acute heart failure in Japan: Analysis using database of Tokyo CCU NetworkCirc J 73 (suppl): 207, 2009. The 73th annual scientific meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.
  - 8) Tachibana E, Nagao K, Yamada K, Kikushima K, Takayama T, Sato N, Takayama M: Emergency cardiovascular care for patients with cardiac arrest or cardiogenic shock complicating acute myocardial infarction (AMI) in Tokyo CCU NetworkCirc J 73 (suppl): 313, 2009. The 73th annual scientific meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.
  - 9) Harada K, Sakai T, Yoshikawa T, Takagi A, Miyamoto T, Nagao K, Sato N, Takayama M: In-emergency-room characteristics of heart failure caused by hypertensive heart disease. The 73th annual scientific meeting of the Japanese Circulation SocietyCirc J 73 (suppl): 512, 2009. The 73th annual scientific meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.
  - 10) Ishikawa M, Sato N, Yamamoto T, Kato K, Tokita Y, Ueno A, Munakata R, Murai K, Kawanaka H, Tanaka K, Mizuno K: Importance of systolic blood pressure in acute heart failure syndromes - Relationship between Forrester's classification and clinical scenarios - Circ J 73 (suppl): 564, 2009. The 73th annual scientific meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.

- 11) Shindo N, Takagi A, Sakakibara M, Miyauchi K, Itoh S, Shimizu S, Nagao K, Sato N, Takayama M : Clinical background and outcome of the patients with acute myocardial infarction requiring cardiac assist device in Tokyo CCU Network Circ J 73 (suppl) : 572, 2009. The 73th annual scientific meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.
- 12) Minami Y, Nagashima M, Kajimoto K, Mizuno M, Murai K, Munakata R, Asai K, Sato N, Hagiwara N, Kasanuki H, Tanaka K, Mizuno K, Takano T : Day and time of admission, clinical characteristics, and outcome in acute heart failure syndromes : A report from the ATTEND registry Circ J 73 (suppl) : 628, 2009. The 73th annual scientific meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.
- 13) 山本 剛, 村井綱児, 時田祐吉, 上野 亮, 加藤浩司, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 田中啓治, 水野杏一<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 第一内科, <sup>2)</sup> 放射線科) : 高リスク急性肺塞栓症へのモンテプラーゼおよび一時型下大静脈フィルター導入後の治療成績. 第105回日本内科学会総会 (ポスター),
- 14) 豊田将大, 村井綱児, 吉田明日香, 高久多希朗, 中田 淳, 時田祐吉, 加藤浩司, 岩崎雄樹, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 牛島明子<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院第一内科) : Basedow 病治療直後に劇症型心筋炎発症し, 救命し得た1例. 第208回日本循環器学会関東甲信越地方会 (口述),
- 15) 角田美佐子, 加藤浩司, 上野 亮, 行徳興基, 早川朋宏, 岩崎雄樹, 山本 剛, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 田中啓治 (<sup>1)</sup> 第一内科) : 高齢者重症肺炎に伴う右側無気肺に対してRTXレスピレーターを用いた片側性陽陰圧体外式人工呼吸が有効であった1例. 第24回 日本医工学治療学会総会 (幕張メッセ国際会議場), 2008. 4.
- 16) 鈴木 学, 小林信之, 高崎 仁, 吉澤篤人, 放生雅章, 杉山温人, 工藤宏一郎, 森野英里子, 豊田恵美子 : 当センターにおける在日外国人の多剤耐性結核. 第83回日本結核病学会総会 (ポスター), 2008. 4.
- 17) 坏 宏一 (<sup>1)</sup> 千葉北総ICU) : 急性大動脈解離, その診断のコツと内科治療の注意点. 第24回日光カンファレンス (宇都宮), 2008. 6.
- 18) 鈴木 学, 放生雅章, 平野 聡, 泉 信有, 吉澤篤人, 杉山温人, 小林信之, 工藤宏一郎 : 当院における Wegener 肉芽腫の10例の検討. 第21回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2008. 6.
- 19) 鈴木 学, 吉澤篤人, 市村康典, 花田三郎, 米嶋康臣, 森田あかね, 高崎 仁, 仲 剛, 泉 信有, 平野聡, 竹田雄一郎, 放生雅章, 杉山今人, 小林信之, 工藤宏一郎 : 当院における yellow nail syndrome 4例の検討. 第48回日本呼吸器学会学術講演会 (ポスター), 2008. 6.
- 20) 山本 剛, 加藤浩司, 時田祐吉, 佐藤直樹, 田中啓治, 高木 元, 高野仁司, 浅井邦也, 安武正弘, 水野杏一 (<sup>1)</sup> 第一内科) : ACSに対する血管内治療 : BMSが一選択である (コントロールバシー 急性冠症候群に対する血管内治療 : DES vs BMS). 第14回日本血管内治療学会総会 (口演), 2008. 7.
- 21) 上野 亮, 村井綱児, 時田祐吉, 加藤浩司, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 三井誠司, 本郷 卓, 竹田晋浩, 岩崎雄樹, 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一 (<sup>1)</sup> 日本医科大学 麻酔科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 内科学講座 循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 集中治療室における冠動脈バイパス術後に合併する発作性心房細動に対するニフェカランの有用性. 第7回ニフェカラン研究会 , 2008. 7.
- 22) 鈴木大悟, 加藤浩司, 上野 亮, 時田祐吉, 宗像 亮, 村井綱児, 鶴見昌史, 榎戸 馨, 川中秀和, 山本 剛, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 田中啓治 (<sup>1)</sup> 第一内科) : 高齢者喀痰喀出困難に伴う無気肺に対してRTXレスピレーターを用いた片側性陽陰圧体外式人工呼吸が有効であった2症例. 第17回 日本集中治療学会関東甲信越地方会, 2008. 8.
- 23) 坏 宏一, 森崎裕子, 森崎隆幸, 荻野 均, 東 将浩, 植田初枝, 坂本伸吾, 田守唯一, 岡島年也, 吉牟田剛, 野々木宏, 竹下 聡 (<sup>1)</sup> 国立循環器病センター) : マルフアン症候群患者における遺伝子検査の臨床的意義の検討 (シンポジウム). 第56回日本心臓病学会学術集会 (東京), 2008. 9.
- 24) 佐藤直樹, 山形 強, 矢尾幸三, 日下英昭, 田中啓治, 水野杏一 : ナトリウム利尿薬ペプチドの利尿効果をドパミンは増強するか? J Cardiol 2008 ; 2 suppl : 529. 第56回日本心臓病学会学術集会 , 2008. 9.

- 25) 佐藤直樹：急性心不全の薬剤併用療法を考える．第56回日本心臓病学会学術集会，2008．9．
- 26) 時田祐吉，山本 剛，佐藤直樹，田中啓治<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 第一内科)：NT-proBNPはERにおける急性心不全の診断，初期治療の選択に有用なバイオマーカーである．救急医学会，2008．10．
- 27) 山本 剛，宗像 亮，村井綱児，上野 亮，時田祐吉，加藤浩司，佐藤直樹，田中啓治，水野杏一<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 第一内科，<sup>2)</sup> 放射線科)：血栓溶解療法が禁忌な急性広範型肺塞栓症に対する治療戦略．第36回日本救急医学会総会学術集会 (ポスター) (札幌)，2008．10．
- 28) 横山真也，白壁章宏，小林宣弘，品田卓郎，畑 典武<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総ICU)：短期間に状況大動脈の血栓の出現および消失をみた急性A型大動脈解離 (逆行性IIIb解離) の1例 (口述)．第49回日本脈管学会総会 (東京)，2008．10．
- 29) 宗像 亮，山本 剛，村井綱児，上野 亮，時田祐吉，加藤浩司，佐藤直樹，田中啓治，水野杏一<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学循環器内科，<sup>2)</sup> 日本医科大学放射線科)：急性肺血栓塞栓症における経皮的体外補助装置使用例の検討．第36回日本救急医学会総会，2008．10．
- 30) 石川真士，山本 剛，佐藤直樹，田中啓治，高野仁司，水野杏一<sup>1)</sup>，中澤 賢，田島廣之<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 第一内科，<sup>2)</sup> 放射線科)：当施設における周術期肺塞栓症の治療成績．第15回肺塞栓症研究会学術集会 (一般口演) (東京)，2008．11．
- 31) 上野 亮，山本 剛，佐藤直樹，田中啓治，村田広茂，岩崎雄樹，宮内靖史，小原俊彦，小林義典，加藤貴雄，水野杏一，下川宏明，魏 大名 (<sup>1)</sup> 日本医科大内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)，<sup>2)</sup> 東北大学大学院医学系研究科循環器病態学，<sup>3)</sup> 会津大学 生体情報学)：標準12誘導心電図より算出したシミュレーション導出18誘導心電図の整合性の集中治療室入室症例における検討．第25回日本心電学会学術集会 ，2008．11．
- 32) 山本 剛，尾林 徹 (<sup>1)</sup> 肺塞栓解析班・武蔵野赤十字病院)：東京都における急性肺塞栓症の現況．東京都における急性肺塞栓症の現況 (東京)，2008．12．
- 33) 榎戸 馨，加藤浩司，宗像 亮，鶴見昌史，鈴木大悟，上野 亮，時田祐吉，村井綱児，川中秀和，山本 剛，佐藤直樹，田中啓治，中野博之，細川雄亮，草間芳樹，その他2名 (<sup>1)</sup> 第一内科，<sup>2)</sup> 多摩永山病院内科，<sup>3)</sup> 学胸部外科)：長期に及ぶ右心不全の原因がCABG術で使用した止血用シート剤による心外圧迫・収縮性心膜炎であった1例．第210回 循環器学会関東甲信越地方会，2008．12．
- 34) 坏 宏一，田中啓治，小山信彌志，桃原哲也，日大太郎，佐藤直樹，高山守正 (<sup>1)</sup> 付属病院ICU，<sup>2)</sup> 東京都CCUネットワーク)：東京都CCUネットワークにおける急性大動脈解離の疫学．第28回東京CCU研究会 (東京)，2008．12．
- 35) 時田祐吉，山本 剛，村井綱児，宗像 亮，上野 亮，加藤浩司，八島正明，佐藤直樹，田中啓治，水野杏一：NT-proBNPは虚血性心不全の診断に有用である．集中治療学会総会，2009．2．
- 36) 山本 剛，村井綱児，宗像 亮，時田祐吉，加藤浩司，佐藤直樹，安武正弘<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>，田中啓治 (<sup>1)</sup> 第一内科)：新しいDESへの期待と集学的治療体系の必要性 (シンポジウム DES時代におけるCCUの現状と展望)．第36回日本集中治療医学会学術集会 (口演) (大阪)，2009．2．
- 37) 坏 宏一<sup>1)</sup>，竹下 聡，坂本伸吾，岡島年也，吉牟田剛，塘 義明，野々木宏 (<sup>1)</sup> 国立循環器病センター)：急性大動脈解離に対する薬物治療に関する最新の知見：ACE阻害薬は大動脈解離の慢性期予後を改善する (パネルディスカッション)．第36回日本集中治療医学会学術集会 (大阪)，2009．2．
- 38) 鈴木 学，村井綱児，上野 亮，時田祐吉，宗像 亮，加藤浩司，山本 剛，佐藤直樹，竹田晋浩，田中啓治：うっ血性心不全を合併した間質性肺炎急性増悪例の臨床的検討．第36回日本集中治療医学会学術集会，2009．2．
- 39) 村井綱児，原千鶴子，上野 亮，時田祐吉，加藤浩司，浅井邦也，岩崎雄樹，山本 剛，佐藤直樹，田中啓治，水野杏一 (<sup>1)</sup> 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門))：ドブタミンとホスホジエステラーゼ阻害薬少量併用療法が有効であった両心不全患者の1例．第36回日本集中治療医学会学術集会 (ポスタ

一), 2009. 2.

- 40) 山本 剛, 村井綱見, 宗像 亮, 時田祐吉, 加藤浩司, 佐藤直樹, 安武正弘, 水野杏一, 田中啓治: 新しいDESへの期待と集学的治療体系の必要性. 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.
- 41) 佐藤直樹, 梶本克也, 長嶋道貴, 浅井邦也, 水野雅之, 南雄一郎, 宗像 亮, 村井綱見, 田中啓治, 高野照夫: 本邦における急性心不全患者背景の実態 - ATTENDデータベースからの中間報告-. 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.
- 42) 時田祐吉, 山本 剛, 村井綱見, 宗像 亮, 上野 亮, 加藤浩司, 八島正明, 佐藤直樹, 田中啓治, 水野杏一: NT-proBNPは虚血性急性心不全の鑑別に有用である. 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.
- 43) 加藤浩司, 鶴見昌史, 川中秀和, 村井綱見, 時田祐吉, 上野 亮, 宗像 亮, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治: 僧帽弁後尖にpunched-out lesionを呈した心内膜炎の外科治療選択に連続心拍出量測定装置が有効であった1例. 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.
- 44) 村井綱見, 佐藤直樹, 原千鶴子, 上野 亮, 時田祐吉, 加藤浩司, 山本 剛, 浅井邦也, 水野杏一, 田中啓治: ドブタミンとホスホジエステラーゼ阻害薬少量併用療法が有効であった両心不全患者の1例. 日本集中治療医学会, 2009. 2.
- 45) 野口裕幸, 鎌田隆行, 山本 剛, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 坂本篤裕: 臨床工学技士による集中治療業務 (どこまで行うべきか, 業務内容を中心に). 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.

## [付属病院病理部]

### 研究概要

現在病理部スタッフは病理専門医である専任病理医3名, 細胞検査士9名含む技師11名, 事務員1名に加え, 病理学講座と協力しながら日常診断業務(病理組織診断, 細胞診断, 剖検診断)を遂行している。

研究テーマは主にその中から見出されているが, 近年は他科と共同開催している乳腺, 甲状腺, 呼吸器, 婦人科および消化器カンファレンス等で臨床, 病理両側面からの症例検討を行うことにより得られた興味ある症例なども対象となってきた。

日本臨床細胞学会, 医療安全委員会には土屋, 川本の2名が主メンバーとして加わり年2回の学会の企画から講演まで携わっている。研究対象臓器は乳腺, 呼吸器をはじめ甲状腺, 消化器, 骨軟部など多岐に渡り各種学会において病理学講座および臨床医とが病理部と共同で発表を行っている。そのほかにも病理学会, 乳癌学会, 呼吸器関連学会などでも多くの発表と研究のサポートを行った。

また各種学会, 研究会からの講演要請も増えてきていることから, 当部が高いレベルでの研究がなされていることが証明されたものと考えられる。さらに今年度も, 昨年同様に長年積み上げてきた成果が盛り込まれた著書が発刊されたことも付け加えておく。

今後も継続して研究に取り組んでいきたいと考えている。

### 研究業績

#### 論文

[追加分]

追加分記事監修:

- 1) 川本雅司: 臓器横断的視点での新しい診断病理の試み. Medical Tribune 2008; 41 (9): 64-65.

(1) 原著:

- 1) Matsuda Y<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Kudo M<sup>1)</sup>, Kawahara K<sup>1)</sup>, Kawamoto M, Nakajima Y<sup>2)</sup>, Koizumi K<sup>2)</sup>,

Nakazawa N<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> (1) Department of Pathology, 2) Department of Surgery, Division of Thoracic Surgery) : Expression and roles of lumican in lung adenocarcinoma and squamous cell carcinoma. Int J Oncol 2008 ; 33 : 1177-1185.

- 2) Tsuchiya S : Cytological characteristics of invasive lobular carcinoma of the human breast. Med. Mole. Morphology 2008 ; 41 : 121-125.
- 3) 土屋眞一 : 特集 乳癌1 針生検の診断. 病理と臨床 2008 ; 26 (10) : 1034-1041.
- 4) 土屋眞一 : 特集 乳癌2 硬癌vs浸潤性小葉癌. 病理と臨床 2008 ; 26 (11) : 1179-1182.
- 5) 松村沙織<sup>1)</sup>, 小池祥一郎<sup>1)</sup>, 中澤 巧<sup>2)</sup>, 清水忠博<sup>3)</sup>, 高山文吉<sup>3)</sup>, 土屋眞一 (1) 国立病院機構松本病院外科, 2) 同研究検査科, 3) 清水外科胃腸科医院, 4) 安住総合病院放射線科) : 粘液癌の形態を伴った乳腺浸潤性微小乳頭癌の1例. 日本臨床外科学会雑誌 2008 ; 69 : 323-327.
- 6) 土屋眞一, 川本雅司, 原田 大, 松原美幸 : 講座 ; 乳管内病変の良悪性診断 : 乳頭状病変の鑑別点について. 乳癌の臨床 2008 ; 23 : 393-401.

(2) 症例報告 :

- 1) Kubokura H<sup>1)</sup>, Koizumi K<sup>1)</sup>, Yoshino Y<sup>1)</sup>, Yamagishi S<sup>1)</sup>, Mikami I<sup>1)</sup>, Hirata T<sup>1)</sup>, Harada A<sup>1)</sup>, Kawamoto M<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup> (1) Department of Surgery II) : A case report : thoracic extramedullary hematopoiesis found by occurring spontaneous pneumothorax. Ann Thorac Cardiovasc Surg 2008 ; 14 : 382-385.
- 2) 中溝宗永<sup>1)</sup>, 横島一彦<sup>1)</sup>, 酒主敦子<sup>1)</sup>, 川本雅司 (1) 付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科) : 舌癌切除後の再建皮弁に生じた尋常性疣贅の1例. 耳喉頭頸 2008 ; 80 (13) : 902-903.

(3) 記事監修 :

- 1) 川本雅司 : ヴィジュアル 日本の医療史 第8回. 青洲が弟子に伝えた『華岡流手術道具』. Medical Tribune 2008 ; 41 (43, 44) : 51.

## 著 書

〔追加分〕

追加分 :

- 1) 土屋眞一, 松原美幸, 秋山 太<sup>1)</sup>, 森谷卓也<sup>2)</sup>, その他34名 (1) 癌研究会癌研究所病理部, 2) 川崎医科大学病理学2) : 〔監修〕細胞診. 乳腺病理カラーアトラス (土屋眞一・秋山太・森谷卓也), 2008 ; pp16-23, 文光堂.
- 2) 土屋眞一, 秋山 太<sup>1)</sup>, 森谷卓也<sup>2)</sup>, その他35名 (1) 癌研究会癌研究所病理部, 2) 川崎医科大学病理学2) : 〔自著〕乳癌の組織分類. 乳腺病理カラーアトラス (土屋眞一・秋山太・森谷卓也), 2008 ; pp42-47, 文光堂.
- 3) 土屋眞一, 秋山 太<sup>1)</sup>, 森谷卓也<sup>2)</sup>, その他35名 (1) 癌研究会癌研究所病理部, 2) 川崎医科大学病理学2) : 〔自著〕浸潤性小葉癌. 乳腺病理カラーアトラス (土屋眞一・秋山太・森谷卓也), 2008 ; pp110-113, 文光堂.
- 4) 土屋眞一, 角田博子<sup>3)</sup>, 秋山 太<sup>1)</sup>, 森谷卓也<sup>2)</sup>, その他35名 (1) 癌研究会癌研究所病理部, 2) 川崎医科大学病理学2, 3) 聖路加国際病院放射線科) : 〔自著〕画像と病理像の比較. 乳腺病理カラーアトラス (土屋眞一・秋山太・森谷卓也), 2008 ; pp162-169, 文光堂.

- 1) 川本雅司 : 〔共著〕病理画像ケーススタディ (笹野公伸, 真鍋俊明), 2008 ; 南山堂.
- 2) 土屋眞一 : 〔自著〕乳腺疾患 画像診断の進め方. じほう (坂元吾偉), 2008 ; pp6, 10, 12, 14, 43, 45, 65, 91, 93, 94, 95, 97, じほう.



## 学会発表

### 〔追加分〕

#### 追加分一般講演：

- 1) 土屋眞一：乳腺の筋上皮細胞. 第30回東京都細胞検査士学術研修会, 2008. 2.
- 2) 土屋眞一：乳腺の病理と臨床. 第1回乳腺道場, 2008. 2.
- 3) 木下裕康<sup>1)</sup>, 竹内真吾<sup>1)</sup>, 中島由貴<sup>1)</sup>, 岡田大輔<sup>1)</sup>, 三上 巖<sup>1)</sup>, 川本雅司, 原口秀司<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup> (1) 外科学講座 呼吸器外科)：膿胸を併発した左扁平上皮癌. 文京区呼吸器外科研究会 (第14回), 2009. 4.

#### (1) 特別講演：

- 1) 土屋眞一：特別報告2：乳癌取扱い規約第16版改訂の説明. 第16回日本乳癌学会学術集会, 2008. 9.
- 2) 北村隆司<sup>1)</sup>, 土屋眞一, 山本秀巨 (1) 昭和大学藤が丘病院 病院病理科, <sup>2)</sup> 厚木市立病院 医療局医療技術部 臨床検査室)：乳腺穿刺吸引細胞診自動診断システムの構築とその運用. 第47回日本臨床細胞学会秋期大会, 2008. 9.
- 3) 川本雅司：呼吸器の細胞診・病理：整理しておきたい疾患：mucinous BACから多形癌まで. 平成20年度日本臨床細胞学会福島県支部総会ならびに学術大会, 2008. 10.
- 4) 土屋眞一：画像 (MRI) と病理のコラボレーション. 第9回岡山乳腺腫瘍マーカー研究会, 2008. 10.
- 5) 土屋眞一：乳癌における病理と画像 (MRI) のコラボレーション. 第38回三八地区臨床検査懇話会, 2009. 2.

#### (2) 教育講演：

- 1) 川本雅司：呼吸器の腺系病変：異型の強い良性, 異型の弱い悪性. 第28回多摩細胞診研究会, 2008. 4.
- 2) 米山剛一<sup>1)</sup>, 土屋眞一, その他5名 (1) 日本医科大学女性診療科・産科)：組織診断に苦慮した子宮頸部コンジローマ様癌の1例. 第49回日本臨床細胞学会総会, 2008. 6.
- 3) 土屋眞一：外科医のための最新病理学 (乳腺部門). 第70回日本臨床外科学会総会, 2008. 9.
- 4) 川本雅司：神経内分泌腫瘍：呼吸器を中心に. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第47回), 2008. 11.

#### (3) シンポジウム：

- 1) 土屋眞一：医療安全委員会 (Medical Safety Committee, MSCとは. 第49回日本臨床細胞学会総会, 2008. 6.
- 2) 松原美幸, 土屋眞一, 佐藤春明, 渡會泰彦, 原田 大, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 川本雅司 (1) 日本医科大学病理学講座)：過剰・過少判定に陥りやすい乳腺の細胞像とその臨床：線維腺腫. 第47回日本臨床細胞学会秋期大会, 2008. 9.

#### (4) パネルディスカッション：

- 1) 川本雅司, 麻生利勝<sup>1)</sup>, 大竹輝臣<sup>2)</sup>, 出井直樹<sup>1)</sup>, 土屋眞一, 室谷哲哉<sup>3)</sup>, 上野喜三郎<sup>4)</sup>, 畠山重春<sup>5)</sup> (1) 大東文化大学大学院法務研究科, <sup>2)</sup> 厚生労働省医政局総務課, <sup>3)</sup> こころとからだの元気プラザ婦人科, <sup>4)</sup> TCPL, <sup>5)</sup> サイバソリサーチセンター)：医療安全セミナー. 第49回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2008. 6.

#### (5) セミナー：

- 1) 川本雅司, 麻生利勝<sup>1)</sup>, 畠山重春<sup>2)</sup> (1) 大東文化大学大学院法務研究科, <sup>2)</sup> サイバソリサーチセンター)：医療安全セミナー；座長の言葉. 第49回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2008. 6.
- 2) 松原美幸, 土屋眞一：乳腺疾患の細胞診. 第47回日本臨床細胞学会秋期大会, 2008. 9.
- 3) 川本雅司：腫瘍生物学. 磐梯熱海オンコロジーセミナー (第2回), 2009. 2.
- 4) 土屋眞一：乳腺における誤判定防止の要点. 平成20年度 臨床検査技師実習技能研修会, 2009. 2.

#### (6) ワークショップ：

- 1) Matsuda Y<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Kudo M<sup>1)</sup>, Kawahara K<sup>1)</sup>, Kawamoto Y<sup>1)</sup>, Kawamoto M, Nakajima Y<sup>2)</sup>, Koizumi K<sup>2)</sup>, Nakazawa N<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Naito Z (1) 病理学 (統御機構・腫瘍), <sup>2)</sup> 呼吸器外科学)：Lumican in lung cancer cells and stromal tissues-its clinicopathological significance. 第67回日本癌学会学術総会, 2008. 10.

- 2) 佐藤春明, 土屋眞一, 林由美子<sup>1)</sup>, 福田正彦<sup>1)</sup>, 松原美幸, 渡會泰彦, 原田 大, 川本雅司, 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 三菱化学 メデイエンス株式会社 病理・細胞診センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学病理学講座) : 乳腺細胞診「鑑別困難」「悪性の疑い」の細胞および組織学的解析. 第47回日本臨床細胞学会秋期大会, 2008. 9.
- (7) 一般講演 :
- 1) 中島由貴<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 川本雅司, 原口秀司<sup>1)</sup>, 岡田大輔<sup>1)</sup>, 岡本淳一<sup>1)</sup>, 竹内真吾<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学講座・呼吸器外科) : カルチノイドとの鑑別を要した気管支内発生 Glomus 腫瘍の1例. 第12回文京区呼吸器外科研究会, 2008. 4.
  - 2) 中島由貴<sup>1)</sup>, 川本雅司, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 窪倉治敏<sup>1)</sup>, 岡田大輔<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 木下裕康<sup>1)</sup>, 竹内真吾<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学講座呼吸器外科) : CTNB後の線維化と野口分類に関する病理学的検討組織. 呼吸器外科学会総会, 2008. 5.
  - 3) 岡田大輔<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 中島由貴<sup>1)</sup>, 川本雅司, 清水一雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学講座呼吸器外科) : 非結核性抗酸菌症を契機に発症した難治性膿胸の2症例. 第48回日本呼吸器学会学術講演会, 2008. 6.
  - 4) 釜口晴美, 土屋眞一, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 川本雅司, 原田 大, 松原美幸, 渡會泰彦, その他4名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学病理学講座) : Plemorphic lobular carcinoma の1例. 第49回日本臨床細胞学会総会, 2008. 6.
  - 5) 浅川一枝, 土屋眞一, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 川本雅司, 原田 大, 渡會泰彦, その他3名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学病理学講座) : 乳腺原発カルチノイド腫瘍. 第49回日本臨床細胞学会総会, 2008. 6.
  - 6) 渡會泰彦, 土屋眞一, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 川本雅司, 松原美幸, 佐藤春明, 原田 大, その他4名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学病理学講座) : 病理サイドからみた当院の“乳癌カンファレンス”. 第49回日本臨床細胞学会総会, 2008. 6.
  - 7) 村瀬幸宏, 土屋眞一, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 川本雅司, 原田 大, その他3名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学病理学講座) : 甲状腺 CASTLE の1例. 第49回日本臨床細胞学会総会, 2008. 6.
  - 8) 西澤和代<sup>1)</sup>, 土屋眞一, その他6名 ( <sup>1)</sup> 波田総合病院検査科) : 乳腺 Histiocytoid lobular carcinoma の1例. 第49回日本臨床細胞学会総会, 2008. 6.
  - 9) 高山文吉<sup>1)</sup>, 土屋眞一, その他3名 ( <sup>1)</sup> 青樹会一之瀬画像センター) : 当院における10mm以下の乳腺腫瘍性病変に対するFNAの成績. 第16回日本乳癌学会総会, 2008. 9.
  - 10) 村上隆介<sup>1)</sup>, 土屋眞一, その他7名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院放射線科) : FDG-PET/CTによる乳癌術後再発・転移診断. 第16回日本乳癌学会学術総会, 2008. 9.
  - 11) 山田理恵子<sup>1)</sup>, 土屋眞一, その他9名 ( <sup>1)</sup> 東京女子医科大学東医療センター) : 乳癌の拡がり診断からみたCTの有用性と今後の展望 : CT, 病理組織学的所見からみた癌推積を参考に. 第16回日本乳癌学会学術総会, 2008. 9.
  - 12) 飯田信也<sup>1)</sup>, 土屋眞一, その他6名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院外科) : 当科における併用法センチネルリンパ節生検の検証. 第16回日本乳癌学会学術総会, 2008. 9.
  - 13) 太田香織<sup>1)</sup>, 土屋眞一, その他6名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院放射線科) : 乳腺 Invasive micropapillary carcinoma の画像診断の可能性について. 第16回日本乳癌学会学術総会, 2008. 9.
  - 14) 柳原恵子<sup>1)</sup>, 土屋眞一, その他5名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院外科) : 乳腺カルチノイド腫瘍の特徴. 第16回日本乳癌学会学術総会, 2008. 9.
  - 15) 唐木芳昭<sup>1)</sup>, 土屋眞一 ( <sup>1)</sup> 相澤病院外科) : 超高齢者乳癌の1例. 第16回日本乳癌学会学術総会, 2008. 9.
  - 16) 浅川一枝, 土屋眞一, 細根 勝<sup>1)</sup>, 永井祥子, 原田 大, 杉崎祐一, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 川本雅司 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院, <sup>2)</sup> 日本医科大学病理学講座) : Primary effusion lymphoma (PEL) の1例. 第47回日本臨床細胞学会秋期大会, 2008. 9.
  - 17) 中島由貴<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 川本雅司, 原口秀司<sup>1)</sup>, 岡田大輔<sup>1)</sup>, 木下裕康<sup>1)</sup>, 竹内真吾<sup>1)</sup>, 清水一雄 ( <sup>1)</sup> 外科学講座・呼吸器外科) : Carcinoidとの鑑別が困難であった気管支発生 Glomus 腫瘍の1例. 日本肺癌学会総会 (第49回), 2008. 11.

- 18) 原田 大, 土屋眞一, 飯田信也<sup>1)</sup>, 柳原恵子<sup>1)</sup>, 栗田智子<sup>1)</sup>, 芳賀駿介<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院外科) : 粗大石灰化を呈した乳腺腫瘍の1例. 第57回東京乳腺研究会, 2008. 11.

## [付属病院中央検査部]

### 研究概要

中央検査部では検査結果を迅速かつ正確に臨床側へ提供するとともに日進月歩で変化する臨床検査の先端技術を吸収し, 日常の検査に反映すべく常に様々な課題に取り組み着実な成果を挙げている. 各部門の活動は以下のごとくである.

- (1) ラテックス免疫比濁法によるMMP-3の測定意義
- (2) 重症敗血症における血漿BNPレベルの変動の全身性炎症反応が関与
- (3) POCT機器運用状況
- (4) 当院で見つかった血液型キメラの1例
- (5) 輸血検査における不規則性抗体の検出状況
- (6) ムコイド型緑膿菌における耐性遺伝子の検索などである

### 研究業績

#### 論 文

##### (1) 原著 :

- 1) 影山憲貴, 中島敦夫<sup>1)</sup>, 鳴海武長, 柴田泰史, 三橋 太, 高木 豊, 中村祐三, 飯野幸永, 里村克章 ( <sup>1)</sup> 東京警察病院リウマチ内科) : ラテックス免疫比濁法によるMMP-3の測定意義 : 関節リウマチにおけるMMP-3と関節破壊. 医学と薬学 2008 ; 59 (5) : 735-742.
- 2) 高木 豊, 影山憲貴, 三橋 太, 小林紘士, 飯野幸永, 若松秀俊<sup>1)</sup>, 里村克章 ( <sup>1)</sup> 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科) : 自動分析機器における静電容量型液面センサの電圧変化解析による流路系プロセスの把握. 日本臨床検査自動化学会誌 2008 ; 33 (5) : 822-827.
- 3) 久志本成樹<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 宮内雅人<sup>1)</sup>, 鈴木崇生<sup>1)</sup>, 佐藤格夫<sup>1)</sup>, 増野智彦<sup>1)</sup>, 福田令雄<sup>1)</sup>, 白石振一郎<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 救急医学) : 重症敗血症における血漿BNPレベルの変動には全身性炎症反応が関与する. バイオメディカル 2008 ; 18 : 43-50.

#### 学会発表

##### (1) パネルディスカッション :

- 1) 金子幸江, 橋本政子, 堤 章江, 式田竜司, 中村祐三, 飯野幸永, 里村克章 : 当院で見つかった血液型キメラの1例. 日本医科大学医学会総会 (第76回) (東京), 2008. 9.
- 2) 植田貴子, 小川早恵子, 亀山澄子, 福田高久, 飯野幸永, 里村克章, 田近賢治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院輸血部) : 輸血検査における不規則性抗体の検出状況. 日本医科大学医学会総会 (第76回) (東京), 2008. 9.
- 3) 亀山澄子, 小川早恵子, 植田貴子, 福田高久, 飯野幸永, 里村克章, 田近賢治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院輸血部) : 当院における即時型輸血副作用の状況について. 日本医科大学医学会総会 (第76回) (東京), 2008. 9.
- 4) 久志本成樹<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 横田裕行<sup>1)</sup>, 増野智彦<sup>1)</sup>, 佐藤格夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 救急医学講座) : 敗血症診断と重症度判定におけるプロカルシトニン, Endotoxin Activity Assay, CRP の比較. 日本医科大学医学会総会 (第76回) (東京), 2008. 9.
- 5) 岩上正明<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 青砥泰二, 飯野幸永, 里村克章 ( <sup>1)</sup> 付属病院 薬剤部) : 付属病院における抗菌薬の使用動向. 日本医科大学医学会総会 (第76回) (東京), 2008. 9.

- 6) 園部一成<sup>1)</sup>, 野呂瀬嘉彦<sup>1)</sup>, 篠山明宏<sup>1)</sup>, 菅谷量俊<sup>1)</sup>, 渡辺里奈<sup>1)</sup>, 藤田昌久<sup>1)</sup> (1) 付属病院 ICT) : 血糖 POCT 機器の細菌汚染度調査とその後の対応. 日本医科大学医学会総会 (第76回) (東京), 2008. 9.
  - 7) 園部一成, 野呂瀬嘉彦<sup>1)</sup>, 川畑大輔<sup>2)</sup>, 福岡清二<sup>3)</sup>, 谷道由美子<sup>4)</sup>, 宮島節夫<sup>5)</sup> (1) 微生物・免疫学教室, 2) 東京医科大学霞ヶ関病院中央検査部, 3) 昭和大学病院臨床検査部, 4) 日本大学板橋病院臨床検査部, 5) 愛知医科大学病院中央検査部) : ムコイド型緑膿菌における耐性遺伝子の検索. 日本臨床微生物学会 (第20回) (仙台), 2009. 1.
  - 8) 渡部明子, 園部一成, 青砥泰二, 飯野幸永, 里村克章 : 酵母様真菌分離培地バイタルメディアカラー Candida 培地 (仮称) における基本性能の検討. 真菌症フォーラム学術集会 (第10回) (名古屋), 2009. 2.
- (2) 一般講演 :
- 1) 柴田泰史, 日ノ澤進一郎, 影山憲貴, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 里村克章 (1) 救急医学講座) : 敗血症における起炎菌別のプロカルシトニン値と重症度との関連性について. 日本医学検査学会 (第57回) (札幌), 2008. 5.
  - 2) 鳴海武長, 柴田泰史, 日ノ澤進一郎, 飯野幸永, 里村克章 : 当院における POCT 機器運用状況と今後の展望. 日本医学検査学会 (第57回) (札幌), 2008. 5.
  - 3) 久志本成樹<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 増野智彦<sup>1)</sup>, 佐藤格夫<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 救急医学講座) : 重症敗血症症例における血漿 BNP レベルの変動には全身性炎症反応が関与する. 日本 Shock 学会総会 (第23回) (東京), 2008. 5.
  - 4) 柴田泰史, 日ノ澤進一郎, 影山憲貴, 鳴海武長, 飯野幸永, 里村克章, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 救急医学講座) : 細菌性敗血症および重症度診断法としてのイムノクロマト法によるプロカルシトニン測定の有用性について. 日本臨床化学学会年次学術集会 (第48回) (浜松), 2008. 8.
  - 5) 柴田泰史, 日ノ澤進一郎, 影山憲貴, 鳴海武長, 飯野幸永, 里村克章, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 救急医学講座) : ミニバイダスを用いた敗血症診断および重症度判定法としてのプロカルシトニン測定の有用性. 日本臨床検査自動化学会大会 (第40回) (横浜), 2008. 10.
  - 6) 高木 豊, 間宮一夫, 影山憲貴, 本間 達<sup>1)</sup>, 飯野幸永, 若松秀俊<sup>1)</sup>, 里村克章 (1) 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科) : シグモイド曲線を利用した PT 凝固プロファイル解析によるフィブリノーゲン濃度の推定. 日本臨床検査自動化学会大会 (第40回) (横浜), 2008. 10.

## [付属病院薬剤部]

### 研究概要

平成20年度の薬剤部研究業績は、論文、著書、総説、学会発表、研究助成、学術賞と、多くの分野で多くの実績を記すことができた。これは、日本の大学病院薬剤部の範ならんとしてこれまで取り組んできた研究と業務が、実を結び始めたものと考え。特に20年度は、これまで研究の主たるテーマであったがんや緩和のみならず、口内炎、ホルモン療法、抗アレルギー、TDM、中毒など多彩な研究に取り組み、また業務に直結した後発医薬品に関する研究や、集中治療室や中央手術室での薬剤師業務の報告なども行うことができた。

また、一般著書においても「今日の治療指針」「今日の治療薬」「治療薬ハンドブック」など、臨床医が利用する書籍に対しても薬剤師の視点で執筆することができた。また、がん疼痛治療ガイドラインの作成に関与し副作用や相互作用の分野を担当するなど、直接臨床にかかわる書籍の執筆にも関わることができたことは、付属病院薬剤部の業績を反映してのことと考える。

さらに、褥瘡治療、小児医療、薬剤管理指導、医療経済など幅広い分野での研究も継続しており、付属病院における薬物療法の一環を担う部門としての位置を確立しつつある。現在、遺伝診療やPET、循環器などさらに新たな分野に取り組んでいるが、これまで以上に深くかわり、病院への安全と安心の医療環境の提供と、研究による医療そのものへの貢献を期したい。



## 研究業績

### 論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) 伊勢雄也<sup>1)</sup>, 輪湖哲也<sup>1)</sup>, 三浦義彦<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 原田知彦<sup>2)</sup>, 赤瀬朋秀<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部, 2) 済生会横浜市東部病院 薬剤センター)：オピオイドローテーションの薬剤経済学的分析：モルヒネ徐放錠からフェンタニル貼付剤またはオキシドロン徐放錠へローテーションした際の費用最小化分析. 日本緩和医療薬剤師会雑誌 2008 ; 1 (1) : 25-30.

(1) 原著：

- 1) 野澤 (石井) 玲子<sup>1)</sup>, 藤田 謙<sup>2)</sup>, 伊勢雄也<sup>3)</sup>, 片山志郎<sup>3)</sup>, 竹内幸一<sup>1)</sup> (1) 明治薬科大学 臨床薬学教室, 2) 明治薬科大学 臨床薬学専攻, 3) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：プロピオン酸フルチカゾン・ディスクヘラー使用後の掃除に関する実態調査と掃除方法の検討. Yakugaku Zasshi 2009 ; 129 (3) : 365-372.

(2) 総説：

- 1) 平田清貴<sup>1)</sup>, 青山隆彦<sup>2)</sup>, 平田理恵<sup>3)</sup>, 山崎浩史<sup>3)</sup>, 松本宜明<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>4)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院薬剤部, 2) 日本大学薬学部臨床薬物動態学研究室, 3) 昭和薬科大学薬物動態学研究室, 4) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：「リスクマネジメント～院内での薬剤師の活動～」：集中治療患者におけるミカファンギンの適正使用. 医薬ジャーナル 2009 ; 45 (2) : 751-755.

### 著書

- 1) 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：〔編集〕AstraZeneca 医療関係者向け情報サイト：MediChannel：患者さんとの医療コミュニケーション 高齢者特有の症状とがん薬物療法の副作用 (片山志郎).
- 2) 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：〔監修〕AstraZeneca 医療関係者向け情報サイト：MediChannel：患者さんとの医療コミュニケーション ホルモン療法の作用機序とその副作用 (片山志郎).
- 3) 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：〔web〕アレジオンMagazine 患者ニーズを考慮した抗ヒスタミン薬の服薬指導；日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社.
- 4) 宮田広樹<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：〔共著〕悪性腫瘍 膵癌. 薬局, 2008 ; pp1446-1450, 南山堂.
- 5) 宮田広樹<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：〔共著〕悪性腫瘍 腎癌. 薬局, 2008 ; pp1454-1458, 南山堂.
- 6) 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：〔監修〕がん患者の心の扉を開くコミュニケーション術 (高瀬久光), 2008 ; 南江堂.
- 7) 宮田広樹<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：〔共著〕乳がん. 疾患と薬物治療：知っておきたいcommon disease 100 (富野 康日己), 2008 ; 医歯薬出版.
- 8) 輪湖哲也<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：〔共著〕肝炎. 疾患と薬物治療：知っておきたいcommon disease100 (富野 康日己), 2008 ; 医歯薬出版社.
- 9) 輪湖哲也<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：〔共著〕肝硬変. 疾患と薬物治療：知っておきたいcommon disease100 (富野 康日己), 2008 ; 医歯薬出版社.
- 10) 輪湖哲也<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：〔共著〕膵炎. 疾患と薬物治療：知っておきたいcommon disease 100 (富野 康日己), 2008 ; 医歯薬出版社.
- 11) 輪湖哲也<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：〔共著〕薬物性肝障害. 疾患と薬物治療：知っておきたいcommon disease 100 (富野 康日己), 2008 ; 医歯薬出版社.



- 12) 宮田広樹<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：〔共著〕 肺がん. 疾患と薬物治療：知っておきたい common disease 100 (富野 康日己), 2008；医歯薬出版.
- 13) 加藤あゆみ<sup>1)</sup>, 佐野元彦<sup>4)</sup>, 高瀬久光<sup>3)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 佐伯俊成<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部, <sup>2)</sup> 広島大学病院準教授, <sup>3)</sup> 福岡大学病院薬剤部, <sup>4)</sup> 埼玉医科大学総合医療センター薬剤部)：〔共著〕 がん患者の心の扉を開くコミュニケーション術 (監修：片山志郎, 佐伯俊成 編集：高瀬久光), 2008；南江堂.
- 14) 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：〔特集〕 クリニックマガジン MD2008年9月号病院薬剤部は情報提供・服薬指導の拠点に, 2008；クリニックマガジン.
- 15) 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：〔共著〕 治療薬ハンドブック2009 (監修：高久 史磨 編集：堀 正二), 2009；じほう.
- 16) 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：〔共著〕 今日の治療指針2009 (山口 徹), 2009；医学書院.
- 17) 平田清貴<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：〔共著〕 治療薬ハンドブック2009 (監修：高久 史磨 編集：堀 正二), 2009；じほう.
- 18) 輪湖哲也<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：〔共著〕 癌治療補助薬. 医薬ジャーナル増刊号 新薬展望2009, 2009；医薬ジャーナル社.
- 19) 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：〔共著〕 今日の治療薬2009 (水島 裕編集), 2009；南江堂.
- 20) 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：〔共著〕 薬 局 <月刊> 3月増刊号 Vol. 60 No. 4 病気と薬パーフェクトBOOK2009, 2009；南山堂.
- 21) 平田清貴<sup>1)</sup>, 宮内雅人<sup>2)</sup>, 望月 徹<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>3)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 黒川 顕<sup>4)</sup>, 菊池有道<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター, <sup>3)</sup> 日本医科大学名誉教授・東京臨海病院, <sup>4)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院)：〔共著〕 救急治療・薬剤ハンドブック第五版 (総合監修：山本保博, 横田裕行), 2009；じほう.

## 学会発表

### 〔追加分〕

#### 追加分一般講演：

- 1) 宮田広樹<sup>1)</sup>, 高田未来<sup>1)</sup>, 輪湖哲也<sup>1)</sup>, 青木 優<sup>1)</sup>, 高瀬麻美<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 弦間昭彦<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院内科・呼吸器/感染/腫瘍部門)：薬剤適正使用による外来がん化学療法の経済的利点. 日本薬学会 (第128年会), 2008. 3.
- 2) 輪湖哲也<sup>1)</sup>, 宮田広樹<sup>1)</sup>, 伊勢雄也<sup>1)</sup>, 加藤あゆみ<sup>1)</sup>, 須賀理絵<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：がん患者の神経障害性疼痛に対してガバペンチンが有効であった1例. 日本薬学会 (第128年会), 2008. 3.

#### (1) 教育講演：

- 1) 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：明治薬科大学病院薬学コースガイダンス. 2008. 5.
- 2) 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：日本緩和医療薬学会教育セミナー 緩和医療における副作用管理. 日本緩和医療薬学会, 2008. 10.
- 3) 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：2008年度がん専門薬剤師セミナー がん専門薬剤師に不可欠な緩和医療. 2008. 10.
- 4) 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：千葉大学薬学部 緩和医療における疼痛対策. 2008. 12.
- 5) 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：千葉大学薬学部 緩和医療における副作用対策. 2008. 12.

#### (2) シンポジウム：

- 1) 菅谷量俊<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：大都市における薬薬連帯の展望. 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会 (第38回), 2008. 8.

(3) 一般講演：

- 1) 東加奈子<sup>2)</sup>, 清水久範<sup>3)</sup>, 渡辺和美<sup>4)</sup>, 宮田広樹<sup>1)</sup>, 野村久祥<sup>5)</sup>, 長谷部忍<sup>6)</sup>, 川上和宜<sup>7)</sup>, 金井久子<sup>8)</sup>, 中堂園百恵<sup>9)</sup>, 村木泰子<sup>10)</sup>, 川地香奈子<sup>7)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 井上忠夫<sup>10)</sup>, 谷古宇秀<sup>10)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部, 2) 東京医科大学病院薬剤部, 3) 昭和大学病院薬剤部, 4) 東邦大学医療センター大森病院薬剤部, 5) 杏林大学医学部付属病院薬剤部, 6) 虎の門病院薬剤部, 7) 癌研有明病院薬剤部, 8) 聖路加国際病院看護部, 9) 東京慈恵会医科大学付属病院看護部, 10) 武蔵野赤十字病院看護部 その他3)：東京都病院薬剤師会 がん専門薬剤師養成研究会の新たな挑戦：より多くのがん専門薬剤師の育成を目指して．日本医療薬学会年会（第18回），2008．9．
- 2) 柏原由佳<sup>2)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 宮田広樹<sup>1)</sup>, 伊勢雄也<sup>1)</sup>, 塩川 満<sup>3)</sup>, 舩岡由紀子<sup>4)</sup>, 松本高広<sup>5)</sup>, 伊東俊雅<sup>6)</sup>, 鈴木勉<sup>7)</sup>, 谷古宇秀<sup>8)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部, 2) 昭和大学薬剤部, 3) 聖路加国際病院薬剤部, 4) 東芝病院薬剤部, 5) 東邦大学医療センター大森病院薬剤部, 6) 東京女子医科大学病院薬剤部, 7) 星薬科大学薬品毒性学教室, 8) 東京都病院薬剤師会)：緩和における薬物療法スキルアップ研修・東京都病院薬剤師会．日本緩和医療学会総会（第13回），2008．7．
- 3) 平田清貴<sup>1)</sup>, Li X<sup>2)</sup>, 宮内雅人<sup>3)</sup>, 増野智彦<sup>3)</sup>, 森 洵子<sup>1)</sup>, 大下順子<sup>1)</sup>, 林田眞喜子<sup>4)</sup>, 仁平 信<sup>4)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 大野曜吉<sup>4)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学付属病院薬剤部, 2) The first hospital of Haerbin Medical University, 3) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 4) 日本医科大学法医学教室)：急性中毒症例における入院時服毒情報と薬毒物分析結果のdiscrepancy．日本中毒学会総会・学術集会（第30回），2008．7．
- 4) 輪湖哲也<sup>1,2)</sup>, 宮田広樹<sup>1,2)</sup>, 加藤あゆみ<sup>1,2)</sup>, 須賀理絵<sup>1,2)</sup>, 片山志郎<sup>1,2)</sup>, 千田英理子<sup>1)</sup>, 中西一浩<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院緩和ケアチーム, 2) 日本医科大学付属病院薬剤部)：フェンタニル貼付剤から持続静注へのオピオイドローテーションに関する症例報告．緩和医療学会総会（第13回），2008．7．
- 5) 菅谷量俊<sup>1)</sup>, 中嶋基広<sup>1)</sup>, 奈良弘恵<sup>1)</sup>, 島崎麻智子<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：後発医薬品の使用拡大への対応について．日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会（第38回），2008．8．
- 6) 宮田広樹<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：がん薬物療法の標準化への取り組みとチーム医療による副作用対策．日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会（第38回），2008．8．
- 7) 瀬瀬未来<sup>1)</sup>, 宮田広樹<sup>1)</sup>, 輪湖哲也<sup>1)</sup>, 青木 優<sup>1)</sup>, 高瀬麻美<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 弦間昭彦<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部, 2) 日本医科大学付属病院内科・呼吸器/感染/腫瘍部門)：外来がん化学療法室薬剤師の疑義照会による抗悪性腫瘍剤の薬剤費節減効果．日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会（第38回），2008．8．
- 8) 石原朋子<sup>1)</sup>, 佐治名保子<sup>1)</sup>, 赤羽伸一<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院薬剤部)：集中治療室における専任薬剤師業務の確立と拡充．日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会（第38回），2008．8．
- 9) 萩原 研<sup>1)</sup>, 大西賢一<sup>1)</sup>, 赤羽伸一<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 金子栄子<sup>2)</sup>, 坂本篤裕<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学付属病院薬剤部, 2) 日本医科大学付属病院看護部中央手術室, 3) 日本医科大学麻酔科学教室)：中央手術部専任薬剤師業務による薬品管理および医薬品安全管理について．日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会（第38回），2008．8．
- 10) 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：抗がん剤の安全な取扱い．日本医療薬学会，2008．9．
- 11) 菅谷量俊<sup>1)</sup>, 中嶋基広<sup>1)</sup>, 奈良弘恵<sup>1)</sup>, 島崎麻智子<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院薬剤部, 2) 日本医科大学付属病院 薬事委員会)：後発医薬品の使用拡大による薬剤購入費削減効果について．日本医科大学医学会総会（第76回），2008．9．
- 12) 園部一成<sup>2)</sup>, 篠山明宏<sup>2)</sup>, 青砥泰二<sup>2)</sup>, 菅谷量俊<sup>1)</sup>, 渡邊里奈<sup>2)</sup>, 藤田昌久<sup>2)</sup>, 服部久弥子<sup>2)</sup>, 野呂瀬嘉彦<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部, 2) 日本医科大学付属病院 ICT)：血糖POCT機器の細菌汚染度調査とその後の対応．日本医科大学医学会総会（第76回），2008．9．
- 13) 川田弘樹<sup>1)</sup>, 原澤秀樹<sup>1)</sup>, 佐野俊彦<sup>2)</sup>, 市川容子<sup>2)</sup>, 舟木文子<sup>3)</sup>, 谷古宇秀<sup>3)</sup>, 菅谷量俊<sup>4)</sup>, 中嶋基広<sup>4)</sup>, 片山志郎<sup>4)</sup>, 一瀬信介<sup>5)</sup>, 小高弘道<sup>6)</sup>, 長井彰子<sup>7)</sup>, 西村友男<sup>8)</sup>, 前納秀夫<sup>9)</sup>, 坂口眞弓<sup>10)</sup> (1) 永寿総合病院, 2) 都立駒込病院, 3) 東京女子医科大東医療センター, 4) 日本医科大学付属病院, 5) 文京区薬剤師会, 6) 荒川区薬剤師

- 会, <sup>7)</sup> 足立区薬剤師会, <sup>8)</sup> 下谷薬剤師会, <sup>9)</sup> 北区薬剤師会, <sup>10)</sup> 浅草薬剤師会) : 薬 - 薬連携協議会の10年のあゆみと今後への課題 (東京都中北部における活動内容について). 日本医療薬学会年会 (第18回), 2008. 9.
- 14) 野口周作<sup>1,2)</sup>, 望月 徹<sup>2)</sup>, 土金なおみ<sup>2)</sup>, 島田慰彦<sup>1)</sup>, 片岡博邦<sup>1)</sup>, 菅谷量俊<sup>3)</sup>, 片山志郎<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 ICT, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院 薬剤部) : 啓発効果を念頭においた特定抗菌薬届出システムの有用性. 日本医療薬学会年会 (第18回), 2008. 9.
  - 15) 百瀬未来<sup>1)</sup>, 宮田広樹<sup>1)</sup>, 輪湖哲也<sup>1)</sup>, 青木 優<sup>1)</sup>, 高瀬麻美<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 弦間昭彦<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 薬剤部, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 呼吸器内科) : 輸液療法室における複数規格採用抗悪性腫瘍剤の適正使用. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
  - 16) 森 洵子<sup>1)</sup>, 平田清貴<sup>1)</sup>, 大下順子<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院薬剤部) : 急性中毒症例における入院時服毒情報と薬毒物分析結果について. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
  - 17) 輪湖哲也<sup>1)</sup>, 宮田広樹<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院薬剤部・緩和ケアチーム) : フェンタニル貼付剤から持続静注へのオピオイドローテーション方法の検討. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
  - 18) 奈良弘恵<sup>1)</sup>, 島崎麻智子<sup>1)</sup>, 中嶋基広<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院薬剤部) : 付属病院における医薬品情報室業務の検討. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
  - 19) 伊勢雄也<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 佐藤亜由美<sup>2)</sup>, 望月眞弓<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院薬剤部, <sup>2)</sup> 慶應義塾大学薬学部医薬品情報学講座) : 進行再発非小細胞肺がんにおける Carboplatine and Weekly Paclitaxel 併用療法と Docetaxel 単剤療法の薬剤経済学的比較検討. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
  - 20) 瀬尾 誠<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院薬剤部) : プスルフェクス注のプレフィルドシリンジ化の検討. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
  - 21) 萩原 研<sup>1)</sup>, 大西賢一<sup>1)</sup>, 赤羽伸一<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 金子栄子<sup>2)</sup>, 坂本篤裕<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院薬剤部, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院看護部中央手術室, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院麻酔科) : 中央手術部専任薬剤師業務による薬品管理および医薬品安全管理. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
  - 22) 岩上正明<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 青砥泰二<sup>2)</sup>, 飯野幸永<sup>2)</sup>, 里村克章<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院薬剤部, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院中央検査部) : 付属病院における抗菌薬の使用動向. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
  - 23) 瀬尾 誠<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 浜田真向<sup>2)</sup>, 土橋保夫<sup>2)</sup>, 土橋 朗<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 薬剤部, <sup>2)</sup> 東京薬科大学薬学部) : プスルフェクス注のプレフィルド化と使用状況. 日本医療薬学会年会, 2008. 9.
  - 24) 片山志郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 薬剤部) : 疼痛管理と副作用管理. 東京都病院薬剤師会臨床薬学研究会 , 2008. 10.
  - 25) 片山志郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 薬剤部) : がん専門薬剤師に不可欠な緩和医療. 九州がん専門薬剤師セミナー, 2008. 10.
  - 26) 片山志郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 薬剤部) : 緩和医療における疼痛対策と副作用対策. 女性薬剤師会 , 2008. 10.
  - 27) 宮田広樹<sup>1)</sup>, 輪湖哲也<sup>1)</sup>, 須賀理絵<sup>1)</sup>, 加藤あゆみ<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 薬剤部) : がん疼痛治療と薬剤性錐体外路症状. 日本緩和医療薬学会年会 (第2回), 2008. 10.
  - 28) 加藤あゆみ<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 須賀理絵<sup>1)</sup>, 輪湖哲也<sup>1)</sup>, 宮田広樹<sup>1)</sup>, 深田陽子<sup>2)</sup>, 千田英理子<sup>2)</sup>, 中西一浩<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 薬剤部, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 看護部, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院 麻酔科) : 地域医療ネットワーク構築を目指して : 在宅医療への橋渡しに緩和ケア科が関与した1例. 日本緩和医療薬学会年会 (第2回), 2008. 10.
  - 29) 須賀理絵<sup>1)</sup>, 輪湖哲也<sup>1)</sup>, 加藤あゆみ<sup>1)</sup>, 宮田広樹<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 薬剤部) : 緩和ケア外来における薬剤師の取り組み. 日本緩和医療薬学会年会 (第2回), 2008. 10.
  - 30) 輪湖哲也<sup>1)</sup>, 宮田広樹<sup>1)</sup>, 加藤あゆみ<sup>1)</sup>, 須賀理絵<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 薬剤部) : がん患

者の神経障害性疼痛に対するガバペンチンの有効性：症例報告および今後の臨床使用の検討．日本緩和医療薬学会年会（第2回），2008．10．

- 31) 須賀理絵<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院薬剤部)：緩和ケア外来における薬剤師の取り組み．日本緩和医療薬学会年会（第2回），2008．10．
- 32) 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：がん薬物療法における副作用．石川県がん薬物療法フォーラム，2008．11．
- 33) 宮田広樹<sup>1)</sup>，百瀬未来<sup>1)</sup>，片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：チーム医療において薬剤師はがん化学療法の標準化推進に貢献できるか．日本クリニカルパス学会学術集会（第9回），2008．11．
- 34) 加藤あゆみ<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：当院緩和ケアチームの活動状況，工夫点，問題点．日本臨床外科学会総会（第70回），2008．11．
- 35) 平田清貴<sup>1)</sup>，森 洵子<sup>1)</sup>，大下順子<sup>1)</sup>，片山志郎<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院薬剤部，<sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：救急・集中治療領域の薬剤管理指導に有用な臨床薬理学的アプローチ．日本臨床薬理学会（第29回），2008．12．
- 36) 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：緩和医療における薬物療法．千葉県病院薬剤師会，2009．1．
- 37) 園部一成<sup>2)</sup>，野呂瀬嘉彦<sup>2)</sup>，篠山明宏<sup>2)</sup>，菅谷量俊<sup>1,2)</sup>，渡邊里奈<sup>2)</sup>，藤田昌久<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部，<sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 ICT)：血糖POCT機器の細菌汚染度調査とその後の対応．日本環境汚染学会総会（第24回），2009．2．
- 38) 宮田広樹<sup>1)</sup>，百瀬未来<sup>1)</sup>，三浦義彦<sup>1)</sup>，片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：レジメン管理のリスクの分散と薬剤師の役割：チーム医療におけるがん薬物療法標準化への薬剤師の取り組み．日本消化管学会総会学術集会（第5回），2009．2．
- 39) 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：薬剤セッション レジメンの管理に対する薬剤師の役割と今後の方針．日本消化管学会総会学術集会（第5回），2009．2．
- 40) 菅谷量俊<sup>1)</sup>，村田和也<sup>2)</sup>，片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部，<sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 薬剤科)：プロマックD錠のアルロイドG懸濁液中の安定性．日本薬学会（第129年会），2009．3．
- 41) 川上和宜<sup>2)</sup>，清水久範<sup>3)</sup>，渡辺和美<sup>4)</sup>，宮田広樹<sup>1)</sup>，野村久祥<sup>5)</sup>，長谷部忍<sup>6)</sup>，東加奈子<sup>7)</sup>，金井久子<sup>8)</sup>，伊藤百恵<sup>9)</sup>，村木泰子<sup>10)</sup>，川地香奈子<sup>10)</sup>，高橋美緒<sup>10)</sup>，藤本紀子<sup>10)</sup>，片山志郎<sup>1)</sup>，井上忠夫<sup>10)</sup>，その他1名 (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部，<sup>2)</sup> 癌研有明病院薬剤部，<sup>3)</sup> 昭和大学病院薬剤部，<sup>4)</sup> 東邦大学医療センター大森病院薬剤部，<sup>5)</sup> 杏林大学医学部付属病院薬剤部，<sup>6)</sup> 虎ノ門病院薬剤部，<sup>7)</sup> 東京医科大学病院薬剤部，<sup>8)</sup> 聖路加国際病院看護部，<sup>9)</sup> 東京慈恵会医科大学付属病院看護部，<sup>10)</sup> 武蔵野赤十字病院看護部 その他3)：東京都病院薬剤師会 がん専門薬剤師養成研究会の新たな挑戦：質の高いがん専門薬剤師養成を目指すAdvanced Classの立ち上げ．日本薬学会（第129年会），2009．3．
- 42) 富山弘野<sup>1)</sup>，森 洵子<sup>1)</sup>，菅谷量俊<sup>1)</sup>，平澤初枝<sup>1)</sup>，片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院薬剤部)：メサラジン錠の粉碎後安定性に関する検討．日本薬学会（第129年会），2009．3．
- 43) 輪湖哲也<sup>1)</sup>，伊勢雄也<sup>1)</sup>，佐治名保子<sup>1)</sup>，片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院薬剤部)：Carboplatinの過敏性反応発症後にCisplatinを用いた代替療法により治療を継続し得た卵巣癌1症例．日本薬学会（第129年会），2009．3．

## [付属病院生理機能センター]

### 研究概要

当センターの主な研究活動は，例年心臓リハビリテーションと超音波を中心に行われる．生理機能検査においては，日進歩の測定機器の進歩により高度な専門性を必要とする．そのため，基礎的な研究よりは，主に患者データを扱



う臨床的な研究テーマが多い。常に自己の技術や知識が直接データに反映されるため、我々スタッフは仕事に対する『誇り』を高いレベルで持ち続けており、医師からの信頼も厚い。

今年度は、心臓リハビリテーションでは、運動負荷試験中にみられる経皮炭酸ガス分圧異常と運動負荷時血圧反応の関係、心筋梗塞後患者における睡眠時無呼吸症候群が夜間血圧・心拍・心拍変動に及ぼす影響などを検討した。

超音波では、心血管疾患のみならず、糖尿病や腎疾患の臓器障害リスクの増大と相関する因子として注目されている胸部大動脈のstiffnessの検討、富士山山頂における低圧低酸素の心循環に及ぼす影響、肝腫瘍性病変の造影を目的とした超音波造影剤（ソナゾイド）の使用経験についてなど、幅広く検討した。

## 研究業績

### 学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) Nakata J<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>2)</sup>, Matsuzaki T, Tezuka A<sup>3)</sup>, Fujimoto H<sup>2)</sup>, Takagi I<sup>2)</sup>, Kobayashi Y<sup>2)</sup>, Mizuno K<sup>2)</sup> (1) CCU & ICU, 2) Division of Cardiology, Department of Medicine, 3) Student, Nippon Medical School) : Remarkable incidence of Pulmonary Hypertension Relating to Hypoxemia in Healthy Mountaineers at the Top of Mt. Fuji. 日本循環器学会総会・学術集会 (第72回), 2008. 3.

(1) 一般講演：

- 1) Kato M, Fukuma N<sup>1)</sup>, Sugaya J, Hayashi H<sup>1)</sup>, Ushijima A<sup>1)</sup>, Kimura Y<sup>1)</sup>, Aisu N<sup>1)</sup>, Tutida T<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>, Honma H, Kishida H<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Cardiology) : Oscillatory Ventilation during Exercise is Developed to Maintain Arterial Partial Pressure of Carbon Dioxide in Patients with Heart Failure. 日本循環器学会 (第73回), 2009. 3.
- 2) Ohno T<sup>1)</sup>, Honma H, Fujimoto H<sup>1)</sup>, Matsuzaki T, Yokoshima T<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>2)</sup>, Kumita S<sup>2)</sup> (1) Department of cardiology, 2) Department of Radiology) : Perioperative Risk Stratification by 64-Slice Multidetector Computed Tomography and Dobutamine Stress Echocardiography. 日本循環器学会総会・学術集会 (第73回), 2009. 3.
- 3) Nakata J<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>2)</sup>, Matsuzaki T, Takagi I<sup>3)</sup>, Kawamoto M<sup>4)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Mihara H<sup>2)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology Geriatrics, and Integrated Medicine, 2) Sakakibara Heart Institute, Department of Cardiology, 3) Department of Internal Medicine, Tsurumi University, School of Dentistry, 4) Department of Pathology) : Left ventricular Diastolic Dysfunction and Pulmonary Hypertension Relating to Hypoxemia contribute to High Altitude Pulmonary Edema (HAPE). 日本循環器学会総会・学術集会 (第73回), 2009. 3.
- 4) 松崎つや子, 高山守正<sup>1)</sup>, 手塚晶人<sup>2)</sup>, 藤本啓志<sup>1)</sup>, 高木郁代<sup>1)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 青木滝子<sup>3)</sup>, 五代儀新<sup>3)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), 2) 日本医科大学学生 (6年生), 3) GE 横河メディカルシステム (株)) : 富士山山頂における低圧低酸素の心循環に及ぼす影響 : strain rate imaging を用いて. 日本超音波医学会学術集会 (第81回), 2008. 5.
- 5) 中田 淳<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 松崎つや子, 手塚晶人<sup>3)</sup>, 藤本啓志<sup>1)</sup>, 高木郁代<sup>1)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), 2) (財) 日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院循環器内科, 3) 日本医科大学学生 (6年生)) : 富士山山頂における健常登山者の心肺機能の研究 : 低酸素血症と肺高血圧. 日本登山医学会学術集会 (第28回), 2008. 5.
- 6) 高山守正<sup>1)</sup>, 中田 淳<sup>2)</sup>, 松崎つや子, 藤本啓志<sup>2)</sup>, 手塚晶人<sup>3)</sup>, 高木郁代<sup>4)</sup>, 小林義典<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup> (1) (財)



- 日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院内科,<sup>2)</sup> 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門),<sup>3)</sup> 日本医科大学学生 (6年生),<sup>4)</sup> 鶴見大学歯学部附属病院内科): 高所環境における生体の心循環適応のメカニズム: 富士山頂測候所研究からの考察. 日本登山医学会学術集会 (第28回), 2008. 5.
- 7) 松崎つや子, 見友優子, 関野玲子, 田尾清一, 水瀬 学, 中村利枝, 藤本啓志<sup>1)</sup>, 大野忠明<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 胸部大動脈のStiffnessの検討. 日本超音波検査学会 (第33回), 2008. 6.
- 8) 加藤政利, 福岡長知<sup>1)</sup>, 菅谷寿理, 佐藤淳子, 竹田裕子, 齋藤公一, 林 寛子<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 土田貴也<sup>1)</sup>, 高橋 啓<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 経皮的炭酸ガス分圧からみた運動負荷時呼吸調節異常の検討. 心臓リハビリテーション学会 (第14回), 2008. 7.
- 9) 菅谷寿理, 福岡長知<sup>1)</sup>, 會田智弘, 吉田由紀子, 平野美子, 齋藤公一, 牛島明子<sup>1)</sup>, 加藤和代<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 心筋梗塞後心臓リハビリテーション患者における睡眠時無呼吸と経皮炭酸ガス分圧異常の関係. 日本心臓リハビリテーション学会 (第14回), 2008. 7.
- 10) 吉田由紀子, 菅谷寿理, 福岡長知<sup>1)</sup>, 會田智弘, 加藤政利, 佐藤淳子, 平野美子, 齋藤公一, 林 寛子<sup>1)</sup>, 牛島明子<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 高橋 啓<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 本間 博, 水野杏一<sup>1)</sup>, その他3名 (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 日本医科大学における心大血管疾患に対する心臓リハビリテーション. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
- 11) 田尾清一, 松崎つや子, 関野玲子, 見友優子, 中村利枝, 齋藤公一, 本間 博, 藤本啓志<sup>1)</sup>, 大野忠明<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 永山 寛<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門),<sup>2)</sup> 内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): 麦角系ドパミン作動薬による心臓弁膜症: 日常検査における弁膜障害の検討. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
- 12) 中村利枝, 古明地弘和<sup>1)</sup>, 見友優子, 田尾清一, 関野玲子, 水瀬 学, 松崎つや子, 齋藤公一<sup>1)</sup>, 宮元亮子<sup>1)</sup>, 清水秀治<sup>1)</sup>, 勝田悌実<sup>1)</sup>, 本間 博, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 超音波造影剤ペルフルブタンマイクロバブル製剤 (ソナゾイド) の使用経験. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
- 13) 本山正幸<sup>1)</sup>, 山本直史<sup>1)</sup>, 橋本雅夫<sup>1)</sup>, 二見章子<sup>1)</sup>, 大内基司<sup>1)</sup>, 渡邊健太郎<sup>1)</sup>, 鈴木達也<sup>1)</sup>, 中野博司<sup>1)</sup>, 大庭健三<sup>1)</sup>, 水瀬 学 (1) 老人科): 超高齢ネフローゼ症候群の1. 日本老年医学会関東甲信越地方会及び教育企画 (第48回), 2008. 9.
- 14) 藤本啓志<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 松崎つや子, 東 春香<sup>1)</sup>, 佐藤丞子<sup>1)</sup>, 横島友子<sup>1)</sup>, 安武ひろ子<sup>1)</sup>, 伊藤恵子<sup>1)</sup>, 大野忠明<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): ドパミン負荷中のlongitudinal strain rate imagingで収縮期伸展を示す心筋はviabilityがあるか?. 日本心臓病学会学術集会 (第56回), 2008. 9.
- 15) 松崎つや子: 成人における先天性心疾患の評価方法. JSS関東甲信越地方会 (第10回), 2008. 9.
- 16) 加藤政利, 福岡長知<sup>1)</sup>, 菅谷寿理, 會田智弘, 林 寛子<sup>1)</sup>, 牛島明子<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 土田貴也<sup>1)</sup>, 高橋 啓<sup>1)</sup>, 齋藤公一, 本間 博<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 換気調節異常と運動負荷時血圧反応. 日本高血圧学会 (第31回), 2008. 10.
- 17) 會田智弘, 福岡長知<sup>1)</sup>, 菅谷寿理, 加藤政利, 林 寛子<sup>1)</sup>, 牛島明子<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 土田貴也<sup>1)</sup>, 高橋 啓<sup>1)</sup>, 齋藤公一, 本間 博<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 夜間就寝中の血圧変動と心拍反応に関する検討. 日本高血圧学会総会 (第31回), 2008. 10.
- 18) 関野玲子, 永山 寛<sup>1)</sup>, 松崎つや子, 見友優子, 田尾清一, 水瀬 学, 中村利枝, 本間 博<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup> (1) 内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門),<sup>2)</sup> 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 麦角系ドパミン作動薬による心臓弁膜症と弁の超音波像. 日本超音波医学会 関東甲信越地方会学術集会 (第20回), 2008. 10.

- 19) 加藤政利, 福間長知<sup>1)</sup>, 菅谷寿理, 會田智弘, 林 寛子<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 土田貴也<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 心疾患患者における最大運動負荷時経皮的炭酸ガス分圧と収縮期血圧の関係. 日本臨床生理学会 (第45回), 2008. 11.
- 20) 會田智弘, 福間長知<sup>1)</sup>, 菅谷寿理, 加藤政利, 齋藤公一, 牛島明子<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 高橋 啓<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 心筋梗塞後患者における睡眠時無呼吸症候群が夜間血圧・心拍・心拍変動に及ぼす影響. 日本臨床生理学会総会 (第45回), 2008. 11.
- 21) 松崎つや子, 関野玲子, 見友優子, 田尾清一, 小川俊一<sup>1)</sup>, 阿部正徳<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup> (1) 小児科学, 2) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 左室緻密化障害に左室流出路狭窄を合併した1例. 超音波血流研究会 (第29回), 2008. 12.
- 22) 村田広茂<sup>1)</sup>, 大野忠明<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 藤本啓志<sup>1)</sup>, 高橋保裕<sup>1)</sup>, 宮内靖史<sup>1)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 重原健吾<sup>2)</sup>, 大川敬一<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 田尾清一, 見友優子, 関野玲子, 松崎つや子 (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), 2) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 食道走行の偏位が誘因となり, 経食道心エコーによる食道穿孔をきたした1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第210回), 2008. 12.
- 23) 加藤政利, 福間長知<sup>1)</sup>, 菅谷寿理, 會田智弘, 竹田裕子, 平野美子, 牛島明子<sup>1)</sup>, 土田貴也<sup>1)</sup>, 高橋 啓<sup>1)</sup>, 齋藤公一, 本間 博<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 運動負荷試験に見られる経皮炭酸ガス分圧異常と運動負荷時血圧反応の関係. 日本循環器学会 (第73回), 2009. 3.
- 24) 會田智弘, 福間長知<sup>1)</sup>, 菅谷寿理, 加藤政利, 吉田由紀子, 佐藤淳子, 林 寛子<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 齋藤公一, 本間 博<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 心筋梗塞後患者における睡眠時無呼吸症候群が夜間血圧・心拍・心拍変動に及ぼす影響. 日本循環器学会・学術集会 (第73回), 2009. 3.

## [付属病院看護部]

### 研究概要

看護部では, クリティカルケア領域で高度救命救急センター, 集中治療室, がん拠点病院として内科系病棟, 中央手術室, 専門看護師, 認定看護師などの研究報告が多く認められた。

### 研究業績

#### 論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) 木野毅彦: 災害看護に魅了された私の15年 (日本災害看護学会 災害看護メッセージ-備え-)。臨床看護 2008 ; 34 (2) : 286-287.
- (1) 原著:
  - 1) 倉藤晶子, 上村明子, 金子栄子, 金 徹<sup>1)</sup>, 野呂瀬嘉彦<sup>2)</sup>, 谷合信彦<sup>3)</sup>, 古川清憲, 田尻 孝 (1) 日本医科大学麻酔科, 2) 日本医科大学微生物学・免疫学, 3) 日本医科大学外科学): ラビング法による効果的な手術手指消毒の検討: 消毒手順と消毒効果. 日本手術医学会誌 2008 ; 29 (4) : 7-14.
- (2) 総説:
  - 1) 佐藤憲明: 熱傷患者の循環管理のポイント (熱傷の基礎知識とケアの実際). 臨床看護 2008 ; 34 (6) : 853-858.
  - 2) 木野毅彦: 熱傷患者・家族へのインフォームド・コンセント (熱傷の基礎知識とケアの実際). 臨床看護

2008 ; 34 (6) : 917-922.

- 3) 大貫朋子, 尾崎仁美, 古山景子, 高木 元<sup>1)</sup>, 宮元正章<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学内科学) : マゴットセラピー (MDT) とその後の看護 日本医科大学での取り組みと今後の課題. *Nursing Today* 2008 ; 23 (7) : 78-79.
- 4) 原田恭子 : 25AIVRとは何か?. 重症集中ケア 2008 ; 7 (7) : 53-54.
- 5) 原田恭子 : 26トルサード・ド・ポワンとは何か?. 重症集中ケア 2008 ; 7 (7) : 55-56.
- 6) 佐々木友子 : 6心不全患者のケア (循環器の3大疾患をスピード理解! 不整脈・急性心筋梗塞・心不全の治療とケア). *HEART nursing* 2008 ; 21 (11) : 56-63.
- 7) 竹原典子 : OJT実践指導マニュアル V. 気管挿管の準備と介助. *HANDS - ON* 2009 ; 4 (1) : 46-47.
- 8) 竹原典子 : OJT実践指導マニュアル VI. 止血. *HANDS - ON* 2009 ; 4 (1) : 48-49.
- 9) 竹原典子 : OJT実践指導マニュアル VII. チームメンバーへの応援要請. *HANDS - ON* 2009 ; 4 (1) : 50-51.
- 10) 竹原典子 : OJT実践指導マニュアル I. 意識レベルの把握. *HANDS - ON* 2009 ; 4 (1) : 38-39.
- 11) 竹原典子 : OJT実践指導マニュアル II. 気道確保. *HANDS - ON* 2009 ; 4 (1) : 40-41.
- 12) 竹原典子 : OJT実践指導マニュアル III. 人工呼吸. *HANDS - ON* 2009 ; 4 (1) : 42-43.
- 13) 竹原典子 : OJT実践指導マニュアル IV. 閉鎖式心臓マッサージ. *HANDS - ON* 2009 ; 4 (1) : 44-45.
- 14) 竹原典子 : 救命救急処置技術III. 人工呼吸 (OJT実践指導マニュアル). *HANDS - ON* 2009 ; 4 (1) : 42-43.
- 15) 竹原典子 : 救命救急処置技術IV. 閉鎖式心臓マッサージ (OJT実践指導マニュアル). *HANDS - ON* 2009 ; 4 (1) : 44-45.

## 著 書

- 1) 菊永恭子 : [分担] Q95インスリン注射をすると, 金額はどのぐらいになりますか?. そこが知りたい糖尿病ケアQ&A, 2008 ; pp204-205, 総合医学社.
- 2) 齊藤智子, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学第一内科) : [分担] Q25期外収縮を見つけた!! どうしたらよいの? (IV. 脈の不整). モニター心電図Q&A : 読み方と緊急ケアのすべて, 2008 ; pp58-61, 総合医学社.
- 3) 須藤絵美, 加藤浩司 (<sup>1)</sup> 日本医科大学第一内科) : [分担] Q35心拍が速い! どうしたらいいの? (V. 心拍が速い). モニター心電図Q&A : 読み方と緊急ケアのすべて, 2008 ; pp80-81, 総合医学社.
- 4) 戸澤友美, 山本 剛 (<sup>1)</sup> 日本医科大学第一内科) : [分担] Q43心房組動とは, どんな心電図なの?. モニター心電図Q&A : 読み方と緊急ケアのすべて, 2008 ; pp98-100, 総合医学社.
- 5) 和田奈央, 佐藤直樹 (<sup>1)</sup> 日本医科大学第一内科) : [分担] Q95心不全患者さんの心電図モニターは, どこに注意すればいいか教えて (XI. 成人病編). モニター心電図Q&A : 読み方と緊急ケアのすべて, 2008 ; pp213-215, 総合医学社.
- 6) 背戸陽子 : [分担] 消化器肛門ドレナージ (領域別ドレナージ). ドレナージ管理&ケアガイド (佐藤憲明), 2008 ; pp128-131, 中山書店.

## 学会発表

[追加分]

追加分ワークショップ :

- 1) 木野毅彦 : 当施設における看護師の派遣の現状 DMAT経験して 出勤までの準備マネジメント. 日本救急医学会関東地方会 (第58回), 2008. 2.

追加分一般講演 :

- 1) 内海清乃, 田中 茜, 山崎直人, 岩瀬加代子, 金浜英介, 福島綾子, 木野毅彦, 近藤久禎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学

付属病院高度救命救急センター)：大規模災害時における病院職員参集に関する意識調査. 日本集団災害医学会総会 (第13回), 2008. 2.

(1) シンポジウム：

- 1) 伊与恭子：当院における心肺蘇生教育の現状と課題. 日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会 (第32回), 2008. 5.
- 2) 西川律子：集中治療における終末期ケアに携わる看護師を支援することの重要性：リエゾン精神看護専門看護師が担うべき役割. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第17回) (東京都), 2008. 8.

(2) 一般講演：

- 1) 菊永恭子, 古山景子：外来糖尿病患者への支援の効果：治療状況別の支援内容の分析から. 日本糖尿病教育・看護学会, 2008. 9.
- 2) 鈴木由美, 渡辺裕子, 三宅秀彦<sup>1,2)</sup>, 浅野ありさ<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1,3)</sup>, 渡邊 淳<sup>1,4)</sup>, 島田 隆<sup>1,4)</sup> (<sup>1)</sup> 遺伝診療科, <sup>2)</sup> 葛飾赤十字産院産科, <sup>3)</sup> 小児科, <sup>4)</sup> 日本医科大学分子遺伝学)：日本医科大学付属病院遺伝診療科における看護職の役割の現状と課題. 日本遺伝カウンセリング学会 (第32回), 2008. 5.
- 3) 伊与恭子, 背戸陽子, 鈴木智恵子, 竹原典子, 伊藤博希, 佐藤憲明, 山本 剛<sup>1,3)</sup>, 青木 聡<sup>2)</sup>, 吉田伸子<sup>2)</sup>, 高山守正<sup>2,3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学心肺蘇生フォーラム, <sup>3)</sup> 榊原記念病院)：当院における心肺蘇生教育の現状と課題：院内急変調査からの一考察. 集中治療医学会関東甲信越地方会 (第17回), 2008. 8.
- 4) 渡邊通枝, 背戸陽子, 伊与恭子, 瀬戸利昌, 鈴木智恵子：集中治療室における既卒入職者の指導について. 集中治療医学会関東甲信越地方会 (第17回), 2008. 8.
- 5) 近藤秀士<sup>1)</sup>, 木村豊美<sup>1)</sup>, 坂本ゆみ<sup>1)</sup>, 志村知子, 稲田浩美, 石井暢明<sup>2)</sup>, 大木更一郎<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院栄養科, <sup>2)</sup> 日本医科大学形成・美容外科)：栄養管理の工夫を行い救命しえたガス壊疽を伴う広範囲仙骨部褥瘡の1例. 日本褥瘡学会 (第10回), 2008. 8.
- 6) 三原恵理, 稲田浩美, 志村知子, 百束比古<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学形成・美容外科)：弾性ストッキングによる褥瘡様スキントラブルの検討. 日本褥瘡学会 (第10回), 2008. 8.
- 7) 鈴木由美<sup>1)</sup>, 本間郁恵, 里見操緒<sup>2)</sup>, 菅野華子<sup>1,3)</sup>, 渡邊 淳<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 遺伝診療科, <sup>2)</sup> 産科, <sup>3)</sup> 小児科, <sup>4)</sup> 日本医科大学分子遺伝医学)：妊娠中に18トリソミーが判明した患児・家族への看護の1例第1報：診断確定から出産までの看護：その人らしい意思決定の支援とは？. 日本遺伝看護学会 (第7回), 2008. 9.
- 8) 垣内麻由美, 柿沼範子, 鈴木由美：妊娠中に18トリソミーが判明した患児・家族への看護の1例第2報：出生後の看護：患児と家族の絆を強くする看護とは？. 日本遺伝看護学会 (第7回), 2008. 9.
- 9) 古山景子, 菊永恭子, 尾崎仁美, 角田聖子, 高木 元<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学内科・再生医療科)：医療用ウジ治療に取り組んで明らかとなったPAD患者の治療上の問題点と今後の課題. 日本糖尿病教育・看護学会 (第13回), 2008. 9.
- 10) 中川まどか, 倉藤晶子, 上村明子, 山崎弓子, 金子栄子：日本語を話せない外国人手術患者への関わり：画用紙パネル使用の試み. 日本手術医学会 (第30回), 2008. 9.
- 11) 鈴木道代, 倉藤晶子, 上村明子, 金子栄子：手術終了を待つ患者家族の不安に対する手術室看護師の意識調査. 日本手術医学会 (第30回), 2008. 9.
- 12) 稲田浩美, 倉藤晶子, 坂本磨弥：腹臥位手術における褥瘡発生の実態調査. 日本手術医学会 (第30回), 2008. 9.
- 13) 苛原隆之<sup>1)</sup>, 近藤久禎<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 内海清乃, 木野毅彦 (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院救命救急センター)：2008年北海道洞爺湖サミットでの救急医療体制におけるモバイルICUの役割. 日本医科大学医学会 (第76回), 2008. 9.
- 14) 中川まどか, 倉藤晶子, 上村明子, 山崎弓子：日本語を話せない外国人手術患者へのコミュニケーション：画用紙パネル使用前後の苦手意識の変化. 日本手術看護学会 (第23回), 2008. 10.



- 15) 倉藤晶子, 上村明子, 金子栄子: 執刀前の手術チームミーティング「ブリーフィング」の効果 第1報患者・医師の評価. 日本手術看護学会 (第23回), 2008. 10.
  - 16) 上村明子, 倉藤晶子, 金子栄子: 執刀前の手術チームミーティング「ブリーフィング」の効果 第2報手術室看護師の評価. 日本手術看護学会 (第23回), 2008. 10.
  - 17) 福島綾子, 金浜英介, 田中 茜, 山崎直人, 岩瀬加代子, 佐々木健太郎, 内海清乃, 木野毅彦, 早坂百合子: 「緊急地震速報」その時あなたはどのようにする!?: 減災に対する意識調査を実施して. 日本救急看護学会総会 (第10回), 2008. 11.
  - 18) 金浜英介, 福島綾子, 田中 茜, 山崎直人, 岩瀬加代子, 佐々木健太郎, 内海清乃, 木野毅彦, 早坂百合子: 「救急地震速報」その時あなたはどのようにする!?: 行動マニュアルを使用した訓練を実施して. 日本救急看護学会総会 (第10回), 2008. 11.
  - 19) 西川律子, 深田陽子: がん看護に求められる専門看護師の協働. 日本がん看護学会学術集会 (第23回) (沖縄県 宜野湾市), 2009. 2.
- (3) 交流集会:
- 1) 木野毅彦: 基礎から学ぼう「救急初療室におけるフィジカルアセスメント」. 日本救急看護学会 (第10回), 2008. 11.
- (4) 示説:
- 1) 鈴木美幸, 金子真理子: 表在性膀胱がん術後で再発を繰り返す患者の心理状態について. 日本緩和医療学会学術大会 (第13回), 2008. 7.
  - 2) 石井暢明<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 稲田浩美, 近藤秀士<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学形成外科, 2) 日本医科大学付属病院栄養科): 広範囲褥瘡による敗血症性ショックからパッチ植皮を繰り返し行い救命しえた1例. 日本褥瘡学会 (第10回), 2008. 8.
  - 3) 稲田浩美, 三原恵理, 志村知子, 近藤秀士<sup>1)</sup>, 石井暢明<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学形成・美容外科): 大学病院における褥瘡ハイリスク患者ケアの現状. 日本褥瘡学会 (第10回), 2008. 8.
  - 4) 穂山真理: 悪性リンパ腫患者への医師のインフォームドコンセントにおける患者と医師の認識と看護師への期待. 日本がん看護学会 (第23回), 2009. 2.
  - 5) 関根典子, 加藤 真: 多罪併用化学療法を受ける血液疾患患者の食事に対する取り組み. 日本がん看護学会 (第23回), 2009. 2.
  - 6) 岩井昭子, 千田英理子, 深田陽子: A 大学付属病院におけるがん性疼痛緩和に関する患者指導の取り組み. 日本がん看護学会 (第23回), 2009. 2.
  - 7) 大久保利恵, 千葉香菜子, 佐々真理子, 背戸陽子, 鈴木智恵子: せん妄ケアの向上を目指して: 当CCUにおけるせん妄発症要因の調査. 日本集中治療医学会学術集会 (第36回), 2009. 2.

## [付属病院放射線科技師室]

### 研究概要

放射線科技術部門は、診療用画像検査全般および放射線治療を扱う部門である。一般X線撮影、CT、RI、MRI、血管撮影および放射線治療に関する研究を日常的に行っている。

一般撮影部門では、直接変換方式のフラットパネルの基礎検討および従来当院で使用している方式（CRシステム、間接型フラットパネル）との比較検討を行った。さらに、基礎データを基に、線量低減と画質処理パラメータの関係を比較し、被曝線量低減に向けた検討も行った。また、直接変換型のフラットパネルがX線撮影装置の主流に近い将来なると考えられ、その長期安定性に関しても検討を行った。

CT部門では、CT還流画像解析における動脈入力関数の設定値の違いによる影響を比較し、臨床に最も適した値



を決定した。

MRI部門では、撮像シーケンスの基礎的な検討を行い臨床に応用した。また、救急診療におけるMRI検査の在り方と題して、救急医療時のMRI検査手法と注意事項に関して報告した。

放射線科技術部門は、診療用画像検査全般を扱う部門であり、それぞれの部門ごとに毎年の研究テーマを決め、「正確な画像診断」を行うことが可能となる「よりよい画像データ」を書く診療科に提供できるように研究に取り組んでいる。また、知識・技術の向上のため、学会、研究会に積極的に参加している。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 今井 広<sup>1)</sup>、宮地利明<sup>2)</sup>、小倉明夫<sup>3)</sup>、土井 司<sup>4)</sup>、土橋俊男、町田好男<sup>5)</sup>、小林正人<sup>6)</sup>、清水幸三<sup>7)</sup>、木藤善浩<sup>8)</sup> (1) 安城厚生病院放射線技術科、2) 金沢大学医学系研究科、3) 京都市立病院放射線科、4) 奈良県立奈良病院中央放射線部、5) 東芝メディカルシステムズ株式会社MRI開発部、6) 長野市民病院診療放射線科、7) 奈良県立医科大学附属病院中央放射線部、8) 信州大学医学部附属病院放射線部)：差分マッピングおよび連続撮像法によるParallel MRI画像のSNR測定。日本放射線技術学会誌 2008；64 (8)：930-936。

#### (2) 総説：

- 1) 土橋俊男：造影剤使用時の撮像タイミング：pulse sequenceのコントラスト決定タイミングの理解。日本放射線技師会雑誌 2008；55 (673)：112-113。
- 2) 大湾朝仁：一般撮影分野でのFPDの普及が与える影響。月刊新医療 2008；62-64。
- 3) 川光秀昭<sup>1)</sup>、土橋俊男、宮地利明<sup>2)</sup>、杉本 博<sup>3)</sup>、土井 司<sup>4)</sup>、村中博幸<sup>5)</sup>、小倉明夫<sup>6)</sup>、松田 豪<sup>7)</sup>、奥秋知幸<sup>8)</sup> (1) 神戸大学医学部附属病院、2) 金沢大学医薬保健研究域保健学系、3) 東芝メディカルシステムズ株式会社、4) 大阪大学医学部附属病院、5) 広島市総合リハビリテーションセンター、6) 京都市立病院、7) GE横河メディカルシステム株式会社、8) 株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン)：3T-MR装置の安全性。日本放射線技術学会 2008；64 (12)：1575-1599。

### 学会発表

#### (1) 特別講演：

- 1) 土橋俊男：k-spaceから見たpulse sequenceと撮像技術および脂肪抑制技術。第9回茨城MRI情報交換会、2008. 5。

#### (2) シンポジウム：

- 1) 工藤正寿：骨盤内悪性腫瘍に対する閉鎖循環下骨盤内抗癌剤灌流療法（がん医療最前線）。第62回 東京都部会春期学術大会、2008. 5。
- 2) 松村善雄、土橋俊男：救急診療におけるMR撮影の在り方（救急検査のクオリティを考える：救急専門技師に求められるもの）。日本放射線技術学会、2008. 10。

#### (3) セミナー：

- 1) 土橋俊男：3T-MRIの使用状況（安全性を含めた1.5Tとの比較を中心に）。東京都放射線技師会、2008. 8。
- 2) 土橋俊男：MRIの基礎。日本放射線技師会、2008. 8。
- 3) 土橋俊男：安全管理（MRI集中講習会）。東京都放射線技師会、2008. 10。
- 4) 土橋俊男：MRI概論（MRセミナー2008）。日本放射線技術学会、2008. 11。
- 5) 土橋俊男：MRIの安全管理（MRIセミナー2008）。日本放射線技術学会、2008. 11。
- 6) 土橋俊男：MRIの基礎。日本放射線技師会、2009. 3。

(4) ワークショップ：

- 1) 土橋俊男：MRIの安全管理：高齢者，3T-MRIへの安全管理を含む「加齢のMRI診断：高齢者社会に向けて」．東京MRI研究会，2008．7．

(5) 一般講演：

- 1) 小川匡史，土橋俊男，松村善雄：リフォーカシングパルスのフィリップ角が画像に与える影響．日本放射線技術学会，2008．10．
- 2) 富士貴英，菅谷正範，工藤正寿，小林宏之，大湾朝仁，土橋俊男，岩木 健<sup>1)</sup> (1) 富士フィルム)：一般撮影用直接変換型FPDシステムの線量低減と画質処理パラメータ検討．日本放射線技術学会総会学術大会 (第63回)，2008．4．
- 3) 吉見 昌，犬貝雅徳，小林宏之，大湾朝仁，土橋俊男，岩木 健<sup>1)</sup> (1) 富士フィルム (株))：一般撮影用直接変換型FPDシステムの基本物理性能の検討：MTF，WS，DQEの検討．日本放射線技術学会総会学術大会 (第63回)，2008．4．
- 4) 高橋一哉，大湾朝仁，吉見 晶，田代順也，小林宏之，富士貴英，岩木 健<sup>1)</sup> (1) 富士フィルム (株))：一般撮影用直接変換型FPDシステムの視覚評価 CD-RADファントムによる胸部，腰椎評価．日本放射線技術学会総会学術大会 (第63回)，2008．4．
- 5) 田代順也，吉見 晶，小林宏之，大湾朝仁，土橋俊男，岩木 健<sup>1)</sup>，富士貴英 (1) 富士フィルム)：一般撮影用直接変換型FPDシステムの画質評価 CRシステム，間接変換型FPDシステムとの比較．日本放射線技術学会総会学術大会 (第63回)，2008．4．
- 6) 工藤正寿，齋藤久美子，村木巖太郎，秀永慎一，土橋俊男，高木 亮<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 放射線科医学教室)：CT灌流画像解析における動脈入力関数の設定に関する検討．日本放射線技術学会秋季学術大会 (第36回)，2008．10．
- 7) 菅谷正範，古崎治子，大湾朝仁，土橋俊男，網本直也<sup>1)</sup>，岩木 健<sup>2)</sup>，中島智明<sup>2)</sup> (1) 富士フィルムメディカル (株)，<sup>2)</sup> 富士フィルム (株))：一般撮影用直接変換型平面検出器における長期安定性の検証．日本放射線技術学会秋季学術大会 (第36回)，2008．10．
- 8) 吉見 晶，犬貝雅徳，小林宏之，大湾朝仁，土橋俊男，岩木 健<sup>1)</sup> (1) 富士フィルム (株))：一般撮影用直接変換型FPDシステムの基本物理性能の検討：管電圧依存性の検討．日本放射線技術学会秋季学術大会 (第36回)，2008．10．

## [付属病院ME部]

### 研究概要

ME部は，生命維持装置をはじめとするME機器，および，その周辺機器の操作，保守点検・管理を行なう部門であり，手術室業務，血液浄化療法業務，高圧酸素療法業務，救命救急・集中治療業務，心臓カテーテル業務，および中央管理業務などに関する研究をテーマとしている．平成20年度は，「業務内容の確立，チーム医療における役割」をテーマとし，手術室業務や集中治療領域・救命救急領域業務における臨床工学技士の業務の現状をまとめ，将来の可能性などについて追求した．また安全管理の観点から，業務の取り組みや方法などについて研究した．手術室業務においては，昨年度より業務を取り組み始めたペースメーカー・ICD業務において，トラブルを経験しそれを臨床工学分野の視点より報告した．高圧酸素療法においては，これまでの変遷をまとめ，かつ救命医学教室との協力の下，急性一酸化炭素中毒症例に対する治療プロトコルを検討した．救命救急・集中治療領域においては，急性血液浄化療法，特に fulminant hepatic failure に対する血液浄化療法の症例を報告し，その有用性・技術的な工夫などについて検討を行なった．

人工呼吸器の研究では，日本ではあまり用いられていないモードについて肺シミュレーターを用いて研究し，その

有用性について検討した。また、最近よく臨床で用いられている人工呼吸器のモードについて、その安全性と有用性について研究した。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 松田範子, 黄川田信允, 島崎弥生, 滝沢隆雄<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>2)</sup>, 徳永 昭<sup>3)</sup>, 坂本篤裕<sup>4)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup> 日本医科大学 外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学内科・再生医療科, <sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター,  
<sup>4)</sup> 日本医科大学麻酔科)：日本医科大学における高気圧酸素治療の変遷。日本高気圧環境・潜水医学会関東地方会誌 2009；19-22.

#### (2) 総説：

- 1) 野口裕幸：気管チューブ・カフ圧計・吸引器（ナースのためのICU・CCUで使うME機器パーフェクトブック）. ハートナーシング 2008；2008春季増刊（276）：83-90.
- 2) 野口裕幸：特集 今年こそ苦手克服！ 一問一答で分かる血液ガス・酸塩基平衡 1 患者の肺酸素化能：PaO<sub>2</sub> はこう読む (2). 呼吸器ケア 2008；6（9）：45-50.

### 著書

- 1) 中西一浩, 鈴木健一：〔分担〕症例検討；モニタリングをめぐるトラブルとその対処法低体温人工心肺中，直腸温，食道温，鼓膜温が大きく異なっている。LISA（Life Support and Anesthesia）（稲田英一），2008；pp489-491，メディカル・サイエンス・インターナショナル.

### 学会発表

#### (1) シンポジウム：

- 1) 鈴木健一：認定看護師の役割と実際：MEの立場から。日本手術医学会（第30回），2008. 9.
- 2) 鈴木健一：手術室におけるCE業務の現状と可能性。日本臨床麻酔学会（第28回）CEオープンカンファレンス，2008. 11.
- 3) 松田範子, 黄川田信允, 前田美紀, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 滝沢隆雄<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>2)</sup>, 坂本篤裕<sup>3)</sup>, 徳永 昭<sup>4)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup> 日本医科大学 外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 内科・再生医療科, <sup>3)</sup> 日本医科大学 麻酔科, <sup>4)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター)：糖尿病性および末梢動脈閉塞症による難治性潰瘍の治療～骨髄幹細胞移植と高気圧酸素療法：（糖尿病性・難治性末梢動脈疾患に対する高気圧酸素治療）。日本高気圧環境・潜水医学会総会（第43回），2008. 11.
- 4) 野口裕幸：臨床工学技士による集中治療業務（どこまで行なうべきか，業務内容を中心に）（臨床工学技士の臨床の係わり合い）。日本集中治療医学会学術集会（第36回），2009. 2.

#### (2) パネルディスカッション：

- 1) 鈴木健一：手術医療における臨床工学技士に求められる新たな発想。日本手術医学会（第30回），2008. 9.

#### (3) ワークショップ：

- 1) 野口裕幸, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 麻酔科学, <sup>2)</sup> 救急医学)：当院高度救命救急センターにおける臨床工学技士のかかわりについて（臨床工学技士は救命救急医療にいかにかかわるか）。日本医工学治療学会第24回学術大会（千葉），2008. 4.
- 2) 野口裕幸, 鎌田隆行, 前田美紀, 黄川田信允, 高田友人, 山本 剛<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院集中治療室, <sup>2)</sup> 麻酔科学)：CRRTからの離脱：当院CCU/ICUにおける方法。日本集中治療医学会関東甲信越地方会（第17回）（東京），2008. 8.

(4) 一般講演：

- 1) Noguchi H, Lonny JA<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Respiratory Care, Boise State University, Boise, Idaho ) : Accuracy of Delivered tidal Volume Using Adaptive Support Ventilation on The Hamilton G5 When Ventilating an Electronic Test Lung Simulating Copd and Ards. American Association for Respiratory Care International Respiratory Congresses (54th) (Anaheim, California), 2008. 12.
- 2) 黄川田信允, 鈴木 完, 前田美紀, 河野里枝, 鎌田隆行, 野口裕幸, 坂本篤弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院麻酔科) : ALSの著効により救命し得た劇症肝不全の1例. 日本臨床工学会 (第18回), 2008. 5.
- 3) 横山大佑<sup>1)</sup>, 高橋真弓<sup>1)</sup>, 三宅直樹<sup>1)</sup>, 土屋直俊<sup>1)</sup>, 原 正高<sup>1)</sup>, 鈴木健一<sup>1)</sup>, 野口裕幸<sup>1)</sup>, 吉田 晃<sup>1)</sup>, 村田智<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 金 徹<sup>3)</sup>, 坂本篤裕<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 ME部, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 放射線科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院 麻酔科) : 当院における「NIPP」の体外循環法 (第2報). 日本臨床工学会 (第18回), 2008. 5.
- 4) 松田範子, 黄川田信允, 滝沢隆雄<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>2)</sup>, 徳永 昭<sup>3)</sup>, 坂本篤裕<sup>4)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 内科・再生医療科, <sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>4)</sup> 日本医科大学 麻酔科) : 日本医科大学における高気圧酸素治療の変遷. 日本高気圧環境・潜水医学会関東地方会総会 (第8回), 2008. 6.
- 5) 前田美紀<sup>1)</sup>, 高田友人<sup>1)</sup>, 黄川田信允<sup>1)</sup>, 白石振一郎<sup>2)</sup>, 鎌田 隆行<sup>1)</sup>, 野口裕幸<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 ME部, <sup>2)</sup> 同 高度救命センター, <sup>3)</sup> 同 麻酔科) : 溺水による心肺停止をきたした高度偶発性低体温症の救命例. 第17回日本集中治療学会 関東甲信越地方会, 2008. 8.
- 6) 高橋真弓<sup>1)</sup>, 鈴木健一<sup>1)</sup>, 土屋直俊<sup>1)</sup>, 三宅直樹<sup>1)</sup>, 横山大佑<sup>1)</sup>, 鈴木 完<sup>1)</sup>, 河野里枝<sup>1)</sup>, 野口裕幸<sup>1)</sup>, 坂本篤弘<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 ME部, <sup>2)</sup> 同麻酔科) : 手術室内の機器管理業務を始めて. 第30回日本手術医学会総会, 2008. 9.
- 7) 黄川田信允, 前田範子, 横堀將司<sup>1)</sup>, 白石振一郎<sup>1)</sup>, 宮内雅人<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>2)</sup>, 滝沢隆雄<sup>2)</sup>, 田尻孝<sup>2)</sup>, 徳永 昭<sup>3)</sup>, 坂本篤弘<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 付属病院外科, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>4)</sup> 付属病院麻酔科) : 急性一酸化炭素中毒の治療症例と治療プロトコールの検討. 日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 (第43回), 2008. 10.
- 8) 横山大佑<sup>1)</sup>, 鈴木健一<sup>1)</sup>, 高橋真弓<sup>1)</sup>, 三宅直樹<sup>1)</sup>, 土屋直俊<sup>1)</sup>, 原 正高<sup>1)</sup>, 野口裕幸<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 坂本篤裕<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 ME部, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 放射線科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院 麻酔科) : 当院における「NIPP」の体外循環法. 心臓血管外科ウインターセミナー (第23回), 2009. 1.
- 9) 高橋真弓<sup>1)</sup>, 鈴木健一<sup>1)</sup>, 土屋直俊<sup>1)</sup>, 三宅直樹<sup>1)</sup>, 横山大佑<sup>1)</sup>, 鈴木 完<sup>1)</sup>, 粟屋俊輔<sup>1)</sup>, 野口裕幸<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>2)</sup>, 新田 隆<sup>3)</sup>, 落 雅美<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 ME部, <sup>2)</sup> 同麻酔科, <sup>3)</sup> 同心臓血管外科) : 当院におけるペースメーカー・ICD業務. 第23回心臓血管外科学会ウインターセミナー, 2009. 1.
- 10) 土屋直俊<sup>1)</sup>, 鈴木健一<sup>1)</sup>, 粟屋俊輔<sup>1)</sup>, 鈴木 完<sup>1)</sup>, 高橋真弓<sup>1)</sup>, 三宅直樹<sup>1)</sup>, 杉山千紘<sup>1)</sup>, 横山大祐<sup>1)</sup>, 野口裕幸<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 大森裕也<sup>2)</sup>, 新田 隆<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 ME部, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : ICDリード断線により再手術に至った1症例. 第1回植込みデバイス関連冬季大会, 2009. 2.

(5) ポスター発表：

- 1) 鎌田隆行, 野口裕幸, 前田美紀, 黄川田信允, 三井誠司<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 本郷 卓<sup>1)</sup>, 坂本篤弘<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院集中治療室, <sup>2)</sup> 麻酔科学講座) : 胸部大動脈疾患術後患者に対する Airway Pressure Release Ventilation (APRV) を用いた呼吸管理. 日本集中治療医学会学術集会 (第36回), 2009. 2.

## [ワクチン療法研究施設]

### 研究概要

当研究施設は、1972年（昭和47）、故丸山千里名誉教授により、人型結核菌体抽出物質（SSM）を中心とした免疫療法による悪性腫瘍、感染症ならびに難治性疾患の治療および予防等の研究のために設立されたものである。以来、2008年度末（2009年3月末）までの36年間に登録されたSSM使用悪性腫瘍患者は累計382, 208名に達しており、一施設としては世界にも比をみないと思われる膨大な症例数に及んでいる。これらの患者のほとんどが学外診療施設からの紹介患者であることと、その大多数がいわゆる進行期癌であることは、癌治療における当研究施設の責務の重大さを窺わせるものである。また、当研究施設は、SSM有償治験の基幹治験施設となっているため、多いときには、一日あたり、初診、再診および郵送による申し込みを含めると350名前後の患者を迎えており、これらの患者に対する各共同治験担当医師からの臨床成績経過書に基づいてSSMの処方と各治験担当医師との協議を行っている。

現在は、治験登録者について得られた情報を基に、SSMの本来の使用目的といえるBRM（Biological Response Modifiers）としての作用および癌免疫療法としての作用について、特に進行期癌におけるQOL（Quality of Life）向上と延命効果の立場から、当研究施設のごとく多大な患者数を基にして可能となる臨床生命表を作成し、SSM療法の優れた点についての検討や既存の治療法との併用時における効果的な使用法の検討等を行っている。特に長期生存者については背景要因の解析、延命効果におよぼす要因の影響の検討を行っている。また、SSMの経口投与の可能性ならびに癌予防への応用についても基礎的実験を重ねている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Mitsuishi T<sup>1</sup>), Nakatake M<sup>2</sup>), Kaneko T<sup>3</sup>), Ohara K<sup>4</sup>), Kato T<sup>5</sup>), Iida K, Iwabu Y<sup>5</sup>), Tokunaga K<sup>5</sup>), Sata T<sup>5</sup>), Kawana S<sup>1</sup>), Yamada O<sup>2</sup>) (1) Department of Dermatology, 2) Medical Research Institute, Tokyo Women's Medical University, 3) Department of Dermatology, Douai Memorial Hospital, 4) Department of Dermatology, Toranomon Hospital, 5) Department of Pathology, National Institute of Infectious Diseases) : Evaluation of telomerase activity in non-genital Bowen's disease. J Eur Acad Dermatol Venereol 2009 ; 23 (6) : 668-672.

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) 飯田和美：丸山ワクチンと免疫。第70回先端医療福祉開発研究会，2008。7。

## [呼吸ケアクリニック]

### 研究概要

平成15年12月に日本医大旧第4内科の一部門として日本医大呼吸ケアクリニックを開設した。診療項目はCOPD、気管支喘息、睡眠時無呼吸症候群（SAS）、在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法にほぼ特化した形で、全体の85%以上を占めるに至っておりこれら専門性の高い診療項目の推進が特徴である。これらの専門診療のうち特にCOPDに関して基礎的、臨床的な研究を進めてきた。1) 基礎研究COPDのbiomarkerの探査研究を実施しており特に呼気ガスの研究とCOPDのSNPs研究を推進している。SNPsの差異がclinical phenotypeにどのように反映するかをテーマとしておりSNPsは理化学研究所のグループとの共同研究と進め、すでに終了した約2000例の解析結果をまとめる作業に入っており候補遺伝子の絞り込み作業を行っている。またここで選択した遺伝子の妥当性を確かめるため東京都老人



医療センター（現、東京都健康長寿医療センター）における連続剖検，約1500例の解析を実施している．これらは東京医科歯科大学との共同研究として進めている．2）臨床研究英国，プリマス大学との共同研究による呼吸ケアの新評価基準Lung Information Needs Questionnaire（LINQ）の開発を行い共同で「LINQによる包括的呼吸ケア」（医学書院）刊，2006）を刊行さらに学会および論文発表を行っている．「慢性呼吸不全の包括的呼吸ケア」（南江堂刊，2007）を刊行した．また研究成果は国際学会を含む多くの発表を行い，また英文論文として発表した．特にCOPDの日常診療の中で多面的評価に評価しこれが予後と密接に関係することを明らかにしたDOSE indexをイギリス，オランダの各専門研究者と共同開発した．

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Kurosaki H<sup>1)</sup>, Ishii T<sup>1)</sup>, Motohashi N<sup>1)</sup>, Motegi T<sup>1)</sup>, Yamada K<sup>1)</sup>, Kudoh S<sup>1)</sup>, Jones CR<sup>2)</sup>, Kida K<sup>1)</sup> (1) Dept. of Pulmonary Medicine, Infection, and Oncology ; Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School, (2) Respiratory Research Unit, Peninsula Medical School) : Extent of Emphysema on HRCT Affects Loss of Fat-free Mass and Fat Mass in COPD. Intern Med 2009 ; 48 (1) : 41-48.
- 2) 花田匡利<sup>1,2)</sup>, 千住秀明<sup>1)</sup>, 髻谷 満<sup>3)</sup>, 菊野佑仁<sup>1)</sup>, 及川真人<sup>1)</sup>, 大嶋 崇<sup>1)</sup>, 大曲正樹<sup>1)</sup>, 北川知佳<sup>1)</sup>, 藤本澄江<sup>4)</sup>, 後藤 尚<sup>4)</sup>, 神津 玲<sup>2)</sup>, 本田純久<sup>5)</sup>, 木田厚瑞<sup>6,7)</sup> (1) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻, (2) 長崎大学医学部・歯学部附属病院リハビリテーション部, (3) 兵庫医科大学病院リハビリテーション部, (4) 長崎県北保健所, (5) 長崎大学熱帯医学研究所附属熱帯感染症研究センター, (6) 日本医科大学内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）, (7) 日本医科大学呼吸ケアクリニック）：住民基本健診でのCOPD早期診断システムの有用性：11-Qを第1次スクリーニングに用いて．日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 2008 ; 18 (1) : 49-53.

#### (2) 総説：

- 1) 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）, (2) 日本医科大学呼吸ケアクリニック）：高齢社会の医療：欧米の後追いは失敗する．化学療法の領域 2008 ; 24 (5) : 117-119.
- 2) 森井恵子<sup>1,2)</sup>, 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）, (2) 日本医科大学呼吸ケアクリニック）：COPDとの鑑別，COPD合併例の治療について教えてください．Q&Aでわかるアレルギー疾患 2008 ; 4 (4) : 406-408.
- 3) 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）, (2) 日本医科大学呼吸ケアクリニック）：研究紹介：COPDの臨床研究をどのように進めてきたか．金沢大学十全医学会雑誌 2008 ; 117 (3) : 96-97.
- 4) 茂木 孝<sup>1,2)</sup>, 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）, (2) 日本医科大学呼吸ケアクリニック）：COPDとうっ血性心不全．medicina 2008 ; 63 (9) : 1605-1608.
- 5) 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）, (2) 日本医科大学呼吸ケアクリニック）：プライマリー・ケアのための奨励から学ぶCOPD 第9回：緊密な医療連携でCOPD診療のレベルを上げる．COPD Frontier 2008 ; 7 (2) : 119-123.
- 6) 石井健男<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）, (2) 日本医科大学呼吸ケアクリニック）：シンポジウムIV COPDにみられる併存症としての“うつ”傾向．日本呼吸ケアリハビリテーション学会誌 2008 ; 18 (2) : 117-121.
- 7) 茂木 孝<sup>1,2)</sup>, 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）, (2) 日本医科大学呼吸ケアクリニック）：呼吸ケアと地域医療連携 呼吸ケアにおける地域連携の現状と課題：専門医の意見を中心に．日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 2008 ; 18 (2) : 125-129.
- 8) 服部久弥子<sup>1,2)</sup>, 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）, (2) 日本医科大学呼吸ケ

アクリニック)：難治性肺炎．日本臨床別冊呼吸器症候群I 2008；322-325.

- 9) 茂木 孝<sup>1,2)</sup>，木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門)，<sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック)：特集 COPDの予後を左右する合併疾患 1. 心血管障害．COPD Frontier 2008；7 (1)：50-55.
  - 10) 茂木 孝<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門)，<sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック)：【高齢者におけるCOPD】 COPDの早期診断 特に発症前の At riskを再考する．Geriatric Medicine 2009；47 (2)：191-196.
- (3) その他：
- 1) 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門)，<sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック)：質疑応答「内科」患者への禁煙指導の資料．日本医事新報 2009；(4427)：104-106.
  - 2) 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門)，<sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック)：「解説」ウォール街に衝撃を与えたデータ解析の信憑性．MMJ (The Mainichi Medical Journal) 2009；5 (3)：158-158.

## 著 書

- 1) 黒崎央子<sup>1,2)</sup>，木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門)，<sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック)：〔分担〕COPDの治療の考え方 COPDの管理目標 症状改善．COPDのすべて (工藤翔二 (監修)，永井厚志，一ノ瀬正和 (編集))，2008；pp166-168，文光堂.
- 2) 本橋典久<sup>1,2)</sup>，木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門)，<sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック)：〔分担〕III-D. 増悪時の管理3. 在宅での治療．COPDのすべて (工藤翔二 (監修)，永井厚志，一ノ瀬正和 (編集))，2008；pp260-262，文光堂.
- 3) 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門)，<sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック)：〔自著〕肺の生活習慣病 (COPD)：咳，痰，息切れを疑う，2008；pp1-234，中央公論新社.
- 4) 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門)，<sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック)：〔自著〕よくわかる最新医学 COPD 慢性閉塞性肺疾患，2008；pp1-159，主婦の友社.

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門)，<sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック)：禁煙治療はどのように変わったか？．日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第18回)，2008. 10.

### (2) 一般講演：

- 1) Ishii T<sup>1,2)</sup>，Wakabayashi R<sup>1,2)</sup>，Morii K<sup>1,2)</sup>，Ohta H，Kurosaki H<sup>1,2)</sup>，Motohashi N<sup>1,2)</sup>，Motegi T<sup>1,2)</sup>，Yamada K<sup>1,2)</sup>，Kida K<sup>1,2)</sup> (1) Dept. of Pulmonary Medicine, Infection and Oncology, Nippon Medical School，<sup>2)</sup> Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School)：The factors related to depressive symptoms in chronic obstructive pulmonary disease. American Thoracic Society 2008 (Toronto)，2008. 5.
- 2) Wakabayashi R<sup>1,2)</sup>，Ishii T<sup>1,2)</sup>，Motegi T<sup>1,2)</sup>，Kurosaki H<sup>1,2)</sup>，Motohashi N<sup>1,2)</sup>，Yamada K<sup>1,2)</sup>，Gemma A<sup>1)</sup>，Kida K<sup>1,2)</sup> (1) Dept. of Pulmonary Medicine, Infection and Oncology, Nippon Medical School，<sup>2)</sup> Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School)：The effect of nocturnal oxygen therapy on exercise capacity, dyspnea, and quality of life in COPD. ERS Annual Congress 2008 (Berlin)，2008. 10.
- 3) 石井健男<sup>1,2)</sup>，若林律子<sup>1,2)</sup>，森井恵子<sup>1,2)</sup>，太田英男，黒崎央子<sup>1,2)</sup>，本橋典久<sup>1,2)</sup>，茂木 孝<sup>1,2)</sup>，山田浩一<sup>1,2)</sup>，木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門)，<sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック)：慢性閉塞性肺疾患における鬱症状規定因子の検討．日本呼吸器学会学術講演会 (第48回)，2008. 6.
- 4) 若林律子<sup>1,2)</sup>，石井健男<sup>1,2)</sup>，茂木 孝<sup>1,2)</sup>，本橋典久<sup>1,2)</sup>，黒崎央子<sup>1,2)</sup>，山口敬子，瀬川佳余，藤田亜紀，古館

- 隆子, 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : COPD 患者における夜間 12 時間酸素療法の効果. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 18 回), 2008. 10.
- 5) 古舘隆子, 石井健男<sup>1,2)</sup>, 茂木 孝<sup>1,2)</sup>, 本橋典久<sup>1,2)</sup>, 黒崎央子<sup>1,2)</sup>, 山口敬子, 瀬川佳余, 若林律子<sup>1,2)</sup>, 藤田亜紀, 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : 慢性閉塞性肺疾患における内臓脂肪面積およびメタボリック症候群の評価. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 18 回), 2008. 10.
- 6) 千住秀明<sup>1)</sup>, 神津 玲<sup>2)</sup>, 北川知佳<sup>1)</sup>, 渡邊 尚<sup>3)</sup>, 本田純久<sup>4)</sup>, 木田厚瑞<sup>5,6)</sup> (1) 長崎大学保健学専攻, <sup>2)</sup> 長崎大学, <sup>3)</sup> 松浦市民病院内科, <sup>4)</sup> 長崎大学熱帯医学研究所, <sup>5)</sup> 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>6)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : 50 歳~80 歳までの M 市住民の COPD 有病率 COPD 対策委員会の活動から. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 48 回), 2008. 10.
- 7) 茂木 孝<sup>1,2)</sup>, 島 正之<sup>3)</sup>, 新田裕史<sup>4)</sup>, 小野雅司<sup>4)</sup>, 大原利真<sup>4)</sup>, 中井里史<sup>5)</sup>, 中館俊夫<sup>6)</sup>, 溝上哲也<sup>7)</sup>, 棟方充<sup>8)</sup>, 粒来崇博<sup>9)</sup>, 佐藤俊哉<sup>10)</sup>, 木田厚瑞<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック, <sup>3)</sup> 兵庫医科大学, <sup>4)</sup> 国立環境研究所, <sup>5)</sup> 横浜国立大学環境情報研究院, <sup>6)</sup> 昭和大学, <sup>7)</sup> 国立国際医療センター国際保健医療研究部, <sup>8)</sup> 福島県立医科大学, <sup>9)</sup> 国立病院機構相模原病院臨床研究センター, <sup>10)</sup> 京都大学) : スパイロメトリーと質問票による閉塞性換気障害の一般住民スクリーニングに関する検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 48 回), 2008. 10.

## [付属病院東洋医学科]

### 研究概要

ウイルスなどの侵入を受けた細胞は, 細胞内で複製したウイルス断片を細胞表面に抗原提示分子と共に提示し免疫系に伝達する. 通常これら情報提示分子は細胞表面にバラバラに散在しているが, 免疫系を活性化するためには細胞膜脂質二重層の上に筏 (lipid raft) の様に凝集し, その中に抗原提示分子が集合することが必須である. しかしながら細胞表面に誘発された脂質局在化はエネルギーや血液の循環障害を惹起し様々な様態を作り出すとも言える. こうした病態の改善には, 局在化した脂質を再分配し, 細胞膜を構成する脂質二重層を元の状態に戻すことが重要である. 脂質の局在化の改善ならびに粘膜免疫システムの調整作用を有するのが, 生薬中の柴胡や人参などのサポニン (シャボン) 群, そして粘膜内の修復過程を促進する  $\gamma$   $\delta$  型 T 細胞群, 薄荷などの精油 (エッセンシャルオイル) 群と考えられる. このような視点から, 樹状細胞群や, NKT 細胞,  $\gamma$   $\delta$  型 T 細胞などの体表面に局在する自然免疫系担当細胞群に生薬抽出物質が影響を及ぼすかを検討するための前段階として, 植物系細菌群に属し強い免疫活性化能を有すると推測される結核菌に着目し, BCG による粘膜自然免疫系活性化能を検討し, その作用の一端を明らかにすることができた (Cancer Immunol. Immunother, 2009). また, コレラ毒素が樹状細胞活性化を介して皮膚・粘膜局所の強い免疫応答を誘発し, 皮膚・粘膜から発生した腫瘍の成長が抑制されることを明らかにした (J. Immunol, 2008). さらに, こうした粘膜自然免疫制御の鍵を握る樹状細胞群の中でも共刺激分子として B7-H2 分子を発現するものが腫瘍増殖性の鍵を握ることを明らかにした (Clin. Cancer Res, 2008). 現在こうした樹状細胞群の生薬抽出成分等による選択的活性化による体内制御法の開発研究に取り組んでいる.

### 研究業績

#### 論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Yamashita T<sup>1)</sup>, Tamura H<sup>1)</sup>, Satoh C<sup>1,2)</sup>, Shinya E<sup>3)</sup>, Takahashi H, Chen L<sup>4)</sup>, Kondo A<sup>1)</sup>, Tsuji T<sup>5)</sup>,

Dan K<sup>1)</sup>, Ogata K<sup>1)</sup> (1) Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Bioregulation, Institute of Development and Aging Science, Nippon Medical School, 3) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 4) Department of Dermatology, Department of Oncology and Institute for Cell Engineering, Johns Hopkins University School of Medicine, 5) Department of Biological Science and Technology, Tokyo University of Science) : Functional B7. 2 and B7-H2 molecules on myeloma cells are associated with a growth advantage. *Clinical Cancer Research* 2008 ; 15 (3) : 770-777.

2) Wakabayashi A<sup>1)</sup>, Nakagawa Y<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Moriya K<sup>1)</sup>, Nishiyama Y<sup>1)</sup>, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Suppression of an already established tumor growing through activated mucosal CTLs induced by oral administration of tumor antigen with cholera toxin. *Journal of Immunology* 2008 ; 180 (6) : 4000-4010.

追加分総説 :

- 1) 若林あや子<sup>1)</sup>, 高橋秀実 (1) 日本医科大学微生物学・免疫学) : 感染症と栄養・機能性食品. *日本機能性食品学会誌* 2008 ; 4 (6) : 373-380.
- 2) 平馬直樹, 秋葉哲生<sup>1)</sup> (1) あきば伝統医学クリニック) : 江戸の医案を読む 第4回 尾台榕堂『方伎雑誌』よりその2. *伝統医学* 2008 ; 11 (1) : 46-53.

(1) 原著 :

- 1) Fukazawa, Y<sup>1)</sup>, Miyake A<sup>1,2)</sup>, Ibuki K<sup>1)</sup>, Inaba K<sup>1)</sup>, Saito N<sup>1)</sup>, Motohara M<sup>1)</sup>, Horiuchi R<sup>1)</sup>, Himeno A<sup>1)</sup>, Matsuda K<sup>1)</sup>, Matsuyama M<sup>1)</sup>, Takahashi H, Hayami M<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>1)</sup>, Miura T<sup>1)</sup> (1) Laboratory of Primate Model, Experimental Research Center for Infectious Diseases, Institute for Virus Research, Kyoto University, 2) Department of Medical Genome Sciences, Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo) : Small intestine CD4<sup>+</sup> T cells are profoundly depleted during acute simian-human immunodeficiency virus infection, regardless of viral pathogenicity. *Journal of Virology* 2008 ; 82 (12) : 6039-6044.
- 2) Higuchi T<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Owaki A<sup>1)</sup>, Takahashi M<sup>1)</sup>, Shinya E<sup>1)</sup>, Nishimura T<sup>2)</sup>, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Department of Urology, Nippon Medical School) : A possible mechanism of intravesical BCG therapy for human bladder carcinoma : involvement of innate effector cells for the inhibition of tumor growth. *Cancer Immunology, Immunotherapy* 2009 ; 58 (8) : 1245-1255.

(2) 総説 :

- 1) 藤田 勇 : 突発性難聴に対する鍼灸治療～局所穴を中心として～. *東洋医学鍼灸ジャーナル* 2008 ; 5 : 88-94.
- 2) 高橋めぐみ<sup>1)</sup>, 高橋秀実 (1) 日本医科大学微生物学・免疫学) : 遊離抗原によるCD8<sup>+</sup>T細胞のアポトーシス誘導. *臨床免疫・アレルギー科* 2008 ; 49 : 373-380.
- 3) 高橋秀実 : HIV感染伝播における母乳中細胞の役割. *血液フロンティア* 2008 ; 18 (5) : 45-51.
- 4) 高橋秀実 : HIVに対する防御・細胞性免疫の役割. *治療* 2008 ; 42 (5) : 72-76.
- 5) 平馬直樹, 秋葉哲生<sup>1)</sup> (1) あきば伝統医学クリニック) : 江戸の医案を読む 第5回 和田東郭『蕉窓雑話』よりその1. *伝統医学* 2008 ; 11 (2) : 100-108.
- 6) 平馬直樹, 秋葉哲生<sup>1)</sup> (1) あきば伝統医学クリニック) : 江戸の医案を読む 第6回 和田東郭『蕉窓雑話』よりその2. *伝統医学* 2008 ; 11 (3) : 160-167.
- 7) 高橋秀実 : HIV : ヒト免疫不全ウイルス感染と樹状細胞. *実験医学* 2008 ; 26 (20) : 157-163.
- 8) 高橋秀実 : 日本医科大学微生物学・免疫学講座. *ウイルス* 2008 ; 58 (2) : 232-234.
- 9) 平馬直樹, 秋葉哲生<sup>1)</sup> (1) あきば伝統医学クリニック) : 江戸の医案を読む 第7回 山田業精『井見集付録』

よりその1. 伝統医学 2008 ; 11 (4) : 214-221.

- 10) 平馬直樹：夏負け2態. 山梨中国医学研究会第100回開催記念誌 2008.
- 11) 平馬直樹：皮膚疾患の漢方治療の進め方. 温知会会報 2008.
- 12) 福岡豊永, 奥村江里：興味深い針灸症例／在宅医療における中医学：CRPSの症例. 中医臨床 2008 ; 28 (4).
- 13) 高橋秀実：漢方薬の解表作用：細胞膜上に局在化した脂質の融解と再分配の誘発. 漢方医学 2009 ; 33 (1) : 285-290.
- 14) 高橋秀実：BCGによる自然免疫の活性化. 泌尿器外科 2009 ; 22 (2) : 200-201.
- 15) 高橋秀実：細胞制免疫 (CTL) の誘導と樹状細胞. 臨床粘膜免疫学 2009.

## 著書

- 1) 高橋秀実<sup>1)</sup>, 矢田純一<sup>2)</sup>, その他20名<sup>(1)</sup> 日本医科大学微生物学免疫学,<sup>2)</sup> 東京医科歯科大学名誉教授) : [監訳] リッピンコット・イラストレイテッド免疫学, 2009 ; pp1-360, 丸善出版.

## 学会発表

[追加分]

追加分一般講演：

- 1) 平馬直樹：瘀血の病症と治療. 阿蘇漢方シンポジウム (熊本), 2008. 3.

追加分教育講演：

- 1) 平馬直樹：血の病症と治療その2. 仙台中医学研究会 (仙台), 2008. 1.
- 2) 平馬直樹：弁証論治概論. 郡山漢方研究会 (福島), 2008. 1.
- 3) 菅沼 栄：瘡病の脈・証・治. 東京中医学研究会 (東京), 2008. 1.
- 4) 平馬直樹：中医基本処方解説その3. 神奈川実践漢方勉強会 (横浜), 2008. 2.
- 5) 菅沼 栄：金匱要略解説. 東京中医学研究会 (東京), 2008. 2.
- 6) 菅沼 栄：中風の脈・証・治. 東京中医学研究会 (東京), 2008. 3.

(1) 特別講演：

- 1) 菅沼 栄：食養生. 国際薬膳師会 (東京), 2008. 11.
- 2) 高橋秀実：BCGによる自然免疫活性化. 第1回BCG注入療法研究会 (東京), 2008. 11.
- 3) 高橋秀実：アレルギー疾患誘発における新たなメカニズム. 第32回日本小児東洋医学会学術集会 (東京), 2008. 4.
- 4) 高橋秀実：BCG膀胱内注入療法と自然免疫. 第96回日本泌尿器科学会総会 (横浜), 2008. 4.
- 5) 高橋秀実：エイズってどんな病気?. 免疫不思議未来 (東京), 2008. 5.
- 6) 高橋秀実：漢方薬の効果に関する免疫学的な考察. 第7回お茶の水東洋医学フォーラム (東京), 2008. 6.
- 7) 高橋秀実：漢方薬の効果に関する免疫学的な考察. 第49回三多摩漢方臨床研究会 (東京), 2008. 6.
- 8) 高橋秀実：自然免疫システムと生薬成分：作用解明における新たな視点. 第8回日本臨床中医薬学会学術大会 (大宮), 2008. 9.
- 9) 高橋秀実：自然免疫システムと疾病. 練馬区医師会小児科医会講演会 (東京), 2008. 9.
- 10) 平馬直樹：皮膚疾患の漢方治療の進め方. 温知会記念講演 (東京), 2008. 9.
- 11) 平馬直樹：弁証論治演習. 第8回お茶の水漢方フォーラム (東京), 2008. 10.
- 12) 高橋秀実：自然免疫と東洋医学. 第8回大阪漢方研究会 (大阪), 2008. 12.

(2) 教育講演：

- 1) 菅沼 栄：歴節病の脈・証・治. 東京中医学研究会 (東京), 2008. 4.



- 2) 平馬直樹：湿の病症と治療。仙台中医学研究会（仙台），2008. 4.
  - 3) 菅沼 栄：血痺の脈・証・治。東京中医学研究会（東京），2008. 5.
  - 4) 平馬直樹：中医基本処方解説その4。神奈川実践漢方勉強会（横浜），2008. 7.
  - 5) 平馬直樹：痰飲の病症と治療。仙台中医学研究会（仙台），2008. 7.
  - 6) 菅沼 栄：虚勞病の脈・証・治。東京中医学研究会（東京），2008. 7.
  - 7) 平馬直樹：弁証論治演習。医学生のための東洋医学セミナー（三重），2008. 8.
  - 8) 福岡豊永，福岡美紀：ニンプさんのための中医学。TCMN（中医学ネットワーク）（東京），2008. 8.
  - 9) 平馬直樹：アレルギー疾患の漢方治療。青森中医学研究会（青森），2008. 8.
  - 10) 平馬直樹：アトピー性皮膚炎の漢方治療。全日本鍼灸学会神奈川地方会（横浜），2008. 9.
  - 11) 菅沼 栄：肺痿の脈・証・治。東京中医学研究会（東京），2008. 9.
  - 12) 菅沼 栄：肺癰の脈・証・治。東京中医学研究会（東京），2008. 10.
  - 13) 平馬直樹：中医基本処方解説その5。神奈川実践漢方勉強会（横浜），2008. 10.
  - 14) 菅沼 栄：咳嗽上気病の脈・証・治。東京中医学研究会（東京），2008. 11.
- (3) シンポジウム：
- 1) 中塚雄久<sup>1)</sup>，高橋秀実，坂本長逸<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院内科学講座消化器部門）：RivavirinによるT-Helper 1/2細胞バランス調節の免疫学的機序と慢性C型肝炎に対するInterferon治療効果の関連。第12回日本肝臓学会大会（東京），2008. 10.
  - 2) 平馬直樹：江戸時代古方派の概観。日韓伝統医学シンポジウム（ソウル），2008. 10.
  - 3) 藤田 勇：大学病院での緩和医療と中医鍼灸。第6回日本中医学交流会大会（東京），2008. 8.
- (4) セミナー：
- 1) 高橋秀実：感染症に伴う生体応答とその制御法：新たな治療指針。平成20年度北区夏期学術セミナー（東京），2008. 8.
- (5) ワークショップ：
- 1) Takahashi H：Inhibition of DC-SIGN-mediated HIV-1 transmissin via breast-feeding by IFN- $\beta$  released through TLR3 mediated signaling. Japan-US Cooperative Medical Science Program：The 21th Joint Scientific Meeting of AIDS Panels（Tokyo），2008. 9.
- (6) 一般講演：
- 1) 平馬直樹：日本におけるリハビリテーションの現状と中医学に期待される役割。河南省日中医学交流会（河南省），2008. 5.
  - 2) 新谷英滋<sup>1)</sup>，大脇敦子<sup>1)</sup>，清水真澄<sup>1)</sup>，渡邊恵理<sup>1)</sup>，松村次郎<sup>1)</sup>，八木幸恵<sup>1)</sup>，高久千鶴乃，高橋秀実（<sup>1)</sup> 日本医科大学微生物学・免疫学）：Down-regulation of CD1 lipid / glycolipid antigen presentation by HIV-1 Nef in immature dendritic cells. 第22回日本エイズ学会学術集会（大阪），2008. 11.
  - 3) Higuchi T<sup>1)</sup>，Shimizu M<sup>1)</sup>，Owaki A<sup>1)</sup>，Mayumi N<sup>1)</sup>，Ohmi K，Takahashi H（<sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School）：Possible involvement of innate alert cells activated by the live BCG-infected DCs for intravesical BCG therapy. 第38回日本免疫学会総会（京都），2008. 12.
  - 4) Yagi Y<sup>1)</sup>，Watanabe E<sup>1)</sup>，Satomi M<sup>2)</sup>，Watari E<sup>1)</sup>，Takeshita T<sup>2)</sup>，Takahashi H（<sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School）：Inhibition of DC-SIGN-mediated HIV-1 transmission via breast-feeding by IFN- $\beta$ . 第38回日本免疫学会総会（京都），2008. 12.
  - 5) Kumagai Y<sup>1)</sup>，Takahashi H（<sup>1)</sup> 日本医科大学微生物学・免疫学）：Analysis of the interaction between HIV-1-gp120 and  $\beta$ -chemokine receptor by using multivalent V3 epitopes grafted at the immunoglobulin hyper-variable regions. 第38回日本免疫学会総会（京都），2008. 12.

- 6) Shinya E<sup>1)</sup>, Owaki A<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Watanabe E<sup>1)</sup>, Takaku C, Watari E<sup>1)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> 日本医科大学微生物学・免疫学) : A quick and easy method of laboratory-scale production for multimeric human GM-CSF towards PBMC-derived DCs. 第38回日本免疫学会総会 (京都), 2008. 12.
- 7) Katakura T<sup>1)</sup>, Nakatsuka K<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>2)</sup>, Atsukawa M<sup>1)</sup>, Harimoto H, Tamura H<sup>3)</sup>, Takahashi H, Sakamoto C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Ribavirin interfered conversion of CD4<sup>+</sup> CD25<sup>-</sup> FOXP3<sup>-</sup> T-helper cells into CD4<sup>+</sup> CD25<sup>+</sup>FOXP3<sup>+</sup> T-regulatory cells in an Interleukin 10-dependent manner. 第38回日本免疫学会総会 (京都), 2008. 12.
- 8) Wakabayashi A<sup>1)</sup>, Moriya K<sup>1)</sup>, Harimoto K<sup>1)</sup>, Watari E<sup>1)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Enhancement of expression of DEC-205 and co-stimulatory molecules in intraepithelial DCs after oral administration of an antigen and its involvement in mucosal CTL induction. 第38回日本免疫学会総会 (京都), 2008. 12.
- 9) Kobayashi F<sup>1)</sup>, Watanabe E<sup>1)</sup>, Takeuchi H<sup>1)</sup>, Nakagawa Y<sup>1)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : A role of TLR2 in the activation of B-1 cells to produce autoantibodies by *Helicobacter pylori* urease. 第38回日本免疫学会総会 (京都), 2008. 12.
- 10) Takaku S, Terabe M<sup>1)</sup>, Ambrosino E<sup>1)</sup>, Peng J<sup>1)</sup>, Takahashi H, Berzofsky JA<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Vaccine Branch, Center for Cancer Research, National Cancer Institute, National Institute of Health) : Blockade of TGF- $\beta$  enhances tumor vaccine efficacy independent of CD4<sup>+</sup> CD25<sup>+</sup> T regulatory cells, the NKT cells, IL-13, and IL4R-STAT-6 immunoregulatory pathway. 第38回日本免疫学会総会 (京都), 2008. 12.
- 11) Negishi Y<sup>1)</sup>, Inagaki S<sup>1)</sup>, Kumagai Y<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>2)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Analysis of dendritic cell in pregnant mice. 第38回日本免疫学会総会 (京都), 2008. 12.
- 12) Nakagawa Y<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Matsumura J<sup>1)</sup>, Norose Y<sup>1)</sup>, Takahashi M<sup>1)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Rapid loss of CD8<sup>+</sup> HIV-1 gp160-specific murine CTLs by free antigenic peptide in vivo was mediated through apoptosis. 第38回日本免疫学会総会 (京都), 2008. 12.
- 13) 樋口智江<sup>1)</sup>, 清水真澄<sup>1)</sup>, 野呂瀬嘉彦<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>2)</sup>, 西村泰治<sup>2)</sup>, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学微生物学・免疫学, <sup>2)</sup> 日本医科大学附属病院泌尿器科学) : BCG膀胱注入療法におけるサイトカイン, 自然免疫を中心とする作用機序の考察. 第96回日本泌尿器科学会総会 (横浜), 2008. 4.
- 14) 平馬直樹 : 臓腑の弁証と治療1. 郡山漢方研究会 (福島), 2008. 4.
- 15) 若林あや子<sup>1)</sup>, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学微生物学・免疫学) : 経口免疫療法と腫瘍制御. 中央大学・日本医科大学合同シンポジウム (東京), 2008. 5.
- 16) 廣田 薫, 高久 俊, 高久千鶴乃, 吉永恵実, 近江恭子, 平馬直樹, 高橋秀実 : 脾胃湿滯が症状憎悪に影響をもたらしたと考えられる尋常性乾癬の1例. 第59回日本東洋医学会学術総会 (仙台), 2008. 6.
- 17) 高久 俊, 大藪英一<sup>1)</sup>, 高久千鶴乃, 廣田 薫, 吉永恵実, 平馬直樹, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学微生物学・免疫学講座) : 透析患者QOLの改善における漢方薬の役割. 第59回日本東洋医学会学術総会 (仙台), 2008. 6.
- 18) 藤田 勇, 平馬直樹, 高久千鶴乃, 高久 俊, 福岡豊永, 高橋秀実 : 眼窩内刺鍼による動眼神経麻痺に対する鍼灸治療の1例. 第59回日本東洋医学会学術総会 (仙台), 2008. 6.
- 19) 平馬直樹 : 臓腑の弁証と治療2. 郡山漢方研究会 (福島), 2008. 8.
- 20) 高橋めぐみ<sup>1)</sup>, 渡邊恵理<sup>1)</sup>, 渡理英二<sup>1)</sup>, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学微生物学・免疫学) : 脂質代謝阻害剤 etomoxir のSIV及びその宿主細胞に及ぼす影響. 第56回日本ウイルス学会学術集会 (岡山), 2008. 10.

- 21) 高久千鶴乃, 渡邊恵理<sup>1)</sup>, 大脇敦子<sup>1)</sup>, 清水真澄<sup>1)</sup>, 松村次郎<sup>1)</sup>, 渡理英二<sup>1)</sup>, 新谷英滋<sup>1)</sup>, 高橋秀実<sup>1)</sup> 日本医科大学微生物学・免疫学)：樹状細胞とNKT細胞の相互作用によるHIV-1感染拡大の可能性. 第22回日本エイズ学会学術集会 (大阪), 2008. 11.
- 22) 松村次郎<sup>1)</sup>, 大脇敦子<sup>1)</sup>, 清水真澄<sup>1)</sup>, 近江恭子, 秋山純一<sup>2)</sup>, 本田元人<sup>3)</sup>, 菊池 嘉<sup>3)</sup>, 新谷英滋<sup>1)</sup>, 岡 慎一<sup>3)</sup>, 高橋秀実<sup>1)</sup> 日本医科大学微生物学・免疫学, <sup>2)</sup> 国立国際医療センター消化器内科, <sup>3)</sup> 国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター)：HIV患者の腸管粘膜における感染細胞とプロウイルス DNAの検索. 第22回日本エイズ学会学術集会 (大阪), 2008. 11.
- 23) 平馬直樹：弁証論治の進め方. 米子洋漢医学統合研究会 (鳥取), 2008. 11.

## [ゲノム先端医療部]

### 研究概要

ヒト遺伝子の解析研究の成果は、従来の単一遺伝子病から薬物感受性や疾患易罹患性へと拡大し、個人々人での疾患の早期診断さらに予防への応用すなわちオーダーメイド医療（個別化医療）実現が現実のものになりつつある。今後、日常診療の場でオーダーメイド医療のための遺伝子情報を用いる機会が増えることが予想され、そのための院内での体制作りが急がれる。日本医科大学付属病院では法人の全面的支援を受けて全国の医科大学に先駆け、平成20年4月にオーダーメイド遺伝子医療を実現するための「ゲノム先端医療部」を開設した。ここでは既に臨床的有用性が実証されている遺伝子情報を、倫理的課題にも配慮し医療現場に還元することを目的としている。まず抗がん剤であるイリノテカンによる副作用に関連するUGT1A1遺伝子多型に関する検査を担当臨床各科、薬剤部、生化学・分子生物学（分子遺伝学・栄養学）教室、ハイテクリサーチセンターとも連携し、実施開始した。その後、6月この薬剤と遺伝子多型との関係が薬剤添付文書に掲載され、診断薬が初めて厚生労働省から製造販売承認を取得し、11月に保険適応となった。平成21年2月にゲノム先端医療部の開設を記念して、「オーダーメイド医療（個別化医療）をいかに実現するか？」をテーマに公開シンポジウムを開催した。また、文部科学省の「個人の遺伝情報に応じた医療の実現プロジェクト」第2期での倫理的、法的、社会的問題（Ethical, Legal and Social Issues）に係る研究において、現実に迫ったオーダーメイド医療へも検討が開始され、日本医科大学が医学部としては唯一研究に参画している。今後、オーダーメイド医療に利用できる遺伝子情報は大幅に増加することが予測される。ゲノム先端医療部は、これらの進歩に迅速に対応し、先端医療の臨床応用への橋渡しを推進していく。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 渡邊 淳<sup>7)</sup>, 折茂英生<sup>7)</sup>, 南 史朗<sup>8)</sup>, 宮田広樹<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 峯岸裕司<sup>3)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 米山剛一<sup>4)</sup>, 猪口孝一<sup>5)</sup>, 弦間昭彦<sup>6)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>7)</sup> (1) 付属病院薬剤部, 2) 消化器外科, 3) 呼吸器内科, 4) 女性診療科・産科, 5) 血液内科, 6) がん診療センター, 7) 生化学・分子生物学, 8) 老人病研究所, 9) ハイテクリサーチセンター)：薬剤感受性遺伝子検査を医療現場に導入する際の課題：オーダーメイド医療の実現に向けて. 第8回臨床遺伝研究会 (横浜), 2008. 9.
- 2) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup> (1) 遺伝診療科)：オーダーメイド医療で遺伝情報を適切に利用するための課題：日本医科大学付属病院での経験から. オミックス医療研究会・創薬PGx分科会 Pharmacogenomics symposium (横浜), 2009. 3.

## 21. 武蔵小杉病院付置施設等

### [武蔵小杉病院消化器病センター]

#### 研究概要

消化器病センターは消化器外科医、内科医により構成され、消化器疾患全般の診断から治療まで一貫した幅広い診療および研究を行っている。

研究概要としては、消化器疾患関連領域に関する以下のテーマについて臨床的、基礎的研究を進めている。

#### 【悪性疾患】

1. 食道癌放射線感受性に関する基礎研究（老人病研究所との共同研究）
2. 胃癌，大腸癌における化学療法・分子標的治療に関する基礎的研究・臨床病理学的研究
3. 肝細胞癌，膵癌の発癌に関連した遺伝子解析による基礎的研究（老人病研究所との共同研究）
4. 消化器癌の集学的治療，抗癌剤感受性試験による個別化を含めた胃癌，大腸癌化学療法の確立
5. 進行膵・胆道癌に対する，血管合併切除を伴う拡大手術および術後化学療法による予後改善の追求
6. 肝臓癌に対する集学的治療
7. 消化器癌に対する低侵襲手術（腹腔鏡補助下胃切除術，腹腔鏡補助下大腸切除術，胸腔鏡補助下食道切除術）の技術改良と標準化
8. 早期癌に対する内視鏡治療（EMR・ESD）
9. IVRを応用した消化管，胆道，血管内ステント治療
10. 閉塞性黄疸に対する減黄術（PTCD，内視鏡的ステント）

#### 【緊急疾患】

1. イレウスの保存的・外科的治療，病態解析，新しい診断と治療の開発
2. 上部消化管出血に対する内視鏡治療，臨床的研究
3. 上部消化管穿孔に対する大網充填術の臨床的・基礎的研究
4. 重症急性膵炎に対する集学的治療による予後改善の追求

#### 【良性疾患】

1. 胃十二指腸潰瘍における *Helicobacter pylori* の臨床的・基礎的研究
2. 胆道結石に対する内視鏡的治療（EST+EPBD）・腹腔鏡手術（腹腔鏡下胆嚢摘出術・総胆管載石術）の技術改良と標準化
3. 創傷治癒，外科侵襲に関する基礎研究

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 栗原雄司<sup>1)</sup>，山川達郎<sup>1)</sup>，豊田哲鎬，前島顕太郎，小泉正樹，小峯 修，坊 英樹，尾形昌男，渡辺昌則，ガジザアモハマッド<sup>2)</sup>，徳永 昭<sup>(1)</sup> 京浜総合病院外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学老人病研究所病理部門）：巨大壁外発育を呈した肝型AFP産生胃癌の1例. 消化器科 2008；46（5）：596-600.
- 2) 小西真理世，吉野雅則，小峯 修，水谷 聡，野村 聡，前島顕太郎，坊 英樹，塩谷 猛，尾形昌男，渡辺昌則，徳永 昭：当科におけるS状結腸軸捻転症に対する治療方針/Strategy for volvulus of sigmoid colon. Progress of Digestive Endoscopy 2008；72（2）：38-41.
- 3) 青笹季文<sup>1)</sup>，渡邊善正<sup>1)</sup>，南部弘太郎<sup>1)</sup>，塩谷 猛<sup>1)</sup>，山田太郎<sup>1)</sup>，渋谷哲男<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 大宮市医師会市民病院 外

科)：地域医療支援病院における急性虫垂炎手術症例の特性について．日本腹部救急医学会雑誌 2008；28 (6)：771-774.

4) 坊 英樹，豊田哲鎬，近藤恭司，渡辺昌則，徳永 昭，田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院医学研究科臓器病態制御外科学)：出血性胃潰瘍(吐血)を契機に発見された同時性多発早期胃癌の1例．日医大医会誌 2009；5 (1)：53-56.

5) 坊 英樹，近藤恭司，徳永 昭：内視鏡的上部消化管出血止血法．Pharma Medica 2009；27 (3)：63-65.

(2) 症例報告：

1) Matsunobu T<sup>1,2)</sup>，Watanabe M<sup>1,2)</sup>，Bou H<sup>1,2)</sup>，Takahashi N<sup>3)</sup>，Tokunaga A<sup>1,2)</sup>，Tajiri T<sup>1)</sup> (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 3) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital)：Acute Pulmonary Thromboembolism after Distal Gastrectomy：An Appraisal of the Guidelines for Preventing Pulmonary Thromboembolism/Deep Vein Thrombosis. Nippon Med Sch 2008；75 (3)：175-180.

2) Mizutani S<sup>1)</sup>，Shioya T<sup>1)</sup>，Komine O<sup>1)</sup>，Yoshino M<sup>1)</sup>，Hoshino A<sup>1)</sup>，Ogata M<sup>1)</sup>，Watanabe M<sup>1)</sup>，Yanagimoto K<sup>2)</sup>，Shibuya T<sup>3)</sup>，Tokunaga A<sup>1)</sup>，Tajiri T<sup>4)</sup> (1) Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 2) Institute of Pathology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 3) Department of Surgery, Omiya Medical Association Hospital, 4) Department of surgery, Nippon Medical School)：Two successful curative operations using stomach-preserving distal pancreatectomy with celiac axis resection for the treatment of locally advanced pancreatic body cancer. J Hepato-biliary pancreatic surg 2009；16：229-233.

3) 大前芳男<sup>1)</sup>，菊岡良考<sup>1)</sup>，藤原裕之<sup>1)</sup>，若林健司<sup>1)</sup>，橋本善弘<sup>1)</sup>，高橋保正<sup>1)</sup>，太田 竜<sup>1)</sup>，北村雅也<sup>1)</sup>，渡辺昌則 (1) 川崎幸病院消化器病センター)：内視鏡にて診断・治療可能であった大腸 angiodysplasia の1例．Progress of Digestive Endoscopy 2008；72 (2)：100-101.

著 書

1) 渡辺昌則，徳永 昭：〔分担〕イレウス管留置法．新・図解救急応急処置ガイド(救急・応急時に必ず役立つ基本手技と処置の全て)，2008；pp344-351，文光堂.

学会発表

(1) シンポジウム：

1) 田中洋一<sup>1)</sup>，川島吉之<sup>1)</sup>，安部 仁<sup>1)</sup>，浅香晋一<sup>1)</sup>，尾形英生<sup>1)</sup>，泉里豪俊<sup>1)</sup>，戸谷裕之<sup>1)</sup>，清水 尚<sup>1)</sup>，松信哲朗<sup>1)</sup>，八岡利昌<sup>1)</sup>，網倉克己<sup>1)</sup>，西村洋治<sup>1)</sup>，坂本裕彦<sup>1)</sup> (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科)：胸腔鏡下食道癌手術における中下部縦隔郭清の手技．日本消化器外科学会総会(第63回)，2008. 7.

2) 八岡利昌<sup>1)</sup>，西村洋治<sup>1)</sup>，浅香晋一<sup>1)</sup>，尾形英生<sup>1)</sup>，松信哲朗<sup>1)</sup>，坂本裕彦<sup>1)</sup>，田中洋一<sup>1)</sup> (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科)：日米の規約をもとにした大腸癌のリンパ節郭清．日本消化器外科学会総会(第63回)，2008. 7.

(2) パネルディスカッション：

1) 川島吉之<sup>1)</sup>，清水 尚<sup>1)</sup>，戸谷裕之<sup>1)</sup>，尾形英生<sup>1)</sup>，浅香晋一<sup>1)</sup>，泉里豪俊<sup>1)</sup>，松信哲朗<sup>1)</sup>，安部 仁<sup>1)</sup>，八岡利昌<sup>1)</sup>，網倉克己<sup>1)</sup>，西村洋治<sup>1)</sup>，坂本裕彦<sup>1)</sup>，田中洋一<sup>1)</sup>，有馬美和子<sup>2)</sup>，黒住昌史<sup>3)</sup> (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科，2) 埼玉県立がんセンター消化器内科，3) 埼玉県立がんセンター病理科)：食道類基底細胞癌症例の臨床病理．日本食道学会学術集会(第63回)，2008. 6.



(3) セミナー：

- 1) 坊 英樹：最適な上部消化管出血治療の確立を目指して：NSAIDs潰瘍。日本消化器病学会（第50回），2008. 10.

(4) ワークショップ：

- 1) 松信哲朗<sup>1)</sup>，西村洋治<sup>1)</sup>，八岡利昌<sup>1)</sup>，戸谷裕之<sup>1)</sup>，網倉克己<sup>1)</sup>，秋山博彦<sup>2)</sup>，坂本裕彦<sup>1)</sup>，田中洋一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター消化器外科，<sup>2)</sup> 埼玉県立がんセンター胸部外科）：当院における大腸癌肺転移手術症例の検討。日本大腸肛門病学会総会（第63回），2008. 10.
- 2) 坂本裕彦<sup>1)</sup>，網倉克己<sup>1)</sup>，西村洋治<sup>1)</sup>，八岡利昌<sup>1)</sup>，田中洋一<sup>1)</sup>，川島吉之<sup>1)</sup>，安部 仁<sup>1)</sup>，戸谷裕之<sup>1)</sup>，松信哲朗<sup>1)</sup>，泉里豪俊<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター消化器外科）：大腸癌肝転移切除後の再発率と補助化学療法の適応。日本消化器外科学会定期学術総会（第63回），2008. 7.

(5) 一般講演：

- 1) Mizutani S<sup>1)</sup>，Nakamura Y<sup>2)</sup>，Maejima K<sup>1)</sup>，Chihara N<sup>1)</sup>，Komine O<sup>1)</sup>，Yoshino M<sup>1)</sup>，Hoshino A<sup>1)</sup>，Shioya T<sup>1)</sup>，Ogata M<sup>1)</sup>，Watanabe M<sup>1)</sup>，Shibuya T<sup>3)</sup>，Tokunaga A<sup>1)</sup>，Tajiri T<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, <sup>2)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Surgery, Omiya Medical Association Hospital）：Giant Mucinous Cyst neoplasm (MCN) completely resected by laparoscopic surgery. World congress of endoscopic surgery (11th) (Yokohama), 2008. 9.
- 2) Bou H, Maejima K, Komine O, Watanabe M, Tokunaga A, Tajiri T<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Nippon Medical School, Surgery）：Laparoscopic Assisted Proximal Gastrectomy in a Branch Hospital. 世界内視鏡外科学会（第11回）（横浜），2008. 9.
- 3) Ogata M, Yoshino M, Koizumi M, Maejima K, Yuzuriha R, Matsunobu T, Chihara N, Mizutani S, Komine O, Bo H, Hoshino A, Watanabe M, Suzuki H<sup>1)</sup>, Tokunaga A, Tajiri T<sup>1)</sup>, et al.（<sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Japan）：Laparoscopic Colorectal Surgery in a University Branch Hospital. World Congress of Endoscopic Surgery (11th) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
- 4) Watanabe M, Maejima K, Komine O, Mizutani S, Yoshino M, Bou H, Ogata M, Tokunaga A, Tajiri T<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Japan）：Can endoscopic surgery reduce the surgical infection in esophageal cancer?. Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (ELSA) 2008 (Yokohama), 2008. 9.
- 5) 水谷 聡<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>2)</sup>，前島顕太郎<sup>1)</sup>，千原直人<sup>1)</sup>，小峯 修<sup>1)</sup>，吉野雅則<sup>1)</sup>，星野有哉<sup>1)</sup>，塩谷 猛<sup>1)</sup>，尾形昌男<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，渋谷哲男<sup>3)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，<sup>2)</sup> 日本医科大学外科，<sup>3)</sup> 大宮医師会市民病院外科）：完全腹腔鏡下に切除し得た巨大MCNの1例。日本内視鏡外科学会（第21回）（横浜），2008. 9.
- 6) 坊 英樹，前島顕太郎，小峯 修，渡辺昌則，徳永 昭，田尻 孝<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学 外科）：当科における腹腔鏡補助下噴門側胃切除術。日本内視鏡外科学会（第21回），2008. 9.
- 7) 松信哲朗<sup>1)</sup>，田中洋一<sup>1)</sup>，安部 仁<sup>1)</sup>，山浦忠能<sup>1)</sup>，川島吉之<sup>1)</sup>，坂本裕彦<sup>1)</sup>，有馬美和子<sup>2)</sup>，出雲俊之<sup>3)</sup>，黒住昌史<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター消化器外科，<sup>2)</sup> 埼玉県立がんセンター消化器内科，<sup>3)</sup> 埼玉県立がんセンター病理科）：腺癌と扁平上皮癌がBarrett粘膜に連続して発生した食道多発癌の1例。外科集談会（第811回），2008. 12.
- 8) 戸谷裕之<sup>1)</sup>，川島吉之<sup>1)</sup>，安部 仁<sup>1)</sup>，松信哲朗<sup>1)</sup>，山浦忠能<sup>1)</sup>，泉里豪俊<sup>1)</sup>，佐藤弘晃<sup>1)</sup>，川原林伸昭<sup>1)</sup>，八岡利昌<sup>1)</sup>，網倉克己<sup>1)</sup>，西村洋治<sup>1)</sup>，坂本裕彦<sup>1)</sup>，田中洋一<sup>1)</sup>，黒住昌史<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター消化器外科，<sup>2)</sup> 埼玉県立がんセンター病理科）：神経温存噴門側胃切除，食道残胃吻合法の術後問題点。群馬消化器病研究会（第27回），2009. 1.
- 9) 前島顕太郎，徳永 昭，木山輝郎<sup>1)</sup>，菅野仁士<sup>1)</sup>，杠葉 良，千原直人，小峯 修，坊 英樹，渡辺昌則，田

- 尻 孝<sup>1)</sup> (1) 付属病院第一外科)：胃癌術後補助化学療法におけるTS-1による抗癌剤感受性試験の有用性の検討。日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 10) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>2)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 埴 秀暁<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 小峯修<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学老人病研究所, 3) 日本医科大学外科)：抗癌剤耐性とミトコンドリアDNA体細胞変異の関連における分子生物学的検討。日本外科学会 (第108回) (長崎), 2008. 5.
- 11) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 柳本邦雄<sup>2)</sup>, 渋谷哲男<sup>3)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, 3) 大宮医師会市民病院外科, 4) 日本医科大学外科)：全胃温存腹腔動脈合併切除膀胱尾部切除の2例。日本肝胆膵外科学会 (第20回) (山形), 2008. 5.
- 12) 戸谷裕之<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 安部 仁<sup>1)</sup>, 浅香晋一<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 山浦忠能<sup>1)</sup>, 泉里豪俊<sup>1)</sup>, 佐藤弘晃<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 有馬美和子<sup>2)</sup>, 黒住昌史<sup>3)</sup>, その他2名 (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科, 2) 埼玉県立がんセンター消化器内科, 3) 埼玉県立がんセンター病理科)：術前5FU+CDDP併用療法にてCRを得られた頸部食道癌の1例。外科集談会 (第809回), 2008. 5.
- 13) 川島吉之<sup>1)</sup>, 清水 尚<sup>1)</sup>, 戸谷裕之<sup>1)</sup>, 尾形英生<sup>1)</sup>, 浅香晋一<sup>1)</sup>, 泉里豪俊<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 安部 仁<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 黒住昌史<sup>2)</sup> (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科, 2) 埼玉県立がんセンター病理科)：噴門側胃切除後に発生した残胃の癌の臨床病理。日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 14) 八岡利昌<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 浅香晋一<sup>1)</sup>, 尾形英生<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup> (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科)：大腸癌におけるマイクロサテライト不安定性。日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 15) 小峯 修, 田中洋一<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 安倍 仁<sup>1)</sup>, 吉川朱美<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 坊 英樹, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝 (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科)：食道癌に対する胸腔鏡補助下食道切除術の検討。日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 16) 塩谷 猛, 吉野雅則, 小峯 修, 水谷 聡, 星野有哉, 尾形昌男, 渡辺昌則, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 田尻孝<sup>2)</sup> (1) 大宮市医師会市民病院 外科, 2) 日本医科大学第一外科)：大腸憩室手術症例に関する検討。日本外科学会定期学術集会 (第107回), 2008. 5.
- 17) 近藤恭司<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科)：認知症患者の消化器癌治療。日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 18) 尾形昌男, 千原直人, 近藤恭司, 小泉正樹, 吉野雅則, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科)：腹腔鏡下S状結腸癌切除中に見つかった回腸悪性リンパ腫の1例。日本消化器病学会関東支部例会 (第299回), 2008. 5.
- 19) 渡辺昌則, 豊田哲鎬, 野村 聡, 埴 秀暁, 前島顕太郎, 吉野雅則, 水谷 聡, 小峯 修, 坊 英樹, 徳永昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院臓器病態制御外科学)：SSIサーベイランスの結果と問題点。日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
- 20) 千原直人<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 太田成男<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学病院外科, 3) 日本医科大学老人病研究所生化学部門)：大腸癌細胞株を用いたCybridの作製と抗癌剤感受性におけるミトコンドリアDNA体細胞変異の関連。日本外科学会 (第108回), 2008. 5.
- 21) 杠葉 良, 徳永 昭, 千原直人, 吉野雅則, 尾形昌男, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 麻生定光<sup>2)</sup>, 太田成男<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学病院臓器病態制御外科, 2) 日本医科大学老人病研究所生化学部門)：大腸癌における5FU, S-1抗癌剤感受性試

- 験と術後化学療法. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 22) 杠葉 良, 徳永 昭, 前島顕太郎, 千原直人, 水谷 聡, 吉野雅則, 尾形昌男, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 麻生定光<sup>2)</sup>, 太田成男<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学病院臓器病態制御外科, 2) 日本医科大学老人病研究所生化学部門): 大腸癌細胞株の抗癌剤感受性 Cybridの作製とミトコンドリアDNA体細胞変異. 日本外科学会定期学術集会 (第108回), 2008. 5.
  - 23) 前島顕太郎, 徳永 昭, 木山輝郎, 菅野仁士, 杠葉 良, 千原直人, 小峯 修, 坊 英樹, 尾形昌男, 渡辺昌則, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 付属病院第一外科): 胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性試験の検討. 日本外科系連合学会学術集会 (第33回), 2008. 6.
  - 24) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>2)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 小峯修<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>3)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科, 3) 大宮医師会市民病院外科): 完全腹腔鏡下に切除し得た巨大MCNの1例. 日本膵臓学会 (第39回) (横浜), 2008. 6.
  - 25) 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科): CEA高値を契機に発見された虫垂嚢胞腺腫の1例. 外科系連合学会学術集会 (第33回), 2008. 6.
  - 26) 小峯 修, 渡辺昌則, 野村 聡, 豊田哲鎬, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 尾形昌男, 徳永昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学第一外科): 食道癌術後期における好中球エラスターゼ阻害薬の有用性の検討. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
  - 27) 渡辺昌則, 小峯 修, 野村 聡, 豊田哲鎬, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 徳永 昭, 田尻孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院臓器病態制御外科学): 食道癌術後感染症の危険因子に関する検討. 日本食道学会学術集会 (第62回), 2008. 6.
  - 28) 山岸征嗣, 水谷 聡, 前島顕太郎, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 星野有哉, 尾形昌男, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 徳永 昭, 田尻孝<sup>2)</sup> (1) 大宮医師会市民病院外科, 2) 日本医大第一外科): 急性胆管炎に対する対応と治療成績. 神奈川消化器外科研究会, 2008. 6.
  - 29) 前島顕太郎, 徳永 昭, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 杠葉 良, 千原直人, 小峯 修, 坊 英樹, 尾形昌男, 渡辺昌則, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 付属病院第一外科): TS-1による胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性試験の検討. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
  - 30) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>2)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学老人病研究所, 3) 日本医科大学外科): 膵臓癌細胞の抗癌剤耐性とミトコンドリアDNA体細胞変異の関連. 日本消化器外科学会 (第63回) (札幌), 2008. 7.
  - 31) 吉野雅則, 尾形昌男, 小泉正樹, 豊田哲鎬, 前島顕太郎, 千原直人, 水谷 聡, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院外科): 当科における外科医主導の大腸癌化学療法. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
  - 32) 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科): 二期的に切除した胃癌穿孔の1例. 日本消化器病学会関東支部第300回支部例会, 2008. 7.
  - 33) 八岡利昌<sup>1)</sup>, 石窪 力<sup>2)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 野津 聡<sup>3)</sup>, 浅香晋一<sup>1)</sup>, 尾形英生<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup> (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科, 2) 埼玉県立がんセンター消化器内科, 3) 埼玉県立癌センター放射線科): smおよびmp大腸癌におけるリンパ節転移と再発について. 大腸癌研究会 (第69回), 2008. 7.
  - 34) 松信哲朗<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup> (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科): 当センターにおける大腸IIcおよびIIa+IIc手術症例の検討. 大腸癌研究会 (第69回), 2008. 7.

- 35) 松信哲朗<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 安部 仁<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 山浦忠能<sup>1)</sup>, 泉里豪俊<sup>1)</sup>, 佐藤弘晃<sup>1)</sup>, 戸谷裕之<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 西村洋二<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup> (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科): 食道癌術後, 腹腔鏡腔瘻を形成した難治性リンパ漏の1例. 埼玉県外科医会外科臨床問題検討会 (第11回), 2008. 7.
- 36) 戸谷裕之<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 安部 仁<sup>1)</sup>, 清水 尚<sup>1)</sup>, 浅香晋一<sup>1)</sup>, 尾形英生<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 山浦忠能<sup>1)</sup>, 泉里豪俊<sup>1)</sup>, 佐藤弘晃<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, その他1名 (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科): 神経温存噴門側胃切除, 食道残胃吻合法の術後問題点. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 37) 安部 仁<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 泉里豪俊<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 戸谷裕之<sup>1)</sup>, 清水 尚<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 島村智崇<sup>2)</sup>, 多田正弘<sup>2)</sup>, 下岡華子<sup>3)</sup>, 黒住昌史<sup>3)</sup>, その他2名 (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科, 2) 埼玉県立がんセンター消化器内科, 3) 埼玉県立がんセンター病理科): 胃小細胞癌切除例の臨床病理学的検討. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 38) 川島吉之<sup>1)</sup>, 清水 尚<sup>1)</sup>, 戸谷裕之<sup>1)</sup>, 尾形英生<sup>1)</sup>, 浅香晋一<sup>1)</sup>, 泉里豪俊<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 安部 仁<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 山口研成<sup>2)</sup>, 黒住昌史<sup>3)</sup> (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科, 2) 埼玉県立がんセンター消化器内科, 3) 埼玉県立がんセンター病理科): 胃癌高度リンパ節転移 (BalkyN2/傍大動脈リンパ節転移) 症例に対する術前化学療法 of 組織学的効果. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 39) 坊 英樹, 前島顕太郎, 小峯 修, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学附属病院 外科): 当科における腹腔鏡補助下噴門側胃切除術. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 40) 小峯 修, 渡辺昌則, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 星野有哉, 尾形昌男, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学第一外科): 当科における切除不能・再発食道癌に対するDCF療法の治療経験. 日本消化器外科学会定期学術集会 (第63回), 2008. 7.
- 41) 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 青笹季文<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 徳永 昭 (1) 大宮市医師会市民病院 外科): 胃全摘Roux-Y再建術後, 閉塞性黄疸と膵炎をきたした内ヘルニアによる輸入脚閉塞症の1例. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 42) 佐藤精一, 豊田哲鎬, 野村 聡, 埴 秀暁, 二宮理貴, 坊 英樹, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学第一外科): 成人鼠径ヘルニア嵌頓症例の検討. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 43) 野村 聡, 水谷 聡, 豊田哲鎬, 前島顕太郎, 吉野雅則, 小峯 修, 星野有哉, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渡辺昌則, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 大宮市医師会市民病院 外科, 2) 日本医科大学第一外科): 術前に組織型を指摘し得た退形成性膵癌の1例. 日本膵臓学会大会 (第39回), 2008. 7.
- 44) 星野有哉, 塩谷 猛<sup>2)</sup>, 水谷 聡, 野村 聡, 埴 秀暁, 尾崎卓司, 杜葉 良, 近藤恭司, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科・消化器外科, 2) 大宮医師会市民病院): 肝細胞癌切除症例の補助療法の検討. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 45) 尾形昌男, 小泉正樹, 吉野雅則, 小峯 修, 水谷 聡, 坊 英樹, 渡辺昌則, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 大宮医師会市民病院外科, 2) 日本医科大学大学院臓器病態制御外科学): 術後7年目に骨転移を発症した若年性胃癌の1例. 日本消化器外科学会総会 (第63回), 2008. 7.
- 46) 渡辺昌則, 埴 秀暁, 前島顕太郎, 小峯 修, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院臓器病態制御外科学): 結腸手術のSSI危険因子に関する検討. 日本消化器外科学会定期学術総会 (第63回), 2008. 7.
- 47) 千原直人<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 太田成男<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科, 3) 日本医科大学老人病研究所生化学部門): 大腸癌細胞株のCybridによる抗癌剤感受性とミトコンドリアDNA体細胞変異. 日本消化器外科学会 (第63回), 2008. 7.
- 48) 坊 英樹, 前島顕太郎, 小峯 修, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科): 難



- 治性潰瘍とカンジダ．潰瘍病態研究会（第17回），2008．8．
- 49) 坊 英樹，前島顕太郎，千原直人，小峯 修，渡辺昌則，徳永 昭，増田剛太郎<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学 外科）：当科における鳥肌胃炎．日本消化器癌発生学会（第19回），2008．8．
- 50) 千原直人<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，水谷 聡<sup>1)</sup>，坊 英樹<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>2)</sup>，太田成男<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，<sup>2)</sup>日本医科大学病院外科，<sup>3)</sup>日本医科大学老人病研究所生化学部門）：大腸癌細胞株におけるミトコンドリアDNA体細胞変異と抗癌剤耐性の関連．日本消化器癌発生学会（第19回），2008．8．
- 51) 尾形昌男，吉野雅則，小泉正樹，前島顕太郎，杠葉 良，松信哲朗，千原直人，水谷 聡，小峯 修，坊 英樹，星野有哉，渡辺昌則，鈴木英之<sup>1)</sup>，徳永 昭，田尻 孝<sup>1)</sup>，その他2名（<sup>1)</sup>日本医科大学 外科）：腹腔鏡下大腸切除例の当科における検討．日本内視鏡外科学会総会（第21回），2008．9．
- 52) 三島圭介，小峯 修，前島顕太郎，山岸征嗣，豊田哲鎬，野村 聡，水谷 聡，吉野雅則，坊 英樹，尾形昌男，渡辺昌則，徳永 昭，田尻 孝<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学第一外科）：内視鏡的粘膜切除術・放射線治療施行9年後に同部位より発生したと思われる食道未分化癌の1例．日本消化器病学会関東支部例会（第301回），2008．9．
- 53) 黒田誠司，水谷 聡，山岸征嗣，野村 聡，豊田哲鎬，前島顕太郎，小峯 修，吉野雅則，塩谷 猛，尾形昌男，渡辺昌則，徳永 昭，石井英昭<sup>1)</sup>，渋谷哲男<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学武蔵小杉病院病理部，<sup>2)</sup>大宮医師会市民病院，<sup>3)</sup>日本医科大学外科）：（TS-1+GEM）化学療法により4年生存中の切除不能膵癌の1例．日本消化器病学会関東支部例会（第301回），2008．9．
- 54) 坊 英樹，近藤恭司，尾形昌男，渡辺昌則，徳永 昭，田尻 孝<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学 外科）：認知症患者の消化器癌治療．日本消化器病学会大会（第50回），2008．10．
- 55) 渡邊善正<sup>1)</sup>，南部弘太郎<sup>1)</sup>，塩谷 猛<sup>1)</sup>，渋谷哲男<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>大宮市医師会市民病院 外科）：成人特発性腸重積症の1例．日本臨床外科学会総会（第70回），2008．10．
- 56) 南部弘太郎<sup>1)</sup>，徳永 昭，渋谷哲男<sup>1)</sup>，山田太郎<sup>1)</sup>，塩谷 猛<sup>1)</sup>，青笹季文<sup>1)</sup>，渡邊善正<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>2)</sup>，柳本邦雄<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>大宮市医師会市民病院 外科，<sup>2)</sup>日本医科大学第一外科，<sup>3)</sup>大宮市医師会市民病院病理部）：大腸イレウスが初発症状となった膵尾部癌の1例．日本臨床外科学会総会（第70回），2008．10．
- 57) 塩谷 猛<sup>1)</sup>，渋谷哲男<sup>1)</sup>，南部弘太郎<sup>1)</sup>，山田太郎<sup>1)</sup>，水谷 聡，星野有哉，柳本邦雄<sup>2)</sup>，徳永 昭，田尻 孝<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>大宮市医師会市民病院 外科，<sup>2)</sup>大宮市医師会市民病院 病理部，<sup>3)</sup>日本医科大学第一外科）：CRP高値を契機に発見された胆嚢腺扁平上皮癌の1例．日本臨床外科学会総会（第70回），2008．10．
- 58) 青笹季文<sup>1)</sup>，渡邊善正<sup>1)</sup>，南部弘太郎<sup>1)</sup>，塩谷 猛<sup>1)</sup>，山田太郎<sup>1)</sup>，渋谷哲男<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>大宮市医師会市民病院 外科）：鼠径ヘルニア嚢内に発生した横行結腸腹膜転移の1例．日本臨床外科学会（第70回），2008．10．
- 59) 青笹季文<sup>1)</sup>，渡邊善正<sup>1)</sup>，塩谷 猛<sup>1)</sup>，渋谷哲男<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>大宮市医師会市民病院 外科）：虫垂原発の可能性が高いと考えられた原発不明印環細胞癌の1例．日本大腸肛門病学会学術集会，2008．10．
- 60) 渡邊善正<sup>1)</sup>，南部弘太郎<sup>1)</sup>，青笹季文<sup>1)</sup>，塩谷 猛<sup>1)</sup>，山田太郎，渋谷哲男（<sup>1)</sup>大宮市医師会市民病院 外科）：*H. pylori*除菌後に十二指腸潰瘍穿孔を発症した1例．日本臨床外科学会総会（第70回），2008．10．
- 61) 萩原英之<sup>1)</sup>，阿部 豊<sup>1)</sup>，森 康昭<sup>1)</sup>，二宮理貴<sup>1)</sup>，鈴木洋一<sup>1)</sup>，加納恒久<sup>1)</sup>，名取穰治<sup>1)</sup>，内山喜一郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>海老名総合病院 外科）：術後3.5年で膵膜転移を生じた乳腺浸潤性多形性小葉癌（Pleomorphic lobular carcinoma）の1例．日本臨床外科学会総会（第70回），2008．10．
- 62) 名取穰治<sup>1)</sup>，小林 勲<sup>1)</sup>，内山喜一郎<sup>1)</sup>，萩原英之<sup>1)</sup>，阿部 豊<sup>1)</sup>，加納恒久<sup>1)</sup>，鈴木洋一<sup>1)</sup>，二宮理貴<sup>1)</sup>，小笠原康夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>海老名総合病院 外科）：ソケイヘルニア術後間歇的急性腹痛で診断に苦慮した成人腸重積症の1症例．日本救急医学会総会（第36回），2008．10．
- 63) 近藤恭司<sup>1)</sup>，坊 英樹<sup>1)</sup>，尾形昌男<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，<sup>2)</sup>日本医科大学外科）：認知症患者に対する上部消化管出血．日本消化器内視鏡学会総会（第76回），2008．10．
- 64) 黄川田信允<sup>1)</sup>，前田美紀<sup>1)</sup>，松田範子<sup>1)</sup>，横堀将司<sup>2)</sup>，白石振一郎<sup>2)</sup>，横田裕行<sup>2)</sup>，木山輝郎輝郎<sup>3)</sup>，滝沢隆雄<sup>3)</sup>，



- 田尻 孝<sup>3)</sup>, 徳永 昭, 坂本篤裕<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学附属病院 ME 部, <sup>2)</sup> 日本医科大学附属病院高度救命救急センター, <sup>3)</sup> 日本医科大学附属病院外科, <sup>4)</sup> 日本医科大学附属病院麻酔科): 急性一酸化炭素中毒の治療症例と治療プロトコルの検討. 日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 (第43回), 2008. 10.
- 65) 松田範子<sup>1)</sup>, 黄川田信允<sup>1)</sup>, 前田美紀<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>2)</sup>, 滝沢隆雄<sup>2)</sup>, 宮本正章<sup>3)</sup>, 坂本篤裕<sup>4)</sup>, 徳永 昭, 田尻孝<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学附属病院 ME 部, <sup>2)</sup> 日本医科大学附属病院 外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学附属病院 内科・再生医療科, <sup>4)</sup> 日本医科大学附属病院 麻酔科): 糖尿病性・難治性末梢動脈疾患に対する高気圧酸素治療 糖尿病性および末梢動脈閉塞症による難治性潰瘍の治療 骨髄幹細胞移植と高気圧酸素療法. 日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 (第43回), 2008. 10.
- 66) 前島顕太郎, 徳永 昭, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 杠葉 良, 千原直人, 小峯 修, 坊 英樹, 渡辺昌則, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 附属病院第一外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院外科): 日本医科大学病院における S-1 による胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験: 第3報. 日本癌治療学会総会 (第46回), 2008. 11.
- 67) 前島顕太郎, 吉野雅則, 小泉正樹, 野村 聡, 豊田哲鎬, 近藤恭司, 三浦克洋, 小峯 修, 水谷 聡, 坊 英樹, 星野有哉, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 附属病院第一外科): CEA 上昇を契機に PET で再発部位を同定, 切除しえた大腸癌術後再発の2症例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 68) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>2)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 大宮医師会市民病院外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学外科): 膵管空腸粘膜吻合 VS 膵管完全外瘻. 日本臨床外科学会 (第70回) (東京), 2008. 11.
- 69) 戸谷裕之<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 安部 仁<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 佐藤弘晃<sup>1)</sup>, 泉里豪俊<sup>1)</sup>, 山浦忠能<sup>1)</sup>, 川原林伸昭<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 有馬美和子<sup>2)</sup>, 黒住昌史<sup>3)</sup>, その他1名 (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科, <sup>2)</sup> 埼玉県立がんセンター消化器内科, <sup>3)</sup> 埼玉県立がんセンター病理科): 診断に難渋した食道悪性黒色腫の1症例. 埼玉県外科集談会 (第26回), 2008. 11.
- 70) 松信哲朗<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 安部 仁<sup>1)</sup>, 山浦忠能<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 有馬美和子<sup>2)</sup>, 出雲俊之<sup>3)</sup>, 黒住昌史<sup>3)</sup> (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科, <sup>2)</sup> 埼玉県立がんセンター消化器内科, <sup>3)</sup> 埼玉県立がんセンター病理科): Barrett 粘膜に連続して腺癌と扁平上皮癌が併存する食道癌の1例. 埼玉上部消化管疾患研究会 (11回), 2008. 11.
- 71) 西村洋治<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 尾形英生<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup> (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科): ISR 術後の局所再発. 日本大腸肛門病学会総会 (第63回), 2008. 11.
- 72) 安部 仁<sup>1)</sup>, 山浦忠能<sup>1)</sup>, 泉里豪俊<sup>1)</sup>, 佐藤弘晃<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 戸谷裕之<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup> (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科): イレウス管挿入及び抜去を各々誘因とし2回にわたり発生した成人腸重積症の1例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 73) 川島吉之<sup>1)</sup>, 戸谷裕之<sup>1)</sup>, 佐藤弘晃<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 安部 仁<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 黒住昌史<sup>2)</sup> (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科, <sup>2)</sup> 埼玉県立がんセンター病理科): 食道類基底細胞癌の診断と治療. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 74) 坊 英樹, 前島顕太郎, 千原直人, 小峯 修, 渡辺昌則, 徳永 昭, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科): *H. Pylori* 感染鳥肌胃炎の検討. 胃外科・術後障害研究会 (第38回), 2008. 11.
- 75) 小峯 修, 渡辺昌則, 野村 聡, 豊田哲鎬, 前島顕太郎, 小泉正樹, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 尾形昌男, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学第一外科): 食道癌術後期間におけるステロイド・好中球エラスターゼ阻害薬の有用性ならびに術後在院期間に対する影響の検討. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 76) 前本直子<sup>1)</sup>, 大塚俊司<sup>1)</sup>, 小峯 修, 片山博徳<sup>1)</sup>, 劉 愛民<sup>2)</sup>, 中村祐司<sup>1)</sup>, 石井英昭<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 病理部, <sup>2)</sup> 日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設, <sup>3)</sup> 日本医科大学病理学講座): 神経細胞への分化を示す類上皮型 GIST (GANT) の1例. 日本臨床細胞学会 (第47回), 2008. 11.

- 77) 星野有哉, 中村慶春<sup>1)</sup>, 水谷 聡, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科・消化器外科): 脾臓および脾動脈を温存して腹腔鏡下腓体尾側切除術を施行したインスリノーマの1例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 78) 尾形昌男, 二宮理貴, 水谷 聡, 近藤恭司, 尾碇卓司, 小泉正樹, 千原直人, 吉野雅則, 小峯 修, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学第一外科): 右腎直接浸潤を伴い合併切除した上行結腸癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 79) 渡辺昌則, 小峯 修, 小泉正樹, 埴 秀暁, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 尾形昌男, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院臓器病態制御外科学): 大腸手術における SSI 危険因子. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 80) 渡辺昌則, 小峯 修, 小泉正樹, 埴 秀暁, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 尾形昌男, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院臓器病態制御外科学): 当科における結腸手術の SSI 危険因子. 日本外科感染症学会総会学術集会 (第21回), 2008. 11.
- 81) 飯ヶ谷重来, 和田由大, 山岸征嗣, 三浦克洋, 小峯 修, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 尾形昌男, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学第一外科): NSAIDs 誘発下血により発見された重症糖尿病患者の大腸癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第70回), 2008. 11.
- 82) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科): 肝内結石が原因で遅発性胆汁漏を来した肝切除の1例. 日本肝臓学会東部会 (第37回) (東京), 2008. 12.
- 83) 坊 英樹, 小泉正樹, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科): 消化器癌手術における手術部位感染防止に対する腹壁縫合の影響について. 日本創傷治療学会 (第38回), 2008. 12.
- 84) 三浦克洋, 山岸征嗣, 尾碇卓司, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科): 腹痛が軽微であった高齢者ヘルニア嵌頓2手術例. 外科集談会 (第811回), 2008. 12.
- 85) 和田由大, 水谷 聡, 星野有哉, 塩谷 猛, 山岸征嗣, 埴 秀暁, 佐藤精一, 二宮理貴, 前島顕太郎, 吉野雅則, 小峯 修, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 石井英昭<sup>1)</sup>, その他2名 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院病理部): 先天性胆道拡張症4例の手術経験. 日本消化器病学会関東支部例会 (第302回), 2008. 12.
- 86) 前島顕太郎, 徳永 昭, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 杠葉 良, 千原直人, 小峯 修, 坊 英樹, 渡辺昌則, 古川清憲<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 付属病院第一外科, 2) 千葉北総病院外科): S-1による胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験. 制癌剤適応研究会 (第42回), 2009. 2.
- 87) 吉野雅則, 尾形昌男, 小泉正樹, 山岸征嗣, 豊田哲鎬, 前島顕太郎, 千原直人, 水谷 聡, 小峯 修, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院外科): 当科における Bevacizumab 併用大腸癌化学療法. 制癌剤適応研究会 (第42回), 2009. 2.
- 88) 泉里豪俊<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 山浦忠能<sup>1)</sup>, 佐藤弘晃<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 戸谷裕之<sup>1)</sup>, 川原林伸昭<sup>1)</sup>, 安部仁<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 黒住昌史<sup>2)</sup> (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科, 2) 埼玉県立がんセンター病理科): 肛門機能を温存しえた肛門管 GIST の2例. 埼玉 GIST 研究会 (第3回), 2009. 2.
- 89) 泉里豪俊<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 山浦忠能<sup>1)</sup>, 佐藤弘晃<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 戸谷裕之<sup>1)</sup>, 川原林伸昭<sup>1)</sup>, 安部仁<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup> (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科): 下部直腸癌に対する括約筋間切除の遠隔成績と術後排便機能について. 北関東機能温存手術研究会 (第16回), 2009. 2.
- 90) 三浦克洋, 山岸征嗣, 埴 秀暁, 近藤恭司, 小泉正樹, 千原直人, 吉野雅則, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科): 大腸癌術後のサーベイランス下部消化管内視鏡検査で新たに発見された多発大腸癌再手術症例3例の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 91) 尾形昌男, 松信哲朗, 近藤恭司, 前島顕太郎, 小泉正樹, 千原直人, 小峯 修, 吉野雅則, 水谷 聡, 坊 英樹, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 第1外科): 胃粘膜下腫瘍形態を呈し興味深い経過を

- たどった胃印環細胞癌の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第303回), 2009. 2.
- 92) 尾形昌男, 吉野雅則, 小泉正樹, 近藤恭司, 尾崎卓司, 前島顕太郎, 千原直人, 水谷 聡, 小峯 修, 坊 英樹, 星野有哉, 渡辺昌則, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup>, その他5名<sup>(1)</sup> (日本医科大学第一外科): 大腸癌高齢者患者に対する腹腔鏡下大腸切除例の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第6回), 2009. 2.
- 93) 前島顕太郎, 徳永 昭, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 杠葉 良, 千原直人, 小峯 修, 坊 英樹, 栗原雄司, 尾形昌男, 渡辺昌則, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 付属病院第一外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院外科): 胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験. 日本胃癌学会総会 (第81回), 2009. 3.
- 94) 坊 英樹, 近藤恭司, 前島顕太郎, 小峯 修, 渡辺昌則, 徳永 昭, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科): *Helicobacter Pylori*と鳥肌胃炎. 日本胃癌学会 (81), 2009. 3.
- 95) 春原沙織<sup>1)</sup>, 南 史朗<sup>1)</sup>, 星野有哉, 中村慶春<sup>2)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学第一外科): 術中超音波検査で局在診断し, 腹腔鏡下手術をしたインスリノーマの1例. 臨床内分泌代謝 Update (第19回), 2009. 3.

## [武蔵小杉病院病理部]

### 研究概要

外科病理が研究の主体であり, 臨床各科と親密に連絡を取り合い, 臨床各科から提出された生検材料や手術材料を用い, 外科病理学的な研究を行っています. 例えば, 胃癌材料を使用し, ウイルス感染の関係を発現タンパクや細胞増殖, apoptosisや化学治療による癌細胞とapoptosisの関係等々の研究をしています. また稀有な症例については, 免疫組織化学や遺伝子検索を行い分子生物学的見地から研究をしています.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 北村剛一<sup>1)</sup>, 林 賢<sup>2)</sup>, 小林 了<sup>3)</sup>, 石井英昭<sup>4)</sup>, 松林 純<sup>5)</sup>, 松本哲哉<sup>3)</sup>, 鈴木 衛<sup>1)</sup> (1) 東京医科大学耳鼻咽喉科学教室, <sup>2)</sup> 新川クリニック, <sup>3)</sup> 東京医科大学微生物学教室, <sup>4)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, <sup>5)</sup> 東京医科大学病理診断学教室): Clinicopathological significance of the fragile histidine triad transcription protein expression in laryngeal carcinogenesis. *Oncology Reports* 2008; 19 (4): 847-852.

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 中村祐司<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 柳本邦雄<sup>3)</sup>, 大塚俊司<sup>1)</sup>, 石井英昭<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院病理部, <sup>3)</sup> 獨協医科大学越谷病院病理部, <sup>4)</sup> 日本医科大学病理学講座): ポリープ状異型腺筋症 (Atypical polypoid adenomyoma: APAM) の細胞像の検討. 第47回日本臨床細胞学会秋期大会 (東京), 2008. 11.
- 2) 前本直子<sup>1)</sup>, 大塚俊司<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>3)</sup>, 劉 愛民<sup>4)</sup>, 中村祐司<sup>1)</sup>, 石井英昭<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>5)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>3)</sup> 日本医科大学多摩永山病院病理部, <sup>4)</sup> 日本医科大学中央電子顕微鏡施設, <sup>5)</sup> 日本医科大学病理学講座): 神経細胞への分化を示す類上皮型GIST (GANT) の1例. 第47回日本臨床細胞学会秋期大会 (東京), 2008. 11.

## [武蔵小杉病院中央検査室]

### 研究概要

平成20年4月より特定健診、特定保険指導が開始された。その主旨に着目し、現状を把握し、どの様に改善されて行くかを検証するための第一歩として、脂質成分について性別、年代別の解析を実施した。特定健診の開始にあたって学会等では測定値のトレーサビリティについて盛んに論じられたが、評価の指標となる基準値について論じられる機会は意外と少なかった。我々はこの点を踏まえ、今後このテーマを基準値の再評価へと発展させたいと考えている。

臨床研究においては、マクロファージ活性化症候群、鉄代謝異常などの症例に遭遇し現在追跡調査を行なっている。また、超音波検査においても数例の特異症例に遭遇し、このうち2例について医学会総会での発表を行った。試薬、機器検討においては、業務改善を目的に種々の改良試薬、分析機の評価、治験等を実施した。この中で、慢性的人員不足を補う方策として尿中有形成成分分析装置の有用性を検証できたことは大きな成果であった。今後も迅速性、正確性、測定精度、業務効率、収支の改善を目指し、活発な活動を継続して行きたい。

### 研究業績

#### 学会発表

[追加分]

追加分一般講演：

- 1) 望月 徹<sup>1)</sup>、渡辺昌則<sup>2)</sup>、野口周作<sup>3)</sup>、鈴木憲康<sup>4)</sup>、山口朋禎<sup>7)</sup>、西澤善樹<sup>5)</sup>、土金なおみ<sup>6)</sup>、坂倉剛志<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター、2) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター、3) 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部、4) 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室、5) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科、6) 日本医科大学武蔵小杉病院看護部、7) 日本医科大学武蔵小杉病院内科)：グラム染色による起炎菌の推定、WHO-NET5.3によるantibiogram算出から有効抗菌薬を決定して救命につながった重症胆道感染の1例。日本感染症学会(第81回)、2007.4.
- 2) 野口周作<sup>1)</sup>、望月 徹<sup>2)</sup>、土金なおみ<sup>3)</sup>、鈴木憲康<sup>4)</sup>、山口朋禎<sup>7)</sup>、西澤善樹<sup>5)</sup>、渡辺昌則<sup>6)</sup>、片岡博邦<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤科、2) 日本医科大学武蔵小杉病院救急救命センター、3) 日本医科大学武蔵小杉病院看護部、4) 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室、5) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科、6) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター、7) 日本医科大学武蔵小杉病院内科)：抗菌薬適正使用とICT活動の効果。環境感染学会(第23回)、2008.2.

(1) 一般講演：

- 1) 中島由美子<sup>1)</sup>、成定昌昭<sup>1)</sup>、白井一城<sup>1)</sup>、加藤理絵<sup>1)</sup>、菅原 通<sup>1)</sup>、森本 進<sup>1)</sup>、勝部康弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室)：全自動尿中有形成成分分析装置の導入による日当直業務の改善に関する検討。日本医科大学医学会総会(第76回)、2008.9.
- 2) 因泥弘之<sup>1)</sup>、吉田美和<sup>1)</sup>、小伊藤保雄<sup>1)</sup>、森本 進<sup>1)</sup>、勝部康弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室)：特定健診調査報告 LDL-Cの有用性。日本医科大学医学会総会(第76回)、2008.9.
- 3) 井梅和美<sup>1)</sup>、井上雅則<sup>1)</sup>、花出 豊<sup>1)</sup>、森本 進<sup>1)</sup>、勝部康弘<sup>1)</sup>、尾藤博保<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室、2) 日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科)：川崎赤十字血液センター閉鎖統合に伴う輸血療法委員会の役割。日本医科大学医学会総会(第76回)、2008.9.
- 4) 隠岐和美<sup>1)</sup>、西島美輝子<sup>1)</sup>、山賀節子<sup>1)</sup>、越谷美由紀<sup>1)</sup>、井出尚子<sup>1)</sup>、荒木久美<sup>1)</sup>、森本 進<sup>1)</sup>、勝部康弘<sup>1)</sup>、大塚智之<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室、2) 日本医科大学武蔵小杉病院内科)：頸動脈超音波検査における右総頸動脈完全閉塞の1症例。日本医科大学医学会総会(第76回)、2008.9.



- 5) 荒井誠一<sup>1)</sup>, 越谷美由紀<sup>1)</sup>, 坂倉剛志<sup>1)</sup>, 井上雅則<sup>1)</sup>, 森本 進<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室) : オーダリングシステム接続に伴う生理部門システムの構築. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
- 6) 高久貴子<sup>1)</sup>, 西島美輝子<sup>1)</sup>, 山賀節子<sup>1)</sup>, 越谷美由紀<sup>1)</sup>, 井出尚子<sup>1)</sup>, 井上雅則<sup>1)</sup>, 森本 進<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 天神敏博<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院心臓血管・呼吸器・乳腺内分泌外科) : 乳腺超音波検査が有用であった乳腺炎の1症例. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.

## [武蔵小杉病院薬剤科]

### 研究概要

平成20年度は、抗菌剤の適正使用、薬剤管理指導業務の検討、外来化学療法の患者意識、退院処方薬剤の処方設計などの研究が学会発表の主軸となった。抗菌剤の適正使用としては、集中治療室における特定抗菌薬の届け出制に関するまとめと考察を行った。薬剤管理指導業務の検討では、白内障の手術にて入院した眼科患者に対する薬剤管理指導業務の検討を行った。外来化学療法の患者意識については、外来化学療法室において加療中の患者に対しアンケートを実施し、その結果をまとめた。また、退院処方薬剤の処方設計についての研究では、消化器病センターにて入院中の大腸ポリープに対する入院内視鏡的切除後の処方薬剤の検討を行った。それからまた、薬剤師として院内の医療チーム（疼痛緩和、褥瘡対策、感染制御）においてその業務内容に関わって主演者として、または共同演者として学会発表を行った。さらに救命救急医療におけるTEIC高用量投与設計法について論文として発表した。豚インフルエンザや市中感染症が世の中を脅かしている中で、特定抗菌薬の届け出制に関するまとめと考察や感染制御チームに関しての研究が実施できたことは意義の有ることであった。また、病院薬剤師本来の業務である薬剤管理指導業務や処方設計に参画し考察できた事、外来化学療法室における癌患者の意識について調査し考察を加えた事、患者からの要望書に関して調査解析した研究が出来た事についても大変有意義であった。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 野口周作, 上田康晴<sup>1)</sup>, 渋谷正則, 此松晶子, 伊藤淳雄, 島田慰彦, 望月 徹<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 黒川 顯<sup>1)</sup>, 片岡博邦 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急センター) : 救命救急医療におけるテコプラニン (TEIC) 高用量投与設計法の検討. 医療薬学 2008 ; 34 (7) : 662-670.

##### (2) 症例報告：

- 1) 渋谷正則, 佐々木忠徳<sup>1)</sup>, 高尾良洋<sup>2)</sup>, 小杉隆祥<sup>3)</sup>, 木村利美<sup>4)</sup>, 喜古康博<sup>5)</sup> (1) 亀田総合病院 薬剤部, 2) 横浜市立市民病院 薬剤部, 3) 東邦大学医療センター大森病院 薬剤部, 4) 東京女子医科大学病院 薬剤部, 5) 藤沢市民病院 薬局) : 症例から学ぶTDM実践アプローチ 第4回テオフィリン (1) : 初期投与設計から外来維持投与設計まで. 薬局 2008 ; 59 (5) : 108-114.
- 2) 渋谷正則, 佐々木忠徳<sup>1)</sup>, 高尾良洋<sup>2)</sup>, 小杉隆祥<sup>3)</sup>, 木村利美<sup>4)</sup>, 喜古康博<sup>5)</sup> (1) 亀田総合病院 薬剤部, 2) 横浜市立市民病院 薬剤部, 3) 東邦大学医療センター大森病院 薬剤部, 4) 東京女子医科大学病院 薬剤部, 5) 藤沢市民病院 薬局) : 症例から学ぶTDM実践アプローチ 第5回テオフィリン (2) : 外来フォロー中の緊急入院時対応. 薬局 2008 ; 59 (7) : 158-165.

#### 著書

- 1) 篠崎公一, 平岡聖樹, 渋谷正則, 鈴木昭之 : [翻訳] TDMの正しい理解のために. 薬物動態学と薬力学の臨床応用 (監訳編集), 2009 ; メディカル・サイエンス・インターナショナル.



## 学会発表

### (1) パネルディスカッション：

- 1) 野口周作, 島田慰彦, 一瀬麻紀<sup>1)</sup>, 牧 真彦<sup>1)</sup>, 上笹 宙<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 黒川 顯<sup>1)</sup>, 片岡博邦<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急センター)：当院救命救急センターにおける急性医薬品中毒患者の検討. 日本中毒学会総会 (第30回), 2008. 7.
- 2) 宮内秀典, 伊藤淳雄, 東さやか, 野口周作, 島田慰彦, 片岡博邦：大腸polypに対する入院内視鏡的治療後における処方薬剤の検討. 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会 (第38回), 2008. 8.
- 3) 野口周作, 島田慰彦, 望月 徹<sup>1)</sup>, 土金なおみ<sup>1)</sup>, 菅谷量俊<sup>2)</sup>, 片山志郎<sup>2)</sup>, 片岡博邦 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 感染制御チーム, 2) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：啓発効果を念頭に置いた抗菌薬届け出システムの有用性. 日本医療薬学会年会 (第18回), 2008. 9.
- 4) 東さやか, 伊藤淳雄, 野口周作, 島田慰彦, 片岡博邦：糖尿病を合併している白内障手術患者に対する薬剤管理指導方法の検討. 日本医療薬学会年会 (第18回), 2008. 9.
- 5) 此松晶子<sup>3)</sup>, 島田慰彦<sup>3)</sup>, 野口周作<sup>3)</sup>, 宮内秀典, 伊藤淳雄, 藤井さとみ<sup>1,3)</sup>, 柴原幸子<sup>1,3)</sup>, 高橋久美子<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>2,3)</sup>, 徳永 昭<sup>2)</sup>, 片岡博邦 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 看護部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 輸液療法室)：輸液療法室の開設と薬剤師による全患者への面談実施の有用性の検討. 日本医療薬学会年会 (第18回), 2008. 9.
- 6) 此松晶子, 野口周作, 宮内秀典, 島田慰彦, 片岡博邦：患者から寄せられた質問内容の解析と情報提供方法の検討. 日本薬学会年会 (第129回), 2009. 3.

### (2) 一般講演：

- 1) 黒川 顯<sup>1)</sup>, 一瀬麻紀<sup>1)</sup>, 牧 真彦<sup>1)</sup>, 上笹 宙<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 野口周作, 岸 泰宏<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 精神科)：医療関係者の2次災害の防止を考える. 日本中毒学会総会 (第30回), 2008. 7.
- 2) 藤原佳美<sup>1)</sup>, 高橋順子<sup>1)</sup>, 長崎千恵子<sup>1)</sup>, 若城由美子<sup>1)</sup>, 原田英博<sup>2)</sup>, 山口朋禎<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 看護部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 内科 (内科, 循環器科, 神経内科))：急性期病院における緩和ケアの現状とチームの課題. 日本緩和医療学会学術大会 (第13回), 2008. 7.
- 3) 野村好美<sup>1)</sup>, 月岡悦子<sup>1)</sup>, 若城由美子, 村上正洋<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 看護部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 形成外科)：BIPAP管理下で生じる顔面褥瘡に対する当院の試み. 日本褥瘡学会学術集会 (第10回), 2008. 8.
- 4) 望月 徹<sup>1)</sup>, 野口周作, 黒川 顯<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 上笹 宙<sup>1)</sup>, 牧 真彦<sup>1)</sup>, 一瀬麻紀<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急センター, 2) 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター)：集中治療室における特定抗菌薬届出制とICT (感染制御チーム) 介入の有用性. 日本救急医学会総会学術大会 (第36回), 2008. 10.

## [武蔵小杉病院看護部]

### 研究概要

1. BIPAPで使用するフェイスマスクにより生じる顔面の褥瘡に対して当院で試みている対処法
2. 肥満女性2型糖尿病患者に対しグループトーチンク活動を行い体重減少・血糖値の改善を目標とした
3. 手術時手洗いの紹介と実演
4. 5S活動を導入し各科別 (色別) 分類カードを導入 手術室の材料管理をした効果
5. 直腸手術を受けた患者に半構成的面接を行い排便機能障害の実態とそれに伴う日常生活の具体的な変化について明らかにした

6. 災害時（地震・停電）を想定した懐中電灯の使用状況による看護師の心理状況の研究
7. 緊急帝王切開は母児の緊急事態を回避するために行われるが産婦の自己の出産イメージが壊れる想定外の出来事である。女性の母親役割への適応に影響を及ぼしている要因の一つとして出産経験が関連している。そこで緊急帝王切開となった産婦が今回の出産体験に対して何を思い感じたのかを聞き取り調査し今後の看護の示唆を得た
8. 人口呼吸管理で特殊な症例における口腔内維持吸引がもたらした有効性
9. 災害発生直後各々が責任を持って状況判断し行動するために産科病棟において災害に備えて日頃からできること災害時のスタッフが果たすべき役割について再考
10. 当院における妊娠糖尿病の指導の現状とその後のフォローアップ体制についての課題
11. 従来のrHuEPO製剤からネスブに切り替えたことにより腹膜透析患者のQOLおよびスタッフの仕事量や質の変化をアンケートを中心に検討した
12. 急性期病院に緩和ケアチームが発足し活動を始めて半年経ち明らかになった院内の問題点。その課題に向けての取組み活動
13. 手指衛生遵守率向上のための教育活動
14. 女性と糖尿病に関連した疾患や看護についてのクイズ形式の記述
15. 慢性呼吸器疾患患者用に作製した運動プログラムの有効性の検証

## 研究業績

### 著書

- 1) 金井千晴<sup>1)</sup>, 金子佳世<sup>(1)</sup> (プランナー): [分担] 特集 糖尿病クイズ100 女性と糖尿病クイズ, 糖尿病ケア, 2008; pp62-67, (株)メディカ出版.
- 2) 高木 聡, 鈴木仁美, 藤田真理子: [編集] 一般病棟における呼吸理学療法定着へ向けての取り組み, 呼吸器ケア, 2008; pp18-24, (株)メディカ出版.

### 学会発表

#### (1) 一般講演:

- 1) 水本水絵, 小河原美代子, 横尾香代子, 尾藤博保<sup>1)</sup> (1) 麻酔科): 手術材料の管理方法改善のための1報. 日本手術医学会総会 (第30回), 2008. 9.
- 2) 野村好美, 村上正洋<sup>1)</sup>, 岩城由美子<sup>2)</sup>, 月岡悦子 (1) 形成外科, <sup>2)</sup> 薬剤部): BIPAP管理下で生じる顔面褥瘡に対する当院の試み. 日本褥瘡学会学術集会 (第10回), 2008. 8.
- 3) 金子佳世, 上淵真理江 (1) 共立女子短期大学): 肥満女性2型糖尿病患者トーキンググループの効果の検討. 日本糖尿病教育看護学会 (第13回), 2008. 9.
- 4) 馬上春子, 小河原美代子, 横尾香代子: 手洗い法の実際. 日本手術医学会総会 (第30回), 2008. 9.
- 5) 野村好美: 直腸切除後の排便機能障害と対処方法について. 日本手術医学会総会 (第30回), 2008. 9.
- 6) 馬上春子, 小河原美代子, 横尾香代子: 災害時に対する工夫: 停電を想定した疑似体験を通して. 日本手術看護学会 (第22回), 2008. 10.
- 7) 伊藤るみ子, 朝日恵里子, 小河原美代子: 緊急帝王切開となった産婦との分娩のふり返り: 産褥婦の物語からみた1考案. 日本母性衛生学会総会ならびに学術集会 (第49回), 2008. 11.
- 8) 門馬 治: 気管偏移により人工呼吸器管理中の誤嚥防止が困難な患者に対する口腔内持続吸引の試み. 日本救急看護学会学術集会 (第10回), 2008. 11.
- 9) 澤谷智美, 扇谷 歩, 吉賀尚子, 小河原美代子: 当院産科病棟における地震発生時の取り組み. 神奈川母性衛生学会総会ならびに学術集会 (第22回), 2009. 2.

(2) 口述：

- 1) 金子佳世, 日野明美, 滝澤 薫, 吉賀尚子, 小河原美代子：当院における妊娠糖尿病や糖尿病合併妊娠の指導の現状と今後の課題. 神奈川母性衛生学会総会ならびに学術集会（第22回）, 2009. 2.

(3) 示説：

- 1) 前田幸生, 曾根崎裕子, 加藤和久<sup>1)</sup>, 尾崎 傑<sup>1)</sup>, 磯野友昭<sup>1)</sup>, 門松 豊<sup>1)</sup>, 酒井行直<sup>2)</sup>, 酒井紗織<sup>2)</sup>, 大塚智之<sup>2)</sup>, 大野 大<sup>2)</sup>, 村澤恒男<sup>2)</sup>, 宗像一雄<sup>2)</sup> (1) 血液浄化療法室, 2) 内科)：当院透析室におけるネスプの有用性についての検討：アンケートを中心に. (社)日本透析医学会学術集会・総会（第53回）, 2008. 6.
- 2) 藤原佳美, 高橋順子, 長崎千恵子, 若城由美子, 原田英博, 山口朋禎：急性期病院における緩和ケアの現状とチームの課題. 日本緩和医療学会学術大会（第13回）, 2008. 7.
- 3) 土金なおみ：手指衛生の遵守率向上と維持における参加型教育の効果. 日本看護学会—看護総合—学術集会（第39回）, 2008. 7.

## [武蔵小杉病院放射線科技師室]

### 研究概要

- 1) 院内研究会および4病院合同研究発表会（年2回）
- 2) 装置メーカーとの共同装置開発プロジェクトの参加（日立メディカル）
- 3) 認定資格の取得強化（放射線取扱主任, 放射線管理士 各1名取得）

## 22. 多摩永山病院付置施設等

### [多摩永山病院病理部]

#### 研究概要

組織培養，免疫組織化学，電子顕微鏡部門が充実し，臨床医の病理部での研究も行なわれるようになり，研究部門もさらに充実してきた．現在の主な研究テーマは以下の通りである．

- (1) 臨床に呼応した迅速細胞・組織診断（外来・病棟・術中・剖検時）の確立
- (2) 免疫細胞・組織化学（サイトケラチン7/20/34  $\beta$  E12/35  $\beta$  H11, MIB-1, Napsin A, Villin）を用いた客観的原発巣推定診断・予後診断法の確立
- (3) 乳腺腫瘍
  - 1) 穿刺吸引細胞診材料を用いた予後診断の確立；細胞転写法を用いてER, PgR, HER2蛋白質，MIB-1指数の他，HER2に関しては蛋白の過剰発現と遺伝子増幅（CISH）の両方を検討する
  - 2) 乳癌における，ホルモンレセプターと細胞骨格，接着因子の関係および転移性乳癌の臨床病理学的研究；HER2タンパク質と基底膜分解酵素について
- (4) 細胞転写法による中皮腫の免疫細胞学的診断法の確立（特異抗体；カルレチニン，CK5/6，メゾテリン，D2-40，WT1など）
- (5) 骨軟部腫瘍
  - 1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立（免疫組織化学，電顕的検索の併用）
- (6) 子宮癌
  - 1) 子宮内膜癌の細胞診による診断の確立（免疫組織化学，電顕的検索の併用）：とくにセルブロック法
- (7) リンパ節病変
  - 1) リンパ節病変の迅速診断法の検索，免疫細胞学的アプローチ
  - 2) リンパ節病変の分子生物学的検索
  - 3) 悪性リンパ腫の細胞診断学

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kitagawa Y<sup>1)</sup>, Fujii N<sup>1)</sup>, Katayama H, Isobe H, Yanagida Y, Iwase H, Maeda S, Ito H<sup>2)</sup> (1) Department of Orthopedic Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, (2) Department of Orthopedic Surgery, Nippon Medical School) : Pleomorphic rhabdomyosarcoma diagnosed by fine needle aspiration cytology using the cell-transfer technique. J Jpn Soc Clin Cytol 2008 ; 47 (3) : 216-219.
- 2) Suzuki S<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Liu A<sup>2)</sup>, Hosone M, Maeda S, Tajiri T<sup>3)</sup> (1) Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, (2) Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School, (3) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Pathologic complete response confirmed by surgical resection for liver metastases of gastrointestinal stromal tumor after treatment with imatinib mesylate. World Journal of Gastroenterology 2008 ; 14 (23) : 3763-3767.
- 3) Suzuki S<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Sato Y<sup>2)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Hosone M, Maeda S, Shimizu K<sup>3)</sup>, Tajiri T<sup>3)</sup> (1) Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, (2) De-

partment of Molecular Diagnostics, School of Allied Health Science Kitasato University, <sup>3)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School) : MAGE-A protein and MAGE-A10 gene expressions in liver metastasis in patients with stomach cancer. *British Journal of Cancer* 2008 ; 99 (2) : 350-356.

- 4) 前田昭太郎, 片山博徳, 岩瀬裕美, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 統御機構病理学) : 体腔液細胞診による胸膜中皮腫の確定診断法 Making a definitive diagnosis of mesothelioma by body cavity fluid cytology : Use of cell transfer method or cell block method for immunochemical staining. *病理と臨床* 2007 ; 26 (7) : 738-740.
- 5) 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学講座統御機構・腫瘍) : 中皮腫の診断 : 細胞・組織構築所見による診断. *臨床検査* 2008 ; 52 (9).
- 6) 前田昭太郎, 片山博徳, 岩瀬裕美 : ナプシン A : 原発性肺癌と転移性肺癌の鑑別. *検査と技術* 2008 ; 36 (11) : 1244-1246.

#### (2) 症例報告 :

- 1) 榎本 豊<sup>1)</sup>, 齋藤祐二<sup>1)</sup>, 谷村繁雄<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 片山博徳, 小泉 潔<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院呼吸器外科, <sup>2)</sup> 付属病院外科・呼吸器外科) : 術中穿刺細胞診が有用であった膵臓癌孤立性肺転移の一切除例. *日本呼吸器外科学会誌* 2009 ; 23 (1) : 75-80.
- 2) 田中陽子<sup>1)</sup>, 北川泰之<sup>1)</sup>, 藤井信人<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 伊藤博元<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院整形外科, <sup>2)</sup> 付属病院整形外科) : 骨外性粘液型軟骨肉腫の1例. *日本臨床細胞学会雑誌* 2009 ; 48 (2) : 75-78.

#### 学会発表

(追加分)

追加分シンポジウム :

- 1) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 細根 勝, 前田昭太郎, その他1名 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院消化器科) : 再発性GISTの治療方針. 第27回多摩消化器シンポジウム, 2008. 1.

追加分一般講演 :

- 1) Suzuki S<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Mizutani T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Matsuhisa T<sup>1)</sup>, Hosone M, Iida S<sup>2)</sup>, Satoh Y<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Gastroenterol., Tama-Nagayama Hosp., <sup>2)</sup> Dept. Surg., Nippon Med. Sch) : MAGE-A10 mRNA expression using highly sensitive in situ hybridization in patients with stomach cancer. 66th Annual Meeting of the Japanese Cancer Assosiation, 2007. 10.
- 2) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 細根 勝, 飯田信也<sup>2)</sup>, 佐藤雄一<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第一, <sup>3)</sup> 北里大学医療衛生学部遺伝子検査学) : cRNAプローブを用いた胃癌組織におけるMAGE-A10mRNA発現の検討とその臨床的意義. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 3) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 細根 勝, 津久井拓<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, その他1名 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院消化器科) : GIST/EGIST患者のリスク分類と分子標的治療との関係. 第93回日本消化器病学会, 2007. 4.
- 4) 東 直行<sup>1)</sup>, 中田朋子<sup>1)</sup>, 細根 勝, 前田昭太郎, 川名誠司<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup> 付属病院皮膚科) : Blastic NK cell lymphomaの1例. 第23回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2007. 5.
- 5) 横山 正<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 古川清憲<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 臓器病態制御外科学) : 転移性乳癌におけるCapecitabine/Cyclophosphamide療法(XC療法)の検討. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.



- 6) 榎本 豊<sup>1)</sup>, 齋藤祐二<sup>1)</sup>, 谷村繁雄<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科) : 膵臓癌孤立性肺転移の1例. 第149回日本肺癌学会関東支部会, 2007. 7.
- 7) 小金井宏美<sup>1)</sup>, 東 直行<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 川名誠司<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 付属病院皮膚科) : Palisaded encapsulated neuromaの1例. 日本皮膚科学会第813回東京地方会, 2007. 7.
- 8) 田中陽子<sup>1)</sup>, 北川泰之<sup>1)</sup>, 藤井信人<sup>1)</sup>, 伊藤博元<sup>2)</sup>, 前田昭太郎 (1) 多摩永山病院整形外科, 2) 整形外科学講座) : 骨外性粘液型軟骨肉腫の1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 9) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 細根 勝, その他1名 (1) 多摩永山病院外科, 2) 多摩永山病院消化器科) : 病理組織型からみたmFLOFOX6を施行した進行・再発大腸癌症例の検討. 第49回日本消化器病学会, 2007. 10.
- 10) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松久毅<sup>2)</sup>, 細根 勝, 田尻 孝<sup>3)</sup> (1) 多摩永山病院外科, 2) 多摩永山病院消化器科, 3) 外科学第一) : メシル酸イマチニブにより治療導入したGIST・EGISTの臨床経過・腫瘍縮小効果について. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 10.
- 11) 狩野律子<sup>1)</sup>, 東 直行<sup>1)</sup>, 落合廣武<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 川名誠司<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 付属病院皮膚科) : 神経細胞の増殖を伴った folliculosebaceous cystic hamartoma. 日本皮膚科学会第815回東京地方会, 2007. 11.
- 12) 新井洋紀<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 西 佳史<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 杉浦 篤<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 細根 勝 (1) 多摩永山病院外科) : 術後7年目のPET-CTにて診断し得た再発性大腸癌の1例. 第76回城西外科研究会, 2008. 2.

(1) 会長講演 :

- 1) 前田昭太郎 : 臨床に呼応した細胞診断. 第47回日本臨床細胞学会秋期大会, 2008. 11.

(2) 特別講演 :

- 1) 前田昭太郎 : 臨床に呼応した病理診断. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
- 2) 前田昭太郎 : グローバル時代の細胞診. 第51回日本臨床細胞学会栃木県支部学術集会, 2008. 10.

(3) 招待講演 :

- 1) Maeda S, Katayama H, Iwase H, Naito Z<sup>1)</sup> (1) Department of Pathology, Nippon Medical School) : Making a definitive diagnosis of mesothelioma by effusion cytology : Use of cell transfer method or cell block method for immunochemical staining . Asia-Pacific Society for Molecular Immunohistology (Penang, Malaysia), 2008. 6.
- 2) Maeda S : How to make the best use of cytology for diagnosis?. 20th National Congress of pathology Patient Safety and Health Personnel Safety (Bangkok, Thailand), 2008. 9.
- 3) Maeda S : How to make a definitive diagnosis of mesothelioma by effusion cytology. Khon Kaen University (Khon Kaen, Thailand), 2008. 9.
- 4) Maeda S : How to make a correct diagnosis of breast cancer by FNA cytology. Khon Kaen University (Khon Kaen, Thailand), 2008. 9.
- 5) Anantnuch S<sup>1)</sup>, Maeda S (1) National Cancer Institute, Bangkok, Thailand) : Making a definitive diagnosis of malignant tumor by pleural effusion cytology : Use of cell transfer method or cell block method for immunochemical staining . 第49回日本臨床細胞学会総会, 2008. 6.

(4) 教育講演 :

- 1) 前田昭太郎 : 乳腺の病理と細胞診. 平成20年度 東京都多摩がん検診センター : 第3回細胞検査士養成公開講

座, 2008. 7.

- 2) 片山博徳, 前田昭太郎: 乳腺細胞診の実際. 平成20年度 東京都多摩がん検診センター: 第3回細胞検査士養成公開講座, 2008. 7.

(5) ワークショップ:

- 1) 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 北川泰之<sup>2)</sup> (1) 病理学講座 統御機構・腫瘍, 2) 多摩永山病院 整形外科): 骨・軟部腫瘍における画像・細胞診のコラボレーション. 第97回日本病理学会総会, 2008. 9.
- 2) Hosone M: Workshop2: Case10. 7th German Japanese Lymphoma Meeting (Würzburg), 2008. 9.
- 3) Hosone M: EAHP Lymphoma Workshop. IV-26: Lymphomatoid granulomatosis (LYG), Grade 3. XIV. Meeting of the European Association for Haematopathology (Bordeaux-France), 2008. 9.
- 4) 片山博徳, 前田昭太郎, 岩瀬裕美, 内藤善哉<sup>1)</sup> (1) 病理学講座 統御機構・腫瘍): 体腔液細胞診における中皮腫の細胞形態の特徴と各種マーカーの検討. 第49回日本臨床細胞学会総会, 2008. 6.

(6) 一般講演:

- 1) Ishigaki S<sup>1)</sup>, Uchiyama S<sup>2)</sup>, Motoda N<sup>3)</sup>, Matsuda Y<sup>3)</sup>, Onda M<sup>3)</sup>, Azuma K, Katayama H, Liu A, Maeda S, Tsuchiya S<sup>4)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup> (1) Nippon Medical School, 5th year, 2) Nippon Medical School, 3rd year, 3) Department of Pathology, Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, 4) Division of Clinical Pathology, Nippon Medical School Hospital): A case of the transformation of neurocutaneous melanosis into malignant melanoma; Part1 (Cytological and histopathological findings). The 16th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Pattaya, Thailand), 2009. 1.
- 2) Uchiyama S<sup>1)</sup>, Ishigaki S<sup>2)</sup>, Motoda N<sup>3)</sup>, Matsuda Y<sup>3)</sup>, Onda M<sup>3)</sup>, Azuma K, Katayama H, Liu A, Maeda S, Tsuchiya S<sup>4)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup> (1) Nippon Medical School, 3rd Year, 2) Nippon Medical School, 5th year, 3) Department of Pathology, Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, 4) Division of Clinical pathology, Nippon Medical School Hospital): A case of the transformation of neurocutaneous melanosis into malignant melanoma; Part2 (immunohistochemical and Ultrastructural findings). The 16th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Pattaya, Thailand), 2009. 1.
- 3) Enomoto H<sup>1)</sup>, Maeda S, Hosone M, Katayama H (1) Nippon Medical School, 3rd Year): The collaboration between an image and cytology. The 16th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Pattaya, Thailand), 2009. 1.
- 4) Fujita C<sup>1)</sup>, Hakuda T<sup>1)</sup>, Nagao M<sup>1)</sup>, Igari Y<sup>1)</sup>, Maeda S (1) Division of Cytology, Arakawa City Health Center): A study of cervical cancer screening in mass surveys of young women in the 20' s. The 16th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Pattaya, Thailand), 2009. 1.
- 5) Taniyama K<sup>1)</sup>, Oshita S<sup>1)</sup>, Saito A<sup>1)</sup>, Kuraoka K<sup>1)</sup>, Kawakami Y<sup>2)</sup>, Takehara K<sup>2)</sup>, Katayama H, Maeda S, Naito Z (1) Institute for Clinical Research, NHO Kure Medical Center and Chugoku Cancer, Kure Japan, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, NHO Kure Medical Center and Chugoku Cancer, Kure Japan): HPV typing and cytological diagnosis for cervical lesions in Japan and other Asian countries. The 16th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Pattaya, Thailand), 2009. 1.
- 6) 劉 愛民<sup>1)</sup>, モハマッドガジザデ<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 東 敬子, 片山博徳, 内藤善哉<sup>2)</sup> (1) 中央電子顕微鏡研究施設, 2) 統御・腫瘍病理学): 捺印細胞診から作製した電顕標本が確定診断に有用であった2症例. 第47回日本臨床細胞学会秋期大会, 2008. 11.
- 7) 清水秀樹<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1,2)</sup>, 小黒辰夫<sup>1)</sup>, 新井 悟<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>3)</sup>, 岡田 進<sup>4)</sup>, 内藤善哉<sup>5)</sup>, 前田昭太郎 (1) 千葉北総病院病理部, 2) 初石病院内科, 3) 脳神経外科, 4) 放射線科, 5) 病理学): 脳腫瘍のUP-TO-DATE・MRI画像と細胞像. 第47回日本臨床細胞学会秋期大会, 2008. 11.
- 8) 榎本 豊<sup>1)</sup>, 齋藤祐二<sup>1)</sup>, 谷村雄繁<sup>1)</sup>, 岩瀬裕美, 片山博徳, 前田昭太郎 (1) 多摩永山病院呼吸器外科): 呼吸

器外科領域における術中迅速穿刺吸引細胞診 (FNAC) の有用性について. 第47回日本臨床細胞学会秋期大会, 2008. 11.

- 9) 磯部宏昭, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 柳田裕美, 岩瀬裕美, 日吾美栄子, 鈴木美紀, 野手洋治<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 統御機構病理学): 術中迅速圧挫細胞診が有用であった Pilocytic astrocytoma の2例. 第47回日本臨床細胞学会秋期大会, 2008. 11.
- 10) 三田俊二<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 岩瀬裕美, 磯部宏昭, 日吾美栄子, 鈴木美紀, 中井昌子<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 多摩永山病院女性診療科・産科): 体腔液に対する免疫細胞化学染色 (細胞転写法) による原発巣の同定. 第47回日本臨床細胞学会秋期大会, 2008. 11.
- 11) 榎本弘幸<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳 (<sup>1)</sup> 医学部医学科第三学年): 画像・細胞診のコラボレーション. 第47回日本臨床細胞学会秋期大会, 2008. 11.
- 12) 細川雄亮<sup>1)</sup>, 神谷仁孝<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 平澤泰宏<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 片山博徳, 細根勝, 前田昭太郎 (<sup>1)</sup> 多摩永山病院内科): 経静脈的カテーテル生検時の迅速細胞診が推定診断に有用であった心臓血管肉腫の1例. 第47回日本臨床細胞学会秋期大会, 2008. 11.
- 13) 前本直子<sup>1)</sup>, 大塚俊司<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>2)</sup>, 片山博徳, 劉 愛民<sup>3)</sup>, 中村祐司<sup>1)</sup>, 石井英昭<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院病理部, <sup>2)</sup> 武蔵小杉消防器病センター, <sup>3)</sup> 中央電子顕微鏡研究施設, <sup>4)</sup> 病理学): 神経細胞への分化を示す類上皮型 GIST (GANT) の1例. 第47回日本臨床細胞学会秋期大会, 2008. 11.

## [多摩永山病院中央検査室]

### 研究概要

当検査室における主な研究目的は, 臨床検査学の進歩のなかで, 新しい検査法および検査技術を検討するとともに臨床への応用と意義を考察し, 新検査法の実現を追っている. また, 日常の臨床検査全体の精度管理, 検査方法および迅速測定を実施し, 各種の検査における臨床との関連を見つつ, 質の向上と検査測定法の確立を目指している.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Hara S<sup>1)</sup>, Nemoto K<sup>1)</sup>, Ninomiya N<sup>1)</sup>, Kubota M, Kuno M<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Emergency and Critical Medicine): Continuous infusion of sivelestat sodium hydrate prevents lipopolysaccharide-induced intestinal paralysis and hypotension in conscious guinea-pigs. *Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology* 2008; 35 (7): 841-845.

#### 学会発表

##### (1) パネルディスカッション:

- 1) 酒井貴史, 水谷行伸, 林 綾子, 佐藤寛之, 池野廣幸, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 多摩永山病院内科・循環器内科): ストレインレートをを用いた左房機能評価. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
- 2) 杉原秀人, 成定朋美, 鈴木美子, 高須佳奈子, 池野廣幸, 草間芳樹: 血液培養から検出される Coagulase negative *Staphylococcus* (CNS) に関する検討. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.
- 3) 水谷行伸, 酒井貴史, 林 綾子, 佐藤寛之, 池野廣幸, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 多摩永山病院内科・循環器内科): 2Dトラッキング法によるストレインレートをを用いた左室拡張機能の評価: 特に高血圧症, 糖尿病について. 日本医科大学医学会総会 (第76回), 2008. 9.

(2) 一般講演：

- 1) 林 綾子, 酒井貴史, 水谷行伸, 佐藤寛之, 池野廣幸, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 東 直行<sup>2)</sup>, 中田朋子<sup>2)</sup>, 狩野律子<sup>2)</sup>, 小金井宏美<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院内科・循環器内科, 2) 多摩永山病院皮膚科)：皮膚科領域における超音波検査と病理組織学的診断の比較検討。日本超音波検査学会 (第33回), 2008. 6.
- 2) 所司睦文<sup>1)</sup>, 久保田稔, 大野節代<sup>2)</sup>, 鉄原拓雄<sup>1)</sup>, 通山 薫<sup>1)</sup> (1) 川崎医療短期大学, 2) 倉敷芸術科学大学)：岡山県で臨床検査を学ぶ学生を対象とした脳死下臓器移植治療の意識調査。日本臨床検査学教育学会 (第3回), 2008. 8.
- 3) 久野将宗<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 根本香代<sup>1)</sup>, 久保田稔, 松本辰美<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup> (1) 多摩永山病院救命救急センター, 2) 武田薬品工業, 3) 救急医学)：TLR4 シグナル伝達阻害薬 TAK-242 のエンドトキシン血症モルモットモデルに対する効果。日本救急医学会 (第36回), 2008. 10.

## [多摩永山病院薬剤科]

### 研究概要

当薬剤科として、患者中心としたチーム医療の一員を目指し、薬物の適正使用、薬剤管理指導において患者の薬物治療の安全管理の向上を目指し努力している。

その中で、薬物治療の中で特に注意を必要とする薬物に対するの指導、情報提供の在り方についてまとめて発表した。また、後発医薬品についての見解についての情報まとめ発表した。今後ともこれらも業務、研究を通し患者中心とした医療の一躍を担うことのできる薬剤科として努力していきたいと考えている。

### 研究業績

#### 著 書

- 1) 亀山明美：〔自著〕アップストリーム治療について。東京都病院薬剤師会雑誌, 2008；pp418-418, 東京都病院薬剤師会。

#### 学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 村田和也：後発医薬品について。第2回多摩小児免疫薬理研究会, 2008. 10.

(2) 一般講演：

- 1) 富岡勝世, 村田和也, 亀山明美：ハイリスク薬の情報提供について。日本病院薬剤師会関東ブロック第38回学術大会, 2008. 8.
- 2) 菅谷量俊, 村田和也, 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院)：プロマック D 錠のアルロイド G 懸濁液中の安定性。日本薬学会第129年会, 2009. 3.

## [多摩永山病院看護部]

### 研究概要

今年度は、6演題で日本手術医学会総会、日本母性衛生学会学術集会、日本看護学会の成人看護I、老年看護、東京都看護協会看護研究学会等で発表が行われた。

1. 日本手術医学会総会では、新しい試みとして、Practical Skillの発表があった。発表ではガウンテクニックの実演を解説を加えながら行なった。

2. 手術件数増加に対応するために、限られた資源で業務の効率化を図る工夫として、器械並べにかかる時間に着目し取り組んだ結果、手術入れ替え時間短縮化に繋がった。
3. 分娩後の出血予防として、分娩直後に骨盤輪固定を行なった群と行なわなかった群とで、分娩後1時間値と2時間値の出血量にどのような差があるのか、比較と検討がなされた。
4. 脳神経疾患による下肢麻痺が原因で下肢に浮腫が出現した患者を対象に3日間リフレクソロジーを実施し健側と比較することで、浮腫の軽減に繋がったか有効性について検討がなされた。
5. 高齢患者の昼夜逆転の改善を目指し、日中の覚醒を促すため単に車椅子乗車させるのではなく、入院前の生活パターンと整容行為を取り入れ刺激を与えることで、3名中2名に昼夜逆転の改善傾向がみられた。
6. 頭部挙上時における褥瘡予防に有効で安楽な側臥位角度を明らかにするため、20度、30度、40度の側臥位にて比較し、それぞれの角度の体圧値と自覚症状から有効性を検討した。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 総説：

- 1) 竹山聡美：糖尿病看護。臨床看護 2008；34（14）：2105-2111.
- 2) 竹山聡美, 坂山光湖<sup>1)</sup>, 藤井仁美<sup>2)</sup> (1) 大阪大学医学部附属病院, (2) 多摩センタークリニックみらい)：「糖尿病とは」を分かりやすく患者さんに伝えるには：A. 病態。楽しく学べる糖尿病療養指導 2009；4-5.

### 学会発表

#### (1) パネルディスカッション：

- 1) 新里小百合, 神野麻優子：手術件数の増加に対応する業務の効率化に向けての取り組み：器械を並べる時間の有効利用。日本手術医学会総会（第30回），2008. 9.

#### (2) 一般講演：

- 1) 坂本なつ子：Practical Skill 1「ガウンテクニック」。日本手術医学会総会（第30回），2008. 9.
- 2) 馬場寿美子, 遠藤佐智, 佐藤友美子, 筏亜由美：高齢者の昼夜逆転の改善を目指した車椅子乗車：入院前の生活パターンと整容を取り入れて。日本看護学会老年看護，2008. 9.
- 3) 柴田のぞみ, 栗畑志乃, 山中綾子：脳神経疾患による下肢麻痺患者の浮腫に対するリフレクソロジーの有効性の検討。日本看護学会成人看護I（第39回），2008. 10.
- 4) 西田有希, 小原真梨子：骨盤輪固定による分娩後2時間値の出血量の変化。日本母性衛生学会（第49回），2008. 11.
- 5) 今村綾子, 永迫さゆり：褥瘡予防に有効で安楽な側臥位角度の検討：20度30度40度間の比較。東京都看護協会看護研究学会，2008. 12.

## [多摩永山病院放射線科技師室]

## 研究業績

### 著書

#### [追加分]

#### 追加分：

- 1) 笹沼和智<sup>1)</sup> (1)日本医科大学多摩永山病院)：〔分担〕マンモグラフィー。放射線量最適化のための医療被曝ガイドライン（社団法人 日本放射線技師会），2009；pp96, 102, 114, 119, 光文堂。



## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 笹沼和智<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院)：医療被曝について。TERUMO 画像診断倶楽部 (第3回)，2009. 1.

### (2) 一般講演：

- 1) 笹沼和智<sup>1)</sup>，濱口雄慈<sup>1)</sup>，森 克彦<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院)：院内の放射線防護講習に対する検討。日本放射線技術学会 (第62回 総会学術大会)，2008. 4.
- 2) 中倉世貴<sup>1)</sup>，山本拓也<sup>1)</sup>，笹沼和智<sup>1)</sup>，濱口雄慈<sup>1)</sup>，森 克彦<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院)：イメージングプレートとCRカセットの管理についての一考察。日本放射線技術学会東京部会 (第62回春季学術大会)，2008. 5.
- 3) 笹沼和智<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院)：X線プロテクターの保守管理の実際。日本画像医療システム工業会・日本放射線技術学会東京部会ジョイントミーティング (第5回)，2008. 6.
- 4) 中倉世貴<sup>1)</sup>，笹沼和智<sup>1)</sup>，織田 宏<sup>1)</sup>，濱口雄慈<sup>1)</sup>，森 克彦<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院)：看護師の放射線に対する知識と教育訓練。日本放射線技術学会 (第29回秋季学術大会)，2008. 11.

## [多摩永山病院消化器科]

### 研究概要

当科は消化器全般の疾患を診療の対象とし、幅広い視野能力を有する臨床医の養成を目指すとともに、消化器疾患に関する臨床および基礎研究を行っている。研究活動としては、1) 日常診療で多く遭遇する消化管出血の現状や病態を、上部および下部消化管の内視鏡検査を用いて解析している。具体的には、*Helicobacter pylori* 感染や非ステロイド性消炎鎮痛薬と胃病変との関連性や *Helicobacter pylori* の2次除菌、3次除菌における有効性の比較検討、透析患者における尿素呼気試験を含めた *Helicobacter pylori* の存在診断法の検討、食道胃逆流症、機能的胃症、過敏性腸症候群などの消化管運動異常の解析、および、逆流性食道炎や胃潰瘍の発生機序に関して、基礎および臨床疫学的な研究を行っている。2) アルコール性脂肪肝や非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) の病態を検討するとともに、C型慢性肝炎に対するインターフェロン、リバビリン併用による治療効果と副作用の発現、について検討し症例を蓄積中である。3) 炎症性腸疾患の診断と治療について、とくに潰瘍性大腸炎に対する白血球 (顆粒球) 吸着療法、および抗TNF製剤による治療の症例を蓄積している。4) 韓国、中国、ベトナム、タイ、ミャンマー、バングラデシュ、ネパールなど東、東南、南アジアの国々において *Helicobacter pylori* 感染、胃十二指腸疾患の現状と、背景胃粘膜や病態の相異について疫学調査を行っている。

特に、昨年4月より大分大学との共同研究「アジア諸国における *Helicobacter pylori* 感染の実態と胃発癌機序の解明」が始まっているほか、逆流胆汁酸が胃粘膜に及ぼす影響についても多施設共同研究を行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Futagami S<sup>1)</sup>，Hiratsuka T<sup>1)</sup>，Shindo T，Horie A<sup>1)</sup>，Hamamoto T<sup>1)</sup>，Suzuki K<sup>1)</sup>，Kusunoki M<sup>1)</sup>，Miyake K<sup>1)</sup>，Gudis K<sup>1)</sup>，Crowe S<sup>2)</sup>，Tsukui T，Sakamoto C<sup>1)</sup> (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, 2) Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Medicine, Digestive Health Center of Excellence, University of Virginia)：Expression of apurinic/apyrimidinic endonuclease-1 (APE-1) in *H. pylori* associated gastritis, gastric adenoma, and gastric cancer. *Helicobacter* 2008；13 (3)：209-218.
- 2) Suzuki S<sup>1)</sup>，Sasajima K<sup>1)</sup>，Sato Y<sup>2)</sup>，Watanabe H<sup>1)</sup>，Matsutani T<sup>1)</sup>，Iida S<sup>3)</sup>，Hosone M<sup>4)</sup>，Tsukui T，Maeda S<sup>4)</sup>，Shimizu K<sup>3)</sup>，Tajiri T<sup>3)</sup> (1) Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, 2) Department of Molecular Diagnostics, School of Allied Health Science, Kitasato University, 3) De-

partment of Surgery, <sup>4)</sup> Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School) : MAGE-A protein and MAGE-A10 gene expressions in liver metastasis in patients with stomach cancer. Br J Cancer 2008 ; 22 (99 (2)) : 350-356.

- 3) Futagami S<sup>1)</sup>, Kawagoe T<sup>1)</sup>, Horie A<sup>1)</sup>, Shindo T, Hamamoto T<sup>1)</sup>, Suzuki K<sup>1)</sup>, Kusunoki M<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Tsukui T, Crowe S<sup>2)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, <sup>2)</sup> Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Medicine, Digestive Health Center of Excellence, University of Virginia) : Celecoxib inhibits apurinic/aprimidinic endonuclease-1 expression and prevents gastric cancer in *Helicobacter pylori*-infected mongolian gerbils. Digestion 2008 ; 78 (2-3) : 93-102.
- 4) Futagami S<sup>1)</sup>, Hiratsuka T<sup>1)</sup>, Shindo T, Hamamoto T<sup>1)</sup>, Horie A<sup>1)</sup>, Ueki N<sup>1)</sup>, Kusunoki M<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Tsukui T, Sakamoto C<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology) : Extracellular HSP70 blocks CD40L-induced apoptosis and tubular formation in endothelial cells. J Gastroenterol Hepatol 2008 ; 23 (Suppl 2) : S222-S228.
- 5) Shindo T, Futagami S<sup>1)</sup>, Hiratsuka T<sup>1)</sup>, Horie A<sup>1)</sup>, Hamamoto T<sup>1)</sup>, Ueki N<sup>1)</sup>, Kusunoki M<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Tsukui T, Iwakiri K<sup>1)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine) : Comparison of gastric emptying and plasma ghrelin levels in patients with functional dyspepsia and non-erosive reflux disease. Digestion 2009 ; 79 (2) : 65-72.
- 6) Miyake K<sup>1)</sup>, Kusunoki M<sup>1)</sup>, Shinji Y<sup>1)</sup>, Shindo T, Kawagoe T<sup>1)</sup>, Futagami S<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Tsukui T, Nakajima A<sup>2)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, <sup>2)</sup> Department of Joint Disease and Rheumatism) : Bisphosphonate increases risk of gastroduodenal ulcer in rheumatoid arthritis patients on long-term nonsteroidal antiinflammatory drug therapy. J Gastroenterol 2009 ; 44 (2) : 113-120.
- 7) 松久威史, 津久井拓 : 高齢者の *Helicobacter pylori* 除菌治療成績と安全性について. 日本高齢消化器医学会誌 2008 ; 10 (2) : 74-79.
- 8) 松久威史 : *Helicobacter pylori* Q&A 現在のアジアにおける *Helicobacter pylori* 除菌の現状を教えてください. Helicobacter Research 2008 ; 13 (2) : 164-167.
- 9) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 岡本富美子<sup>2)</sup>, 岡本明彦<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 病理学第二教室, <sup>2)</sup> 医療法人吉祥会岡本医院本院) : 透析患者の感染診断における <sup>13</sup>C-尿素呼吸試験の問題点. 消化器内視鏡の進歩 2008 ; 73 (2) : 66-70.
- 10) 二神生爾<sup>1)</sup>, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 堀江 茜<sup>1)</sup>, 新福摩弓<sup>1)</sup>, 名児耶浩幸<sup>1)</sup>, 進藤智隆, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓, Crowe SE<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 消化器内科, <sup>2)</sup> バージニア大学消化器病センター) : 選択的 COX-2 阻害剤 セレコキシブを用いた *H. pylori* 感染胃癌モデルにおける APE-1 および胃癌発生抑制の検討. Progress in Medicine 2009 ; 29 (3) : 7-12.

(2) 総説 :

- 1) 江原彰仁, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>2)</sup>, 山田祐希江<sup>1)</sup>, 高橋陽子<sup>1)</sup>, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>3)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 消化器内科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院内科, <sup>3)</sup> 東京都多摩北部医療センター消化器内科) : 【小腸疾患2008】小腸腫瘍性疾患 上皮性腫瘍 (腺腫, 癌). 胃と腸 2008 ; 43 (4) : 527-532.
- 2) 山田祐希江<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 小林 剛, 辰口篤志<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 消化器内科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院内科) : 【小腸疾患 診断・治療学の進歩】臨床各論 その他 (症例を含む) Henoch-Schoenlein 紫斑病における消化管病変の特徴. 日本臨床 2008 ; 66 (7) : 1350-1356.
- 3) 藤森俊二<sup>1)</sup>, 江原彰仁, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 消化器内科) : 【小腸疾患 診断・治療学の進歩】臨床各論 腫瘍 原発性小腸悪性腫瘍. 日本臨床 2008 ; 66 (7) : 1286-1296.

- 4) 藤森俊二<sup>1)</sup>, 山田祐希江<sup>1)</sup>, 高橋陽子<sup>1)</sup>, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤正興<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 消化器内科, 2) 千葉北総病院内科): 【今や常識 小腸内視鏡 カプセルとバルーン内視鏡の最新知識】 NSAIDs起因性小腸疾患に対する内視鏡的アプローチ カプセル内視鏡によるNSAIDs起因性小腸傷害の解明. 消化器内視鏡 2008; 20 (10): 1553-1559.
  - 5) 三宅一昌<sup>1)</sup>, 楠 正典, 進藤智孝, 進士陽子<sup>1)</sup>, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 津久井拓, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 消化器内科): 【低用量アスピリンと消化管病変】 長期NSAID服用者において, 低用量アスピリンの併用が内視鏡的消化性潰瘍に与える影響. 消化器科 2008; 47 (5): 488-493.
  - 6) 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 山田祐希江<sup>1)</sup>, 高橋陽子<sup>1)</sup>, 江原彰仁, 小林 剛, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤正興<sup>1)</sup>, 田中周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>2)</sup>, 坂本長逸 (1) 消化器内科, 2) 千葉北総病院内科): 【カプセル内視鏡の進歩と有用性】 カプセル内視鏡の適応と成績. 消化器科 2009; 48 (2): 139-144.
- (3) 症例報告:
- 1) 田中 周<sup>1)</sup>, 江原彰仁, 山田祐希江<sup>1)</sup>, 小林 剛, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 消化器内科): 小腸の内視鏡所見 小腸癌. *Frontiers in Gastroenterology* 2008; 13 (3): 232-235.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) Matsuhisa T: Review of *Helicobacter pylori* infection in Asian countries. *Defence Services General Hospital*, 2/1, 000 (Nay Pyi Taw, Myanmar), 2008. 12.
- 2) 松久威史: *Helicobacter pylori*除菌療法に対する最新の話: 2次, 3次除菌を含めて. 多摩地区消化器ミーティング, 2008. 6.

### (2) シンポジウム:

- 1) 二神生爾<sup>1)</sup>, 進藤智隆, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 消化器内科): [機能性ディスペプシアにおける脳・胃相関] 感染後FD患者における十二指腸粘膜内マクロファージ浸潤とサイトカイン産生の解析. 日本消化器病学会大会 (第50回), 2008. 5.
- 2) 三宅一昌<sup>1)</sup>, 楠 正典, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 消化器内科): [低用量アスピリンと消化管病変] 低用量アスピリンの併用が与える, 長期NSAID服用者における消化性潰瘍発症への影響. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 3) 江原彰仁<sup>1)</sup>, 田中 周, 坂本長逸 (1) 消化器内科): [小腸疾患への新しいアプローチ] 小腸出血症例における出血部位の予測因子の検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第75回), 2008. 5.
- 4) 松久威史, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup> (1) 第一外科, 2) 病理学第二教室): 東南, 中央アジア人と日本人における *Helicobacter pylori* 感染, 消化性潰瘍, 背景胃粘膜, 抗壁細胞抗体 (アジア地域の *H. pylori* 感染と疾病). 日本ヘリコバクター学会 (第14回), 2008. 6.
- 5) 楠 正典, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 消化器内科): [内視鏡の偶発症対策 術前・術中・術後] ESDにおける深部静脈血栓症のリスク. 日本消化器内視鏡学会総会 (第76回), 2008. 10.
- 6) 河越哲郎<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 進藤智隆, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 楠 正典, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 消化器内科): [機能性ディスペプシア RomeIII クライテリアから病態と薬物療法を考える] PPI抵抗性FD患者に対する mosapride 追加投与の効果. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.

### (3) パネルディスカッション:

- 1) 小林 剛, 田中 周<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 消化器内科): [消化管ポリポシスの診断・治療における内視鏡の役割] ダブルバルーン内視鏡及びカプセル内視鏡を使用した Peutz-Jeghers 症候群の有効な検査, 安全な治療法に関する検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第75回), 2008. 4.
- 2) 山田祐希江<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 高橋陽子<sup>1)</sup>, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 米澤正興<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>2)</sup>, 辰口篤志<sup>3)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 消化器内科, 2) 東京都多摩北部医療センター 消化器内科,

3) 千葉北総病院内科)：[小腸疾患の診断・治療へのアプローチ 各種小腸内視鏡のすみわけはいかにすべきか] 小腸血管性病変に対するダブルバルーン内視鏡による止血術の現状と問題点 より確実な止血法への道。日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第86回), 2008. 6.

3) 松久威史：EMR後の除菌と発癌の関係 (*H. pylori*感染症の最近の話題)。多摩Hp・肝炎研究会 (第14回), 2009. 1.

(4) ワークショップ：

1) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 上村直実<sup>2)</sup> (1) 病理学第二教室, 2) 国立国際医療センター内視鏡部)：*Helicobacter pylori*感染からみたネパール人, ミャンマー人と日本人における胃粘膜萎縮, 抗壁細胞抗体の国際比較 (*Helicobacter pylori*感染症研究の進歩)。日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.

2) 川上浩平<sup>1,2)</sup>, 河合 隆<sup>1,2)</sup>, 鈴木秀和<sup>1,3)</sup>, 正岡建洋<sup>1,3)</sup>, 永原章仁<sup>1,4)</sup>, 大草敏史<sup>1,5)</sup>, 伊藤慎芳<sup>1,6)</sup>, 徳永健吾<sup>1,7)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 鈴木雅之<sup>1,8)</sup>, 加藤俊二<sup>1,9)</sup>, 峯 徹哉<sup>1,10)</sup>, 上村直実<sup>1,10)</sup>, 高橋信一<sup>1,7)</sup>, 榎 信廣<sup>1,10)</sup> (1) 東京Hp研究会, 2) 東京医科大学内視鏡センター, 3) 慶應義塾大学消化器内科, 4) 順天堂大学消化器内科, 5) 東京慈恵会医科大学附属病院消化器・肝臓内科, 6) 四谷メディカルキューブ, 7) 杏林大学医学部第三内科, 8) 独立行政法人国立病院機構東京医療センター消化器科, 9) 第一外科, 10) その他)：3剤療法による*Helicobacter pylori*除菌率の経年的推移：東京都多施設共同調査から (2次除菌失敗例に対する対策)。日本ヘリコバクター学会 (第14回), 2008. 6.

3) 徳永健吾<sup>1,2)</sup>, 伊藤慎芳<sup>1,3)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 河合 隆<sup>1,4)</sup>, 川上浩平<sup>1,4)</sup>, 鈴木雅之<sup>1,5)</sup>, 加藤俊二<sup>1,6)</sup>, 永原章仁<sup>1,7)</sup>, 大草敏史<sup>1,8)</sup>, 鈴木秀和<sup>1,9)</sup>, 田代博一<sup>1,10)</sup>, 鳥居 明<sup>1,10)</sup>, 峯 徹哉<sup>1,10)</sup>, 榎 信廣<sup>1,10)</sup>, 高橋信一<sup>1,2)</sup> (1) 東京Hp研究会, 2) 杏林大学医学部第三内科, 3) 四谷メディカルキューブ, 4) 東京医科大学内視鏡センター, 5) 独立行政法人国立病院機構東京医療センター消化器科, 6) 第一外科, 7) 順天堂大学消化器内科, 8) 東京慈恵会医科大学附属病院消化器・肝臓内科, 9) 慶應義塾大学消化器内科, 10) その他)：2次除菌不成功例に対するPPI+AMPC+GFLXによる*H. pylori*3次除菌療法の検討：東京都内多施設における共同調査結果から, 第2報 (2次除菌失敗例に対する対策)。日本ヘリコバクター学会 (第14回), 2008. 6.

4) 三宅一昌<sup>1)</sup>, 楠 正典, 進藤智隆, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 津久井拓, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 消化器内科)：[本邦における薬剤起因性消化管傷害の現状と対策] 無症候性の内視鏡的消化性潰瘍 (NSAID起因性)における潜在性出血からみた臨床的意義と低用量アスピリン併用の関与。日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.

5) 二神生爾<sup>1)</sup>, 進藤智隆, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 楠 正典, 植木信江<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 消化器内科)：[脳腸ペプチドと消化管疾患：最近の進歩] 血清グレリン値の胃排出能に及ぼす影響の解析：EPS, PDS, NERD群の比較検討。日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.

6) 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川見典之<sup>1)</sup>, 佐野弘仁<sup>2)</sup>, 田中由理子<sup>1)</sup>, 梅澤まり子, 琴寄 誠<sup>1)</sup>, 星原芳雄<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 消化器内科, 2) 東京都多摩北部医療センター)：[PPI抵抗性NERDの病態と治療] PPI倍量治療抵抗性NERD患者の病態, 24時間食道pH・多チャンネルインピーダンス測定による検討。日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.

7) 田中 周<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 山田祐希江<sup>1)</sup>, 高橋陽子<sup>1)</sup>, 江原彰仁, 小林 剛 (1) 日本医科大学付属病院 消化器内科)：[原因不明の消化管出血：診断と治療のストラテジー] 原因不明の消化管出血 (非顕性出血) に対するカプセル内視鏡とダブルバルーン内視鏡の診断能に関する前向き比較試験。日本消化管学会学術集会 (第5回), 2009. 2.

(5) 特別企画：

1) 松久威史, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 三樹 勝<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>, 上村直実<sup>3)</sup>, 神谷 茂<sup>4)</sup> (1) 第一外科, 2) 病理学第二教室, 3) 国立国際医療センター内視鏡部, 4) 杏林大学感染症学講座)：アジア人の*Helicobacter pylori*感染, 消化性潰瘍, 背景胃粘膜の検討。潰瘍病態研究会第17回フォーラム, 2008. 8.



(6) 一般講演：

- 1) Futagami S<sup>1)</sup>, Hiratsuka T<sup>1)</sup>, Shindo T, Hamamoto T<sup>1)</sup>, Kusunoki M<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Tsukui T, Gudis K<sup>1)</sup>, Crowe S<sup>2)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, 2) Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Medicine, Digestive Health Center of Excellence, University of Virginia) : Expression of apurinic/apyrimidinic endonuclease-1 (APE-1) in *H. pylori*-associated gastritis, gastric adenoma, and gastric cancer. Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association Institute, (San Diego, USA), 2008. 5.
- 2) Shindo T, Futagami S<sup>1)</sup>, Hiratsuka T<sup>1)</sup>, Kusunoki M, Ueki N<sup>1)</sup>, Hamamoto T<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Iwakiri K<sup>1)</sup>, Tsukui T, Sakamoto C<sup>1)</sup> (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine) : Correlation of gastric plasma ghrelin levels and gastric emptying time in patients with functional dyspepsia and non-erosive reflux diseases. Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association Institute (San Diego, USA), 2008. 5.
- 3) Futagami S<sup>1)</sup>, Hiratsuka T<sup>1)</sup>, Shindo T, Ueki N<sup>1)</sup>, Hamamoto T<sup>1)</sup>, Kusunoki M, Miyake K<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Tsukui T, Sakamoto C<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology) : Extracellular HSP70 blocks CD40L-induced apoptosis and tubular formation in endothelial cells. Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association Institute (San Diego, USA), 2008. 5.
- 4) Kusunoki M, Miyake K<sup>1)</sup>, Umezawa M, Shindo T, Ueki N<sup>1)</sup>, Hiratsuka T<sup>1)</sup>, Futagami S<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Tsukui T, Sakamoto C<sup>1)</sup> (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine) : Bisphosphonate increases risk of peptic ulcer in rheumatoid arthritis patients on long-term non-steroidal anti-inflammatory drug therapy. Digestive Disease Week and the the 108th Annual Meeting of the American Association of Gastrointestinal Endoscopy (San Diego, USA), 2008. 5.
- 5) Takahashi Y<sup>1)</sup>, Fujimori K<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Yamada Y<sup>1)</sup>, Ehara A, Kobayashi T, Seo T<sup>1)</sup>, Mitsui K<sup>1)</sup>, Yonezawa M<sup>1)</sup>, Shibata Y<sup>2)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>3)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine) : Association between small intestinal white villi and capsule gastric transit time. Digestive Disease Week and the 108th annual meeting of the American Association of Gastrointestinal Endoscopy (San Diego, USA), 2008. 5.
- 6) Gudis K<sup>1)</sup>, Fujimori S<sup>1)</sup>, Yamada Y<sup>1)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Seo T<sup>1)</sup>, Ehara A, Kobayashi T, Mitsui K<sup>1)</sup>, Yonezawa M<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine) : Small intestinal mucosal breaks with short-term administration of non-steroidal anti-inflammatory drugs. Digestive Disease Week and the 108th annual meeting of the American Association of Gastrointestinal Endoscopy (San Diego, USA), 2008. 5.
- 7) Tanaka S<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Yamada Y<sup>1)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Ehara A, Kobayashi T, Mitsui K<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Fujimori S<sup>1)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> : Unique redesign of gadget for improved DBE procedure - Usefulness of double balloon endoscopy for common chief complaints and adaptation of simple tool for efficient balloon attachment. Digestive Disease Week and the 108th annual meeting of the American Association of Gastrointestinal Endoscopy (San Diego, USA), 2008. 5.
- 8) Ehara A, Tanaka S<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Yamada Y<sup>1)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Kobayashi T, Sekita A, Seo T<sup>1)</sup>, Mitsui K<sup>1)</sup>, Yonezawa M<sup>1)</sup>, Shibata Y<sup>1)</sup>, Fujimori S<sup>1)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine) : Factor that help predict the bleeding source in patients with obscure gastrointestinal bleeding. Digestive Disease Week and the 108th annual meeting of the American Association of Gastrointestinal Endoscopy (San Diego, USA), 2008. 5.



- 9) Yamada Y<sup>1</sup>, Tanaka S<sup>1</sup>, Tatsuguchi A<sup>1</sup>, Gudis K<sup>1</sup>, Takahashi Y<sup>1</sup>, Ehara A, Kobayashi T, Sekita A, Seo T<sup>1</sup>, Mitsui K<sup>1</sup>, Yonezawa M<sup>1</sup>, Shibata Y<sup>1</sup>, Fujimori S<sup>1</sup>, Sakamoto C<sup>1</sup> (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine) : Predicting the probability of malignancy in small intestinal GIST by double balloon endoscopy. Digestive Disease Week and the 108th annual meeting of the American Association of Gastrointestinal Endoscopy (San Diego, USA), 2008. 5.
- 10) Takahashi Y<sup>1</sup>, Fujimori Y<sup>1</sup>, Gudis Y<sup>1</sup>, Yamada Y<sup>1</sup>, Ehara A, Kobayashi T, Seo T<sup>1</sup>, Mitsui K<sup>1</sup>, Yonezawa M<sup>1</sup>, Shibata Y<sup>1</sup>, Tanaka S<sup>1</sup>, Tatsuguchi A<sup>1</sup>, Sakamoto C<sup>1</sup> (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine) : A randomized trial on the quality of life efficacy of symbiotic treatment versus probiotics or prebiotics in patients with ulcerative colitis. Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association Institute (San Diego, USA), 2008. 5.
- 11) Fujimori S<sup>1</sup>, Seo T<sup>1</sup>, Gudis K<sup>1</sup>, Tatsuguchi A<sup>1</sup>, Ehara A, Kobayashi T, Mitsui K<sup>1</sup>, Tanaka S<sup>1</sup>, Sakamoto C<sup>1</sup> (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine) : Prevention of NSAID-induced small intestinal injury by prostaglandin : a pilot randomized controlled trial . Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association Institute (San Diego, USA), 2008. 5.
- 12) 鈴木成治<sup>1</sup>, 笹島耕二<sup>1</sup>, 宮本昌之<sup>1</sup>, 渡辺秀裕<sup>1</sup>, 横山 正<sup>1</sup>, 丸山 弘<sup>1</sup>, 松谷 毅<sup>1</sup>, 柳 健<sup>1</sup>, 松下晃<sup>1</sup>, 松田明久<sup>1</sup>, 柏原 元<sup>1</sup>, 津久井拓, 松久威史, 劉 愛民<sup>2</sup>, 細根 勝<sup>2</sup>, その他1名 (1) 多摩永山病院外科, 2) 多摩永山病院病理部, 3) 外科) : GIST 肝転移症例の検討 臨床経過・治療方針を中心に. 日本外科学会定期学術集会 (第107回), 2008. 4.
- 13) 鈴木成治<sup>1</sup>, 笹島耕二<sup>1</sup>, 丸山 弘<sup>1</sup>, 渡辺秀裕<sup>1</sup>, 宮本昌之<sup>1</sup>, 横山 正<sup>1</sup>, 松谷 毅<sup>1</sup>, 柳 健<sup>1</sup>, 松下晃<sup>1</sup>, 松田明久<sup>1</sup>, 津久井拓, 松久威史, 田尻 孝<sup>2</sup> (1) 多摩永山病院消化器・乳腺・一般外科, 2) 消化器・乳腺・一般外科) : mFOLFOX6法とFOLFIRI法の交代療法を導入した進行・再発大腸癌症例の検討. 日本消化器病学会総会 (第94回), 2008. 5.
- 14) 高橋陽子<sup>1</sup>, 藤森俊二<sup>1</sup>, 山田祐希江<sup>1</sup>, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦<sup>1</sup>, 三井啓吾<sup>1</sup>, 米澤真興<sup>1</sup>, 柴田喜明<sup>2</sup>, 田中 周<sup>1</sup>, 辰口篤志<sup>3</sup>, 坂本長逸<sup>1</sup> (1) 消化器内科, 2) 東京都多摩北部医療センター) : カプセル内視鏡検査で小腸白色絨毛を認める対象ではカプセル胃通過時間は短い傾向にある. 日本消化器内視鏡学会総会 (第75回), 2008. 5.
- 15) 山田祐希江<sup>1</sup>, 田中 周<sup>1</sup>, 高橋陽子<sup>1</sup>, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦<sup>1</sup>, 三井啓吾<sup>1</sup>, 米澤真興<sup>1</sup>, 柴田喜明<sup>2</sup>, 辰口篤志<sup>3</sup>, 藤森俊二<sup>1</sup>, 坂本長逸<sup>1</sup> (1) 消化器内科, 2) 東京都多摩北部医療センター消化器内科, 3) 千葉北総病院内科) : ダブルバルーン内視鏡における鎮痛・鎮静剤に関する検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第75回), 2008. 5.
- 16) 松久威史, 津久井拓 : 高齢者の *Helicobacter pylori* 除菌治療と安全性について. 日本老年医学会学術集会・総会 (第50回), 2008. 6.
- 17) 松久威史, 山田宣孝<sup>1</sup>, 岡本富美子<sup>2</sup>, 岡本明彦<sup>2</sup> (1) 病理学第二教室, 2) 医療法人吉祥会岡本医院本院) : 透析患者の *Helicobacter pylori* 感染診断における <sup>13</sup>C-尿素呼吸試験の問題点. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第86回), 2008. 6.
- 18) 松久威史 : 抗壁細胞抗体と *Helicobacter pylori* 感染, ペプシノゲン, ガストリン, 背景胃粘膜の関連性. 日本ヘリコバクター学会 (第14回), 2008. 6.
- 19) 松久威史, 津久井拓 : *Helicobacter pylori* 1次除菌成績のプロトンポンプ阻害剤別検討. 日本ヘリコバクター学会 (第14回), 2008. 6.
- 20) 加藤俊二<sup>1</sup>, 菅野仁士<sup>1</sup>, 藤田逸郎<sup>1</sup>, 木山輝郎<sup>1</sup>, 進藤智隆, 三宅一昌<sup>2</sup>, 坂本長逸<sup>2</sup>, 田尻 孝<sup>1</sup> (1) 外科, 2) 消化器内科) : 経鼻内視鏡検査で診断が困難であった Borrmann 4型胃癌の2例 スクリーニングとしての経

鼻内視鏡の問題点. 日本消化器内視鏡学会総会 (第76回), 2008. 9.

- 21) 米内大輔, 小林 剛, 佐野弘仁<sup>1)</sup>, 楠 正典, 梅澤まり子, 進藤智隆, 平岩優梨花, 峯尾恵梨, 関田祥久, 林良樹<sup>1)</sup>, 木村 祐<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 津久井拓, 松久威史, 坂本長逸<sup>1)</sup>, その他2名 (<sup>1)</sup> 消化器内科, <sup>2)</sup> 病理部): 酢酸オクトレオチドおよび選択的肝動脈塞栓術によって治療した直腸カルチノイド多発肝転移の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第301回), 2008. 9.
- 22) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 杉浦 篤<sup>1)</sup>, 柳健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 飯田信也<sup>3)</sup>, 津久井拓, 松久威史, その他2名 (<sup>1)</sup> 多摩永山病院消化器・乳腺・一般外科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>3)</sup> 北里大学応用生命学部, 分子診断学科): 胃癌原発巣・肝転移巣におけるMAGE-A10蛋白・mRNA発現の検討と臨床的意義. 日本癌治療学会総会学術集会 (第46回), 2008. 10.
- 23) 河越哲郎<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 進藤智隆, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 梅澤まり子, 楠 正典, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸 (<sup>1)</sup> 消化器内科): Functional dyspepsia (FD) と潜在的慢性膵炎の関係. 日本消化器病学会大会 (第50回), 2008. 10.
- 24) 松久威史, 津久井拓: プロトンポンプ阻害剤別にみた*Helicobacter pylori* 1次除菌成績の比較. 日本消化器病学会大会 (第50回), 2008. 10.
- 25) 進藤智隆, 二神生爾<sup>1)</sup>, 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 梅澤まり子, 楠 正典, 植木信江<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 津久井拓, 坂本長逸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 消化器内科): 胃排出能および血清グレリン値からみたEPS, PDS, NERD群における比較検討. 日本消化器病学会大会 (第50回), 2008. 10.
- 26) 春日裕介<sup>1)</sup>, 楠 正典, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 橋 卓史, 新福摩弓<sup>1)</sup>, 山田祐希江<sup>1)</sup>, 進藤智隆, 川越哲郎<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>2)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 津久井拓, 坂本長逸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 消化器内科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院内科): A型胃炎に合併した胃カルチノイドに内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) を施行した1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第87回), 2008. 12.
- 27) 糸川典夫<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 山田祐希江<sup>1)</sup>, 高橋陽子<sup>1)</sup>, 江東彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>2)</sup>, 琴寄 誠<sup>3)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>3)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 消化器内科, <sup>2)</sup> 東京都多摩北部医療センター消化器内科, <sup>3)</sup> 千葉北総病院内科): カプセル内視鏡で異常拡張血管のみを指摘したGISTの1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第87回), 2008. 12.
- 28) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 病理学第二教室): バングラデシュ人における*Helicobacter pylori* 感染, 胃十二指腸疾患, 背景胃粘膜の観察. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 29) 松久威史: *Helicobacter pylori* の2次除菌. ベイサイドGIフォーラム (第17回), 2009. 2.
- 30) 濱本達彦<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 進藤智隆, 楠 正典, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓, 坂本長逸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 消化器内科): 選択的COX-2阻害剤cercocixibを用いた*H. pylori* 感染胃癌モデルにおけるMCP-1, CCR2発現と胃癌発生抑制の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 31) 橋 卓史, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 楠 正典, 植木信江<sup>1)</sup>, 進藤智隆, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 津久井拓, 坂本長逸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 消化器内科): 分化型胃癌の発症部位と空腹時十二指腸胃逆流との関連. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 32) 新福摩弓<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 堀江 茜<sup>1)</sup>, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 進藤智隆, 楠 正典, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓, 坂本長逸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 消化器内科): FD患者の治療指針における<sup>13</sup>C-acetate呼気試験法の有用性の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 33) 河越哲郎<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 進藤智隆, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 楠 正典, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 消化器内科): Functional dyspepsiaと潜在的膵炎. 日本消化管学会総会学術集会 (第5回), 2009. 2.
- 34) 江原彰仁, 小林 剛, 山田祐希江<sup>1)</sup>, 高橋陽子<sup>1)</sup>, 関田祥久, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>2)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>3)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 消化器内科, <sup>2)</sup> 東京都多摩北部医療センター, <sup>3)</sup> 千葉北総病院内科): ダブルバルーン内視鏡の偶発症である膵ダメージの検討: 膵酵素上昇と挿入条件について. 日本

消化管学会総会学術集会（第5回），2009．2．

- 35) 楠 正典，三宅一昌<sup>1)</sup>，進藤智隆，植木信江<sup>1)</sup>，河越哲郎<sup>1)</sup>，二神生爾<sup>1)</sup>，津久井拓，弦間和仁<sup>2)</sup>，保坂純郎<sup>2)</sup>，坂本長逸<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 消化器内科，<sup>2)</sup> 放射線科）：内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）における静脈血栓症（VT）のリスク．日本消化管学会総会学術集会（第5回），2009．2．
- 36) 藤森俊二<sup>1)</sup>，高橋陽子<sup>1)</sup>，山田祐希江<sup>1)</sup>，江原彰仁，小林 剛，関田祥久，瀬尾継彦<sup>1)</sup>，三井啓吾<sup>1)</sup>，米澤真興<sup>1)</sup>，柴田喜明<sup>2)</sup>，田中 周<sup>1)</sup>，辰口篤志<sup>3)</sup>，坂本長逸<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 消化器内科，<sup>2)</sup> 東京都多摩北部医療センター消化器内科，<sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院内科）：非ステロイド性消炎鎮痛剤（NSAIDs）による脂肪吸収機能変化．日本消化管学会学術集会（第5回），2009．2．
- 37) 三井啓吾<sup>1)</sup>，田中 周<sup>1)</sup>，江原彰仁，小林 剛，玉木祐希江<sup>1)</sup>，高橋陽子<sup>1)</sup>，関田祥久，瀬尾継彦<sup>1)</sup>，米澤真興<sup>1)</sup>，柴田喜明<sup>2)</sup>，辰口篤志<sup>3)</sup>，藤森俊二<sup>1)</sup>，坂本長逸<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 消化器内科，<sup>2)</sup> 東京都多摩北部医療センター消化器内科，<sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院内科）：カプセル内視鏡の小腸滞留に対する対応：ダブルバルーン内視鏡の役割．日本消化管学会学術集会（第5回），2009．2．
- 38) 瀬尾継彦<sup>1)</sup>，藤森俊二<sup>1)</sup>，山田祐希江<sup>1)</sup>，高橋陽子<sup>1)</sup>，江原彰仁，小林 剛，関田祥久，三井啓吾<sup>1)</sup>，田中 周<sup>1)</sup>，米澤真興<sup>1)</sup>，柴田喜明<sup>2)</sup>，辰口篤志<sup>3)</sup>，坂本長逸<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 消化器内科，<sup>2)</sup> 東京都多摩北部医療センター消化器内科，<sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院内科）：当院におけるカプセル内視鏡の保険適応前後の比較．日本消化管学会学術集会（第5回），2009．2．
- 39) 高橋陽子<sup>1)</sup>，田中 周<sup>1)</sup>，山田祐希江<sup>1)</sup>，江原彰仁，小林 剛，瀬尾継彦<sup>1)</sup>，三井啓吾<sup>1)</sup>，米澤真興<sup>1)</sup>，辰口篤志<sup>2)</sup>，藤森俊二<sup>1)</sup>，坂本長逸<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 消化器内科，<sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院内科）：診断に難渋している多発小腸潰瘍の症例．日本消化管学会学術集会（第5回），2009．2．

(6) Interactive Session：

- 1) 松久威史：*Helicobacter*カンファレンス2009．なんでも答えます！東京ヘリコバクター学校．東京*Helicobacter*カンファレンス（第10回），2009．2．

## 23. 千葉北総病院付置施設等

### [千葉北総病院集中治療室]

#### 研究概要

重症循環器疾患を主体に、集中管理を要する内科疾患についての病態・診断・治療に係る研究を継続している。急性冠症候群（急性心筋梗塞と不安定狭心症）については、ドクターヘリ搬送によるプレホスピタルディレイの短縮の臨床的意義、早期診断にかかわる心筋マーカーの有用性、予後推定に係る検査マーカーの評価、後改善に繋がる治療法の構築についての研究を継続している。

2008年ヨーロッパ心臓病学会ガイドライン（急性心筋梗塞）では、早期治療にドクターヘリが有用であるとした当施設の論文が引用された。急性大動脈瘤解離については、救急外来での早期診断に寄与する診断法（症状、胸部X線写真、心臓超音波検査）としてのスコアリング作成について報告を重ね、本学医学雑誌に掲載した。

重症うっ血性心不全については、急性期治療薬の開発、全国レベルでの病態把握プロジェクト（ATTEND registry）に参加し活動している。

急性肺血栓栓症については、旅行者血栓症（エコノミークラス症候群）を含めた診断法と治療法について研究と報告を続けて来たが、現在はその予防法についての啓蒙にも力を注いでいる。1次ならびに2次救急処置法（BLS, ACLS, AED）についての啓蒙活動に貢献している。

その他、急性膵炎、敗血症、全身性炎症反応症候群、急性肺障害、急性腎不全などについて、薬物療法ならびに血液浄化療法を中心に研究を行っている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Shirakabe A, Hata N, Yokoyama S, Shinada T, Suzuki Y, Kobayashi N, Kikuchi A, Takano T<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine) : Diagnostic Score to Differentiate Acute Aortic Dissection in the Emergency Room. Circulation J 2008 ; 72 (6) : 986-990.
- 2) Hata N, Seino Y<sup>1)</sup>, Tsutamoto T<sup>2)</sup>, Hiramitsu S<sup>3)</sup>, Kaneko N<sup>4)</sup>, Yoshikawa T<sup>5)</sup>, Yokoyama H<sup>6)</sup>, Tanaka K<sup>7)</sup>, Mizuno K<sup>2)</sup>, Nejima J<sup>8)</sup>, Kinoshita M<sup>9)</sup> (1) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), 2) Department of Cardiovascular and Respiratory Medicine, Shiga University of Medical Science, 3) Department of Internal Medicine, Fujita Health University School of Medicine, 4) Department of Cardiovascular and Pneumology, Dokkyo University School of Medicine, 5) Cardiopulmonary Division, Department of Medicine, Keio University School of Medicine, 6) Department of Cardiovascular Medicine, Shizuoka National Hospital, 7) Intensive and Coronary Care Unit, Nippon Medical school, 8) Department of Internal Medicine, Tsurumi University School of Dental Science, 9) Kusatsu General Hospital) : Effects of carperitide on long-term prognosis in patients with acute decompensated chronic heart failure : the PROTECT multicenter randomized controlled study. Circulation J 2008 ; 72 (11) : 1787-1793.
- 3) Shirakabe A, Hata N, Yokoyama S, Shinada T, Suzuki Y, Kobayashi N, Kikuchi A, Takano T<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine) : Cytokine levels in pleural effusions among patients under intensive care. J Nippon Med

Sch 2008 ; 75 (5) : 262-268.

- 4) Hata N, Yokoyama S, Shinada T, Kobayashi N, Shirakabe A, Matsumoto H<sup>1)</sup>, Mashiko K<sup>1)</sup> (1) Department of Critical Care Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School) : Severity of acute myocardial infarction in patients transported by air ambulance. Journal of Japanese Society for Aeromedical Services 2008 ; 9 (3) : 21-26.

(2) 総説 :

- 1) 横山真也, 畑 典武 : 急性心不全. Smiley Nurse 2008 ; (12) : 16-18.
- 2) 坏 宏一 : 注意すべき心血管疾患. 大動脈解離. 心血管疾患診療のエクセレンス (日本医師会雑誌) 2008 ; 137 (1) : 162-164.

(3) 症例報告 :

- 1) Kobayashi N, Hata N, Yokoyama S, Shinada T, Shirakabe A, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine) : A Case of Takotsubo Cardiomyopathy During 5-Fluorouracil Treatment for Rectal Adenocarcinoma. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (1) : 27-33.

## 著 書

- 1) 横山真也, 畑 典武, 清野精彦<sup>1)</sup> (1) Department of Cardiovascular medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School) : [分担] 慢性心不全急性増悪症例における右心不全と左心不全の鑑別点と, それぞれの治療のストラテジーは?. 専門医のための薬物療法Q&A : 循環器 (編集:小室一成, 北風政史) (編集:小室一成, 北風政史), 2008 ; pp228-230, 中外医学社.
- 2) 横山真也, 畑 典武, 清野精彦<sup>1)</sup> (1) Department of Cardiovascular medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School) : [分担] 心原性ショックが疑われる症例をみたとき, 考えるべき鑑別診断および診断に必要な検査は?. 専門医のための薬物療法Q&A : 循環器 (編集:小室一成, 北風政史), 2008 ; pp231-232, 中外医学社.

## 学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 畑 典武 : 心肺蘇生法の講義と実技演習. 勝浦市夷隅郡医師会学術講演会, 2008. 9.
- 2) 坏 宏一, 田中啓治<sup>1)</sup>, 小山信彌<sup>2)</sup>, 桃原哲也<sup>2)</sup>, 長尾 建<sup>2)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院集中治療室, 2) 東京都CCUネットワーク学術委員会) : 東京都CCUネットワークにおける急性大動脈解離の疫学. 第28回東京CCU研究会, 2008. 12.

(2) シンポジウム :

- 1) 坏 宏一, 森崎裕子<sup>1)</sup>, 森崎隆幸<sup>1)</sup>, 荻野 均<sup>1)</sup>, 東 将浩<sup>1)</sup>, 植田初枝<sup>1)</sup>, 阪本伸吾<sup>1)</sup>, 田守唯一<sup>1)</sup>, 岡島年也<sup>1)</sup>, 吉牟田剛<sup>1)</sup>, 野々木宏<sup>1)</sup>, 竹下 聡<sup>1)</sup> (1) 国立循環器病センター) : マルファン症候群患者における遺伝子検査の臨床的意義の検討. 第56回日本心臓病学会学術集会, 2008. 9.

(3) パネルディスカッション :

- 1) 坏 宏一, 竹下 聡<sup>1)</sup>, 坂本伸吾<sup>1)</sup>, 岡島年也<sup>1)</sup>, 吉牟田剛<sup>1)</sup>, 塘 義明<sup>1)</sup>, 野々木宏<sup>1)</sup> (1) 国立循環器病センター) : 急性大動脈解離に対する薬物療法に関する最新の知見 : ACE阻害薬は大動脈解離の慢性期予後を改善する. 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.

(4) ワークショップ :

- 1) 畑 典武 : 研修医制度における集中治療学教育. 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.



(5) 一般講演：

- 1) Shirakabe A, Asai K<sup>1)</sup>, Hata N, Yokoyama S, Akutsu K, Shinada T, Kanemaru K, Kobayashi N, Mizuno K (1) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : The effects of statin therapy on MMP families in patients with acute decompensated heart failure. 2008 AHA Scientific Session (New Orleans), 2008. 11.
- 2) Akutsu K, Tohbaru T<sup>1)</sup>, Koyama N<sup>2)</sup>, Nagao K<sup>3)</sup>, Sato N<sup>4)</sup>, Takayama M (1) Sakakibara Memorial Hospital, 2) Toho University, 3) Nihon University, 4) Intensive and Coronary Care Unit, Nippon Medical School) : The characteristics of thrombosed type Acute Aortic Dissections compared with patent type : Analysis of 223 type B aortic dissection. The 73rd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.
- 3) Akutsu K, Morisaki H<sup>1)</sup>, Takeshita S<sup>1)</sup>, Okajima T<sup>1)</sup>, Yoshimuta T<sup>1)</sup>, Tsutsumi Y<sup>1)</sup>, Nonogi H<sup>1)</sup>, Higashi M<sup>1)</sup>, Morisaki T<sup>1)</sup> (1) National Cardiovascular Center) : New Genetic Disorders in the Patients with Aortic Disease. The 73rd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.
- 4) Shirakabe A, Asai K<sup>1)</sup>, Hata N, Yokoyama S, Akutsu K, Shinada T, Kobayashi N, Tomita K, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : The effects of statin therapy on Matrix Metalloproteases in patients with acute heart failure. The 73rd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.
- 5) Inami T<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Kimata N<sup>1)</sup>, Okada K<sup>1)</sup>, Tara S<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Tajika K<sup>1)</sup>, Yodogawa K<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Oono N<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Aoki S<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Hata N, et al. (1) Department of Cardiovascular Medicine, Chiba Hokusoh Hospital) : Even mild elevation of sLOX-1 may reflect coronary atherosclerotic plaque burden in non-AMI coronary artery disease patients. The 73rd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.
- 6) 金丸勝弘, 横山真也, 野崎文華, 白壁章宏, 小林宣明, 福島正人, 品田卓郎, 畑典武 : PMX-DHPで加療した敗血症の1例. 第9回千葉急性血液浄化研究会, 2008. 5.
- 7) 坏宏一 : 急性大動脈解離その診断のコツと内科治療の注意点. 第24回日光カンファレンス, 2008. 6.
- 8) 白壁章宏, 浅井邦也<sup>1)</sup>, 菊池有史, 小林宣明, 鈴木雄一朗, 品田卓郎, 横山真也, 畑典武, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 急性心不全における MMP Familyの変動. 第37回心機能研究会, 2008. 7.
- 9) 小林宣明, 金丸勝弘, 栗原理, 白壁章宏, 品田卓郎, 坏宏一, 横山真也, 畑典武, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科) : 広範な脳梗塞に合併した神経原性肺水腫の2例. 日本集中治療学会関東甲信越地方会, 2008. 8.
- 10) 白壁章宏, 小林宣明, 品田卓郎, 金丸勝弘, 坏宏一, 横山真也, 畑典武 : 急性発症の肺高血圧症を呈した癌性リンパ管症による右→左シャントの1例. 第22回千葉県重症患者管理研究会, 2008. 9.
- 11) 白壁章宏, 浅井邦也<sup>1)</sup>, 畑典武, 横山真也, 坏宏一, 品田卓郎, 小林宣明, 金丸勝弘, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 急性心不全における MMP Familyの臨床的意義 : BNPとの比較. 第56回日本心臓病学会学術集会, 2008. 9.
- 12) 白壁章宏, 菊池有史, 小林宣明, 鈴木雄一朗, 金丸勝弘, 品田卓郎, 坏宏一, 横山真也, 畑典武 : 僧帽弁逆流と左室流出路圧較差を認めたタコツボ心筋症の1例. 第209回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2008. 9.
- 13) 金丸勝弘<sup>1)</sup>, 松本尚<sup>1)</sup>, 武井健吉<sup>1)</sup>, 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 朽方規喜<sup>1)</sup>, 原義明<sup>1)</sup>, 小林宣明, 横山真也, 畑典武, 小林士郎<sup>2)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科) : 広範な脳梗塞にみられた神経原性肺水腫の2例. 日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 14) 牧野俊郎<sup>1)</sup>, 浅野悦之<sup>1)</sup>, 村越秀光<sup>1)</sup>, 近藤久禎<sup>2)</sup>, 原義明<sup>3)</sup>, 松本尚<sup>3)</sup>, 畑典武, 益子邦洋<sup>3)</sup>, 横田裕

- 行<sup>2)</sup> (1) 成田空港クリニック, <sup>2)</sup> 救急医学講座, <sup>3)</sup> 千葉北総病院救命救急センター) : 成田国際空港クリニックにおける救急医療の現状. ロングフライト血栓症 (肺血栓塞栓症) を中心に. 日本救急医学会総会, 2008. 10.
- 15) 坏 宏一, 横山真也, 金丸勝弘, 品田卓郎, 小林宣明, 白壁章宏, 別所竜蔵<sup>1)</sup>, 畑 典武 (1) 日本医科大学千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科) : 短期間に上行大動脈の血栓の出現および消失をみた, 血栓閉塞急性A型解離 (逆行性IIIb型) の1例. 第49回日本脈管学会総会, 2008. 10.
- 16) 白壁章宏 : The Effects of Statin Therapy on MMP Families in Patients with Acute Heart Failure. 第3回NNJ CV Seminar, 2008. 11.
- 17) 畑 典武, 小林宣明, 横山真也, 坏 宏一, 品田卓郎, 白壁章宏, 富田和憲 : 5-FU使用中に発症したタコツボ心筋症の1例. 第29回日本臨床薬理学会年会, 2008. 12.
- 18) 白壁章宏, 浅井邦也<sup>1)</sup>, 畑 典武, 横山真也, 坏 宏一, 品田卓郎, 小林宣明, 富田和憲, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 虚血性心疾患における急性心不全発症時のMMPsの変動. 第22回日本冠疾患学会学術集会, 2008. 12.
- 19) 品田卓郎, 横山真也, 富田和憲, 白壁章宏, 小林宣明, 金丸勝弘<sup>1)</sup>, 坏 宏一, 畑 典武 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 当院における低体温療法症例の検討. 第36回日本集中治療医学会学術集会, 2009. 2.

## [千葉北総病院リハビリテーション科]

### 研究概要

1. 筋電信号記録と電気刺激の2つの機能を同一の表面電極で兼用できる2チャンネルポータブル電気刺激装置を使用し, 麻痺筋から記録された筋電積分値に比例して増幅された電気刺激を与えることによって, さらに筋収縮を促すパワーアシストタイプの機能的電気刺激効果を検討している. 脳卒中片麻痺患者の麻痺側手根伸筋と総指伸筋において, 手関節伸展, 手指伸展促通と物品把持移動からなる訓練を施行し, 訓練前後での手関節, 手指関節の可動域, 被験筋のroot mean square, 巧緻性の変化を計測パラメーターとしている. 手指関節可動域, 手根伸筋のRMS, 巧緻動作の改善が認められた. 筋電比例式電気刺激はきめ細かな筋収縮を促通し巧緻動作訓練も可能な利点があり, 筋収縮の筋固有感覚が入力刺激となって感覚運動統合の再構築を促す可能性が推察される. また, 光トポグラフィーを用いて機能的電気刺激が脳循環に与える影響を検討する.
2. 脳の可塑性を検討する基礎的検討として, 124チャンネルの脳磁図を用いて手指, 手関節運動時の脳神経活動の局在, 運動準備電位との関連を検討する.
3. 回復期, 慢性期の脳卒中片麻痺患者の麻痺側下肢のうっ血および深部下肢静脈血栓症について調査し, 脳梗塞患者のDVT合併頻度, それらの危険因子および血栓予防薬との関係について検討する.
4. パワーアシストタイプの機能的電気刺激装置の小型軽量化を測り, 前腕部アーマーに表面電極, 機能的電気刺激装置を内臓した【Cyber hand】を作製し, 臨床応用を行う.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Hara Y, Ogawa S, Tujiuchi K, Muraoka Y<sup>1)</sup> (1) Faculty of Rehabilitation School of Health Sciences, Fujita Health University) : A home-based rehabilitation program for the hemiplegic upper extremity by power-assisted functional electrical stimulation. Disabil Rehabil 2008 ; 30 (4) : 296-304.
- 2) Hara Y : Deep venous thrombosis in stroke patients during rehabilitation phase. Keio J Med 2008 ; 57 (4) : 196-204.

- 3) 原 行弘：コクランレビュー Up To Date：Mehrzholz J et al：Electromechanical-assisted training for walking after stroke (Cochrane Review). 分子脳血管病 2008；7 (2)：213-217.
- 4) 原 行弘：筋力と筋持久力・脳卒中. 総合リハ 2008；36 (8)：639-644.
- 5) 小川真司, 原 行弘, 関 正恒, 辻内和人<sup>(1)</sup> 千葉北総病院 リハビリテーション科)：機能的アームスリングを使用し上肢機能改善を示した, 頸髄神経根症の2症例. 末梢神経 2008；19 (2)：280-284.
- 6) 原 行弘：リハビリテーション技術：パワーアシスト型機能的電気刺激. 臨床リハ 2009；18 (2)：163-165.

## 著 書

- 1) 原 行弘：〔自著〕リハビリテーション医学各論：関節リウマチ・膠原病. 現代リハビリテーション医学 (千野直一), 2009；pp408-422, 金原出版.
- 2) 原 行弘：〔自著〕社会的不利・QOLの評価/社会的不利. 整形外科学体系4リハビリテーション (里宇明元), 2008；pp166-168, 中山書店.

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 原 行弘：リハビリテーション医学からみた Post Stroke Depression. Post stroke depression 研究会 (第17回), 2008. 9.
- 2) 原 行弘：脳卒中患者の上肢機能障害に対する電気刺激療法. 多摩地域リハビリテーション研究会 (第39回), 2008. 11.

### (2) 招待講演：

- 1) 原 行弘：認知症に対する新しい電気生理学的検査と認知リハビリテーション. 取手認知症研究会 (第4回), 2008. 4.

### (3) シンポジウム：

- 1) 原 行弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科)：ニューロ・リハビリテーション：機能的電気刺激療法 (FES) をふまえた新戦略. 日本臨床神経生理学会学術集会 (第38回), 2008. 11.
- 2) 原 行弘：地域連携パスとリハビリテーションの関わり：都市近郊の場合. 日本脳卒中学会総会 (第34回), 2009. 3.

### (4) 一般講演：

- 1) Hara Y, Ogawa S, Muraoka Y<sup>1)</sup> (1) Faculty of Rehabilitation School of Health Sciences, Fujita Health University)：A home program of power-assisted functional electrical stimulation with upper-limb task practice in chronic stroke patients. World Stroke Congress (6th) (Wien), 2008. 9.
- 2) 原 行弘, 小川真司, 辻内和人：パワーアシスト機能的電気刺激 (FES) 療法におけるNIRSの検討. 日本リハビリテーション医学会学術集会 (第45回), 2008. 6.
- 3) 原 行弘, 小川真司, 辻内和人：リハビリテーション期の脳梗塞例に合併する下肢深部静脈血栓症. 日本リハビリテーション医学会学術集会 (第45回), 2008. 6.
- 4) 小川真司, 原 行弘, 辻内和人：脳磁図 (MEG) で観察した治療的電気刺激 (TES) 前後の運動関連磁場の変化. 日本リハビリテーション医学会学術集会, 2008. 6.
- 5) 小川真司, 原 行弘, 辻内和人, 関 正恒：機能的アームスリングを使用し上肢機能が改善した頸髄神経根症の2症例. 日本末梢神経学会学術集会, 2008. 9.
- 6) 小川真司, 篠田朋美, 原 行弘, 中村利恵：NSTを介した摂食嚥下訓練の普及 その1 (管理ソフトの導入). 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会, 2008. 9.
- 7) 篠田朋美, 小川真司, 原 行弘, 中村利恵：NSTを介した摂食嚥下訓練の普及 その2 (脳神経外科病棟から

- 病院全体への拡大)。日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会，2008. 9.
- 8) 小川真司，原 行弘，辻内和人：脳磁図（MEG）による運動関連磁場で観察した治療的電気刺激（TES）の影響。日本臨床神経生理学学会学術集会，2008. 11.
- 9) 小川真司，原 行弘，辻内和人，関 正恒：機能的アームスリングを使用し上肢機能が改善した頸髄神経根症の3症例。千葉県リハビリテーション医学懇話会，2009. 2.

## [千葉北総病院病理部]

### 研究概要

臨床各科との連携のもと，臨床病理学的検討を継続中である。

- 1：消化管腫瘍（大腸癌，GIST，EBV関連胃癌など）に関する臨床病理学的検討。
- 2：泌尿生殖器腫瘍 特に子宮，卵巣などの腫瘍性病変を中心にした形態学的，細胞生物学的特性の検討。
- 3：乳腺腫瘍，特に乳癌症例を中心にした組織学的，細胞診断学的，免疫組織学的，電子顕微鏡的検討。
- 4：脳腫瘍に対する迅速診断時の細胞診検査の有用性に関する検討。また，病理検査部門における有機物質，ホルマリンの取扱いに関する労働衛生上の法整備についても，積極的に活動を行った。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Yokoi K<sup>1</sup>， Tanaka N<sup>1</sup>， Furukawa K<sup>1</sup>， Ishikawa N<sup>1</sup>， Seya T<sup>1</sup>， Horiba K<sup>1</sup>， Kanazawa Y<sup>1</sup>， Ohaki Y， Tajiri T<sup>2</sup> (1) Dep. of Surgery. Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (2) Dep. of Surgery. Nippon Medical School Hospital) : Male choriocarcinoma with metastasis to the jejunum : a case report and review of the literature. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (2) : 116-121.
- 2) Seya T<sup>1</sup>， Tanaka N<sup>1</sup>， Yokoi K<sup>1</sup>， Shinji S<sup>1</sup>， Ohaki Y， Tajiri T<sup>2</sup> (1) Department of Surgery. Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (2) Department of Surgery. Nippon Medical School Hospital) : Life-threatening bleeding from gastrointestinal stromal tumor of the stomach. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (5) : 306-311.
- 3) Kamoi S<sup>1</sup>， Ohaki Y， Mori O， Kurose K<sup>2</sup>， Fukunaga M<sup>3</sup>， Takeshita T<sup>2</sup> (1) Dep. of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (2) Dep. of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, (3) Dep. of Pathology, Jikei University Daisan Hospital) : Serial histologic observation of endometrial adenocarcinoma treated with high-dose progestin until complete disappearance of carcinomatous foci-Review of more than 25 biopsies from five patients. Int J of Gynecol Cancer 2008 ; 18 (6) : 1305-1314.
- 4) Shimizu H<sup>1</sup>， Ghazizadeh M<sup>1,2)</sup>， Sato S<sup>2)</sup>， Oguro T<sup>1,2)</sup>， Kawanami O (1) Department of Molecular Pathology, Institute of Development and Aging Sciences, Nippon Medical School, (2) Central Institute for Electron Microscopic Research, Nippon Medical School) : Interaction between  $\beta$ -amyloid protein and heparan sulfate proteoglycans from the cerebral capillary basement membrane in Alzheimer' s disease. Clinical Neuroscience 2009 ; 16 (2) : 277-282.

##### (2) 総説：

- 1) 清水秀樹：改定特定化学物質障害予防規制 医療機関に係るホルムアルデヒドの主な措置. Medical Technology 2008 ; 136 (5) : 522-524.
- 2) 清水秀樹：内視鏡室・開業医・手術室におけるホルムアルデヒド取扱いについて厚生労働省「第1回少量製造・取扱いの規制等に係る小検討会」より. 医学検査 2008 ; 57 (9) : 2-2.

- 3) 清水秀樹：脳腫瘍の細胞診 (1)：画像とGlioma. 千葉県臨床検査技師会誌 2008；3 (104)：4-11.
- 4) 谷山清己<sup>1,2)</sup>, 清水秀樹, 根本則道<sup>3)</sup> (1) 国立病院機構呉医療センター, <sup>2)</sup> 中国がんセンター臨床研究部, <sup>3)</sup> 日本大学医学部病態学病理学分野)：病理診断室におけるホルマリン対策. 検査と技術 2008；36 (13)：1437-1441.
- 5) 清水秀樹：脳腫瘍の細胞診 (2)：Meningioma, Schwannoma. 千葉県臨床検査技師会誌 2009；1 (105)：20-24.
- 6) 清水秀樹：病理部門におけるホルムアルデヒド取り扱い 改正特定化学物質障害予防規則の対策有害性と作業管理 (作業方法) の改善. 病理技術 2009；72 (1)：9-12.
- 7) 清水秀樹：厚生労働省「平成20年度化学物質による労働者の健康障害防止に係るリスク評価検討会報告書 (医療現場におけるホルムアルデヒドについて)」。医学検査 2009；58 (2)：10-11.
- 8) 清水秀樹, 小黑辰夫, 赤坂久美, 笹谷昌司, 梅沢 敬<sup>1)</sup>, 成田真一<sup>2)</sup> (1) 東京慈恵医科大学付属病院 病院病理部, <sup>2)</sup> 東京保健医療公社 多摩南部地域病院 検査科)：ホルムアルデヒド・法改正と病理検査業務の対応. 東京都臨床検査技師会誌 2009；37 (2)：77-103.

(3) 症例報告：

- 1) Yamada T<sup>1)</sup>, Furukawa K<sup>1)</sup>, Yokoi K<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Okada S<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>3)</sup> (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>3)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School Hospital)：Case of meningeal carcinomatosis with gastric cancer which manifested meningeal signs as the initial symptom；the palliative benefit of radiotherapy. J Nippon Med Sch 2008；75 (4)：216-220.
- 2) Yokoi K<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Furukawa K<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Tajiri T<sup>2)</sup> (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School Hospital)：Case of adenosquamous carcinoma of the ascending colon. J Nippon Med Sch 2008；75 (4)：242-246.
- 3) Yamamoto M<sup>1)</sup>, Takano M<sup>2)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Okamatsu K<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Seino Y, Mizuno K<sup>2)</sup> (1) Cardiovascular Center, Chiba-Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Division of Cardiology, Nippon Medical School)：A case of stent restenosis within sirolimus-eluting stents implanted for three-vessel coronary artery disease in a patient with regular hemodialysis：insight from pathological findings of specimens obtained by directional coronary atherectomy. Jpn J of Interventional Cardiol 2008；23 (6)：454-459.
- 4) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 大秋美治, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学外科)：ガストリン産生肝腫瘍を合併し Zollinger-Ellison 症候群を呈した多発性内分泌腺腫症1型隣グルカゴノーマの1例. 日本消化器外科学会雑誌 2008；41 (6)：646-652.
- 5) 窪倉浩俊<sup>1,2)</sup>, 小泉 潔<sup>1,3)</sup>, 吉野直之<sup>1,2)</sup>, 日野光紀<sup>2)</sup>, 大秋美治, 清水一雄<sup>1,3)</sup> (1) 日本医科大学大学院医学研究科機能制御再生外科学, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院呼吸器センター, <sup>3)</sup> 日本医科大学外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門))：左肺底区動脈大動脈起始症の2例. 日医大医会誌 2008；4 (2)：118-122.

著 書

- 1) 清水秀樹：〔自著〕管理濃度変更に際してのホルムアルデヒドの取扱い. Histo-Logic® Jpan 2008前期号 Vol. 36 No. 1, 2008；pp15-17, サクラファインテックジャパン.
- 2) 清水秀樹, 森 修<sup>1)</sup>, 大秋美治, 新井 悟, 小黑辰夫, 赤坂久美, 小林士郎<sup>2)</sup>, 岡田 進<sup>3)</sup>, 前田昭太郎<sup>4)</sup>, 内藤善哉<sup>5)</sup> (1) 初石病院, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 放射線科, <sup>4)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 病理部, <sup>5)</sup> 日本医科大学 病理学 (統御機構・腫瘍学))：〔分担〕脳腫瘍の画像と細胞像. クリエイティブ サイトロジー3画像所見と細胞像 (平井康夫, 堀内文男, 及川洋恵, 上野



喜三郎), 2009 ; pp1-24, 武藤化学.

## 学会発表

(追加分)

追加分一般講演 :

- 1) Horiba K<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Furukawa K<sup>1)</sup>, Yokoi K<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Shinji S<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Tajiri T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dep. of Surgery. Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Dep. of surgery Nippon Medical School) : Extracellular matrix metalloproteinase inducer (Emmprin) in the patients with Crohn' s disease and in the patients with ulcerative colitis. United European Gastroenterology Week 2007 (15th) (Paris), 2007. 10.
- 2) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 大秋美治, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 石渡俊行<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門), <sup>3)</sup> 日本医科大学病理学講座 (統御機構・腫瘍学)) : 大腸癌肝転移症例におけるEMMPRIN, MMP-9, TypeIV collagenの発現. 日本外科学会定期学術集会 (第107回), 2007. 4.
- 3) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>2)</sup>, 小黑辰夫, 大秋美治, 川原清子<sup>3)</sup>, 工藤光洋<sup>3)</sup>, 中澤南堂<sup>3)</sup>, 石渡俊行<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, その他3名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), <sup>3)</sup> 日本医科大学病理学講座 (統御機構・腫瘍学)) : 直腸悪性黒色腫におけるc-kitの関与. 日本外科学会定期学術集会 (第107回), 2007. 4.
- 4) 印出佑介<sup>1)</sup>, 菊池美美<sup>1)</sup>, 荏原弘光<sup>1)</sup>, 朝倉禎史<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 渡辺美千明<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>2)</sup>, 米山剛一<sup>3)</sup>, 竹下俊行<sup>3)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科) : 子宮内膜症を合併する卵巣悪性腫瘍 : 過去13年間の症例検討. 日本婦人科腫瘍学会学術集会 (第42回), 2007. 6.
- 5) 川島徹生<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 大秋美治, 別所竜蔵<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)) : 直腸癌術後にCA19-9の上昇を認め出現したサルコイドーシスの1例. 日本呼吸器内視鏡外科学会関東支部会, 2007. 7.
- 6) 糸川典夫<sup>1)</sup>, 横瀬紀夫<sup>1)</sup>, 徳山雄一<sup>1)</sup>, 壇 和夫<sup>2)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)) : 完全房室ブロック発症直後に最未分化型急性骨髄性白血病を発症し, 寛解後突然死した透析患者の1剖検例. 日本血液学会 (第69回) 日本臨床血液学会 (第49回) 合同総会, 2007. 10.
- 7) 横瀬紀夫<sup>1)</sup>, 藤野鉄平<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 大秋美治, 壇 和夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)) : 免疫学的機序によると思われる蛋白漏出性胃腸症を合併したsymptomatic myeloma. 日本血液学会 (第69回) 日本臨床血液学会 (第49回) 合同総会, 2007. 10.
- 8) 楠 裕二<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 猪俣 稔<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 大秋美治, 工藤翔二<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門)) : 当院で経験したChurg-Straus syndrome関連病態により急速な転帰を辿り死亡した症例の検討. 日本呼吸器学会関東地方会 (第177回), 2007. 10.
- 9) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 勝田美和<sup>1)</sup>, 大秋美治, 田尻 孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院第一外科) : StageII結直癌における病理組織学的リンパ節検索個数の重要性. 日本癌学会学術総会 (第66回), 2007. 10.
- 10) 吉野直之<sup>1)</sup>, 岡田大輔<sup>1)</sup>, 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学呼吸器外科) : 免疫組織化学的検索を行った若年者Thymic epithelial tumorの1例. 日本肺癌学会総会 (第48回), 2007. 11.

- 11) 川島徹生<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 大秋美治, 別所竜蔵<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科, 2) 日本医科大学外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門): 縦隔リンパ節 (#3) へのスキップ転移を呈した気管支発生微小肺癌の1例. 日本肺癌学会総会 (第48回), 2007. 11.
- 12) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 大秋美治, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院第一外科): 大腸多重癌 (重複癌・多発癌) の検討. 大腸癌研究会 (第68回), 2008. 1.
- 13) 川島徹生<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 大秋美治, 別所竜蔵<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科, 2) 日本医科大学外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門): 前縦隔に発生した海綿状血管腫の1例. 日本肺癌学会関東部会, 2008. 3.

(1) 特別講演:

- 1) 清水秀樹: ホルマリン・キシレンの有害性・法規制に関する諸問題. 平成20年度日本臨床細胞学会京都支部学術集会, 2008. 7.
- 2) 清水秀樹: 病理診断・検査におけるホルムアルデヒド取扱い: 改定特定化学物質障害予防規制対策として. 愛知県臨床検査技師会病理班, 2008. 7.
- 3) 清水秀樹: 病理部門におけるホルムアルデヒド取扱い: 改定特定化学物質障害予防規制の対策有害性と作業管理 (作業方法) の改善. 病理技術研究会 特別企画 (第78回), 2008. 8.
- 4) 清水秀樹: ホルマリン・キシレンの有害性・法規制に関する諸問題. 北海道臨床検査技師会旭川地区会細胞研究会, 2008. 8.
- 5) 清水秀樹: ホルマリン規制強化に係る病理検査室の対応. 東京都臨床検査技師会 病理細胞診研究班, 2008. 9.
- 6) 清水秀樹: 病理検査室におけるホルムアルデヒド取扱い 改定特定化学物質障害予防規制対策として. 新潟県臨床検査技師会形態検査部門病理検査分野研修会 新潟病理技術研究会, 2008. 9.
- 7) 清水秀樹: 労働安全衛生管理. 平成20年度臨床検査技師実習施設指導者等養成講習会, 2008. 10.
- 8) 清水秀樹: 労働災害防止における職場環境の取組み. 日本臨床衛生検査技師会 環境問題対策総合研修会, 2009. 1.

(2) 一般講演:

- 1) 井内亜美<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 白川毅<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 沖野哲也<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>2)</sup>, 大秋美治, その他6名 (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院放射線科): 黄疸で発症し, 中部胆管癌との鑑別に苦慮した術後5年経過胃癌再発例. 千葉県胃癌研究会 (第28回), 2008. 5.
- 2) 樫村剛司<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 桑子智之<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 大秋美治, 鴨井青龍<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 放射線科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 女性診療科, 3) 日本医科大学付属病院 放射線科): セルトリ・間質細胞腫瘍の1例. 腹部放射線研究会 (第22回), 2008. 6.
- 3) 飛弾浩一<sup>1)</sup>, 江田 景<sup>2)</sup>, 大秋美治, 喬 炎<sup>1)</sup> (1) 長野県看護大学 看護形態機能学講座, 2) 富士バイオメディックス 小淵沢総合研究所): 足場の形成障害による皮膚創傷治癒遅延モデルの確立とその治癒過程の経時的観察. 日本褥瘡学会学術集会 (第10回), 2008. 8.
- 4) 赤坂久美, 大秋美治, 小黑辰夫, 新井 悟: 軟部神経周膜腫の1例. 日本臨床分子形態学会 (第40回), 2008. 10.
- 5) 井内亜美<sup>1)</sup>, 大秋美治, 赤坂久美, 小黑辰夫, 新井 悟, 白川 毅<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科): 後腹膜原発 extragastrintestinal stromal tumor (EGIST) の1例. 日本臨床分子形態学会 (第40回), 2008. 10.
- 6) 久保田裕二<sup>1)</sup>, 上福元清隆<sup>1)</sup>, 木村一志<sup>1)</sup>, 岩崎 毅<sup>1)</sup>, 清水秀樹, 中野厚夫<sup>2)</sup>, 加藤聖一<sup>2)</sup> (1) 興研株式会社, 2) ちば県民保健予防財団): 病理診断室のホルムアルデヒド曝露防止対策用換気システムとその効果. 日本労

働衛生工学会（第48回）作業環境測定研究発表会（第29回），2008. 11.

7) 島津絢美，大秋美治，小黑辰夫，清水秀樹，赤坂久美，三枝順子，京本晃典，笹谷昌司，相田昌子，進士誠一<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科)：肝 gastrin 産生腫瘍に伴う Zollinger-Ellison 症候群を呈した多発性内分泌腺腫症I型の1例. 日本臨床細胞学会秋期大会（第47回），2008. 11.

8) 中島 萌<sup>1)</sup>，宮崎仁美<sup>1)</sup>，宮下日登美<sup>1)</sup>，柴山沙季<sup>1)</sup>，成瀬まりこ<sup>1)</sup>，滝沢みのり<sup>1)</sup>，浮洲洋子<sup>1)</sup>，飛弾浩一<sup>1)</sup>，  
太田克矢<sup>2)</sup>，江田 景<sup>3)</sup>，大秋美治，喬 炎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 長野県看護大学 看護形態機能学講座，<sup>2)</sup> 長野県看護大学  
生物・化学講座，<sup>3)</sup> 富士バイオメディックス 小淵沢総合研究所)：炭酸温泉浴による皮膚創傷治癒の促進効果.  
日本創傷治癒学会（第38回），2008. 12.

(3) UP-TO-DATE：

1) 清水秀樹，大秋美治，森 修<sup>1)</sup>，小黑辰夫，新井 悟，小林士郎<sup>2)</sup>，岡田 進<sup>3)</sup>，内藤善哉<sup>4)</sup>，前田昭太郎<sup>5)</sup>  
(<sup>1)</sup> 初石病院内科，<sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科，<sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院放射線科，<sup>4)</sup> 日本  
医科大学病理学（統御機構・腫瘍学），<sup>5)</sup> 日本医科大学多摩永山病院病理部)：脳腫瘍のUP-TO-DATE・MRI  
画像と細胞像. 日本臨床細胞学会 秋期大会（第47回），2008. 11.

## [千葉北総病院中央検査室]

### 研究概要

当検査室では例年同様多岐に渡り，活発な活動が行われた。各領域における主な概要とその成果は次の通りである。

1) 微生物検査分野では，耐性菌の検出状況やABPC/SBTの至適投与方法の検討，院内感染対策活動の強化，2) 輸血検査分野では当直時用の輸血検査教育について，3) 生理学的検査分野ではAI値の検索と臨床的意義，頸動脈エコーと生化学検査の関連検索や標準聴覚検査の比較検討，4) 情報関連分野では時代に伴うリスクマネジメント問題，5) 管理分野では，委託検査に関する諸問題とその対策，医療の質や文書化の構成対応と共にJIS規格に基づく品質管理体性や医療安全対策と労働安全衛生法における臨床検査技師の在り方等，更には臨床検査に関する統計学入門編の各スタイルの指針的事項，6) その他では診療支援分野にて成田国際空港クリニックでの検査内容の構築，市民公開講座としてのセミナー講演等にも尽力し，継続課題である（社）東京都医師会精度管理事業への運営協力をはじめ本年度は研修医に関する細菌検査・輸血検査のトレーニング体制の調整等，幅広い分野で活動が行われた。なお下記の業績は昨年同様，当検査室職員が筆頭名であるもののみを基本として掲載した。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) 町田幸雄：品質管理【JIS規格準拠】はじめての一步 第5回新QC七つ道具-1-。（社）日本臨床衛生検査技師会 会報JAMT 2008；9-9.
- 2) 町田幸雄：品質管理【JIS規格準拠】はじめての一步 第6回新QC七つ道具-2-。（社）日本臨床衛生検査技師会 会報JAMT 2008；10-10.
- 3) 町田幸雄：文書化？ 第1回用語の確認。（社）日本臨床衛生検査技師会 会報JAMT 2008；9-9.
- 4) 町田幸雄：文書化？ 第2回分冊と参照。（社）日本臨床衛生検査技師会 会報JAMT 2008；9-9.
- 5) 町田幸雄：文書化？ 第3回文書類の構成。（社）日本臨床衛生検査技師会 会報JAMT 2008；9-9.
- 6) 町田幸雄：百均の電卓でとける統計入門 第1回おおまかに。（社）日本臨床衛生検査技師会 会報JAMT 2008；9-9.
- 7) 町田幸雄：百均の電卓でとける統計入門 第2回みんなの真ん中。（社）日本臨床衛生検査技師会 会報JAMT 2008；9-9.

- 8) 町田幸雄：百均の電卓でとける統計入門 第3回ちらばり。(社)日本臨床衛生検査技師会 会報JAMT 2008；9-9.
- 9) 町田幸雄：百均の電卓でとける統計入門 第4回私って変？。(社)日本臨床衛生検査技師会 会報JAMT 2008；9-9.
- 10) 町田幸雄：百均の電卓でとける統計入門 第5回正規分布は予言の書？。(社)日本臨床衛生検査技師会 会報JAMT 2008；9-9.
- 11) 町田幸雄：百均の電卓でとける統計入門 第6回全体を推理しよう。(社)日本臨床衛生検査技師会 会報JAMT 2009；9-9.
- 12) 町田幸雄：百均の電卓でとける統計入門 第7回予言的中？。(社)日本臨床衛生検査技師会 会報JAMT 2009；9-9.
- 13) 町田幸雄：百均の電卓でとける統計入門 第8回統計解析の手順。(社)日本臨床衛生検査技師会 会報JAMT 2009；9-9.

## 学会発表

### (1) 招待講演：

- 1) Machida Y：An effective and novel usage of balanced scorecard for laboratory management；gradually getting common in japan. 世界臨床検査学会（第28回），2008. 8.

### (2) セミナー：

- 1) 町田幸雄：管理運営の基礎，戦略と戦術. 管理運営講習会と英語論文の読み方講習会（臨床検査同学院），2008. 7.
- 2) 町田幸雄：臨床検査技師の立場から。(社)日本放射線技師会医療機器安全管理責任者講習会，2008. 4.
- 3) 亀山雅弥：あなたが受ける検査がわかるお話. 成田市民公開講座，2008. 5.
- 4) 町田幸雄：医療安全対策と労働安全衛生法. 管理運営講習会と英語論文の読み方講習会（臨床検査同学院），2008. 9.
- 5) 町田幸雄：情報化時代におけるパラダイム・シフト：情報化時代の学習を中心に. 平成20年度臨床検査技師実習施設指導者等養成講習会，2008. 10.
- 6) 亀山雅弥：日本医科大学千葉北総病院中央検査室における成田国際空港クリニックへの診療支援について. 平成20年度私立医科大学病院臨床検査技師学術研修会，2008. 10.
- 7) 町田幸雄：リスクマネジメント. 管理運営講習会と英語論文の読み方講習会（臨床検査同学院），2008. 11.
- 8) 町田幸雄：品質管理，関連法規，その他. 管理運営講習会と英語論文の読み方講習会（臨床検査同学院），2009. 1.
- 9) 町田幸雄：来ていますか，医療安全対策. 四国地区管理運営研修会，2009. 3.

### (3) 一般講演：

- 1) 小林理恵，木村裕子，町田幸雄，亀山雅弥，野本剛史，精野精彦，雪吹周生<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>内科）：AI値の臨床的意義についてI：各種変動要因による影響. 日本医学検査学会（第57回），2008. 5.
- 2) 木村裕子，小林理恵，町田幸雄，亀山雅弥，野本剛史，清野精彦，雪吹周生<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>内科）：AI値の臨床的意義についてII：各種データとの関連性の検討. 日本医学検査学会（第57回），2008. 5.
- 3) 野本剛史，町田幸雄，石渡統夫，亀山雅弥：委託検査における諸問題の実例と対策. 日本医学検査学会（第57回），2008. 5.
- 4) 實川東洋<sup>1)</sup>，福田恵子<sup>1)</sup>，菊地陽子<sup>2)</sup>，柳下照子，村重良一<sup>3)</sup>，中嶋隆夫<sup>3)</sup>，南 和文<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>薬剤科，<sup>2)</sup>看護部，<sup>3)</sup>整形外科）：整形外科領域におけるABPC/SBTの至適投与方法の検討. 医療薬学学会年会（第18回），2008. 9.
- 5) 海老沢有介，柳下照子，岡本直人，木村裕子，野本剛史，清野精彦：当院における耐性菌検出状況. 日本医科大学医学部総会（第76回），2008. 9.
- 6) 永井佑一，野本剛史，馬場俊吉：RION AA-71，RION AA-78における純音標準聴力検査の比較. 日本医科大



学医学会総会（第76回），2008. 9.

- 7) 神谷敬子，野本剛史，清野精彦：頸動脈内膜中膜複合体厚と生化学検査の相関について．日本医科大学医学会総会（第76回），2008. 9.
- 8) 町田幸雄：医療の質・安全について．医療の質安全学会学術集会（第3回），2008. 11.
- 9) 岡本直人：当直輸血検査教育における課題．千葉県臨床検査学会（第30回），2009. 2.

## [千葉北総病院薬剤科]

### 研究概要

医療会全体が変化している中，従来からの薬剤管理指導のみならず，チーム医療，専門薬剤師，薬学教育6年制対応等課題も多くなってきている．それぞれのかかわりの中，初の海外学会の発表も含め，また薬学部，薬剤科，診療科の連携での臨床研究を行い成果を発表する機会を得た年であった．発表に至らないものの各方面の学会，研修会，講演会等への参加を奨励し，今後の業務に活かすべく期待し準備の年としてきた．今後更に精進したいと考える．

### 研究業績

#### 論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 浜田康次<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院)：片頭痛治療薬．レシピ 2008；7 (3)：62-63.

(1) 原著：

- 1) 吉澤一巳<sup>1)</sup>，木本陶子<sup>1)</sup>，浜田康次<sup>1)</sup>，福田恵子<sup>1)</sup>，藤岡久恵<sup>2)</sup>，松丸雪江<sup>2)</sup>，古山めぐみ<sup>2)</sup>，三浦剛史<sup>2)</sup>，池森紀夫<sup>2)</sup>，山田岳史<sup>2)</sup>，益田律子<sup>2)</sup> (1) 薬剤科，2) 緩和ケアチーム)：入院がん患者に対する医療用麻薬の自己管理運用マニュアルの検討．日本病院薬剤師会雑誌 2008；44 (7)：1053-1055.

(2) 総説：

- 1) 浜田康次<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院)：心筋梗塞のクスリ．ナーシング・カレッジ 2008；12 (4)：88-91.
- 2) 浜田康次<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院)：楽しく学ぶクスリの授業：B，C型肝炎のクスリ．ナーシング・カレッジ 2008；12 (5)：86-89.
- 3) 浜田康次<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院)：楽しく学ぶクスリの授業：前立腺肥大による排尿障害のクスリ．ナーシング・カレッジ 2008；12 (6)：84-87.
- 4) 浜田康次<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院)：楽しく学ぶクスリの授業：子宮内膜症のクスリ．ナーシング・カレッジ 2008；12 (8)：88-91.
- 5) 浜田康次<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院)：楽しく学ぶクスリの授業：不眠症のクスリ．ナーシング・カレッジ 2008；12 (9)：88-91.
- 6) 浜田康次<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院)：マグネット・ホスピタル．日本病院薬剤師会雑誌 2008；44 (8)：1250-1250.
- 7) 浜田康次<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院)：楽しく学ぶクスリの授業：パーキンソン病のクスリ．ナーシング・カレッジ 2008；12 (10)：88-91.
- 8) 浜田康次<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院)：楽しく学ぶクスリの授業：てんかんのクスリ．ナーシング・カレッジ 2008；12 (11)：90-93.
- 9) 浜田康次<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院)：Ai (エーアイ)．日本病院薬剤師会雑誌 2008；44 (10)：1484-1484.
- 10) 浜田康次<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院)：インスリン製剤．レシピ 2008；7 (4)：68-69.
- 11) 浜田康次<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院)：楽しく学ぶクスリの授業：うつ病のクスリ．ナーシング・カレッジ 2008；12



(12) : 90-93.

12) 浜田康次<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院) : 子宮内膜症治療薬の歴史. レシピ 2009 ; 8 (1) : 72-73.

## 著 書

- 1) 朝長文彌<sup>1)</sup>, 浜田康次<sup>2)</sup> (1) 北里大学名誉教授, <sup>2)</sup> 千葉北総病院) : [分担] 重大な副作用. 写真付/服薬指導 CD-ROM 2008年3月版 第22版 (朝長文彌), 2008 ; じほう.
- 2) 浜田康次<sup>1)</sup>, 佐藤憲一<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院, <sup>2)</sup> 東北薬科大学) : [共著] 抗菌薬サークル図データブック (戸塚 恭一), 2008 ; pp1-160, じほう.
- 3) 浜田康次<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院) : [分担] やけど用薬. 今日のOTC薬 : 解説と便覧 (中島恵美・伊東明彦), 2009 ; pp336-339, 南江堂.
- 4) 浜田康次<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院) : [分担] 強心薬. 今日のOTC薬 : 解説と便覧 (中島恵美・伊東明彦), 2009 ; pp444-447, 南江堂.
- 5) 浜田康次<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院) : [分担] 排尿障害改善薬. 今日のOTC薬 : 解説と便覧 (中島恵美・伊東明彦), 2009 ; pp464-469, 南江堂.

## 学会発表

### (1) 一般講演 :

- 1) Yoshizawa K<sup>1)</sup>, Kimoto T<sup>1)</sup>, Fukuda K<sup>1)</sup>, Masuda R<sup>2)</sup>, Narita M<sup>3)</sup>, Suzuki T<sup>3)</sup> (1) Nippon Med. Sch. Chiba, <sup>2)</sup> Dept Anesthesiol, <sup>3)</sup> Hoshi Univ) : Low-Dose Ketamine Spares Demand for Opioids for Break-through pain Treatment. International Narcotics Research Conference (SC, USA), 2008. 7.
- 2) 岩谷香寿美<sup>1)</sup>, 川上準子<sup>1)</sup>, 星 憲司<sup>1)</sup>, 佐藤憲一<sup>1)</sup>, 浜田康次<sup>2)</sup>, 林誠一郎<sup>3)</sup> (1) 東北薬科大学, <sup>2)</sup> 千葉北総病院, <sup>3)</sup> 日本薬剤師会中央薬事センター) : 副作用情報と相互作用情報の自己組織化地図 (SOM) を用いたビジュアル化と解析 : 抗菌薬を中心に. 日本医薬品情報学会 (第11回), 2008. 7.
- 3) 佐藤憲一<sup>1)</sup>, 更谷和真<sup>2)</sup>, 星 憲司<sup>1)</sup>, 川上準子<sup>1)</sup>, 岩谷香寿美<sup>1)</sup>, 青木空真<sup>1)</sup>, 浜田康次<sup>3)</sup> (1) 東北薬科大学, <sup>2)</sup> JA 静岡厚生連清水厚生病院, <sup>3)</sup> 千葉北総病院) : “副作用の足し算” 情報を人体マップ上に作成する試み. 日本医薬品情報学会 (第11回), 2008. 7.
- 4) 吉澤一巳<sup>1)</sup>, 木本陶子<sup>1)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup>, 古山めぐみ<sup>2)</sup>, 三浦剛史<sup>2)</sup>, 益田律子<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院, <sup>2)</sup> 緩和ケアチーム) : 乳がんの皮膚転移による疼痛に院内製剤5%リドカイン軟膏が有効だった2症例. 日本緩和医療学会 (第13回), 2008. 7.
- 5) 里中康子<sup>1)</sup>, 原田香里<sup>1)</sup>, 伊藤義樹<sup>1)</sup>, 浜田康次<sup>1)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院) : 肝不全用経口栄養剤 (アミノレバンEN) の1日1回就寝前投与の有用性. 関東ブロック学術大会 (第38回), 2008. 8.
- 6) 河村睦美<sup>1)</sup>, 伊藤義樹<sup>2)</sup>, 下川陽子<sup>2)</sup>, 花澤廸子<sup>2)</sup>, 中山 健<sup>2)</sup> (1) 柏たなか病院, <sup>2)</sup> 千葉北総病院) : 医薬品の客観的評価の試み XI : 薬剤3種について. 関東ブロック学術大会 (第38回), 2008. 8.
- 7) 吉澤一巳<sup>1)</sup>, 木本陶子<sup>1)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 益田律子<sup>2)</sup>, 加藤英明<sup>3)</sup>, 成田 年<sup>3)</sup>, 鈴木勉<sup>3)</sup> (1) 千葉北総病院薬, <sup>2)</sup> 緩和ケアチーム, <sup>3)</sup> 星薬科大学) : NMDA 受容体拮抗薬イフェンプロジルを用いたがん性疼痛治療の一考察. 生体機能と創薬シンポジウム2008, 2008. 9.
- 8) 實川東洋<sup>1)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup>, 菊池陽子<sup>2)</sup>, 柳下照子<sup>3)</sup>, 村重良一<sup>4)</sup>, 中嶋隆夫<sup>4)</sup>, 南 和文<sup>4)</sup> (1) 千葉北総病院, <sup>2)</sup> 看護部, <sup>3)</sup> 中央検査室, <sup>4)</sup> 整形外科) : 整形外科領域における ABPC/SBT の至適投与方法の検討. 日本医療薬学会 (第18回), 2008. 9.
- 9) 渡邊暁洋<sup>1)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup>, 加藤あゆみ<sup>2)</sup>, 西澤健司<sup>3)</sup> (1) 千葉北総病院, <sup>2)</sup> 付属病院, <sup>3)</sup> 東邦大学大森医療センター) : 災害時に活動できる薬剤師の育成について : 国際緊急援助医療チーム研修会からの経験より. 日本医療薬学会 (第18回), 2008. 9.

- 10) 西脇龍広<sup>1)</sup>, 佐藤光利<sup>1)</sup>, 吉江文彦<sup>2)</sup>, 岸 大輔<sup>2)</sup>, 浜田康次<sup>2)</sup>, 福田恵子<sup>2)</sup>, 雪吹周生<sup>3)</sup>, 清野精彦<sup>3)</sup> (1) 東邦大学薬, 2) 千葉北総病院, 3) 循環器内科): 脂質異常症の合併症と脂質管理目標達成率: 2次予防例とハイリスク1次予防例の比較. 日本医療薬学会 (第18回), 2008. 9.
- 11) 中山雄太<sup>1)</sup>, 野澤雄乃介<sup>1)</sup>, 星 憲司<sup>1)</sup>, 川上準子<sup>1)</sup>, 岩谷香寿美<sup>1)</sup>, 佐藤憲一<sup>1)</sup>, 浜田康次<sup>2)</sup>, 更谷和真<sup>3)</sup> (1) 東北薬科大学, 2) 千葉北総病院, 3) JR静岡厚生連清水厚生病院): 人体マップ上に”副作用の足し算”情報を表示するツールの開発と服薬指導への利用. 日本薬学会東北支部大会 (第47回), 2008. 10.
- 12) 西村純一<sup>1)</sup>, 阿保英和<sup>1)</sup>, 大河内華子<sup>1)</sup>, 岩谷香寿美<sup>1)</sup>, 川上準子<sup>1)</sup>, 星 憲司<sup>1)</sup>, 佐藤憲一<sup>1)</sup>, 浜田康次<sup>2)</sup>, 林誠一郎<sup>3)</sup> (1) 東北薬科大学, 2) 千葉北総病院, 3) 日本薬剤師会中央薬事情報センター): 降圧薬の副作用情報と相互作用情報の自己組織化地図 (SOM) を用いたビジュアル化と解析. 日本薬学会東北支部大会 (第47回), 2008. 10.
- 13) 吉澤一巳<sup>1)</sup>, 木本陶子<sup>1)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup>, 古山めぐみ<sup>2)</sup>, 三浦剛史<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 益田律子<sup>2)</sup>, 成田 年<sup>3)</sup>, 鈴木勉<sup>3)</sup> (1) 千葉北総病院, 2) 緩和ケアチーム, 3) 星薬科大学): ケタミンにより生じた幻覚様の精神症状がイフェンプロジルに変更することで消失した1症例. 日本緩和医療薬学会 (第2回), 2008. 10.
- 14) 渡邊暁洋<sup>1)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup>, 加藤あゆみ<sup>2)</sup>, 西澤健司<sup>3)</sup>, 東麻美子<sup>4)</sup>, 増田道雄<sup>5)</sup> (1) 千葉北総病院, 2) 付属病院, 3) 東邦大学大森医療センター, 4) 日本赤十字医療センター, 5) 日本災害医療薬剤師学会): 災害医療における薬剤師の活動: 日本災害医療薬剤師学会の活動: 第2報. 日本薬剤師学術学会 (第41回), 2008. 10.
- 15) 西脇龍広<sup>1)</sup>, 佐藤光利<sup>1)</sup>, 岸 大輔<sup>2)</sup>, 吉江文彦<sup>2)</sup>, 浜田康次<sup>2)</sup>, 福田恵子<sup>2)</sup>, 雪吹周生<sup>3)</sup>, 清野精彦<sup>3)</sup> (1) 東邦大学薬, 2) 千葉北総病院, 3) 循環器内科): 冠動脈疾患2次予防患者における血清脂質改善に有効な薬物療法の探索. 日本臨床薬理学会 (第29回), 2008. 12.
- 16) 渡邊暁洋<sup>1)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup>, 西澤健司<sup>2)</sup>, 近藤久禎<sup>3)</sup> (1) 千葉北総病院, 2) 東邦大学大森医療センター, 3) 日本医大救急医学): 大規模地震災害における医薬品備蓄供給体制の検討: 東海地震を想定して. 日本集団災害医学会総会・学術大会, 2009. 2.
- 17) 中山雄太<sup>1)</sup>, 野澤雄乃介<sup>1)</sup>, 星 憲司<sup>1)</sup>, 川上準子<sup>1)</sup>, 岩谷香寿美<sup>1)</sup>, 佐藤憲一<sup>1)</sup>, 浜田康次<sup>2)</sup>, 小川雅教<sup>3)</sup> (1) 東北薬科大学, 2) 千葉北総病院, 3) メディファーム): “副作用の足し算”情報作成による多剤処方時の副作用発現予測の試み: 人体マップ上への表示. 日本薬学会 (第129回), 2009. 3.
- 18) 岸 大輔<sup>1)</sup>, 吉江文彦<sup>1)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup>, 西脇龍広<sup>2)</sup>, 佐藤光利<sup>2)</sup>, 雪吹周生<sup>3)</sup>, 清野精彦<sup>3)</sup> (1) 千葉北総病院, 2) 東邦大学薬, 3) 循環器内科): 冠動脈疾患2次予防患者における適切な脂質低下療法の検討. 日本薬学会 (第129年回), 2009. 3.
- 19) 西脇龍広<sup>1)</sup>, 佐藤光利<sup>1)</sup>, 吉江文彦<sup>2)</sup>, 岸 大輔<sup>2)</sup>, 浜田康次<sup>2)</sup>, 福田恵子<sup>2)</sup>, 雪吹周生<sup>3)</sup>, 清野精彦<sup>3)</sup> (1) 東邦大学薬, 2) 千葉北総病院, 3) 循環器内科): エゼチミブスタチン併用とスタチン増量による脂質低下療法の比較. 日本薬学会 (第129年会), 2009. 3.
- 20) 下川陽子<sup>1)</sup>, 花澤由子<sup>1)</sup>, 伊藤義樹<sup>1)</sup>, 中山 健<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院): 医薬品の客観的評価の試みXII: 3種の薬剤を評価して. 千葉県病院薬剤師会会員研究発表会, 2009. 3.
- 21) 西脇龍広<sup>1)</sup>, 佐藤光利<sup>1)</sup>, 岸 大輔<sup>2)</sup>, 吉江文彦<sup>2)</sup>, 浜田康次<sup>2)</sup>, 福田恵子<sup>2)</sup>, 雪吹周生<sup>3)</sup>, 清野精彦<sup>3)</sup> (1) 東邦大学薬, 2) 千葉北総病院, 3) 循環器内科): 初回冠血行再建術後早期のLDL-コレステロール低下は心血管イベント再発の予防因子である. 日本循環器学会 (第73回), 2009. 3.

## [千葉北総病院放射線センター]

### 研究概要

当部門では診療用画像検査全般を取り扱うことから、それぞれの画像検査についての研究を進めている。

一般撮影部門ではCRの画像処理パラメータの条件に関する研究から医療被曝の軽減および画質の向上について各

診療科との連携において行っている。

MRI検査部門ではRaysumを用いた椎骨脳底動脈における血流および血管外観の3D Fusion Imaging また頸動脈狭窄症に対するMRIとIVUS-Virtual Histology OCTの検討，また転移性脳腫瘍における造影MRIの有用性などの研究を進めている。

RI検査部門ではSPECTにおける心筋に関する検討や循環器系の研究は継続的に進めていて，脳神経系についても行っている。放射線治療部門では

放射線治療計画におけるウェッジ使用時の線量分布と放射線治療計画装置による治療計画の精度について検討を行っている。

CT検査部門では3次元CTの信頼性の向上についての検討を継続して進めている。

## 研究業績

### 論文

(1) その他：

- 1) 富里謙一：膝関節撮影のDigital技術を応用した撮影systemの構築。日本放射線技術学会東京部会誌 2008；108：76-80.

### 学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 丸山智之：骨単純撮影技術と画像処理の考え方。葛飾フレッシュマンフォーラム（第1回），2008. 5.
- 2) 阿部雅志：一般撮影学（上肢について）。日本放射線技術学会東京部会 第60回技術セミナー，2008. 6.
- 3) 加藤丈司：椎骨脳底動脈の撮像法について。船橋MRセミナー（第14回），2008. 10.
- 4) 加藤丈司：転移性脳腫瘍のMRIについて。船橋MRセミナー（第15回），2009. 2.

(2) 一般講演：

- 1) 富里謙一，丸山智之，渡辺典男，仲田佳広，川村義彦：Development of an imaging technique for low-dose X-ray of the hip joint of children. -Effective digital image improving technique for reducing radiation exposure. 韓日合同学術大会2009（ソウル），2009. 2.
- 2) 丸山智之，富里謙一，渡辺典男，仲田佳広，川村義彦：サンプリング画素サイズの違いによる画像パラメータの検討。日本放射線技術学会総会（第64回），2008. 4.
- 3) 富里謙一，丸山智之，渡辺典男，仲田佳広，川村義彦：胸部側面像のDigital技術を応用した撮影Systemの構築。日本放射線技術学会総会学術大会（第64回），2008. 4.
- 4) 丸山智之：下肢の撮影技術。日本放射線技術学会東京部会 一般撮影セミナー（第2回），2008. 6.
- 5) 丸山智之：4病院に於ける胸部単純撮影 胸部写真の総合写真評価。日本医科大学 4病院合同フォーラム，2008. 9.
- 6) 加藤丈司，阿部雅志，仲田佳宏，結城聖子，岡田 進<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院 放射線科）：3D FIES-TAによる椎骨脳底動脈撮像。日本放射線技術学会秋期学術大会（第36回），2008. 10.
- 7) 加藤丈司，阿部雅志，原田耕次，池亀 敏，中島健志，永井淳史，河原崎昇，中條秀信<sup>1)</sup>，木島鉄仁<sup>1)</sup>，岡田進<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院 放射線科）：FIESTAとRaySumを用いた椎骨脳底動脈の3D Fusion Imaging. GE ユーザーズセミナー 千葉，2008. 10.
- 8) 阿部雅志，加藤丈司，水野正之，岡田 進<sup>1)</sup>，小林士朗<sup>2)</sup>，小南修史<sup>2)</sup>，渡辺 玲<sup>2)</sup>：頸動脈狭窄症に対するMRIとIVUS-Virtual Histologyの検討。日本放射線技術学会秋季学術大会（第36回），2008. 10.
- 9) 阿部雅志：肩関節疾患画像診断に対するMRIのアプローチ。日本放射線技術学会東京部会 第137回技術フォーラム，2008. 10.

- 10) 富里謙一, 丸山智之, 渡辺典男, 仲田佳広, 川村義彦: 膝関節撮影のDigital技術を応用した撮影systemの構築. 日本放射線技術学会秋季学術大会 (第36回), 2008. 10.
- 11) 丸山智之: 肩関節疾患に於ける画像診断の理解と撮影技術の周辺. 日本放射線技術学会東京部会技術フォーラム (第137回), 2008. 10.
- 12) 加藤丈司, 阿部雅志, 永井淳史, 池亀 敏, 中島健志, 岡田 進<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 放射線科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 脳神経外科): 椎骨脳底動脈における血流および血管外観の3D Fusion Imaging. 脳神経血管内治療学会総会 (第24回), 2008. 11.
- 13) 阿部雅志, 加藤丈司, 水野正之, 岡田 進<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 渡辺 玲<sup>2)</sup>: 頸動脈狭窄症に対するMRIとIVUS-Virtual Histology・OCTの検討. 脳神経血管内治療学会総会 (第24回), 2008. 11.
- 14) 水野正之, 高野雅充<sup>1)</sup>, 池亀 敏, 渡邊英樹, 原田耕次, 渡辺典男, 川村義彦, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 循環器内科): 光干渉断層法OCTにおけるキャリブレーション誤差の検討. 第19回日本心血管画像動態学会, 2009. 1.
- 15) 水野正之, 高野雅充<sup>1)</sup>, 三輪宗史, 中島健志, 渡邊英樹, 原田耕次, 川村義彦, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 循環器内科): 光干渉断層法OCTにおける輝度補正に関する検討. 第19回日本心血管画像動態学会, 2009. 1.
- 16) 加藤丈司, 阿部雅志, 菅沼一男, 水野正之, 菊池一郎, 河原崎昇, 桑子智之<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 放射線科): 椎骨脳底動脈における血管壁の3D Fusion MRA. 千葉MR研究会 (第37回), 2009. 2.
- 17) 水野正之, 高野雅充<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 循環器内科): 光干渉断層法OCTにおけるキャリブレーションの検討 30° 感覚360° 変化・屈曲点変化について. 第73回日本循環器学会総会学術大会, 2009. 3.

## [千葉北総病院歯科]

### 研究概要

当科では、歯科治療における炭酸ガスレーザーを用いた歯周軟組織や硬組織の有用性についての基礎的研究および臨床の効果についての研究。歯周組織再生療法への応用方法では、各種移植材を用いた再生療法についての基礎的研究および臨床の効果についての研究。交通外傷におけるインプラント治療への長期応用における臨床の効果についての研究。有病者における口腔衛生管理に対する臨床の効果について研究。II型糖尿病と歯周病との関連研究などを行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 研究報告書:

- 1) 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 柴崎浩一<sup>2)</sup>, 佐々木英夫<sup>3)</sup>, 鴨井久司<sup>4)</sup>, 鴨井久博<sup>5)</sup> (1) 日本歯科大学新潟生命歯学部歯周病学講座, <sup>2)</sup> 日本歯科大学新潟生命歯学部内科学講座, <sup>3)</sup> 医療法人博医会新潟こぼり病院糖尿病センター, <sup>4)</sup> 長岡日赤病院糖尿病内分泌センター, <sup>5)</sup> 日本医科大学千葉北総病院歯科): 2型糖尿病患者と歯周病との関連研究. 8020推進財団会誌 2009; 1 (8): 87-89.

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 南 貴子<sup>1)</sup>, 榎本慶子<sup>1)</sup>, 澤田麻子<sup>2)</sup>, 長弘謙樹<sup>2)</sup>, 草間雅之<sup>3)</sup>, 鴨井久一<sup>4)</sup>, 鴨井久博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千

葉北総病院歯科,<sup>2)</sup> 旭歯科医院,<sup>3)</sup> MK 歯科医院,<sup>4)</sup> 日本歯科大学): 栄養サポートチーム (Nutrition Support Team: NST) における歯科衛生士の役割について. 春季歯周病学会学術大会 (第51回), 2008. 4.

- 2) 鴨井久博<sup>1)</sup>, 小島武志<sup>2)</sup>, 小倉喜一郎<sup>3)</sup>, 兼坂ゆきの<sup>4)</sup>, 佐藤 聡<sup>5)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院歯科, 2) 小島歯科医院, 3) ホワイトデンタルクリニック, 4) 三本松歯科医院, 5) 日本歯科大学新潟生命歯学部歯周病学講座): 栄養サポートチーム (Nutrition Support Team: NST) における歯科の役割について: 日本医科大学千葉北総病院の場合. 2008年度ライフケア学会学術大会, 2008. 8.

## [千葉北総病院看護部]

### 研究概要

本年の院内での研究発表は, 10演題の発表が行われた. 内容的には, 各専門領域の臨床での看護の質の向上を目指すものであった. また7)~10) は, 四病院看護継続教育において一年間受講し, その成果として四病院と院内で研究発表を行った.

<テーマ>

- 1) 「エンゼルメイク導入後における看護師の意識の変化」
- 2) 「プラーク除去を強化した口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防」
- 3) 「発熱時の小児における安楽な冷罨法の方法についての検討」
- 4) 「看護学生が患者全体像を把握するための指導方法の検討」: 虚血性心疾患患者のマップを使用して
- 5) 「メンタルヘルス科入院患者における転倒のリスク」
- 6) 「チームカンファレンスを継続して開催していくための要因分析」
- 7) 「手術患者緊張期の年代別ニーズの分析」
- 8) 「重症患者搬送に同乗できなかった家族への集中治療室での看護のあり方を考える」: 交通外傷で搬送された重症患者1例が抱えていた入院当初の思いを知る
- 9) 「女性診療科がんにて外来化学療法を受けている患者の情緒的均衡状態」
- 10) 「血糖変動関連因子を視覚化するセルフモニタリングツールの有効性」

院外発表は19演題が行われた. 各学会へ積極的に参加発表した.

### 研究業績

#### 著 書

- 1) 渡辺郷美: [分担] 外来看護相談の実際. 外来看護最前線春号, 2008; pp16-23, 日総研.
- 2) 岩橋美奈子: [分担] 糖尿病網膜症・眼合併症クイズ解説. 糖尿病ケア, 2008; pp22-26, メディカ出版.
- 3) 菅原光子: [分担] 失禁患者のスキンケア. ナースのためのスキンケア実践ガイド (田中秀子), 2008; pp8-16, 照林社.
- 4) 菅原光子: [分担] 放射線療法を受けている患者のスキンケア. ナースのためのスキンケア実践ガイド (田中秀子), 2008; pp33-36, 照林社.
- 5) 菅原光子: [分担] 高齢者のスキンケア. ナースのためのスキンケア実践ガイド (田中秀子), 2008; pp47-49, 照林社.
- 6) 菅原光子: [分担] 失禁用品. ナースのためのスキンケア実践ガイド (田中秀子), 2008; pp81-86, 照林社.
- 7) 篠田朋美: [分担] 脳血管障害急性期からの“食べたい”を支えた看護. 臨牀看護, 2009; pp574-580, へるす出版.
- 8) 青木華映, 浅野亜由美, 福田美香, 佐野さやか, 久下谷好恵, 松本智永, 齋藤 歩, 佐々木優子, 矢萩英子,



水成隆之<sup>1)</sup> (1) 脳神経外科)：〔分担〕プラーク除去を強化した口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防. BRAIN-NURSING, 2009；pp73-76, メディカ出版.

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) 篠田朋美：NSTにおける摂食・嚥下障害看護認定看護師の役割. 千葉県NSTネットワーク (第13回), 2008. 5.
- 2) 青木華映, 福田美香, 浅野亜由美, 佐野さやか, 久下谷好恵, 松本智永：プラーク除去を強化した口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防. 日本意識障害学会 (第17回), 2008. 7.
- 3) 富永可奈, 伴 美幸, 吉田麻美, 福田弥生, 堤 悦子, 大木朋美：睡眠・覚醒障害に対する我々の取り組み：ミルクとはちみつ, アロマオイルを用いて. 日本意識障害学会 (第17回), 2008. 7.
- 4) 増渕美恵子：助産所における安全：緊急時に対応可能な医療機関との距離. 日本看護管理学会年次大会 (第12回), 2008. 8.
- 5) 菅原光子, 山崎恵美, 吉田祐美子, 秋元正宇<sup>1)</sup> (1) 形成外科)：褥瘡外来開設一年後の現状と課題. 日本褥瘡学会 (第10回), 2008. 8.
- 6) 花澤みどり, 菅原光子, 秋元正宇<sup>1)</sup> (1) 形成外科)：当院における褥瘡症例検討会の教育的効果. 日本褥瘡学会 (第10回), 2008. 8.
- 7) 渡辺郷美：手術体位. 日本手術医学会総会 (第30回), 2008. 9.
- 8) 丸山美穂子, 植草 恵：外来化学療法への運営における取り組みと今後の課題. 千葉県がん化学療法研究会 (第16回), 2008. 9.
- 9) 岩橋美奈子：糖尿病看護における継続看護の重要性. 千葉県印旛市郡糖尿病診療対策推進会議学術集会 (第1回), 2008. 9.
- 10) 篠田朋美：NSTを介した摂食嚥下訓練の普及その2. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会 (第14回), 2008. 9.
- 11) 平田貴和子：がん化学療法クリニカルパス作成支援への取り組み. 日本クリニカルパス学会学術集会 (第9回), 2008. 11.
- 12) 小須田三保：切迫流産で入院した妊婦が認知する看護者の関わりとその評価. 日本母性衛生学会総会 (第49回), 2008. 11.
- 13) 笹本真理：わたしたちの胃切除術クリニカルパス. 臨床外科学会 (第70回), 2008. 11.
- 14) 本庄貴志：アメリカにおけるHEMS. 日本航空医療学会総会 (第15回), 2008. 11.
- 15) 大津賀康章：鏡視下肩関節形成術における灌流液回収方法の検討. 千葉内視鏡外科研究会 (第14回), 2009. 1.
- 16) 平田貴和子：緩和医療における多職種との連携に関する意識調査：医師・看護師・薬剤師の「チーム医療」に対する意識. 日本がん看護学会学術集会 (第23回), 2009. 2.
- 17) 小針菜保, 松岡由紀：救命救急センター入院中の患者・家族の転院に対する思い：転院の説明を受けた時点から転院を前向きに受け入れられるまでの変容. 日本救急医学会関東地方会 (第59回), 2009. 2.
- 18) 平野知子：緩和ケアにおけるリンクナースの役割認識と今後の課題. 千葉県緩和ケア研究会 (第9回), 2009. 2.
- 19) 藤岡久恵, 増渕美恵子：就業前の総合実習の体験が新人看護師にどのような影響を及ぼしたのか. 日本医学看護学教育学会学術集会 (第19回), 2009. 3.



## 〔4〕 付 置 研 究 施 設

# 1. 老人病研究所

## [病理部門]

### 研究概要

加齢は血管にもっともよく反映され、かつて老化は大型血管の動脈硬化症として肉眼解剖的に観察できた。しかし現在では電子顕微鏡とレーザー技術により受容体や抗原性の発現調節が理解され、血液、組織関門の病理学を研究できるようになった。

血管内皮細胞病理学：

金恩京はハーバード大学との共同研究において、ヒト血管内皮細胞の promoter 遺伝子をマウスに発現させる技術を開発した。その動物で Robo4, ICAM2 と E selectin promoter 領域の活性化機序についてまとめた。この技術はヒト内皮細胞の promoter 発現機序を研究するうえで格好のモデルであり、将来大いに利用されるものと思われる。その他、共同研究が武蔵小杉病院の形成外科、消化器病センター、そして中央電子顕微鏡室などと継続中で各位の堅実な努力のまとめといえる。

社会連携研究：認知症街ぐるみ支援ネットワーク事業

社会連携事業は直接関係のない分野に見える。教授自身は2000年以来、(社)老人病研究会の役員に推され高齢社会において医療側から貢献を求められた。研究業務の傍ら、毎週木曜日の昼休みと週末を利用し市民を対象に、武蔵小杉病院と共同で座談会や公開講座を実践してきた。その結果2007年度に文科省補助金を獲得できた。

1. 同年暮れに、街ぐるみ認知症相談センターを設立し、共同研究者21名、臨床心理士3名、事務3名、市民の協力者5名で業務を運営中である。2008年度末までに市民700名ほどから相談をうけ、もの忘れチェック、DIMENSION脳波を実施してきた。必要に応じて臨床心理士による心理テストがなされ、結果は家族、かかりつけ医、包括支援センター、ケアマネジャーなどに送付してアドバイスとして利用してもらいつつある。
2. 武蔵小杉病院、川崎市、中原区、老人クラブなどと共催して10回の公開講座を開催した。
3. 12月21日には、有楽町の東京国際フォーラムにおいて国際フォーラムを開催した。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Sato S<sup>1)</sup>, Adachi A<sup>1)</sup>, Sasaki Y<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>1)</sup> (Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School) : Oolong tea extract (OTE) as a substitute for uranyl acetate in staining of ultra-thin sections. *J Microsc* 2008 ; 229 (1) : 17-20.
- 2) Ghazizadeh M, Sasaki Y<sup>1)</sup>, Oguro T<sup>1)</sup>, Sato S<sup>1)</sup>, Egawa S, Inoue K<sup>1)</sup>, Shimizu H, Kawanami O<sup>1)</sup> (Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School) : A novel technique for observing the internal ultrastructure of human chromosomes with known karyotype. *Microsc Microanal* 2008 ; 14 (4) : 357-361.
- 3) Okada Y<sup>1)</sup>, Jin E<sup>1,2)</sup>, Beeler D<sup>1)</sup>, Spokes K<sup>1)</sup>, Kitayama M<sup>1)</sup>, Funahashi N<sup>1)</sup>, Doi T<sup>1)</sup>, Yano K<sup>1)</sup>, Minami T<sup>1)</sup>, Janes L<sup>1)</sup>, Aird W<sup>1)</sup> (Center for Vascular Biology Research and Division of Molecular and Vascular Medicine, Beth Israel Deaconess medical Center, Boston, USA, <sup>2)</sup> Department of Molecular Pathology, Institute of Development and Aging Science, Nippon Medical School) : A GAPB-binding element in the Robo4 promoter is necessary for endothelial expression in vivo. *Blood* 2008 ; 15 (112 (6)) : 2336-2339.
- 4) Matsuoka T<sup>1)</sup>, Jin E, Tachihara A<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M, Nakajima A<sup>1)</sup>, Yoshino S<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>,

- Kawanami O (1) Department of Joint Disease and Rheumatism, Nippon Medical School) : Induction of pulmonary thromboembolism by neutrophil elastase in collagen induced arthritis mice and effect of recombinant human soluble thrombomodulin. *Pathobiology* 2008 ; 75 (5) : 295-305.
- 5) Shimizu H, Ghazizadeh M, Sato S<sup>1</sup>, Oguro T<sup>2</sup>, Kawanami O (1) Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School, (2) Division of Surgical Pathology, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School) : Interaction between  $\beta$ -amyloid protein and heparan sulfate proteoglycans from the cerebral capillary basement membrane in Alzheimer' s disease. *J Clin Neurosci* 2009 ; 16 (2) : 277-282.
- 6) Tosa M<sup>1</sup>, Murakami M<sup>1</sup>, Ghazizadeh M, Hyakusoku H<sup>1</sup> (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Musashi-kosugi Hospital, Nippon Medical School) : Chronological change of the maximum dimension of BCG-induced keloids. *Dermatol Surg* 2009 ; 35 (2) : 189-194.
- 7) Taniuchi N<sup>1, 2</sup>, Ghazizadeh M, Enomoto T<sup>3</sup>, Matsuda K<sup>4</sup>, Sato M<sup>5</sup>, Takizawa Y, Jin E, Egawa S, Azuma A<sup>1</sup>, Gemma A<sup>1</sup>, Kudoh S<sup>1</sup>, Kawanami O (1) Fourth Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, (2) Department of Molecular Pathology, Institute of Development and Aging Science, Nippon Medical School, (3) Department of Respiratory Medicine, Tokyo Metropolitan Hiroo Hospital, (4) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Yamanashi Prefectural Central Hospital, (5) Department of Radiology, Nippon medical School Musashi-kosugi Hospital) : Evaluation of fractional analysis of bronchoalveolar lavage combined with cellular morphological features. *Int J Med Sci* 2009 ; 6 (1) : 1-8.
- 8) 栗原雄司<sup>1</sup>, 山川達郎<sup>1</sup>, 豊田哲鎬<sup>2</sup>, 前島顕太郎<sup>2</sup>, 小泉正樹<sup>2</sup>, 坊 英樹<sup>2</sup>, 尾形昌男<sup>2</sup>, 渡辺昌則<sup>2</sup>, ガジザデモハマッド, 徳永 明<sup>2</sup> (1) 京浜総合病院外科, (2) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 巨大壁外発育を呈した肝型AFP産生胃癌の1例. *消化器科* 2008 ; 46 (5) : 596-600.
- 9) Su X<sup>1</sup>, Taniuchi N, Jin E, Fujiwara M, Zhang L, Ghazizadeh M, Tashimo H<sup>2</sup>, Yamashita N<sup>3</sup>, Ohta K<sup>2</sup>, Kawanami O (1) Institute of Respiratory Diseases, China Medical University, Shenyang, China , (2) Department of Medicine, Teikyo University School of Medicine, (3) Musashino University, Tokyo) : Spatial and phenotypic characterization of vascular remodeling in a mouse model of asthma. *Pathobiology* 2008 ; 75 (1) : 42-56.
- (2) 総説 :
- 1) Fujiwara M, Ghazizadeh M, Kawanami O : Dynamic and complex cell movement during formation of vascular structures with the fibrin bead assay. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (4) : 194-195.
- 2) Ghazizadeh M : Internal ultrastructure of human chromosomes. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (6) : 318-319.
- 3) 安達彰子<sup>1</sup>, 佐藤 茂<sup>1</sup>, 佐佐木喜広<sup>1</sup>, ガジザデモハマッド (1) 日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設) : デジタル画像のための透型電子顕微鏡観察法 : 電子染色について. *病理と臨床* 2008 ; 26 (7) : 749-753.
- 4) 金 恩京, ガジザデモハマッド, 川並汪一 : 急性肺傷害後の肺胞壁リモデリング : 胞毛細血管内皮細胞のダイナミックな動態. 侵襲と免疫 (*Surg Trauma & Immunol Responses*) 2008 ; 17 (2) : 34-36.

## 学会発表

### (1) 一般講演 :

- 1) Ghazizadeh M, Tosa M<sup>1</sup>, Shimizu H, Kawanami O (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科) : Autocrine IL-6 growth regulation in keloid fibroblasts. *Systems Biology of Disease Conference (Boston, USA), 2008. 6.*
- 2) Fujiwara M, Hasebe T<sup>1</sup>, Ghazizadeh M, Ishizuya-Oka A<sup>1</sup>, Kawanami O (1) Department of Biology, Nippon Medical School) : Overexpression of down syndrome critical region 1 represses vascular branching in *Xenopus laevis* Larva. *International Vascular Biology Meeting (15th) (Sydney, Aus), 2008. 6.*



- 3) Nomura K<sup>1,2)</sup>, Liu C<sup>3)</sup>, Kitamura S<sup>3)</sup>, Ghazizadeh M<sup>2)</sup>, Jin E<sup>2)</sup>, Fujiwara M<sup>2)</sup>, Shimizu H<sup>2)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>, Kawanami O<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Neurology, Nephrology and rheumatology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan. , <sup>2)</sup> Department of Molecular Pathology, Institute of Development and Aging Sciences, Nippon Medical School, Kawasaki, Japan. , <sup>3)</sup> Department of Internal Medicine, Musashi-Kosugi Hospital, Nippon Medical School, Kawasaki, Japan. ) : Evaluation of brain perfusion SPECT in patients with parkinsonism and dementia. International Conference on Alzheimer' s Disease 2008 (11th) (Chicago, USA), 2008. 7.
- 4) Nomura K<sup>1,2)</sup>, Katsumata T<sup>1)</sup>, Jin E<sup>2)</sup>, Ghazizadeh M<sup>2)</sup>, Fujiwara M<sup>2)</sup>, Shimizu H<sup>2)</sup>, Egawa S<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Ueda M<sup>1)</sup>, Katsura K<sup>1)</sup>, Kawanami O<sup>2)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Neurology, Nephrology and rheumatology, Nippon Medical School, Tokyo. , <sup>2)</sup> Department of Molecular Pathology, Institute of Development and Aging Sciences, Nippon Medical School. ) : Effects of long-term administration of HMG-CoA reductase inhibitor, atorvastatin, on microvessels in the brain of stroke-prone spontaneously hypertensive rats. Korean-Japanese Joint Stroke Conference (4th) (Fukuoka, Japan), 2008. 11.
- 5) Fujiwara M, Hasebe T<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M, Ishizuya-Oka A<sup>1)</sup>, Kawanami O ( <sup>1)</sup> Department of Biology, Nippon Medical School ) : Overexpression of regulator of calcineurin 1 represses vascular branching in *Xenopus laevis* Larvae. Korea-Japan Joint Symposium on Vascular Biology (6th) (Kanazawa, Japan), 2008. 12.
- 6) 清水 一, ガジザデモハammad, 川並汪一 : 線維芽細胞増殖性病変としてのケロイド発生機構についての解析. がんの転移と浸潤性増殖に関する研究会 (第19回), 2008. 6.
- 7) 野村浩一<sup>1,2)</sup>, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 有井一正<sup>1)</sup>, 上田雅之<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, <sup>2)</sup> 日本医科大学老人病研究所分子病理学部門 ) : 非典型的な画像所見を認めた脳表へモジデリン沈着症の1症例. マウント富士ワークショップ (第27回), 2008. 8.
- 8) 石井知香, 根本留美 : 街ぐるみ認知症相談センター開設. 日本心理臨床学会 (第27回), 2008. 9.
- 9) 石井知香, 根本留美, 若松直樹, 野村俊明, 北村 伸<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院内科 ) : 街ぐるみ認知症相談センター開設. 第9回日本認知症ケア学会大会, 2008. 9.
- 10) 安達彰子<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 佐佐木喜広<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>2)</sup>, 若松恭子<sup>2)</sup>, ガジザデモハammad<sup>1,3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup> 日本医科大学病理学第一講座, <sup>3)</sup> 日本医科大学老人病研究所病理学部門 ) : 腎生検で見られた尿細管内のBK様ウイルスの電顕観察. 日本臨床分子形態学会総会 (第40回), 2008. 10.
- 11) 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 安達彰子<sup>1)</sup>, 佐佐木喜広<sup>1)</sup>, ガジザデモハammad<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup> 日本医科大学老人病研究所分子病理学部門 ) : Diffuseおよびsegmental型のThin basement membrane腎症(TBMN)の電顕検索. 日本臨床分子形態学会総会 (第40回), 2008. 10.
- 12) 野村浩一<sup>1,2)</sup>, 勝又俊弥<sup>1)</sup>, 金 恩京<sup>2)</sup>, ガジザデモハammad<sup>2)</sup>, 藤原正和<sup>2)</sup>, 清水 一<sup>2)</sup>, 枝川聖子<sup>2)</sup>, 田中紀子<sup>1)</sup>, 上田雅之<sup>1)</sup>, 桂研一郎<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, <sup>2)</sup> 日本医科大学老人病研究所分子病理学部門 ) : SHR-SPに対するスタチン長期投与による脳保護効果の検討 : 脳微小血管における酸化ストレスマーカーの評価 . 日本脳循環代謝学会総会 (第20回), 2008. 11.
- 13) 劉 愛民<sup>1)</sup>, モハammadガジザデ<sup>1,2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 東 敬子<sup>3)</sup>, 片山博徳<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup> 日本医科大学老人病研究所分子病理学部門, <sup>3)</sup> 日本医科大学多摩永山病院病理検査室, <sup>4)</sup> 日本医科大学第二病理学教室 ) : 捺印細胞診材料から作製した電顕標本が確定診断に有用であった2症例. 日本臨床細胞学会秋季大会 (第47回), 2008. 11.
- 14) 野村浩一<sup>1,2)</sup>, 勝又俊弥<sup>1)</sup>, 田中紀子<sup>1)</sup>, 大鳥達雄<sup>1)</sup>, 西山 稜<sup>1)</sup>, 金 恩京<sup>2)</sup>, ガジザデモハammad<sup>2)</sup>, 藤原正和<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, <sup>2)</sup> 日本医科大学老人病研究所分子病理学部門 ) : ラットにおけるスタチン長期投与による脳保護効果の検討 : 脳微小血管における酸化ストレスマーカーの評価. 日本脳卒中学会総会 (第34回), 2009. 3.

## [生化学部門]

### 研究概要

老人病研究所生化学部門では老化や病気の原因を細胞の中から探っている。細胞内小器官のミトコンドリアはエネルギー産生だけでなく多くの病気や老化現象に関わっており、その機能を重視しながら病気の原因と対策を開発しようとする点が特色であり、「科学は実用されて光り輝く」を基本とし、研究が本当に社会に役に立つ為のしっかりとした様々な医学の基礎研究を進めている。

ミトコンドリアから発せられる電子と酸素が結びつくことで生まれる活性酸素がほとんどの生活習慣病や老化の原因となることは今や広く知られ、その中で遺伝子を破壊する「ヒドロキシルラジカル」などの活性酸素だけを選択的に排除する抗酸化物質が「水素」であることを当研究室で発見し、今年度もその水素の医療応用への可能性を追及中である。

水素分子を溶解した水を実験動物に飲ませることによる効果について6報の論文を発表し、当初予測したよりも低い水素分子濃度でも効果が見られた為、活性酸素種のスカベンジャーとしての働き以外の機能が推定された年でもあった。

2000年にミトコンドリアのアルデヒド脱水素酵素2の酵素活性欠損型がアルツハイマー病の危険因子である事を報告したが今年度、中国と韓国より同じ結果を示す論文発表があり、私たちの結果が裏づけられた。

ALDH2欠損マウスを認知症などの酸化ストレスモデルとして用いることの有効性も検証・明確化し、酸化ストレスだけで認知機能低下を引き起こすことを初めて示した。

本年度の発表論文は（含印刷中）19報であり、読売新聞では水素水による身体拘束での認知機能低下抑制の報道、アルツハイマー病の情報ネットワーク Alzforumでは加齢に伴う認知機能低下モデルマウスが紹介がされた。教授は「ミトコンドリア病患者家族の会」と（株）ブルー・マーキュリーの顧問、日本ミトコンドリア学会の理事長、また水素研究会を発足し理事長として活動した。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Nakashima-Kamimura N, Nishimaki K, Mori T<sup>1</sup>, Asoh S, Ohta S ( <sup>1</sup> Saitama Med. Ctr/Sch. ) : Prevention of chemotherapy-induced alopecia by the anti-death FNK protein. *Life Sci* 2008 ; 82 (3-4) : 218-225.
- 2) Asoh S, Ohta S : PTD-mediated delivery of anti-cell death proteins/peptides and therapeutic enzymes. *Adv Drug Deliv Rev* 2008 ; 60 (4-5) : 499-516.
- 3) Ohsawa I<sup>1</sup>, Nishimaki K, Murakami Y, Suzuki Y, Ishikawa M, Ohta S ( <sup>1</sup> Ctr. Mol. Hydrogen Med. ) : Age-Dependent Neurodegeneration Accompanying Memory Loss in Transgenic Mice Defective in Mitochondrial Aldehyde Dehydrogenase 2 Activity. *J Neurosci* 2008 ; 28 (24) : 6239-6249.
- 4) Katsura K<sup>1</sup>, Takahashi K, Asoh S, Watanabe M, Sakurazawa M<sup>1</sup>, Ohsawa I<sup>2</sup>, Mori T<sup>3</sup>, Igarashi H<sup>1</sup>, Ohkubo S<sup>1</sup>, Katayama Y<sup>1</sup>, Ohta S ( <sup>1</sup> Dept. Internal Med. , <sup>2</sup> Ctr. Mol. Hydrogen Med. , <sup>3</sup> Saitama Med. Ctr/Sch. ) : Combination therapy with transductive anti-death FNK protein and FK506 ameliorates brain damage with focal transient ischemia in rat . *J Neurochem* 2008 ; 106 (1) : 258-270.
- 5) Takahashi Y<sup>1</sup>, Iida K<sup>1</sup>, Takeno R<sup>1</sup>, Kitazawa R<sup>2</sup>, Kitazawa S<sup>2</sup>, Kitamura H<sup>3</sup>, Fujioka Y<sup>3</sup>, Yamada H<sup>4</sup>, Kanda F<sup>1</sup>, Ohta S, Nishimaki K, Fujimoto M<sup>2</sup>, Kondo T<sup>2</sup>, Iguchi G<sup>1</sup>, Takahashi K<sup>1</sup>, et al. ( <sup>1</sup> Div. Diabetes, Metabol. Endocrinol. , Dept. Internal Med. , Kobe Univ. Grad. Sch. Med. , <sup>2</sup> Div. Pathol. , Dept. Pathol. Microbiol. , Kobe Univ. Grad. Sch. Med. , <sup>3</sup> Div. Cardiovascular and Respiratory Med. , Dept. Internal Med. , Kobe Univ. Grad. Sch. Med. , <sup>4</sup> Div. Diabetes, Digestive, and Kidney Diseases, Dept. Clinical Molecular

- Med.) : Hepatic failure and enhanced oxidative stress in mitochondrial diabetes. *Endocr J* 2008 ; 55 (3) : 509-514.
- 6) Nishino N<sup>1</sup>, Tamori Y<sup>1</sup>, Tateya S<sup>1</sup>, Kawaguchi T<sup>1</sup>, Shibakusa T<sup>2</sup>, Mizunoya W<sup>2</sup>, Inoue K<sup>2</sup>, Kitazawa R<sup>3</sup>, Kitazawa S<sup>3</sup>, Matsuki Y<sup>4</sup>, Hiramatsu R<sup>4</sup>, Masubuchi S<sup>5</sup>, Omachi A<sup>6</sup>, Kimura K<sup>6</sup>, Saito M<sup>7</sup>, et al. ( <sup>1</sup> Dept Internal Med. , Kobe Univ. Grad. Sch. Med. , <sup>2</sup> Laboratory Nutrition Chem. , Div. Food Sci. Biotechnol. , Grad. Sch. Agriculture, Kyoto Univ. , <sup>3</sup> Dept. Biomed. Informatics, Kobe Univ. Grad. Sch. Med. , <sup>4</sup> Drug Res. Div. , Dainippon Sumitomo Pharma Co. Ltd. , <sup>5</sup> Dept. Brain Sci. , Kobe Univ. Grad. Sch. Med. , <sup>6</sup> Dept. Biomed. Sci. , Grad. Sch. Veterinary Med. , Hokkaido Univ. , <sup>7</sup> Dept. Nutrition, Sch. Nursing and Nutrition, Tenshi Coll. ) : FSP27 contributes to efficient energy storage in murine white adipocytes by promoting the formation of unilocular lipid droplets. *J Clin Invest* 2008 ; 118 (8) : 2808-2821.
- 7) Cai J<sup>1</sup>, Kang Z<sup>1</sup>, Liu W<sup>1</sup>, Luo X<sup>2</sup>, Qiang S<sup>1</sup>, Zhang J<sup>3</sup>, Ohta S, Sun X<sup>1</sup>, Xu W<sup>1</sup>, Tao H<sup>1</sup>, Li R<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Dept. Diving Med. , Faculty of Naval Med. , Sec. Military Med. Univ. , China, <sup>2</sup> Dept. pathol. , Qingdao Med. Univ. , China, <sup>3</sup> Dept. Neurosurgery, Loma Linda Univ. , California, USA ) : Hydrogen therapy reduces apoptosis in neonatal hypoxia-ischemia rat model. *Neurosci. Lett.* 2008 ; 441 (2) : 167-172.
- 8) Hayashida K<sup>1</sup>, Sano M<sup>2,3</sup>, Ohsawa I<sup>4</sup>, Shimura K<sup>5</sup>, Tamaki K<sup>3</sup>, Kimura K<sup>2</sup>, Endo J<sup>2</sup>, Katayama T<sup>2</sup>, Kawamura A<sup>2</sup>, Kohsaka S<sup>2</sup>, Makino S<sup>1</sup>, Ohta S ( <sup>1</sup> Div. Cardiol. , Dept. Internal Med. , Keio Univ. Sch. Med. , <sup>2</sup> Dept. Regenerative Med. Advanced cardiac Therapeutics, Dept. Internal Med. , Keio Univ. Sch. Med. , <sup>3</sup> Precusory Res. Embryonic Sci. Technol. (PRESTO) , Japan Sci. Technol. Agency, <sup>4</sup> Ctr. Mol. Hydrogen Med. , <sup>5</sup> Div. Geriatric Med. , Dept. Internal Med. , Keio Univ. Sch. Med. ) : Inhalation of hydrogen gas reduces infarct size in the rat model of myocardial ischemia-reperfusion injury. *Biochem Biophys Res Commun* 2008 ; 373 (1) : 30-35.
- 9) Watanabe M, Katsura K<sup>1</sup>, Ohsawa I<sup>2</sup>, Mizukoshi G<sup>1</sup>, Takahashi K<sup>1</sup>, Asoh S, Ohta S, Takahashi Y<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Div. Neurol. , Nephrol. , Rheumatol. , Dept. internal med. , <sup>2</sup> Ctr. Mol. Hydrogen Med. ) : Involvement of mitoK (ATP) channel in protective mechanisms of cerebral ischemic tolerance. *Brain Res* 2008 ; 1238 : 199-207.
- 10) Ohta Y<sup>1</sup>, Kamiya T<sup>1</sup>, Nagai M<sup>1</sup>, Nagata T<sup>1</sup>, Morimoto N<sup>1</sup>, Miyazaki K<sup>1</sup>, Murakami T<sup>1</sup>, Kurata T<sup>1</sup>, Takehisa Y<sup>1</sup>, Ikeda Y<sup>1</sup>, Asoh S, Ohta S, Abe K<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Dept. Neurol. , Grad. Sch. Med. Dentistry and Pharmaceutical Sci. , Okayama Univ. ) : Therapeutic benefits of intrathecal protein therapy in a mouse model of amyotrophic lateral sclerosis. *J Neurosci Res* 2008 ; 86 (13) : 3028-3037.
- 11) Kogiku M, Ohsawa I<sup>1</sup>, Matsumoto K<sup>2</sup>, Sugisaki Y<sup>3</sup>, Takahashi H<sup>4</sup>, Teramoto A<sup>5</sup>, Ohta S ( <sup>1</sup> Ctr. Mol. Hydrogen Med. , <sup>2</sup> Pathol. Musashikosugi Hosp. , <sup>3</sup> Dept. Pathol, <sup>4</sup> Neurosurgery Musashikosugi Hosp. , <sup>5</sup> Dept. Neurosurgery, Nagoya Univ. Grad. Sch. Med. ) : Prognosis of glioma patients by combined immunostaining for Ki-67 and epidermal growth factor receptor. *J Clin Neurosci* 2008 ; 15 (11) : 1198-1203.
- 12) Ohsawa I<sup>1</sup>, Nishimaki K, Yamagata K, Ishikawa M, Ohta S ( <sup>1</sup> Ctr. Mol. Hydrogen Med. ) : Consumption of hydrogen water prevents atherosclerosis in apolipoprotein E knockout mice. *Biochem Biophys Res Commun* 2008 ; 377 (4) : 1195-1198.
- 13) Fu Y<sup>1</sup>, Ito M<sup>1</sup>, Fujita Y<sup>2</sup>, Ito M<sup>2</sup>, Ichihara M<sup>3</sup>, Masuda A<sup>1</sup>, Suzuki Y<sup>1</sup>, Maesawa S<sup>4</sup>, Kajita Y<sup>5</sup>, Hirayama M<sup>6</sup>, Ohsawa I<sup>7</sup>, Ohta S, Ohno K<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Div. Neurogenetics, Ctr. Neurological Diseases and Cancer, Nagoya Univ. Grad. Sch. , <sup>2</sup> Dept. Longevity and Aging Res. , Gifu Internat. Inst. Biotechnol. , <sup>3</sup> Dept. Biomed. Sci. Coll. Life and Health Sci. Chubu Univ. , <sup>4</sup> Dept. Neurosurgery, Nagoya Centl. Hosp. , <sup>5</sup> Dept. Neurosurgery, Nagoya Univ. Grad. Sch. Med. , <sup>6</sup> Dept. Neurol. Nagoya Univ. Grad. Sch. Med. , Dept. Neurol., <sup>7</sup> Ctr. Mol. Hydrogen Med. ) : Molecular hydrogen is protective against 6-hydroxydopamine-induced nigros-

- triatial degeneration in a rat model of Parkinson's disease. *Neurosci Lett* 2009 ; 453 (2) : 81-85.
- 14) Nagata K, Nakashima-Kamimura N, Mikami T<sup>1</sup>), Ohsawa I<sup>2</sup>), Ohta S ( <sup>1</sup> Dept. Health and Sports Sci. , <sup>2</sup> Ctr. Mol. Hydrogen Med. ) : Consumption of molecular hydrogen prevents the stress-induced impairments in hippocampus-dependent learning tasks during chronic physical restraint in mice. *Neuropsychopharmacology* 2009 ; 34 (2) : 501-508.
  - 15) Nakashima-Kamimura N, Mori T<sup>1</sup>), Ohsawa I<sup>2</sup>), Asoh S, Ohta S ( <sup>1</sup> Inst. Med. Sci. , Saitama Med. Ctr/Sch., <sup>2</sup> Ctr. Mol. Hydrogen Med. ) : Molecular hydrogen alleviates nephrotoxicity induced by an anti-cancer drug cisplatin without compromising anti-tumor activity in mice. *Cancer Chemother Pharmacol.* 2009 ; 64 (4) : 753-761.
  - 16) Nakajima S, Ohsawa I<sup>1</sup>), Nagata K, Ohno M<sup>2</sup>), Ohta S, Ijichi T<sup>3</sup>), Mikami T<sup>4</sup>) ( <sup>1</sup> Ctr. Mol. Hydrogen Med, <sup>2</sup> Dept. Grad. Sch. Nippon Sport Sci. Univ. , <sup>3</sup> Cobi Co. Ltd. , <sup>4</sup> Dept. Health and Sports Sci. ) : Oral supplementation with melon superoxide dismutase extract promotes antioxidant defences in the brain and prevnts stress -induced impairment of spatial memory. *Behav Brain Res* 2009 ; 200 (1) : 15-21.
  - 17) Murakami Y, Ohsawa I<sup>1</sup>), Kasahara T<sup>2</sup>), Ohta S ( <sup>1</sup> Ctr. Mol. Hydrogen Med, <sup>2</sup> Dept. Biochem. Kyoritsu Univ. Pharmacy ) : Cytoprotective role of mitochondrial amyloid beta peptide-binding alcohol dehydrogenase against a cytotoxic aldehyde. *Neurobiol Aging* 2009 ; 30 (2) : 325-329.
  - 18) Harita Y<sup>1,2)</sup>, Kurihara K<sup>3)</sup>, Kosako H<sup>1)</sup>, Tezuka T<sup>4)</sup>, Sekine T<sup>2)</sup>, Igarashi T<sup>2)</sup>, Ohsawa I<sup>5)</sup>, Ohta S, Hattori S<sup>1,6)</sup> ( <sup>1</sup> Div. Cellular Proteomics (BML) , and Dept. Oncol. Inst. Med. Sci. , Univ. Tokyo, <sup>2</sup> Dept. Pediatrics, Grad. Sch. Med. Univ. Tokyo, <sup>3</sup> Dept. Anatomy, Juntendo Univ. Sch. Med. , <sup>4</sup> Dept. Oncol. Inst. Med. Sci. Univ. Tokyo, <sup>5</sup> Ctr. Mol. Hydrogen Med. , <sup>6</sup> Dept. Biochem. Sch. Pharmaceutical Sci. Kitasato Univ. ) : Phosphorylation of nephrin triggers Ca<sup>2+</sup> signaling by recruitment and activation of phospholipase C-gamma 1. *J Biol Chem* 2009 ; 284 (13) : 8951-8962.
  - 19) Nakachi N, Asoh S, Watanabe N<sup>1</sup>), Mori T<sup>2</sup>), Matsushta T<sup>3</sup>), Takai S<sup>3</sup>), Ohta S ( <sup>1</sup> Dept. Orthopaedic Surgery, Kyoto Kujo Hosp. , <sup>2</sup> Inst. Med. Sci. , Saitama Med. Ctr/Sch. , <sup>3</sup> Teikyo Univ. Sch. Med. ) : Transduction of Anti-Cell Death Protein FNK Suppresses Graft Degeneration After Autologous Cylindrical Osteochondral Transplantation. *J Histochemistry & Cytochemistry* 2009 ; 57 (3) : 197-206.

## 著 書

- 1) 鈴木吉彦, 太田成男 : [共著] ミトコンドリア遺伝子異常による糖尿病. 臨床雑誌「内科」特集糖尿病マネージメント up-to-date, 2008 ; pp83-88, 南江堂.
- 2) 村上弥生, 大澤郁朗<sup>1)</sup>, 太田成男 ( <sup>1</sup> 水素医学 ) : [共著] ミトコンドリアに局在 A β 結合アルコール脱水素酵素による酸化ストレスからの防御機構. 日本臨床増刊号「アルツハイマー病」, 2008 ; pp113-119, 日本臨床.
- 3) 大澤郁朗<sup>1)</sup>, 太田成男 ( <sup>1</sup> 水素医学 ) : [共著] 加齢. 日本臨床増刊号「アルツハイマー病」, 2008 ; pp169-174, 日本臨床.
- 4) 太田成男 : [自著] 水素ガスと水素水による新しい概念の抗酸化治療法と予防医学. 日本老年医学会雑誌, 2008 ; pp355-362, 日本老年医学会.
- 5) 太田成男, 大澤郁朗<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> 水素分子医学研究 ) : [自著] 水素分子による新しい概念の抗酸化治療法と予防医学. 実験医学, 2008 ; pp2060-2074, 羊土社.
- 6) 太田成男 : [共著] 吸入水素ガスが酸化ストレスを減少させて虚血/再灌流による肝障害を抑制. 医療ガス情報ファイル#7MedicalGases (NitrousOxide) Information Files/Number7, 2008 ; pp25-25, 住友精化.
- 7) 太田成男 : [自著] 水素水は体によいか? 悪いか?. アンチエイジング医学: 日本抗加齢医学会雑誌, 2008 ; pp57-64, メディカルレビュー.

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 太田成男：Overview of Medicine/health food and cancer. 日本ミトコンドリア学会年会（第8回），2008. 12.

### (2) 招待講演：

- 1) Ohta S：Hydrogen acts as a therapeutic and preventive antioxidant. Euromit 7/The seventh European Meeting on Mitochondrial Pathology (Stockholm Sweden), 2008. 6.
- 2) 太田成男：水素水の基礎と臨床応用の可能性. 日本抗加齢学会, 2009. 1.
- 3) 太田成男：ミトコンドリア病のエネルギー対謝異常の分子機構：ミトコンドリア病におけるタウリンの役割. 川崎医学会, 2009. 2.

### (3) 一般講演：

- 1) Nakachi N, Watanabe N<sup>1)</sup>, Asoh S, Ohta S, Matsushita T<sup>2)</sup>, Takai S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Orthopaedic Surgery, Kujo Hosp., <sup>2)</sup> Dept. Orthopaedics Teikyo Univ. Med. )：Novel FNK protein protects from cell death and enhances healing after autologous osteochondral transplantation. 54th Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society (San Francisco, CA, USA), 2008. 3.
- 2) Oharazawa H, Ohsawa I, Igarashi T, Ishikawa M, Fujii H, Suzuki H, Takahashi H, Ohta S：Protective Effect of Hydrogen in Retinal Ischemia-Reperfusion Injury. Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO) 2008 Annual Meeting (Fort Lauderdale, FL, USA), 2008. 4.
- 3) Asoh S, Ohta S：Potential Protein Transduction Therapy Using an Artificial Anti-Cell Death Protein, PTD-FNK. BIT' s 1st Annual Protein and Peptide Conference (Shenzhen China), 2008. 4.
- 4) Kamimura N, Ohta S：Three-dimensional analysis of mitochondrial structure in a HeLa cell by Ultra-High Voltage Electron Microscope. Euromit 7/The seventh European Meeting on Mitochondrial Pathology. (Stockholm Sweden), 2008. 6.
- 5) Ohsawa I<sup>1)</sup>, Nagata K, Takahashi K, Ishikawa M, Mikami T<sup>2)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup> Ctr. Mol. Hydrogen Med., <sup>2)</sup> Dept. Health and Sports Sci. )：Hydrogen acts as a therapeutic antioxidant in the brain ischemia and restores learning- and memory-deficits declined by physical restraint stress. Alzheimer' s Association International Conference on Alzheimer' s Disease 2008 (ICAD2008) (Chicago USA), 2008. 7.
- 6) Wolf MA, Asoh S, Ohsawa I<sup>1)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup> Ctr. Mol. Hydrogen Med. )：Mild uncoupling reduces oxidative stress in intact cells. The 15th European Bioenergetics Conference 2008 (ebec2008) (15回) (Dublin Ireland), 2008. 7.
- 7) Nakachi N, Asoh S, Watanabe N<sup>1)</sup>, Ohta S, Matsushita T<sup>2)</sup>, Takai S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Orthopaedic Surgery, Kujo Hosp., <sup>2)</sup> Dept. Orthopaedics Teikyo Univ. Med. )：Transaction of Anti-Apoptotic Protein, PTD-FNK, Suppresses Degeneration of Cylindrical Osteochondral Autograft. Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society (55) (Las Vegas, Nevada, USA), 2009. 2.
- 8) 仲地紀樹, 渡邊信佳<sup>1)</sup>, 麻生定光, 松下 隆<sup>2)</sup>, 高井信朗<sup>2)</sup>, 太田成男 ( <sup>1)</sup> 京都九条病院スポーツ整形外科, <sup>2)</sup> 帝京大学医学部医学科整形外科 )：細胞死抑制活性強化蛋白PTD-FNKによる移植軟骨細胞のアポトーシス抑制. 日本アポトーシス研究会 (第17回), 2008. 8.
- 9) 上村尚美, 森 隆<sup>1)</sup>, 大澤郁朗<sup>2)</sup>, 麻生定光, 太田成男 ( <sup>1)</sup> 埼玉医科大学, <sup>2)</sup> 水素医学 )：抗癌剤シスプラチンに誘導される腎臓でのアポトーシスは水素分子により抑制される. 日本アポトーシス研究会 (第17回), 2008. 8.
- 10) 仲地紀樹, 麻生定光, 渡邊信佳<sup>1)</sup>, 森 隆<sup>2)</sup>, 太田成男, 松下 隆<sup>3)</sup>, 高井信朗<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 京都九条病院 整形外科, <sup>2)</sup> 埼玉医科大学総合医療センター, <sup>3)</sup> 帝京大学医学部 整形外科教室 )：PTD-FNK蛋白による自家骨軟骨移植後のアポトーシス抑制. 日本整形外科学会基礎学術集会 (第23回), 2008. 10.



- 11) 大澤郁朗<sup>1)</sup>, 永田和史, 三上俊夫<sup>2)</sup>, 太田成男 ( <sup>1)</sup> 水素医学, <sup>2)</sup> スポーツ科学) : 酸化ストレスを伴う認知・記憶障害の水素分子による抑制. 日本認知症学会 (第27回), 2008. 10.
- 12) 張田 豊<sup>1)</sup>, 栗原秀剛<sup>2)</sup>, 関根孝司<sup>3)</sup>, 五十嵐隆<sup>3)</sup>, 大澤郁朗<sup>4)</sup>, 太田成男, 服部成介<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 東大医科研細胞ゲノム動態解析 (BML), <sup>2)</sup> 順天堂大学解剖学, <sup>3)</sup> 東大小児科, <sup>4)</sup> 水素医学, <sup>5)</sup> 北里大学薬学部) : 腎糸球体スリット膜分子Nephrinのチロシンリン酸化はPLC  $\gamma$  を介して細胞内Ca<sup>2+</sup>濃度を上昇させる. BMB2008日本分子生物学会 (第31回)・日本生化学会大会 (第81回) 合同大会, 2008. 12.
- 13) 西楨貴代美, 大澤郁朗<sup>1)</sup>, 永田和史, 太田成男 ( <sup>1)</sup> 水素医学) : 加齢に伴う認知・記憶障害の水素飽和水による抑制. BMB2008日本分子生物学会 (第31回)・日本生化学会大会 (第81回) 合同大会, 2008. 12.
- 14) 永田和史, 上村尚美, 三上俊夫<sup>1)</sup>, 大澤郁朗<sup>2)</sup>, 太田成男 ( <sup>1)</sup> スポーツ科学, <sup>2)</sup> 水素医学) : 水素分子摂取による身体拘束マウスの海馬依存的学習・記憶能力低下の抑制. BMB2008日本分子生物学会 (第31回)・日本生化学会大会 (第81回) 合同大会, 2008. 12.
- 15) 上村尚美, 森 隆<sup>1)</sup>, 大澤郁朗<sup>2)</sup>, 麻生定光, 太田成男 ( <sup>1)</sup> 埼玉医大総合医療センター, <sup>2)</sup> 水素医学) : 水素分子は抗癌剤シスプラチンの抗腫瘍効果を抑制することなく副作用である腎障害を軽減する. BMB2008日本分子生物学会 (第31回)・日本生化学会大会 (第81回) 合同大会, 2008. 12.
- 16) Wolf MA, 麻生定光, 大澤郁朗<sup>1)</sup>, 太田成男 ( <sup>1)</sup> 水素医学) : Mild uncoupling reduces oxidative stress in intact cells. BMB2008日本分子生物学会 (第31回)・第81回日本生化学会大会 (第81回) 合同大会, 2008. 12.
- 17) 佐藤佑一朗, 麻生定光, 北澤梨々, 大澤郁朗<sup>1)</sup>, 太田成男 ( <sup>1)</sup> 水素医学) : Bcl-xLのa5-a6ヘリックスのミトコンドリア膜への挿入活性の上昇がアポトーシス抑制活性を増強する. 日本ミトコンドリア学会年会 (第8回), 2008. 12.
- 18) Wolf MA, 大澤郁朗<sup>1)</sup>, 太田成男 ( <sup>1)</sup> 水素医学) : Mild uncouplingが生細胞内の酸化ストレスを減少させる. 日本ミトコンドリア学会年会 (第8回), 2008. 12.
- 19) 天羽 拓, 千原直人, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 杠葉 良, Wolf MA, 麻生定光, 太田成男 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院消化器センター) : 抗癌剤感受性を悪化させる癌細胞のミトコンドリアDNAのD-loop領域の変異. 日本ミトコンドリア学会年会 (第8回), 2008. 12.
- 20) 永田和史, 上村尚美, 三上俊夫<sup>1)</sup>, 大澤郁朗<sup>2)</sup>, 太田成男 ( <sup>1)</sup> スポーツ科学, <sup>2)</sup> 水素医学) : 水素分子摂取による身体拘束マウスの海馬依存的学習・記憶能力低下の抑制. 日本ミトコンドリア学会年会 (第8回), 2008. 12.

## [免疫部門]

### 研究概要

我々の研究は、癌抑制転写因子p53がどのような機構で癌化を抑制しているのかを解明することであり、昨年度の代表的な成果として以下のものがあげられる。

癌細胞がグルコースの代謝を主なエネルギー供給源として増殖していることは良く知られている。この代謝の変化によって、ミトコンドリアでの呼吸が無くても十分にエネルギーを得ることが出来、癌細胞の増殖に有利に働いていると考えられている。この現象は、ワールブルグ効果と呼ばれているが、その分子機構や癌化における役割については不明だった。我々はp53欠損細胞では転写因子NF- $\kappa$ Bの転写活性化能が恒常的に高いこと、p53欠損細胞は癌遺伝子rasを単独で発現させてもトランスフォームするが、NF- $\kappa$ Bの機能を抑制するとほとんどトランスフォームしなくなることを発見した。更に、p53欠損細胞ではNF- $\kappa$ BによってグルコーストランスポーターGLUT3の発現が上がっており、これによってグルコース代謝が亢進すること、p53欠損細胞がトランスフォームする際にGLUT3の発現上昇が重要であることを発見した。

また、p53欠損細胞でのグルコース代謝の上昇がNF- $\kappa$ Bの活性化を促すというポジティブフィードバック機構が存在することも明らかにした。更に、このポジティブフィードバック機構がNF- $\kappa$ B活性化因子IKK  $\beta$ のセリン733

のO-GlcNAc修飾によって制御されていることを見いだした。

我々の研究から、p53がNF- $\kappa$ Bの制御を介してグルコース代謝を調節していること、p53の機能が無くなるとグルコース代謝が上昇してエネルギーの産生が増えること、このことが癌化に重要であることが初めて示された。このことは、癌化の分子機構を考える上で極めて重要であり、更にこの機構を標的とした新しい癌の治療法の開発につながるのではないかと考えている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Kawauchi K, Araki K, Tobiume K, Tanaka N : p53 regulates glucose metabolism through an IKK-NF-kappaB pathway and inhibits cell transformation. *Nat. Cell. Biol.* 2008 ; 10 (5) : 611-618.
- 2) Kawauchi K, Araki K, Tobiume K, Tanaka N : Activated p53 induces NF-kappaB DNA binding but suppresses its transcriptional activation. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 2008 ; 372 (1) : 137-141.
- 3) Yagi S, Oda-Sato E, Uehara I, Asano Y, Wataru N, Takeshita T<sup>1)</sup>, Tanaka N ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : 5-Aza-2'-deoxycytidine restores proapoptotic function of p53 in cancer cells resistant to p53-induced apoptosis. *Cancer Invest.* 2008 ; 26 (7) : 680-688.
- 4) Araki K, Kawauchi K, Tanaka N : IKK/NF-kappaB signaling pathway inhibits cell-cycle progression by a novel Rb-independent suppression system for E2F transcription factors. *Oncogene* 2008 ; 27 (43) : 5696-5705.
- 5) Kawauchi K, Araki K, Tobiume K, Tanaka N : Loss of p53 enhances catalytic activity of IKKbeta through O-linked beta-N-acetyl glucosamine modification. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 2009 ; 106 (9) : 3431-3436.
- 6) Chen H<sup>1)</sup>, Tanaka N, Mitani Y<sup>1)</sup>, Oda E, Nozawa H<sup>1)</sup>, Chen J<sup>1)</sup>, Yanai H<sup>1)</sup>, Negishi H<sup>1)</sup>, Choi M<sup>1)</sup>, Iwasaki T<sup>2)</sup>, Yamamoto H<sup>3)</sup>, Taniguchi T<sup>1)</sup>, Takaoka A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Immunology, Graduate School of Medicine and Faculty of Medicine, University of Tokyo, <sup>2)</sup> Department of Veterinary Internal Medicine, Tokyo University of Agriculture and Technology, <sup>3)</sup> First Department of Internal Medicine, Sapporo Medical University) : Critical role for constitutive type I interferon signaling in the prevention of cellular transformation. *Cancer Sci.* 2009 ; 100 (3) : 449-456.

### 学会発表

#### (1) シンポジウム：

- 1) Tanaka N, Kawauchi K : p53 regulates glucose metabolism through an IKK-NF-kappaB pathway and inhibits cell transformation. (The role of NF-kB in cancer and its signaling as therapeutic target). JCA-AACR Joint Symposium (in 67th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association) (Nagoya, Japan), 2008. 10.

#### (2) 一般講演：

- 1) Kawauchi K, Araki K, Tobiume K, Tanaka N : p53 regulates glucose metabolism through IKK and NF-kappaB : An integral role in cell transformation. *Keystone Symposia-Stem cells, Cancer and Aging* (Singapore), 2008. 10.
- 2) 安藤 大, 川内敬子, 荒木啓吾, 飛梅 圭, 田中信之 : p53のIKK-NF- $\kappa$ B経路を介したグルコース代謝の制御による新規癌抑制機構. 第31回日本分子生物学会年会 第81回日本生化学会大会 合同年会, 2008. 12.
- 3) 中嶋 亘, 田中信之 : BH3-only因子によるアポトーシス誘導機構の解析. 第31回日本分子生物学会年会 第81回日本生化学会大会 合同年会, 2008. 12.
- 4) 小野寺恵吾, 川内敬子, 佐藤 (織田) 恵理, 上原郁野, 田中信之 : p53のネガティブレギュレーターとして機

能する p53 新規誘導遺伝子の同定. 第31回日本分子生物学会年会 第81回日本生化学会大会 合同年会, 2008. 12.

- 5) 阿部芳憲, 鈴木陽輔, 田中信之: 癌化に関わる新しい hedgehog 経路制御機構の解析. 第31回日本分子生物学会年会 第81回日本生化学会大会 合同年会, 2008. 12.

## [疫学部門]

### 研究概要

生体の個体としての機能とその制御機構の解明を目指し, ホルモンやGタンパクを対象として生理学的研究を行っている.

#### I. インスリン/IGF-1シグナリング

動物では, 栄養状態に応答して様々な組織中の物質代謝を変動し, 恒常性を維持する巧みな仕組みがある. 糖・タンパク代謝において重要なインスリン/IGF-1についても, それらの細胞内シグナル伝達系を変動させることによって, 栄養状態の変化に対応していることが考えられる. このシグナル伝達系のアウトプットは組織により, 細胞の種類により, 異なっていることも想定される. 私たちは, このインスリン/IGF-1の細胞内シグナル伝達系が, どのような栄養の環境でどのような変動をするのかを明確にし, 生体の恒常性維持にどのように寄与しているのかを検討している.

成長期のラットに対する低タンパク質給餌が, インスリンシグナルを増強することにより, 肝の糖新生を抑制し, 末梢組織の糖利用を増加させることが明らかとなった.

#### II. 成長ホルモン (GH) の分泌調節機構と生理作用

下垂体からのGH分泌パターンは超日リズムを形成するが, そのリズム形成機構については全く不明である. また, GHは末梢の細胞で諸種の生理作用を持つが, 詳細は十分に解明されていない. 研究の目的は, GH分泌における超日リズムの発現機構と意義を解明し, GHの生理作用を解明することにある. それによって, ホルモンの分泌・作用機序が明らかとなり, より生理的なホルモン補充療法を可能とする.

GHと小胞体ストレスとの関連を想定して検討をし, 小胞体ストレスを解消するメカニズムである unfolded protein response の枢軸となる転写因子 XBP1 の遺伝子発現がGHによって誘導されることを見いだした. スプライシングされた活性型の発現を認めたことから, GHの小胞体ストレス解消における意義を検討中である.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Toyoshima Y, Monson C<sup>2)</sup>, Duan C<sup>3)</sup>, Wu Y<sup>1)</sup>, Gao C<sup>2)</sup>, Yakar S<sup>1)</sup>, Sadler K<sup>2)</sup>, Leroith D<sup>1)</sup> (1) Dept. of Medicine, Mount Sinai Sch. Medicine, (2) Dept. of Medicine-Division of Liver Disease and Dept. of Developmental and Regenerative Biology, Mount Sinai School of Medicine, (3) Cellular, and Developmental Biology, Univ. Michigan): The role of insulin receptor signaling in zebrafish embryogenesis. *Endocrinology* 2008; 149: 5996-6005.
- 2) Toyoshima Y, Hakuno F<sup>1)</sup>, Kato H<sup>1)</sup>, Minami S, Takahashi S<sup>1)</sup> (1) Grad. Sch. Agriculture and Life Science, Univ. Tokyo): Hepatic insulin signals are enhanced in rats fed on low-protein diets, a model of IGF resistance. *Growth Horm IGF Res* 2008; 18: S23.
- 3) 高橋伸一郎<sup>1)</sup>, 豊島由香, 竹中麻子<sup>2)</sup>, 福嶋俊明<sup>1)</sup>, 伯野史彦<sup>1)</sup> (1) 東京大学大学院農学生命科学研究科応用動物科学, (2) 明治大学農学部農芸化学科): 成長ホルモン, インスリン様成長因子, インスリンの連携作用. *ホルモンと臨床* 2009.

## 学会発表

### 〔追加分〕

#### 追加分一般講演：

- 1) 勝股快仁<sup>1)</sup>, 豊島由香, 高橋伸一郎<sup>2)</sup>, 竹中麻子<sup>1)</sup> (1) 明大農学農芸化学, 2) 東大院農学生命科学応用動物科学)：低タンパク質食摂取が加齢動物のインスリン抵抗性におよぼす影響。2008年度日本農芸化学会, 2008. 3.
- 2) 小澤貴広<sup>1)</sup>, 親松亜実<sup>1)</sup>, 豊島由香, 伯野史彦<sup>2)</sup>, 高橋伸一郎<sup>2)</sup>, 竹中麻子<sup>1)</sup> (1) 明大農学農芸化学, 2) 東大院農学生命科学応用動物科学)：低タンパク質食摂取時の酸化ストレスとIGFBP-1遺伝子発現。2008年度日本農芸化学会, 2008. 3.

#### (1) 一般講演：

- 1) Tokita, R, Katsumata, H, Hirano, Y, Nakata, T, Minami S : Sexual dimorphism of the XBP1 gene expression in the rat liver depends on the sex differences of growth hormone secretory pattern. The 90th Annual Meeting of the Endocrine Society (San Francisco), 2008. 6.
- 2) Toyoshima Y, Tokita R, Hakuno F<sup>1)</sup>, Kato H<sup>1)</sup>, Minami S, Takahashi S<sup>1)</sup> (1) Grad. Sch. of Agriculture and Life Science, Univ. Tokyo) : Hepatic insulin signals are enhanced in rats fed on low-protein diets, a model of IGF resistance. 4th International Congress of the GRS and the IGF society (Genoa), 2008. 9.
- 3) 中田朋子, 勝又晴美, 時田玲子, 南 史朗 : 成長ホルモンによる XBP1 遺伝子の発現誘導についての検討. 第 81 回日本内分泌学会学術総会, 2008. 5.
- 4) 勝又晴美, 平野良隆, 中田朋子, 時田玲子, 南 史朗 : ラットの肝 XBP1 遺伝子発現の雌雄差は成長ホルモンの分泌パターンに依存する. 第 81 回日本内分泌学会学術総会, 2008. 5.
- 5) 浅野有香里<sup>1)</sup>, 俵 怜志<sup>1)</sup>, 木村久美, 竹中麻子<sup>1)</sup> (1) 明大農学部) : Wistar系ラット体内  $\alpha$ -トコフェロール動態の性差に関する研究. 第 62 回日本栄養・食糧学会大会, 2008. 5.
- 6) 勝股快仁<sup>1)</sup>, 豊島由香, 高橋伸一郎<sup>2)</sup>, 竹中麻子<sup>1)</sup> (1) 明大農学農芸化学, 2) 東大院農学生命科学応用動物科学) : 加齢動物のインスリン抵抗性と酸化ストレス. 2008 年度日本酸化ストレス学会, 2008. 6.
- 7) 岩本将人<sup>1)</sup>, 長谷川知子<sup>2)</sup>, 八木 孝<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 南 史朗 (1) 武蔵小杉病院内科, 2) いでんサポート・コンサルテーションオフィス) : Prader-Willi 症候群の成人例の下垂体ホルモン分泌能. 第 19 回臨床内分泌代謝 Update, 2009. 3.
- 8) 春原沙織<sup>1)</sup>, 南 史朗, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>2)</sup>, 中村慶春<sup>3)</sup> (1) 武蔵小杉病院内科, 2) 武蔵小杉病院消化器病センター, 3) 消化器外科) : 術中超音波で局在診断し腹腔鏡下手術したインスリンノーマの 1 例. 第 19 回臨床内分泌代謝 Update, 2009. 3.

## 〔水素分子医学研究開発拠点〕

### 研究概要

抗酸化による予防・治療研究の為、「水素分子医学研究開発拠点」が（株）ブルー・マーキュリーによる寄付研究として2008年4月、老人病研究所に設置されました。本研究所生化学部門講師の大澤郁朗が4月に教授として赴任し、7月には大阪大学医学部助教の町出 充が講師として赴任しました。陣容は教授1名、講師1名、研究補助1名と小さなものですが、学内外の研究者、医療従事者と共同研究を進め、多様な課題に取り組んでいます。

本年度は以下の研究成果を報告しました。

水素ガスの吸引では、慶応大学医学部林田博士を中心としたラットを用いた研究により心臓の虚血再還流傷害を抑制できることを明らかにし、臨床応用への可能性が示すことができました。さらに水素ガスを飽和濃度近く溶かした水（水素水）を用意し、これを動物に投与することで水素分子の効果を検証した研究では、動脈硬化症のモデルとし

て知られる APOE ノックアウトマウスに水素水を投与したところ大動脈のアテロームが減少すること、また本研究所生化学部門上村助教を中心とした研究で抗がん剤シスプラチンの副作用である腎毒性を水素分子が抑制することを示すことができました。

水素水の特筆すべき効果としては、中枢神経系での顕著な疾患改善が挙げられます。まず、本研究所生化学部門大学院生永田を中心とした研究で、拘束により身体的ストレスを与えたマウスの学習・記憶能力低下を水素水が予防することができました。

さらに名古屋大学医学部大野教授のグループを中心とした研究で、6-ヒドロキシドーパミンを投与したパーキンソン病モデルラットに水素水を摂取させたところ、メタンフェタミン投与による行動異常が抑制され、黒質線条体の変性が緩和されました。これらの結果は、水素分子が多様な疾患を改善する可能性を示しており、特にパーキンソン病と関連する神経変性疾患については早期の臨床研究が期待されています。

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) Suzuki Y<sup>1)</sup>, Funakoshi H<sup>1)</sup>, Machide M, Matsumoto K<sup>1,2)</sup>, Nakamura T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Divi. Mol. Regenerative Med., Dept. Biochem. Mol. Biol., Osaka Univ. Grad. Sch. Med., <sup>2)</sup> Divi. Tumor Dynamics and Regulation, Cancer Res. Inst., Kanazawa Univ. ) : Regulation of cell migration and cytokine production by HGF-like protein (HLP) / macrophage stimulating protein (MSP) in primary microglia. *Biomed Res* 2008 ; 29 (2) : 77-84.
- 2) Wolf MA<sup>1)</sup>, Asoh S<sup>1)</sup>, Ohsawa I, Ohta S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Biochem. Cell Biol. ) : Imaging mitochondrial redox environment and oxidative stress using a redox-sensitive fluorescent protein. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (2) : 66-67.
- 3) Ohsawa I, Nishimaki K<sup>1)</sup>, Murakami Y<sup>1)</sup>, Suzuki Y<sup>1)</sup>, Ishikawa M<sup>1)</sup>, Ohta S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Biochem. Cell Biol. ) : Age-dependent neurodegeneration accompanying memory loss in transgenic mice defective in mitochondrial ALDH2 activity. *J Neurosci* 2008 ; 28 (24) : 6239-6249.
- 4) Katsura K<sup>1)</sup>, Takahashi K<sup>1)</sup>, Asoh S<sup>2)</sup>, Watanabe M<sup>2)</sup>, Sakurazawa M<sup>1)</sup>, Ohsawa I, Mori T<sup>3)</sup>, Igarashi H<sup>1)</sup>, Ohkubo S<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>, Ohta S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Internal Med., <sup>2)</sup> Dept. Biochem. Cell Biol., <sup>3)</sup> Saitama Med. Ctr. /Sch. ) : Combination therapy with transductive anti-death FKN protein and FK506 ameliorates brain damage with focal transient ischemia in rat. *J Neurochem* 2008 ; 106 (1) : 258-270.
- 5) Hayashida K<sup>1)</sup>, Sano M<sup>2,3)</sup>, Ohsawa I, Shinmura K<sup>4)</sup>, Tamaki K<sup>4)</sup>, Kimura K<sup>1)</sup>, Endo J<sup>1)</sup>, Katayama T<sup>1)</sup>, Kawamura A<sup>1)</sup>, Kohsaka S<sup>1)</sup>, Ohta S<sup>5)</sup>, Ogawa S<sup>1)</sup>, Fukuda K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Div. Cardiol., Keio Univ. Sch. Med., <sup>2)</sup> Dept. Regenerative Med. Advanced Cardiac Therapeutics, Keio Univ. Sch. Med., <sup>3)</sup> Precursory Res. Embryonic Sci. Technol. (PRESTO), Japan Sci. Technol. Agency, <sup>4)</sup> Div. Geriatric Med., Dept. Internal Med., Keio Univ. Sch. Med., <sup>5)</sup> Dept. Biochem. Cell Biol. ) : Inhalation of hydrogen gas reduces infarct size in the rat model of myocardial ischemia-reperfusion injury. *Biochem Biophys Res Commun* 2008 ; 373 (1) : 30-35.
- 6) Watanabe M<sup>1)</sup>, Katsura K<sup>1)</sup>, Ohsawa I, Mizukoshi G<sup>1)</sup>, Takahashi K<sup>1)</sup>, Asoh S<sup>2)</sup>, Ohta S<sup>2)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Internal Med., <sup>2)</sup> Dept. Biochem. Cell Biol. ) : Involvement of mitoK (ATP) channel in protective mechanisms of cerebral ischemic tolerance. *Brain Res* 2008 ; 1238 : 199-207.
- 7) Kogiku M<sup>1)</sup>, Ohsawa I, Matsumoto K<sup>2)</sup>, Sugisaki Y<sup>3)</sup>, Takahashi H<sup>4)</sup>, Teramoto A<sup>5)</sup>, Ohta S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Biochem. Cell Biol., <sup>2)</sup> Pathol., Musashikosugi Hosp., <sup>3)</sup> Dept. Pathol., <sup>4)</sup> Neurosurgery, Musashikosugi Hosp., <sup>5)</sup> Dept. Neurosurgery, Nagoya Univ. Grad. Sch. Med. ) : Prognosis of glioma patients by combined immunostaining for survivin, Ki-67 and epidermal growth factor receptor. *J Clin Neurosci* 2008 ; 15 (11) :



1198-1203.

- 8) Ohsawa I, Nishimaki K<sup>1)</sup>, Yamagata K<sup>1)</sup>, Ishikawa M<sup>1)</sup>, Ohta S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Biochem. Cell Biol. ) : Consumption of hydrogen water prevents atherosclerosis in apolipoprotein E knockout mice. *Biochem Biophys Res Commun* 2008 ; 377 (4) : 1195-1198.
- 9) Nagata K<sup>1)</sup>, Nakashima-Kamimura N<sup>1)</sup>, Mikami T<sup>2)</sup>, Ohsawa I, Ohta S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Biochem. Cell Biol. , <sup>2)</sup> Dept. Health and Sports Sci. ) : Consumption of molecular hydrogen prevents the stress-induced impairments in hippocampus-dependent learning tasks during chronic physical restraint in mice. *Neuropsychopharmacology* 2009 ; 34 (2) : 501-508.
- 10) Nakashima-Kamimura N<sup>1)</sup>, Mori T<sup>2)</sup>, Ohsawa I, Asoh S<sup>1)</sup>, Ohta S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Biol. Cell Biol. , <sup>2)</sup> Saitama Med. Ctr/Sch. ) : Molecular hydrogen alleviates nephrotoxicity induced by an anti-cancer drug cisplatin without compromising anti-tumor activity in mice. *Cancer Chemother Pharmacol* 2009 ; 64 (4) : 753-761.
- 11) Fu Y<sup>1)</sup>, Ito M<sup>1)</sup>, Fujita Y<sup>2)</sup>, Ito M<sup>2)</sup>, Ichihara M<sup>3)</sup>, Masuda A<sup>1)</sup>, Suzuki Y<sup>1)</sup>, Maesawa S<sup>4)</sup>, Kajita Y<sup>5)</sup>, Hirayama M<sup>6)</sup>, Ohsawa I, Ohta S<sup>7)</sup>, Ohno K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Div. Neurogenetics, Ctr. Neurological Diseases and Cancer, Nagoya Univ. Grad. Sch. , <sup>2)</sup> Dept. Longevity and Aging Res. , Gifu Internat. Inst. Biotechnol. , <sup>3)</sup> Dept. Biomed. Sci. Coll. Life and Health Sci. Chubu Univ. , <sup>4)</sup> Dept. Neurosurgery, Nagoya Centl. Hosp. , <sup>5)</sup> Dept. Neurosurgery, Nagoya Univ. Grad. Sch. Med. , <sup>6)</sup> Dept. Neurol. Nagoya Univ. Grad. Sch. Med. , <sup>7)</sup> Dept. Biochem. Cell Biol. ) : Molecular hydrogen is protective against 6-hydroxydopamine-induced nigrostriatal degeneration in a rat model of Parkinson' s disease. *Neurosci Lett* 2009 ; 453 (2) : 81-85.
- 12) Murakami Y<sup>1)</sup>, Ohsawa I, Kasahara T<sup>2)</sup>, Ohta S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Biochem. Cell Biol. , <sup>2)</sup> Dept. Biochem. , Kyoritsu Univ. Pharmacy ) : Cytoprotective role of mitochondrial amyloid  $\beta$  peptide-binding alcohol dehydrogenase against a cytotoxic aldehyde. *Neurobiol Aging* 2009 ; 30 (2) : 325-329.
- 13) Harita Y<sup>1,2)</sup>, Kurihara H<sup>3)</sup>, Kosako H<sup>1)</sup>, Tezuka T<sup>4)</sup>, Sekine T<sup>2)</sup>, Igarashi T<sup>2)</sup>, Ohsawa I, Ohta S<sup>5)</sup>, Hattori S<sup>1,6)</sup> ( <sup>1)</sup> Div. Cellular Proteomics (BML) and Dept. Oncol. , Inst. Med. Sci. , Univ. Tokyo, <sup>2)</sup> Dept. Pediatrics, Grad. Sch. Med. The Univ. Tokyo, <sup>3)</sup> Dept. Anatomy, Juntendo Univ. Sch. Med. , <sup>4)</sup> Dept. Oncol. , Inst. Med. Sci. , Univ. Tokyo, <sup>5)</sup> Dep. Biochem. Cell Biol. , <sup>6)</sup> Dept. Biochem. , Sch. Pharmaceutical Sci. , Kitasato Univ. ) : Phosphorylation of Nephhrin Triggers Ca<sup>2+</sup> Signaling by Recruitment and Activation of Phospholipase C- $\gamma$ 1. *J Biol Chem* 2009 ; 284 (13) : 8951-8962.

## 著 書

- 1) 大澤郁朗, 太田成男<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 生化学 ) : [共著] 加 齢. アルツハイマー病, 2008 ; pp169-174, 日本臨床.
- 2) 村上弥生<sup>1)</sup>, 大澤郁朗, 太田成男<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 生化学 ) : [共著] ミトコンドリアに局在する A  $\beta$  結合アルコール脱水素酵素による酸化ストレスからの防御機構. アルツハイマー病, 2008 ; pp113-119, 日本臨床.
- 3) 太田成男<sup>1)</sup>, 大澤郁朗 ( <sup>1)</sup> 生化学 ) : [共著] 水素分子による新しい概念の抗酸化治療法と予防医学. 実験医学, 2008 ; pp2060-2074, 羊土社.

## 学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Oharazawa H, Ohsawa I, Igarashi T<sup>1)</sup>, Ishikawa M<sup>2)</sup>, Fujii H<sup>1)</sup>, Siziki H<sup>3)</sup>, Takahashi H<sup>3)</sup>, Ohta S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Ophthalmol. Musashikosugi Hosp. , <sup>2)</sup> Dept. Biochem. Cell Biol. , <sup>3)</sup> Dept. Ophthalmol. ) : Protective Effect of Hydrogen in Retinal Ischemia-Reperfusion Injury. Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO) 2008 Annual Meeting (Fort Lauderdale, FL, USA), 2008. 4.
- 2) Ohsawa I, Nagata K<sup>1)</sup>, Takahashi K<sup>1)</sup>, Ishikawa M<sup>1)</sup>, Mikami T<sup>2)</sup>, Ohta S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Biochem. Cell Biol. ,

- <sup>2)</sup> Dept. Health and Sports Sci. ) : Hydrogen acts as a therapeutic antioxidant in the brain ischemia and restores learning- and memory-deficits declined by physical restraint stress. International Conference on Alzheimer' s Disease (ICAD) 2008. (Chicago, IL, USA), 2008. 7.
- 3) Wolf MA<sup>1)</sup>, Asoh S<sup>1)</sup>, Ohsawa I, Ohta S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Dept. Biochem. Cell Biol. ) : Mild uncoupling reduces oxidative stress in intact cells. 日本分子生物学会 (第31回) ・日本生化学会大会 (第81回) 合同大会, 2008. 12.
- 4) 上村尚美<sup>1)</sup>, 森 隆<sup>2)</sup>, 大澤郁朗, 麻生定光<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 生化学, <sup>2)</sup> 埼玉医科大学総合医療センター) : 抗癌剤シスプラチンに誘導される腎臓でのアポトーシスは水素分子により抑制される. 日本アポトーシス研究会 (第17回), 2008. 8.
- 5) 大澤郁朗, 永田和史<sup>1)</sup>, 三上俊夫<sup>2)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 生化学, <sup>2)</sup> スポーツ医学) : 酸化ストレスを伴う認知・記憶障害の水素分子による抑制. 日本認知症学会 (第27回), 2008. 10.
- 6) 永田和史<sup>1)</sup>, 上村尚美<sup>1)</sup>, 三上俊夫<sup>2)</sup>, 大澤郁朗, 太田成男<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 生化学, <sup>2)</sup> スポーツ医学) : 水素分子摂取による身体拘束マウスの海馬依存的学習・記憶能力低下の抑制. 日本分子生物学会 (第31回) ・日本生化学会大会 (第81回) 合同大会, 2008. 12.
- 7) 西楨貴代美<sup>1)</sup>, 大澤郁朗, 永田和史<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 生化学) : 加齢に伴う認知・記憶障害の水素飽和水による抑制. 日本分子生物学会 (第31回) ・日本生化学会大会 (第81回) 合同大会, 2008. 12.
- 8) 上村尚美<sup>1)</sup>, 森 隆<sup>2)</sup>, 大澤郁朗, 麻生定光<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 生化学, <sup>2)</sup> 埼玉医科大学総合医療センター) : 水素分子は抗癌剤シスプラチンの抗腫瘍効果を抑制することなく副作用である腎障害を軽減する. 日本分子生物学会 (第31回) ・日本生化学会大会 (第81回) 合同大会, 2008. 12.
- 9) 張田 豊<sup>1)</sup>, 栗原秀剛<sup>2)</sup>, 関根孝司<sup>3)</sup>, 五十嵐隆<sup>3)</sup>, 大澤郁朗, 太田成男<sup>4)</sup>, 服部成介<sup>5)</sup> (<sup>1)</sup> 東大医科研細胞ゲノム動態解析 (BML), <sup>2)</sup> 順天堂大学解剖学, <sup>3)</sup> 東大小児科, <sup>4)</sup> 生化学, <sup>5)</sup> 北里大学薬学部) : 腎糸球体スリット膜分子Nephrinのチロシンリン酸化はPLC  $\gamma$  を介して細胞内Ca<sup>2+</sup>濃度を上昇させる. 日本分子生物学会 (第31回) ・日本生化学会大会 (第81回) 合同大会, 2008. 12.
- 10) 佐藤佑一郎<sup>1)</sup>, 麻生定光<sup>1)</sup>, 北澤梨々<sup>1)</sup>, 大澤郁朗, 太田成男<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 生化学) : Bcl-xLのa5-a6ヘリックスのミトコンドリア膜への挿入活性の上昇がアポトーシス抑制活性を増強する. 日本ミトコンドリア学会 (第8回), 2008. 12.
- 11) Wolf MA<sup>1)</sup>, 大澤郁朗, 太田成男<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 生化学) : Mild uncouplingが生細胞内の酸化ストレスを減少させる. 日本ミトコンドリア学会 (第8回), 2008. 12.
- 12) 永田和史<sup>1)</sup>, 上村尚美<sup>1)</sup>, 三上俊夫<sup>2)</sup>, 大澤郁朗, 太田成男<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 生化学, <sup>2)</sup> スポーツ医学) : 水素分子摂取による身体拘束マウスの海馬依存的学習・記憶能力低下の抑制. 日本ミトコンドリア学会 (第8回), 2008. 12.

# 1. 教育推進室

## 研究概要

教育推進室は、平成14年4月発足以来7年が経過し、本学における医学教育の改革、拡充、充実とともにその研究および医師国試対策の実務等、業務内容は拡大し多岐にわたっている。

平成20年度は、Faculty Development (FD) の一環として、第5回新任・昇任教員のためのFDワークショップ、第16回医学教育のためのFDワークショップを開催した。

教育推進室では、定例教育推進室会議、授業評価委員会、クリニカル・シミュレーション・ラボ (C. S. Lab.) 運営委員会、模擬患者養成委員会を主催し、また医学英語推進委員会、臨床配属運営委員会及び医史学教育研究会を補佐し幅広い教育活動を展開している。

学生による授業評価は、平成20年度からの携帯電話による授業評価を本格施行し、授業評価の目的・対象を明確にした上で、新たな実施方法の検討、授業評価報告書の発行等を行った。

開設後4年目を迎えたC. S. Lab. では、新入生へのC. S. Lab. オリエンテーションまた4年生の基本臨床実習コースに「C. S. Lab. における臨床技能実習」を導入し、臨床実習に入る学生の臨床技能の習得及び評価に努めた。そして卒業前のAdvanced OSCEにも診察・手技課題を取り入れた。また臨床研修医オリエンテーションC. S. Lab. 講習会を行なった。次に、本年も本学独自の模擬患者を養成し、基本臨床実習コースにおける「症候から考える」、「総合病態を考える」、OSCE、卒業前Advanced OSCEに加えて、新入生の医療面接、研修医オリエンテーション、教員のFDワークショップ等にも導入し臨床医学教育への活用を実行した。医学英語推進委員会、臨床配属運営委員会を通じ、本学の医学英語教育の普及・整備、学生の臨床研究への参加に協力した。なお、SP養成委員会は、平成20年度の栄えある日本医科大学賞（教育部門）を受賞した。

## 研究業績

### 論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Aso R, Yoshimura A, Shimura T, Takayanagi K<sup>1)</sup>, Iino Y<sup>2)</sup>, Kobayashi Y<sup>2)</sup>, Seino Y<sup>2)</sup>, Hidaka H<sup>3)</sup> (1) Department of Health Service Administration, 2) Internal Medicine, 3) Committee for the Recruitment and Training of Simulated Patients) : Special Training Course for Simulated Patients Who Participated in the Advanced OSCE at Nippon Medical School. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (1) : 46-47.

追加分総説：

- 1) 阿曾亮子：第75回日本医科大学医学会優秀演題賞受賞 日本医科大学のAdvanced OSCE全員参加トライアルのためのSP養成の取組み. View 2007 ; 114 : 6-6.
- 2) 志村俊郎：日本医科大学が平成22年に第42回日本医学教育学会大会を主催. View 2007 ; 115 : 12-12.

(1) 原著：

- 1) Yoshimura A, Shimura T, Aso R, Adachi K<sup>1)</sup>, Kim T<sup>1)</sup>, Morimoto T<sup>1)</sup>, Akira S<sup>1)</sup>, Nitta T<sup>1)</sup>, Takaoka M<sup>1)</sup>, Takehara N<sup>1)</sup>, Hayasaka Y<sup>1)</sup> (1) Working Committee of Clinical Simulation Laboratory) : A Training Session in a Clinical Simulation Laboratory for the Acquisition of Clinical Skills by Newly-Recruited Medical Interns. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (6) : 361-363.
- 2) Nomura T<sup>1)</sup>, Miyashita M<sup>1)</sup>, Shrestha S<sup>1)</sup>, Makino H<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Aso R, Yoshimura A, Shimura T,

Akira S<sup>2</sup>, Tajiri T<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Dept Surgery, <sup>2</sup> Dept Gynecology ) : Can interview prior to laparoscopic simulator training predict a trainee' s skills?. J Surg Educ 2008 ; 65 (5) : 335-339.

- 3) Miyanaga A<sup>1</sup>, Gemma A<sup>1</sup>, Ando M<sup>1</sup>, Kosaihiro S<sup>1</sup>, Noro R<sup>1</sup>, Minegishi Y<sup>1</sup>, Kataoka K<sup>1</sup>, Nara M<sup>1</sup>, Okano T<sup>1</sup>, Miyazawa H<sup>1</sup>, Tanaka T<sup>1</sup>, Yoshimura A, Kobayashi K<sup>1</sup>, Iwanami H<sup>1</sup>, Hagiwara K<sup>1</sup>, et al. ( <sup>1</sup> Dept Internal Medicine ) : E-cadherin expression and epidermal growth factor receptor mutation status predict outcome in non-small cell lung cancer patients treated with gefitinib. Oncol Rep 2008 ; 19 (2) : 377-383.
- 4) Miyanaga A<sup>1</sup>, Gemma A<sup>1</sup>, Noro R<sup>1</sup>, Kataoka K<sup>1</sup>, Matsuda K<sup>1</sup>, Nara M<sup>1</sup>, Okano T<sup>1</sup>, Seike M<sup>1</sup>, Yoshimura A, Kawakami A<sup>1</sup>, Uesaka H<sup>1</sup>, Nakae H<sup>1</sup>, Kudoh S<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Dept Internal Medicine ) : Antitumor activity of histone deacetylase inhibitors in non-small cell lung cancer cells : development of a molecular predictive model. Mol Cancer Ther 2008 ; 7 (7) : 1923-1930.
- 5) 志村俊郎 : 模擬患者参加による社会に開かれた医学・医療教育. 日本医科大学同窓会報 2008 ; (347) : 10-10.
- 6) 志村俊郎, 吉村明修, 五十嵐徹<sup>1</sup>, 石川 源<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 小児科学, <sup>2</sup> 産婦人科学 ) : 産褥・新生児および乳児期のシミュレーション医学教育カリキュラム. 小児科 2008 ; 49 (9) : 1259-1270.
- 7) 志村俊郎, 唐沢信安<sup>1</sup>, 殿崎正明<sup>2</sup>, 岩崎 一<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 日本医史学教育研究会, <sup>2</sup> 図書館 ) : 本邦初の頭部単純レントゲン撮影を行った済生学舎教師の丸茂文良医学士. 日本医史学雑誌 2008 ; 54 (2) : 145-145.
- 8) 志村俊郎 : 第28回国内医科大学視察と討論の会 報告書. 第28回国内医科大学視察と討論の会 報告書 医学教育振興財団編纂 2008 ; 166-166.
- 9) 吉村明修 : 呼吸器病学をいかに教育するか : 大学病院. THE LUNG perspectives 2008 ; 16 (2) : 42-45.
- 10) 志村俊郎, 鈴木康之<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 岐阜大学医学部医学教育開発研究センター ) : 第30回医学教育セミナーとワークショップ. 医学教育 2009 ; 40 (1) : 89-89.

(2) 総説 :

- 1) Shimura T, Yoshimura A, Saito T<sup>1</sup>, Aso R ( <sup>1</sup> Dept Psychol ) : Unique Medical Education Programs at Nippon Medical School. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (4) : 196-201.
- 2) 志村俊郎, 岡 敦子<sup>1</sup>, 渡邊 浩<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 生物学教室, <sup>2</sup> 数学教室 ) : 日本医科大学「特別プログラム : 人の病, 生, 死について考える」を実施して. View 2008 ; 120 : 15-15.

学会発表

[追加分]

追加分シンポジウム :

- 1) Shimura T : Scenario-based medical simulation in our clinical setting. The First Japan US Joint Symposium on Simulation-based Medical Education in Acute Medicine (Tokyo), 2007. 6.

追加分一般講演 :

- 1) 志村俊郎, 吉村明修, 阿曾亮子, 八木正敏, クリニカル・シミュレーション・ラボ運営委員<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> クリニカル・シミュレーション・ラボ運営委員会 ) : 臨床シナリオによる状況再現型シミュレーション医療教育の評価. 第3回モデル&シミュレーション医学教育研究会・学術大会, 2007. 7.
- 2) 成田宏介<sup>1</sup>, 近江健太郎<sup>1</sup>, 岡崎愛未<sup>1</sup>, 中谷光良<sup>1</sup>, 志村俊郎, 高橋秀実<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 学生教育委員会, <sup>2</sup> 教育委員会 ) : 教員による医学教育ワークショップへ学生が参加することの有用性と今後の課題. 第39回日本医学教育学会, 2007. 7.

(1) 特別講演 :

- 1) 志村俊郎 : 医学・医療教育カリキュラムにおけるシミュレーションの実践と評価. 第20回医学教育指導者フォ

- ーラム, 主催 財団法人 医学教育振興財団, 2008. 7.
- 2) 志村俊郎: クリニカルスキル教育とシミュレーション教育の利用について. 福島県立医科大学 平成20年度第8回医学教育ワークショップ, 2008. 9.
  - 3) 志村俊郎: クリニカルスキルの評価について. 福島県立医科大学 平成20年度第8回医学教育ワークショップ, 2008. 9.
  - 4) 志村俊郎: 個人面接とグループ面接の組合せ. 第23回入学者選抜に関する討議会プログラム, 主催 日本医学教育学会入学者選抜小委員会, 2008. 11.
- (2) 一般講演:
- 1) Takayanagi K<sup>1)</sup>, Shimura T ( <sup>1)</sup> Department of Health Service Administration ): Laughter education for the healthcare professionals at postgraduate course. AACE-OPEN 42nd Annual Meeting, 2008. 10.
  - 2) 野村 務<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 明楽重夫<sup>2)</sup>, 阿曾亮子, 吉村明修, 志村俊郎 ( <sup>1)</sup> 外科, <sup>2)</sup> 女性診療科 ): 医学生に対するVRシミュレーターを用いた内視鏡外科手技トレーニングについて. 第1回中央大学・日本医科大学学術合同ワークショップ. 医学工学の連携を求めて, 2008. 5.
  - 3) 吉村明修, 志村俊郎, 阿曾亮子, 足立好司<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 森本泰介<sup>1)</sup>, 明楽重夫<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> クリニカル・シミュレーション・ラボ運営委員会 ): 研修医の臨床技能教育のためのクリニカル・シミュレーション・ラボ講習会の開設. 第40回日本医学教育学会, 2008. 7.
  - 4) 阿曾亮子, 吉村明修, 八木正敏, 志村俊郎, 滋野恭子<sup>1)</sup>, 伊藤高司<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>2)</sup>, 明楽重夫<sup>2)</sup>, 儀我真理子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 情報科学センター, <sup>2)</sup> 授業評価委員会 ): 学生による授業評価の携帯電話を用いた新しい評価方法の導入. 第40回日本医学教育学会, 2008. 7.
  - 5) 高柳和江<sup>1)</sup>, 志村俊郎 ( <sup>1)</sup> 医療管理学 ): がんプロフェッショナル養成プランにおける癒しの患者学の構築. 第40回日本医学教育学会, 2008. 7.
  - 6) 伊藤高司<sup>1)</sup>, 早坂明哲<sup>1)</sup>, 滋野恭子<sup>1)</sup>, 阿曾亮子, 志村俊郎 ( <sup>1)</sup> 情報科学センター ): 高信頼度教育用情報環境の構築. 第40回日本医学教育学会, 2008. 7.
  - 7) 富永隆志<sup>1)</sup>, 谷田篤史<sup>1)</sup>, 関野永理<sup>1)</sup>, 石垣紗恵子<sup>1)</sup>, 阿曾亮子, 吉村明修, 志村俊郎 ( <sup>1)</sup> 学生教育委員会 ): 授業評価委員会に学生が参加することの有用性と今後の課題. 第40回日本医学教育学会大会, 2008. 7.
  - 8) 吉村明修, 志村俊郎, 阿曾亮子, 足立好司<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 森本泰介<sup>1)</sup>, 明楽重夫<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>1)</sup>, 高岡雅子<sup>1)</sup>, 竹原典子<sup>1)</sup>, 早坂百合子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> クリニカル・シミュレーション・ラボ運営委員会 ): 研修医の臨床技能教育のためのクリニカル・シミュレーション・ラボ講習会の開設. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
  - 9) 阿曾亮子, 吉村明修, 八木正敏, 志村俊郎, 滋野恭子<sup>1)</sup>, 伊藤高司<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>2)</sup>, 明楽重夫<sup>2)</sup>, 儀我真理子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 情報科学センター, <sup>2)</sup> 授業評価委員会 ): 授業評価実施のための携帯電話を利用した新しい回答システム及びPCによる閲覧システムの運用. 第76回日本医科大学医学会総会, 2008. 9.
  - 10) 志村俊郎: 大学における教授法について: 医学教育技法を例として. 日本獣医生命科学大学FDに係わる講演, 2008. 11.
  - 11) 吉村明修, 志村俊郎, 阿曾亮子, 足立好司<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 森本泰介<sup>1)</sup>, 明楽重夫<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>1)</sup>, 高岡雅子<sup>1)</sup>, 竹原典子<sup>1)</sup>, 早坂百合子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> クリニカル・シミュレーション・ラボ運営委員会 ): 新研修医の臨床技能教育のためのクリニカル・シミュレーション・ラボ (C. S. Lab.) 講習会. 第5回モデル&シミュレーション医学教育研究会学術大会, 2009. 2.
  - 12) 野村 務<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 阿曾亮子, 吉村明修, 志村俊郎, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学 ): Virtual reality simulator (VR simulator) を用いた内視鏡外科トレーニングの卒前教育カリキュラムとしての有用性. 第5回モデル&シミュレーション医学教育研究会学術大会, 2009. 2.
  - 13) 金 徹<sup>1)</sup>, 佐藤千代<sup>1)</sup>, 岸川洋昭<sup>1)</sup>, 鈴木規仁<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 吉村明修, 志村俊郎 ( <sup>1)</sup> 麻酔科学 ): 気管挿管シミュレーションの問題点について. 第5回モデル&シミュレーション医学教育研究会学術大会, 2009. 2.



- 14) 小泉有美馨<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 竹森 健<sup>1)</sup>, 小林克也<sup>1)</sup>, 杖下隆哉<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 吉村明修, 志村俊郎 ( <sup>1)</sup> 麻酔科学) : シミュレーションによる超音波ガイド下中心静脈カテーテル留置術講習の意義. 第5回モデル&シミュレーション医学教育研究会学術大会, 2009. 2.
- 15) 阿曾亮子, 志村俊郎, 吉村明修, 八木正敏, 日高廣人<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学SP, <sup>2)</sup> 内科) : 模擬患者参加型実習の学生による評価 : 日本医科大学の年間授業評価結果と比較して. 日本薬学会第129年会, 2009. 3.

## 2. 健診医療センター

### 研究業績

#### 著書

- 1) 櫻井 実<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院放射線科)：〔分担〕再構成に関わる基礎知識．心臓核医学コンプリートマニュアル (西村重敬, 小林秀樹), 2004 ; pp72-79, 株式会社メジカルセンス.
- 2) 櫻井 実<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学健診医療センター)：〔分担〕心電図同期SPECTグラフィ．核医学技術総論 (日本核医学技術学会出版委員会), 2008 ; pp246-254, 山代印刷株式会社.
- 3) 櫻井 実<sup>1)</sup>, 須田匡也<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学健診医療センター)：〔分担〕収集, 処理に起因するアーチファクト．核医学技術総論 (日本核医学技術学会出版委員会), 2008 ; pp207-214, 山代印刷株式会社.

#### 学会発表

##### 〔追加分〕

##### 追加分一般講演：

- 1) 櫻井 実, 榎 利夫, 根津伸弘：モバイル型ガンマカメラとアンガー型ガンマカメラのI-123製剤による隔壁通過後散乱線の違い．日本放射線技術学会 (第60回) 総会学術大会, 2004. 4.
- 2) 須田匡也：123I Dual Window (IDW) 法を用いた脳血流画像の基礎的検討．日本放射線技術学会総会 (61回), 2005. 4.
- 3) 須田匡也, 櫻井 実：高感度GSO搭載型装置における, 3D収集static撮影による体軸方向に与える影響についての検討．日本放射線技術学会総会 (63回), 2007. 4.
- 4) 須田匡也：ドライシステムにおける時系列変化の検討．日本放射線技術学会東京部会総会 (56回), 2002. 5.
- 5) 須田匡也, 櫻井 実：3D収集static撮影における体軸方向への影響．日本放射線技術学会秋季大会 (47回),
- 6) 須田匡也：ドライシステムにおける経時的変化の検討．日本放射線技術学会総会 (58回), 2002. 4.
- 7) 櫻井 実<sup>1)</sup>, 大場泰幸<sup>2)</sup>, 金谷信一<sup>3)</sup>, 木川隆司<sup>4)</sup>, 菊川紀子<sup>5)</sup>, 清水正三<sup>6)</sup>, 高野政明<sup>7)</sup>, 森 一晃<sup>8)</sup> (1) 日本医科大学付属病院, 2) 済生会中央病院, 3) 東京女子医科大学, 4) 千葉大学病院, 5) 榊原記念病院, 6) 慶應大学病院, 7) 東邦大学病院, 8) 虎の門病院)：180度収集心筋SPECT短軸像における偽欠損の検討．日本放射線技術学会 (第50回) 関東東京部会合同研究発表大会, 2004. 2.
- 8) 櫻井 実<sup>1)</sup>, 榎 利夫<sup>1)</sup>, 根津伸弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院放射線科)：再生医療での治療効果判定Tc-99m筋血流シンチグラフィにおけるROI設定の検討．日本放射線技術学会 (第60回) 総合学術大会, 2004. 4.
- 9) 櫻井 実<sup>1)</sup>, 榎 利夫<sup>1)</sup>, 斉藤久美子<sup>1)</sup>, 根津伸弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院放射線科)：血管再生治療効果判定Tc-99m筋血流シンチグラフィにおけるROI設定の検討．日本核医学技術学会 (第24回) 総会学術大会, 2004. 7.
- 10) 櫻井 実<sup>1)</sup>, 榎 利夫<sup>1)</sup>, 根津伸弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院放射線科)：I-123製剤による隔壁通過後散乱線におけるモバイル型ガンマカメラとアンガー型ガンマカメラの比較．日本核医学技術学会 (第24回) 総会学術大会, 2004. 7.
- 11) 櫻井 実<sup>1)</sup>, 榎 利夫<sup>1)</sup>, 根津伸弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院放射線科)：下肢血管再生治療効果判定Tc-99m筋血流シンチグラフィROI設定における閾値の検討．日本放射線技術学会 (第32回) 秋季学術大会, 2004. 10.
- 12) 櫻井 実<sup>1)</sup>, 須田匡也<sup>1)</sup>, 榎 利夫<sup>1)</sup>, 根津伸弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院放射線科)：心筋SPECTの収集軌道と短軸像上の濃度変化について．日本放射線技術学会 (第61回) 総会学術大会, 2005. 4.

- 13) 須田匡也：eZISにおける散乱線除去の検討．日本放射線技術学会秋季大会（33回），2005．10．
- 14) 須田匡也：高感度検出器搭載型PETシステムにおける，高集積部からの散乱線による画質の検討．日本放射線技術学会秋季大会（34回），2006．10．
- 15) 須田匡也，櫻井 実：高感度クリスタルPETシステムによる肥満患者の画質の検討．日本核医学会総会（46回），2006．11．
- 16) 櫻井 実<sup>1)</sup>，須田匡也<sup>1)</sup>，上森真里子<sup>1)</sup>，金谷浩司<sup>1)</sup>，浅野恭司<sup>1)</sup>，横 利夫<sup>1)</sup>，土橋俊夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院放射線科）：PET/CTにおけるメタルアーチファクトがPET画像に及ぼす影響と補正効果．日本放射線技術学会（第63回）総会学術大会，2007．4．
- 17) 櫻井 実<sup>1)</sup>，須田匡也<sup>1)</sup>，上森真里子<sup>1)</sup>，吉田伸二郎<sup>1)</sup>，金谷浩司<sup>1)</sup>，横 利夫<sup>1)</sup>，土橋俊夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院放射線科）：<sup>18</sup>F-FDGPET検査における時間減衰とカウントリカバリの関係について．日本放射線技術学会（第63回）総会学術大会，2007．4．

追加分教育講演：

- 1) 櫻井 実<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院放射線科）：診断に役立つSPECT画像の作り方．第 回New Town Conference，2006．2．

(1) 招待講演：

- 1) 須田匡也：心臓核医学を中心とした融合画像：融合画像の発展と最新技術．中部放射線医療技術学術大会（1回），2008．11．

(2) 教育講演：

- 1) 櫻井 実<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学健診医療センター）：心臓核医学の画像処理を基礎から見直す：心電図同期SEPCTにおけるパラメータの意味．日本核医学技術学会（第28回）総会学術大会，2008．10．

(3) シンポジウム：

- 1) 櫻井 実<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学健診医療センター）：核医学における心筋ミトコンドリア障害の解析—動物からヒトへ—（分子イメージングの将来と展望）．日本放射線技術学会（第64回）総会学術大会，2008．4．

(4) 一般講演：

- 1) 須田匡也，櫻井 実，長谷康二，金谷浩司，土橋俊男：<sup>18</sup>F-FDG PET 早期—後期差分画像の有用性の検討．日本核医学技術学会（28回），
- 2) 須田匡也，櫻井 実：MDCTおよび外部線源による吸収補正の違いが心筋PETに与える影響．日本心臓核医学会総会（第17回），
- 3) 櫻井 実<sup>1)</sup>，須田匡也<sup>1)</sup>，金谷浩司<sup>1)</sup>，上森真里子<sup>1)</sup>，土橋俊夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院放射線科）：<sup>18</sup>F-FDGPET検査における低投与時の時間延長と分解能の関係について．日本放射線技術学会（第64回）総会学術大会，2008．4．
- 4) 須田匡也，横 利夫，吉田伸二郎，櫻井 実，柳川豊彦，土橋俊男：heart fusion software Card IQ fusionにおける融合精度および再現性の検討．日本放射線技術学会総会（64回），2008．4．
- 5) 須田匡也，櫻井 実，上森真理子，金谷浩司，浅野恭司，土橋俊男：static撮影における3D-LOR（LOR-RAMLA）画像再構成が体軸方向に与える影響の検討．日本放射線技術学会総会（64回），2008．4．

# 付 表

## 各種研究費補助金・研究助成金交付状況

### 1. 平成20年度科学研究費補助金交付決定一覧

※は前年度から継続

研究種目	研究代表者	所属・職	直接経費: 千円	研究課題
特定領域研究	佐久間康夫	システム生理学・医学研究科 (基礎医学)・教授	24,000	※ラット脳の性分化の際にエストロゲンにより駆動される制御分子の同定と機能解析
〃	田中 信之	遺伝子制御学・医学研究科 (老人病研究所)・教授	12,600	※核内癌抑制因子による遺伝子発現制御システムの解析
基盤研究 (B)	佐久間康夫	システム生理学・医学研究科 (基礎医学)・教授	3,500	※個体発生の途上における細胞内イオン環境の変化を介する脳の性分化
〃	寺本 明	神経病態解析学・医学研究科 (付属病院)・教授	4,400	※下垂体腺腫の細胞浸潤に関する分子形態学的研究
〃	大久保善朗	精神・行動医学・医学研究科 (付属病院)・教授	3,400	※分子イメージングによる統合失調症のドーパミン神経伝達異常の解明
〃	原 行弘	リハビリテーション科・千葉北総病院教授	5,900	Cybernetic orthosisの開発とニューロ・リハビリテーション
〃	太田 成男	細胞生物学・医学研究科 (老人病研究所)・教授	5,500	新しい概念の抗酸化物である水素を摂取することによる生活習慣病予防への新展開
〃	村田 智	放射線医学・付属病院准教授	5,100	難治性膵がんに対する革新的膵灌流療法システムの開発
〃	瀧澤 俊広	分子解剖学・医学研究科 (基礎医学)・教授	3,900	胎盤特異的マイクロRNAの機能解析と異常妊娠早期診断への臨床応用のための基盤研究
基盤研究 (C)	近藤 保彦	生理学 (システム生理学)・基礎医学・講師	900	※ラットの雌雄性指向性決定の神経機序
〃	岡本 研	生化学・分子生物学 (構造生物学・代謝学)・基礎医学・講師	1,000	※蛋白質のX線結晶構造に基づく創薬のための分子基盤研究
〃	若山 葉子	衛生学・公衆衛生学・基礎医学・講師	100	※凍結保存血清を用いた肝炎流行地域住民の病因と病態との長期的観察
〃	高橋 秀実	生体防御医学・医学研究科 (基礎医学)・教授	1,000	※ピロリ菌ウレアーゼによるB-1細胞活性化と自己免疫疾患の誘発
〃	阿部 信二	内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院講師	700	※造血幹/前駆細胞の肺障害における役割並びに治療法応用への基礎的検討
〃	福田 悠	解析人体病理学・医学研究科 (基礎医学)・教授	900	※各種間質性肺炎における血管, リンパ管の新生とその機序
〃	及川 真一	内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院教授	900	※酸化ストレスに対する生体応答としての動脈硬化初期病変形成能と治療法の開発
〃	藤野 修	小児科・千葉北総病院教授	600	※インフルエンザ脳症・脳炎患児の脳脊髄液中の発現蛋白におけるプロテオミクス解析
〃	下田 健吾	精神神経科・付属病院講師	600	※拡散テンソル解析を用いた老年期うつ病の認知症移行予測因子の同定
〃	田島 廣之	放射線科・付属病院教授	800	※重症静脈血栓塞栓症に対するハイブリッドIVRシステムの基礎・臨床応用に関する研究



〳	三枝 英人	耳鼻咽喉科・頭頸部外科・付属病院講師	700	※ヒトにおける舌の反射性運動の発現と、その新しい臨床応用についての基礎的研究
〳	後藤 穰	耳鼻咽喉科・千葉北総病院講師	800	※舌下免疫療法の効果発現メカニズムを検討する
〳	池園 哲郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科・付属病院准教授	900	※外リンパ蛋白の網羅的ディファレンシャル解析による治療ターゲット蛋白の同定
〳	平岡 美紀	眼科・付属病院講師	1,000	※未熟児網膜症における遺伝子要因の解析とシグナル伝達系への関与
〳	土佐眞美子	形成外科・武蔵小杉病院講師	900	※IL-6シグナル制御によるケロイドの新しい分子治療の確立と発症機序の解明
〳	岩崎 俊雄	生化学・分子生物学（構造生物学・代謝学）・（基礎医学）・講師	1,000	※超好熱菌の複合金属酵素のナノアッセンプリー機構解析
〳	齋藤 文仁	薬理学・基礎医学・講師	1,600	※小脳核抑制性シナプスの発達過程におけるセロトニンを介した制御機構
〳	三上 俊夫	スポーツ科学・基礎科学・准教授	1,000	※精神的ストレスによる海馬での神経新生の低下に対して身体運動は抑制効果を持つか否か
〳	長田 真一	皮膚科・付属病院助教	1,500	※核膜内膜蛋白質によって制御される新規因子群とその機能解析
〳	瀧澤 敬美	解剖学（分子解剖学）・基礎医学・助教	1,700	※VAMP3を介したGPIアンカー型蛋白質の細胞内輸送機構に関する分子解剖学的解析
〳	鈴木 秀典	神経情報科学・医学研究科（基礎医学）・教授	800	※サブスタンスP受容体を標的とした新規抗うつ薬の探索と脳機能画像による有効性評価
〳	原田 大	病理部・付属病院助教	1,000	※癌浸潤部におけるHMGB1蛋白の細胞内局在とその機能的意義に関する病理学的解析
〳	李 卿	衛生学・公衆衛生学・基礎医学・講師	1,100	※有機リン農薬による免疫毒性の新機序：有機リン農薬による免疫細胞のアポトーシス
〳	林田眞喜子	法医学・基礎医学・講師	500	※質量分析の新技法を用いたベンゾジアゼピン系薬物分析法の再構築
〳	弦間 昭彦	呼吸器感染腫瘍内科・医学研究科（付属病院）・教授	1,400	※肺癌における化学療法感受性関連蛋白の単離とイメージングによる感受性予測法の開発
〳	浅田 穰	薬理学・基礎医学・講師	1,500	※運動失調症に関与する小脳発達障害候補遺伝子BRAP2の機能解析
〳	山口 博樹	内科学（血液・消化器・内分泌代謝部門）・付属病院講師	900	※テロメラゼ複合体遺伝子異常で発症する骨髄不全症の病態解明と新規治療の開発
〳	猪口 孝一	内科・千葉北総病院教授	900	※MLL/AF4遺伝子導入白血病モデルマウスの分子病態解析と新規分子標的薬の開発
〳	小川 俊一	小児科・付属病院教授	1,500	※血管炎に伴う血管虚血下の血管内皮細胞・平滑筋細胞の機能および応答機構の解明と治療
〳	館野 周	精神神経科・付属病院講師	900	※うつ病の再発・難治化と脳の脆弱性について脳画像と神経栄養因子を用いた前方視研究
〳	汲田伸一郎	臨床放射線医学・医学研究科（付属病院）・教授	500	※半導体ガンマカメラを用いた微小心筋障害の検出に関する研究

〳	松田 明久	消化器外科・一般外科・乳腺外科・多摩永山病院助教	1,000	※手術侵襲後の生体反応におけるアディポサイトカインの役割に関する研究
〳	三嶋 拓也	分子解剖学・医学研究科（基礎医学）・特別研究生	1,600	※胆道系悪性腫瘍に特異的なマイクロRNAの機能解析
〳	内藤 善哉	統御機構病理学・医学研究科（基礎医学）・教授	1,400	※ケラチノサイト増殖因子受容体系を用いた新たな膀胱癌治療戦略の検討
〳	吉田 寛	外科学（消化器・一般・乳腺・移植部門）・付属病院准教授	900	※肝組織遺伝子解析からみた脾静脈血行動態の肝再生、発癌に及ぼす影響
〳	菅野 重人	外科学（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）・付属病院その他	1,100	※心筋ギャップ結合におけるコネキシン43の発現異常と周術期不整脈
〳	竹田 晋浩	麻酔科・付属病院講師	900	※アルファ2-アゴニスト・デスクメデトミジンの延髄呼吸中枢への作用メカニズムの解析
〳	近藤 幸尋	泌尿器科・付属病院准教授	1,300	※低酸素応答因子制御による腎細胞癌予後改善の検討
〳	澤 倫太郎	女性診療科・産科・付属病院講師	1,100	※心臓インターベンション領域における胎児アデノシン特性の応用に関する研究
〳	竹下 俊行	女性生殖発達病態学・医学研究科（付属病院）・教授	800	※ヘパリンの抗流産作用とその機転に関する研究
〳	亀谷 修平	眼科・千葉北総病院講師	1,300	※C1qtnf5遺伝子異常による加齢黄斑変性症モデルの作成と解析
〳	堀 純子	眼科学・付属病院准教授	1,500	※眼組織移植における新規の免疫補助シグナル分子の機能解析とその臨床応用にむけた展開
〳	水野 博司	形成外科・付属病院准教授	1,300	※脂肪組織幹細胞による血管再生機序の解明
〳	増野 智彦	高度救命救急センター・付属病院助教	500	※ショック後腸管リンパ液中に産生されるホスホリパーゼA2の臓器障害に対する影響
〳	佐藤 格夫	高度救命救急センター・付属病院助教	1,000	※熱傷後に伴う遠隔臓器障害の発生機序の解明と治療戦略の構築
〳	渡邊 淳	生化学・分子生物学（分子遺伝学・栄養学）・基礎医学・講師	1,600	※効果ある臨床遺伝教育プログラムに向けた課題調査と教材開発
〳	薛 昊罡	解剖学（生体構造学）・基礎医学・助教	1,200	GnRHニューロンにおける形態変動解析のための機能科学的アプローチ
〳	大澤 郁朗	老人病研究所・教授	1,300	ストレスによって生じる脳機能障害の水素分子による改善
〳	洲鎌 秀永	生理学（生体統御学）・基礎医学・講師	1,400	ストレスによるミクログリア活性化メカニズムの解明
〳	上村 尚美	生化学部門・老人病研究所助教	1,300	糖尿病の予防・改善における水素の効果
〳	後藤 忠	解剖学（分子解剖学）・基礎医学・准教授	1,300	携帯電話を用いた画像学習システムの実践的研究
〳	中村 哲子	英語・基礎科学・准教授	1,200	アイルランド小説における女性身体と女性空間をめぐる研究
〳	岡 敦子	生物学・基礎科学・教授	1,500	トランスジェニックカエルを用いた消化管上皮幹細胞のニッチに関する研究
〳	石橋 宰	解剖学（分子解剖学）・基礎医学・講師	1,500	マイクロRNAの選択的輸送に関する分子解剖学動態解析とその病態診断への応用

〳	折笠千登世	生理学（システム生理学）・基礎医学・助教	1,200	エストロゲンで誘導される神経細胞移動と脳の性差形成
〳	西野 朋子	生化学・分子生物学（構造生物学・代謝学）・基礎医学・講師	1,800	スーパーオキシド超産生型XOR変異酵素ノックインマウスを用いた病態生化学的研究
〳	川田 智之	環境医学・医学研究科（基礎医学）・教授	2,900	交替制勤務者の睡眠習慣・インスリン抵抗性とメタボリック症候群に関する研究
〳	長谷場 健	法医学・基礎医学・講師	1,800	新たなアルコール代謝酵素クラス3ADHのアルコール生体反応感受性における役割
〳	平川 慶子	法医学・基礎医学・助教	1,900	MRI装置を用いた死後画像診断におけるスペクトルデータの活用に関する基盤研究
〳	高野 仁司	内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）・付属病院助教	1,400	ヒトにおける虚血プレコンディショニングの心筋保護効果の機序に関する検討
〳	清野 精彦	内科・千葉北総病院教授	1,300	冠動脈先端画像解析によるマルチバイオマーカーストラテジーの開発
〳	高木 元	内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）・付属病院助教	600	難治性血管炎に対する新規治療法開発
〳	片山 泰朗	神経・腎臓・膠原病リウマチ学・医学研究科（付属病院）・教授	900	脳虚血後における新規脳保護薬・骨髄細胞移植併用の神経再生増強効果の研究
〳	三品 雅洋	内科・千葉北総病院助教	2,200	PETによるアデノシン受容体のドパミン調節機構と抗パーキンソン病薬副作用の関係
〳	山崎 峰雄	内科学（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）・付属病院講師	1,400	軽度認知障害の原因疾患としての海馬硬化性認知症の臨床・分子病理学的研究
〳	芝崎 保	生体統御科学・医学研究科（基礎医学）・教授	1,900	グレリン受容体発現抑制遺伝子変異ラットを用いたグレリンのエネルギー蓄積機構の解明
〳	田村 秀人	内科学（血液・消化器・内分泌代謝部門）・付属病院助教	2,000	骨髄腫細胞の発現する補助刺激分子群（B7系分子など）とそのシグナル：病態への関与
〳	三宅 紀子	生化学・分子生物学（分子遺伝学・栄養学）・基礎医学・技術主査補	1,400	リソゾーム病の神経病変を標的とした新規骨髄移植の開発
〳	三宅 弘一	生化学・分子生物学（分子遺伝学・栄養学）・基礎医学・准教授	1,400	ダイヤモンド・ブラックファン貧血のモデル動物作製と新規治療法（遺伝子治療）の開発
〳	勝部 康弘	小児科・武蔵小杉病院准教授	1,800	酵素感受性蛋白質の発見に向けてープロテオミクス解析からのアプローチー
〳	深澤 隆治	小児科・多摩永山病院講師	1,600	川崎病発症時のサイトカイン動態究明による新しい抗サイトカイン療法の開発
〳	八幡 憲明	薬理学・基礎医学・助教	800	うつ病薬物治療の最適化の為の画像等検査バッテリーの確立とその有効性の前方視的研究
〳	齊藤 卓弥	精神神経科・付属病院准教授	1,500	MRIを用いた児童思春期うつ病における脳形態に関する前方視研究
〳	横田 裕行	侵襲生体管理学・医学研究科（付属病院）・教授	1,500	ポテンシャルドナーを増やすための補助検査を用いた脳死判定に関する研究

〳	松谷 毅	消化器外科・一般外科・乳腺外科・多摩永山病院助教	1,200	手術侵襲後の性差医療における脂肪細胞の役割とピオグリタゾン投与の有効性
〳	内田 英二	外科学（消化器外科，一般外科，乳腺外科）・付属病院教授	900	In vivo イメージングシステムを用いた膵癌実験モデルおよびその応用
〳	井村 肇	外科学（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）・付属病院助教	700	未熟心筋に対する常温下心筋保護の研究：ミトコンドリア保護の重要性とその臨床応用
〳	新田 隆	外科学（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）・付属病院教授	1,800	左心房容量負荷モデルにおける肺静脈隔離の心房細動発生予防効果の検討
〳	吉田 大蔵	脳神経外科・武蔵小杉病院准教授	900	下垂体腺腫の増殖におけるSDF-1の役割に関する分子形態学的研究
〳	高橋 弘	脳神経外科・武蔵小杉病院教授	1,100	NMRによるメタボロミクス（メタボローム）解析は脳腫瘍の悪性転化を予測する
〳	麻生 定光	生化学部門・老人病研究所・准教授	1,400	細胞死抑制活性強化蛋白質導入による骨軟骨移植片の軟骨細胞死の抑制と関節軟骨修復
〳	坂本 篤裕	疼痛制御麻酔科学・医学研究科（付属病院）・教授	2,000	麻酔薬・麻酔法による体内遺伝子、蛋白、代謝物変動の総括的検討
〳	清水 章	病理学（解析人体病理学）・基礎医学・准教授	2,200	免疫寛容導入による自然抗原ノックアウトミニプタからヒビへの異種腎臓移植の免疫応答
〳	羅 善順	解剖学（分子解剖学）・基礎医学・助教	1,500	卵胞顆粒膜細胞に特異的なマイクロRNAの卵胞成熟における機能解析とその臨床応用
〳	市川 雅男	女性診療科・産科・付属病院助教	1,900	妊娠中の肝機能異常における自己傷害性T細胞の関与の検討
〳	工藤 光洋	病理学（統御機構・腫瘍学）・基礎医学・講師	1,100	膵臓外幹細胞による膵β細胞の分化誘導の検討
若手研究 (B)	若林あや子	微生物学・免疫学・基礎医学・助教	1,000	※飲水中残留塩素による卵白アルブミン特異的免疫反応の誘導：塩素と食物アレルギー
〳	坂井 敦	薬理学・基礎医学・助教	1,000	※神経因性疼痛に対してNCAMが担う役割の解析による治療薬の探索
〳	川島 徹生	胸部・心臓血管・呼吸器外科・千葉北総病院助教	800	※肺癌患者におけるCD1脂質抗原提示系の役割
〳	新藤 晋	耳鼻咽喉科・頭頸部外科・付属病院准教授	1,000	※内耳発達過程におけるCochlinの発現—Spatiotemporalな検討—
〳	佐藤（織田）恵理	免疫部門・老人病研究所講師	1,600	※DNA損傷時におけるp53の新規標的遺伝子産物による細胞分裂期の制御機構の解析
〳	石井 寛高	システム生理学・医学研究科（基礎医学）・ポストドクター	1500	※幼弱期の脳で合成される脳ニューロステロイドは神経回路構築を調整する
〳	早川 秀幸	法医学・医学研究科（基礎医学）・特別研究生	500	※死後MRI画像に及ぼす死後変化および死因の影響
〳	石井 健男	内科（呼吸器内科）・呼吸ケアクリニック・付属病院助教	900	※慢性閉塞性肺疾患の鬱症状を規定する遺伝子の探索
〳	肥田 道彦	精神神経科・付属病院助教	1,300	※統合失調症の聴覚言語処理機構に関する脳画像・遺伝子研究



〳	川野 陽一	外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)・付属病院助教	600	※小児生体肝移植後長期経過症例における移植肝加齢変化の解明—テロメア長による検討—
〳	水谷 聡	消化器病センター・武蔵小杉病院助教	500	※膵臓ミトコンドリアDNA体細胞変異は抗癌剤耐性を示す (オーダーメイド医療への道)
〳	松下 晃	消化器外科・一般外科・乳腺外科・多摩永山病院助教	900	※膵癌におけるNeuropilin-1の役割とそのシグナル伝達経路に関する研究
〳	金 景成	脳神経外科・千葉北総病院助教	1,100	※腰椎黄色靭帯における低酸素関連因子発現に関する研究
〳	森 美貴	解剖学 (分子解剖学)・基礎医学・助教	1,500	※SPINT1を介した胎盤絨毛形成・維持機構の解明：正常および異常妊娠における役割
〳	根本 崇宏	生理学 (生体統御学)・基礎医学・助教	1,500	※母体カロリー摂取制限による胎児オートファジーの誘導と発育への影響に関する解析
〳	富山 僚子	女性診療科・産科・付属病院医療技術員	1,100	※生殖能力のエイジング—卵胞における活性酸素と抗酸化物質の役割について—
〳	横山有希子	耳鼻咽喉科・千葉北総病院助教	1,100	※好酸球性中耳炎の発症機序の解明：T細胞と肥満細胞の新たな役割
〳	中村 毅	耳鼻咽喉科・千葉北総病院助教	1,000	※嚥下の口腔期から咽頭期への移行の連続性について機能生理学的研究
〳	増野 聡	耳鼻咽喉科・多摩永山病院助教	1,400	※慢性副鼻腔炎に伴う鼻茸の発症機序の解明：肥満細胞と上皮細胞，繊維芽細胞の相互作用
〳	酒主 敦子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科・付属病院助教	900	※難治性好酸球性中耳炎における線維芽細胞の新たな役割の解明
〳	王 明聡	感覚器視覚機能医学・医学研究科 (付属病院)・ポストドクター	1,300	※羊膜由来神経幹細胞の移植による網膜組織の再建と視機能の再生
〳	五十嵐 勉	眼科・付属病院助教	500	※AAVベクター及びRNAi技術を用いたVEGF抑制による眼内新生血管抑制の試み
〳	小川 真司	リハビリテーション科・千葉北総病院助教	1,100	脳磁図—運動誘発磁場—を利用した，訓練による運動学習効果の研究
〳	松崎 利行	解剖学 (生体構造学)・基礎医学・准教授	900	脳における水チャネル，アクアポリンの分布局在の検討
〳	藤原 正和	病理部門・老人病研究所・助教	700	ダウン症原因遺伝子DSCR1の血管サイズ決定因子としての役割とその分子機構の解明
〳	山縣 久美	生化学部門・老人病研究所・上級研究技術員	1,200	水素水投与による動脈硬化疾患の改善とそのメカニズムの解明
〳	西山 康裕	内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院助教	800	ラット脳卒中モデルにおける水素ガスをを用いた効果の検討
〳	山本 哲志	病理学 (統御機構・腫瘍学)・基礎医学・助教	900	ルミカンによるケラチノサイト増殖因子シグナル伝達経路の制御機構の開発と治療応用
〳	吉野 雅則	消化器病センター・武蔵小杉病院助教	900	食道癌における線維芽細胞増殖因子受容体 (KGF) の発現と局在および分子標的治療
〳	松田 陽子	病理学 (統御機構・腫瘍学)・基礎医学・助教	1,300	大腸癌で過剰発現するCytochrome P450 2A6の機能解明と治療応用



〳	峯 克也	女性診療科・産科・付属病院助教	1,400	習慣流産患者における抗リン脂質抗体標的分子のプロテオミクス
〳	白石振一郎	高度救命救急センター・付属病院助教	1,200	急性腸間膜虚血の腸管VIABILITY評価と救命率向上にむけた治療戦略の構築
〳	二神 綾子	皮膚科・付属病院講師	700	※パルスダイレーザーによるケロイド抑制効果の病態解明
若手研究 (スタートアップ)	太良 修平	内科学(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病院助教	1,340	低侵襲型血管新生治療法確立のための臨床研究
萌芽研究	高柳 和江	医療管理学・基礎医学・准教授	800	※エビデンスのある患者自己治療力向上—量的(HSP, 免疫等)と質的評価を指標として
〳	太田 成男	細胞生物学・医学研究科(老人病研究所)・教授	1,300	※水素ガス吸引による虚血再灌流障害の軽減
〳	飯島 典生	解剖学(生体構造学)・基礎医学・准教授	800	※In vivo,リアルタイムでのアポトーシス可視化システムの構築
〳	石川 源	女性診療科・産科・付属病院助教	1,300	診断ツールの開発を目指した抗リン脂質抗体に対する栄養膜マイクロRNAの動態解析
特別研究員 奨励費(外国人)	太田 成男	細胞生物学・医学研究科(老人病研究所)・教授	500	※老年病および生活習慣病におけるミトコンドリアからの活性酸素の放出機構
特別研究員 奨励費(国内)	水口 義昭	解剖学(分子解剖学)・基礎医学・特別研究員PD	1,100	※肝炎・肝硬変・肝癌における免疫担当細胞のmicroRNAomeによる病態生理の解明と新規miRNAの探索

2. 平成20年度科学研究費補助金研究分担の採択・交付状況

研究分担者・所属	研究種目	研究代表者・所属	研究課題名
1 川田 智之 衛生学・公衆衛生学	基盤研究 (S)	宮崎 良文 千葉大学 環境健康フィールド科学センター	生理人類学体系化の試み—実験生理人類学と理論生理人類学の視点から—
2 李 卿 衛生学・公衆衛生学	〃	宮崎 良文 千葉大学 環境健康フィールド科学センター	生理人類学体系化の試み—実験生理人類学と理論生理人類学の視点から—
3 清水 一雄 外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)	基盤研究 (B)	前田 茂人 長崎医療センター 臨床研究センター	カザフスタン被爆地域における甲状腺癌・乳癌への外科的国際支援
4 三品 雅洋 千葉北総病院内科	〃	石渡 喜一 東京都老人総合研究所	PETブレインバンクの構築
5 長谷場敏彦 医療管理学	基盤研究 (C)	長谷川有紀 東北大学 医学部	医療IT化が質・安全・効率に及ぼす効果に関する実証的研究
6 大久保善朗 精神医学	〃	荻部 洋行 日本歯科大学 生命歯学部	脳機能イメージングを用いた口腔内慢性疼痛の新しい診断法と治療効果の客観的評価
7 館野 周 精神医学	〃	荻部 洋行 日本歯科大学 生命歯学部	脳機能イメージングを用いた口腔内慢性疼痛の新しい診断法と治療効果の客観的評価
			補助金直接経費合計額 4,050,000円

3. 平成20年度各種補助金の交付状況一覧〔内訳〕

単位：千円

項 目	平成20年度		
	本学負担額	補助金額	総事業費
私立大学等経常費補助金特別補助（私立学校振興・共済事業団執行分）			
I 各大学等の特色を活かせるきめ細やかな支援			
1 就学機会の多様化推進メニュー群			
(1) 外国人留学生の入学の推進		3,995	3,995
2 大学院教育研究高度化支援メニュー群			
(1) 大学院の基盤整備・拠点重点化支援			
1) 教育研究拠点大学院重点経費			
①大学院基盤分		557,800	557,800
2) 研究科特別経費			
①研究科分	30,040	29,960	60,000
②学生分	12,016	11,984	24,000
③学位論文審査協力分		110	110
(2) リサーチ・アシスタント、ポストドクター等支援			
1) RA, PD	49,061	45,839	94,900
(3) ティーチング・アシスタント支援	5,806	4,194	10,000
3 学部教育の高度化・個性化支援メニュー群			
(1) 教育・学習方法等改善支援	2,776	2,696	5,472
(2) インターンシップの推進		4,794	4,794
(3) 海外研修派遣支援	1,573	1,568	3,141
4 先端的学術研究推進メニュー群			
(1) 学術研究高度化推進			
1) 戦略的研究基盤形成支援事業経費	125,347	124,833	250,180
(2) 研究施設・設備等運営支援			
1) 研究施設	26,057	25,965	52,022
2) 大型設備等	11,145	10,286	21,431
(3) 教員の流動化促進支援			
1) 教員異動に伴う教育研究環境整備		1,055	1,055
2) 任期付教員による研究の支援		11,984	11,984
5 高度情報化推進メニュー群			
(1) 教育学術情報ネットワーク支援	62,597	62,416	125,013
(2) 教育学術コンテンツ支援			
1) 教育研究用ソフトウェア	7,438	6,791	14,229
(3) 教育研究情報利用支援	43,155	41,544	84,699
II 高等教育機関の質の確保			
1) 多元的評価支援経費	1,172	1,100	2,272
合計	378,183	948,914	1,327,097
私立学校等における施設・装置・設備関係補助（文部科学省）			
1 教育研究装置整備費補助			
(1) 研究施設	99,955	99,955	199,910
(2) 研究装置	103,566	103,565	207,131
(3) 教育装置	32,583	32,582	65,165
2 研究設備	49,268	98,535	147,803
合計	285,372	334,637	620,009

4. 平成20年度補助・委託一覧

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
岡 敦子	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	トランスジェニックス細胞を用いた消化管上皮幹細胞のニッチに関する研究	岡 敦子	
高市 真一	自然科学・生物学	分担	新エネルギー・産業技術総合開発機構 平成19年度産業技術研究助成事業	小規模水地点における分散型水質管理を目的とした有害金属検出用微生物センサーの開発	前田 勇	宇都宮大学
中村 哲子	外国語・英語・ドイツ語	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	アイランド小説における女性身体と女性空間をめぐる研究	中村 哲子	
三上 俊夫	スポーツ科学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	精神的ストレスによる海馬での神経新生の低下に対して身体運動は抑制効果を持つか否か	三上 俊夫	
瀧澤 俊広	解剖学講座 (分子解剖学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	胎盤特異的マイクログルナの機能解析と異常妊娠早期診断への臨床応用のための基盤研究	瀧澤 俊広	
石橋 宰	解剖学講座 (分子解剖学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	マイクログルナの選択的輸送に関する分子解剖学的動態解析とその病態診断への応用	石橋 宰	
三嶋 拓也	解剖学講座 (分子解剖学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	胆道系悪性腫瘍に特異的なマイクログルナの機能解析	三嶋 拓也	
羅 善順	解剖学講座 (分子解剖学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	卵胞顆粒膜細胞に特異的なマイクログルナの卵胞成熟における機能解析とその臨床応用	羅 善順	
瀧澤 敬美	解剖学講座 (分子解剖学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	VAMP3を介したGPIアンカー型蛋白質の細胞内輸送機構に関する分子解剖学的解析	瀧澤 敬美	
森 美貴	解剖学講座 (分子解剖学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	SPINT1を介した胎盤絨毛形成・維持機構の解明；正常および異常妊娠における役割	森 美貴	
水口 義昭	解剖学講座 (分子解剖学)	代表	科学研究費補助金 特別研究員奨励費	肝炎・肝硬変・肝癌における免疫担当細胞のmicroRNAomeによる病態生理の解明と新規miRNAの探索	水口 義昭	
瀧澤 俊広, 三嶋 拓也	解剖学講座 (分子解剖学)	分担	科学研究費補助金 萌芽研究	診断ツールの開発を旨とした抗リン脂質抗体に対する栄養膜マイクログルナの動態解析	石川 源	日本医科大学 科学講座
瀧澤 俊広	解剖学講座 (分子解剖学)	代表	私立大学教育研究高度化推進特別補助	エクソゾームの機能解析と臨床応用のための基盤研究	瀧澤 俊広	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
瀧澤 俊広	解剖学講座 (分子解剖学)	代表	私立大学戦略的研究 基盤形成支援事業	診断・治療に新たな展開をもたらす低分子RNA：分子病態における役割解明と新治療戦略への展開	瀧澤 俊広	
松崎 利行	解剖学講座 (生体構造学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	脳における水チャネル、アクアポリンの分布局在の検討	松崎 利行	
薛 呉がん, 飯島 典生, 戸張 靖子	解剖学講座 (生体構造学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	GnRHニューロンにおける形態変動解析のための機能科学的アプローチ	薛 呉がん	
飯島 典生	解剖学講座 (生体構造学)	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	In vivo, リアルタイムでのアポトーシス可視化システムの構築	飯島 典生	
戸張 靖子	解剖学講座 (生体構造学)	代表	財団法人守谷育英会 2008年度 (第25回) 研究助成金	小鳥の性成熟と歌学習臨界期に与える神経ペプチドの同定と機能解析	戸張 靖子	
戸張 靖子	解剖学講座 (生体構造学)	代表	財団法人日本科学協会 平成20年度海外 発表促進助成 No. F08-302	Distribution of kisspeptin like immunoreactivity in the brain of the bird, <i>Taeniopygia guttata</i>	戸張 靖子	
戸張 靖子	解剖学講座 (生体構造学)	代表	平成20年度 乾太助 記念動物科学研究助 成基金	小鳥の思春期発動と歌学習の臨界期の関係解明に関する神経内分泌学的研究	戸張 靖子	
小澤 一史	解剖学講座 (生体構造学)	代表	(財団法人) 内藤記念 財団研究助成金	思春期発動に関わる脳内神経制御ネットワークの3次元構築に関する分子細胞学的解析	小澤 一史	
佐久間康夫, 加藤 昌克, 木山 裕子, 近藤 保彦, 折笠千登世, 濱田 知宏	生理学講座 (システム生理学)	代表 分担	科学研究費補助金 特定領域研究	ラット脳の性分化の際にエストロゲンにより駆動される制御分子の同定と機能解析	佐久間康夫	
佐久間康夫, 加藤 昌克, 木山 裕子, 折笠千登世, 濱田 知宏	生理学講座 (システム生理学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	個体発生の遡上における細胞内イオン環境の変化を介する脳の性分化	佐久間康夫	
近藤 保彦	生理学講座 (システム生理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ラットの雌雄性指向性決定の神経機序	近藤 保彦	
折笠千登世, 佐久間康夫, 濱田 知宏	生理学講座 (システム生理学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	エストロゲンで誘導される神経細胞移動と脳の性差形成	折笠千登世	



研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
石井 寛高	生理学講座(システム生理学)	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	幼弱期の脳で合成される脳ニコチンロスタテロイドは神経回路構築を調節する	石井 寛高	
Sakuma Y, Wang D, Wang Z, Ogawa S, Kikusui T, Kondo Y	生理学講座(システム生理学)	代表 分担	平成20年度日本学術 振興会と中国国家自然 科学基金の交流事業	都市化に代表される社会の変容が脳の健全な成育におよぼす影響についての二国間研究	佐久間康夫	
佐久間康夫	生理学講座(システム生理学)	分担	私立大学戦略的研究 基盤形成支援事業	中枢神経系疾患の診断・治療技術の創出を指向した基礎・臨床融合型研究の基盤形成	寺本 明	日本医科大学大学院医学研究科
芝崎 保, 眞野あすか, 根本 崇宏, 大島 久幸	生理学講座(生体統御学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	グレリン受容体発現抑制遺伝子改変ラットを用いたグレリンのエネルギー蓄積機構の解明	芝崎 保	
芝崎 保	生理学講座(生体統御学)	分担	厚生労働省科研費補助 金	長寿科学総合研究事業 高齢者医療とQOL改善に対するグレリンの臨床応用とその基盤的研究	寒川 賢治	国立循環器病センター
芝崎 保	生理学講座(生体統御学)	分担	厚生労働省科研費補助 金	難治性疾患克服研究事業 中枢性摂食異常症に関する調査研究	小川 佳宏	東京医科歯科大学難治疾患研究所
根本 崇宏	生理学講座(生体統御学)	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	母体カロリリー摂取制限による胎児オートのアロジエの誘導と発育への影響に関する解析	根本 崇宏	
洲鎌 秀永	生理学講座(生体統御学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	ミクログリア活性化のメカニズムの解明	洲鎌 秀永	
芝崎 保	生理学講座(生体統御学)	代表	喫煙科学研究財団	ニコチンのエネルギー貯蔵抑制作用機序に関する検討	芝崎 保	
岩崎 俊雄	生化学・分子生物学講座(構造生物学・代講学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	超好熱菌の複合金属酵素のナノアッセンブリー機構解析	岩崎 俊雄	
西野 朋子, 西野 武士, 岡本 智裕, 松村 武士	生化学・分子生物学講座(構造生物学・代講学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	スーパーオキシド超産生型XOR変異酵素ノックインマウスを用いた病態生化学的研究	西野 朋子	
西野 武士	生化学・分子生物学講座(構造生物学・代講学)	分担	私立大学戦略的研究 基盤形成支援事業	中枢神経系疾患の診断・治療技術の創出を指向した基礎・臨床融合型研究の基盤形成	寺本 明	日本医科大学大学院医学研究科
三宅 弘一	生化学・分子生物学講座(分子遺伝学・栄養学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	ダイアモンド-ブランクフアン貧血のモデル動物作製と新規治療法(遺伝子治療)の開発	三宅 弘一	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
三宅 紀子	生化学・分子生物学講座 子遺伝学・栄養学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	リンゾーム病の神経病変を標的とした新規骨髄移植法の開発	三宅 紀子	
三宅 弘一	生化学・分子生物学講座 子遺伝学・栄養学	代表	脳科学	「先端的遺伝子導入・改変技術による脳科学研究のための独自の霊長類モデルの開発と応用」(アデノ随伴ウイルスベクター-サプタイプによる神経系細胞への遺伝子導入の検討)	島田 隆	
渡邊 淳	生化学・分子生物学講座 子遺伝学・栄養学	代表 分担	「個人の遺伝情報に応じた医療の実現プロジェクト(第2期)」	「先端医科学研究に関する倫理的・法的・社会的課題についての調査研究」(臨床応用を視野に入れたオーダーメイド遺伝子医療のELSIに関する調査研究)	渡邊 淳	
島田 隆	生化学・分子生物学講座 子遺伝学・栄養学	代表	医薬基盤	AAVベクターによる神経組織への遺伝子導入の有効性と安全性についての研究	島田 隆	
渡邊 淳	生化学・分子生物学講座 子遺伝学・栄養学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	効果ある臨床遺伝教育プログラムに向けた課題調査と教材開発	渡邊 淳	
玉井 真理子	薬理学講座	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	うつ病の再発・難治化と脳の脆弱性について脳画像と神経栄養因子を用いた前方視研究	館野 周	日本医科大学精神医学講座
守屋 利佳	薬理学講座	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (A)	抑制性シナプス制御機構の解明と創薬基盤の探索	小西 史朗	徳島文理大学
堂固 俊彦	薬理学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	サブスタンスP受容体を標的とした新規抗うつ薬の探索と脳機能画像による有効性評価	鈴木 秀典	
鈴木 秀典	薬理学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	小脳核抑制性シナプスの発達過程におけるセロトニンを介した制御機構	齋藤 文仁	
永野 昌俊	薬理学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	運動失調症に関与する小脳発達障害候補遺伝子BRAP2の機能解析	榎 浅田	
池田 裕美子	薬理学講座	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	神経因性疼痛に対してNCAMが担う役割の解析による治療薬の探索	坂井 敦	
坂井 憲明	薬理学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	うつ病薬物治療の最適化のための画像等検査パターンの確立とその有効性の前方視的研究	八幡 憲明	
齋藤 文仁	薬理学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)		齋藤 文仁	
永野 昌俊	薬理学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)		齋藤 文仁	
榎 浅田	薬理学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)		榎 浅田	
鈴木 秀典	薬理学講座	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)		坂井 敦	
坂井 敦	薬理学講座	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)		坂井 敦	
八幡 憲明	薬理学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)		八幡 憲明	
鈴木 秀典	薬理学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)		八幡 憲明	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
小林 克典	薬理学講座	分担	科学技術振興機構 戦略的創造研究推進 事業CREST	精神疾患モデルマウスの神経活動の生理学的解析	宮川 剛	藤田保健衛生大学
浅田 稔	薬理学講座	代表	薬力学研究助成	細胞周期阻害分子p21を細胞質に保持し新たな機能を付加する分子BRAP2に関する研究	浅田 稔	
清水 章, 益田 幸成	病理学講座 (解析人体病理学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	免疫寛容導入による自然抗原ノックアウトミトコンドリアからヒトへの異種腎臓移植の免疫応答	清水 章	解析人体病理学
福田 悠	病理学講座 (解析人体病理学)	分担	厚生労働省科研費補助金	びまん性肺炎疾患に関する調査研究	杉山幸比古	自治医科大学内科
福田 悠, 石崎 正通, 高橋美紀子	病理学講座 (解析人体病理学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	各種間質性肺炎における血管, リンパ管の新生とその機序	福田 悠	
清水 章	病理学講座 (解析人体病理学)	代表	Novartis CPCF (Ciclosporin Pharmacological Forum) Research Grant 2008	腎微細血管障害とサイクロスポリン慢性毒性 (サイクロスポリン腎症) の進展, および血管内皮増殖因子を用いた積極的な治療	清水 章	解析人体病理学
松田 陽子	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	大腸癌で過剰発現するCytochrome P450 2A6の機能解明と治療応用の検討	松田 陽子	
内藤 善哉, 石渡 俊行, 小野 ゆり	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ケラチノサイト増殖因子受容体系を用いた新たな膀胱癌治療戦略の検討	内藤 善哉	
山本 哲志	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	ルミカンによるケラチノサイト増殖因子シグナル伝達経路の制御機構の開発と治療応用	山本 哲志	
松田 陽子	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表	香川大学医学部医学科同窓会 科学研究費補助金 基盤研究 (C)	肺の腺癌および扁平上皮癌におけるLumicanの発現と役割	松田 陽子	
工藤 光洋, 石渡 俊行, 内藤 善哉	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	膀胱外幹細胞による膀胱β細胞の分化誘導の検討	工藤 光洋	
若林あや子	微生物学・免疫学講座	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	飲水中残留塩素による卵白アルブミン特異的免疫反応の誘導; 塩素と食物アレルギー	若林あや子	
高橋 秀実	微生物学・免疫学講座	分担	厚生労働省科研費補助金	粘膜免疫賦活によるエイズウイルスの制御	山本 直樹	国立感染症研究所
高橋 秀実	微生物学・免疫学講座	分担	厚生労働省科研費補助金	HIV感染予防における経粘膜ワクチンの開発	廣井 隆親	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
高橋 秀実	微生物学・免疫学講座	分担	厚生労働省科研究費補助金	HIV感染症における免疫応答の解析とその臨床応用に関する研究	山本 直樹	国立感染症研究所
高橋 秀実	微生物学・免疫学講座	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ピロリ菌ウレアーゼによるB-1細胞活性化と自己免疫疾患の誘発	高橋 秀実	
若林あや子	微生物学・免疫学講座	代表	平成20年度丸山記念 研究助成金	経口ワクチンによる抗腫瘍免疫誘導法の開発	若林あや子	
川田 智之, 稲垣 弘文, 若山 葉子, 李 聖夫	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	交替制勤務者の睡眠習慣・インスリン抵抗性とメタボリック症候群に関する研究	川田 智之	
李 聖夫, 李 智之, 川田 弘文, 稲垣 幸代, 平田 幸代, 石崎 正通	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	有機リン農薬による免疫毒性の新機序：有機リン農薬による免疫細胞のアポトーシス	李 聖夫	
李 智之	衛生学・公衆衛生学講座	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	生理人類学体系化の試み：実験生理人類学と理論生理人類学の視点から	宮崎 良文	千葉大学
若山 葉子, 勝又 聖夫, 川田 智之	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	凍結保存血清を用いた肝炎流行地域住民の病因と病態との長期的観察	若山 葉子	
川田 智之, 川田 弘文, 稲垣 聖夫, 勝又 美子, 平田 俊昭	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	喫煙科学研究財団	タバコ依存度質問調査法の心理測定上の特長：職域におけるデータ解析	川田 智之	
大塚 俊昭, 大塚 俊昭, 川田 智之, 勝又 聖夫	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	財団法人循環器病研究振興財団 平成20年度公募自由研究課題助成	健診男性集団における潜在性心機能障害・微小心筋障害の頻度およびこれらに影響を与える因子の検討	大塚 俊昭	
平川 慶子	法医学講座	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	多臓器不全発生前に關与する脂質代謝異常のメカニズムの解明	小池 薫	京都大学大学院医学研究科

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
林田真喜子, 寺田 賢, 工藤 恵子, 栗崎恵美子, 植草 協子 長谷場 健	法医学講座 法医学講座	代表 分担	科学研究費補助助金 基盤研究 (C) 科学研究費補助助金 特定領域研究	質量分析の新技法を用いたベンゾ ジアゼピン系薬物分析法の再構築 新たなアナルコロール代謝酵素クラス 3ADHのアナルコロール生体反応感受 性における役割	林田真喜子 長谷場 健	
長谷川敏彦	医療管理学講座	主任	厚生労働省科研費補 助金	公的がん専門医医療機関の機能と 経営の評価に関する研究	長谷川敏彦	
長谷川敏彦	医療管理学講座	主任	厚生労働省科研費補 助金	質効率向上と職業間連携を目指し た病棟マネジメントの研究	長谷川敏彦	
長谷川敏彦	医療管理学講座	主任	厚生労働省科研費補 助金	長寿科学の推進に係るグラウンドデ ザインに関する研究	長谷川敏彦	
長谷川敏彦	医療管理学講座	分担	厚生労働省科研費補 助金	医療費推計モデルの開発と医療費 適正化計画の評価に関する研究	長谷川友紀 東邦大学	
長谷川敏彦	医療管理学講座	分担	厚生労働省科研費補 助金	患者の弱点を重視した診療ガイド ラインの評価体系の確立および普 及促進に関する研究	長谷川友紀 東邦大学	
長谷川敏彦	医療管理学講座	分担	厚生労働省科研費補 助金	臨床研修における標準的EBM教育 カリキュラムの普及と評価に関す る研究	小泉 俊三 佐賀大学	
長谷川敏彦	医療管理学講座	分担	科学研究費補助助金 特定領域研究	医療IT化が質・安全・効率に及ぼ す効果に関する実証的研究	長谷川友紀 東邦大学	
長谷川敏彦	医療管理学講座	分担	厚生労働省科研費補 助金	医療安全推進に必須の組織文化 (安全文化)の測定および慣行有 害事象把握手法の開発と活用	種田憲一郎 ワシントン大学	
大庭 建三	内科学講座(循環器・肝臓・ 老年・総合病態部門)・付属 病院老人科	分担	公益信託日本動脈硬 化予防研究基金	高齢者高血圧コホート研究 高血圧 患者における年齢階層と動脈硬化 度、高血圧合併症との関連臨床コ ホート研究 (J-CHEARS)	大内 尉義 東邦大学加齢医学	
渡邊健太郎	内科学講座(循環器・肝臓・ 老年・総合病態部門)・付属 病院老人科	代表	第35回(平成20年度) 日本医科大学同窓会 医学研究助成金	血流依存性血管拡張反応 (FMD) の経時的評価法の確立	渡邊健太郎	



研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
精彦、周生、崇芳、雅充、大介、真功、雅洋	内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）・千葉北総病院循環器内科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究（C）	冠動脈先端画像解析によるマールナバイオマーカーストラテジーの開発	清野 精彦	
康裕	内科学講座（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）・付属病院神経内科、腎臓内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究（B）	PETブレイバンバンクの構築	石渡 喜一	東京都老人総合研究所 ポジトロン医学研究施設
片山 上田	内科学講座（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）・付属病院神経内科、腎臓内科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究（C）	ラット脳卒中モデルに対する水素ガスをを用いた効果の検討	西山 康裕	
山崎 峰雄	内科学講座（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）・付属病院神経内科、腎臓内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究（C）	脳虚血後における新規脳保護薬・骨髄細胞移植併用の神経再生増強効果の研究	片山 泰朗	
三品 長逸	内科学講座（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）・千葉北総病院神経内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究（C）	軽度認知障害の原因疾患としての海馬硬化性認知症の臨床・分子病理学的研究	山崎 峰雄	
坂本 長逸	内科学講座（血液・消化器・内分泌代謝部門）・付属病院血液内科、消化器内科、内分泌代謝内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究（C）	PETによるアデノシン受容体のドパミン調節機構と抗パーキンソン病薬副作用の関係	三品 雅洋	日本医科大学千葉北総病院脳神経センター
及川 恭子、谷村 史宜、中島 泰明、浅井 明、川原 百代	内科学講座（血液・消化器・内分泌代謝部門）・付属病院血液内科、消化器内科、内分泌代謝内科	代表 分担	平成19年度科学研究費補助金基盤研究（C）	腸上皮化生進展と胃癌発症過程におけるCOX2の役割とCOX2阻害剤の効果	坂本 長逸	
二神 生爾、坂本 長逸	内科学講座（血液・消化器・内分泌代謝部門）・付属病院血液内科、消化器内科、内分泌代謝内科	代表 分担		牛乳による血清脂質、アポB48、グレリン、ペプチドYYの経時的変化に関する研究	及川 真一	
木田 茂、山田 浩一、石井 健男、若林 律子	内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）・付属病院呼吸器内科	代表 分担	独立行政法人環境再生保全機構	レバミピドの小腸粘膜のGHSR、TLR4発現に関する検討	二神 生爾	
厚瑞 孝、山田 浩一、石井 健男、若林 律子	内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）・付属病院呼吸器内科	代表 分担	独立行政法人環境再生保全機構	COPD患者の病期分類等に応じた健康管理支援、保健指導の実践及び評価手法に関する調査研究	木田 厚瑞	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
厚瑞, 孝 木田 茂木	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科	主任分担	厚生労働省科研費補助金	たばこ関連疾患の予防のための効果的な禁煙教育及び普及啓発活動に関する研究	木田 厚瑞	
昭彦, 正博, 清家 林太郎, 野呂太郎, 峯岸 裕司, 弦間 昭彦	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科	代表分担	私立大学教育研究高度化推進特別補助	肺癌の分子標的治療剤感受性に関するmicroRNA研究	弦間 昭彦	日本医科大学分子解剖学
弦間 昭彦	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科	分担	私立大学戦略研究基盤形成支援事業	肺癌におけるsiRNAを用いた新規治療法の開発	瀧澤 俊広	
正博	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科	代表	日本医科大学同窓会医学研究助成金	肺癌の分子標的治療剤感受性に関するマイクロRNAの同定	清家 正博	
正博	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科	分担	私立大学戦略研究基盤形成支援事業	肺癌における特異的microRNAの機能に関する研究	瀧澤 俊広	日本医科大学分子解剖学
周, 保善朗, 秀朗, 鈴木 直, 大久保善朗, 周 館野	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表分担	科学研究費補助金基盤研究(C)	うつ病の再発・難治化と脳の脆弱性についての脳画像と神経栄養因子を用いた前方視研究	館野 周	
保善朗, 周 館野	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	科学研究費補助金基盤研究(C)	脳機能イメージングを用いた口腔内慢性疼痛の新しい診断法と治療効果の客観的評価	苅部 洋行	日本歯科大学生命歯学部
健吾, 保善朗, 真入	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表分担	科学研究費補助金基盤研究(C)	拡散テンソル解析を用いた老年期うつ病の認知症移行予測因子の同定	下田 健吾	
卓弥, 保善朗, 周 館野	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表分担	科学研究費補助金基盤研究(C)	MRIを用いた児童思春期うつ病における脳形態の前方視研究	齊藤 卓弥	
卓弥	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	精神科薬物療法アログリズムの最適化と均てん化に関する研究	加藤元一郎	慶應大学医学部
卓弥	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	子どもの心の診療に関する診療体制確保, 専門的人材育成に関する研究	奥山真紀子	成育医療センター

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
肥田 道彦	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	統合失調症の聴覚言語処理に関する脳画像・遺伝子研究	肥田 道彦	
大久保善朗, 須原 哲也, 松浦 雅人, 加藤元一郎	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	主任 分担	厚生労働省科研費補助金	分子イメージングによる精神科治療法の科学的評価法の確立に関する研究	大久保善朗	
大久保善朗, 齊藤 卓弥	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	思春期精神病理の疫学と精神疾患の早期介入方策に関する研究	岡崎 祐士	
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	精神科薬物療法アルゴリズムの最適化と均てん化に関する研究	加藤元一郎	慶応大学医学部
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	スポーツ・運動の統合失調症の認知機能・高次脳機能障害に対する効果に関する研究	高橋 英彦	独立行政法人 医学総合研究所
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	認知神経科学的アプローチによる精神神経疾患に対する偏見の裏面調査と偏見軽減に関する研究	高橋 英彦	独立行政法人 医学総合研究所
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	国内外の精神科医療における疾病分類に関する研究	飯森眞喜雄	東京医科大学
大久保善朗, 齋藤 卓弥, 館野 周, 一宮 哲哉, 肥田 道彦	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	分子イメージングによる統合失調症のドーパミン神経伝達異常の解明	大久保善朗	
大久保善朗, 荒川 亮介, 伊藤 浩, 奥村 正紀, 須原 哲也	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	代表 分担	精神薬療研究助成金	抗精神病薬による下垂体ドーパミンD2受容体占有率の脳内局所差に関する研究	大久保善朗	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
伊藤 敬雄	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	自殺未遂者および自殺へのケアに関する研究—身体的疾患と自殺および精神疾患に関する研究— 備的検討—	伊藤 弘人	国立精神・神経センター精神保健研究所社会精神保健部
岸 泰宏	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	精神障害および精神障害者の関する普及啓発に関する研究	保坂 隆	
岸 泰宏	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	精神科救急医療，特に身体疾患や認知症疾患合併症例の対応に関する研究	黒沢 尚	
勝部 康弘	小児科学講座・付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	酵素感受性蛋白質の発見に向けて—プロテオミクス解析からのアプローチ—	勝部 康弘	日本医科大学武蔵小杉病院小児科
藤野 健， 浅野 康彦， 川上 康太郎， 桑原健太郎， 羽鳥 譽之	小児科学講座・付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	インフルエンザ脳症・脳炎患児の脳脊髄液中の発現蛋白におけるプロテオミクス解析	藤野 修	日本医科大学千葉北総病院小児科
柳原 剛	小児科学講座・付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	IgA腎症研究会助成金	小児期IgA腎症の診断・治療に関する新たな指標：O型糖鎖不全IgAと症候との関連	柳原 剛	日本医科大学武蔵小杉病院小児科
二神 綾子	皮膚科学講座・付属病院皮膚科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	パルスダイレイターザーによるケロイド抑制効果の病態解明	二神 綾子	
松田 明久	外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門）・多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	手術侵襲後の生体反応におけるアディポサイトカインの役割に関する研究	松田 明久	
松下 晃	外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門）・多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	肺癌におけるNeuropilin-1の役割とそのシグナル伝達経路に関する研究	松下 晃	
松谷 毅， 笹島 耕二， 松田 明久	外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門）・多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	手術侵襲後の性差医療における脂肪細胞の役割とヒオグリタゾン投与の有効性	松谷 毅	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
松田 明久	外科学講座(消化器・一般・乳腺・移植部門)・多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科	代表	丸山記念研究助成金(平成19年度)	PPAR $\gamma$ agonist (ピオグリタゾン)を用いた大腸癌術後感染症および微小癌転移の抑制効果に関する検討	松田 明久	
松下 晃	外科学講座(消化器・一般・乳腺・移植部門)・多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科	代表	丸山記念研究助成金	Neuropilin-1を標的とした肺癌に対する新たな治療法の開発	松下 晃	
松下 晃	外科学講座(消化器・一般・乳腺・移植部門)・多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科	代表	財団法人脳腫瘍研究財団研究奨励賞	STAT5の活性化と肺癌の悪性度との関連について	松下 晃	
寺本 明, 大蔵 孝幸	脳神経外科学講座・付属病院 脳神経外科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	下垂体腺腫の細胞浸潤に関する分子形態学的研究	寺本 明	神経病態解析学
喜多村 孝幸	脳神経外科学講座・付属病院 脳神経外科	分担	厚生労働省科研費補助金	脳脊髄液減少症の診断・治療の確立に関する研究	嘉山 孝正	山形大学医学部学務ユニット研究支援
寺本 明	脳神経外科学講座・付属病院 脳神経外科	分担	厚生労働省科研費補助金	間脳下垂体機能障害に関する研究調査	千原 和夫	神戸大学大学院医学研究科
寺本 明, 大蔵 孝幸	脳神経外科学講座・付属病院 脳神経外科	分担	厚生労働省がん研究助成金	下垂体腫瘍の外科的治療及び予後に関する研究: 難治性内分泌腫瘍の最適な治療法に関する研究	塚田 俊彦	国立がんセンター研究所
太組 一郎	脳神経外科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	代表	日本私立学校振興・共催事業団「平成20年度私立大学等経常費補助金特別補助	「教育研究用ソフトウェア」補助金取得(学内選考・申請管理責任者太組一郎)	太組 一郎	
吉田 大蔵	脳神経外科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	下垂体腺腫の増殖におけるSDF-1の役割に関する分子形態学的研究	吉田 大蔵	
吉田 大蔵	脳神経外科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	下垂体腺腫の細胞浸潤にカンする分子形態学的研究	寺本 明	日本医科大学 脳神経外科
寺本 明, 大蔵 孝幸	脳神経外科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	分担	平成20年度厚生労働省がん研究助成金	「17-20難治性内分泌腫瘍の最適な治療法の確立に関する研究」研究班「下垂体腫瘍の外科的治療及び予後に関する研究」	塚田 俊彦	国立がんセンター研究所
吉田 大蔵	脳神経外科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	代表	3-D Matrix Japan社	Surfactant peptideを用いたsiRNA導入の検討(平成19年~20年)	吉田 大蔵	
吉田 大蔵	脳神経外科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	代表	3-D Matrix Japan社	Surfactant peptideを用いた各種細胞における遺伝子導入の検討(平成20年~21年)	吉田 大蔵	



研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
高橋 弘	脳神経外科科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	NMRによるメタボロミクス（メタボローム）解析は脳腫瘍の悪性転化を予測する	高橋 弘	
太組 一朗	脳神経外科科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	分担	厚生労働省科研究費補助金	プリオン病2次感染対策に対する現実的減菌法開発研究班	北本 哲之	東北大学 プリオン研究所
太組 一朗	脳神経外科科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	分担	厚生労働省科研究費補助金	プリオン及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班	水澤 英洋	東京医科歯科大学神経内科
太組 一朗	脳神経外科科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	代表	第41回三井生命厚生事業団 医学研究助成	整容脳神経外科の見地からみたAestheticを意識した脳神経外科・頭蓋顎顔面外科分野におけるマイクログラフィーによる新しい頭蓋再建方法の開発	太組 一朗	
太組 一朗	脳神経外科科学講座・千葉北総病院脳神経外科	代表	厚生労働省科研究費補助金	難治性疾患克服研究事業 プリオオン病2次感染に対する現実的減菌法の開発研究	太組 一朗	
太組 一朗	脳神経外科科学講座・千葉北総病院脳神経外科	代表	厚生労働省科研究費補助金	難治性疾患克服研究事業 プリオオン病2次感染に対する現実的減菌法の開発研究	太組 一朗	
太組 一朗	脳神経外科科学講座・千葉北総病院脳神経外科	代表	私立大学教育研究高度化推進特別補助	「教育研究用ソフトウエア」補助金	太組 一朗	
竹下 俊行	産婦人科学講座・産科性診療科・産科	分担	厚生労働省科研究費補助金	生殖補助医療の医療技術の標準化、安全性の確保と生殖補助医療により生まれた児の長期予後の検証に関する研究	吉村 泰典	慶應義塾大学
竹下 俊行	産婦人科学講座・産科性診療科・産科	分担	厚生労働省科研究費補助金	全国の実態調査に基づいた人工妊娠中絶の減少に向けた包括的研究	武谷 雄二	東京大学
竹下 俊行	産婦人科学講座・産科性診療科・産科	分担	厚生労働省科研究費補助金	不育症治療に関する再評価と新たな治療法の開発に関する研究	齋藤 滋	富山大学
竹下 俊行	産婦人科学講座・産科性診療科・産科	分担	厚生労働省科研究費補助金	全国規模の多施設共同ランダム化比較試験と背景因子分析に基づく早産予防ガイドラインの作成	岡井 崇	昭和大学
市川 雅男	産婦人科学講座・産科性診療科・産科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	妊娠中の肝機能異常における自己傷害性T細胞の関与の検討	市川 雅男	
澤 倫太郎	産婦人科学講座・産科性診療科・産科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	心臓インターベンション領域における胎児アデノシンの応用に関する研究	澤 倫太郎	
竹下 俊行	産婦人科学講座・産科性診療科・産科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	へパリンの抗流産作用とその機転に関する研究	竹下 俊行	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
富山 僚子	産婦人科学講座・付属病院女性診療科・産科	代表	科学研究費補助金若手研究 (B)	生殖能力のエイジング—卵胞における活性酸素と抗酸化物質の役割について	富山 僚子	
峯 克也	産婦人科学講座・付属病院女性診療科・産科	代表	科学研究費補助金若手研究 (B)	習慣流産患者における抗リン脂質抗体標的分子のプロテオミクス	峯 克也	
石川 源	産婦人科学講座・付属病院女性診療科・産科	代表	科学研究費補助金萌芽研究	診断ツールの開発を目指した抗リン脂質抗体に対する栄養膜マイクロRNAの動態解析	石川 源	
米山 剛一	産婦人科学講座・付属病院女性診療科・産科	代表分担	私立大学教育研究高度化推進特別補助	子宮内膜幹細胞の同定に関する研究	米山 剛一	
桑原 慶充						
竹下 俊行						
澤 倫太郎	産婦人科学講座・付属病院女性診療科・産科	分担	成育医療研究委託費	周産期データベース構築のための出生届のあり方に関する研究	岡村 州博	東北大学
松田 義雄	産婦人科学講座・多摩永山病院女性診療科・産科	分担	厚生労働省科研費補助金	全国規模の多施設共同ランダム化比較試験と背景因子分析に基づく早産予防ガイドラインの作成	岡井 崇	昭和大学医学部産婦人科学教室
大浦 訓章						
木戸浩一郎						
竹内 正人						
寺内 公一						
石本 知昭						
村田 康男						
牧野 靖						
栗林 道子	産婦人科学講座・多摩永山病院女性診療科・産科	分担	厚生労働省科研費補助金	病院勤務医等の勤務環境改善に関する研究	安達 知子	母子愛育会愛育病院産婦人科
木戸 道子						
安田 あゆ子						
佐藤 佑季						
中井 章人	産婦人科学講座・多摩永山病院女性診療科・産科	分担	厚生労働省科研費補助金	女性医師就労支援事例の収集・検討	安達 知子	母子愛育会愛育病院産婦人科
栗林 靖						
木戸 道子						
安田 あゆ子						
佐藤 佑季						
大久保公裕	産婦人科学講座・多摩永山病院女性診療科・産科	分担	厚生労働省科研費補助金	わが国における新しい妊婦健診体制構築のための研究	松田 義雄	東京女子医科大学産婦人科学教室
後藤 稜	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科	代表分担	厚生労働省科研費補助金	リアルタイムモニタリング花粉数のあり方に関する舌下ペブチド・アジユバンD療法の臨床研究	大久保公裕	
後藤 稜	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金基礎研究 (C)	舌下免疫療法の効果発現メカニズムを検討する	後藤 稜	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科研費補助金	前庭機能異常に関する調査研究	渡辺 行雄	富山大学大学院医学薬学研究所(医学)耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	私立大学教育研究高度化推進特別補助	新たな蛋蛋白生化学的アプローチによる難聴・めまいの診断治療法開発	池園 哲郎	
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金(基盤研究(C))	内耳蛋白の網羅的デファイアレットシヤル解析による治療ターゲット蛋白の同定	池園 哲郎	
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	分担	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	低分子RNAの人体器官系における機能解明と治療戦略への展開臓器特異的に発現している低分子RNAの基盤研究	瀧澤 俊広	分子解剖学講座
大久保公裕	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科	主任	厚生労働省科研費補助金	リアルタイムモニタール花粉数の情報のあるあり方の研究と舌下ペプチド・アジュバント療法の臨床研究	大久保公裕	
大久保公裕	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科研費補助金	ユビキタス・インターネットを活用したアレルギー疾患の自己管理および生活環境改善支援システム、遠隔教育システム、患者登録・長期観察システムに関する研究	須甲 松信	東京芸術大学
大久保公裕	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科研費補助金	代替医療の実態と有効性の科学的評価	岡本 美孝	千葉大学耳鼻咽喉科
Pawankar R	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科	代表	AAAAI	Non Allergic Rhinitis Task Force-AAAAI	Pawankar R	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
中村 毅	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科 総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	嚥下の口腔期から咽頭期への移行の連続性についての機能生理学的研究	中村 毅	
堀 純子	眼科学講座・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩北山病院眼科	代表	私立大学教育研究高度化推進特別補助	臓器移植における制御性T細胞の役割と機能調節	堀 純子	
堀 純子	眼科学講座・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩北山病院眼科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	眼組織移植における新規の免疫補助シグナル分子の機能解析とその臨床応用に向けた展開	堀 純子	
平岡 美紀	眼科学講座・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩北山病院眼科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	未熟児網膜症における遺伝子要因の解析とシグナル伝達系への関与	平岡 美紀	
五十嵐 勉	眼科学講座・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩北山病院眼科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	AAVベクターおよびVRNAi技術を用いたVEGF抑制による眼内新生血管抑制の試み	五十嵐 勉	
高橋 浩 五十嵐 勉	眼科学講座・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩北山病院眼科	代表 分担	私立大学戦略的研究 基盤形成支援事業 (低分子RNA)	AAVベクターおよびVRNAi技術を用いたVEGF抑制による眼内新生血管抑制の試み	高橋 浩	
竹田 晋浩	麻酔科学講座・付属病院麻酔科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	アルファ2-アゴニスト・デクスメデトミジンの延髄呼吸中枢への作用メカニズムの解明	竹田 晋浩	麻酔科 集中治療室
坂本 篤裕	麻酔科学講座・付属病院麻酔科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	麻酔薬・麻酔法による体内遺伝子、蛋白、代謝変動の総括的検討	坂本 篤裕	
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩北山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科研費補助金	AEDの使用実績の把握と科学的評価法にかかわる研究〔自動体外式除細動器 (AED) を用いた心疾患の救命率向上のための体制の構築に関する研究〕	丸川征四郎	兵庫医科大学
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩北山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科研費補助金	緊急医療における脳死患者の対応法の啓発セミナー〔臓器移植の社会的基盤に関する研究〕	篠崎 尚史	東京歯科大学市川総合病院角膜センター
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩北山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科研費補助金	提供側からみたらドナー管理のあり方に関する研究〔脳死下・心臓停止下臓器幹旋のコーディネイトに関する研究〕	小中 節子	社団法人日本臓器移植ネットワーク

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩成田国際空港クリニック	代表分担	厚生労働省科研費補助金	救急患者受入れに係る連絡支援システムの開発のための基礎研究〔救急患者受入れに係る連絡支援システムの開発のための基礎研究〕	有賀 徹	有限責任中間法人日本救急医学会
布施 明	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科研費補助金	健康危機管理・テロリズム対策システムの研究事業「健康危機・大規模災害に対する初動医療体制のあり方に関する研究」	辺見 弘	独立行政法人災害医療センター
久志本成樹	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科研費補助金	脳死並びに心停止ドナーにおけるマージナルドナーの有効利用に関する研究	福高 教偉	大阪大学
横堀 将司、 横田 裕行、 増野 智彦、 佐藤 格夫	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩成田国際空港クリニック	代表分担	三井住友海上福祉財団	高齢者心肺停止患者への対応の実態調査一効率的な高齢者救急医療システムの構築に向けて―	横堀 将司	
白石振一郎	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩成田国際空港クリニック	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	急性腸間膜虚血の腸管VIABILITY評価と救命率向上にむけた治療戦略の構築	白石振一郎	
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩成田国際空港クリニック	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ポテンシャルドナーを増やすための補助検査を用いた脳死判定に関する研究	横田 裕行	
増野 智彦、 佐藤 格夫、 横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩成田国際空港クリニック	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ショック後腸管リンパ液中に産生されるホスホリパーゼA2の臓器障害に対する影響	増野 智彦	
佐藤 格夫、 増野 智彦、 横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩成田国際空港クリニック	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	熱傷後に伴う遠隔臓器障害の発生機序の解明と治療戦略の構築	佐藤 格夫	



研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
横田 裕行、 横堀 智彦、 増野 格夫、 平川 慶子、 増野 裕行、 近藤 久禎	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩成田国際空港救急センター・救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩成田国際空港救急センター・救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩成田国際空港救急センター	代表 分担	日本損害保険協会 救急振興財団調査研究助成事業	高齢者重傷頭部外傷における脳循環代謝測定に基づいた治療戦略の構築—転機改善をめざして—	横田 裕行	
横田 裕行、 増野 格夫、 平川 慶子、 増野 裕行、 近藤 久禎	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩成田国際空港救急センター・救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩成田国際空港救急センター	代表 分担	救急振興財団調査研究助成事業	救急・火災現場における経皮的—酸化炭素濃度測定の有効性—早期患者発見、安全な現場活動を目指して—	増野 智彦	
横田 裕行、 増野 格夫、 佐藤 益子	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩成田国際空港救急センター・救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩成田国際空港救急センター	分担	学術研究振興基金・共催事業 (私立学校振興・共催事業)	NMRメタボローム解析技術を用いた疾患解明システム（臨床応用をめざして）	大野 曜吉	法医学
益子 邦洋	救急医学講座・千葉北総病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	ドクターヘリの病院間の連携、患者と医療資源の集約化への効果についての研究	小濱 啓次	川崎医療福祉大学
益子 邦洋	救急医学講座・千葉北総病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	救急センターにおける危機的出血への対応の現状の把握	稲田 英一	順天堂大学・麻酔科学教室
松本 尚	救急医学講座・千葉北総病院救命救急センター	代表	厚生労働省科研費補助金	健康危機・大規模災害に対する初期医療体制のあり方に関する研究	松本 尚	
土佐眞美子、 村上 正洋、 岩切 致、 松下 幸夫、 松原 賢治、 篠原 信裕、 渡邊 淳、 玉井眞理子、 守屋 利佳、 堂園 俊彦、 竹田 晋浩	形成外科講座・武蔵小杉病院形成外科 付属病院付置施設等・付属病院遺伝診療科 付属病院付置施設等・付属病院集中治療室	代表 分担	平成20年度神奈川県知政財産活用促進コーナーネイネート事業 科学研究費補助金 基盤研究（C） 科学研究費補助金 特定領域研究 厚生労働省科研費補助金	ケロイド治癒評価システムの開発 効果ある臨床遺伝教育プログラムに向けた課題調査と教材開発 アルファ2-アゴニスト・デクスメアトミジンの延髄呼吸中枢への作用メカニズムの解明 緩和ケアのガイドライン作成に関するシステム構築に関する研究 下山班	土佐眞美子 渡邊 淳 竹田 晋浩 下山 直人	国立がんセンター中央病院
片山 志郎	付属病院付置施設等・付属病院薬剤部	分担	厚生労働省科研費補助金	緩和ケアのガイドライン作成に関するシステム構築に関する研究 下山班	下山 直人	国立がんセンター中央病院

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
片山 志郎	付属病院付置施設等・付属病院薬剤部	代表分担	厚生労働省科研費補助金	がん疼痛ガイドラインに関する中間報告	元弘	国立がんセンター中央病院
木田 厚瑞, 孝, 浩二, 健男, 石井, 若林, 茂木	付属病院付置施設等・呼吸ケアクリニック	代表分担		COPD患者の病期分類等に応じた健康管理支援, 保健指導の実践及び評価手法に関する調査研究	厚瑞	日本医科大学内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門), 日本医科大学呼吸ケアクリニック
木田 厚瑞, 孝	付属病院付置施設等・呼吸ケアクリニック	主任分担	厚生労働省科研費補助金	たばこ関連疾患の予防のための効果的な禁煙教育及び普及啓発活動に関する研究	厚瑞	日本医科大学内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門), 日本医科大学呼吸ケアクリニック
渡邊 淳, 隆, 史朗	付属病院付置施設等・ゲノム先端医療部	代表分担	「個人の遺伝情報に応じた医療の実現プロジェクト(第2期)」	「先端医学研究に関する倫理的・法的・社会的課題についての調査研究」(臨床応用を視野に入れたオーダーメイド遺伝子医療のELSIに関する調査研究)	淳	
吉野 雅則	武蔵小杉病院付置施設等・武蔵小杉病院消化器病センター	代表	科学研究費補助金(若手研究)	食道癌における線維芽細胞増殖因子受容体(KGFR)の発現と局在および分子標的治療	雅則	
水谷 聡	武蔵小杉病院付置施設等・武蔵小杉病院消化器病センター	代表	科学研究費補助金(若手研究)	腫瘍ミトコンドリアDNA体細胞変異は抗腫瘍耐性を示す(オーダーメイド医療への道)	聡	
原 行弘	千葉北総病院付置施設等・千葉北総病院リハビリテーション科	代表	科学研究費補助金(基盤研究)	Cybernetic orthosisの開発とユニークなリハビリテーション	行弘	
原 行弘	千葉北総病院付置施設等・千葉北総病院リハビリテーション科	代表	日本損害保険協会交通事故医療特定課題研究助成	外傷性脊髄損傷・外傷性頭部外傷の中核性麻痺改善を目的とした新しい機能的電気刺激(パワーアシスト型FES)	行弘	
小川 真司	千葉北総病院付置施設等・千葉北総病院リハビリテーション科	代表	科学研究費補助金(若手研究)	脳磁図—運動誘発磁場—を利用した, 訓練による運動学習効果の研究	真司	
藤原 正和	老人病研究所・病理部門	代表	科学研究費補助金(若手研究)	ダウン症原因遺伝子DSCR1の血管サイサイズ決定因子としての役割とその分子機構の解明	正和	
川並 汪一	老人病研究所・病理部門	代表	私立大学教育研究高度化推進特別補助	認知症街ぐるみ支援ネットワーク	汪一	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
太田 成男, 定光, 大澤 郁朗, 上村 尚美	老人病研究所・生化学部門	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	新しい概念の抗酸化物である水素を摂取することによる生活習慣病予防への新展開	太田 成男	
太田 成男, 大澤 郁朗	老人病研究所・生化学部門	代表分担	科学研究費補助金 萌芽研究	水素ガス吸引による虚血再灌流障害の軽減	太田 成男	
太田 成男, Wolf MA	老人病研究所・生化学部門	代表分担	科学研究費補助金 特別研究員奨励費	老年病および生活習慣病におけるミトコンドリアからの活性酸素の放出機構	太田 成男	
麻生 定光	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	細胞死抑制活性強化蛋白質導入による骨軟骨移植片の軟骨細胞死の抑制と関節軟骨修復	麻生 定光	
上村 尚美	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	糖尿病の予防・改善における水素の効果	上村 尚美	
山縣 久美	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	水素水による動脈硬化性疾患の改善とそのメカニズムの解明	山縣 久美	
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	分担	厚生労働省科研費補助金	臓器特異的ストレス応答探索マウスを用いた疾病予防法の開発	佐野 元昭	慶応義塾大学
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	分担	厚生労働省 長寿医療研究委託費	老化・老年病発症要因としての遺伝因子及び環境因子の相互作用に関する縦断的研究	下方 浩史	国立長寿医療センター
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	分担	厚生労働省 精神・神経疾患研究委託費	筋ジストロフィーおよび関連疾患の分子病態解明, 診断法の確立と治療薬物の開発に関する研究	砂田 芳秀	川崎医科大学
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	代表	民間委研究	株式会社ブルー・マキユリで開発した水素水の生理作用の解明とその応用開発	太田 成男	
田中 信之	老人病研究所・免疫部門	代表	私立大学教育研究高度化推進特別補助	p53によるエネロール一代謝経路の制御を介した癌抑制機構の解析とそれを基にした新たな癌治療法の開発	田中 信之	
安藤 大	老人病研究所・免疫部門	代表	科学研究費補助金 特定領域研究	癌抑制因子p53による細胞分裂制御の分子機構の解析	安藤 大	
佐藤(織田) 恵理	老人病研究所・免疫部門	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	細胞周期破綻時のp53によるアポトーシス誘導機構の解析	佐藤(織田) 恵理	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
田中 信之, 佐藤(織田)憲理, 川内 敬子, 阿部 芳憲 川内 敬子	老人病研究所・免疫部門	代表 分担	科学研究費補助金 特定領域研究	核内癌抑制因子による遺伝子発現 制御システムの解析	田中 信之	
川内 敬子	老人病研究所・免疫部門	代表	丸山記念研究助成金	p53の機能欠損に伴うWarburg効果とこれに惹起されるシグナルネットワークの解明	川内 敬子	
田中 信之	老人病研究所・免疫部門	代表	内藤記念科学奨励金 (研究助成)	p53欠損細胞でのグルコース代謝の増大とその癌化における役割の解析	田中 信之	
大澤 郁朗	老人病研究所・水素分子医学 研究開発拠点	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ストレスによって生じる脳機能障害の水素分子による改善	大澤 郁朗	

5. 平成20年度学術賞受賞一覧

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
石橋 宰 <sup>1)</sup>	解剖学講座 (分子解剖学)	個人	相馬賞	胎盤絨毛栄養膜はexosomeを介してマイクロRNAを細胞外に放出する (第16回日本胎盤学会学術集会)	日本胎盤学会	2008	11
川東 豊 <sup>1,2)</sup>	解剖学講座 (分子解剖学)	個人	会長奨励賞	ヒト正常胆管上皮細胞と肝内胆管癌細胞株におけるmicroRNAの発現プロファイル解析 (第44回日本胆道学会学術集会)	日本胆道学会	2008	9
Matsumoto R	解剖学講座 (生体構造学)	個人	International Symposium on Functional Neuroreceptor Mapping of Living Brain (Seventh): Young Investigator Award	Inverse Correlation between Body Mass Index and Serotonin Transporter Binding in Human Brain: A [11C]DASB PET Study	The International Symposium on Functional Neuroreceptor Mapping of the Living Brain Organizing Committee	2008	7
李 卿	衛生学・公衆衛生学講座	個人	平成20年度財団法人博慈会老人病研究所優秀論文賞	Visiting a forest, but not a city, increases human natural killer activity and expression of anti-cancer proteins. Int J Immunopathol Pharmacol. 2008; 21 (1): 117-27	財団法人博慈会老人病研究所	2009	1
岡崎大武 <sup>1)</sup> , 山本真功, 村上大介, 稲見茂信, 岡松健太郎, 大場崇芳, 清野精彦, 高野雅充 <sup>1)</sup> , 水野杏 <sup>1)</sup>	内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・千葉北総病院循環器内科	個人	第22回日本心臓血管内視鏡学会内田賞	血管内視鏡と光干渉断層法により観察しえた薬剤溶出性ステント留置後再狭窄を認めた2例	日本心臓血管内視鏡学会	2008	10
二神生爾, 坂本長逸	内科学講座 (血液・消化器・内分沁代謝部門)・付属病院血液内科, 消化器内科, 内分沁代謝内科	個人	アストラゼネカリサーチアワード	Relationship between hypersensitivity of esophagus and formation of enteric nerve cells via CCR2-positive macrophages and eosinophils in esophagus of NERD patients	アストラゼネカ社	2008	9



受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
清家正博	内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）・付属病院呼吸器内科	個人	第12回東京呼吸病態研究会研究奨励賞	肺癌の分子標的治療剤感受性に関わるMicroRNAの同定	東京呼吸病態研究会	2008	11
Koeda M, Takahashi H <sup>1)</sup> , Yahata N, Matsuura M <sup>2)</sup> , Tanaka H <sup>2)</sup> , Okubo Y	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	個人	国際学会発表奨励賞	A functional MRI study: Cerebral activation for Human Voice Inflection in schizophrenia	日本生物学的精神医学会	2008	9
浅井牧子 <sup>1)</sup>	小児科学講座・付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	個人	Young Investigator's Award 最優秀賞	川崎病における血管炎バイオマーカーPTX3の変動	日本循環器学会関東甲信越地方会	2008	9
吉田 寛	外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門）・付属病院消化器外科・乳腺科，一般外科，移植外科	個人	第18回アジア肝臓学会会長賞	Surgical disconnection of patent paraumbilical vein in refractory hepatic encephalopathy	第18回アジア肝臓学会	2008	3
吉田 寛	外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門）・付属病院消化器外科，乳腺科，一般外科，移植外科	個人	2007年度 日本肝臓学会 外科学会賞	Fixation of the greater omentum for prevention of delayed gastric emptying after left hepatectomy with lymphadectomy for cholangiocellular carcinoma	日本肝臓腫外科学会	2008	5
Matsuda A, Matsutani T, Sasajima K, Furukawa M, Miyashita T <sup>1)</sup> , Tajiri T <sup>1)</sup> , Tamura K <sup>2)</sup> , Kogo H <sup>2)</sup>	外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門）・多摩永山病院消化器外科・乳腺科・一般外科	個人	Travel Award	Depressed adipocyte function is a risk factor for postoperative infection following colorectal cancer surgery	Shock Society	2008	6
田原重志	脳神経外科学講座・付属病院脳神経外科	個人	最優秀演題賞	臨床的に下垂体瘤が疑われたCrooke cell adenomaの1例	第9回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会	2009	2
太組一郎	脳神経外科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	個人	2009年度 日本てんかん学会 Sponsored Award (UCB-OTSUKA賞)		日本てんかん学会	2009	

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
太組 一郎	脳神経外科科学講座・千葉北総病院脳神経外科	個人	三井生命厚生事業団第41回「医学研究助成」入選	整容脳神経外科的見地からみたAestheticを意識した脳神経外科・頭蓋頸顔面外科分野におけるマイクログラフティによる新しい頭蓋再建方法の開発	三井生命厚生事業団	2008	9
米山 剛一	産婦人科学講座・付属病院女性診療科・産科	個人	第61回日本産科婦人科学会学術講演会, グッド・プレゼンテーション賞	過去25年間に関与した羊水塞栓症10症例の臨床病理学的検討	日本産科婦人科学会	2009	4
Pawankar R	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	個人	AAeIC Honorary Fellowship	Research in allergic airway disease and contribution to field and Clinical Immunology of allergy	Argentinean Association of Allergy and Clinical Immunology	2008	8
谷口ヒロ子, 堀 純子, 王 明聡, 北原由紀, 高橋 浩, 大島正道 <sup>1)</sup> , 八木田秀雄 <sup>2)</sup>	眼科学講座・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	グループ	学術展示優秀賞	眼局所の免疫応答におけるB7-H3の役割	日本眼科学会	2008	4
村上正洋, 百東北古 <sup>1)</sup>	形成外科科学講座・武蔵小杉病院形成外科	個人	第76回日本医科大学医学総会優秀演題賞	眉下切開法による上眼瞼皮膚弛緩症の治療	日本医科大学医学部	2008	9
宮田 広樹 <sup>1)</sup>	付属病院付置施設等・付属病院薬剤部	個人	平成20年度学術奨励賞	外来がん化学療法における薬剤適正使用推進と薬剤費節減効果	日本病院薬剤師会	2008	9
輪 湖 哲也 <sup>1)</sup>	付属病院付置施設等・付属病院薬剤部	個人	優秀発表賞	がん患者の神経障害性疼痛に対するガバペンチンの有効性: 症例報告および今後の臨床使用の検討	第2回緩和医療薬学会年会	2008	10
吉見 晶, 犬貝雅徳, 小林宏之, 岩木 健 <sup>1)</sup> , 土橋俊男,	付属病院付置施設等・付属病院放射線科技師室	個人	第64回総会学術大会学術展示賞 銀賞	一般撮影用直接変換型FPDシステムの基本物理性能の検討: MTF, WS, DQEの検討	日本放射線技術学会	2008	4
高橋一哉, 福土貫英, 小林宏之, 岩木 健 <sup>1)</sup>	付属病院付置施設等・付属病院放射線科技師室	個人	第64回総会学術大会学術展示賞 銅賞	一般撮影用直接変換型FPDシステムの税関評価 CD-RAD7アントムによる胸部, 腰椎評価	日本放射線技術学会	2008	4

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
Maeda S	多摩永山病院付置施設 等・多摩永山病院病理 部	個人	Honorary Fellow of the Royal College of Pathologists of Thai- land	15年間の日本-タイ細 胞診ワークショップを 通じてのタイ国への貢 献に対して受賞	20th National Con- gress of pathology	2008	9
富里謙一	千葉北総病院付置施設 等・千葉北総病院放射 線センター	個人	学術奨励賞	膝関節撮影のDigital技 術を応用した撮影sys- temの構築	日本放射線技術学会 東京部会	2008	5
上村尚美, 森 隆 <sup>1)</sup> , 大澤郁朗 <sup>2)</sup> , 麻生定光, 太田成男	老人病研究所・生化学 部門	個人	優秀演題賞	抗癌剤シスプラチンに 誘導される腎臓でのア ポトーシスは水素分子 により抑制される	日本アポトーシス研 究会	2008	8
中嶋 亘	老人病研究所・免疫部 門	個人	日本医科大学医学会優 秀論文賞	Synergistic induction of apoptosis by p53- inducible Bcl-2 family proteins Noxa and Puma	日本医科大学医学会	2008	9
阿部芳憲	老人病研究所・免疫部 門	個人	日本医科大学賞 (研究 部門)		日本医科大学	2008	3
志村俊郎, 高柳和江 <sup>1)</sup> , 日高廣人 <sup>2)</sup> , 吉村明修, 阿曾亮子	教育推進室	グループ	日本医科大学賞 (教育 部門)	模擬患者の養成および 医学教育での実践を通 じた新しい効果的な医 学教育の導入	日本医科大学	2009	3
吉村明修, 志村俊郎, 阿曾亮子, 足立好司 <sup>1)</sup> , 金 徹 <sup>1)</sup> , 森本泰介 <sup>1)</sup> , 明楽重夫 <sup>1)</sup> , 新田 隆 <sup>1)</sup> , 高岡雅子 <sup>1)</sup> , 竹原典子 <sup>1)</sup> , 早坂百合子 <sup>1)</sup>	教育推進室	個人	第76回日本医科大学医 学会優秀演題賞	研修医の臨床技能教育 のためのクリニカル・ シミュレーション・ラ ボ講習会の開設	日本医科大学医学会	2008	9

6. 平成20年度知的財産一覧(特許権)

発明者	所属	発明の名称	出願番号 (出願日)	公開番号 (公開日)	特許番号 (登録日)	出願人
前田 勇, 井上浩二, 磯田勝広, 八木清仁	自然科学・生物学	細菌の光合成膜の色変化を利用したバイオセンサー及びバイオセンサーの作成方法	2007-340804 2007/12/28			国立大学法人宇都宮大学
渡部謙二, 和田好司	スポーツ科学	マルチメディアジャーおよびそのシステム	特願2003-017130 2003/01/27		特許第4171524号 2008/08/15	渡部謙二
浅野 健	小児科学講座・付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	脳症由来痙攣と発熱由来熱誠痙攣の鑑別方法	2008-112984 2008/04/23			学校法人日本医科大学
山口文雄, 鈴木一行, 佐藤裕一郎	脳神経外科学講座・付属病院脳神経外科	超音波手術器	特願2007-241139 2007/02/02	特開2008-188160 2008/08/21		学校法人日本医科大学・株式会社ミワテック
吉田大蔵	脳神経外科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	ペプタイド界面活性剤	KP-12612		0020/08/27	吉田大蔵
池園哲郎, 八木聰明, 大森 彬	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	外リンパ瘻の検出方法	特願2003-182860 2003/06/26	特開2004-85552 2004/03/18	特許第4172777号 (日本) ZL03815172.3 (中国) 2008/08/22	学校法人日本医科大学, 三菱化学株式会社
池園哲郎, 八木聰明	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科	耳治療用成型物	特願2006-356080 2006/12/28	特開2008-161545 2008/07/17	特許第4172808号 (日本) 2008/08/22	学校法人日本医科大学・株式会社高研
藤枝重治, 高橋 昇, 大澤陽子, 窪 誠太, 有波忠雄, 野口恵美子, 牧野友香, 内田和彦, 大久保公裕	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科	アレルギー疾患の治療薬且つ治療効果マーカー	特願2008-053768 2008/03/04			

発明者	所属	発明の名称	出願番号 (出願日)	公開番号 (公開日)	特許番号 (登録日)	出願人
西川晃司	麻酔科学講座・多摩 永山病院麻酔科	喉頭鏡	特願2007- 68773 (2007/03/16)	特開2008-228783 2008/10/02		学校法人日本医科大学・ 株式会社大和製作所
太田成男, 麻生定光	老人病研究所・生化学 学部門	Cell death-inducing fused gene acting specifically on cancer and gene product thereof (癌に特異的 に作用する細胞死誘 導融合遺伝子及びそ の遺伝子産物)	PCT/JP2004/ 003956 (2004/03/23)	WO 2004/085653 2004/10/07	US7507805 2009/03/24	学校法人日本医科大学



## あ と が き

トムソン・ロイター社の資料によれば、日本は論文数の世界シェアでは横ばいであるが、論文の質の指標となる相対比引用度は順調に伸びている、という（朝日新聞2009年12月11日）。2008年度の業績を顧みると、論文総数1757件で、欧文論文数はその中で781件である。昨年よりさらに51件増加し、論文全体の44.4%を占めるに至った。すなわち、欧文件数が増している事実は、本学においても国際的な発信力を着実に伸ばしていることを示し、世界の科学研究における日本の地位向上と歩調を揃えているといえる。一方、著書執筆は著者の専門性の高さを示すといえるが、2008年度は556件で、昨年度より100件も増加している。各研究者がそれぞれの分野で先導的な役割を担っていることが読み取れる。

2008年から2009年にかけて、世界不況、オバマ米大統領就任、民主党政権樹立等、日本および世界情勢が驚くほど大きく変わった。個人では抗い難い力に翻弄されているような不安も拭いえない。今後、研究分野にもこうした影響が及び、業績集にも負の方向に反映されてくることも危惧される。事実、上記の科学論文に関する取材と並んで、同一紙面に若手研究者育成費削減を懸念する記事が掲載されている。しかし、このような時期こそ、文部科学省第3期科学基本計画にも謳われていた「科学技術力の基盤は人であり、日本における創造的な科学技術の将来は、我が国に生まれ、活躍する「人」の力如何にかかっている。」という理念を思い起こし、粛々と研究・教育に勤しみ、大学の本来の役割である知の創造と人材育成に務めたいと考える。

最後にWeb上のデータベース作成にあたりご協力いただいた情報科学センター伊藤施設長、また、実際の編纂をしていただいた大学院課担当各位に謝意を表します。

平成21年12月

研究委員会委員長 鈴木 秀典

平成22年 1 月 13 日 印 刷

平成22年 1 月 19 日 発 行

発 行 日 本 医 科 大 学  
研 究 委 員 会

〒113-8602 東京都文京区千駄木 1-1-5

TEL 03 (3822) 2131

印 刷 株 式 会 社 杏 林 舎

〒114-0024 東京都北区西ヶ原 3-46-10

TEL 03 (3910) 4311-5